

令和4年度(2022年度)健康福祉サービス等に関する  
 意識調査及び意向調査の実施結果について

1 目的

健康福祉施策等に係る区民等の実態とニーズを把握し、今後の事業の見直し・改善、目標の達成度を測る指標として活用するとともに、健康福祉・介護保険・障害福祉サービスの利用実態や今後の利用意向等を把握し、地域福祉計画、成年後見制度利用促進計画、スポーツ・健康づくり推進計画、高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画並びに障害者計画、障害福祉計画及び障害児福祉計画の検討に資することを目的とする。

2 調査の概要

次のとおり、「健康福祉に関する意識調査」、「高齢福祉・介護保険サービス意向調査」、「障害福祉サービス意向調査」の3調査を実施した。

調査名		調査対象者	調査 標本数	有効回収数 (回収率)
健康福祉に関する意識調査		基準日(令和4年8月1日)時点で 18歳以上の区民	3,000人	980人 (32.7%)
高齢福祉・ 介護保険サ ービス意 向調査	高齢者調査 (介護予防・日常生活 圏域ニーズ調査)	基準日(令和4年10月1日)時 点で65歳以上の区民(介護 予防・日常生活支援総合事 業対象者及び要支援1・2 認定者を含む) ただし、要介護認定者を 除く	3,000人	1,652人 (55.1%)
	介護サービス利用調査 (在宅介護実態調査)	基準日(令和4年10月1日)時 点で要支援1から要介護5 までの認定を受けている 区民 ただし、施設入所者を除 く	3,000人	1,344人 (44.8%)
	ケアマネジャー調査	基準日(令和4年10月1日)時 点で区内及び隣接区の居 宅介護支援事業所で区民 のケアプランを10件以上 扱っている事業所に所属 するケアマネジャー	250人	138人 (55.2%)

障害福祉サービス意向調査	障害者調査	基準日（令和4年8月1日）時点で、身体障害者手帳、愛の手帳又は精神障害者保健福祉手帳を所持している区民及び難病等により障害福祉サービスを利用する区民 ただし、施設入所支援の利用者を除く	1,500人	673人 (44.9%)
	施設入所者調査	身体障害者手帳又は愛の手帳を所持している障害者のうち、基準日（令和4年8月1日）時点で施設入所支援を利用している中野区の給付対象者	175人	134人 (76.6%)
	発達支援等調査	基準日（令和4年8月1日）時点で、0歳から18歳までの発達支援の対象児童及び身体障害者手帳、愛の手帳又は精神障害者保健福祉手帳を所持している児童	650人	341人 (52.5%)

### 3 調査期間

#### (1) 健康福祉に関する意識調査、障害福祉サービス意向調査

令和4年9月20日～10月11日

#### (2) 高齢福祉・介護保険サービス意向調査

令和4年11月15日～12月6日

### 4 調査方法

#### (1) 健康福祉に関する意識調査、ケアマネジャー調査

郵送による配布、郵送・インターネットによる回収

#### (2) 高齢者調査、介護サービス利用調査、障害福祉サービス意向調査

郵送による配布・回収

### 5 調査結果

前回調査（令和2年5月）結果と比較し、変化が大きかった項目

#### (1) 健康福祉に関する意識調査

①見守り・支えあい活動については、「活動していないし、これからも活動したいと思わない」が、全体で38.8%と前回調査時より19.2ポイント増加している。特に、20歳代で44.5%、30歳代で49.4%と前回調査時よりそれぞれ22ポイント以上増加した。

②地域での住民同士での交流の場については、「ない」又は「どちらかといえばない」が、40歳代で82.3%と前回調査時より15.5ポイント増加した。

③高齢者会館の利用については、「あまり利用していない」又は「全く利用したことがない」が、70歳代で92.0%と前回調査時より11.2ポイント増加した。そのうち、利用して

いない理由は、「行く必要を感じないから」が、60.9%と最多で前回調査時より12.2ポイント増加した。

④健康状態については、「健康でない」又は「どちらかといえば健康でない」が80歳代で33.3%と前回調査時より10.3ポイント増加した。

## (2) 高齢福祉・介護保険サービス意向調査

①ここ2週間毎日の生活に充実感がない気がしたかについては、「はい」が23.3%で、前回調査時より12.6ポイント減少した。

②ここ2週間これまで楽しんでやれていたことが楽しめない気がしたかについては、「はい」が17.3%で、前回調査時より15.7ポイント減少した。

③介護・介助が必要となった主な原因は、「認知症（アルツハイマー病等）」が36.7%で前回調査時より4.5ポイント減少した一方、「骨折・転倒」は28.6%で、前回調査時より5.0ポイント増加した。

④作成するケアプランの件数について、「もっと減らしたい」が57.2%で、前回調査時より11.4ポイント増加した一方、「現在の件数で十分」は39.9%で前回調査時より7.3ポイント減少した。

⑤ケアマネジメントを行う際に、特に対応に苦慮するケースについて、「身寄りがいない」が72.5%で、前回調査時より12.6ポイント、「キーパーソンがいない」が64.5%で、前回調査時より13.1ポイント増加した。

## (3) 障害福祉サービス意向調査

①住宅で困っていることは、「家が老朽化している」が42.0%で、前回調査時より11ポイント増加した。また、「バリアフリーになっていない」が25.0%で、前回調査時より16.6ポイント減少した。

②現在の就労形態は、「常勤の会社員、公務員、団体職員」が40.3%で、前回調査時より10ポイント増加した。

③施設退所後の生活は、「家族やヘルパー、支援員などから介助（介護）を受けて生活したい」が24.0%で、前回調査時より28.9ポイント減少した。また、「通所施設などに通いながら生活したい」が40.0%で、前回調査時より34.1ポイント増加した。

④充実してほしい施策・サービスは、「ペアレントトレーニング等の保護者支援」が55.1%で、前回調査時より12.4ポイント増加した。

## 6 今後の予定

調査結果を区ホームページに掲載するとともに、調査報告書を区政資料センター、区民活動センター、図書館、すこやか福祉センター等に備え、区民の閲覧に供する。

令和4年度（2022年度）  
健康福祉に関する意識調査  
報告書

令和5年（2023年）3月  
中野区





## はじめに

区は「健康福祉都市なかの」の実現に向け、誰一人取り残されることなく、支援を必要とする区民の年齢や抱えている課題の種類を問わず、一体的かつ重層的な支援を行うことができる地域包括ケア体制の構築を目指しています。

本調査はその一環として実施しており、区民の方々に健康福祉への関心や意見をお聞きするとともに、区の実践が区民の意向に沿ったものになっているか、また、区民の求める水準にどの程度達しているかなどを把握することを目的としています。健康福祉に関する区の事業や施策の見直し・改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた区民の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年（2023年）3月  
中野区健康福祉部



# 目次

<b>I 調査の概要</b>	
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 回収状況	3
5. 報告書を読む際の留意点	3
<b>II 調査対象者の属性</b>	
1. 性別	7
2. 年齢	7
3. 職業	8
4. 世帯構成	9
5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）	10
6. 日常的に家族の介護をしているか	11
7. 住居形態	12
8. 居住年数	13
9. 居住地域	14
10. 母集団と調査回答者の推移	18
<b>III 調査結果の分析</b>	
1. 地域活動について	21
1.1. 地域の活動への参加	21
1.2. 近所とのつきあいの程度	23
1.3. 人とのつきあいが無いと感じるか	27
1.4. 取り残されていると感じるか	28
1.5. 他の人から孤立していると感じるか	29
1.6. 相談相手	30
1.7. 家族や友人以外の相談先	32
1.8. 必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動	34
1.9. 見守り・支えあい活動の実施状況	36
1.10. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況	38
1.11. 地域における住民同士の交流の場の有無	39
1.12. 障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策	41
1.13. 高齢者会館の利用状況	44
1.13.1. 高齢者会館を利用していない理由	46

2. 医療・健康について	48
2.1. 健康感	48
2.2. 健康増進のための運動習慣	50
2.2.1. 運動・スポーツを続けている期間	52
2.2.2. 運動・スポーツを行う場所	54
2.2.3. 運動・スポーツを行わない理由	57
2.3. この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか	60
2.4. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと	62
2.5. 東京オリンピック・パラリンピックの効果	67
2.6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと	69
2.7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容	70
2.8. 食生活で心がけていること	72
2.9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか	74
2.10. 健康診断の受診頻度	77
2.10.1. 健康診断の受診場所	80
2.10.2. 健康診断結果の活用方法	83
2.10.3. 健康診断を受けなかった理由	85
2.11. かかりつけの診療所の有無	87
2.11.1. かかりつけの診療所からのアドバイス	89
2.12. 歯科健診の受診状況	91
2.12.1. 歯科健診の受診場所	92
2.12.2. 歯科健診を受診しなかった理由	93
2.13. 定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているか	94
2.14. かかりつけの歯科診療所の有無	95
2.15. かかりつけの薬局の有無	97
2.16. 地域の救急医療体制が整っているか	99
2.17. 医療・介護サービスや見守り環境が整っているか	101
2.18. 長期療養が必要になった場合の生活	103
2.18.1. 長期療養の際、入院・入所したい理由	107
2.19. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか	111
2.20. 今後必要な自殺対策	113
2.21. 感染症の予防で心がけていること	116
2.22. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか	118
2.23. 食中毒に関する認識	120
2.24. 喫煙の状況	122
2.24.1. 今後禁煙したいか	123

3. 制度等について.....	124
3.1. 「障害者差別解消法」についての認知度.....	124
3.1.1. 「障害者差別解消法」の認知方法.....	126
3.2. 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと.....	128
3.3. ヘルプマークの認知度.....	130
3.4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度.....	131
3.5. 認知症についての理解度.....	133
3.6. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度.....	135
3.7. 「成年後見制度」の認知度.....	136
4. 相談窓口について.....	138
4.1. 健康福祉の相談窓口の身近さ.....	138
4.2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度.....	140
5. その他.....	142
5.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）.....	142

#### IV 調査票と単純集計



# I 調査の概要





## 1. 調査の目的

健康福祉に係わる関心や健康福祉サービスに対する意見などを把握し、区の事業や施策の達成状況の確認や、見直し・改善を図る指標として活用するため、18歳以上の区民を対象としたアンケート調査を実施した。

## 2. 調査の内容

- (1) 調査対象者の属性
- (2) 地域活動について
- (3) 医療・健康について
- (4) 制度等について
- (5) 相談窓口について
- (6) その他

## 3. 調査の設計

- ・調査対象：満18歳以上の区民（基準日：令和4年8月1日時点 299,057人）
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査方法：郵送による配布、郵送・インターネットによる回収
- ・調査期間：令和4年9月20日～10月11日
- ・調査機関：株式会社アイアールエス

## 4. 回収状況

標本数	有効回収数	回収率
3,000	980	32.7%

## 5. 報告書を読む際の留意点

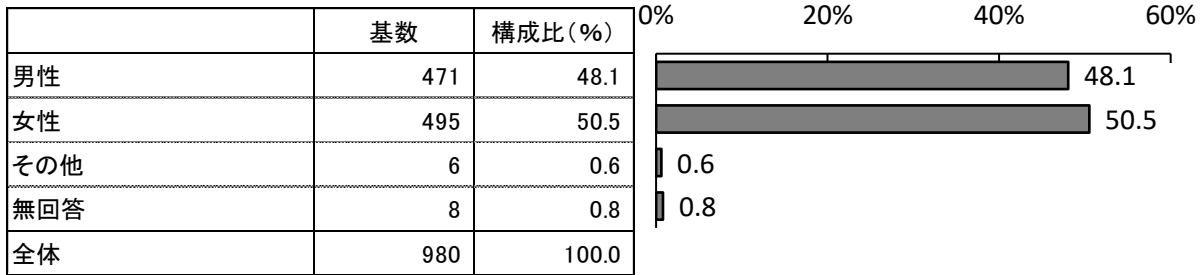
- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- クロス集計の表の中で、上段の数値は回答者数（単位：人）を、下段の数値は割合（単位：%）を表す。
- 年齢とのクロス集計において、90歳以上については母数が少ないため、統計学的に有意のものとは言えないが、参考として数値を明示している場合がある。
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。



## Ⅱ 調査対象者の属性



## 1. 性別

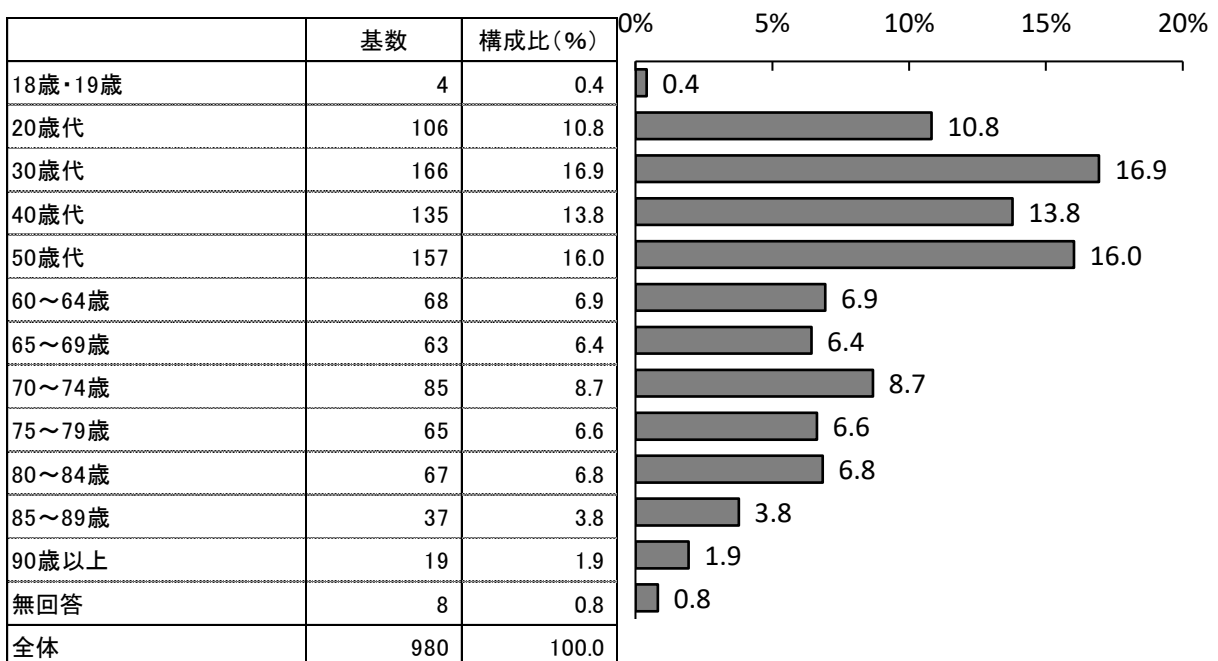


### ■年代別

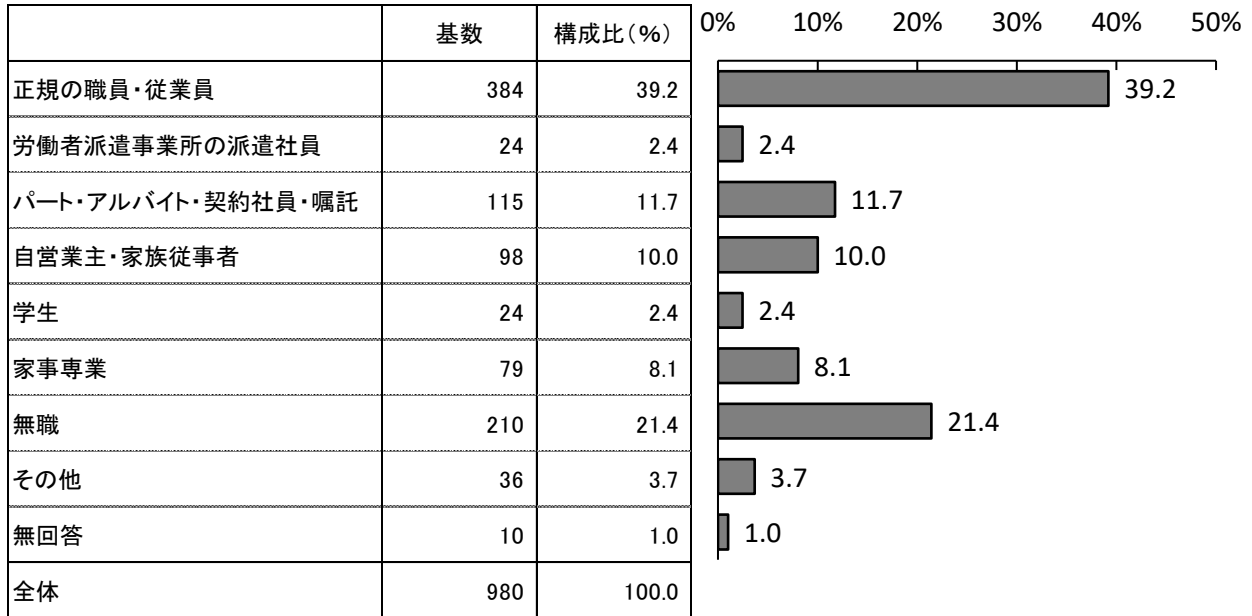
上段: 人、下段: %

	n	男性	女性	その他	無回答
全体	980	471	495	6	8
	100.0	48.1	50.5	0.6	0.8
18歳・19歳	4	2	2	—	—
	100.0	50.0	50.0	—	—
20歳代	106	49	54	3	—
	100.0	46.2	50.9	2.8	—
30歳代	166	71	94	1	—
	100.0	42.8	56.6	0.6	—
40歳代	135	57	76	1	1
	100.0	42.2	56.3	0.7	0.7
50歳代	157	89	67	1	—
	100.0	56.7	42.7	0.6	—
60～64歳	68	33	35	—	—
	100.0	48.5	51.5	—	—
65～69歳	63	38	25	—	—
	100.0	60.3	39.7	—	—
70～74歳	85	47	38	—	—
	100.0	55.3	44.7	—	—
75～79歳	65	37	28	—	—
	100.0	56.9	43.1	—	—
80～84歳	67	34	33	—	—
	100.0	50.7	49.3	—	—
85～89歳	37	13	24	—	—
	100.0	35.1	64.9	—	—
90歳以上	19	1	18	—	—
	100.0	5.3	94.7	—	—

## 2. 年齢



### 3. 職業

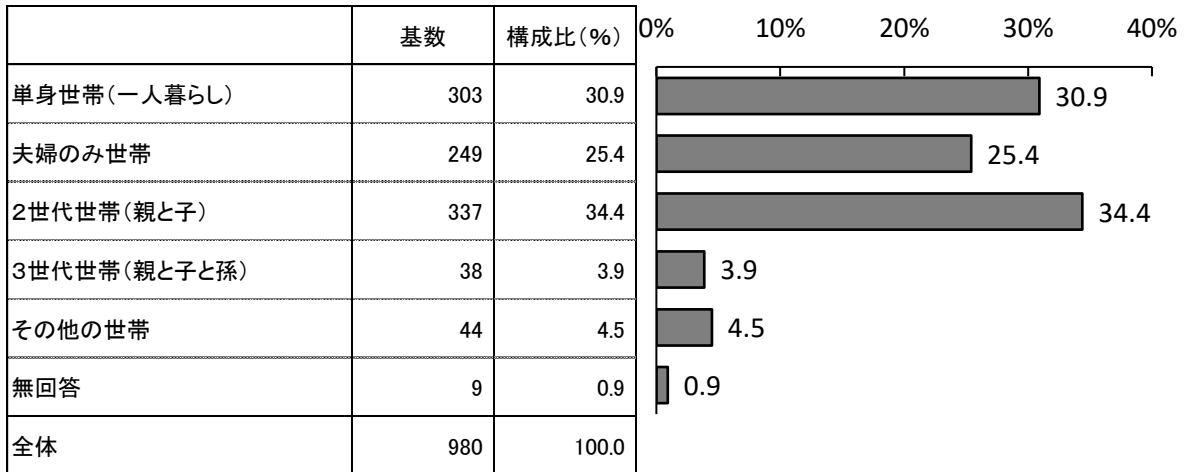


#### ■年代別

上段:人、下段:%

	n	従 業 員 の 職 員 ・ 正 規 の 職 員	社 員 ・ 事 業 所 の 派 遣 遣	社 員 ・ パ ー ト ・ ア ル バ イ ト ・ 契 約 社 員 ・ 嘱 託	家 族 自 営 業 主 ・ 従 事 者	学 生	家 事 専 業	無 職	そ の 他	無 回 答
全体	980	384	24	115	98	24	79	210	36	10
	100.0	39.2	2.4	11.7	10.0	2.4	8.1	21.4	3.7	1.0
18歳・19歳	4	—	—	—	—	4	—	—	—	—
	100.0	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—
20歳代	106	69	3	9	3	18	1	3	—	—
	100.0	65.1	2.8	8.5	2.8	17.0	0.9	2.8	—	—
30歳代	166	117	5	20	11	2	7	2	2	—
	100.0	70.5	3.0	12.0	6.6	1.2	4.2	1.2	1.2	—
40歳代	135	82	10	13	9	—	10	6	4	1
	100.0	60.7	7.4	9.6	6.7	—	7.4	4.4	3.0	0.7
50歳代	157	83	3	22	20	—	12	12	5	—
	100.0	52.9	1.9	14.0	12.7	—	7.6	7.6	3.2	—
60～64歳	68	22	1	15	9	—	5	13	3	—
	100.0	32.4	1.5	22.1	13.2	—	7.4	19.1	4.4	—
65～69歳	63	4	1	10	10	—	6	26	5	1
	100.0	6.3	1.6	15.9	15.9	—	9.5	41.3	7.9	1.6
70～74歳	85	3	1	17	13	—	12	36	3	—
	100.0	3.5	1.2	20.0	15.3	—	14.1	42.4	3.5	—
75～79歳	65	4	—	5	10	—	9	33	4	—
	100.0	6.2	—	7.7	15.4	—	13.8	50.8	6.2	—
80～84歳	67	—	—	3	7	—	9	40	8	—
	100.0	—	—	4.5	10.4	—	13.4	59.7	11.9	—
85～89歳	37	—	—	—	4	—	4	27	1	1
	100.0	—	—	—	10.8	—	10.8	73.0	2.7	2.7
90歳以上	19	—	—	—	2	—	4	12	1	—
	100.0	—	—	—	10.5	—	21.1	63.2	5.3	—

## 4. 世帯構成



### ■年代別

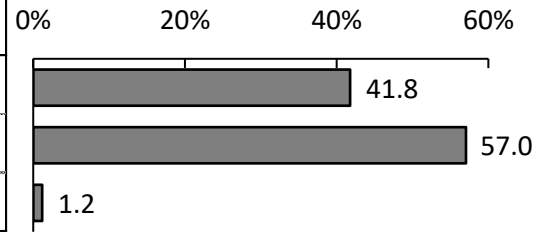
上段：人、下段：%

	n	単身世帯 (一人暮らし)	夫婦のみ世帯	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親と子と孫)	その他の世帯	無回答
全体	980	303	249	337	38	44	9
	100.0	30.9	25.4	34.4	3.9	4.5	0.9
18歳・19歳	4	—	—	3	1	—	—
	100.0	—	—	75.0	25.0	—	—
20歳代	106	54	12	28	2	10	—
	100.0	50.9	11.3	26.4	1.9	9.4	—
30歳代	166	45	47	60	2	12	—
	100.0	27.1	28.3	36.1	1.2	7.2	—
40歳代	135	41	18	68	3	5	—
	100.0	30.4	13.3	50.4	2.2	3.7	—
50歳代	157	34	33	80	3	6	1
	100.0	21.7	21.0	51.0	1.9	3.8	0.6
60～64歳	68	14	21	28	2	3	—
	100.0	20.6	30.9	41.2	2.9	4.4	—
65～69歳	63	17	28	13	3	2	—
	100.0	27.0	44.4	20.6	4.8	3.2	—
70～74歳	85	28	30	19	6	2	—
	100.0	32.9	35.3	22.4	7.1	2.4	—
75～79歳	65	17	28	12	6	2	—
	100.0	26.2	43.1	18.5	9.2	3.1	—
80～84歳	67	25	26	12	4	—	—
	100.0	37.3	38.8	17.9	6.0	—	—
85～89歳	37	16	5	8	5	2	1
	100.0	43.2	13.5	21.6	13.5	5.4	2.7
90歳以上	19	12	—	6	1	—	—
	100.0	63.2	—	31.6	5.3	—	—



5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）

	基数	構成比(%)
いる	175	41.8
いない	239	57.0
無回答	5	1.2
全体	419	100.0

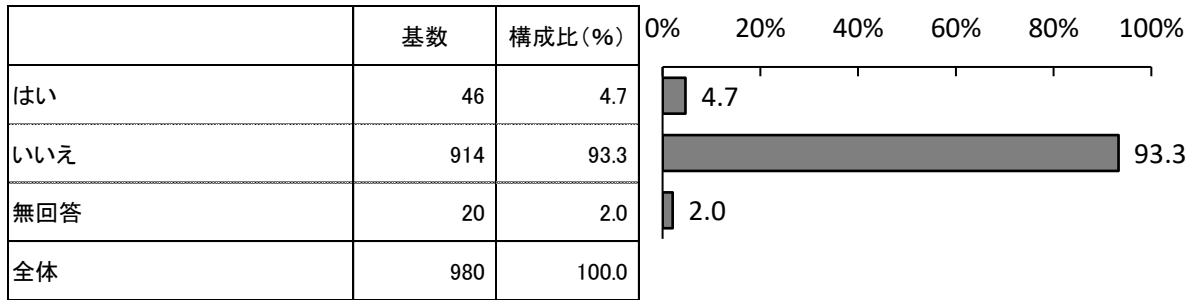


■年代別

上段：人、下段：%

	n	いる	いない	無回答
全体	419	175	239	5
	100.0	41.8	57.0	1.2
18歳・19歳	4	—	4	—
	100.0	—	100.0	—
20歳代	40	9	31	—
	100.0	22.5	77.5	—
30歳代	74	52	21	1
	100.0	70.3	28.4	1.4
40歳代	76	58	18	—
	100.0	76.3	23.7	—
50歳代	89	35	53	1
	100.0	39.3	59.6	1.1
60～64歳	33	2	31	—
	100.0	6.1	93.9	—
65～69歳	18	3	15	—
	100.0	16.7	83.3	—
70～74歳	27	6	20	1
	100.0	22.2	74.1	3.7
75～79歳	20	7	12	1
	100.0	35.0	60.0	5.0
80～84歳	16	2	13	1
	100.0	12.5	81.3	6.3
85～89歳	15	1	14	—
	100.0	6.7	93.3	—
90歳以上	7	—	7	—
	100.0	—	100.0	—

## 6. 日常的に家族の介護をしているか



### ■年代別

上段：人、下段：%

	n	はい	いいえ	無回答
全体	980	46	914	20
	100.0	4.7	93.3	2.0
18歳・19歳	4	—	4	—
	100.0	—	100.0	—
20歳代	106	—	106	—
	100.0	—	100.0	—
30歳代	166	4	162	—
	100.0	2.4	97.6	—
40歳代	135	6	129	—
	100.0	4.4	95.6	—
50歳代	157	12	143	2
	100.0	7.6	91.1	1.3
60～64歳	68	7	61	—
	100.0	10.3	89.7	—
65～69歳	63	7	54	2
	100.0	11.1	85.7	3.2
70～74歳	85	3	81	1
	100.0	3.5	95.3	1.2
75～79歳	65	1	62	2
	100.0	1.5	95.4	3.1
80～84歳	67	4	61	2
	100.0	6.0	91.0	3.0
85～89歳	37	2	31	4
	100.0	5.4	83.8	10.8
90歳以上	19	—	17	2
	100.0	—	89.5	10.5

## 7. 住居形態

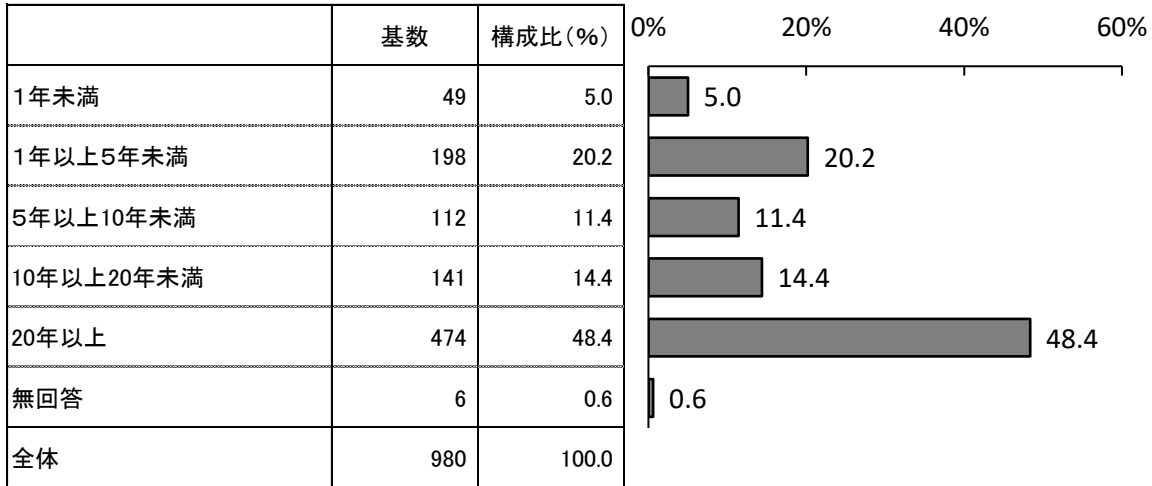
	基数	構成比(%)	0%	20%	40%
持ち家(一戸建て)	365	37.2	37.2		
持ち家(分譲マンション等の集合住宅)	177	18.1	18.1		
公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)	43	4.4	4.4		
民営の賃貸住宅	329	33.6	33.6		
社宅、社員寮、公務員住宅	30	3.1	3.1		
その他	29	3.0	3.0		
無回答	7	0.7	0.7		
全体	980	100.0			

### ■年代別

上段：人、下段：%

	n	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲マンション 等の集合住宅)	公営の 賃貸住宅 (都営・区営 住宅、公社等)	民営の 賃貸住宅	社宅、社員寮、 公務員住宅	その他	無 回答
全体	980 100.0	365 37.2	177 18.1	43 4.4	329 33.6	30 3.1	29 3.0	7 0.7
18歳・19歳	4 100.0	2 50.0	1 25.0	— —	— —	— —	1 25.0	— —
20歳代	106 100.0	16 15.1	7 6.6	8 7.5	66 62.3	8 7.5	1 0.9	— —
30歳代	166 100.0	28 16.9	23 13.9	3 1.8	104 62.7	6 3.6	2 1.2	— —
40歳代	135 100.0	37 27.4	28 20.7	5 3.7	58 43.0	6 4.4	1 0.7	— —
50歳代	157 100.0	62 39.5	35 22.3	5 3.2	43 27.4	7 4.5	5 3.2	— —
60～64歳	68 100.0	37 54.4	15 22.1	1 1.5	12 17.6	1 1.5	2 2.9	— —
65～69歳	63 100.0	31 49.2	16 25.4	2 3.2	8 12.7	— —	5 7.9	1 1.6
70～74歳	85 100.0	45 52.9	17 20.0	1 1.2	17 20.0	1 1.2	3 3.5	1 1.2
75～79歳	65 100.0	35 53.8	14 21.5	5 7.7	10 15.4	— —	1 1.5	— —
80～84歳	67 100.0	37 55.2	12 17.9	9 13.4	4 6.0	1 1.5	4 6.0	— —
85～89歳	37 100.0	23 62.2	5 13.5	2 5.4	5 13.5	— —	2 5.4	— —
90歳以上	19 100.0	11 57.9	4 21.1	2 10.5	— —	— —	2 10.5	— —

## 8. 居住年数

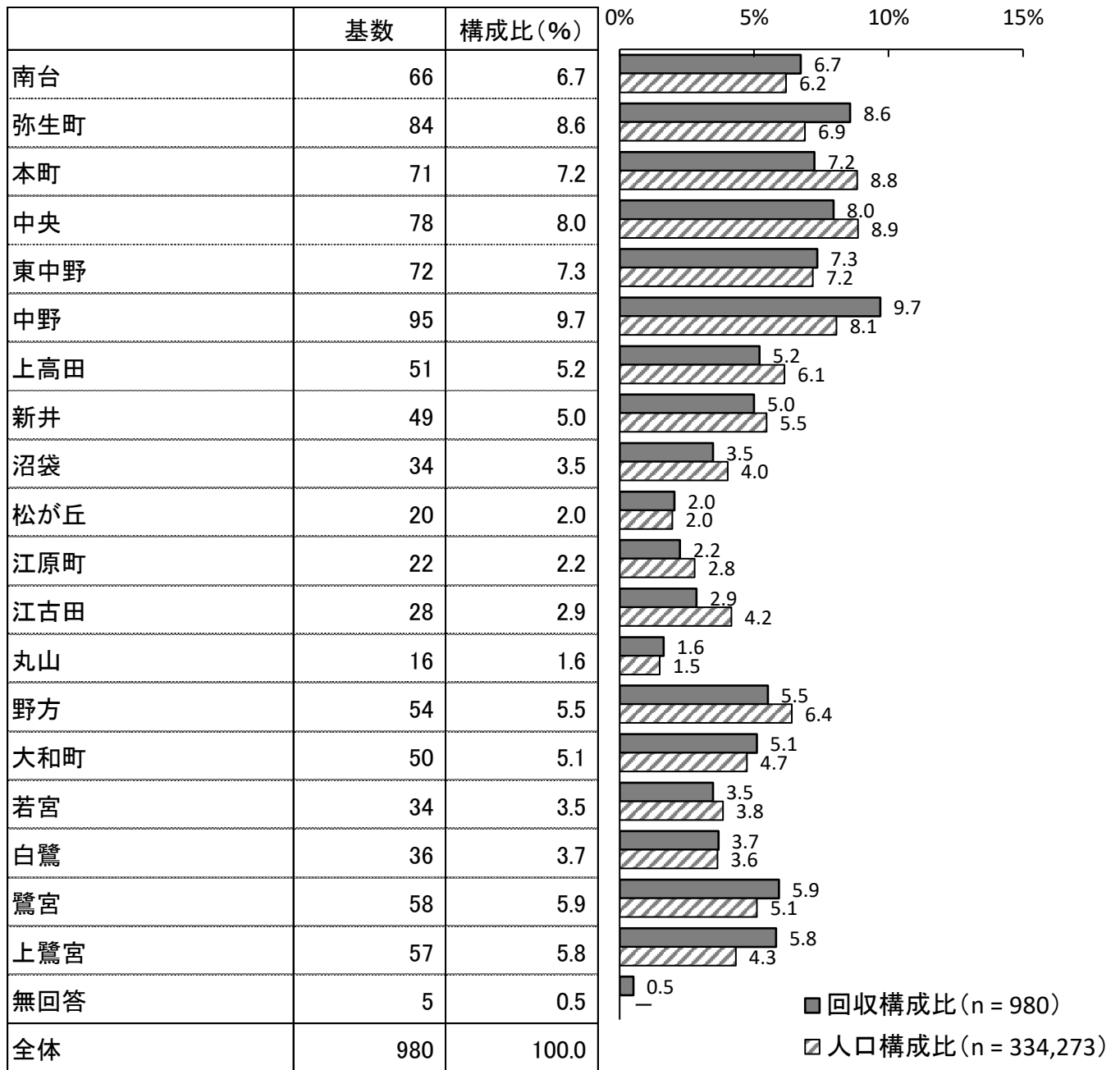


### ■年代別

上段：人、下段：%

	n	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答
全体	980	49	198	112	141	474	6
	100.0	5.0	20.2	11.4	14.4	48.4	0.6
18歳・19歳	4	—	1	—	3	—	—
	100.0	—	25.0	—	75.0	—	—
20歳代	106	24	48	9	6	19	—
	100.0	22.6	45.3	8.5	5.7	17.9	—
30歳代	166	20	82	34	12	18	—
	100.0	12.0	49.4	20.5	7.2	10.8	—
40歳代	135	3	25	31	40	36	—
	100.0	2.2	18.5	23.0	29.6	26.7	—
50歳代	157	1	19	23	37	77	—
	100.0	0.6	12.1	14.6	23.6	49.0	—
60～64歳	68	—	8	2	13	45	—
	100.0	—	11.8	2.9	19.1	66.2	—
65～69歳	63	—	2	3	6	52	—
	100.0	—	3.2	4.8	9.5	82.5	—
70～74歳	85	1	8	5	9	62	—
	100.0	1.2	9.4	5.9	10.6	72.9	—
75～79歳	65	—	2	1	5	57	—
	100.0	—	3.1	1.5	7.7	87.7	—
80～84歳	67	—	2	2	5	58	—
	100.0	—	3.0	3.0	7.5	86.6	—
85～89歳	37	—	1	1	2	32	1
	100.0	—	2.7	2.7	5.4	86.5	2.7
90歳以上	19	—	—	1	2	16	—
	100.0	—	—	5.3	10.5	84.2	—

## 9. 居住地域



(中野区町丁別人口 令和4年(2022年)8月1日現在)

※人口構成比には18歳未満の人口も含むため、対象者の割合とは異なる。

■年代別

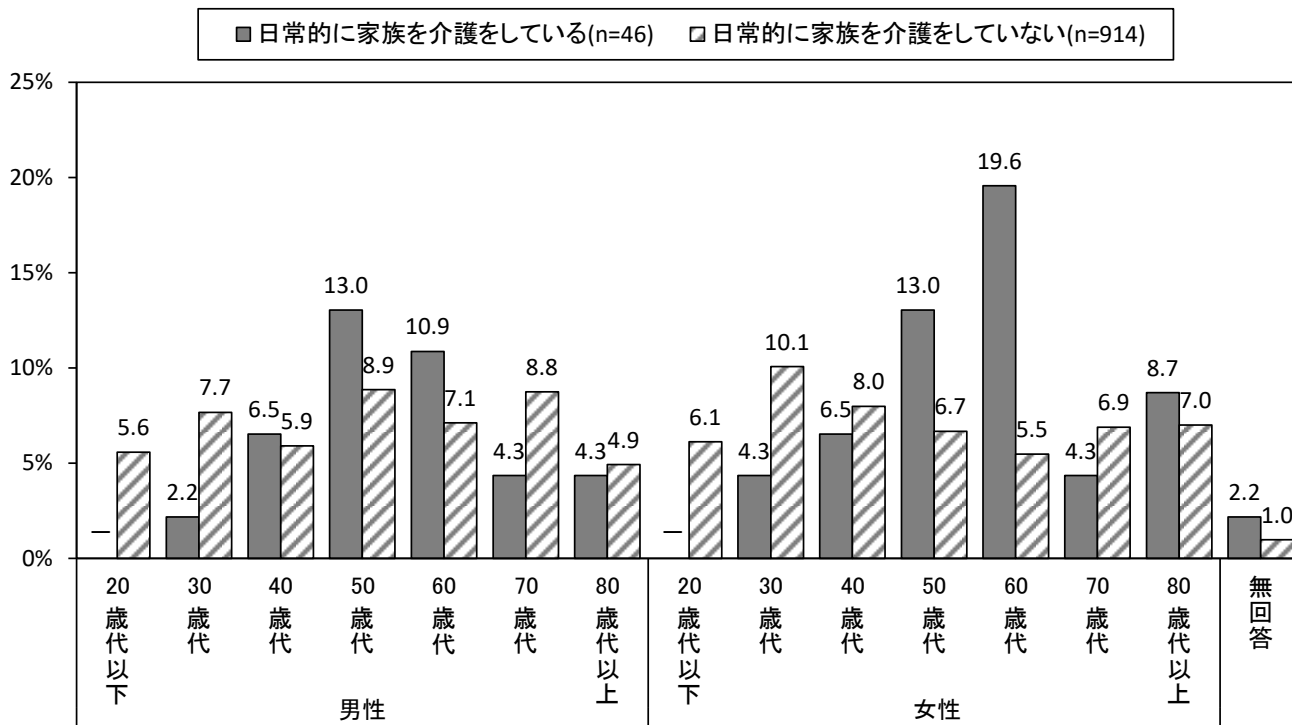
上段：人、下段：%

	n	南台	弥生町	本町	中央	東中野	中野	上高田	新井	沼袋	松が丘
全体	980 100.0	66 6.7	84 8.6	71 7.2	78 8.0	72 7.3	95 9.7	51 5.2	49 5.0	34 3.5	20 2.0
18歳・19歳	4 100.0	— —	— —	1 25.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
20歳代	106 100.0	9 8.5	7 6.6	8 7.5	10 9.4	6 5.7	11 10.4	2 1.9	5 4.7	1 0.9	1 0.9
30歳代	166 100.0	5 3.0	17 10.2	13 7.8	19 11.4	16 9.6	17 10.2	9 5.4	8 4.8	4 2.4	2 1.2
40歳代	135 100.0	5 3.7	10 7.4	15 11.1	8 5.9	15 11.1	11 8.1	12 8.9	12 8.9	7 5.2	1 0.7
50歳代	157 100.0	9 5.7	12 7.6	8 5.1	16 10.2	9 5.7	18 11.5	4 2.5	5 3.2	9 5.7	7 4.5
60～64歳	68 100.0	5 7.4	5 7.4	4 5.9	4 5.9	6 8.8	11 16.2	2 2.9	4 5.9	2 2.9	— —
65～69歳	63 100.0	4 6.3	6 9.5	6 9.5	3 4.8	5 7.9	4 6.3	6 9.5	4 6.3	5 7.9	— —
70～74歳	85 100.0	5 5.9	12 14.1	6 7.1	7 8.2	7 8.2	7 8.2	5 5.9	4 4.7	3 3.5	1 1.2
75～79歳	65 100.0	8 12.3	7 10.8	5 7.7	3 4.6	4 6.2	3 4.6	3 4.6	3 4.6	1 1.5	5 7.7
80～84歳	67 100.0	8 11.9	5 7.5	5 7.5	2 3.0	2 3.0	3 4.5	5 7.5	2 3.0	— —	3 4.5
85～89歳	37 100.0	5 13.5	1 2.7	— —	2 5.4	2 5.4	6 16.2	3 8.1	2 5.4	2 5.4	— —
90歳以上	19 100.0	3 15.8	2 10.5	— —	3 15.8	— —	2 10.5	— —	— —	— —	— —

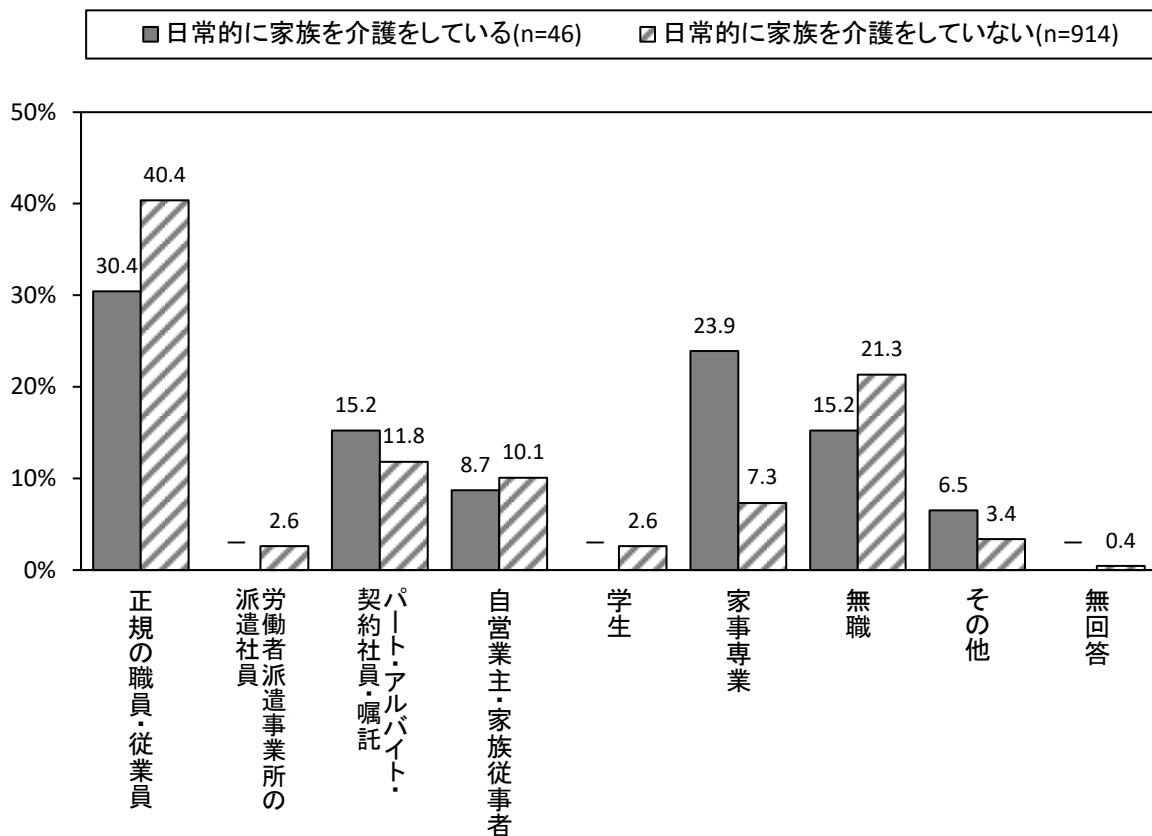
	n	江原町	江古田	丸山	野方	大和町	若宮	白鷺	鷺宮	上鷺宮	無回答
全体	980 100.0	22 2.2	28 2.9	16 1.6	54 5.5	50 5.1	34 3.5	36 3.7	58 5.9	57 5.8	5 0.5
18歳・19歳	4 100.0	— —	— —	— —	2 50.0	— —	— —	— —	— —	1 25.0	— —
20歳代	106 100.0	2 1.9	4 3.8	2 1.9	8 7.5	9 8.5	2 1.9	— —	16 15.1	3 2.8	— —
30歳代	166 100.0	4 2.4	5 3.0	2 1.2	7 4.2	7 4.2	4 2.4	6 3.6	12 7.2	9 5.4	— —
40歳代	135 100.0	3 2.2	3 2.2	1 0.7	6 4.4	5 3.7	6 4.4	3 2.2	2 1.5	10 7.4	— —
50歳代	157 100.0	4 2.5	6 3.8	5 3.2	7 4.5	8 5.1	5 3.2	4 2.5	9 5.7	12 7.6	— —
60～64歳	68 100.0	1 1.5	1 1.5	2 2.9	4 5.9	1 1.5	3 4.4	4 5.9	5 7.4	4 5.9	— —
65～69歳	63 100.0	1 1.6	— —	— —	1 1.6	4 6.3	1 1.6	5 7.9	2 3.2	6 9.5	— —
70～74歳	85 100.0	2 2.4	2 2.4	— —	5 5.9	4 4.7	3 3.5	6 7.1	3 3.5	3 3.5	— —
75～79歳	65 100.0	1 1.5	3 4.6	— —	3 4.6	5 7.7	5 7.7	3 4.6	2 3.1	1 1.5	— —
80～84歳	67 100.0	2 3.0	1 1.5	3 4.5	9 13.4	4 6.0	3 4.5	2 3.0	4 6.0	4 6.0	— —
85～89歳	37 100.0	1 2.7	3 8.1	— —	1 2.7	2 5.4	2 5.4	2 5.4	2 5.4	1 2.7	— —
90歳以上	19 100.0	1 5.3	— —	1 5.3	1 5.3	1 5.3	— —	1 5.3	1 5.3	3 15.8	— —

【日常的な家族の介護の有無別】対象者の属性

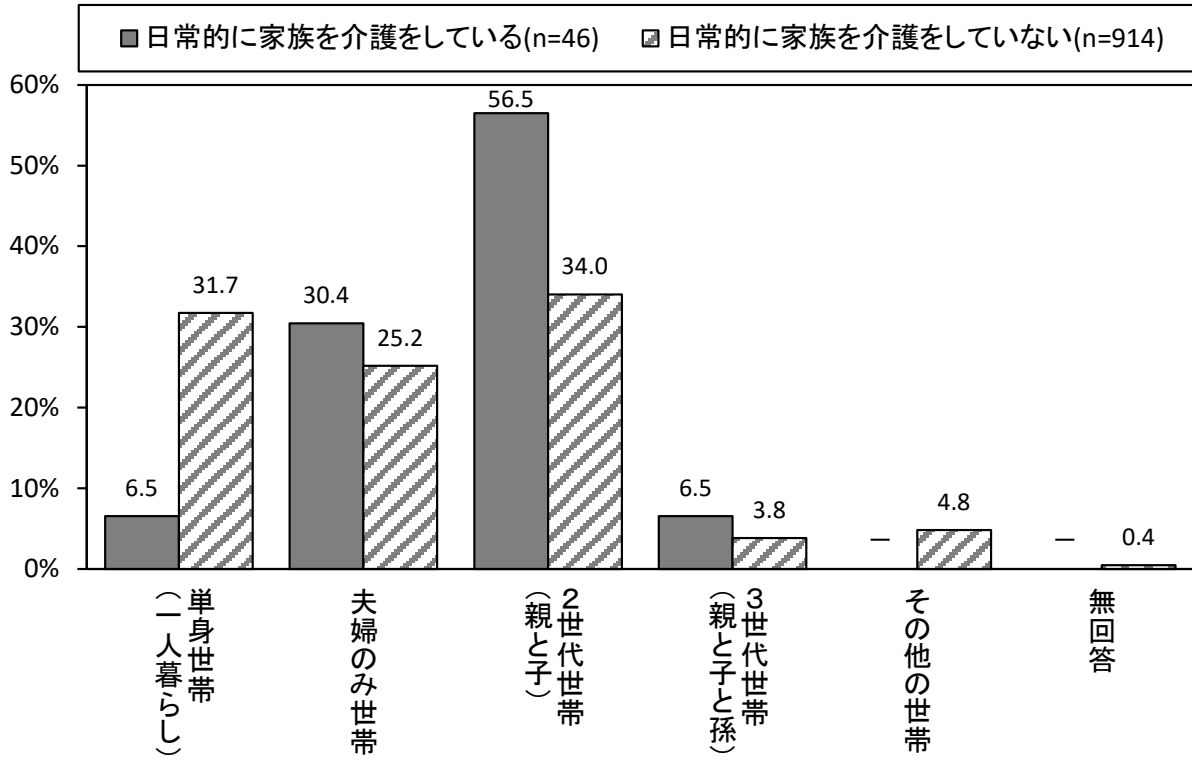
■ 【介護の有無別】性別・年齢



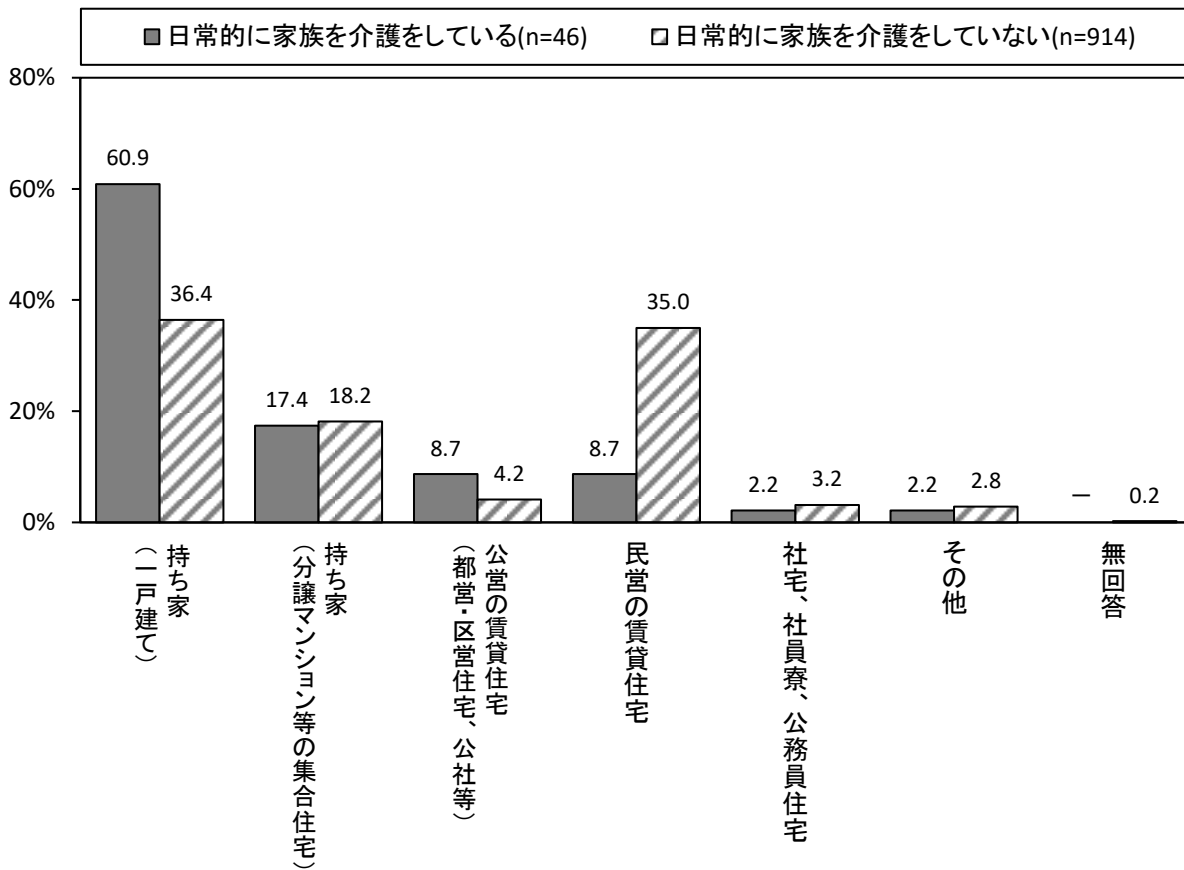
■ 【介護の有無別】職業



■【介護の有無別】世帯構成



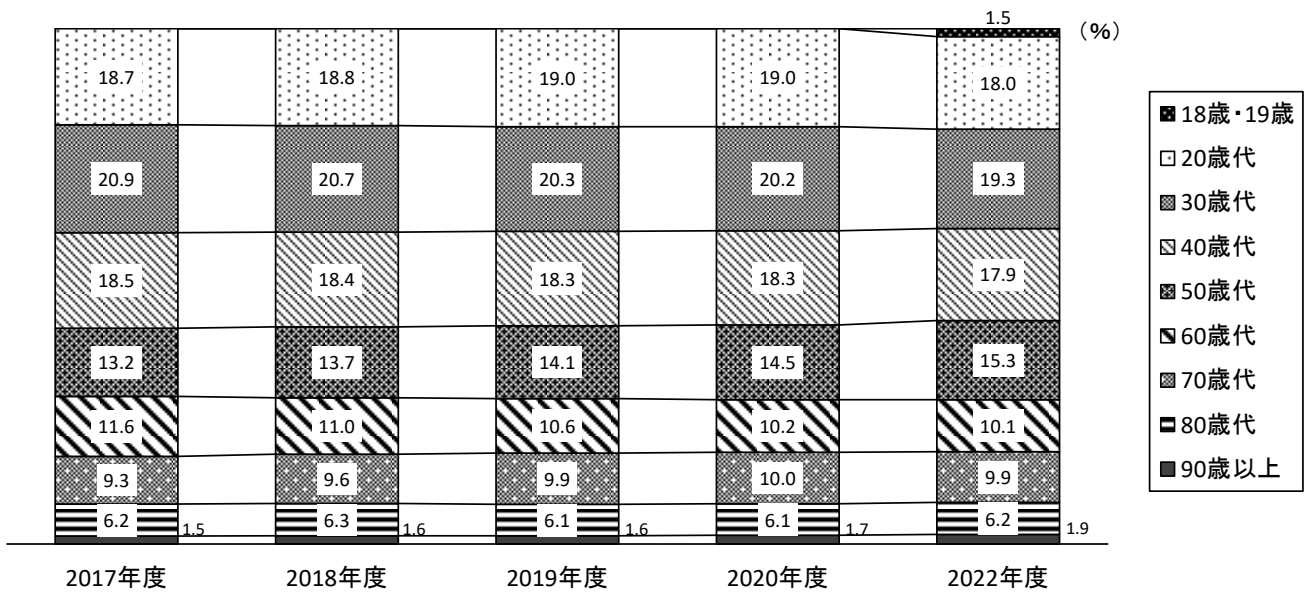
■【介護の有無別】住居形態



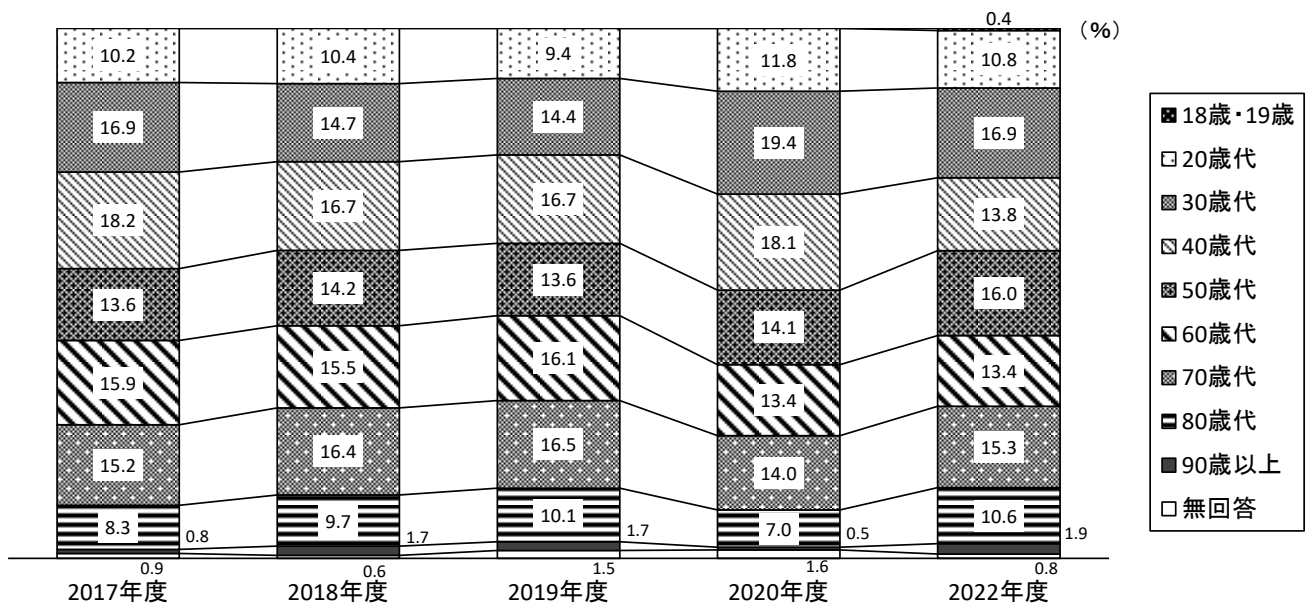


## 10. 母集団と調査回答者の推移

### ■【年代別】母集団



### ■【年代別】回答者



※2020年度までは満20歳以上の区民を調査対象としていたが、2022年度は満18歳以上の区民を調査対象とした。

### Ⅲ 調査結果の分析



# 1. 地域活動について

## 1.1. 地域の活動への参加

### ◆参加している地域活動の中で、最も高いのは「町会・自治会の活動」

(全員の方に)

問1. あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

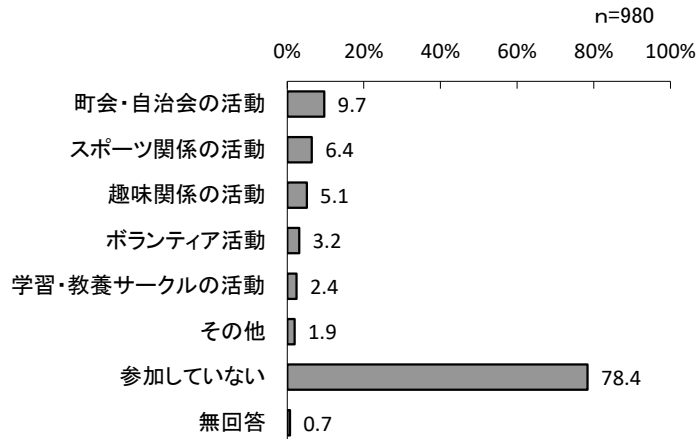


図 1-1 参加している地域活動

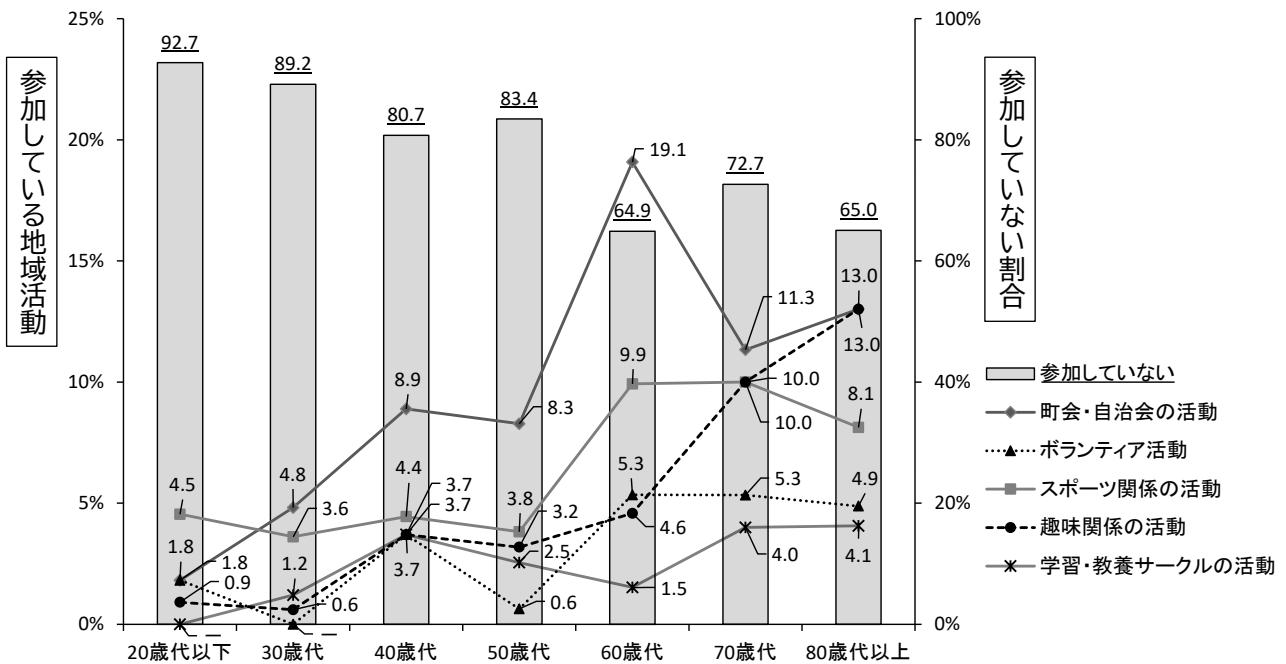
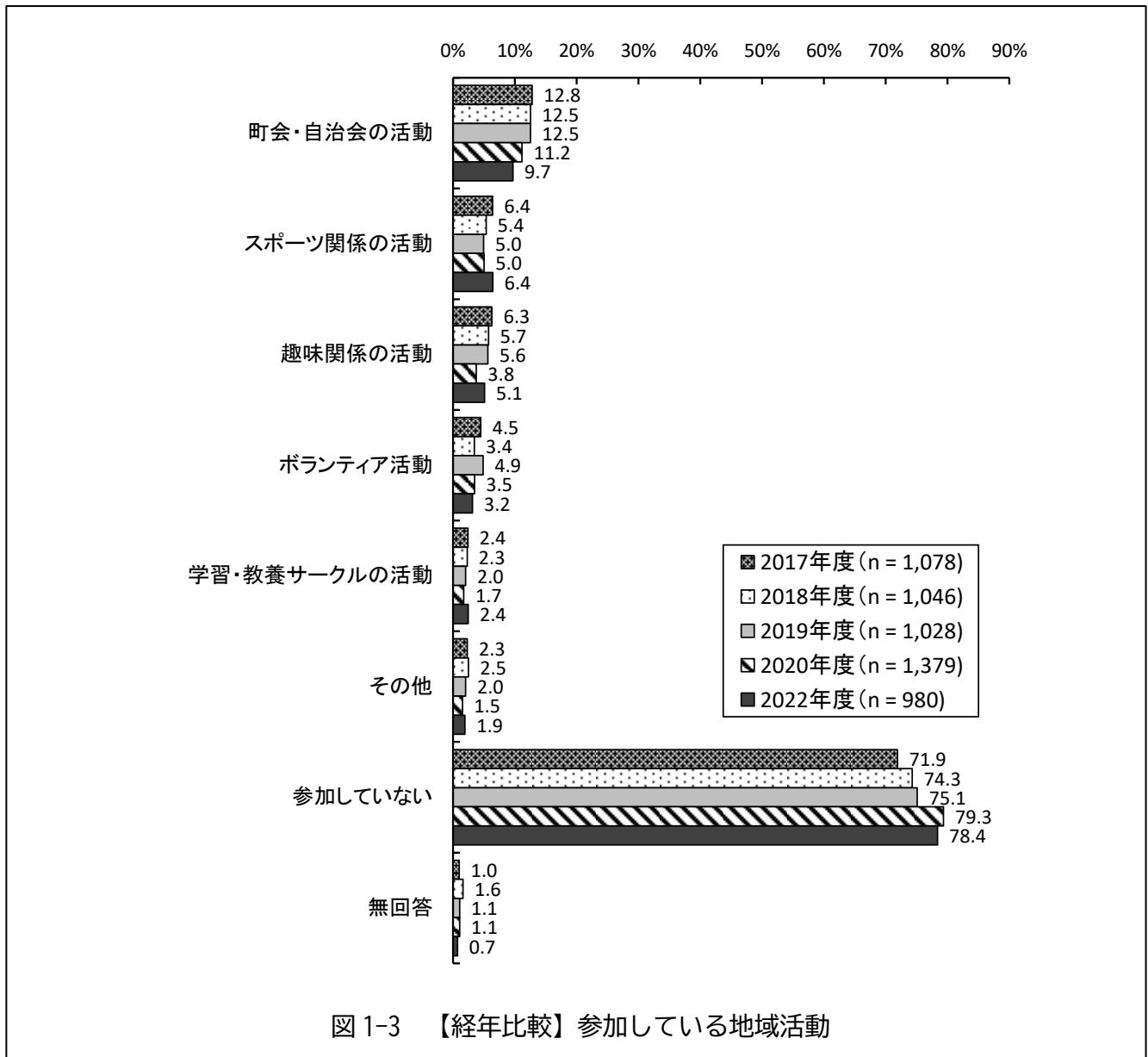


図 1-2 【年代別】参加している地域活動

地域活動への参加状況は、「参加していない」(78.4%)が最も高くなっている。年代別にみると、30歳代以下で「参加していない」の割合が9割前後と高くなっている。参加している地域の活動としては「町会・自治会の活動」が60歳代で約2割と他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられないが、「町会・自治会の活動」の割合は減少傾向にある。

1.2. 近所とのつきあいの程度

◆親しくおつきあいしている割合は70歳代で約2割

(全員の方に)

問2. あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(○は1つ)

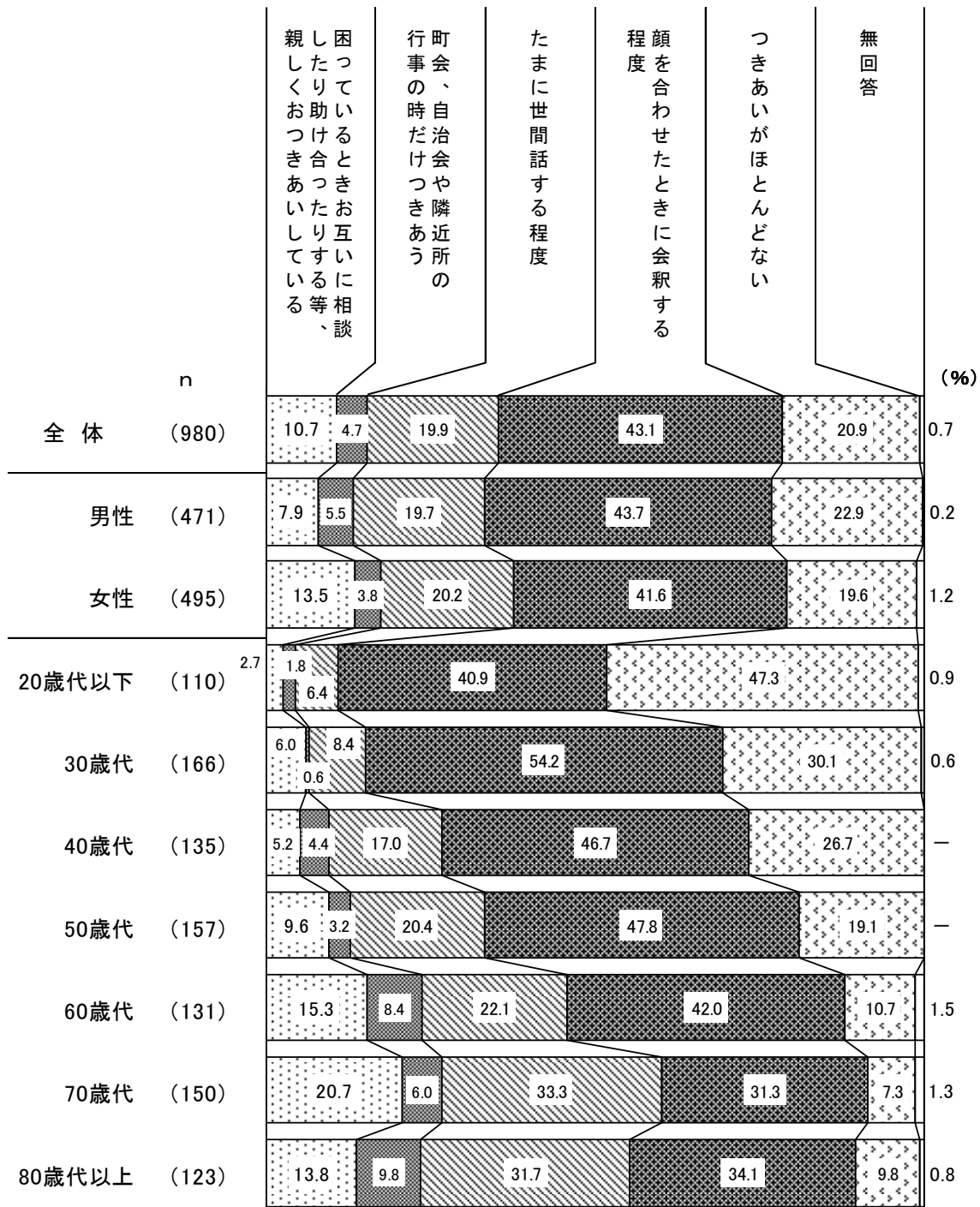
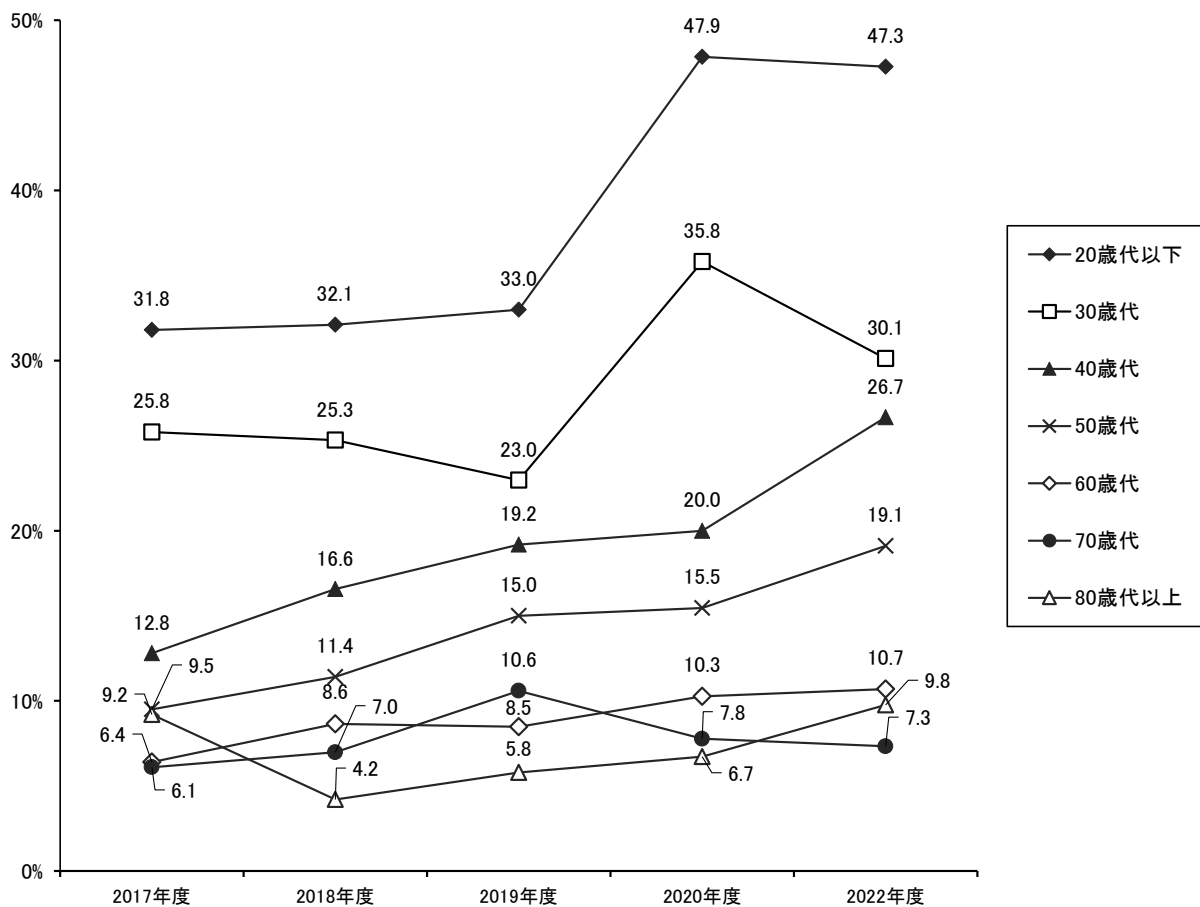


図1-4 【性・年代別】近所とのつきあいの程度

ご近所とのつきあいの程度としては、「顔を合わせたときに会釈する程度」(43.1%)が最も高くなっている。性別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」は、女性(13.5%)が男性(7.9%)を5.6ポイント上回っている。年代別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、70歳代で約2割と高くなっている。

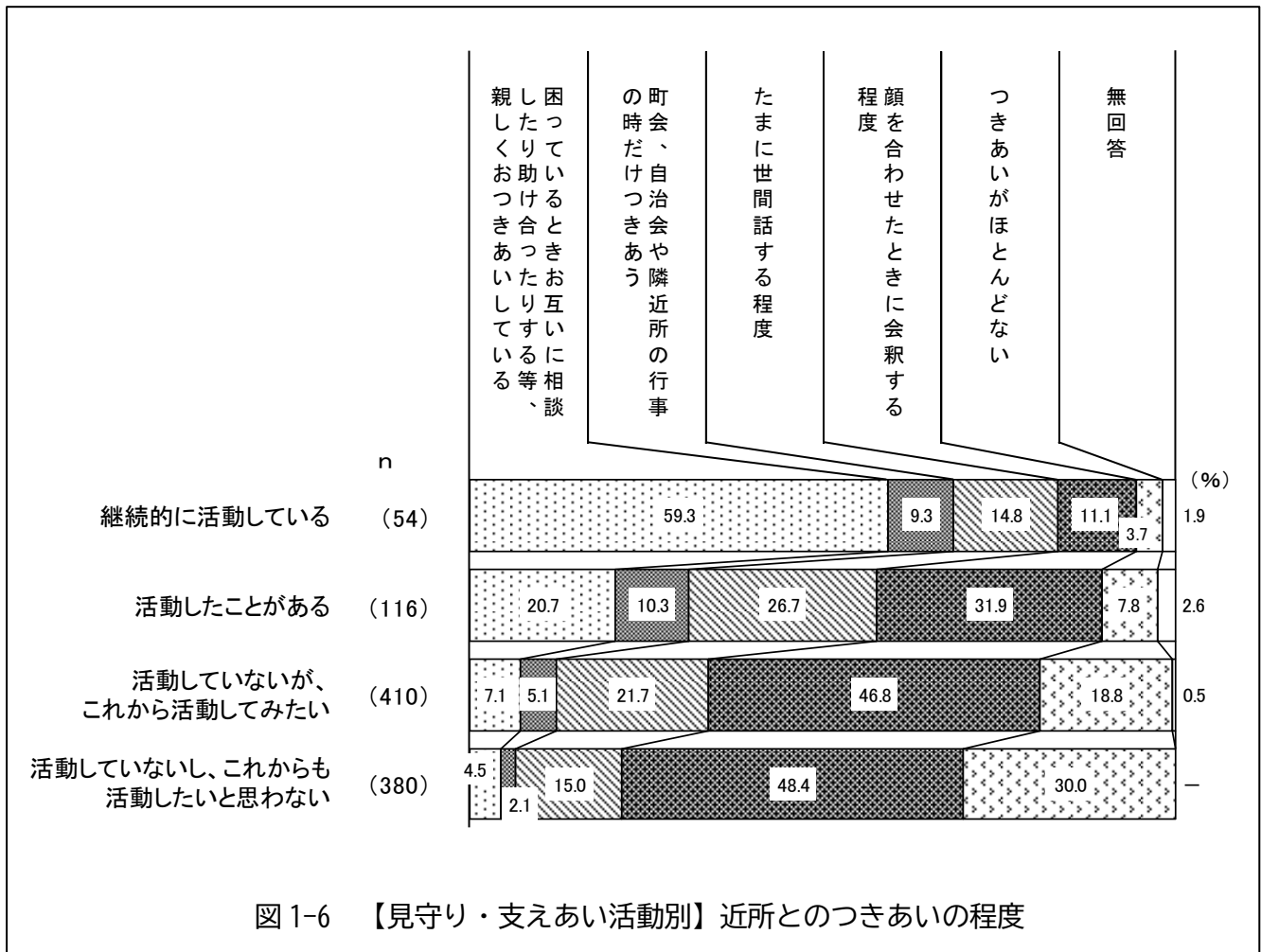
■年代別 「つきあいがほとんどない」の割合



※2022年度から18歳・19歳を調査対象としているため、2020年度以前は「20歳代以下」ではなく「20歳代」。  
以下、年代別クロス集計の経年比較は全て同様。

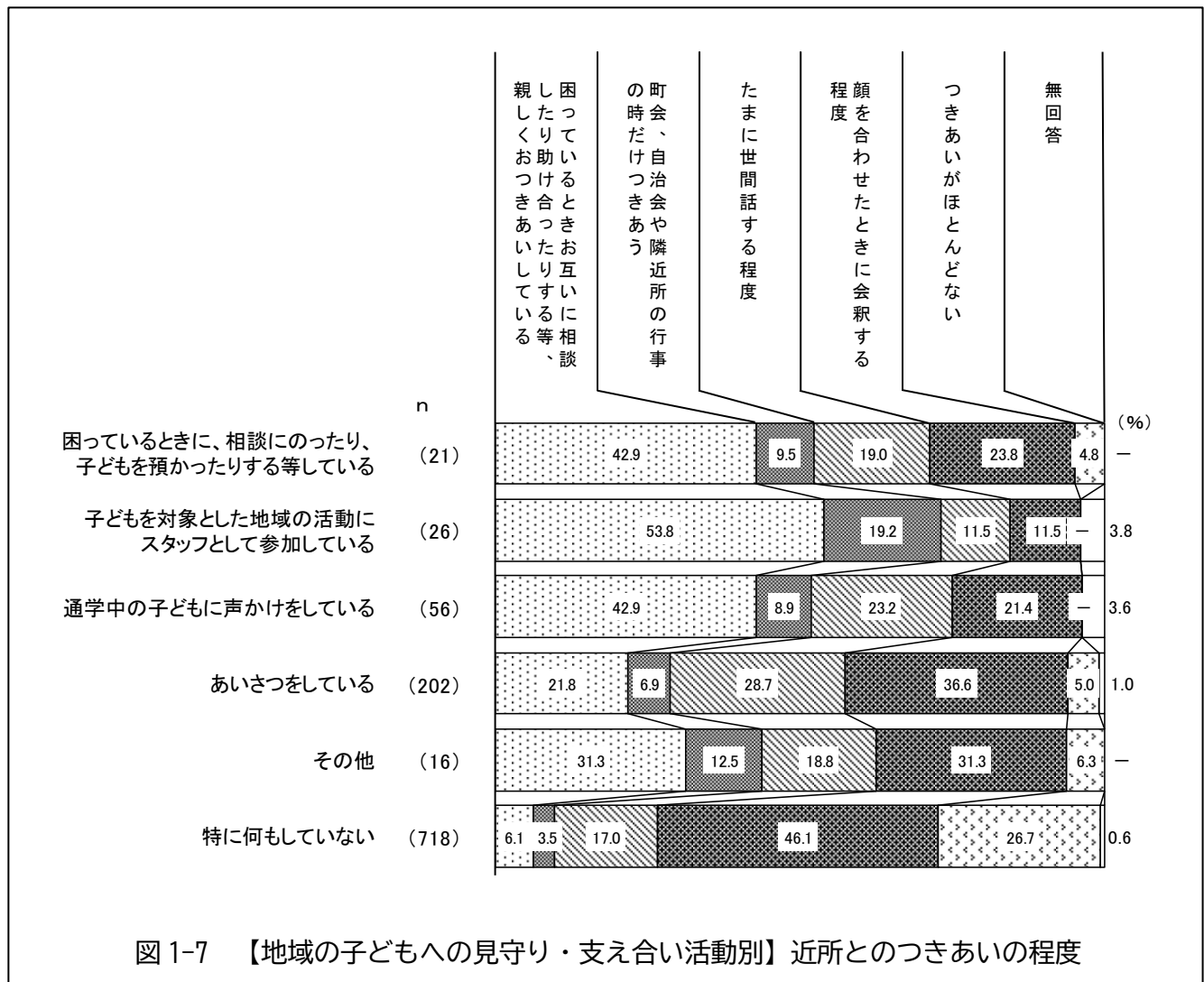
図1-5 【経年比較】近所とのつきあいの程度

経年で比較すると、いずれの年度も「つきあいがほとんどない」の割合が20歳代以下で最も高くなっており、次いで30歳代の割合が高くなっている。



見守り・支えあい活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、継続的に活動している人や活動したことがある人で高くなっており、継続的に活動している人で約6割、活動したことがある人で約2割となっている。

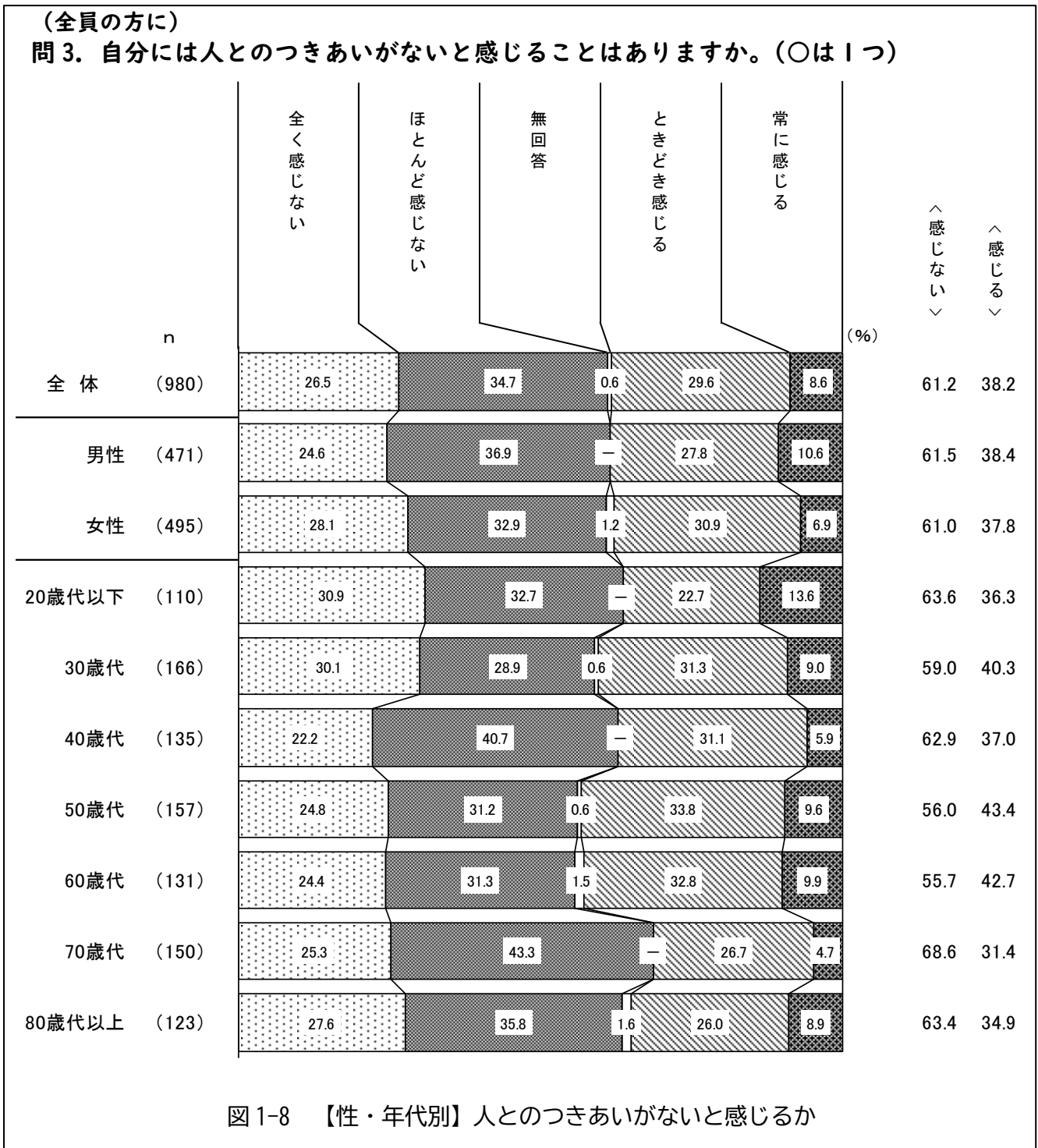




地域の子どもへの見守り・支え合い活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」は、何らかの見守り・支え合い活動をしている人の方が割合が高くなっている。一方、「つきあいがほとんどない」と「顔を合わせたときに会釈する程度」は、特に何もしていない人の方が割合が高くなっている。

1.3. 人とのつきあいがないと感じるか

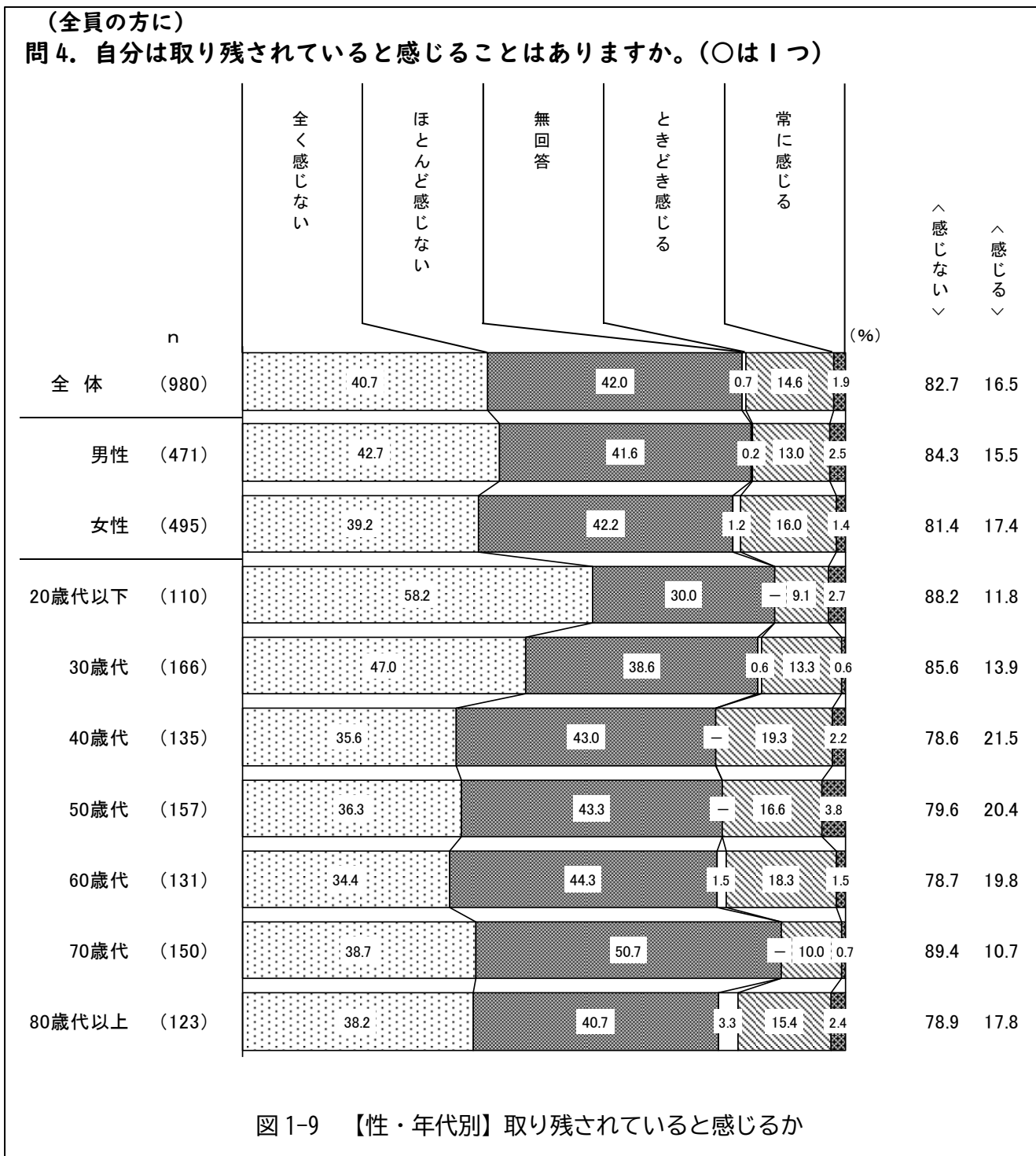
◆人とのつきあいがないと感じる<>は3割台後半



人とのつきあいがないと感じるかどうかは、「全く感じない」(26.5%)と「ほとんど感じない」(34.7%)を合わせた<感じない>が約6割であるのに対し、「ときどき感じる」(29.6%)と「常に感じる」(8.6%)を合わせた<感じる>は3割台後半となっている。年代別にみると、50歳~60歳代で<感じる>、20歳代以下で「常に感じる」の割合がやや高くなっている。

1.4. 取り残されていると感じるか

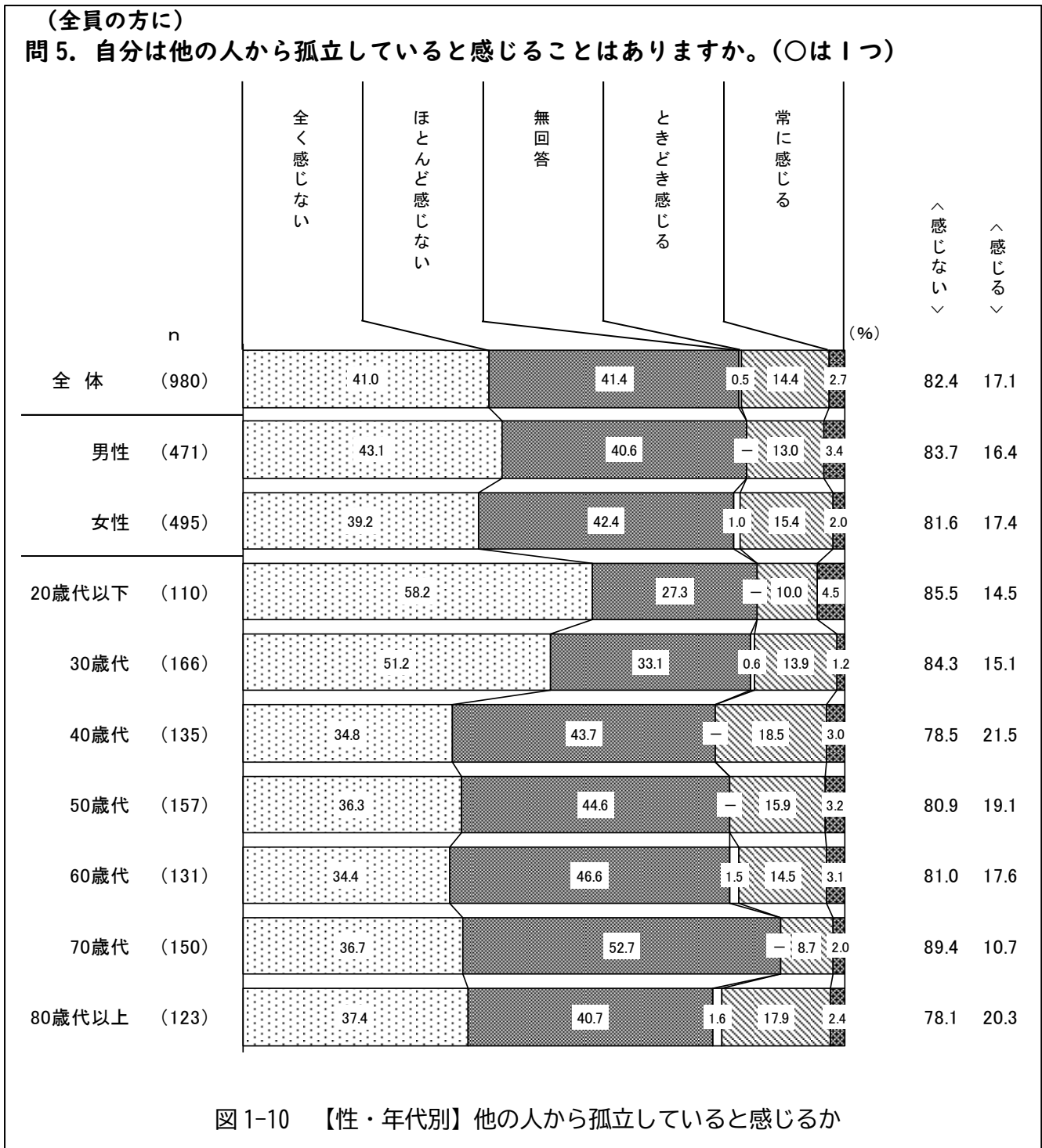
◆取り残されていると<感じる>は1割台半ば



自分は取り残されていると感じるかどうかは、「全く感じない」(40.7%)と「ほとんど感じない」(42.0%)を合わせた<感じない>が8割台前半であるのに対し、「ときどき感じる」(14.6%)と「常に感じる」(1.9%)を合わせた<感じる>は1割台半ばとなっている。年代別にみると、40歳~60歳代で<感じる>の割合がやや高くなっている。

1.5. 他の人から孤立していると感じるか

◆他の人から孤立していると感じるは1割台後半



他の人から孤立していると感じるかどうかは、「全く感じない」(41.0%)と「ほとんど感じない」(41.4%)を合わせた〈感じない〉が8割台前半であるのに対し、「ときどき感じる」(14.4%)と「常に感じる」(2.7%)を合わせた〈感じる〉は1割台後半となっている。年代別にみると、40歳代と80歳代以上で〈感じる〉の割合がやや高くなっている。

### 1.6. 相談相手

#### ◆相談相手は「知人・友人」が5割台後半

(全員の方に)

問6. あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できるのは誰ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

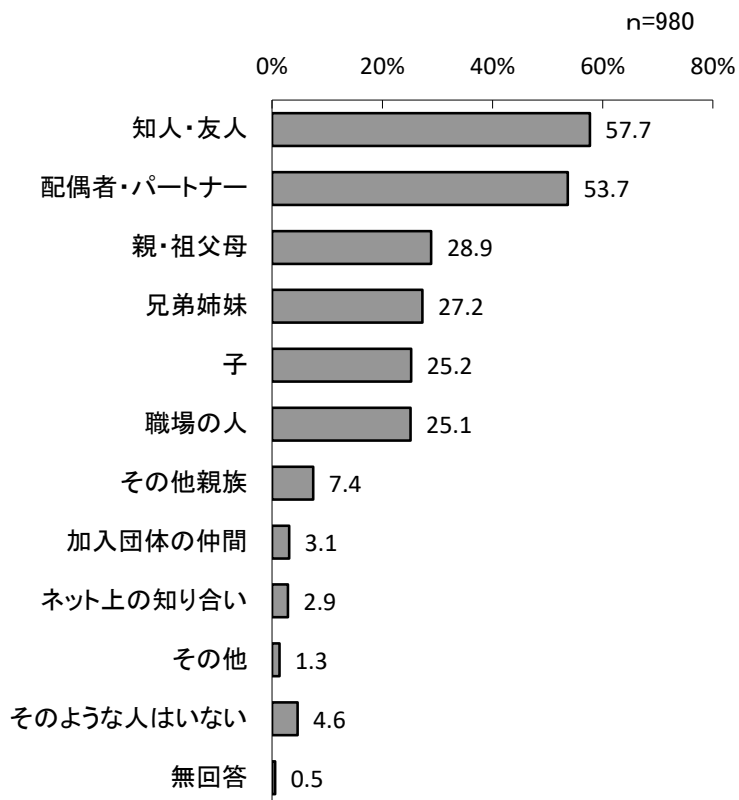


図 1-11 相談相手

心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できる相手は、「知人・友人」が 57.7%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(53.7%)、「親・祖父母」(28.9%)となっている。

表 1-1 【年代別】上位5項目 相談相手

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	知人・友人 76.4	親・祖父母 70.0	配偶者・パートナー 46.4	職場の人 35.5	兄弟姉妹 23.6
30歳代 n=166	配偶者・パートナー 66.9	知人・友人 66.3	親・祖父母 51.2	職場の人 38.6	兄弟姉妹 24.7
40歳代 n=135	知人・友人 68.1	配偶者・パートナー 56.3	親・祖父母 48.1	職場の人 38.5	兄弟姉妹 31.1
50歳代 n=157	配偶者・パートナー 61.8	知人・友人 56.1	職場の人 35.7	親・祖父母 26.8	子 22.3
60歳代 n=131	知人・友人 56.5	配偶者・パートナー 54.2	子 35.1	兄弟姉妹 32.8	職場の人 15.3
70歳代 n=150	配偶者・パートナー 53.3	知人・友人 49.3	子 48.0	兄弟姉妹 36.7	その他親族 10.0
80歳代以上 n=123	子 60.2	知人・友人 30.9	配偶者・パートナー 27.6	兄弟姉妹 19.5	その他親族 10.6

心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できる相手を年代別にみると、20歳代以下で「知人・友人」、30歳代で「配偶者・パートナー」、80歳代以上で「子」の割合が特に高くなっている。

### 1.7. 家族や友人以外の相談先

#### ◆家族や友人以外の相談先は「そのような人はいない」が6割台半ば

(全員の方に)

問7. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関はありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

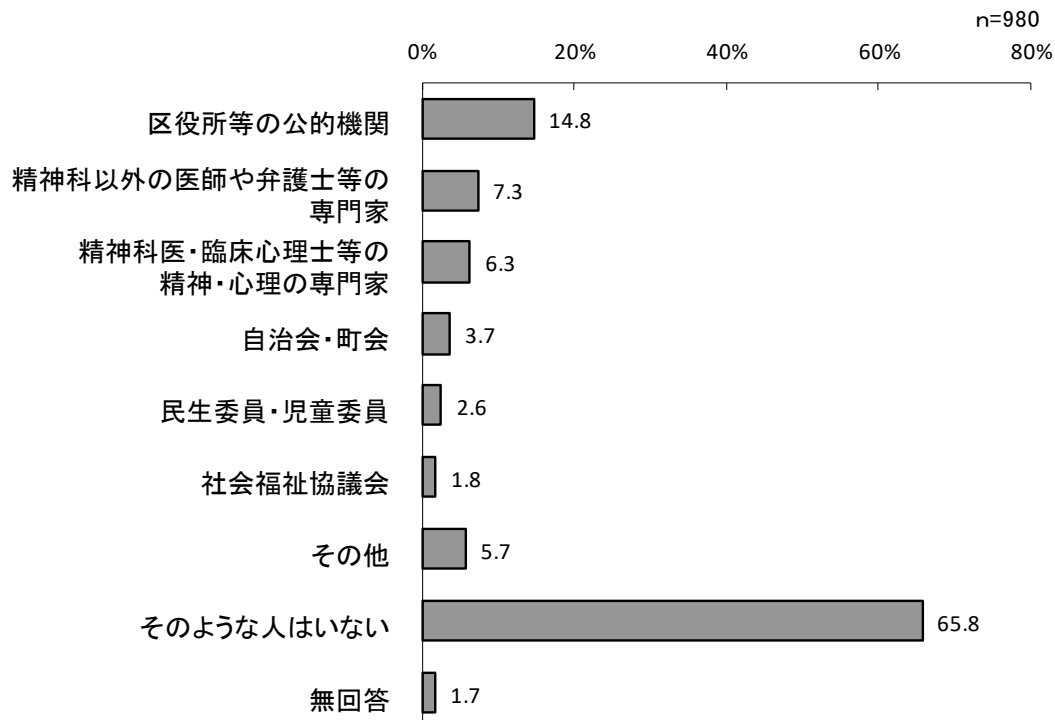


図 1-12 家族や友人以外の相談先

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関は、「そのような人はいない」が65.8%で最も高く、次いで「区役所等の公的機関」(14.8%)となっている。

表 1-2 【年代別】上位5項目 家族や友人以外の相談先

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	そのような人はいない 78.2	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 11.8	区役所等の公的機関 8.2	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 2.7	自治会・町会 0.9
30歳代 n=166	そのような人はいない 75.9	区役所等の公的機関 10.8	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 9.0	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 3.6	自治会・町会／民生委員・児童委員 0.6
40歳代 n=135	そのような人はいない 73.3	区役所等の公的機関 14.1	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 8.1	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 6.7	社会福祉協議会 4.4
50歳代 n=157	そのような人はいない 66.9	区役所等の公的機関 14.0	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 8.3	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 5.1	民生委員・児童委員／社会福祉協議会 1.9
60歳代 n=131	そのような人はいない 61.8	区役所等の公的機関 14.5	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 9.9	自治会・町会 4.6	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 3.8
70歳代 n=150	そのような人はいない 56.0	区役所等の公的機関 19.3	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 12.7	自治会・町会 6.7	民生委員・児童委員 4.0
80歳代以上 n=123	そのような人はいない 48.8	区役所等の公的機関 21.1	自治会・町会 12.2	民生委員・児童委員／精神科以外の医師や弁護士等の専門家 7.3	

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関を年代別にみると、いずれの年代でも「そのような人はいない」が最も高く、若い年代ほどその割合が高くなっている。



### 1.8. 必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動

#### ◆必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動は「日常的な声かけ」が約5割

(全員の方に)

問8. あなたは、地域で生活していくうえで、近隣同士のどのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか(あてはまるものすべてに○)

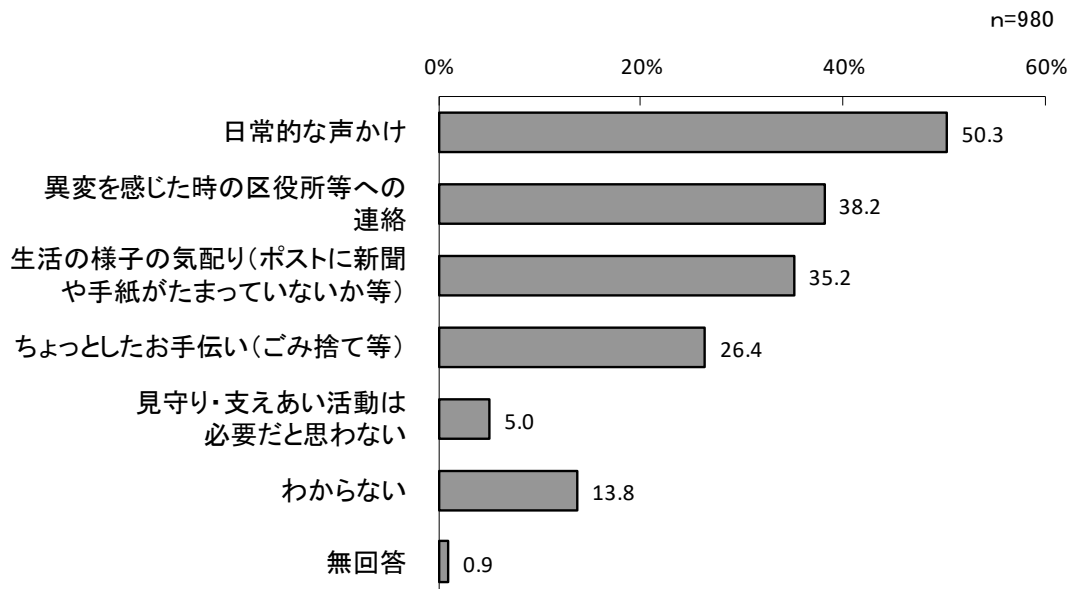
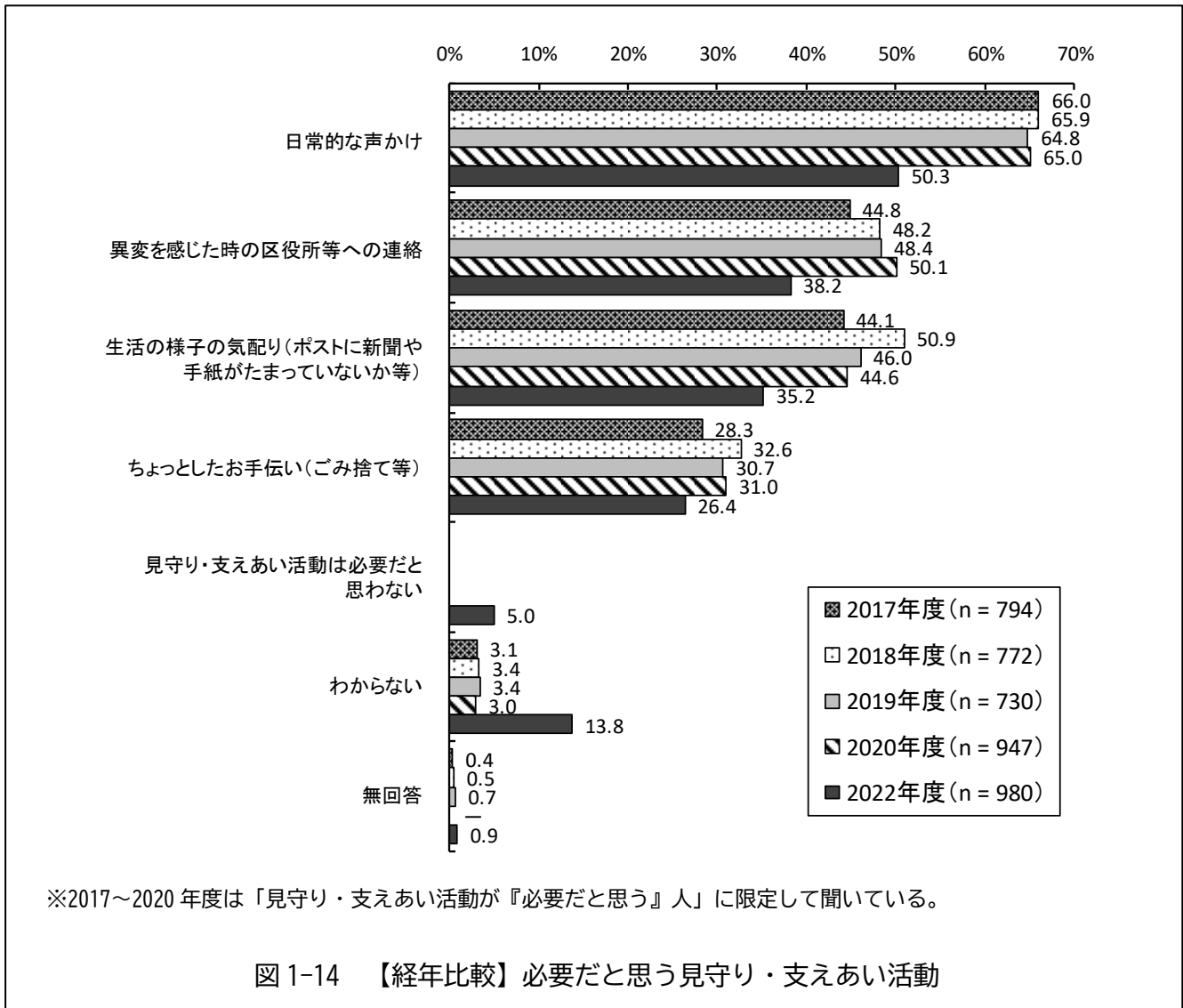


図1-13 必要だと思う見守り・支えあい活動

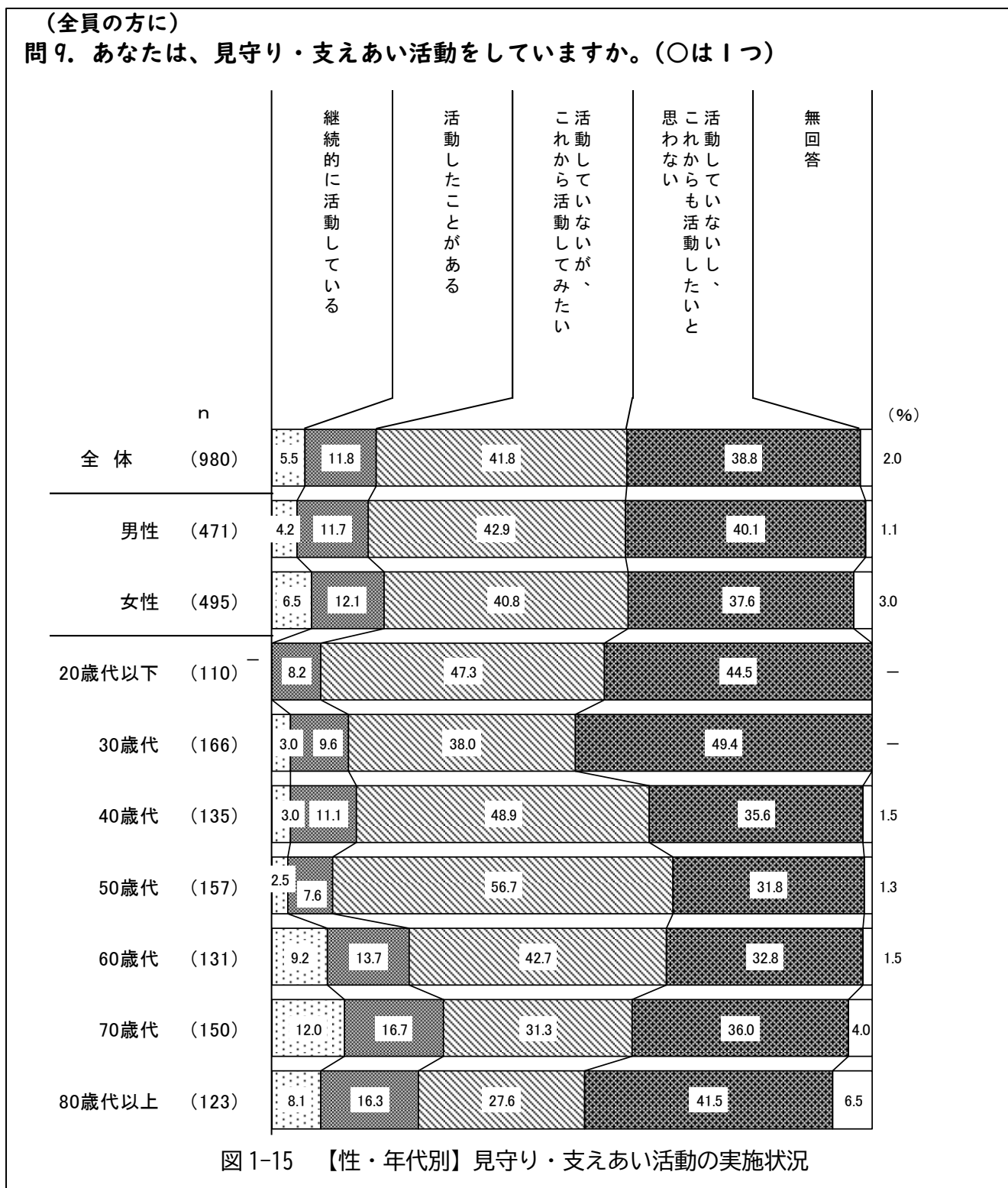
必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動は、「日常的な声かけ」が50.3%で最も高く、次いで「異変を感じた時の区役所等への連絡」(38.2%)、「生活の様子の気配り(ポストに新聞や手紙がたまっていないか等)」(35.2%)となっている。



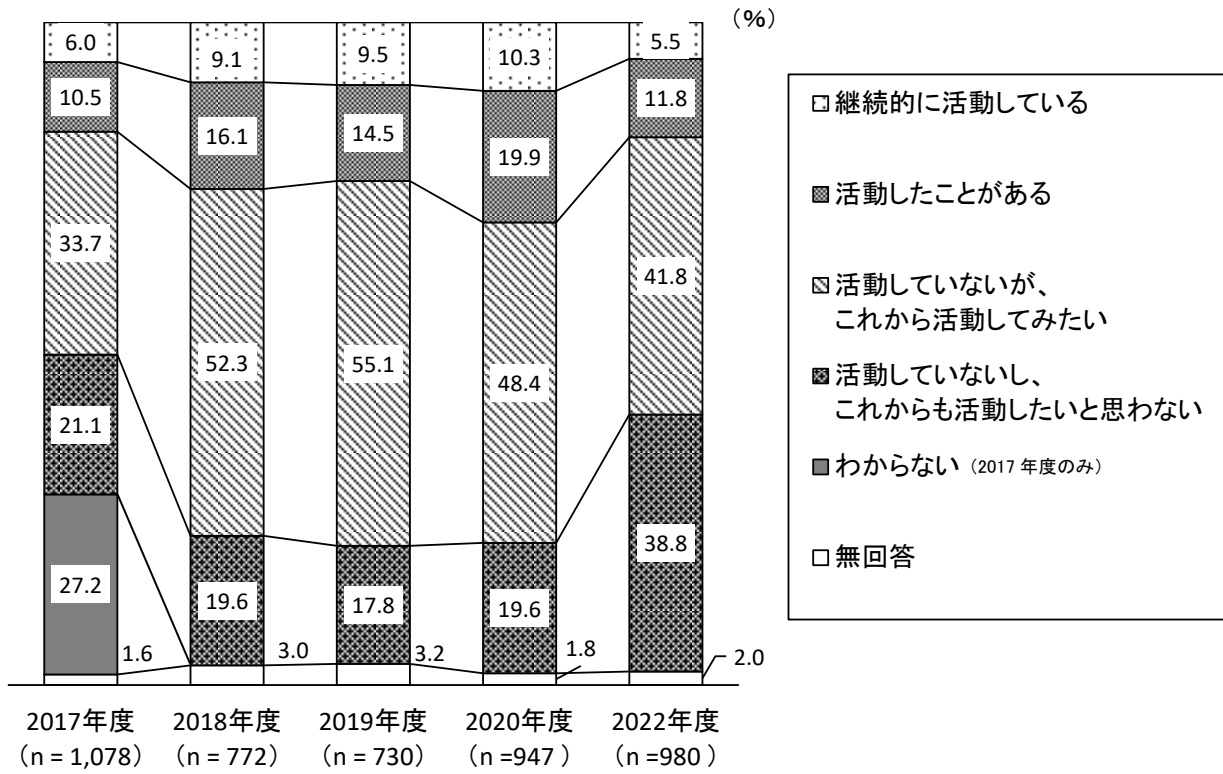
質問の形式が異なるため、経年比較は参考までに掲載する。

1.9. 見守り・支えあい活動の実施状況

◆見守り・支えあい活動を「これからしてみたい」人が約4割



見守り・支えあい活動の実施状況は、「活動していないが、これから活動してみたい」(41.8%)が最も高くなっている。年代別にみると、70歳代で「継続的に活動している」、50歳代で「活動していないが、これから活動してみたい」、30歳代で「活動してないし、これから活動したいと思わない」の割合が特に高くなっている。



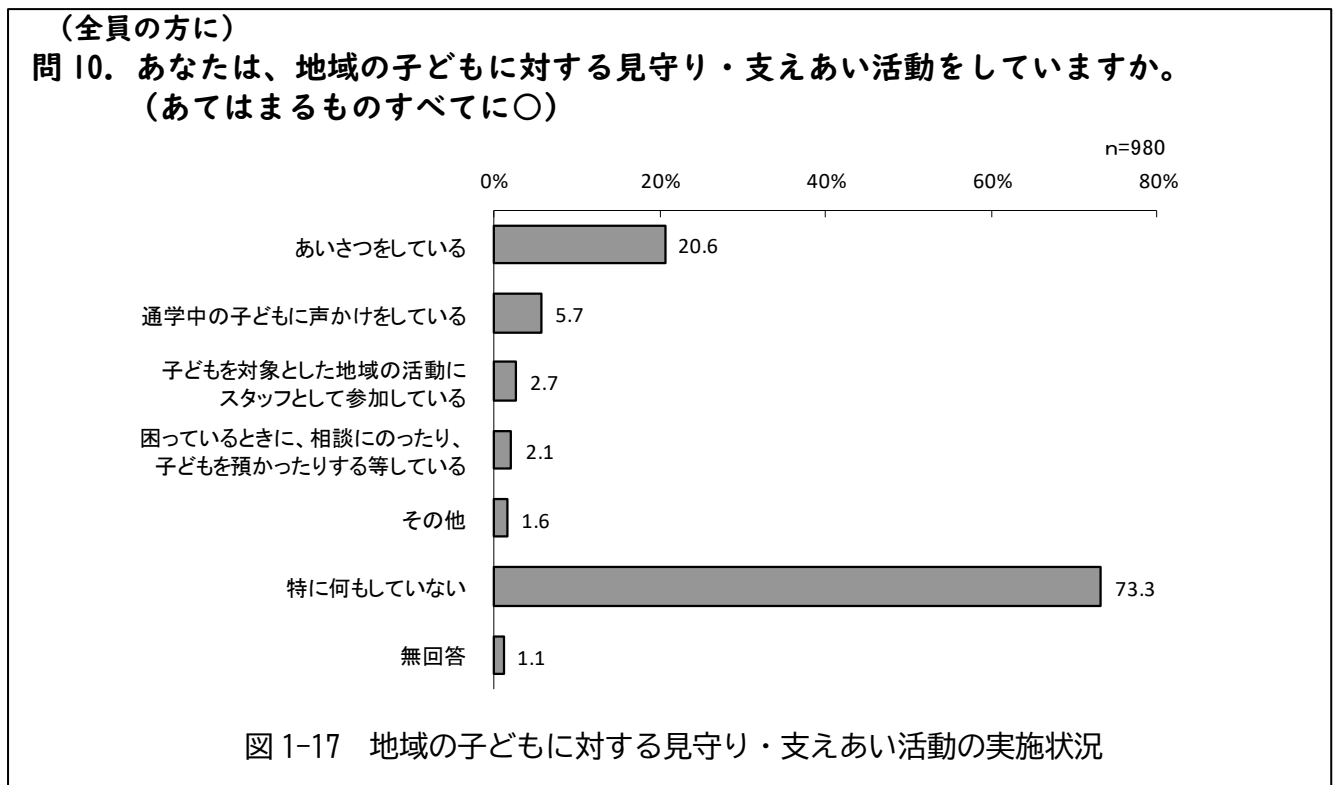
※2017年度は「全員の方」を調査対象としており、また、「わからない」の選択肢を設定していた。  
 ※2018～2020年度は「見守り・支えあい活動が『必要だと思う』人」に限定して聞いている。

図 1-16 【経年比較】見守り・支えあい活動の実施状況

質問の形式が異なるため、経年比較は参考までに掲載する。

1.10. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況

◆子どもに対する見守り・支えあい活動を「特に何もしていない」が7割台前半



地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況は、「特に何もしていない」が 73.3%と最も高く、次いで「あいさつをしている」(20.6%)となっている。

表 1-3 【性・年代別】地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況

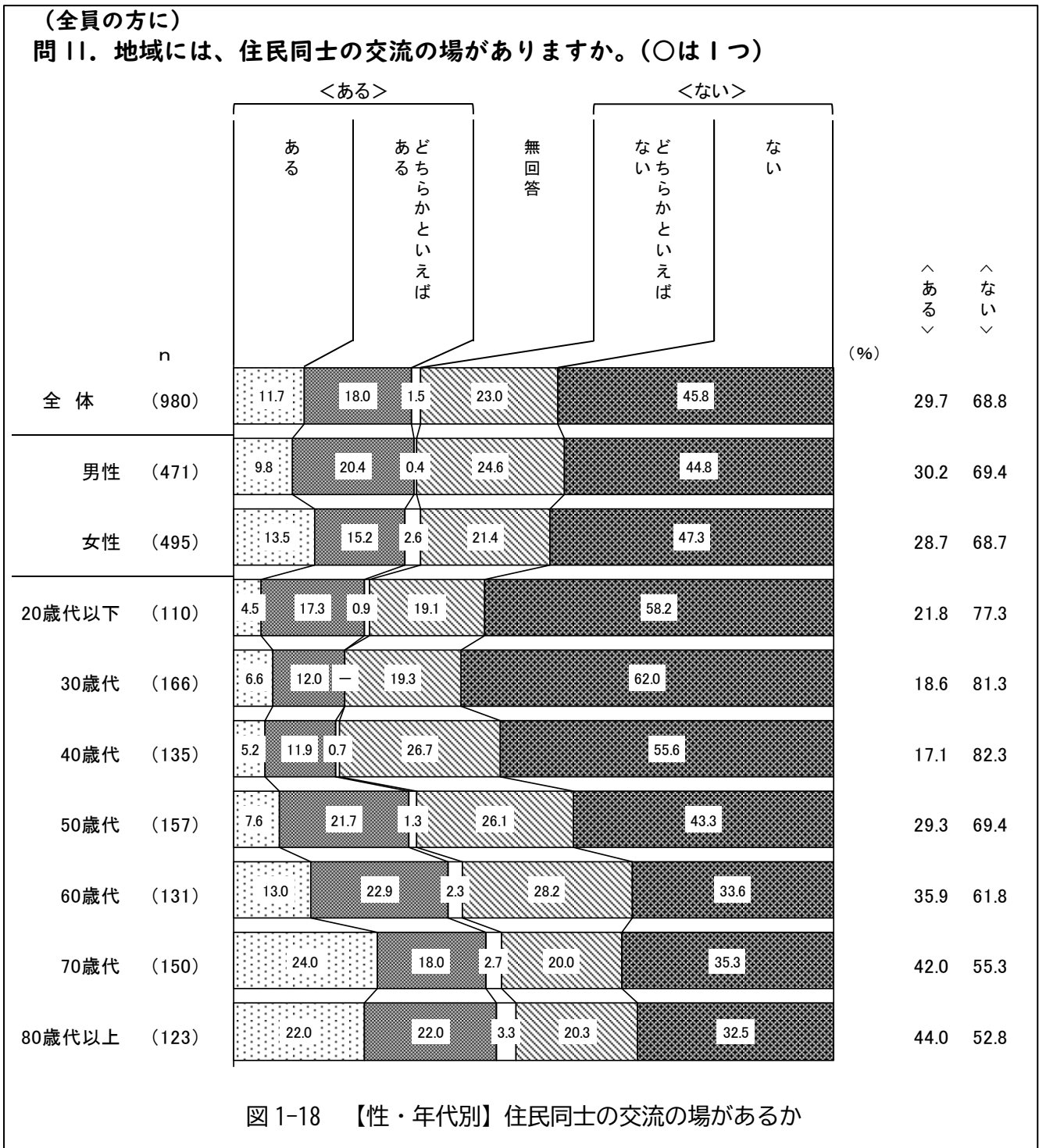
単位：%

区分	有効回答数(件)	困りつつある等しているときに、相談にのる	参加しているスタッフとした地域	子どもを対象とした地域	通学中の子どもに声をかけている	あいさつをしている	その他	特に何もしていない	無回答
全体	980	2.1	2.7	5.7	20.6	1.6	73.3	1.1	
男性	471	2.3	2.3	3.4	19.7	1.5	75.6	0.4	
女性	495	2.0	2.8	7.7	21.0	1.8	71.5	1.8	
20歳代以下	110	0.9	2.7	0.9	10.0	—	86.4	—	
30歳代	166	3.0	1.2	1.2	15.1	1.2	80.7	—	
40歳代	135	2.2	3.0	7.4	27.4	1.5	65.9	1.5	
50歳代	157	1.3	1.9	4.5	21.7	0.6	75.8	—	
60歳代	131	3.1	3.1	3.8	24.4	3.1	70.2	—	
70歳代	150	3.3	2.7	12.7	23.3	2.0	67.3	2.0	
80歳代以上	123	0.8	4.9	8.9	19.5	3.3	68.3	4.9	

性別にみると、「特に何もしていない」は男性(75.6%)が女性(71.5%)を4.1ポイント上回っている。年代別にみると、いずれの年代でも「特に何もしていない」の割合が最も高く、特に30歳代以下で8割を超えて高くなっている。

1.11. 地域における住民同士の交流の場の有無

◆住民同士の交流の場が<ない>が6割台後半



地域における住民同士の交流の場の有無は、「どちらかといえはなし」(23.0%)と「ない」(45.8%)を合わせた<ない>が6割台後半であるのに対し、「ある」(11.7%)と「どちらかといえはあり」(18.0%)を合わせた<ある>は約3割となっている。年代別にみると、30歳~40歳代で<ない>が8割を超えて特に高くなっている。

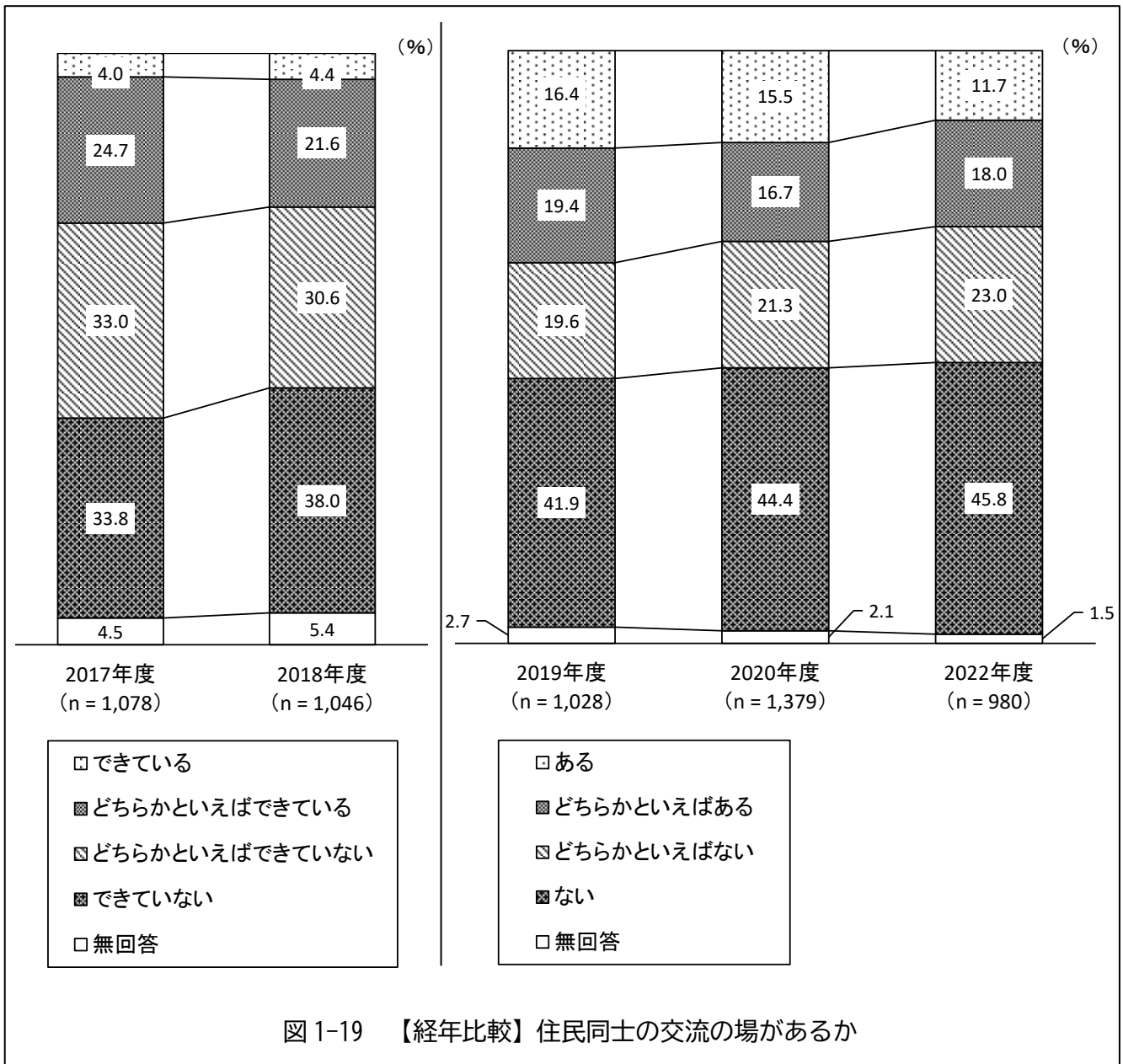


図 1-19 【経年比較】住民同士の交流の場があるか

2018 年度までは「交流する『場づくり』ができていないか」について調査しているため、参考として 2017 年度から 2018 年度までの結果を掲載する。経年で比較すると、＜ある＞の割合は減少傾向となっている。

1.12. 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

◆障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が約3割

(全員の方に)

問 12. 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。(〇は3つまで)

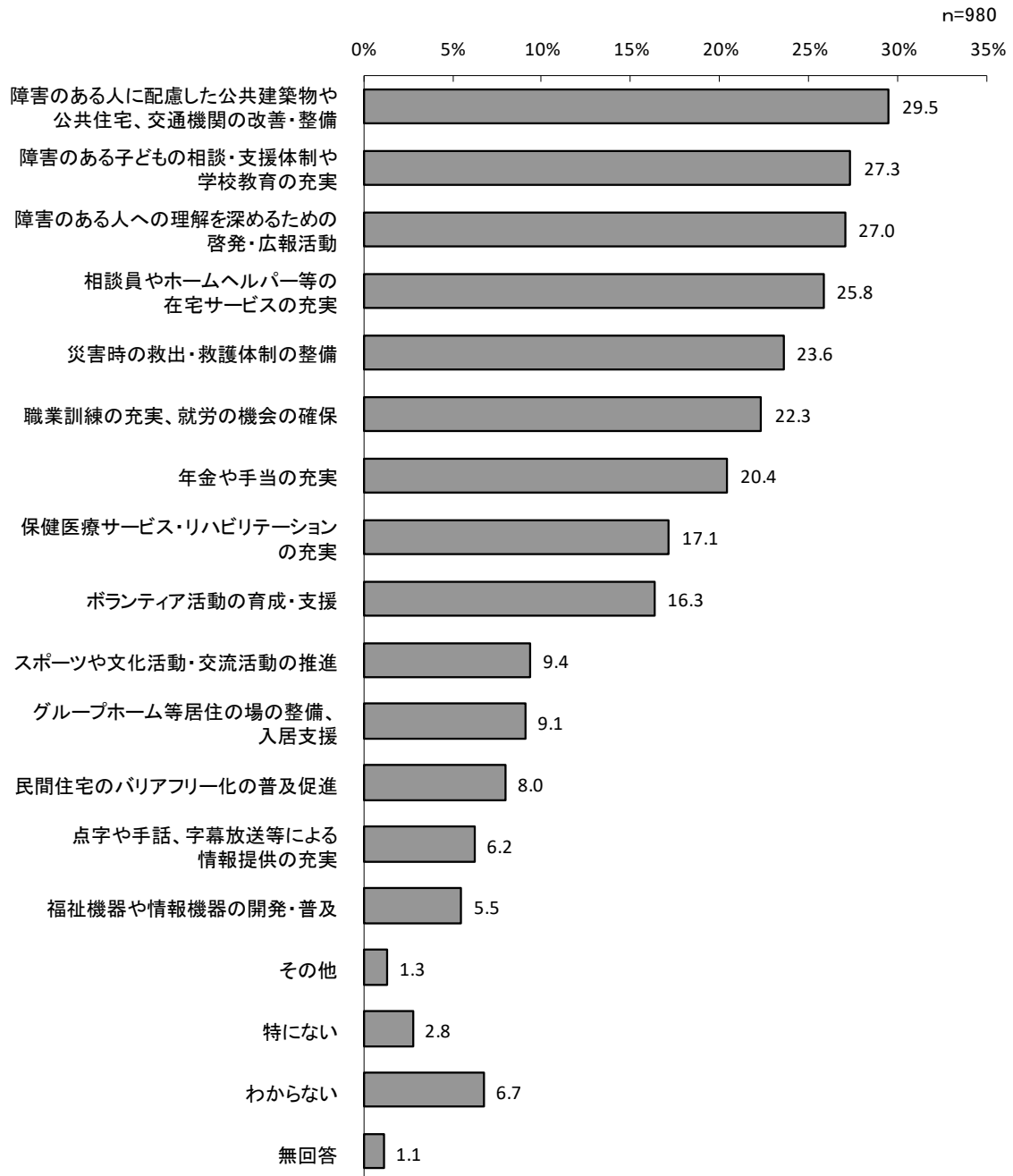


図 1-20 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は、「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が29.5%で最も高く、次いで「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」(27.3%)、「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」(27.0%)、「相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実」(25.8%)となっている。



表1-4 【年代別】上位5項目 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 35.5	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 33.6	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 30.0	年金や手当の充実 22.7	職業訓練の充実、就労の機会の確保 21.8
30歳代 n=166	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 33.7	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 30.1	職業訓練の充実、就労の機会の確保 25.9	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 24.7	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 24.1
40歳代 n=135	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 33.3	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 29.6	職業訓練の充実、就労の機会の確保／災害時の救出・救護体制の整備 24.4	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 23.0	
50歳代 n=157	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 28.7	職業訓練の充実、就労の機会の確保／相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 28.0	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 26.8	災害時の救出・救護体制の整備 26.1	
60歳代 n=131	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 34.4	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 30.5	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 25.2	職業訓練の充実、就労の機会の確保／災害時の救出・救護体制の整備 23.7	
70歳代 n=150	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 34.0	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 30.7	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 28.7	災害時の救出・救護体制の整備 26.7	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実／年金や手当の充実 24.0
80歳代以上 n=123	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 27.6	災害時の救出・救護体制の整備 24.4	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 22.8	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 20.3	ボランティア活動の育成・支援／年金や手当の充実 17.9

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策を年代別にみると、20歳代以下と40歳～50歳代では「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」、30歳代では「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」、60歳代では「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」、70歳代以上では「相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実」が1位となっている。

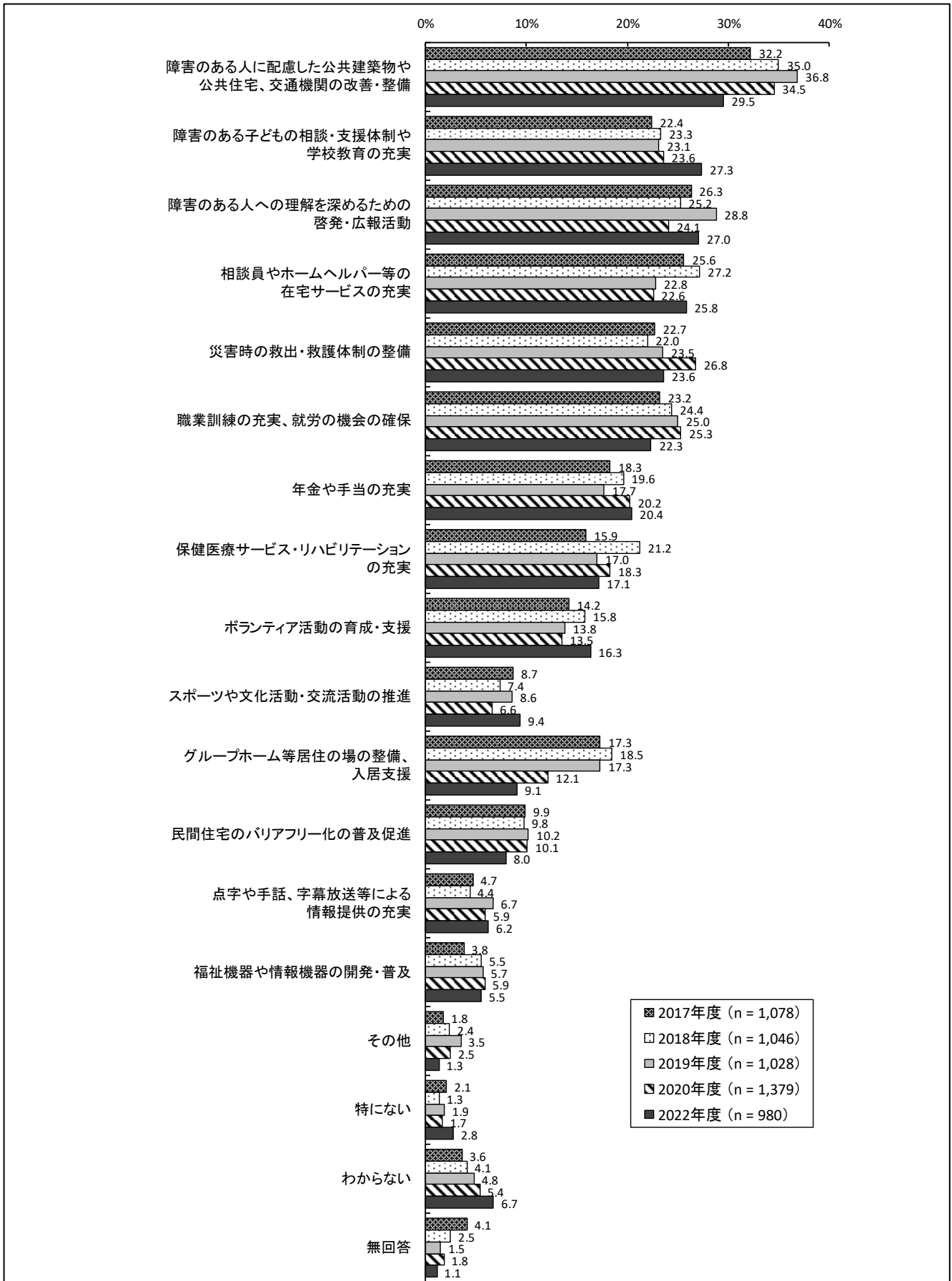
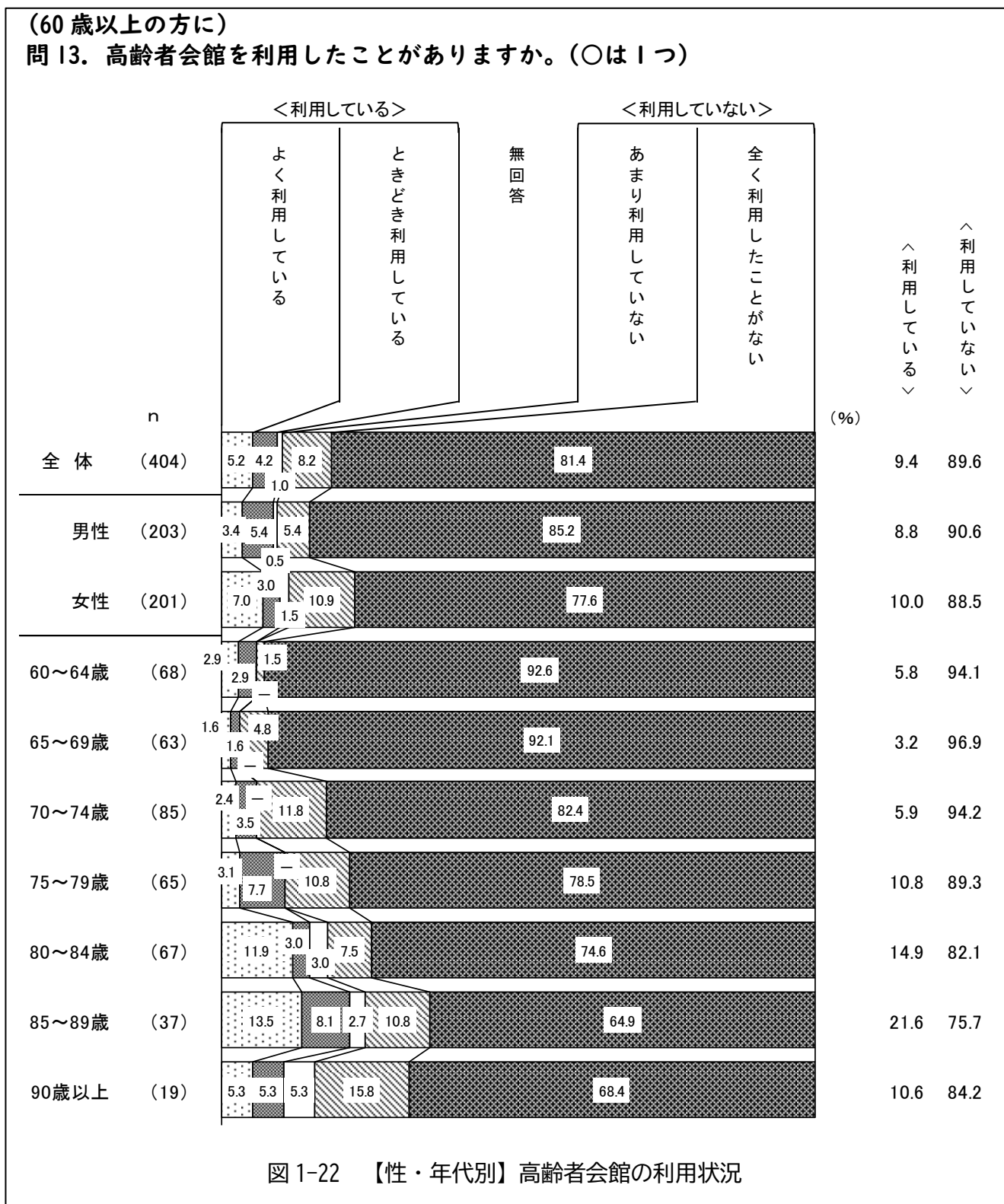


図 1-21 【経年比較】障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

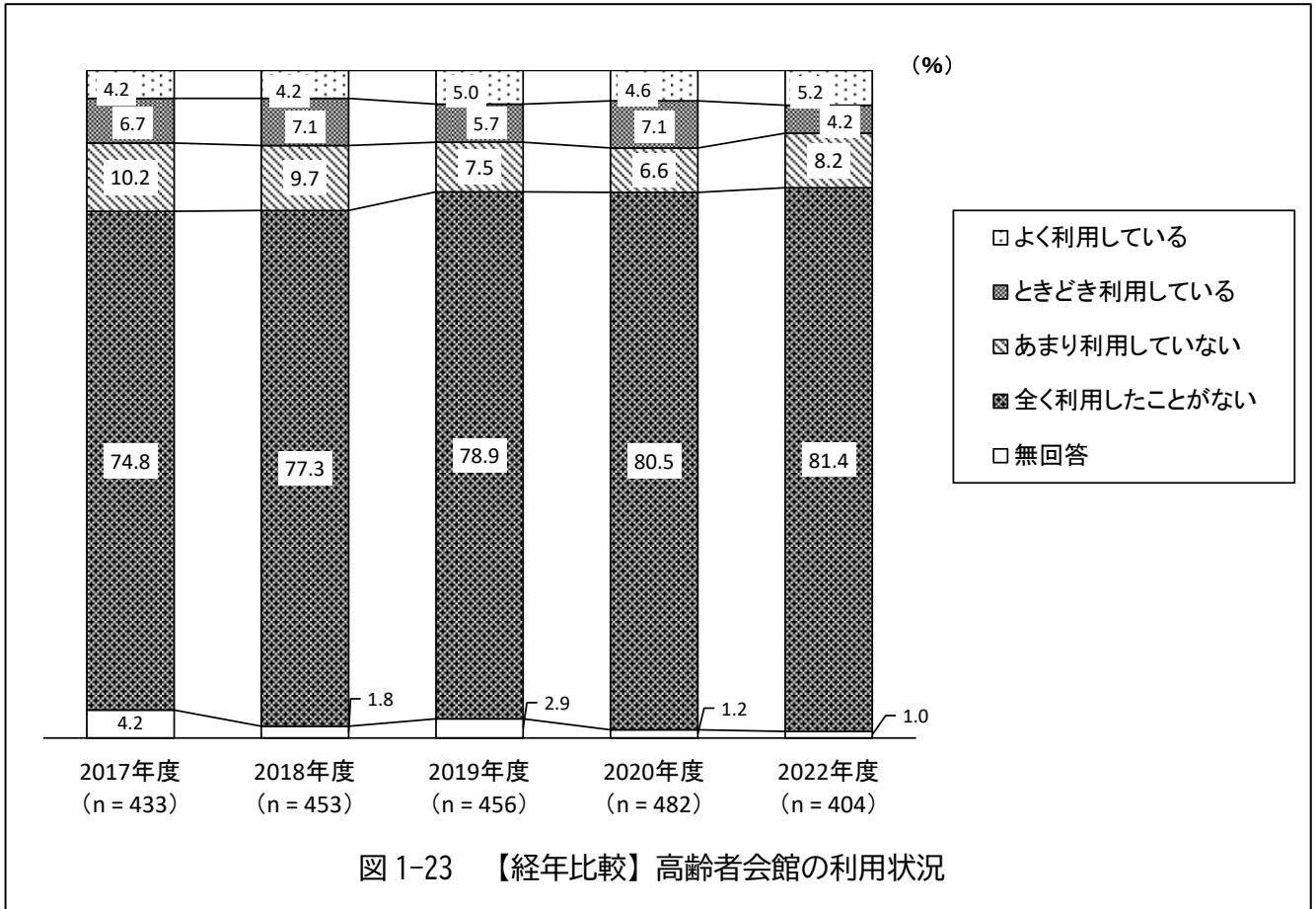
経年で比較すると、「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」が増加している。

1.13. 高齢者会館の利用状況

◆高齢者会館を<利用している>は約1割



60歳以上の方に高齢者会館の利用状況を聞いたところ、「よく利用している」(5.2%)と「ときどき利用している」(4.2%)を合わせた<利用している>は9.4%となっている。性別では、「全く利用したことがない」は男性(85.2%)が女性(77.6%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、80歳代で<利用している>が1割台半ばから約2割と高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

1.13.1. 高齢者会館を利用していない理由

◆高齢者会館を利用していない理由は「行く必要を感じないから」が約6割

(問13で「3.あまり利用していない」「4.全く利用したことがない」に○をつけた方に)  
問13-1. 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

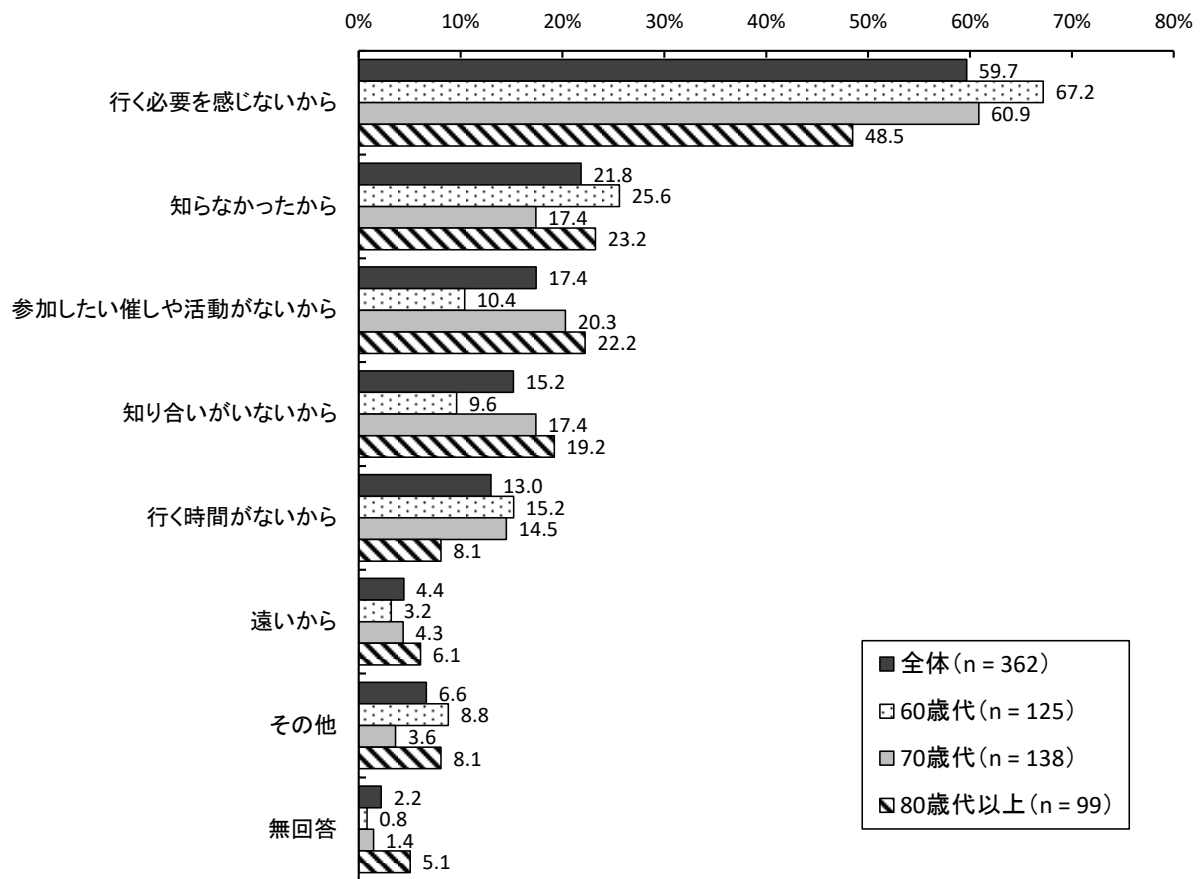


図1-24 【年代別】高齢者会館を利用していない理由

高齢者会館を利用していない方にその理由を聞いたところ、「行く必要を感じないから」が59.7%で最も高く、次いで「知らなかったから」(21.8%)、「参加したい催しや活動がないから」(17.4%)となっている。年代別にみると、いずれの年代でも「行く必要を感じないから」が最も高く、特に60歳代で6割台後半となっている。

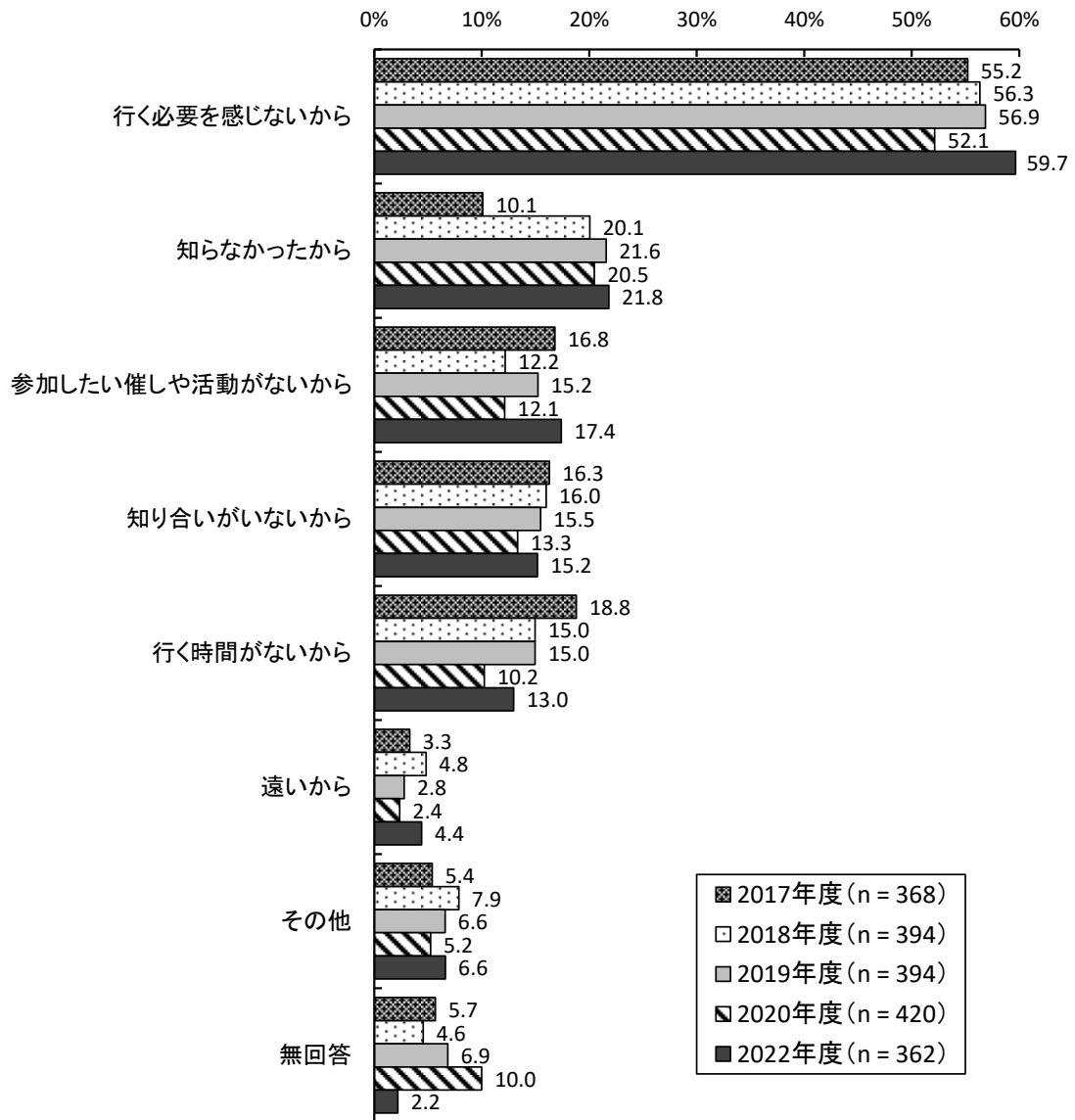


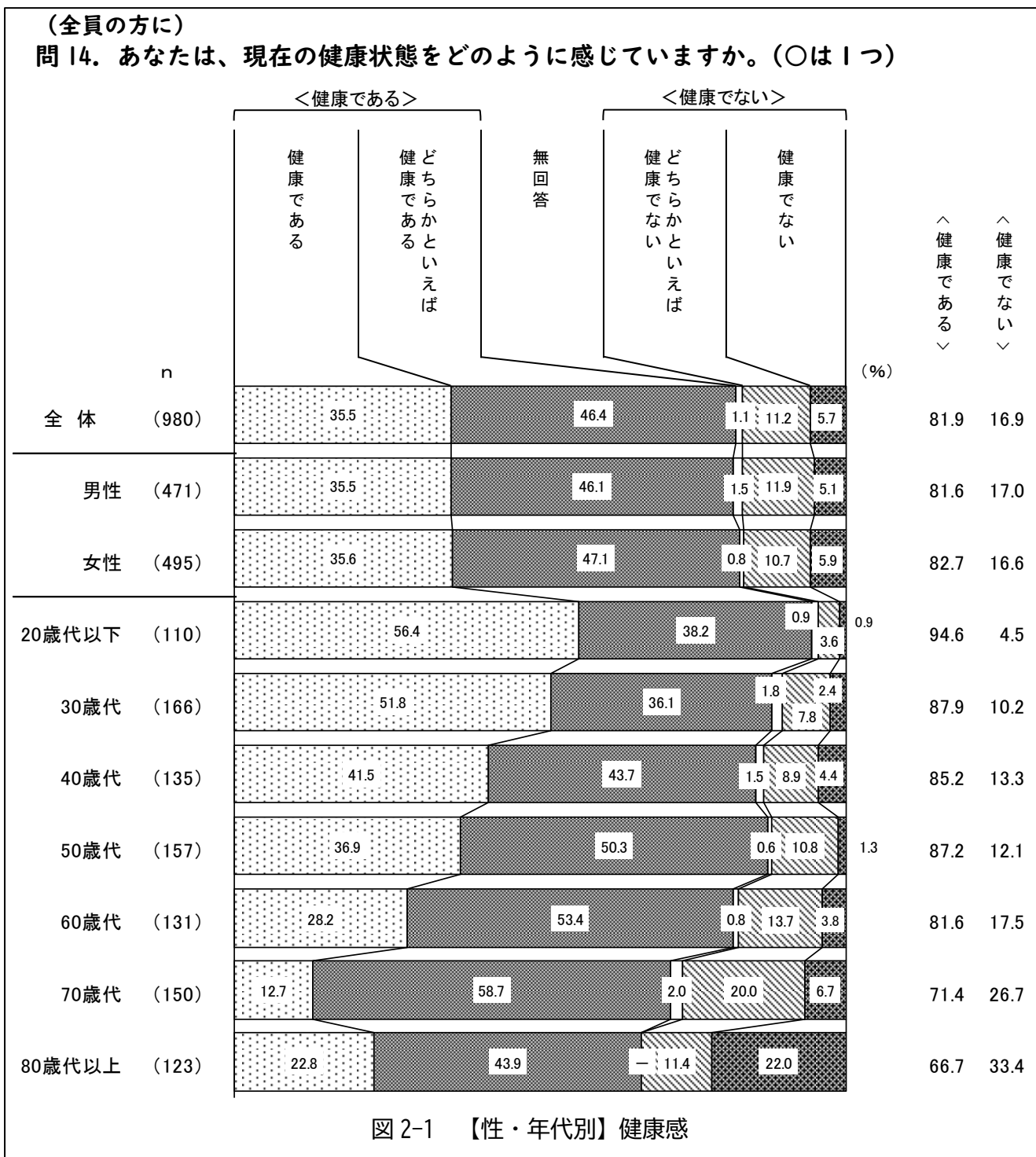
図 1-25 【経年比較】高齢者会館を利用していない理由

経年で比較すると、「行く必要を感じないから」は5割台前半から約6割で推移している。

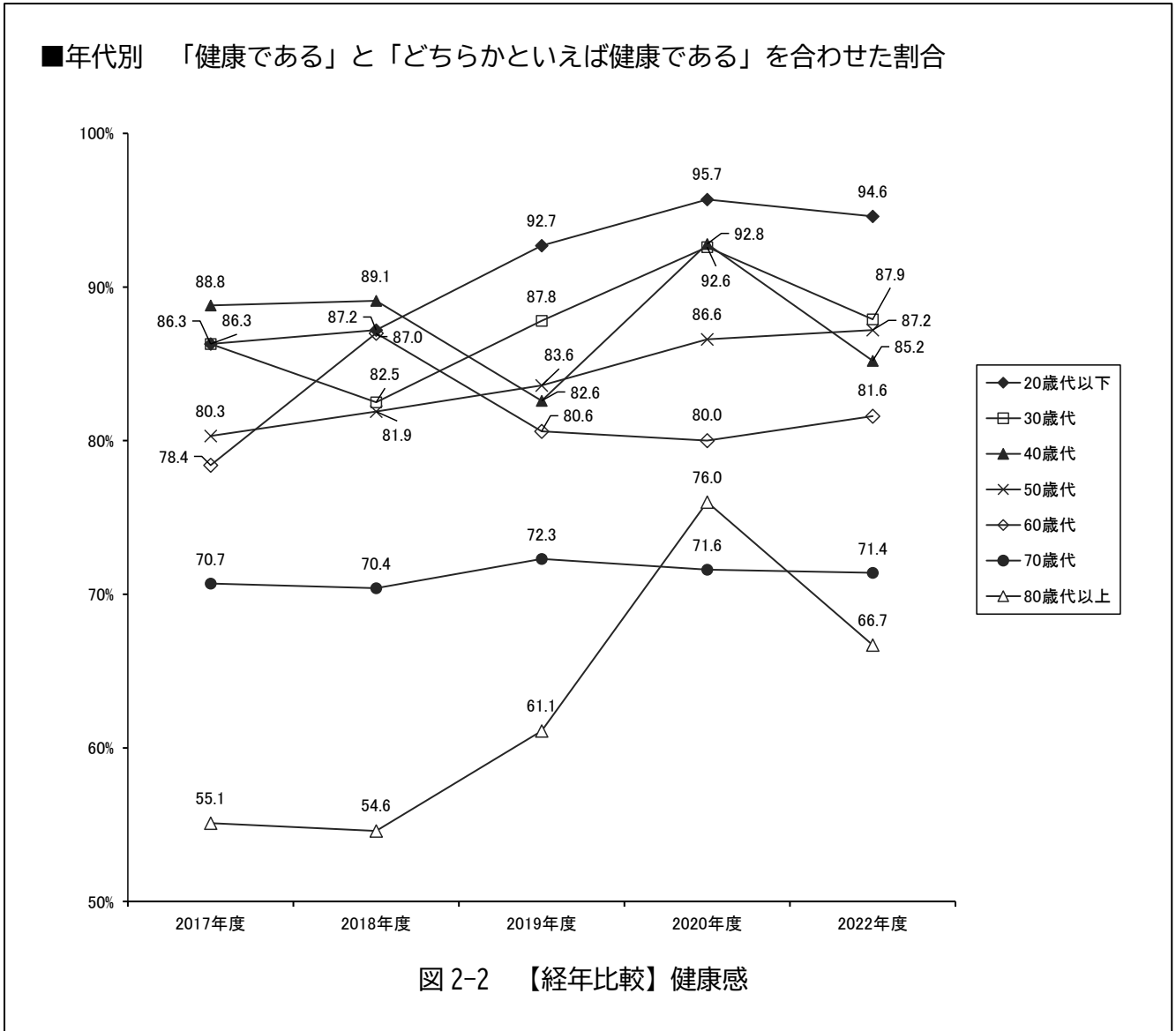
## 2. 医療・健康について

### 2.1. 健康感

◆<健康である>と感じる人の割合は年代が上がるにつれ減少傾向



現在の健康状態をどのように感じているかについては、「健康である」(35.5%)と「どちらかといえば健康である」(46.4%)を合わせた<健康である>で81.9%となっている。年代別にみると、<健康である>は50歳代を除き、年代が上がるほど減少している。

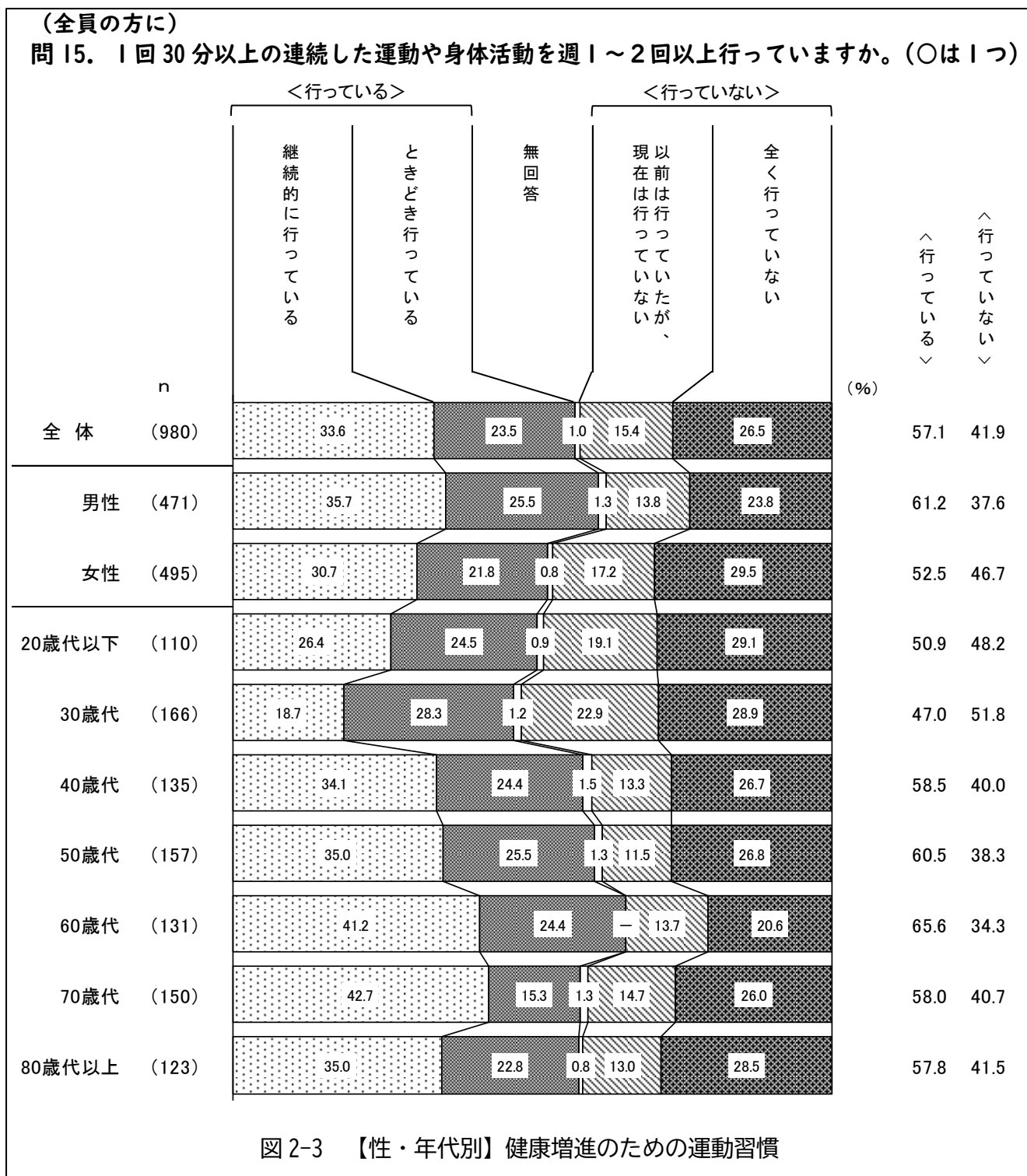


経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた割合が、50歳～60歳代を除く年代で減少しており、特に80歳代以上で大きく減少している。

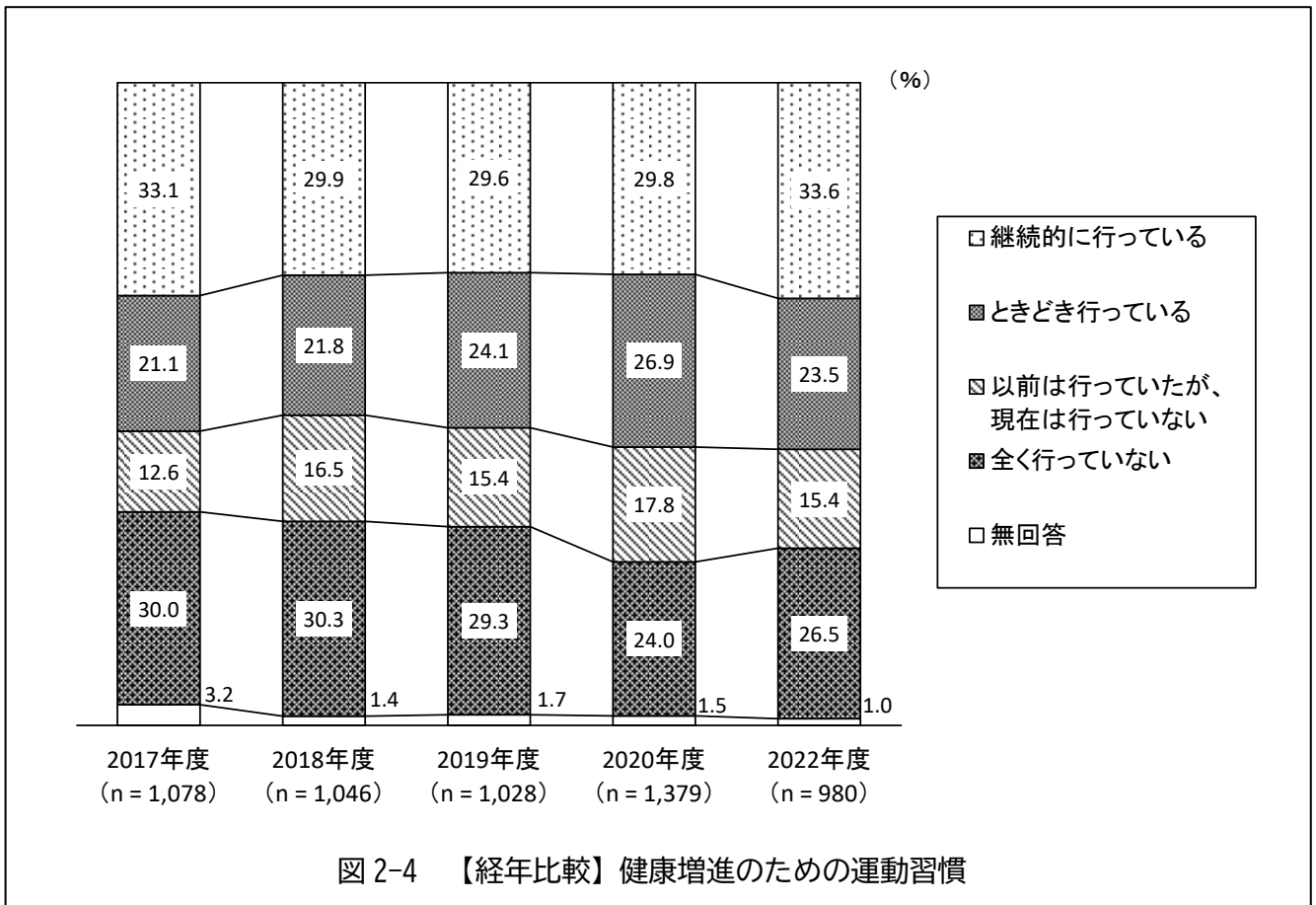


2.2. 健康増進のための運動習慣

◆ 1回30分以上の運動を週に1～2回以上<行っている>割合は5割台後半



1回30分以上の連続した運動や身体活動を週に1～2回以上行っているかについては、「継続的に  
行っている」(33.6%)と「ときどき行っている」(23.5%)を合わせた<行っている>で57.1%となっ  
ている。性別にみると、<行っている>は男性(61.2%)が女性(52.5%)を約9ポイント上回っている。  
年代別にみると、<行っている>は60歳代(65.6%)で最も高くなっている。



経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ「継続的に行っている」が約4ポイント増加している。

2.2.1. 運動・スポーツを続けている期間

◆運動・スポーツを1年以上継続している人が6割台後半

(問15で「1.継続的に行っている」「2.ときどき行っている」に○をつけた方に)  
 問15-1. あなたは、運動・スポーツを1年以上続けていますか。(○は1つ)

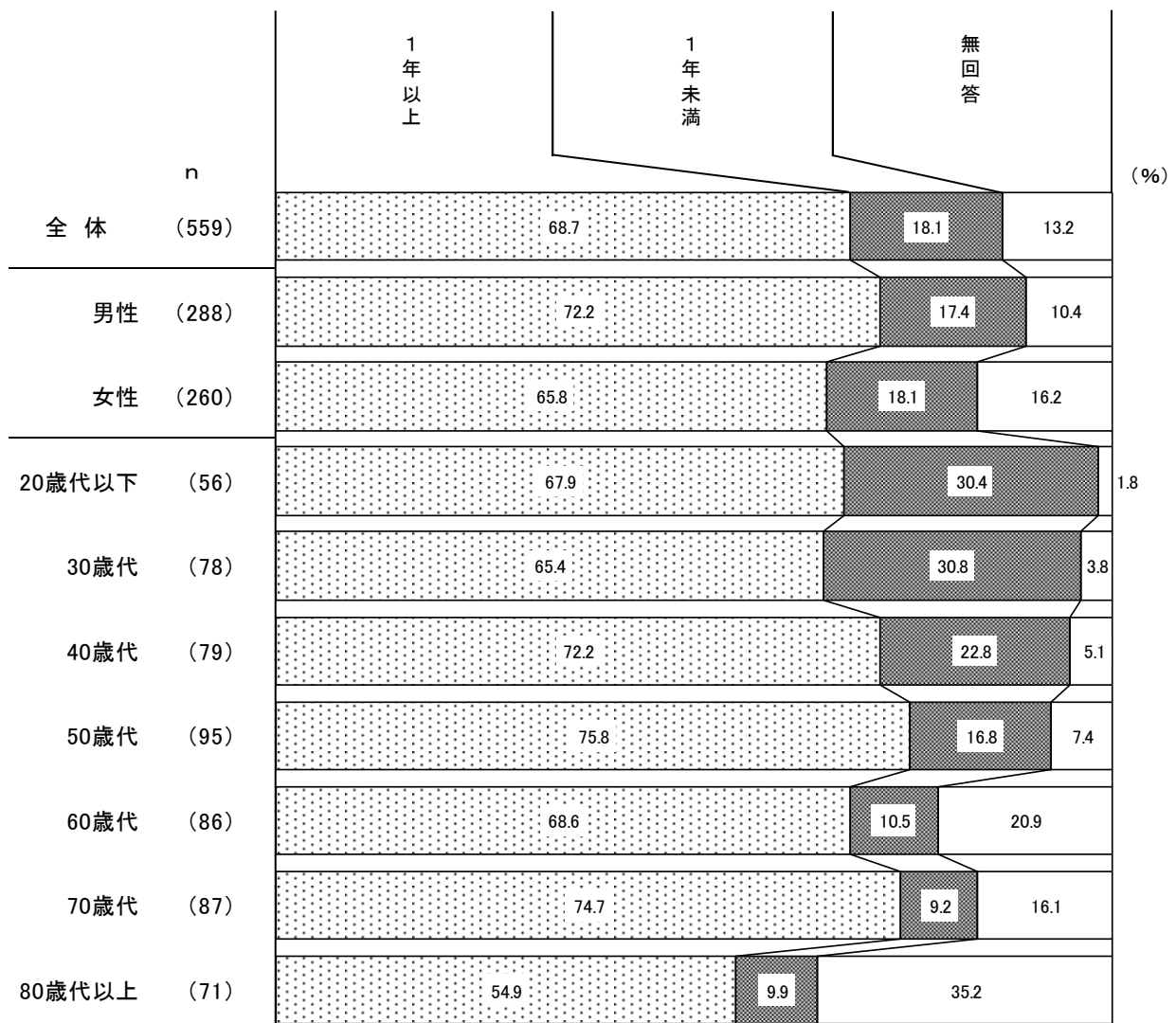
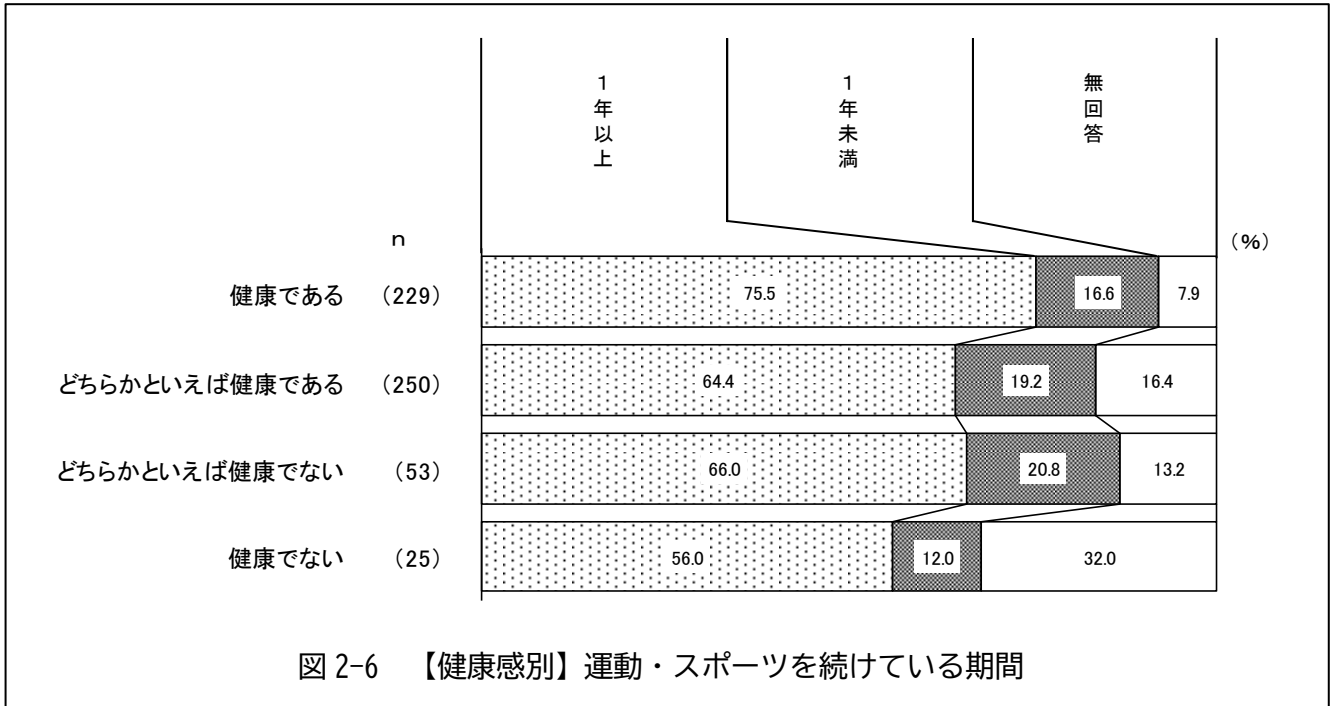


図2-5 【性・年代別】運動・スポーツを続けている期間

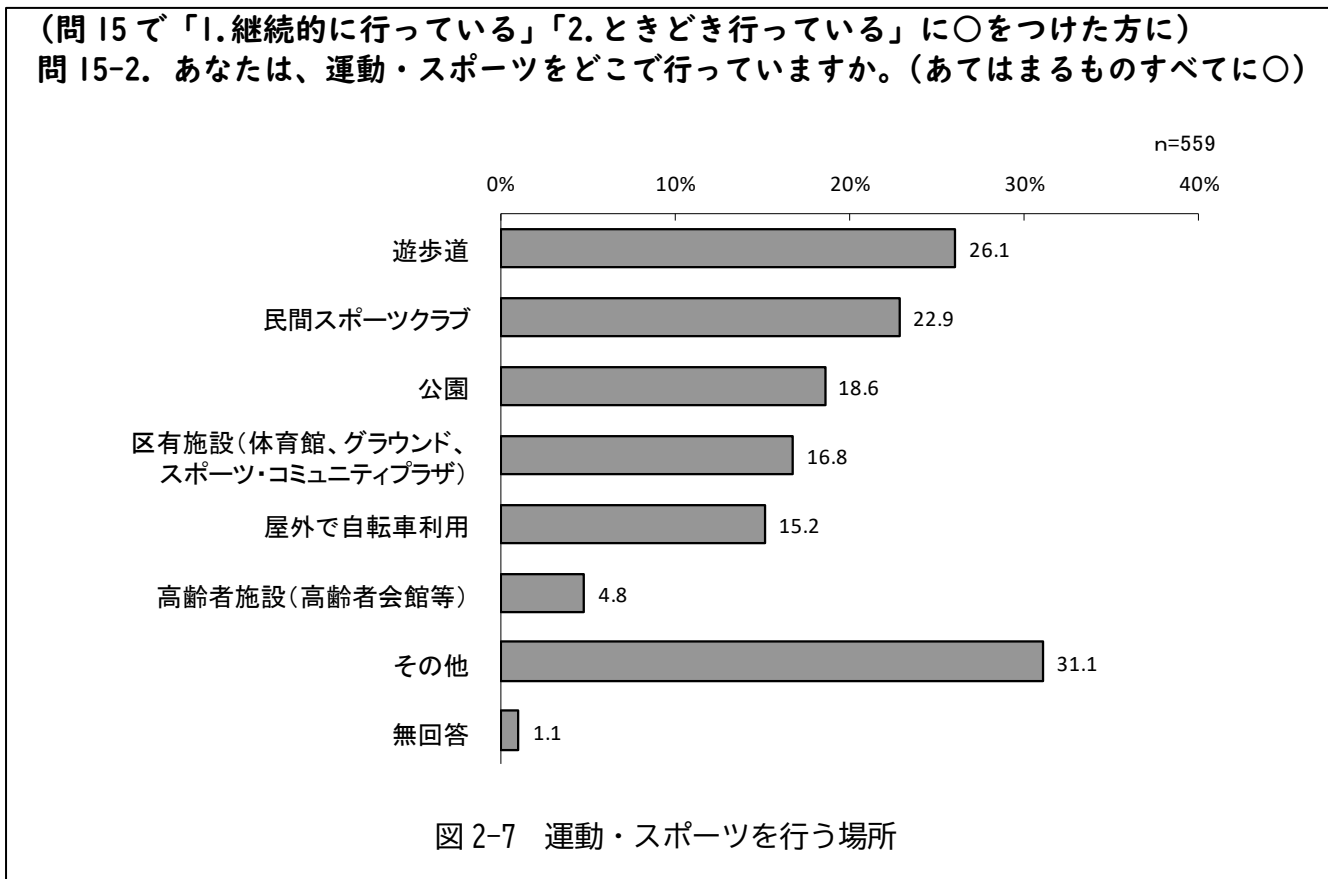
運動・スポーツを1年以上継続しているかについては、「1年以上」が68.7%、「1年未満」が18.1%となっている。性別にみると、「1年以上」は男性（72.2%）が女性（65.8%）を約6ポイント上回っている。年代別にみると、80歳代以上で「1年以上」が5割台半ばとなっており、他の年代と比較して低くなっている。



健康感別にみると、「健康である」の方が、「健康でない」人よりも1年以上運動・スポーツを続けている割合が高い。

2.2.2. 運動・スポーツを行う場所

◆運動・スポーツを行う場所は「遊歩道」が約3割



運動・スポーツを行う場所としては、「遊歩道」が26.1%で最も高く、次いで「民間スポーツクラブ」(22.9%)、「公園」(18.6%)となっている。

「その他」(31.1%)としては「自宅」、「職場・通勤」、「道路・ウォーキング」、「登山・山」などがあがっている。

表 2-1 【健康感別】運動・スポーツを行う場所

単位：%

区分	有効回答数(件)	公園	遊歩道	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)	高齢者施設(高齢者会館等)	民間スポーツクラブ	屋外で自転車利用	その他	無回答
全体	559	18.6	26.1	16.8	4.8	22.9	15.2	31.1	1.1
健康である	229	20.1	27.5	18.8	0.9	29.3	15.3	28.4	0.9
どちらかといえば健康である	250	18.4	26.0	16.8	5.6	21.2	17.2	31.2	0.8
どちらかといえば健康でない	53	18.9	22.6	15.1	9.4	13.2	9.4	37.7	—
健康でない	25	8.0	24.0	4.0	24.0	4.0	8.0	40.0	4.0

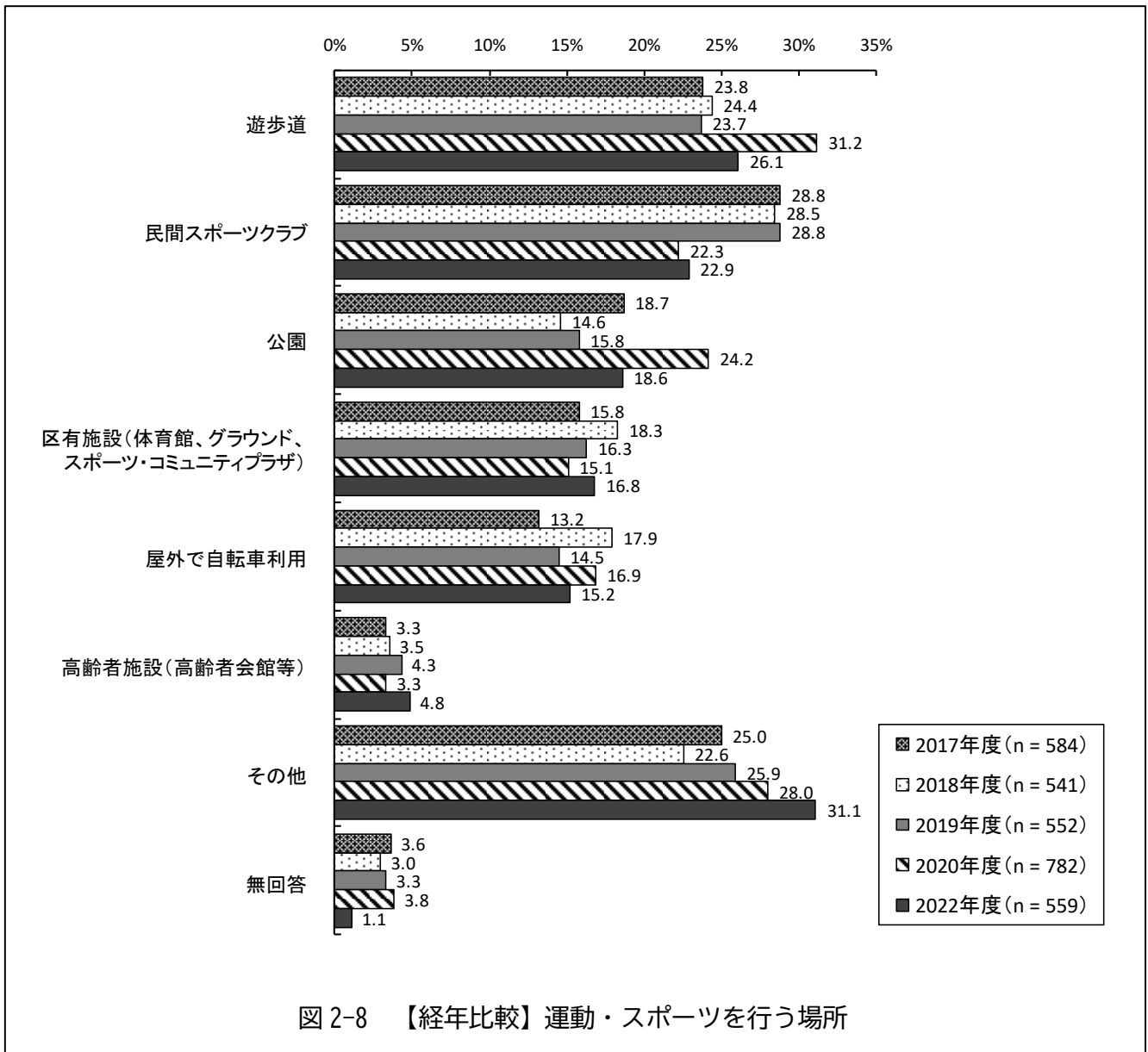
健康感別にみると、健康でないと感じている人よりも健康であると感じているの方が、「民間スポーツクラブ」や「区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)」の割合が高くなっている。

表 2-2 【年代別】上位5項目 運動・スポーツを行う場所

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=56	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 32.1	遊歩道／民間スポーツクラブ 19.6		屋外で自転車利用 17.9	公園 16.1
30歳代 n=78	遊歩道 37.2	民間スポーツクラブ 32.1	屋外で自転車利用 20.5	公園 16.7	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 14.1
40歳代 n=79	民間スポーツクラブ 29.1	公園／遊歩道 27.8		屋外で自転車利用 15.2	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 10.1
50歳代 n=95	民間スポーツクラブ 23.2	遊歩道 22.1	公園 14.7	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 12.6	屋外で自転車利用 11.6
60歳代 n=86	遊歩道 24.4	屋外で自転車利用 22.1	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)／民間スポーツクラブ 20.9		公園 14.0
70歳代 n=87	遊歩道 27.6	公園 21.8	民間スポーツクラブ 19.5	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 16.1	高齢者施設(高齢者会館等) 10.3
80歳代以上 n=71	遊歩道 23.9	公園／高齢者施設(高齢者会館等) 21.1		区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)／民間スポーツクラブ 16.9	

1回 30分以上の連続した運動や身体活動を週に1～2回以上行っている方の運動・スポーツを行う場所を年代別にみると、20歳代では「区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)」、30歳代、60歳代以上では「遊歩道」、40歳～50歳代では「民間スポーツクラブ」が1位となっている。



経年で比較すると、2020 年度に増加した「遊歩道」、「公園」が減少に転じ、「その他」（※主に自宅）が増加している。

2.2.3. 運動・スポーツを行わない理由

◆運動・スポーツを行わない理由は「時間がないから」が2割台後半

(問15で「3.以前は行っていたが、現在は行っていない」「4.全く行っていない」に○をつけた方に)

問15-3. 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

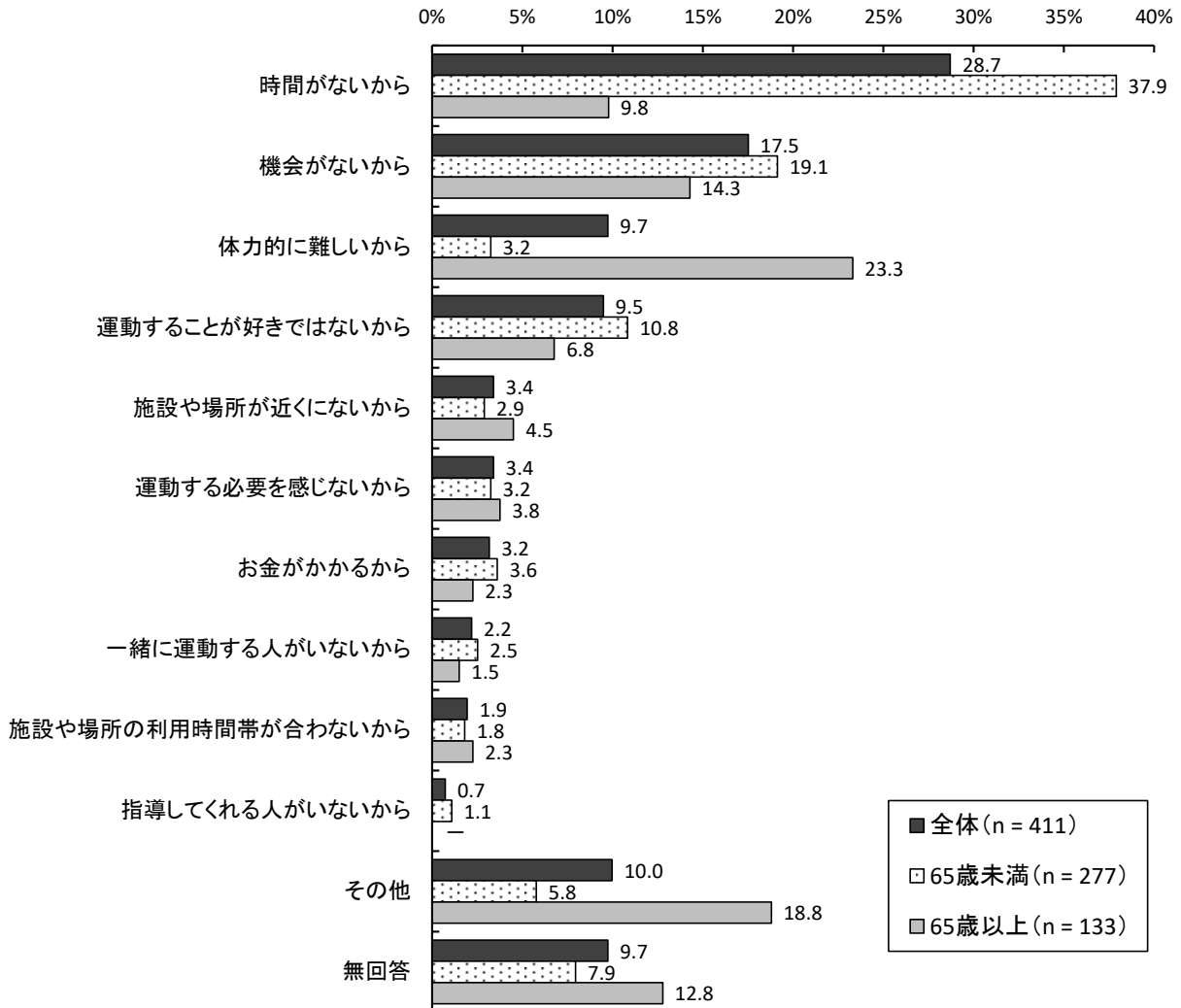


図2-9 【年代別】運動・スポーツを行わない理由

運動・スポーツを行っていない方にその理由を聞いたところ、「時間がないから」が28.7%で最も高く、次いで「機会がないから」(17.5%)、「体力的に難しいから」(9.7%)となっている。「その他」としては、「病気・ケガ・健康上の理由」「新型コロナウイルス感染症の影響」などがあげられている。

年代別にみると、65歳未満では「時間がないから」(37.9%)が最も高くなっているのに対し、65歳以上では「体力的に難しいから」(23.3%)が最も高くなっている。



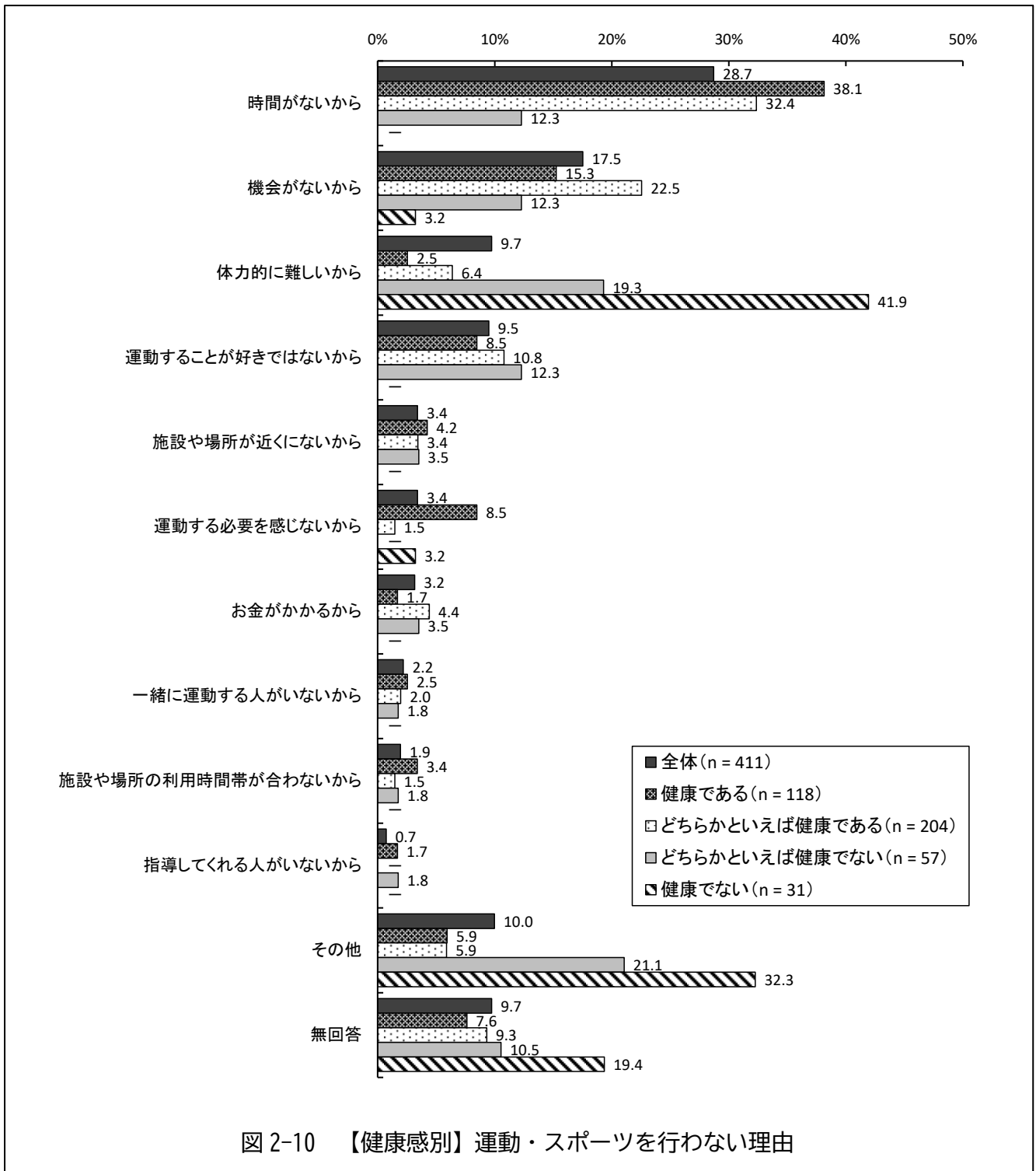


図 2-10 【健康感別】運動・スポーツを行わない理由

健康感別にみると、健康であると感じている人ほど「時間がないから」の割合が高くなっている一方、健康でないと感じている人ほど「体力的に難しいから」の割合が高くなっている。

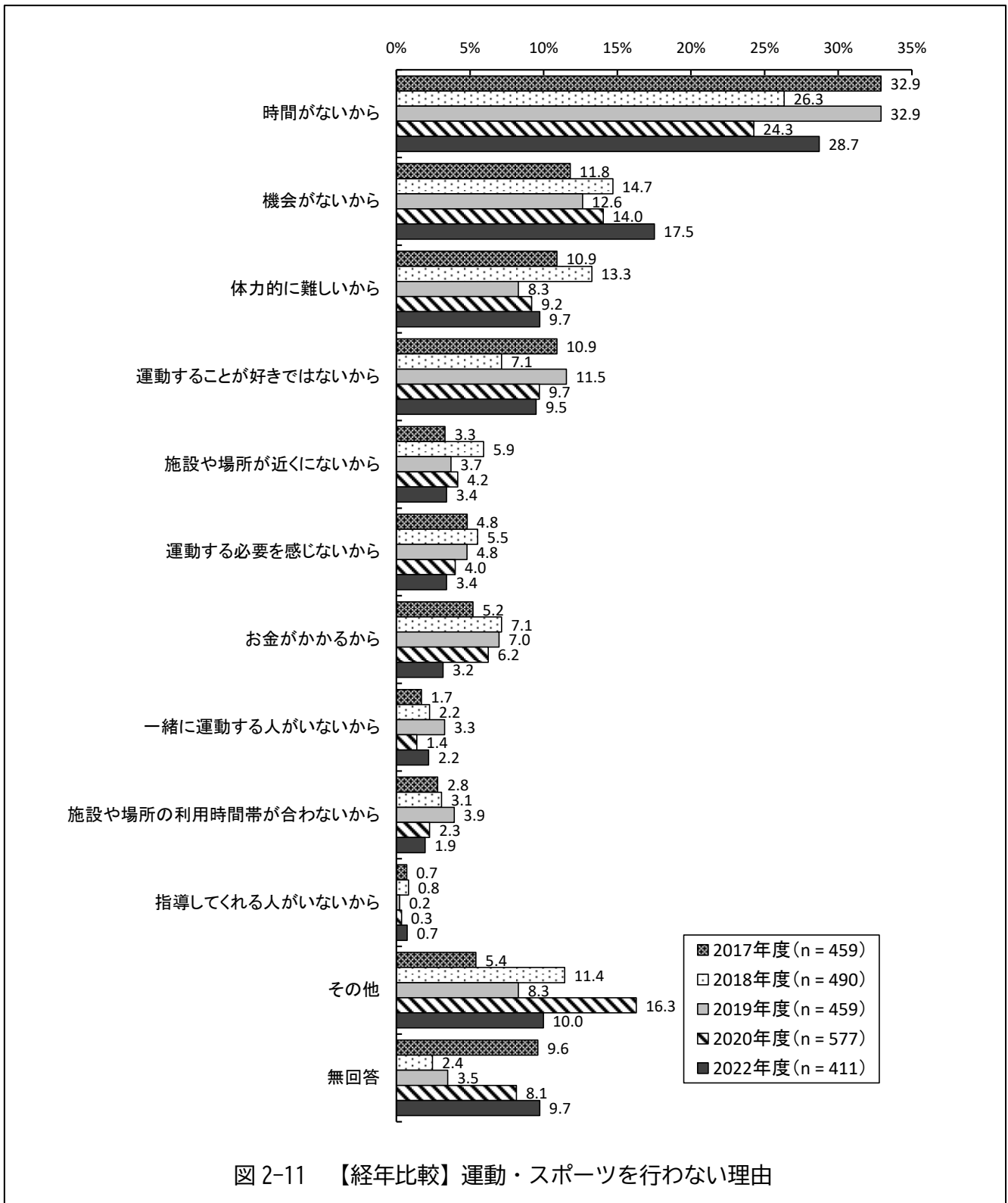


図 2-11 【経年比較】運動・スポーツを行わない理由

経年で比較すると、いずれの年度でも「時間がないから」が1位にあげられており、2022年度は「機会がないから」が微増となっている。

2.3. この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

◆この1年間に観戦したスポーツは「野球」が1割台半ば

(全員の方に)

問16. この1年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

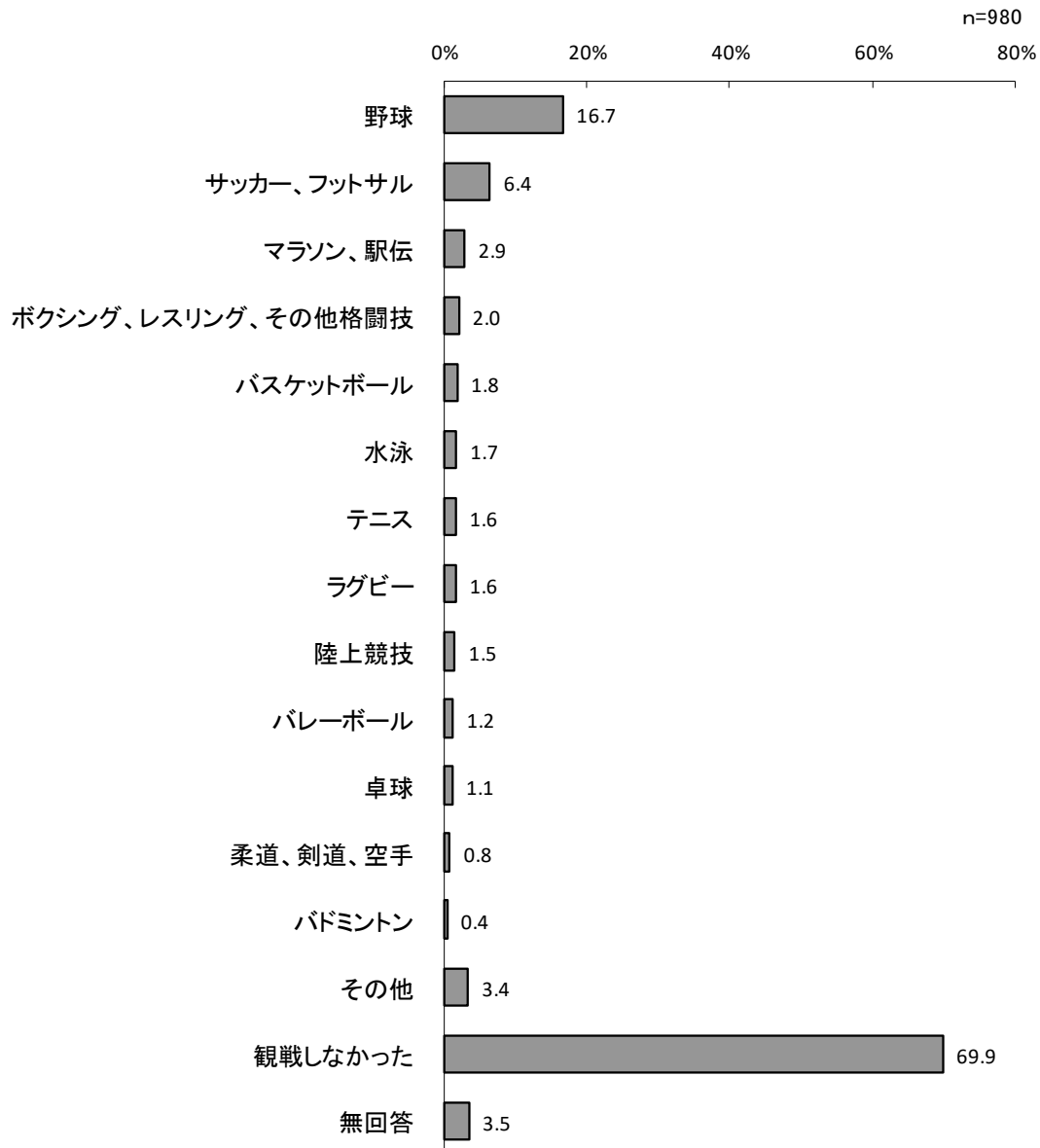


図 2-12 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

実際に観戦したスポーツでは、「野球」が16.7%と最も高くなっており、次いで「サッカー、フットサル」(6.4%)、「マラソン、駅伝」(2.9%)となっている。

表 2-3 【年代別】上位5項目 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	野球 20.9	サッカー、フットサル 15.5	バスケットボール 3.6	バレーボール/テニス/ラグビー/陸上競技/マラソン、駅伝/ボクシング、レスリング、その他格闘技	2.7
30歳代 n=166	野球 20.5	サッカー、フットサル 9.6	バスケットボール 3.0	ボクシング、レスリング、その他格闘技 1.8	ラグビー/陸上競技/水泳 1.2
40歳代 n=135	野球 25.9	サッカー、フットサル 7.4	ボクシング、レスリング、その他格闘技 5.2	マラソン、駅伝 3.7	水泳 3.0
50歳代 n=157	野球 15.9	サッカー、フットサル 6.4	テニス 2.5	マラソン、駅伝 1.9	バスケットボール/水泳 1.3
60歳代 n=131	野球 12.2	サッカー、フットサル/バレーボール/ボクシング、レスリング、その他格闘技		2.3	バスケットボール/テニス 1.5
70歳代 n=150	野球 12.0	マラソン、駅伝 3.3	ラグビー 2.7	サッカー、フットサル/陸上競技	2.0
80歳代以上 n=123	野球 10.6	マラソン、駅伝 9.8	卓球/テニス/水泳		4.9

実際に観戦したスポーツを年代別にみると、全ての年代で「野球」が1位にあげられている。

2.4. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

◆区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むことは、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が2割台半ば

（全員の方に）

問 17. あなたは、区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設について、何か望むことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

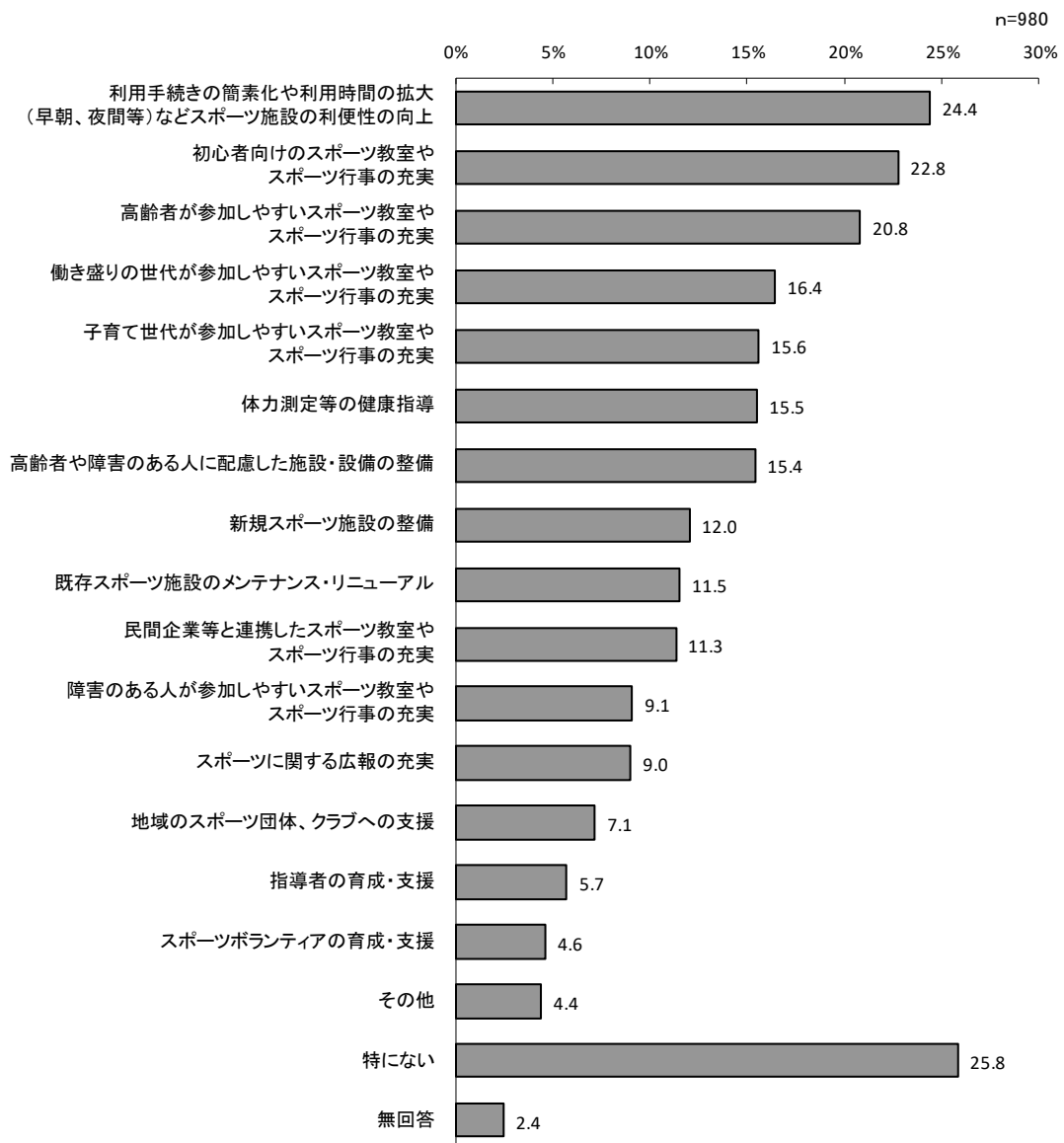


図 2-13 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこととしては、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が24.4%で最も高く、次いで「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（22.8%）、「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（20.8%）、「働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（16.4%）となっている。

表 2-4 【年代別】上位5項目 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実／新規スポーツ施設の整備 21.8		利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 20.9	子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 16.4	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 15.5
30歳代 n=166	子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実／利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 34.9		働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 27.7	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実／新規スポーツ施設の整備	18.7
40歳代 n=135	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 36.3	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 34.8	子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 25.9	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 24.4	民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実 19.3
50歳代 n=157	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 33.8	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 28.7	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 23.6	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 17.2	民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実 16.6
60歳代 n=131	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 35.1	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 25.2	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 22.9	体力測定等の健康指導 20.6	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 19.1
70歳代 n=150	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 35.3	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実／体力測定等の健康指導	16.7	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 16.0	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 14.7
80歳代以上 n=123	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 35.8	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 29.3	体力測定等の健康指導 21.1	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 10.6	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上／スポーツに関する広報の充実 8.9

年代別にみると、20歳代では「働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「新規スポーツ施設の整備」、30歳代では「子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」、30歳～40歳代では「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上」、60歳代以上では「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」が1位となっている。

表 2-5 【健康感別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと

単位：％

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	高齢者が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	子育て世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	働き盛りの世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	民間企業等と連携したスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	体力測定等の健康指導	地域のスーポーツ団体、クラブへの支援	指導者の育成・支援
全体	980	22.8	9.1	20.8	15.6	16.4	11.3	15.5	7.1	5.7
健康である	348	21.6	9.5	16.1	22.7	20.4	14.1	11.5	7.8	6.9
どちらかといえば健康である	455	24.2	7.7	23.5	12.3	17.1	11.9	18.2	8.1	6.2
どちらかといえば健康でない	110	25.5	12.7	24.5	12.7	7.3	6.4	18.2	3.6	2.7
健康でない	56	14.3	12.5	23.2	1.8	3.6	1.8	12.5	3.6	1.8

区分	スーポーツボランティアの育成・支援	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスーポーツ施設の利便性の向上	スーポーツに関する広報の充実	新規スーポーツ施設の整備	既存スーポーツ施設のメンテナンス・リニューアル	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	その他	特にない	無回答
全体	4.6	24.4	9.0	12.0	11.5	15.4	4.4	25.8	2.4
健康である	4.9	28.4	7.5	18.1	15.2	12.6	3.4	22.7	—
どちらかといえば健康である	4.6	26.4	11.0	10.5	12.1	15.2	4.8	25.7	2.4
どちらかといえば健康でない	2.7	12.7	7.3	4.5	2.7	19.1	2.7	30.9	3.6
健康でない	7.1	8.9	7.1	3.6	3.6	28.6	8.9	41.1	3.6

健康感別にみると、健康である、どちらかといえば健康であると感じている人は、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスーポーツ施設の利便性の向上」の割合が高くなっており、どちらかといえば健康でない、健康でないと感じている人は「特にない」の割合が高くなっている。

表 2-6 【居住地域別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと

単位：％

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいの充実	高齢者が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	子育て世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	働き盛りの世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	民間企業等と連携したスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	体力測定等の健康指導	地域のスーポーツ団体、クラブへの支援	指導者の育成・支援
全体	980	22.8	9.1	20.8	15.6	16.4	11.3	15.5	7.1	5.7
南台	66	28.8	7.6	27.3	12.1	16.7	9.1	21.2	10.6	3.0
弥生町	84	22.6	7.1	21.4	19.0	19.0	7.1	14.3	6.0	8.3
本町	71	18.3	7.0	21.1	14.1	18.3	15.5	14.1	4.2	1.4
中央	78	25.6	5.1	15.4	11.5	20.5	7.7	7.7	6.4	7.7
東中野	72	22.2	9.7	16.7	13.9	16.7	12.5	9.7	6.9	5.6
中野	95	29.5	11.6	20.0	16.8	20.0	12.6	14.7	10.5	5.3
上高田	51	25.5	15.7	27.5	21.6	17.6	9.8	15.7	5.9	9.8
新井	49	26.5	12.2	18.4	14.3	12.2	12.2	6.1	8.2	4.1
沼袋	34	32.4	14.7	23.5	26.5	14.7	11.8	32.4	2.9	8.8
松が丘	20	10.0	15.0	20.0	20.0	10.0	5.0	20.0	20.0	5.0
江原町	22	22.7	9.1	22.7	13.6	18.2	9.1	9.1	4.5	9.1
江古田	28	17.9	3.6	10.7	7.1	25.0	3.6	17.9	10.7	10.7
丸山	16	31.3	12.5	31.3	18.8	18.8	12.5	12.5	12.5	6.3
野方	54	16.7	5.6	20.4	7.4	3.7	11.1	24.1	3.7	3.7
大和町	50	32.0	6.0	24.0	10.0	16.0	14.0	18.0	8.0	4.0
若宮	34	11.8	8.8	17.6	14.7	8.8	8.8	2.9	2.9	5.9
白鷺	36	16.7	5.6	27.8	16.7	13.9	11.1	19.4	8.3	8.3
鷺宮	58	17.2	8.6	20.7	15.5	19.0	12.1	13.8	3.4	5.2
上鷺宮	57	12.3	12.3	14.0	26.3	15.8	21.1	24.6	8.8	3.5

居住地域別にみると、全体で上位にあげられたもの以外では、沼袋で「体力測定等の健康指導」、江原町で「新規スーポーツ施設の整備」、上鷺宮で「子育て世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実」などの割合が高くなっている。



表 2-6 【居住地域別】 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと（続き）

単位：％

区分	支援 スポーツ ボランティア の育成・	の 拡 大 （ 早 朝 、 夜 間 等 ） の 利 便 性 の 向 上	利用 手 続 き の 簡 素 化 や 利 用 時 間	ス ポ ー ツ に 関 す る 広 報 の 充 実	新 規 ス ポ ー ツ 施 設 の 整 備	既 存 ス ポ ー ツ 施 設 の メン テ ナ ン ス ・ リ ニ ュ ー ア ル	高 齢 者 や 障 害 の あ る 人 に 配 慮 し た 施 設 ・ 設 備 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	4.6	24.4	9.0	12.0	11.5	15.4	4.4	25.8	2.4	
南台	7.6	28.8	9.1	9.1	12.1	15.2	1.5	19.7	—	
弥生町	3.6	25.0	6.0	8.3	10.7	9.5	2.4	28.6	3.6	
本町	5.6	35.2	8.5	18.3	18.3	21.1	9.9	19.7	1.4	
中央	5.1	14.1	7.7	14.1	11.5	10.3	6.4	30.8	5.1	
東中野	4.2	29.2	11.1	12.5	9.7	16.7	5.6	20.8	5.6	
中野	6.3	22.1	11.6	12.6	8.4	13.7	4.2	24.2	2.1	
上高田	2.0	27.5	15.7	5.9	7.8	19.6	3.9	25.5	2.0	
新井	2.0	28.6	10.2	10.2	10.2	12.2	8.2	30.6	—	
沼袋	2.9	26.5	17.6	2.9	11.8	14.7	2.9	11.8	5.9	
松が丘	—	35.0	5.0	10.0	5.0	15.0	5.0	30.0	—	
江原町	9.1	27.3	9.1	36.4	27.3	18.2	9.1	22.7	—	
江古田	10.7	17.9	10.7	10.7	7.1	17.9	—	28.6	7.1	
丸山	12.5	31.3	18.8	25.0	12.5	18.8	—	31.3	—	
野方	1.9	20.4	1.9	13.0	9.3	16.7	1.9	33.3	1.9	
大和町	4.0	28.0	8.0	6.0	8.0	20.0	8.0	26.0	—	
若宮	5.9	17.6	5.9	14.7	5.9	23.5	—	44.1	2.9	
白鷺	2.8	22.2	5.6	16.7	19.4	13.9	—	22.2	2.8	
鷺宮	3.4	15.5	5.2	12.1	20.7	12.1	3.4	27.6	1.7	
上鷺宮	3.5	21.1	10.5	8.8	8.8	15.8	5.3	22.8	1.8	

## 2.5. 東京オリンピック・パラリンピックの効果

### ◆障害者への理解の向上が2割台半ば

(全員の方に)

問 18. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、あなたはどのような効果があったと感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

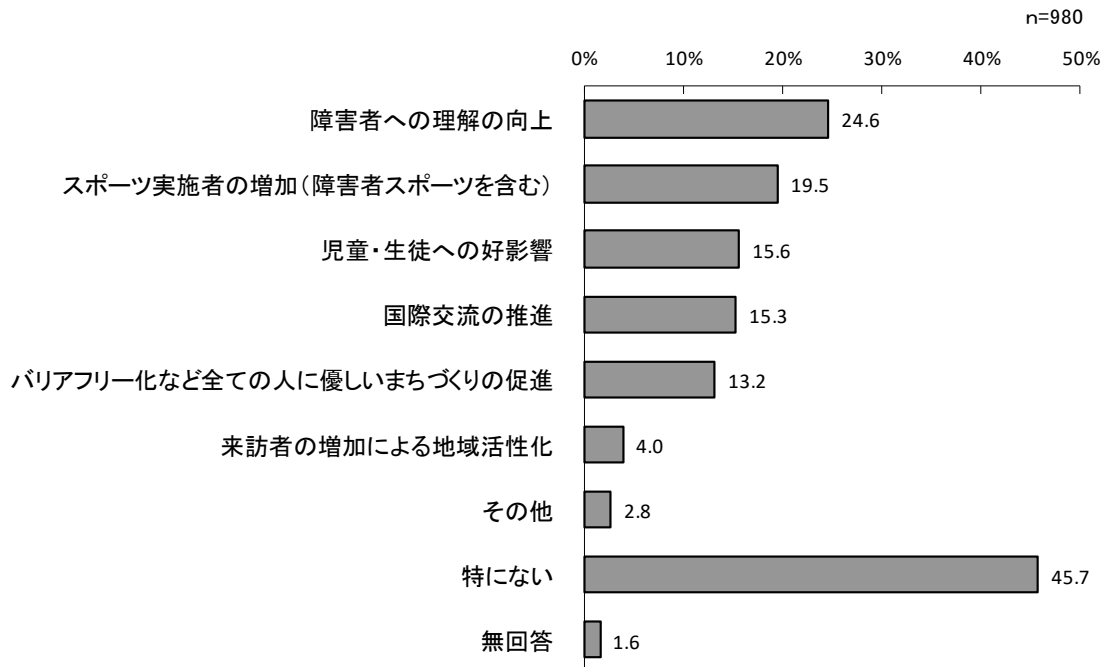


図 2-14 東京オリンピック・パラリンピックの効果

東京オリンピック・パラリンピックの開催による効果では、「特にない」(45.7%)を除き、「障害者への理解の向上」が24.6%で最も高くなっており、次いで「スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む)」(19.5%)、「児童・生徒への好影響」(15.6%)となっている。

表 2-7 【年代別】東京オリンピック・パラリンピックの効果

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 18.2	国際交流の推進 15.5	障害者への理解の向上 12.7	児童・生徒への好影響 10.9	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 10.0
30歳代 n=166	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 19.3	児童・生徒への好影響 13.3	国際交流の推進 12.7	障害者への理解の向上 12.0	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 10.2
40歳代 n=135	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 21.5	障害者への理解の向上 18.5	児童・生徒への好影響 17.0	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 10.4	国際交流の推進 9.6
50歳代 n=157	障害者への理解の向上 23.6	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 20.4	児童・生徒への好影響 13.4	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進／国際交流の推進 12.1	
60歳代 n=131	障害者への理解の向上 30.5	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 18.3	児童・生徒への好影響／国際交流の推進 16.8		バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 14.5
70歳代 n=150	障害者への理解の向上 36.0	児童・生徒への好影響 20.7	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 18.0	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 16.0	国際交流の推進 15.3
80歳代以上 n=123	障害者への理解の向上 39.0	国際交流の推進 27.6	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 23.6	児童・生徒への好影響 17.9	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 17.1

東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果を年代別にみると、20歳～40歳代では「スポーツ実施者の増加（障害者スポーツを含む）」が、50歳代以上では「障害者への理解の向上」が1位となっている。

2.6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

◆「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が5割台前半

(全員の方に)

問19. パラリンピックや障害者スポーツ(ユニバーサルスポーツ)を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

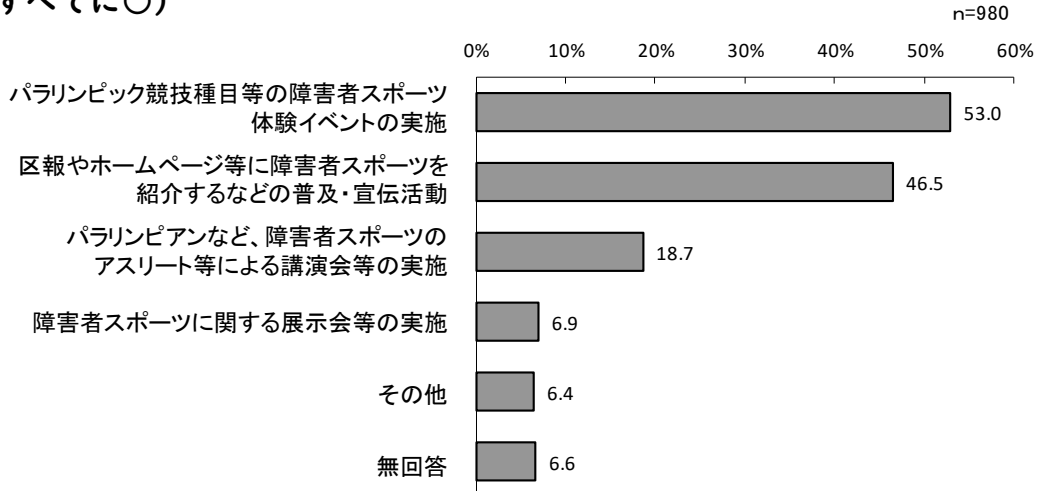


図2-15 パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきことは、「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が53.0%で最も高く、次いで「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」(46.5%)、「パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施」(18.7%)となっている。

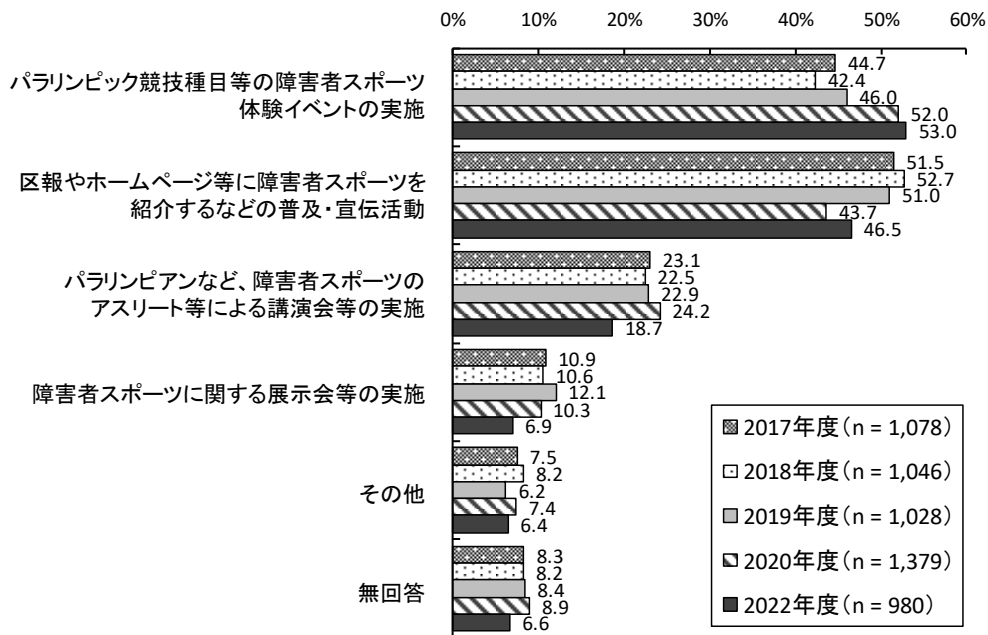


図2-16 【経年比較】パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

経年で比較すると、「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が増加傾向にある。

2.7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

◆「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が1割台半ば

（全員の方に）

問 20. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容がありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

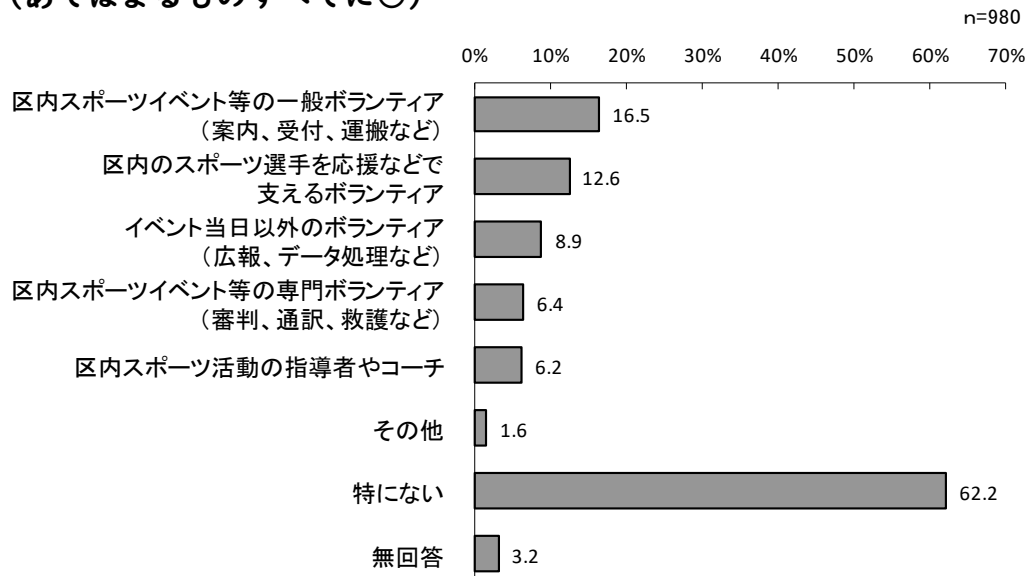
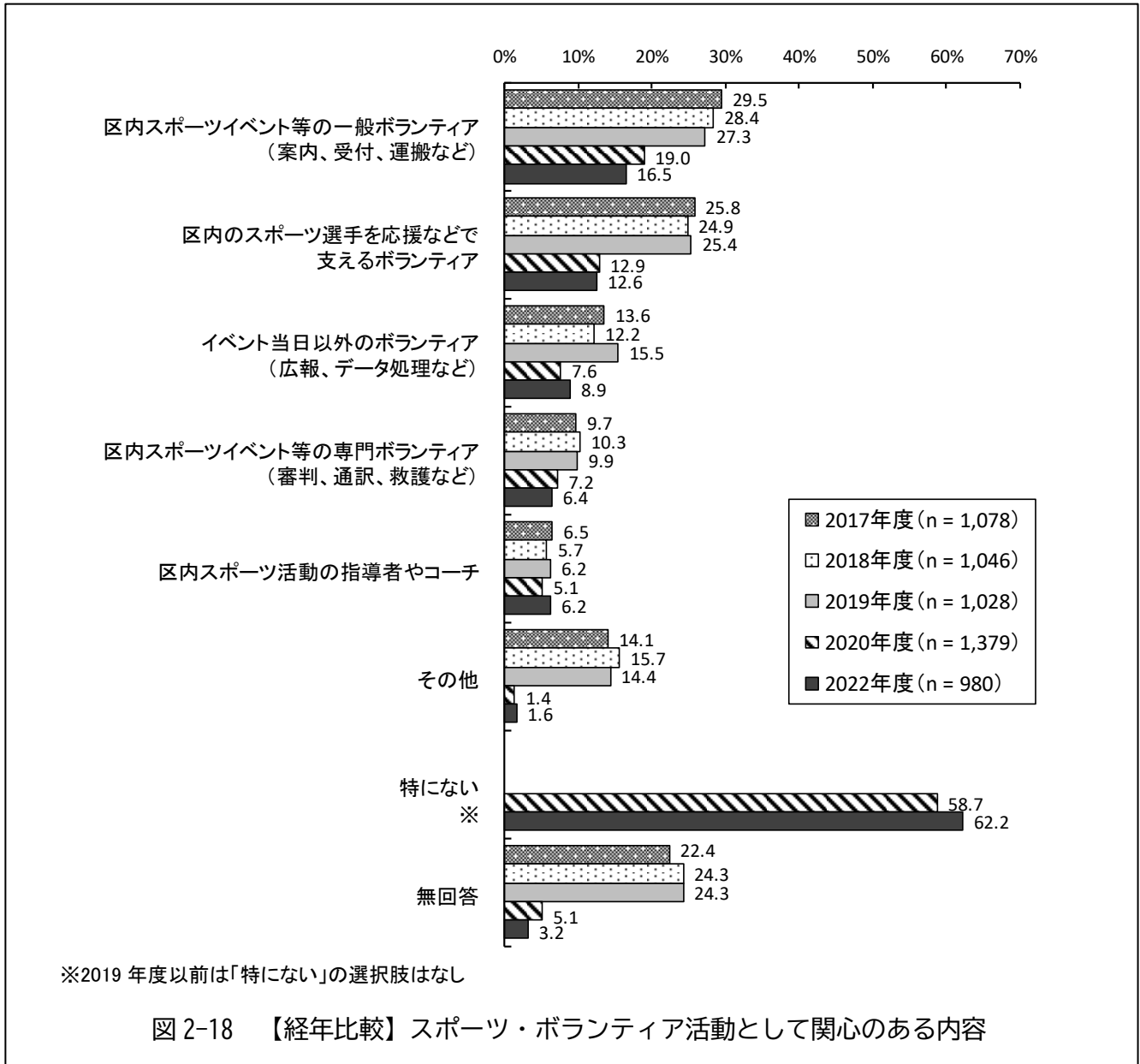


図 2-17 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

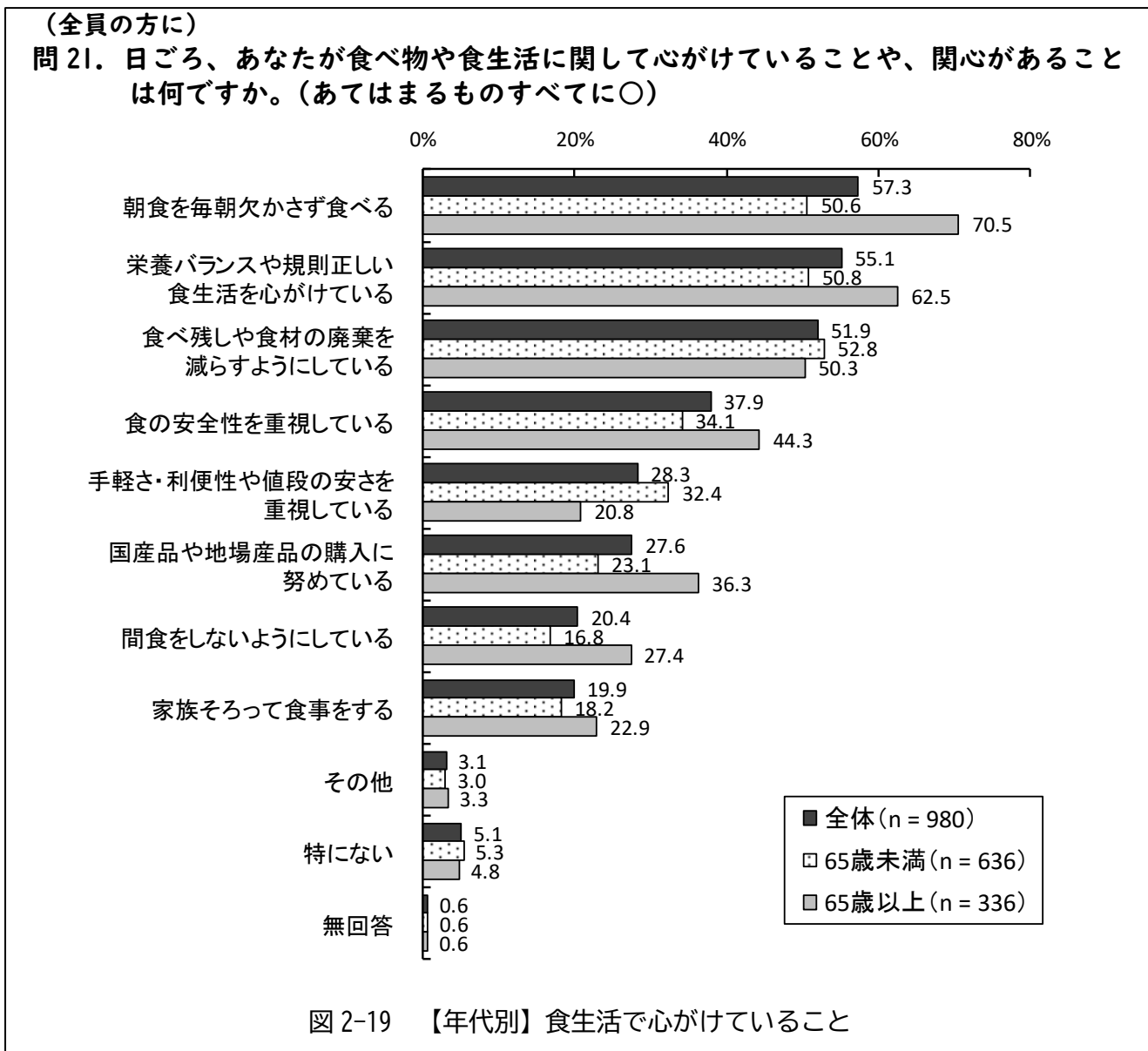
スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容は、「特にない」（62.2%）を除き、「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が16.5%で最も高く、次いで「区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア」（12.6%）、「イベント当日以外のボランティア（広報、データ処理など）」（8.9%）となっている。



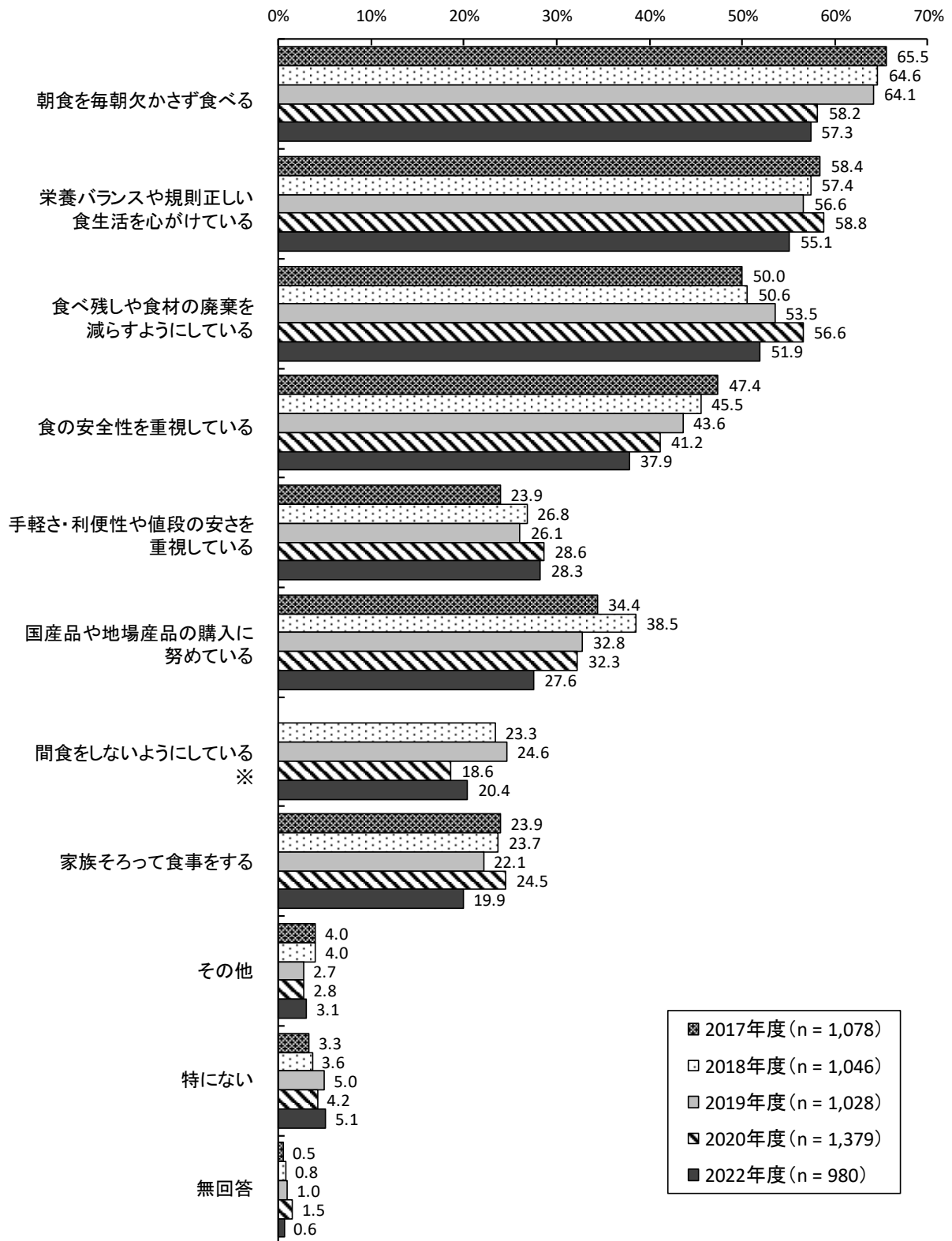
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.8. 食生活で心がけていること

◆食生活で心がけていることは「朝食を毎朝欠かさず食べる」が5割台後半



食べ物や食生活に関して心がけていることや関心があることは、「朝食を毎朝欠かさず食べる」が57.3%で最も高く、次いで「栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている」(55.1%)、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」(51.9%)となっている。年代別にみると、65歳以上の方が65歳未満の方より食べ物や食生活について、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」を除いて関心が高くなっている。



※2017年度は「間食をしないようにしている」の選択肢はない

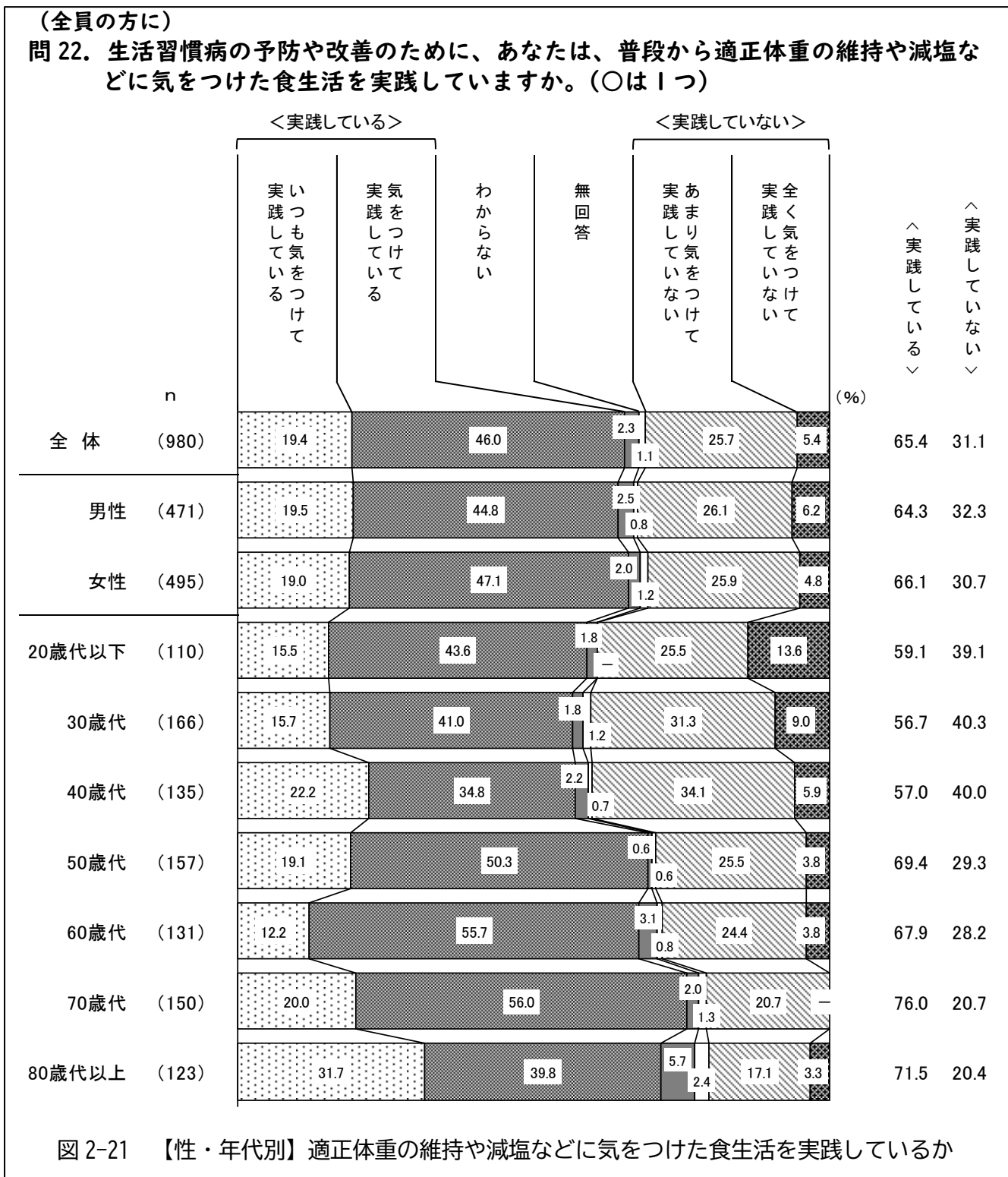
図 2-20 【経年比較】食生活で心がけていること

経年で比較すると、「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」「間食をしないようにしている」を除き、全体的に減少傾向となっている。

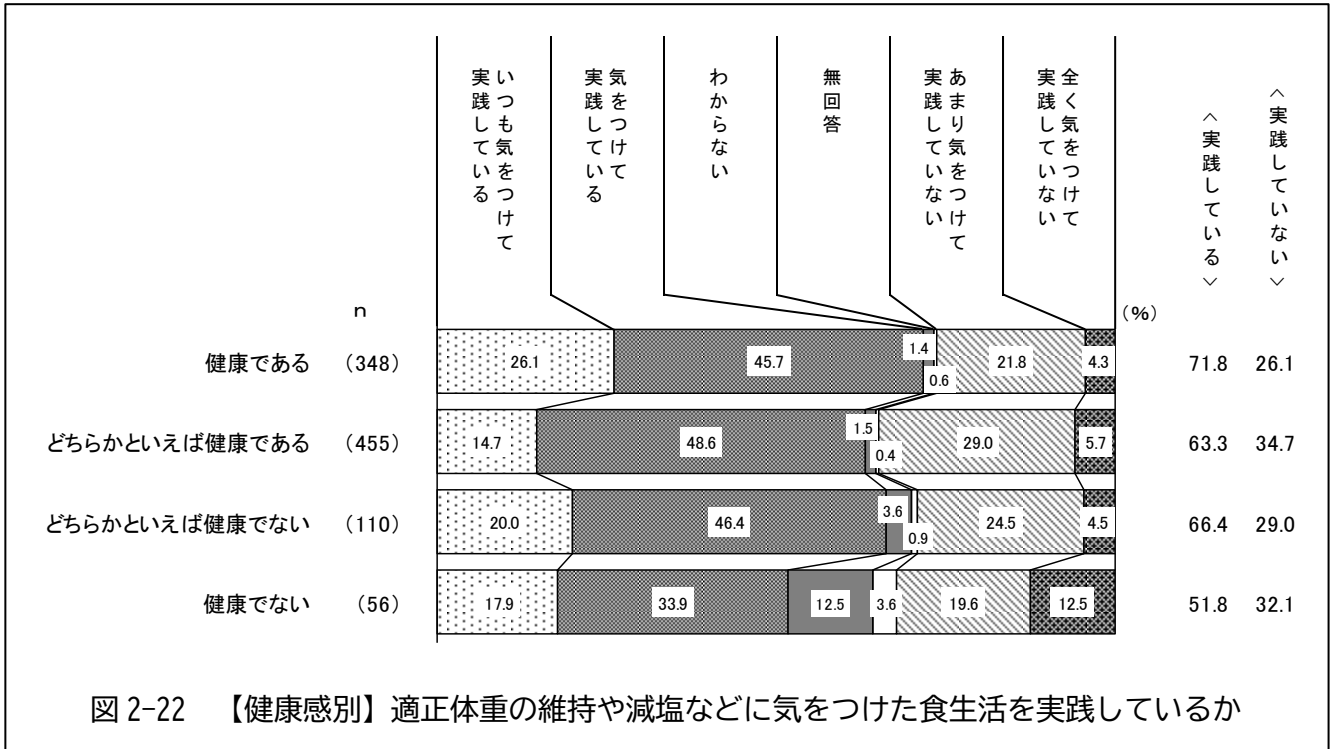


2.9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

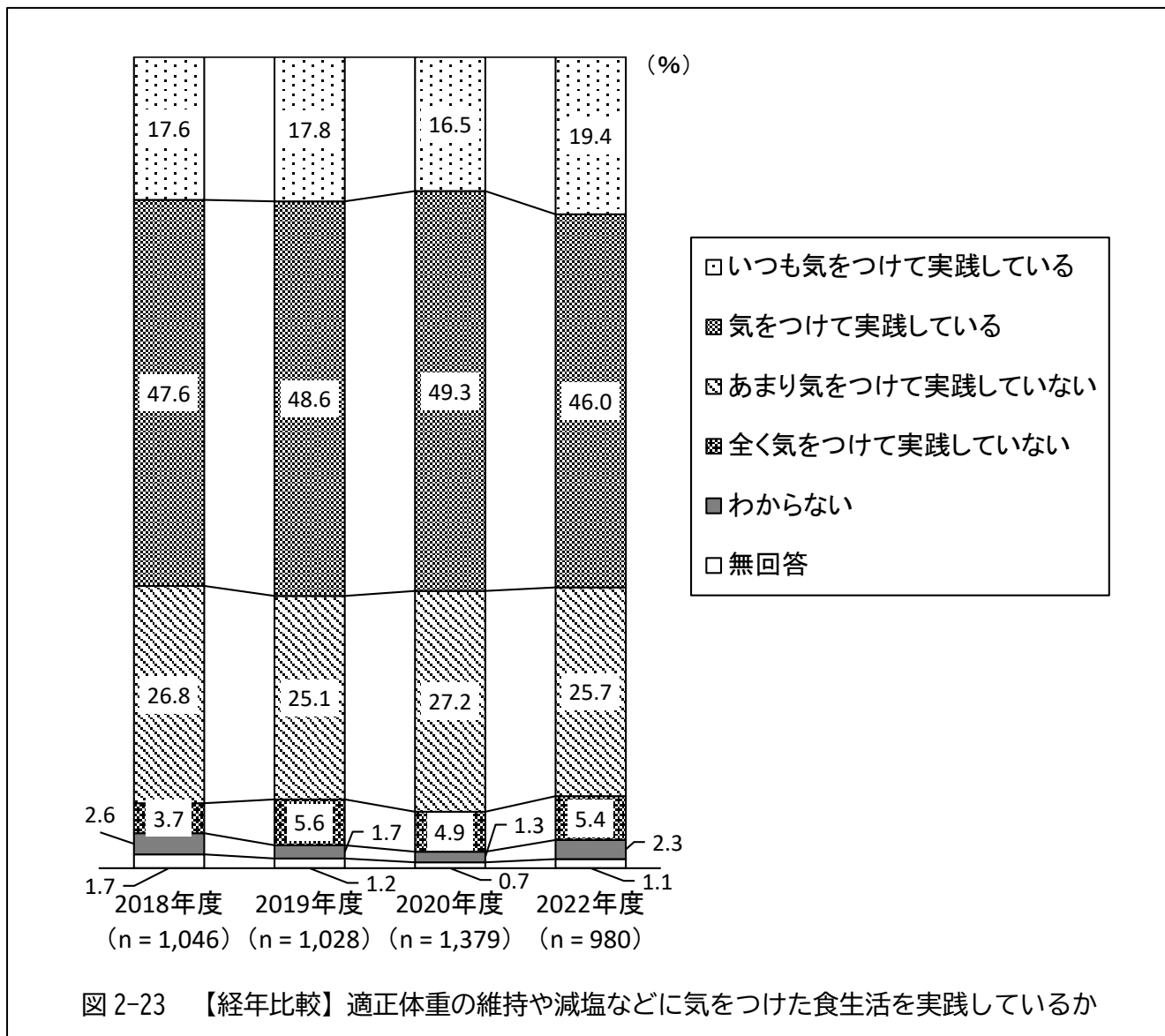
◆適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を<実践している>は6割台半ば



適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているかについては、「いつも気をつけて実践している」(19.4%)と「気をつけて実践している」(46.0%)を合わせた<実践している>は65.4%となっている。年代別にみると、<実践している>は50歳代以上で比較的高くなっており、70歳代以上では7割を超えている。



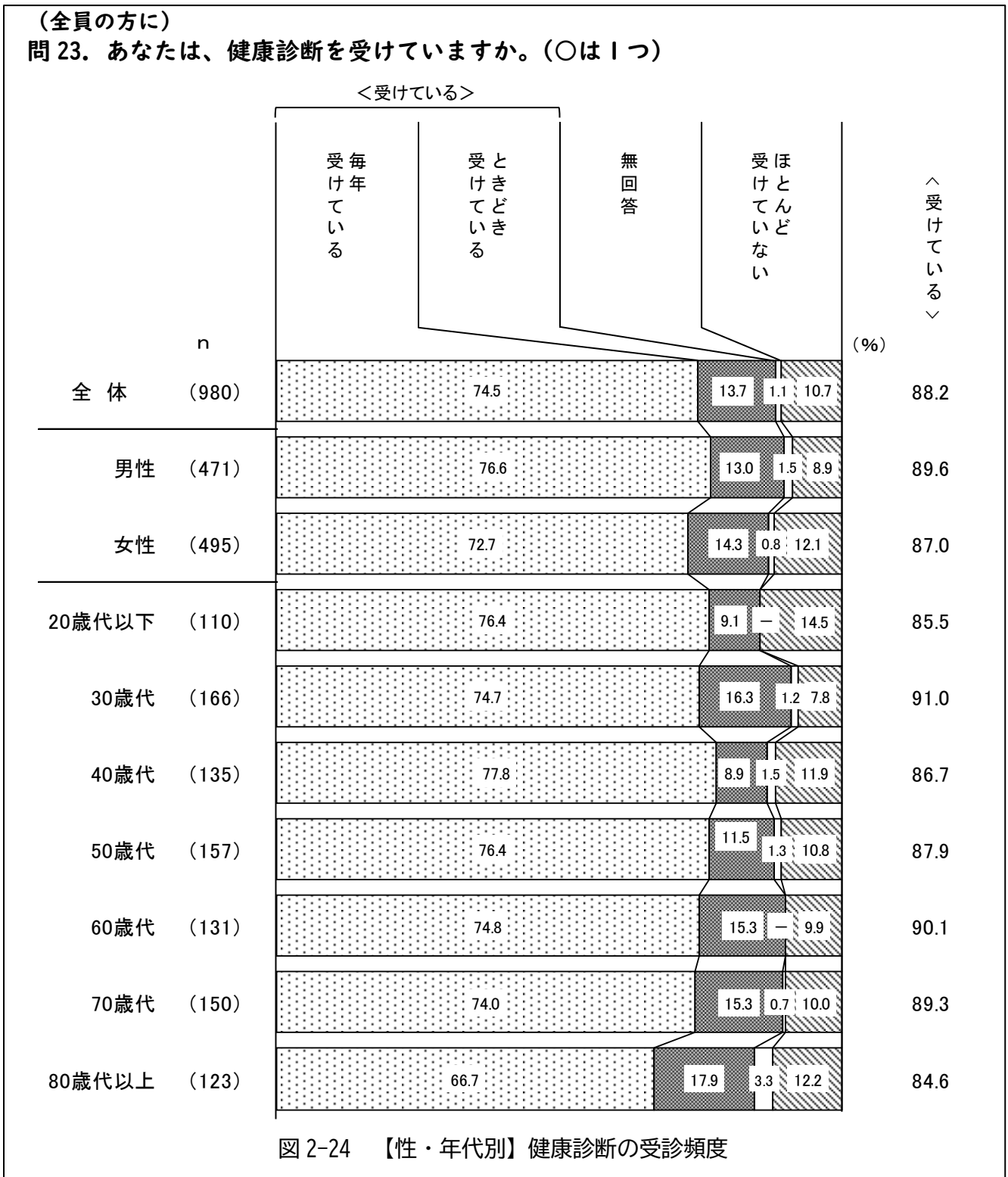
健康感別にみると、健康であると感じている人は<実践している>の割合が高くなっている。



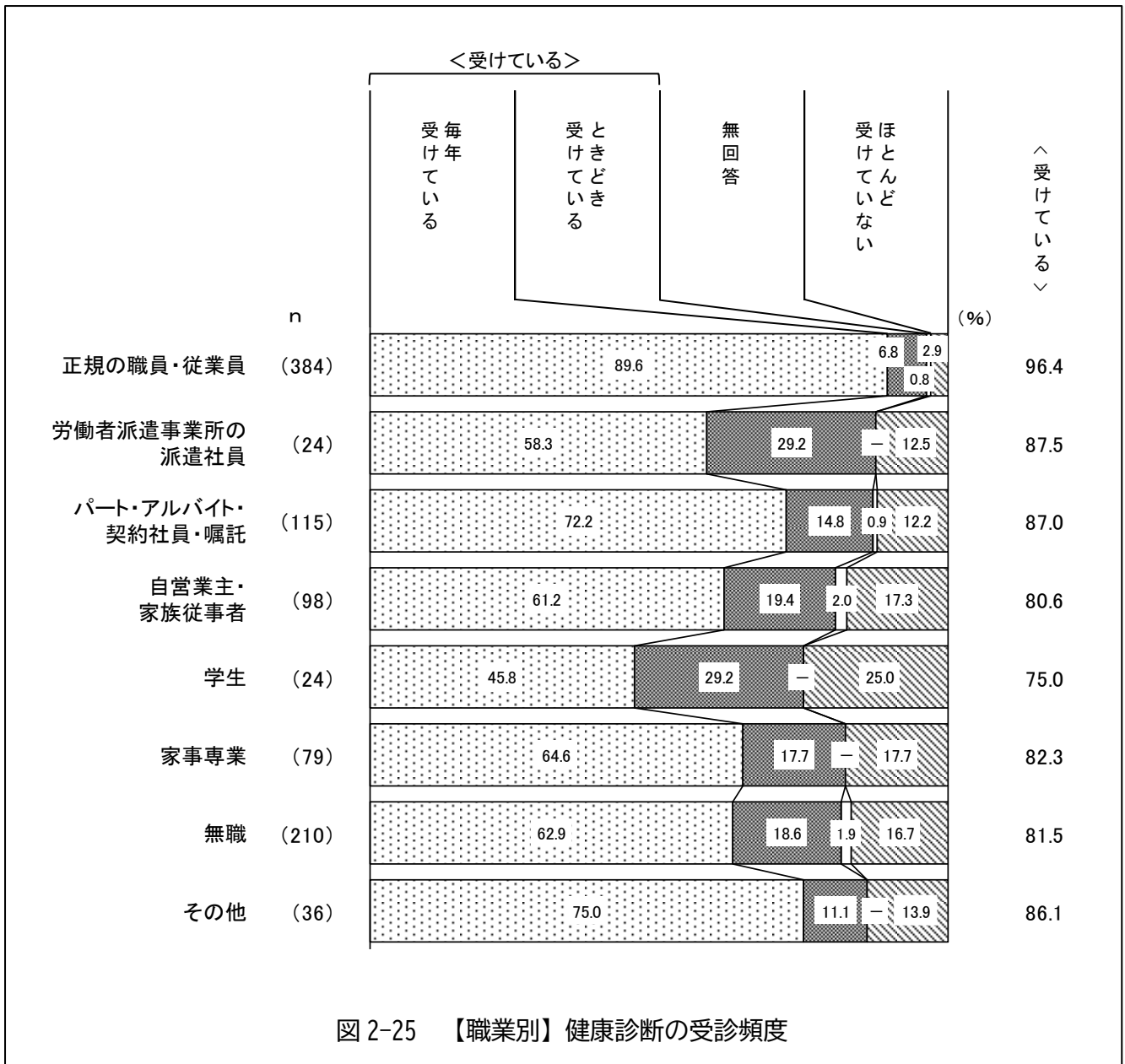
経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10. 健康診断の受診頻度

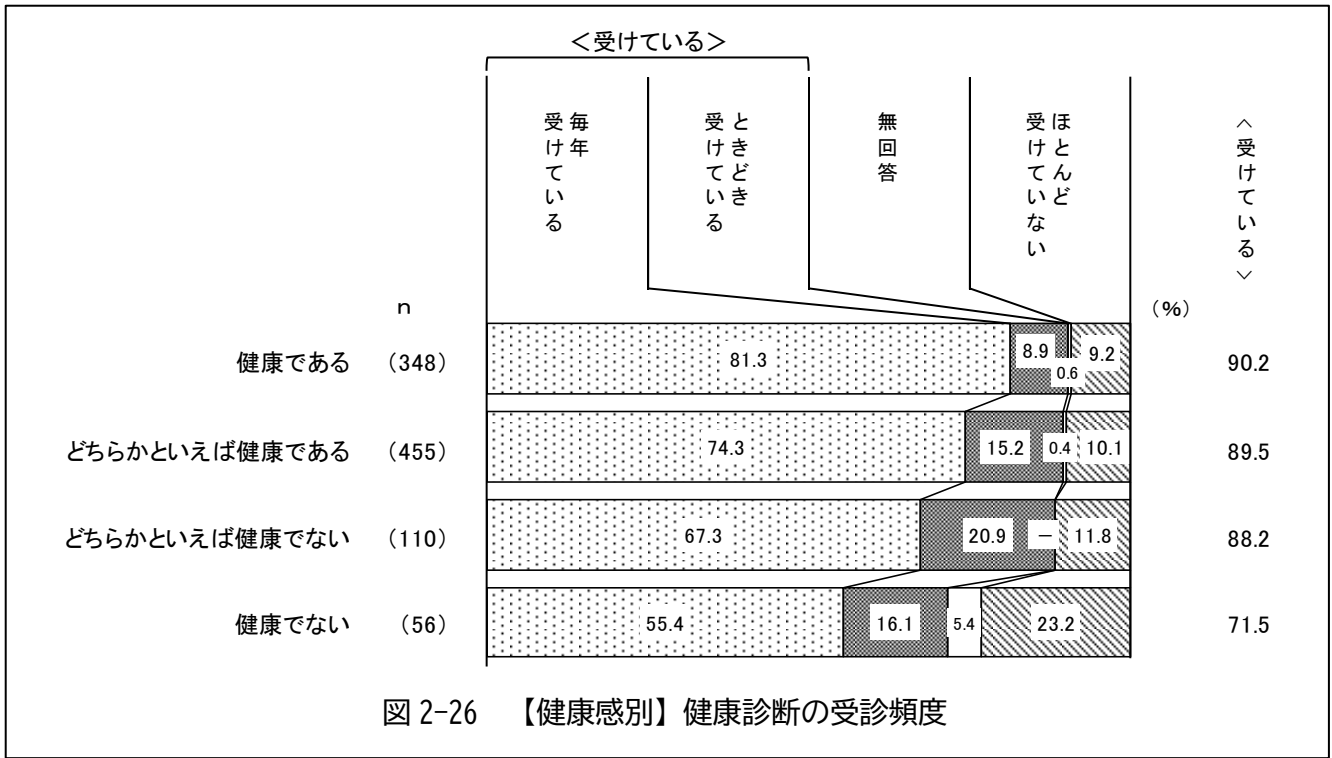
◆健康診断を<受けている>は8割台後半



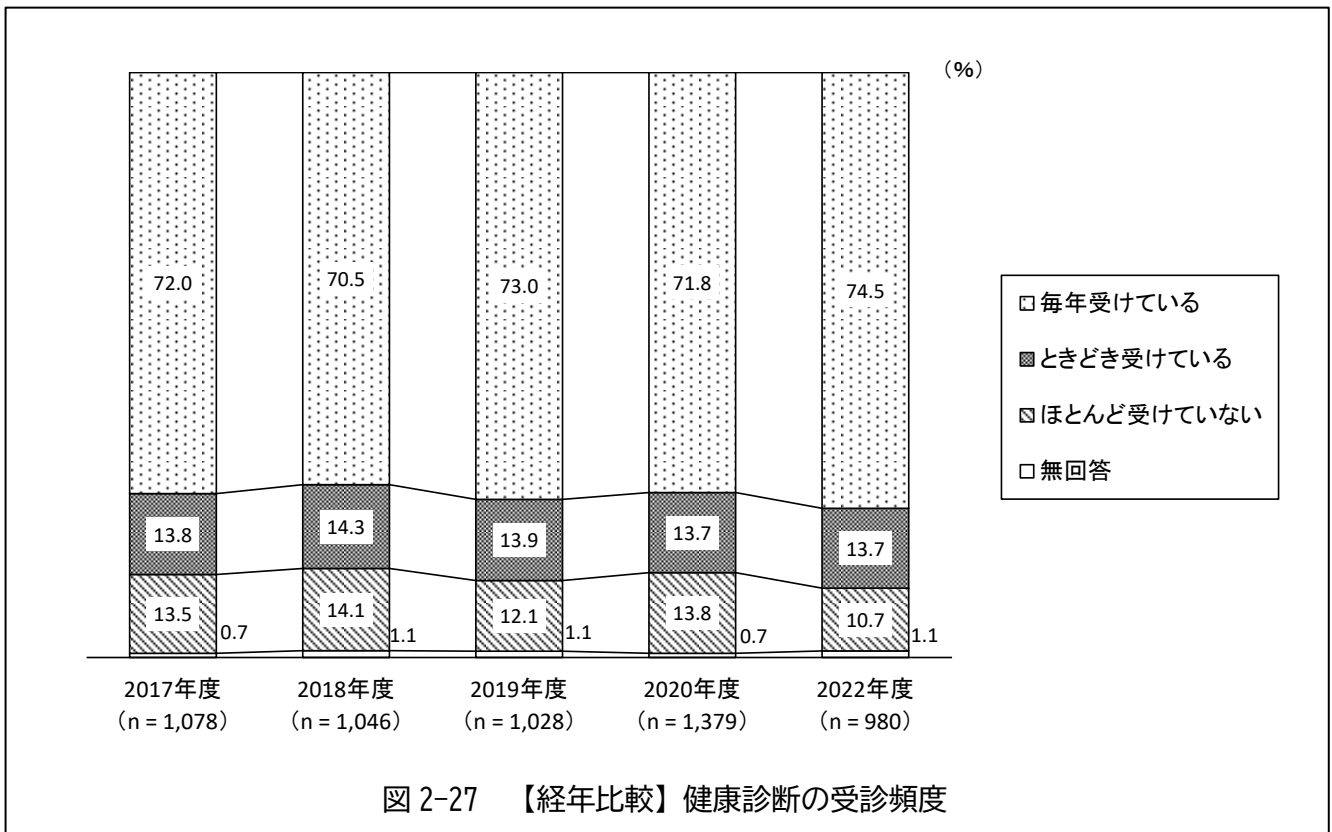
健康診断の受診頻度は、「毎年受けている」(74.5%)と「ときどき受けている」(13.7%)を合わせた<受けている>で 88.2%となっている。性別にみると、「毎年受けている」は男性(76.6%)が女性(72.7%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代と60歳代で<受けている>が9割を超えて高くなっている。



職業別にみると、＜受けている＞は「正規の職員・従業員」で 96.4%と最も高くなっている。一方、「学生」は＜受けている＞が 75.0%と低くなっている。



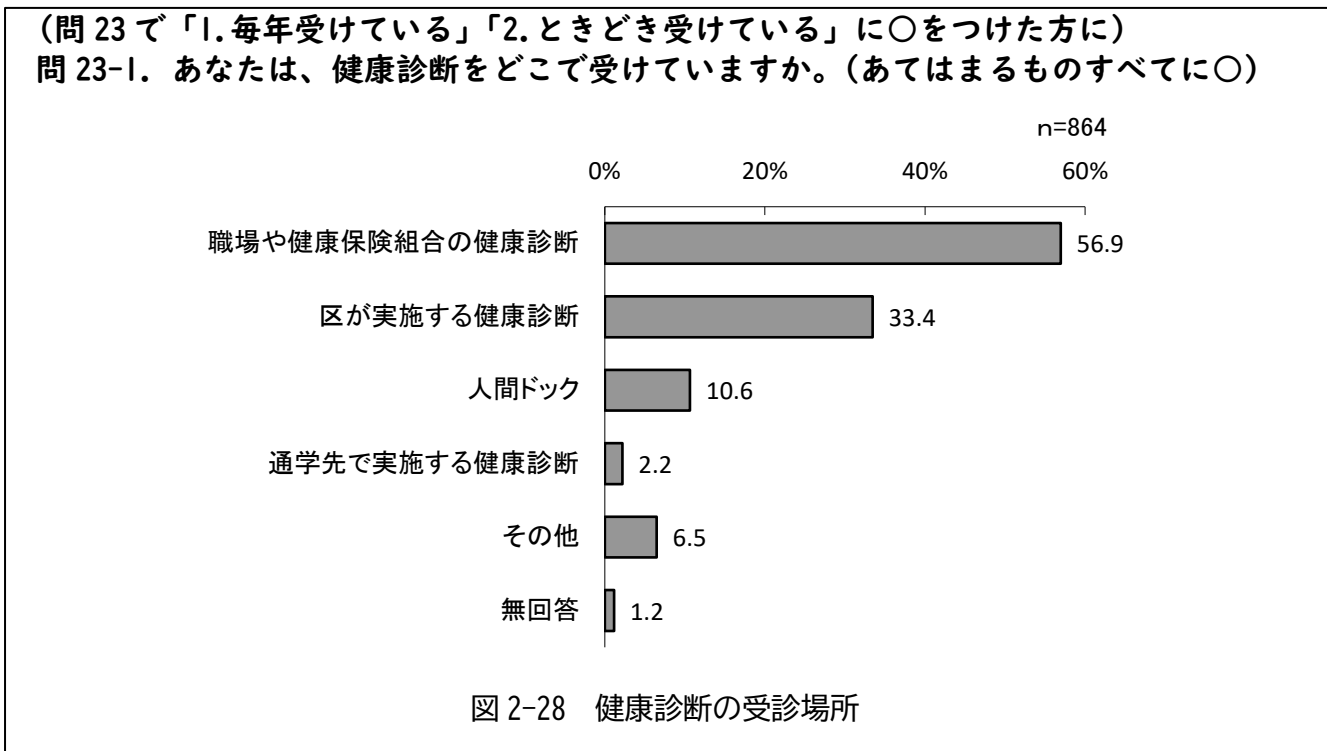
「健康である」「どちらかといえば健康である」の方が、「どちらかといえば健康でない」「健康でない」よりも毎年健康診断を受診している割合が高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10.1. 健康診断の受診場所

◆健康診断の受診場所は「職場や健康保険組合の健康診断」が5割台半ば



健康診断を受けている方に受診場所を聞いたところ、「職場や健康保険組合の健康診断」が 56.9%で最も高く、次いで「区が実施する健康診断」(33.4%)となっている。

表 2-8 【性・年代別】健康診断の受診場所

単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	864	56.9	33.4	2.2	10.6	6.5	1.2
男性	422	59.2	30.3	2.1	11.6	6.6	0.5
女性	431	55.7	36.2	2.3	9.7	6.0	1.6
20歳代以下	94	78.7	2.1	18.1	2.1	—	1.1
30歳代	151	90.7	5.3	0.7	7.9	2.0	—
40歳代	117	83.8	14.5	—	17.9	3.4	0.9
50歳代	138	74.6	23.2	—	10.9	2.2	0.7
60歳代	118	48.3	45.8	—	20.3	6.8	—
70歳代	134	14.9	72.4	—	6.7	11.2	2.2
80歳代以上	104	1.9	71.2	1.0	7.7	21.2	3.8

性別にみると、「職場や健康保険組合の健康診断」は男性、「区が実施する健康診断」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳～60歳代は「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高いのに対し、70歳代以上では「区が実施する健康診断」が最も高くなっている。また、60歳代は「人間ドック」の割合が約2割と他の年代と比較して高くなっている。

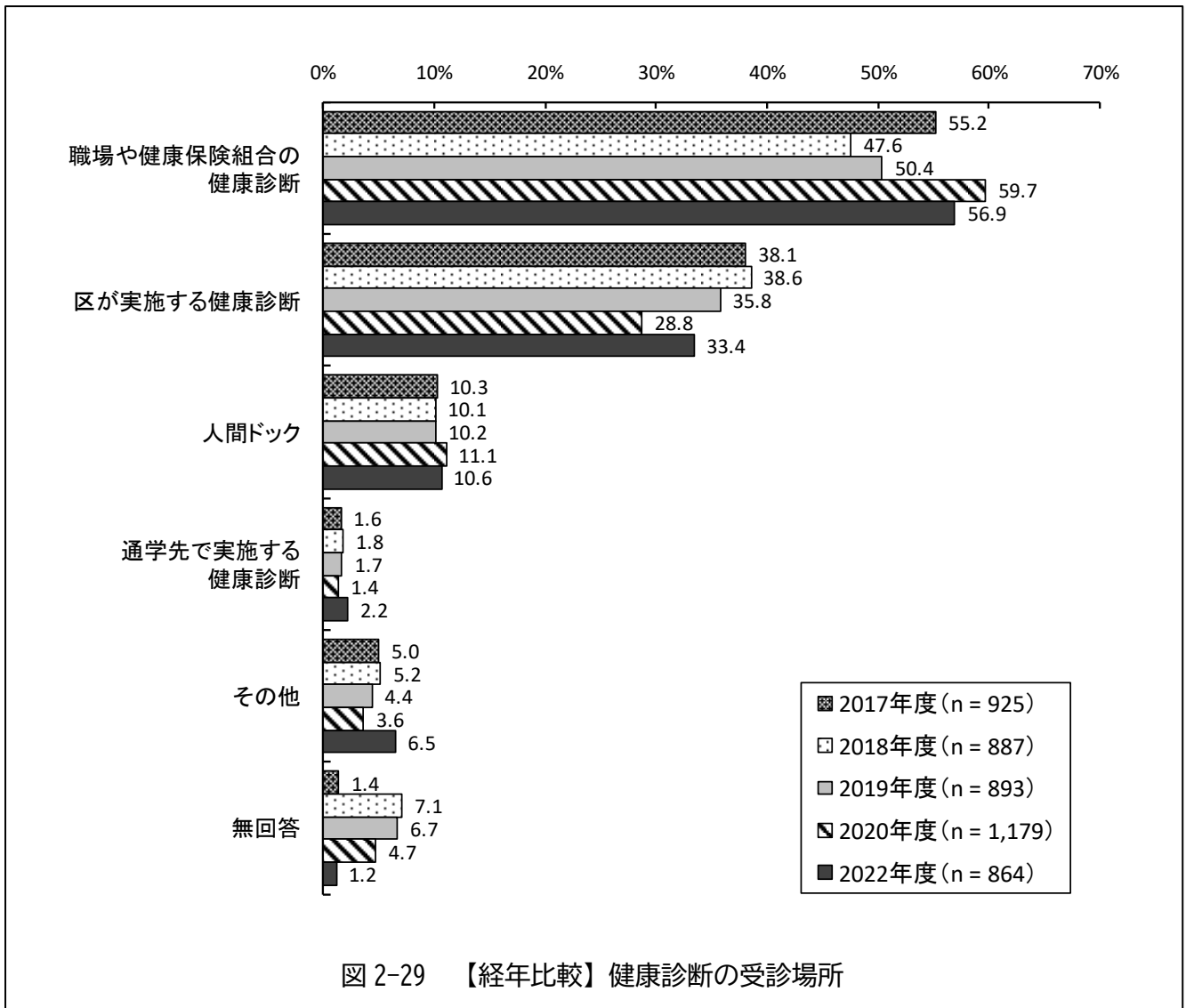
表 2-9 【居住地域別】健康診断の受診場所

単位：％

区分	有効回答数（件）	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	864	56.9	33.4	2.2	10.6	6.5	1.2
南台	59	40.7	42.4	5.1	13.6	3.4	1.7
弥生町	74	56.8	39.2	—	9.5	6.8	1.4
本町	60	66.7	33.3	3.3	10.0	1.7	—
中央	71	71.8	26.8	2.8	4.2	4.2	1.4
東中野	63	63.5	22.2	1.6	9.5	7.9	1.6
中野	81	59.3	27.2	3.7	12.3	4.9	—
上高田	48	58.3	33.3	—	6.3	12.5	—
新井	42	52.4	33.3	2.4	19.0	9.5	—
沼袋	32	46.9	28.1	3.1	18.8	9.4	3.1
松が丘	18	44.4	55.6	—	16.7	5.6	—
江原町	20	65.0	40.0	—	—	10.0	—
江古田	26	57.7	26.9	3.8	3.8	11.5	3.8
丸山	15	60.0	40.0	—	13.3	—	—
野方	46	45.7	47.8	2.2	4.3	8.7	—
大和町	43	51.2	34.9	4.7	25.6	2.3	—
若宮	32	50.0	34.4	—	12.5	15.6	—
白鷺	31	41.9	48.4	—	6.5	3.2	3.2
鷺宮	48	72.9	22.9	2.1	6.3	4.2	—
上鷺宮	50	58.0	26.0	2.0	12.0	8.0	6.0

居住地域別にみると、南台、松が丘、野方、白鷺を除く地域で「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高くなっている。





経年で比較すると、2022年度は「区が実施する健康診断」が増加し、「職場や健康保険組合の健康診断」が減少している。

2.10.2. 健康診断結果の活用方法

◆健康診断結果の活用方法は「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が7割台半ば

(問 23 で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に)  
問 23-2. 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

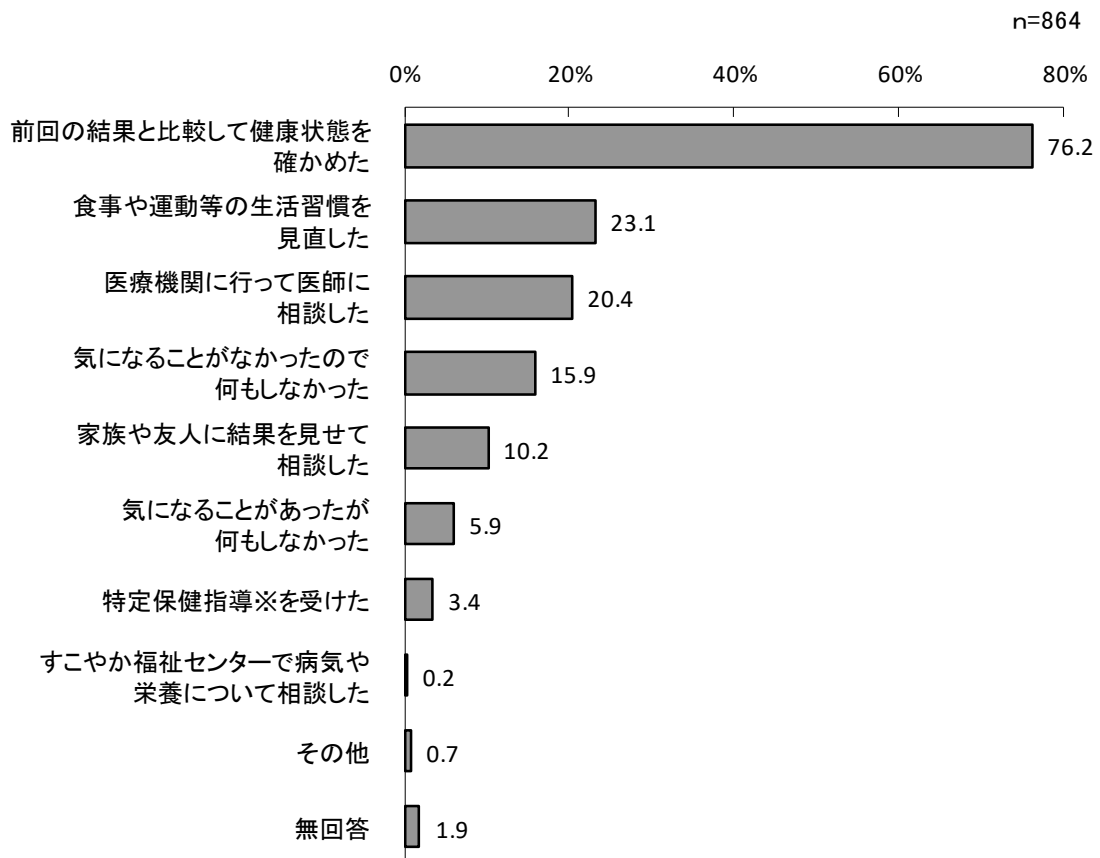


図 2-30 健康診断結果の活用方法

※特定保健指導…メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の早期発見を目的とした健康診査（特定健診）の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のこと。

健康診断を受けている方に健康診断結果の活用方法を聞いたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が 76.2%で最も高く、次いで「食事や運動等の生活習慣を見直した」(23.1%)、「医療機関に行って医師に相談した」(20.4%)となっている。

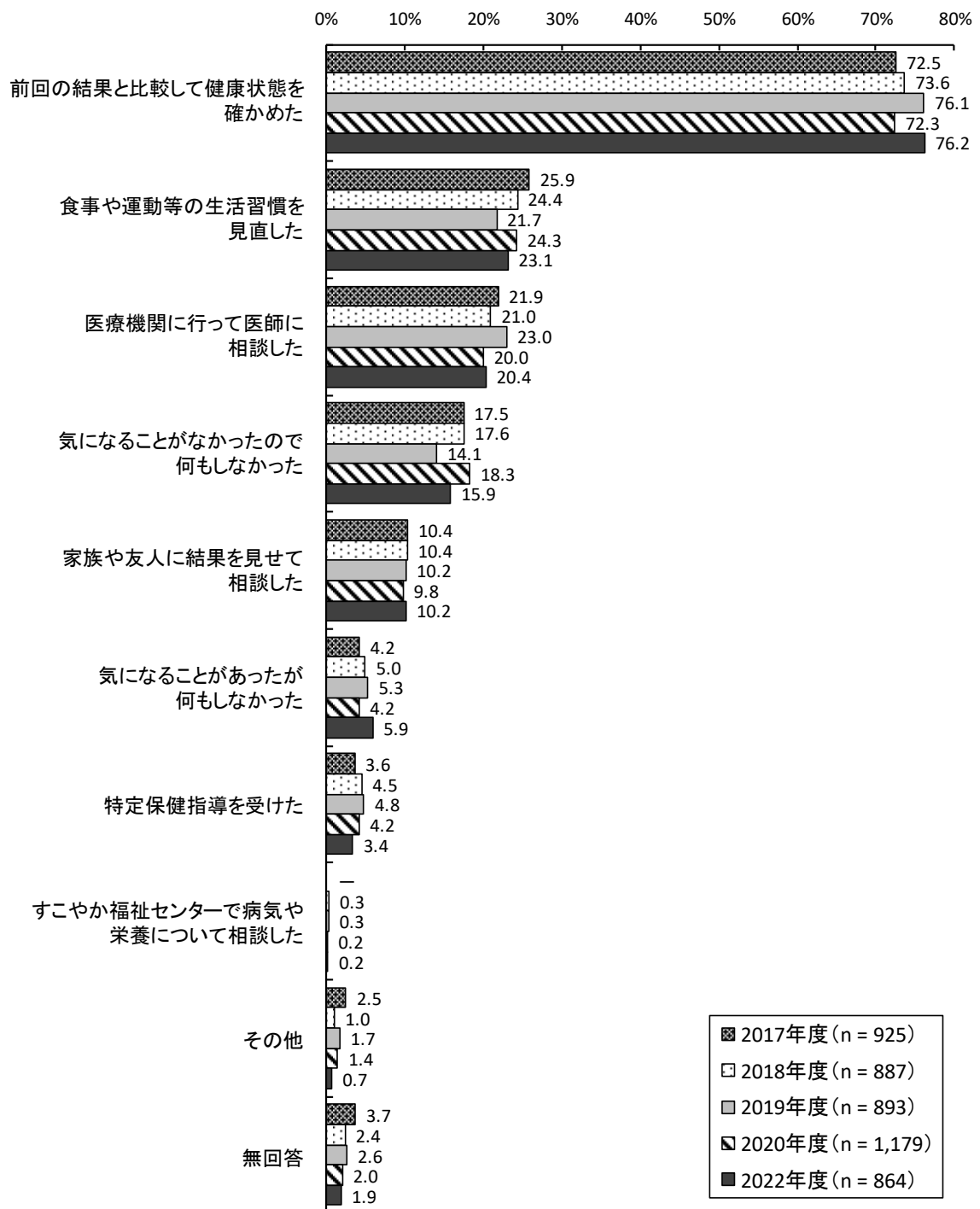


図 2-31 【経年比較】健康診断結果の活用方法

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10.3. 健康診断を受けなかった理由

◆健康診断を受けなかった理由は「面倒だから」が3割台前半

(問23で「3.ほとんど受けていない」に○をつけた方に)

問23-3. あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

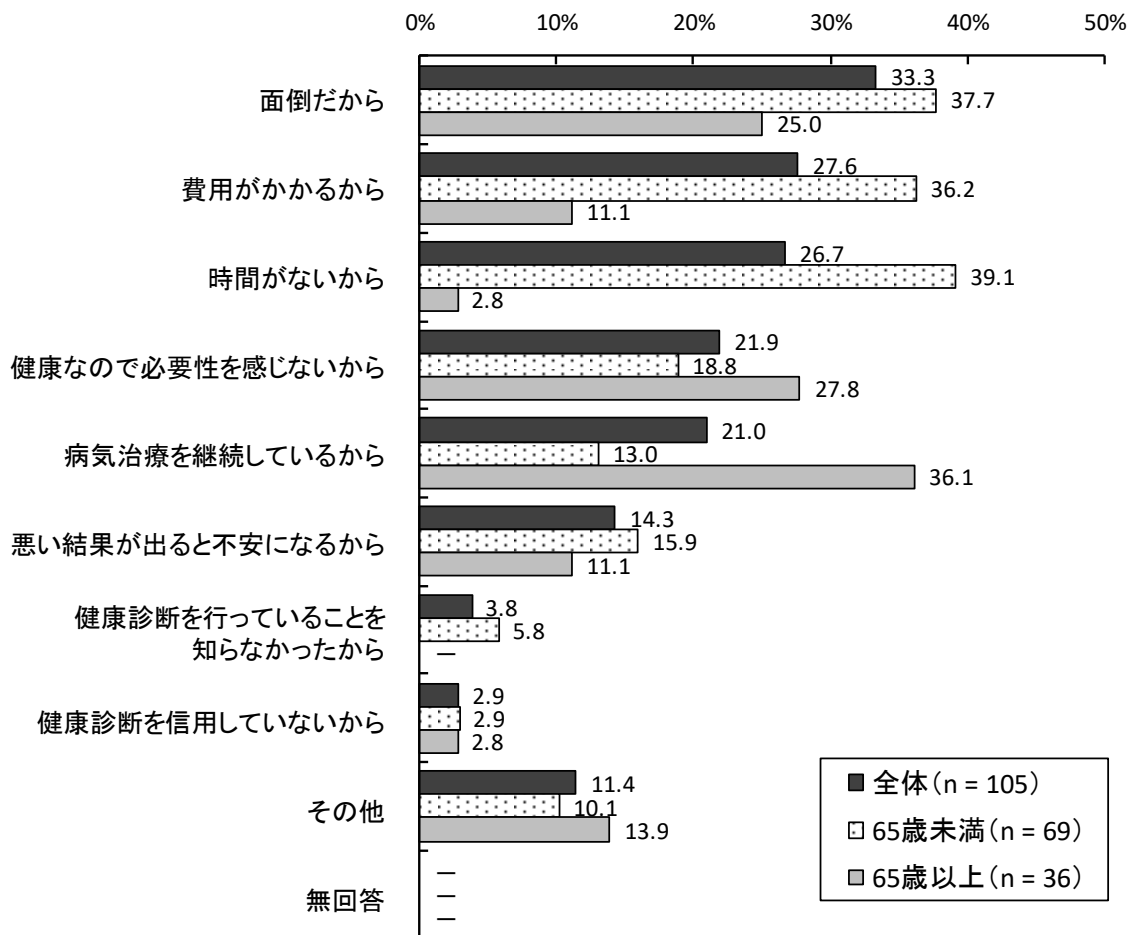


図2-32 【年代別】健康診断を受けなかった理由

健康診断を受けなかった方にその理由を聞いたところ、「面倒だから」が33.3%で最も高く、次いで「費用がかかるから」(27.6%)、「時間がないから」(26.7%)となっている。年代別にみると、65歳未満では「時間がないから」(39.1%)が最も高く、次いで「面倒だから」(37.7%)、「費用がかかるから」(36.2%)となっているのに対し、65歳以上では「病気治療を継続しているから」(36.1%)が最も高く、次いで「健康なので必要性を感じないから」(27.8%)、「面倒だから」(25.0%)となっている。

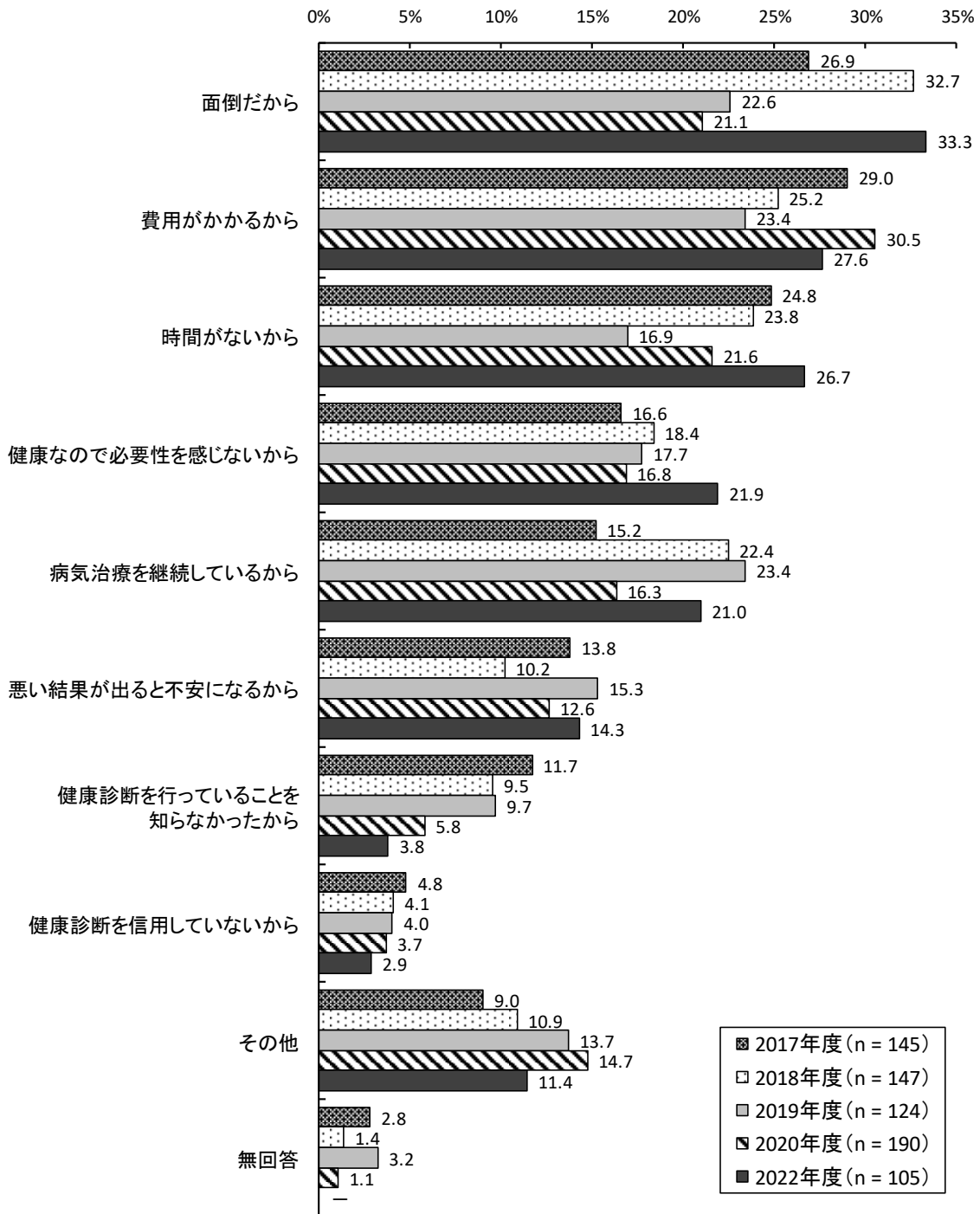


図 2-33 【経年比較】健康診断を受けなかった理由

経年で比較すると、2022年度は「面倒だから」「時間がないから」「健康なので必要性を感じないから」「病気治療を継続しているから」などが増加に転じている。

2.11. かかりつけの診療所の有無

◆かかりつけの診療所を<決めている>割合は年代が上がるにつれ増加傾向

(全員の方に)

問 24. あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所（医院・クリニック）を決めていますか。（○は1つ）

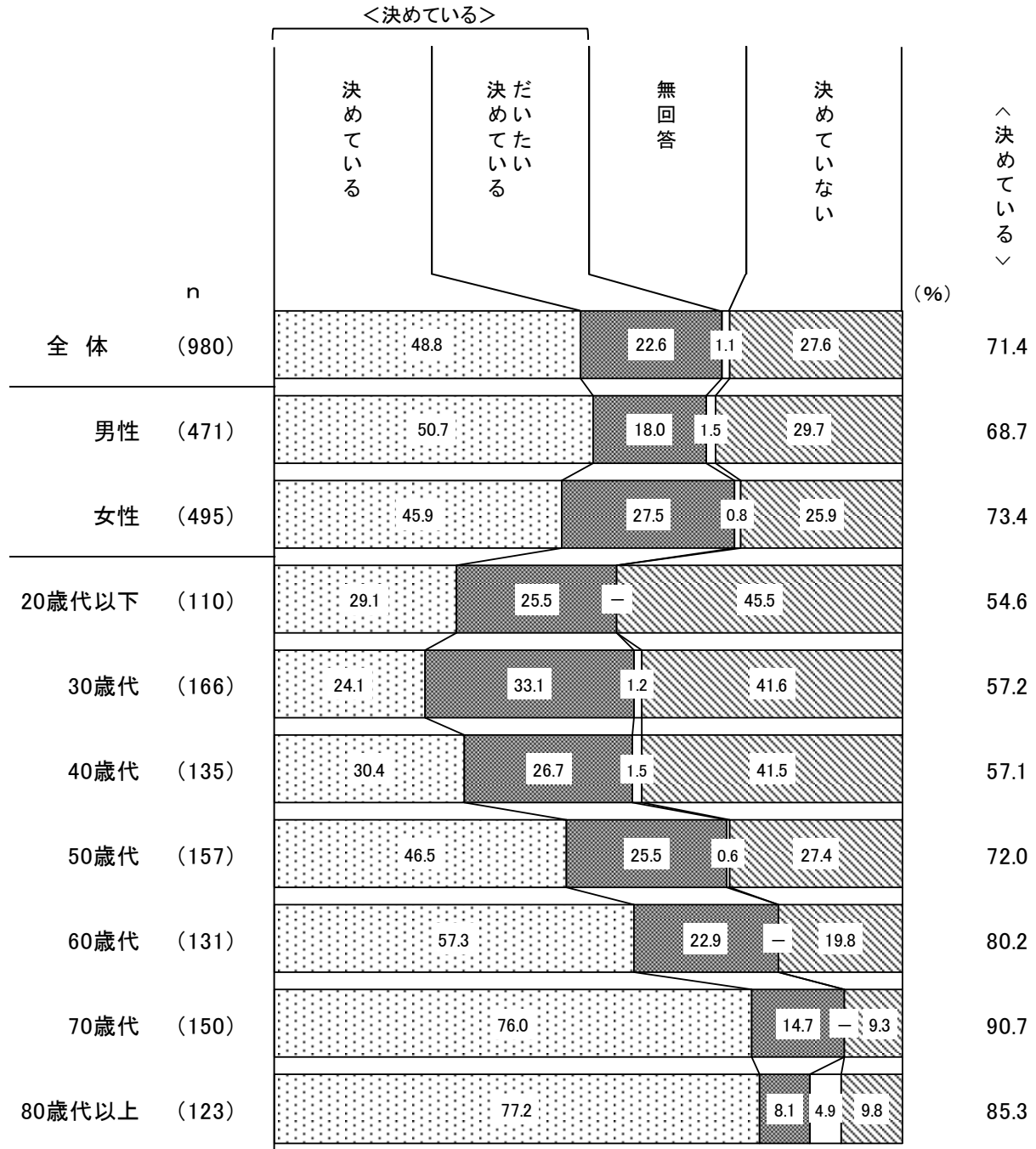
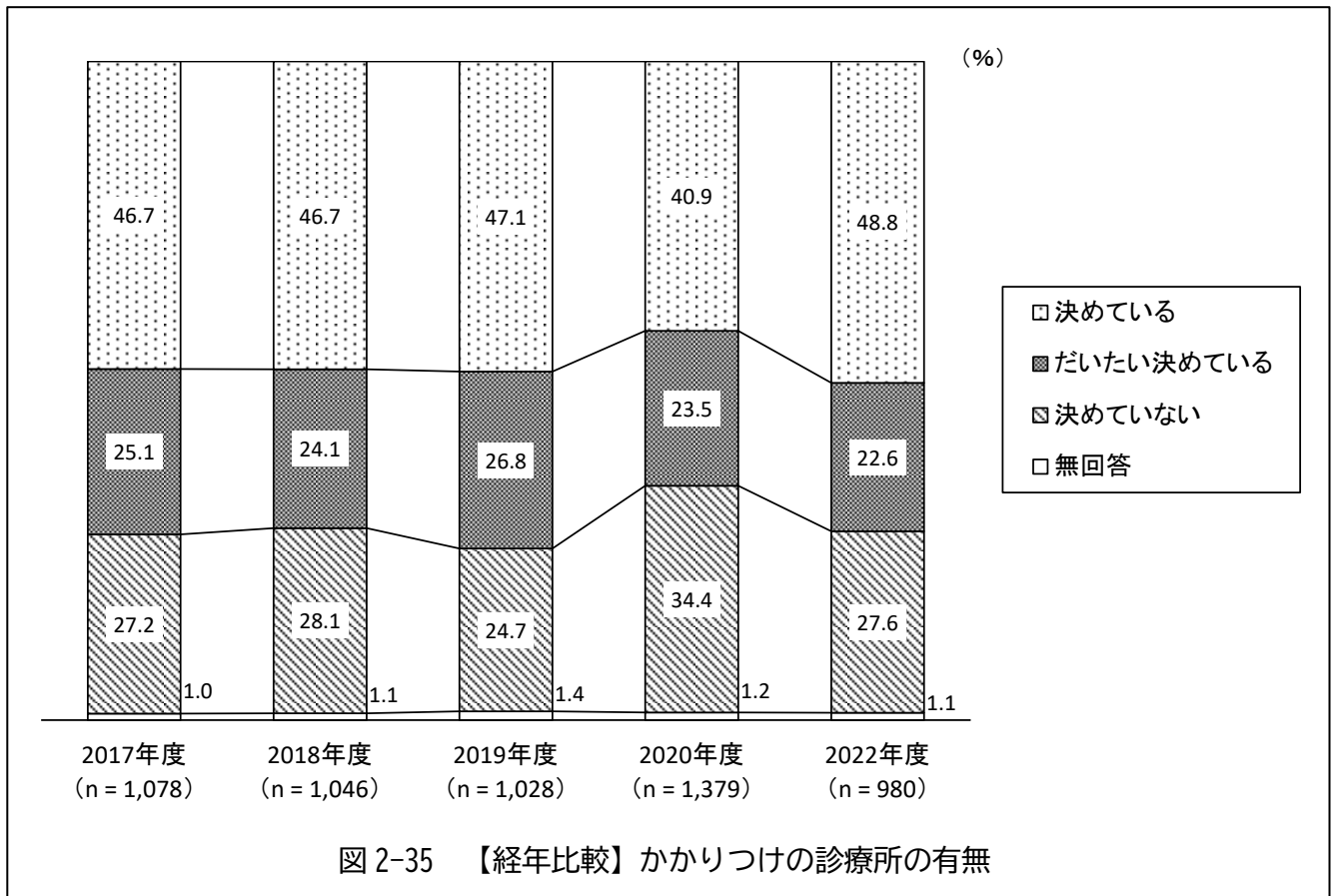


図 2-34 【性・年代別】かかりつけの診療所の有無

かかりつけの診療所を決めているかについては、「決めている」(48.8%)と「だいたい決めている」(22.6%)を合わせた<決めている>で71.4%となっている。性別にみると、<決めている>では女性(73.4%)が男性(68.7%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は概ね年代が上がるにつれ増加傾向となっている。



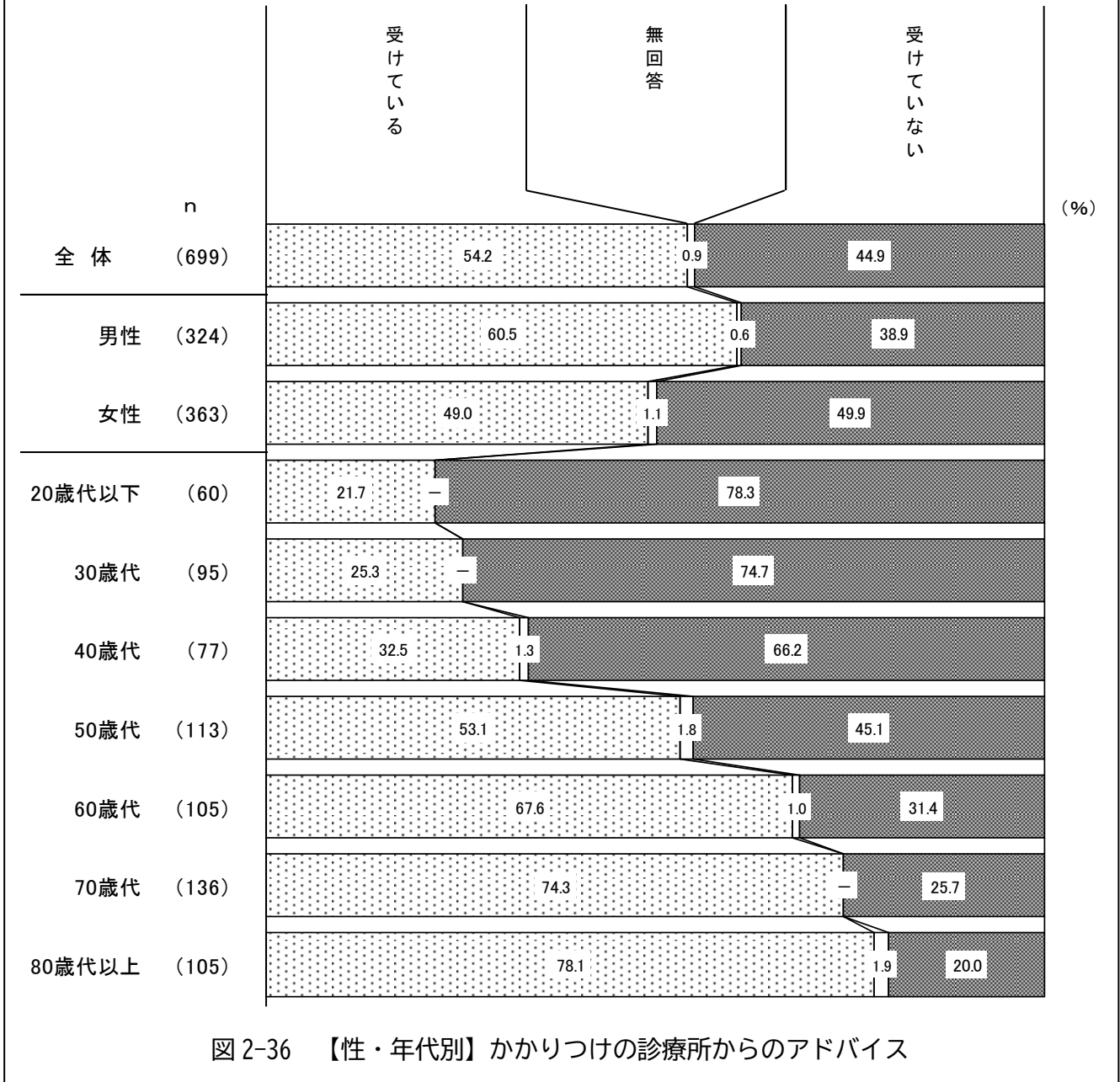
経年で比較すると、「決めている」は2020年度に減少したものの、2022年度は増加に転じている。

2.11.1. かかりつけの診療所からのアドバイス

◆かかりつけの診療所で健康についてのアドバイスを「受けている」は5割台半ば

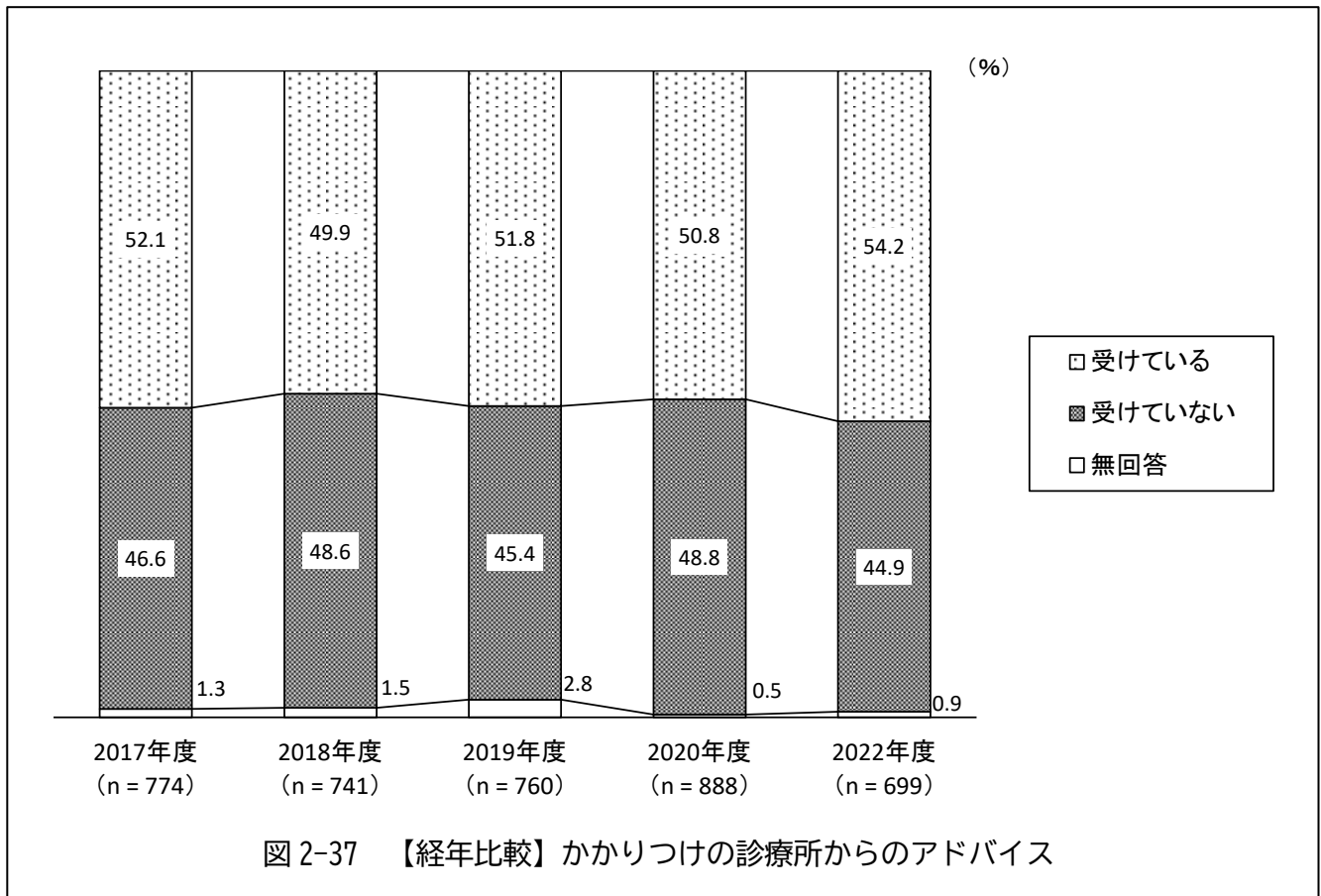
(問 24 で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に)

問 24-1. あなたは、かかりつけの診療所（医院・クリニック）で、普段から本人や家族等の日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。(○は1つ)



かかりつけの診療所を決めている方にかかりつけの診療所から健康についてのアドバイスを受けているか聞いたところ、「受けている」が 54.2%に対し、「受けていない」は 44.9%となっている。性別にみると、「受けている」では男性 (60.5%) が女性 (49.0%) を約 12 ポイント上回っている。年代別にみると、「受けている」は年代が上がるにつれ増加している。

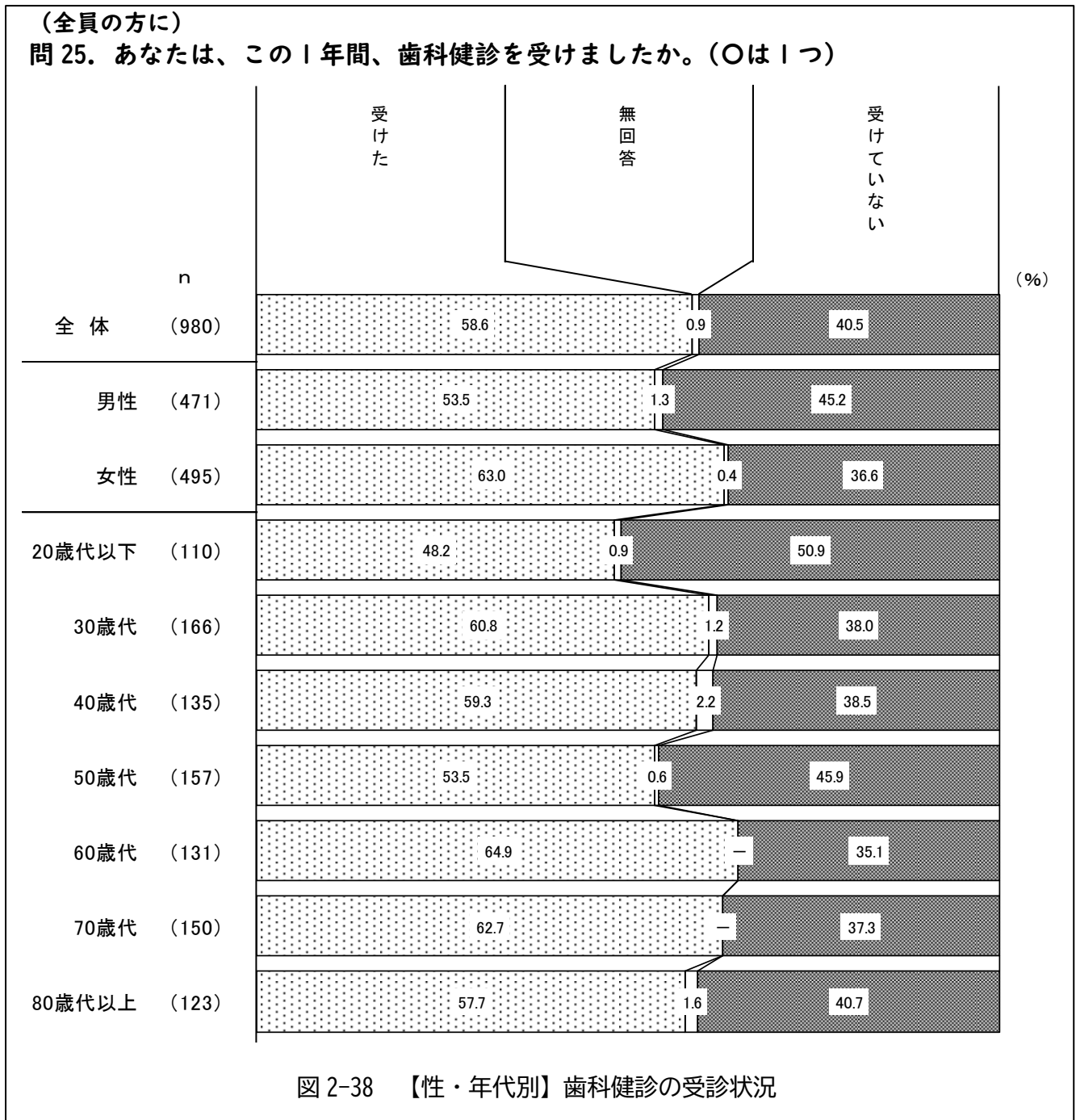




経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.12. 歯科健診の受診状況

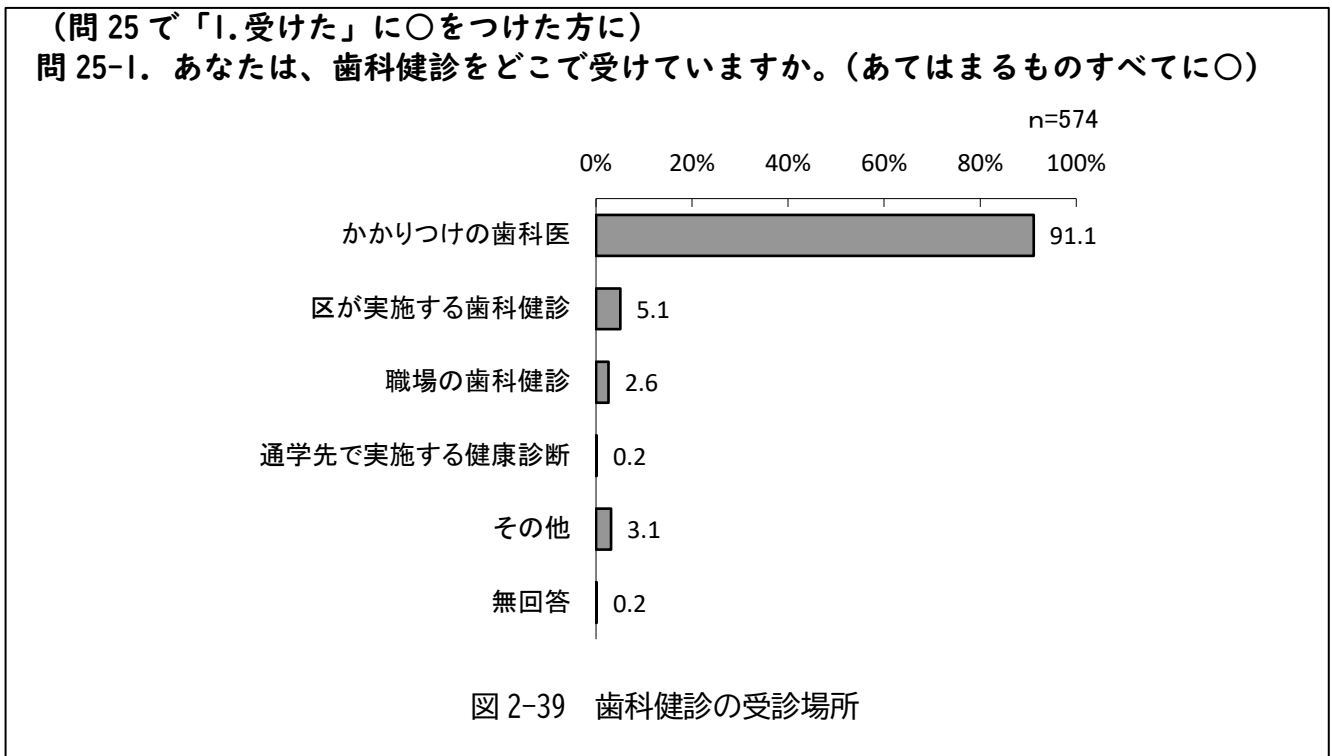
◆歯科健診を「受けた」は5割台後半



歯科健診の受診については「受けた」が58.6%に対し、「受けていない」が40.5%となっている。性別に見ると、「受けた」は女性(63.0%)が男性(53.5%)を約10ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「受けていない」が約5割となっており、他の年代と比較して高くなっている。

2.12.1. 歯科健診の受診場所

◆歯科健診の受診場所は「かかりつけの歯科医」が約9割



歯科健診の受診場所については「かかりつけの歯科医」が 91.1%で最も高く、次いで、「区が実施する歯科健診」(5.1%)となっている。

表 2-10 【性・年代別】歯科健診の受診場所

単位：%

区分	有効回答数(件)	職場の歯科健診	区が実施する歯科健診	通学先で実施する健康診断	かかりつけの歯科医	その他	無回答
全体	574	2.6	5.1	0.2	91.1	3.1	0.2
男性	252	4.8	6.3	0.4	88.5	2.8	—
女性	312	1.0	4.2	—	92.9	3.5	0.3
20歳代以下	53	3.8	3.8	1.9	86.8	3.8	—
30歳代	101	5.0	2.0	—	85.1	8.9	—
40歳代	80	2.5	10.0	—	88.8	2.5	—
50歳代	84	3.6	4.8	—	91.7	1.2	—
60歳代	85	3.5	9.4	—	94.1	—	—
70歳代	94	—	5.3	—	94.7	2.1	—
80歳代以上	71	—	—	—	95.8	2.8	1.4

性別にみると、「職場の歯科健診」は男性の割合が高くなっている。年代別にみると、40歳代と60歳代で「区が実施する歯科健診」の割合が他の年代と比較してやや高くなっている。

2.12.2. 歯科健診を受診しなかった理由

◆ 歯科健診を受診しなかった理由は「時間がないから」が3割

(問 25 で「2. 受けていない」に○をつけた方に)

問 25-2. あなたが、歯科健診を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

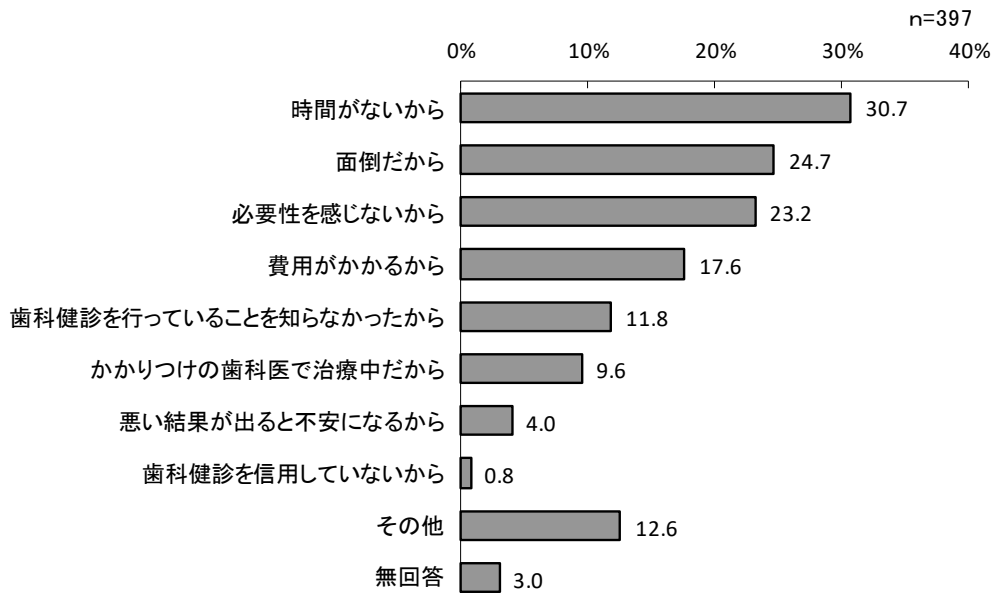


図 2-40 歯科健診を受診しなかった理由

歯科健診を受診しなかった理由については「時間がないから」が30.7%と最も高くなっており、次いで「面倒だから」(24.7%)、「必要性を感じないから」(23.2%)となっている。

表 2-11 【性・年代別】歯科健診を受診しなかった理由

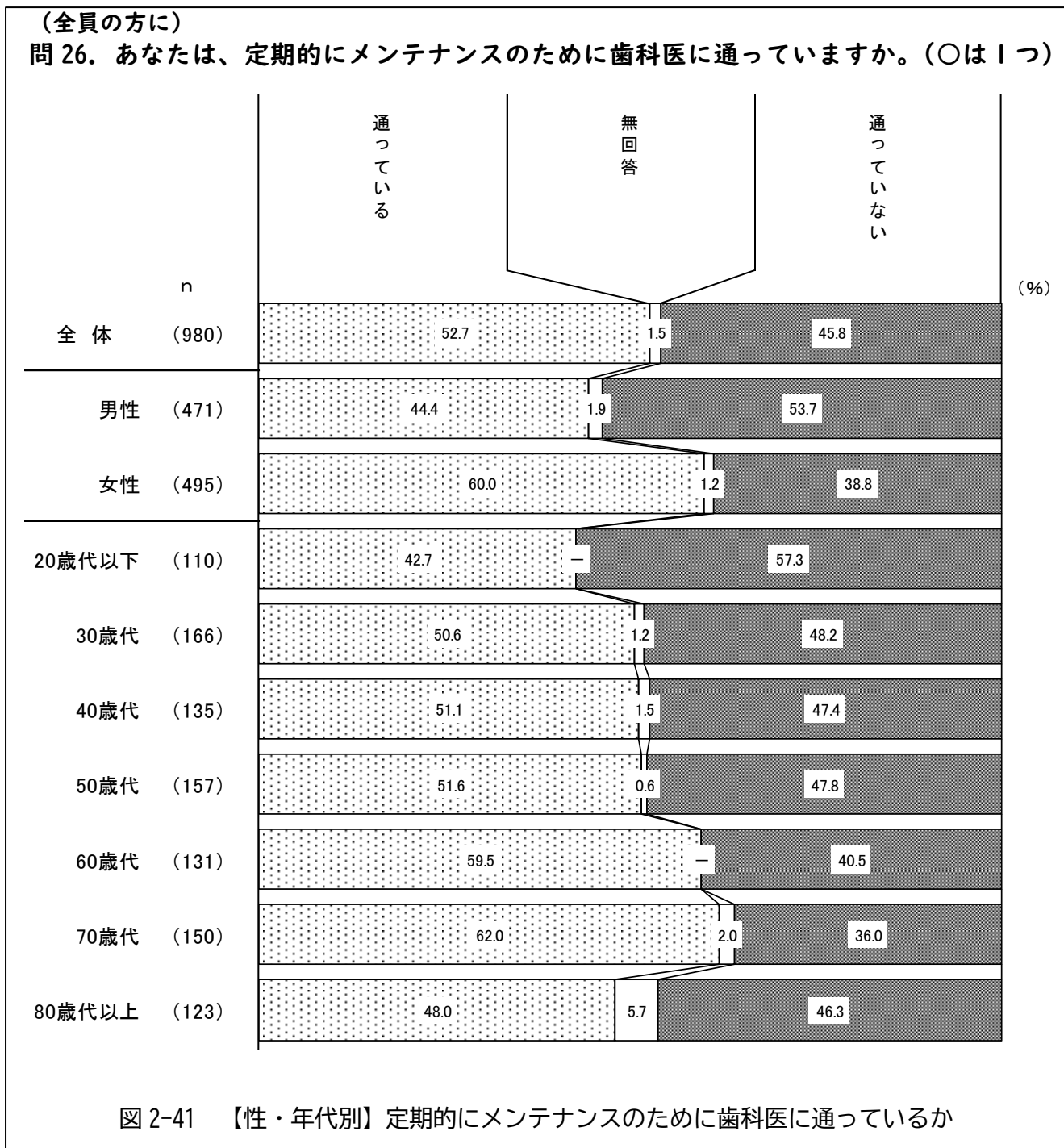
単位：%

区分	有効回答数(件)	時間がないから	費用がかかるから	面倒だから	かかりつけの歯科医で治療中だから	知らないから	歯科健診を行ってないから	いらないから	不安になるから	悪い結果が出ると	から	必要性を感じない	その他	無回答
全体	397	30.7	17.6	24.7	9.6	11.8	0.8	4.0	23.2	12.6	3.0			
男性	213	31.5	17.4	27.2	8.0	10.3	0.9	3.8	27.7	12.2	0.9			
女性	181	29.8	18.2	22.1	11.6	13.8	0.6	4.4	16.6	13.3	5.5			
20歳代以下	56	48.2	35.7	41.1	3.6	10.7	—	3.6	14.3	7.1	—			
30歳代	63	42.9	30.2	36.5	4.8	12.7	3.2	3.2	14.3	6.3	3.2			
40歳代	52	42.3	17.3	34.6	3.8	9.6	—	9.6	23.1	5.8	1.9			
50歳代	72	34.7	15.3	16.7	5.6	8.3	1.4	5.6	25.0	18.1	5.6			
60歳代	46	21.7	4.3	19.6	21.7	15.2	—	6.5	19.6	15.2	—			
70歳代	56	12.5	7.1	14.3	21.4	7.1	—	—	35.7	21.4	—			
80歳代以上	50	6.0	8.0	10.0	10.0	22.0	—	—	30.0	14.0	10.0			

性別にみると、男性で「必要性を感じないから」「面倒だから」の割合が高くなっている。年代別にみると、60歳代以下で「時間がないから」、60歳代で「かかりつけの歯科医で治療中だから」、70歳代以上で「必要性を感じないから」の割合が高くなっている。

2.13. 定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているか

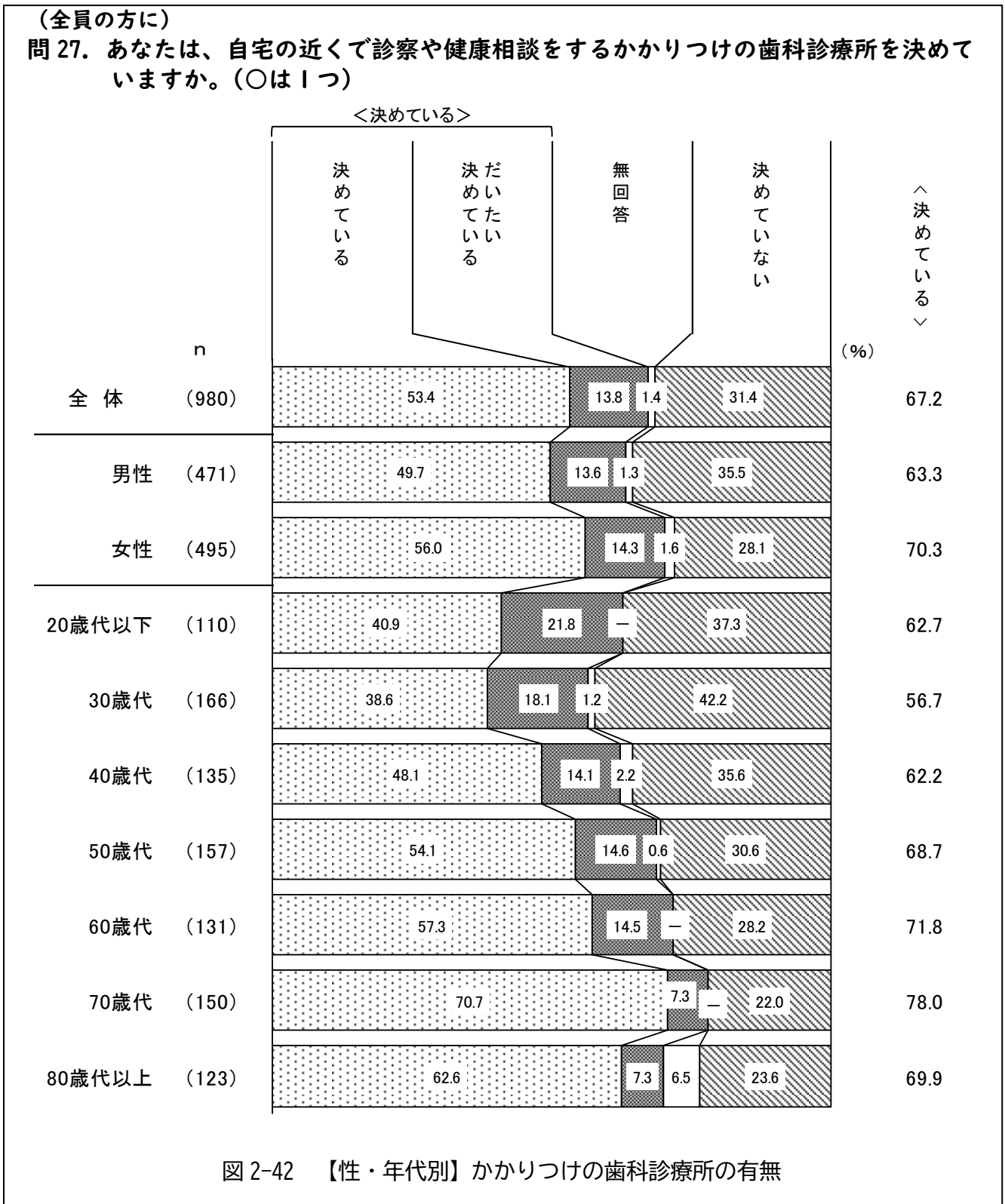
◆定期的にメンテナンスのために歯科医に「通っている」は5割台前半



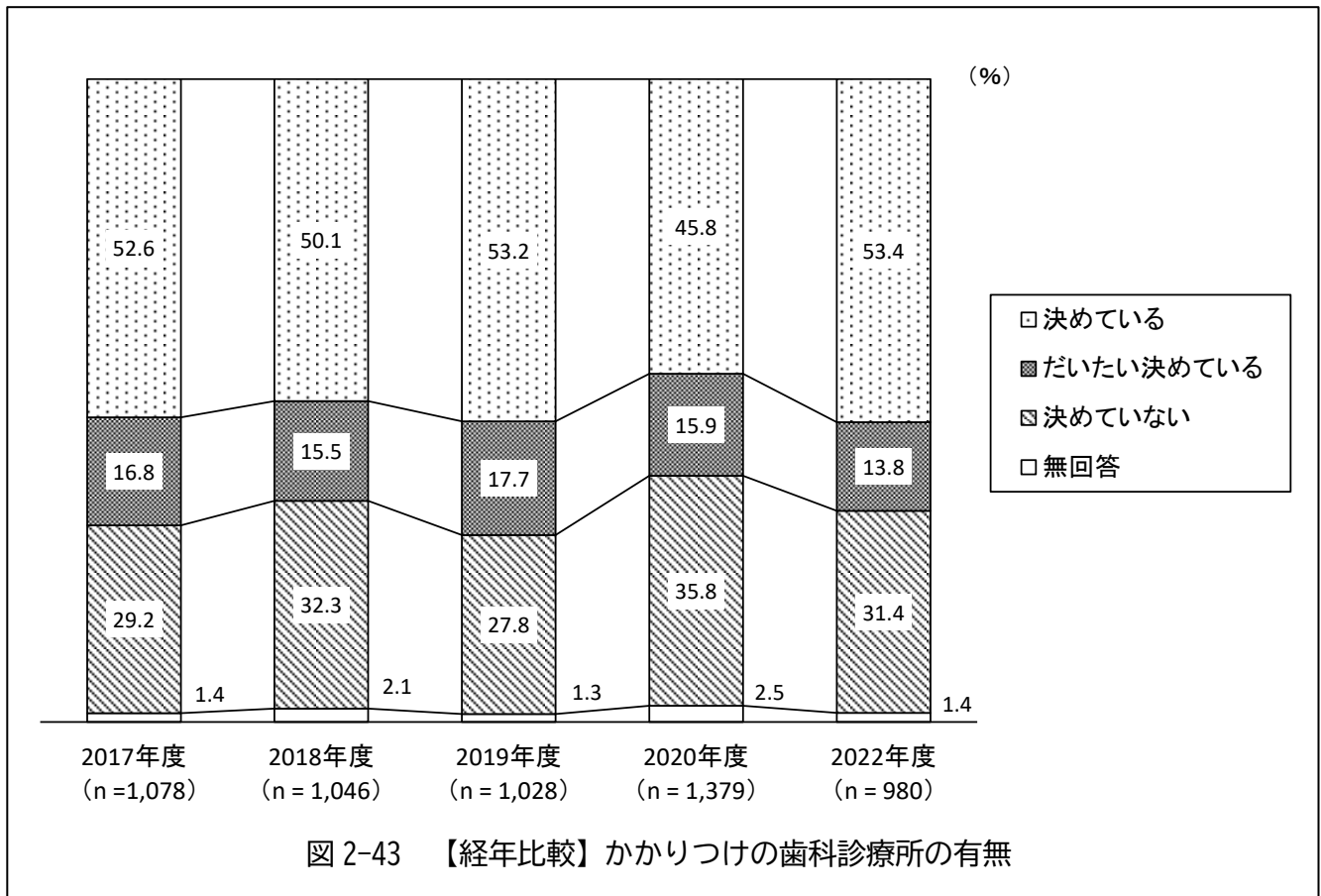
定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているかについては「通っている」が52.7%に対し、「通っていない」が45.8%となっている。性別に見ると、「通っている」は女性(60.0%)が男性(44.4%)を約16ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「通っていない」が5割台後半となっており、他の年代と比較して高くなっている。

2.14. かかりつけの歯科診療所の有無

◆かかりつけの歯科診療所を<決めている>が6割台後半



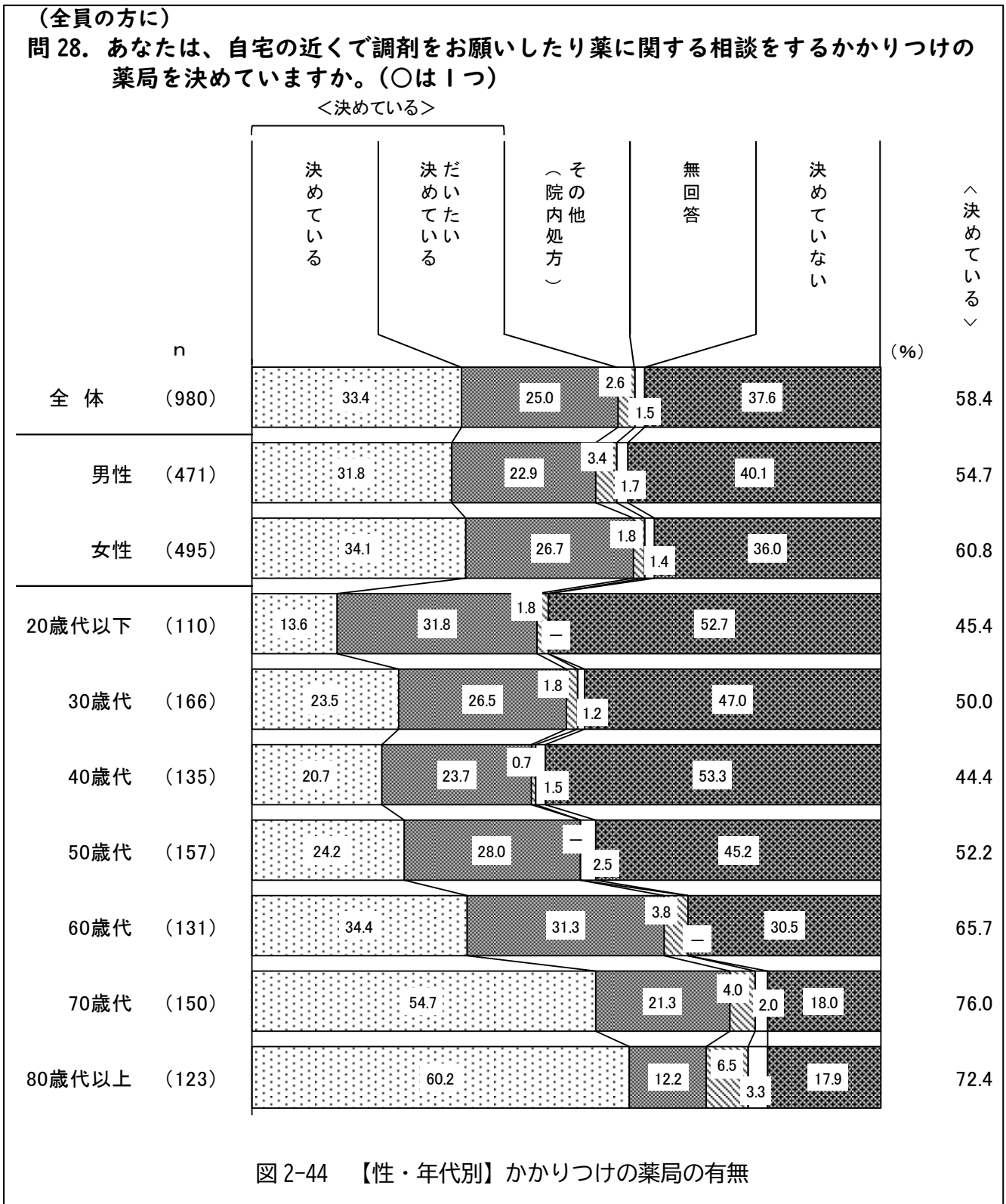
かかりつけの歯科診療所を決めているかについては、「決めている」(53.4%)と「だいたい決めている」(13.8%)を合わせた<決めている>で 67.2%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(70.3%)が男性(63.3%)を7ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は70歳代で7割台後半と特に高くなっている。



経年で比較すると、2020年度に「決めている」の割合が減少したものの、2022年度は2019年度と同程度となっている。

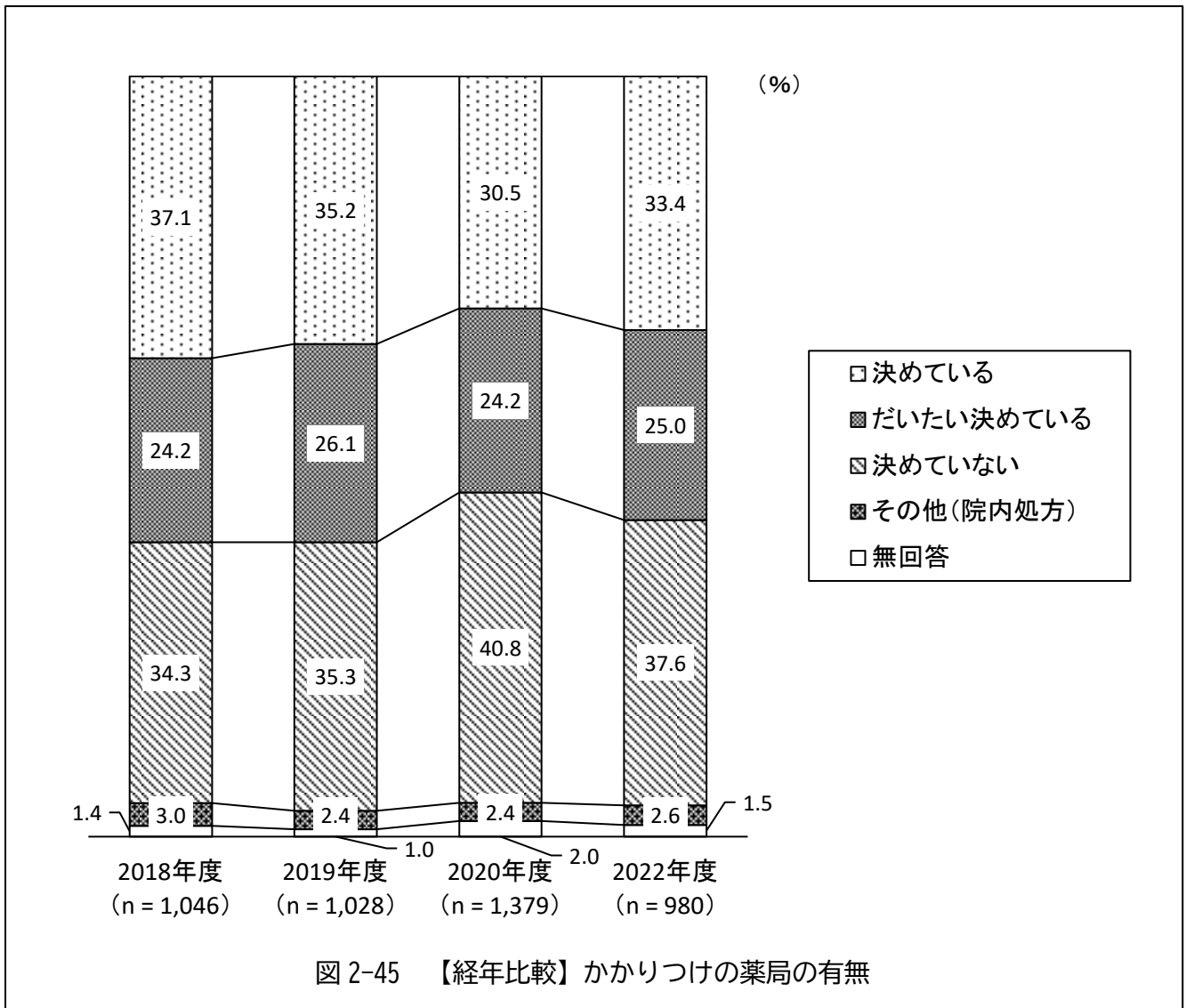
2.15. かかりつけの薬局の有無

◆かかりつけの薬局を<決めている>が5割台後半



かかりつけの薬局を決めているかについては、「決めている」(33.4%)と「だいたい決めている」(25.0%)を合わせた<決めている>で 58.4%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(60.8%)が男性(54.7%)を約6ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は70歳代以上では7割を超えている。





経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.16. 地域の救急医療体制が整っているか

◆地域の救急医療体制は<整っている>が7割台後半

(全員の方に)

問 29. あなたは、自宅のある地域で救急患者が出た場合に、病状に応じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますか。(〇は1つ)

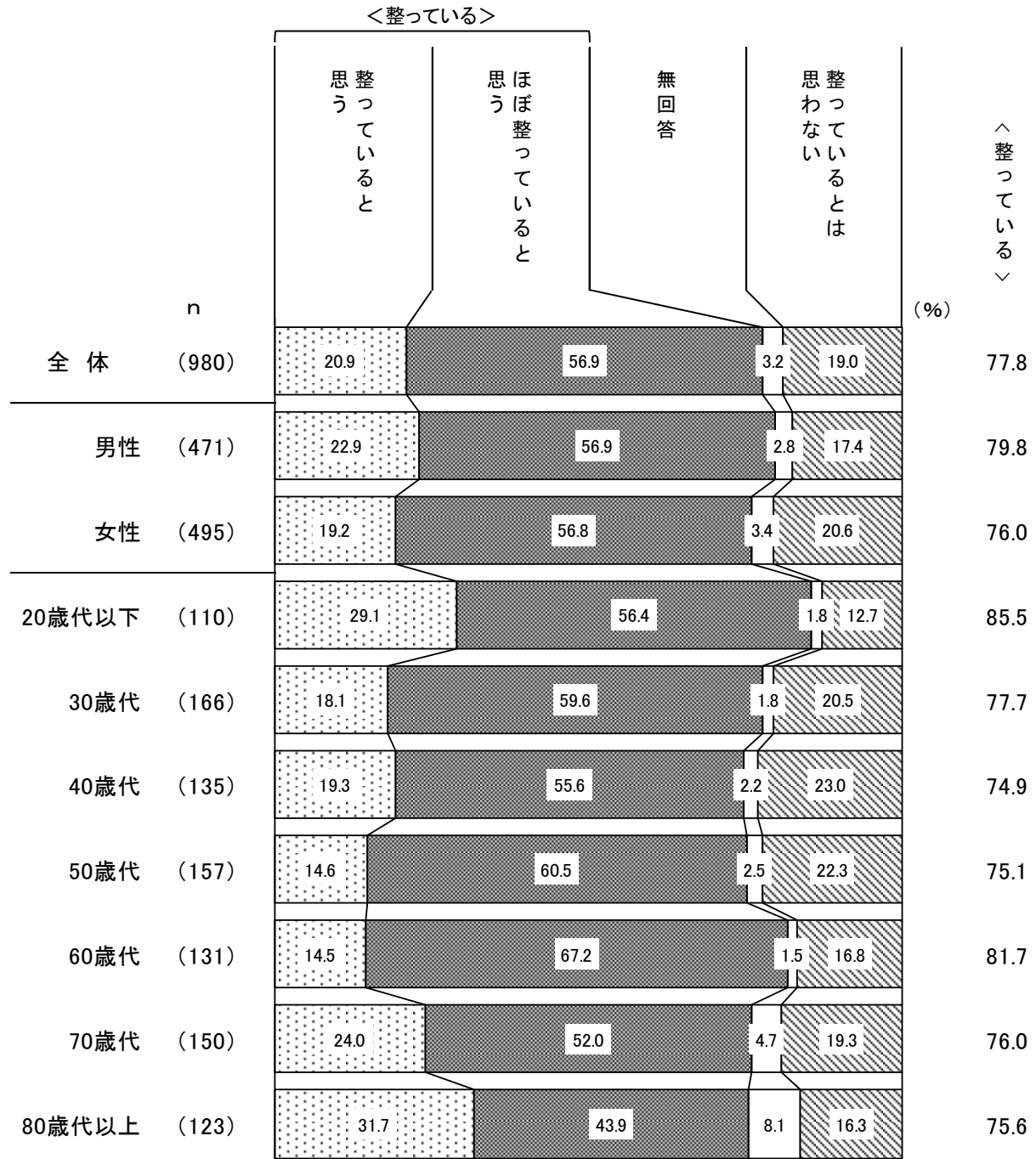
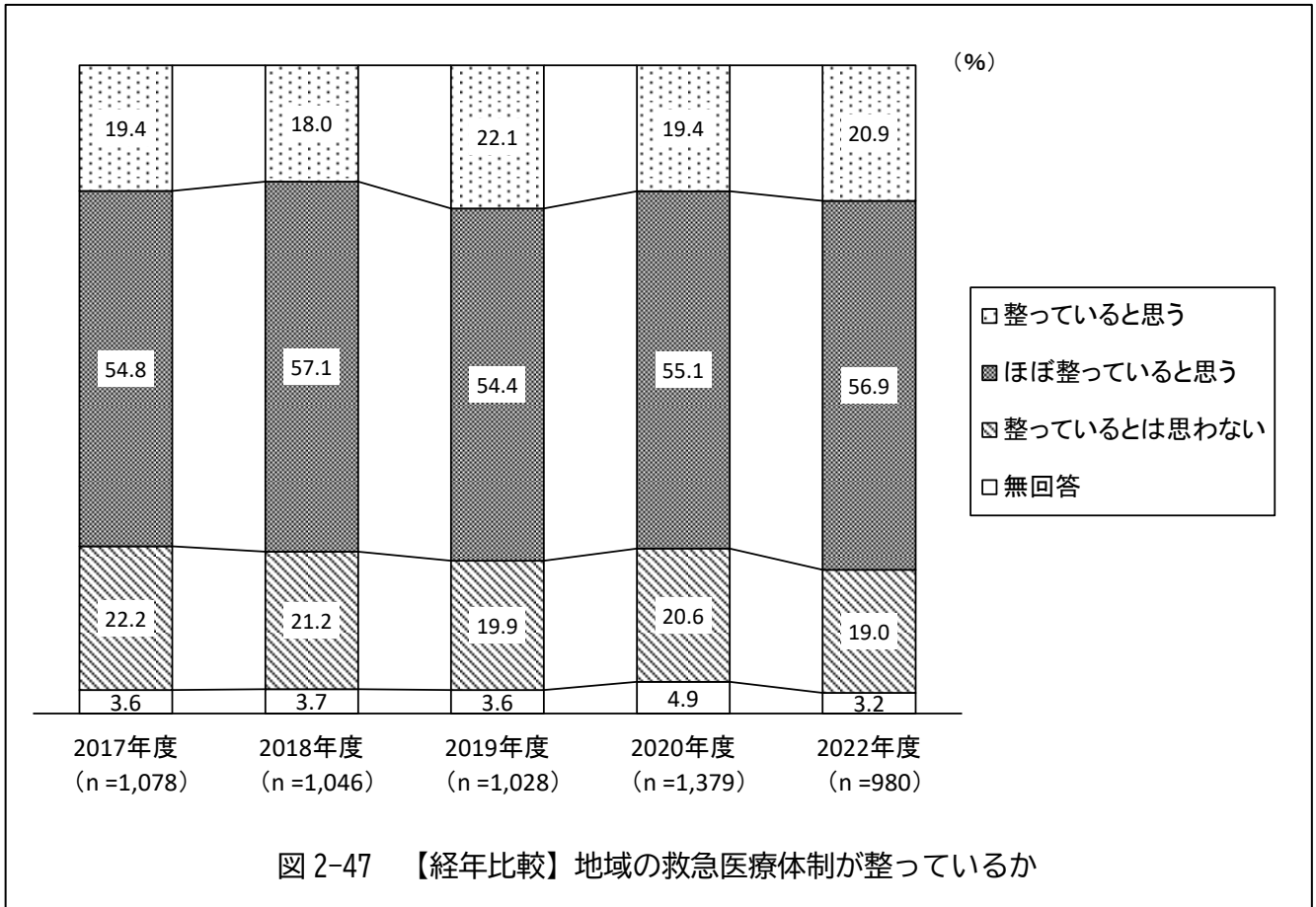


図 2-46 【性・年代別】地域の救急医療体制が整っているか

自宅のある地域で救急医療の体制が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(20.9%)と「ほぼ整っていると思う」(56.9%)を合わせた<整っている>で77.8%となっている。性別にみると、<整っている>は男性(79.8%)が女性(76.0%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、<整っている>は20歳代以下と60歳代で8割を超えて高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.17. 医療・介護サービスや見守り環境が整っているか

◆医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が＜整っている＞は約6割

(全員の方に)

問 30. 介護や病気で療養が必要になっても、医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

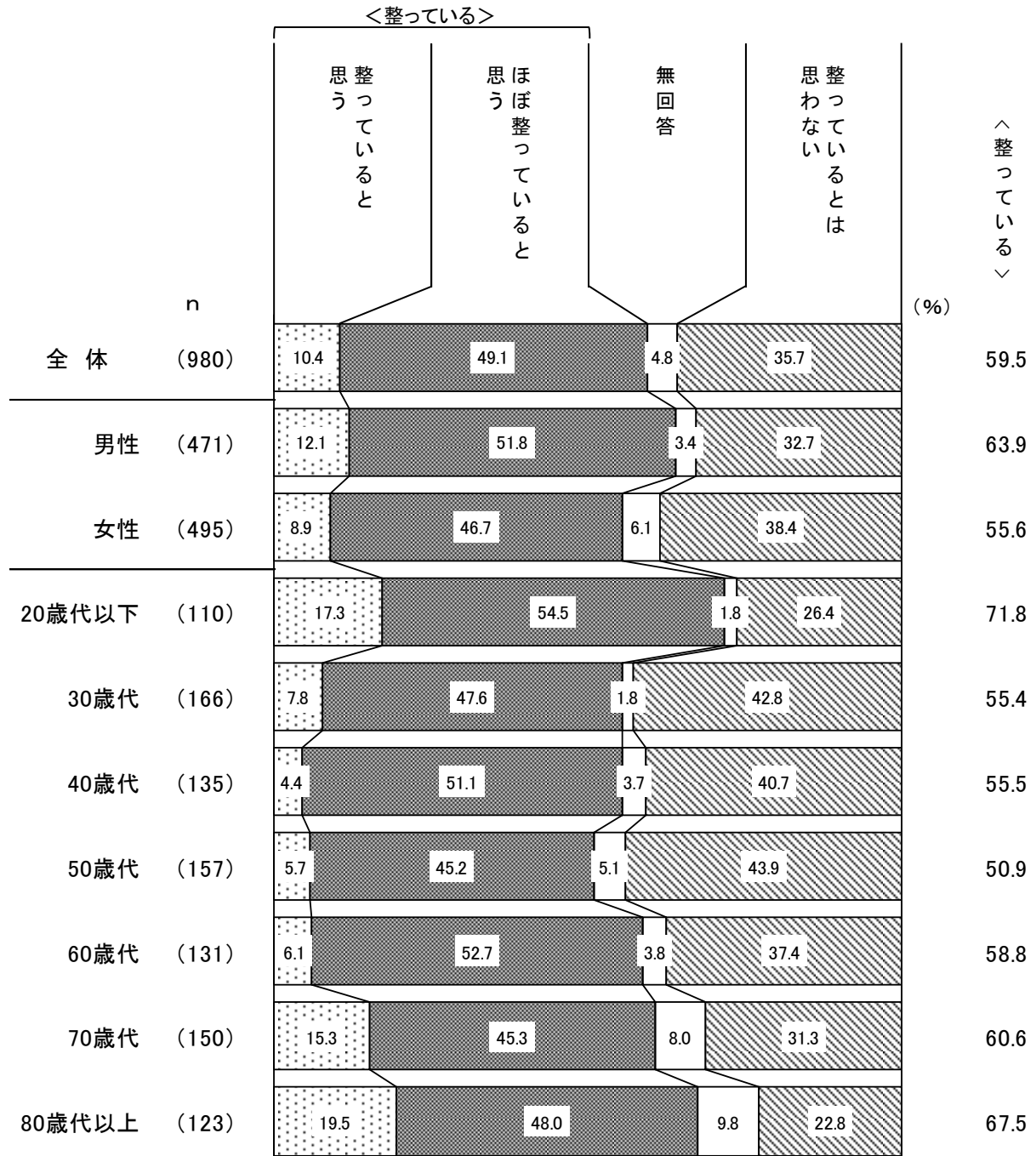


図 2-48 【性・年代別】医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が整っているか

医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(10.4%)と「ほぼ整っていると思う」(49.1%)を合わせた＜整っている＞で 59.5%となっている。性別にみると、＜整っている＞は男性(63.9%)が女性(55.6%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代で＜整っている＞が7割を超えて高くなっている。一方、30歳～50歳代で「整っているとは思わない」が4割を超えて高くなっている。

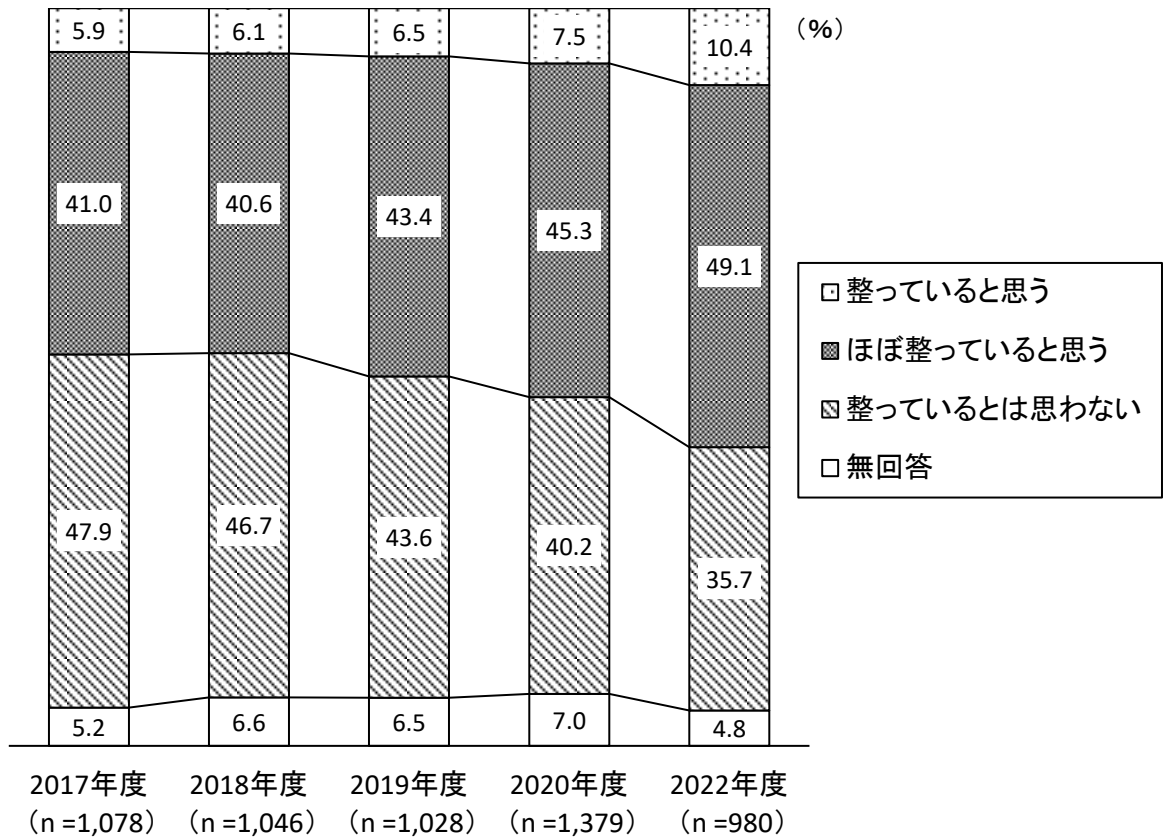


図 2-49 【経年比較】医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が整っているか

経年で比較すると、＜整っている＞の割合が増加傾向にある。

2.18. 長期療養が必要になった場合の生活

◆長期療養が必要になった場合の生活は「医療機関や施設に入院・入所したい」が3割台後半

(全員の方に)

問 31. 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはどのような生活をお考えですか。(〇は1つ)

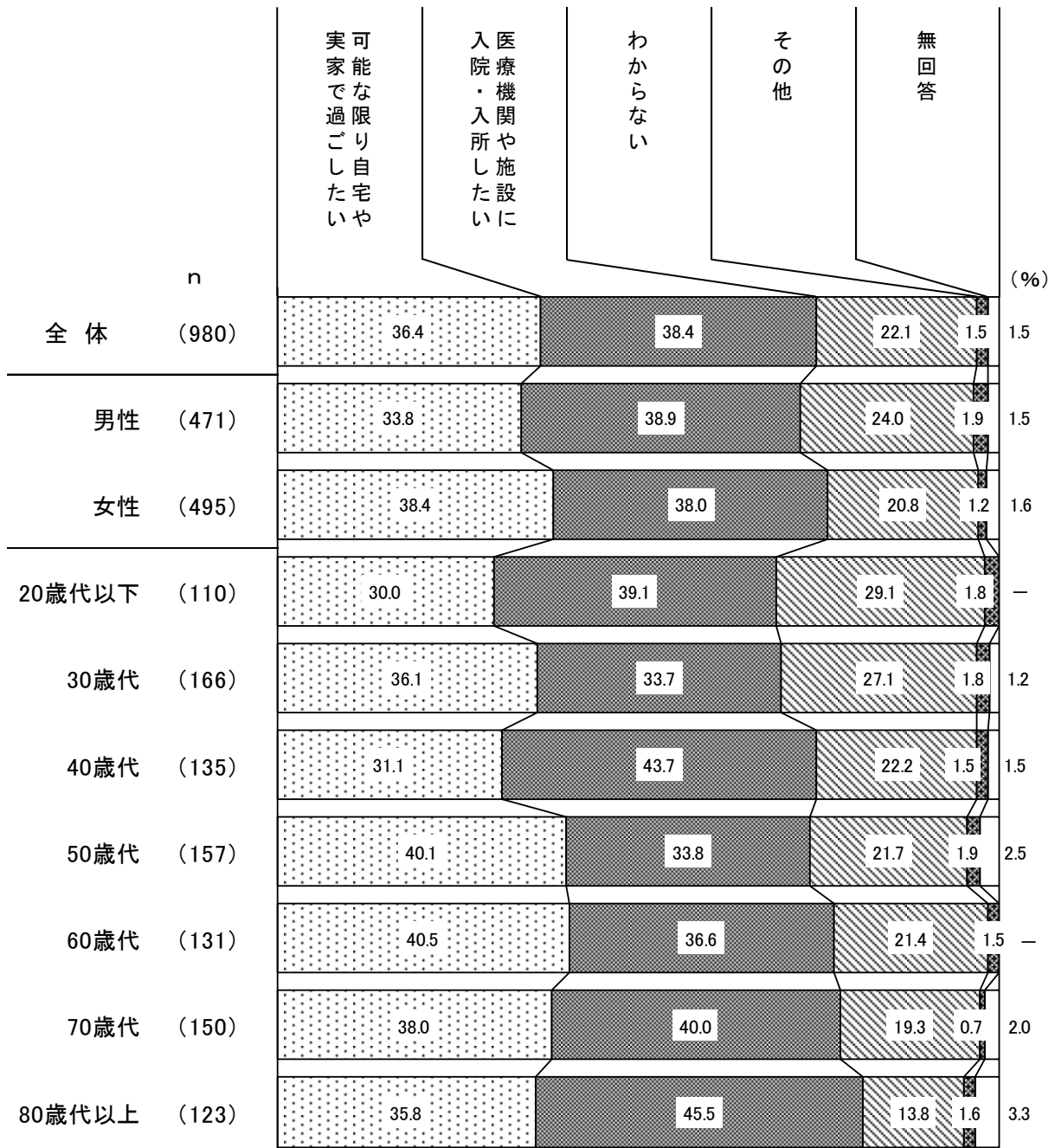


図 2-50 【性・年代別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活は、「医療機関や施設に入院・入所したい」が38.4%で最も高く、次いで「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が36.4%、「わからない」が22.1%となっている。性別にみると、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」は女性(38.4%)が男性(33.8%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下や40歳代、70歳代以上で「医療機関や施設に入院・入所したい」、30歳代や50歳～60歳代で「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合が比較的高くなっている。

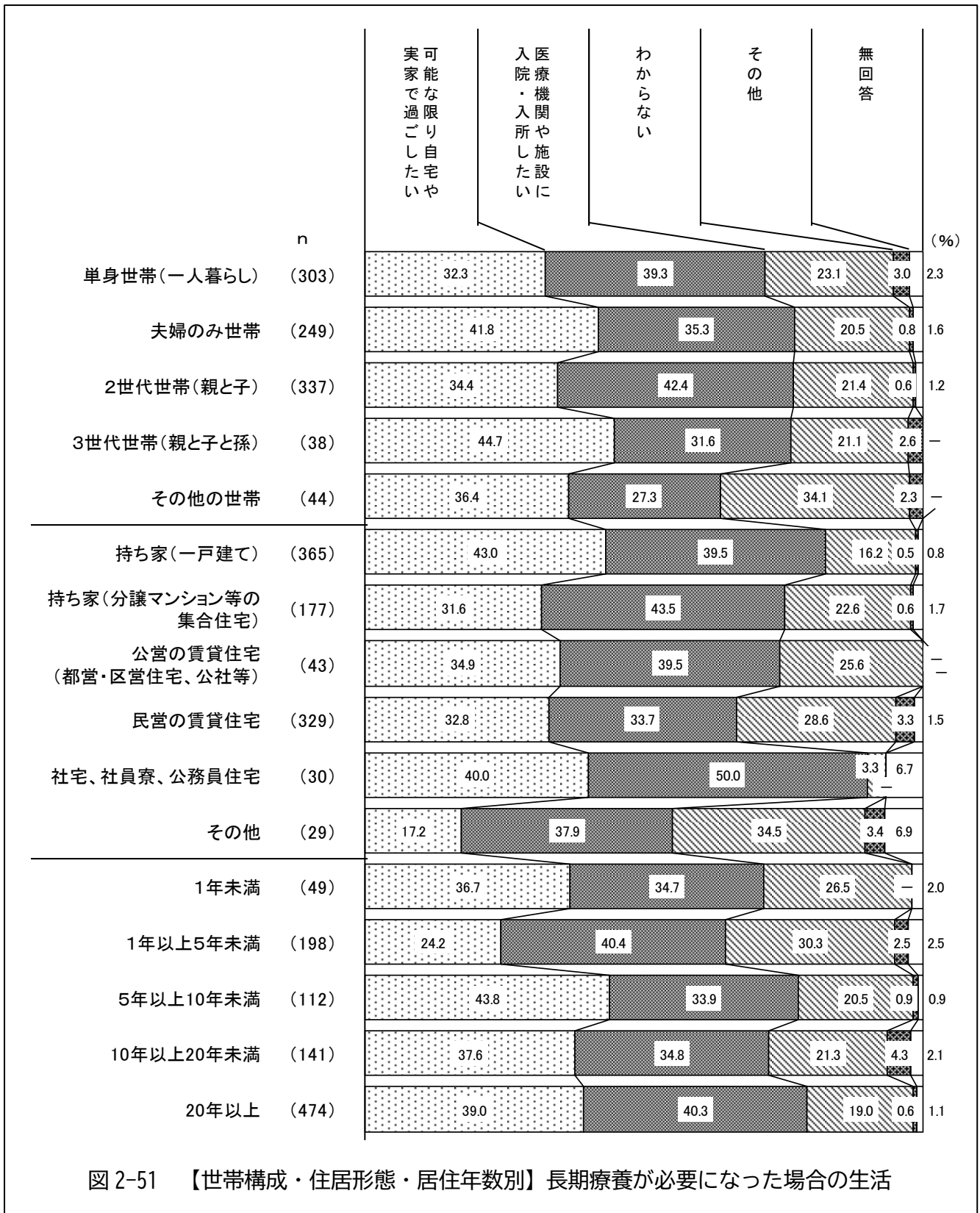


図 2-51 【世帯構成・住居形態・居住年数別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を世帯構成・住居形態・居住年数別にみると、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合は、世帯構成が「夫婦のみ世帯」「3世代世帯(親と子と孫)」、住居形態が「持ち家(一戸建て)」、居住年数が「5年以上10年未満」などで高くなっている。

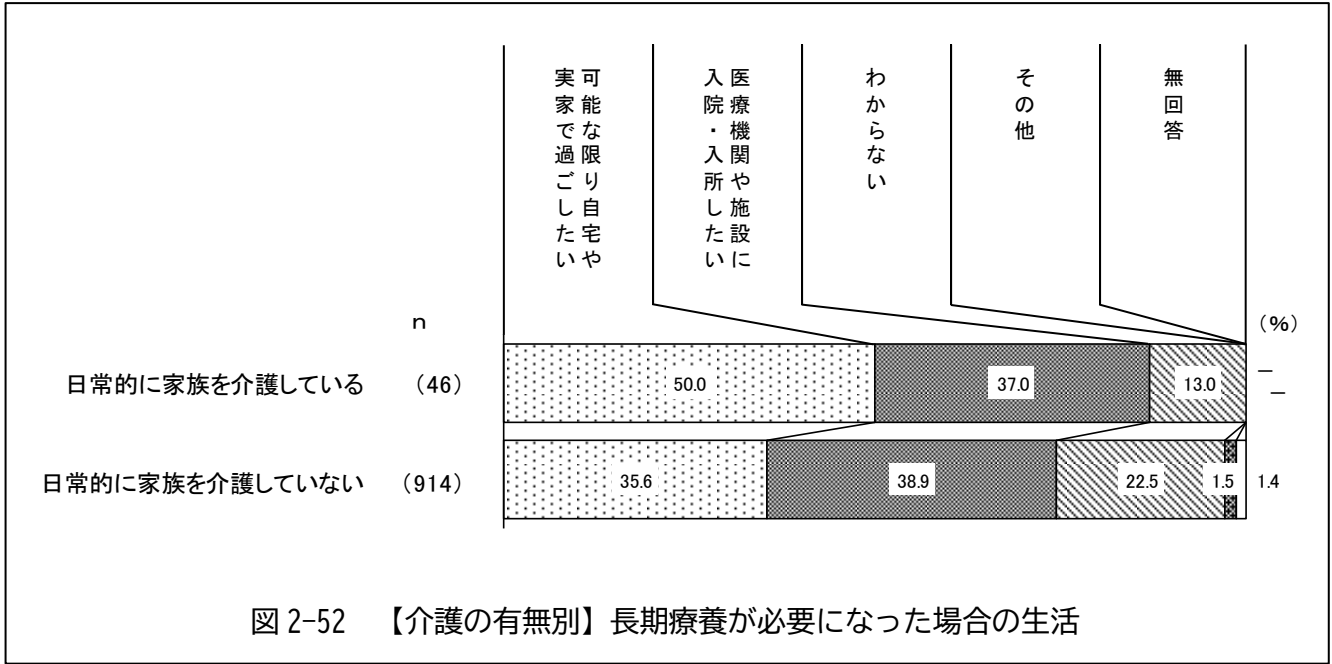


図 2-52 【介護の有無別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を介護の有無別で見ると、日常的に家族を介護している人は「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」、日常的に家族を介護していない人は「医療機関や施設に入院・入所したい」の割合が高くなっている。

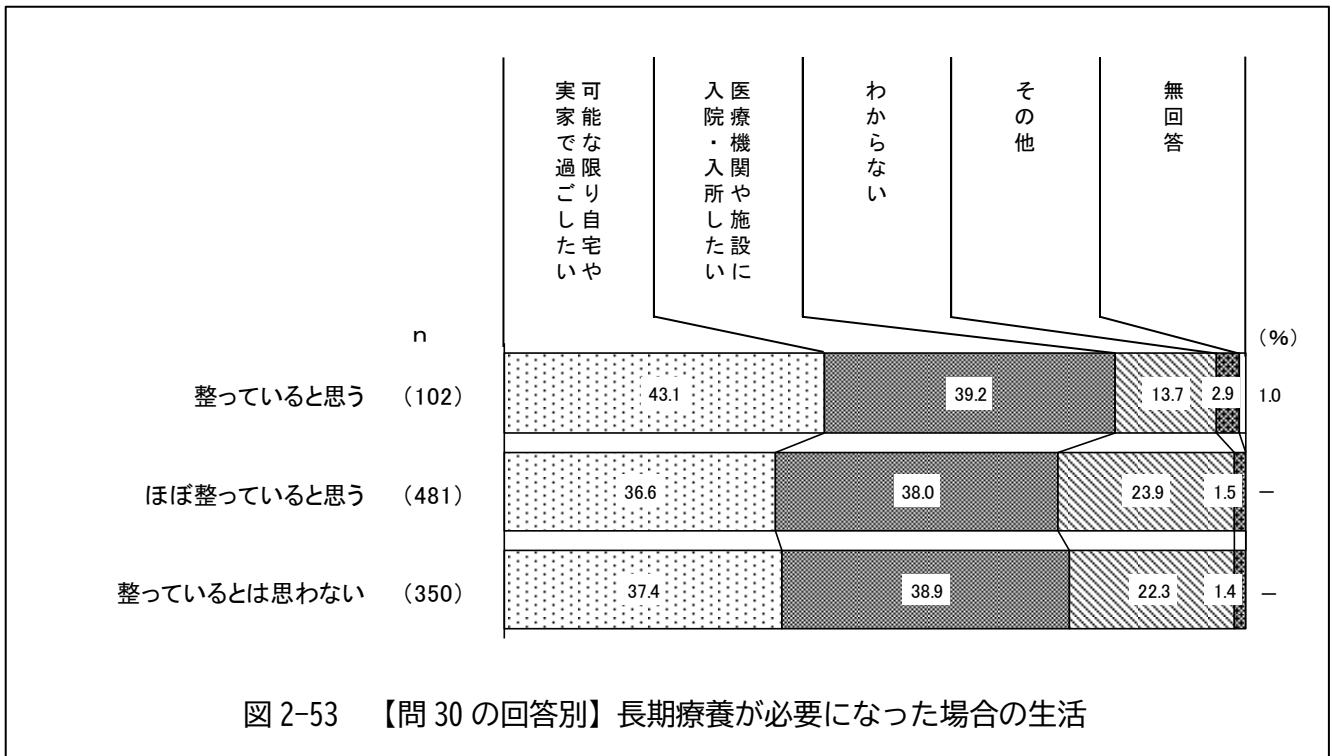
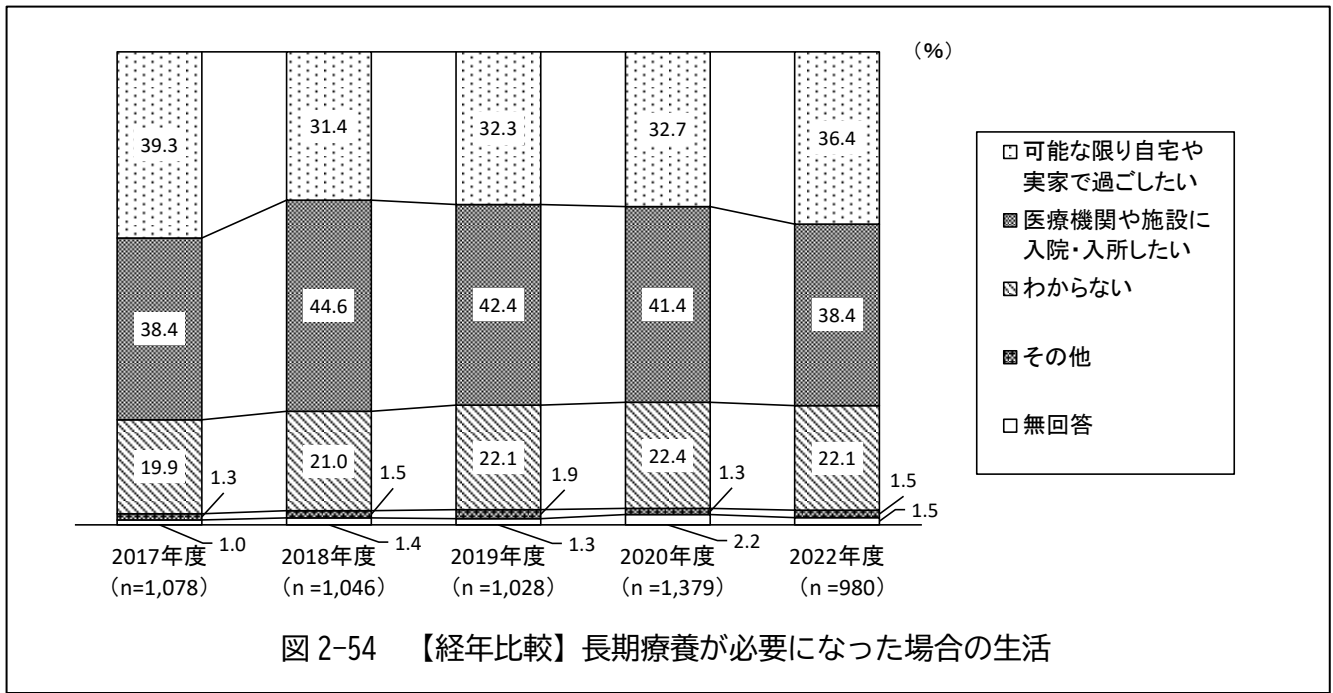


図 2-53 【問 30 の回答別】長期療養が必要になった場合の生活

問 30（医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うか）の回答別で見ると、「整っていると思う」と回答した人は、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合が高くなっている。





経年で比較すると、2022年度は「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合が増加している。

2.18.1. 長期療養の際、入院・入所したい理由

◆長期療養の際に入院・入所したい理由は「家族に負担をかけるから」が7割台前半

(問 31 で「2. 医療機関や施設に入院・入所したい」に○をつけた方に)  
 問 31-1. あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

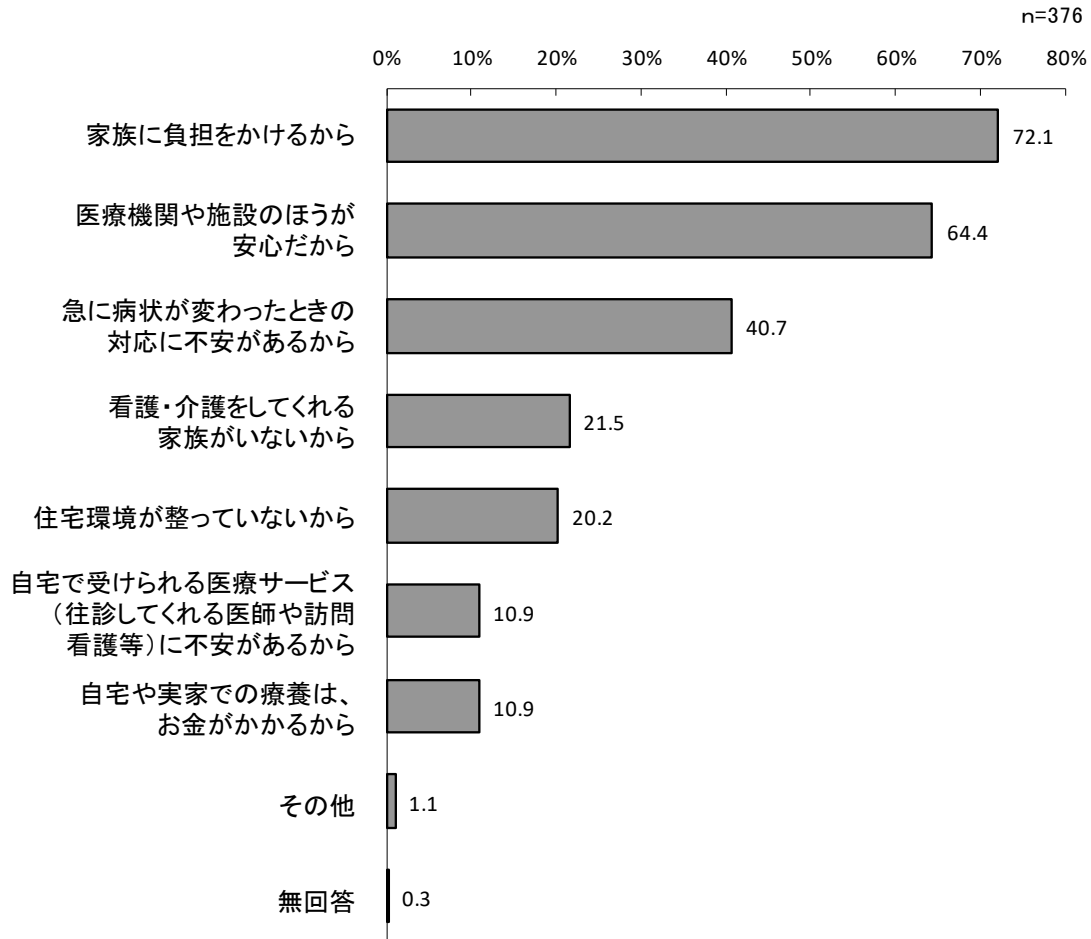


図 2-55 長期療養の際、入院・入所したい理由

長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい方にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」が72.1%で最も高く、次いで「医療機関や施設のほうが安心だから」(64.4%)、「急に病状が変わったときの対応に不安があるから」(40.7%)となっている。

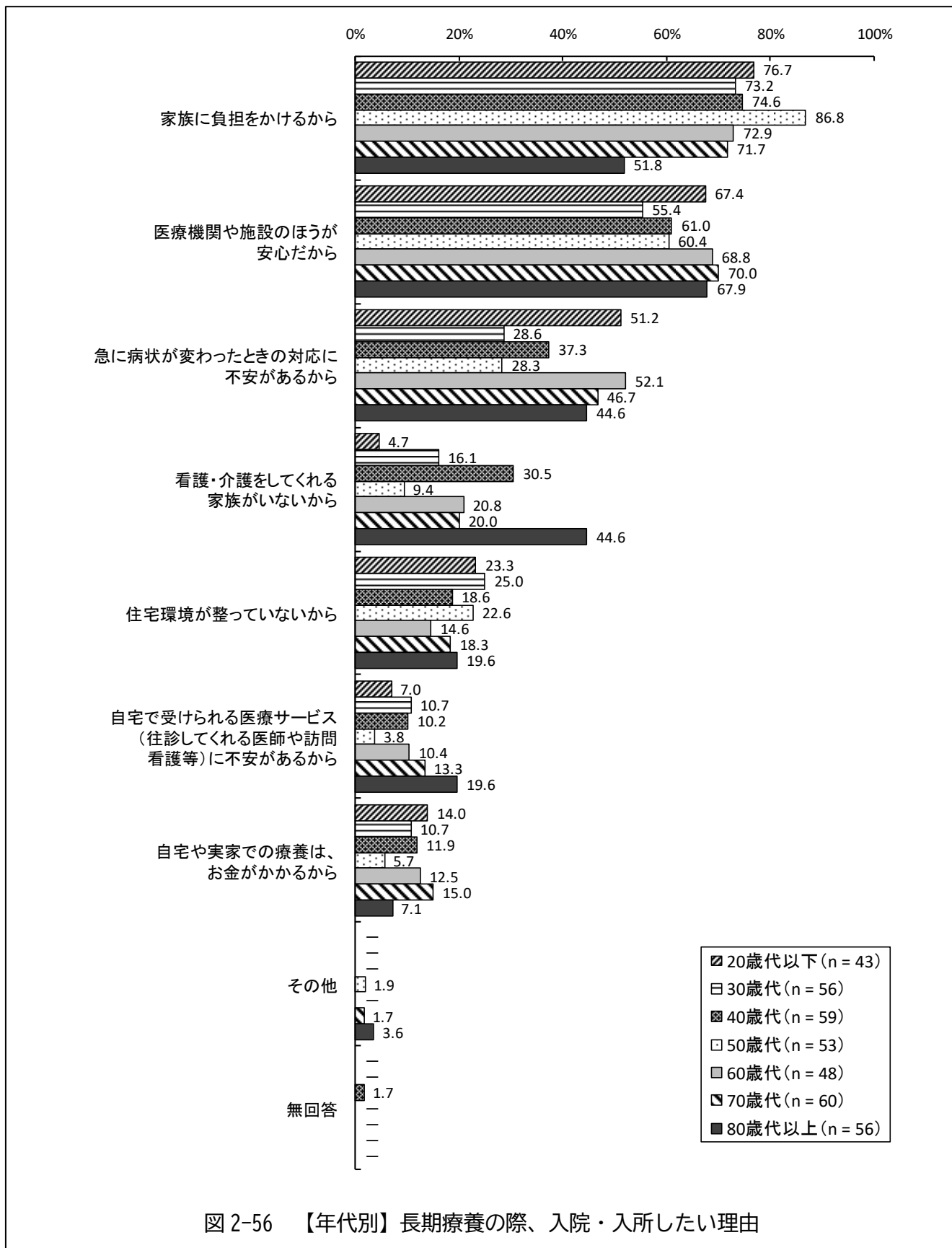
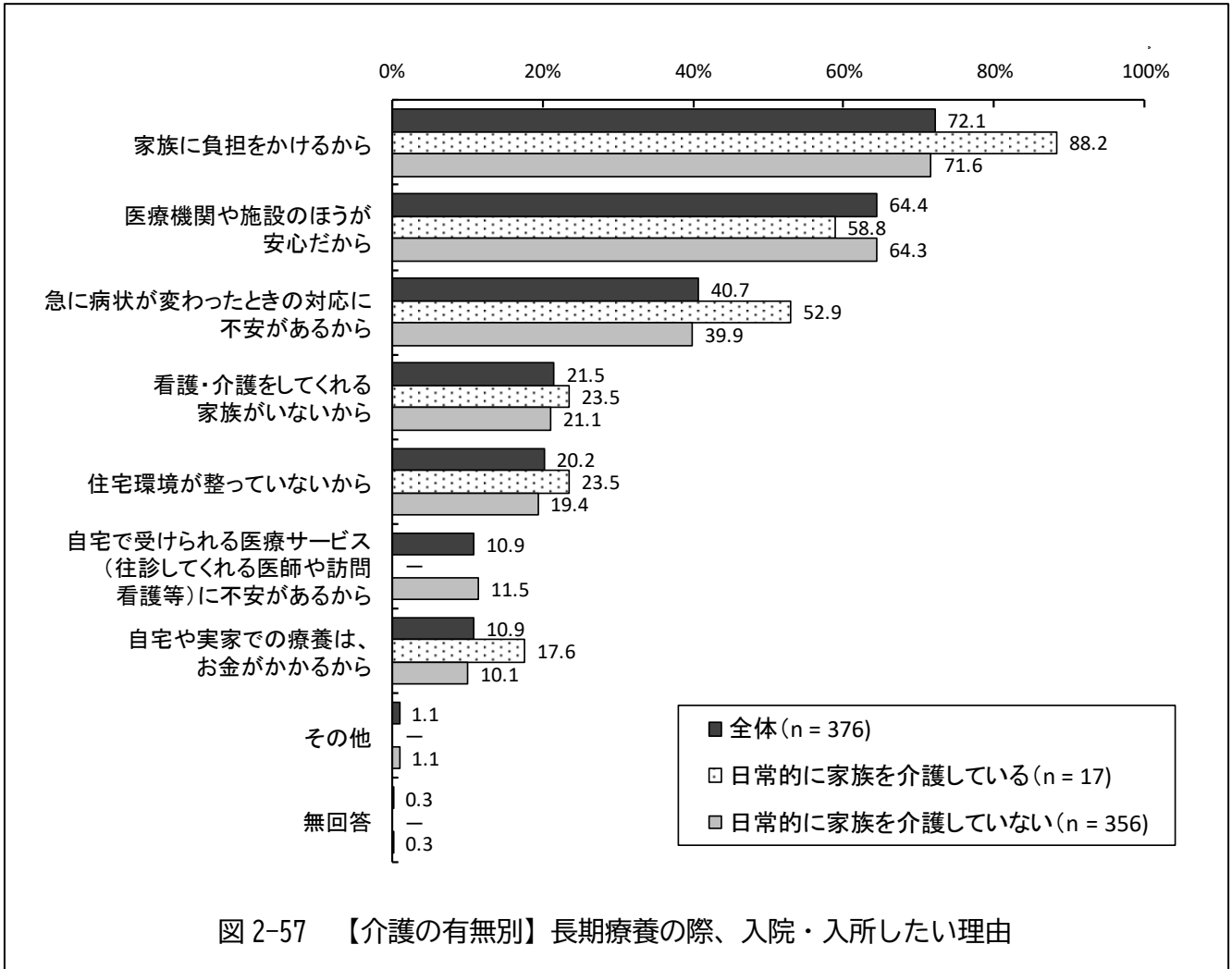
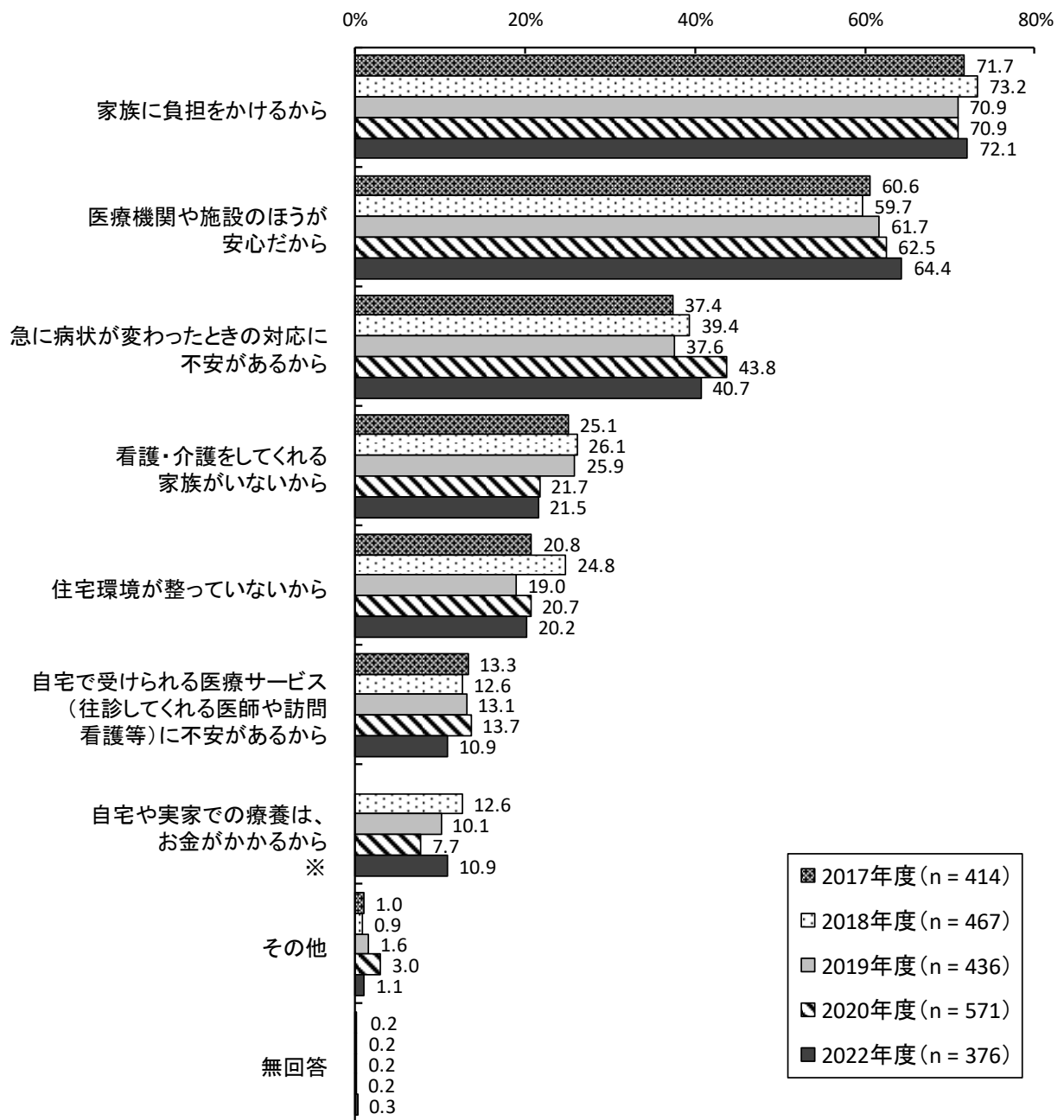


図 2-56 【年代別】長期療養の際、入院・入所したい理由

長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい理由を年代別にみると、20歳～70歳代では「家族に負担をかけるから」、80歳代以上では「医療機関や施設のほうが安心だから」の割合が最も高くなっている。



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。



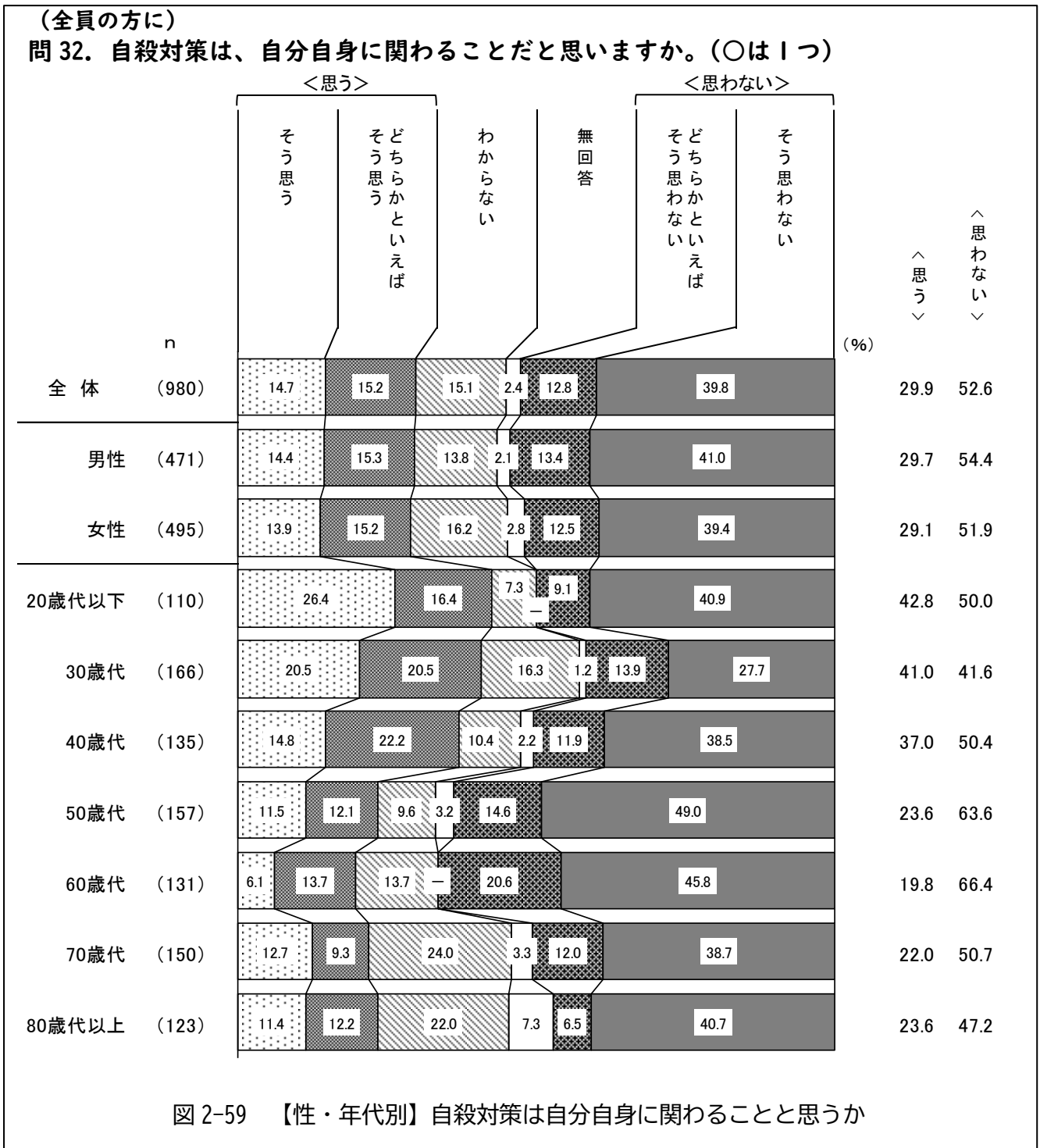
※2017年度は「自宅や実家での療養は、お金がかかるから」の選択肢はない

図 2-58 【経年比較】長期療養の際、入院・入所したい理由

経年で比較すると、「医療機関や施設のほうが安心だから」が増加傾向にある。

2.19. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか

◆自殺対策は自分自身に関わること<思う>が約3割



自殺対策は自分自身に関わることと思うかについては、「そう思う」(14.7%)と「どちらかといえばそう思う」(15.2%)を合わせた<思う>が29.9%に対し、「そう思わない」(39.8%)と「どちらかといえばそう思わない」(12.8%)を合わせた<思わない>は52.6%となっている。年代別にみると、20歳代以下と30歳代で<思う>が4割を超えており、他の年代と比較して高くなっている。

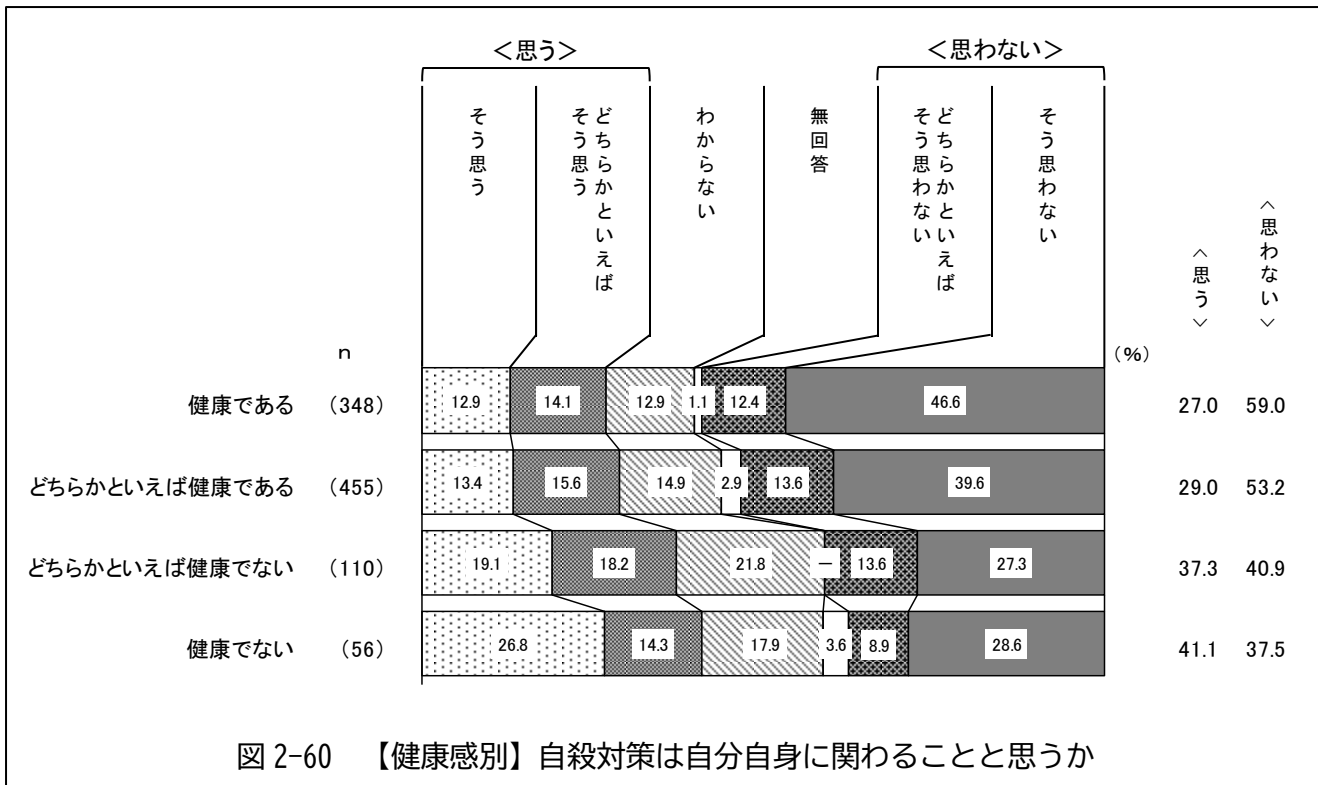


図 2-60 【健康感別】自殺対策は自分自身に関わることと思うか

健康感別にみると、健康でないと感じている人の方が、自殺対策は自分自身に関わることと思う割合が高くなっている。

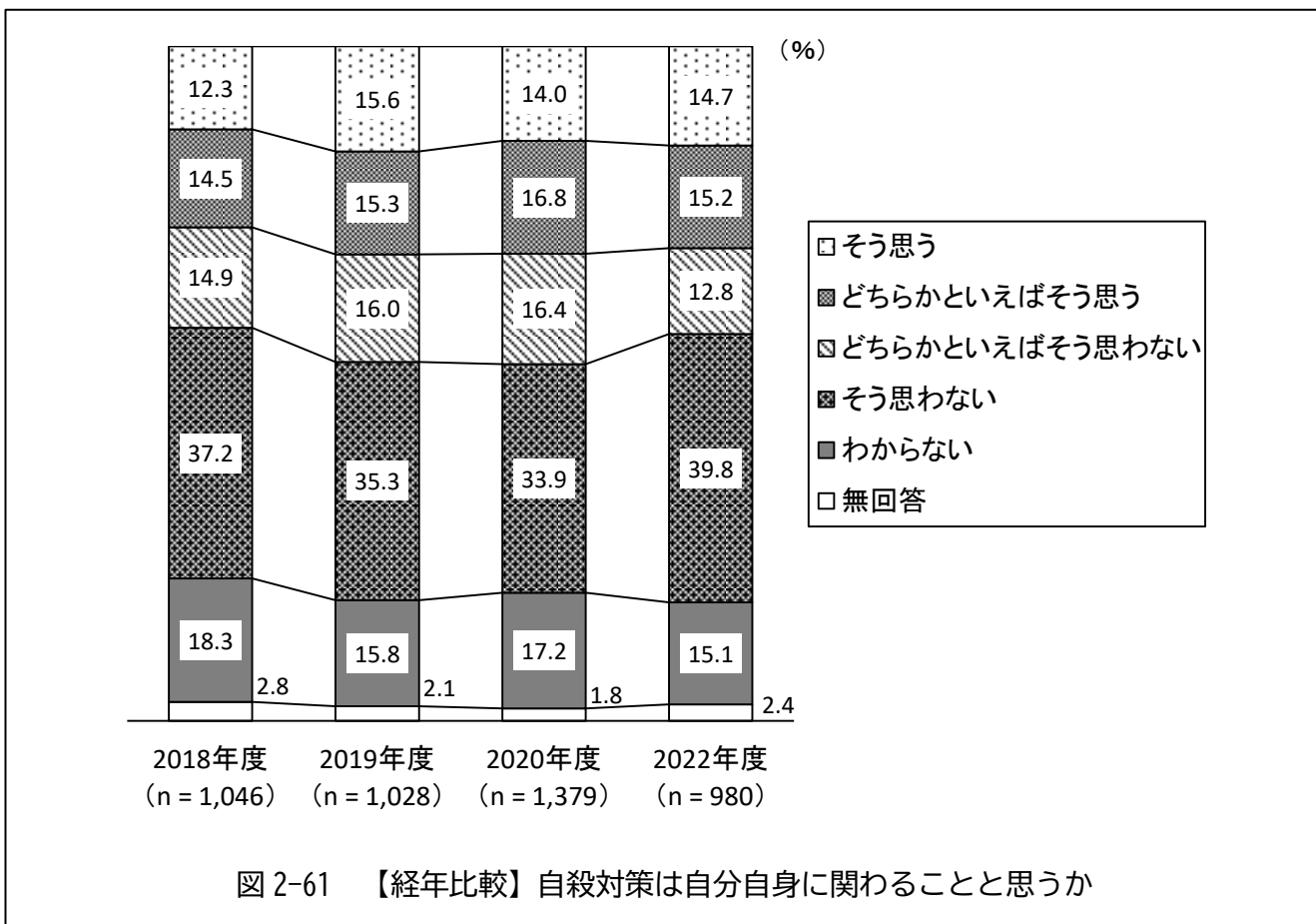
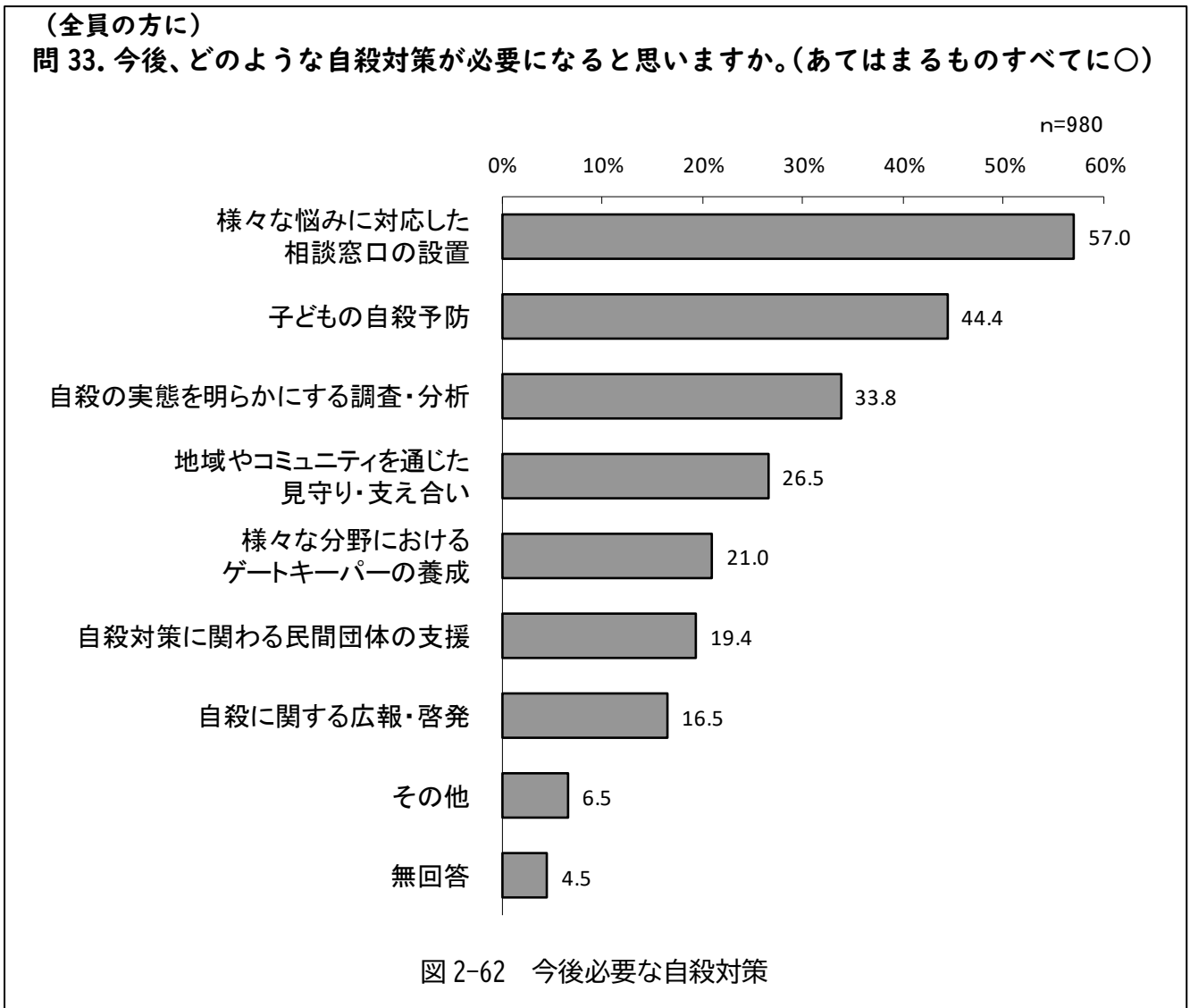


図 2-61 【経年比較】自殺対策は自分自身に関わることと思うか

経年で比較すると、2022年度は「そう思わない」が約6ポイント増加している。

2.20. 今後必要な自殺対策

◆今後必要な自殺対策は「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が5割台後半



今後必要な自殺対策は、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(57.0%)が最も高く、次いで「子どもの自殺予防」(44.4%)、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」(33.8%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(26.5%)となっている。

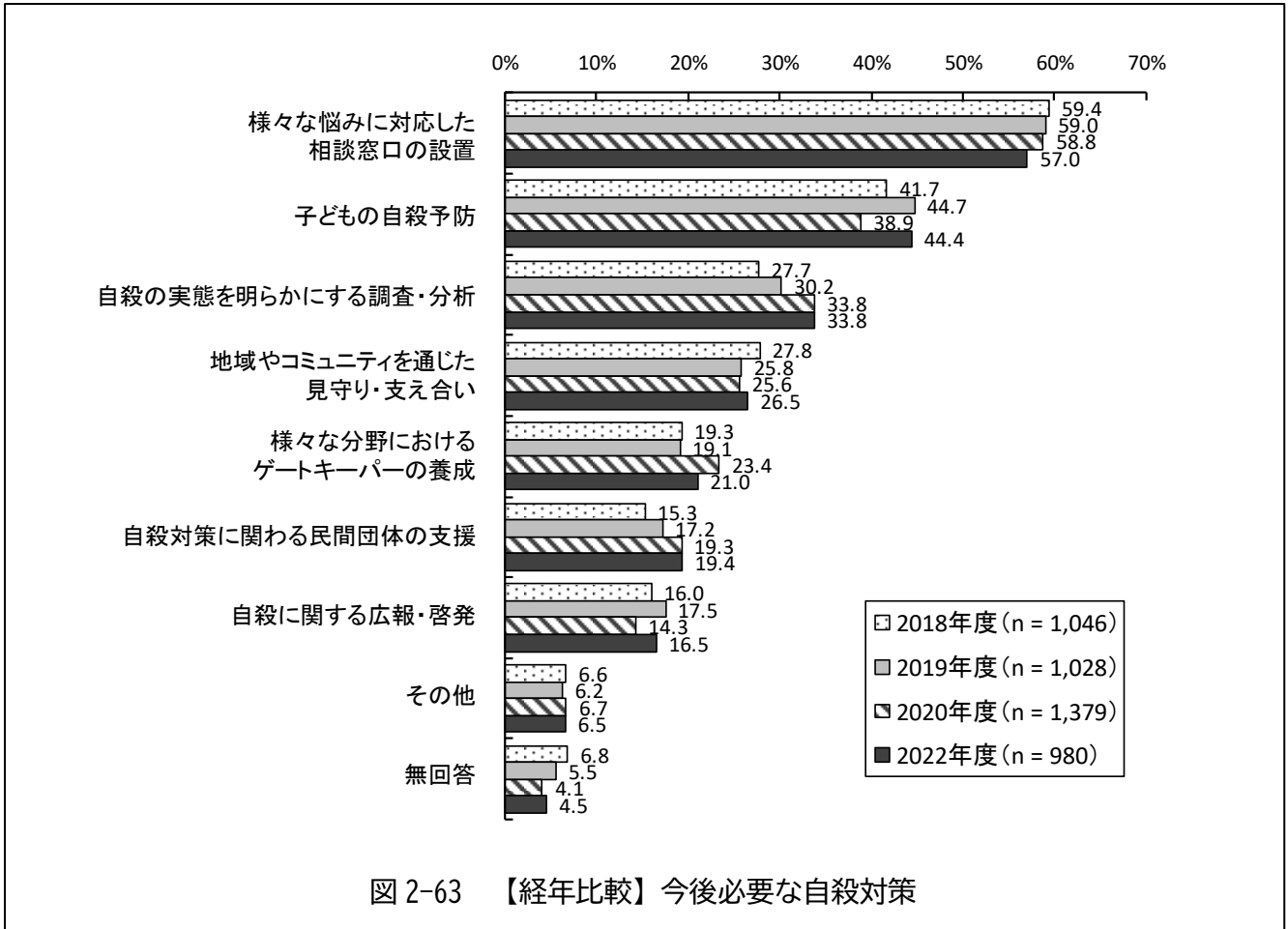


表 2-12 【性・年代別】今後必要な自殺対策

単位：%

区分	有効回答数（件）	自殺の実態を明らかにする調査・分析	様々な分野におけるゲートキーパーの養成	地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	様々な悩みに対応した相談窓口の設置	民間団体の支援	自殺対策に関する広報・啓発	子どもの自殺予防	その他	無回答
全体	980	33.8	21.0	26.5	57.0	19.4	16.5	44.4	6.5	4.5
男性	471	38.0	18.7	25.3	52.7	18.3	18.9	39.1	7.6	2.5
女性	495	29.9	23.2	27.9	60.6	20.4	14.1	49.7	5.5	6.5
20歳代以下	110	40.9	20.0	21.8	53.6	18.2	14.5	54.5	6.4	—
30歳代	166	36.1	27.7	24.7	48.8	16.9	18.1	57.2	6.6	1.2
40歳代	135	38.5	25.9	25.2	55.6	22.2	18.5	54.1	5.9	3.7
50歳代	157	32.5	24.2	29.3	68.2	24.8	20.4	46.5	3.8	3.8
60歳代	131	26.7	20.6	27.5	58.0	23.7	13.0	39.7	7.6	3.1
70歳代	150	29.3	13.3	26.7	58.0	17.3	16.7	30.7	8.0	6.0
80歳代以上	123	34.1	12.2	29.3	55.3	12.2	12.2	27.6	7.3	14.6

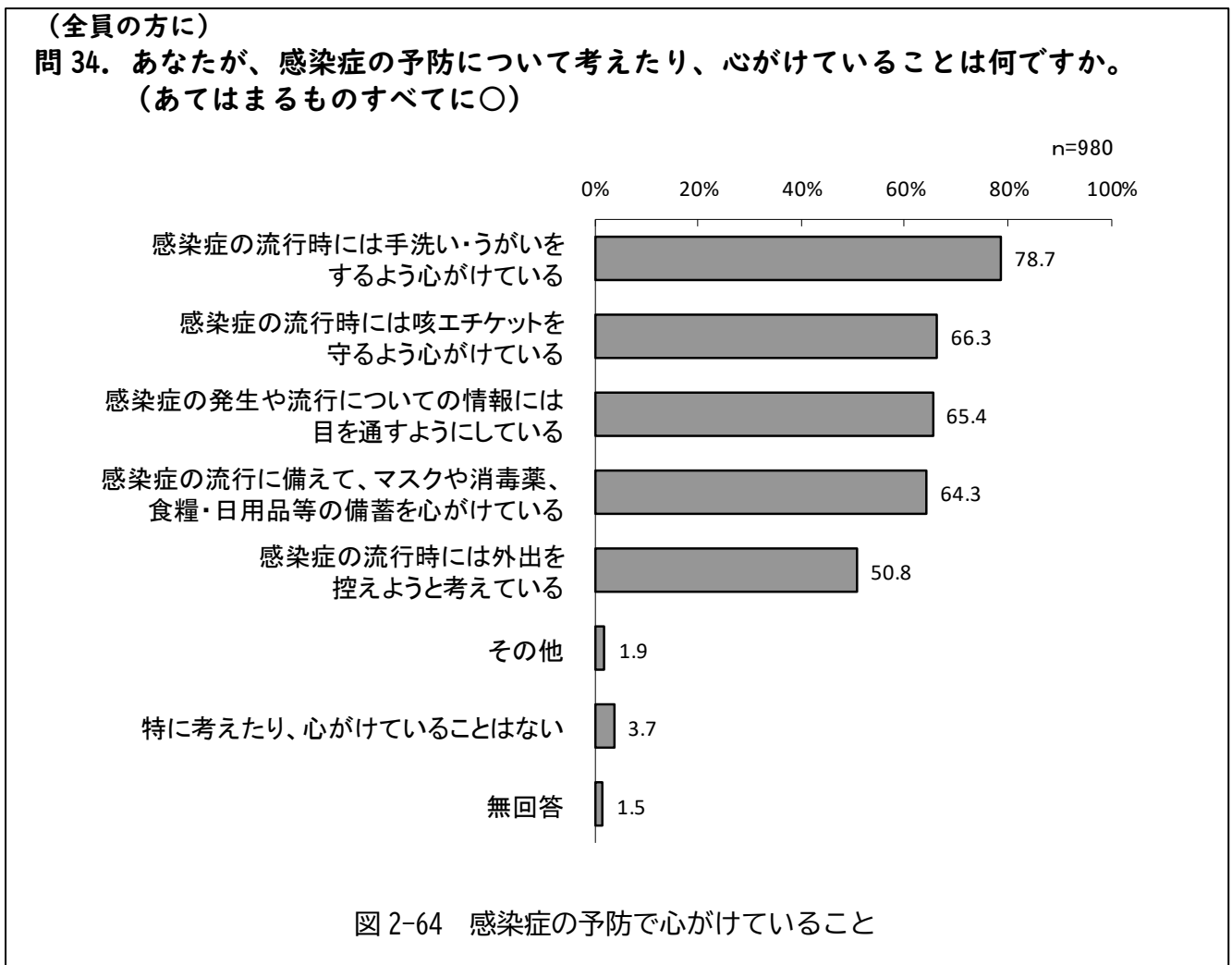
性別にみると、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」は男性、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」「子どもの自殺予防」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、30歳代以下では「子どもの自殺予防」、40歳代以上では「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が1位となっている。



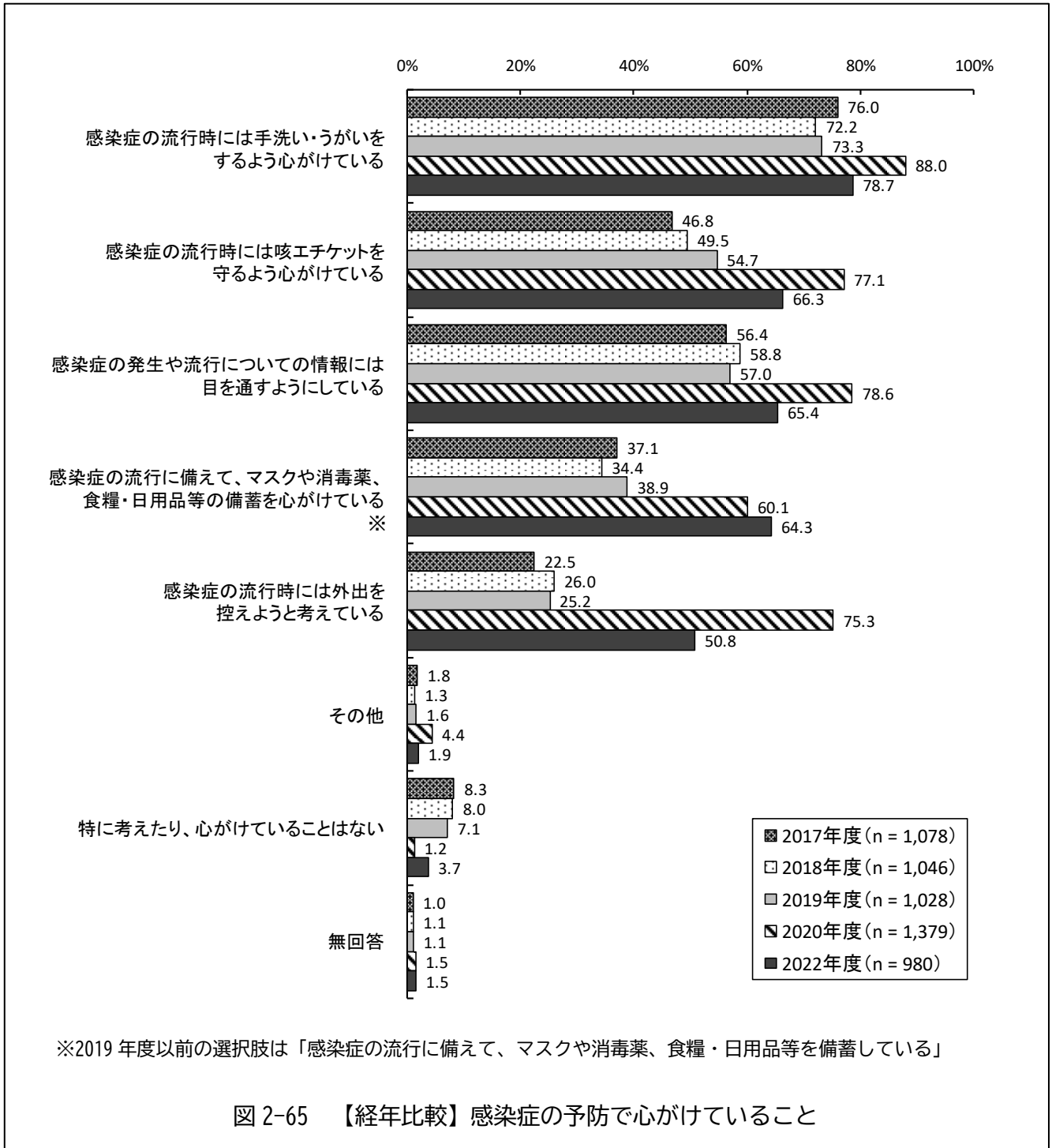
経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ、「子どもの自殺予防」が5.5ポイント増加している。

2.21. 感染症の予防で心がけていること

◆感染症の予防では「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が7割台後半



感染症の予防について考えたり、心がけていることは、「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が78.7%で最も高く、次いで「感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている」(66.3%)、「感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている」(65.4%)、「感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている」(64.3%)となっている。



経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ「感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている」を除き、すべての項目で減少しており、特に「感染症の流行時には外出を控えようと考えている」は大幅に減少している。

2.22. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

◆何らかの加工食品等の栄養成分表示を<参考にしている>が5割台半ば

(全員の方に)

問 35. 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質等の表示がされている場合がありますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

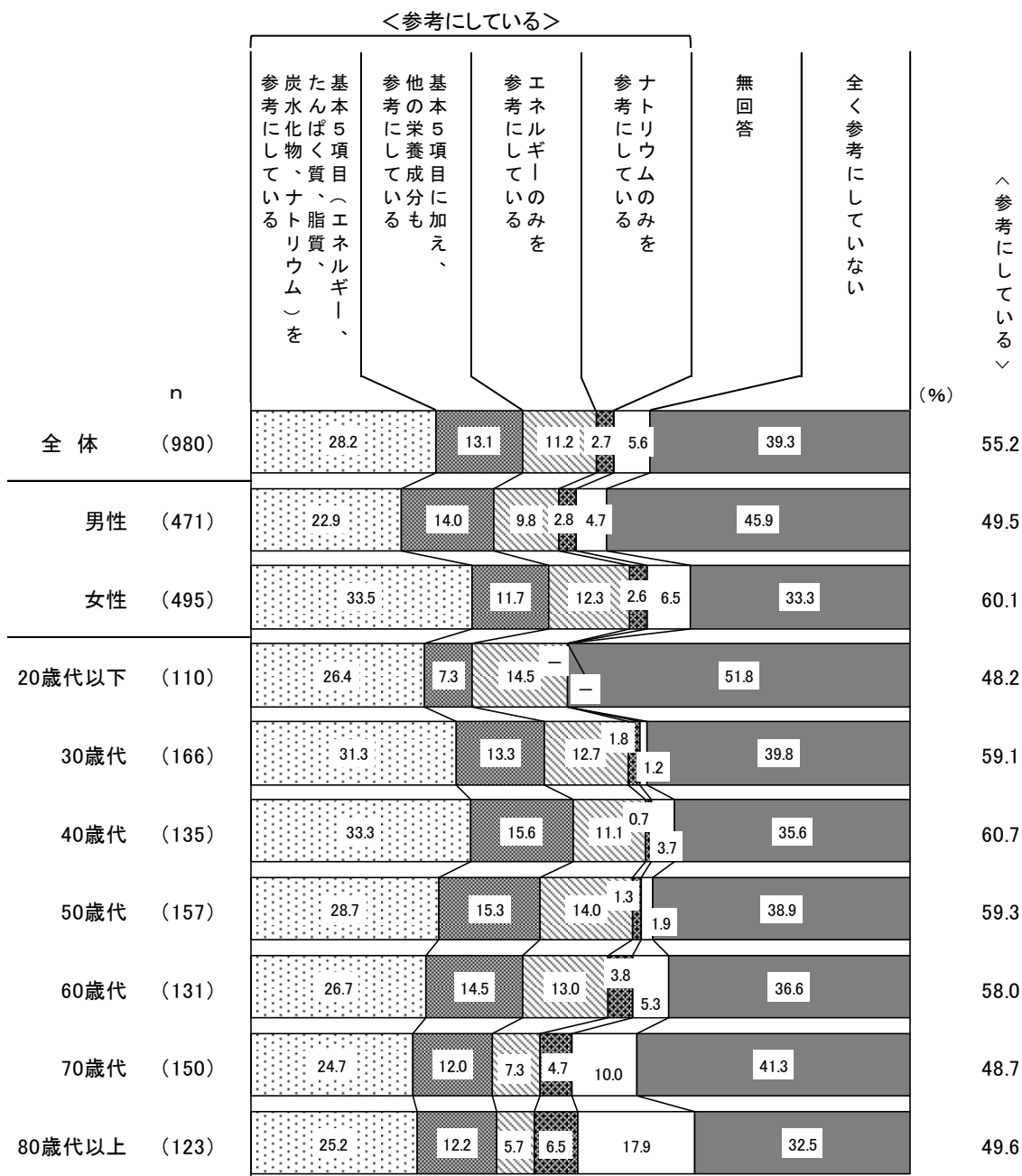


図 2-66 【性・年代別】加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

加工食品等の栄養成分表示の参考の度合いは、「全く参考にしていない」が 39.3%で最も高く、次いで「基本5項目(エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム)を参考にしている」(28.2%)となっている。性別にみると、<参考にしている>は女性(60.1%)が男性(49.5%)を約11ポイント上回っている。年代別にみると、<参考にしている>は30歳~60歳代で6割前後となっている一方、20歳代以下や70歳代以上では5割未満となっている。

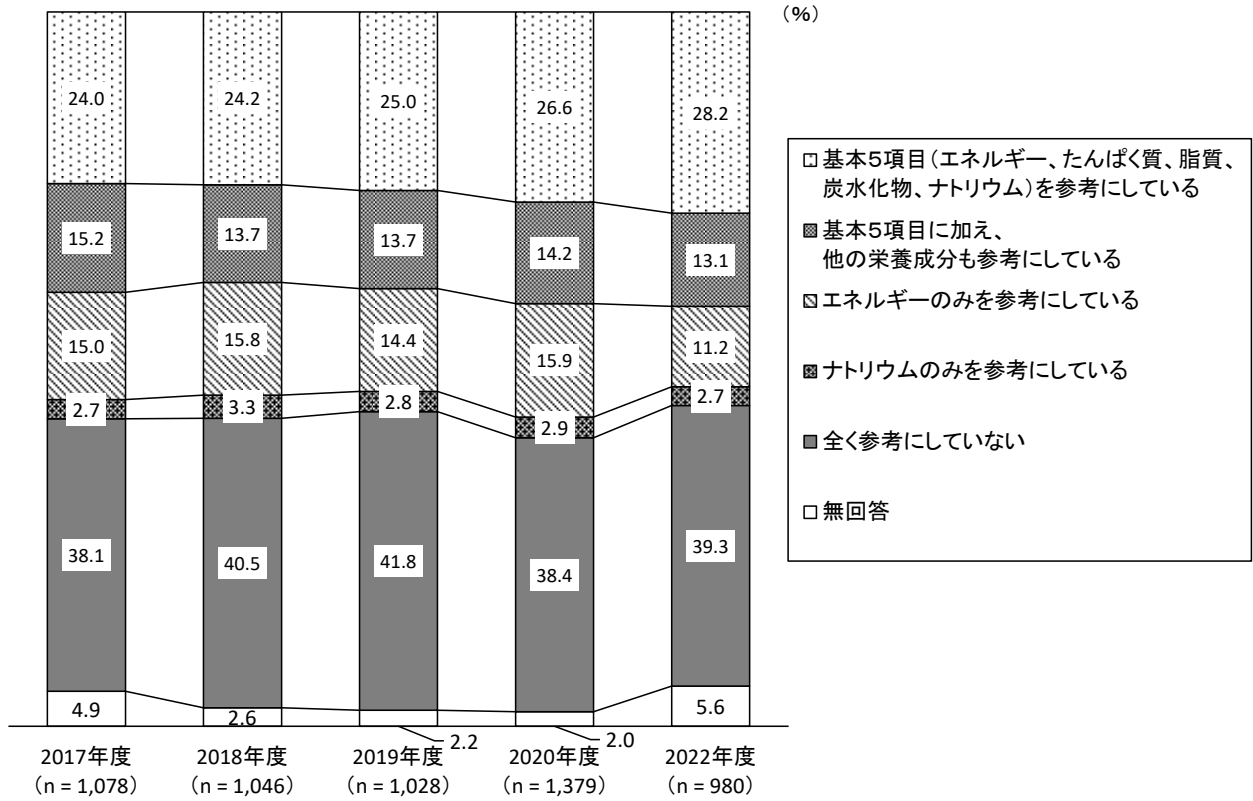


図 2-67 【経年比較】加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.23. 食中毒に関する認識

◆食中毒に関する認識は<理解している>が5割台半ば

(全員の方に)

問 36. あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

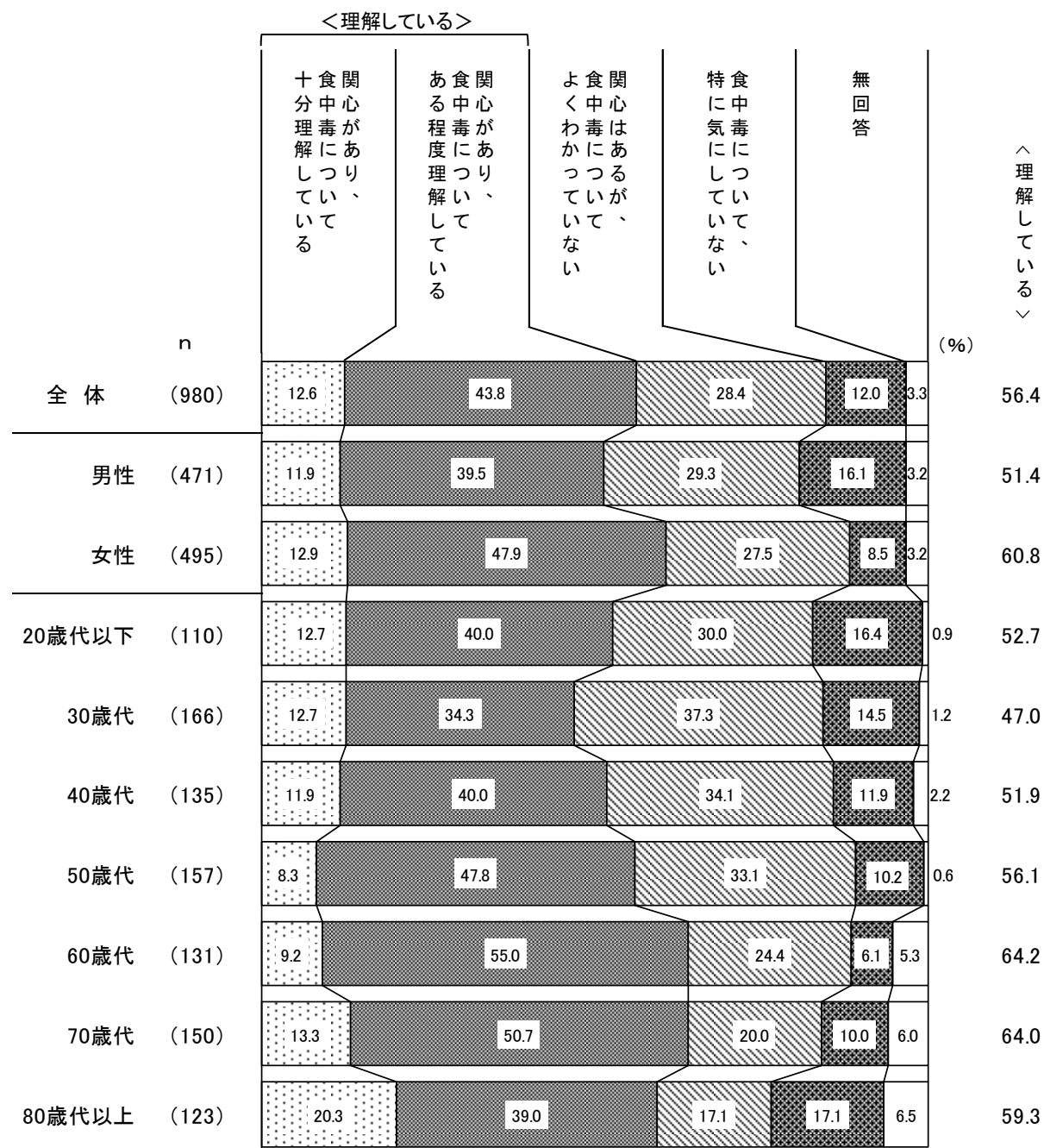
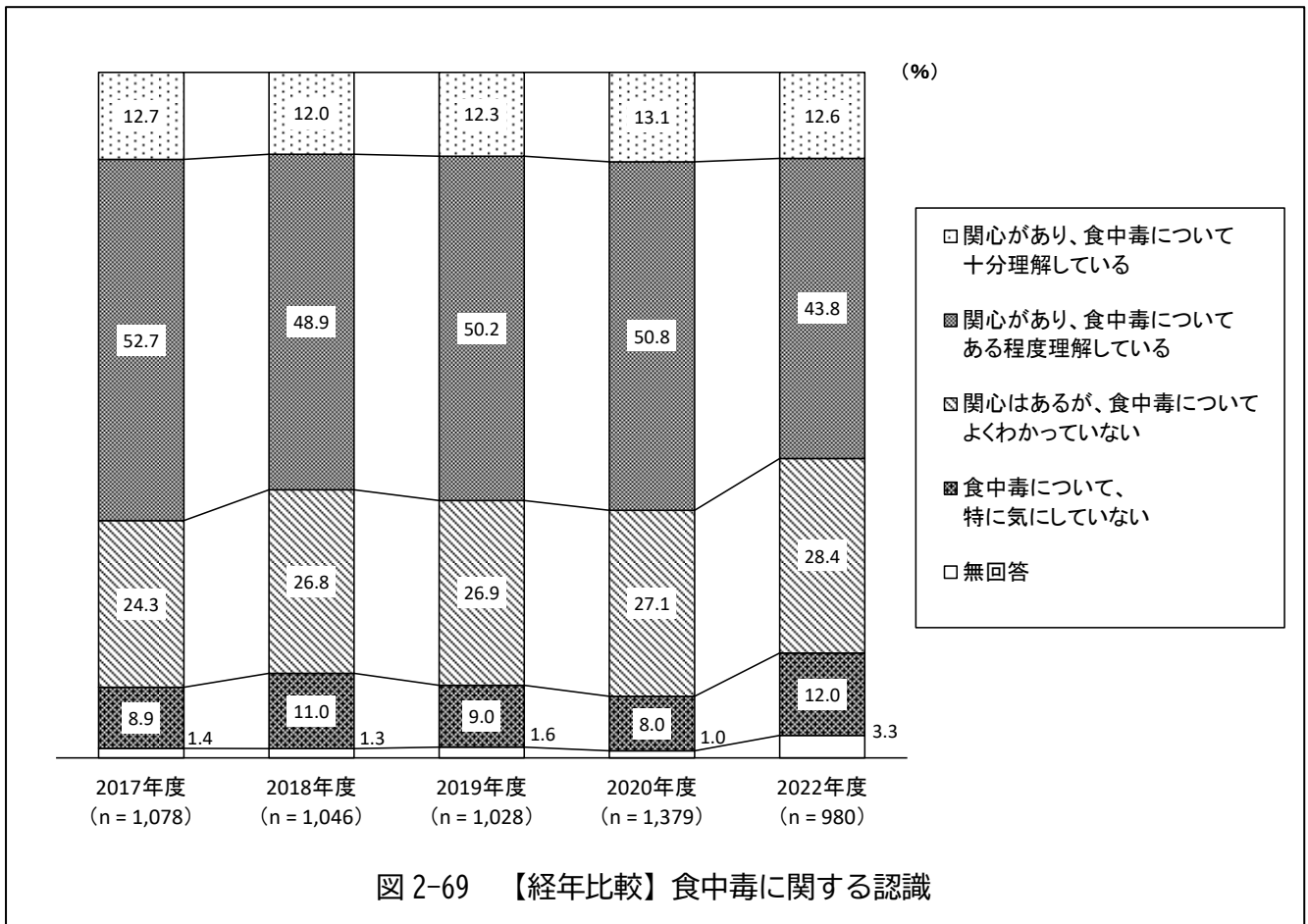


図 2-68 【性・年代別】食中毒に関する認識

食中毒に関する認識の度合いは、「関心があり、食中毒について十分理解している」(12.6%)と「関心があり、食中毒についてある程度理解している」(43.8%)を合わせた<理解している>で56.4%となっている。性別にみると、<理解している>は女性(60.8%)が男性(51.4%)を約9ポイント上回っている。年代別にみると、<理解している>は60歳~70歳代で6割台半ばと高くなっている。



経年で比較すると、2022年度は「関心があり、食中毒についてある程度理解している」が7ポイント減少している。



2.24. 喫煙の状況

◆たばこを<吸っている>人は1割台半ば

(全員の方に)  
問 37. あなたはたばこを吸いますか。(○は1つ)

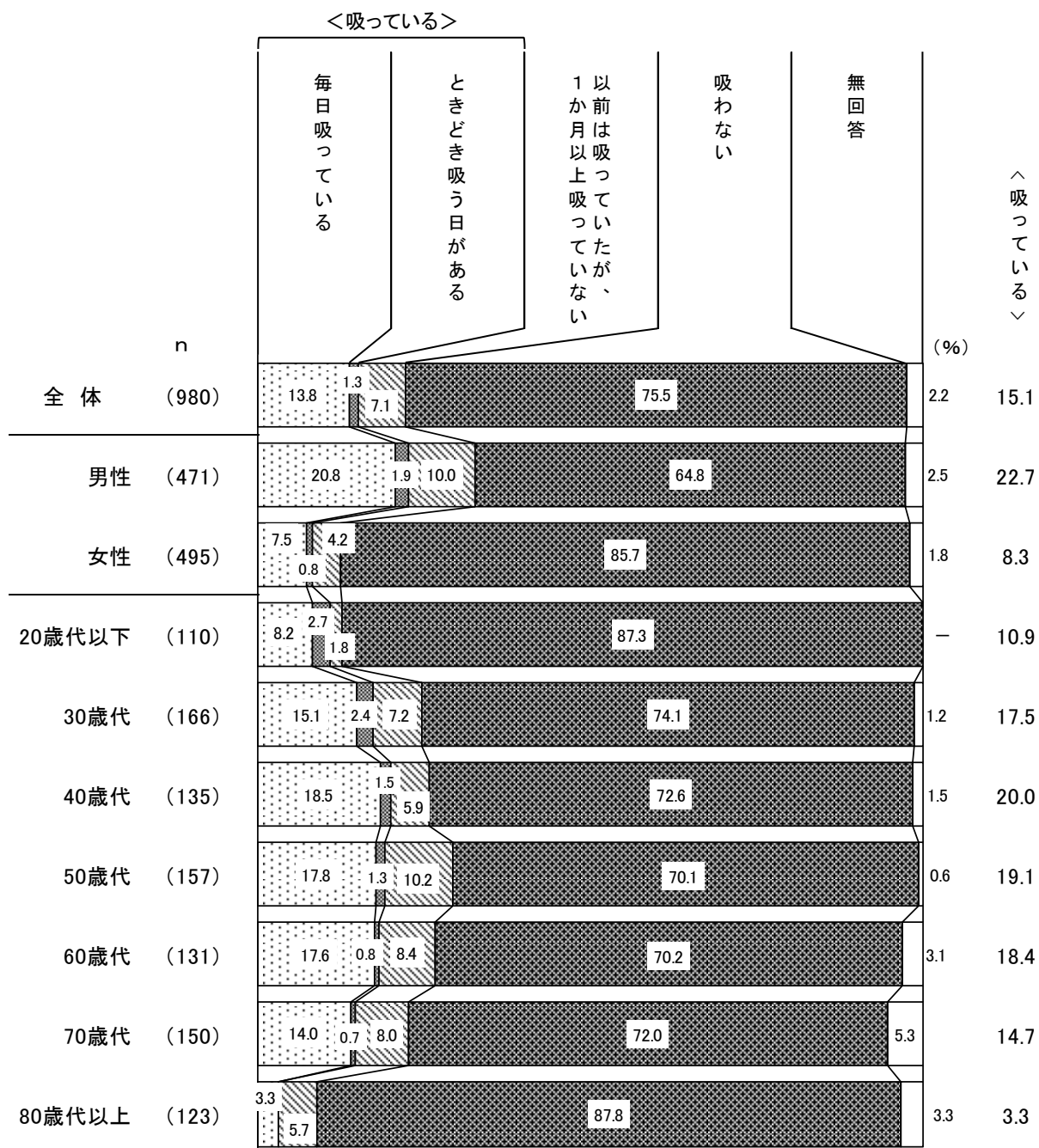


図 2-70 【性・年代別】喫煙の状況

喫煙の状況は、「毎日吸っている」(13.8%)と「ときどき吸う日がある」(1.3%)を合わせた<吸っている>で 15.1%となっている。性別にみると、<吸っている>は男性(22.7%)が女性(8.3%)を約 14 ポイント上回っている。年代別にみると、<吸っている>は 40 歳代で 2 割とやや高くなっている。

2.24.1. 今後禁煙したいか

◆「禁煙したい」は1割台後半、「吸う本数を減らしたい」が3割台半ば

(問37で「1.毎日吸っている」「2.ときどき吸う日がある」に○をつけた方に)  
問37-1. 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

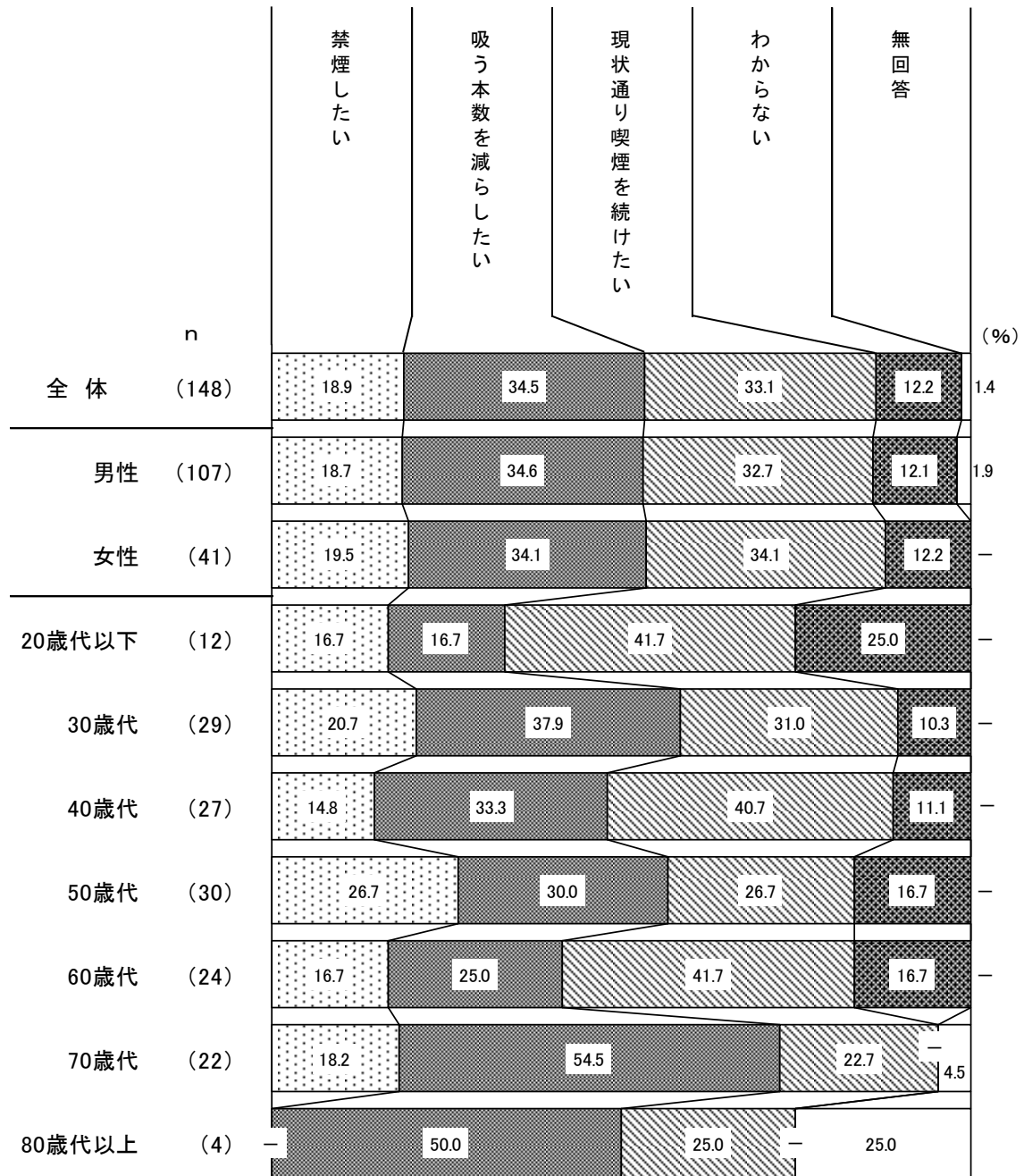


図2-71 【性・年代別】今後禁煙したいか

今後禁煙したいかについては、「吸う本数を減らしたい」が34.5%で最も高く、次いで「現状通り喫煙を続けたい」(33.1%)、「禁煙したい」(18.9%)となっている。

### 3. 制度等について

#### 3.1. 「障害者差別解消法」についての認知度

◆ 「障害者差別解消法」について<知っている>人は2割台半ば

(全員の方に)

問 38. 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(〇は1つ)

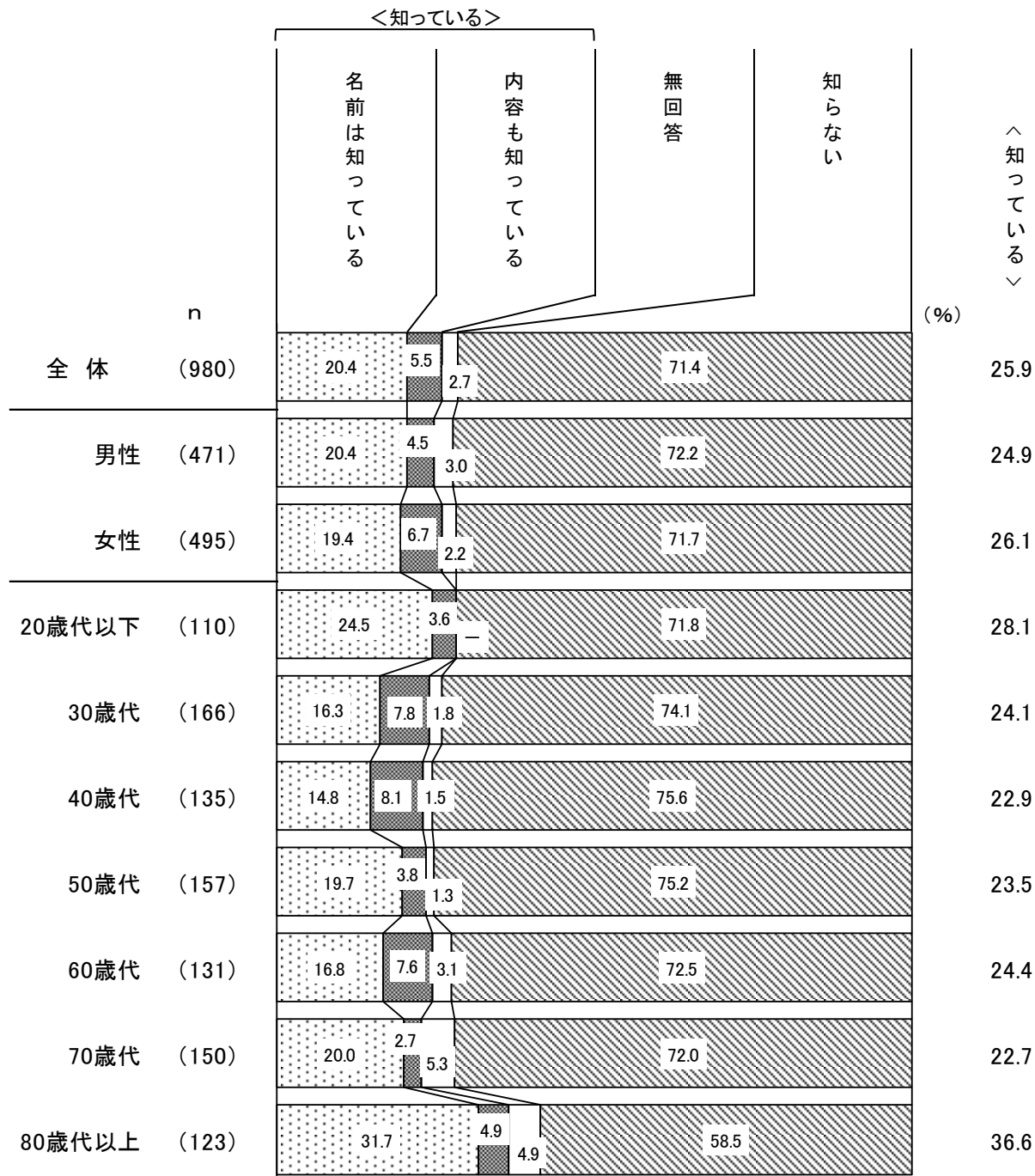


図 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」についての認知度

「障害者差別解消法」についての認知度は、「名前を知っている」(20.4%)と「内容も知っている」(5.5%)を合わせた<知っている>が25.9%となっている。年代別にみると、<知っている>は80歳代以上で3割台半ばと他の年代と比較して高くなっている。

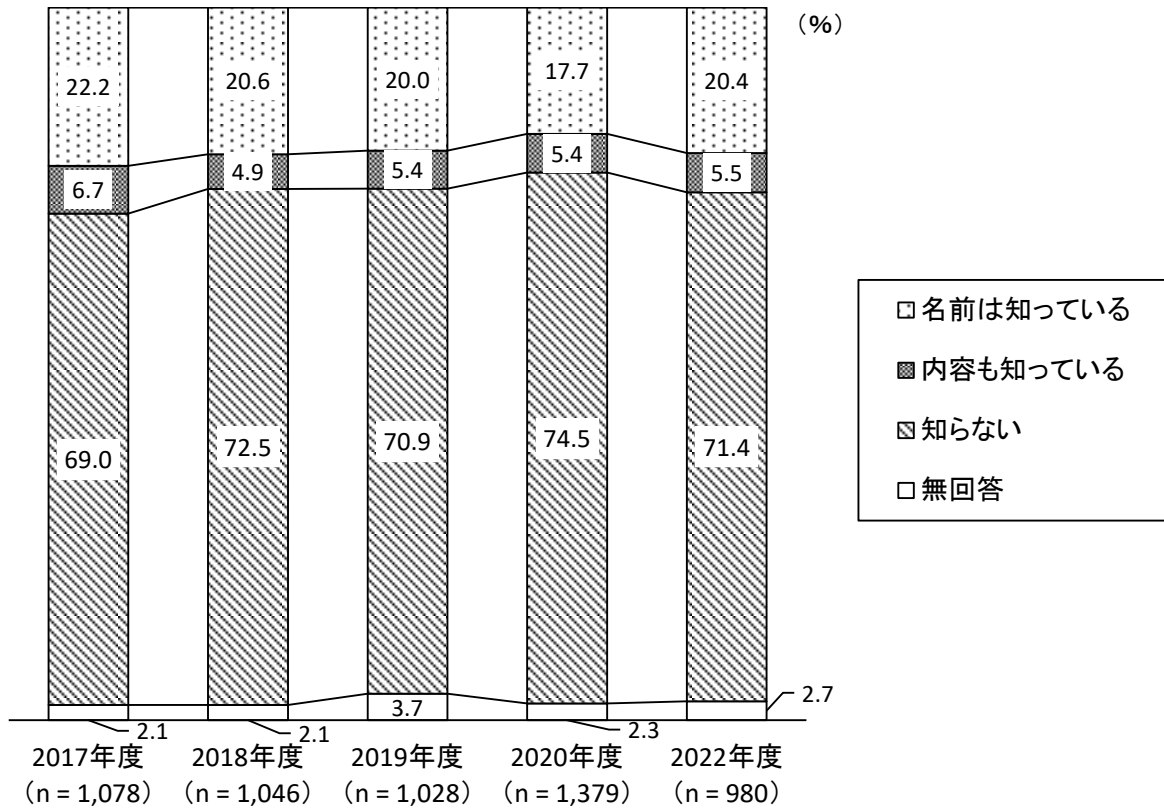
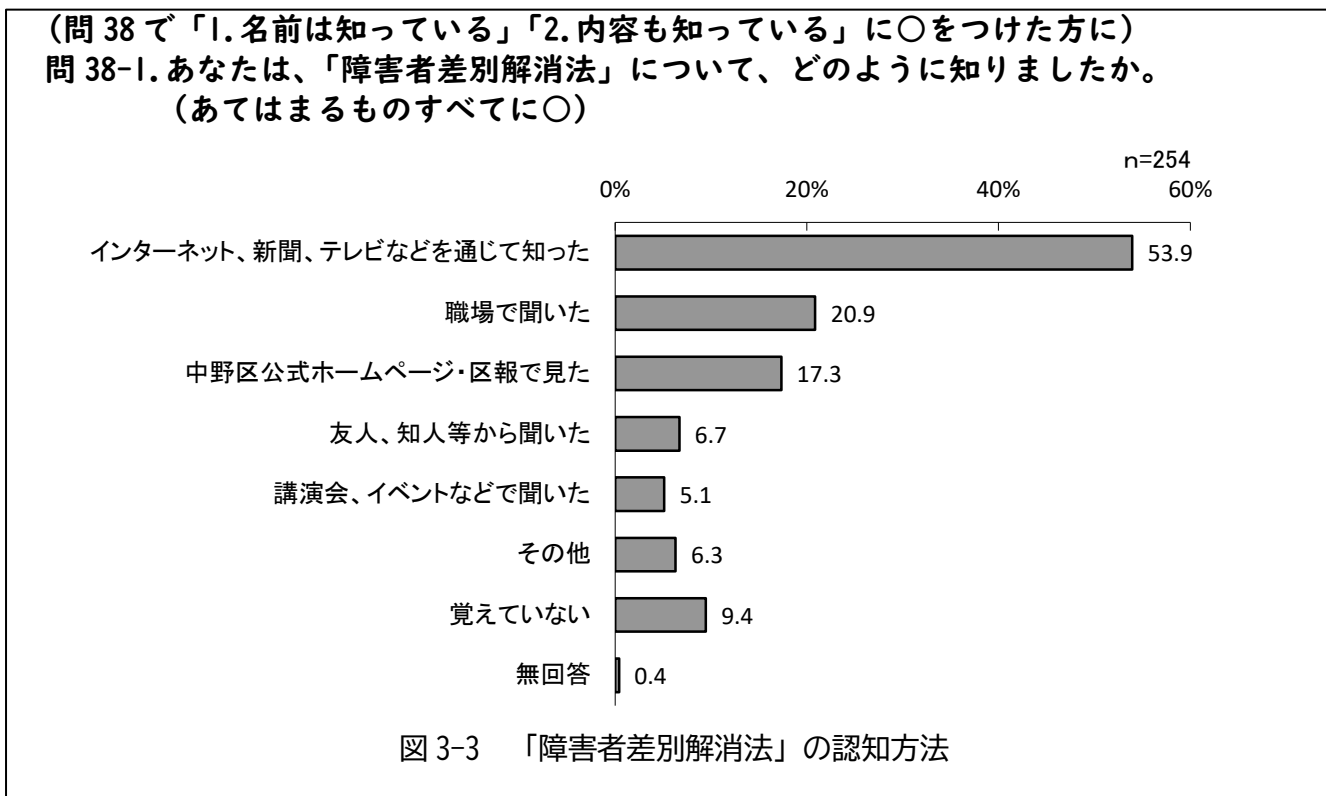


図 3-2 【経年比較】「障害者差別解消法」についての認知度

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

3.1.1. 「障害者差別解消法」の認知方法

◆「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が5割台前半



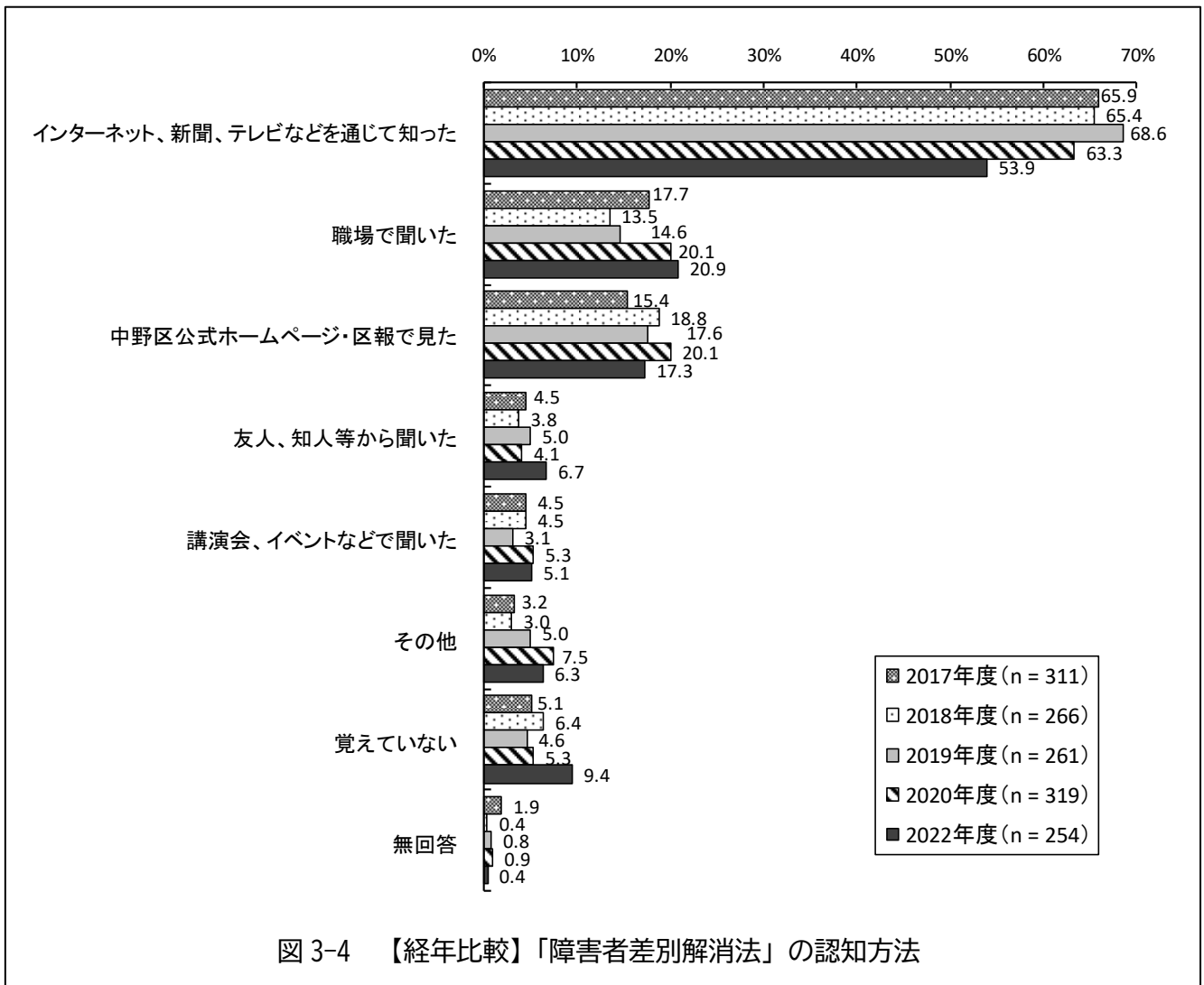
「障害者差別解消法」を<知っている>人に認知方法を聞いたところ、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が53.9%と最も高くなっている。

表 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」の認知方法

単位：%

区分	有効回答数 (件)	見た	中野区公式ホームページ・区報で見た	を通じて知った	インターネット、テレビなど	講演会、イベントなどで聞いた	職場で聞いた	友人、知人等から聞いた	その他	覚えていない	無回答
全体	254	17.3	53.9	5.1	20.9	6.7	6.3	9.4	0.4		
男性	117	13.7	51.3	6.0	29.1	7.7	0.9	10.3	0.0		
女性	129	20.9	56.6	4.7	14.7	6.2	10.9	7.8	0.8		
20歳代以下	31	3.2	35.5	6.5	16.1	9.7	25.8	19.4	0.0		
30歳代	40	5.0	47.5	2.5	40.0	0.0	7.5	10.0	0.0		
40歳代	31	6.5	32.3	9.7	38.7	9.7	6.5	12.9	0.0		
50歳代	37	0.0	64.9	2.7	29.7	5.4	0.0	13.5	0.0		
60歳代	32	21.9	59.4	9.4	25.0	9.4	6.3	3.1	0.0		
70歳代	34	20.6	73.5	5.9	2.9	5.9	2.9	8.8	0.0		
80歳代以上	45	53.3	57.8	2.2	0.0	8.9	0.0	2.2	2.2		

性別にみると、「職場で聞いた」は男性、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」「中野区公式ホームページ・区報で見た」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、40歳代で「職場で聞いた」、80歳代以上で「中野区公式ホームページ・区報で見た」の割合が他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、いずれの年度も「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が最も高くなっているものの、2022年度は2020年度と比べ約9ポイント減少している。

### 3.2. 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

#### ◆障害者差別解消のため中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が4割台後半

(全員の方に)

問 39. 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

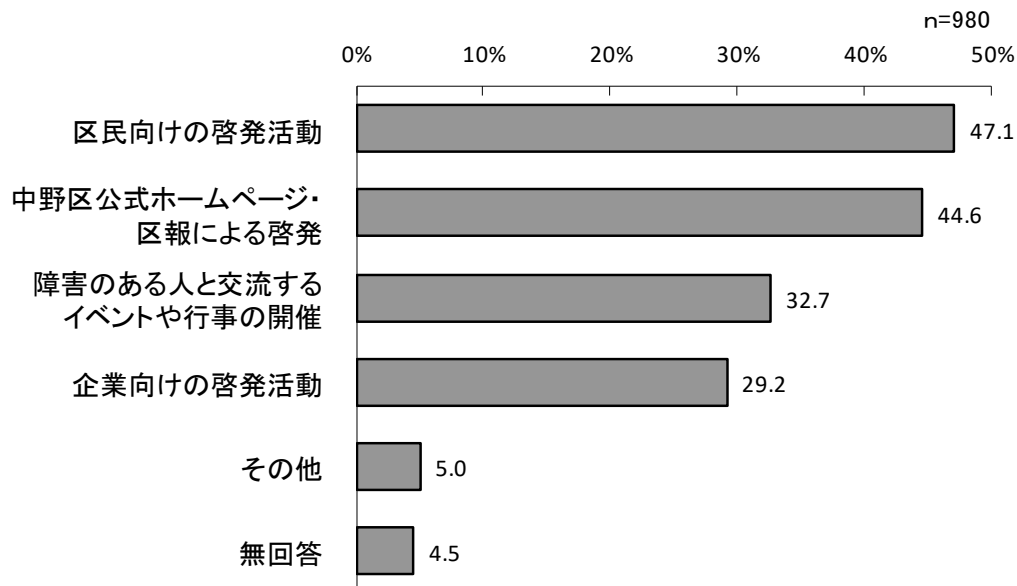


図 3-5 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

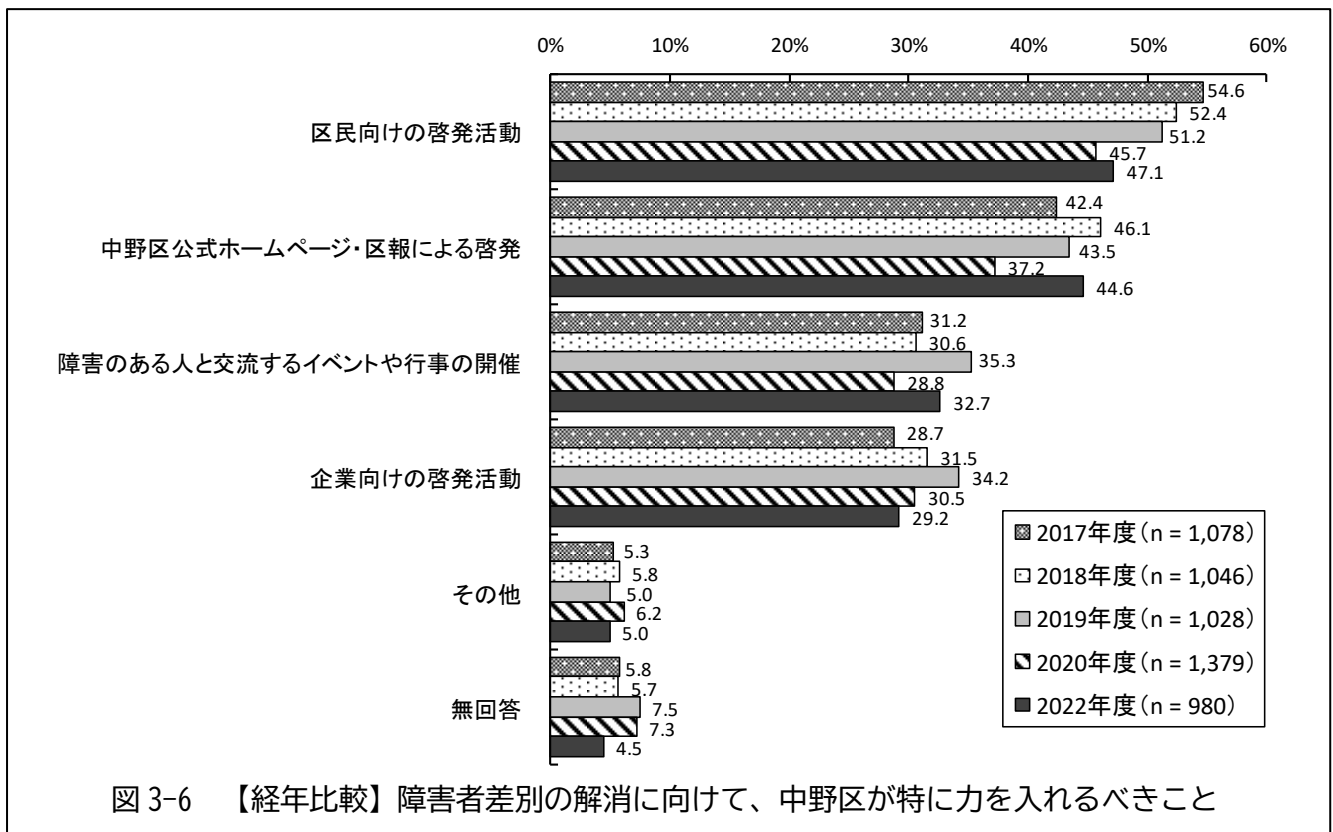
障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が 47.1% で最も高く、次いで「中野区公式ホームページ・区報による啓発」(44.6%)、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」(32.7%) となっている。

表 3-2 【性・年代別】 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	中野区公式ホームページ・区報による啓発	区民向けの啓発活動	企業向けの啓発活動	障害のある人と交流するイベントや行事の開催	その他	無回答
全体	980	44.6	47.1	29.2	32.7	5.0	4.5
男性	471	47.1	46.7	25.5	29.3	5.1	4.0
女性	495	42.6	47.7	32.7	35.6	4.8	4.8
20歳代以下	110	40.0	34.5	33.6	31.8	6.4	—
30歳代	166	39.2	47.6	39.8	27.7	6.6	1.2
40歳代	135	43.0	50.4	37.0	37.8	5.2	2.2
50歳代	157	42.0	53.5	33.1	40.8	4.5	1.3
60歳代	131	49.6	55.0	22.1	28.2	5.3	6.9
70歳代	150	54.7	48.0	22.0	32.7	2.7	8.0
80歳代以上	123	43.1	36.6	13.0	28.5	4.9	12.2

性別にみると、「中野区公式ホームページ・区報による啓発」は男性、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」「企業向けの啓発活動」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳代以下と70歳代以上では「中野区公式ホームページ・区報による啓発」、30歳～60歳代では「区民向けの啓発活動」の割合が最も高くなっている。



経年で比較すると、いずれの年度も「区民向けの啓発活動」が最も高くなっている。



### 3.3. ヘルプマークの認知度

#### ◆ヘルプマークについて「意味を含めて知っている」は5割台半ば

(全員の方に)

問 40. あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

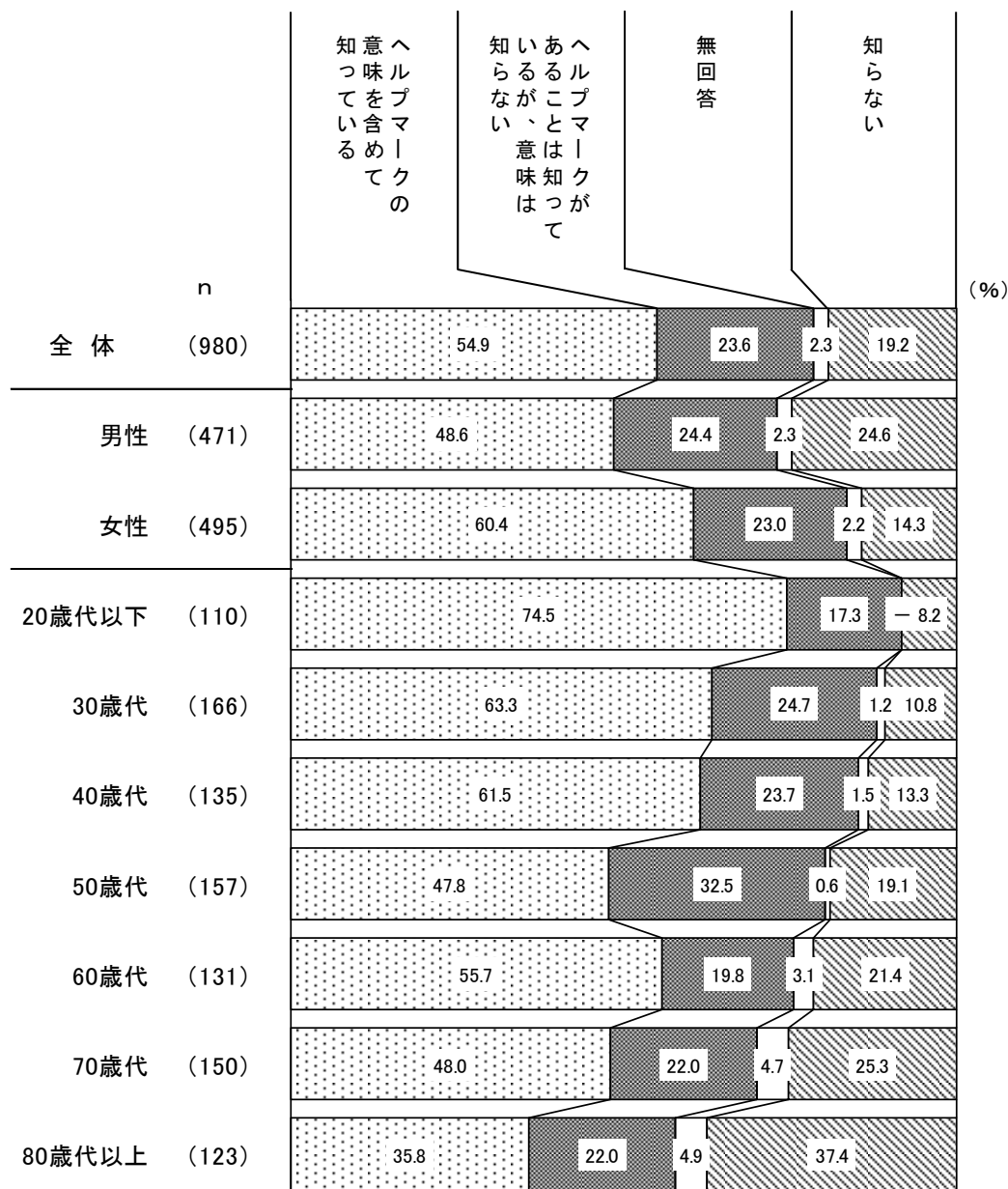


図 3-7 【性・年代別】ヘルプマークの認知度

ヘルプマークの認知度については、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が54.9%で最も高く、「ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない」が23.6%、「知らない」は19.2%となっている。性別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は女性(60.4%)が男性(48.6%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は20歳代以下で7割台半ばと特に高くなっている。

3.4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度

◆介護保険制度の利用の仕方について<知っている>は約3割

(全員の方に)

問41. あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

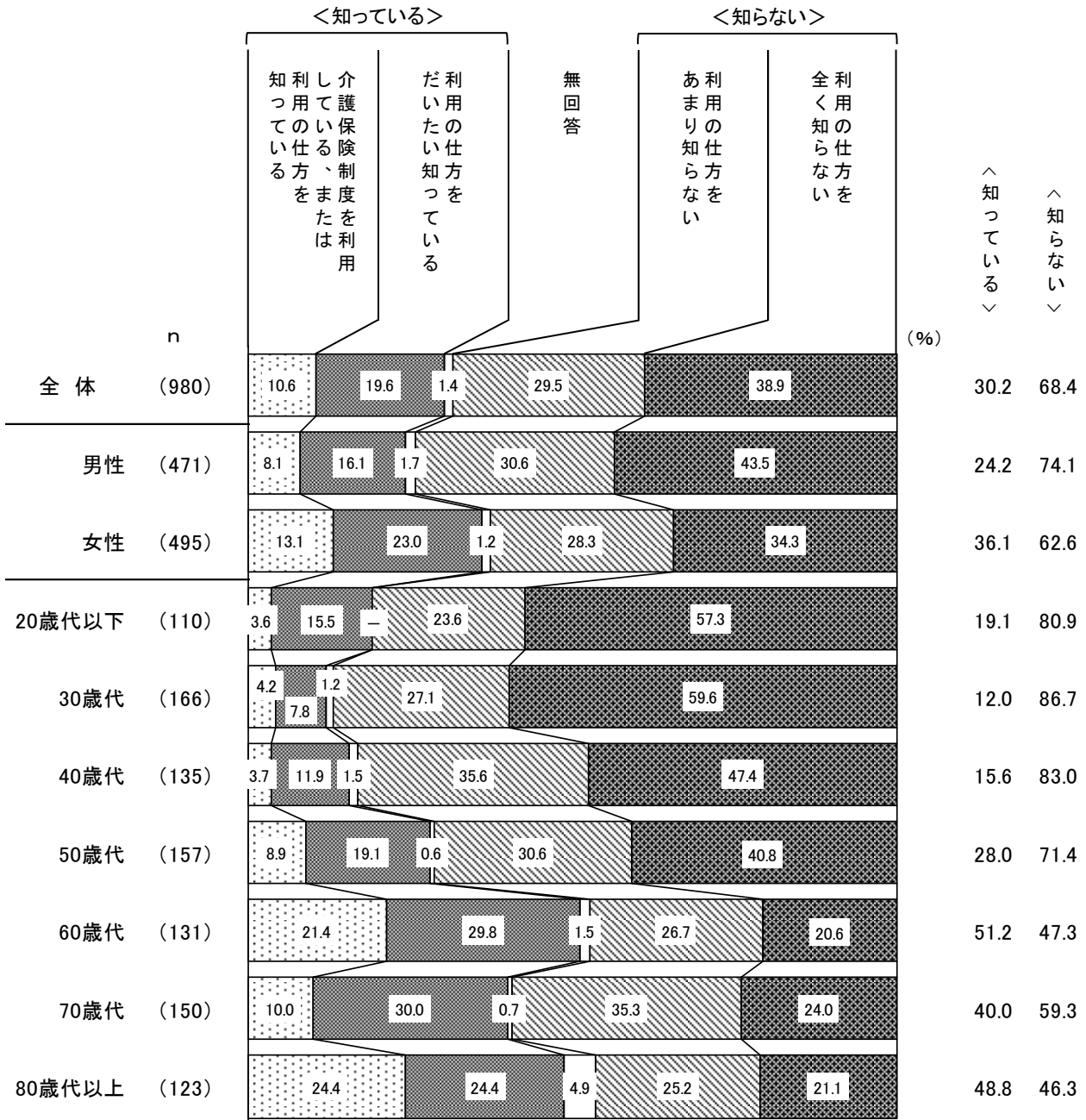


図 3-8 【性・年代別】介護保険制度の利用の仕方についての認知度

介護保険制度を利用できている、または必要となった時の利用の仕方を知っているかについては、「介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている」(10.6%)と「利用の仕方を知りたい」(19.6%)を合わせた<知っている>は30.2%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(36.1%)が男性(24.2%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代の<知っている>の割合が最も高くなっており、5割を超えている。

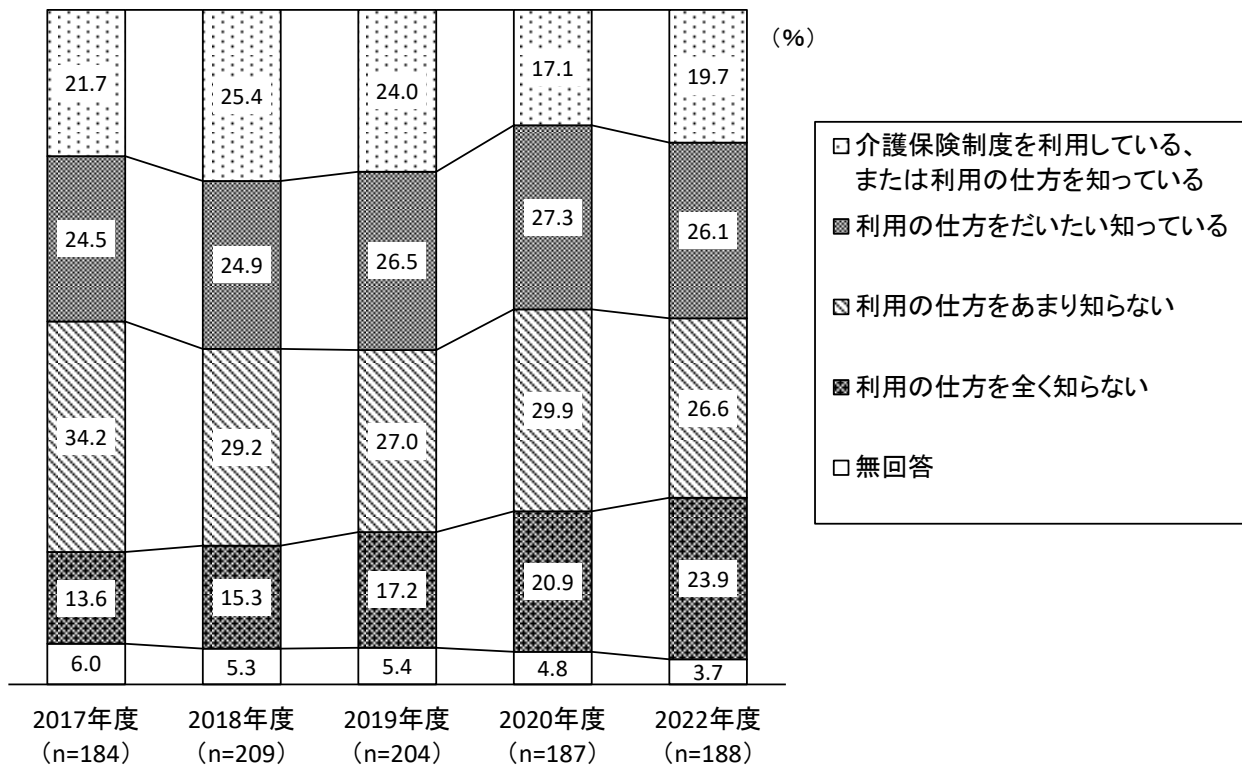
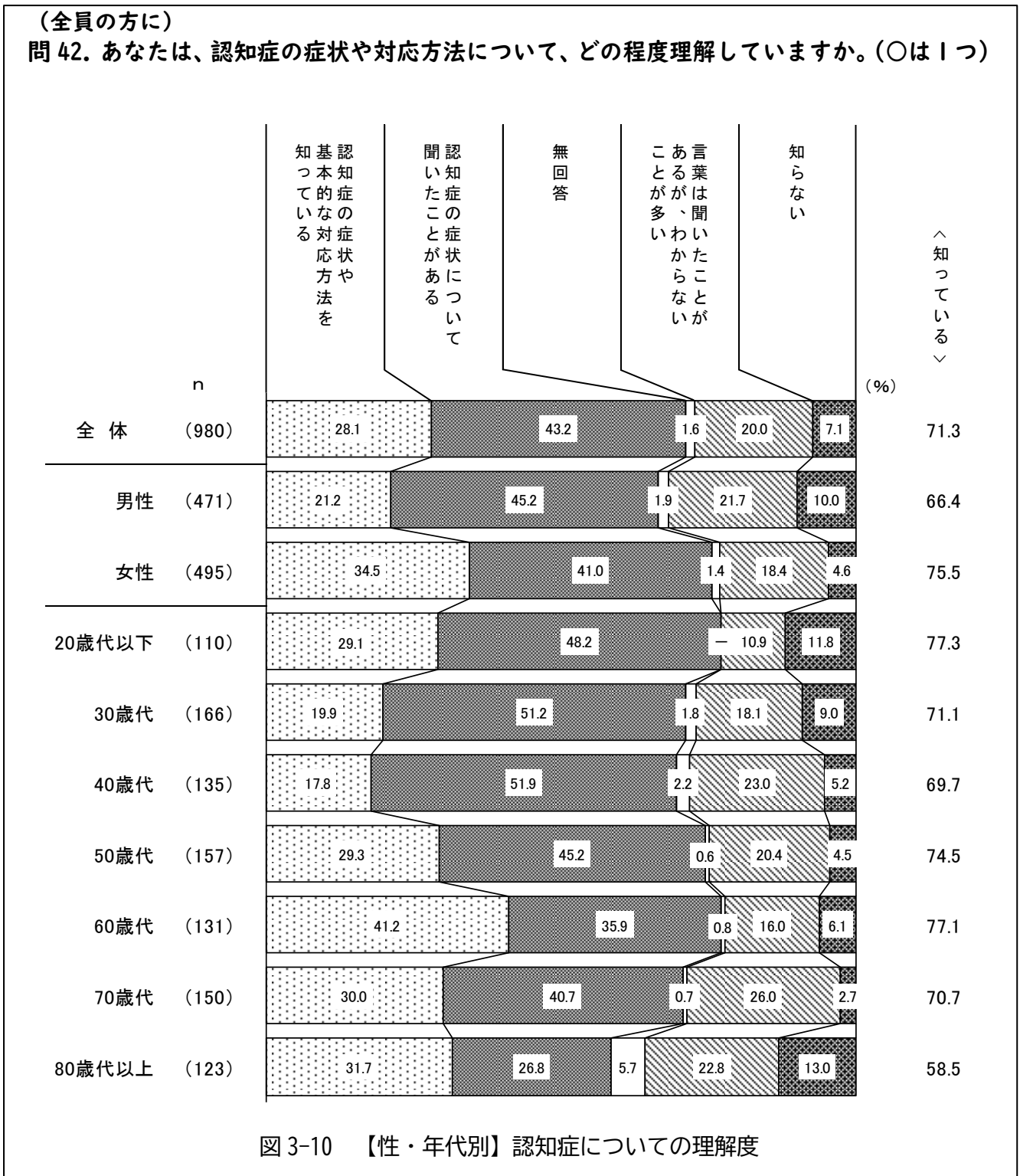


図 3-9 【経年比較】介護保険制度の利用の仕方についての認知度（75 歳以上の方）

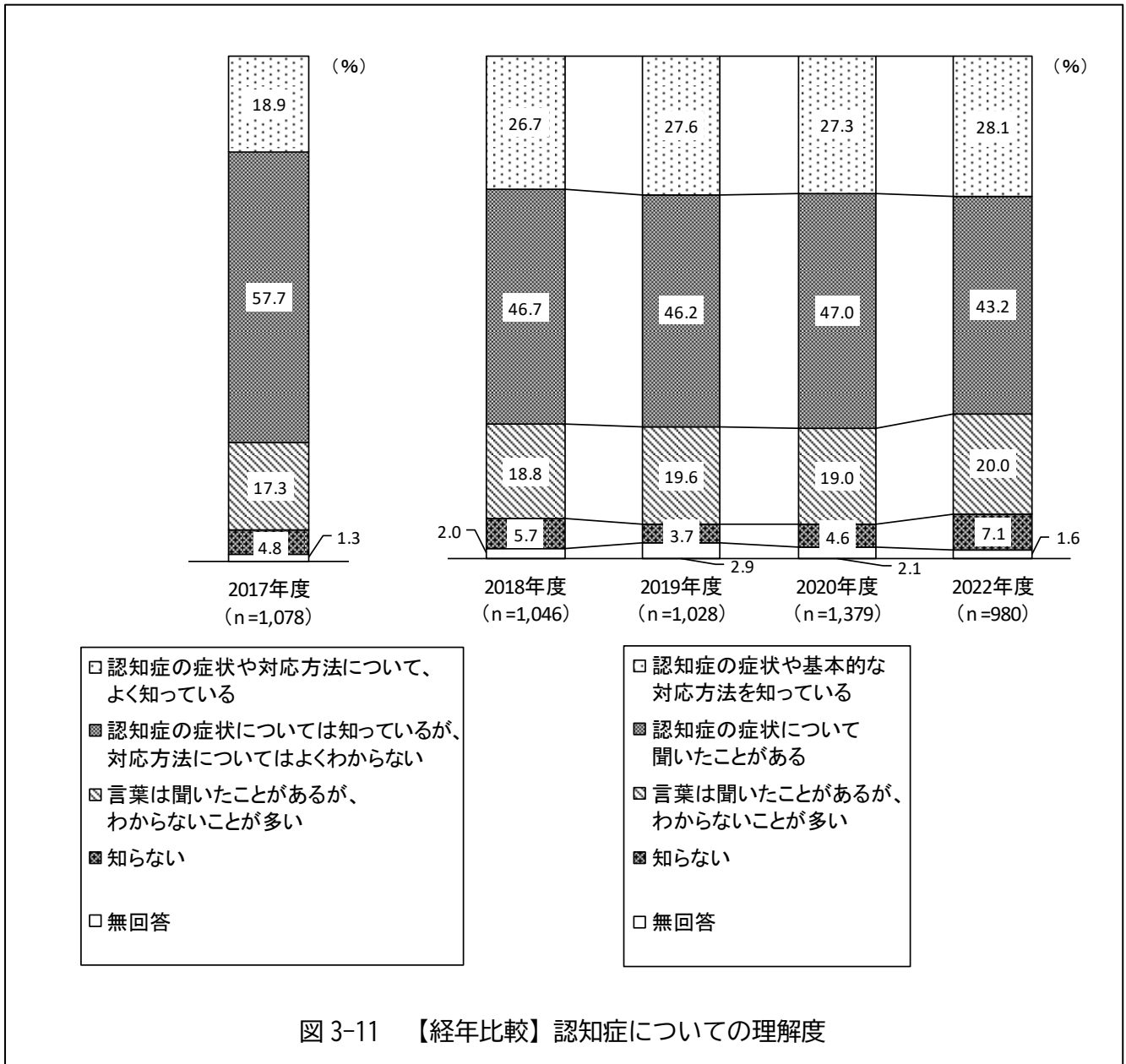
75 歳以上の方について経年で比較すると、「利用の仕方を全く知らない」が増加傾向にある。

3.5. 認知症についての理解度

◆認知症について「基本的な対応方法を知っている」は2割台後半



認知症の症状や対応方法についての理解度は、「認知症の症状について聞いたことがある」(43.2%)が最も高く、次いで「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」(28.1%)となっている。性別にみると、女性の方が男性より理解度が高くなっており、「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」で女性(34.5%)が男性(21.2%)を約13ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代で「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」が約4割と他の年代と比べて高くなっている。



2018 年度以降は一部選択肢の内容を変更したため、2017 年度の結果は参考として掲載する。2022 年度は、「知らない」が微増となっている。

3.6. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度

◆人生会議という言葉や意味を「知らなかった」は8割台半ば

（全員の方に）

問 43. あなたはこれまでに見たり聞いたりして、「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉や意味を知っていましたか。（○は1つ）

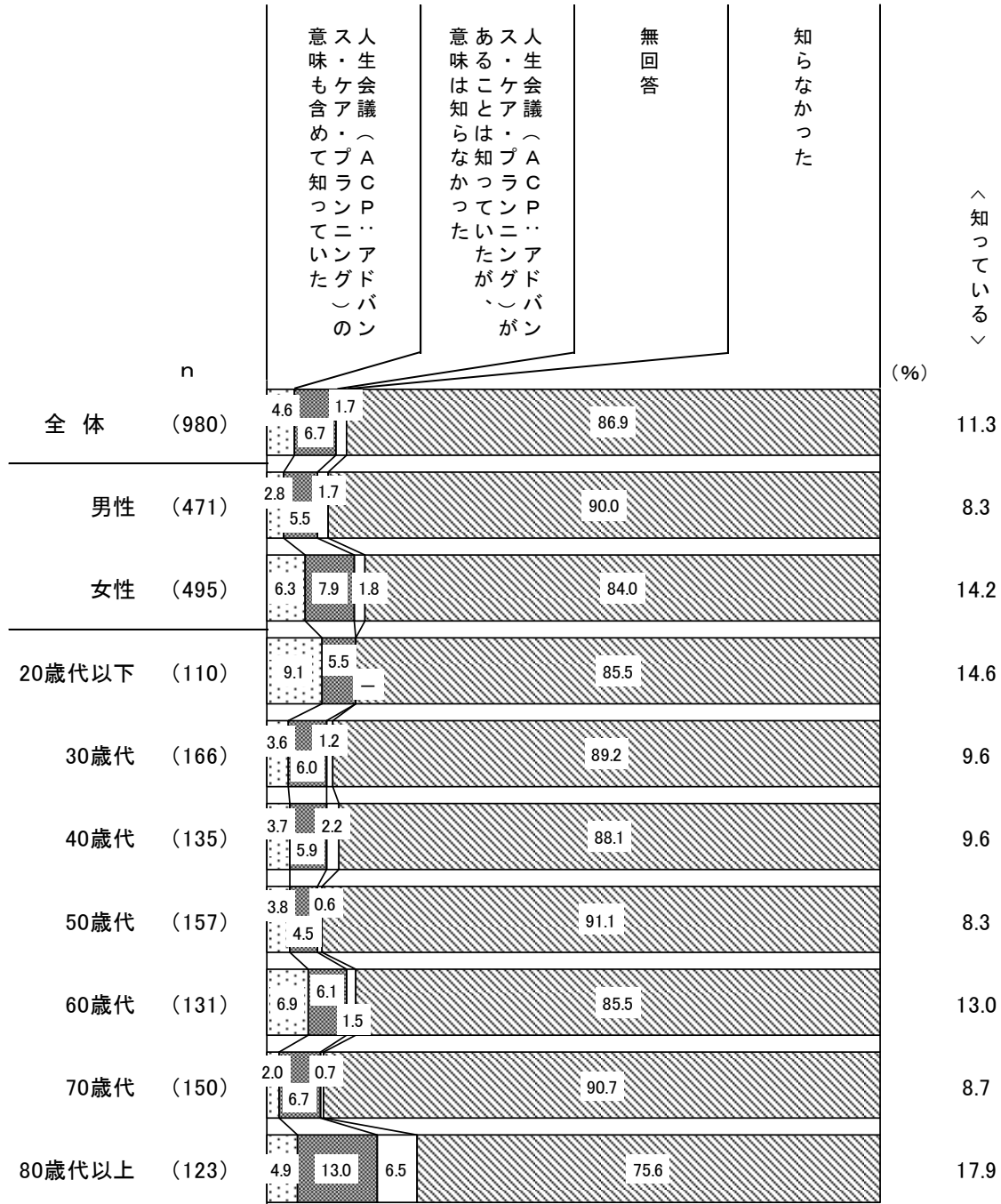
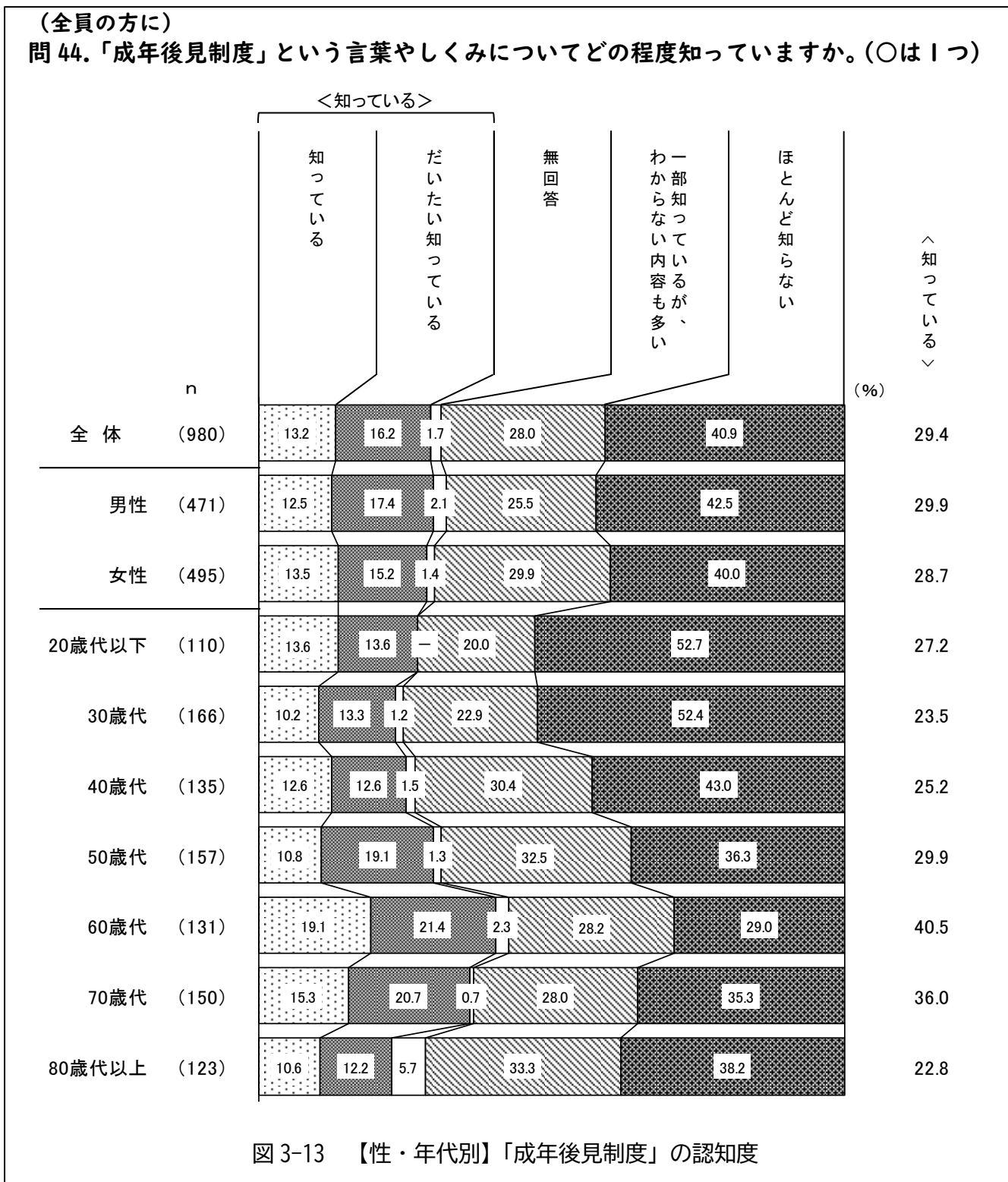


図 3-12 【性・年代別】人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度

人生会議の認知度については、「知らなかった」が86.9%で最も高く、「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）があることは知っていたが、意味は知らなかった」が6.7%、「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の意味も含めて知っていた」は4.6%となっている。性別にみると、「知らなかった」は男性（90.0%）が女性（84.0%）を6ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「人生会議の意味も含めて知っていた」、80歳代以上で「人生会議があることは知っていたが、意味は知らなかった」が比較的高くなっている。

3.7. 「成年後見制度」の認知度

◆ 「成年後見制度」という言葉やしくみを<知っている>は約3割



「成年後見制度」という言葉やしくみについての認知度は、「知っている」(13.2%)と「だいたい知っている」(16.2%)を合わせた<知っている>で29.4%となっている。一方、「ほとんど知らない」は40.9%となっている。年代別にみると、60歳代で<知っている>が約4割と最も高くなっている。

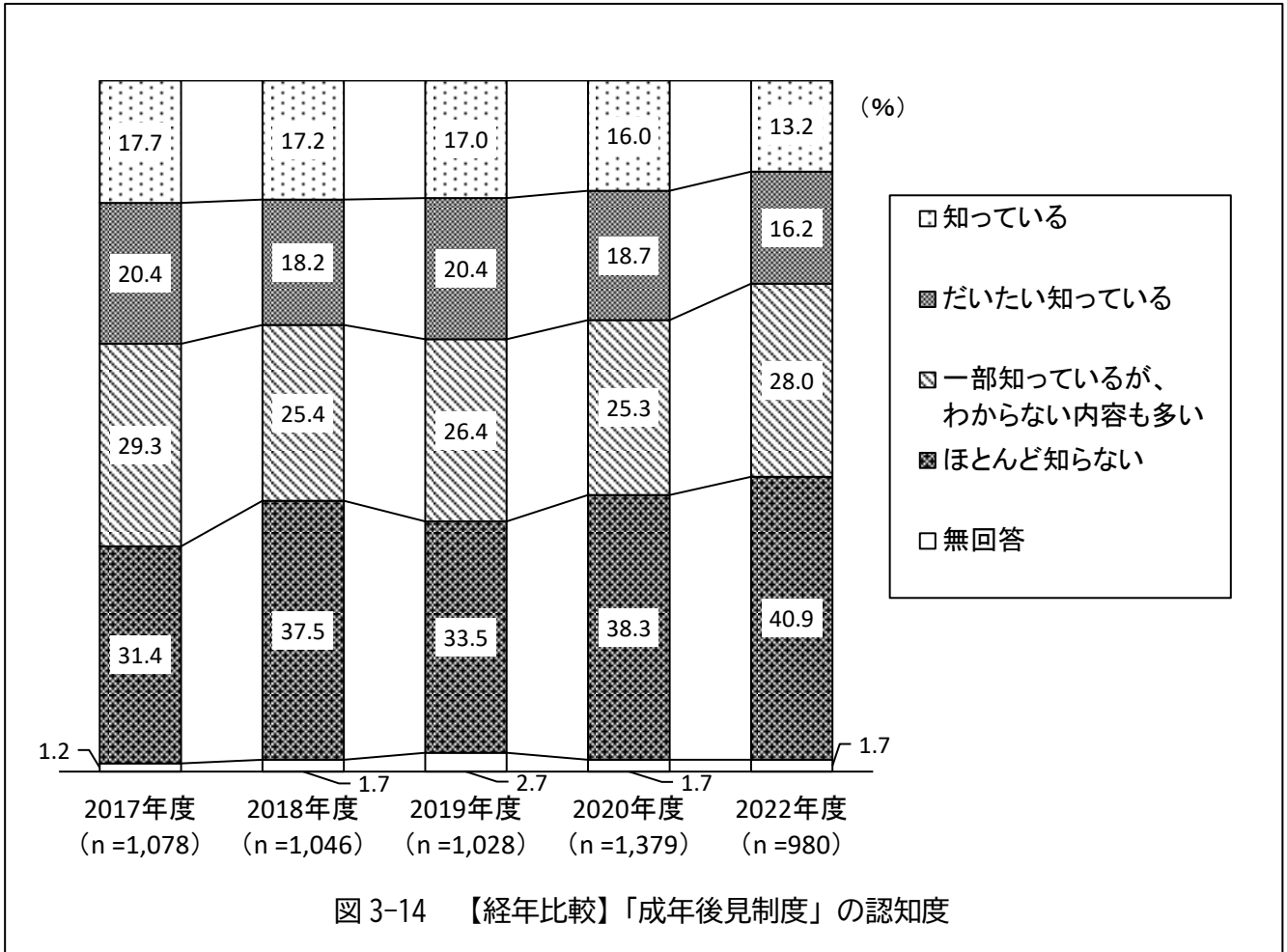


図 3-14 【経年比較】「成年後見制度」の認知度

経年で比較すると、「知っている」と「だいたい知っている」を合わせた<知っている>の割合は減少傾向となっている。



## 4. 相談窓口について

### 4.1. 健康福祉の相談窓口の身近さ

◆「身近に感じる」の割合は「区民活動センター」が最も高い

(全員の方に)

問 45. あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。(それぞれ○は1つ)

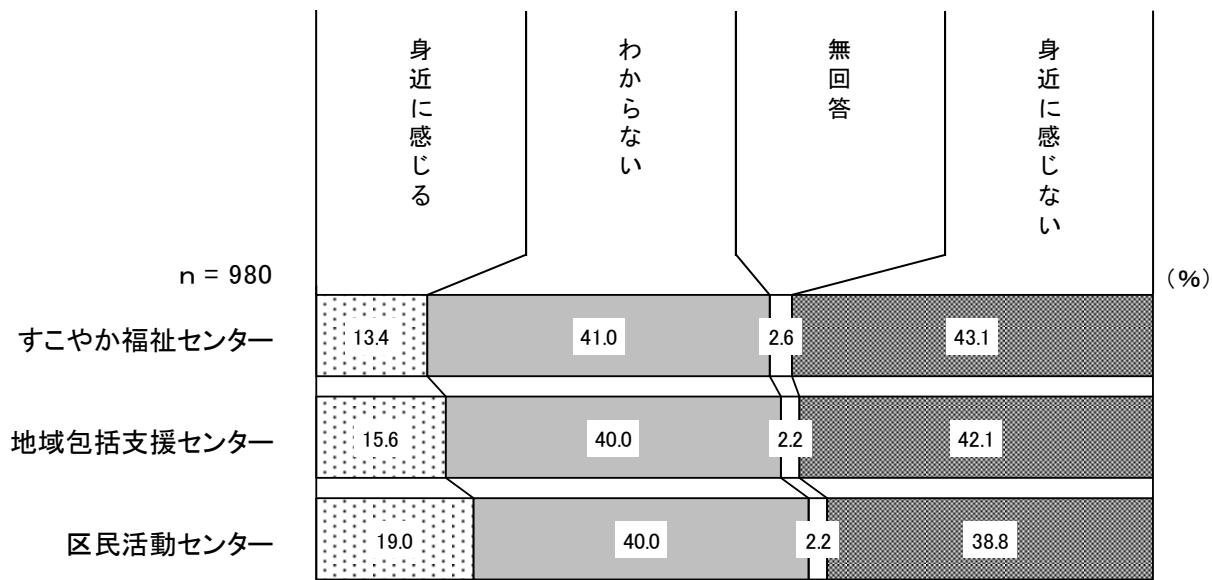


図 4-1 身近に感じるかどうかの割合

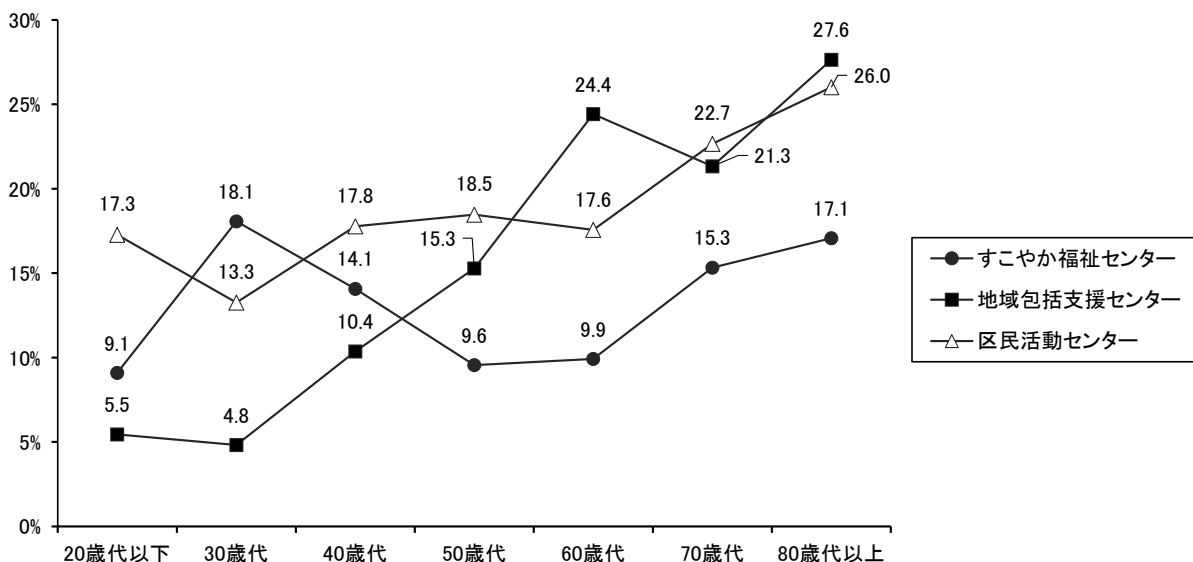


図 4-2 【年代別】身近に感じると回答した人の割合

健康福祉の相談窓口として身近に感じる機関を年代別で見ると、20歳代以下と40歳～50歳代、70歳代では「区民活動センター」、30歳代では「すこやか福祉センター」、60歳代と80歳代以上では「地域包括支援センター」の割合が最も高くなっている。

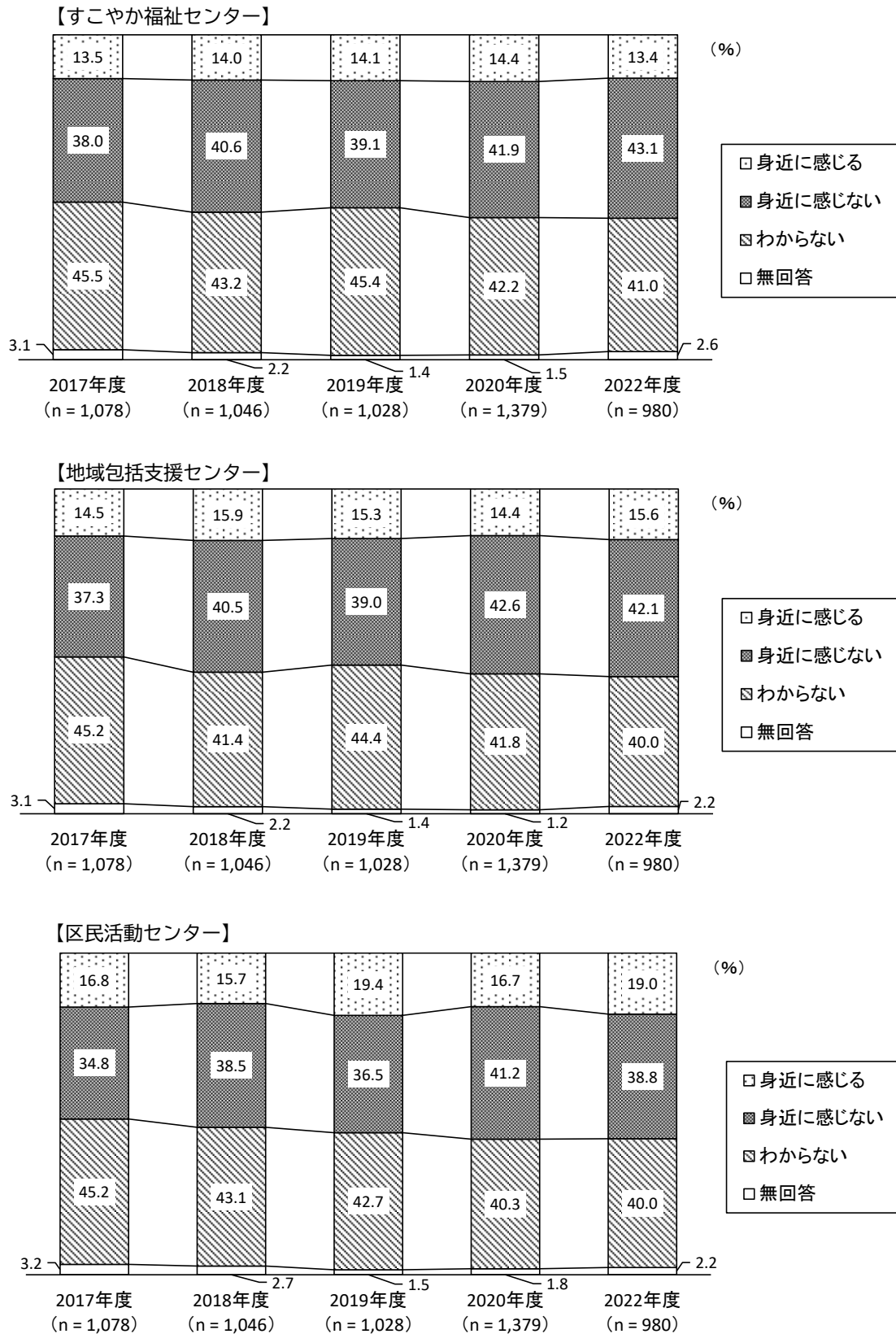
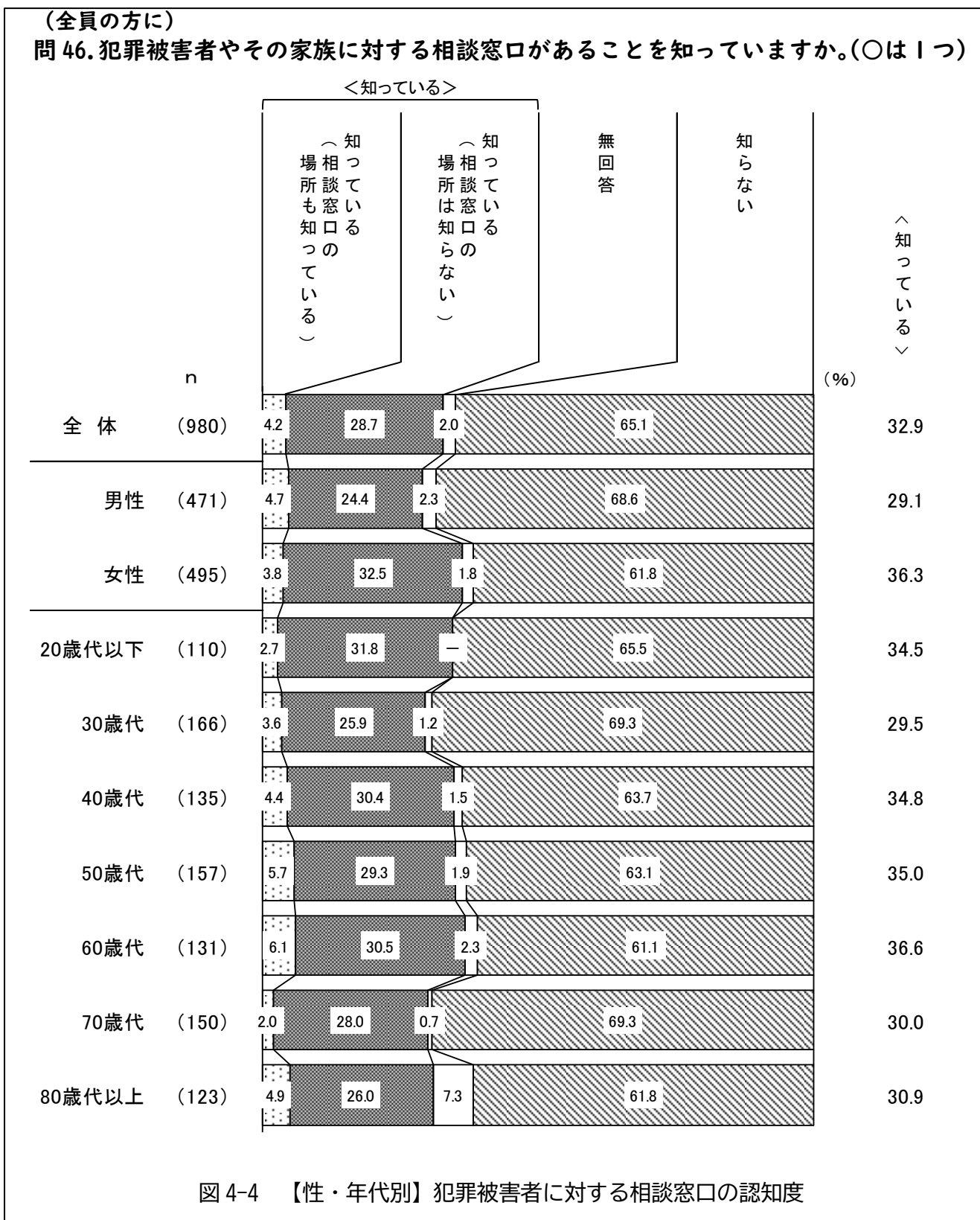


図 4-3 【経年比較】 身近に感じるかどうかの割合

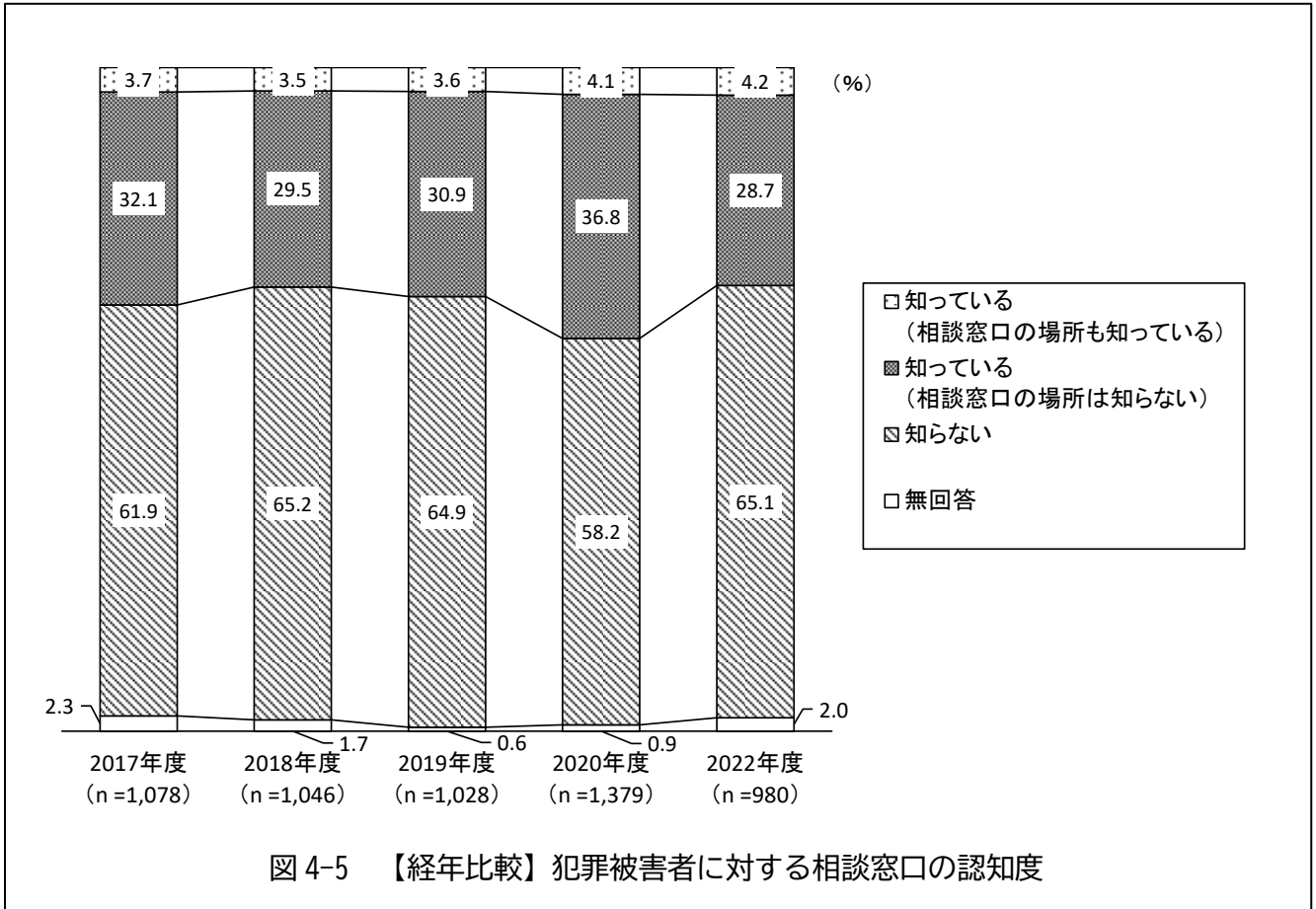
経年で比較すると、いずれの施設も「身近に感じる」割合は、1割台前半～1割台後半となっている。

4.2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度

◆犯罪被害者やその家族に対する相談窓口を<知っている>は3割台前半



犯罪被害者やその家族に対する相談窓口の認知度は、「知っている（相談窓口の場所も知っている）」（4.2%）と「知っている（相談窓口の場所は知らない）」（28.7%）を合わせた<知っている>で32.9%となっている。性別にみると、<知っている>で女性（36.3%）が男性（29.1%）を約7ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は30歳代と70歳代以上でやや低くなっている。



経年で比較すると、<知っている>の割合は2020年度に一度増加したものの、2022年度は2019年度と同程度になっている。

## 5. その他

### 5.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

（全員の方に）

**問 47. 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。**

健康福祉行政全体や今回の調査について、要望・意見を自由に記入していただいたところ、220 人の方から回答があった。その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

#### 本調査について 51 件

- 知らない事が多い事を認識致しました。中野区報などでももう少し取り上げていただけると意識が高まる事も多いと感じます。調査結果は何らかの方法でお知らせいただけるのでしょうか。すべてではありませんが、区民として知っておいた方が良い項目はパーセンテージでも良いので公表していただけると嬉しいです。(60 歳代)
- 年齢幅がありすぎて、この調査結果のみでいろいろな事が決まったりするのは不安。(60 歳代)
- 今回、このような機会をいただけたことで、いかに自分が普段、目を向けていないことがらが多いかがわかりました。まわりの友人で介護の仕事をしている人がいたり、自分の祖母は 90 代、両親は 60 代、自分も 30 代後半になって少しずつ健康福祉についても認識を増やしていかねばという気持ちになれました。皆にやさしい中野区であってほしいです。考えるきっかけをくださり、こちらこそありがとうございました。(30 歳代)
- 今回 18 才以上の区民からのアンケートとのことですが、100 才の人生と言われる高齢時代、自身の体験から衰えの加速する 85 才～の心身の問題についてのアンケートに興味があり、必要かと思えます。幼かったとは言え、戦火を経験した人達なので、かなり我慢強く自分を律する反面、鬱状態に陥るマイナスも合わせ持っている様に思うからです。(80 歳代以上)
- 今回の調査を受けて、いかに自分が無知であり、認識不足であったかを思い知らされました。いずれは自身が必要となるであろう健康福祉の現状をもっとしっかり理解し、実際に恩恵を受ける際は感謝し、心、満たされる福祉行政である事を心より願います。(80 歳代以上)
- この回答が何かしらの参考になっている事を願っております。また、今後は何が改善され、何が見直しされたかなど明確にわかるといいと思います。調査される側も回答した意味があると実感できるのではと考えます。(40 歳代)
- 初めて無作為調査の対象となりましたが、スマートフォンで答えられるのはとても便利に感じました。(20 歳代以下)

#### 高齢福祉・介護・介護保険について 20 件

- 区で対応できる高齢者向け制度は、随時広報等で知らせて欲しい。(70 歳代)
- 本人は今特養に入所して、だいぶ認知症が進んでいます。せっかくのアンケートなので母の気持ちになって答えてみました。17 年前に中野に越して来てから、娘の私がいたので行政との橋渡しが出来ましたが、もし、完全に 1 人だとしたら生活の上で友人が見つけれられるか心配です。高齢者に関しては周囲に知人を見つけてあげられるかが大きな問題だと思います。(80 歳代以上)
- 介護保険制度で保険料を支払っているが、具体的に自分が必要になることは考えたことがなく、もっと勉強が必要と思った。知らない制度が多く、それらについても関心を持つべきと感じた。(60 歳代)
- 先日(10月4日)区役所で開催された「認知症サポーター養成講座」に参加させて頂きました。89 才の母の介護をしながら日々いろいろな不安、心配事があり自分自身、精神的にまいってしまいそ

うになりますが、この様な企画のお陰で少し楽になりました。高齢者介護についての講座（リモートではなく）もお願いしたいです。（50 歳代）

- 人生会議については初めて知る言葉だったので、調べてみたいと思いました。（20 歳代以下）
- 一人暮らしの高齢者住宅を増やし、自立支援に対して優しい行政を期待しています。（70 歳代）

#### 障害福祉について 10 件

- 今回の調査の事ではないのですが以前母の車イスを押す時に歩道の段差に苦労しました。足の悪い方々もつまずいたりするのではないかと思います。障害者のことを考える上で一番最初に考えるべき事だと思います。（70 歳代）
- 障害者福祉という言葉が、身体障害者のみを指しているような気がしてならない。精神疾患の障害者に対しても福祉を充実させてほしいと思う。（40 歳代）

#### 医療・健診（検診）について 11 件

- 区でできる健康診断をもっと増やして欲しい。（30 歳代）
- がん検診のクーポンが使いにくい。新型コロナのワクチンのようにインターネットでも事前予約ができればありがたい。（40 歳代）
- 元気な高齢者が活躍できるプログラムが紹介されるイメージがあるが、一方で、癌等で長期療養、治療を継続し、60 才や途中で、それ以上仕事を続ける状況にない人も多いはず。後者の人々で前向きに生活できる支援、啓蒙が不足しているようにも感じる。（60 歳代）

#### 地域活動について 7 件

- 中野区に転居して来て 10 年近くになります。子どもが義務教育期間中は地域の方にお世話になりましたが、卒業後は地域でのつながりがなくなりました。今回の調査で地域とのつながりを考えてみたいと思いました。（50 歳代）
- 50 代女性です。私の親世代に比べ、いわゆるご近所づきあいが減っていると思います。具体策は書けず申し訳ないですが、お互い「お元気にしているかな？」と気かけられるシチュエーションが身近にあれば良いな、と思います。（50 歳代）
- 子供時代からの地域コミュニティの作り方を考えた方がいいと思います。東京は特に遅れているのでは？（50 歳代）

#### 健康づくり・スポーツ施設や公園等について 9 件

- 区民（特に高齢者や子ども）が安心してウォーキングできる環境を街路に設置して欲しいです。歩道の拡幅も必要でしょうか。暮らしの保健室の様な、気軽に相談出来る場所作りの支援をして欲しいと思います。（60 歳代）
- スポーツ施設、特に屋外のグラウンドが持つ機材や設備が場所によって差が大きいのので、その差をなくして欲しい。ex.) イス、ベンチの数やサッカーの ck のフラッグなどある所とない所がある。（20 歳代以下）
- こどもの運動不足が気になります。こどもが運動できる施設やイベント教室を増やしてほしい。小学校の放課後にスポーツ教室やイベント、体育館開放など学校で開催してほしい。（40 歳代）
- 平和の森公園の多目的広場の利用に関して、地域の中学校の部活などに使わせてあげるべきだと思います。中学校のグラウンドが狭かったり、他の部活で使えなかったりするので特に、サッカー、野球に関しては場所が少なすぎる。区内にもっと簡単に使える施設を作るべき。そうでないと、スポーツが発展しない。（40 歳代）

その他 112 件

- あらかじめ自分に起こっていない事柄については関心がうすく、なって初めて調べ始めるというパターンが人の常のような気がします。ある程度は仕方無い事なのだと思いますが、啓もうが重要なのだと思う。障害のある人等、もっと外に出られる状況が必要。そういう人もいる事を健常者も認識できる事も重要。(70 歳代)
- 区民の意見を聞いたら早めの実行をお願いします。(70 歳代)
- 相談窓口を利用するべき時になった時、わかりやすく簡単に気楽に相談できると良いですね！(70 歳代)
- 障害者手帳までいかないが、両足にホウタイを巻いて生活している人への支援はありませんか？サービスが行き届いていない人へ目を向けてほしい。(40 歳代)
- いろんな取り組みをたくさんしていただいているのだと思います。知らないのはもったいないですね。SNS などで気軽に発信していただいたら、毎日気にして見ると思います。いつもありがとうございます。(50 歳代)
- 高齢者対応だけでなく、若年層、子育て層にも目を向けてほしい。不妊治療や共働き支援も拡充させてほしい。(30 歳代)
- 健康福祉は、これから益々必要になってくると思う。地味な活動であり、充実させていくのには、大きな予算がいる。安心、安全な日々を送るのには何が 1 番必要なのかを良く考え、税の配分に十分配慮していくことが肝心と思います。(70 歳代)
- 各種制度や取組について、せっかく制度や取組があるのに、知られておらず必要な時に利用出来ないことも多いのではないかと思います。HP や区報での広報も大切ですが、そういったものをあまり自分から見ない人に向けた広報手法等でもアプローチすると、より色々な立場の方へ施策等が認知されるのかなと思いました。私個人としては、このアンケートをしたことにより、支援センターや ACP など知らなかったことを知る事が出来ました。(30 歳代)
- 男子のトイレについて考えて欲しい。男の人の紙パンツが多くなっているの、女子のトイレのようにする事。又、多目的トイレを多くして欲しいです。(80 歳代以上)
- 子育て支援を充実させれば、結果的に子供の自殺が減ると思う。子供の現社会における生きにくさを支援する機関を増やすべき。児相等の機関が頑張っているが、マンパワー不足から仕事の質がどんどん落ちている。(40 歳代)
- DX を最大限に活用して、過去のしがらみや人海戦術でない効率的な健康福祉行政を追求してください。(50 歳代)
- 中野区に限らず、東京都や他の道府県でも言えることではあるが、前述の通り、障害者が在宅でも行政サービスが受けられるようなシステムを作るべきであると考えている。現在、当方 30 代で仕事がある身で、60 代の片方は脳梗塞の後遺症で半身麻痺、片方は認知症で高齢者施設に入所している両親がいると、オンラインで多くの手続きができるようなシステムがないと生活が詰む(両親のことでかなりの時間が取られる)。介護休暇制度などもあるが、それだけで解決もしないし、人を雇えば済むことではあるが、そのようなサービスがあれば、もう少し生きやすい世の中になります。(30 歳代)
- 特に若者は地域のための活動をしてきていることもあまり知らないと思うので、認知してもらうための幅広い SNS 広報活動が必要だと感じました。(20 歳代以下)
- 紙媒体や掲示板、特定の区の施設での広報が多く、中野区の取り組みやイベント情報の取得がとても難しいです。もっとネットでの広報や情報発信及びウェブの見やすきの改善を進めていただきたいです。(40 歳代)
- あらゆる面において、区政に要望・意見を言える制度・場がない。(70 歳代)
- 障がい者や病気で支援を必要としている人への、インターネット上での情報が不足していると感じる。自分で中野区のホームページから必要な情報を探そうとしても、最終的には役所や施設、センターへの訪問や電話相談を促されてしまうのが少し残念に思う。(20 歳代以下)

- 広報には限界があると思う。リアルに接する機会が重要。(30 歳代)
- 中野区健康福祉に対する支援には、満足しています。コロナウィルスの予防接種の問い合わせなど、中野区の保健所の方々は本当に一生懸命やっていたらと感謝しています。私の住んでいる野方地区は、世帯の高齢化が進み、新しく单身アパートや高層マンションなどが建つなどし、新しく転居されてくる世帯が増えてきました。一方で、コロナ禍で町内会などの地域主催のイベントが全くできず、住民同士の交流は全く無くなってしまいました。子供が、地域の幼稚園、小中学校に通っていれば、学校を基点とした繋がりもありますが、他地域の学校に通っていると、地域との関わりはほとんどゼロになってしまいます。そのような繋がりが感じられない地域では、ゴミのポイ捨てや不法投棄が横行するようになり、悲しい思いをしています。中野区には、地域の連携、つながりが感じられる区政を望みます。(50 歳代)
- いつも区民の為にありがとうございます。相談窓口に行くまでが大変だと思います。緊張したり、こんな内容で相談して良いのか？と悩んだりしてなかなか一歩が踏み出しにくいと思います。もっと気軽に相談できる方法や、場所などあれば良いと思います。各制度の仕組みや、手続きなど複雑なイメージです。自分で知ろうと勉強したり、情報を集めたりしない限りわからない事が多いと思います。(50 歳代)





## IV 調査票と単純集計



# 令和4年度（2022年度） 健康福祉に関する意識調査 調査票

## 【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えにならない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. 令和4年8月1日現在の状況でお答えください。
3. このアンケートは匿名です。名前・住所を書きいただく必要はありません。
4. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
5. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
6. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
7. 「その他（            ）」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
8. 郵送で回答する場合、本調査票を三つ折りにした上で、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。
9. インターネットで回答する場合、右のQRコードを読み取るか、URLを入力して、最初の画面でIDとパスワードを入力し、ログインしてください。  
※QRコードを読み取ると、ID・パスワードが自動的に入力されます。

回答用 URL : <https://www.cz-wee.com/if/nakano.php>

## 【 回答期限（郵送・インターネット共通）】 令和4年（2022年）10月11日（火曜日）

10. 調査報告書は、令和5年7月から、図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれる予定です。
11. 調査の内容や記入方法等について、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係  
TEL. 03-3228-5421      FAX. 03-3228-5662  
E-mail [fukusisuisin@city.tokyo-nakano.lg.jp](mailto:fukusisuisin@city.tokyo-nakano.lg.jp)

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

### 《はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます》

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（1） あなたの性別は、どちらですか。（○は1つ）

1. 男性(48.1%)	2. 女性(50.5%)	3. その他(0.6%)	無回答(0.8%)
--------------	--------------	--------------	-----------

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（2） あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

1. 18歳・19歳(0.4%)	2. 20歳代(10.8%)	3. 30歳代(16.9%)	4. 40歳代(13.8%)
5. 50歳代(16.0%)	6. 60～64歳(6.9%)	7. 65～69歳(6.4%)	8. 70～74歳(8.7%)
9. 75～79歳(6.6%)	10. 80～84歳(6.8%)	11. 85～89歳(3.8%)	12. 90歳以上(1.9%)
無回答(0.8%)			

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（3） あなたのご職業は、次のどれにあてはまりますか。

（○は1つ。複数ある方は、主なもの1つに○）

1. 正規の職員・従業員(39.2%)	2. 労働者派遣事業所の派遣社員(2.4%)	
3. パート・アルバイト・契約社員・嘱託(11.7%)	4. 自営業主・家族従事者(10.0%)	
5. 学生(2.4%)	6. 家事専業(8.1%)	
7. 無職(21.4%)	8. その他(3.7%)	無回答(1.0%)

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（4） あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1. 単身世帯（一人暮らし）(30.9%)	2. 夫婦のみ世帯(25.4%)
3. 2世代世帯（親と子）(34.4%)	4. 3世代世帯（親と子と孫）(3.9%)
5. その他の世帯(4.5%)	無回答(0.9%)

( (4) で、「3. 2世代世帯(親と子)」「4. 3世代世帯(親と子と孫)」「5. その他の世帯」に○をつけた方に) <回答者数: 419人>

(5) あなたの世帯に18歳未満の子どもはいますか。(○は1つ)

1. はい(41.8%)	2. いいえ(57.0%)	無回答(1.2%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(6) あなたは日常的に家族の介護をしていますか。(○は1つ)

1. はい(4.7%)	2. いいえ(93.3%)	無回答(2.0%)
-------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(7) お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建て)(37.2%)					
2. 持ち家(分譲マンション等の集合住宅)(18.1%)					
3. 公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)(4.4%)					
4. 民営の賃貸住宅(33.6%)					
5. 社宅、社員寮、公務員住宅(3.1%)					
6. その他(3.0%)					無回答(0.7%)

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(8) あなたは中野区にお住まいになられて何年になりますか。(○は1つ)

1. 1年未満(5.0%)	2. 1年以上5年未満(20.2%)		
3. 5年以上10年未満(11.4%)	4. 10年以上20年未満(14.4%)		
5. 20年以上(48.4%)			無回答(0.6%)

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(9) あなたがお住まいの地域はどこですか。(○は1つ)

1. 南台(6.7%)	2. 弥生町(8.6%)	3. 本町(7.2%)	4. 中央(8.0%)
5. 東中野(7.3%)	6. 中野(9.7%)	7. 上高田(5.2%)	8. 新井(5.0%)
9. 沼袋(3.5%)	10. 松が丘(2.0%)	11. 江原町(2.2%)	12. 江古田(2.9%)
13. 丸山(1.6%)	14. 野方(5.5%)	15. 大和町(5.1%)	16. 若宮(3.5%)
17. 白鷺(3.7%)	18. 鷺宮(5.9%)	19. 上鷺宮(5.8%)	無回答(0.5%)

## 《地域活動についておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：980人>

問1 あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 町会・自治会の活動(9.7%)    | 2. ボランティア活動(3.2%) |
| 3. スポーツ関係の活動(6.4%)    | 4. 趣味関係の活動(5.1%)  |
| 5. 学習・教養サークルの活動(2.4%) | 6. その他(1.9%)      |
| 7. 参加していない(78.4%)     | 無回答(0.7%)         |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問2 あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(○は1つ)

- |  |
|--|
| 1. 困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている(10.7%) |
| 2. 町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう(4.7%)                   |
| 3. たまに世間話する程度(19.9%)                             |
| 4. 顔を合わせたときに会釈する程度(43.1%)                        |
| 5. つきあいがほとんどない(20.9%)                            |
| 無回答(0.7%)  |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問3 自分には人とのつきあいがないと感じることはありますか。(○は1つ)

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(26.5%)  | 2. ほとんど感じない(34.7%) |
| 3. ときどき感じる(29.6%) | 4. 常に感じる(8.6%)     |
| 無回答(0.6%)         |                    |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問4 自分は取り残されていると感じることはありますか。(○は1つ)

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(40.7%)  | 2. ほとんど感じない(42.0%) |
| 3. ときどき感じる(14.6%) | 4. 常に感じる(1.9%)     |
| 無回答(0.7%)         |                    |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問5 自分は他の人から孤立していると感じることはありますか。(○は1つ)

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(41.0%)  | 2. ほとんど感じない(41.4%) |
| 3. ときどき感じる(14.4%) | 4. 常に感じる(2.7%)     |
| 無回答(0.5%)         |                    |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問6 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できるのは誰ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                      |                  |           |
|----------------------|------------------|-----------|
| 1. 配偶者・パートナー(53.7%)  | 2. 子(25.2%)      |           |
| 3. 親・祖父母(28.9%)      | 4. 兄弟姉妹(27.2%)   |           |
| 5. その他親族(7.4%)       | 6. 知人・友人(57.7%)  |           |
| 7. 職場の人(25.1%)       | 8. 加入団体の仲間(3.1%) |           |
| 9. ネット上の知り合い(2.9%)   | 10. その他(1.3%)    |           |
| 11. そのような人はいない(4.6%) |                  | 無回答(0.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問7 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                                |                      |           |
|--------------------------------|----------------------|-----------|
| 1. 自治会・町会(3.7%)                | 2. 民生委員・児童委員(2.6%)   |           |
| 3. 社会福祉協議会(1.8%)               | 4. 区役所等の公的機関(14.8%)  |           |
| 5. 精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家(6.3%) |                      |           |
| 6. 精神科以外の医師や弁護士等の専門家(7.3%)     |                      |           |
| 7. その他(5.7%)                   | 8. そのような人はいない(65.8%) | 無回答(1.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問8 あなたは、地域で生活していくうえで、近隣同士のどのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 日常的な声かけ(50.3%)                       |           |
| 2. 生活の様子気配り(ポストに新聞や手紙がたまっていないか等)(35.2%) |           |
| 3. 異変を感じた時の区役所等への連絡(38.2%)              |           |
| 4. ちょっとしたお手伝い(ごみ捨て等)(26.4%)             |           |
| 5. 見守り・支えあい活動は必要だと思わない(5.0%)            |           |
| 6. わからない(13.8%)                         | 無回答(0.9%) |



— IV 調査票と単純集計

(全員の方に) <回答者数：980人>

問9 あなたは、見守り・支えあい活動をしていますか。(○は1つ)

- |                                    |           |
|------------------------------------|-----------|
| 1. 継続的に活動している(5.5%)                |           |
| 2. 活動したことがある(11.8%)                |           |
| 3. 活動していないが、これから活動してみたい(41.8%)     |           |
| 4. 活動していないし、これからも活動したいと思わない(38.8%) | 無回答(2.0%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問10 あなたは、地域の子どもに対する見守り・支えあい活動をしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 困っているときに、相談にのったり、子どもを預かったりする等している(2.1%) |           |
| 2. 子どもを対象とした地域の活動にスタッフとして参加している(2.7%)      |           |
| 3. 通学中の子どもに声かけをしている(5.7%)                  |           |
| 4. あいさつをしている(20.6%)                        |           |
| 5. その他(1.6%)                               |           |
| 6. 特に何もしていない(73.3%)                        | 無回答(1.1%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問11 地域には、住民同士の交流の場がありますか。(○は1つ)

- |                      |                      |           |
|----------------------|----------------------|-----------|
| 1. ある(11.7%)         | 2. どちらかといえばある(18.0%) |           |
| 3. どちらかといえばない(23.0%) | 4. ない(45.8%)         | 無回答(1.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 12 障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。  
(○は3つまで)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動(27.0%)         |           |
| 2. ボランティア活動の育成・支援(16.3%)                   |           |
| 3. 障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実(27.3%)         |           |
| 4. 職業訓練の充実、就労の機会の確保(22.3%)                 |           |
| 5. 保健医療サービス・リハビリテーションの充実(17.1%)            |           |
| 6. 年金や手当の充実(20.4%)                         |           |
| 7. 相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実(25.8%)           |           |
| 8. 福祉機器や情報機器の開発・普及(5.5%)                   |           |
| 9. 障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備(29.5%) |           |
| 10. 点字や手話、字幕放送等による情報提供の充実(6.2%)            |           |
| 11. 民間住宅のバリアフリー化の普及促進(8.0%)                |           |
| 12. スポーツや文化活動・交流活動の推進(9.4%)                |           |
| 13. グループホーム等居住の場の整備、入居支援(9.1%)             |           |
| 14. 災害時の救出・救護体制の整備(23.6%)                  |           |
| 15. その他(1.3%)                              |           |
| 16. 特にない(2.8%)                             |           |
| 17. わからない(6.7%)                            | 無回答(1.1%) |

(60歳以上の方に) <回答者数：404人>

問 13 高齢者会館を利用したことがありますか。(○は1つ)

- |                     |                       |           |
|---------------------|-----------------------|-----------|
| 1. よく利用している(5.2%)   | 2. ときどき利用している(4.2%)   |           |
| 3. あまり利用していない(8.2%) | 4. 全く利用したことがない(81.4%) | 無回答(1.0%) |

(問 13 で「3. あまり利用していない」「4. 全く利用したことがない」に○をつけた方に)

<回答者数：362人>

問 13-1 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                           |                       |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 知らなかったから(21.8%)        | 2. 行く必要を感じないから(59.7%) |
| 3. 行く時間がないから(13.0%)       | 4. 遠いから(4.4%)         |
| 5. 参加したい催しや活動がないから(17.4%) | 6. 知り合いがないから(15.2%)   |
| 7. その他(6.6%)              | 無回答(2.2%)             |

《医療・健康についておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：980人>

問14 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 健康である(35.5%)         | 2. どちらかといえば健康である(46.4%) |
| 3. どちらかといえば健康でない(11.2%) | 4. 健康でない(5.7%)          |
| 無回答(1.1%)               |                         |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問15 1回30分以上の連続した運動や身体活動を週1~2回以上行っていますか。(○は1つ)

- |                               |                     |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 継続的に行っている(33.6%)           | 2. ときどき行っている(23.5%) |
| 3. 以前は行っていたが、現在は行っていない(15.4%) | 4. 全く行っていない(26.5%)  |
| 無回答(1.0%)                     |                     |

(問15で「1. 継続的に行っている」「2. ときどき行っている」に○をつけた方に)

<回答者数：559人>

問15-1 あなたは、運動・スポーツを1年以上続けていますか。(○は1つ)

- |                |                |            |
|----------------|----------------|------------|
| 1. 1年以上(68.7%) | 2. 1年未満(18.1%) | 無回答(13.2%) |
|----------------|----------------|------------|

問15-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |                     |           |
|--|---------------------|-----------|
| 1. 公園(18.6%)                             | 2. 遊歩道(26.1%)       |           |
| 3. 区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)(16.8%) |                     |           |
| 4. 高齢者施設(高齢者会館等)(4.8%)                   | 5. 民間スポーツクラブ(22.9%) |           |
| 6. 屋外で自転車利用(15.2%)                       | 7. その他(31.1%)       | 無回答(1.1%) |

(問15で「3. 以前は行っていたが、現在は行っていない」「4. 全く行っていない」に○をつけた方に)

<回答者数：411人>

問15-3 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. 時間がないから(28.7%)           | 2. 機会がないから(17.5%)       |
| 3. 施設や場所の利用時間帯が合わないから(1.9%) | 4. 施設や場所が近くにないから(3.4%)  |
| 5. お金がかかるから(3.2%)           | 6. 体力的に難しいから(9.7%)      |
| 7. 運動することが好きではないから(9.5%)    | 8. 一緒に運動する人がいないから(2.2%) |
| 9. 指導してくれる人がいないから(0.7%)     | 10. 運動する必要を感じないから(3.4%) |
| 11. その他(10.0%)              | 無回答(9.7%)               |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 16 この1年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                              |                     |
|------------------------------|---------------------|
| 1. 野球(16.7%)                 | 2. サッカー、フットサル(6.4%) |
| 3. バスケットボール(1.8%)            | 4. バレーボール(1.2%)     |
| 5. 卓球(1.1%)                  | 6. テニス(1.6%)        |
| 7. バドミントン(0.4%)              | 8. ラグビー(1.6%)       |
| 9. 陸上競技(1.5%)                | 10. マラソン、駅伝(2.9%)   |
| 11. 水泳(1.7%)                 | 12. 柔道、剣道、空手(0.8%)  |
| 13. ボクシング、レスリング、その他格闘技(2.0%) | 14. その他(3.4%)       |
| 15. 観戦しなかった(69.9%)           | 無回答(3.5%)           |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 17 あなたは、区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設について、何か望むことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実(22.8%)                    |           |
| 2. 障害のある人が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(9.1%)              |           |
| 3. 高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(20.8%)                |           |
| 4. 子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(15.6%)              |           |
| 5. 働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(16.4%)            |           |
| 6. 民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実(11.3%)                |           |
| 7. 体力測定等の健康指導(15.5%)                                |           |
| 8. 地域のスポーツ団体、クラブへの支援(7.1%)                          |           |
| 9. 指導者の育成・支援(5.7%)                                  |           |
| 10. スポーツボランティアの育成・支援(4.6%)                          |           |
| 11. 利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上(24.4%) |           |
| 12. スポーツに関する広報の充実(9.0%)                             |           |
| 13. 新規スポーツ施設の整備(12.0%)                              |           |
| 14. 既存スポーツ施設のメンテナンス・リニューアル(11.5%)                   |           |
| 15. 高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備(15.4%)                  |           |
| 16. その他(4.4%)                                       |           |
| 17. 特にない(25.8%)                                     | 無回答(2.4%) |

— IV 調査票と単純集計 —

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 18 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、あなたはどのような効果があったと感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む)(19.5%)    |           |
| 2. 障害者への理解の向上(24.6%)                |           |
| 3. 児童・生徒への好影響(15.6%)                |           |
| 4. 来訪者の増加による地域活性化(4.0%)             |           |
| 5. バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進(13.2%) |           |
| 6. 国際交流の推進(15.3%)                   |           |
| 7. その他(2.8%)                        |           |
| 8. 特にない(45.7%)                      | 無回答(1.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 19 パラリンピックや障害者スポーツ(ユニバーサルスポーツ)を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施(53.0%)      |           |
| 2. パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施(18.7%) |           |
| 3. 障害者スポーツに関する展示会等の実施(6.9%)                  |           |
| 4. 区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動(46.5%)  |           |
| 5. その他(6.4%)                                 | 無回答(6.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 20 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容がありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 区内スポーツイベント等の専門ボランティア(審判、通訳、救護など)(6.4%)  |           |
| 2. 区内スポーツイベント等の一般ボランティア(案内、受付、運搬など)(16.5%) |           |
| 3. イベント当日以外のボランティア(広報、データ処理など)(8.9%)       |           |
| 4. 区内スポーツ活動の指導者やコーチ(6.2%)                  |           |
| 5. 区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア(12.6%)         |           |
| 6. その他(1.6%)                               |           |
| 7. 特にない(62.2%)                             | 無回答(3.2%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 21 日ごろ、あなたが食べ物や食生活に関して心がけていることや、関心があることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| 1. 朝食を毎朝欠かさず食べる(57.3%)           |           |
| 2. 家族そろって食事をする(19.9%)            |           |
| 3. 栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている(55.1%) |           |
| 4. 国産品や地場産品の購入に努めている(27.6%)      |           |
| 5. 食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている(51.9%)  |           |
| 6. 食の安全性を重視している(37.9%)           |           |
| 7. 手軽さ・利便性や値段の安さを重視している(28.3%)   |           |
| 8. 間食をしないようにしている(20.4%)          |           |
| 9. その他(3.1%)                     |           |
| 10. 特にない(5.1%)                   | 無回答(0.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 22 生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、普段から適正体重の維持や減塩などに  
気をつけた食生活を実践していますか。(○は1つ)

- |                           |                         |           |
|---------------------------|-------------------------|-----------|
| 1. いつも気をつけて実践している(19.4%)  | 2. 気をつけて実践している(46.0%)   |           |
| 3. あまり気をつけて実践していない(25.7%) | 4. 全く気をつけて実践していない(5.4%) |           |
| 5. わからない(2.3%)            |                         | 無回答(1.1%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 23 あなたは、健康診断を受けていますか。(○は1つ)

- |                      |                     |           |
|----------------------|---------------------|-----------|
| 1. 毎年受けている(74.5%)    | 2. ときどき受けている(13.7%) |           |
| 3. ほとんど受けていない(10.7%) | 問 23-3 (次のページ)へ     | 無回答(1.1%) |

(問 23 で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に) <回答者数：864人>

問 23-1 あなたは、健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                          |                      |           |
|--------------------------|----------------------|-----------|
| 1. 職場や健康保険組合の健康診断(56.9%) | 2. 区が実施する健康診断(33.4%) |           |
| 3. 通学先で実施する健康診断(2.2%)    | 4. 人間ドック(10.6%)      |           |
| 5. その他(6.5%)             |                      | 無回答(1.2%) |

— IV 調査票と単純集計 —

(問23で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に) <回答者数: 864人>

問23-2 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 前回の結果と比較して健康状態を確かめた(76.2%)     |           |
| 2. 食事や運動等の生活習慣を見直した(23.1%)        |           |
| 3. 特定保健指導*を受けた(3.4%)              |           |
| 4. 医療機関に行って医師に相談した(20.4%)         |           |
| 5. すこやか福祉センターで病気や栄養について相談した(0.2%) |           |
| 6. 家族や友人に結果を見せて相談した(10.2%)        |           |
| 7. 気になることがなかったので何もしなかった(15.9%)    |           |
| 8. 気になることがあったが何もしなかった(5.9%)       |           |
| 9. その他(0.7%)                      | 無回答(1.9%) |

\*特定保健指導…メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の早期発見を目的とした健康診査(特定健診)の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のことです。

(問23で「3. ほとんど受けていない」に○をつけた方に) <回答者数: 105人>

問23-3 あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                |                         |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 時間がないから(26.7%)              | 2. 費用がかかるから(27.6%)      |
| 3. 面倒だから(33.3%)                | 4. 病気治療を継続しているから(21.0%) |
| 5. 健康診断を行っていることを知らなかったから(3.8%) |                         |
| 6. 健康診断を信用していないから(2.9%)        |                         |
| 7. 悪い結果が出ると不安になるから(14.3%)      |                         |
| 8. 健康なので必要性を感じないから(21.9%)      |                         |
| 9. その他(11.4%)                  | 無回答(0.0%)               |

(全員の方に) <回答者数: 980人>

問24 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を決めていますか。(○は1つ)

- |                 |                     |                  |           |
|-----------------|---------------------|------------------|-----------|
| 1. 決めている(48.8%) | 2. だいたい決めている(22.6%) | 3. 決めていない(27.6%) | 無回答(1.1%) |
|-----------------|---------------------|------------------|-----------|

(問24で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に) <回答者数: 699人>

問24-1 あなたは、かかりつけの診療所(医院・クリニック)で、普段から本人や家族等の日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。(○は1つ)

- |                 |                  |           |
|-----------------|------------------|-----------|
| 1. 受けている(54.2%) | 2. 受けていない(44.9%) | 無回答(0.9%) |
|-----------------|------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：980人>

問25 あなたは、この1年間、歯科健診を受けましたか。(○は1つ)

1. 受けた(58.6%)      2. 受けていない(40.5%)      無回答(0.9%)

(問25で「1. 受けた」に○をつけた方に) <回答者数：574人>

問25-1 あなたは、歯科健診をどこで受けていますか(あてはまるものすべてに○)

1. 職場の歯科健診(2.6%)      2. 区が実施する歯科健診(5.1%)  
 3. 通学先で実施する健康診断(0.2%)      4. かかりつけの歯科医(91.1%)  
 5. その他(3.1%)      無回答(0.2%)

(問25で「2. 受けていない」に○をつけた方に) <回答者数：397人>

問25-2 あなたが、歯科健診を受診しなかった理由は何ですか(あてはまるものすべてに○)

1. 時間がないから(30.7%)      2. 費用がかかるから(17.6%)  
 3. 面倒だから(24.7%)      4. かかりつけの歯科医で治療中だから(9.6%)  
 5. 歯科健診を行っていることを知らなかったから(11.8%)  
 6. 歯科健診を信用していないから(0.8%)      7. 悪い結果が出ると不安になるから(4.0%)  
 8. 必要性を感じないから(23.2%)  
 9. その他(12.6%)      無回答(3.0%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問26 あなたは、定期的にメンテナンスのために歯科医に通っていますか。(○は1つ)

1. 通っている(52.7%)      2. 通っていない(45.8%)      無回答(1.5%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問27 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの歯科診療所を決めていますか。  
(○は1つ)

1. 決めている(53.4%)      2. だいたい決めている(13.8%)      3. 決めていない(31.4%)      無回答(1.4%)



— IV 調査票と単純集計

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 28 あなたは、自宅の近くで調剤をお願いしたり薬に関する相談をするかかりつけの薬局を決めていますか。(○は1つ)

- |                  |                     |           |
|------------------|---------------------|-----------|
| 1. 決めている(33.4%)  | 2. だいたい決めている(25.0%) |           |
| 3. 決めていない(37.6%) | 4. その他(院内処方)(2.6%)  | 無回答(1.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 29 あなたは、自宅のある地域で救急患者が出た場合に、病状に応じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

- |                    |                      |                       |           |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|
| 1. 整っていると思う(20.9%) | 2. ほぼ整っていると思う(56.9%) | 3. 整っているとは思わない(19.0%) | 無回答(3.2%) |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 30 介護や病気での療養が必要になっても、医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

- |                    |                      |                       |           |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|
| 1. 整っていると思う(10.4%) | 2. ほぼ整っていると思う(49.1%) | 3. 整っているとは思わない(35.7%) | 無回答(4.8%) |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 31 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはこういった生活をお考えですか。(○は1つ)

- |                            |                            |           |
|----------------------------|----------------------------|-----------|
| 1. 可能な限り自宅や実家で過ごしたい(36.4%) | 2. 医療機関や施設に入院・入所したい(38.4%) |           |
| 3. わからない(22.1%)            | 4. その他(1.5%)               | 無回答(1.5%) |

(問 31 で「2. 医療機関や施設に入院・入所したい」に○をつけた方に) <回答者数：376人>

問 31-1 あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 1. 医療機関や施設のほうが安心だから(64.4%)                        | 2. 家族に負担をかけるから(72.1%)   |
| 3. 看護・介護をしてくれる家族がいないから(21.5%)                     | 4. 住宅環境が整っていないから(20.2%) |
| 5. 急に病状が変わったときの対応に不安があるから(40.7%)                  |                         |
| 6. 自宅で受けられる医療サービス(往診してくれる医師や訪問看護等)に不安があるから(10.9%) |                         |
| 7. 自宅や実家での療養は、お金がかかるから(10.9%)                     |                         |
| 8. その他(1.1%)                                      | 無回答(0.3%)               |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問32 自殺対策は、自分自身に関わることだと思いますか。(○は1つ)

- |                          |                        |
|--------------------------|------------------------|
| 1. そう思う(14.7%)           | 2. どちらかといえばそう思う(15.2%) |
| 3. どちらかといえばそう思わない(12.8%) | 4. そう思わない(39.8%)       |
| 5. わからない(15.1%)          | 無回答(2.4%)              |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問33 今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                 |           |
|---------------------------------|-----------|
| 1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析(33.8%)     |           |
| 2. 様々な分野におけるゲートキーパーの養成(21.0%)   |           |
| 3. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い(26.5%) |           |
| 4. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置(57.0%)     |           |
| 5. 自殺対策に関わる民間団体の支援(19.4%)       |           |
| 6. 自殺に関する広報・啓発(16.5%)           |           |
| 7. 子どもの自殺予防(44.4%)              |           |
| 8. その他(6.5%)                    | 無回答(4.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問34 あなたが、感染症の予防について考えたり、心がけていることは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている(65.4%)        |           |
| 2. 感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている(64.3%) |           |
| 3. 感染症の流行時には外出を控えようと考えている(50.8%)               |           |
| 4. 感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている(78.7%)          |           |
| 5. 感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている(66.3%)           |           |
| 6. その他(1.9%)                                   |           |
| 7. 特に考えたり、心がけていることはない(3.7%)                    | 無回答(1.5%) |

— IV 調査票と単純集計 —

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 35 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされている場合がありますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 基本5項目(エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム)を参考にしている(28.2%) |           |
| 2. 基本5項目に加え、他の栄養成分も参考にしている(13.1%)                  |           |
| 3. エネルギーのみを参考にしている(11.2%)                          |           |
| 4. ナトリウムのみを参考にしている(2.7%)                           |           |
| 5. 全く参考にしていない(39.3%)                               | 無回答(5.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 36 あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- |                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 関心があり、食中毒について十分理解している(12.6%)   |           |
| 2. 関心があり、食中毒についてある程度理解している(43.8%) |           |
| 3. 関心はあるが、食中毒についてよくわかっていない(28.4%) |           |
| 4. 食中毒について、特に気にしていない(12.0%)       | 無回答(3.3%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 37 あなたはたばこを吸いますか。(○は1つ)

- |                                |                          |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1. 毎日吸っている(13.8%)              | 2. ときどき吸う日がある(1.3%)      |
| 3. 以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない(7.1%) | 4. 吸わない(75.5%) 無回答(2.2%) |

(問37で「1. 毎日吸っている」「2. ときどき吸う日がある」に○をつけた方に) <回答者数：148人>

問 37-1 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

- |                       |                           |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 禁煙したい(18.9%)       | 2. 吸う本数を減らしたい(34.5%)      |
| 3. 現状通り喫煙を続けたい(33.1%) | 4. わからない(12.2%) 無回答(1.4%) |

## 《制度等についておたずねします》

(全員の方に) &lt;回答者数：980人&gt;

問 38 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(○は1つ)

1. 名前は知っている(20.4%) 2. 内容も知っている(5.5%) 3. 知らない(71.4%) 無回答(2.7%)

(問 38 で「1. 名前は知っている」「2. 内容も知っている」に○をつけた方に) &lt;回答者数：254人&gt;

問 38-1 あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 中野区公式ホームページ・区報で見た(17.3%)  
 2. インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った(53.9%)  
 3. 講演会、イベントなどで聞いた(5.1%)  
 4. 職場で聞いた(20.9%)  
 5. 友人、知人等から聞いた(6.7%)  
 6. その他(6.3%)  
 7. 覚えていない(9.4%) 無回答(0.4%)

(全員の方に) &lt;回答者数：980人&gt;

問 39 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 中野区公式ホームページ・区報による啓発(44.6%) 2. 区民向けの啓発活動(47.1%)  
 3. 企業向けの啓発活動(29.2%) 4. 障害のある人と交流するイベントや行事の開催(32.7%)  
 5. その他(5.0%) 無回答(4.5%)

(全員の方に) &lt;回答者数：980人&gt;

問 40 あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

ヘルプマーク

1. ヘルプマークの意味を含めて知っている(54.9%)  
 2. ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない(23.6%)  
 3. 知らない(19.2%) 無回答(2.3%)



— IV 調査票と単純集計 —

(全員の方に) <回答者数：980人>

問41 あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている(10.6%) |           |
| 2. 利用の仕方をだいたい知っている(19.6%)              |           |
| 3. 利用の仕方をあまり知らない(29.5%)                |           |
| 4. 利用の仕方を全く知らない(38.9%)                 | 無回答(1.4%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問42 あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。(○は1つ)

- |                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 認知症の症状や基本的な対応方法を知っている(28.1%)   |           |
| 2. 認知症の症状について聞いたことがある(43.2%)      |           |
| 3. 言葉は聞いたことがあるが、わからないことが多い(20.0%) |           |
| 4. 知らない(7.1%)                     | 無回答(1.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問43 あなたはこれまでに見たり聞いたりして、「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」という言葉や意味を知っていましたか。(○は1つ)

※ACP:アドバンス・ケア・プランニングとは、将来あなた自身が病気になったり、介護が必要になったりしたときに備えて、これまで大切にしてきたことや、これから誰とどのように過ごしたいか、希望する医療や介護のことなどについて、家族や大切な人、医療・介護関係者とあらかじめ考え、繰り返し話し合うプロセスのことを言います。平成30年度、厚生労働省はACPの愛称を「人生会議」と決め普及・啓発を行っています。

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)の意味も含めて知っていた(4.6%)           |           |
| 2. 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)があることは知っていたが、意味は知らなかった(6.7%) |           |
| 3. 知らなかった(86.9%)   | 無回答(1.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問44 「成年後見制度」という言葉やしくみについて、どの程度知っていますか。(○は1つ)

- |                               |                              |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. 知っている(13.2%)               | 2. だいたい知っている(16.2%)          |
| 3. 一部知っているが、わからない内容も多い(28.0%) | 4. ほとんど知らない(40.9%) 無回答(1.7%) |

## 《相談窓口についておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 45 あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。

(1) すこやか福祉センター (○は1つ)

1. 身近に感じる(13.4%) 2. 身近に感じない(43.1%) 3. わからない(41.0%) 無回答(2.6%)

(2) 地域包括支援センター (○は1つ)

1. 身近に感じる(15.6%) 2. 身近に感じない(42.1%) 3. わからない(40.0%) 無回答(2.2%)

(3) 区民活動センター (○は1つ)

1. 身近に感じる(19.0%) 2. 身近に感じない(38.8%) 3. わからない(40.0%) 無回答(2.2%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 46 犯罪被害者やその家族に対する相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている (相談窓口の場所も知っている) (4.2%)

2. 知っている (相談窓口の場所は知らない) (28.7%)

3. 知らない(65.1%) 無回答(2.0%)

## 《その他》

(全員の方に)

問 47 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。


ご協力ありがとうございました

この調査票は環境に配慮して  
再生紙を使用しています。





令和4年度（2022年度）  
健康福祉に関する意識調査  
報告書

発行日／令和5年（2023年）3月  
印刷登録番号／4中健福第3248号  
発行／中野区健康福祉部福祉推進課 健康福祉企画係  
〒164-8501  
東京都中野区中野 4-8-1  
電話 03-3228-5421（直通）  
編集分析／株式会社アイアールエス  
〒160-0004  
東京都新宿区四谷 3-1-3 第1富澤ビル7F  
電話 03-3357-7181（代表）

この冊子は環境に配慮して再生紙を使用しています。





令和4年度（2022年度）

高齢福祉・介護保険サービス意向調査

報告書

令和5年（2023年）3月

中野区



## はじめに

令和7年（2025年）には、いわゆる団塊の世代のすべての人が後期高齢者（75歳以上）となり、中野区においても高齢化率が上昇することが予想されるため、さらに創意工夫をした高齢者支援のあり方が求められています。

本調査は、令和3年（2021年）3月に策定した中野区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画が改定時期を迎えるため、高齢者の健康福祉サービスの利用実態や今後の利用意向を把握するために実施したものです。

今回の調査結果につきましては、計画の改定のみならず、今後の健康福祉に関する区の事業や施策の見直し、改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和5年（2023年）3月  
中野区健康福祉部  
中野区地域支えあい推進部



# 目次

## I 調査の概要

1. 調査の目的.....	3
2. 調査の内容.....	3
3. 調査の設計.....	4
4. 報告書を読む際の留意点.....	4

## II 調査結果の分析

### 高齢者調査

1. 回答者の属性.....	9
1.1. アンケートの回答者.....	9
1.2. 居住地.....	10
1.3. 性別.....	11
1.4. 年齢.....	11
1.5. 家族構成.....	12
1.6. 要支援認定.....	12
1.6.1. 介護・介助の必要性.....	13
1.6.2. 介護・介助が必要になった主な原因.....	14
1.6.3. 介護、介助を行っている人.....	15
1.7. 世帯の昨年の合計収入.....	16
1.7.1. 現在の預貯金額.....	17
1.7.2. 暮らしの状況.....	21
1.8. 居住形態.....	23
2. からだを動かすことについて.....	25
2.1. 機能評価.....	25
2.1.1. 運動器機能.....	25
2.1.2. 転倒リスク.....	26
2.1.3. 閉じこもり傾向.....	27
2.2. 外出の回数.....	29
2.2.1. 外出が減っている理由.....	30
2.3. 外出する際の移動手段.....	31
3. 食べることについて.....	32
3.1. 機能評価.....	32
3.1.1. 低栄養.....	32
3.1.2. 口腔機能.....	33
3.2. 歯磨きの状況.....	35

3.3. 歯の数と入れ歯の利用状況.....	36
3.3.1. 噛み合わせの状況.....	37
3.3.2. 毎日入れ歯の手入れをしているか.....	38
3.4. 食事をとむにする機会.....	39
4. 毎日の生活について.....	41
4.1. 機能評価.....	41
4.1.1. 認知機能.....	41
4.1.2. IADL（手段的自立度）.....	43
4.1.3. 知的能動性.....	45
4.1.4. 社会的役割.....	47
4.2. 趣味の有無.....	49
4.3. 生きがいの有無.....	50
5. 地域での活動について.....	51
5.1. 会・グループ等への参加頻度.....	51
5.1.1. 地域活動に参加していない理由.....	52
5.2. 地域住民の有志による活動に参加者として参加してみたいか.....	53
5.3. 地域住民の有志による活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいか.....	54
5.4. 地域のひとから頼りにされているか.....	55
6. たすけあいについて.....	56
6.1. 心配事や愚痴を聞いてくれる人.....	56
6.2. 心配事や愚痴を聞いてあげる人.....	57
6.3. 看病や世話をしてくれる人.....	58
6.4. 看病や世話をしてあげる人.....	59
6.5. 何かあったときに相談する相手.....	60
6.6. 友人・知人と会う頻度.....	62
6.7. 1か月間、何人の友人・知人と会ったか.....	64
6.8. よく会う友人・知人との関係.....	65
7. 健康について.....	66
7.1. 健康状態.....	66
7.2. 幸福度.....	68
7.3. 毎日の生活に充実感がない.....	69
7.4. これまで楽しんでやれていたことが楽しめない.....	70
7.5. 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる.....	71
7.6. 自分が役に立つ人間だとは思えない.....	72
7.7. わけもなく疲れたような感じがする.....	73
7.8. 機能評価.....	74
7.8.1. うつ傾向.....	74
7.9. 飲酒の状況.....	75
7.10. 喫煙の状況.....	76

7.11. 現在治療中、または後遺症のある病気.....	77
8. 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	79
8.1. 家族を含めた認知症の症状の有無.....	79
8.2. 認知症の相談窓口を知っているか.....	80
9. 成年後見制度について.....	81
9.1. 成年後見制度の認知度.....	81
9.1.1. 成年後見制度の利用意向.....	83
9.1.2. 成年後見制度を利用したくない理由.....	85
10. その他.....	88
10.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）.....	88

## 介護サービス利用調査

1. 要支援・要介護認定者本人について.....	95
1.1. アンケートの回答者.....	95
1.2. 居住地域.....	96
1.3. 家族構成.....	97
1.3.1. 家族の人数.....	97
1.3.2. 同居家族の内訳.....	97
1.3.3. 日中、ひとりになることの有無.....	98
1.4. 性別.....	99
1.5. 年齢.....	99
1.6. 要介護度.....	99
1.6.1. 介護・介助が必要になった原因.....	100
1.7. 住まいの種類.....	102
1.7.1. 生活する部屋は2階以上にあるか.....	103
1.7.2. エレベーターの設置.....	105
1.8. 介護を受けたい場所.....	106
1.8.1. 施設等への入所・入居の検討状況.....	108
1.8.2. 施設等への入所・入居を検討した理由.....	109
1.9. 現在抱えている傷病.....	110
1.10. 内容を知らない又はわからない介護保険サービス.....	112
1.11. 介護保険サービス利用の有無（令和4年10月）.....	113
1.12. 介護保険サービス.....	115
1.12.1. 介護保険サービスの利用状況（令和4年10月）.....	115
1.12.2. ケアプランへの不満.....	117
1.12.3. 介護保険サービスを利用していない理由.....	119
1.13. 現在利用している、介護保険サービス以外の支援・サービス.....	121
1.14. 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス.....	123
1.15. 訪問診療の利用の有無.....	124

1. 16. 訪問歯科診療、訪問薬剤師の利用の有無.....	125
1. 17. 地域包括支援センターへの相談の有無.....	126
1. 18. 家族・親族からの介護の頻度.....	127
2. 主な介護者について.....	129
2. 1. 主な介護者.....	129
2. 2. 主な介護者の性別.....	129
2. 3. 主な介護者の年齢.....	130
2. 4. 介護を理由として、過去1年間の間に仕事を辞めた介助者の有無.....	131
2. 5. 主な介護者が行っている介護.....	132
2. 6. 主な介護者が不安に感じる介護.....	134
2. 7. 主な介護者の現在の勤務形態.....	135
2. 8. 主な介護者の就労形態の調整.....	137
2. 9. 仕事と介護の両立に効果がある支援.....	139
2. 10. 今後の介護の見通し.....	142

## ケアマネジャー調査

1. 回答者の属性.....	145
1. 1. 所属する事業所の所在地.....	145
1. 2. 所属する事業所が提供するサービス（複数回答）.....	145
1. 3. 勤務体系.....	151
1. 4. ケアマネジャーとしての従事期間.....	151
1. 5. ケアマネジャー受験資格と当該職種の従事年数.....	152
1. 6. 過去3年間で、所属事業所を変わった回数.....	154
1. 7. 給付管理件数.....	154
1. 8. 作成する居宅サービス計画の件数.....	155
1. 9. 介護予防サービス計画の受託または作成人数.....	155
2. ケアプラン・介護予防について.....	156
2. 1. 作成するケアプランの件数について.....	156
2. 2. 現行の介護サービスが要介護者等の自立支援に果たす役割.....	157
2. 3. 地域の自主グループをどのくらい知っているか.....	158
2. 4. ケアプランに地域資源を盛り込んでいるか.....	159
2. 5. ケアプランに盛り込んでいる地域資源.....	160
2. 6. ケアプランに地域資源を盛り込む上での課題（自由回答）.....	161
2. 7. 供給不足のため、利用者に提供できないサービス.....	162
2. 8. 供給不足以外に必要なサービスが提供できない場合.....	165
2. 9. 介護保険サービスが家族の介護負担軽減につながっているか.....	166
2. 10. 家庭生活を維持するために役立つと思う生活支援事業.....	167
2. 11. 生活に張りを持ってもらうために効果的なもの.....	168
2. 12. ケアマネジメントを行う際に工夫していること（自由回答）.....	169



2. 13. 要介護者等が自宅や地域で暮らし続けるために必要な支援	170
3. 連携について	172
3. 1. 地域包括支援センターとの連携	172
3. 2. 信頼できる地域包括支援センターの有無	173
3. 3. 主治医との連携	174
3. 4. 在宅医療を進めるうえで、不足する医療資源	175
3. 5. 区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携	176
3. 6. サービス担当者会議を開催する上での問題点	177
4. 困難な事例への対応について	178
4. 1. ケアマネジメントを行う際、対応に苦慮するケース	178
4. 2. 要介護者や家族からの相談への対応	179
4. 3. 相談への対応に苦慮した時の相談先	180
4. 4. 高齢者等への虐待が疑われるケースの発見や相談の件数	181
4. 5. 高齢者虐待対応について強化すべきこと	182
5. 介護予防について	183
5. 1. 充実すべき区の介護予防事業	183
6. 成年後見制度について	185
6. 1. 成年後見制度が必要と思われるが使っていない人数	185
6. 2. 成年後見制度を活用する上での課題	186
7. 認知症に関する課題について	187
7. 1. 「認知症に関する家族介護教室」への参加のすすめ	187
7. 2. 認知症高齢者に関して必要な施策	188
8. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について	190
8. 1. 人生会議（ACP）という言葉や意味を知っているか	190
8. 2. 人生会議（ACP）を活用した支援を行った経験の有無	191
8. 3. 人生会議（ACP）を実践する上で難しいと思う点	192
9. 在宅介護の可能性の拡大について	193
9. 1. 要介護者等が居宅や地域での生活を続けるために充実すべき点	193
10. 業務遂行上の問題について	195
10. 1. 業務遂行上の問題について	195
10. 2. 小規模多機能型居宅介護サービスの活用しづらさについて	197
11. その他	198
11. 1. 介護保険制度に関する意見（自由回答）	198

### Ⅲ 調査票と単純集計



# I 調査の概要



## 1. 調査の目的

高齢者、要支援・要介護認定者の健康福祉・介護保険サービスの利用実態や今後の利用意向等及び、ケアマネジャーの実態や業務遂行状況等を把握することを目的とする。

## 2. 調査の内容

### ① 高齢者調査

- (1) 回答者の属性
- (2) からだを動かすことについて
- (3) 食べることについて
- (4) 毎日の生活について
- (5) 地域での活動について
- (6) たすけあいについて
- (7) 健康について
- (8) 認知症にかかる相談窓口の把握について
- (9) 成年後見制度について
- (10) 自由回答

### ② 介護サービス利用調査

- (1) 要支援・要介護認定者本人について
- (2) 主な介護者について

### ③ ケアマネジャー調査

- (1) 回答者の属性
- (2) ケアプラン・介護予防について
- (3) 連携について
- (4) 困難な事例への対応について
- (5) 介護予防について
- (6) 成年後見制度について
- (7) 認知症に関する課題について
- (8) 人生会議について
- (9) その他
- (10) 自由回答

### 3. 調査の設計

調査は、以下の①～②は、郵送による配布・回収、③は郵送による配布・回収とインターネットによる回答を併用して実施した。

#### ① 高齢者調査

- ・調査対象：基準日（令和4年10月1日）現在で65歳以上の区民（介護予防・日常生活支援総合事業対象者及び要支援1・2認定者を含む）。ただし、要介護認定者を除く。
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・有効回収数：1,652人（回収率55.1%）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査期間：令和4年11月15日～12月6日

#### ② 介護サービス利用調査

- ・調査対象：要支援1から要介護5までの認定を受けている区民。ただし、施設入所者を除く。
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・有効回収数：1,344人（回収率44.8%）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査期間：令和4年11月15日～12月6日

#### ③ ケアマネジャー調査

- ・調査対象：区内及び隣接区の居宅介護支援事業所で区民のケアプランを10件以上扱っている事業所に所属するケアマネジャー
- ・調査地域：中野区全域及び隣接区
- ・調査標本数：250人
- ・有効回収数：138人（回収率55.2%）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査期間：令和4年11月15日～12月6日

### 4. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。

## Ⅱ 調査結果の分析





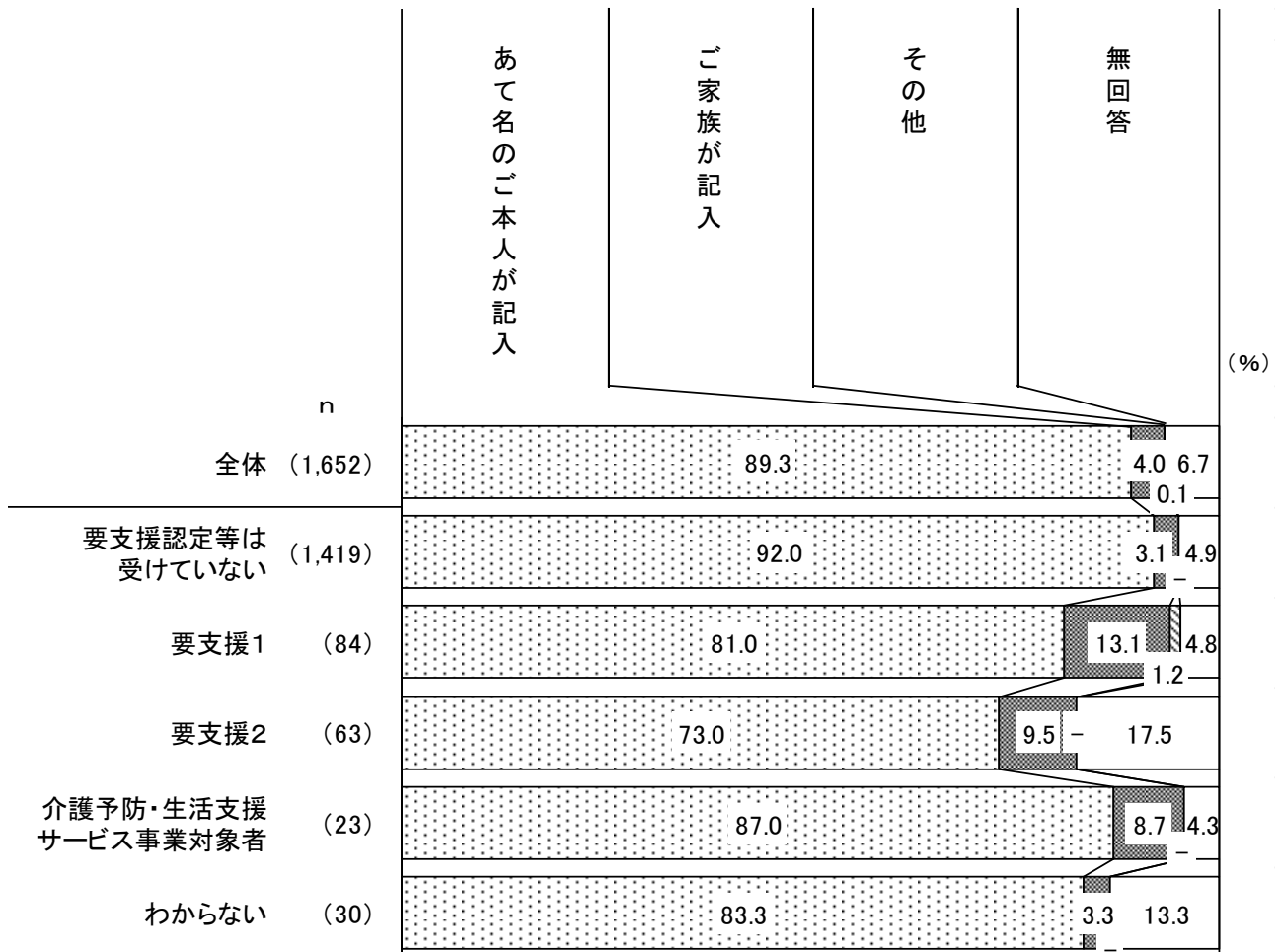
# 高齢者調査

---

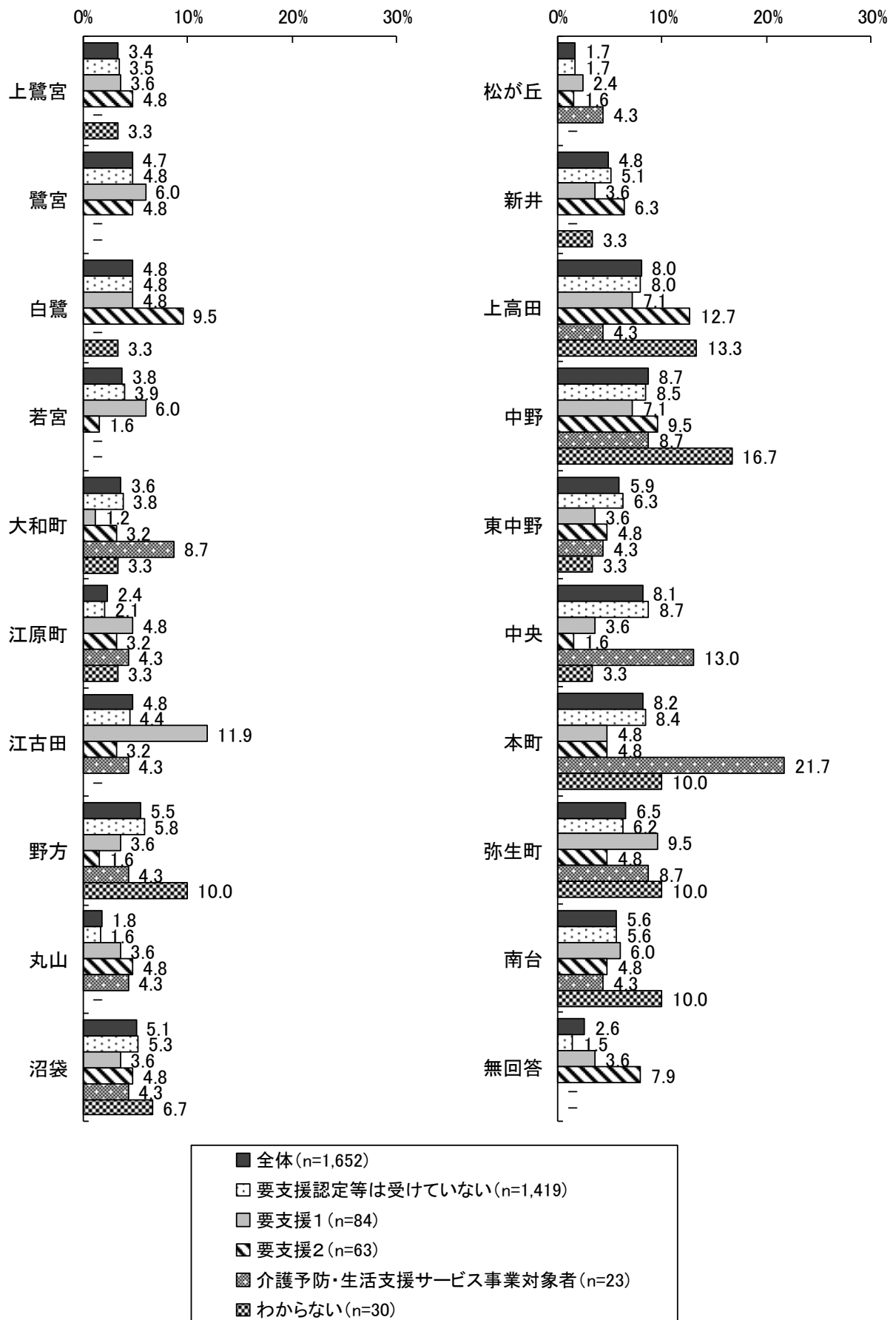


# 1. 回答者の属性

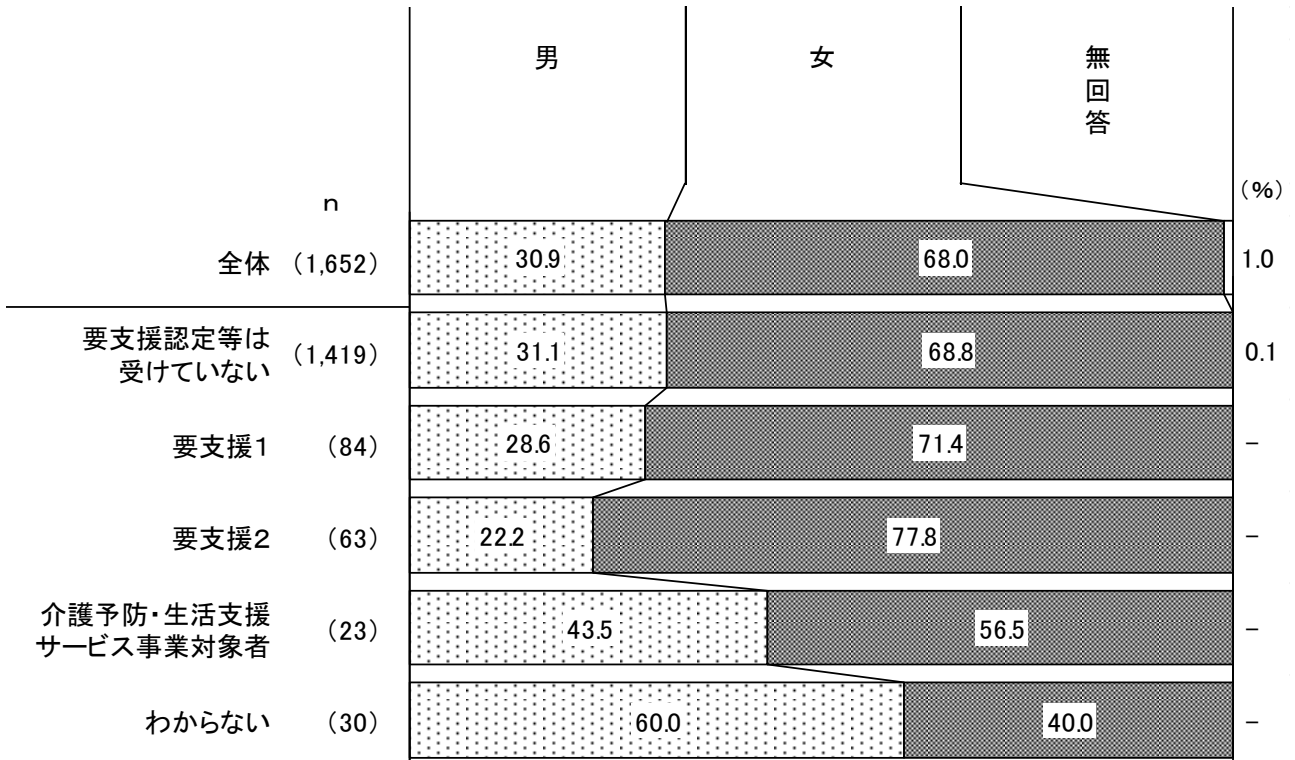
## 1.1. アンケートの回答者



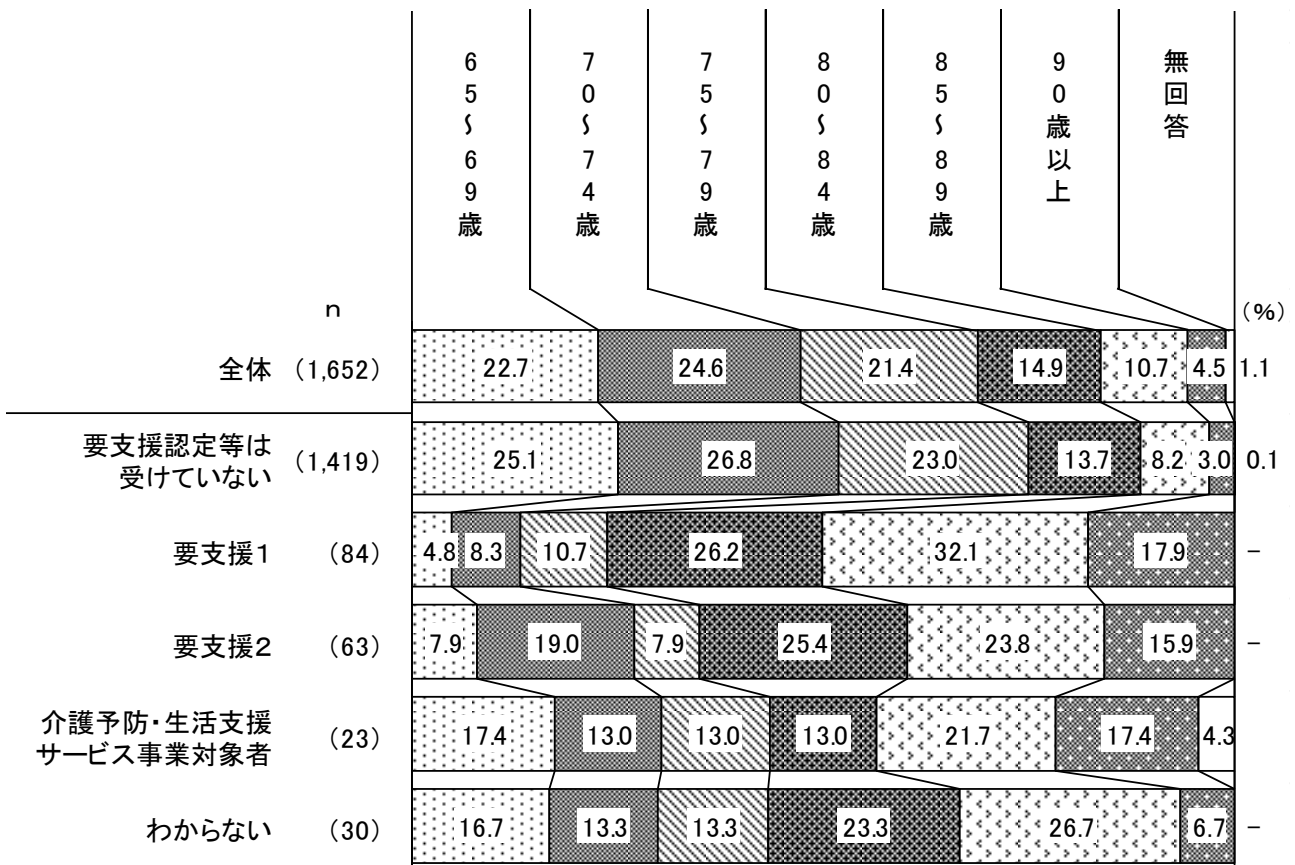
1.2. 居住地域



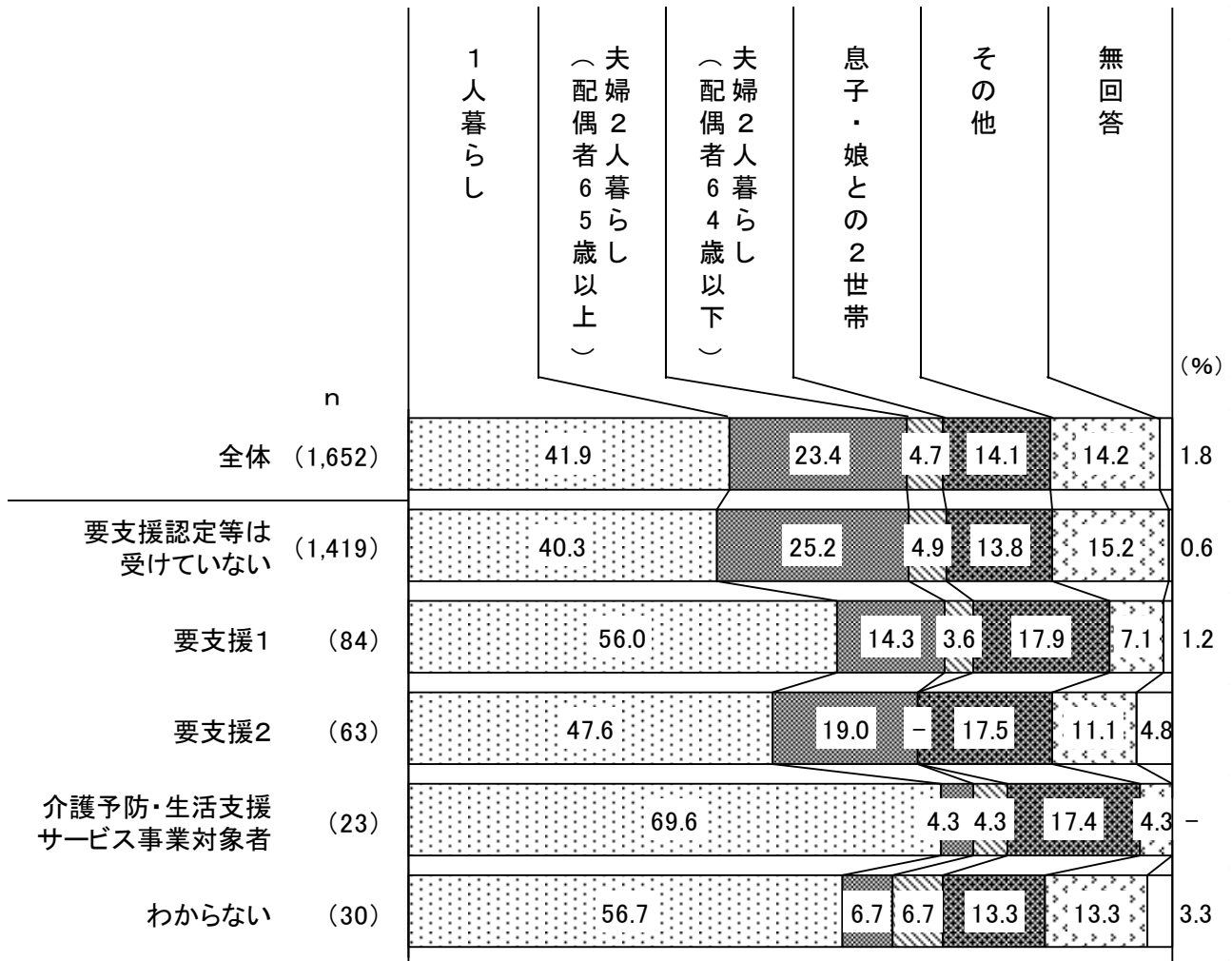
1.3. 性別



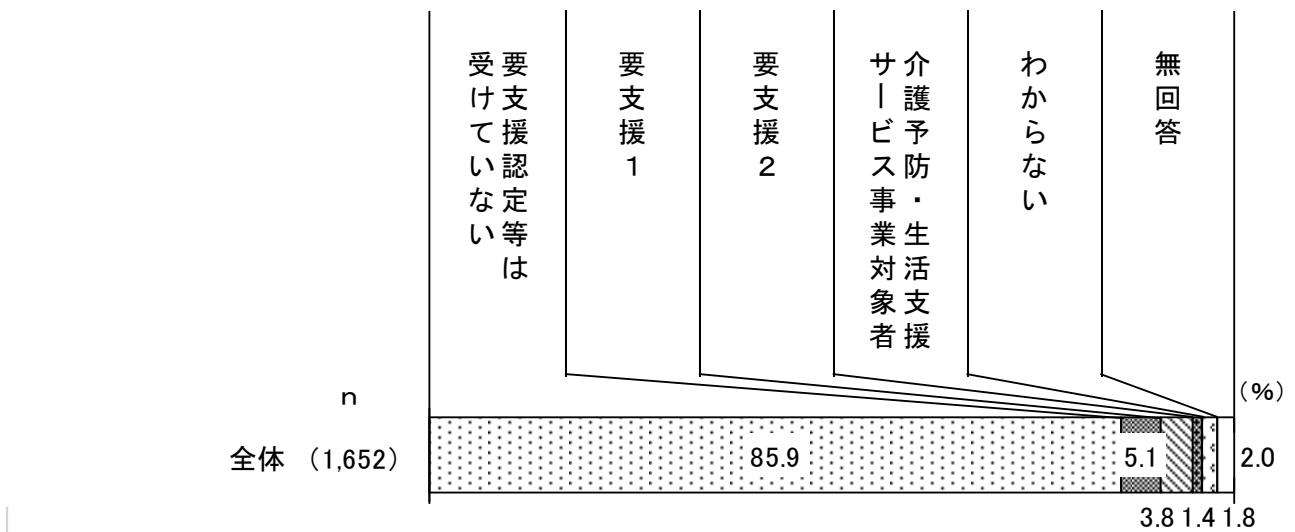
1.4. 年齢



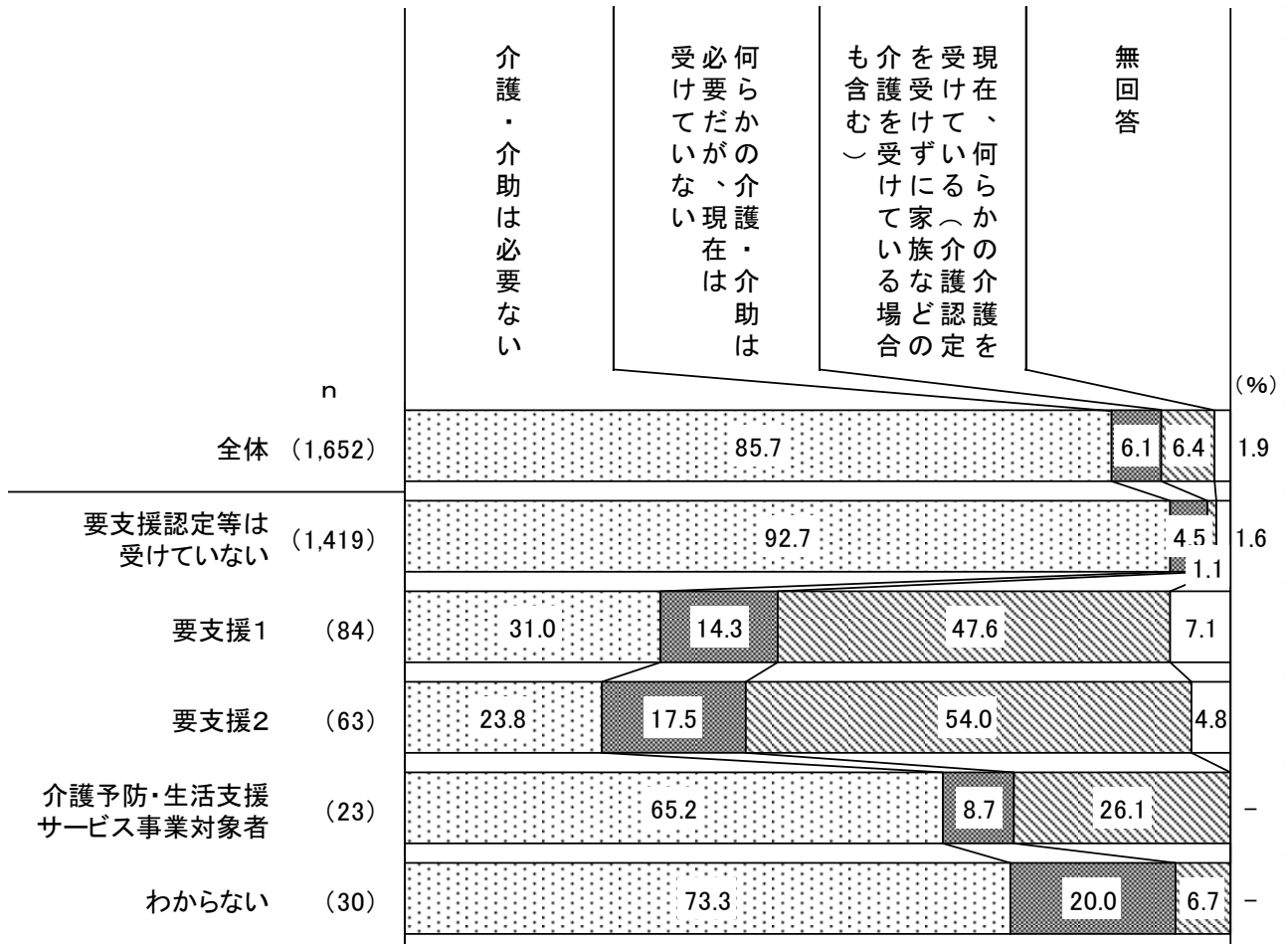
1.5. 家族構成



1.6. 要支援認定

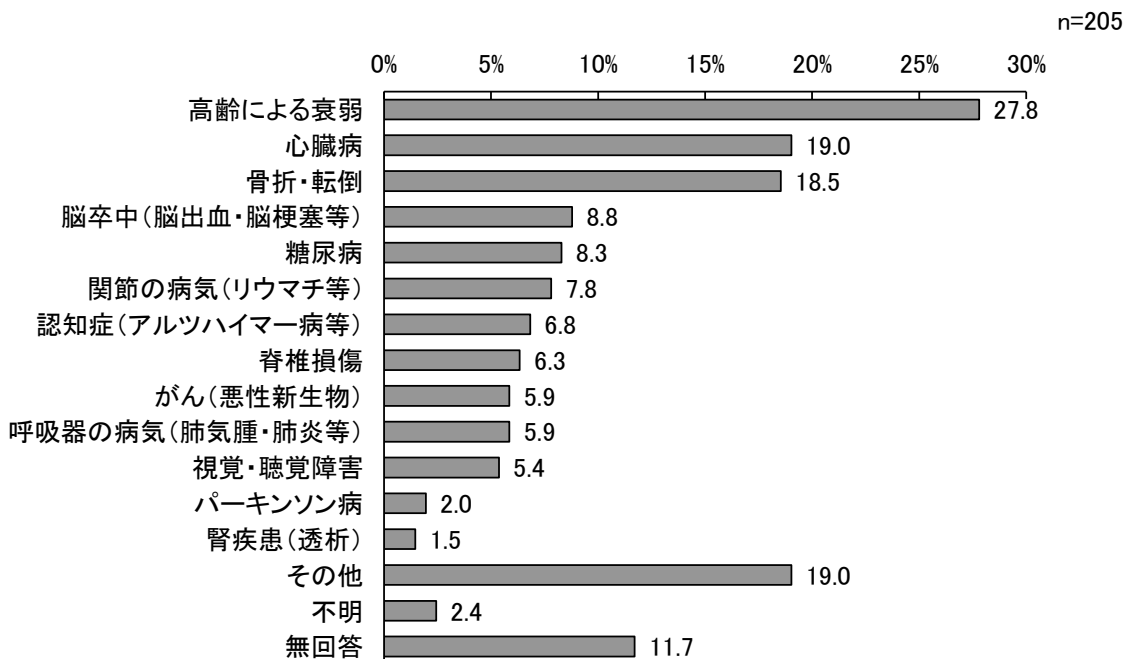


1.6.1. 介護・介助の必要性



1.6.2. 介護・介助が必要になった主な原因

(※「1.6.1. 介護・介助の必要性」において、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」「現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方)



【状態別】 介護・介助が必要になった主な原因

単位：%

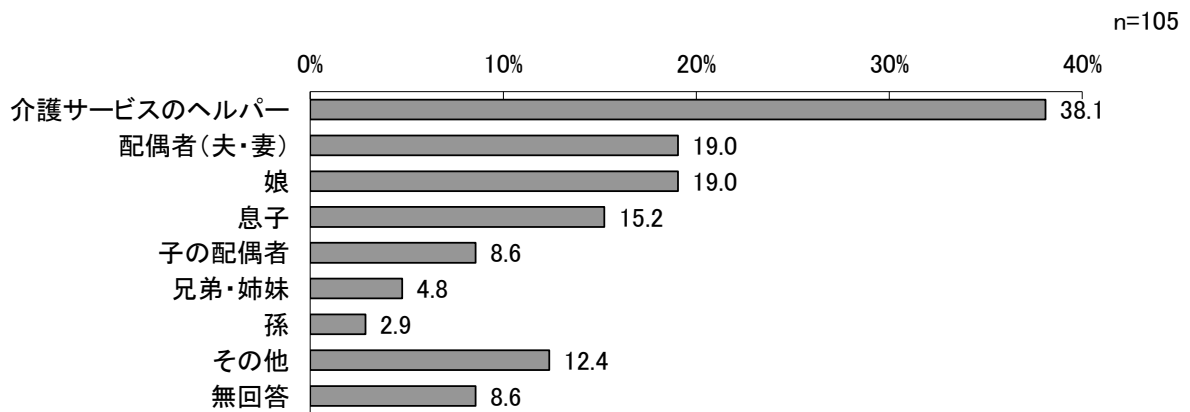
	有効回答数(件)	高齢による衰弱	心臓病	骨折・転倒	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	糖尿病	関節の病気(リウマチ等)	認知症(アルツハイマー病等)	脊椎損傷
全体	205	27.8	19.0	18.5	8.8	8.3	7.8	6.8	6.3
要支援認定等は受けていない	80	32.5	21.3	12.5	7.5	5.0	7.5	10.0	3.8
要支援1	52	23.1	21.2	28.8	5.8	9.6	9.6	7.7	9.6
要支援2	45	22.2	20.0	17.8	13.3	13.3	6.7	2.2	8.9
介護予防・生活支援サービス事業対象者	8	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	8	50.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0

	有効回答数(件)	がん(悪性新生物)	呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	視覚・聴覚障害	パーキンソン病	腎疾患(透析)	その他	不明	無回答
全体	205	5.9	5.9	5.4	2.0	1.5	19.0	2.4	11.7
要支援認定等は受けていない	80	6.3	6.3	8.8	2.5	1.3	17.5	1.3	20.0
要支援1	52	5.8	7.7	1.9	0.0	3.8	19.2	1.9	5.8
要支援2	45	6.7	2.2	0.0	2.2	0.0	22.2	2.2	4.4
介護予防・生活支援サービス事業対象者	8	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5
わからない	8	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	12.5	12.5	25.0



1.6.3. 介護、介助を行っている人

(※「1.6.1. 介護・介助の必要性」において、「現在、何らかの介護を受けている」とお答えの方)

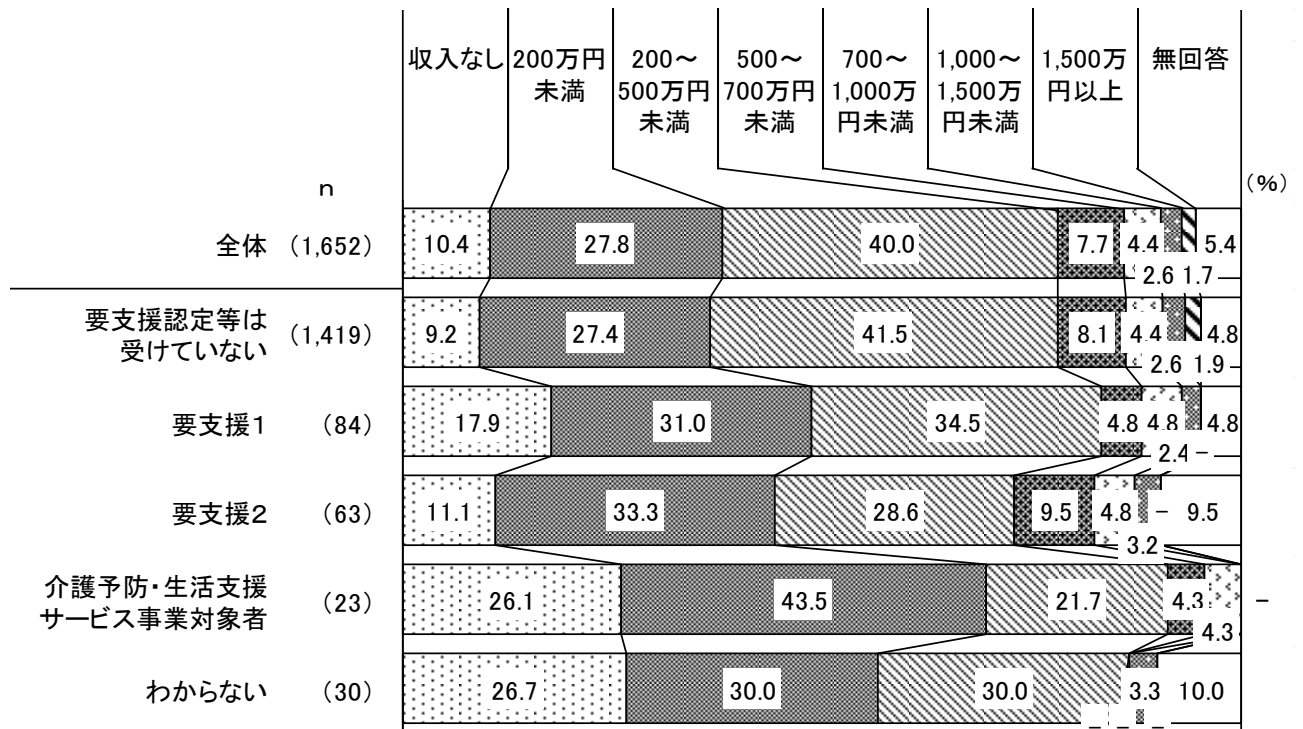


【状態別】 介護、介助を行っている人

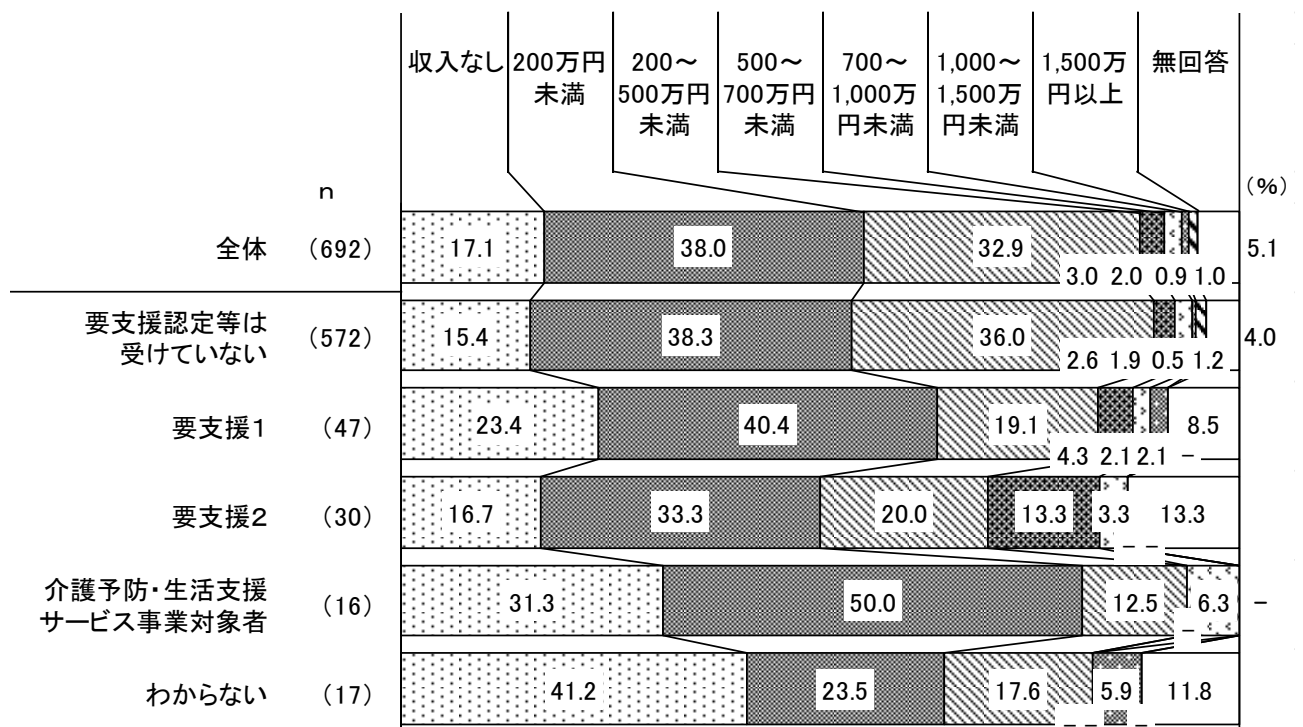
単位：%

	有効回答数(件)	介護サービスのヘルパー	配偶者(夫・妻)	娘	息子	子の配偶者	兄弟・姉妹	孫	その他	無回答
全体	105	38.1	19.0	19.0	15.2	8.6	4.8	2.9	12.4	8.6
要支援認定等は受けていない	16	6.3	43.8	12.5	31.3	6.3	6.3	6.3	0.0	0.0
要支援1	40	45.0	12.5	20.0	12.5	12.5	5.0	5.0	12.5	10.0
要支援2	34	47.1	23.5	14.7	11.8	2.9	0.0	0.0	17.6	5.9
介護予防・生活支援サービス事業対象者	6	50.0	0.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7
わからない	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0

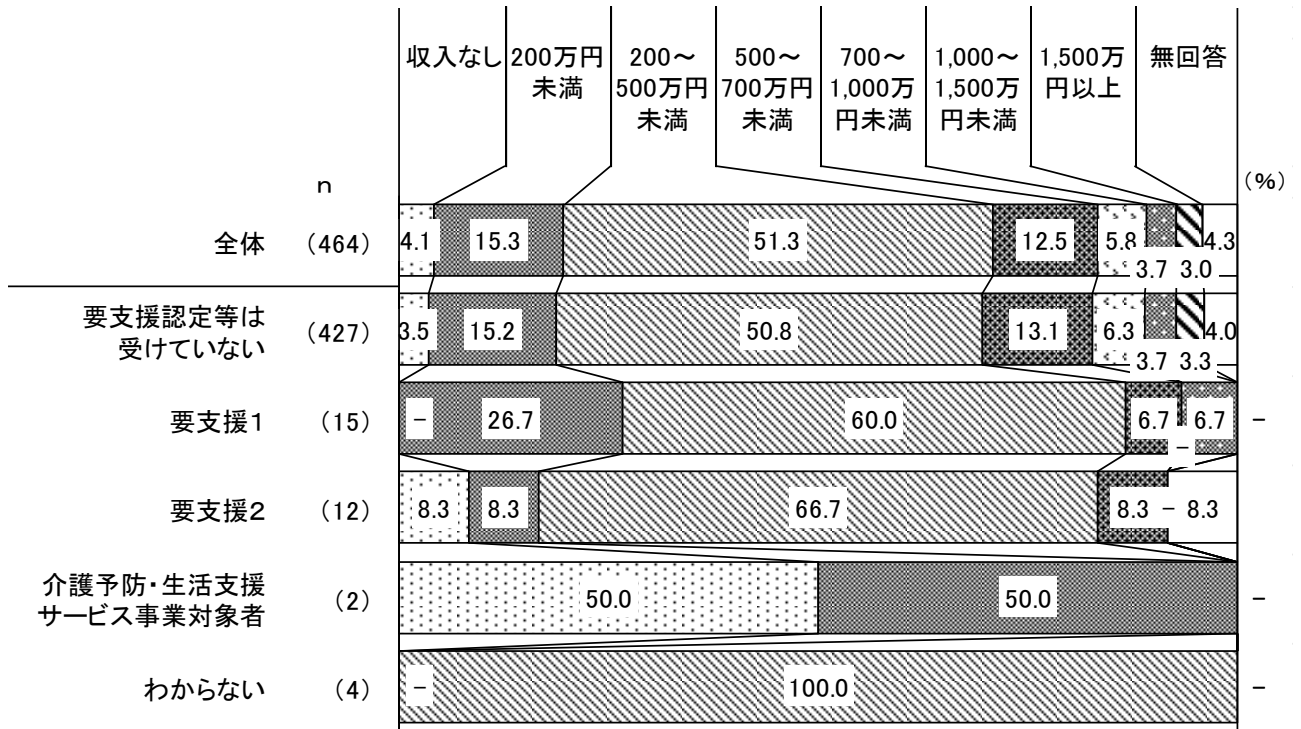
1.7. 世帯の昨年の合計収入



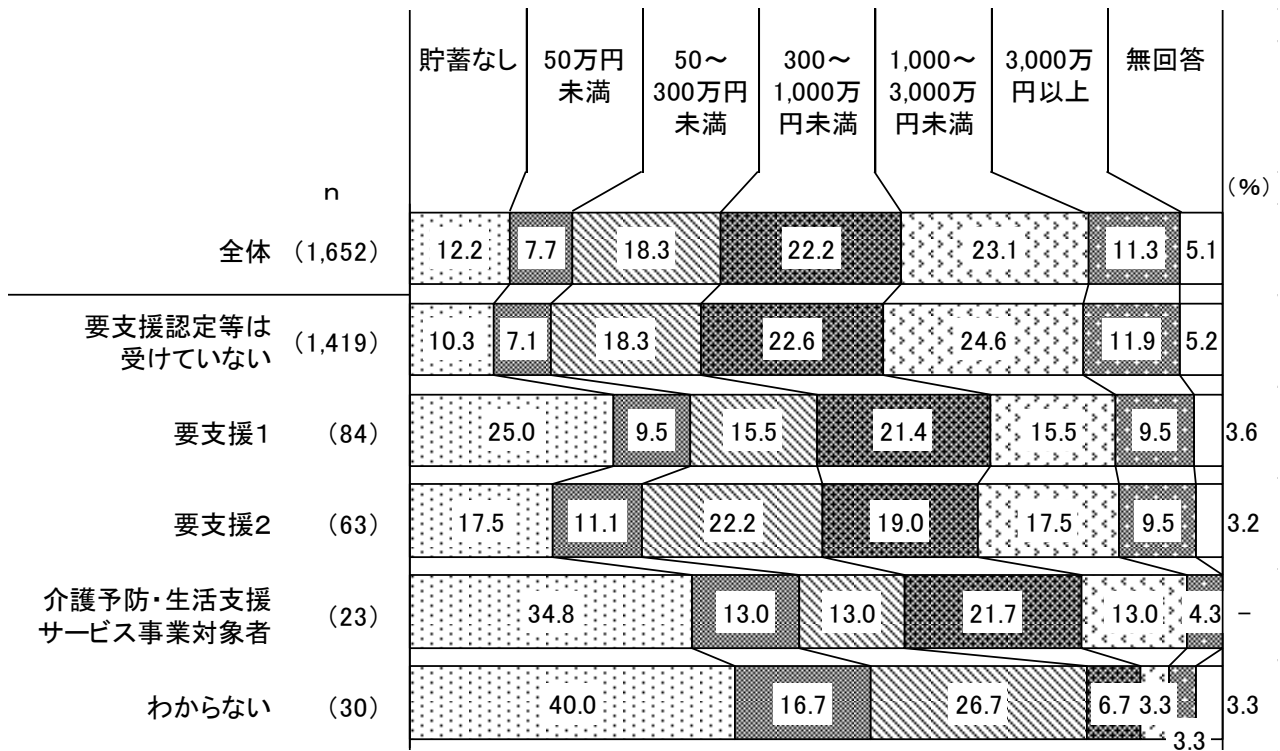
【状態別（1人暮らし）】世帯の昨年の合計収入



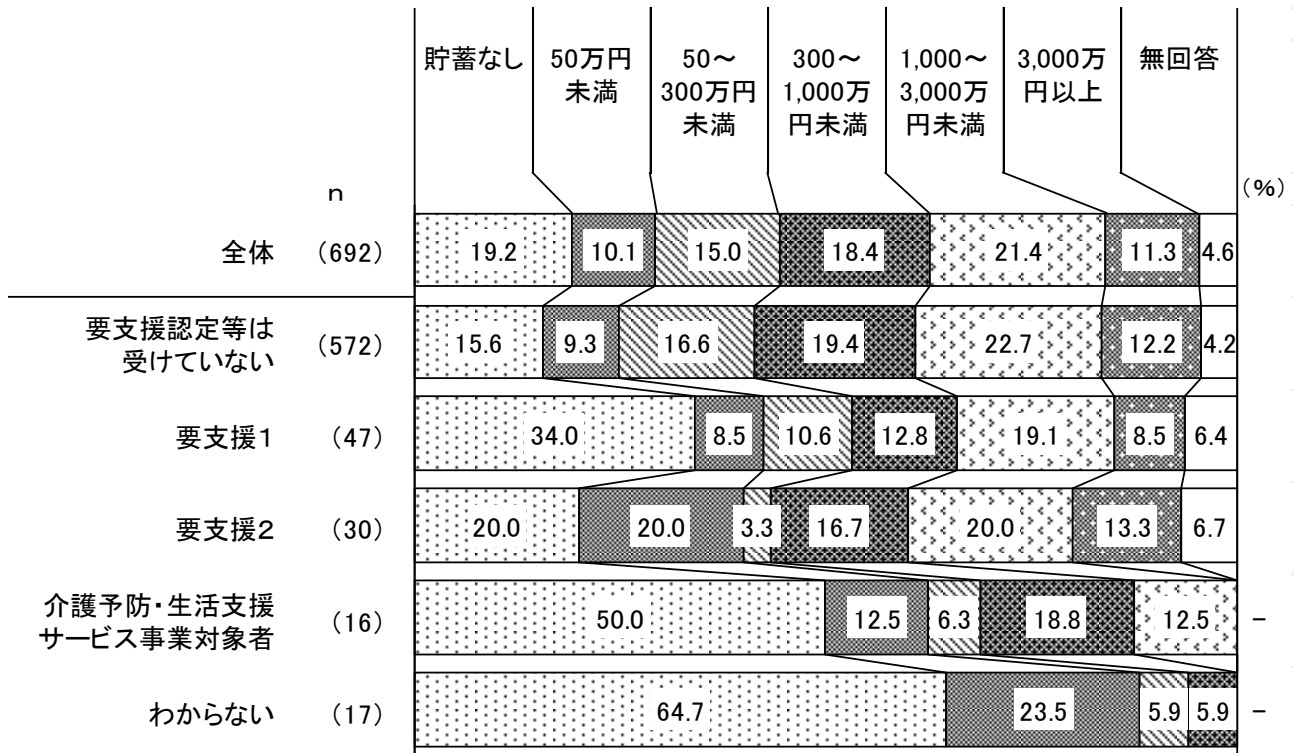
【状態別（夫婦2人暮らし）】世帯の昨年の合計収入



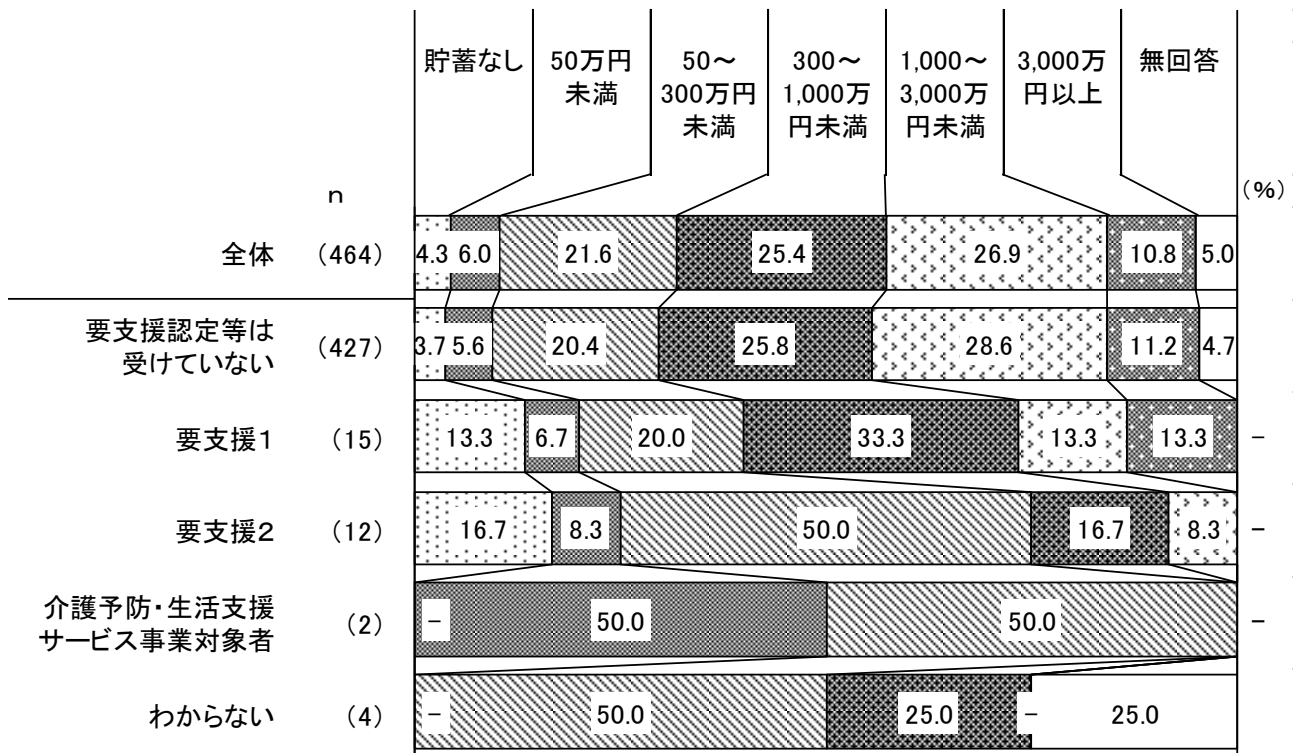
1.7.1. 現在の預貯金額



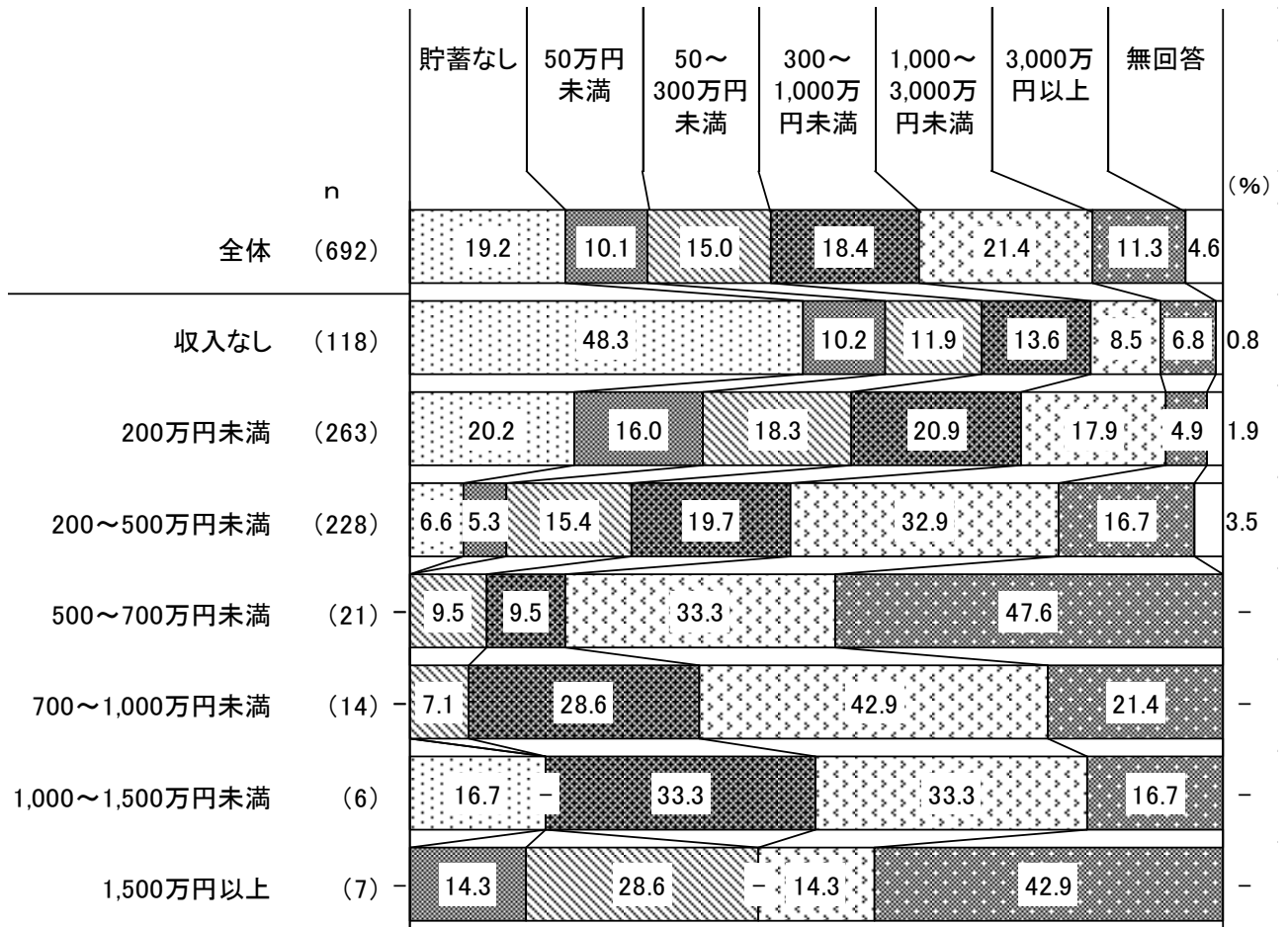
【状態別（1人暮らし）】現在の預貯金額



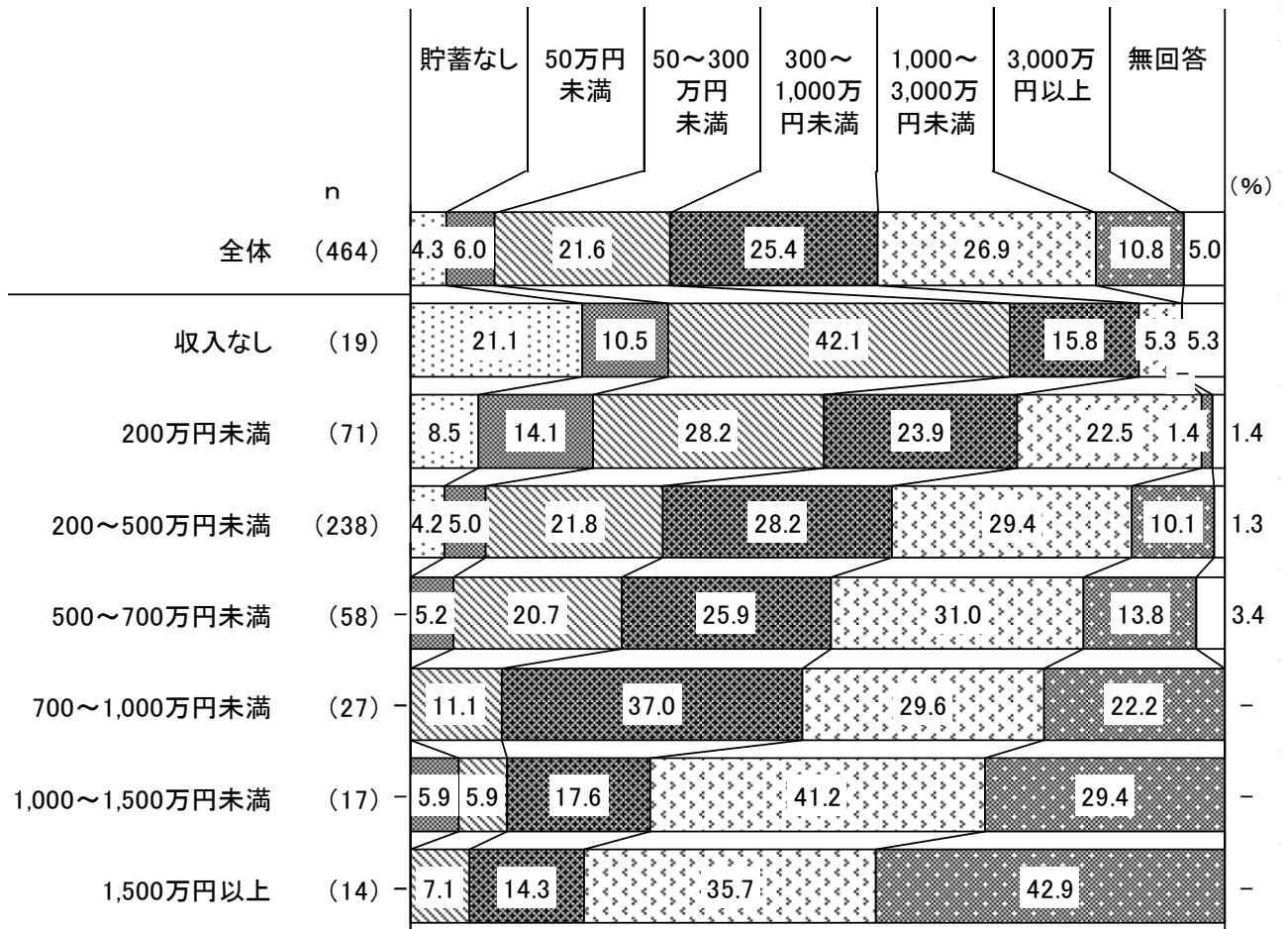
【状態別（夫婦2人暮らし）】現在の預貯金額



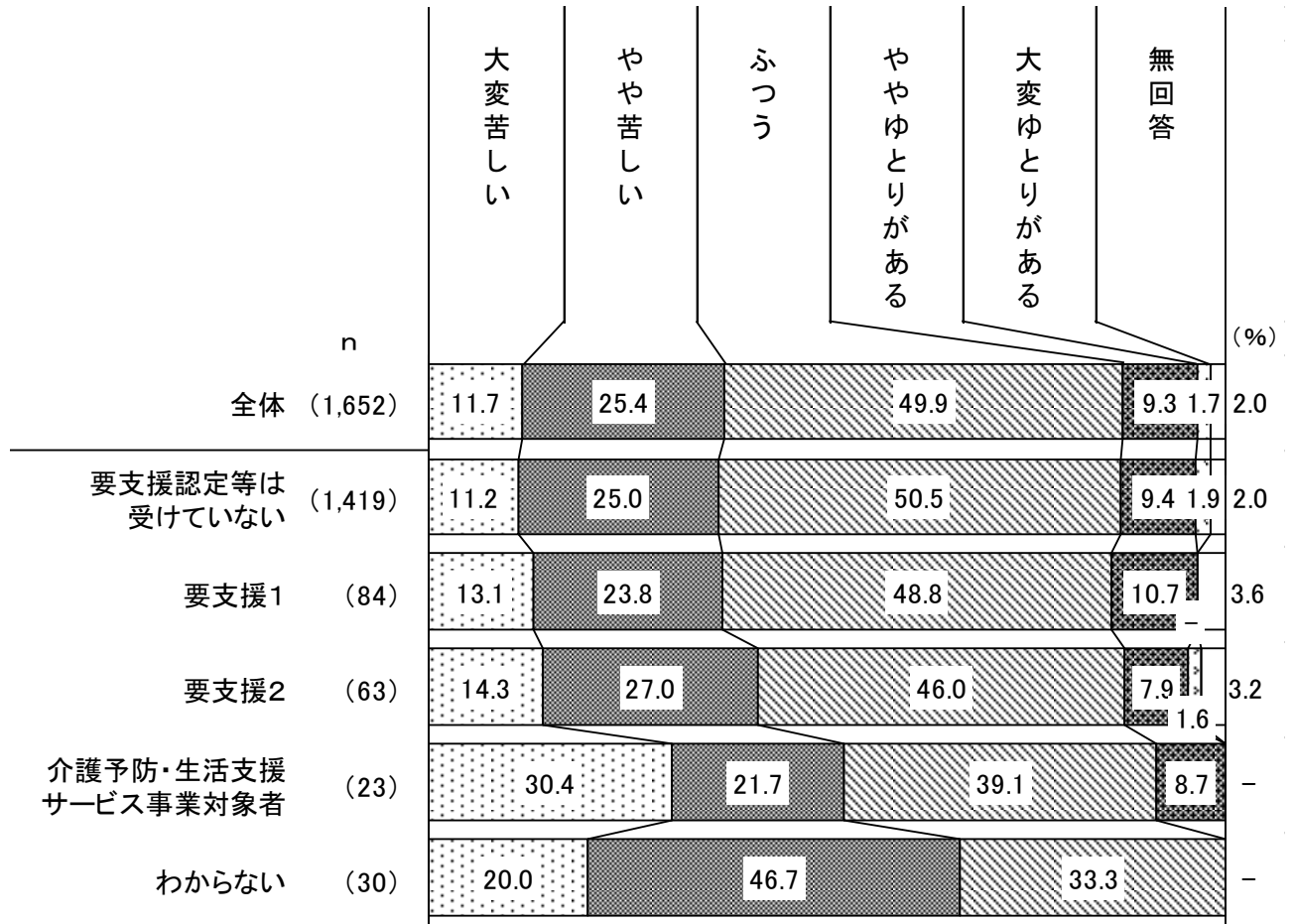
【収入別（1人暮らし）】現在の預貯金額



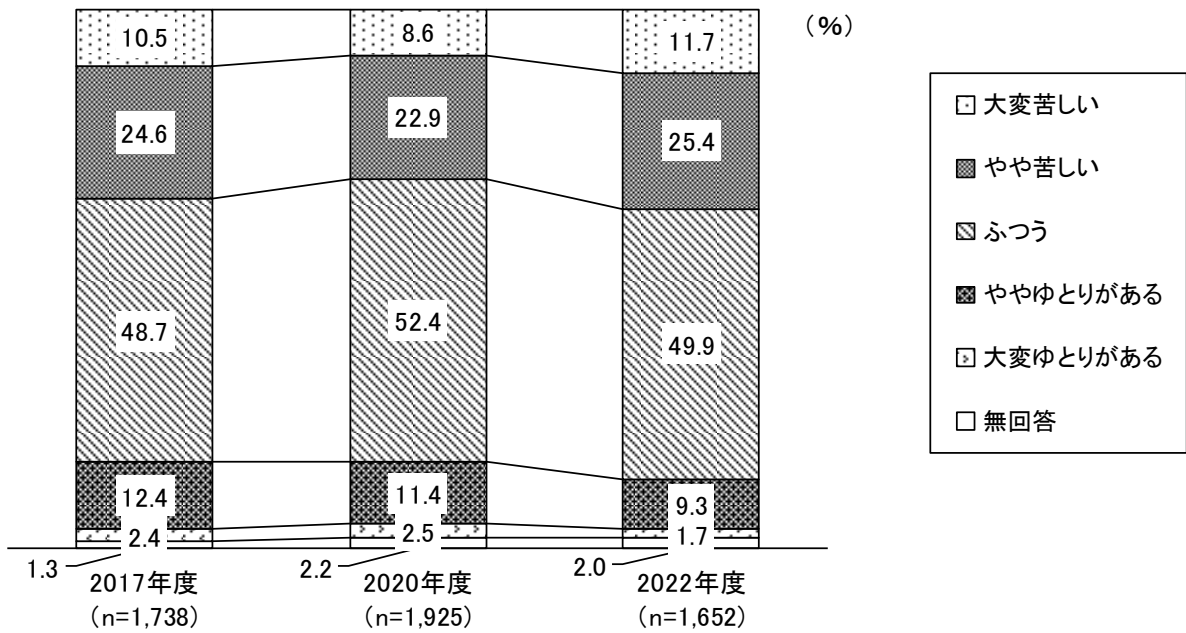
【収入別（夫婦2人暮らし）】現在の預貯金額



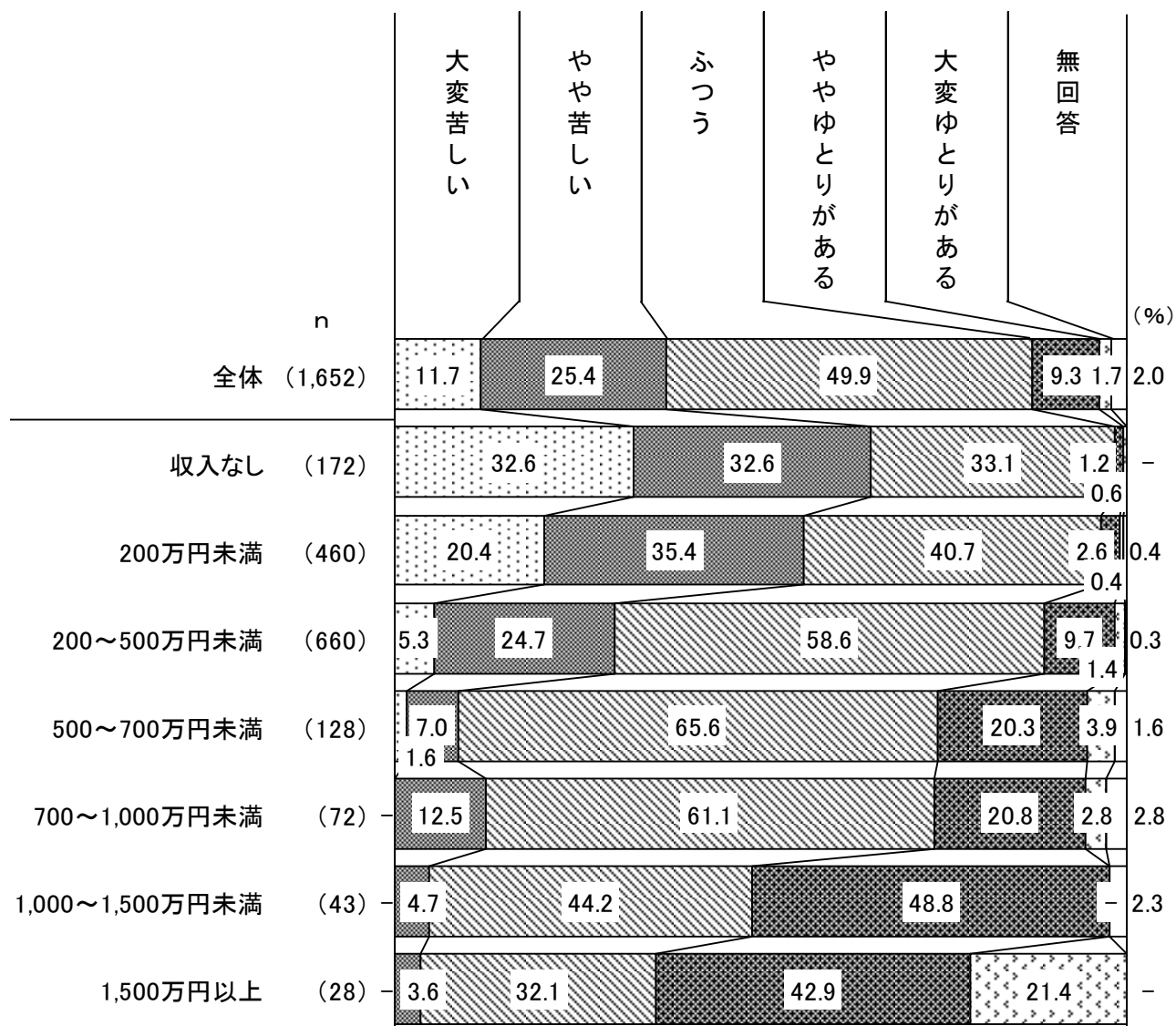
1.7.2. 暮らしの状況



【経年比較】暮らしの状況

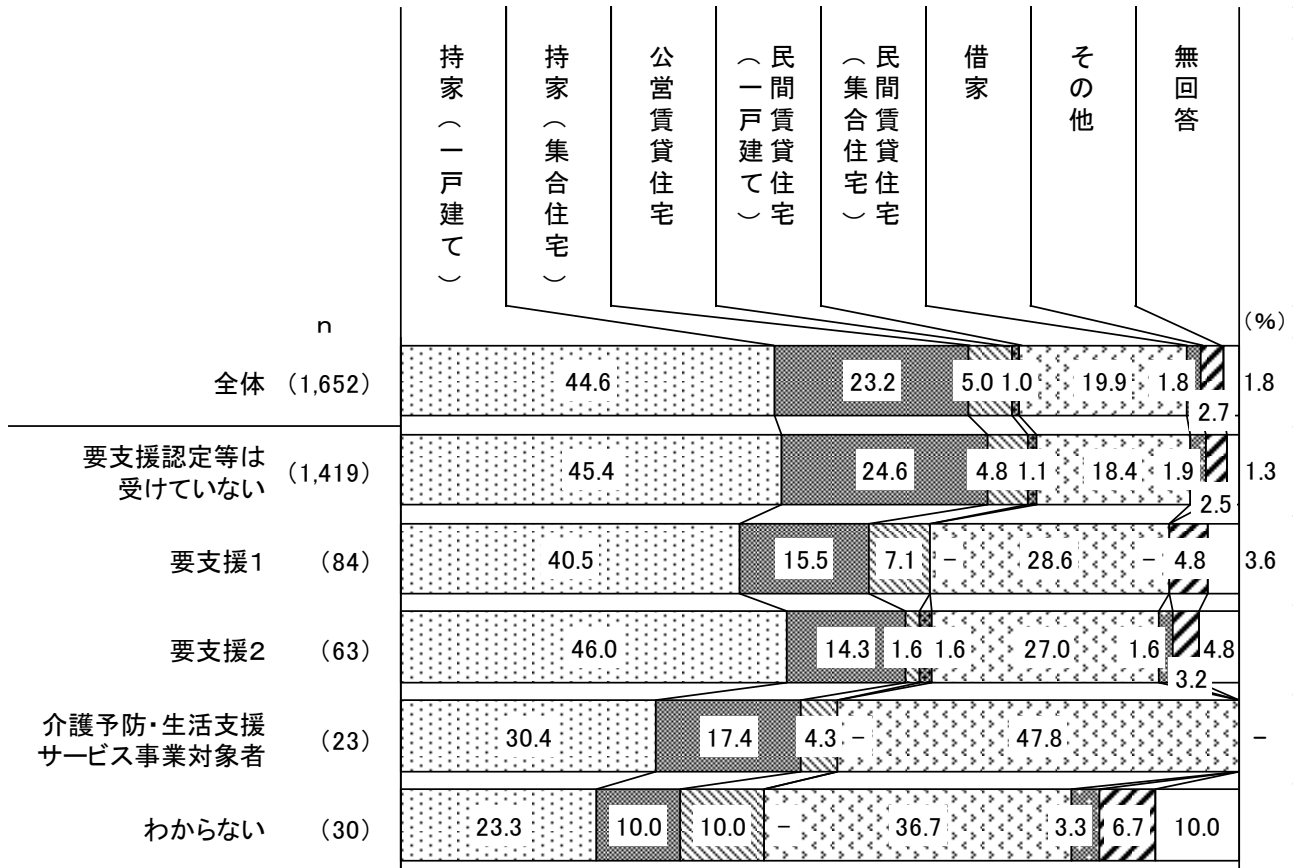


【収入別】暮らしの状況

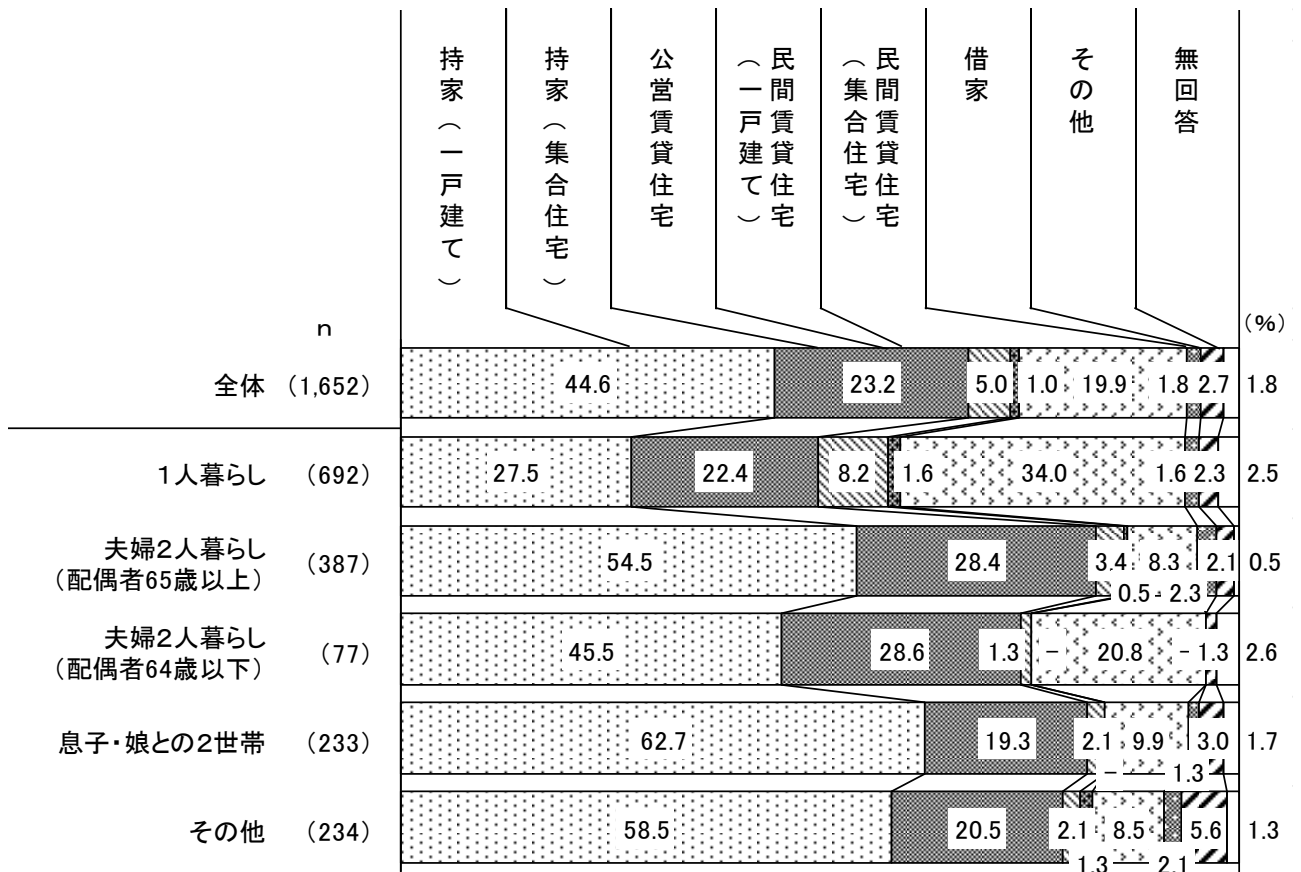




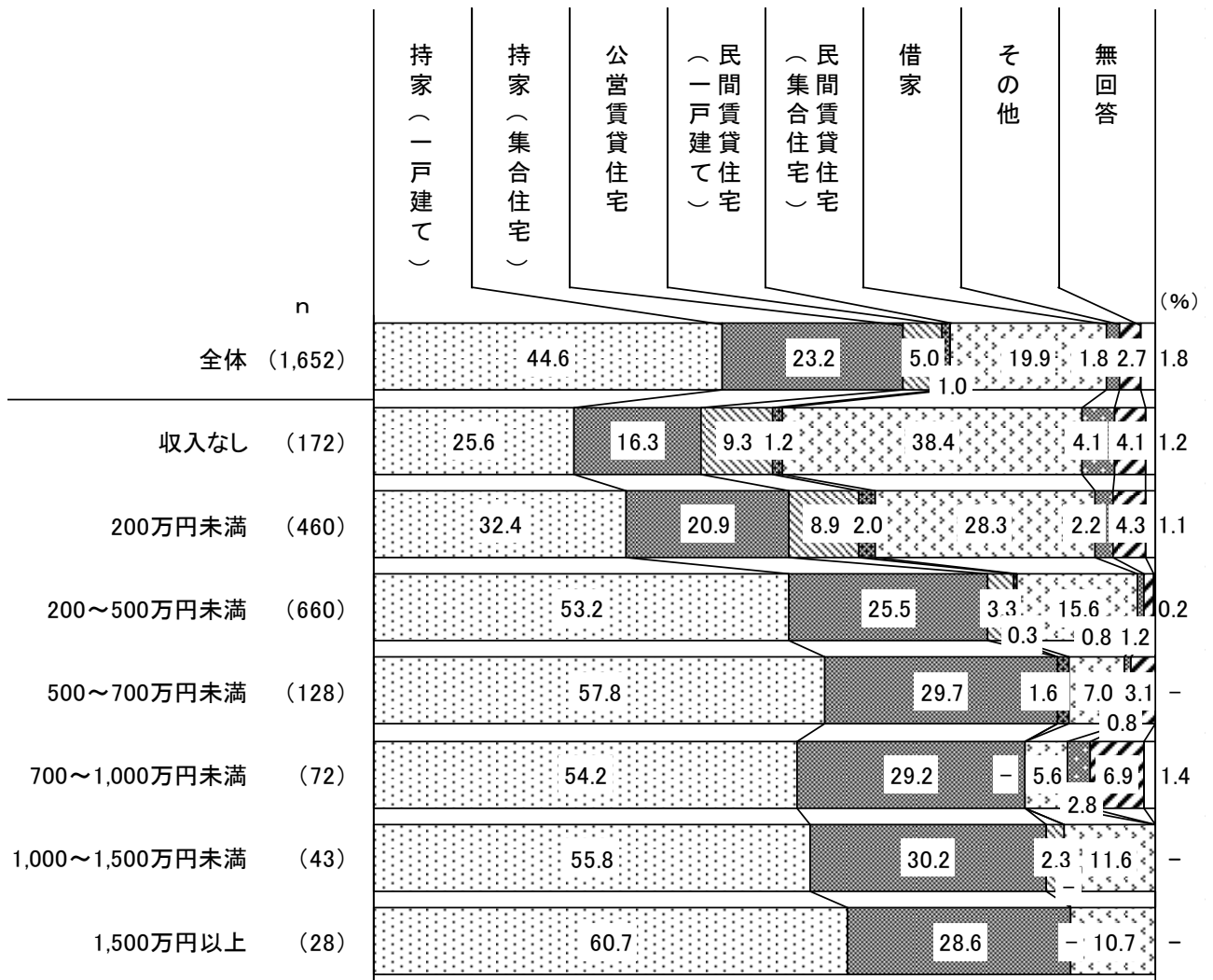
1.8. 居住形態



【家族構成別】居住形態



【収入別】居住形態



## 2. からだを動かすことについて

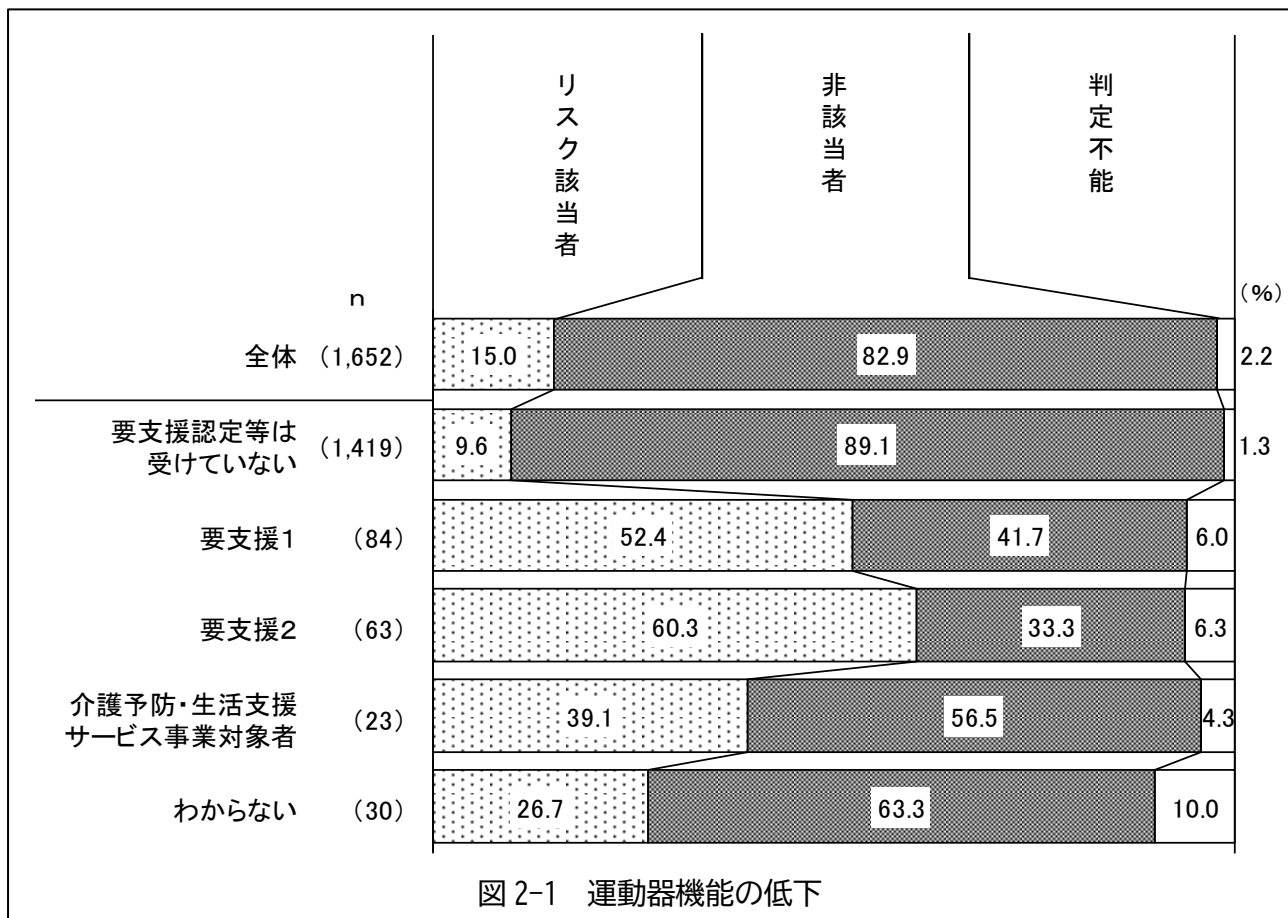
### 2.1. 機能評価

#### 2.1.1. 運動器機能

◇以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器の機能低下リスク該当者と判定した。

問番号	設問	該当する選択肢
問 11	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	3. できない
問 12	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	3. できない
問 13	15分位続けて歩いていますか	3. できない
問 14	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある
問 15	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である

#### ◆ 運動器機能の低下リスク該当者は1割台半ば



全体では、運動器機能低下のリスク該当者は1割台半ばとなっている。

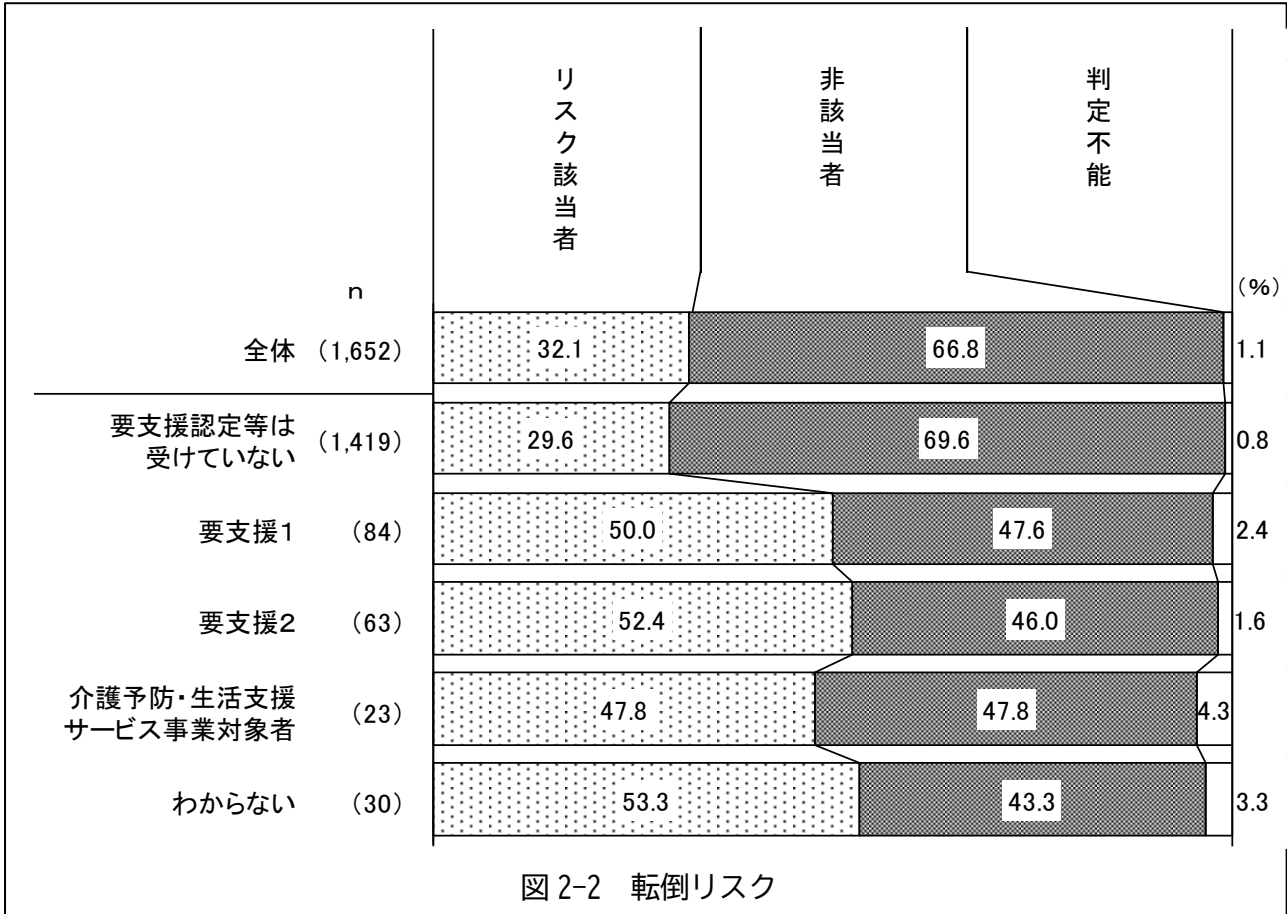
状態別では、リスク該当者の割合は、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、段階的に高くなっている。

2.1.2. 転倒リスク

◇以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定した。

問番号	設問	該当する選択肢
問 14	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある

◆ 転倒リスク該当者は3割台前半



全体では、転倒リスクの該当者は3割台前半となっている。

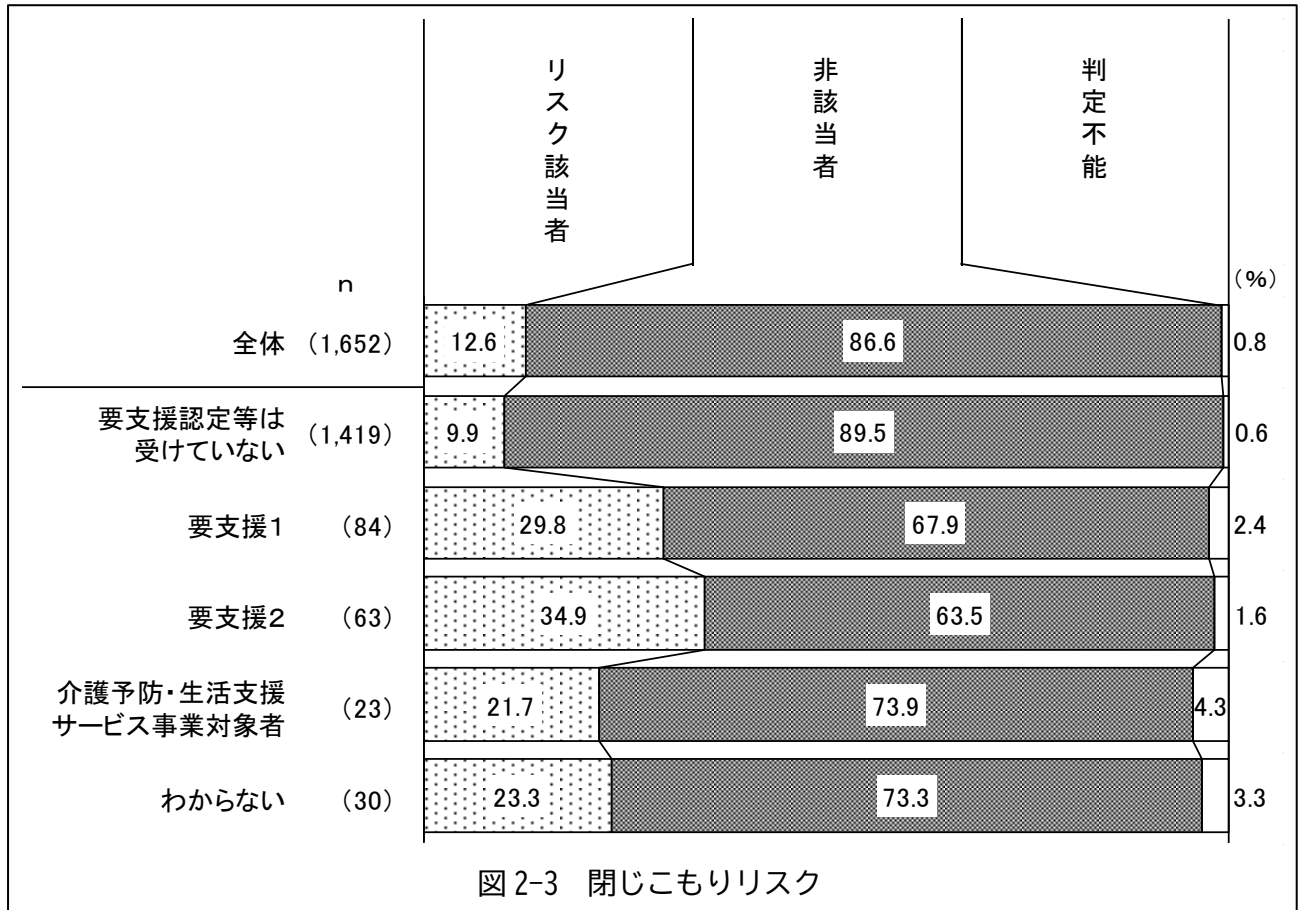
状態別では、リスク該当者の割合は、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、段階的に高くなっている。

### 2.1.3. 閉じこもり傾向

◇以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定した。

問番号	設問	該当する選択肢
問 16	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

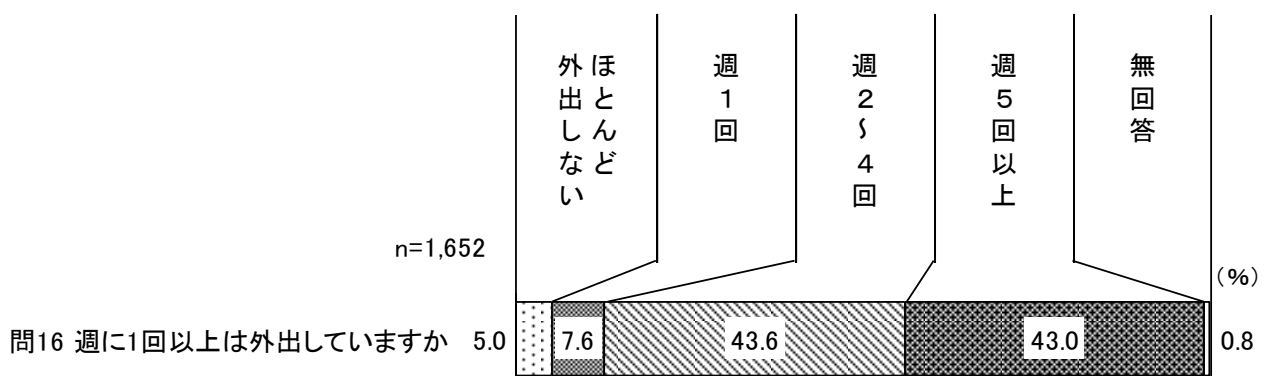
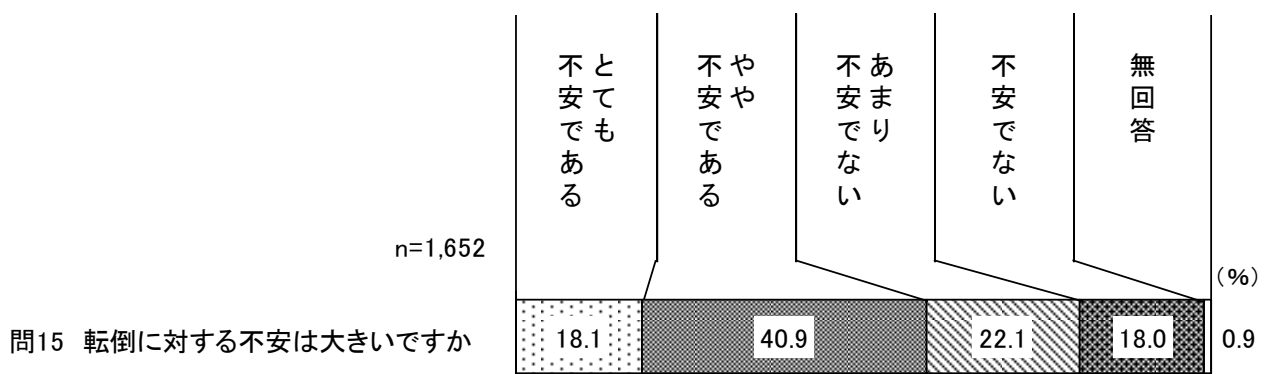
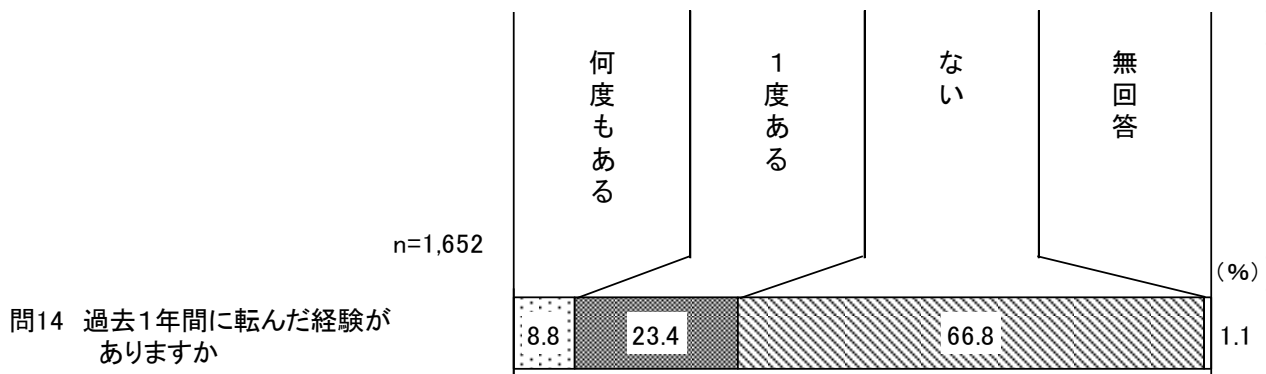
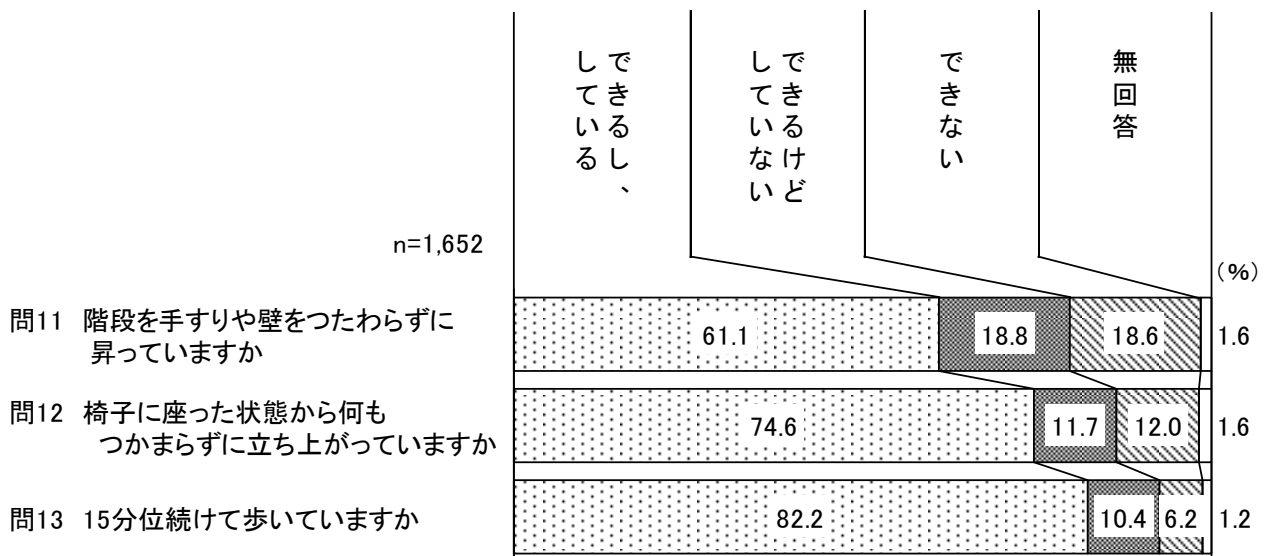
#### ◆ 閉じこもりのリスク該当者は1割台前半



全体では、閉じこもりリスクの該当者は1割台前半となっている。

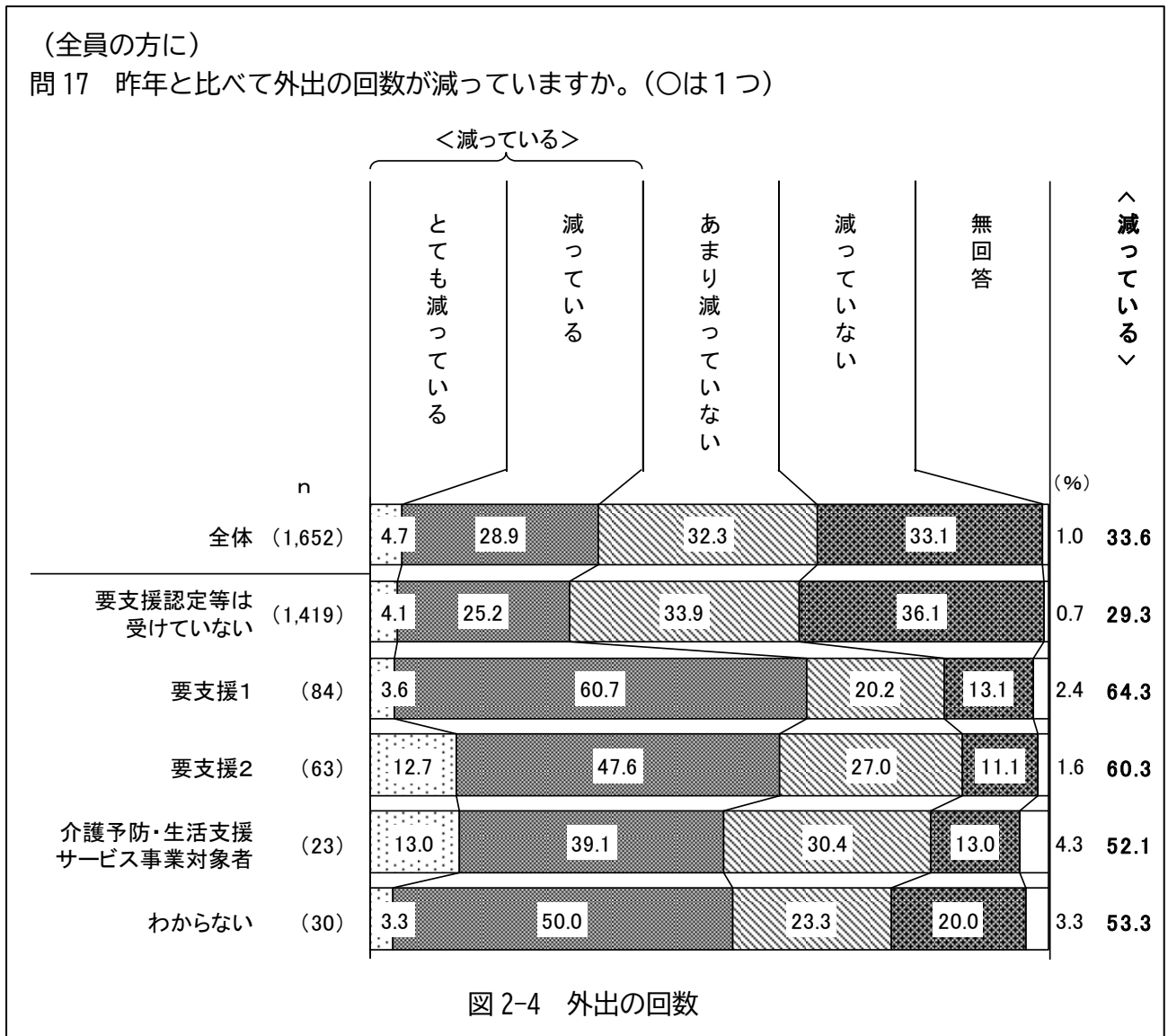
状態別では、リスク該当者の割合は、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、段階的に高くなっている。

※問 11～16 設問ごとの結果  
(全員の方に)



2.2. 外出の回数

◆ 「減っている」が3割台前半

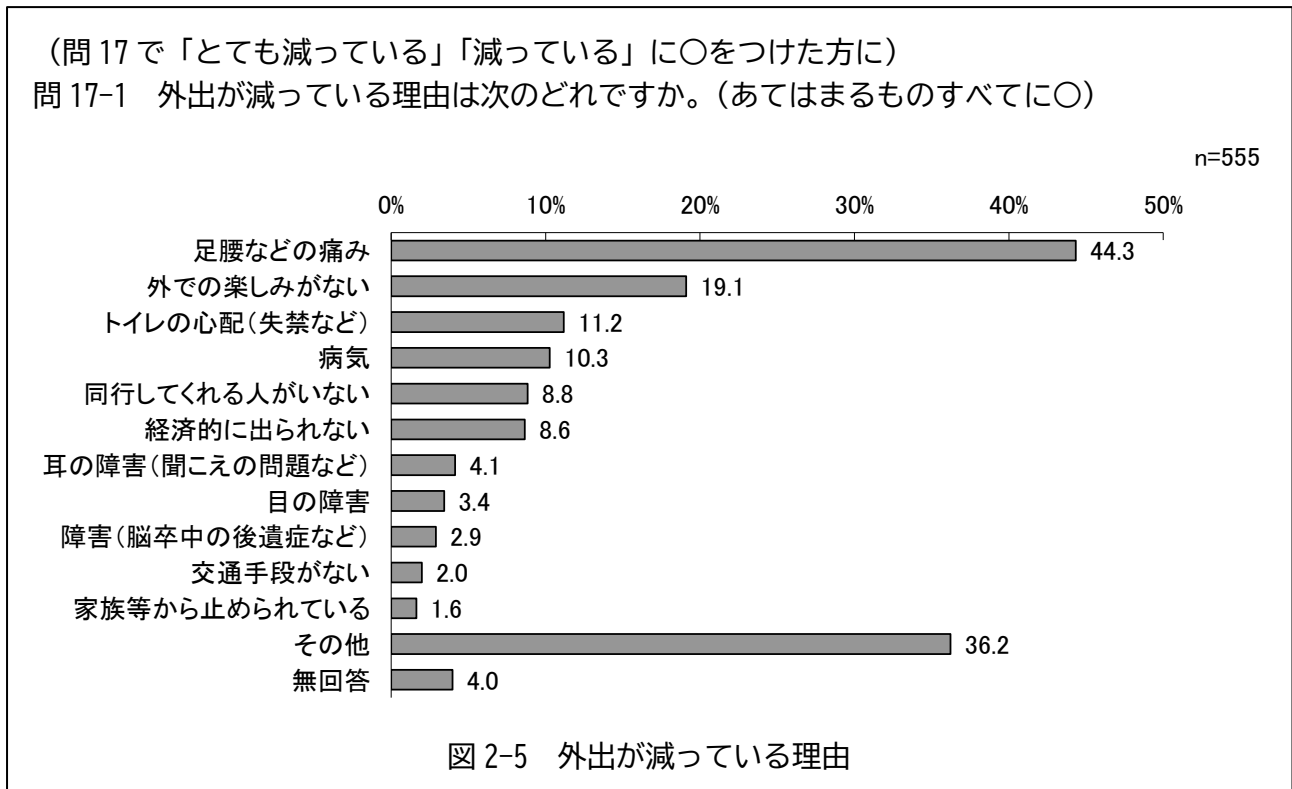


要支援認定等を受けていない人は「減っていない」が3割台半ばで最も高くなっている。

一方、要支援1・2及び介護予防・生活支援サービス事業対象者では「減っている」が最も高く、「とても減っている」と合わせると、いずれも過半数を占めている。

2.2.1. 外出が減っている理由

◆ 「足腰などの痛み」が4割台半ば



「足腰などの痛み」が4割台半ばで最も高くなっている。

「その他」の内容としては、新型コロナウイルスによる外出自粛が多く挙げられている。

【状態別】外出が減っている理由

単位：%

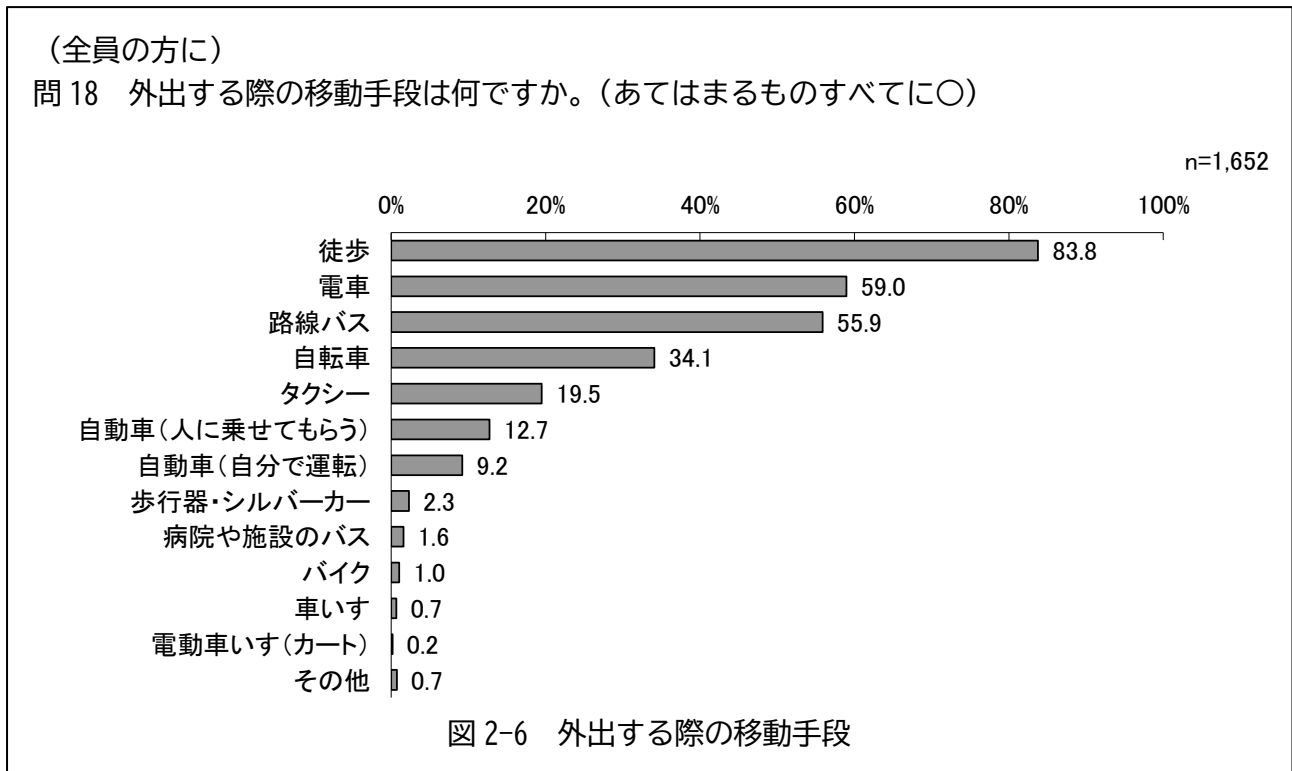
	有効回答数(件)	足腰などの痛み	外での楽しみがない	トイレの心配(失禁など)	病気	同行してくれる人がいない	経済的に出られない	耳の障害(聞こえの問題など)
全体	555	44.3	19.1	11.2	10.3	8.8	8.6	4.1
要支援認定等は受けていない	416	38.7	19.7	9.1	9.4	4.6	8.7	2.9
要支援1	54	66.7	16.7	11.1	14.8	16.7	7.4	11.1
要支援2	38	55.3	13.2	13.2	10.5	31.6	13.2	2.6
介護予防・生活支援サービス事業対象者	12	58.3	25.0	8.3	8.3	16.7	16.7	16.7
わからない	16	75.0	31.3	31.3	12.5	31.3	6.3	12.5

	有効回答数(件)	目の障害	障害(脳卒中の後遺症など)	交通手段がない	家族等から止められている	その他	無回答
全体	555	3.4	2.9	2.0	1.6	36.2	4.0
要支援認定等は受けていない	416	2.9	1.2	1.2	1.4	41.8	4.3
要支援1	54	1.9	7.4	1.9	1.9	14.8	1.9
要支援2	38	2.6	7.9	13.2	2.6	21.1	2.6
介護予防・生活支援サービス事業対象者	12	16.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
わからない	16	12.5	6.3	0.0	0.0	18.8	0.0



2.3. 外出する際の移動手段

◆ 「徒歩」が8割台前半



「徒歩」が8割台前半を占めている。

【状態別】外出する際の移動手段

単位：%

	有効回答数(件)	徒歩	電車	路線バス	自転車	タクシー	乗せてもらう 自動車(人に)	自動車 (自分で運転)
全体	1,652	83.8	59.0	55.9	34.1	19.5	12.7	9.2
要支援認定等は受けていない	1,419	86.7	63.3	57.2	37.9	16.1	12.3	10.2
要支援1	84	66.7	36.9	59.5	8.3	41.7	16.7	3.6
要支援2	63	54.0	20.6	36.5	7.9	52.4	20.6	1.6
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	82.6	34.8	43.5	13.0	34.8	8.7	0.0
わからない	30	73.3	36.7	46.7	23.3	26.7	6.7	0.0

	有効回答数(件)	歩行者・ シルバーカー	病院や施設のバス	バイク	車いす	電動車いす (カート)	その他	無回答
全体	1,652	2.3	1.6	1.0	0.7	0.2	0.7	0.8
要支援認定等は受けていない	1,419	0.8	0.9	1.1	0.1	0.0	0.3	0.5
要支援1	84	7.1	6.0	1.2	2.4	1.2	4.8	2.4
要支援2	63	20.6	9.5	0.0	9.5	3.2	3.2	3.2
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.7	4.3
わからない	30	3.3	6.7	3.3	0.0	0.0	0.0	3.3

### 3. 食べることについて

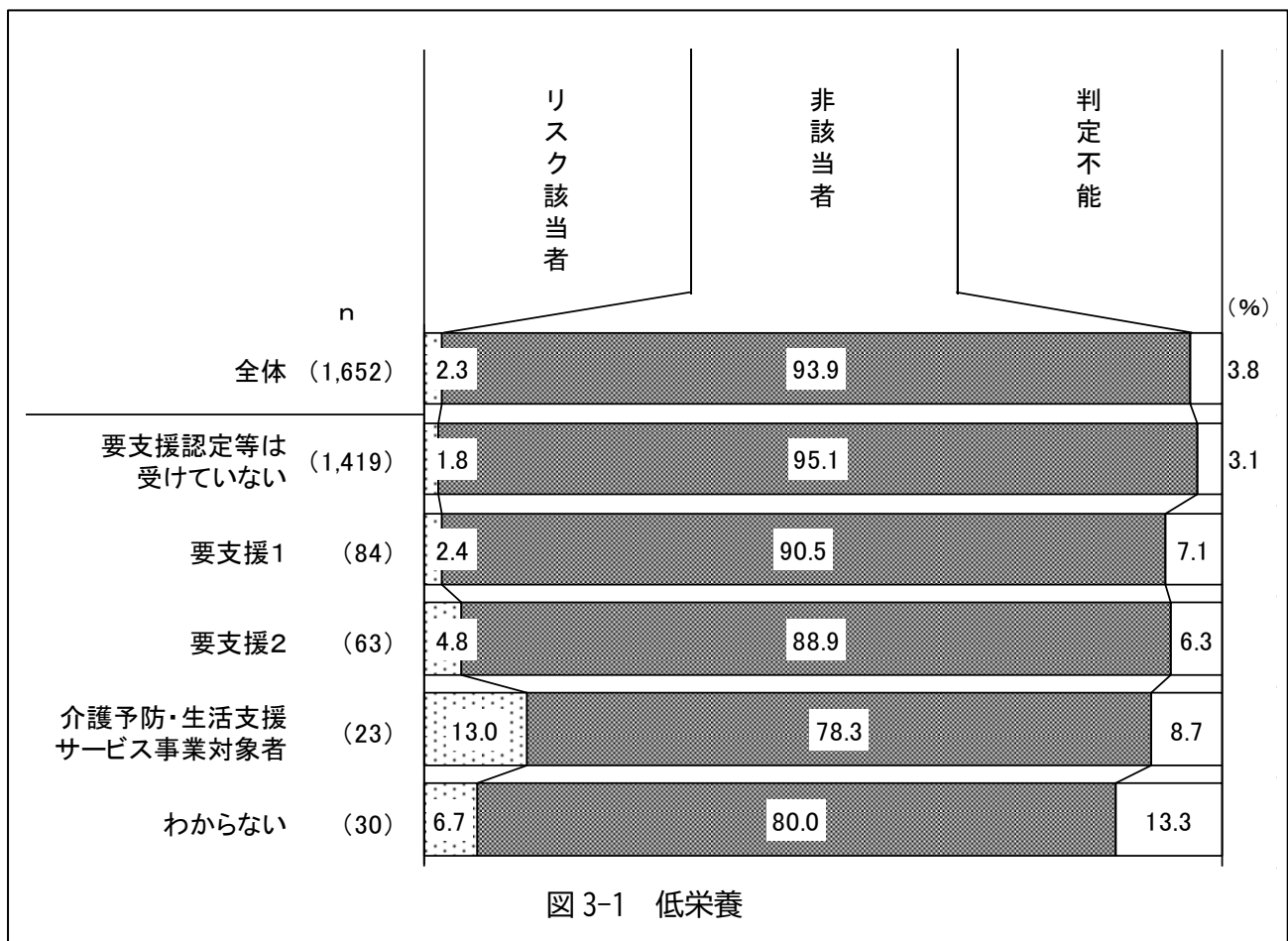
#### 3.1. 機能評価

##### 3.1.1. 低栄養

◇以下の設問を抽出し、2項目の両方に該当する人を低栄養のリスク該当者と判定した。

問番号	設問	該当する状態・選択肢
問 19	身長・体重	BMI 18.5未満
問 25	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	1. はい

#### ◆ 低栄養のリスク該当者は約2%



全体では、低栄養のリスク該当者は約2%となっている。

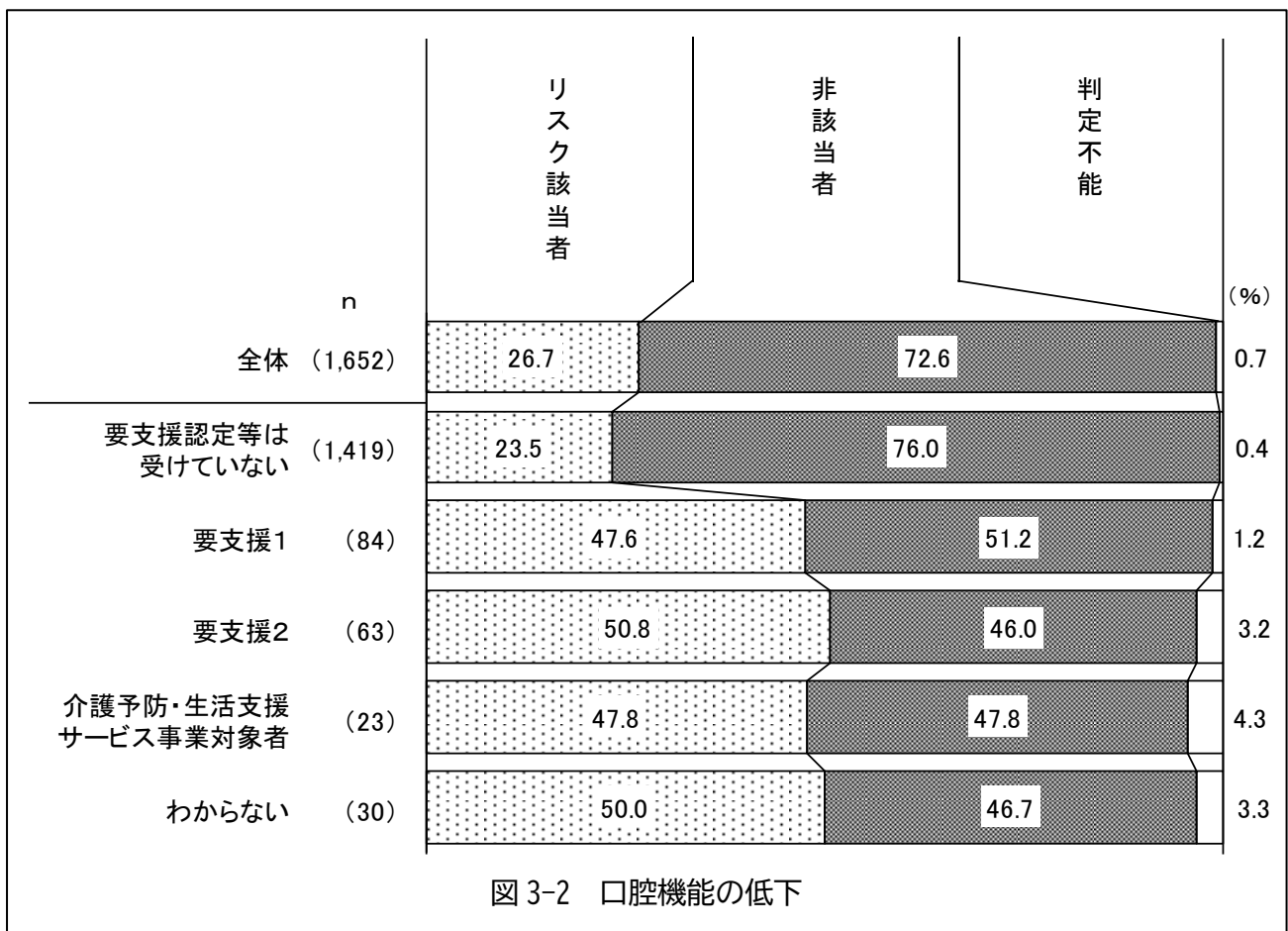
状態別では、介護予防・生活支援サービス事業対象者でやや高く、1割台前半となっている。

### 3.1.2. 口腔機能

◇以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔機能低下のリスク該当者と判定した。

問番号	設問	該当する選択肢
問 20	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい
問 21	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい
問 22	口の渇きが気になりますか	1. はい

#### ◆ 口腔機能の低下リスク該当者は2割台半ば

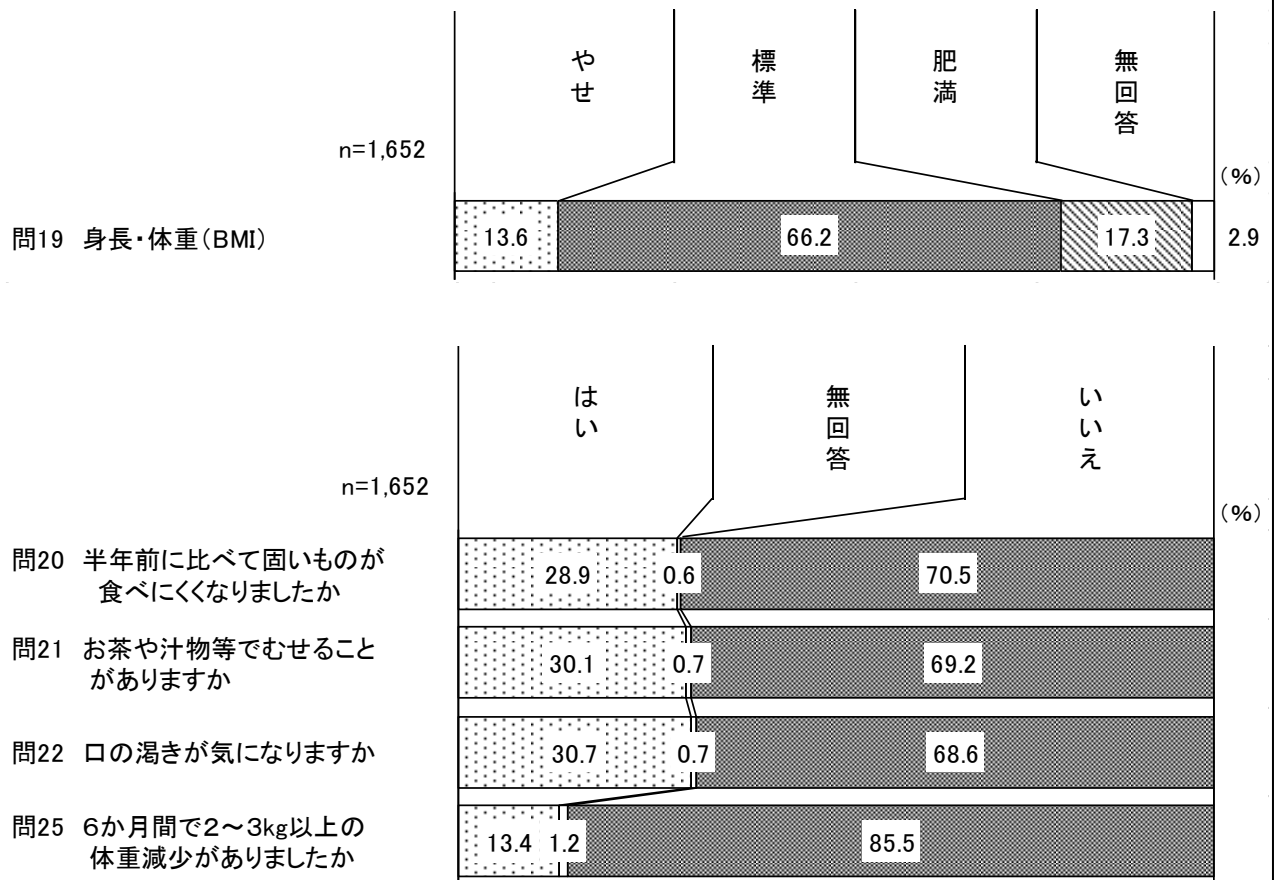


全体では、口腔機能低下のリスク該当者は2割台半ばとなっている。

状態別では、リスク該当者の割合は、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、段階的に高くなっている。

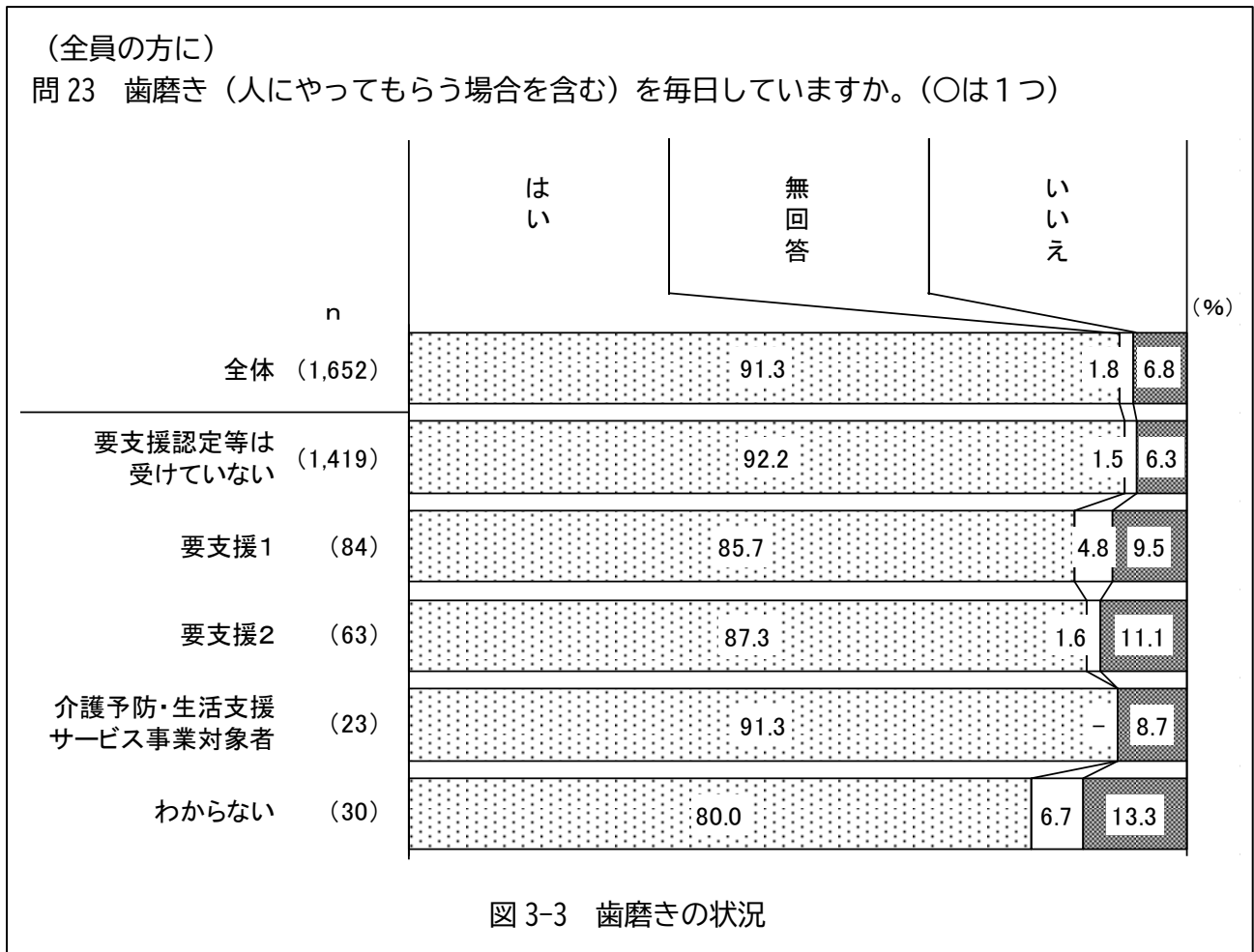
また、介護予防・生活支援サービス事業対象者も要支援1・2と同程度の割合となっている。

※問 19～問 22、問 25 設問ごとの結果  
(全員の方に)

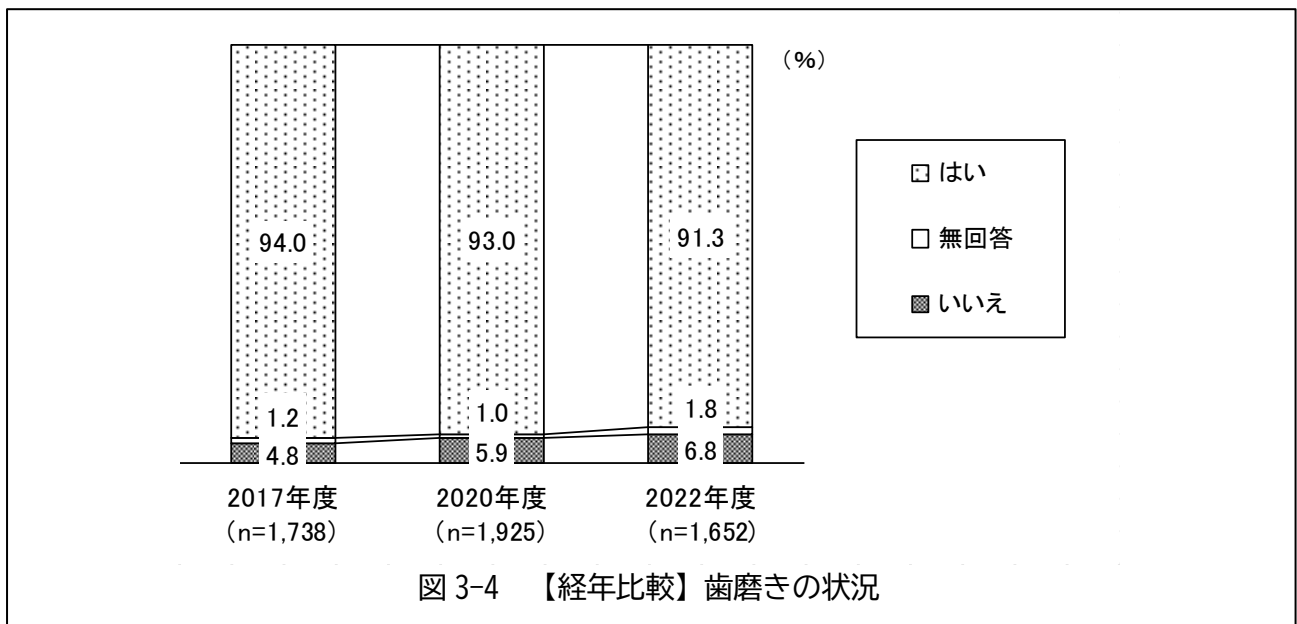


3.2. 歯磨きの状況

◆ 「はい」が約9割



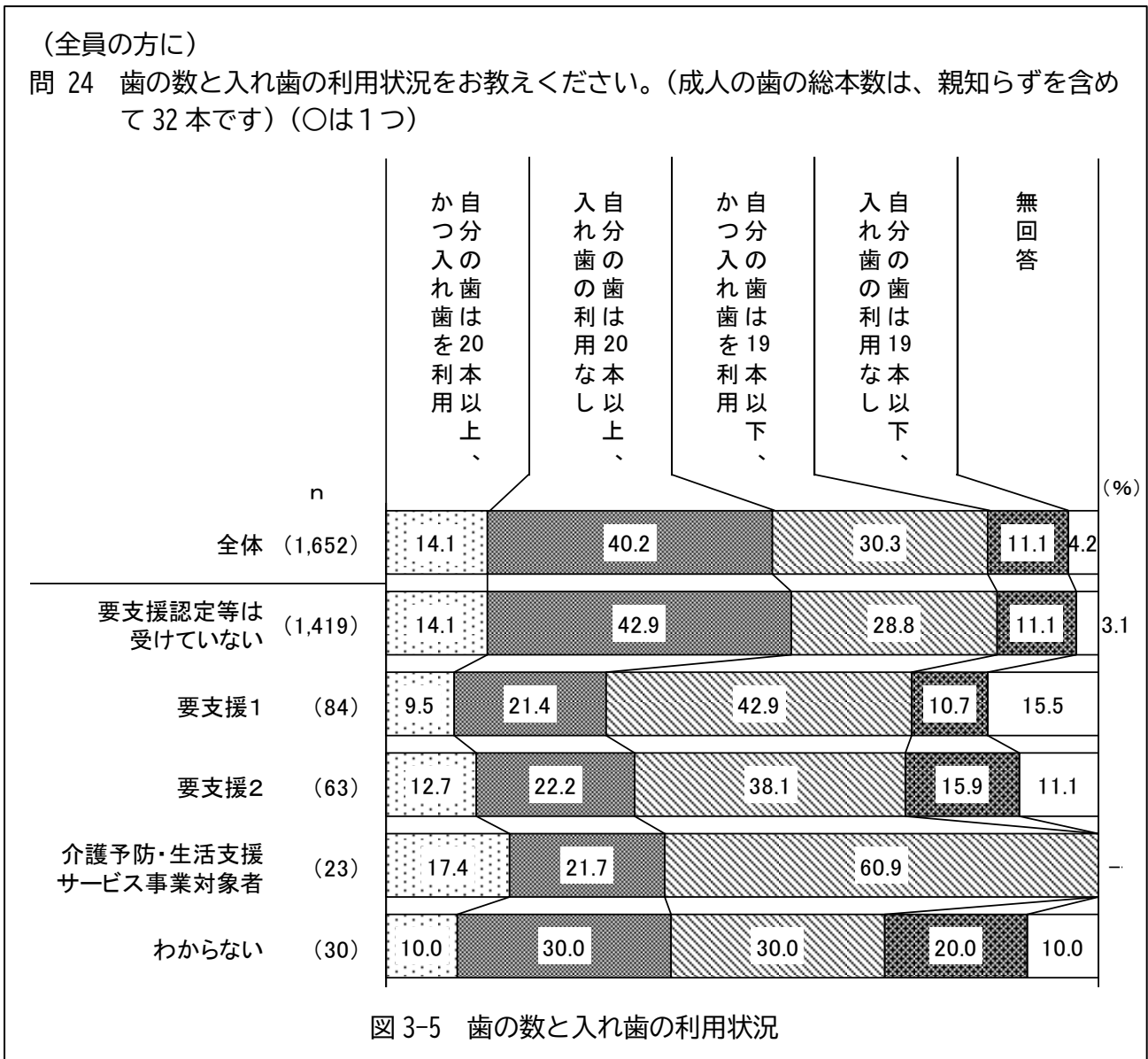
「はい」が約9割を占めている。



経年比較では、「はい」が微減の傾向にある。

3.3. 歯の数と入れ歯の利用状況

◆ 「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が約 4 割

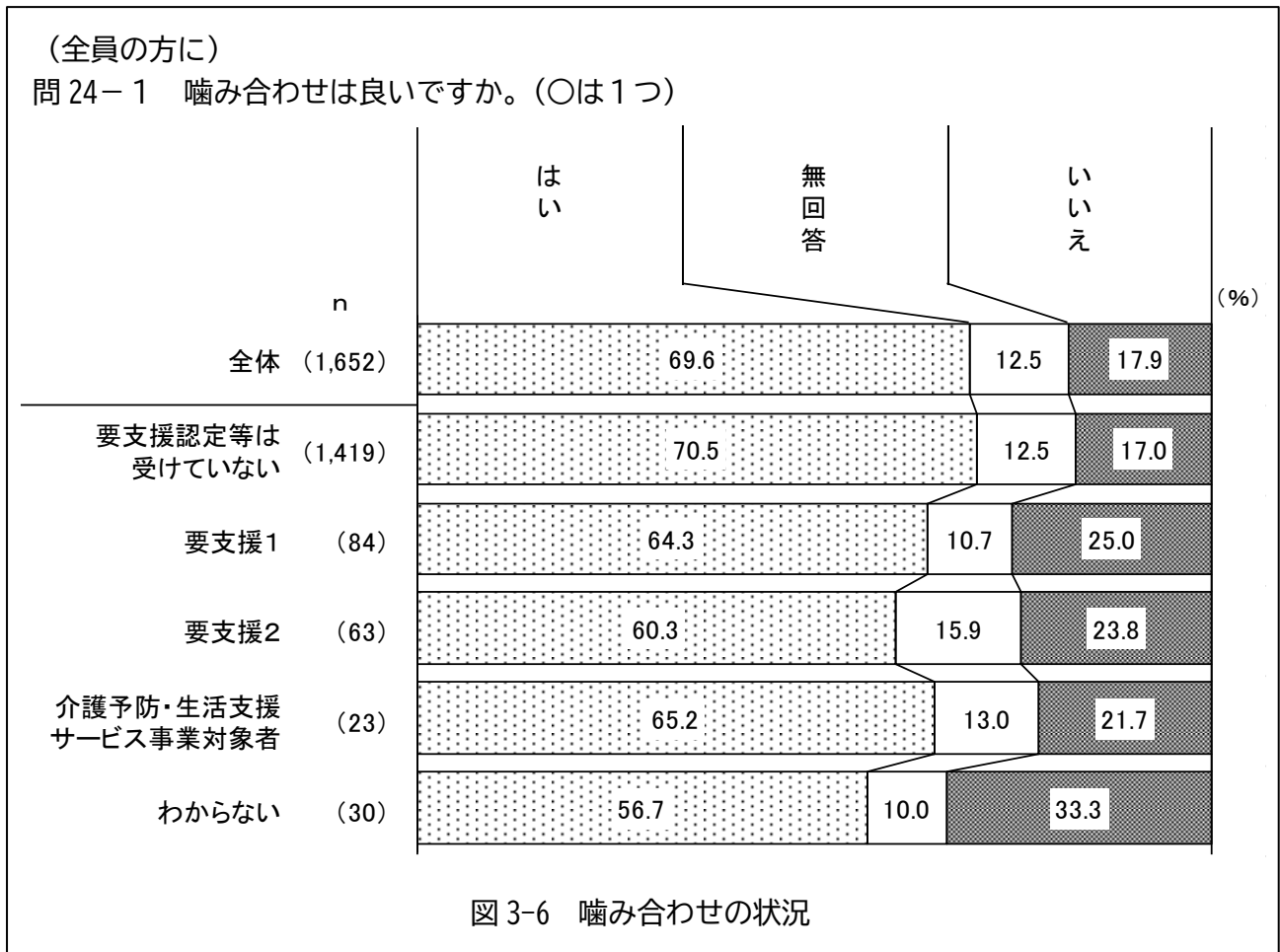


「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が約 4 割で最も高くなっている。

状態別では、要支援 1・2 及び介護予防・生活支援サービス事業対象者は「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用なし」が要支援認定等は受けていない人より低くなっている。

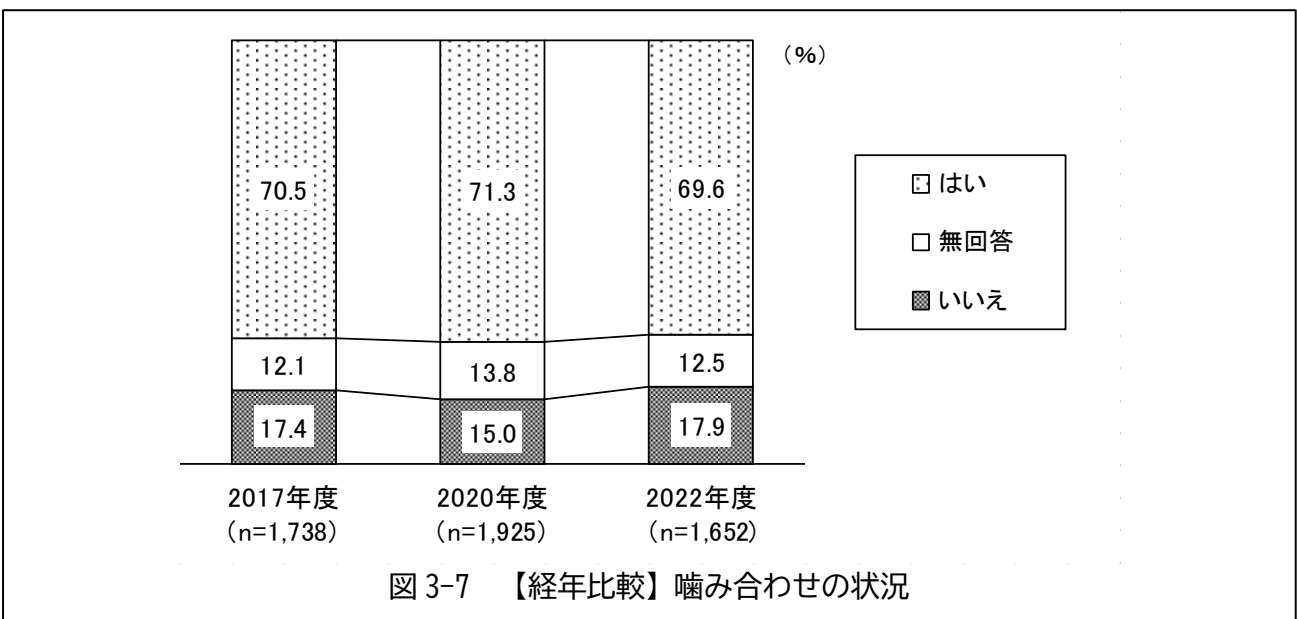
3.3.1. 噛み合わせの状況

◆ 「はい」が約7割



全体では、「はい」が約7割を占めている。

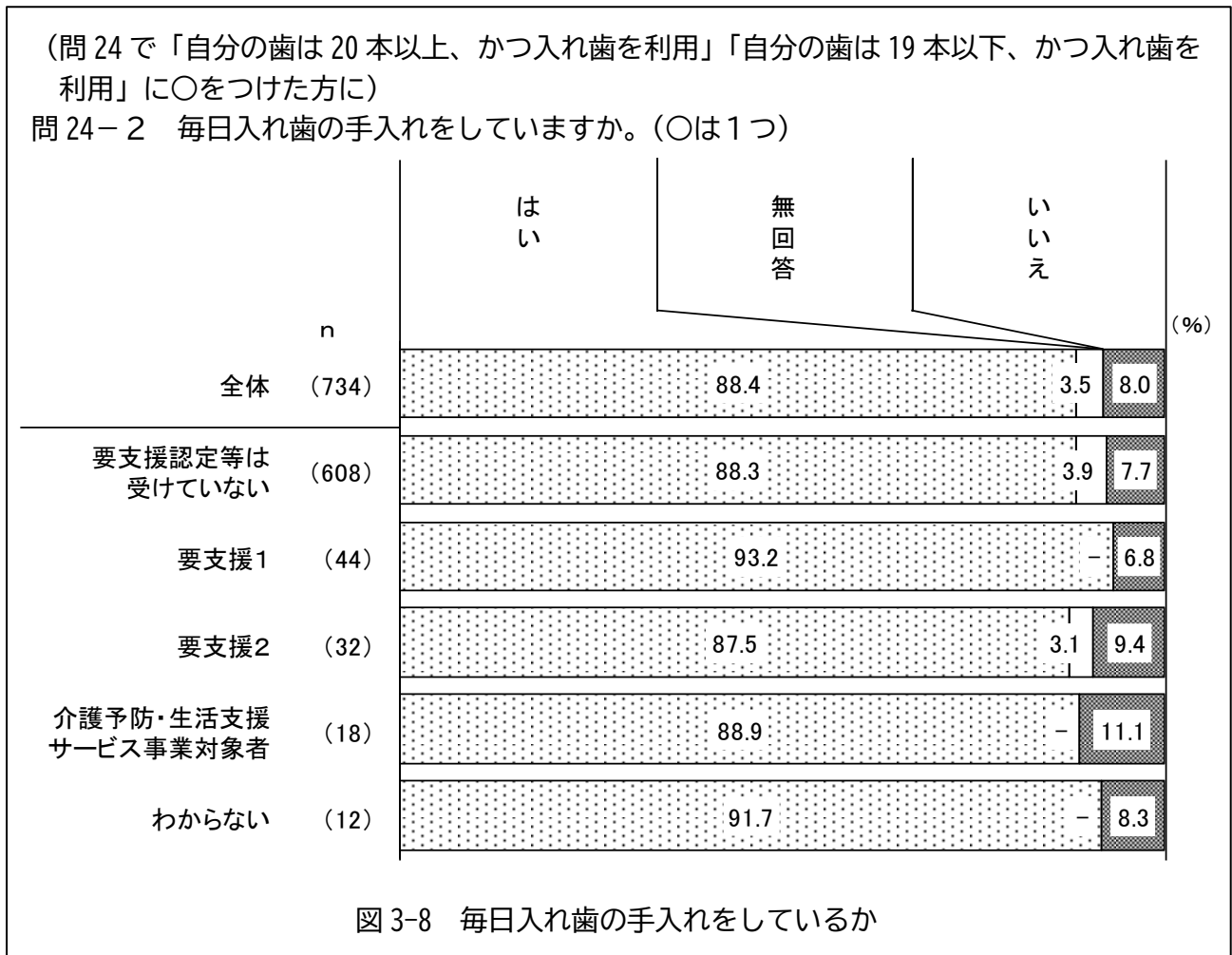
状態別では、要支援1では「いいえ」が2割台半ば、要支援2では「いいえ」が2割台前半となっている。



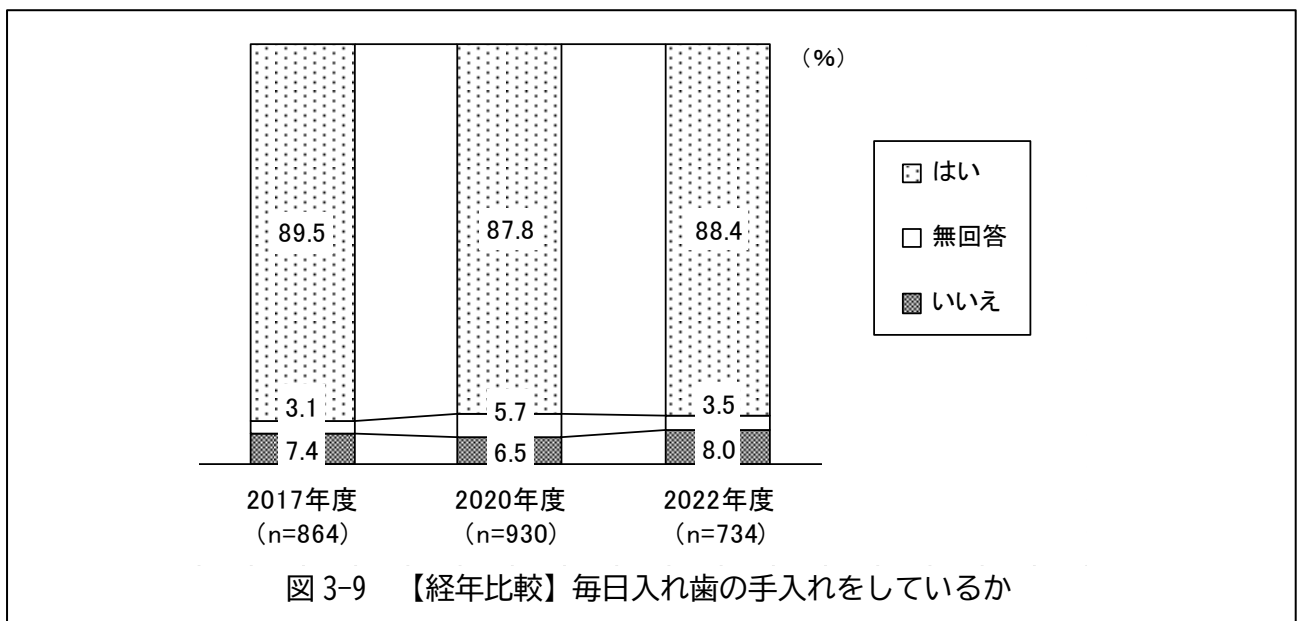
経年比較では、大きな差異はみられない。

3.3.2. 毎日入れ歯の手入れをしているか

◆ 「はい」が約9割



全体では、「はい」が約9割を占めている。  
 状態別では、要支援2で「はい」が9割台前半を占めている。

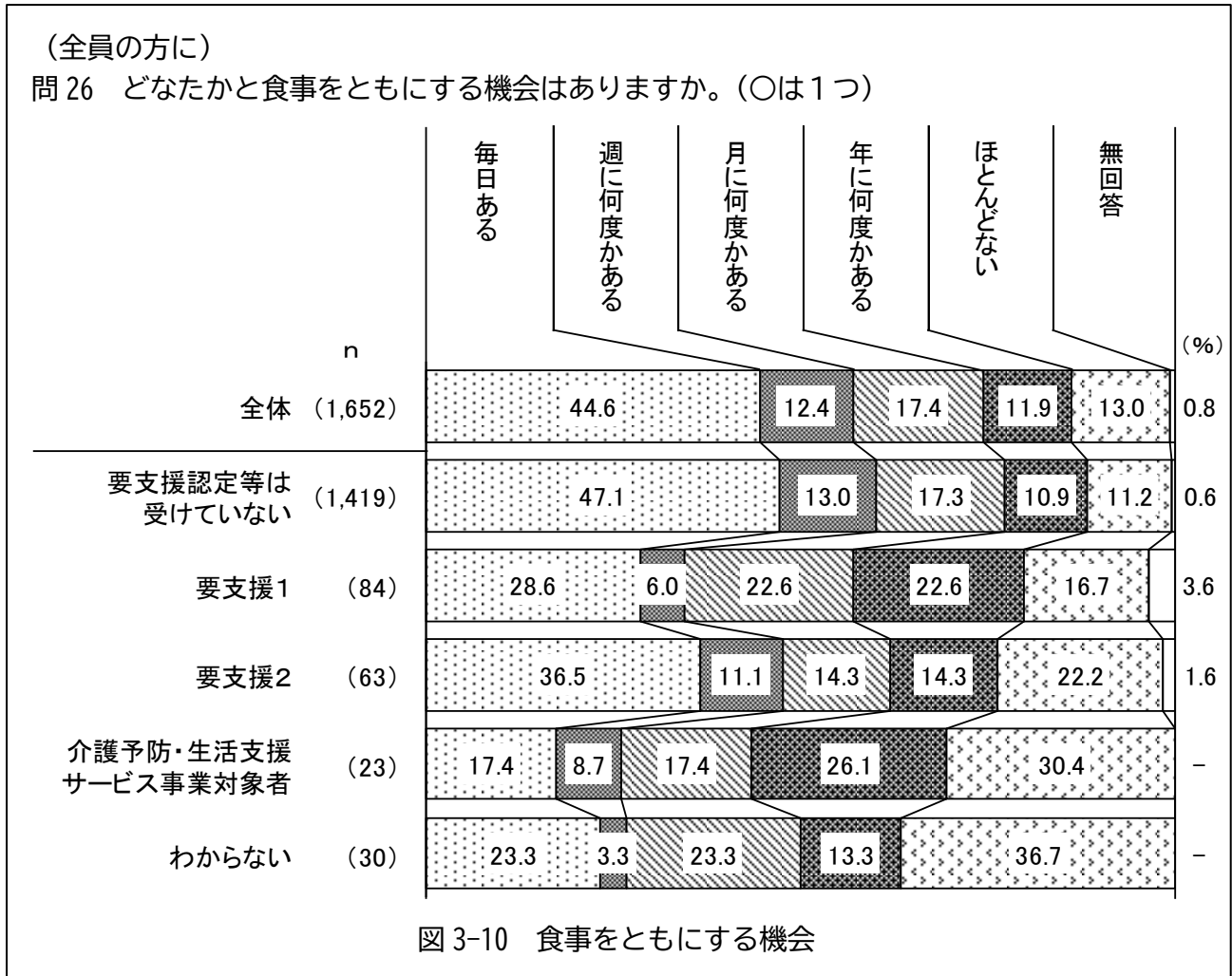


経年比較では、大きな差異はみられない。

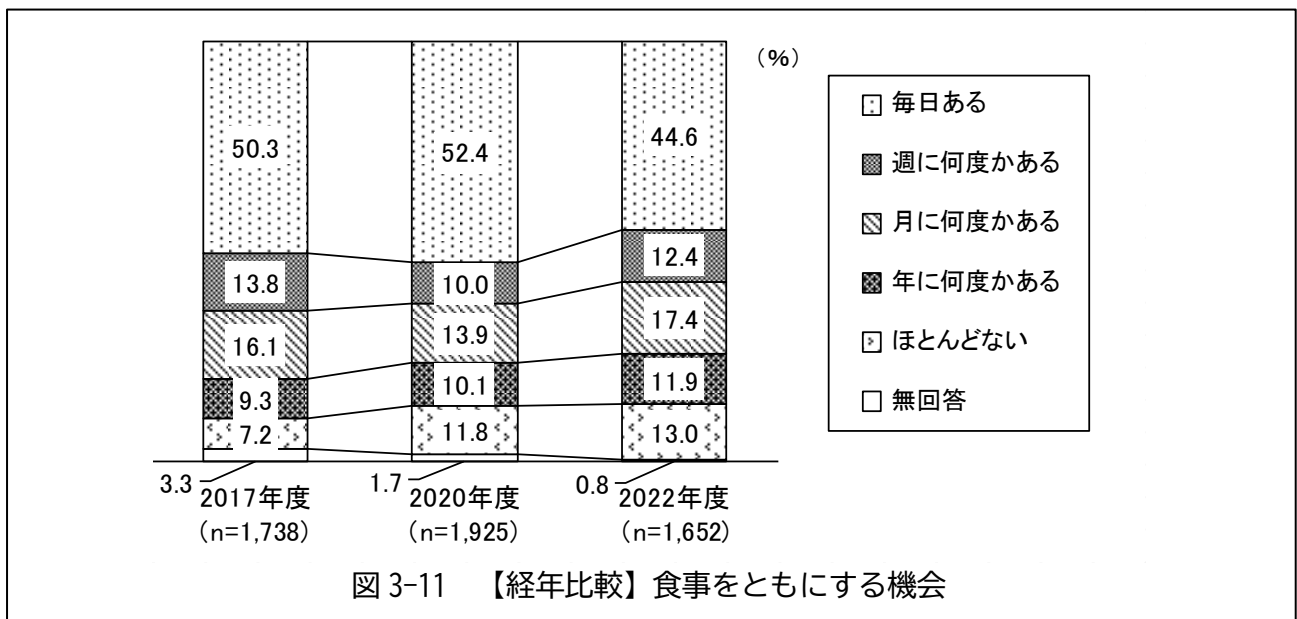


3.4. 食事をとむにする機会

◆ 「毎日ある」が4割台半ば

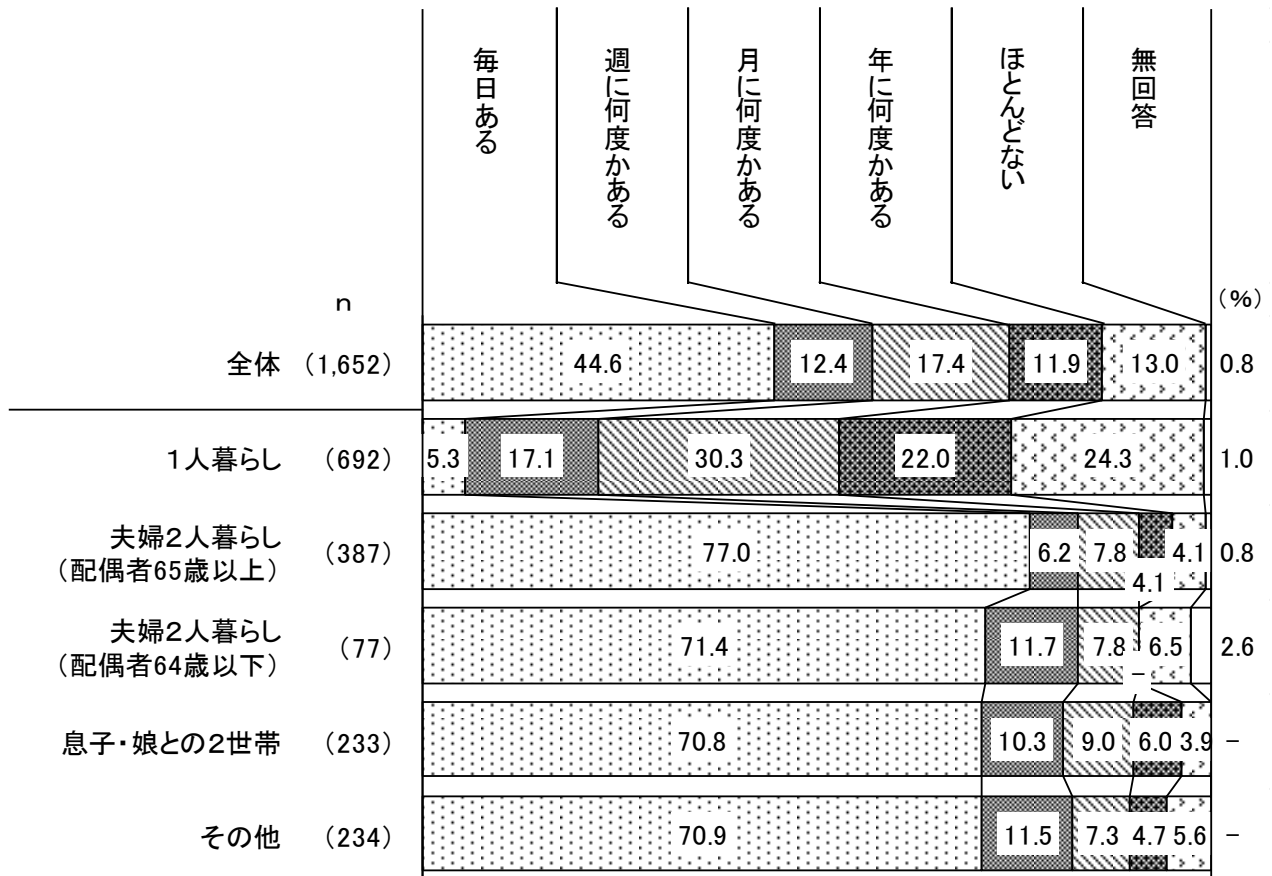


全体では、「毎日ある」が4割台半ばで最も高くなっている。  
状態別では、介護予防・生活支援サービス事業対象者は「ほとんどない」が約3割となっている。



経年比較では、2020年度と比べて「毎日ある」が7.8ポイント減少している。

【家族構成別】食事をともしる機会



家族構成別では、1人暮らし以外では「毎日ある」が7割を超えている。一方、1人暮らしでは「ほとんどない」が2割台半ばで他より高くなっている。

## 4. 毎日の生活について

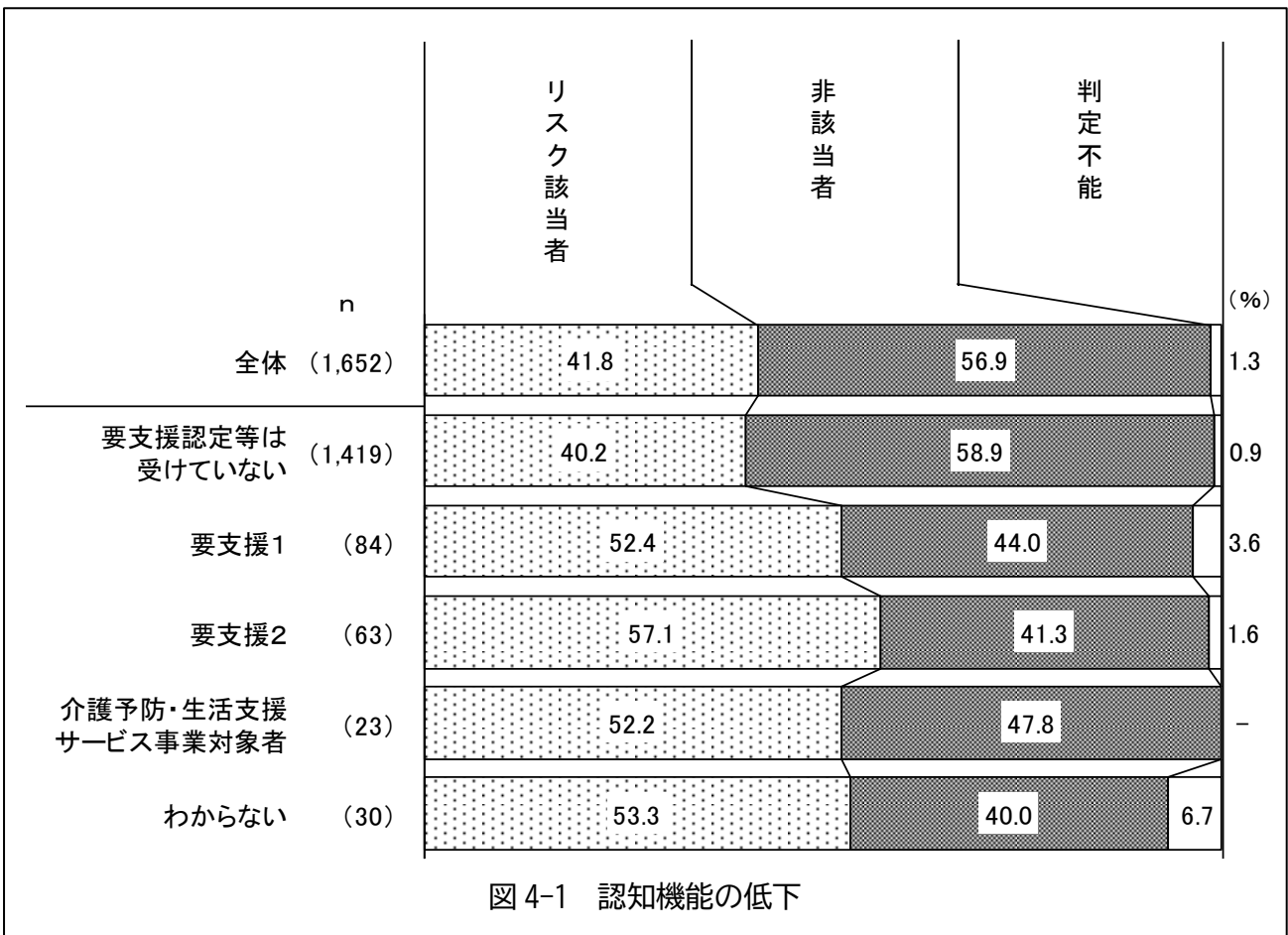
### 4.1. 機能評価

#### 4.1.1. 認知機能

◇以下の設問を抽出し、以下の項目に該当する人を認知機能低下のリスク該当者と判定した。

問番号	設問	該当する選択肢
問 27	物忘れが多いと感じますか	1. はい

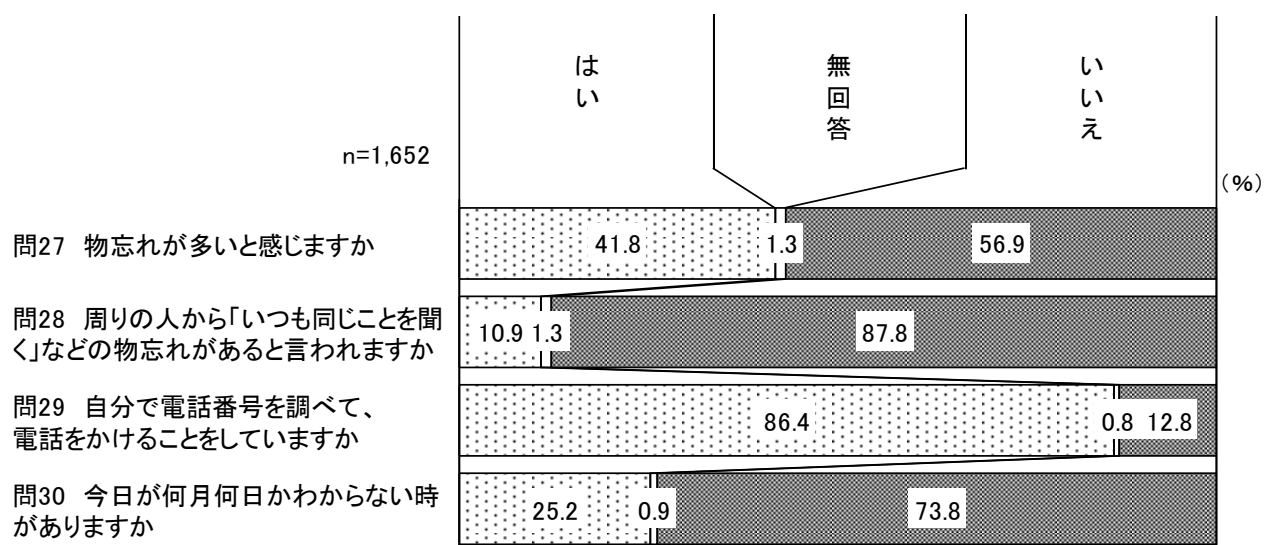
#### ◆ 認知機能低下のリスク該当者は約4割



全体では、認知機能低下のリスク該当者は約4割となっている。

状態別では、要支援1・2及び介護予防・生活支援サービス事業対象者ではリスク該当者が過半数を占めている。

※問 27 及び関連する設問（問 28～問 30）の結果  
（全員の方に）



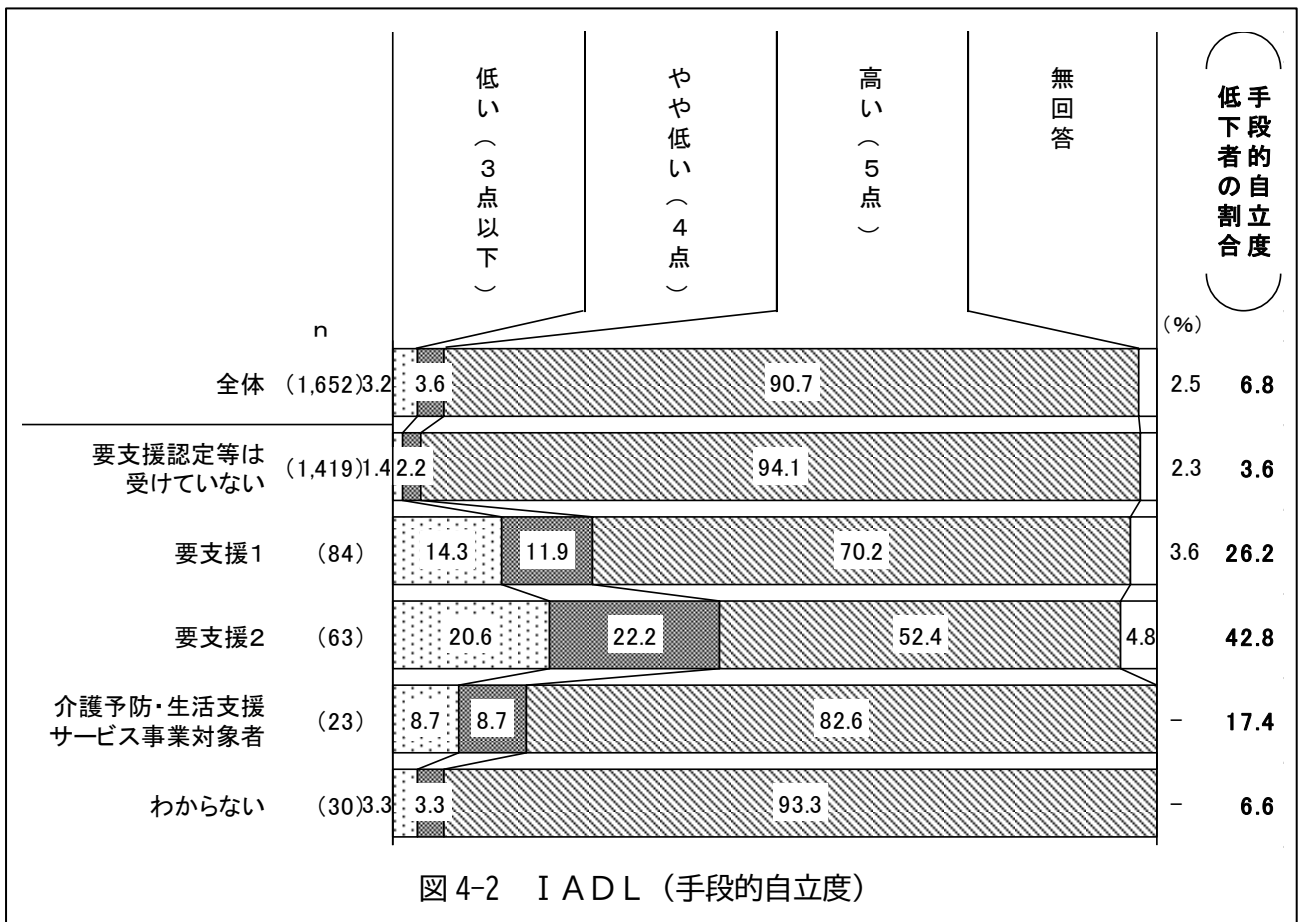
### 4.1.2. IADL（手段的自立度）

◇「IADL（手段的自立度）※」について、以下の各設問に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価した。また、4点以下を手段的自立度の低下者とし、低下者の割合を算出した。

※「手段的自立度（Instrumental Activities of Daily Living:IADL）」とは、買い物、電話、薬の管理など、比較的高度な日常生活上の動作を行える自立度の程度を示す指標。

問番号	設問	該当する選択肢
問 31	バスや電車を使って1人で外出していますか	「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問 32	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問 33	自分で食事の用意をしていますか	「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問 34	自分で請求書の支払いをしていますか	「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」
問 35	自分で預貯金の出し入れをしていますか	「1. できるし、している」または「2. できるけどしていない」

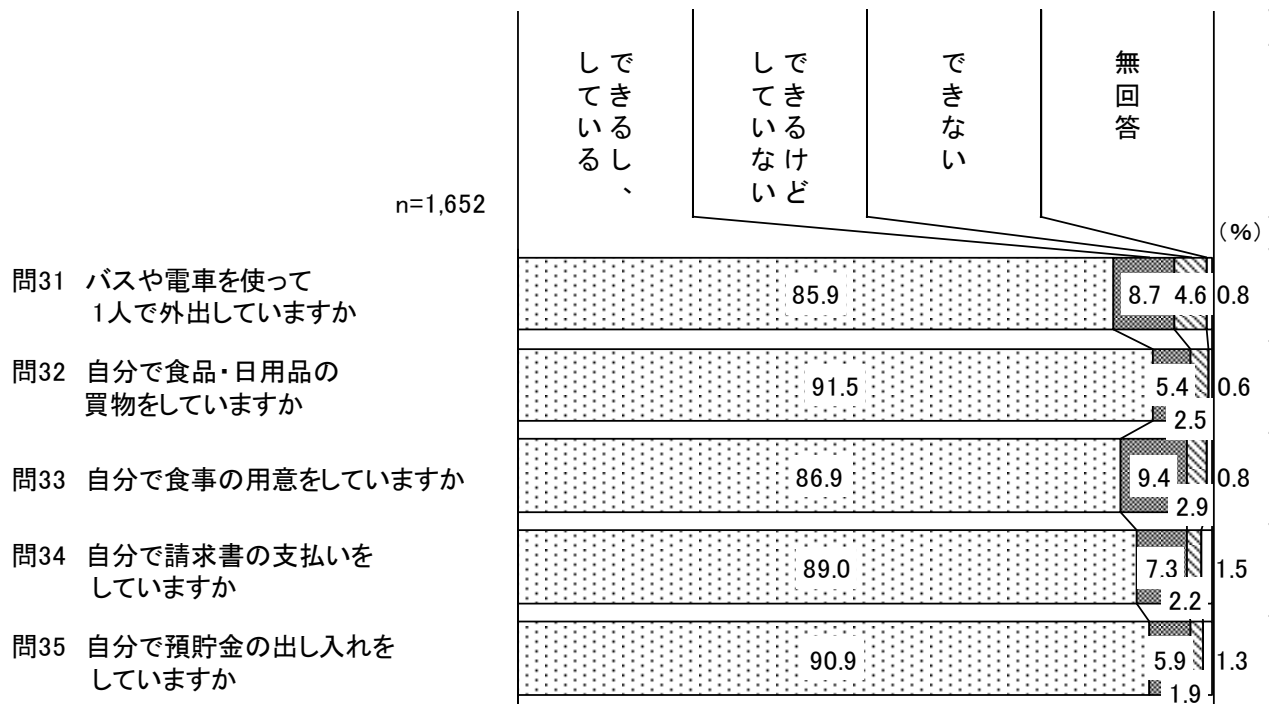
#### ◆ IADL（手段的自立度）の低下者は約7%



全体では、IADL（手段的自立度）の低下者は約7%となっている。  
 状態別では、要支援2でIADL（手段的自立度）の低下者の割合が高く、4割台前半となっている。

※問 31～問 35 設問ごとの結果  
(全員の方に)

n=1,652

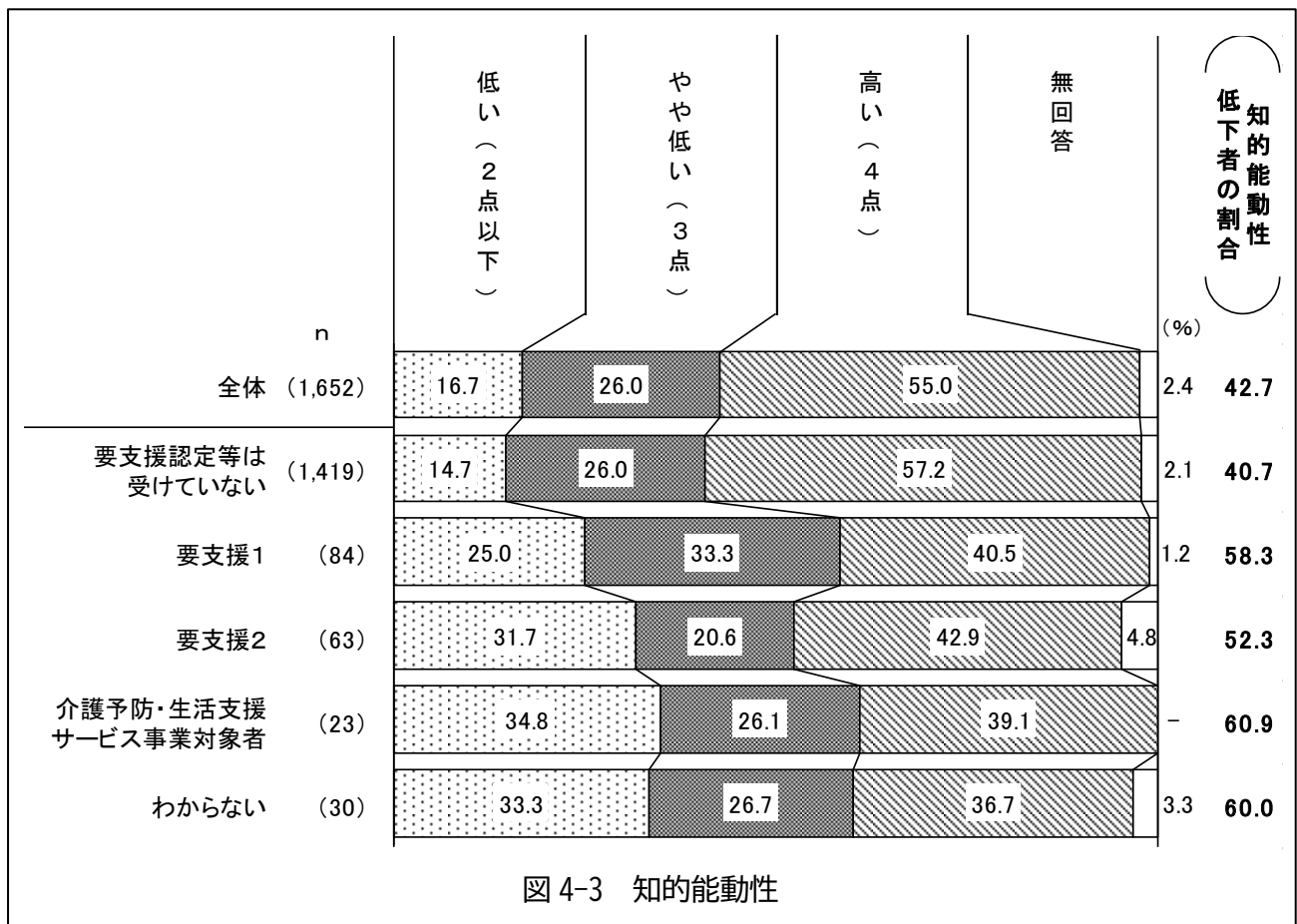


### 4.1.3. 知的能動性

◇「知的能動性」について、以下の各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価した。また、3点以下を知的能動性の低下者とし、低下者の割合を算出した。

問番号	設問	該当する選択肢
問 36	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	1. はい
問 37	新聞を読んでいますか	1. はい
問 38	本や雑誌を読んでいますか	1. はい
問 39	健康についての記事や番組に関心がありますか	1. はい

#### ◆ 知的能動性の低下者は4割台前半

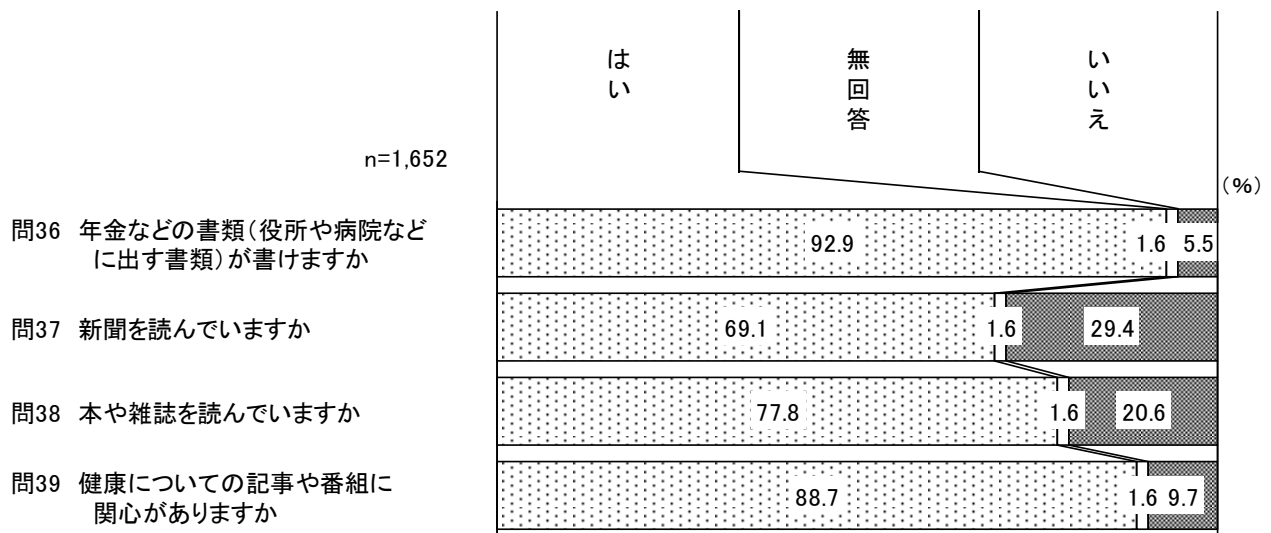


全体では、知的能動性の低下者は4割台前半となっている。

状態別では、介護予防・生活支援サービス事業対象者で知的能動性の低下者の割合が高く、約6割を占めている。

※問 36～問 39 設問ごとの結果  
(全員の方に)

n=1,652



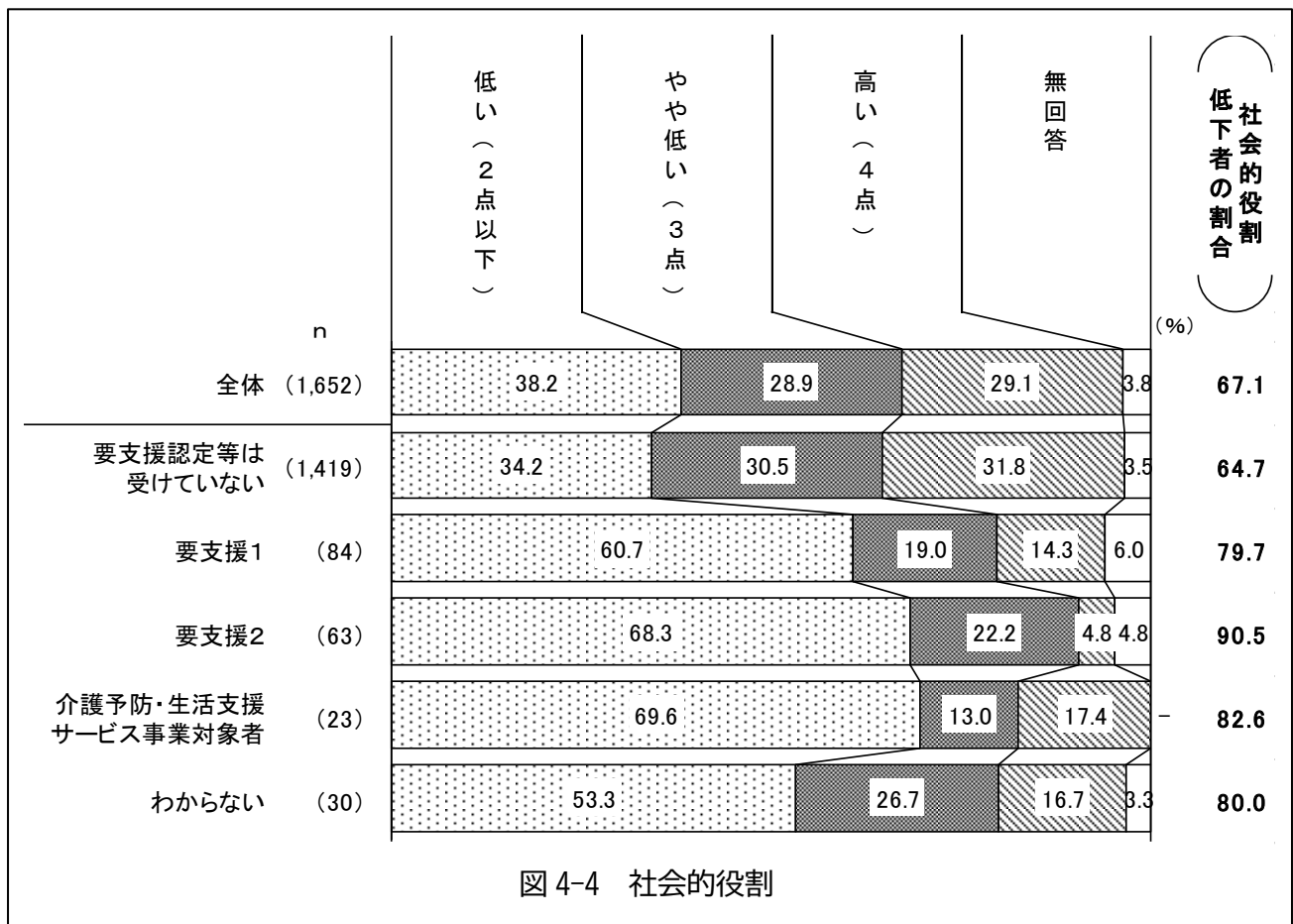


### 4.1.4. 社会的役割

◇「社会的役割」について、以下の各設問に「はい」と回答した場合を1点として、4点満点で評価し、4点を「高い」、3点を「やや低い」、2点以下を「低い」と評価した。また、3点以下を社会的役割の低下者とし、低下者の割合を算出した。

問番号	設問	該当する選択肢
問 40	友人の家を訪ねていますか	1. はい
問 41	家族や友人の相談にのっていますか	1. はい
問 42	病人を見舞うことができますか	1. はい
問 43	若い人に自分から話しかけることがありますか	1. はい

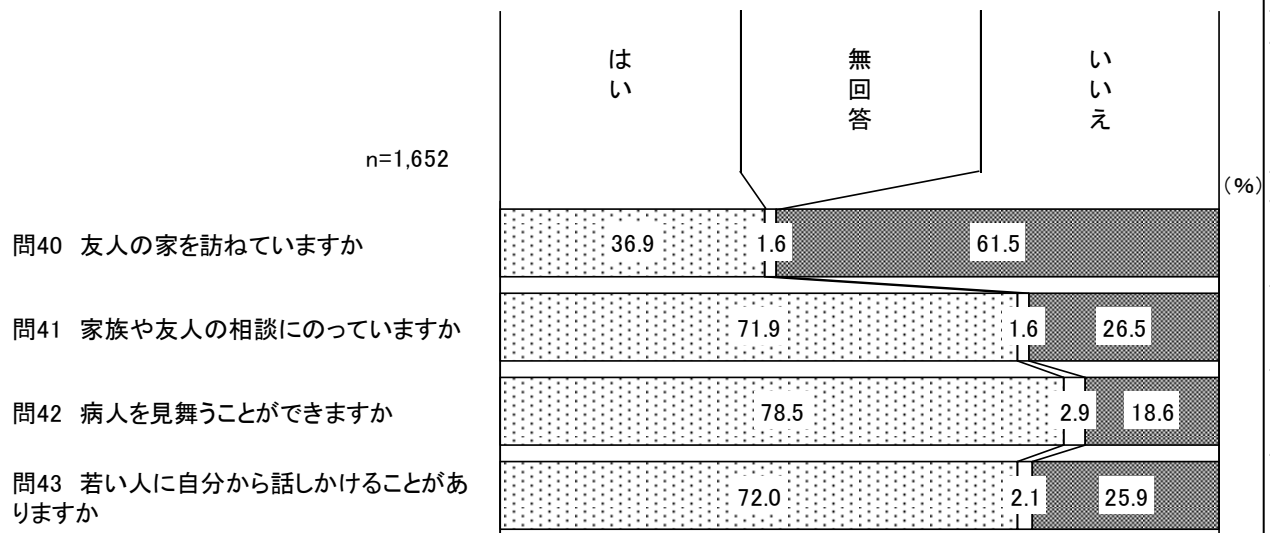
#### ◆ 社会的役割の低下者は6割台後半



全体では、社会的役割の低下者は6割台後半を占めている。  
 状態別では、要支援2で低下者の割合が高く、約9割を占めている。

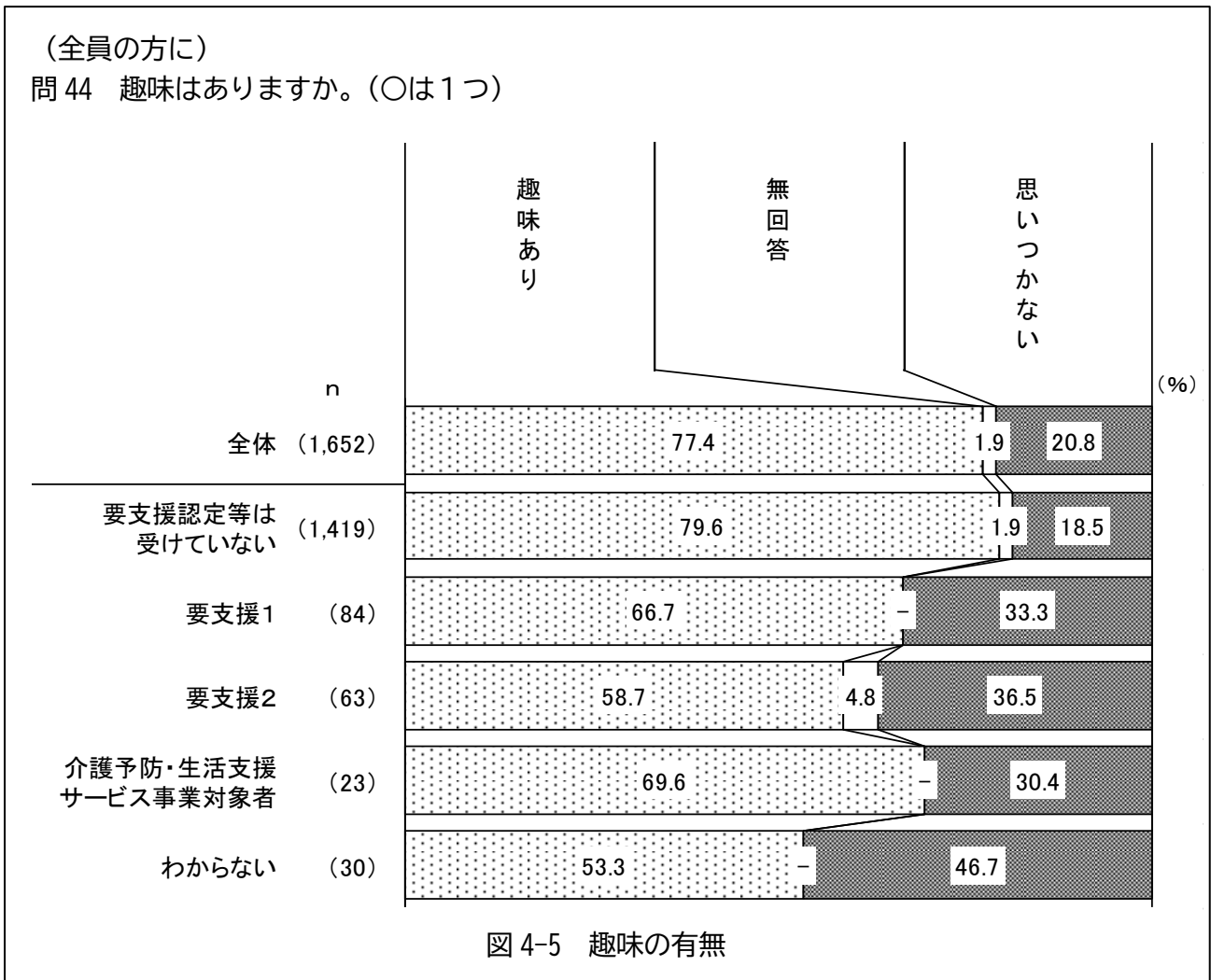
※問 40～問 43 設問ごとの結果  
(全員の方に)

n=1,652



4.2. 趣味の有無

◆ 「趣味あり」が7割台後半

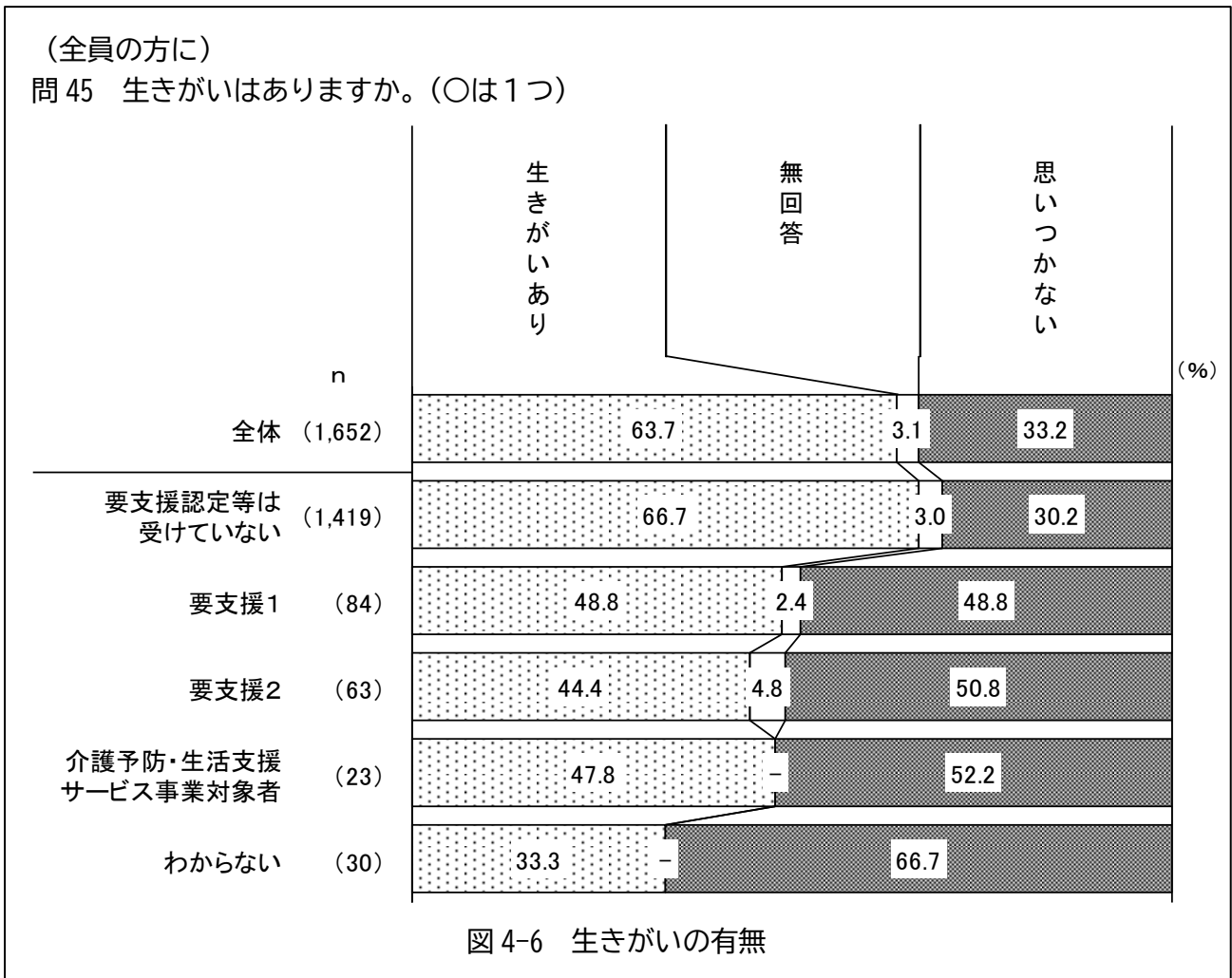


全体では、「趣味あり」が7割台後半を占めている。

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「思いつかない」が段階的に高くなっている。

4.3. 生きがいの有無

◆ 「生きがいあり」が6割台前半



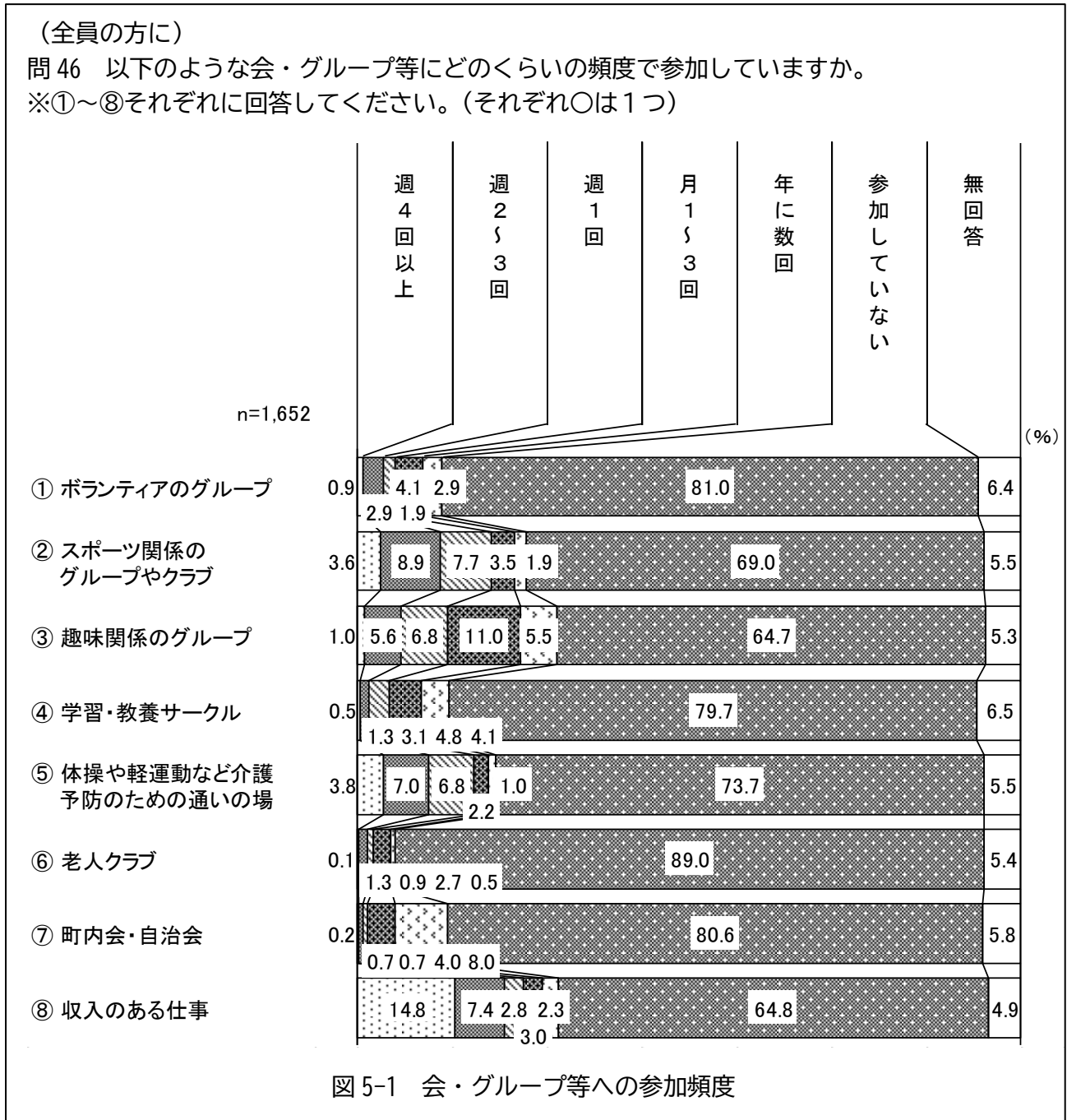
全体では、「生きがいあり」が6割台前半を占めている。

状態別では、要支援2と介護予防・生活支援サービス事業対象者で「思いつかない」が過半数を占めている。

## 5. 地域での活動について

### 5.1. 会・グループ等への参加頻度

- ◆ ③趣味関係のグループで「月1～3回」が約1割、⑧収入のある仕事で「週4回以上」が1割台半ば

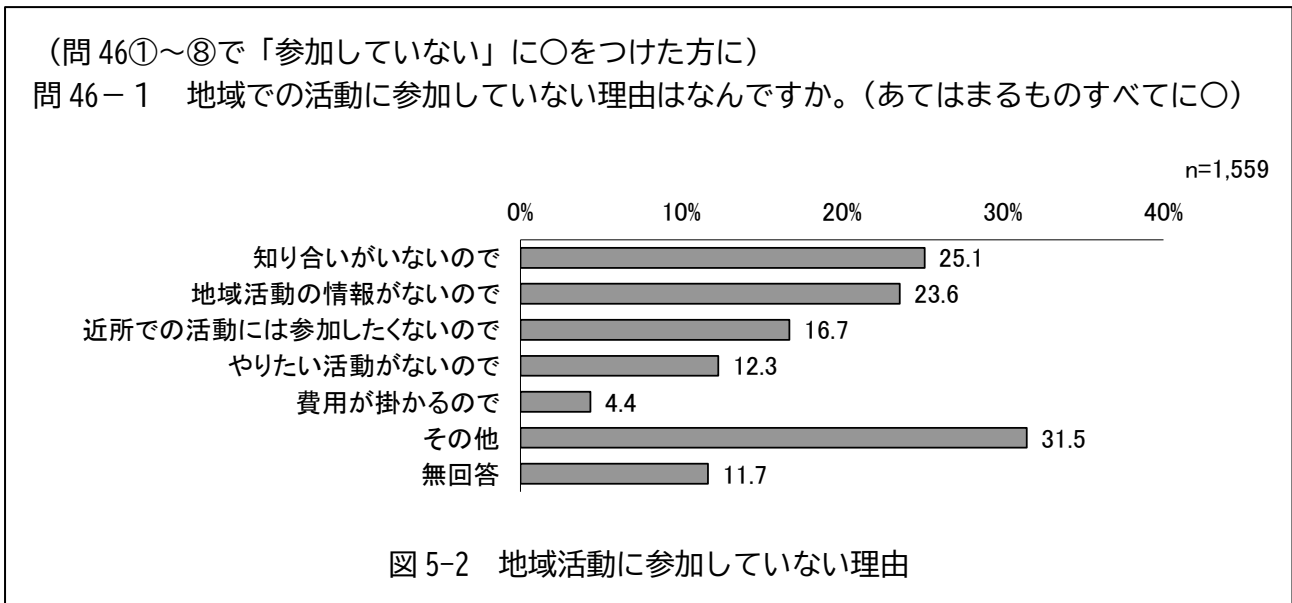


全体では、いずれも「参加していない」が過半数を占めている。

参加している人の頻度は、③趣味関係のグループで「月1～3回」が約1割、⑧収入のある仕事で「週4回以上」が1割台半ばで比較的高くなっている。

5.1.1. 地域活動に参加していない理由

◆ 「知りがいないので」が2割台半ば



「知りがいないので」が2割台半ばで最も高く、次いで「地域活動の情報がないので」が2割台前半となっている。

「その他」の内容としては、現在仕事をしていることや時間の余裕がないこと、病気や老化等による健康面の理由が多く挙げられている。

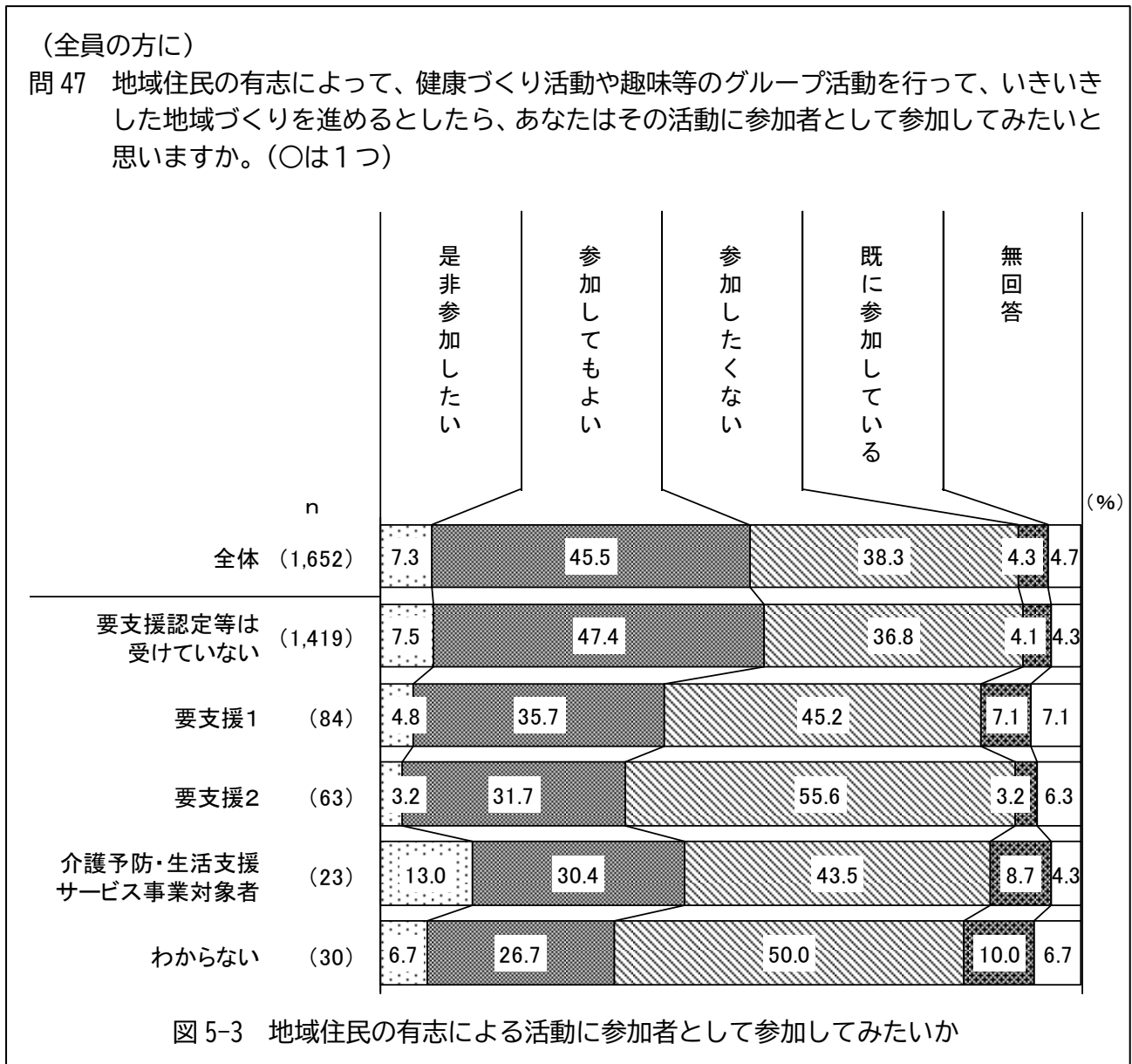
【状態別】地域活動に参加していない理由

単位：%

	有効回答数(件)	知りがいないので	地域活動の情報がないので	近所での活動には参加したくないので	やりたい活動がないので	費用が掛かるので	その他	無回答
全体	1,559	25.1	23.6	16.7	12.3	4.4	31.5	11.7
要支援認定等は受けていない	1,346	23.8	23.5	16.8	12.2	4.3	31.6	12.0
要支援1	79	24.1	22.8	11.4	11.4	5.1	36.7	10.1
要支援2	58	39.7	25.9	19.0	17.2	1.7	31.0	6.9
介護予防・生活支援サービス事業対象者	22	27.3	13.6	22.7	18.2	9.1	31.8	4.5
わからない	28	50.0	32.1	28.6	10.7	7.1	10.7	10.7

5.2. 地域住民の有志による活動に参加者として参加してみたいか

◆ 「参加してもよい」が4割台半ば

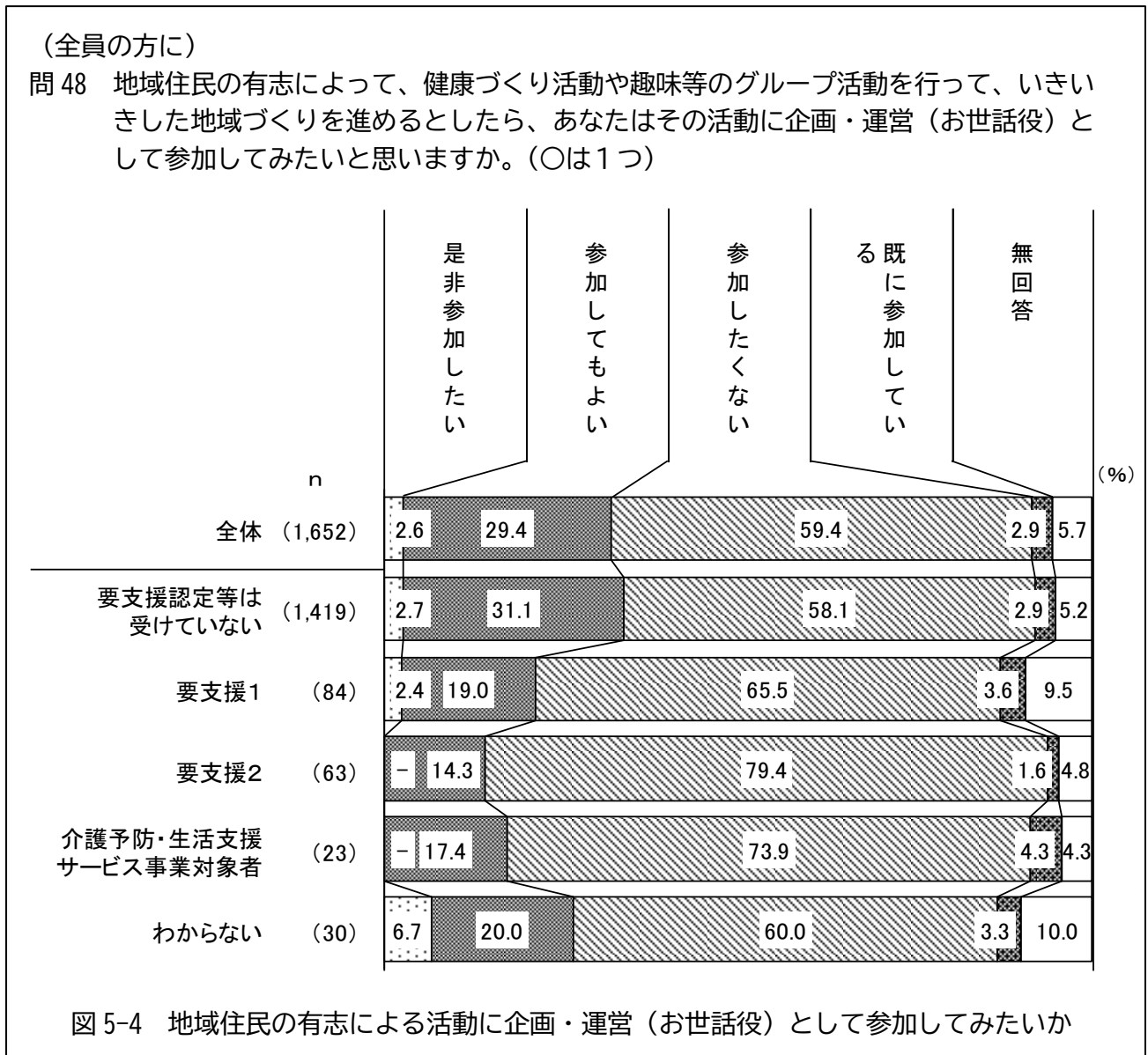


全体では、「参加してもよい」が4割台半ばで最も高くなっている。

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「参加したくない」が段階的に高くなっており、要支援2では5割台半ばを占めている。

5.3. 地域住民の有志による活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいか

◆ 「参加したくない」が約6割



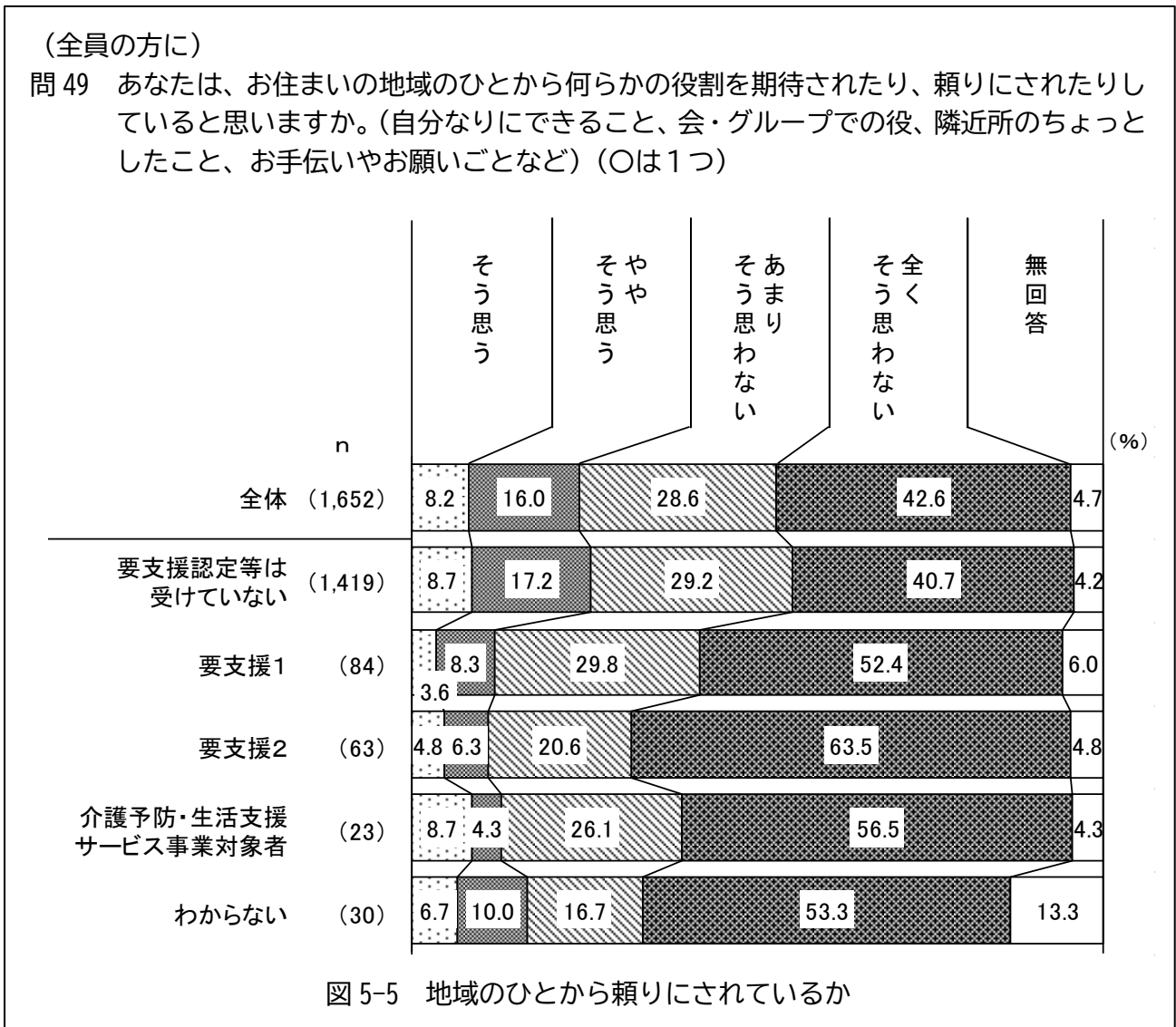
全体では、「参加したくない」が約6割を占めている。

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「参加したくない」が段階的に高くなっており、要支援2では約8割を占めている。



5.4. 地域のひとから頼りにされているか

◆ 「全くそう思わない」が4割台前半



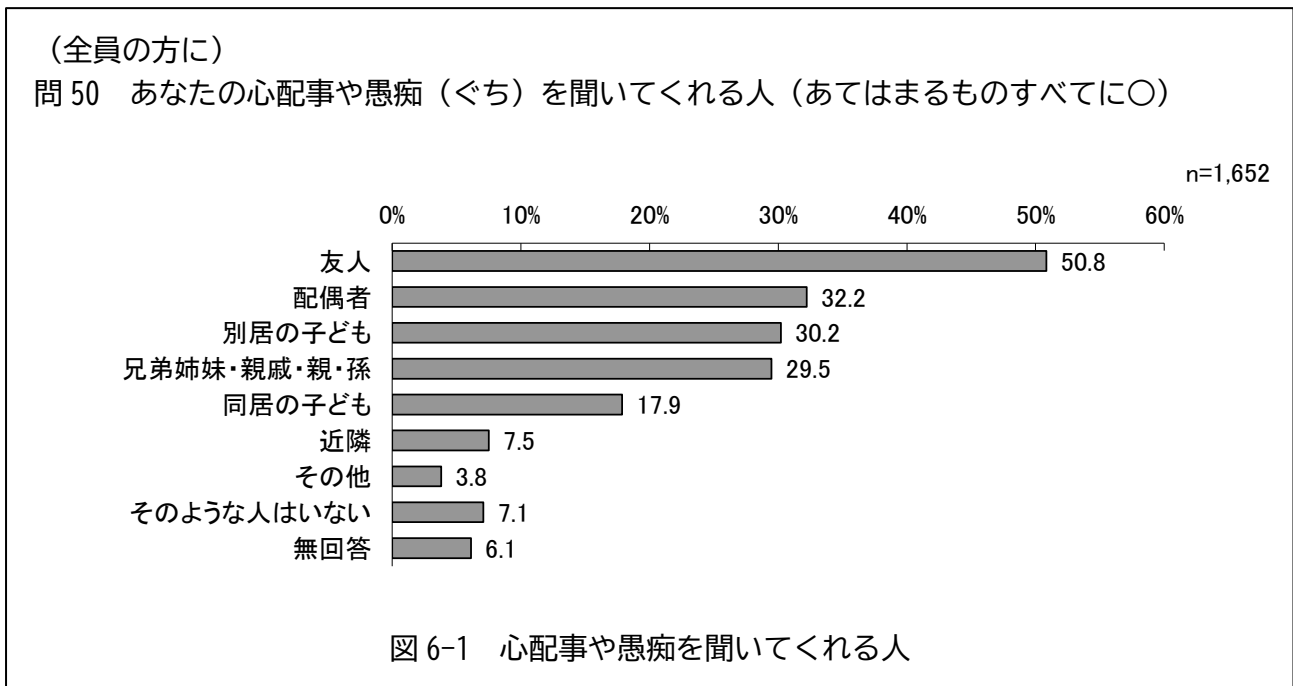
全体では、「全くそう思わない」が4割台前半で最も高くなっている。

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「全くそう思わない」が段階的に高くなっており、要支援2では6割台前半を占めている。

## 6. たすけあいについて

### 6.1. 心配事や愚痴を聞いてくれる人

#### ◆ 「友人」が約5割



全体では、「友人」が約5割を占めている。

#### 【状態別】心配事や愚痴を聞いてくれる人

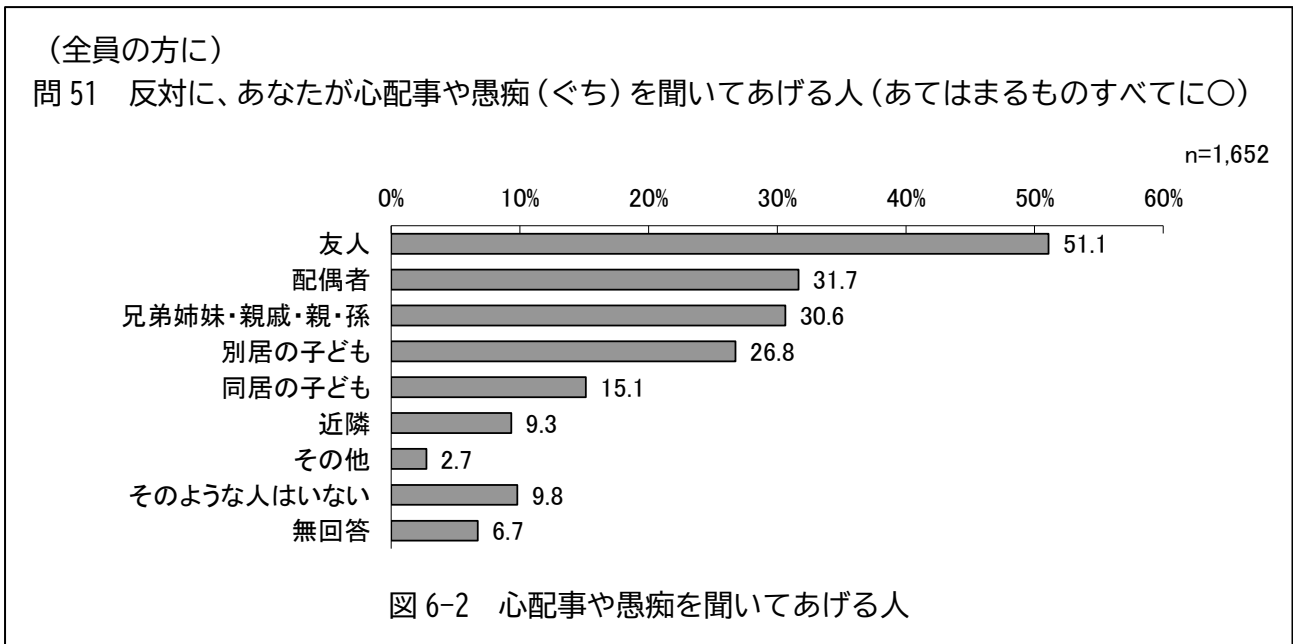
単位：%

	有効回答数(件)	友人	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体	1,652	50.8	32.2	30.2	29.5	17.9	7.5	3.8	7.1	6.1
要支援認定等を受けていない	1,419	54.5	35.0	30.8	29.7	17.9	7.9	3.9	6.2	5.4
要支援1	84	35.7	21.4	27.4	28.6	17.9	8.3	3.6	10.7	3.6
要支援2	63	28.6	15.9	23.8	25.4	17.5	0.0	1.6	12.7	15.9
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	17.4	4.3	39.1	34.8	17.4	4.3	0.0	8.7	13.0
わからない	30	20.0	13.3	20.0	20.0	20.0	3.3	3.3	23.3	10.0

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「友人」や「配偶者」が段階的に低くなっている。

6.2. 心配事や愚痴を聞いてあげる人

◆ 「友人」が約5割



全体では、「友人」が約5割を占めている。

【状態別】心配事や愚痴を聞いてあげる人

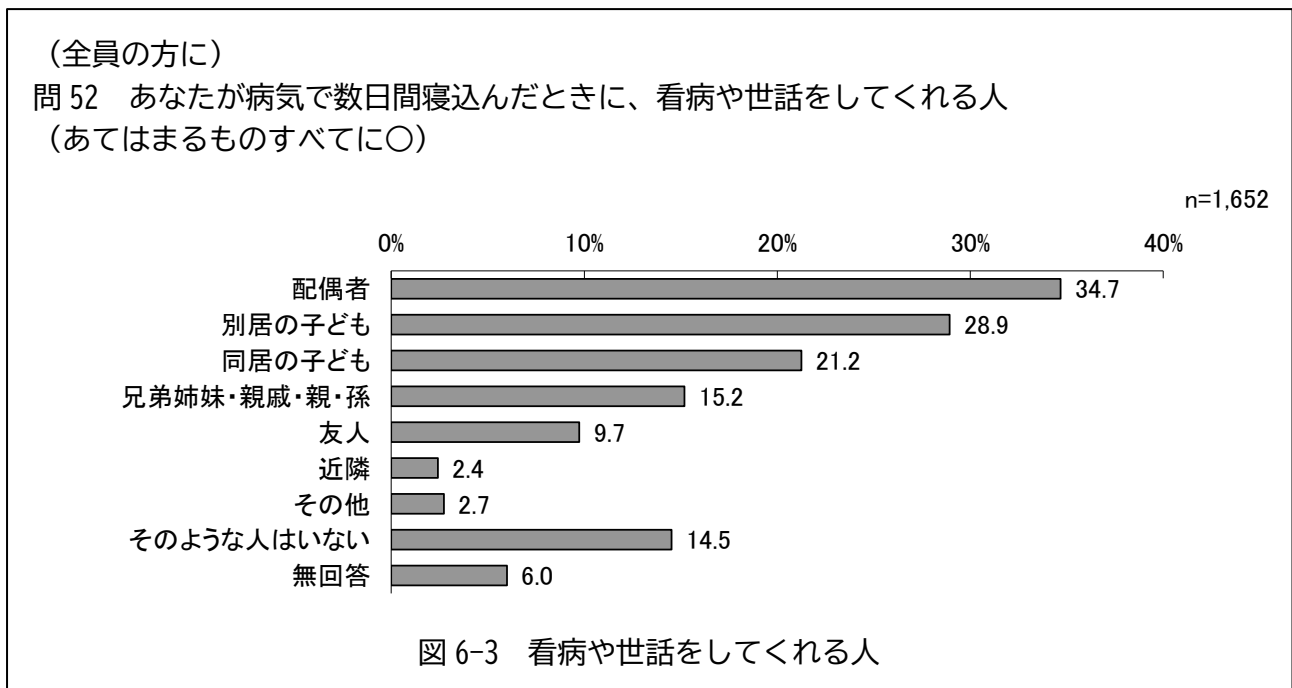
単位：%

	有効回答数(件)	友人	配偶者	兄弟姉妹・親戚・親・孫	別居の子ども	同居の子ども	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体	1,652	51.1	31.7	30.6	26.8	15.1	9.3	2.7	9.8	6.7
要支援認定等を受けていない	1,419	53.8	34.3	31.3	28.3	15.8	9.9	3.0	8.4	6.1
要支援1	84	36.9	22.6	27.4	20.2	10.7	9.5	1.2	15.5	3.6
要支援2	63	30.2	14.3	20.6	15.9	9.5	0.0	0.0	20.6	15.9
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	39.1	4.3	39.1	26.1	13.0	13.0	0.0	13.0	8.7
わからない	30	33.3	13.3	20.0	3.3	16.7	0.0	0.0	26.7	16.7

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「そのような人はいない」が段階的に高くなり、他の項目は段階的に低くなっている。

6.3. 看病や世話をしてくれる人

◆ 「配偶者」が3割台半ば



全体では、「配偶者」が3割台半ばで最も高くなっている。

【状態別】 看病や世話をしてくれる人

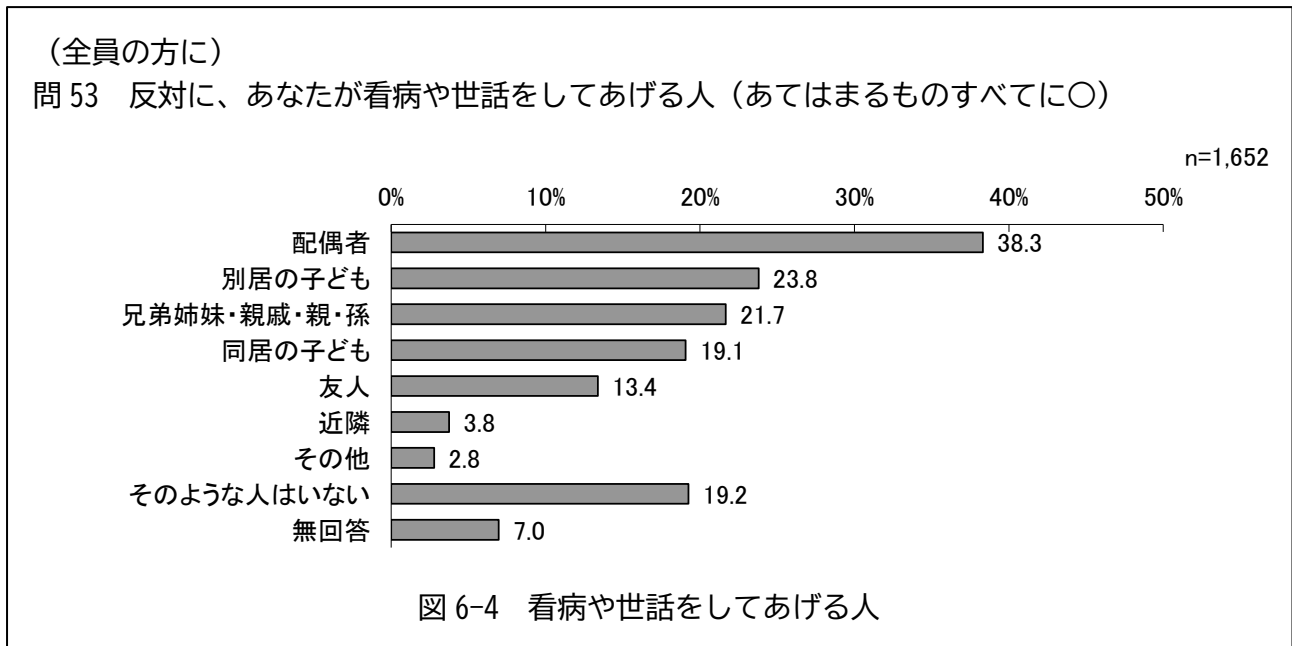
単位：%

	有効回答数(件)	配偶者	別居の子ども	同居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	友人	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体	1,652	34.7	28.9	21.2	15.2	9.7	2.4	2.7	14.5	6.0
要支援認定等は受けていない	1,419	37.8	28.6	21.4	15.6	10.2	2.5	2.5	13.5	5.5
要支援1	84	19.0	34.5	19.0	13.1	7.1	3.6	6.0	22.6	3.6
要支援2	63	19.0	23.8	22.2	7.9	6.3	1.6	6.3	20.6	14.3
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	4.3	47.8	17.4	21.7	8.7	4.3	0.0	13.0	8.7
わからない	30	13.3	20.0	23.3	10.0	13.3	0.0	3.3	26.7	6.7

状態別では、要支援1・2及び介護予防・生活支援サービス事業対象者で「別居の子ども」が最も高くなっている。

6.4. 看病や世話をしあける人

◆ 「配偶者」が3割台後半



全体では、「配偶者」が3割台後半で最も高くなっている。

【状態別】看病や世話をしあける人

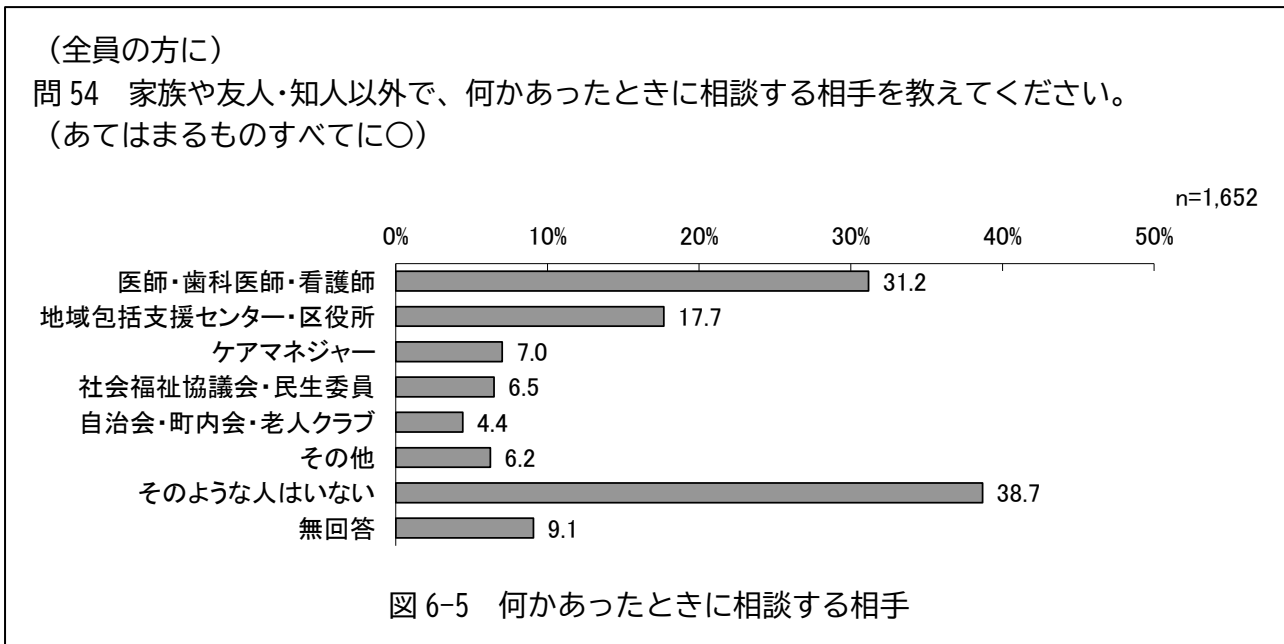
単位：%

	有効回答数(件)	配偶者	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	同居の子ども	友人	近隣	その他	そのような人はいない	無回答
全体	1,652	38.3	23.8	21.7	19.1	13.4	3.8	2.8	19.2	7.0
要支援認定等は受けていない	1,419	41.8	25.7	23.5	20.2	14.4	3.8	2.6	16.3	6.3
要支援1	84	22.6	16.7	8.3	6.0	7.1	6.0	4.8	41.7	6.0
要支援2	63	17.5	4.8	7.9	12.7	4.8	3.2	6.3	36.5	15.9
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	8.7	21.7	21.7	13.0	8.7	0.0	0.0	30.4	8.7
わからない	30	13.3	3.3	6.7	23.3	16.7	0.0	3.3	40.0	6.7

状態別では、要支援1・2及び介護予防・生活支援サービス事業対象者で「そのような人はいない」が最も高くなっている。

6.5. 何かあったときに相談する相手

◆ 「そのような人はいない」が3割台後半



「そのような人はいない」が3割台後半で最も高くなっている。

【状態別】何かあったときに相談する相手

単位：%

	有効回答数(件)	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・区役所	ケアマネジャー	社会福祉協議会・民生委員	自治会・町内会・老人クラブ	その他	そのような人はいない	無回答
全体	1,652	31.2	17.7	7.0	6.5	4.4	6.2	38.7	9.1
要支援認定等は受けていない	1,419	30.8	16.3	3.1	5.9	4.4	6.3	41.7	8.5
要支援1	84	39.3	28.6	38.1	11.9	4.8	3.6	16.7	10.7
要支援2	63	39.7	30.2	50.8	9.5	3.2	7.9	11.1	12.7
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	26.1	21.7	17.4	8.7	13.0	13.0	17.4	8.7
わからない	30	23.3	30.0	6.7	10.0	0.0	3.3	36.7	10.0

状態別では、要支援1と介護予防・生活支援サービス事業対象者で「医師・歯科医師・看護師」が最も高く、要支援2では「ケアマネジャー」が最も高くなっている。

【家族構成別】何かあったときに相談する相手

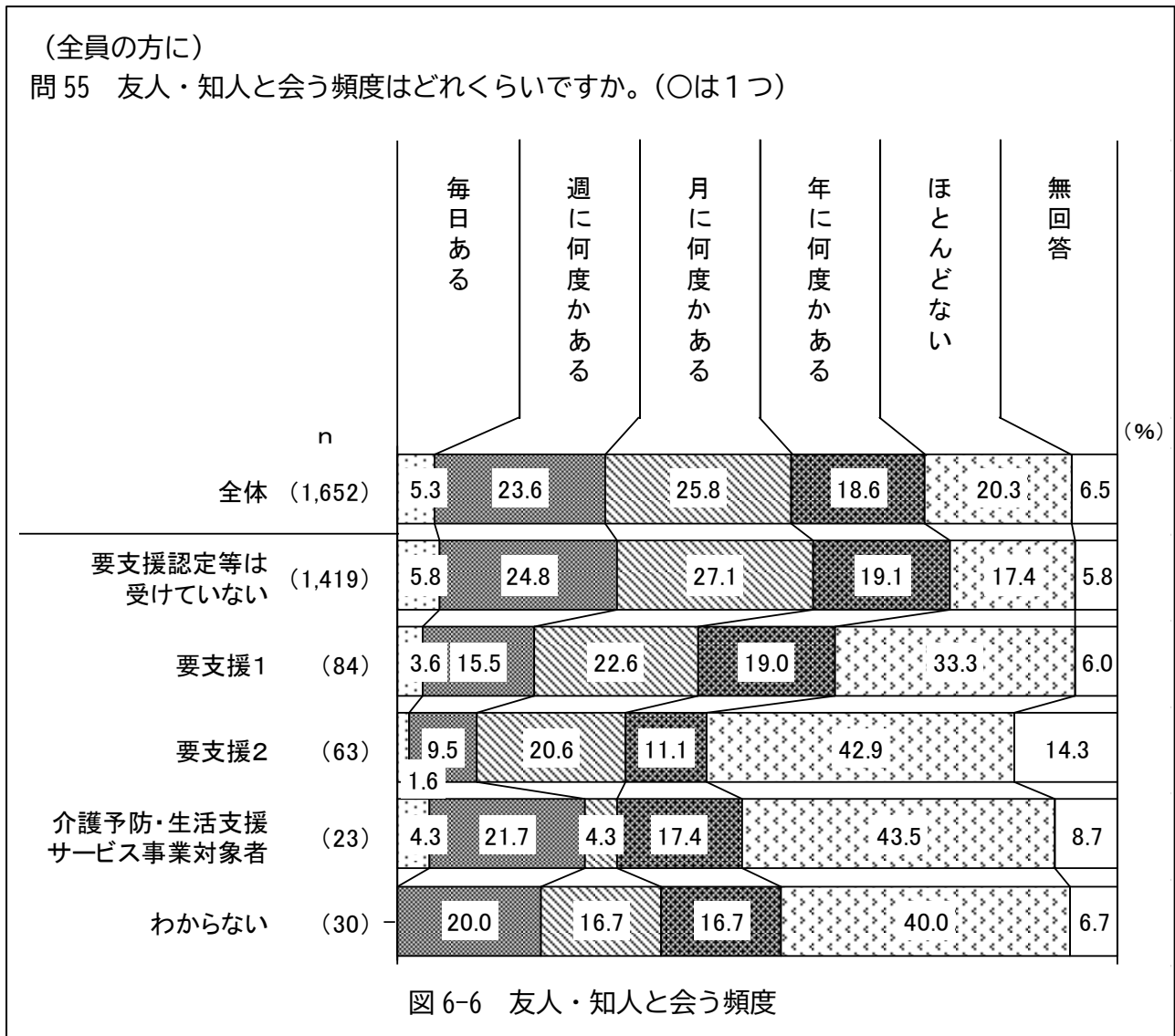
単位：％

	有効回答数(件)	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・区役所	ケアマネジャー	社会福祉協議会・民生委員	自治会・町内会・老人クラブ	その他	そのような人はいない	無回答
全体	1,652	31.2	17.7	7.0	6.5	4.4	6.2	38.7	9.1
1人暮らし	692	28.0	19.7	7.2	9.5	4.2	6.5	38.4	8.8
夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)	387	32.3	15.2	9.0	5.2	6.5	6.2	39.0	8.5
夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)	77	36.4	13.0	2.6	7.8	2.6	7.8	36.4	5.2
息子・娘との2世帯	233	37.3	16.7	5.6	3.9	4.7	3.4	37.8	11.6
その他	234	32.1	19.7	5.6	2.6	2.6	8.5	40.2	7.7

家族構成別では、大きな差異はみられない。

6.6. 友人・知人と会う頻度

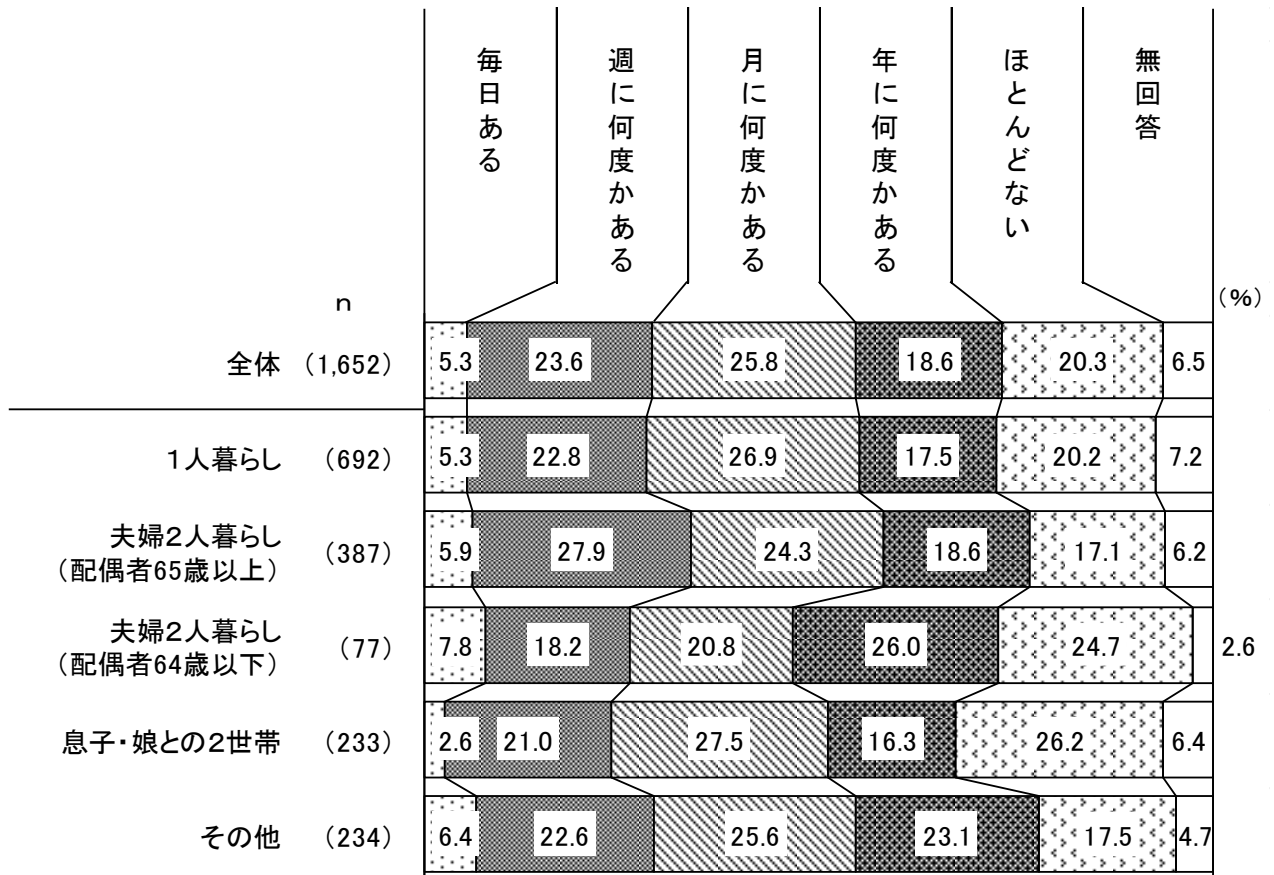
◆ 「月に何度かある」が2割台半ば



全体では、「月に何度かある」が2割台半ばで最も高くなっている。  
状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって友人・知人と会う頻度が下がり、「ほとんどない」が段階的に高くなっている。



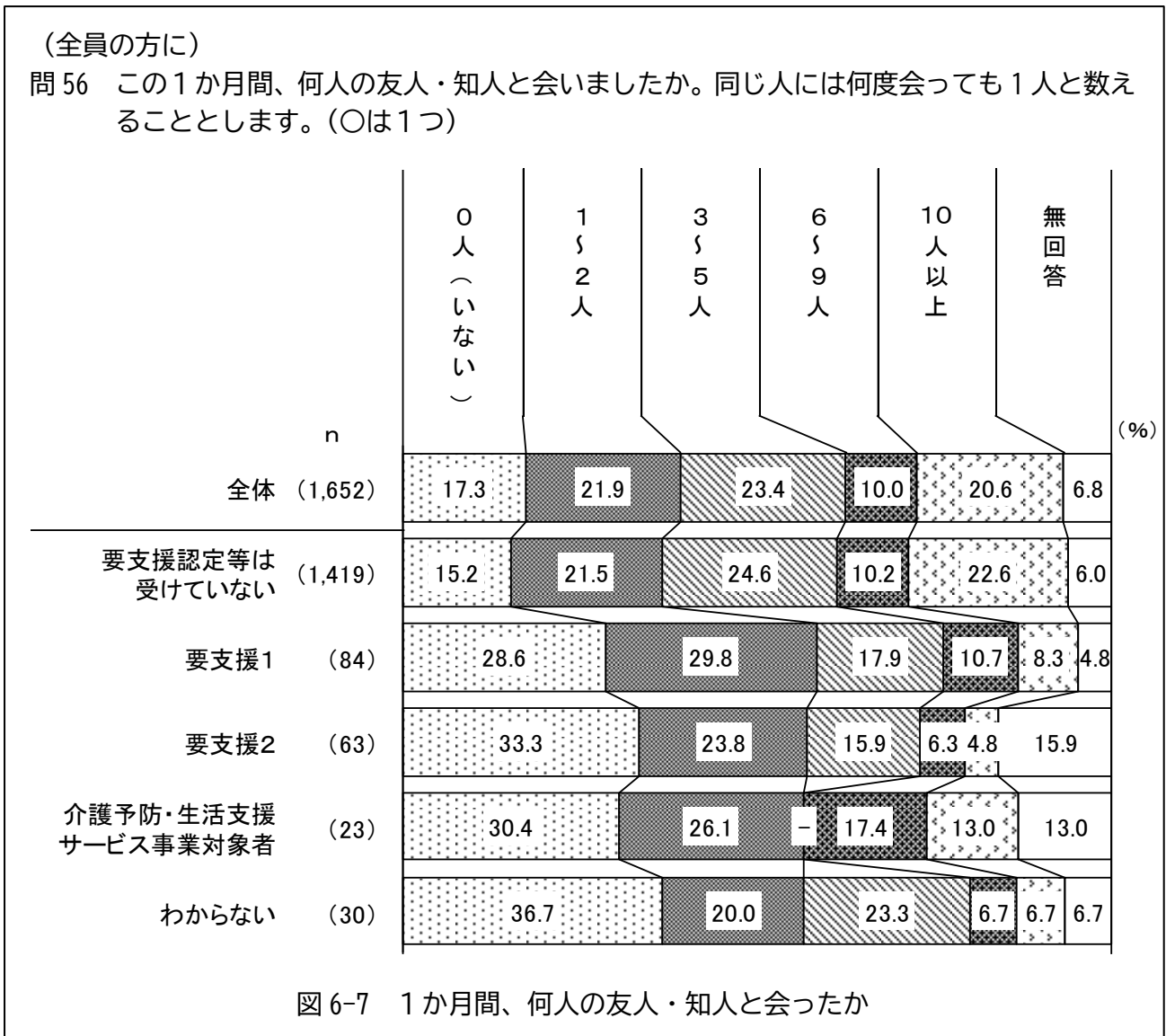
【家族構成別】友人・知人と会う頻度



家族構成別では、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で「週に何度かある」がやや高くなっている。

6.7. 1 か月間、何人の友人・知人と会ったか

◆ 「3～5人」が2割台前半

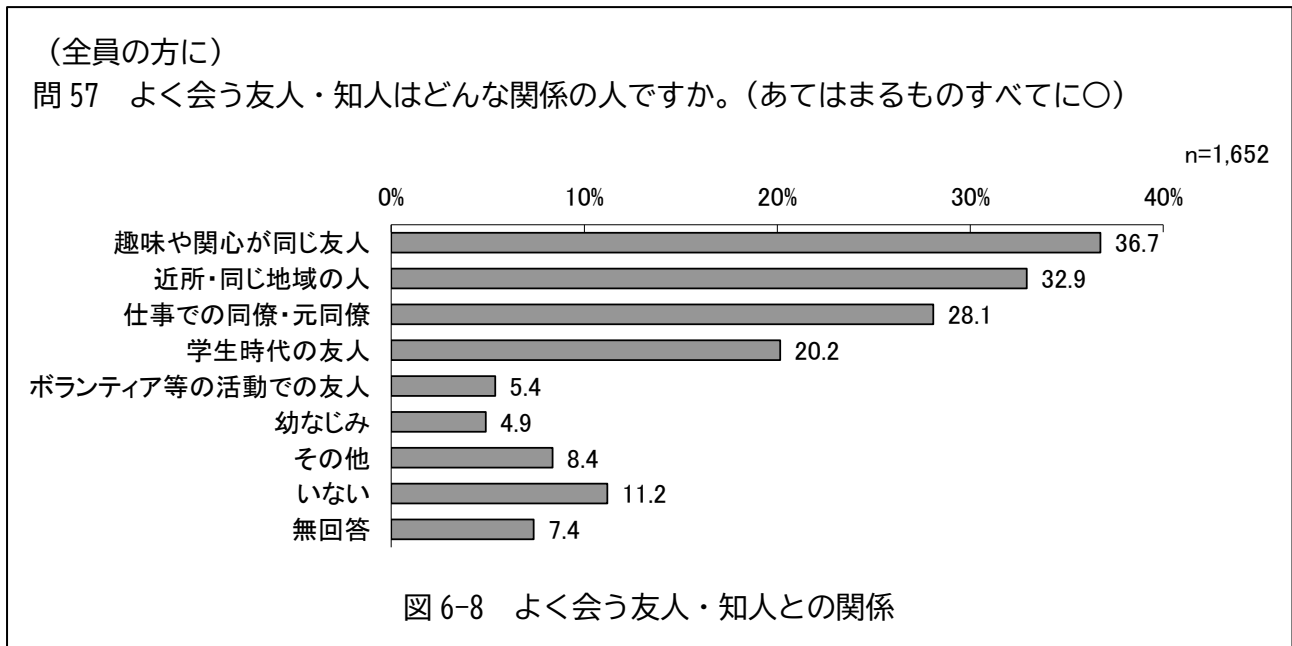


全体では、「3～5人」が2割台前半で最も高くなっている。

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「0人 (いない)」が段階的に高くなっている。

6.8. よく会う友人・知人との関係

◆ 「趣味や関心が同じ友人」が3割台半ば



全体では、「趣味や関心が同じ友人」が3割台半ばで最も高く、次いで「近所・同じ地域の人」が3割台前半となっている。

【状態別】よく会う友人・知人との関係

単位：%

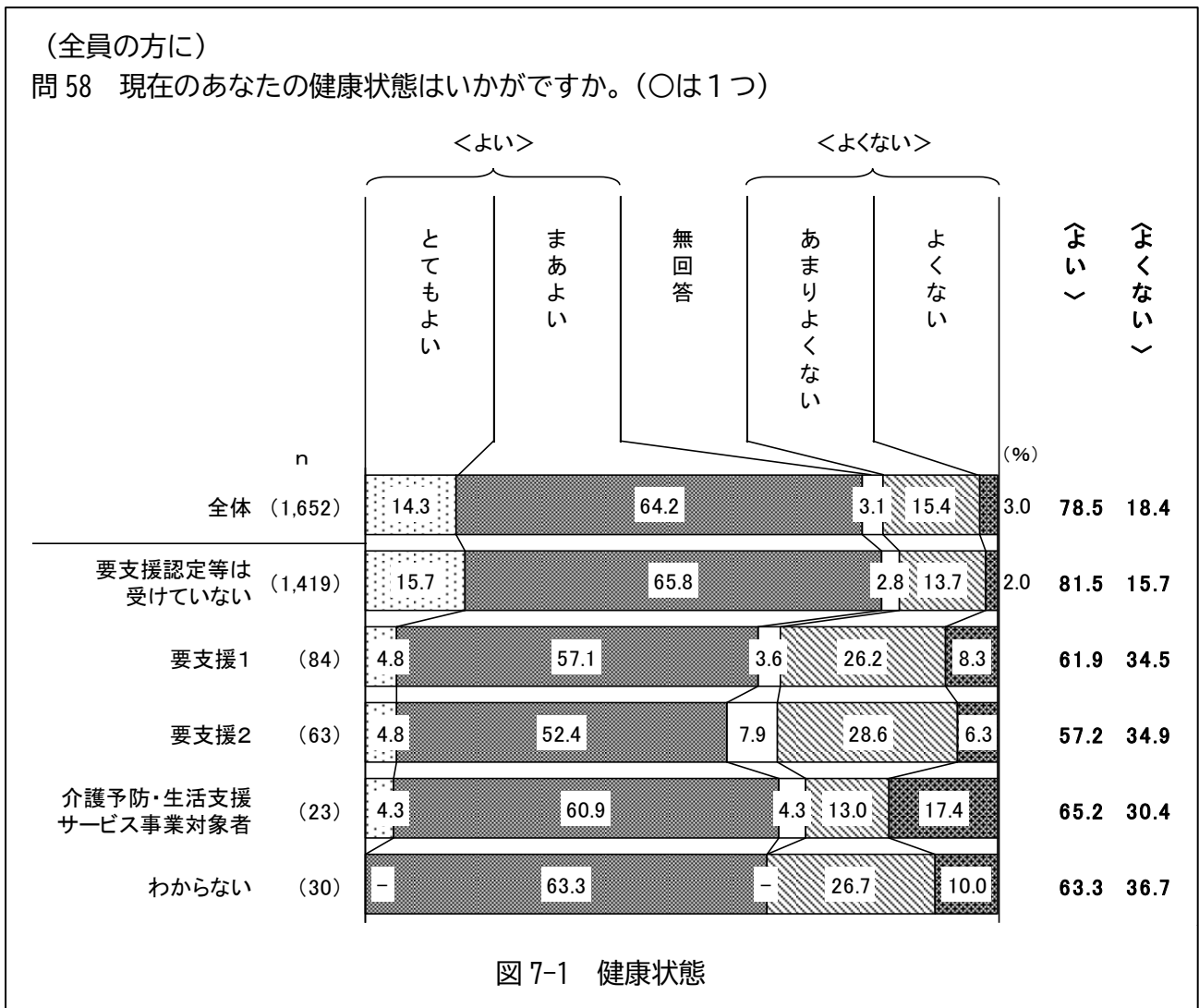
	有効回答数(件)	趣味や関心が同じ友人	近所・同じ地域の人	仕事での同僚・元同僚	学生時代の友人	ボランティア等の活動での友人	幼なじみ	その他	いない	無回答
全体	1,652	36.7	32.9	28.1	20.2	5.4	4.9	8.4	11.2	7.4
要支援認定等は受けていない	1,419	39.0	33.2	31.1	21.4	5.9	5.2	8.1	9.4	6.4
要支援1	84	25.0	38.1	13.1	14.3	1.2	2.4	9.5	22.6	7.1
要支援2	63	19.0	19.0	4.8	14.3	3.2	0.0	15.9	23.8	15.9
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	26.1	47.8	8.7	13.0	8.7	8.7	17.4	17.4	8.7
わからない	30	23.3	30.0	3.3	13.3	0.0	10.0	0.0	30.0	13.3

状態別では、要支援1と介護予防・生活支援サービス事業対象者で「近所・同じ地域の人」が最も高く、要支援2で「いない」が最も高くなっている。

## 7. 健康について

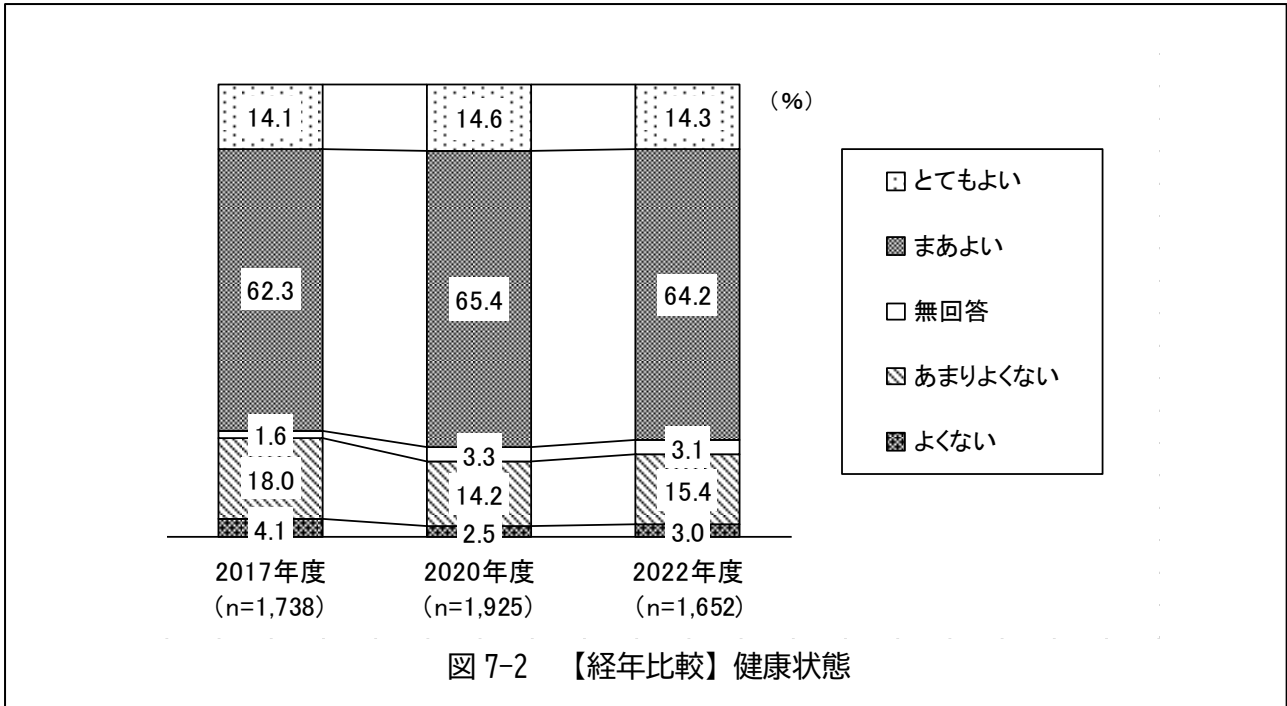
### 7.1. 健康状態

#### ◆ <よい>が7割台後半



全体では、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた<よい>が7割台後半を占めている。

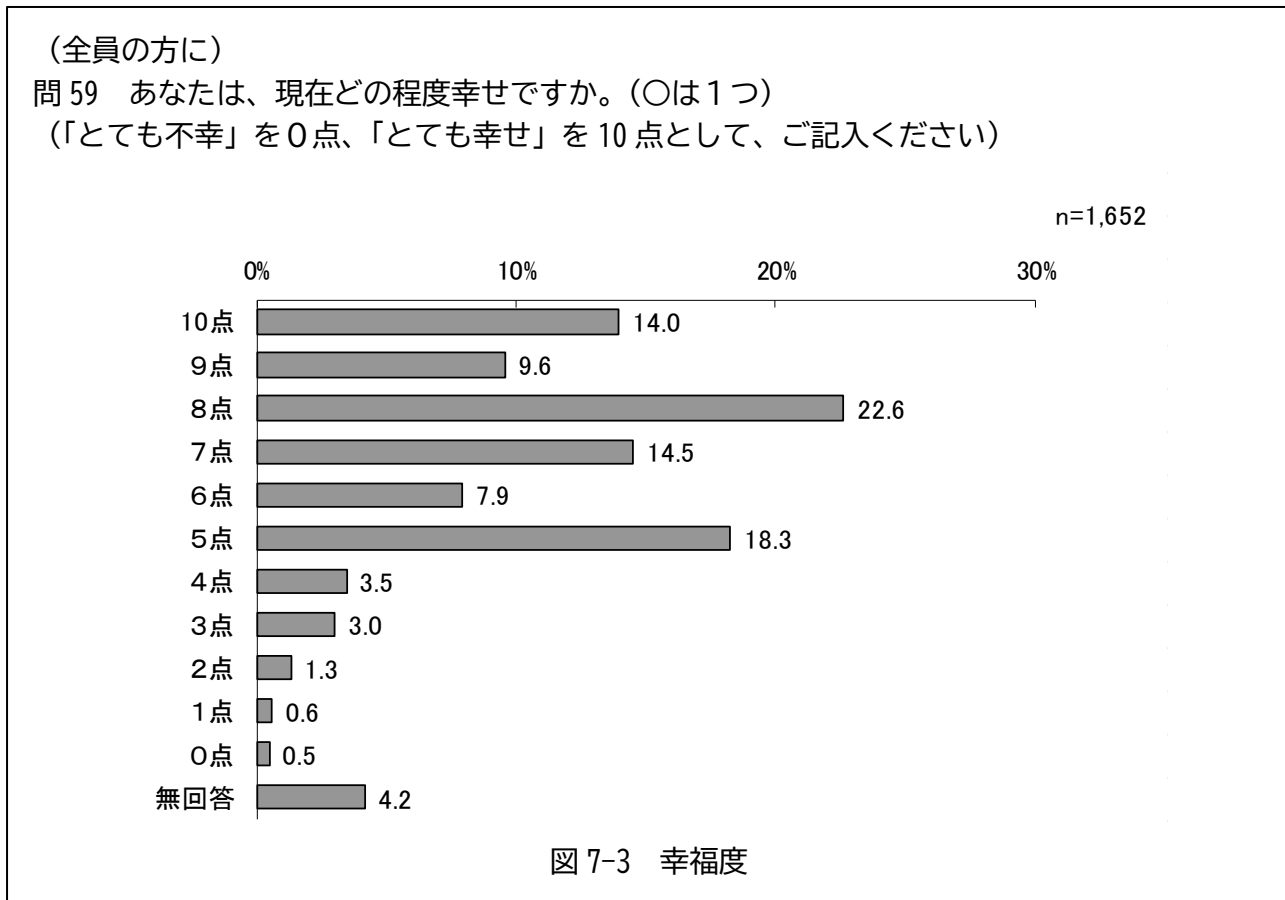
状態別では、要支援1と2で「あまりよくない」と「よくない」を合わせた<よくない>が3割台半ばとなっている。



経年比較では、大きな差異はみられない。

7.2. 幸福度

◆ 「8点」が2割台前半



全体では、「8点」が2割台前半で最も高くなっている。なお、平均点（無回答除く）は7.03点となっている。

【状態別】幸福度

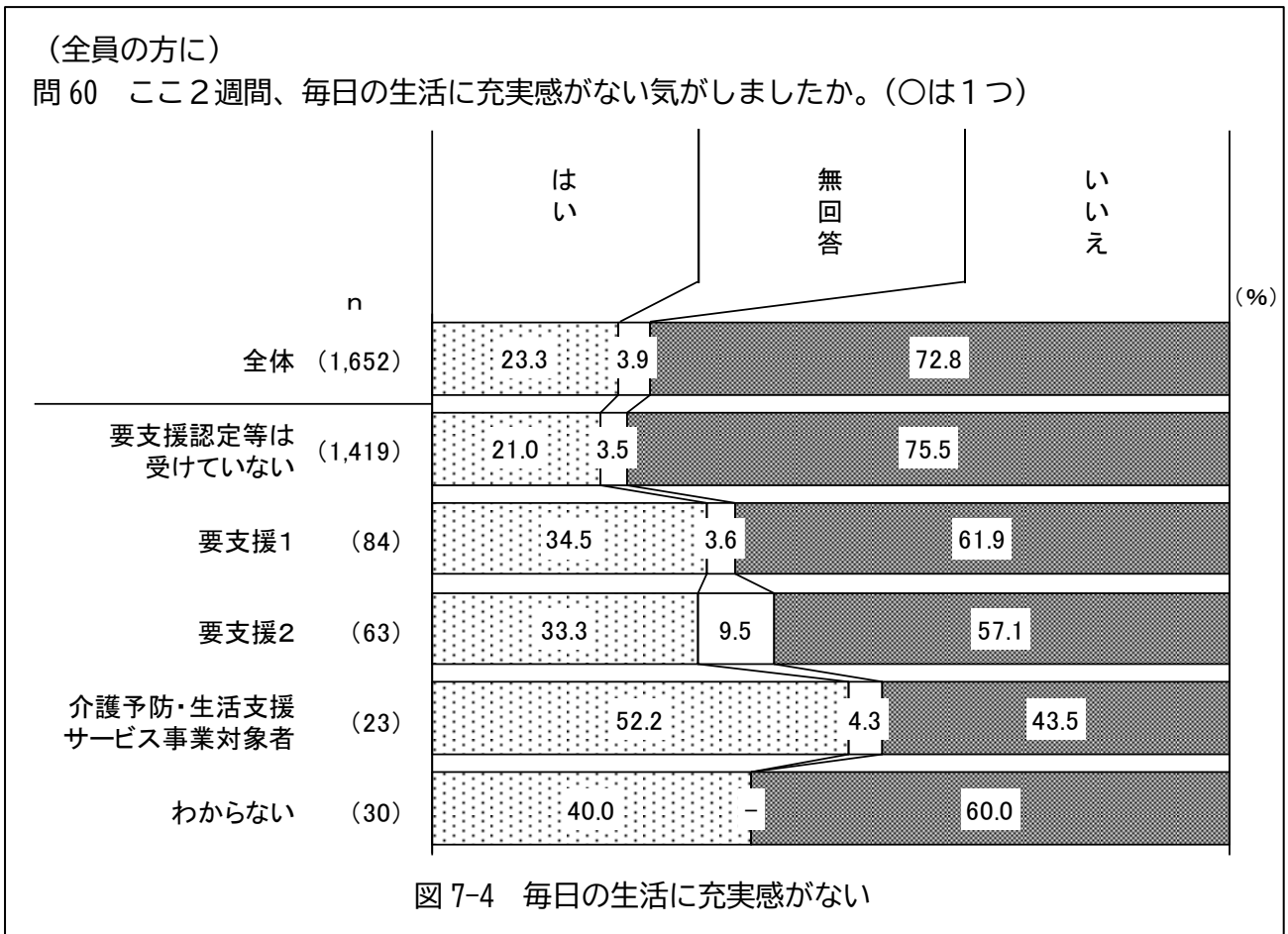
単位：%

	有効回答数(件)	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答
全体	1,652	0.5	0.6	1.3	3.0	3.5	18.3	7.9	14.5	22.6	9.6	14.0	4.2
要支援認定等は受けていない	1,419	0.3	0.3	1.3	3.0	3.3	17.1	7.9	14.4	23.7	10.3	14.7	3.6
要支援1	84	1.2	0.0	1.2	1.2	4.8	22.6	7.1	20.2	20.2	7.1	9.5	4.8
要支援2	63	0.0	3.2	3.2	3.2	3.2	30.2	4.8	11.1	7.9	7.9	12.7	12.7
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	0.0	8.7	0.0	4.3	4.3	39.1	13.0	4.3	13.0	0.0	8.7	4.3
わからない	30	3.3	6.7	0.0	10.0	6.7	30.0	13.3	10.0	13.3	3.3	3.3	0.0

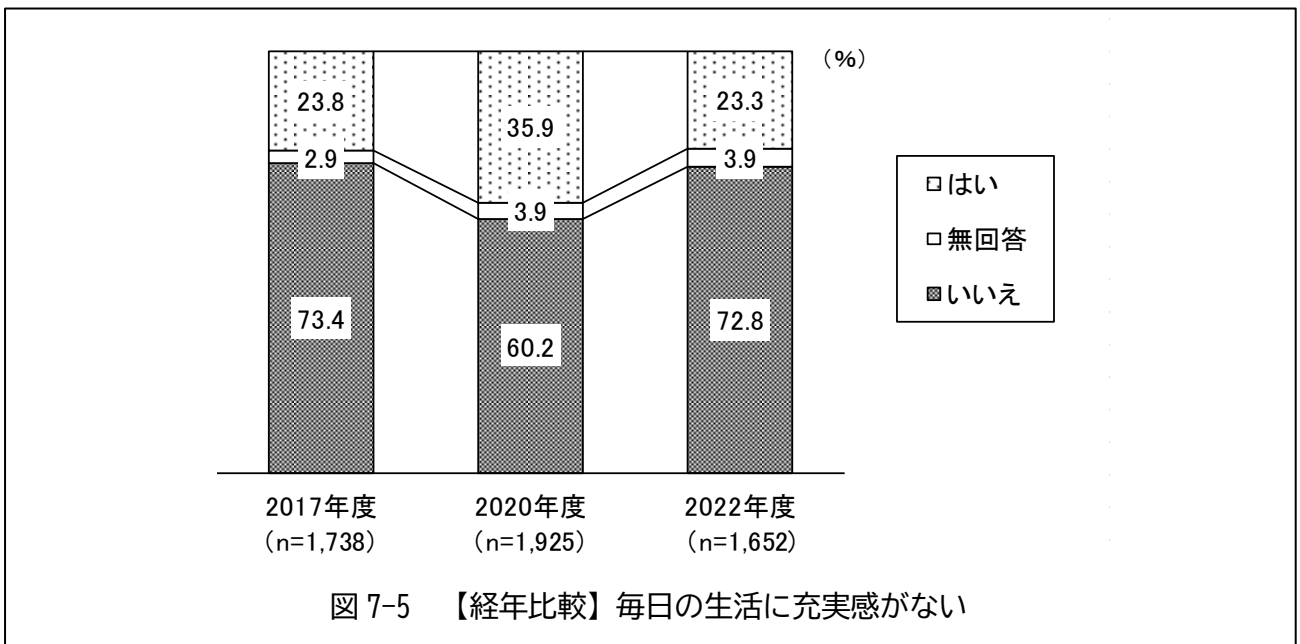
状態別では、要支援及び介護予防・生活支援サービス事業対象者で「5点」が最も高くなっている。なお、平均点（無回答除く）は、要支援認定等は受けていない人では7.14点、要支援1では6.76点、要支援2では6.31点、介護予防・生活支援サービス事業対象者では5.59点となっている。

7.3. 毎日の生活に充実感がない

◆ 「いいえ」が7割前半



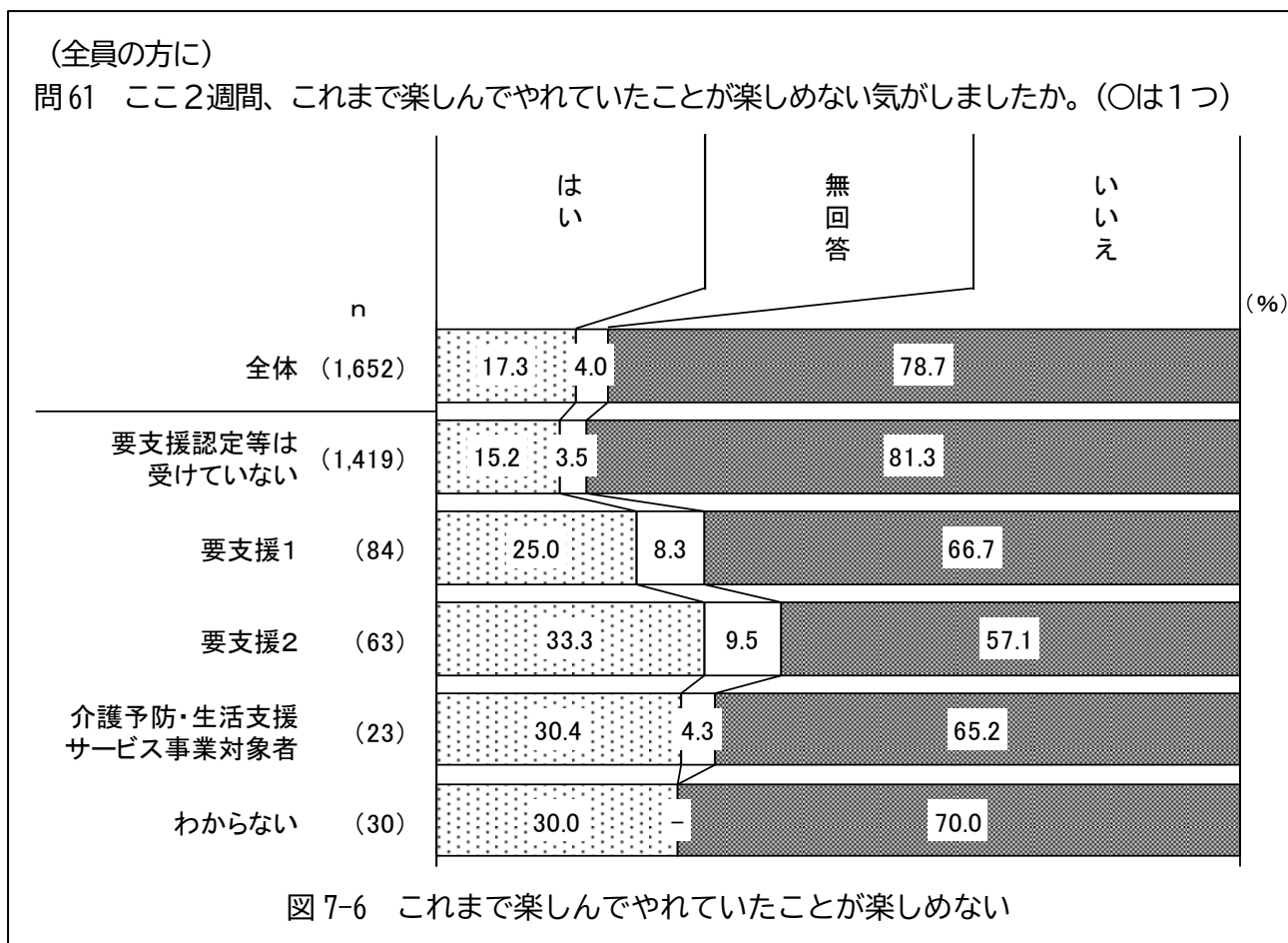
全体では、「いいえ」が7割前半を占めている。  
状態別では、介護予防・生活支援サービス事業対象者で「はい」が5割前半を占めている。



経年比較では、2020年度と比べて「いいえ」が12.6ポイント増加している。  
2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言が出されていた期間及び外出自粛を行っていた期間における調査であったため、その影響がうかがえる。

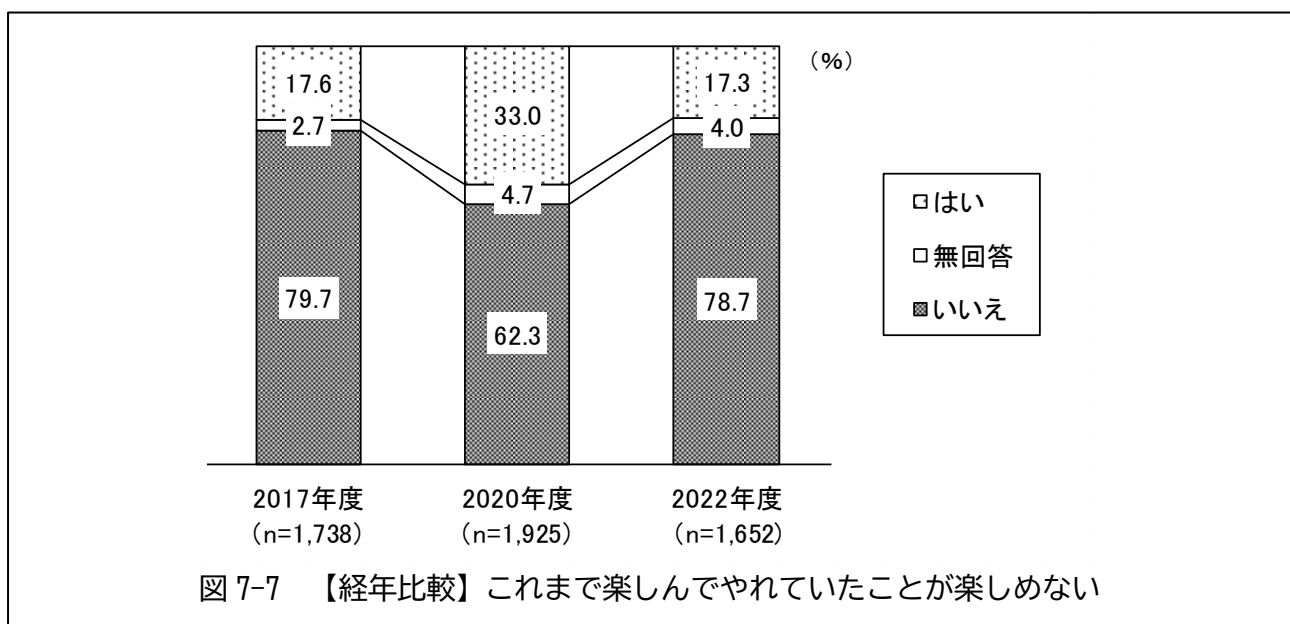
7.4. これまで楽しんでやれていたことが楽しめない

◆ 「いいえ」が7割台後半



全体では、「いいえ」が7割台後半を占めている。

状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「はい」が段階的に高くなっている。



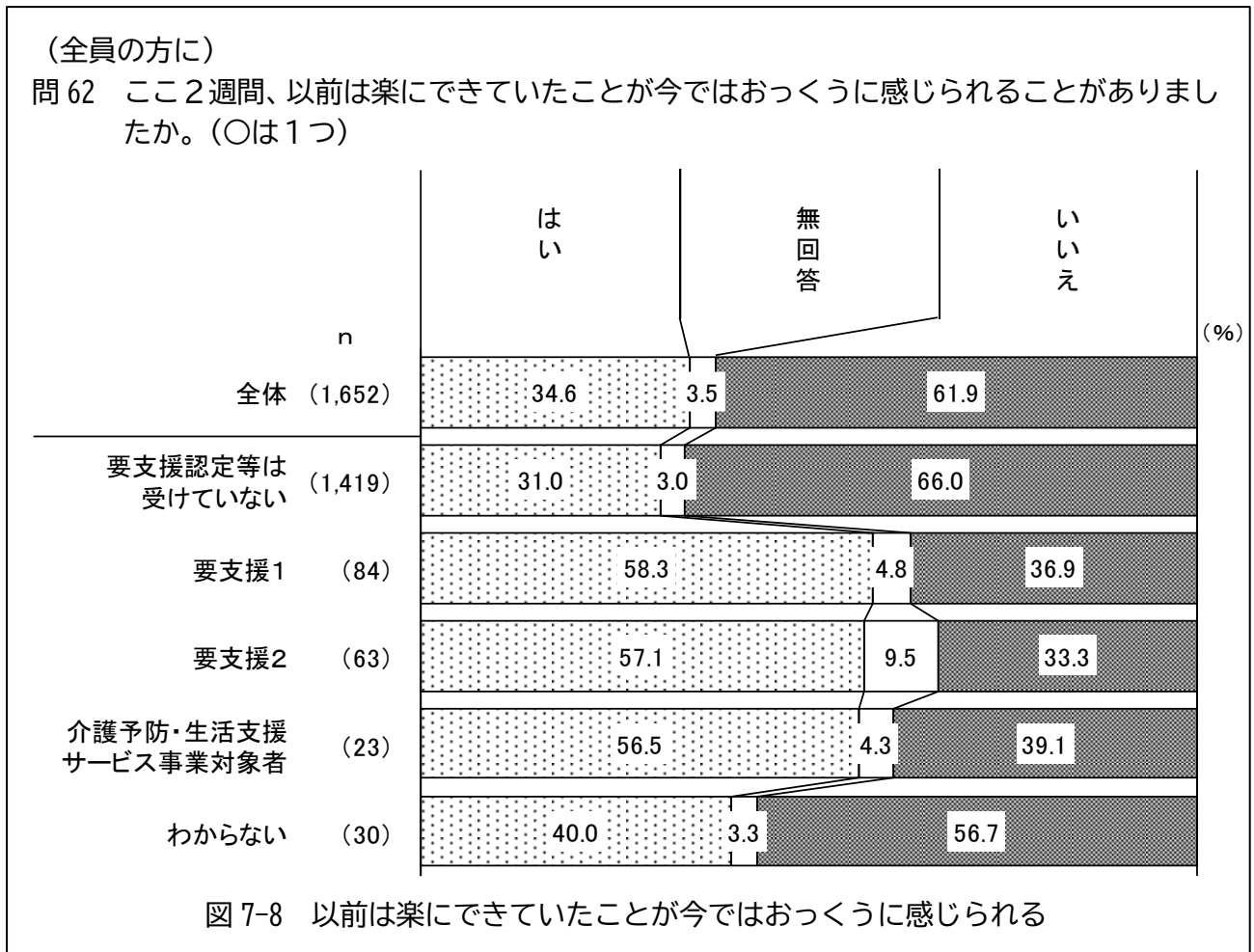
経年比較では、2020年度と比べて「いいえ」が16.4ポイント増加している。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言が出されていた期間及び外出自粛を行っていた期間における調査であったため、その影響がうかがえる。



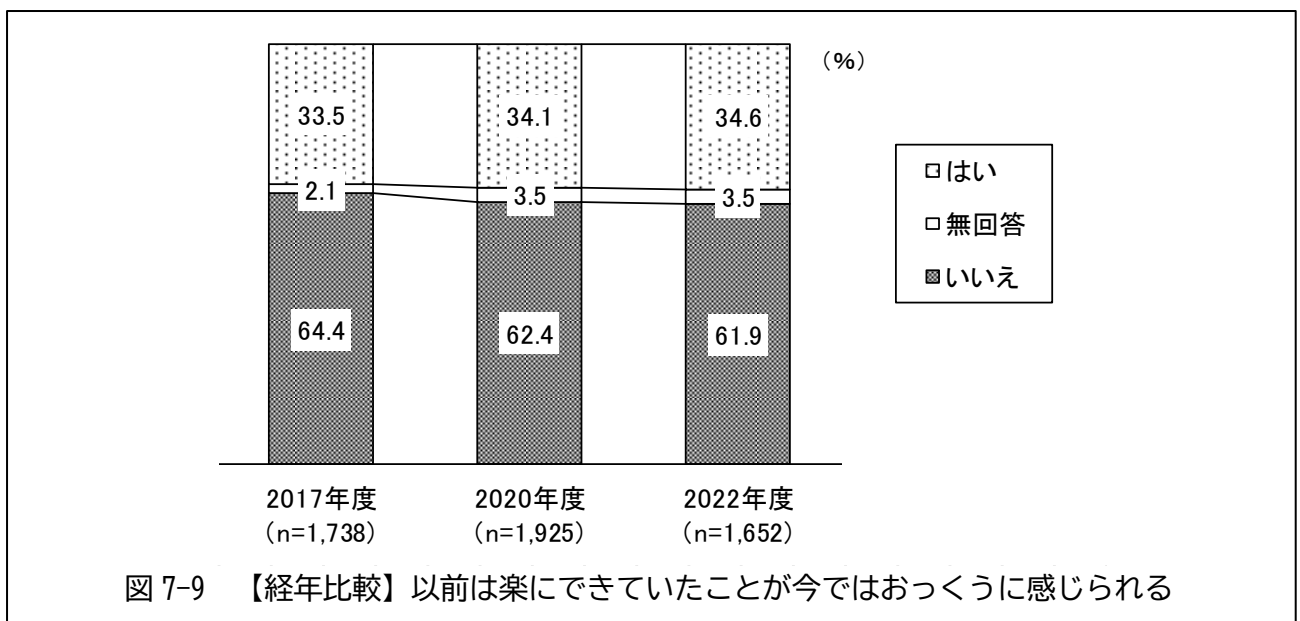
7.5. 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる

◆ 「いいえ」が約6割



全体では、「いいえ」が約6割を占めている。

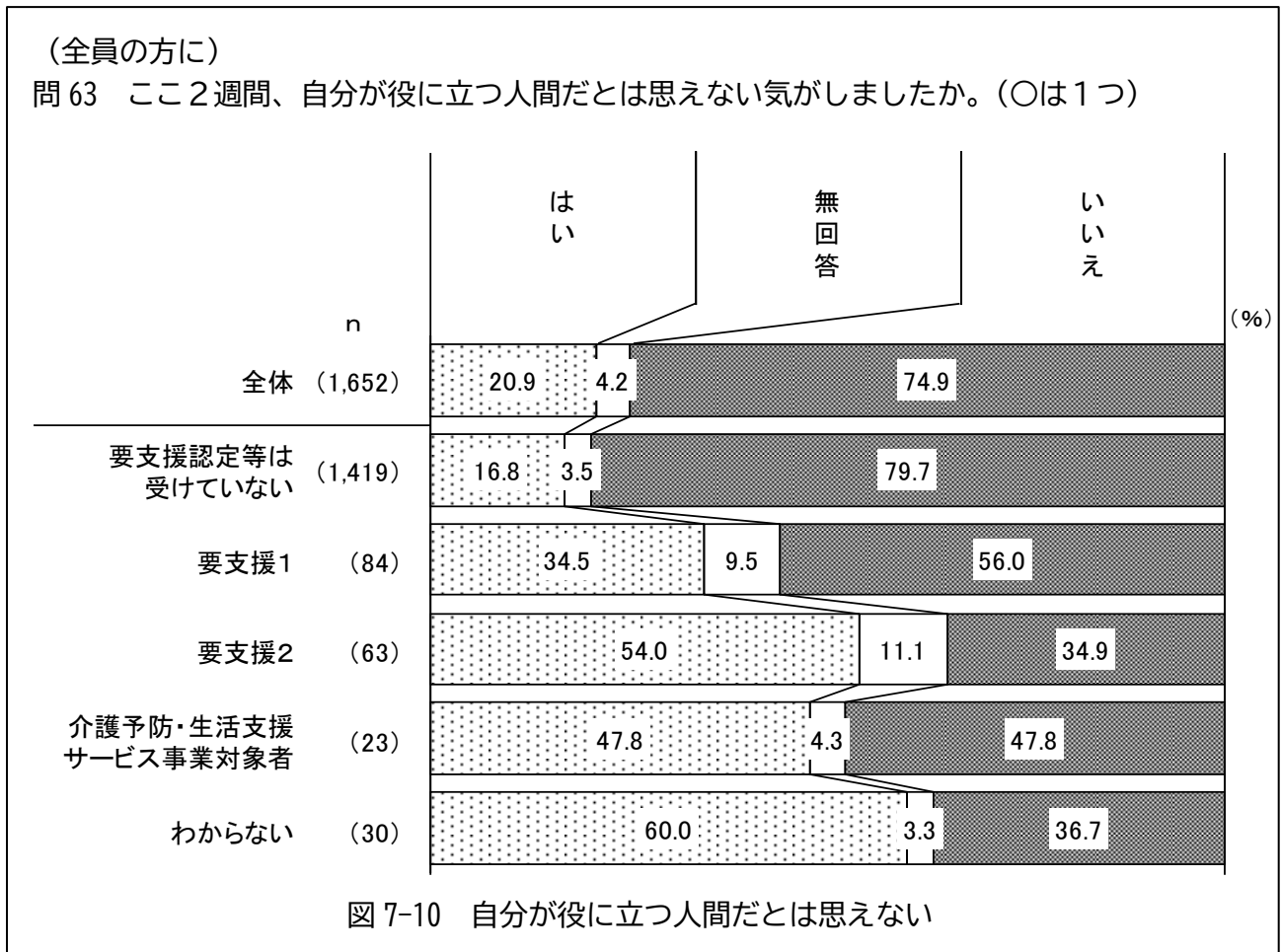
状態別では、要支援1・2及び介護予防・生活支援サービス事業対象者で「はい」が過半数を占めている。



経年比較では、大きな差異はみられない。

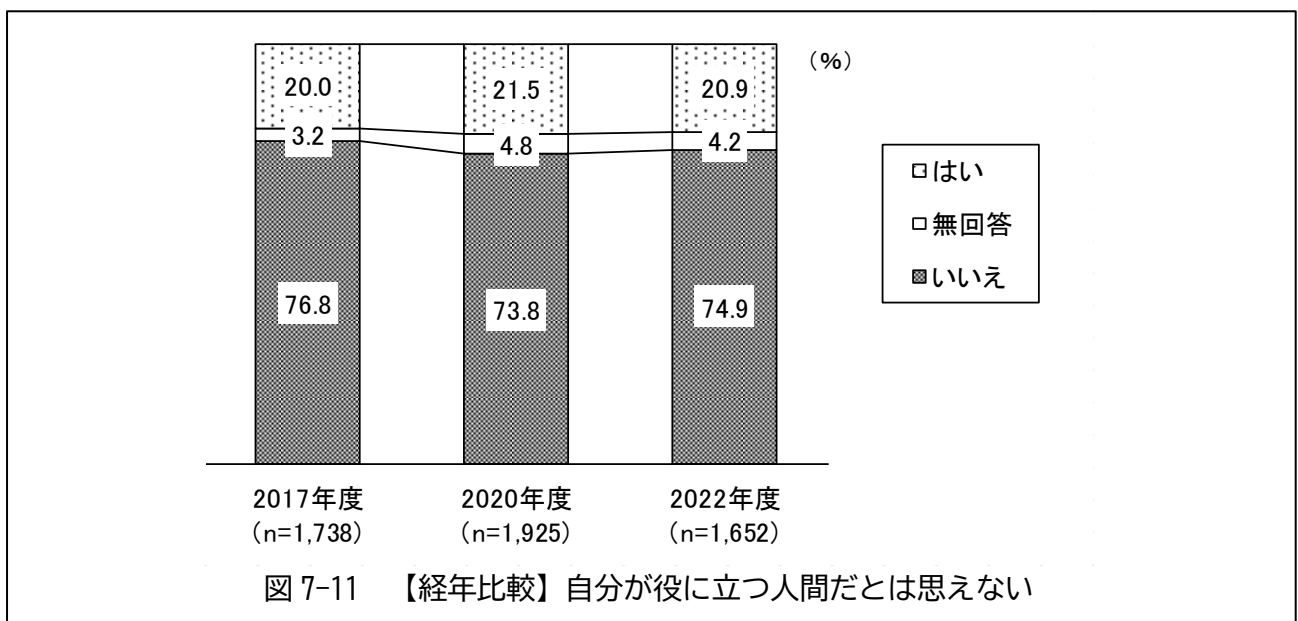
7.6. 自分が役に立つ人間だとは思えない

◆ 「いいえ」が7割台半ば



全体では、「いいえ」が7割台半ばを占めている。

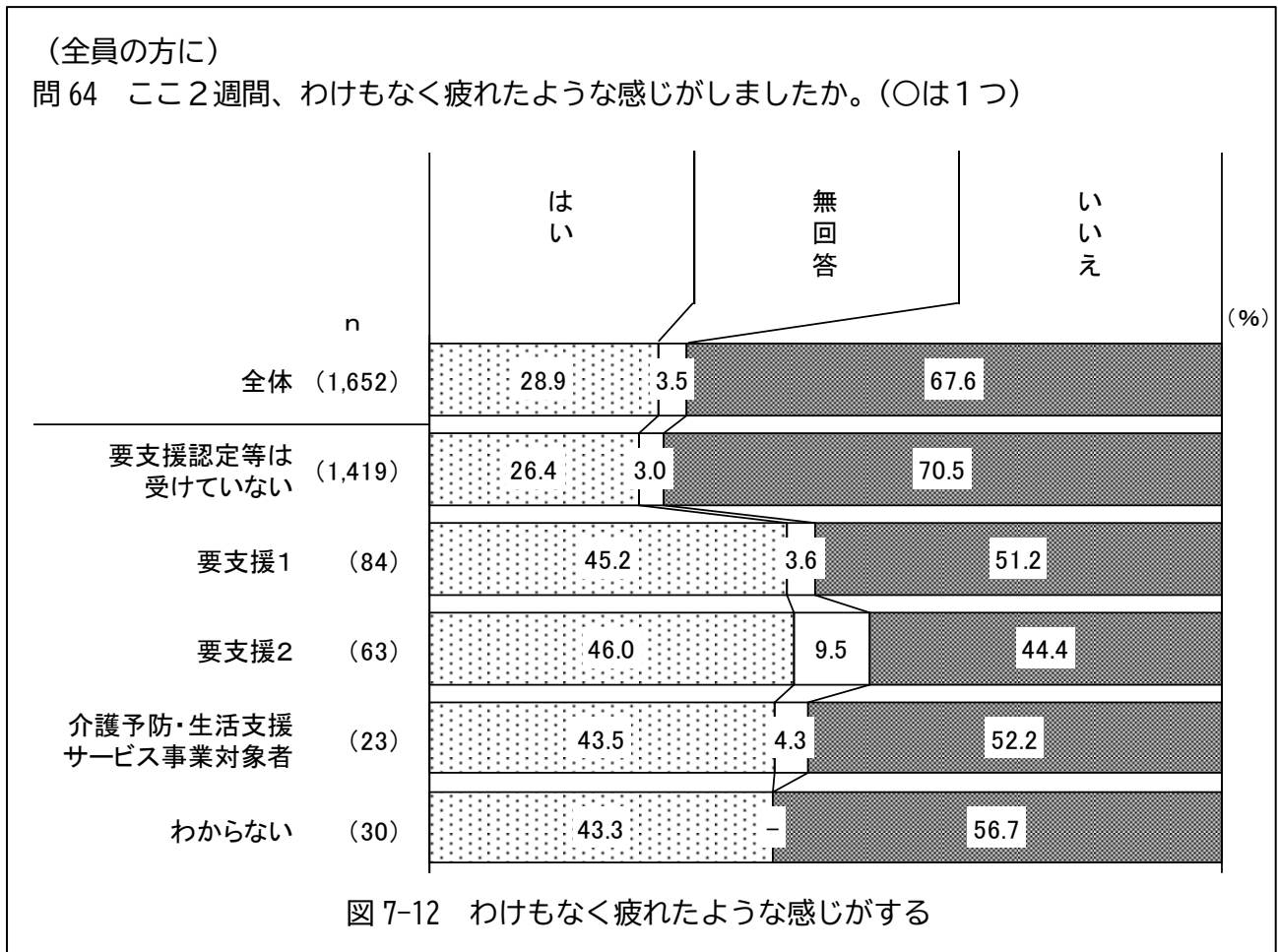
状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「はい」が段階的に高くなっており、要支援2では5割台半ばを占めている。



経年比較では、大きな差異はみられない。

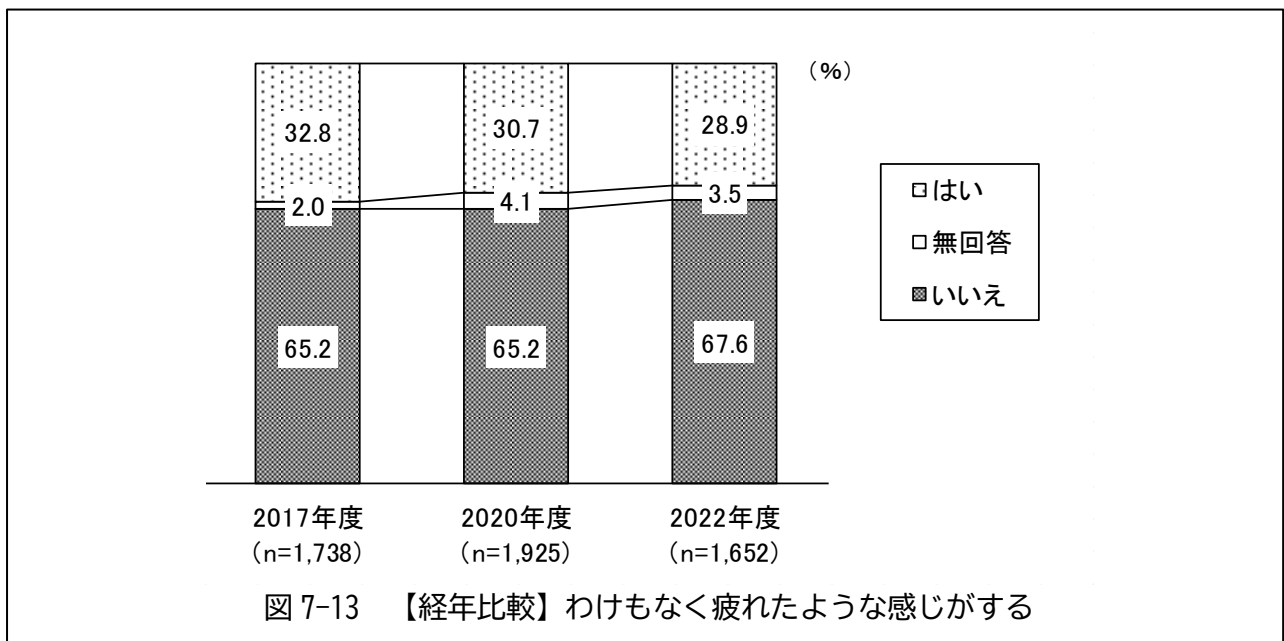
7.7. わけもなく疲れたような感じがする

◆ 「いいえ」が6割台後半



全体では、「いいえ」が6割台後半を占めている。

状態別では、要支援1・2及び介護予防・生活支援サービス事業対象者で「はい」が4割台となっている。



経年比較では、大きな差異はみられない。

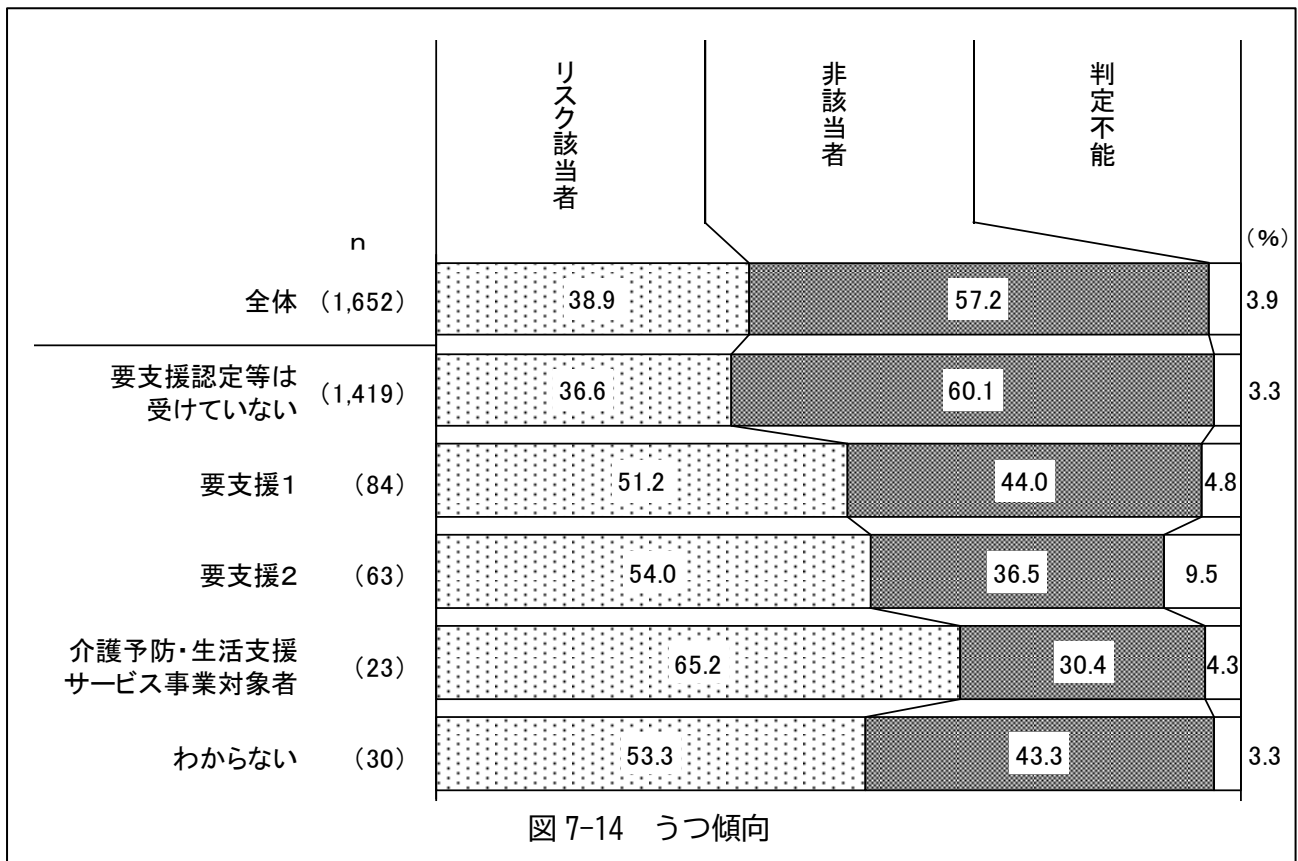
7.8. 機能評価

7.8.1. うつ傾向

◇以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつ傾向のリスク該当者と判定した。

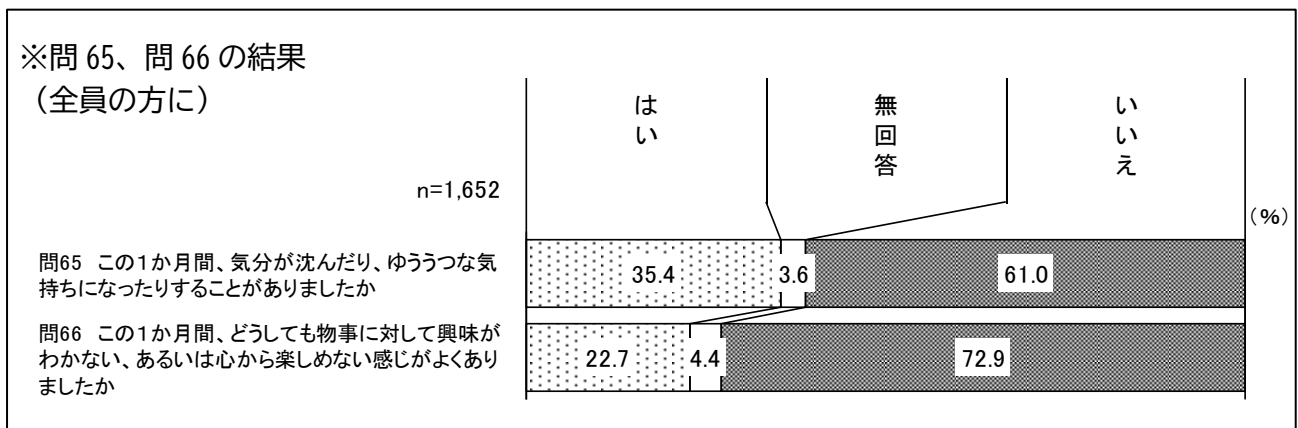
問番号	設問	該当する選択肢
問 65	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい
問 66	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい

◆ うつ傾向のリスク該当者は3割台後半



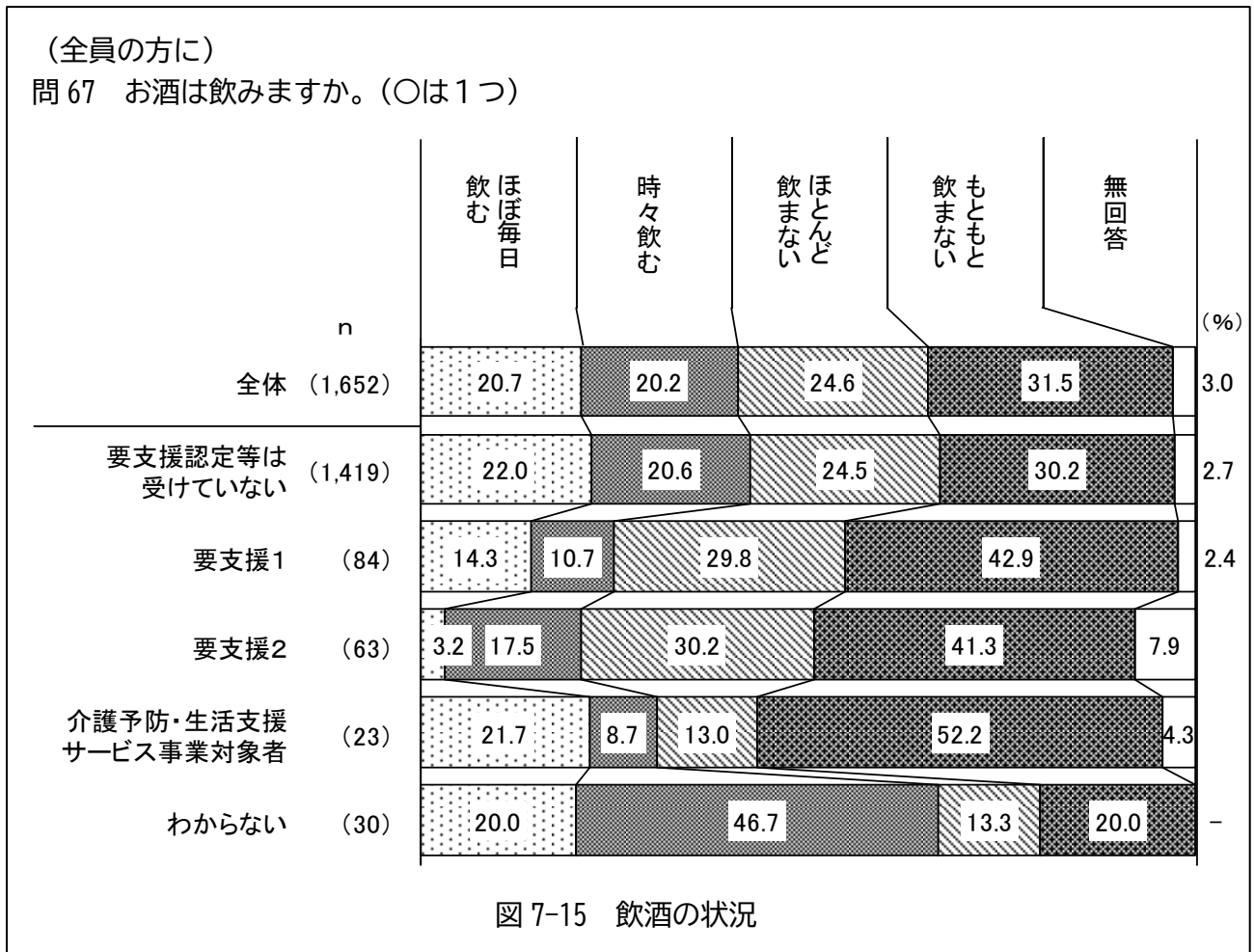
全体では、うつ傾向のリスク該当者は3割台後半となっている。

状態別では、リスク該当者の割合は、要支援1で約5割、要支援2で5割台半ば、介護予防・生活支援サービス事業対象者で6割台半ばとなっている。



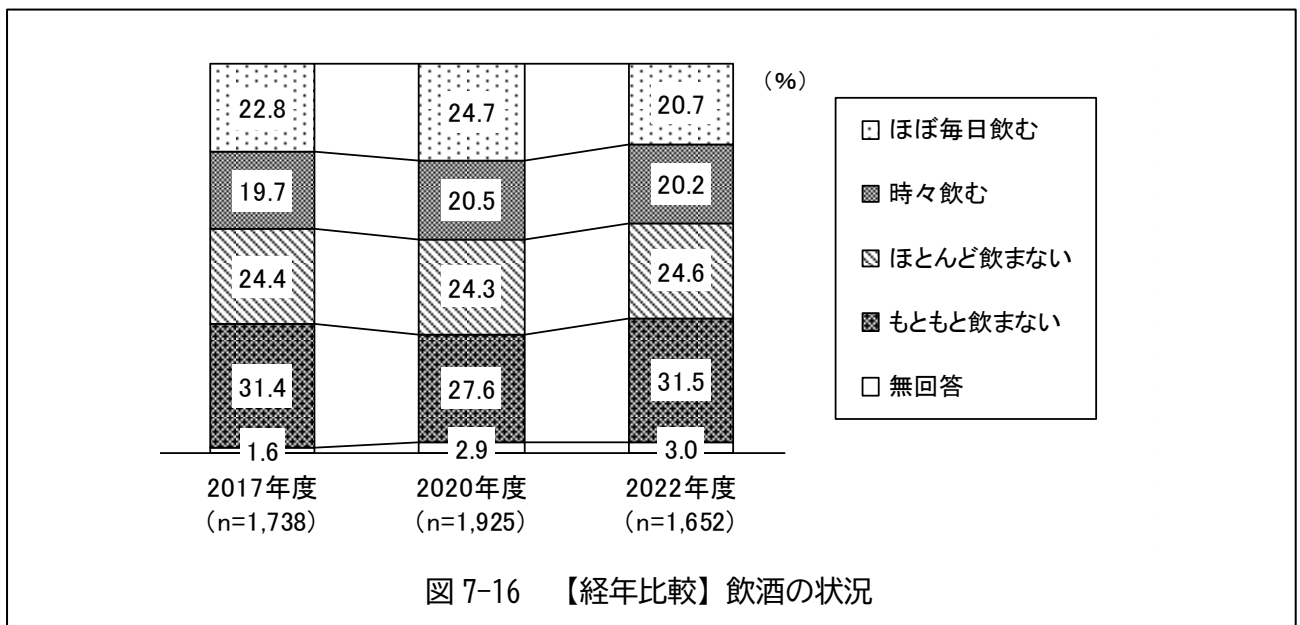
7.9. 飲酒の状況

◆ 「もともと飲まない」が約3割



飲酒の頻度は、「もともと飲まない」が約3割で最も高くなっている。

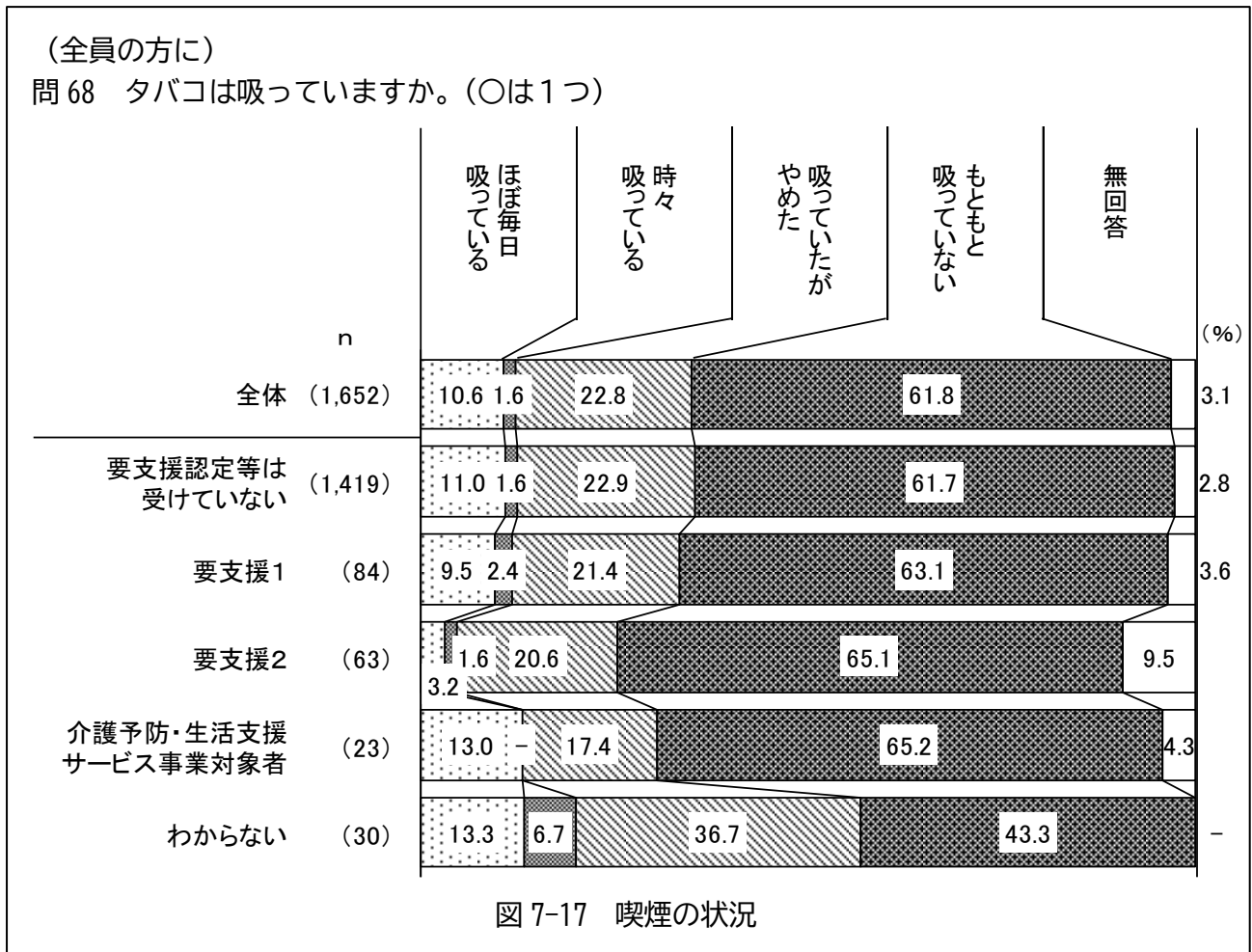
状態別では、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって、「もともと飲まない」が段階的に高くなっている。



経年比較では、2020年度と比べて「もともと飲まない」が3.9ポイント増加している。

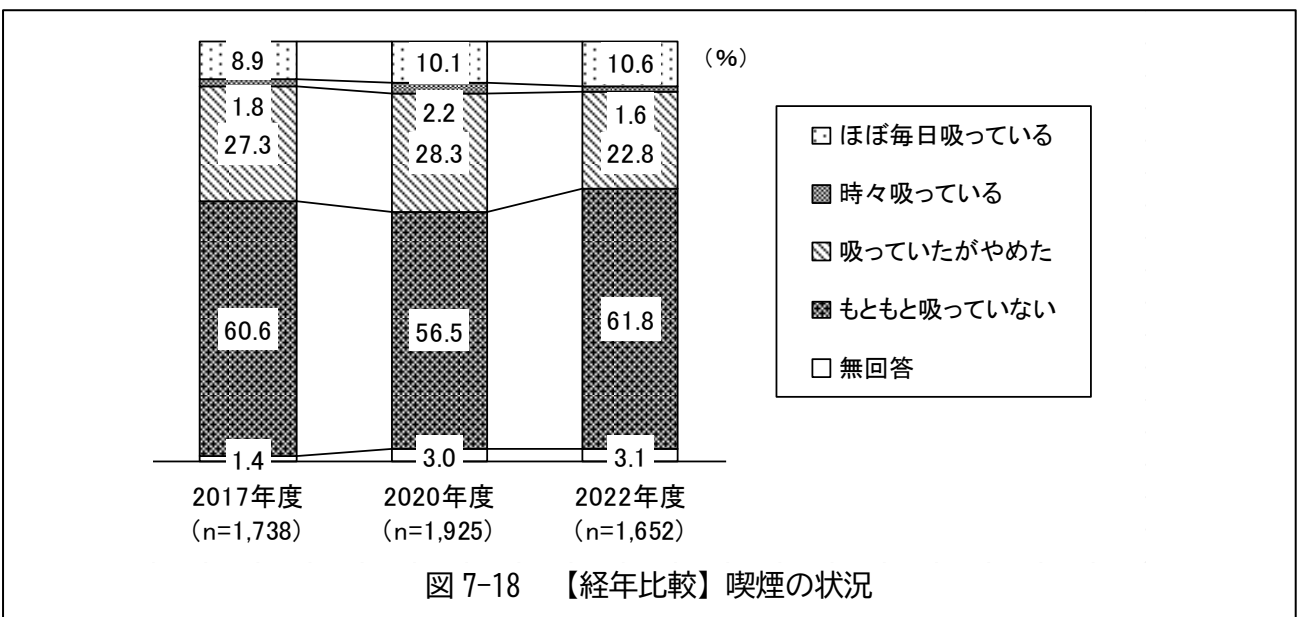
7.10. 喫煙の状況

◆ 「もともと吸っていない」が約6割



喫煙の頻度は、「もともと吸っていない」が約6割を占めている。

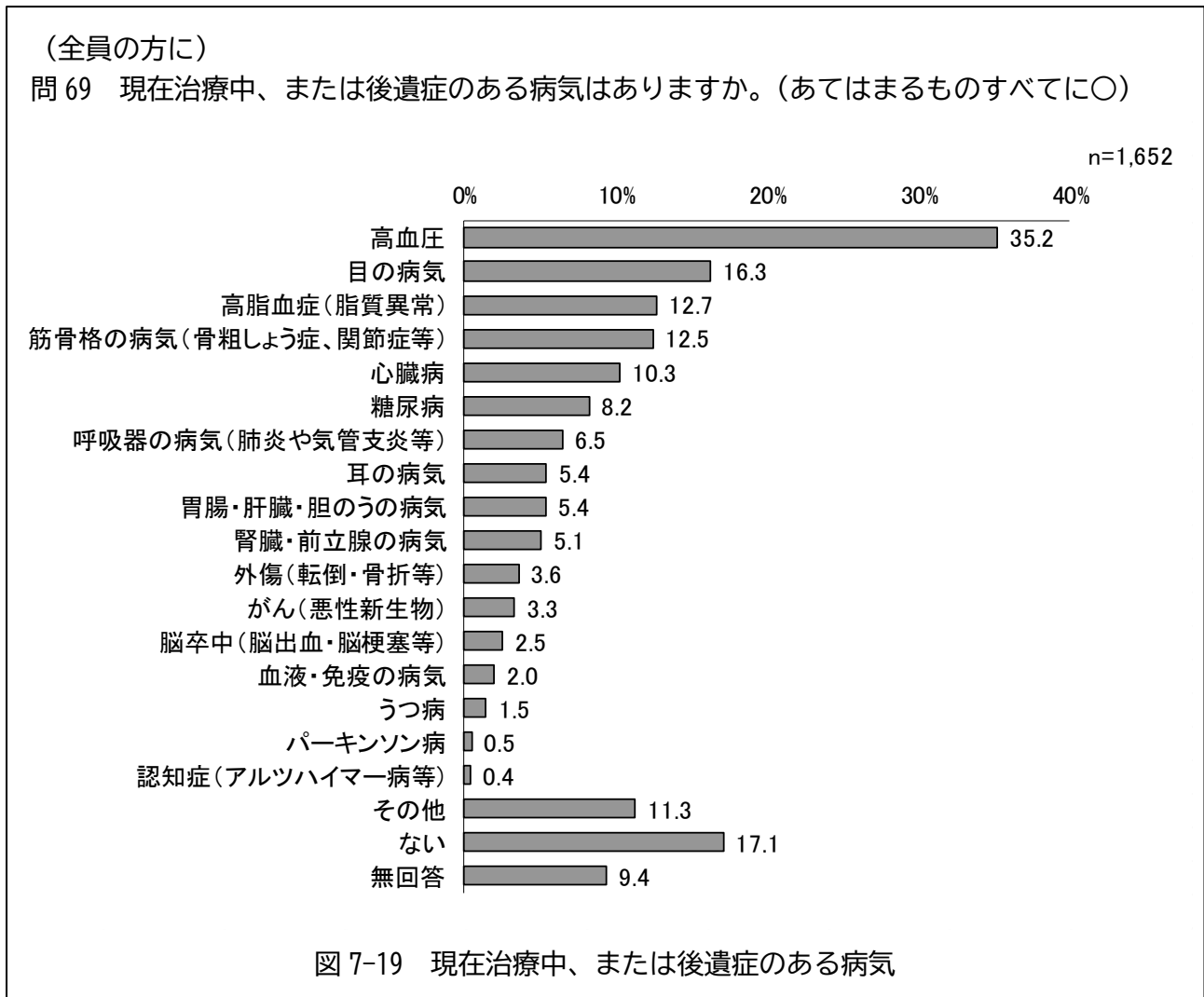
状態別では、要支援2と介護予防・生活支援サービス事業対象者で「もともと吸っていない」が6割台半ばとなっている。



経年比較では、2020年度と比べて「もともと吸っていない」が5.3ポイント増加している。

7.11. 現在治療中、または後遺症のある病気

◆ 「高血圧」が3割台半ば



全体では、「高血圧」が3割台半ばで最も高くなっている。

【状態別】現在治療中、または後遺症のある病気

単位：％

	有効回答数(件)	高血圧	目の病気	高脂血症(脂質異常)	筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	心臓病	糖尿病	呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	耳の病気	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気
全体	1,652	35.2	16.3	12.7	12.5	10.3	8.2	6.5	5.4	5.4	5.1
要支援認定等は受けていない	1,419	33.1	15.6	13.4	11.2	8.5	7.3	6.3	4.8	4.8	4.3
要支援1	84	47.6	17.9	16.7	28.6	31.0	13.1	8.3	11.9	7.1	14.3
要支援2	63	50.8	23.8	4.8	22.2	19.0	15.9	9.5	7.9	7.9	6.3
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	52.2	30.4	4.3	17.4	13.0	8.7	8.7	4.3	17.4	13.0
わからない	30	50.0	23.3	3.3	0.0	16.7	16.7	6.7	13.3	10.0	6.7

	有効回答数(件)	外傷(転倒・骨折等)	がん(悪性新生物)	脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	血液・免疫の病気	うつ病	パーキンソン病	認知症(アルツハイマー病等)	その他	ない	無回答
全体	1,652	3.6	3.3	2.5	2.0	1.5	0.5	0.4	11.3	17.1	9.4
要支援認定等は受けていない	1,419	2.6	3.3	1.8	1.8	1.3	0.3	0.3	11.4	19.2	9.4
要支援1	84	14.3	3.6	6.0	2.4	3.6	0.0	2.4	14.3	7.1	7.1
要支援2	63	9.5	3.2	7.9	6.3	1.6	1.6	0.0	7.9	0.0	11.1
介護予防・生活支援サービス事業対象者	23	4.3	8.7	8.7	0.0	4.3	8.7	0.0	17.4	0.0	4.3
わからない	30	6.7	3.3	6.7	0.0	3.3	0.0	3.3	10.0	3.3	13.3

状態別では、いずれも「高血圧」が最も高くなっている。

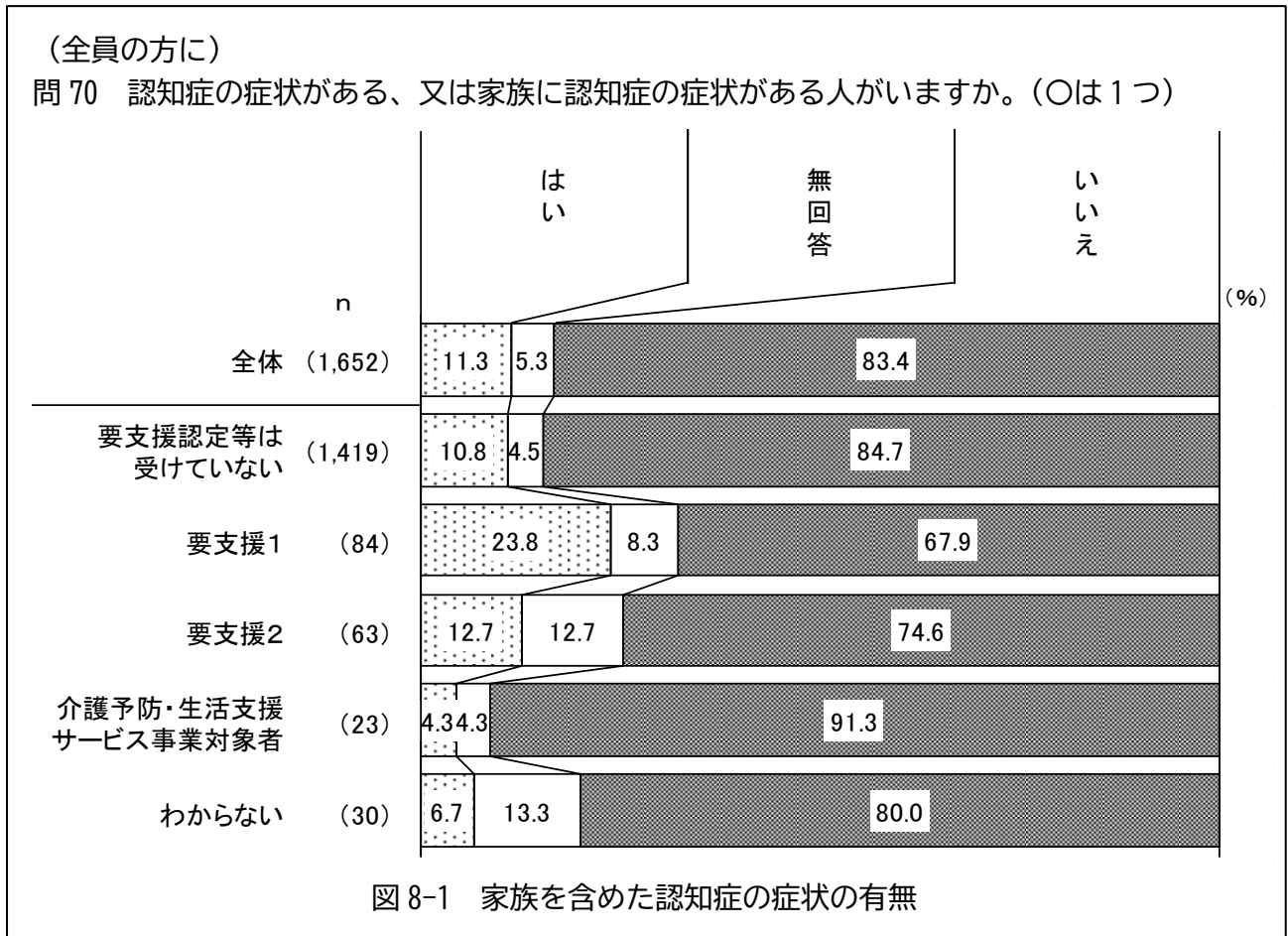
また、「高血圧」と「目の病気」は、要支援認定等を受けていない人から要支援2に向かって段階的に高くなっている。



## 8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

### 8.1. 家族を含めた認知症の症状の有無

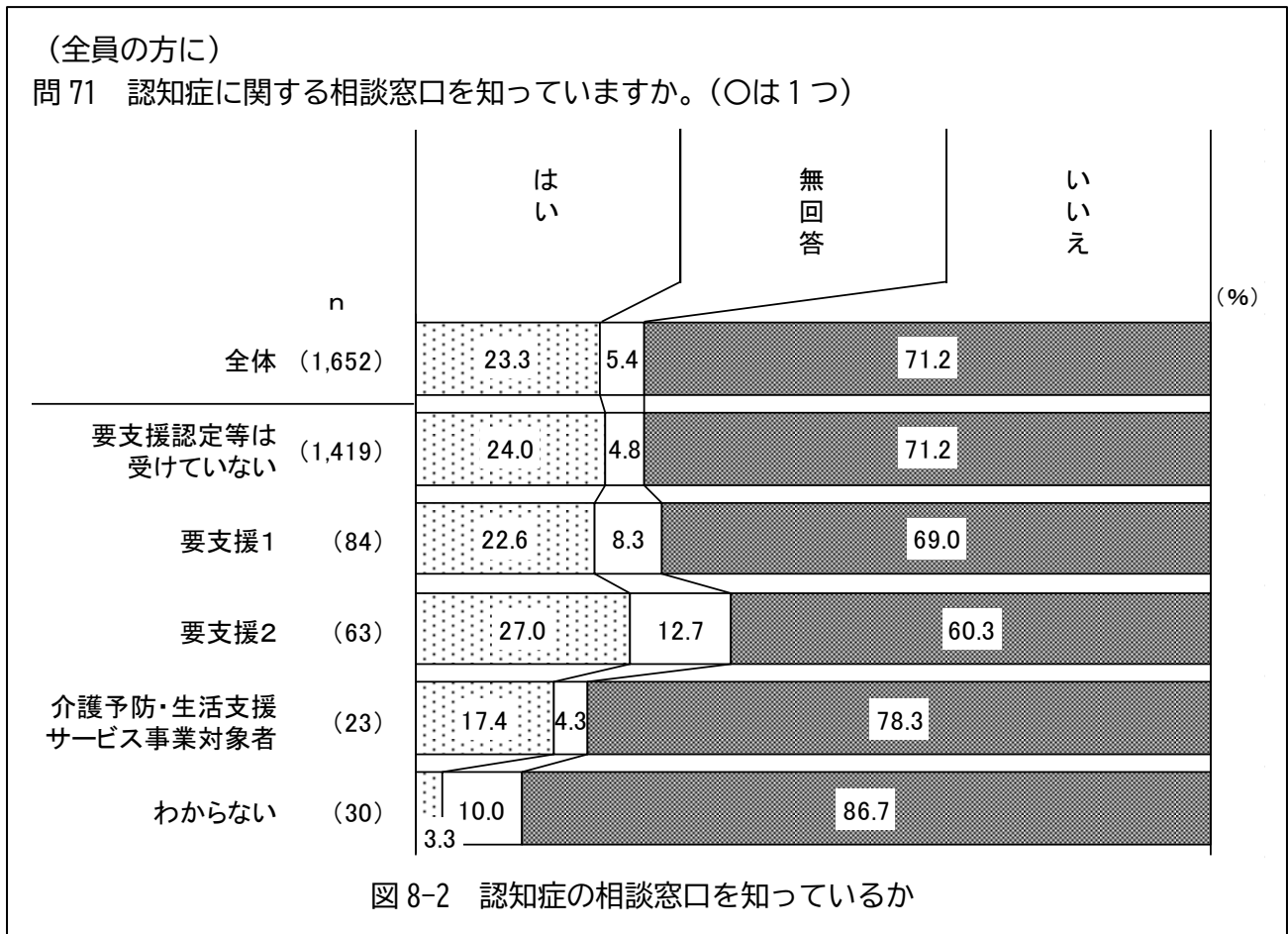
#### ◆ 「いいえ」が8割台前半



全体では、「いいえ」が8割台前半を占めている。  
状態別では、要支援1で「はい」が高く、2割台前半となっている。

8.2. 認知症の相談窓口を知っているか

◆ 「いいえ」が約7割



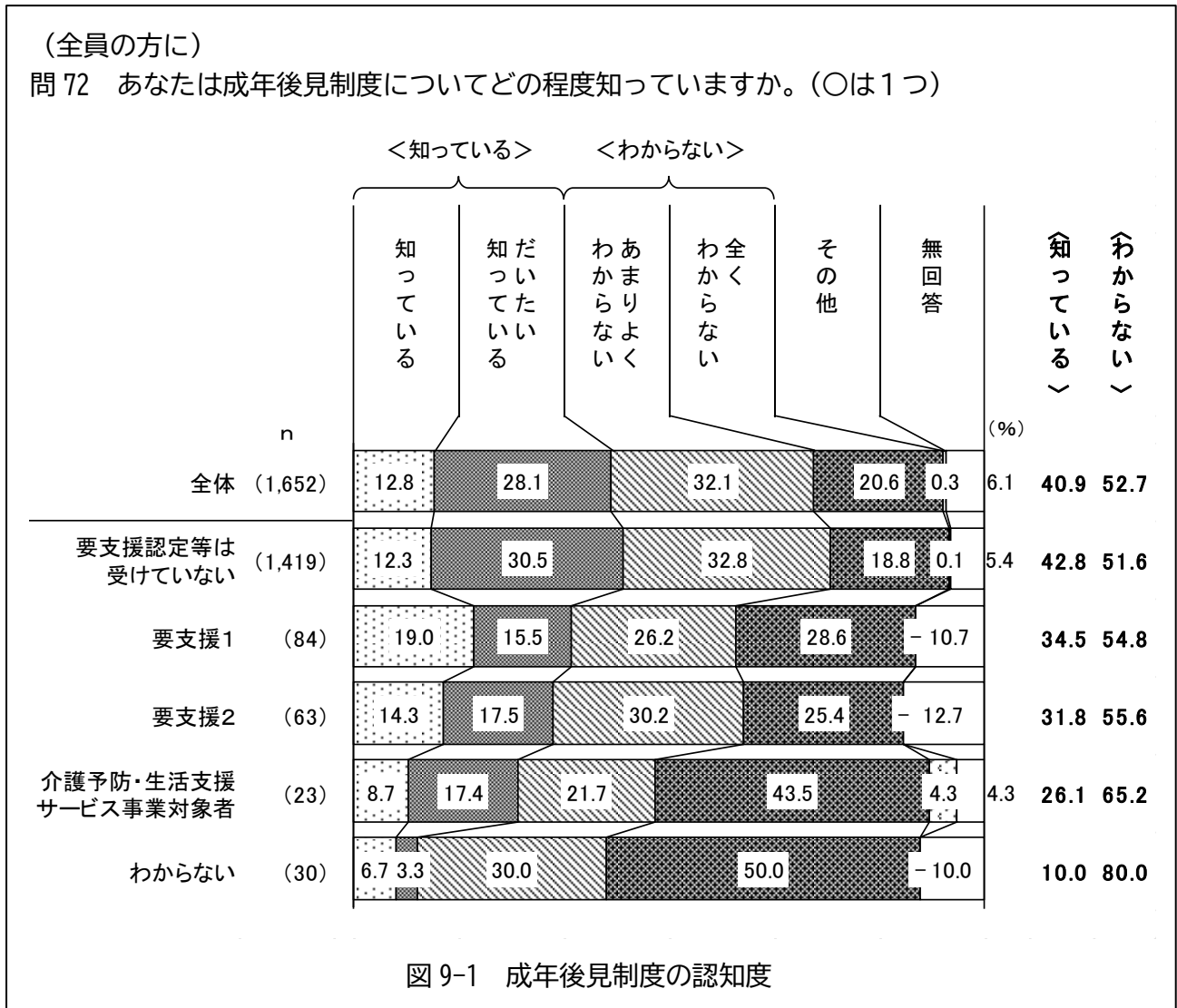
全体では、「いいえ」が約7割を占めている。

状態別では、介護予防・生活支援サービス事業対象者で「はい」が低く、1割台後半となっている。

## 9. 成年後見制度について

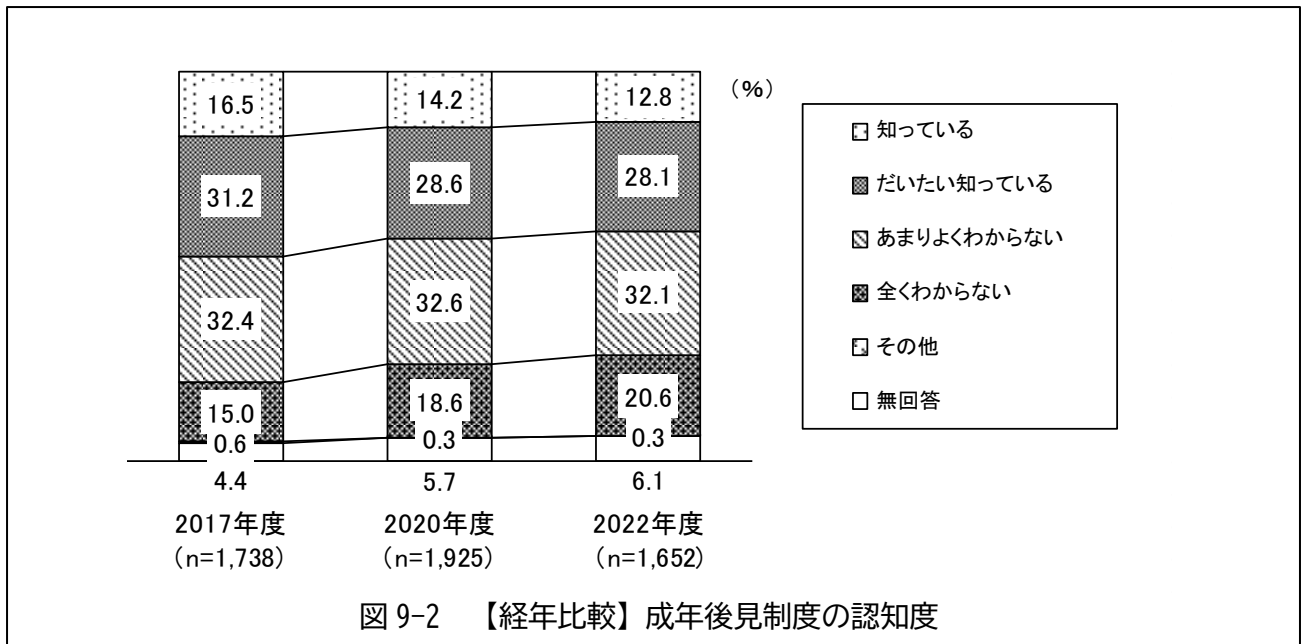
### 9.1. 成年後見制度の認知度

#### ◆ <わからない>が5割前半



全体では、「全くわからない」と「あまりよくわからない」を合わせた<わからない>が5割前半を占めている。

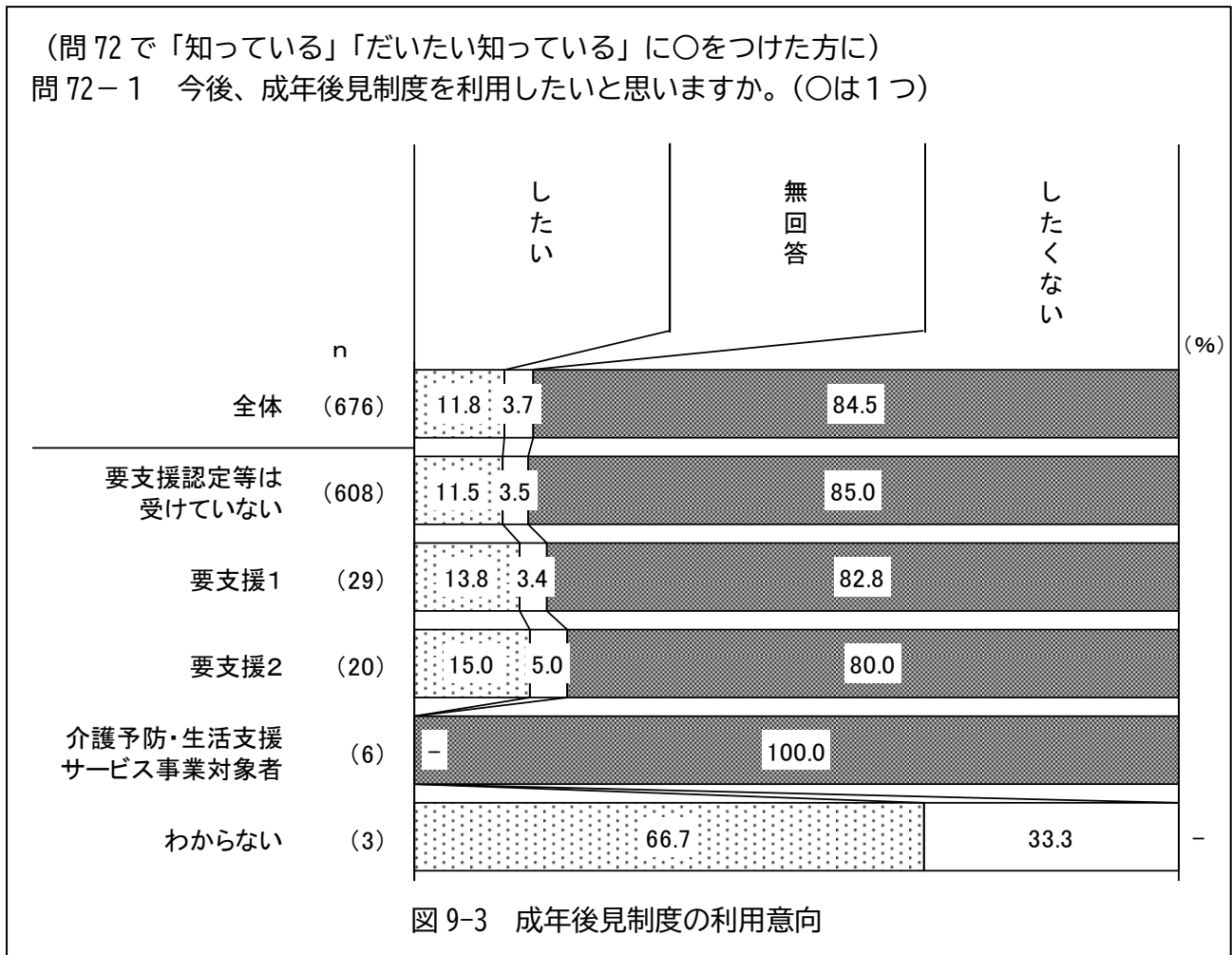
状態別では、介護予防・生活支援サービス事業対象者で<わからない>が6割半ばを占めている。



経年比較では、＜知っている＞が年々減少している。

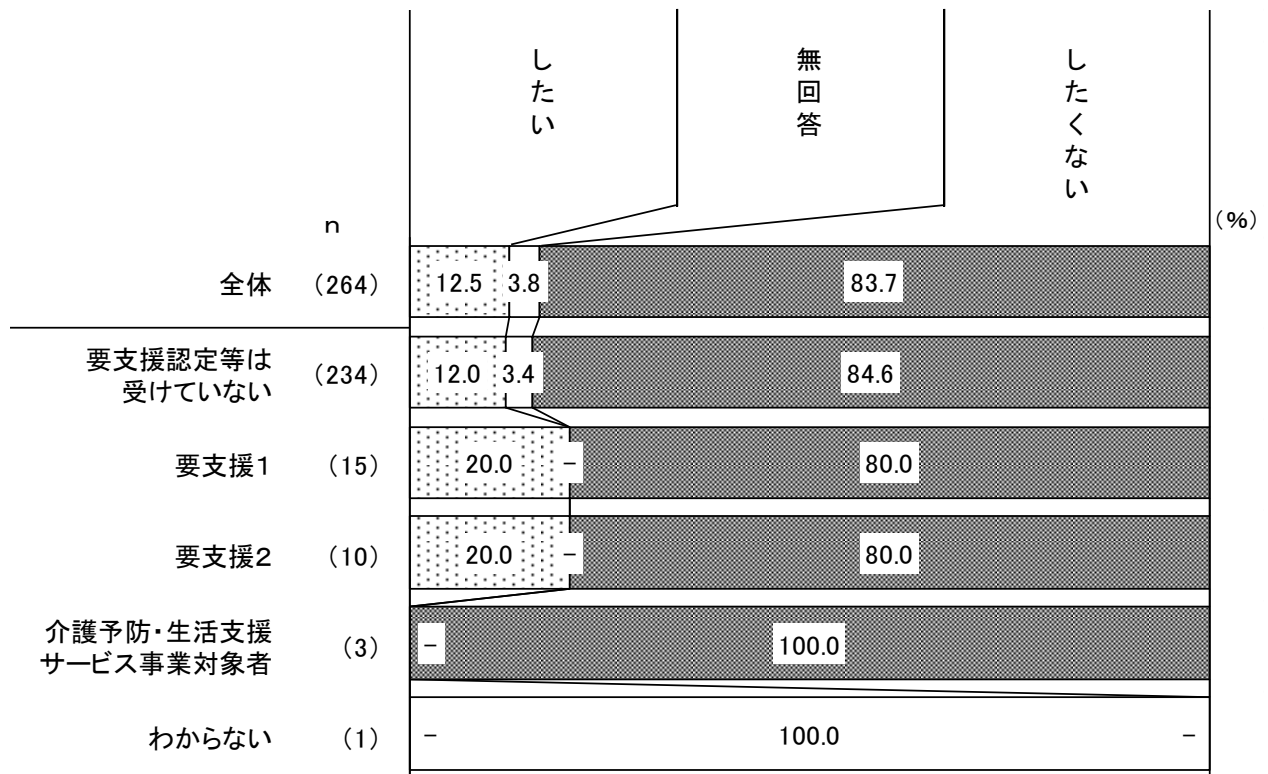
9.1.1. 成年後見制度の利用意向

◆ 「したくない」が8割台半ば

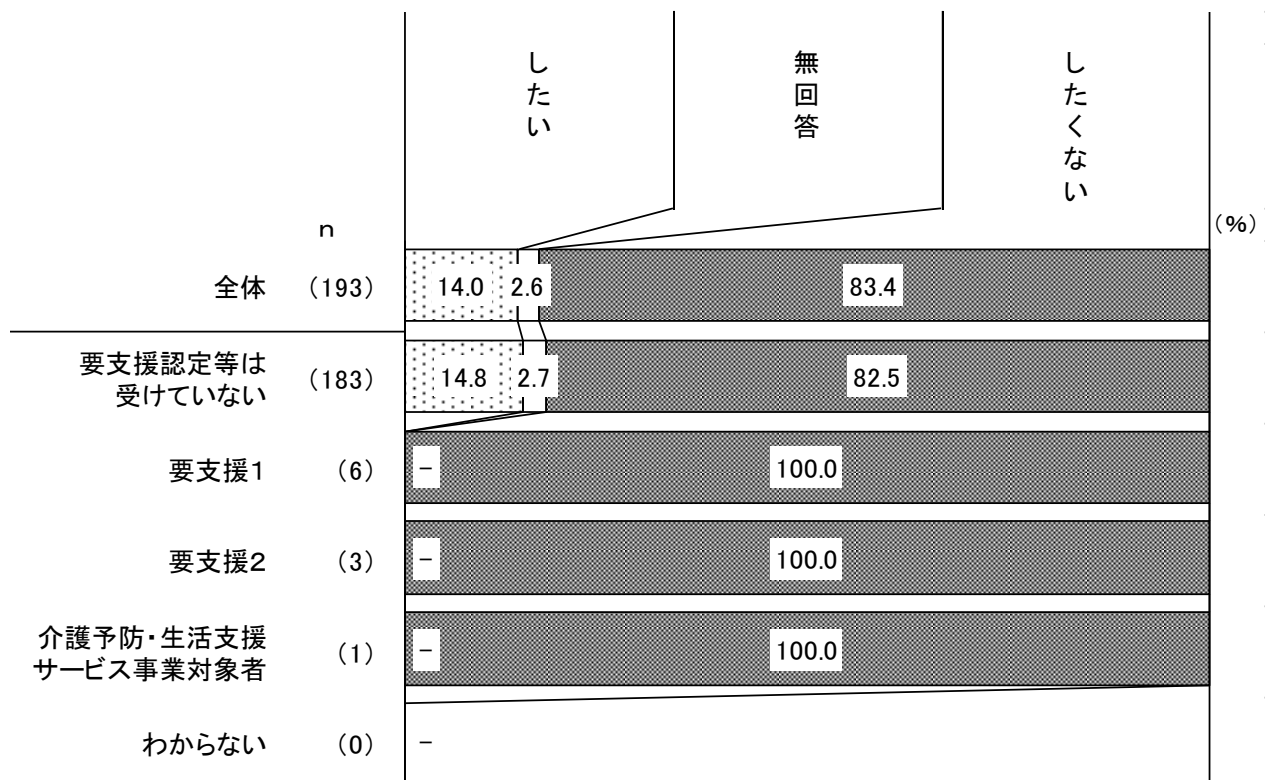


全体では、「したくない」が8割台半ばを占めている。  
 状態別では、いずれも「したくない」が大半を占めている。

【状態別（1人暮らし）】成年後見制度の利用意向



【状態別（夫婦2人暮らし）】成年後見制度の利用意向



9.1.2. 成年後見制度を利用したくない理由

◆ 「後見人でなくても家族がいるから」が8割台前半

(問72-1で「したくない」に○をつけた方に)  
問72-2 利用したくない理由をおしえてください。(○は2つ)

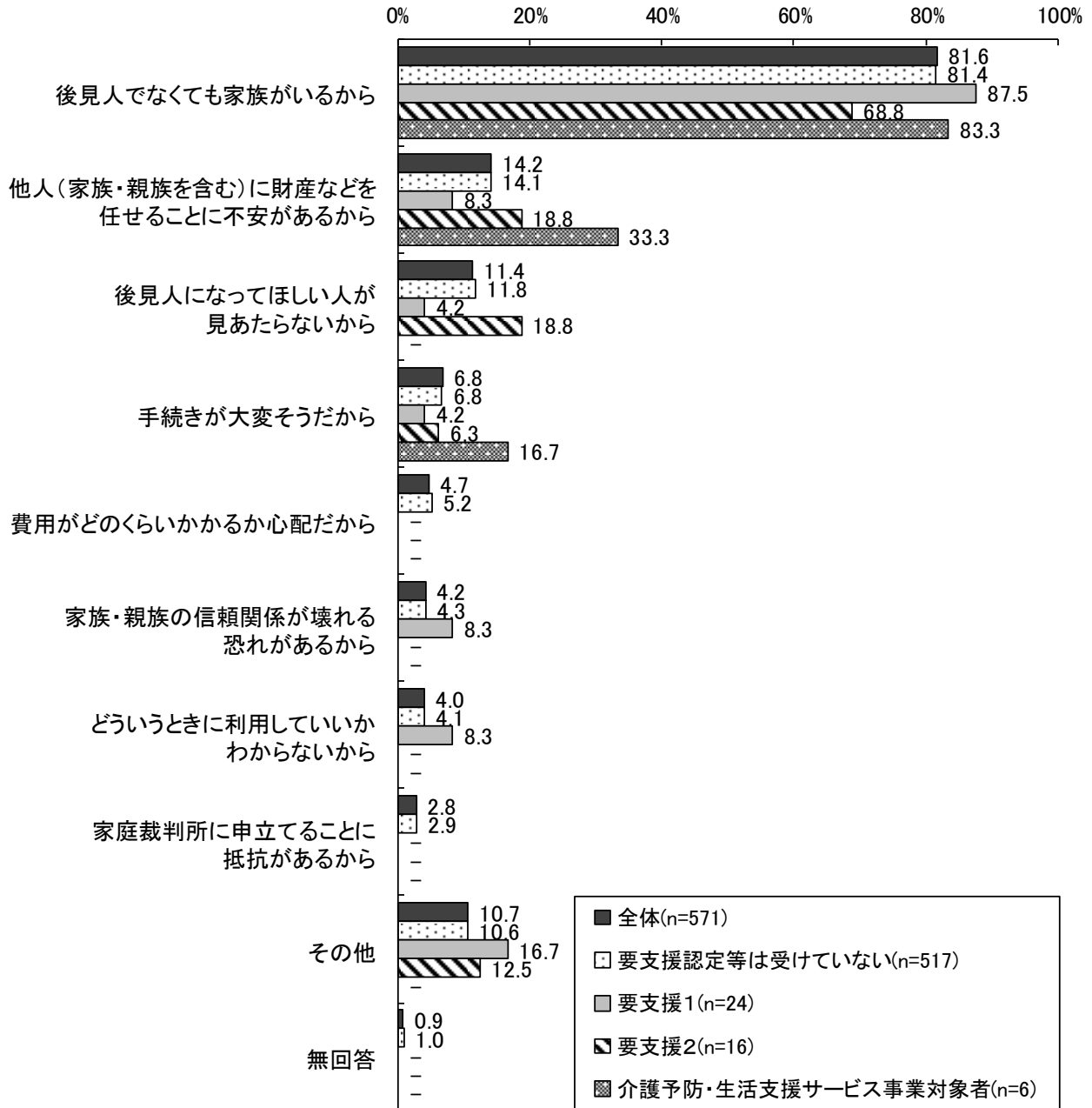
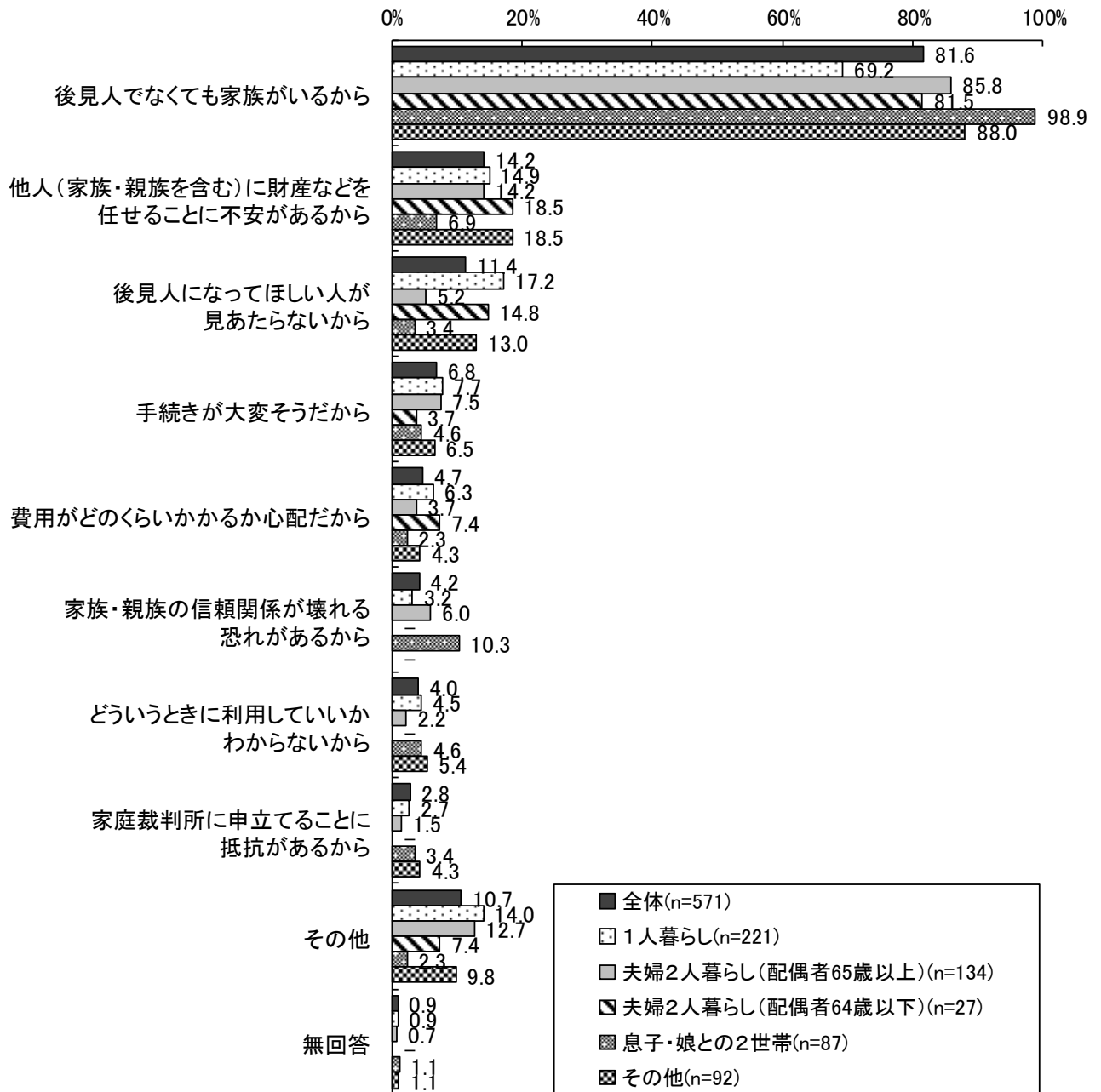


図9-4 成年後見制度を利用したくない理由

全体では、「後見人でなくても家族がいるから」が約8割を占めている。  
状態別では、要支援1で「後見人でなくても家族がいるから」が8割台後半となっている。

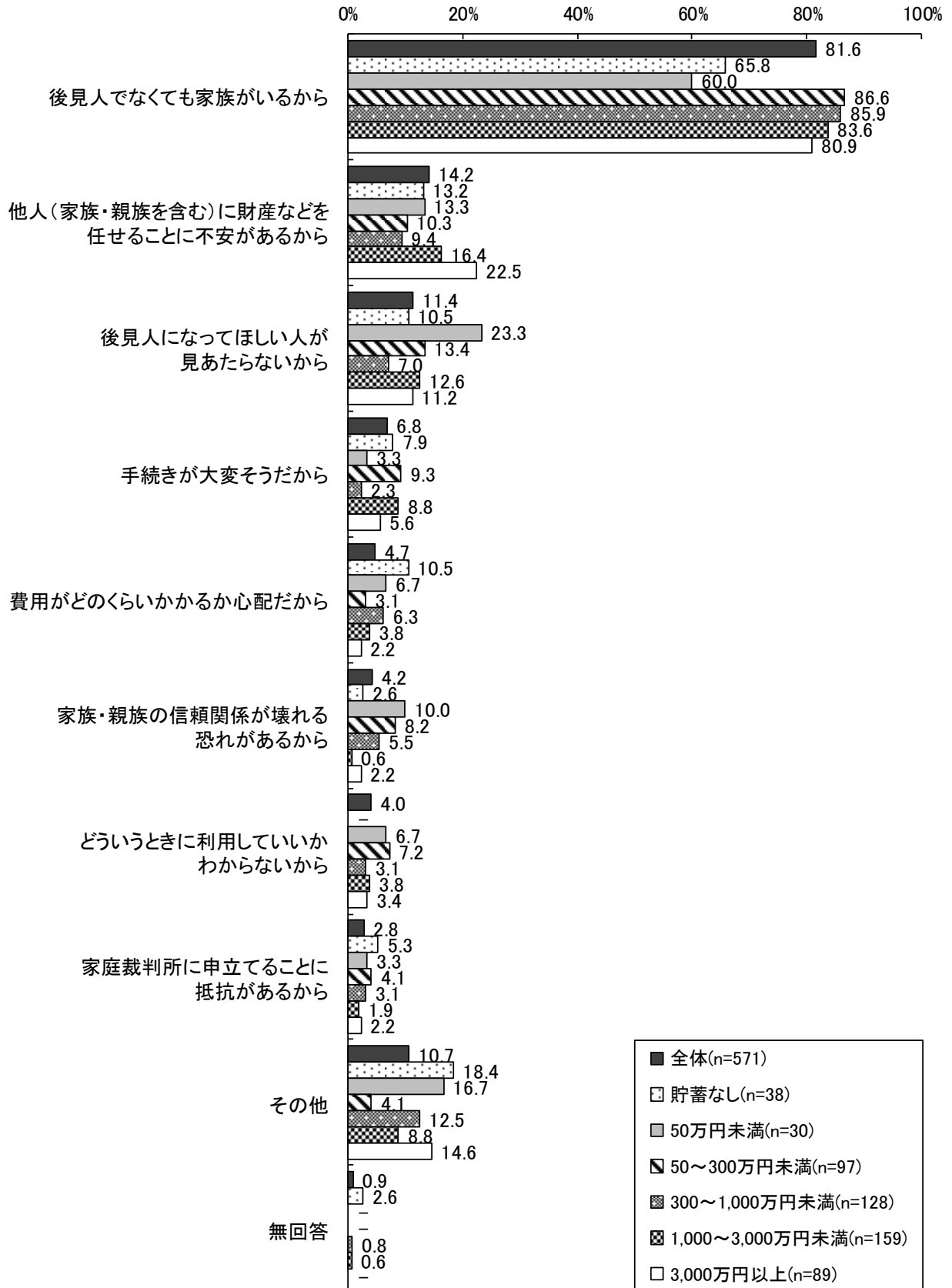
【家族構成別】成年後見制度を利用したくない理由



家族構成別では、1人暮らしは「後見人でなくても家族がいるから」が約7割で他よりも低くなっている。



【預貯金額別】成年後見制度を利用したくない理由



預貯金額別では、貯蓄なしと50万円未満の層で「後見人でなくても家族がいるから」が他より低くなっています。

## 10. その他

### 10.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

（全員の方に）

問 73 健康福祉行政全体について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政全体への意見・要望について、333 件の回答があった。その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

#### 健康福祉行政全般について 44 件

- 高齢者社会に向って、とても大切な行政ではないかと思っています。現在はフルタイムで週5日働き、職場の同僚と切磋琢磨し、やりがいを感じていますが、いずれ当該行政のお世話になるかもしれないことを考えると、とても大切な行政分野かと思えます。時代々に合った up to date な施策を期待致します。(65～69 歳)
- 自分としては、できるだけ公的な福祉サービスを受けなくても済むように努力しているつもりです。もちろんそれにはコストも手間もかかります。そのような予防的な対応をもっともっと促進するような施策にリソースを配分すべきではないかと思えます。例えば公的運動施設の更なる充実、健康増進、文化的な能力支援など。(65～69 歳)
- 中野区住んで 40 年くらいになりますが、中野で本当に良かったなと思えるような福祉行政をお願いします。(65～69 歳)
- 日頃より健康寿命の最大化を目標にしています。多くの人がそのように行動する社会を望みます。また中野区にも期待しています。(65～69 歳)
- 仕事なので限界を感じる。しかたないが、個人的に友人、知人、パートナー、夫などで助け合う関係を作った方がよい気がいたします。自助、共助、公助の優先順位は、まことに正しいと思います。無いよりははましますが、健康福祉行政はあまりあてにならないし、あてにしない方が良くかと。(65～69 歳)
- 今後も、元気で生活している高齢者に対しての施策を期待しています。(65～69 歳)
- 中野区は老人に親切でない。(70～74 歳)
- そもそも健康福祉行政とは、よくわからない。(75～79 歳)
- 高齢者がもっと簡単に解りやすく利用できる仕組をお願い致します。利用するのにもお金がかからないことを希望します。(75～79 歳)
- 今のところ元気でおりますので、本当の必要性を感じられないのかもしれませんが、人と人が助け合い支えられ、福祉行政が本当に一人一人を大切に思ってくれたら、未来は明るいと思います。よろしくお願い致します。(80～84 歳)
- 健康福祉行政事業が身近に感じないので、もう少し身近で寄り添ってもらえたらと思います。(80～84 歳)
- 健康福祉行政のことをもっと良く知りたいと思います。これまであまり問題もなく来ることができましたが、何かあった時困る自分を、この調査に参加して良く分かりました。(85～89 歳)

#### 介護保険制度について 32 件

- 介護保険料が高い。(65～69 歳)
- 今は必要ないが、いつお世話になる時が来るかもしれませんので、利用しやすい様な制度にしてもらえたら。(65～69 歳)

- 介護施設の充実をお願いします。(70～74 歳)
- 現在、配偶者の若年性アルツハイマーについて、包括支援センターや介護サービスの方や、2か所のデイサービスにおいても親身な対応をして頂き、ありがたく思っています。(70～74 歳)
- 母の介護の時、デイケアサービスにお世話になり、ケアマネジャーさん、看護師さんにも相談にのって頂いたり、お助け頂きました。そのような制度があることも経験して初めて知り、有難いことだと思いました。(75～79 歳)
- 介護認定を受けた後、利用できるサービスの内、福祉用具の貸与や福祉用具の購入等ありますが、各々品物の明細が分ると考える一助になるのでありがたいと思います。(85～89 歳)
- 高齢福祉・介護保険サービス等、大変お世話になっていて、いつも心より感謝しております。3か月前よりデイサービス週1回行くようになり、とても楽しく、心が充分元気になり、子どもや孫娘からも元気になって良かったね、と言われて、せめて週2回か、体操の施設等にも行って見たいと思いますが、要支援1だからと行くことができなく残念でストレスになっています。(85～89 歳)

### 健康づくり・医療・介護予防について 25 件

- 介護予防体操は、音楽、歌、映像ありで体操をするので、とても楽しく、ずっと続けてほしい。他の体操教室にはないボイストレーニングなどもあり、のどの筋力を鍛え、誤飲予防にもなるように思います。(65～69 歳)
- 介護予防のための仕組み、制度がもっと分かりやすく、もっと魅力的であってほしいです。又、健康福祉の観点からも高齢者の経験と活力を利用して、就業できるようマッチングしてほしい。最期のその日まで立って歩いて、何らかの役に立ちたい。(65～69 歳)
- シニアの介護予防の運動場所が少ない。高齢者はますます多くなるので、安価で近くに行って軽い予防体操ができる所がたくさん欲しい。沼袋にある総合体育館は遠い。抽せんではなく、参加したい高齢者が皆参加できるスポーツ関連の場所が欲しい。(65～69 歳)
- 元気アップ体操や火曜(通う)体操のように楽しく唄って脳トレできるプログラムが増えると良いと思います。オンラインで参加できるものももう少しあると嬉しいです。(65～69 歳)
- 鍋横地域活動センターで、訪問診療、訪問介護、在宅介護のお話がありました。先生の話に真剣に聞いておりました。いずれ我身にかかわる事なので、身近なセンターで、又機会がありましたら、是非伺いたいと思いました。(75～79 歳)
- 病気になってからの対策も大事ですが基本的には予防対策に力を注いでほしいです。(85～89 歳)
- 地域の方々と健康づくりや趣味などのグループ活動のできる場所があるといいと思う。元気なうちにケアマネジャー、地域包括センターの役割、又利用のしかたなど聞く機会があるといいと思います。(85～89 歳)

### 区への要望について 25 件

- 車イス、ベビーカーが移動し易い道路整備をして欲しい。弱者に優しく、安心して歩行できる様に。(65～69 歳)
- 私は70歳まで、あと2年です。他区は、70歳になると映画の無料券や銭湯の無料券が配布されて、楽しみがある様です。中野区もあると、70歳になるのが悪くない気がします。都バスの外にも割引きがあると良いと思います。(65～69 歳)
- 病気による歩行困難の為、バス、電車の乗降車が難しい為、タクシーを利用することが多い。現在、区の福祉タクシー券を利用させて頂いているが、リハビリに通う回数には少ない為、配布数を増やして頂きたい。(70～74 歳)
- 独居老人なので、できれば行政であまり費用のかからない方法で、生きているうちに、亡くなった時の全ての事がお願いできるシステムが中野区にもできたら嬉しく思っております。(75～79 歳)
- 今はまだ1人でできますが、何時何とき体調が悪くなるやも知れません。その様な時には助けて頂きたく願います。(80～84 歳)

- 補聴器をつけて電話で申込みをしても、聴きにくい時がありましたので代わりに電話を掛けて下さる人があればなあと、コロナ予防接種申込みの時に思いました。(85～89 歳)
- パソコン、スマホになつけない、お力ぞえを。(90～94 歳)

**情報提供・広報について** 24 件

- もっとわかりやすく教えてもらいたい。又、利用しやすく教えてもらいたいです。地域の活動もわかりにくいので、教えてもらいたいです。(70～74 歳)
- 時々講座を受けるのですが、その時に色々な情報を知ることができます。とても良いことや、ためになる情報を教えてもらえます。多分講座に出てる人は良いのですが、来れない方には知ることができません。なるべく平等に情報が伝わるようにしてほしいです。友人、知人の交流に電話が多くなりました(別件です)。(75～79 歳)
- 今は夫婦揃っているのも助け合い同居している娘の助けもあり生活しているが、今後、行政の助けが必要になってくると思います。利用の仕方などわかりやすく情報が入ってくると、目にできる良いと思う。(85～89 歳)

**地域活動・コミュニティについて** 20 件

- 体操をさせる高齢者会館が多いが、できれば遊びを取り入れた、バルーンアートや、手品や茶道・花道と工芸や絵など、自身の趣味が広がるような活動が多くあると楽しいと思う。また、高齢者だけで利用するのではなく幅広い年齢が同時に学習して互いに刺激し合う環境が良いと思う。昔は、それが当たり前であり、子どもは祖父・祖母から遊び方を代々学んでいた。(65～69 歳)
- 地域において、老人も含めて気軽に参加できるコミュニティがもっとあれば良いと思う。人と交流することが、認知症を遅らせることになると思います。(65～69 歳)
- 高齢の一人世帯が増えて来ると思うが、地域住民の色々なグループ活動を活発にすることが、大きな支えや助けにつながると思います。心や体の健康にもつながると思うので、そのような窓口を気軽に利用できるようにしてほしい。(65～69 歳)
- 何かやりたいけれど、気持ちが動かない、でも気軽に参加できるものがあれば参加したい。私もこのままではおちぶれていくばかりだと思っています。多少失敗してもいいから参加できるものがないです。(65～69 歳)
- 現在(夫)が脳出血(H14 後遺症)やいろいろの病気があり時々通院してます(私が手助け)が皆さん病院の方(警察 HP)(地元の医院等)も親切でありがたく思ってます。又、介護にもお世話になってますがその方々にも寄り添ってもらってます。地域の方も声がけてくれます。又、役所の方々も親切に対応して頂き、安心できます。(75～79 歳)
- 現在、主人(86 歳)がアルツハイマー認知症で4年目をすごして居ります。先日家族で行ける認知症のカフェに行ったのですが、狭い事務所に大勢で座る事も大変でした。廃校になった小学校もあるので、もっとゆったりと過ごせる場所で集まることができたらいいのにと思っています。(80～84 歳)

**将来の不安について** 19 件

- 一人暮らしなので、自宅で急に倒れた時が心配。(65～69 歳)
- 年老いると、当り前にできていたことが、できなくなったり、病気も増える、その状況になると、同居家族に色々な面で負担がかかってしまう。年老いることに不安がなく、安心して生活できるような世の中になってほしいです(65～69 歳)
- 現在コロナの影響で、同窓会、音楽会等、多人数で集まる機会が中止されていて、友人との会合ができない。いつまでコロナが続くのか心配して居る。(80～84 歳)
- 私は主人が介護施設に入っておりますので、もし1人になったらちょっと心配です。(80～84 歳)

## 健康福祉の相談窓口について 15件

- 来年度から年金のみの生活となりますので、健康でいる間はボランティア等地域活動にチャレンジしてみようと思います。ただ、どこに相談すれば良いのか良く分かりません。(65～69歳)
- 気軽にできるフリーダイヤルの様なものがあると便利かなと思います。介護保険サービス窓口とか内容をあまり限定せず気軽にできると話しやすいかな。(65～69歳)
- 健康福祉に関する「何でも相談できる」窓口を1コ設置してほしい。(75～79歳)

## 区健康福祉サービスについて 12件

- もっと健康福祉が充実しているとよい。(65～69歳)
- 高齢者社会(世代)がますます多くなるので、医療・介護等分かりやすく、相談しやすい場がより多くなることを望みます。地方の高齢化が進む地域に母がいますが、都会では目の届かないところまでケアをしてもらっています。そのようなサービスが受けられればと思います。(65～69歳)
- 今は元気ですが、サポートが必要になった時、安心して受けられたらいいなあと思います。どんな時も人を大事にする社会であってほしいです。(70～74歳)
- 区民健診は大変よい。続けてほしい。思ってもいなかった病気が見つかる。(80～84歳)

## 訪問や見守りについて 7件

- 高齢者だけの世帯や単身世帯で、近くにバックアップをしてくれる人がいない人たちに対して、区としての見守りのような体制を整えてほしい。最近、突発入院することになり、一人暮らしですぐ近くに友人や家族がいないことで、色々考えさせられた。(65～69歳)
- 2年前から社協の「あんしんサポート」に加入させていただいていたので、今年になり介護が必要になった時には、わりとスムーズに申請などお願いすることができました。やはり、元気な時から少しずつ準備することが大切だと実感しています。(70～74歳)

## 住まい・住宅の整備について 5件

- 高齢になっても住み続けることのできる中野区にして下さい。住居面に不安を感じます。(65～69歳)
- 高齢者が年金だけでも入所できる公的施設が欲しい。(80～84歳)

## 経済的な生活の不安について 4件

- 年金生命で将来が不安。(70～74歳)
- 生活支援してほしいが、1割の支出金がないので、頼みたくてもたのめない。家の中は掃除などしていない。1割の支払金がないので頼めない。無料にしてほしい。(85～89歳)

## 本調査について 36件

- こうしたアンケートをいただいて、中野区の福祉行政について理解を深めようという気持ちになりました。ありがとうございました。(65～69歳)
- こういった調査をもっとたくさんの人に、もっと回数を多く実施してほしい。回答しながら、現在の自分の状況を認識し、弱点などが見えてきました。そこを改善していくきっかけになると思います。(65～69歳)
- 老いることはどういうことか、少し理解しはじめたところです。具体的な希望は、これから出てくるかと思います。このようなアンケートで、ニーズをひろってくださろうとする姿勢に感謝です。(70～74歳)
- 2択では判断しづらい部分があります。(75～79歳)

- まわりに気軽に話す人がひとりもいなくて少し不安だったが、このアンケートで電話かけれる場所が分り心強く感じた。(75～79 歳)
- 質問数が多く、疲れました。今後共、どうぞよろしく願い申し上げます。(80～84 歳)
- アンケートはもう少し分かり易い文章にしてください。問 34、例えば、できるししている、できるけどしていない等は、ややこしい文章と思います。(80～84 歳)

その他 65 件

- いつまで元気でいられるか、わかりません。何かあった時、どの様にお世話になっていくのか、知らなければならぬと常々思っていますが、なかなか想像が付きません。(65～69 歳)
- 街の道路を歩いていて感じるのですが、老人が少し休める所があるといいと思っています。バス停の所や街の所々にベンチ等があると、休み乍ら歩く方々にとってはほっとします。外国の街には良く見かけます。緑が多いのは助かります。(75～79 歳)
- 現在、要支援でなくても、80 歳位になれば、何らかの支援が必要だと思います。同居の家族がいても手助けをしないできない家庭もあると、日常の生活が大変です。(75～79 歳)
- 高齢社会、自分の生活を大事にしながら介護する人、される人、介護づかれにならないような老後を念じます(義母の介護経験から)。(80～84 歳)
- 今年 10 月に主人が死亡した為、1 人暮らしとなりました。近くに息子夫婦と孫が住んでいるので、心強いです。これから健康福祉にお世話になると思うので、自分なりに調べて行きたいと思います。(80～84 歳)

# 介護サービス利用調査

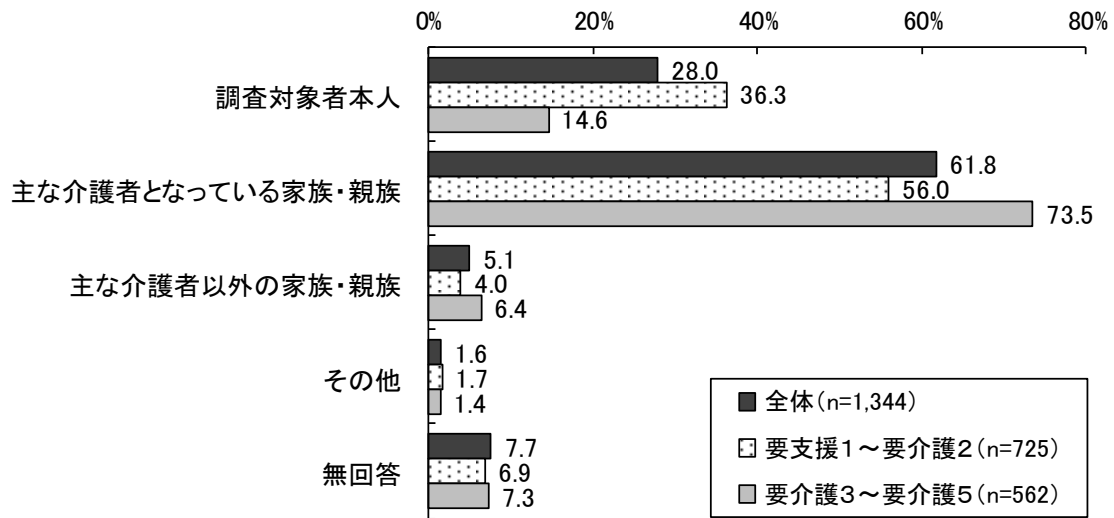
---



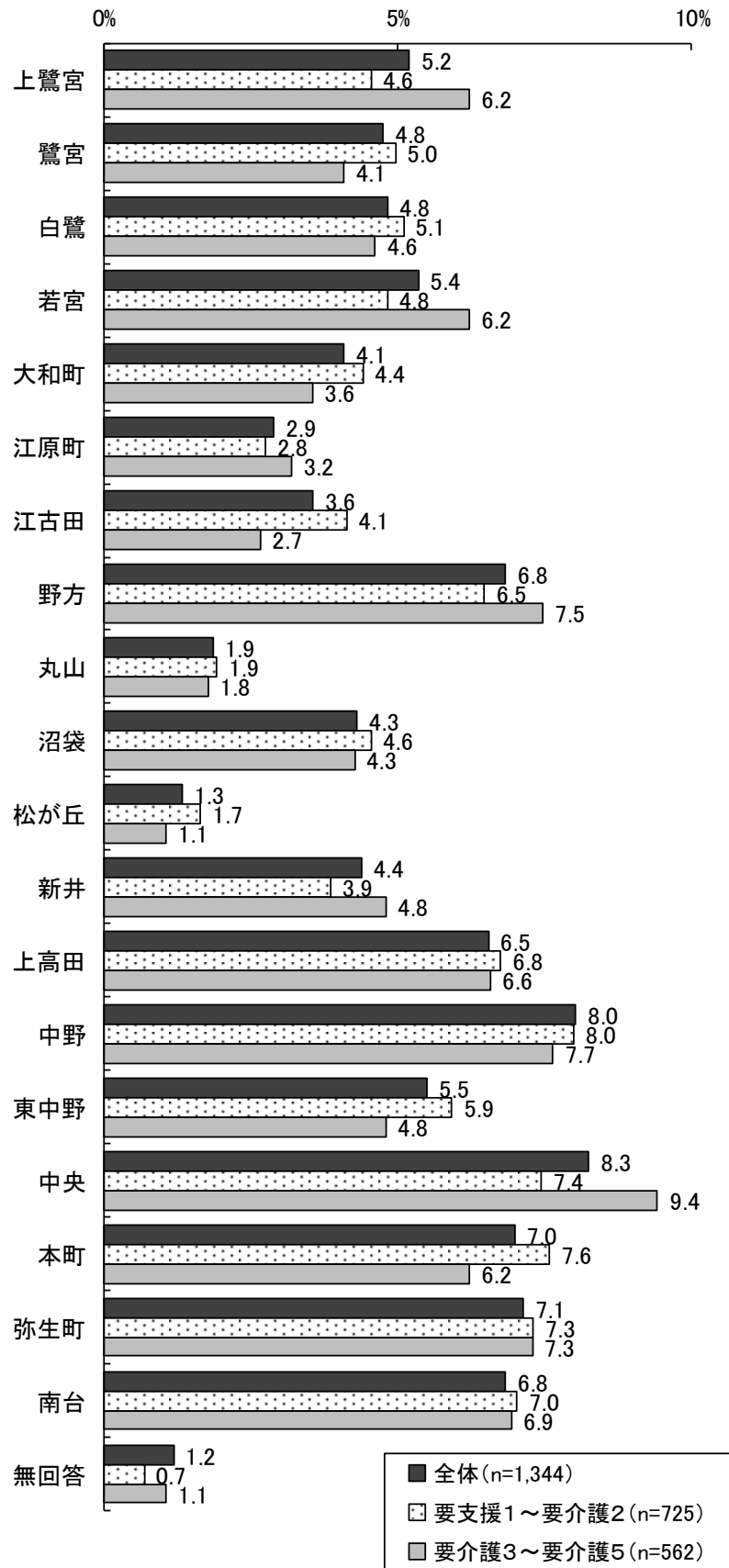


## 1. 要支援・要介護認定者本人について

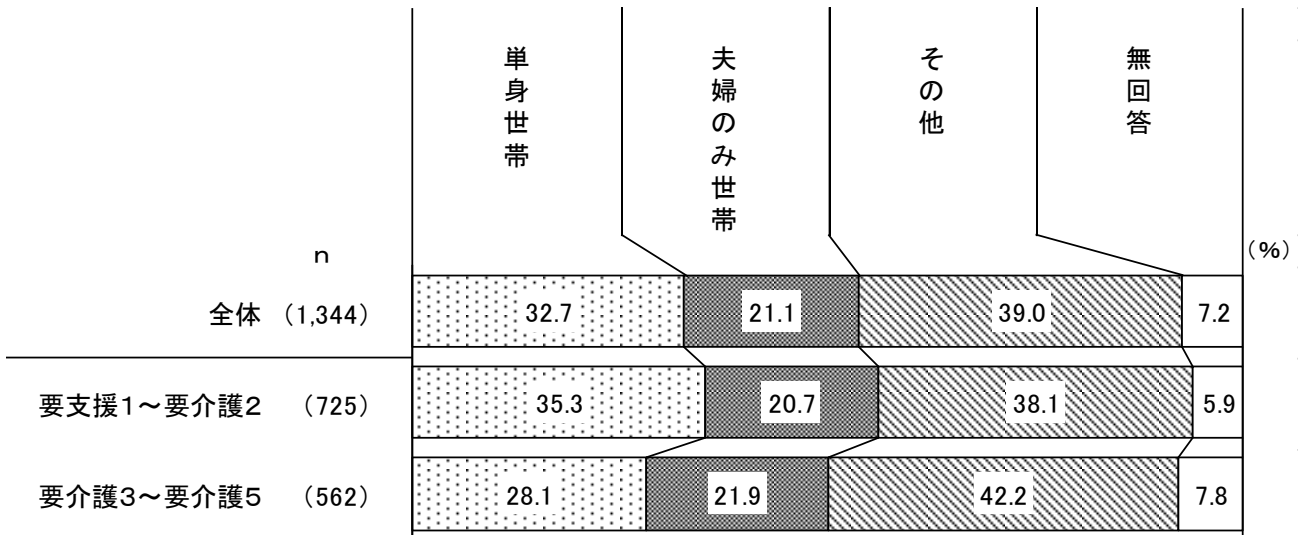
### 1.1. アンケートの回答者



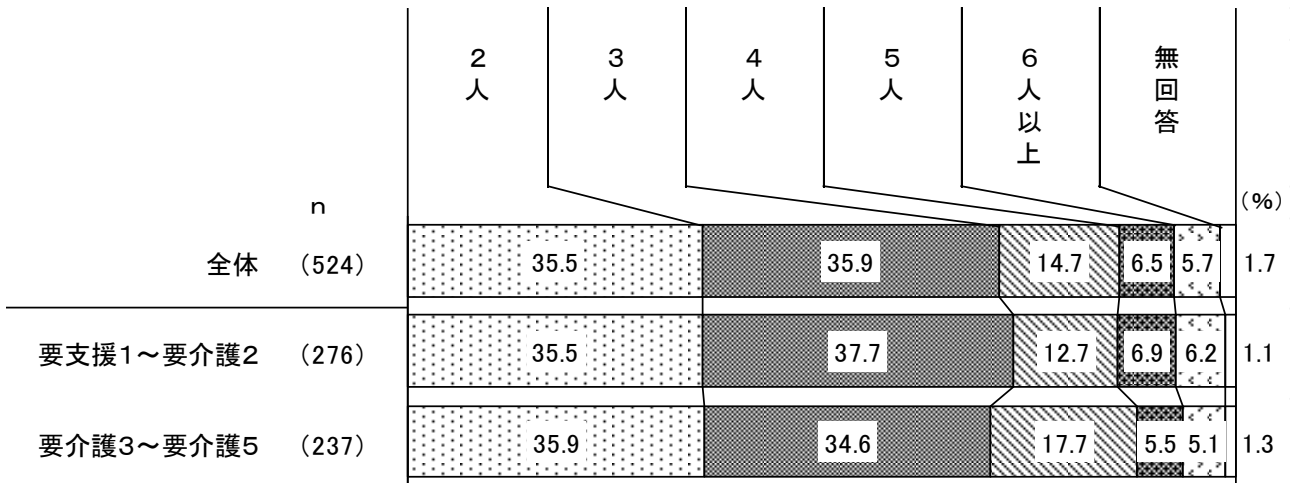
1.2. 居住地域



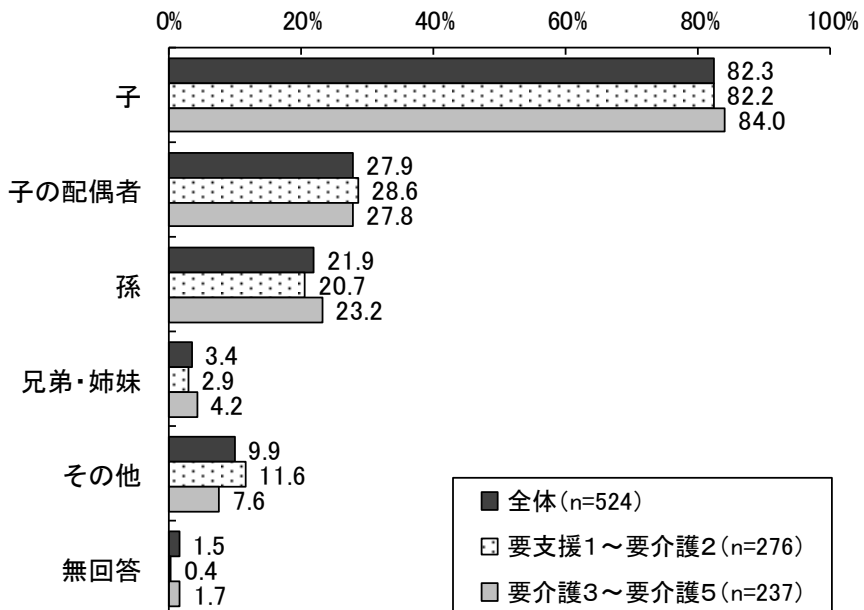
1.3. 家族構成



1.3.1. 家族の人数 (※「1.3. 家族構成」において、「その他」とお答えの方)

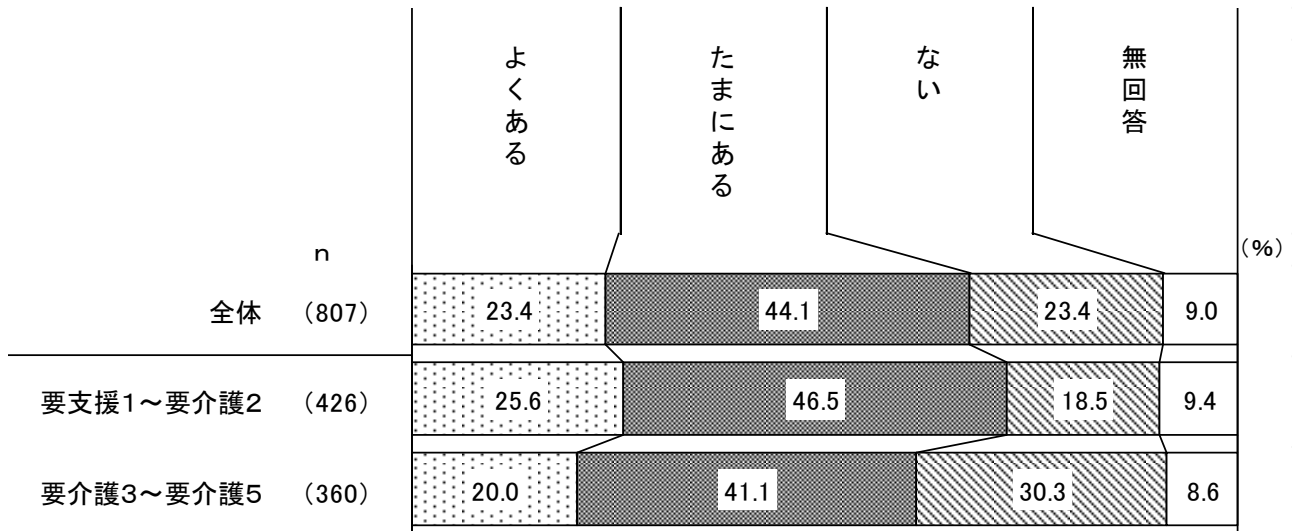


1.3.2. 同居家族の内訳 (※「1.3. 家族構成」において、「その他」とお答えの方)



1.3.3. 日中、ひとりになることの有無

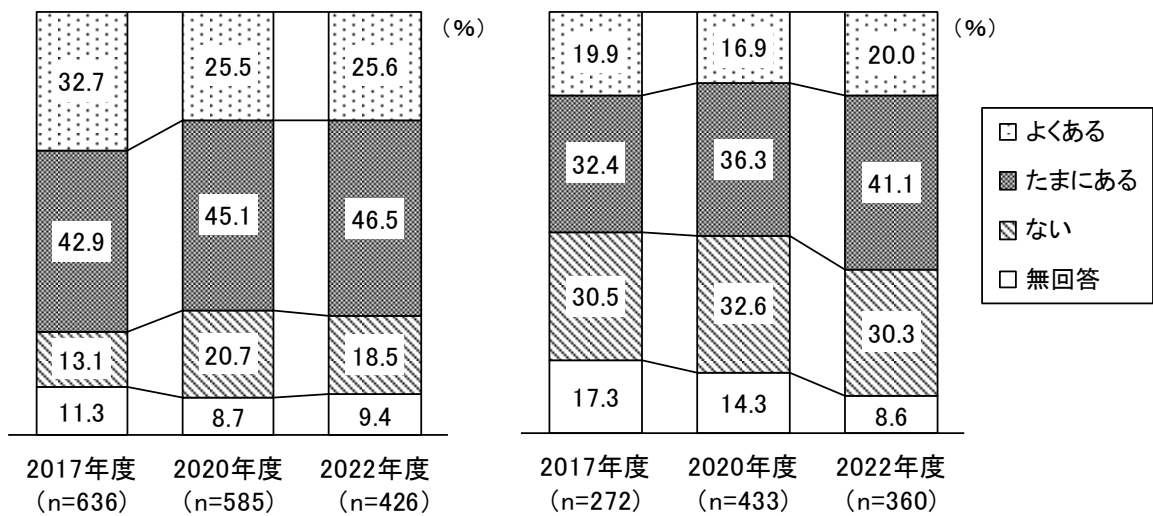
(※「1.3. 家族構成」において、「夫婦のみ世帯」または「その他」とお答えの方)



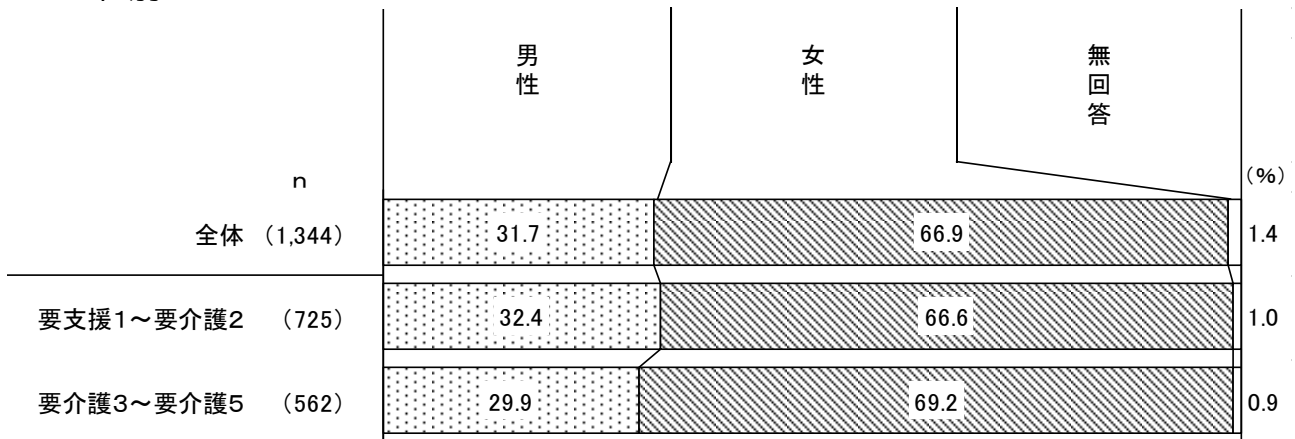
【経年比較】日中、ひとりになることの有無

【要支援1～要介護2】

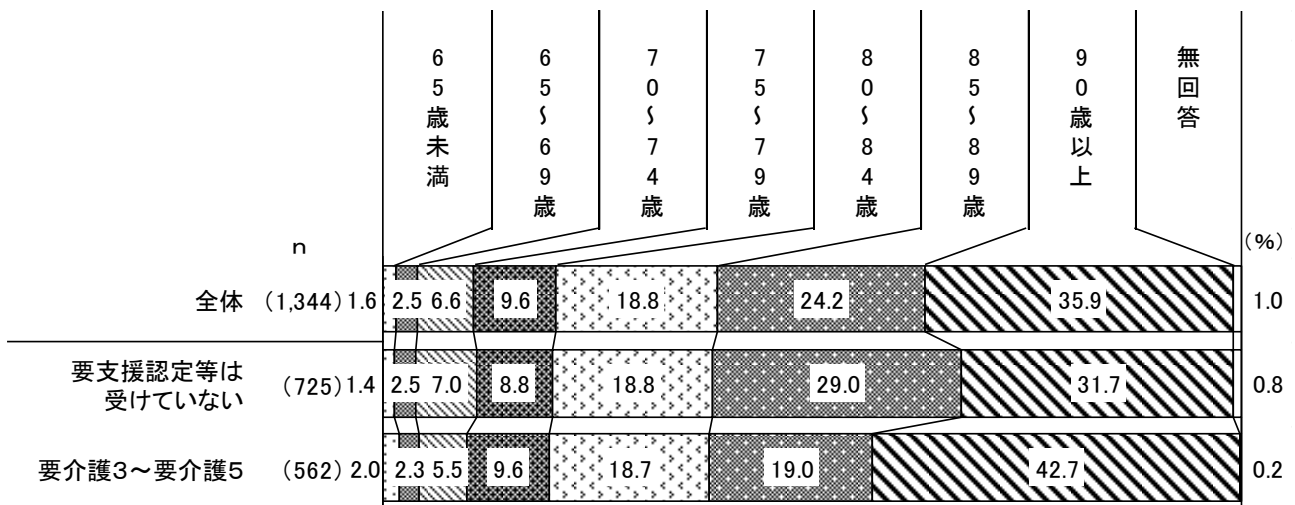
【要介護3～要介護5】



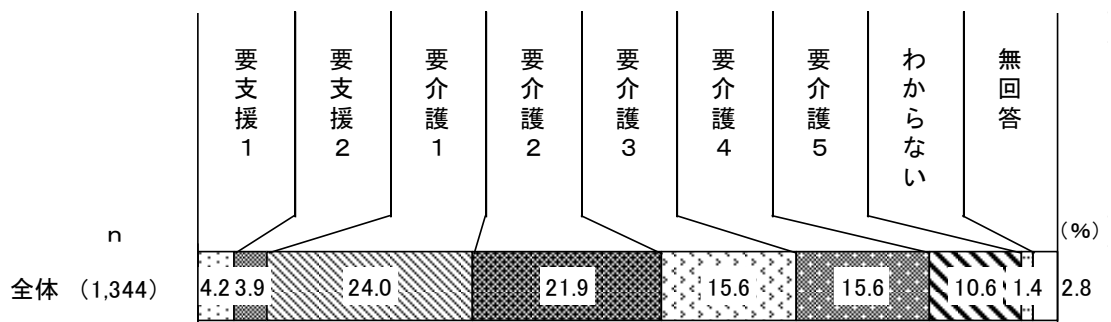
1.4. 性別



1.5. 年齢

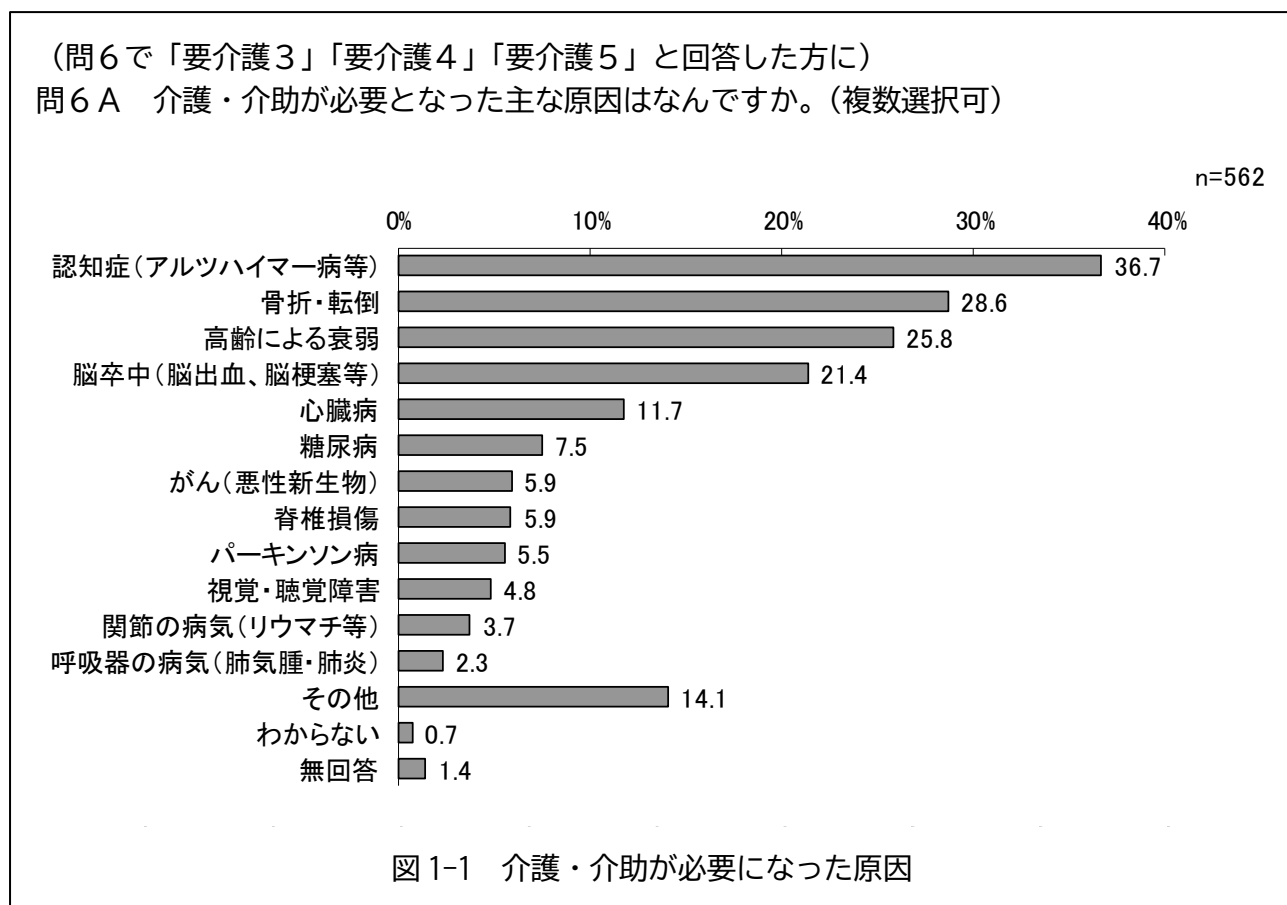


1.6. 要介護度



1.6.1. 介護・介助が必要になった原因

◆ 「認知症（アルツハイマー病等）」が3割台半ば



全体では、「認知症（アルツハイマー病等）」が3割台半ばで最も高くなっている。

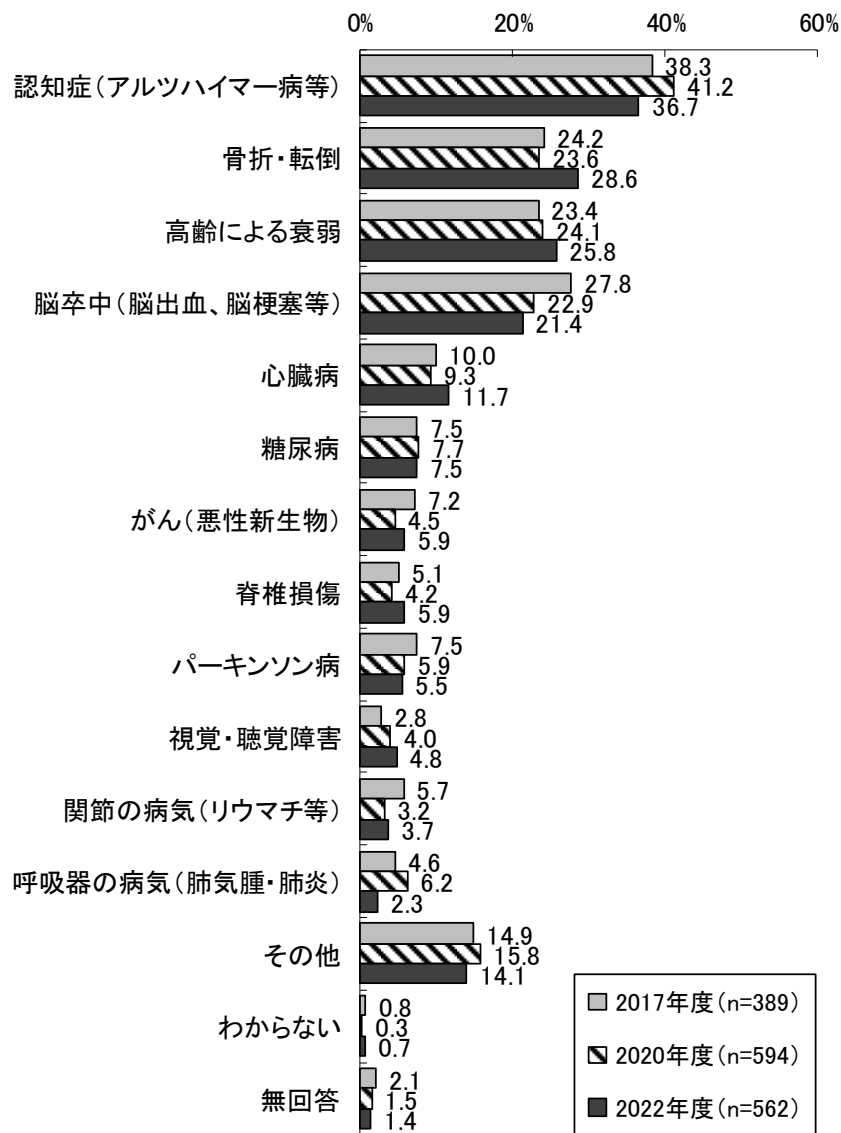
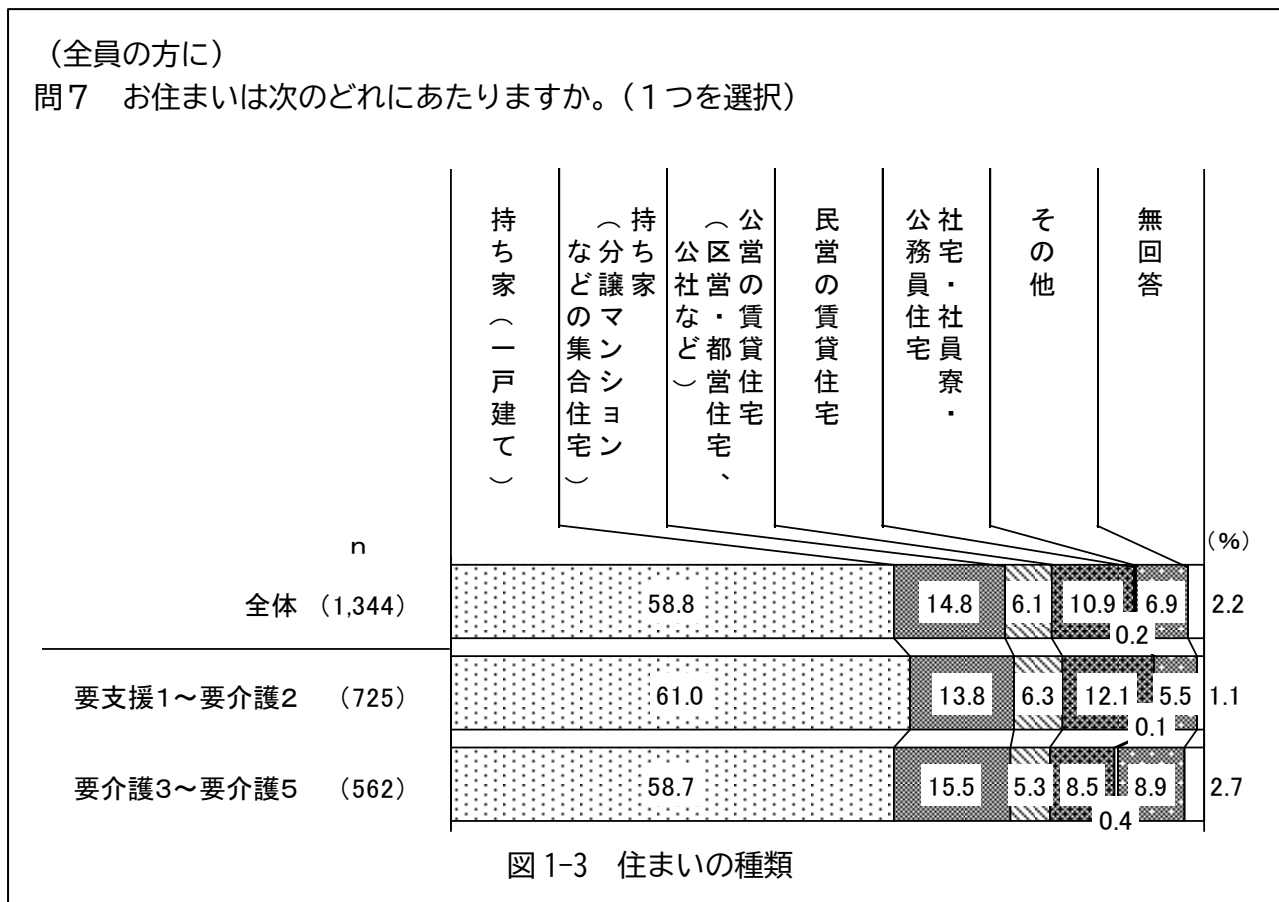


図 1-2 【経年比較】介護・介助が必要になった原因

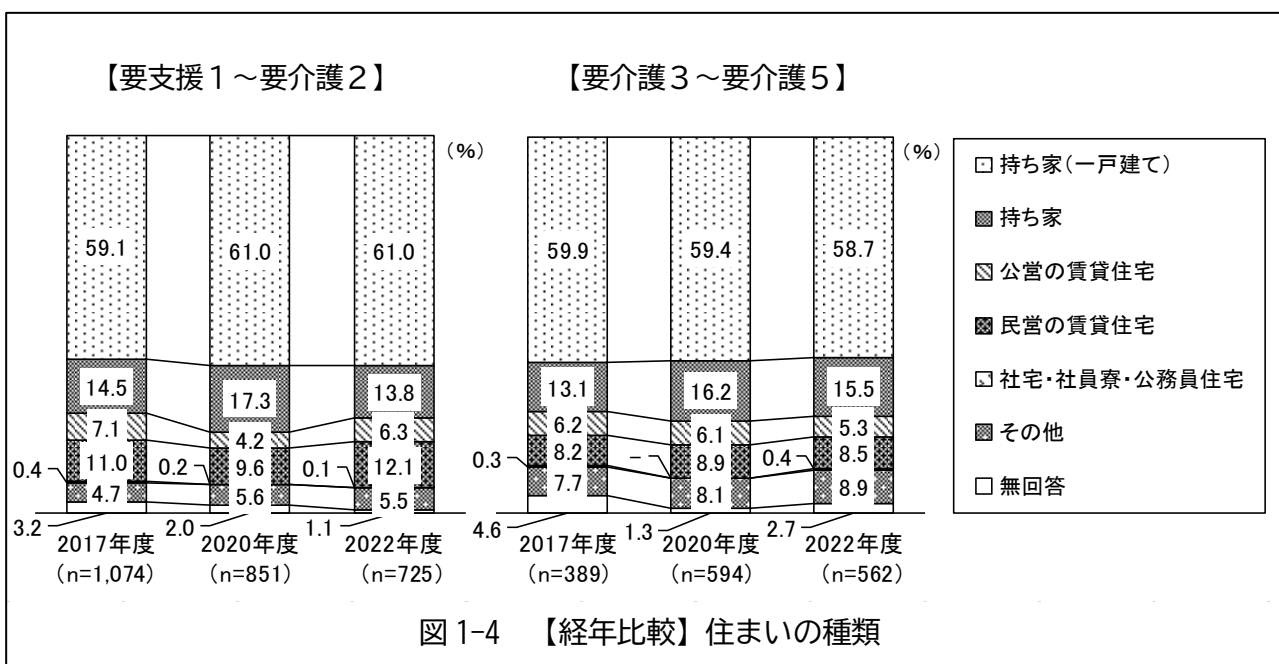
経年比較では、2020年度と比べて「認知症(アルツハイマー病等)」は4.5ポイント減少し、一方、「骨折・転倒」は5.0ポイント増加している。

1.7. 住まいの種類

◆ 「持ち家（一戸建て）」が5割台後半



全体では、「持ち家（一戸建て）」が5割台後半を占めている。  
要介護度では、大きな差異はみられない。

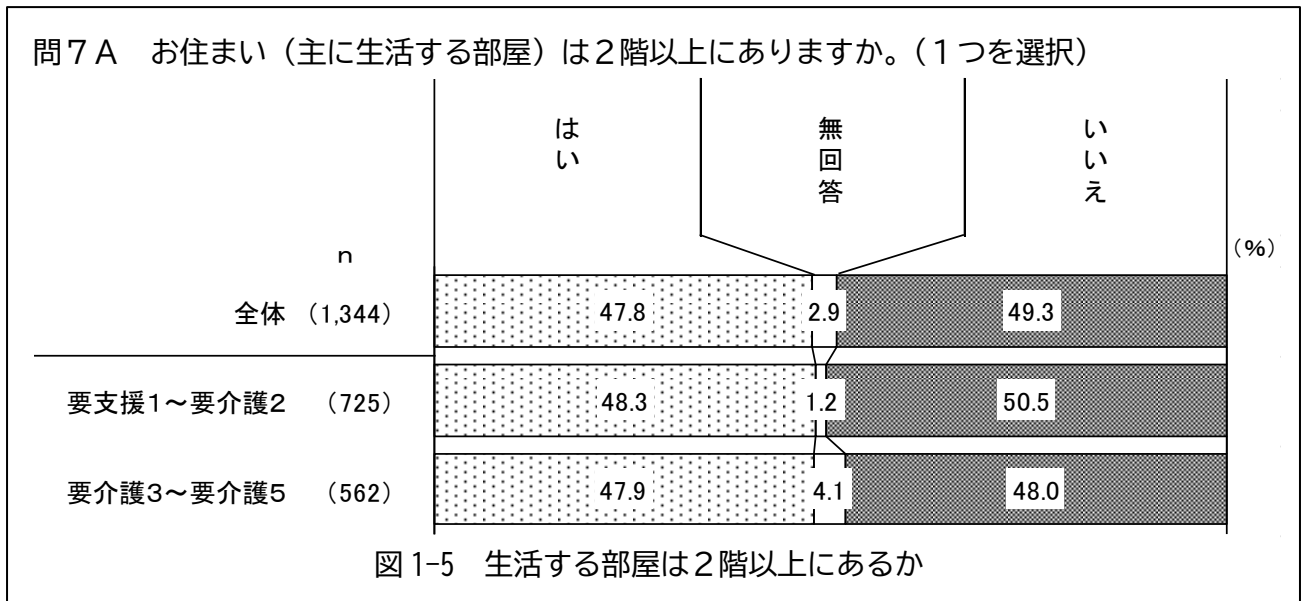


経年比較では、大きな差異はみられない。



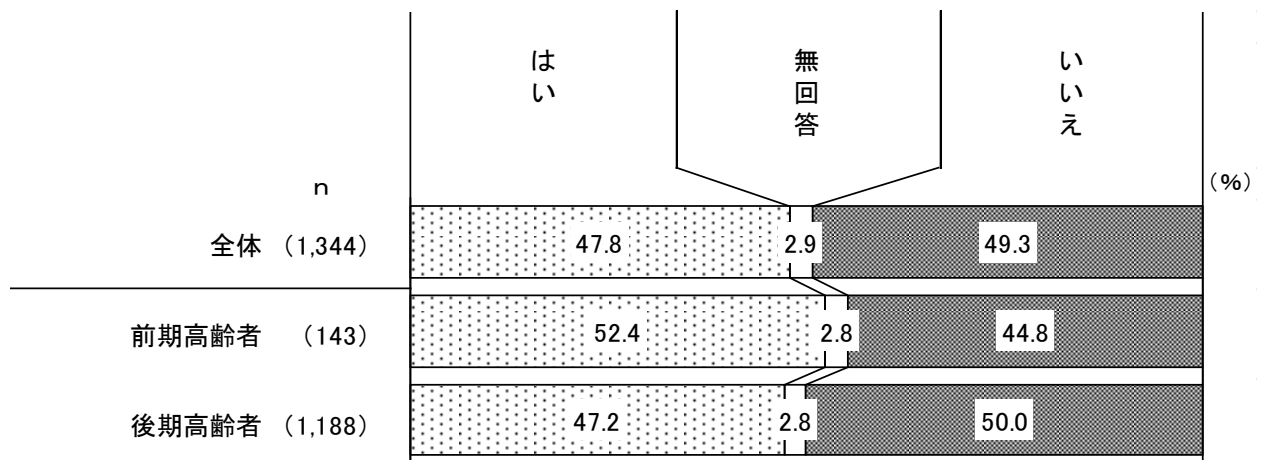
1.7.1. 生活する部屋は2階以上にあるか

◆ 「いいえ」が約5割



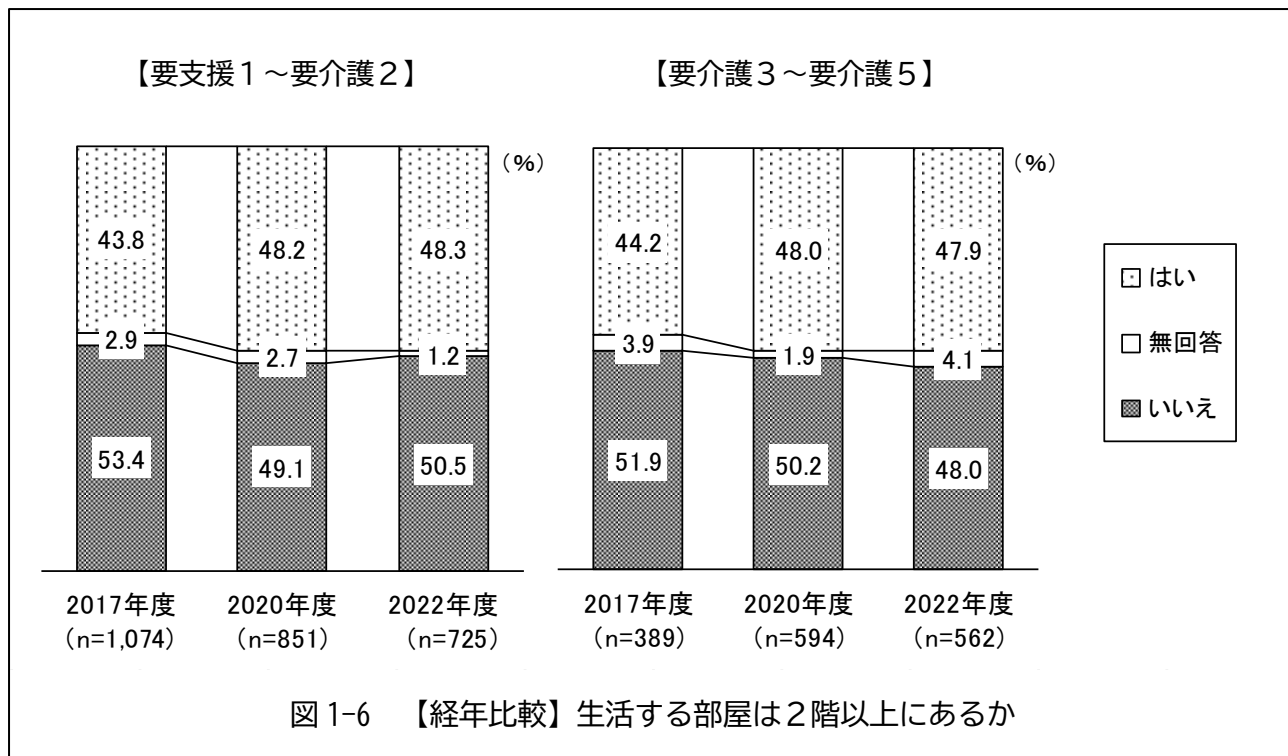
全体では、「いいえ」が約5割で「はい」をわずかに上回っている。  
要介護度別では、大きな差異はみられない。

【前期・後期高齢者別】生活する部屋は2階以上にあるか



※65歳以上75歳未満の方を前期高齢者、75歳以上の方を後期高齢者に区分する。

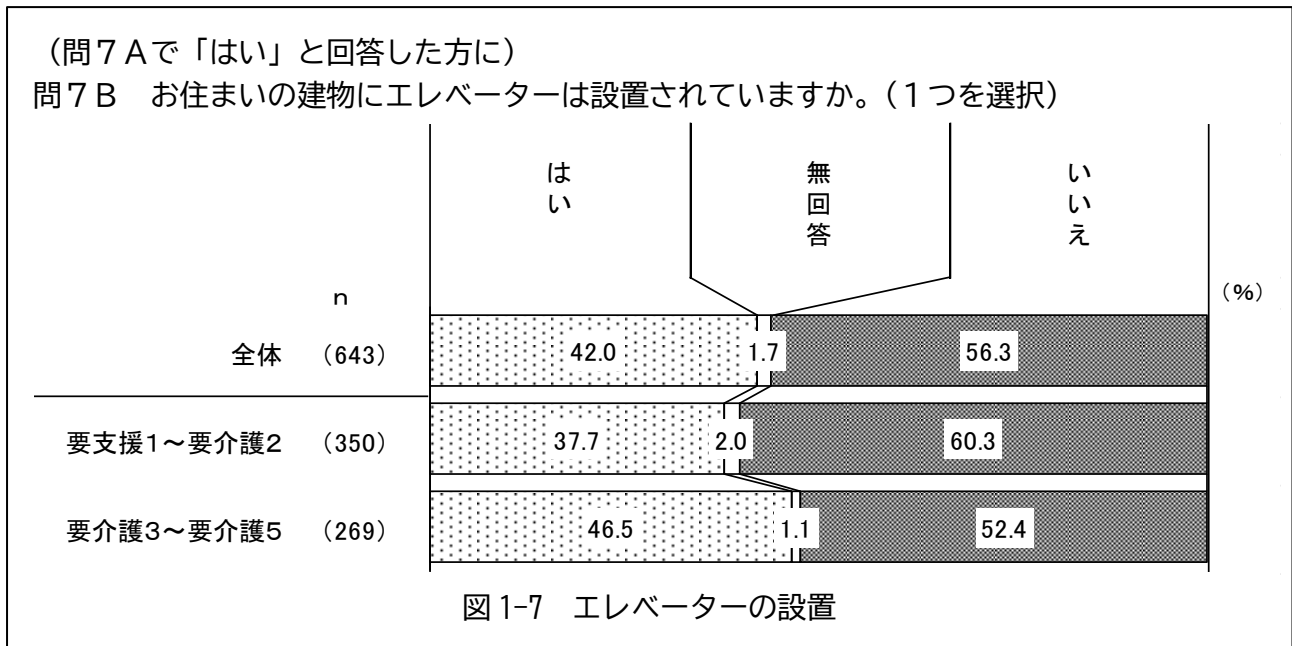
前期・後期高齢者別では、前期高齢者において「はい」が5割台前半を占めている。



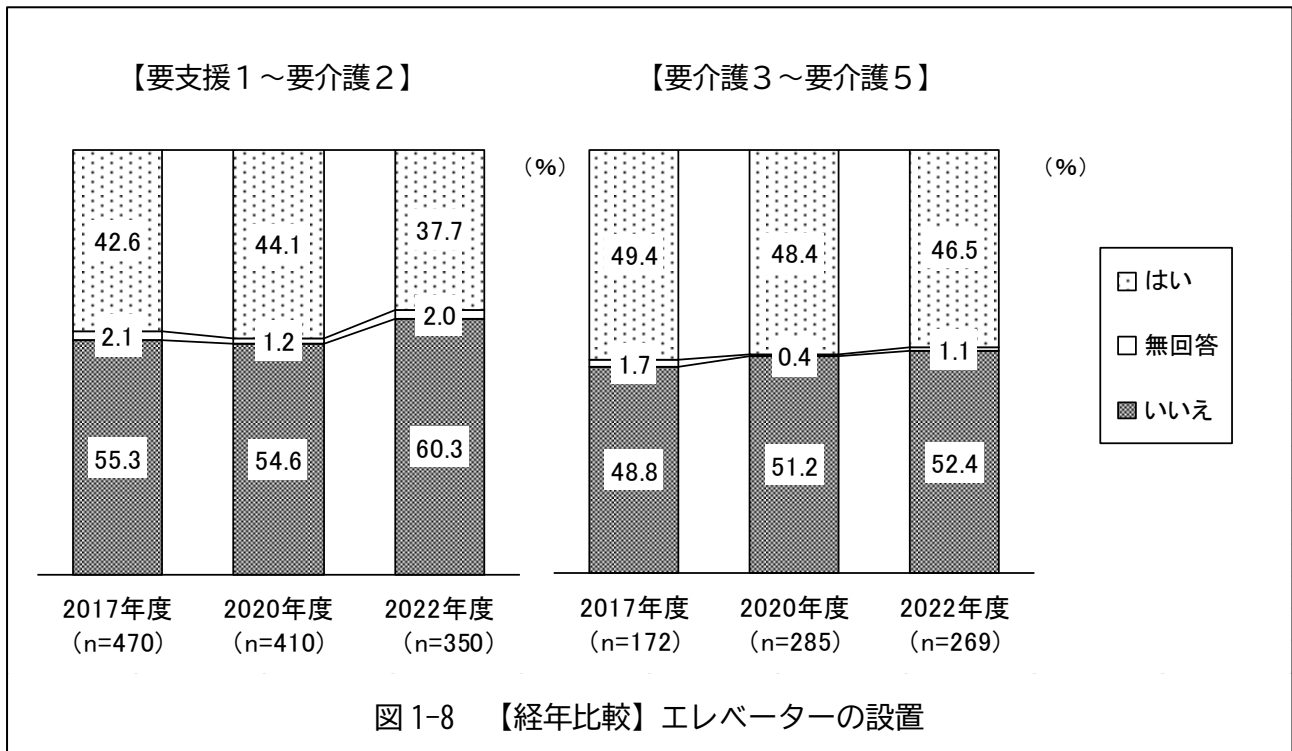
経年比較では、大きな差異はみられない。

1.7.2. エレベーターの設置

◆ 「はい」が4割台前半



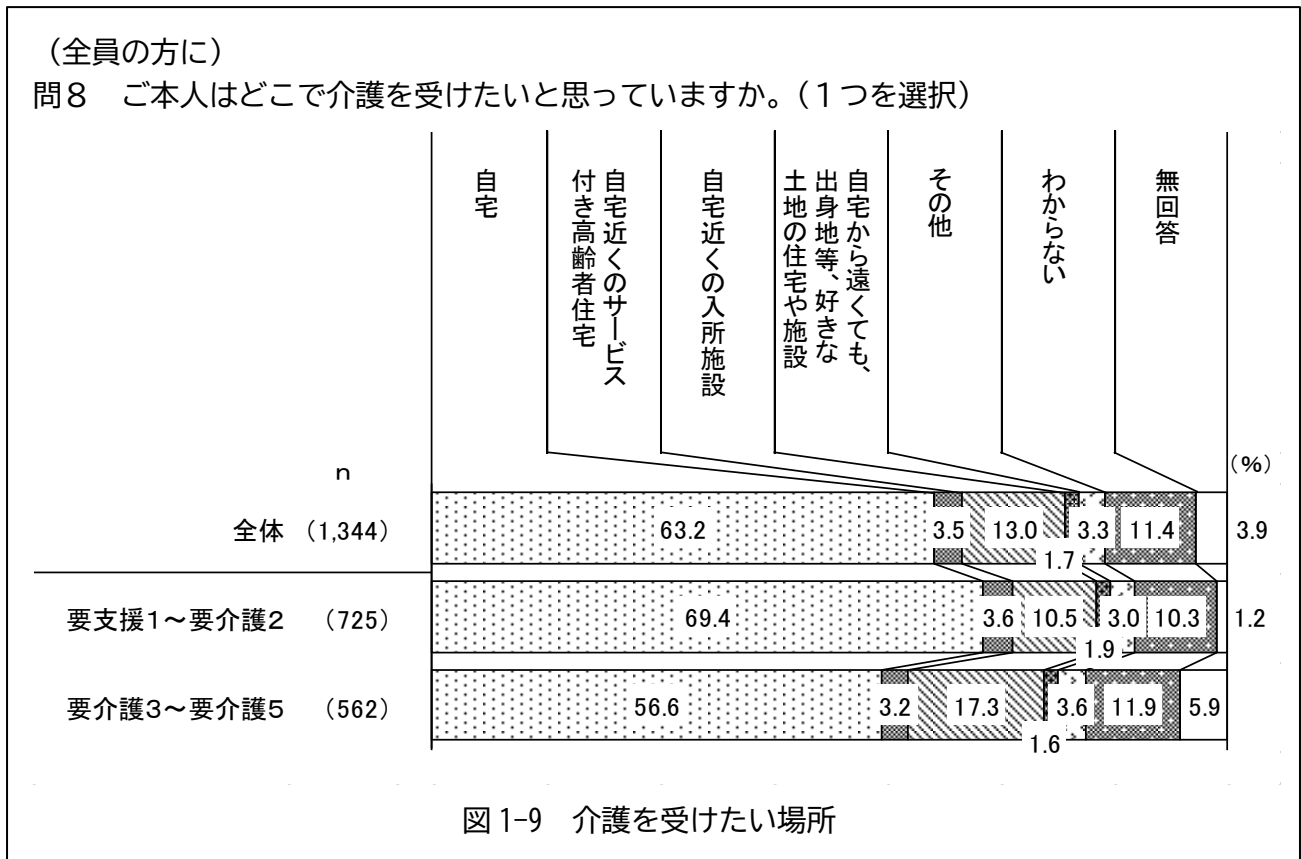
全体では、「いいえ」が5割台半ばを占めている。  
要介護度別では、要介護3～要介護5で「はい」が高くなっている。



経年比較では、2020年度と比べて、いずれも「はい」が減少している。

1.8. 介護を受けたい場所

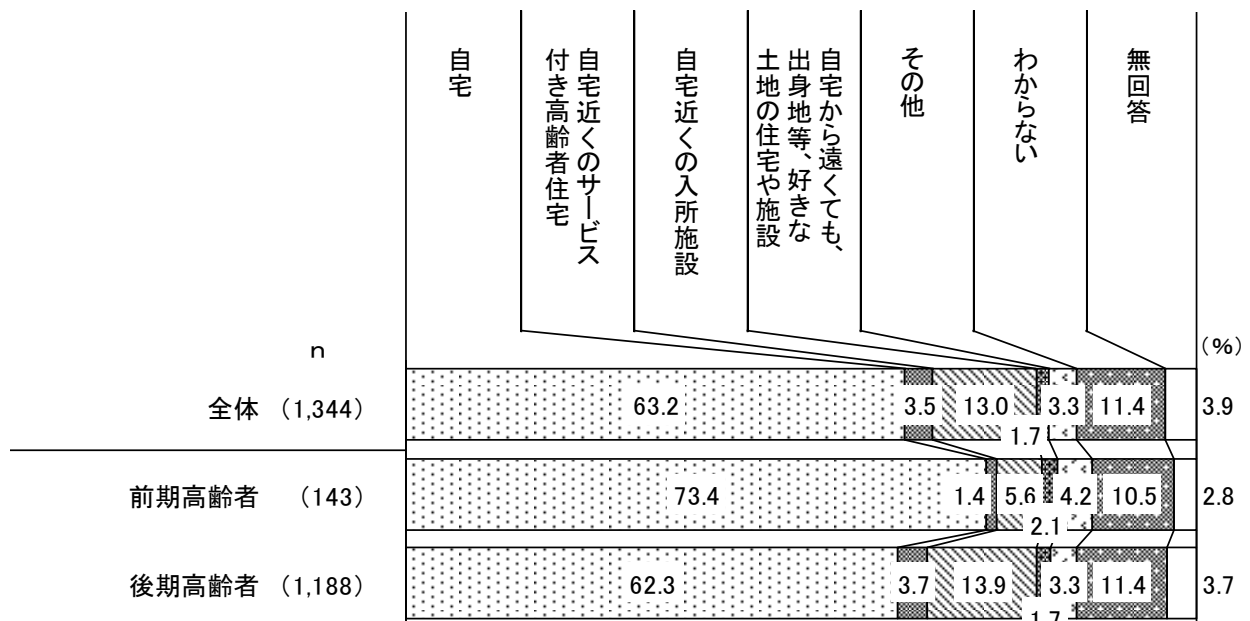
◆ 「自宅」が6割台前半



全体では、「自宅」が6割台前半を占めている。

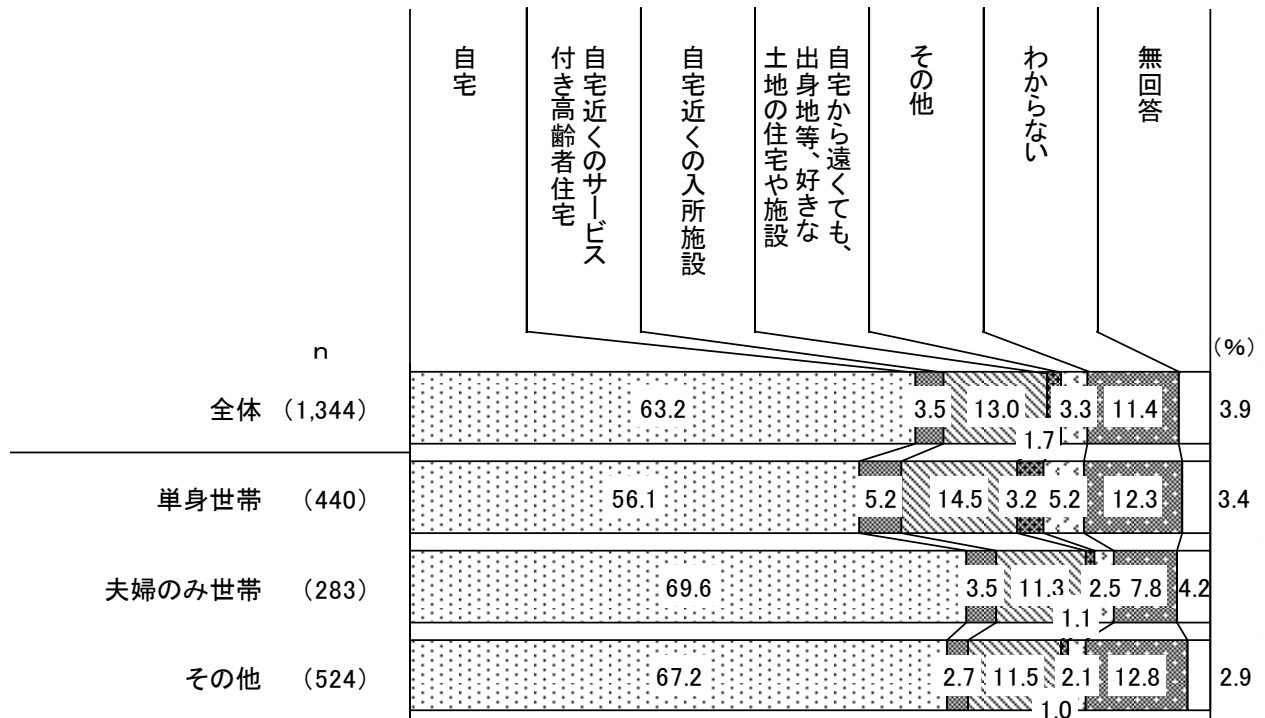
要介護度別では、要支援1～要介護2で「自宅」が約7割を占めている。

【前期・後期高齢者別】介護を受けたい場所



前期・後期高齢者別では、前期高齢者で「自宅」が7割台前半を占めている。

【家族構成別】介護を受けたい場所



家族構成別では、いずれも「自宅」が最も高く、夫婦のみ世帯では約7割を占めている。

【要介護3～要介護5】

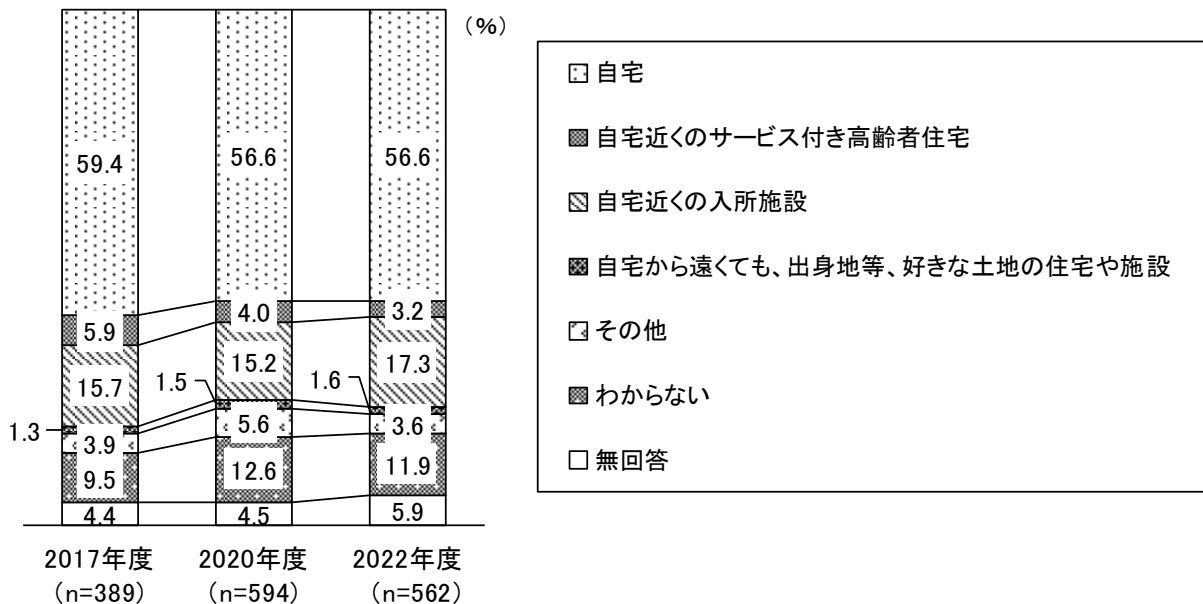
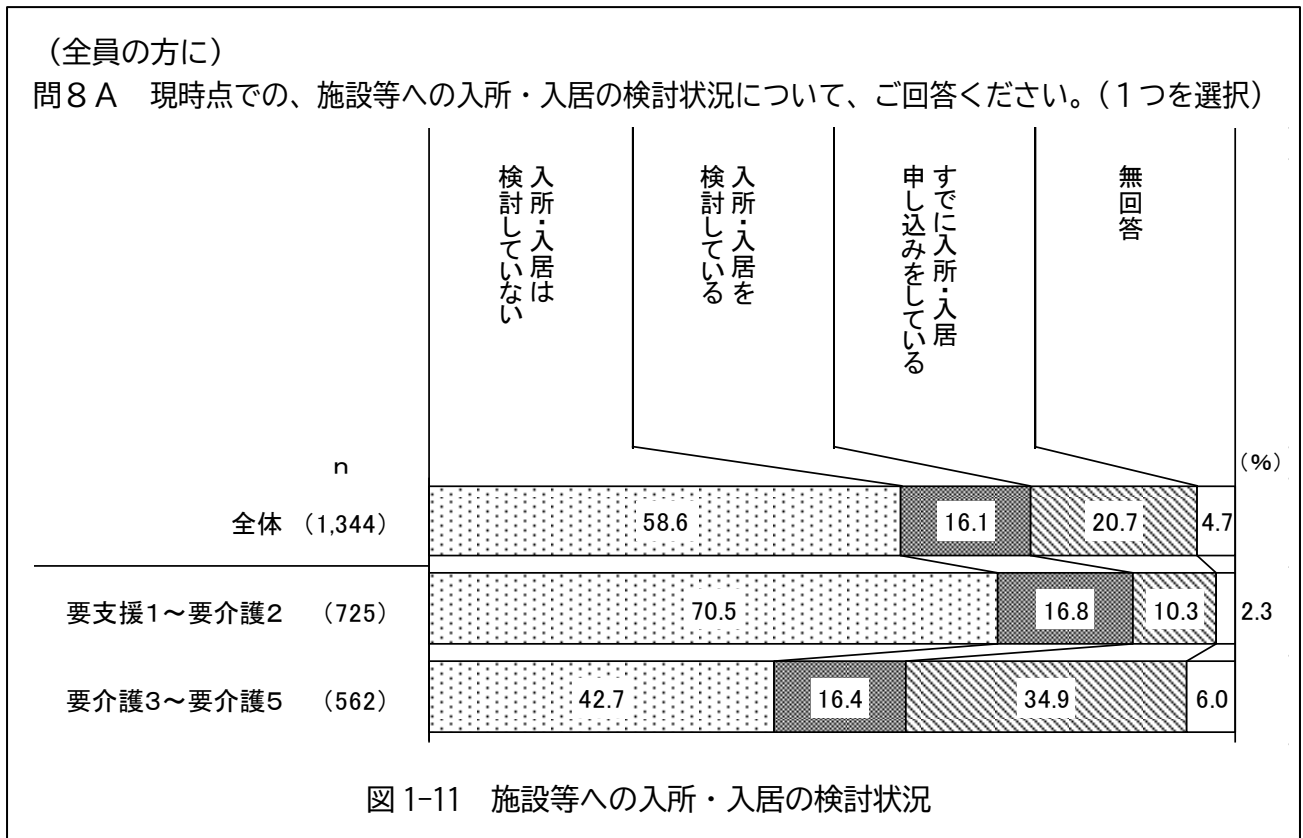


図 1-10 【経年比較】介護を受けたい場所

経年比較では、大きな差異はみられない。

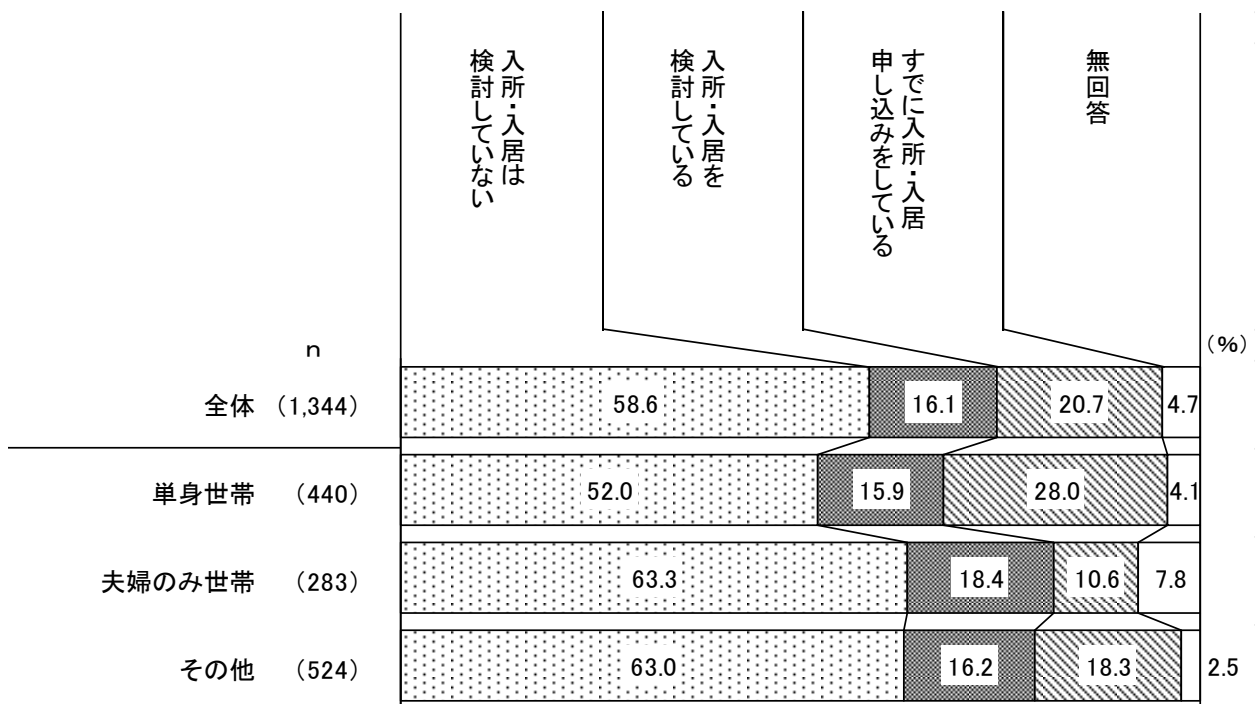
1.8.1. 施設等への入所・入居の検討状況

◆ 「施設等への入所・入居は検討していない」が5割台後半



全体では「入所・入居は検討していない」が5割台後半を占めている。  
要介護度別では、要支援1～要介護2で「入所・入居は検討していない」が約7割を占めている。

【家族構成別】施設等への入所・入居の検討状況



家族構成別では、夫婦のみ世帯で「入所・入居は検討していない」が6割台前半となっている。

1.8.2. 施設等への入所・入居を検討した理由

◆ 「介護する家族の心身の負担が大きい」が6割台半ば

(問8Aで「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居の申し込みをしている」と回答した方に)

問8B 施設等への入所・入居を検討した理由はなんですか。(複数選択可)

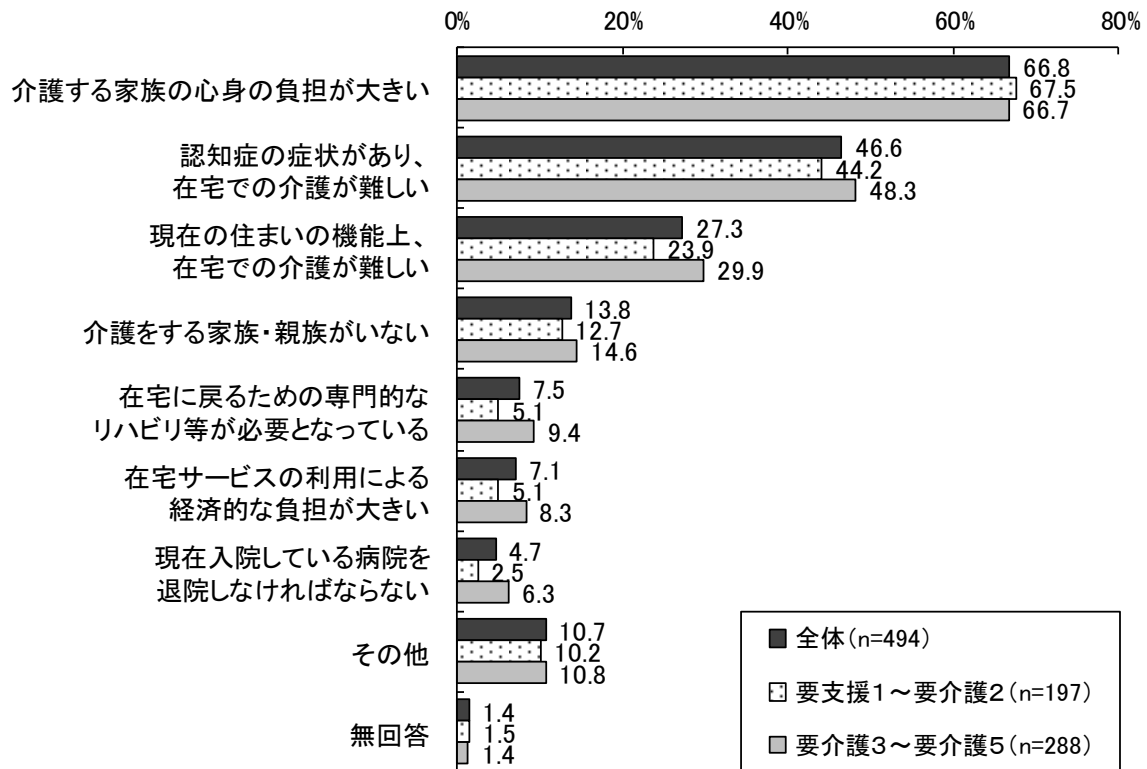


図 1-12 施設等への入所・入居を検討した理由

全体では、「介護をする家族の心身の負担が大きい」が6割台半ばを占めている。  
要介護度別では、いずれも「介護をする家族の心身の負担が大きい」が最も高くなっている。

1.9. 現在抱えている傷病

◆ 「認知症」が4割台前半

(全員の方に)

問9 ご本人(調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(複数選択可)

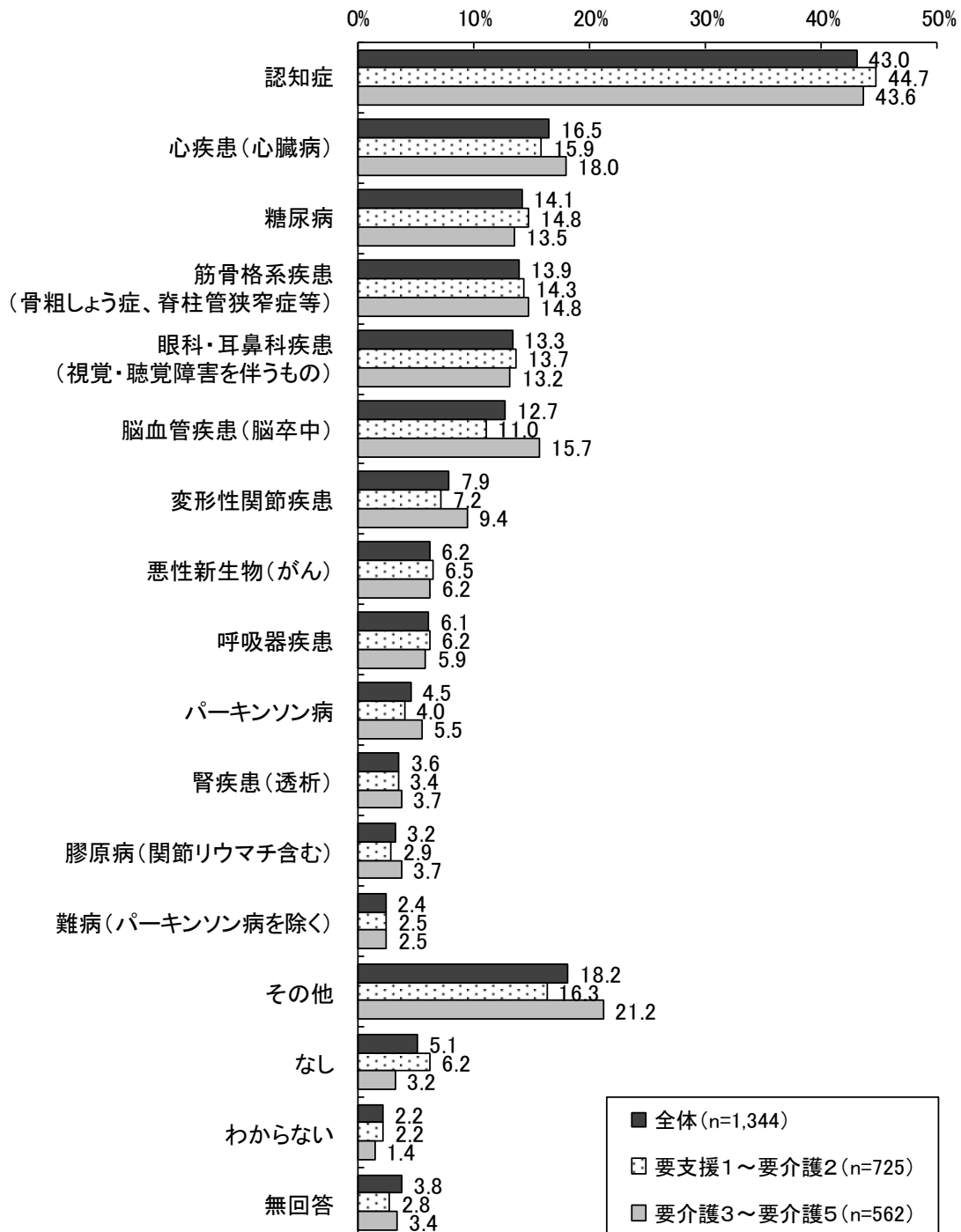


図 1-13 現在抱えている傷病

全体では、「認知症」が4割台前半で最も高くなっている。



【要介護度別】現在抱えている傷病

単位：％

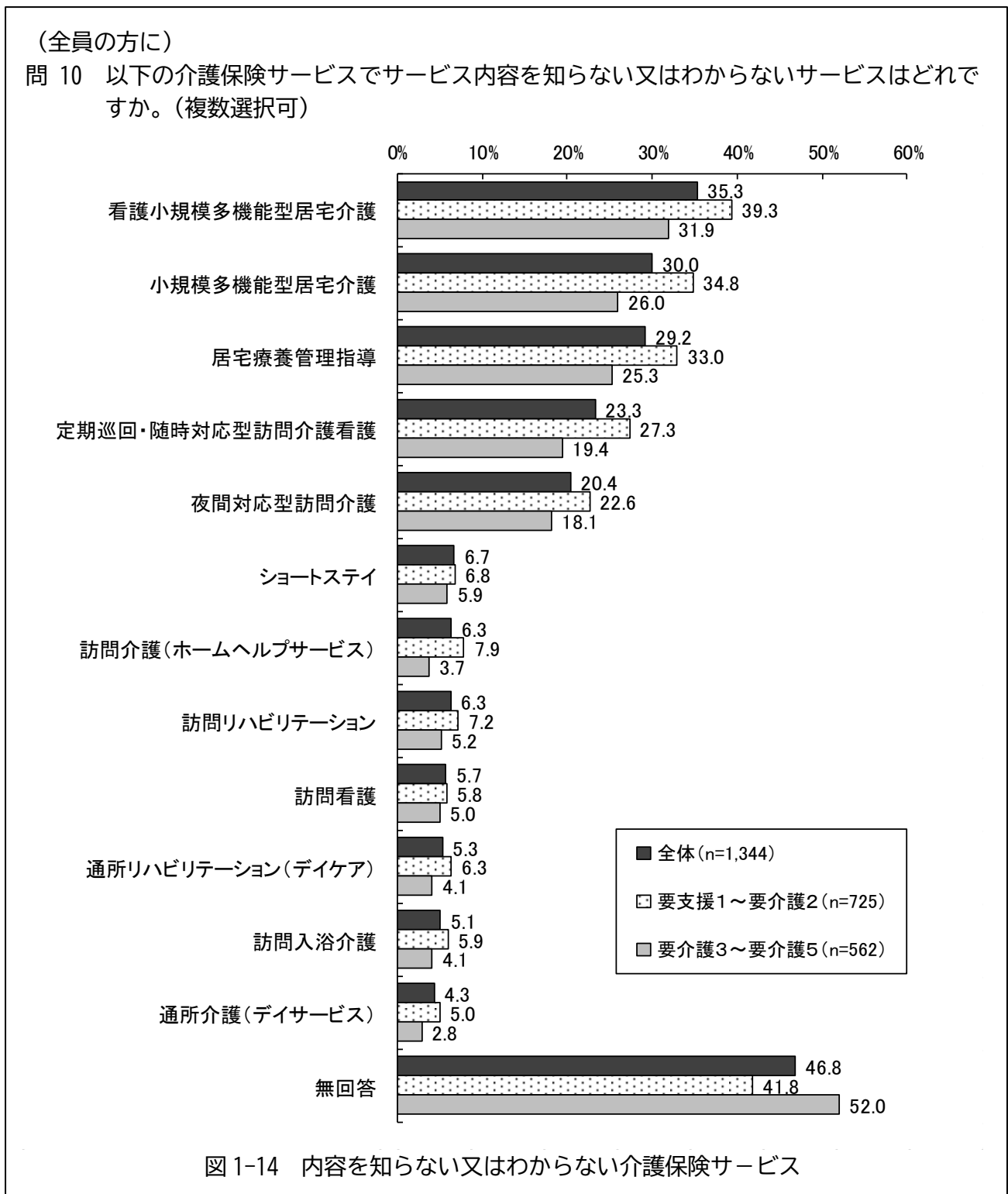
	有効回答数(件)	認知症	心疾患(心臓病)	糖尿病	筋骨格系疾患 (骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)	眼科・耳鼻科疾患 (視覚・聴覚障害を伴うもの)	脳血管疾患(脳卒中)	変形性関節疾患	悪性新生物(がん)	呼吸器疾患
全体	1,344	43.0	16.5	14.1	13.9	13.3	12.7	7.9	6.2	6.1
要支援1	57	29.8	7.0	15.8	12.3	10.5	8.8	1.8	3.5	1.8
要支援2	52	30.8	19.2	11.5	15.4	13.5	9.6	5.8	3.8	9.6
要介護1	322	55.9	16.8	15.8	12.7	15.2	9.0	7.8	6.2	5.3
要介護2	294	37.8	16.0	13.9	16.3	12.6	13.9	7.8	7.8	7.5
要介護3	210	41.4	20.0	12.9	18.1	10.5	12.9	8.1	7.1	4.8
要介護4	209	42.1	20.1	15.8	16.3	17.2	15.3	12.4	5.3	6.7
要介護5	143	49.0	11.9	11.2	7.7	11.2	20.3	7.0	6.3	6.3
わからない	19	0.0	15.8	31.6	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	10.5

	有効回答数(件)	パーキンソン病	腎疾患(透析)	膠原病(関節リウマチ含む)	難病(パーキンソン病を除く)	その他	なし	わからない	無回答
全体	1,344	4.5	3.6	3.2	2.4	18.2	5.1	2.2	3.8
要支援1	57	1.8	1.8	1.8	1.8	15.8	15.8	1.8	10.5
要支援2	52	1.9	9.6	5.8	0.0	11.5	3.8	3.8	3.8
要介護1	322	3.7	2.2	2.8	2.2	15.5	7.1	2.5	2.2
要介護2	294	5.1	4.1	2.7	3.4	18.0	3.7	1.7	1.7
要介護3	210	3.8	2.9	3.8	1.9	20.0	3.3	1.9	3.3
要介護4	209	5.7	4.8	5.3	1.4	21.1	2.9	1.4	3.8
要介護5	143	7.7	3.5	1.4	4.9	23.1	3.5	0.7	2.8
わからない	19	0.0	0.0	0.0	0.0	15.8	15.8	21.1	5.3

要介護度別では、要支援1～要介護5まで、いずれも「認知症」が最も高くなっている。

1.10. 内容を知らない又はわからない介護保険サービス

◆ 「看護小規模多機能型居宅介護」が3割台半ば



全体では、「看護小規模多機能型居宅介護」が3割台半ばで最も高く、次いで「小規模多機能型居宅介護」と「居宅療養管理指導」が約3割となっている。

要介護度別では、要支援1～要介護2で各サービスの認知度が低くなっている。

1.11. 介護保険サービス利用の有無（令和4年10月）

◆ 「利用した」が約6割

（全員の方に）

問 11 令和4年10月の1か月の間に、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用しましたか。（1つを選択）

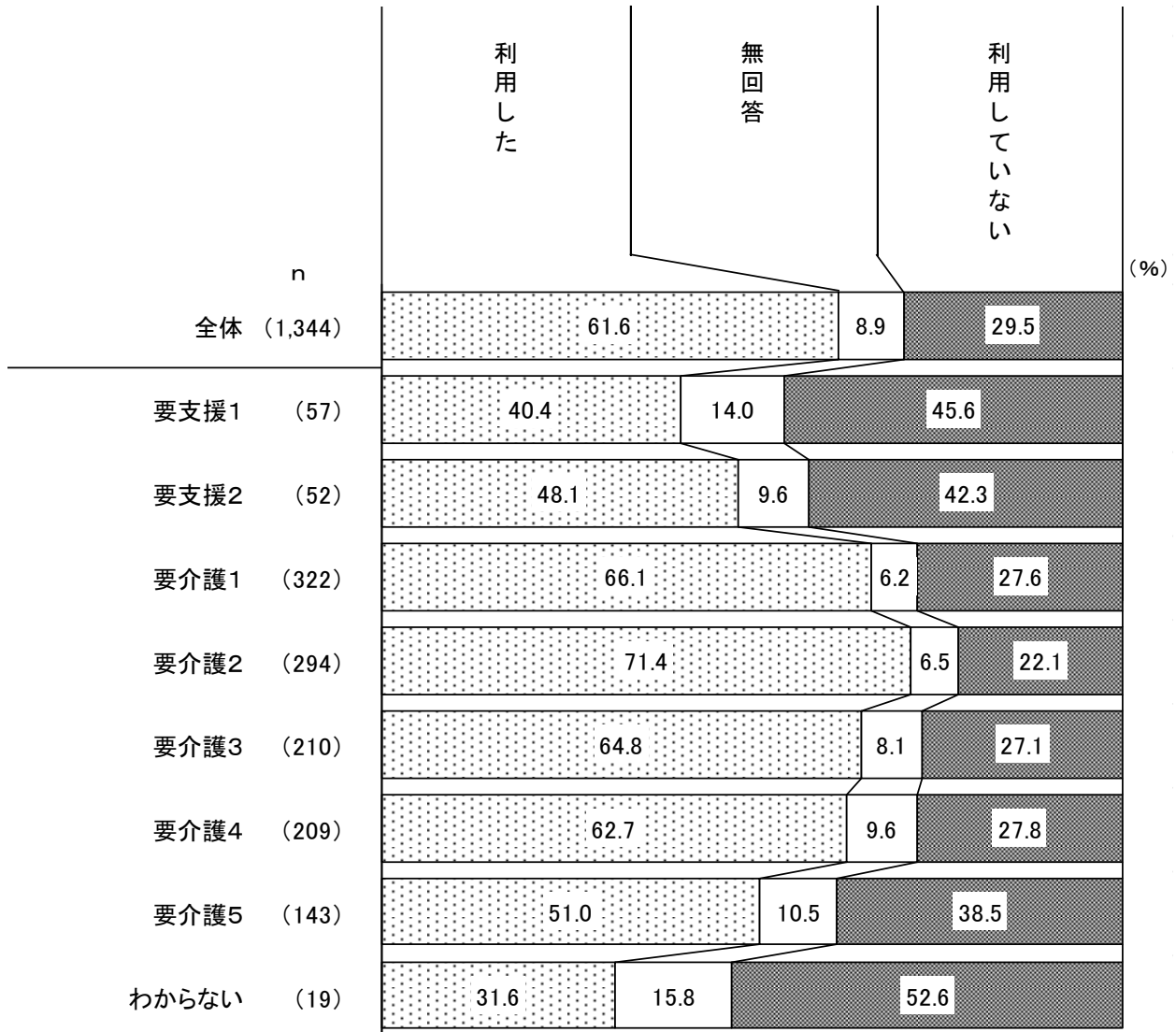
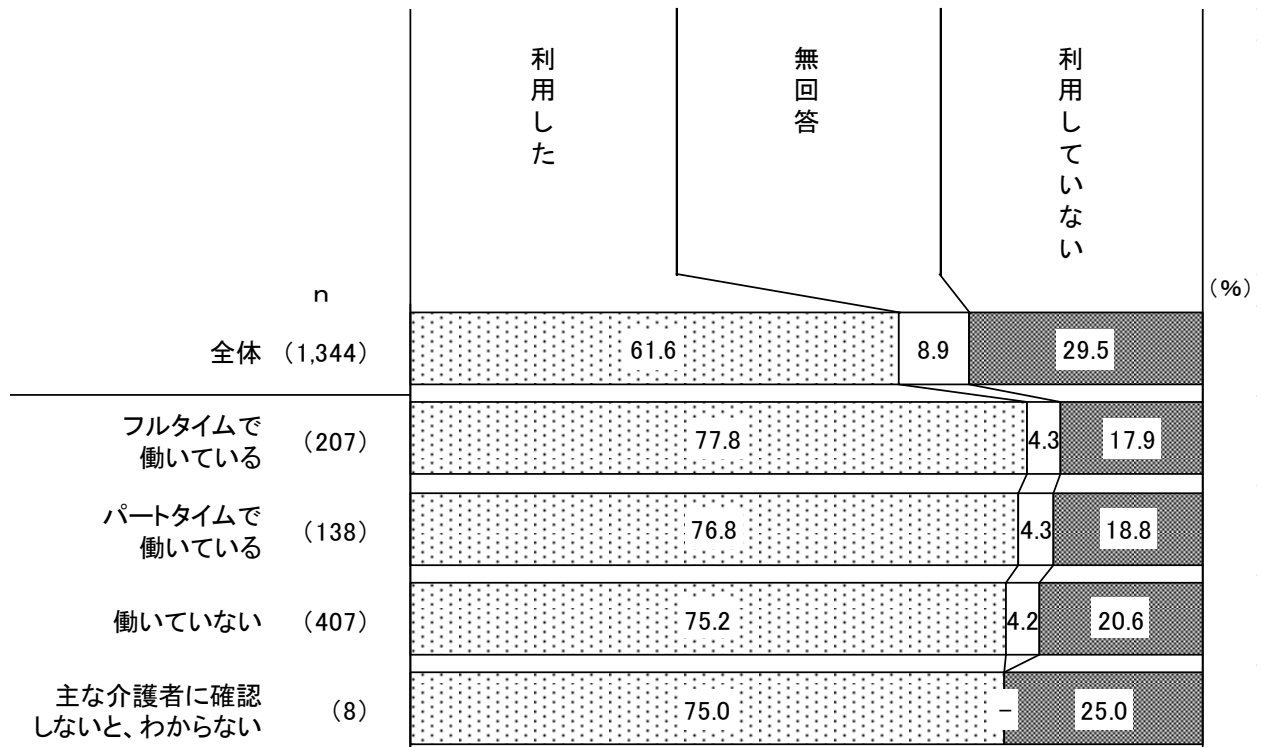


図 1-15 介護保険サービス利用の有無（令和4年10月）

全体では、「利用した」が約6割となっている。

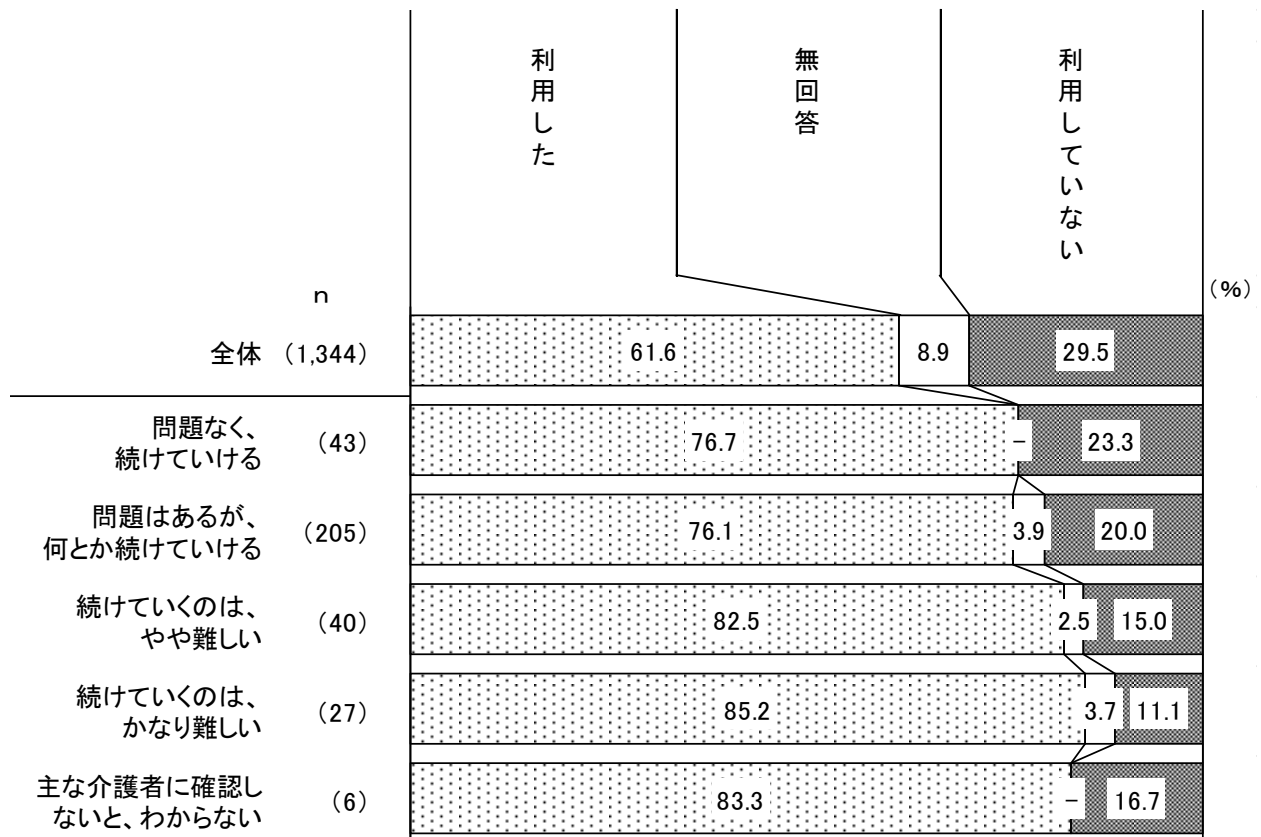
状態別では、「利用した」が要介護2では約7割、要介護1と3では6割台半ばを占めている。

【介護者の就労形態別】介護保険サービス利用の有無（令和4年10月）



介護者の就労形態別では、就労形態や就労状況に関わらず「利用した」が高くなっている。

【就労している介護者の今後の介護の見通し別】介護保険サービス利用の有無（令和4年10月）



就労している介護者の今後の介護の見通し別では、続けていくのは、かなり難しい・やや難しいと回答した人では「利用した」が8割を超えている。

1.12. 介護保険サービス

1.12.1. 介護保険サービスの利用状況（令和4年10月）

◆ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護で、「利用していない」が6割台半ばから6割台後半

（問11で「利用した」と回答した方に）

問12A 以下の介護保険サービスについて、令和4年10月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない」を選択してください。（それぞれ1つを選択）

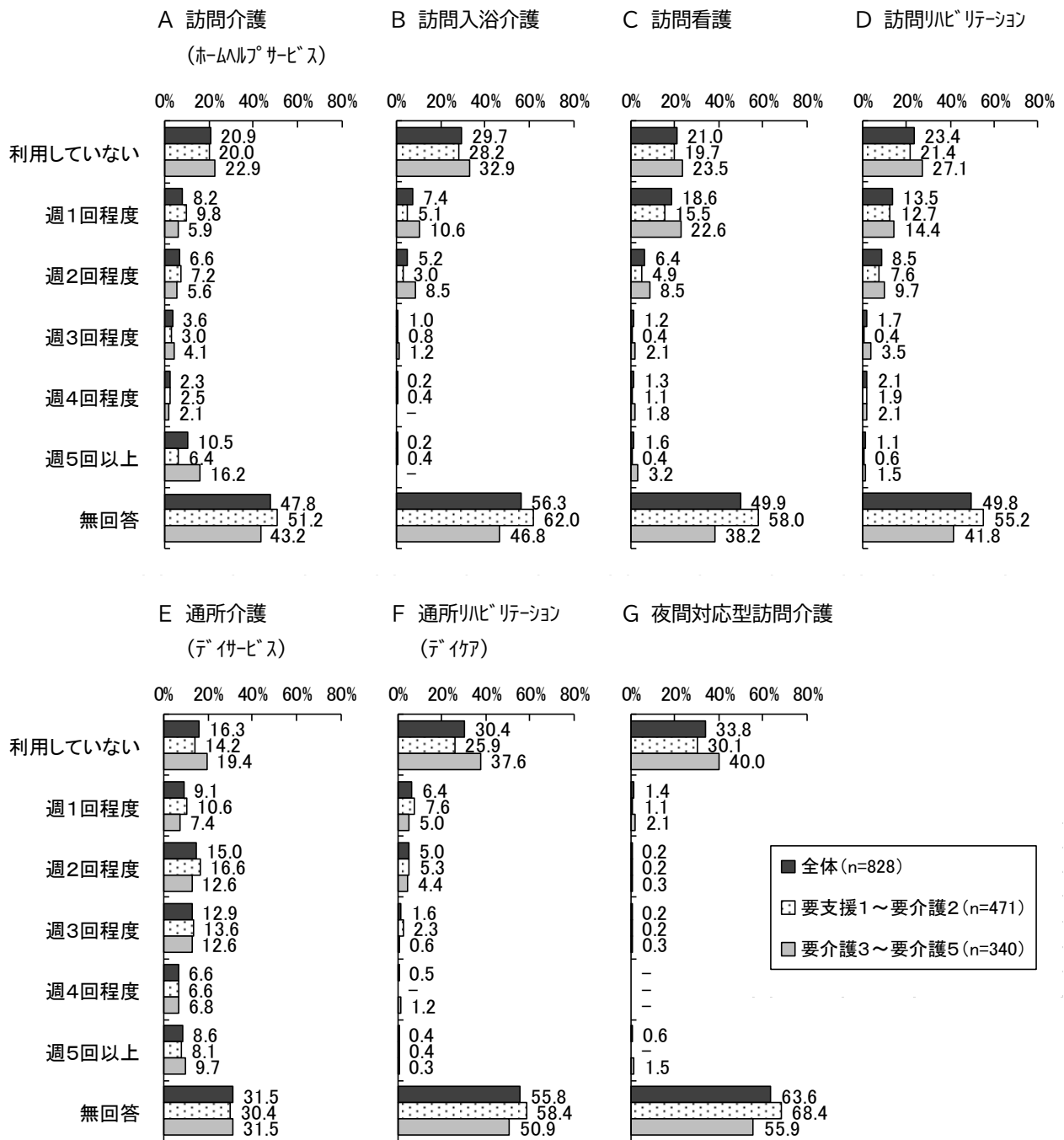


図1-16 介護保険サービスの利用状況（令和4年10月）

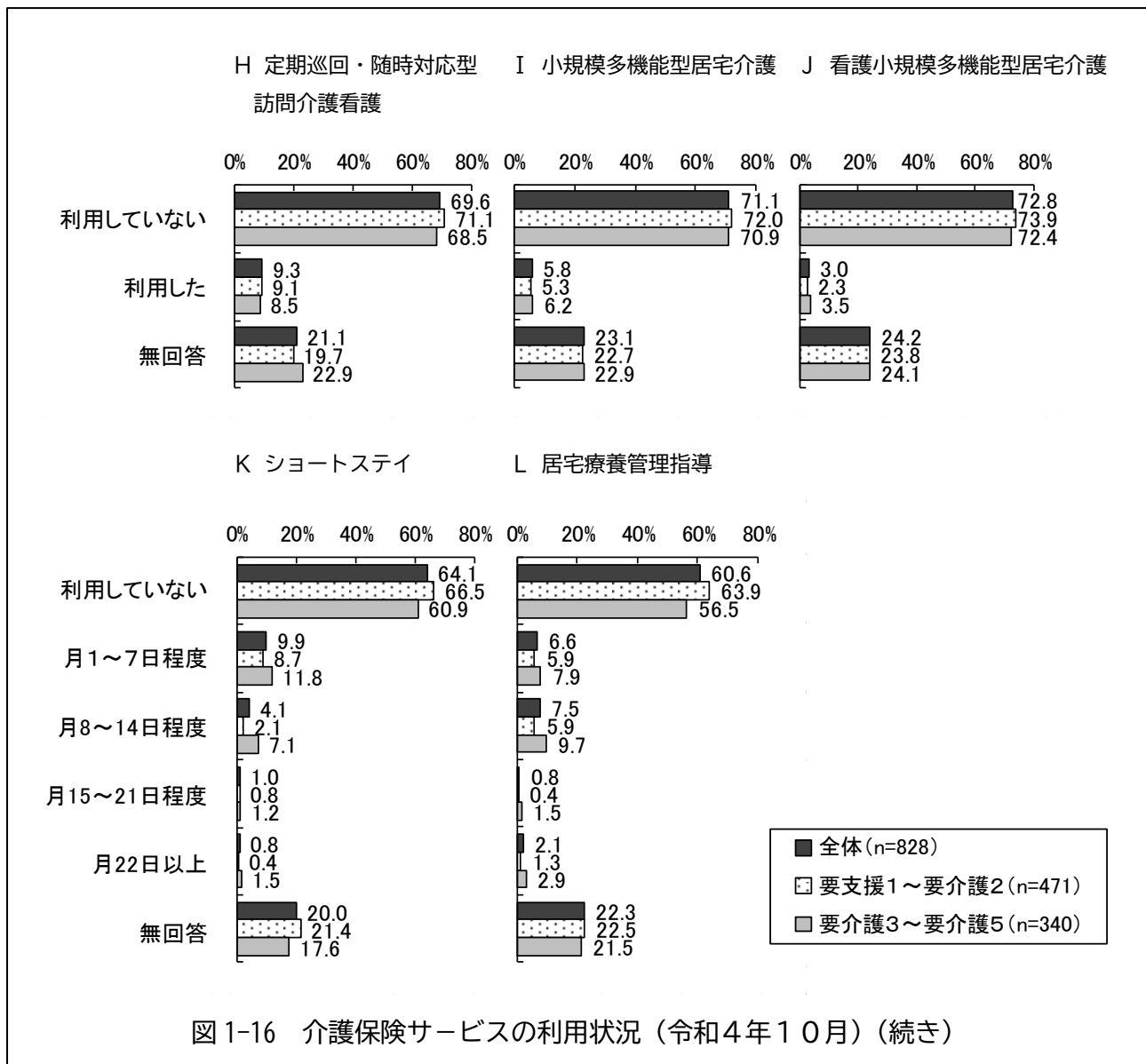


図 1-16 介護保険サービスの利用状況（令和4年10月）（続き）

全体では、いずれのサービスも「利用していない」が最も高くなっている。  
 利用のあるサービスでは、通所介護や訪問介護、訪問看護や訪問リハビリテーションなどが高くなっている。

1.12.2. ケアプランへの不満

◆ 「不満な点はない」が5割台半ば

(問11で「利用した」と回答した方に)

問12B あなたが、ケアプランについて不満と思うことを次の中から選んでください。  
(複数選択可)

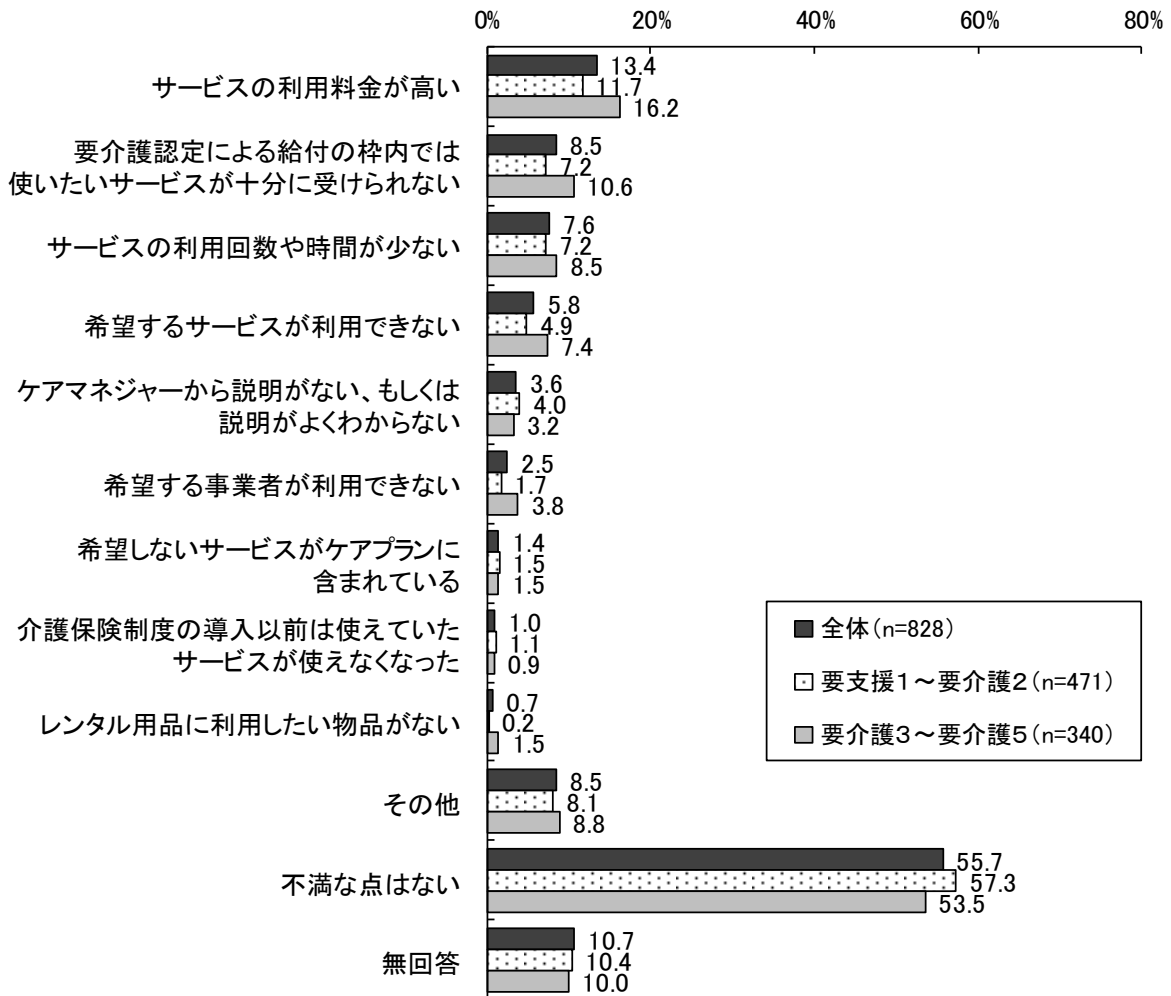


図1-17 ケアプランへの不満

全体では、「不満な点はない」が5割台半ばを占めている。

不満と思うことは、「サービスの利用料金が高い」が1割台前半で最も多く、次いで「要介護認定による給付の枠内では使いたいサービスが十分に受けられない」となっている。

要介護度別では、要介護3～要介護5で上位4項目の割合が高くなっている。

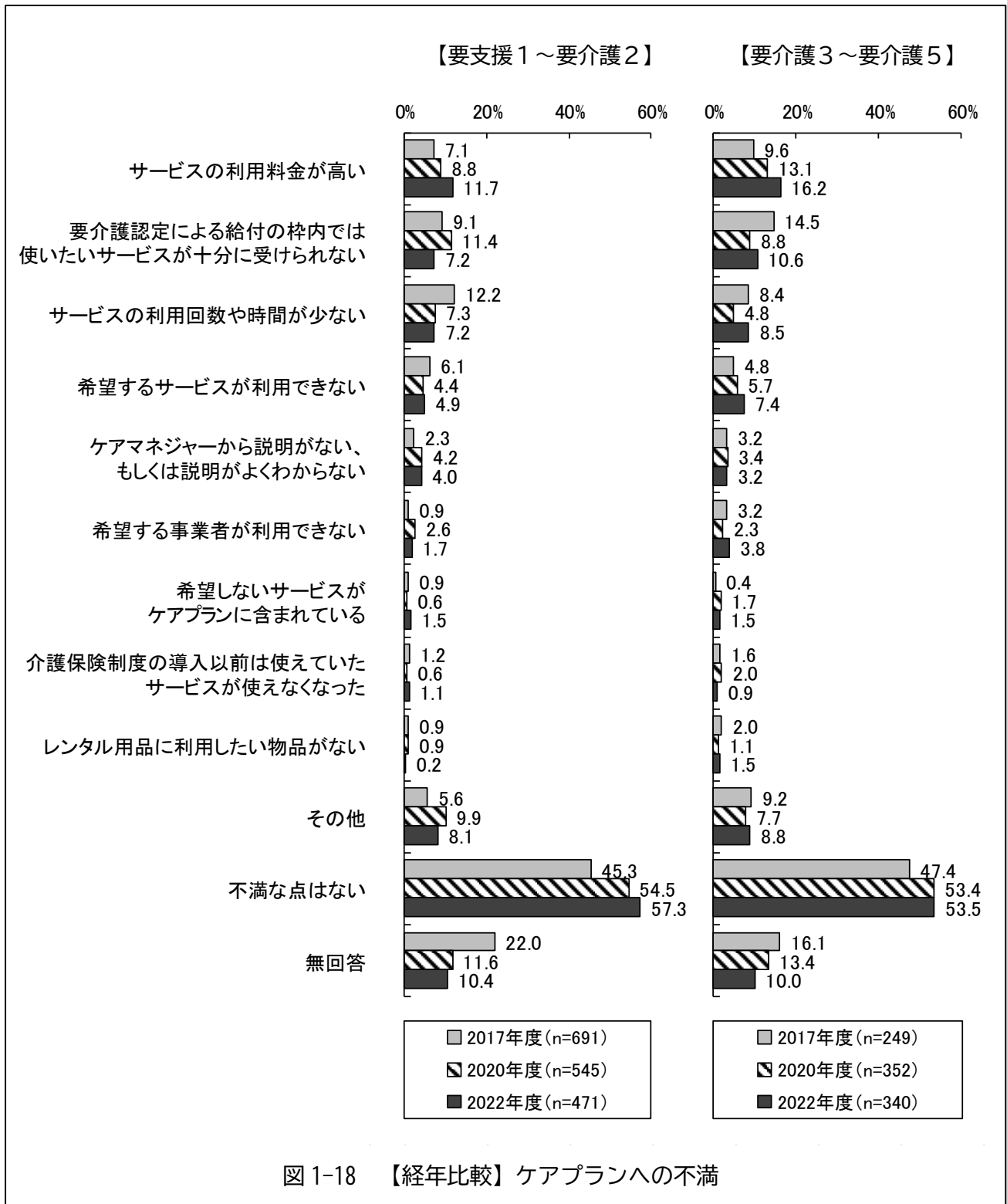


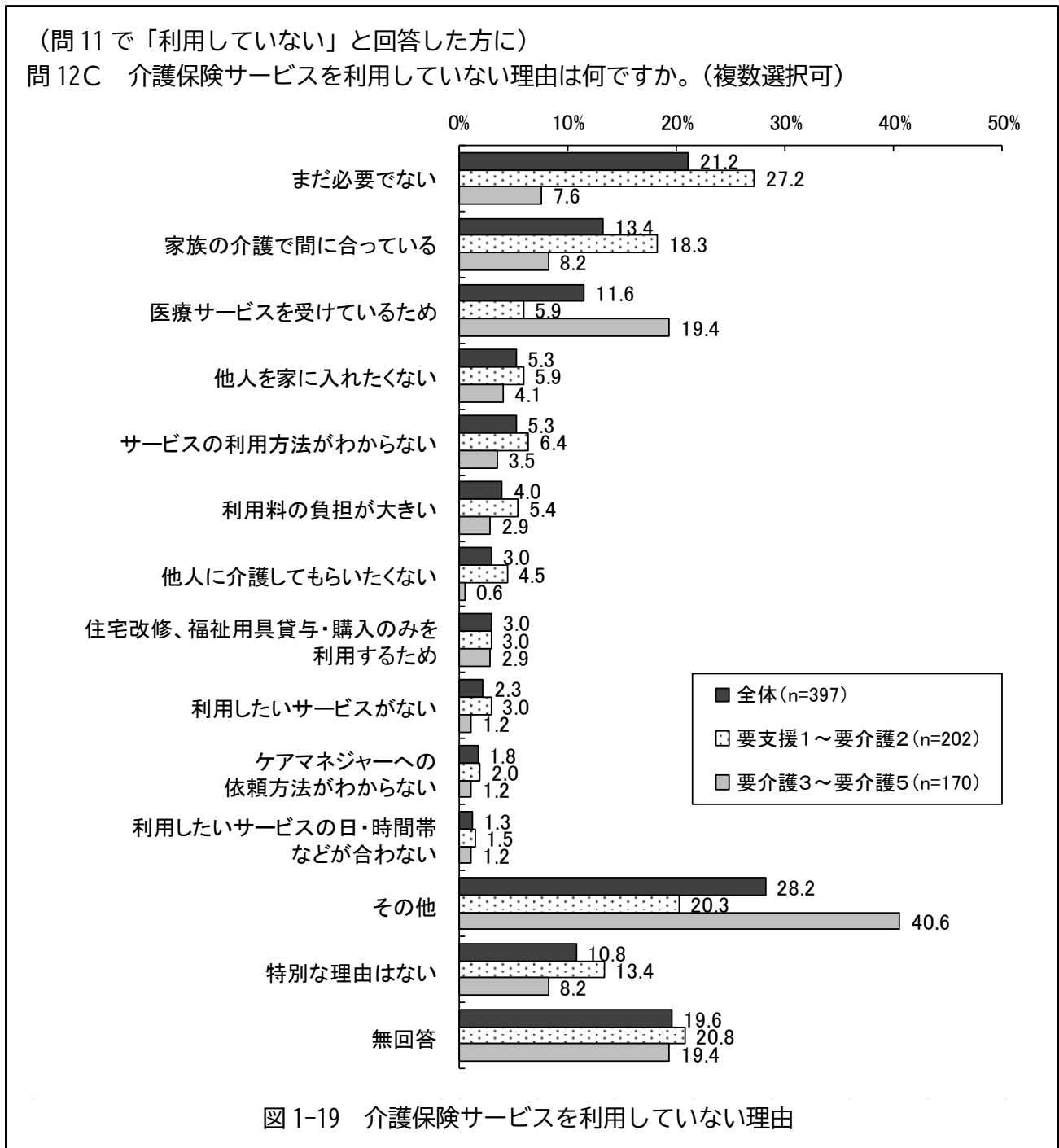
図 1-18 【経年比較】ケアプランへの不満

経年比較では、要支援1～要介護2と要介護3～要介護5ともに「不満な点はない」が増加している。一方、「サービスの利用料金が低い」は年々増加している。



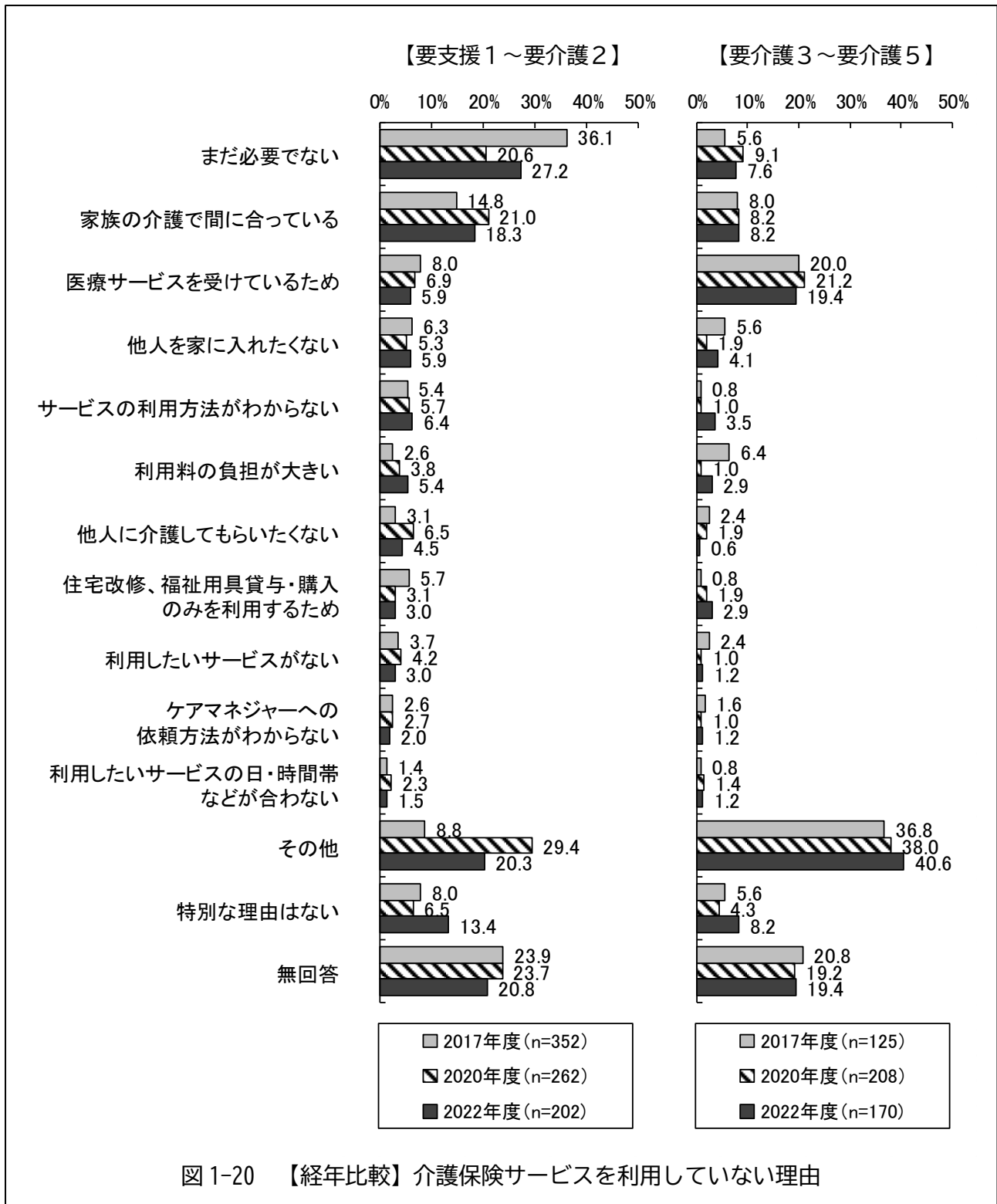
1.12.3. 介護保険サービスを利用していない理由

◆ 「まだ必要でない」が約2割



全体では、「まだ必要ではない」が約2割で最も高くなっている。

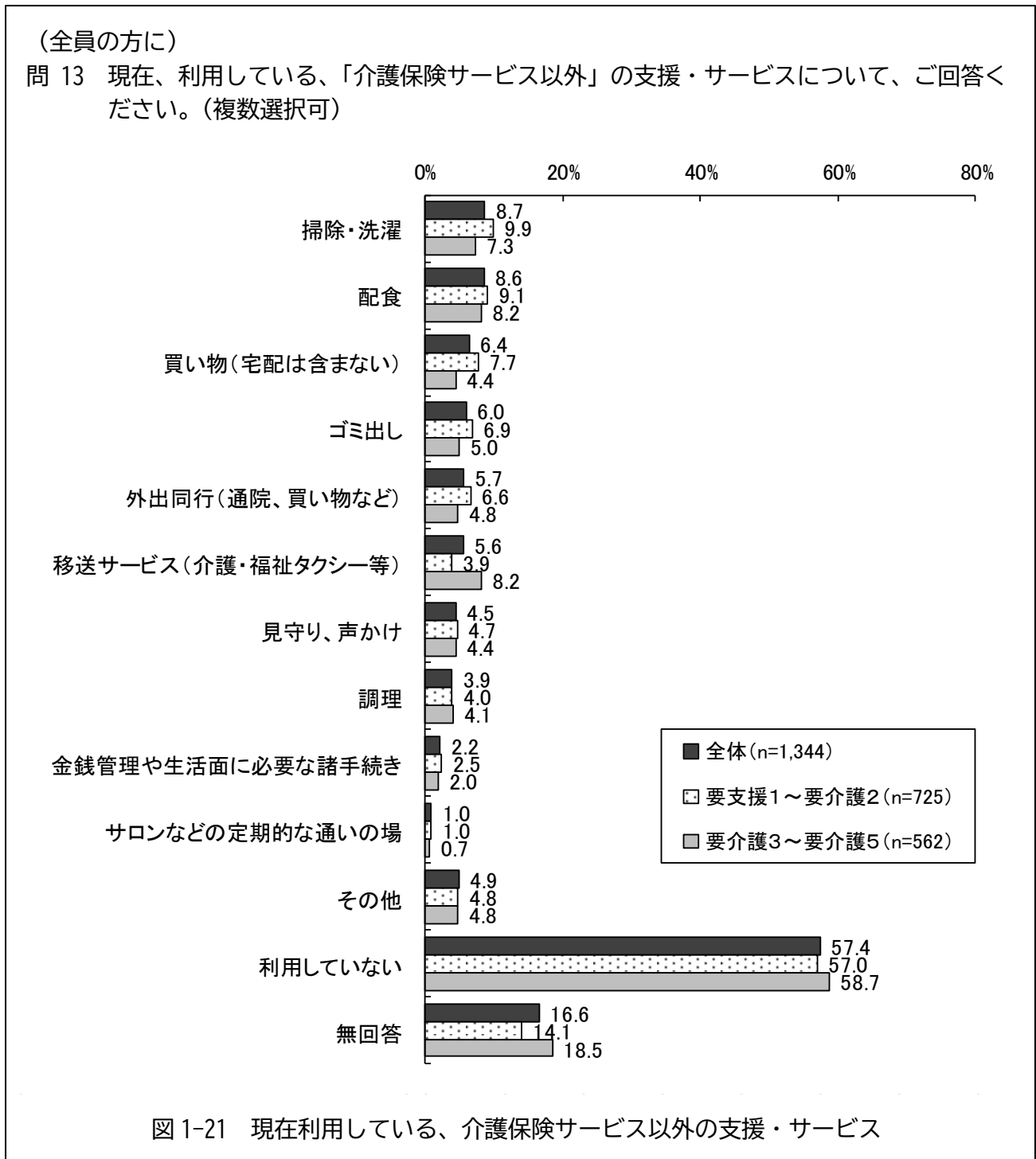
要介護度別では、要支援1～要介護2で「まだ必要でない」が最も高く、要介護3～要介護5で「医療サービスを受けているため」が最も高くなっている。



経年比較では、要支援1～要介護2で「まだ必要でない」が6.6ポイント増加している。

1.13. 現在利用している、介護保険サービス以外の支援・サービス

◆ 「利用していない」が5割台後半



全体では、「利用していない」が5割台後半を占めている。

利用している内容について、要介護度別では、要支援1～要介護2は「掃除・洗濯」が最も高く、要介護3～要介護5は「配食」と「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が最も高くなっている。

【要介護度別】現在利用している、介護保険サービス以外の支援・サービス

単位：%

	有効回答数(件)	掃除・洗濯	配食	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	移送サービス(介護・福祉タクシー等)	見守り、声かけ	調理	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	サロンなどの定期的な通いの場	その他	利用していない	無回答
全体	1,344	8.7	8.6	6.4	6.0	5.7	5.6	4.5	3.9	2.2	1.0	4.9	57.4	16.6
要支援1	57	5.3	3.5	10.5	1.8	8.8	0.0	5.3	7.0	3.5	0.0	1.8	57.9	17.5
要支援2	52	9.6	13.5	11.5	11.5	1.9	5.8	3.8	9.6	3.8	1.9	7.7	48.1	19.2
要介護1	322	9.0	8.4	6.8	6.5	7.8	2.8	5.3	4.7	3.1	1.2	4.3	60.2	12.7
要介護2	294	11.9	10.2	7.5	7.5	5.8	5.4	4.1	1.7	1.4	0.7	5.4	54.8	13.9
要介護3	210	9.0	8.6	6.2	5.2	6.7	6.2	3.8	3.8	2.4	1.0	4.3	61.4	13.3
要介護4	209	6.2	8.1	2.9	5.3	5.3	9.1	2.9	3.3	1.4	0.5	5.7	57.4	21.1
要介護5	143	6.3	7.7	4.2	4.2	1.4	9.8	7.7	5.6	2.1	0.7	4.2	56.6	22.4
わからない	19	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	68.4	26.3

要介護度別では、いずれの区分でも「利用していない」が最も高くなっている。

利用している内容について、最も高い項目は、要支援1では「買い物(宅配は含まない)」、要支援2では「配食」、要介護1～3では「掃除・洗濯」、要介護4と5では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」となっている。

1.14. 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

◆ 「移送サービス」が約2割、「外出同行」が1割台後半

(全員の方に)

問14 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください。(複数選択可)

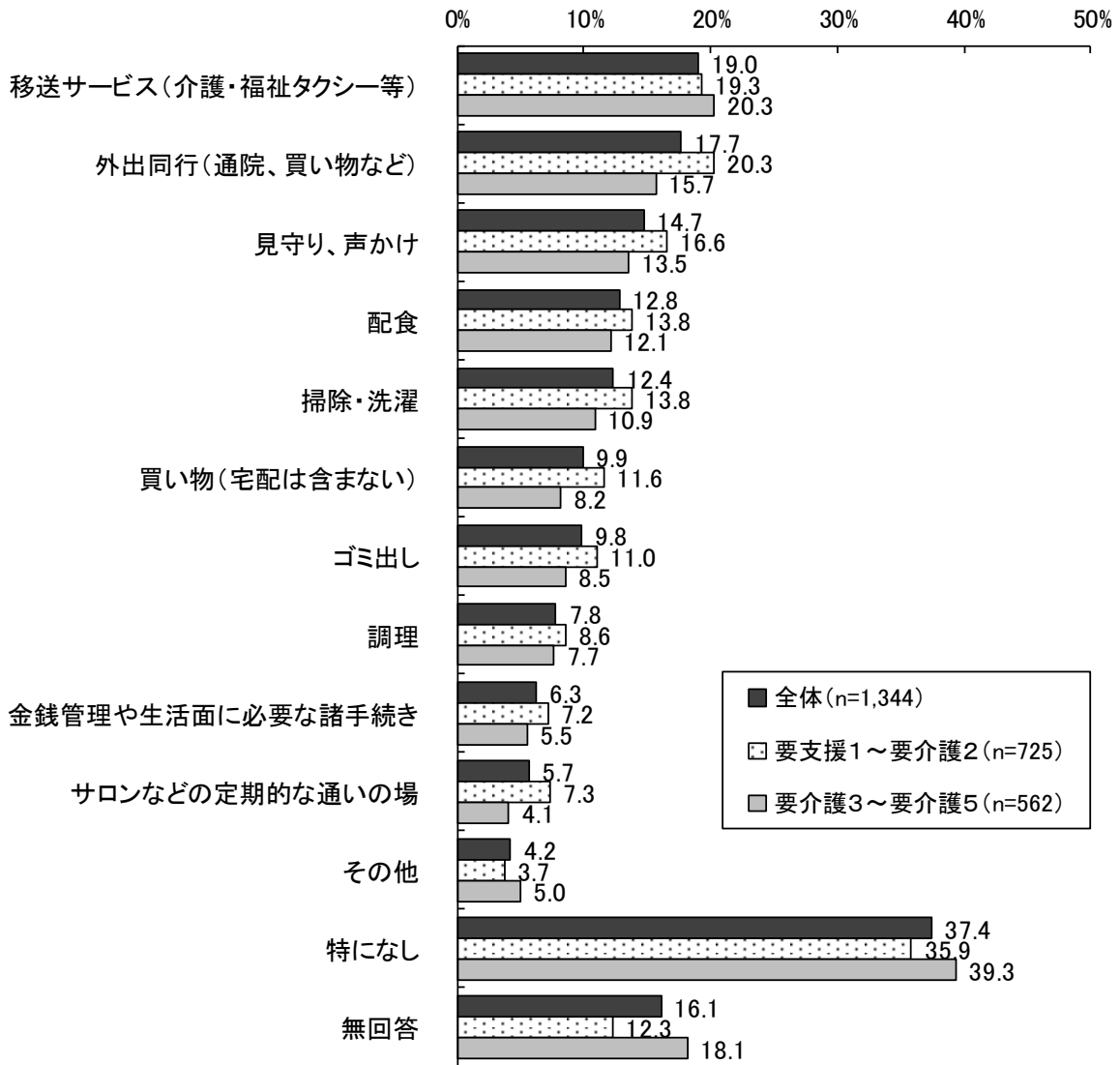


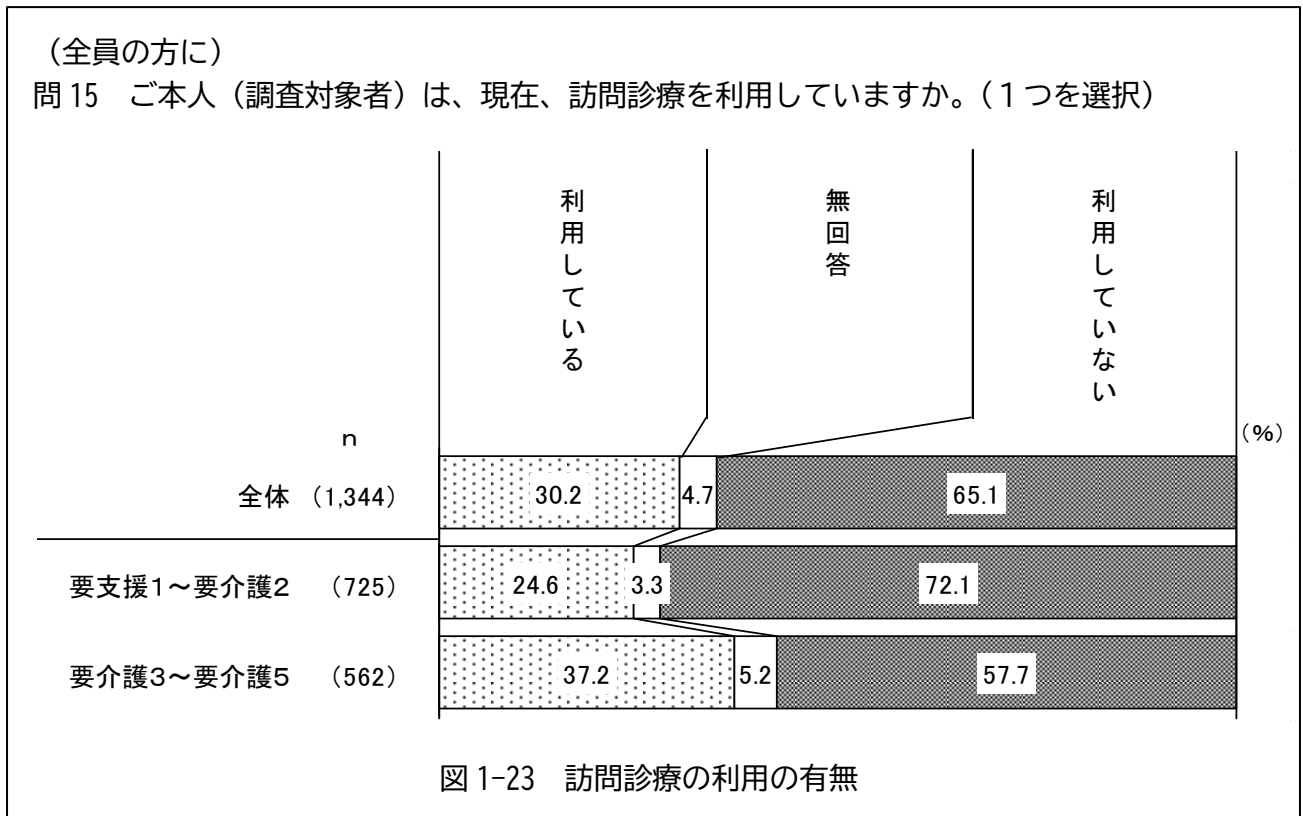
図1-22 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

全体では、「特になし」が3割台後半となっている。

必要としている内容について、要支援1～要介護2では「外出同行(通院、買い物など)」が最も高く、要介護3～要介護5では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が最も高くなっている。

1.15. 訪問診療の利用の有無

◆ 「利用していない」が6割台半ば

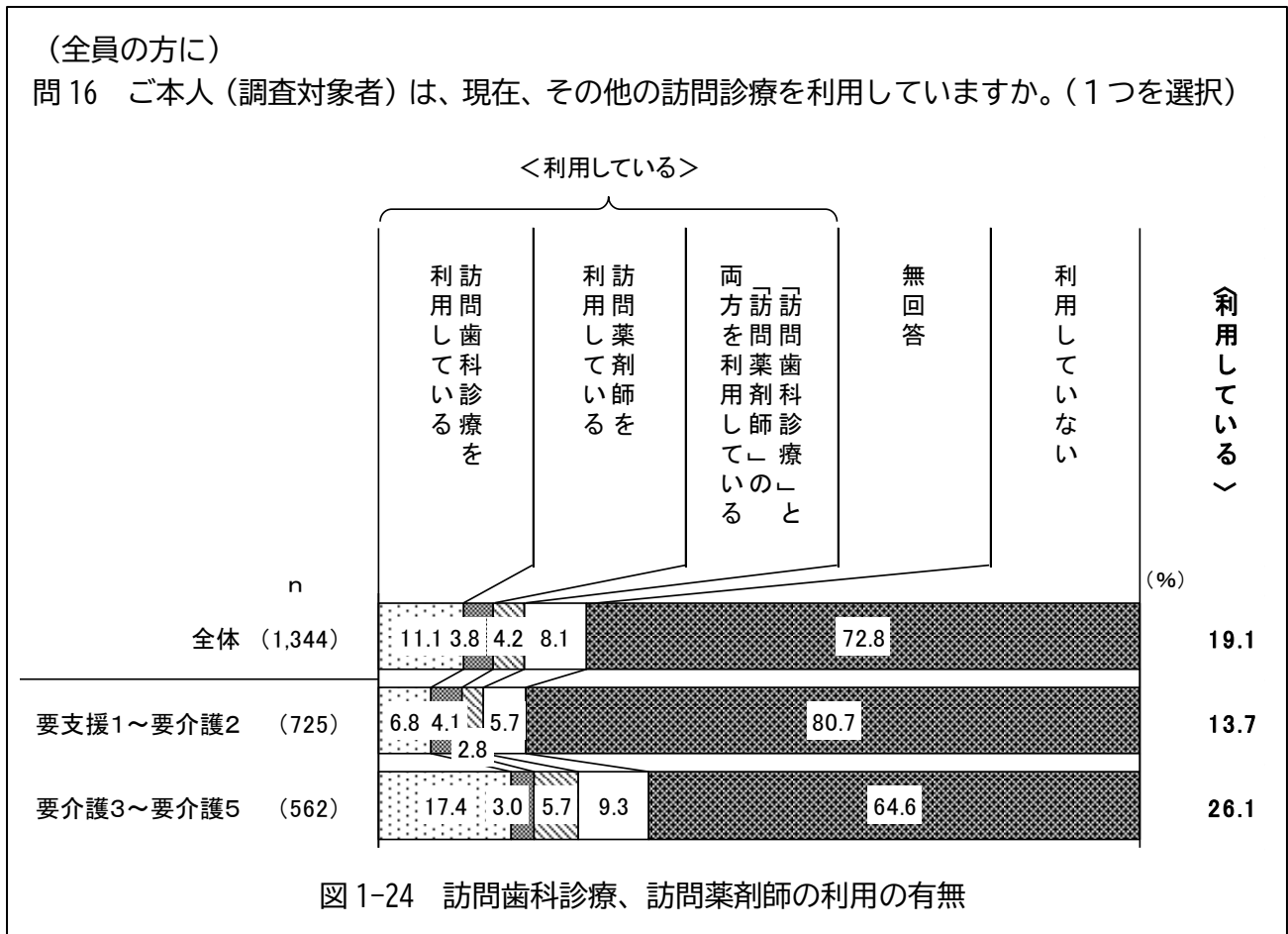


全体では、「利用していない」が6割台半ばを占めている。

要介護度別では、要介護3～要介護5で「利用している」が3割台後半で、要支援1～要介護2より高くなっている。

1.16. 訪問歯科診療、訪問薬剤師の利用の有無

◆ 「利用していない」が7割台前半

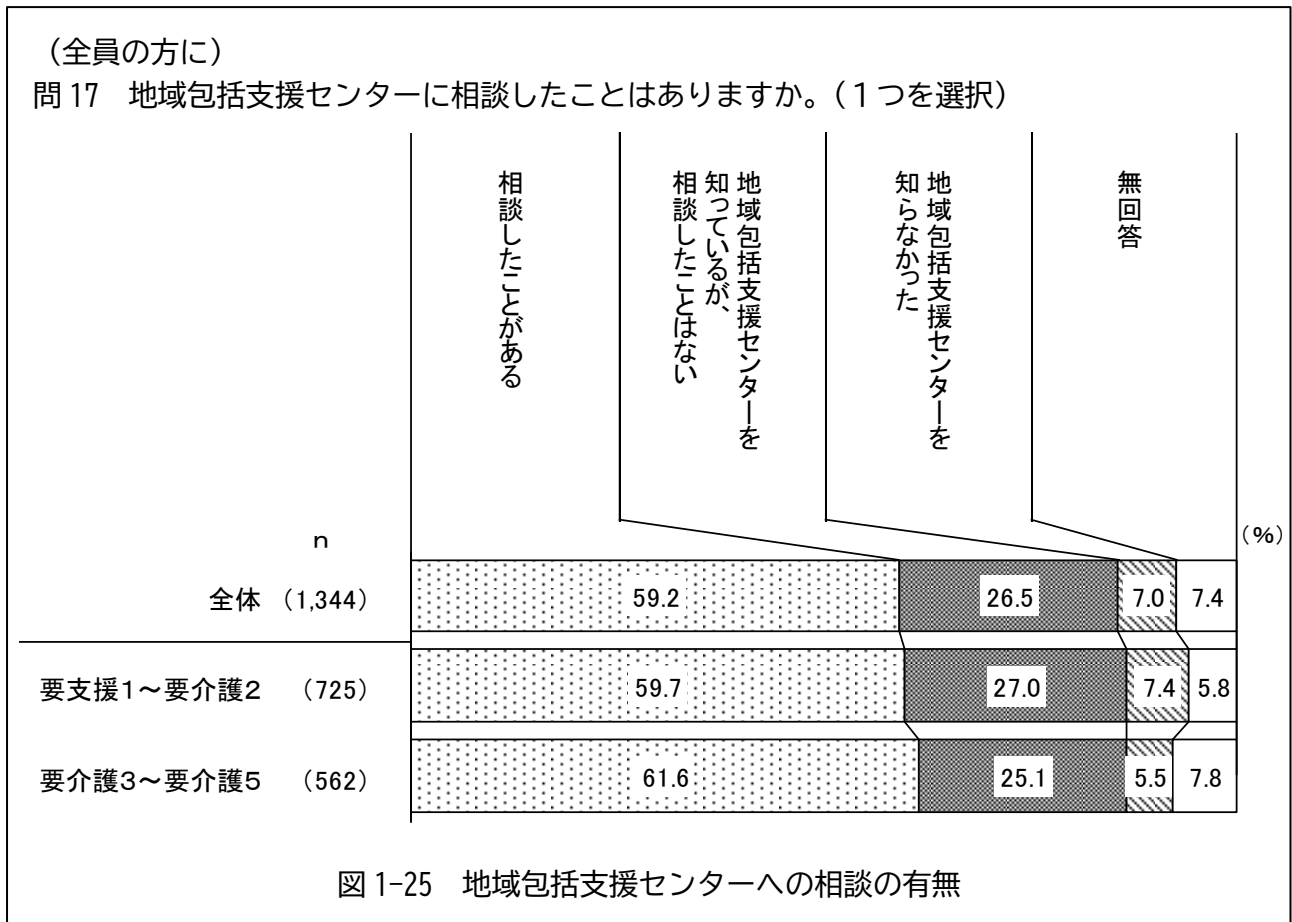


全体では、「利用していない」が7割台前半を占めている。

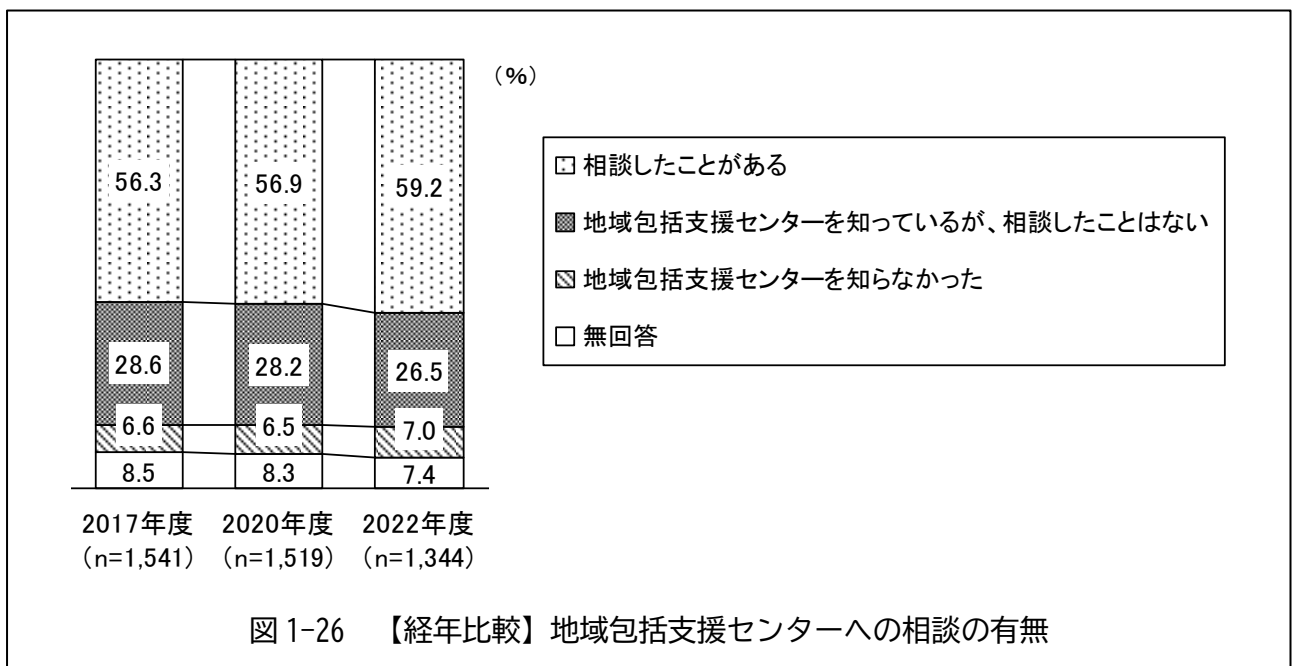
要介護度別では、要介護3～要介護5で「訪問歯科診療を利用している」が1割台後半で、要支援1～要介護2より高くなっている。

1.17. 地域包括支援センターへの相談の有無

◆ 「相談したことがある」が約6割



全体では、「相談したことがある」が約6割を占めている。  
要介護度別では、大きな差異はみられない。

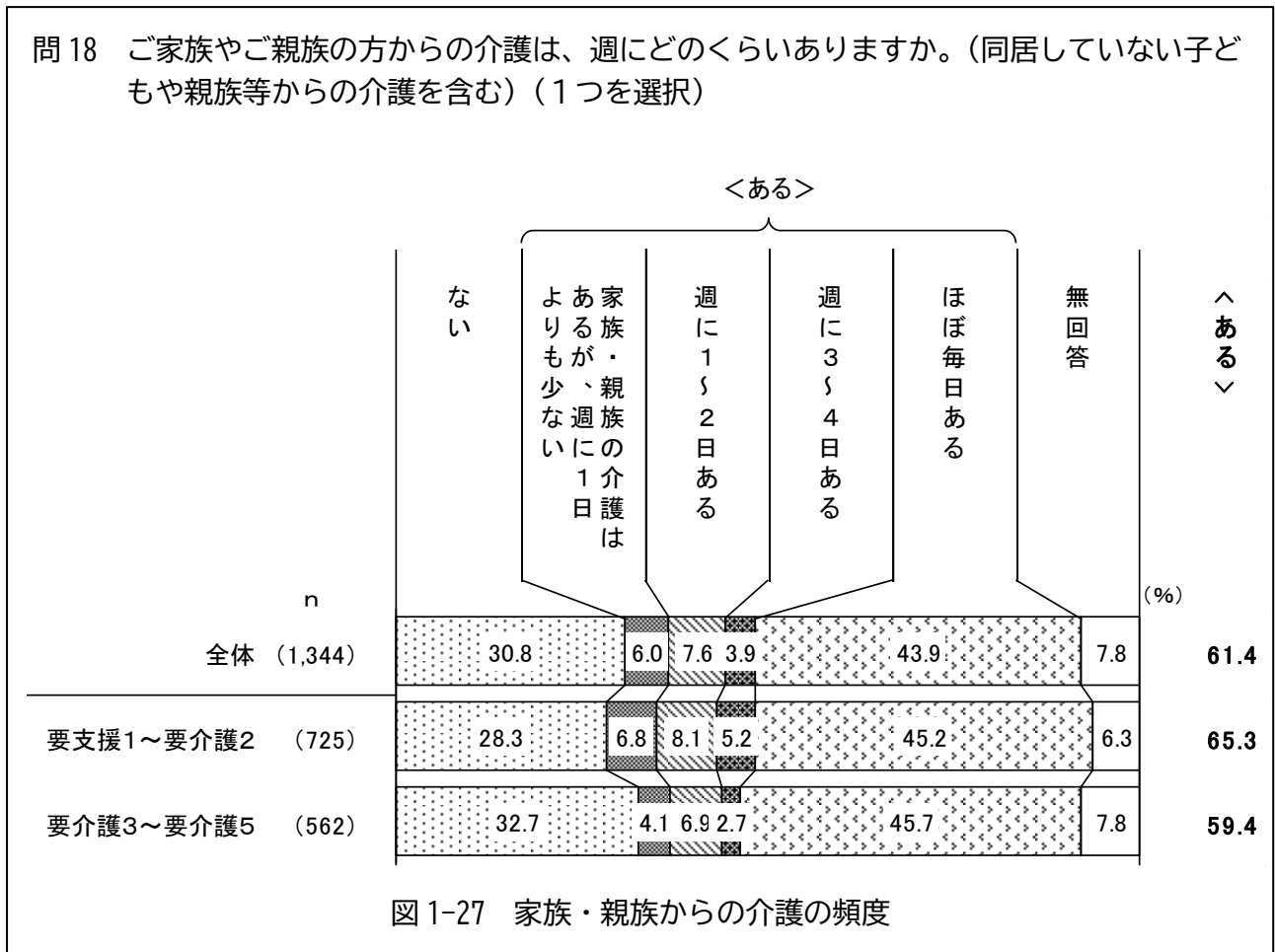


経年比較では、「相談したことがある」が年々増加している。



1.18. 家族・親族からの介護の頻度

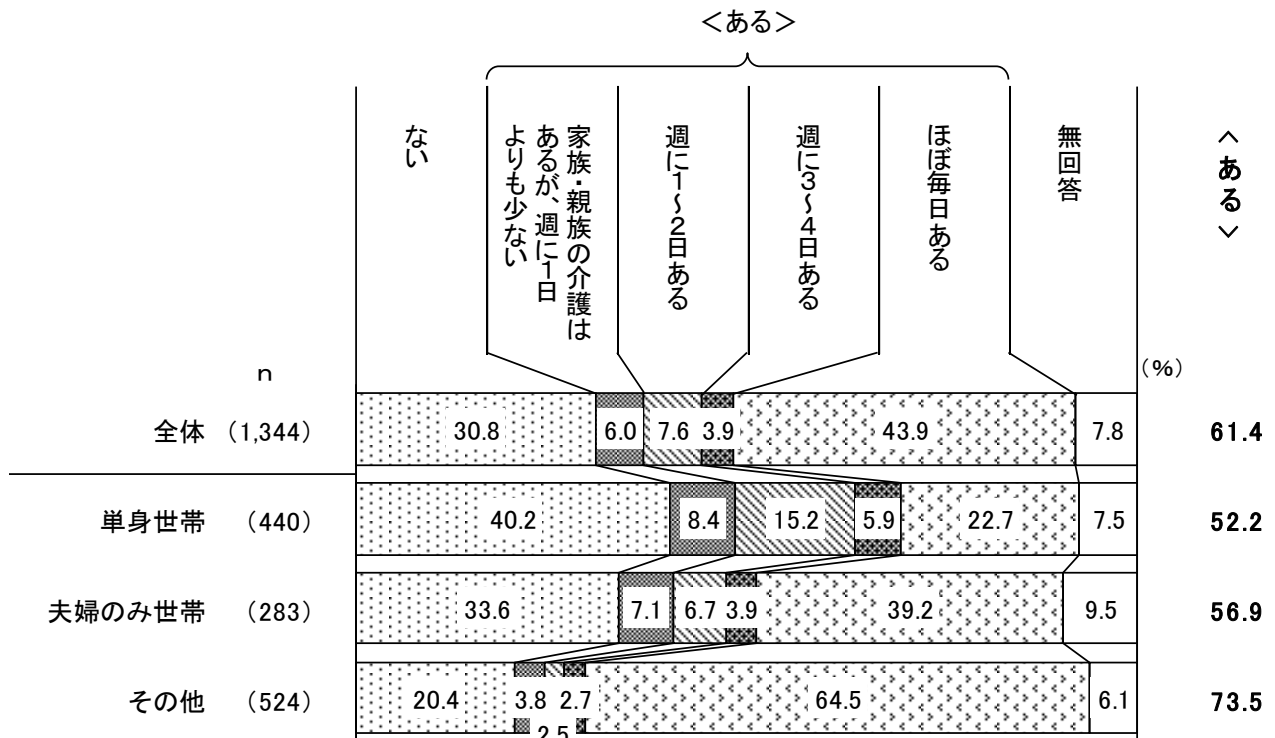
◆ 「ほぼ毎日ある」が4割台前半



全体では、「ほぼ毎日ある」が4割台前半で最も高く、頻度に関わらず<ある>との回答は約6割を占めている。

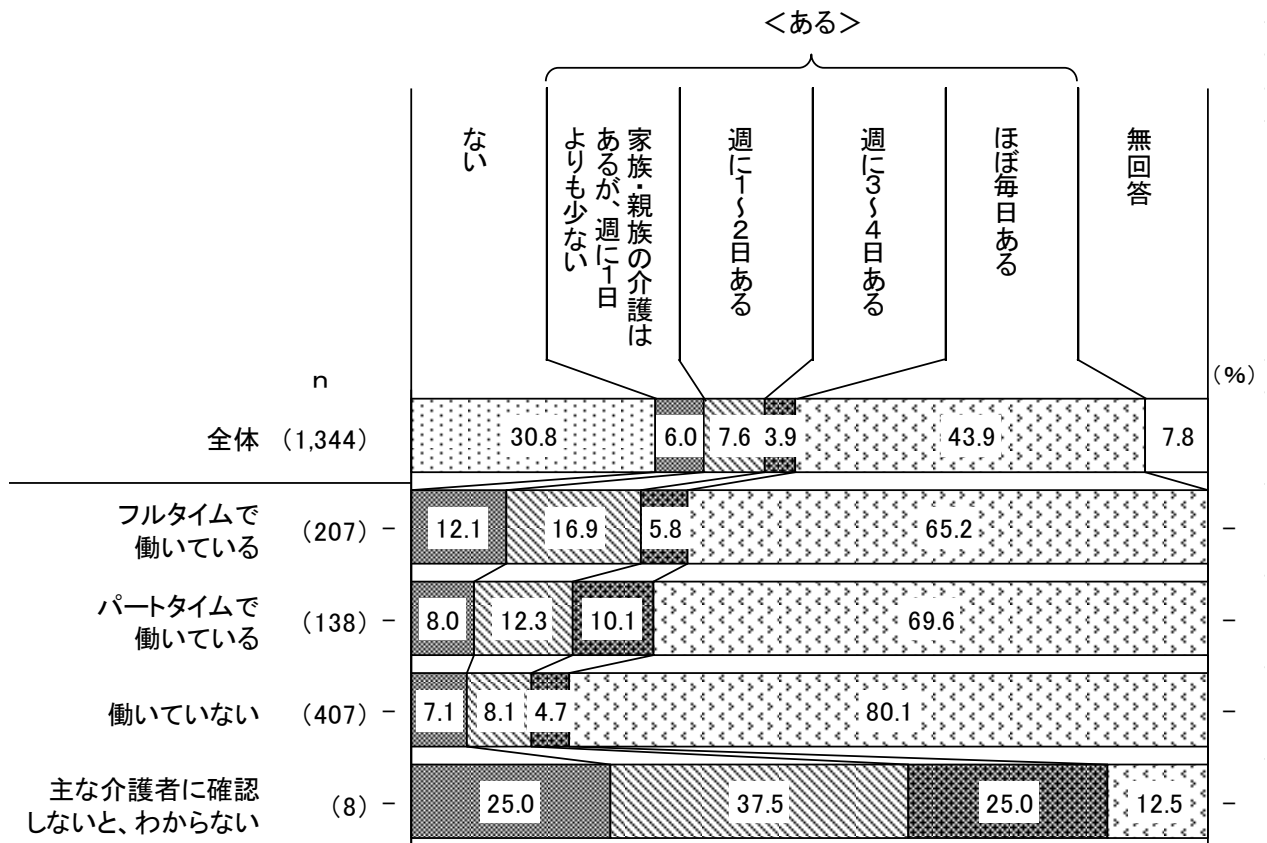
要介護度別では、要支援1～要介護2で<ある>が6割台半ばを占めており、要介護3～要介護5より高くなっている。

【家族構成別】家族・親族からの介護の頻度



家族構成別では、単身世帯で「ない」が約4割で、他の世帯より高くなっている。

【主な介護者の就労形態別】家族・親族からの介護の頻度

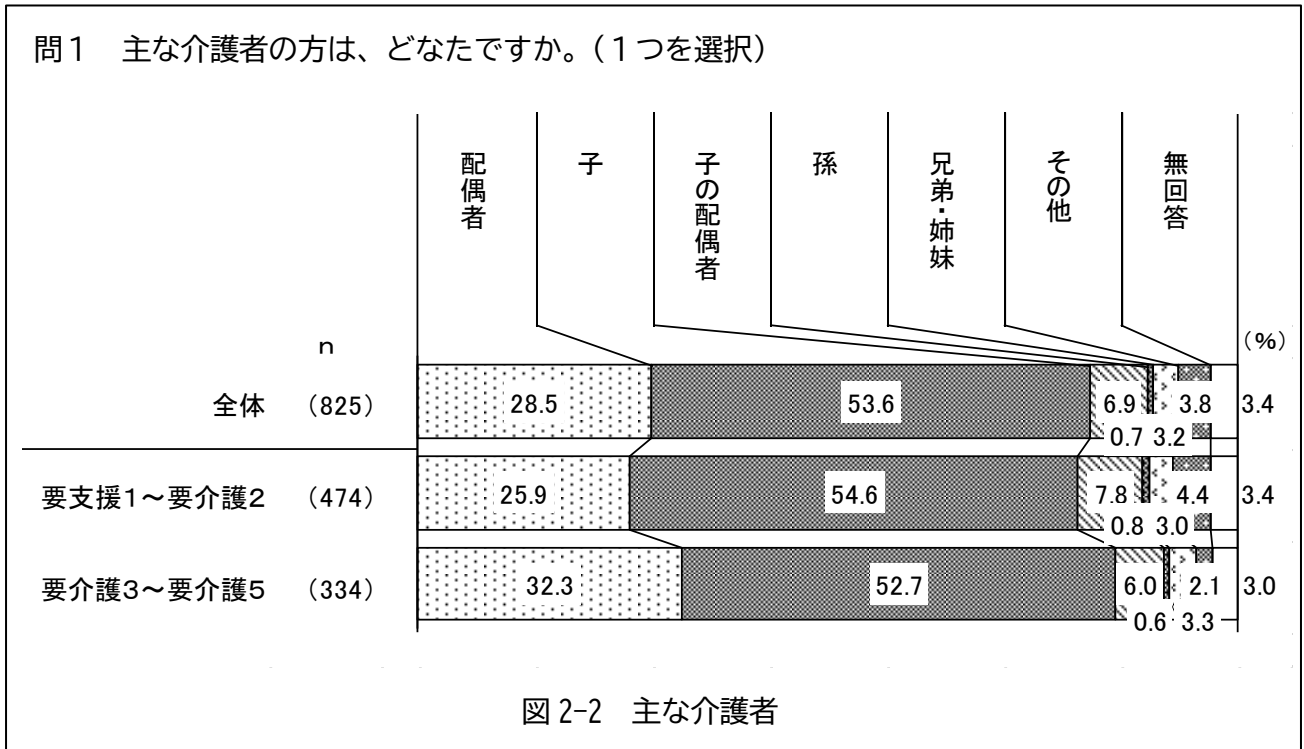


主な介護者の就労形態別では、働いていない世帯で「ほぼ毎日ある」が約8割を占めている。

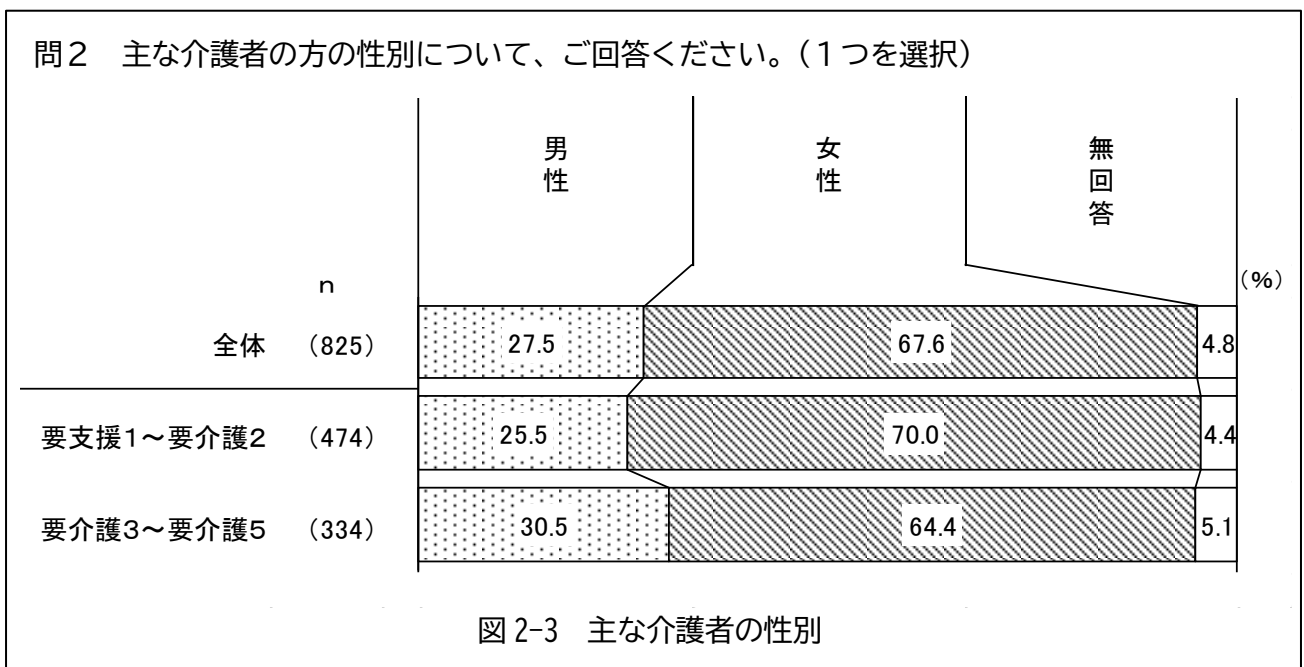
## 2. 主な介護者について

(※「1.18. 家族・親族からの介護の頻度」において、〈ある〉とお答えの方)

### 2.1. 主な介護者



### 2.2. 主な介護者の性別



2.3. 主な介護者の年齢

問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

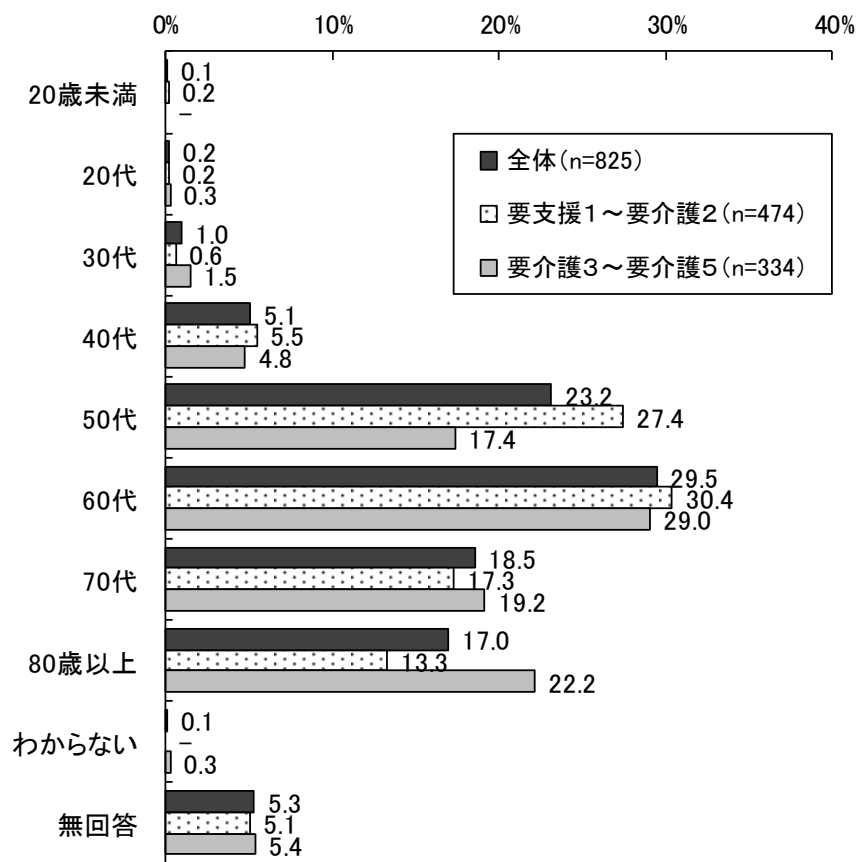


図 2-4 主な介護者の年齢

2.4. 介護を理由として、過去1年間の間に仕事を辞めた介助者の有無

◆ 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が約7割

問4 ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年間に仕事を辞めた方はいますか。（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

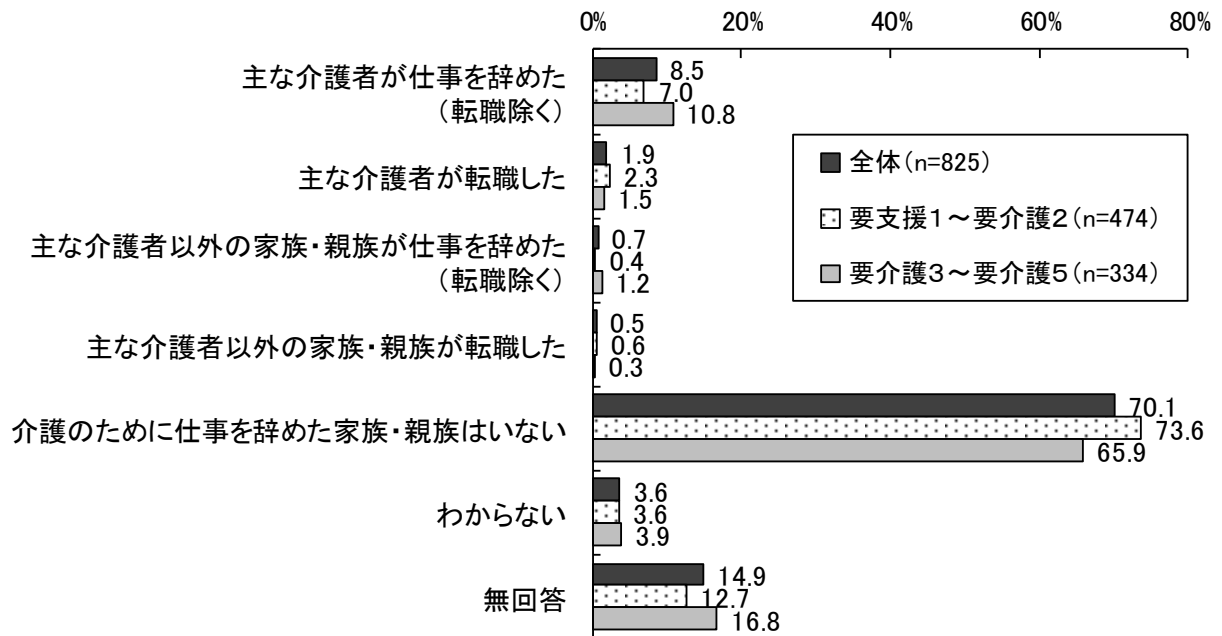


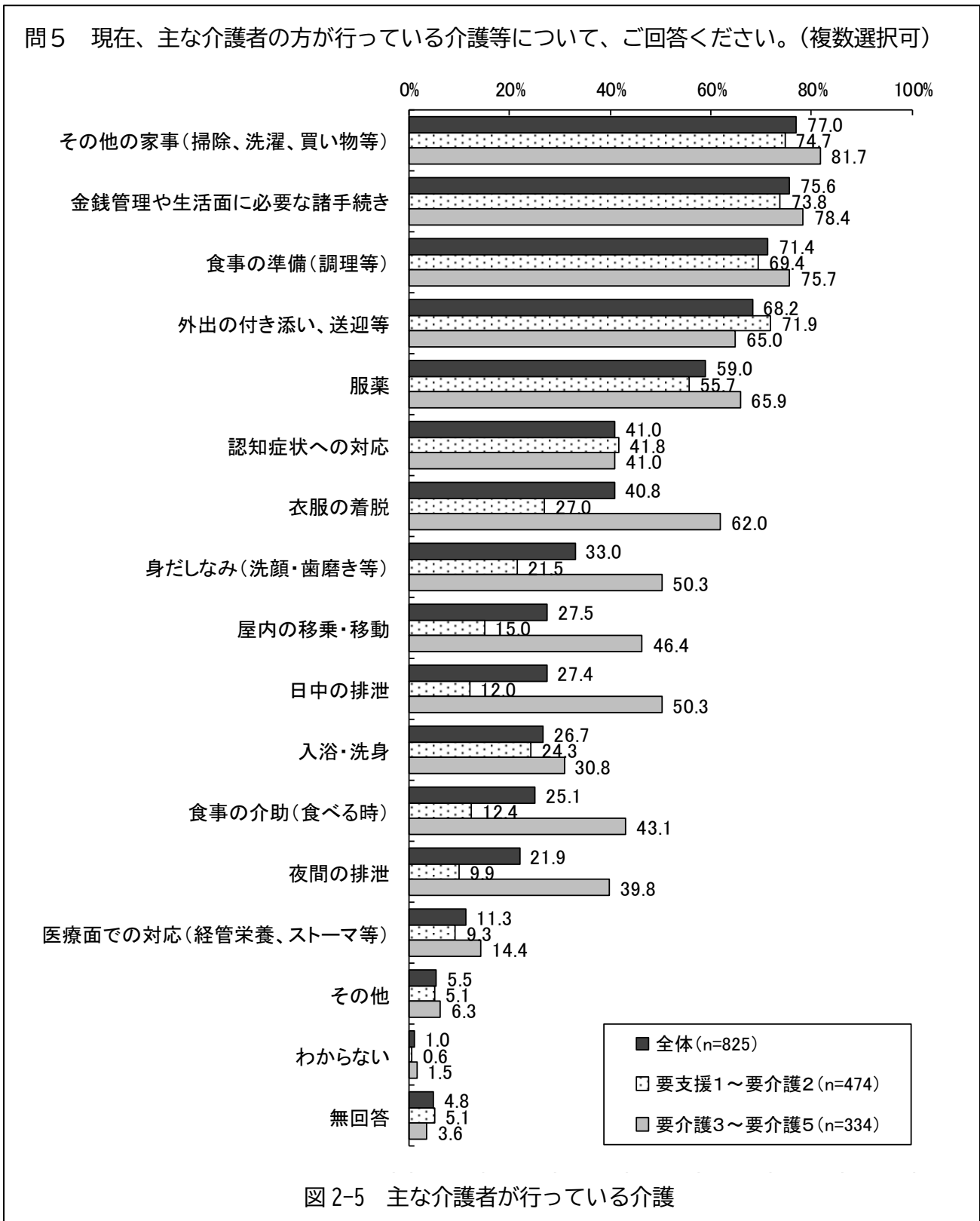
図2-1 介護を理由として、過去1年間の間に仕事を辞めた介助者の有無

全体では、「介護のために仕事を辞めた家族、親族はいない」が約7割を占めている。

要介護度別では、要介護3～要介護5は「介護のために仕事を辞めた家族、親族はいない」が要支援1～要介護2より低くなっている。

2.5. 主な介護者が行っている介護

◆ 「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が7割台後半



全体では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が7割台後半を占め、上位5項目まではいずれも過半数を占めている。

要介護度別では、「外出の付き添い、送迎等」「認知症状への対応」を除く全ての項目で要介護3～要介護5の方が高くなっている。また、「衣服の着脱」以降の項目で要介護度別の差が顕著にみられる。

【要介護度別】主な介護者が行っている介護

単位：％

	有効回答数(件)	その他の家事 (掃除、洗濯、買い物等)	金銭管理や生活面に 必要な諸手続き	食事の準備(調理等)	外出の付き添い、送迎等	服薬	認知症状への対応	衣服の着脱	身だしなみ(洗顔・歯磨き等)	屋内の移乗・移動
全体	825	77.0	75.6	71.4	68.2	59.0	41.0	40.8	33.0	27.5
要支援1	24	62.5	66.7	54.2	33.3	45.8	37.5	20.8	12.5	8.3
要支援2	27	63.0	48.1	55.6	59.3	37.0	25.9	29.6	29.6	14.8
要介護1	218	72.0	81.2	68.3	73.9	59.2	50.9	20.6	16.5	11.5
要介護2	205	80.5	70.2	74.1	76.1	55.6	34.6	34.1	26.8	19.5
要介護3	151	84.8	80.1	81.5	71.5	58.9	44.4	55.6	38.4	36.4
要介護4	118	83.9	75.4	74.6	64.4	74.6	35.6	65.3	56.8	55.9
要介護5	65	70.8	80.0	64.6	50.8	66.2	43.1	70.8	66.2	52.3
わからない	6	50.0	66.7	50.0	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0

	有効回答数(件)	日中の排泄	入浴・洗身	食事の介助(食べる時)	夜間の排泄	医療面での対応 (経管栄養、ストーマ等)	その他	わからない	無回答
全体	825	27.4	26.7	25.1	21.9	11.3	5.5	1.0	4.8
要支援1	24	4.2	12.5	4.2	12.5	4.2	0.0	0.0	12.5
要支援2	27	11.1	25.9	25.9	7.4	11.1	3.7	0.0	11.1
要介護1	218	10.1	20.6	8.7	7.3	5.5	5.5	0.5	3.7
要介護2	205	15.1	29.3	15.6	12.7	13.7	5.4	1.0	4.9
要介護3	151	33.8	34.4	29.1	29.8	10.6	7.3	1.3	2.0
要介護4	118	61.9	25.4	47.5	42.4	12.7	5.9	1.7	3.4
要介護5	65	67.7	32.3	67.7	58.5	26.2	4.6	1.5	7.7
わからない	6	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7

要介護度別では、要介護度が高くなるほど各項目の割合が高くなっている。

2.6. 主な介護者が不安を感じる介護

◆ 「認知症状への対応」が約4割

問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください。（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

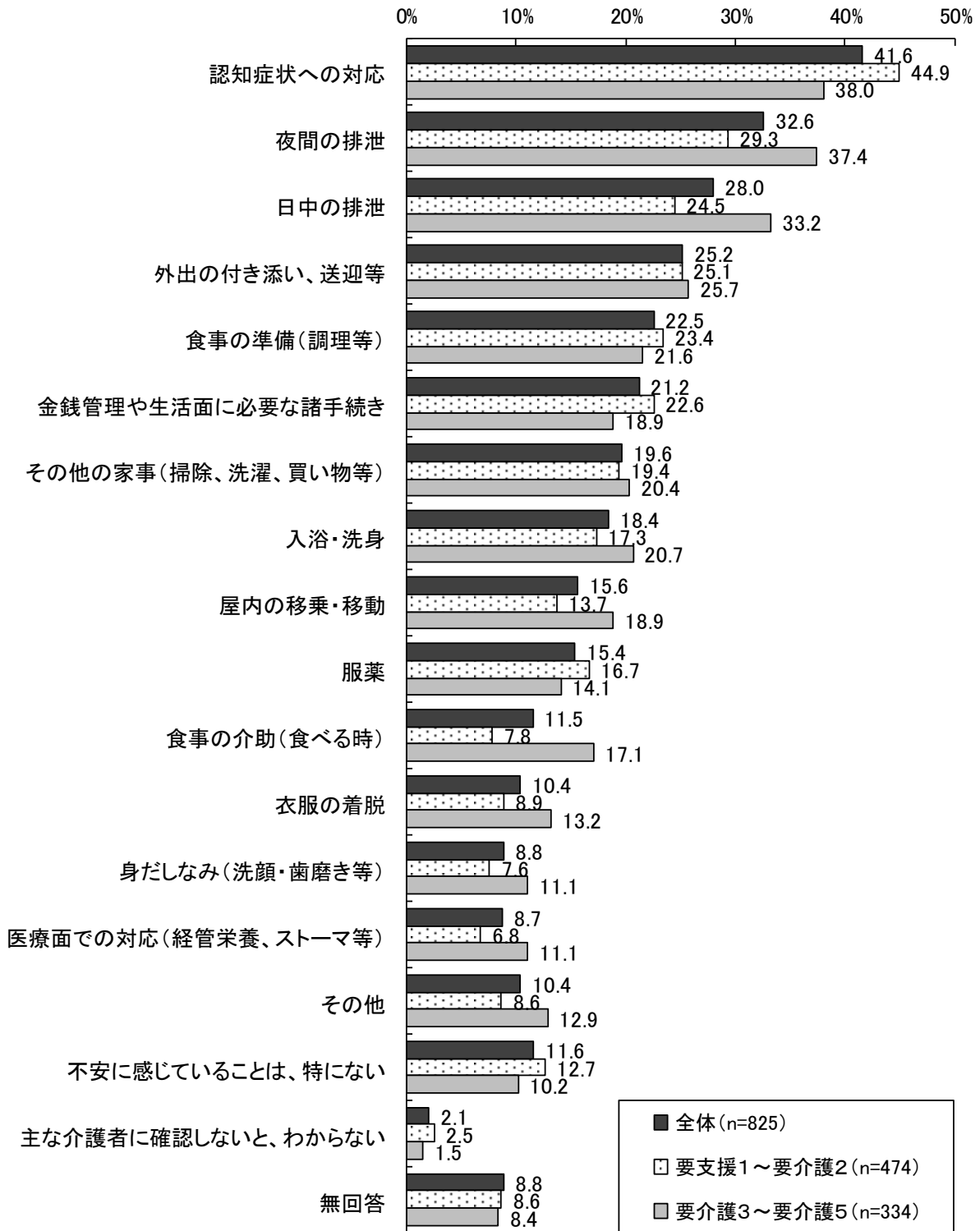


図2-6 主な介護者が不安を感じる介護

全体では、「認知症状への対応」が約4割で最も高くなっている。  
要介護度別では、いずれも「認知症状への対応」が最も高く、次いで「夜間の排泄」となっている。



2.7. 主な介護者の現在の勤務形態

◆ 「働いていない」が約5割

問7 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

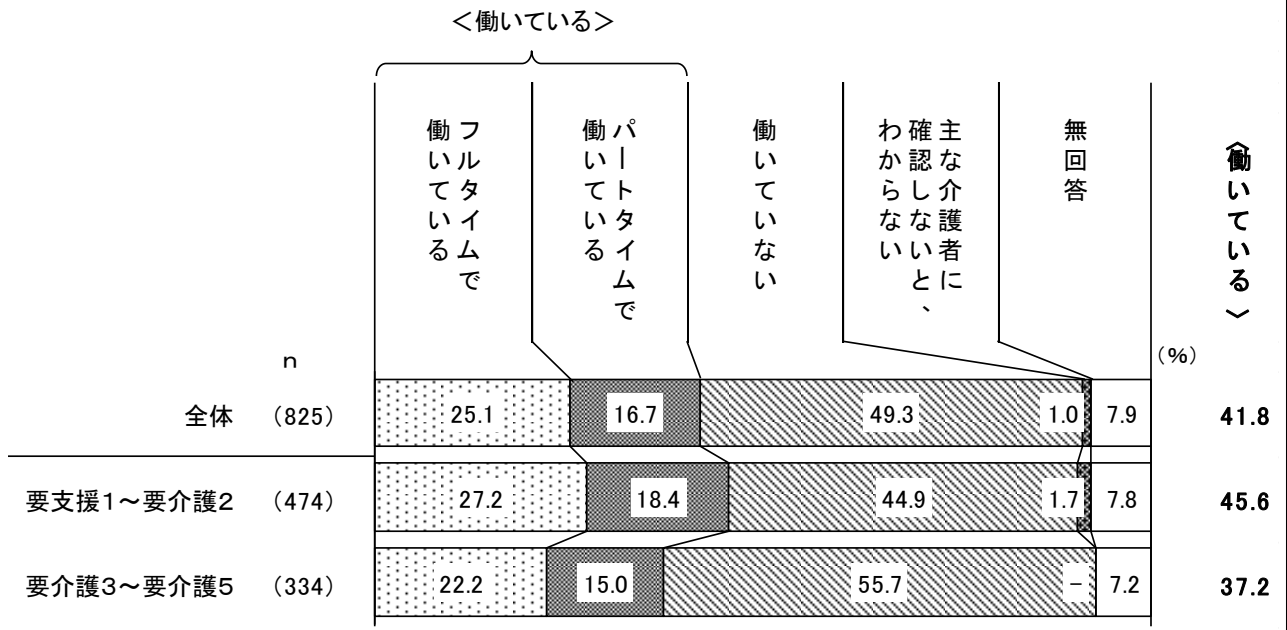
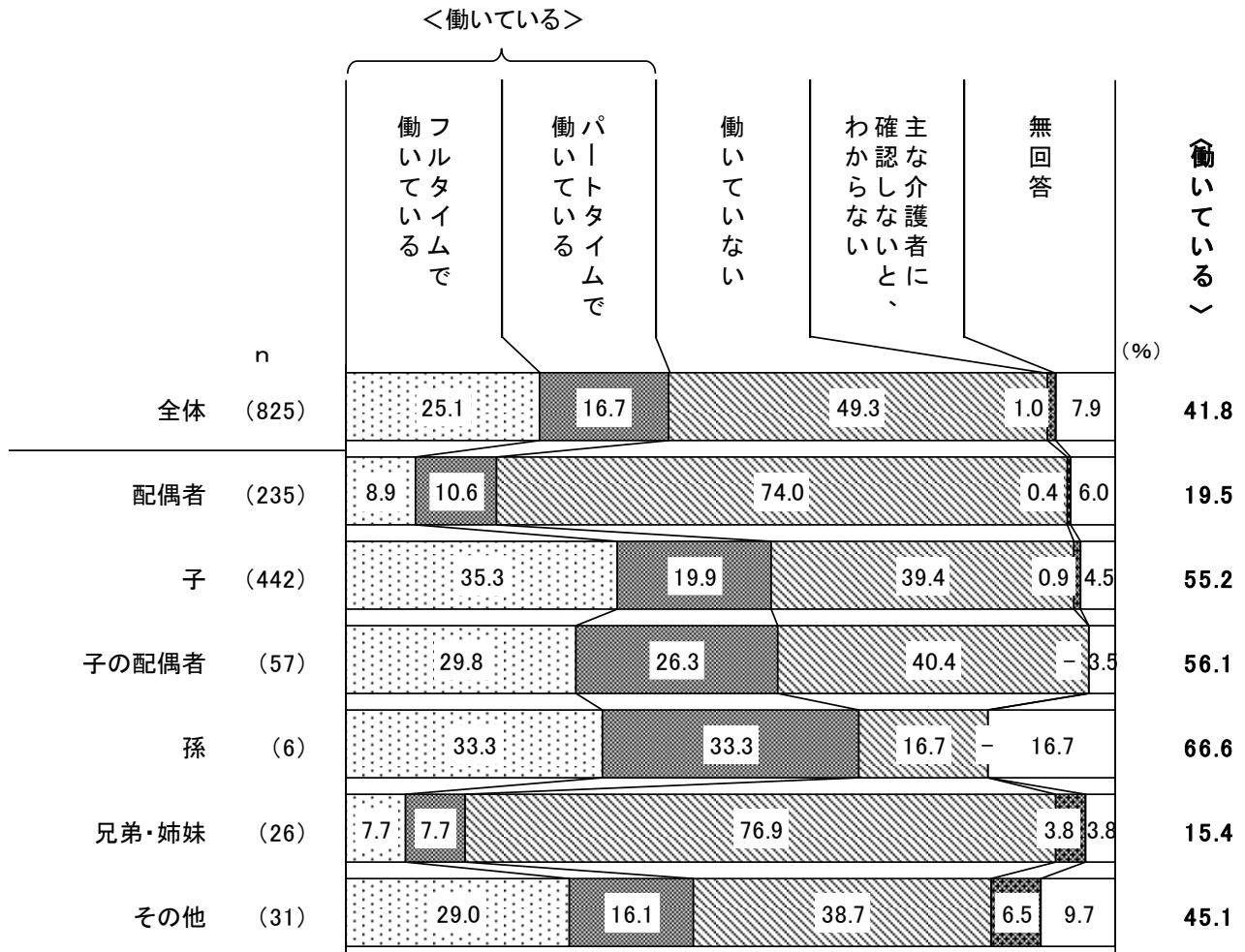


図 2-7 主な介護者の現在の勤務形態

全体では、「働いていない」が約5割で最も高くなっている。「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」を合わせた＜働いている＞は約4割となっている。

要介護度別では、いずれも「働いてない」が最も高くなっており、要介護3～要介護5では5割台半ばを占めている。一方、＜働いている＞は要支援1～2の方が高くなっている。

【主な介護者別】主な介護者の現在の勤務形態



主な介護者別では、配偶者と兄弟・姉妹で「働いてない」が高くなっており、いずれも7割台半ばとなっている。

2.8. 主な介護者の就労形態の調整

◆ 「介護のために、①労働時間を調整しながら、働いている」が約4割

(問7で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方に)

問8 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

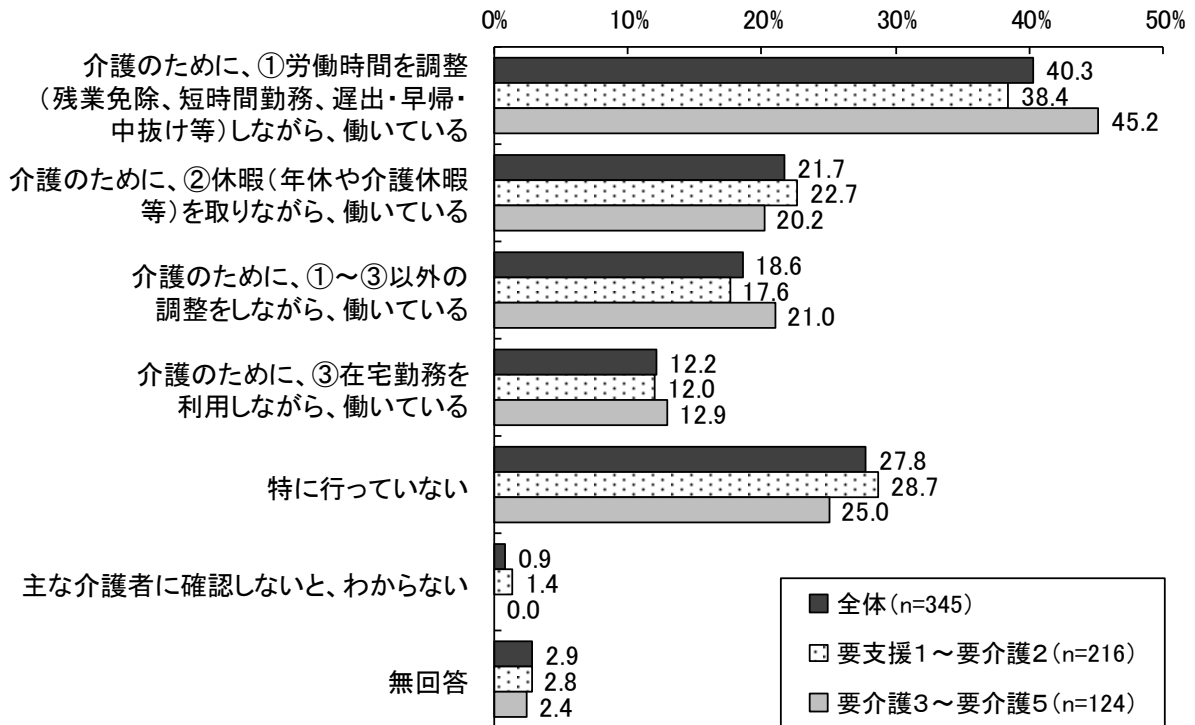


図 2-8 主な介護者の就労形態の調整

全体では、「介護のために、①労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている」が約4割で最も高くなっている。

要介護度別では、要介護3～要介護5で「介護のために、①労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている」が高くなっている。

【要介護度別】主な介護者の就労形態の調整

単位：%

	有効回答数(件)	介護のために、①労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている	介護のために、②休暇(年休や介護休暇等)を取りながら、働いている	介護のために、①③以外の調整をしながら、働いている	介護のために、③在宅勤務を利用しながら、働いている	特に行っていない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	345	40.3	21.7	18.6	12.2	27.8	0.9	2.9
要支援1	7	14.3	0.0	14.3	0.0	57.1	0.0	14.3
要支援2	13	38.5	30.8	15.4	0.0	38.5	0.0	0.0
要介護1	112	39.3	21.4	21.4	13.4	28.6	1.8	0.9
要介護2	84	39.3	25.0	13.1	13.1	25.0	1.2	4.8
要介護3	69	46.4	18.8	21.7	15.9	27.5	0.0	4.3
要介護4	35	40.0	25.7	22.9	5.7	20.0	0.0	0.0
要介護5	20	50.0	15.0	15.0	15.0	25.0	0.0	0.0
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0

要介護度別では、要支援2以上で「介護のために、①労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている」が最も高くなっている。

【主な介護者の就労形態別】主な介護者の就労形態の調整

単位：%

	有効回答数(件)	介護のために、①労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている	介護のために、②休暇(年休や介護休暇等)を取りながら、働いている	介護のために、①③以外の調整をしながら、働いている	介護のために、③在宅勤務を利用しながら、働いている	特に行っていない	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	345	40.3	21.7	18.6	12.2	27.8	0.9	2.9
フルタイム	207	32.4	26.1	19.3	16.4	30.4	1.4	2.4
パートタイム	138	52.2	15.2	17.4	5.8	23.9	0.0	3.6

主な介護者の就労形態別では、いずれも「介護のために、①労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)しながら、働いている」が最も高く、パートタイムで働いている世帯では5割前半を占めている。

2.9. 仕事と介護の両立に効果がある支援

◆ 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が2割台後半

(問7で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方に)  
 問9 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。(3つまで選択可)

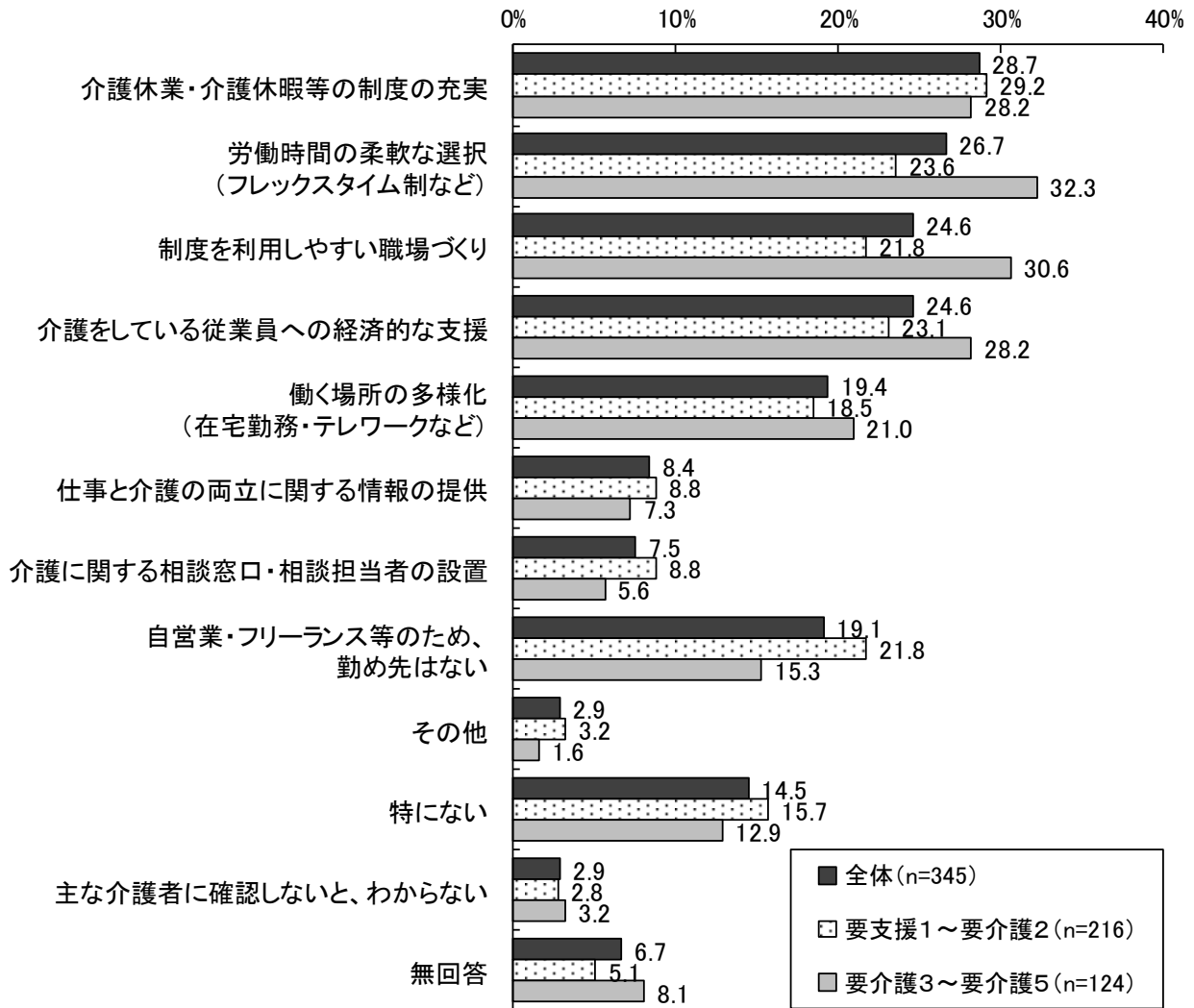


図 2-9 仕事と介護の両立に効果がある支援

全体では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が2割台後半で最も高くなっている。

要介護度別では、要介護3～要介護5で「労働時間の柔軟な選択 (フレックスタイム制など)」が最も高く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」となっている。

【要介護度別】仕事と介護の両立に効果がある支援

単位：％

	有効回答数(件)	介護休業・介護休暇等の制度の充実	労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)	制度を利用しやすい職場づくり	介護をしている従業員への経済的な支援	働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)	仕事と介護の両立に関する情報の提供	相談担当者の設置	介護に関する相談窓口・勤め先はない	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	345	28.7	26.7	24.6	24.6	19.4	8.4	7.5	19.1	2.9	14.5	2.9	6.7	
要支援1	7	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	
要支援2	13	15.4	7.7	7.7	23.1	7.7	7.7	15.4	38.5	0.0	23.1	0.0	7.7	
要介護1	112	31.3	22.3	25.9	21.4	21.4	8.9	12.5	19.6	2.7	13.4	4.5	5.4	
要介護2	84	28.6	28.6	19.0	25.0	17.9	8.3	3.6	22.6	4.8	17.9	1.2	4.8	
要介護3	69	30.4	33.3	31.9	33.3	24.6	8.7	5.8	15.9	2.9	8.7	5.8	4.3	
要介護4	35	28.6	31.4	34.3	20.0	17.1	2.9	2.9	11.4	0.0	20.0	0.0	14.3	
要介護5	20	20.0	30.0	20.0	25.0	15.0	10.0	10.0	20.0	0.0	15.0	0.0	10.0	
わからない	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	

要介護度別では、要介護5で「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が最も高く、要介護4で「制度を利用しやすい職場づくり」が最も高くなっている。

【主な介護者の就労形態別】仕事と介護の両立に効果がある支援

単位：％

	有効回答数(件)	介護休業・介護休暇等の制度の充実	労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)	制度を利用しやすい職場づくり	介護をしている従業員への経済的な支援	働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)	仕事と介護の両立に関する情報の提供	相談担当者の設置	介護に関する相談窓口・勤め先はない	自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	345	28.7	26.7	24.6	24.6	19.4	8.4	7.5	19.1	2.9	14.5	2.9	6.7	
フルタイム	207	30.9	30.9	25.6	23.7	27.1	8.7	8.2	21.7	4.3	12.6	3.9	4.3	
パートタイム	138	25.4	20.3	23.2	26.1	8.0	8.0	6.5	15.2	0.7	17.4	1.4	10.1	

主な介護者の就労形態別では、フルタイムで働いている世帯で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」と「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が最も高く、パートタイムで働いている世帯で「介護をしている従業員への経済的な支援」が最も高くなっている。

【就労している主な介護者の今後の介護の見通し別】仕事と介護の両立に効果がある支援

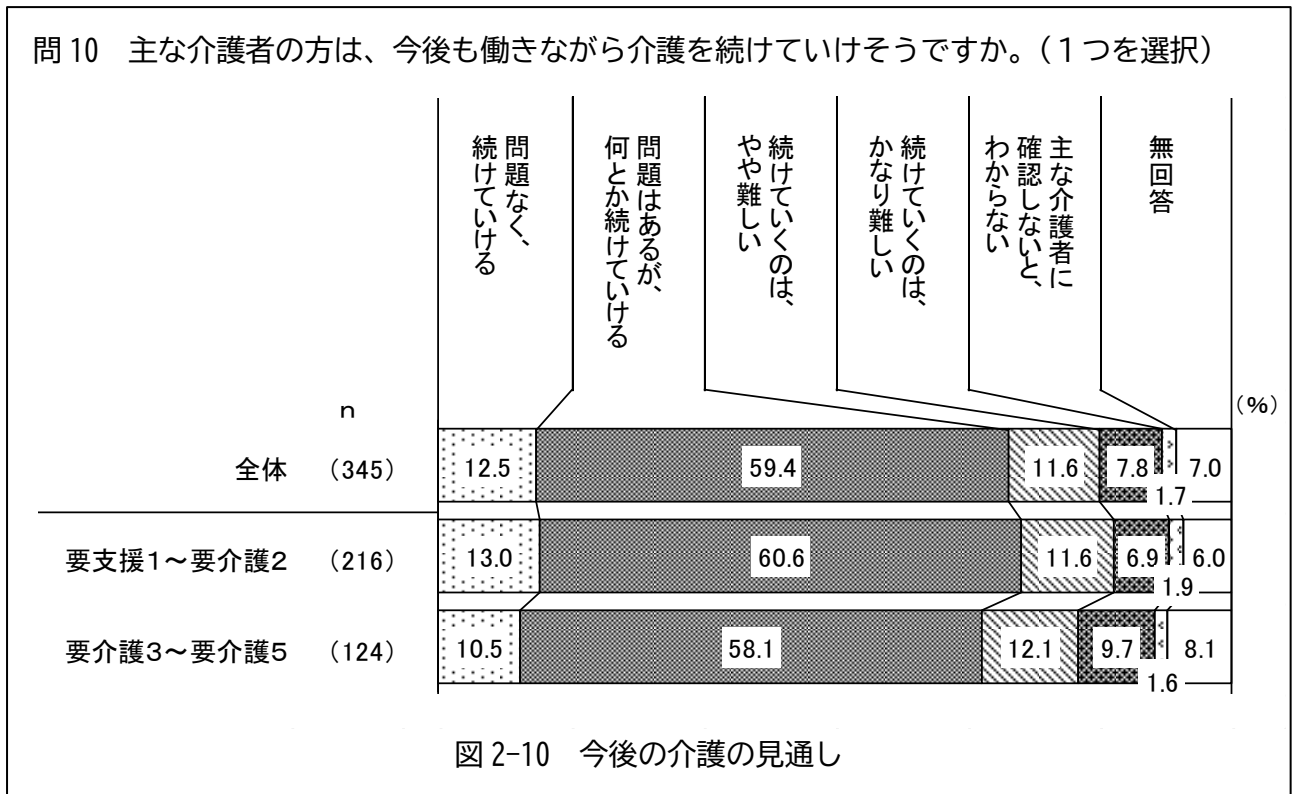
単位：％

	有効回答数(件)	介護休業・介護休暇等の制度の充実	労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)	制度を利用しやすい職場づくり	介護をしている従業員への経済的な支援	(在宅勤務・テレワークなど)	働く場所の多様化	情報の提供	仕事と介護の両立に関する	相談担当者の設置	介護に関する相談窓口・勤め先はない	自営業・フリーランス等のため	その他	特になし	主な介護者に確認しないと、わからない	無回答
全体	345	28.7	26.7	24.6	24.6	19.4	8.4	7.5	19.1	2.9	14.5	2.9	6.7			
問題なく、 続けていける	43	18.6	32.6	23.3	23.3	30.2	2.3	4.7	14.0	0.0	27.9	4.7	4.7			
問題はあるが、 何とか続けていける	205	34.1	27.8	27.8	24.9	18.5	10.2	5.9	18.0	3.4	14.1	1.5	3.9			
続けていくのは、 やや難しい	40	30.0	25.0	22.5	35.0	20.0	7.5	15.0	30.0	0.0	7.5	0.0	0.0			
続けていくのは、 かなり難しい	27	33.3	33.3	29.6	25.9	29.6	3.7	14.8	29.6	11.1	3.7	0.0	3.7			
主な介護者に確認 しないと、わからない	6	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	66.7	0.0			

就労している主な介護者の今後の介護の見通し別では、続けていくのは、かなり難しいと回答した世帯で「介護休業・介護休暇等の制度の充実」と「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」が最も高く、続けていくのは、やや難しいと回答した世帯で「介護をしている従業員への経済的な支援」が最も高くなっている。

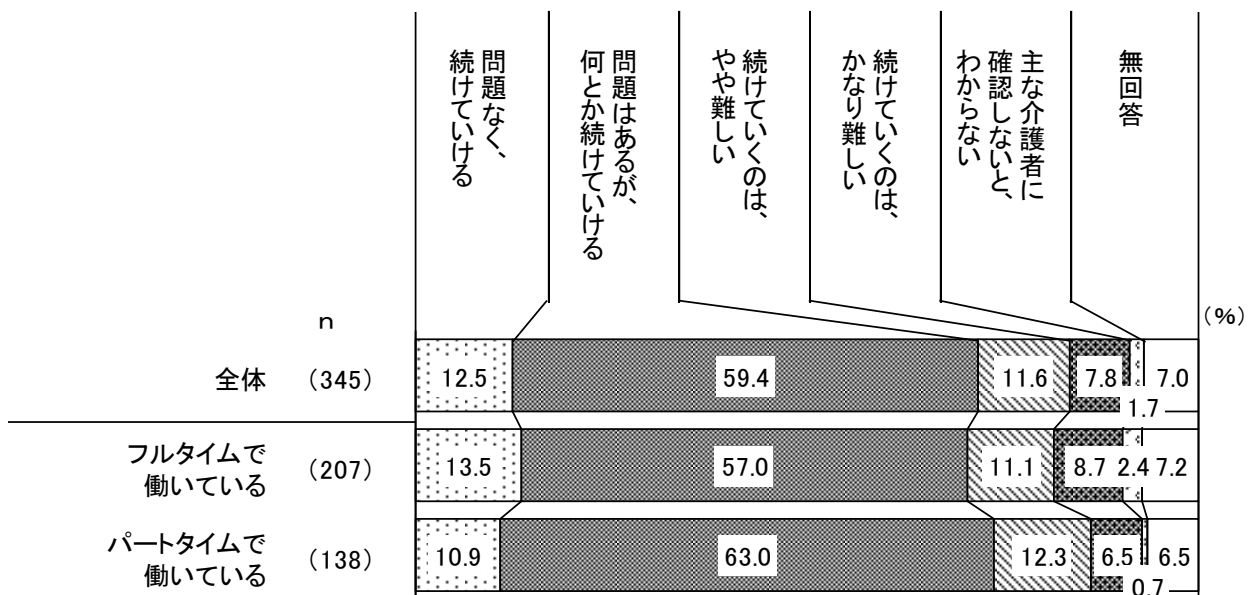
2.10. 今後の介護の見通し

◆ 「問題はあるが、何とか続けていける」が約6割



全体では、「問題はあるが、何とか続けていける」が約6割を占めている。  
要介護度別では、いずれも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も高くなっている。

【主な介護者の就労形態別】今後の介護の見通し



主な介護者の就労形態別では、「問題なく続けていける」がパートタイムで働いている世帯ではやや低くなっている。



# ケアマネジャー調査

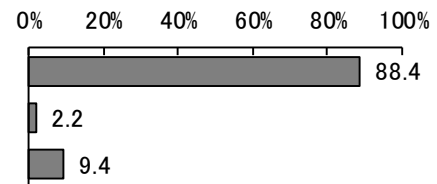
---



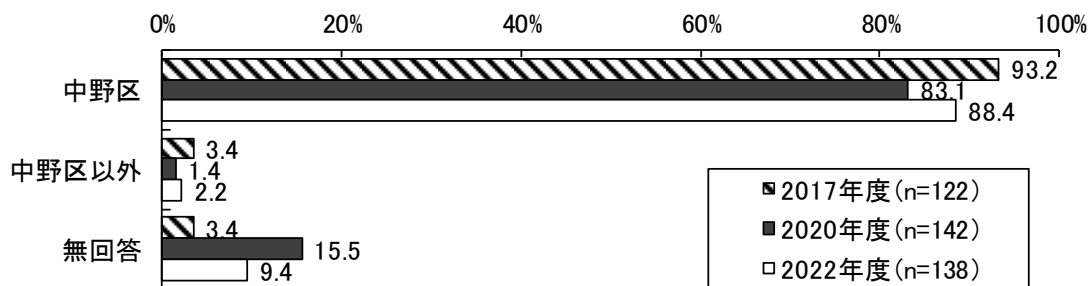
## 1. 回答者の属性

### 1.1. 所属する事業所の所在地

	基数	構成比(%)
中野区	122	88.4
中野区以外	3	2.2
無回答	13	9.4
全体	138	100.0



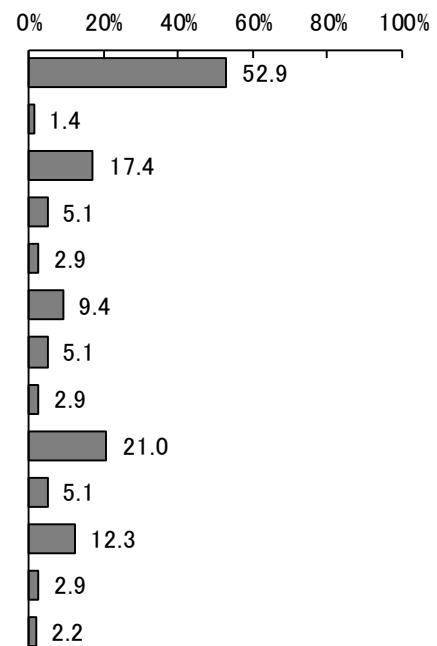
【経年比較】 所属する事業所の所在地



### 1.2. 所属する事業所が提供するサービス（複数回答）

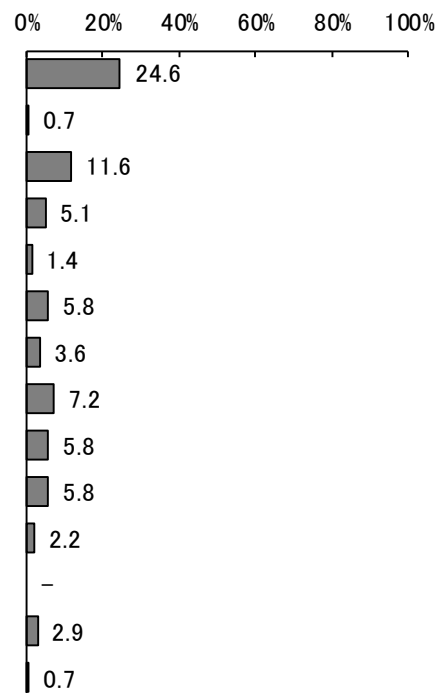
#### <介護（居宅）サービス>

	基数	構成比(%)
訪問介護	73	52.9
訪問入浴介護	2	1.4
訪問看護	24	17.4
訪問リハビリテーション	7	5.1
居宅療養管理指導	4	2.9
福祉用具（貸与）	13	9.4
特定福祉用具（販売）	7	5.1
住宅改修	4	2.9
通所介護（小規模通所含む）	29	21.0
通所リハビリテーション	7	5.1
短期入所生活介護	17	12.3
短期入所療養介護	4	2.9
特定施設入居者生活介護	3	2.2
介護（居宅）サービス（計）	194	



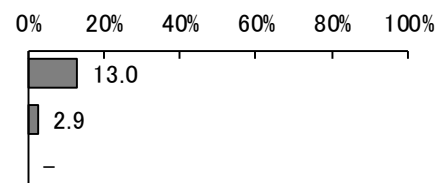
<介護予防サービス>

	基数	構成比(%)
予防訪問サービス(旧予防訪問介護)	34	24.6
予防訪問入浴介護	1	0.7
予防訪問看護	16	11.6
予防訪問リハビリテーション	7	5.1
予防居宅療養管理指導	2	1.4
予防福祉用具(貸与)	8	5.8
予防特定福祉用具(販売)	5	3.6
予防通所サービス(旧予防通所介護)	10	7.2
予防通所リハビリテーション	8	5.8
予防短期入所生活介護	8	5.8
予防短期入所療養介護	3	2.2
予防特定施設入居者生活介護	-	-
生活援助サービス(緩和基準訪問サービス)	4	2.9
活動援助サービス(緩和基準通所サービス)	1	0.7
介護予防サービス(計)	107	



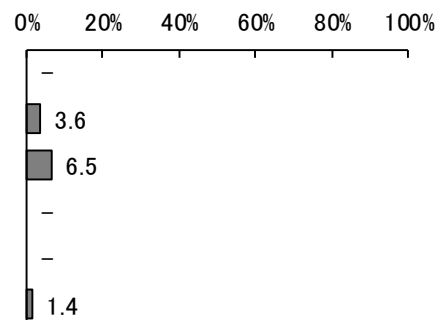
<施設サービス>

	基数	構成比(%)
介護老人福祉施設	18	13.0
介護老人保健施設	4	2.9
介護医療院(介護療養型医療施設)	-	-
施設サービス(計)	22	



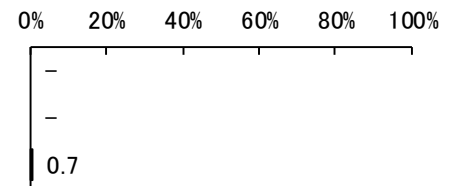
<地域密着型サービス>

	基数	構成比(%)
夜間対応型訪問介護	-	-
小規模多機能型居宅介護	5	3.6
認知症対応型通所介護	9	6.5
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	-	-
看護小規模多機能型居宅介護	-	-
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2	1.4
地域密着型サービス(計)	16	



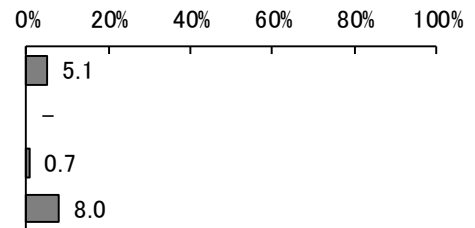
<介護予防（地域密着型）サービス>

	基数	構成比(%)
予防小規模多機能型居宅介護	-	-
予防認知症対応型通所介護	-	-
予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1	0.7
介護予防地域密着型サービス(計)	1	



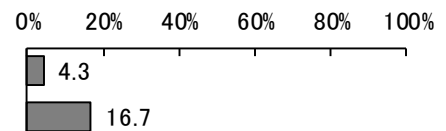
<その他のサービス>

	基数	構成比(%)
病院・診療所	7	5.1
薬局	-	-
都市型軽費老人ホーム	1	0.7
その他のサービス	11	8.0
その他のサービス(計)	19	

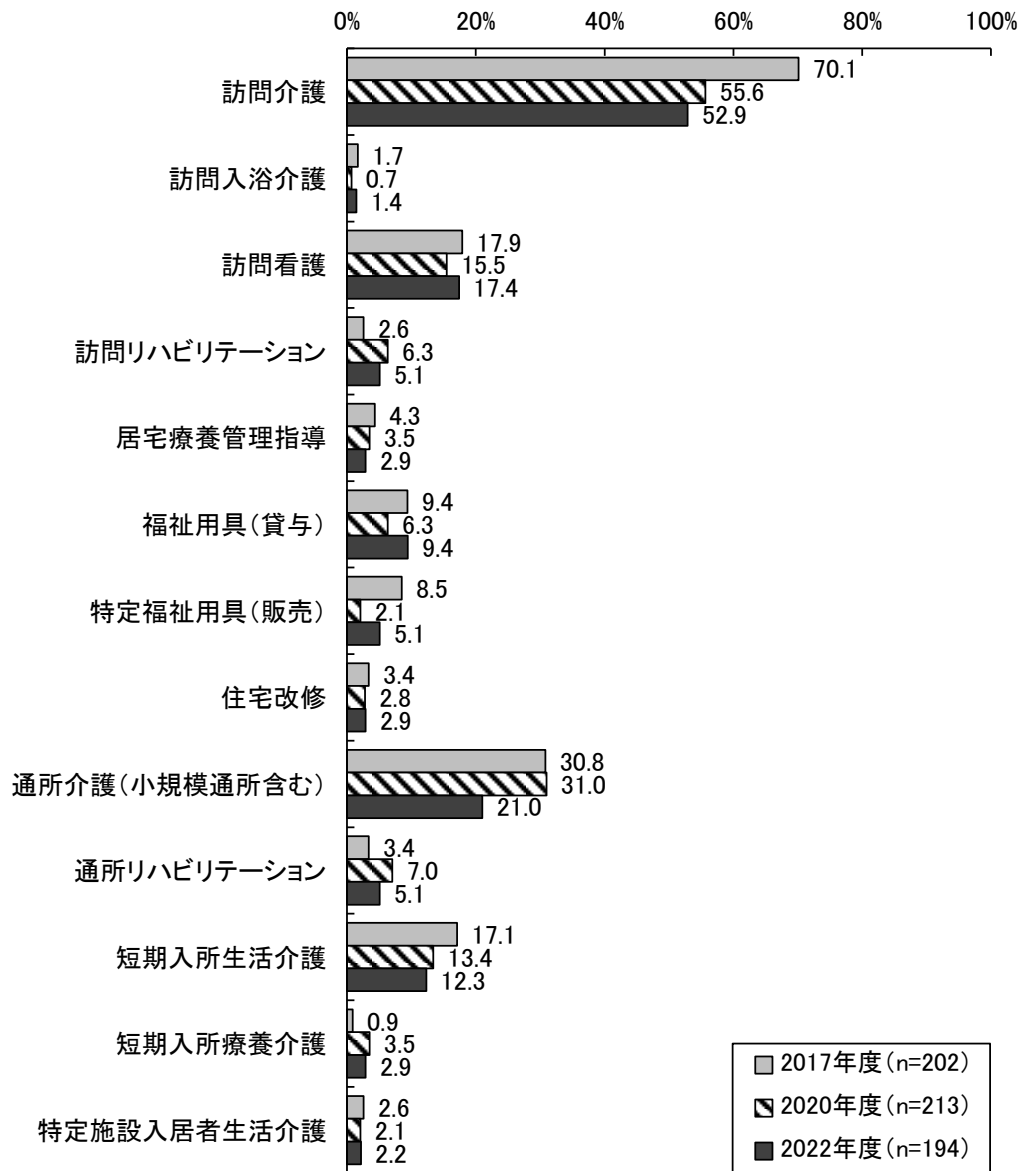


<その他>

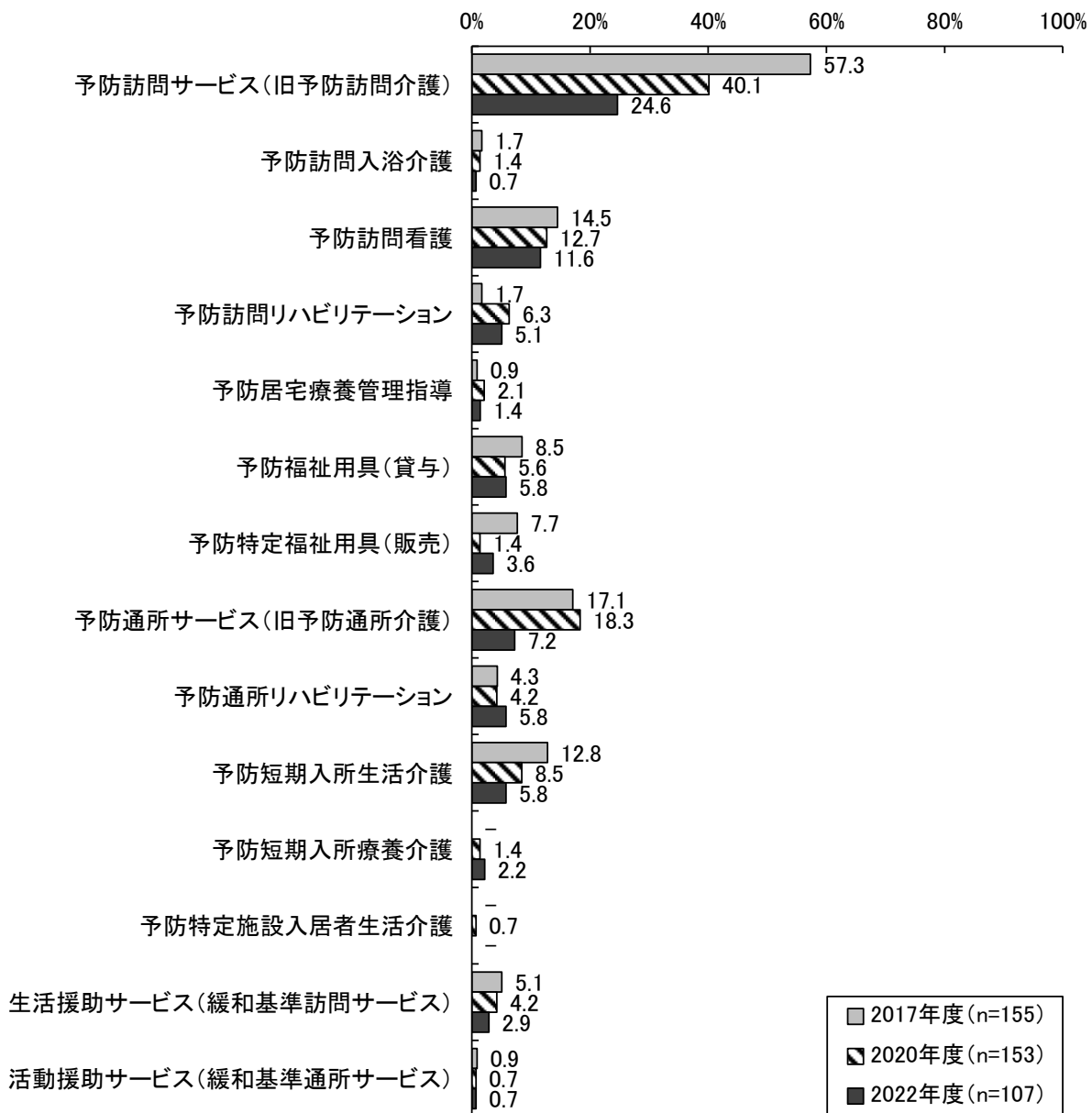
	基数	構成比(%)
併設事業なし	6	4.3
無回答	23	16.7
全体	138	100.0



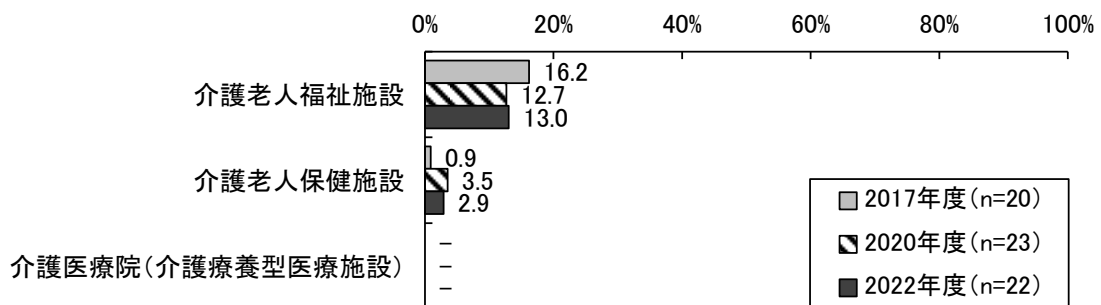
【経年比較】介護（居宅）サービス



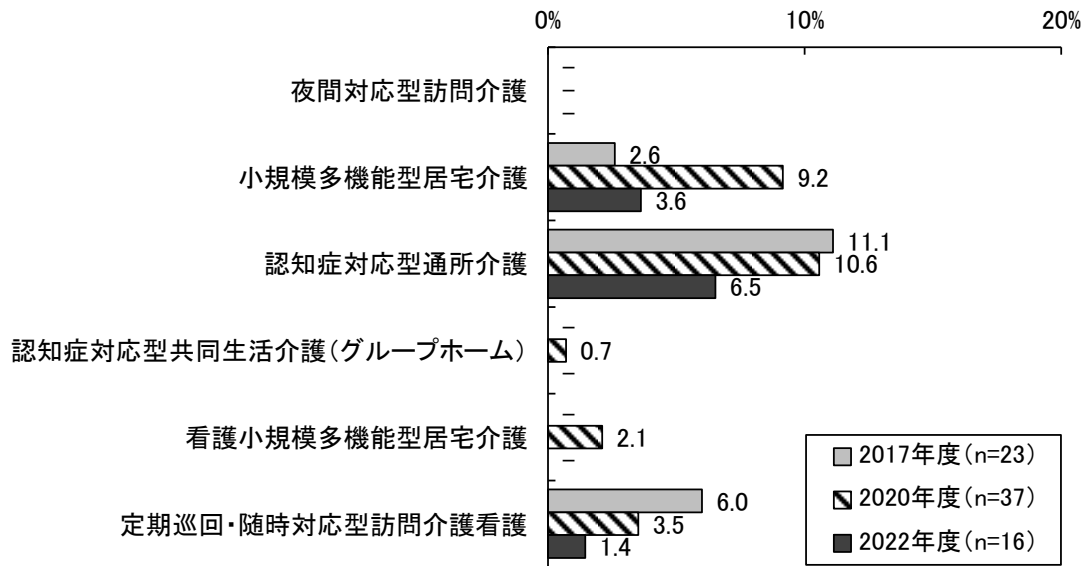
【経年比較】介護予防サービス



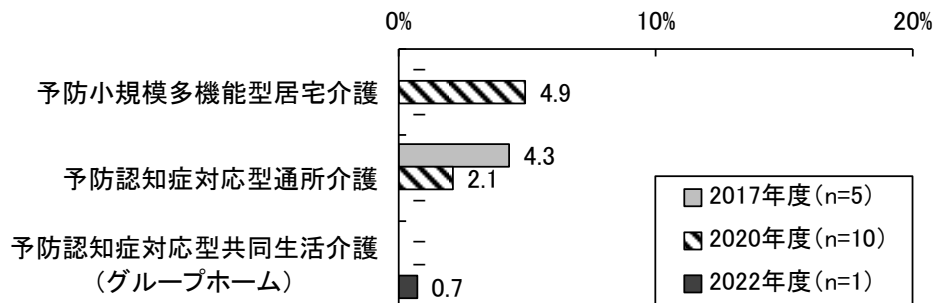
【経年比較】施設サービス



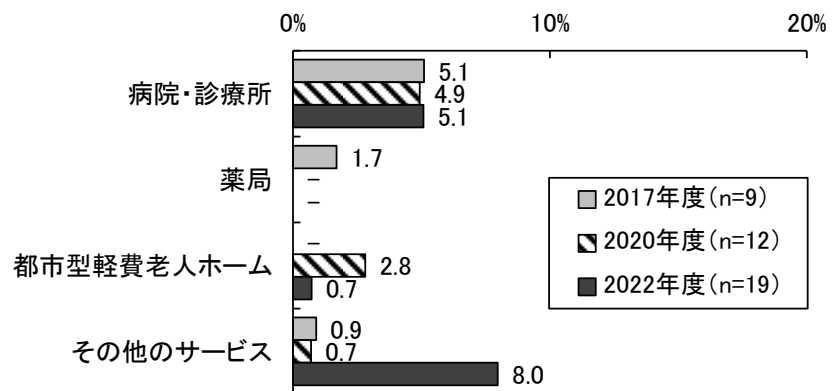
【経年比較】地域密着型サービス



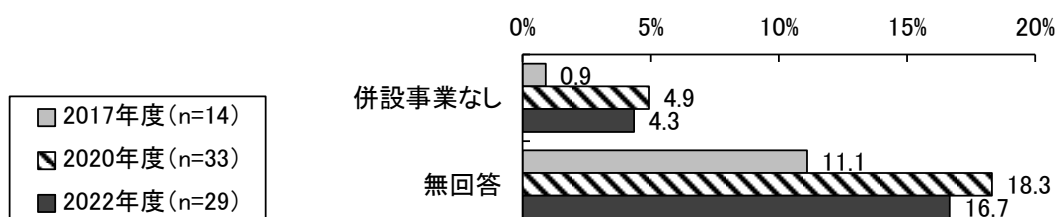
【経年比較】介護予防地域密着型サービス



【経年比較】その他のサービス



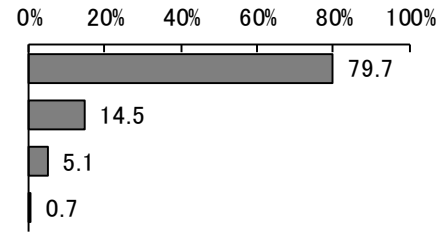
【経年比較】その他



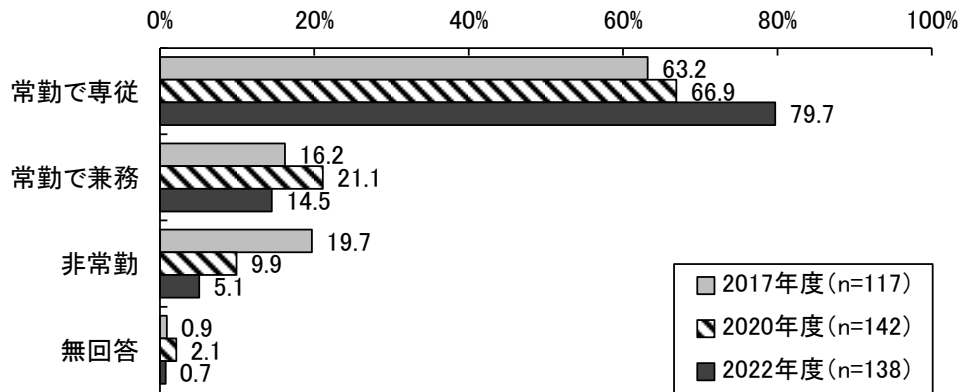


### 1.3. 勤務体系

	基数	構成比(%)
常勤で専従	110	79.7
常勤で兼務	20	14.5
非常勤	7	5.1
無回答	1	0.7
全体	138	100.0

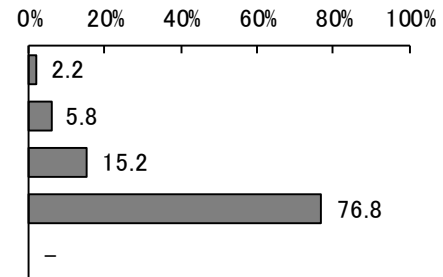


【経年比較】勤務体系

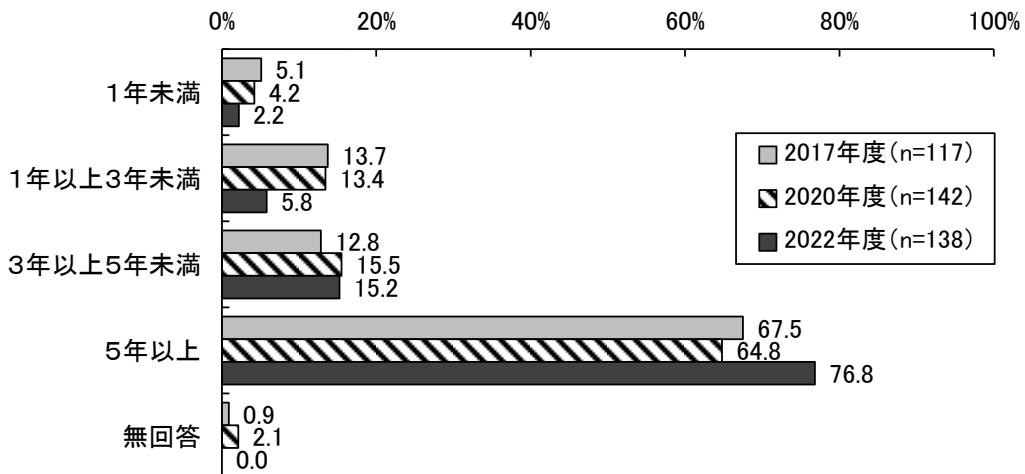


### 1.4. ケアマネジャーとしての従事期間

	基数	構成比(%)
1年未満	3	2.2
1年以上3年未満	8	5.8
3年以上5年未満	21	15.2
5年以上	106	76.8
無回答	-	-
全体	138	100.0

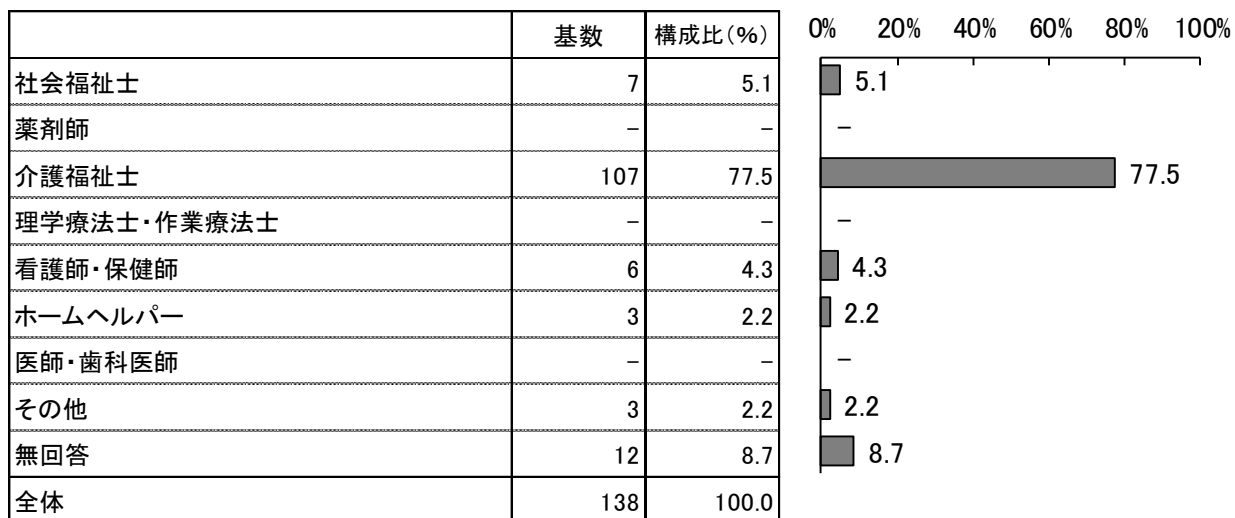


【経年比較】ケアマネジャーとしての従事期間

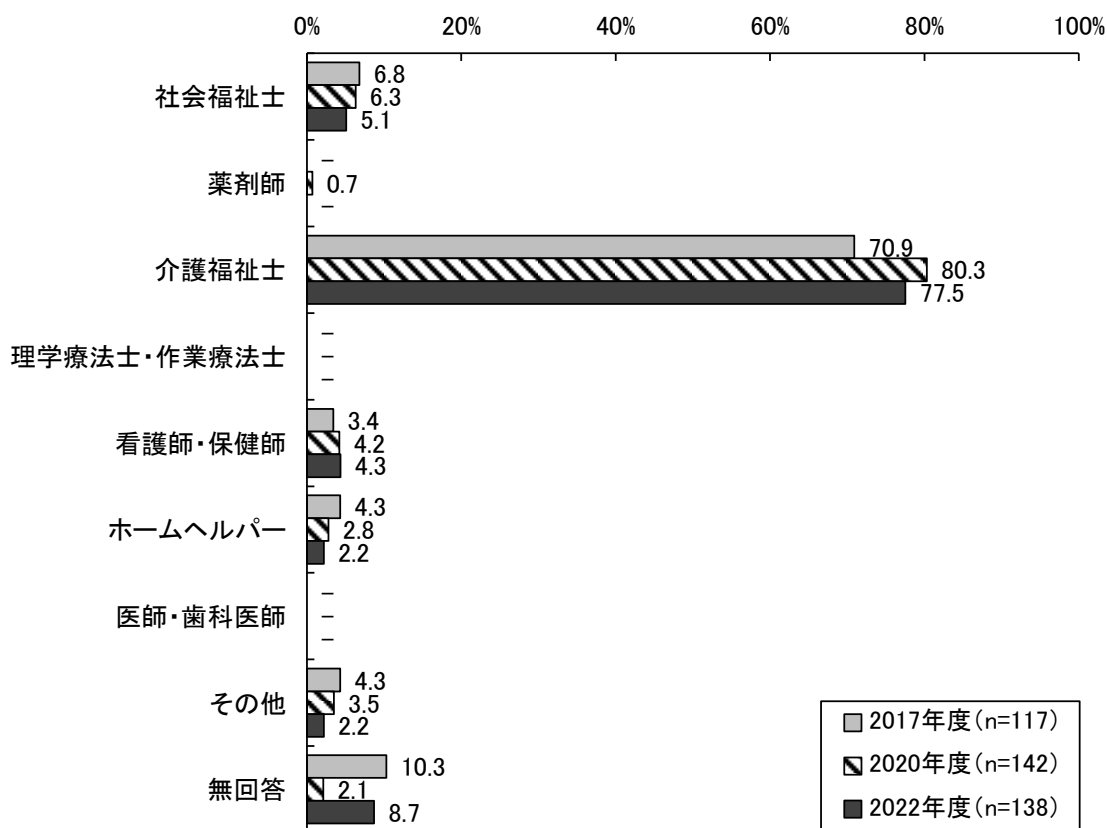


1.5. ケアマネジャー受験資格と当該職種の従事年数

<受験資格>

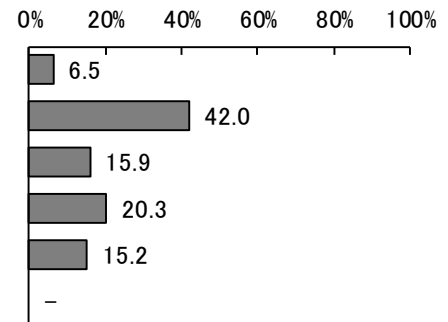


【経年比較】受験資格

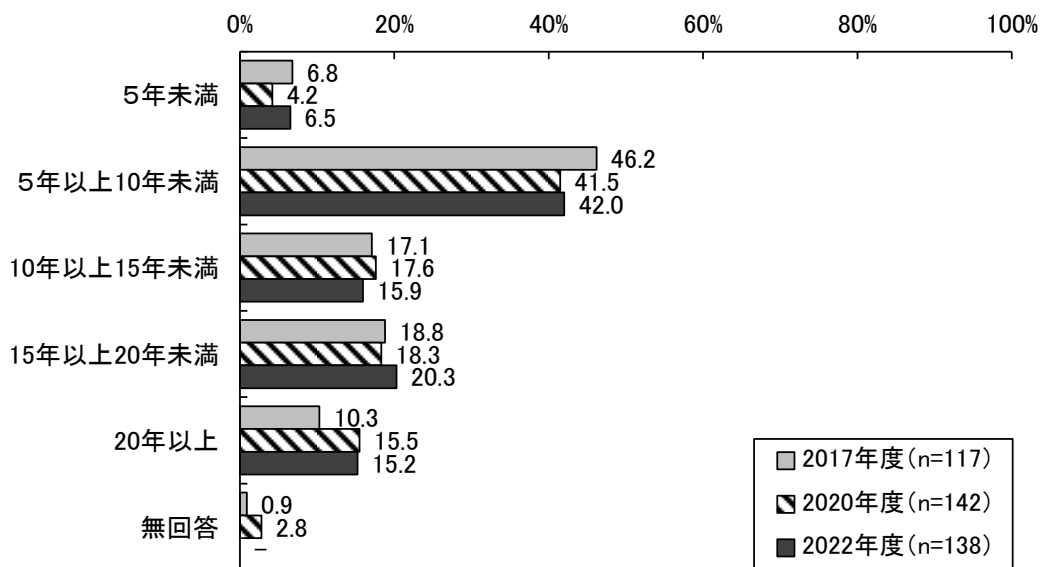


<当該職種に従事年数>

	基数	構成比(%)
5年未満	9	6.5
5年以上10年未満	58	42.0
10年以上15年未満	22	15.9
15年以上20年未満	28	20.3
20年以上	21	15.2
無回答	-	-
全体	138	100.0

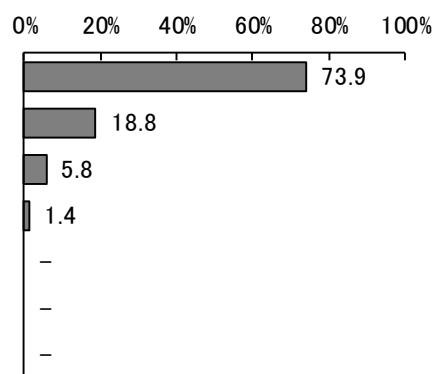


【経年比較】当該職種に従事年数

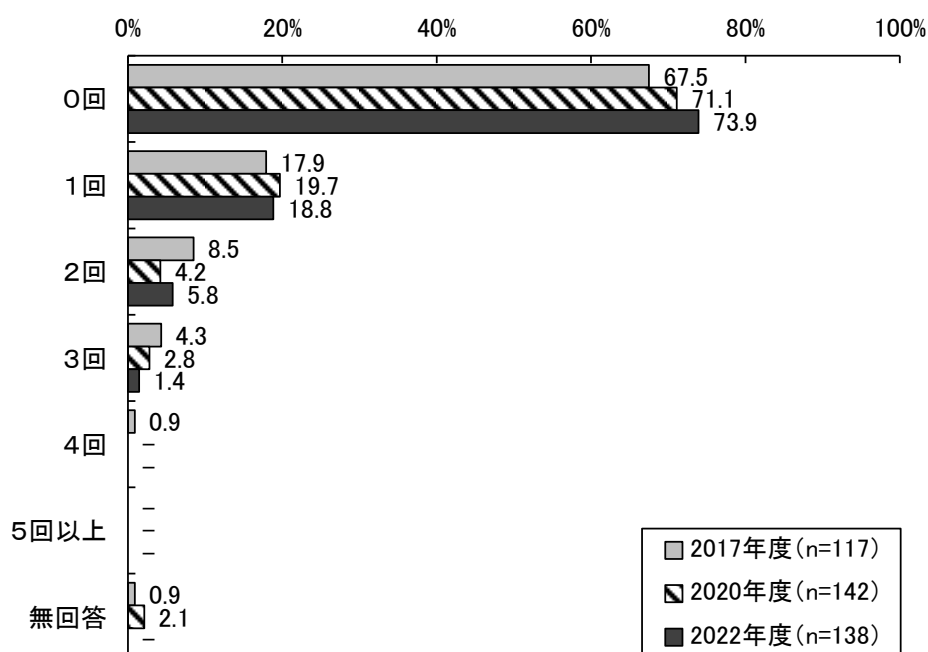


### 1.6. 過去3年間で、所属事業所を変った回数

	基数	構成比(%)
0回	102	73.9
1回	26	18.8
2回	8	5.8
3回	2	1.4
4回	-	-
5回以上	-	-
無回答	-	-
全体	138	100.0

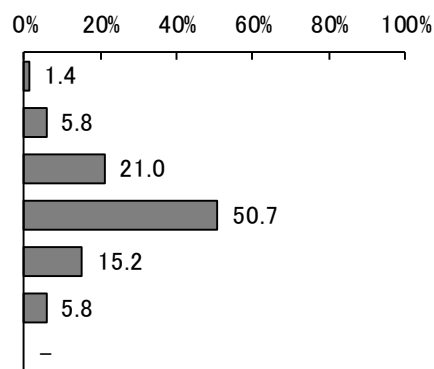


【経年比較】過去3年間で、所属事業所を変った回数



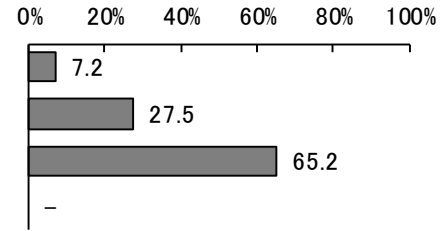
### 1.7. 給付管理件数

	基数	構成比(%)
10件以下	2	1.4
11件～20件	8	5.8
21件～30件	29	21.0
31件～40件	70	50.7
41件～50件	21	15.2
51件以上	8	5.8
無回答	-	-
全体	138	100.0

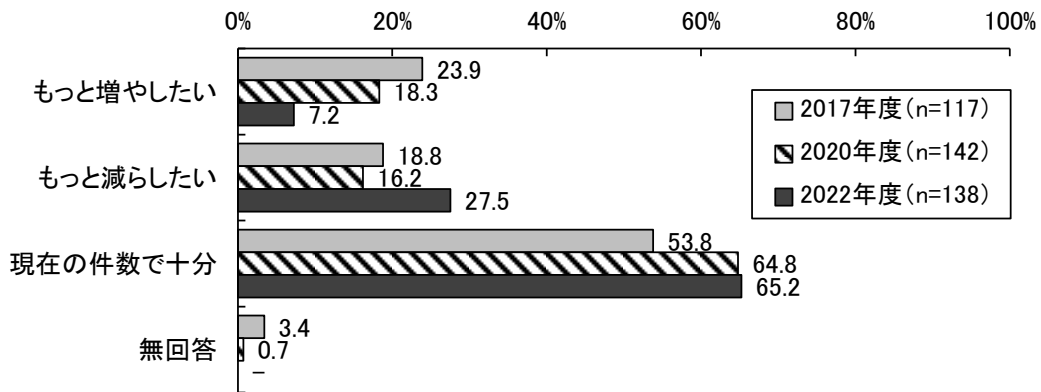


1.8. 作成する居宅サービス計画の件数

	基数	構成比(%)
もっと増やしたい	10	7.2
もっと減らしたい	38	27.5
現在の件数で十分	90	65.2
無回答	-	-
全体	138	100.0

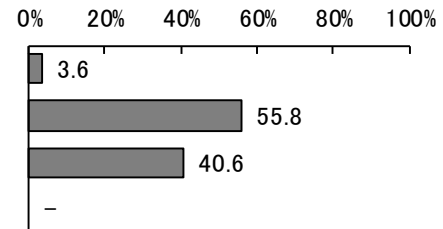


【経年比較】作成する居宅サービス計画の件数

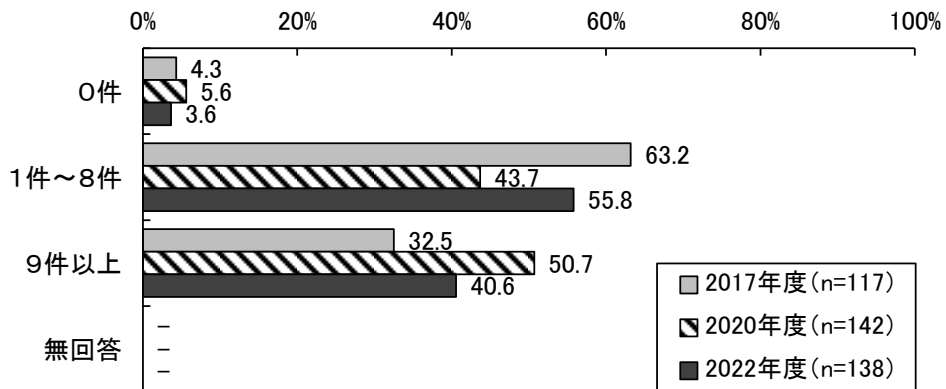


1.9. 介護予防サービス計画の受託または作成人数

	基数	構成比(%)
0件	5	3.6
1件～8件	77	55.8
9件以上	56	40.6
無回答	-	-
全体	138	100.0



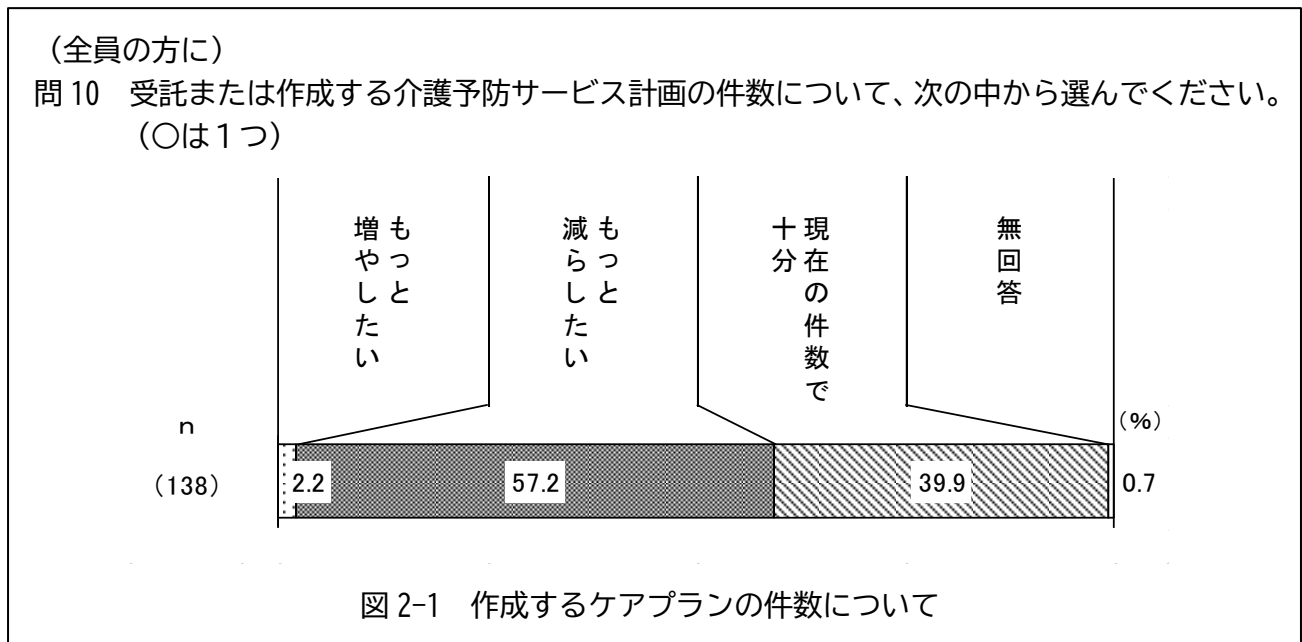
【経年比較】介護予防サービス計画の受託または作成人数



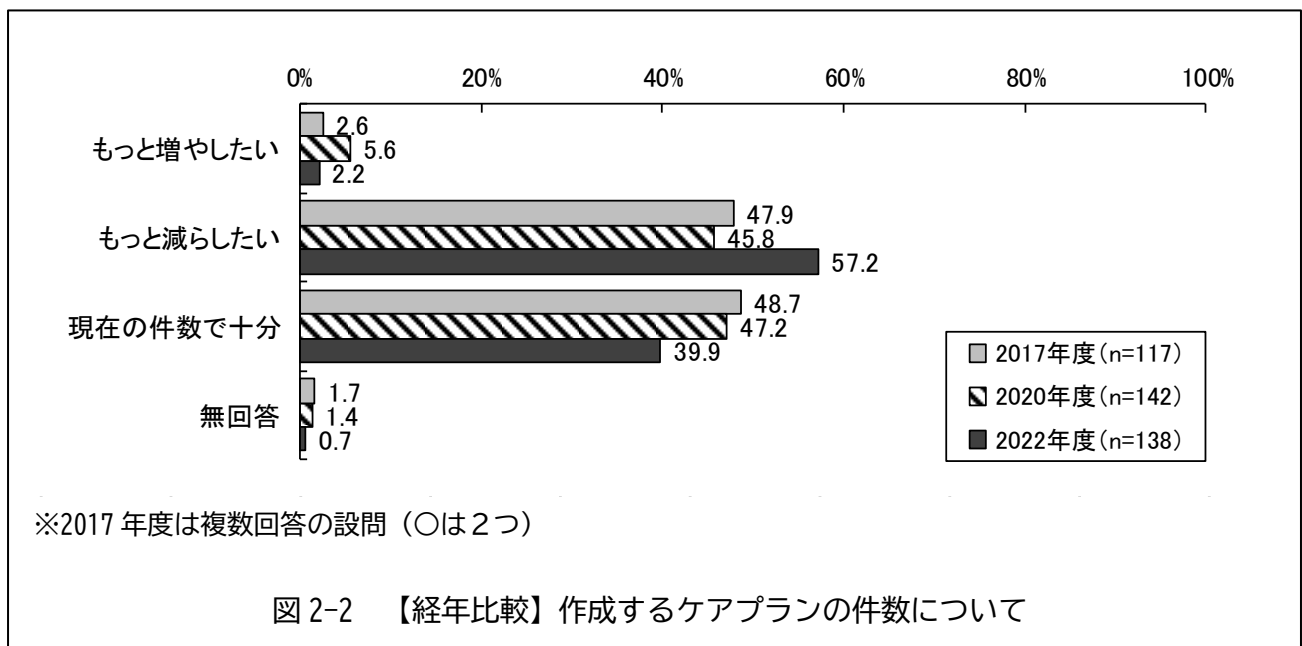
## 2. ケアプラン・介護予防について

### 2.1. 作成するケアプランの件数について

#### ◆ 「もっと減らしたい」が5割台後半



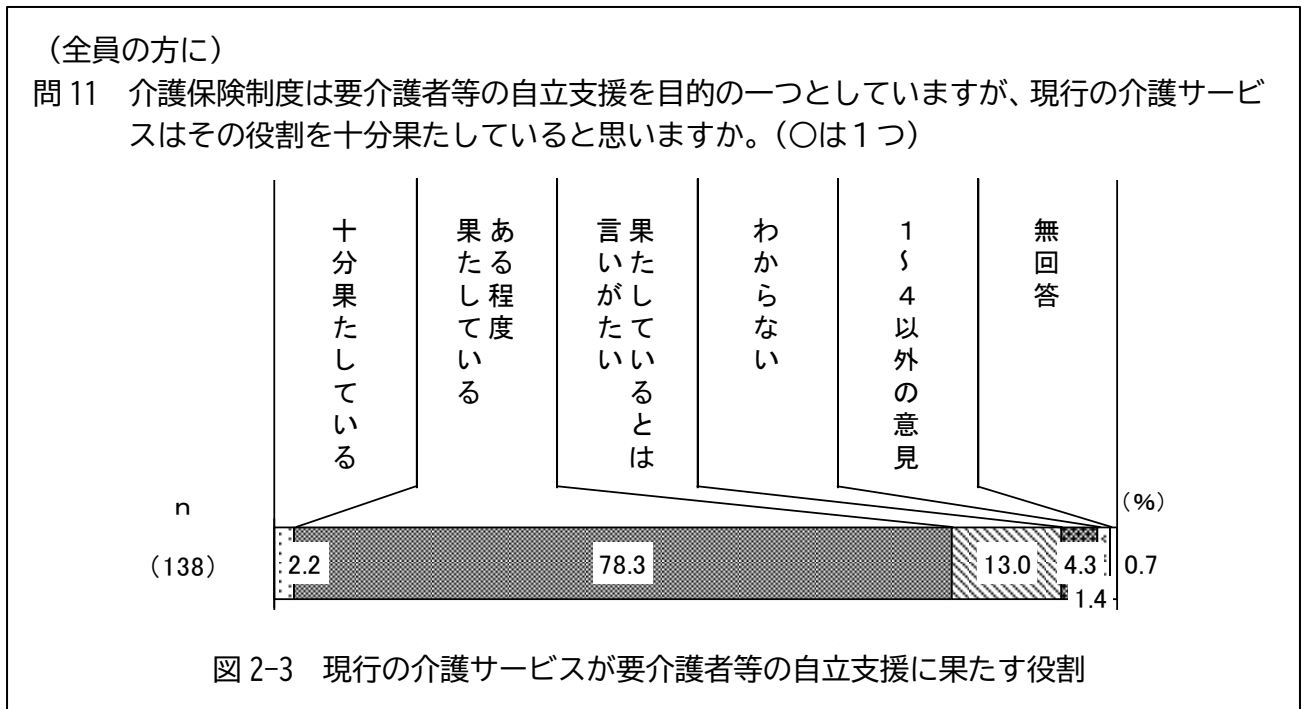
「もっと減らしたい」が5割台後半を占めている。



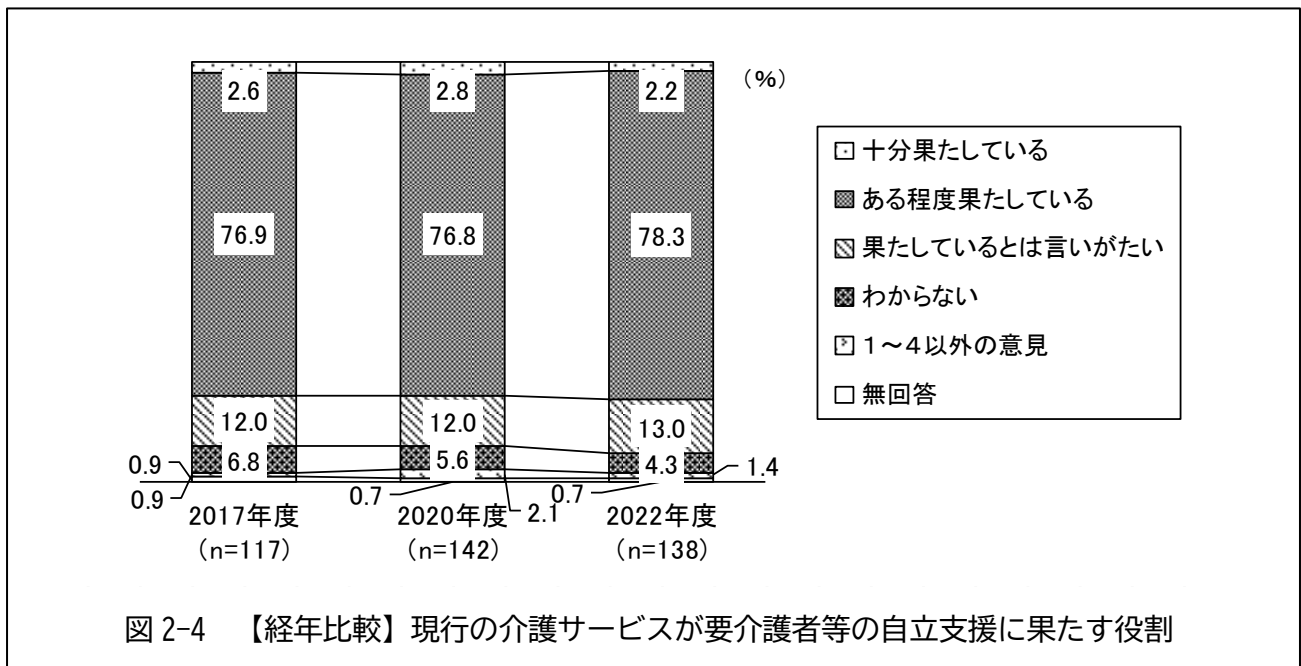
経年比較では、「もっと減らしたい」が11.4ポイント増加している。

2.2. 現行の介護サービスが要介護者等の自立支援に果たす役割

◆ 「ある程度果たしている」が7割台後半



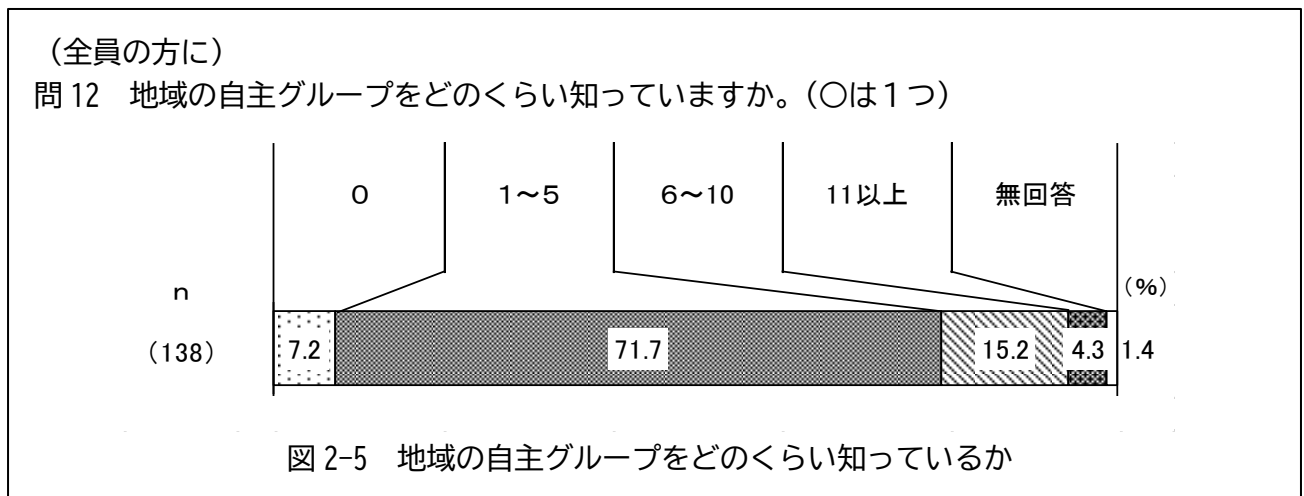
「ある程度果たしている」が7割台後半を占めている。



経年比較では、大きな差異はみられない。

2.3. 地域の自主グループをどのくらい知っているか

◆ 「1～5」が約7割



「1～5」が約7割を占めている。



2.4. ケアプランに地域資源を盛り込んでいるか

◆ 「はい」が9割台半ば

(全員の方に)

問 13 ケアプランに介護保険外のボランティアや地域活動等の地域資源を盛り込んでいますか。(〇は1つ)

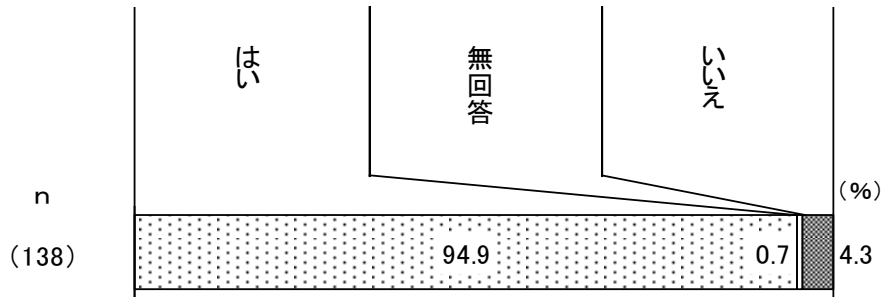


図 2-6 ケアプランに地域資源を盛り込んでいるか

「はい」が9割台半ばを占めている。

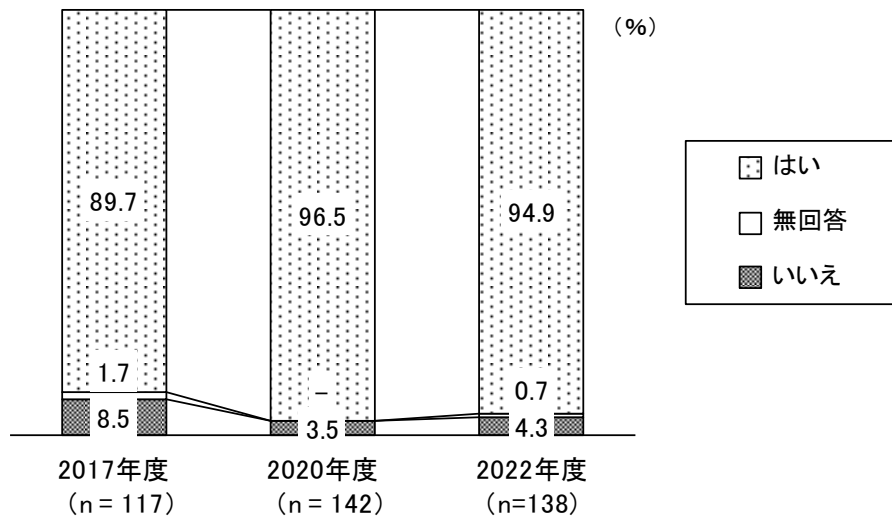


図 2-7 【経年比較】ケアプランに地域資源を盛り込んでいるか

経年比較では、大きな差異はみられない。

2.5. ケアプランに盛り込んでいる地域資源

◆ 「民間の配食サービス」が8割台後半

(問13で「はい」と回答した方に)  
 問13A 具体的にケアプランに盛り込んでいる地域資源はなんですか。  
 (あてはまるものすべてに○)

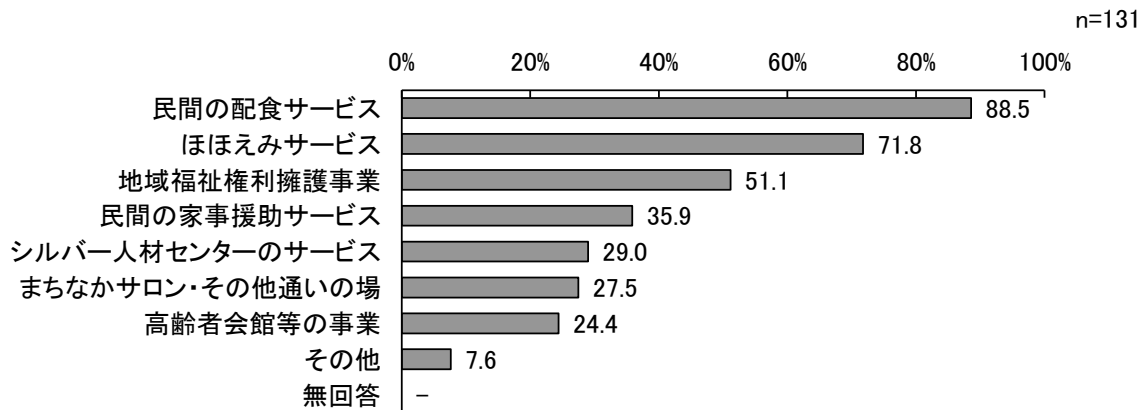


図2-8 ケアプランに盛り込んでいる地域資源

「民間の配食サービス」が8割台後半で最も高く、次いで「ほほえみサービス」が約7割となっており、ともに高い割合を占めている。

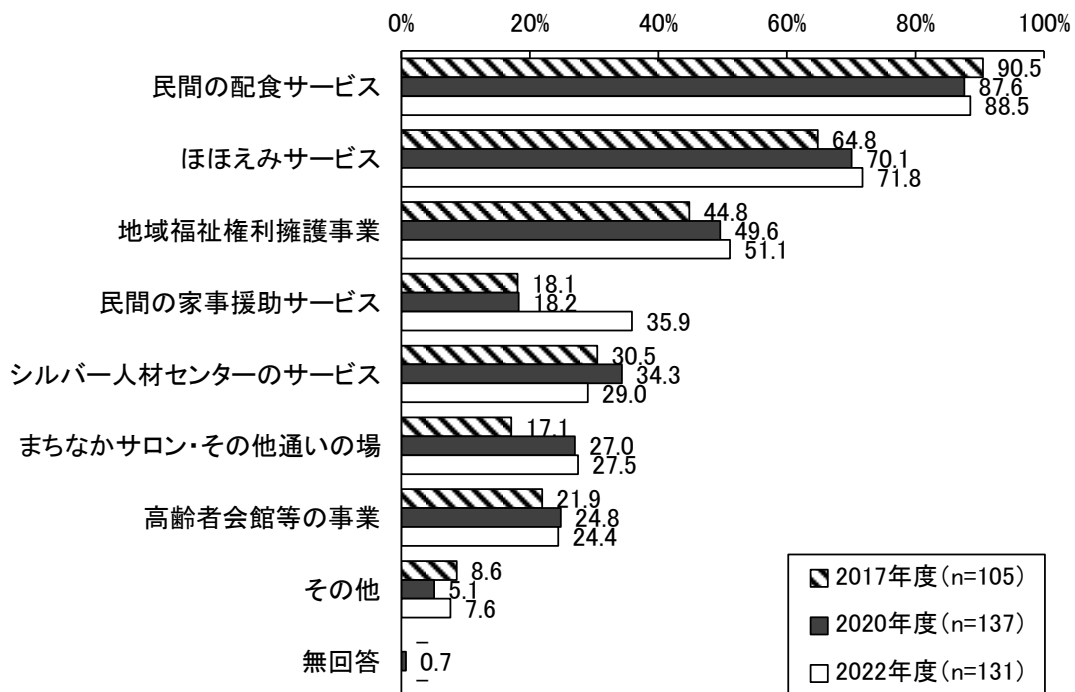


図2-9 【経年比較】ケアプランに盛り込んでいる地域資源

経年比較では、「民間の家事援助サービス」が2020年度から17.7ポイント増加している。

## 2.6. ケアプランに地域資源を盛り込む上での課題（自由回答）

（全員の方に）

問 14 ケアプランに地域資源を盛り込む上での課題は何だと思えますか。ご自由にお書きください。

ケアプランに地域資源を盛り込む上での課題について、102 件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

- ケアプランに盛り込みたいが、例えばほほえみサービスは協力会員さんとのマッチングが成立せず利用できないことが多い。そもそも地域資源が少なく生保の方や金銭に余力のない方は使えず問題解決や自立支援の一助になり難い。
- まちなかサロンや通いの場はあるが、一人ではいけない方を送迎する手段がほしい
- CMが地域資源をきちんと把握できる機会
- 手続きが時間かかる
- 本人のニーズと地域資源がマッチングするか。地域資源を利用するうえでどのくらいの情報提供が必要かの検討
- 各々の社会資源の特徴を正確に把握し伝えるための資料がないこと
- 地域に社会資源が少ないと思う
- 個人情報に留意したうえでの連携をどうするか
- 専門性、継続性、安定性に欠ける点がある
- すべての多職種連携が必要で、情報共有し支援することが大事である
- 本人と家族の要求に合わせて自立支援の一助となるサービスを選択し提案する
- 具体的にどのようなものを行っているか、リストを作る等、WEB上にあげる等情報を共有する必要がある
- 利用者のニーズに合うサービスを充てるのが難しい。条件が合わずに断念したことがある
- 家族の理解
- どこでどんな活動が展開されているのかいまいちわからない。促し一緒に行く人（送り迎えの人）がいれば地域活動に歩いて参加できるがそれがないのでどうしても連れ出してあげることまではできない
- ケアマネが地域資源を把握していない。ボランティア不足（成り手がいない）手段が少ない（会場が遠い、階段があって介助ができないと到達できない等）
- 地域資源の情報が、変更されたことを把握しにくい。情報が一箇所にまとまっていないこと。
- うまく、フォーマルサービスのすき間をうめる自立を促す地域資源が少ない。
- 社会資源には、地域差もある。各地域の地域性を把握し、地域にない社会資源を作っていく。
- 導入までに時間がかかることがある。
- 守秘義務の取り扱いについて(ボランティアの方などに、利用者の病状や家族状況・生活状況等をどこまで伝えるかが課題)

2.7. 供給不足のため、利用者に提供できないサービス

◆ 「通所リハビリテーション」と「介護老人保健施設」が4割台前半

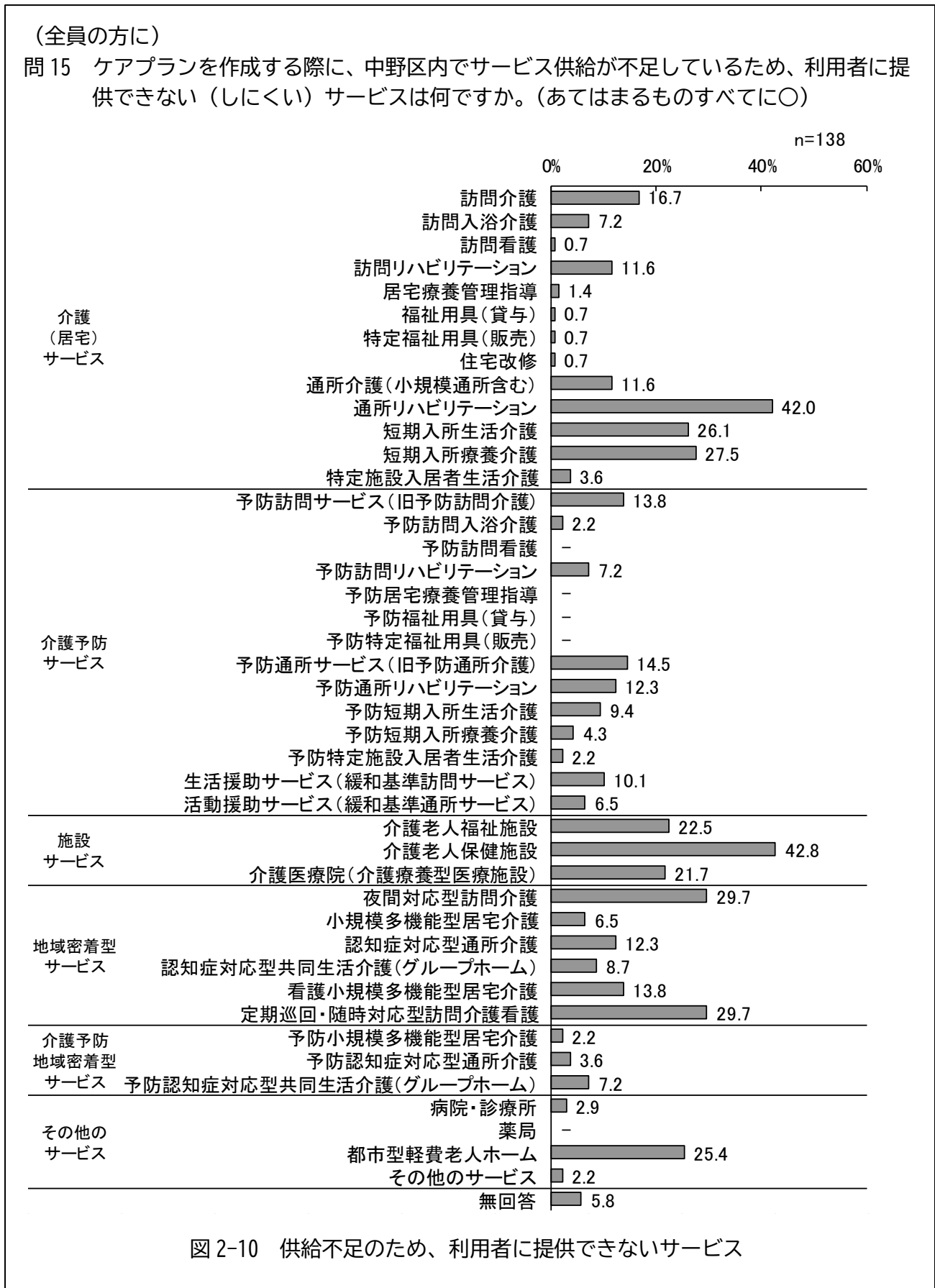


図 2-10 供給不足のため、利用者に提供できないサービス

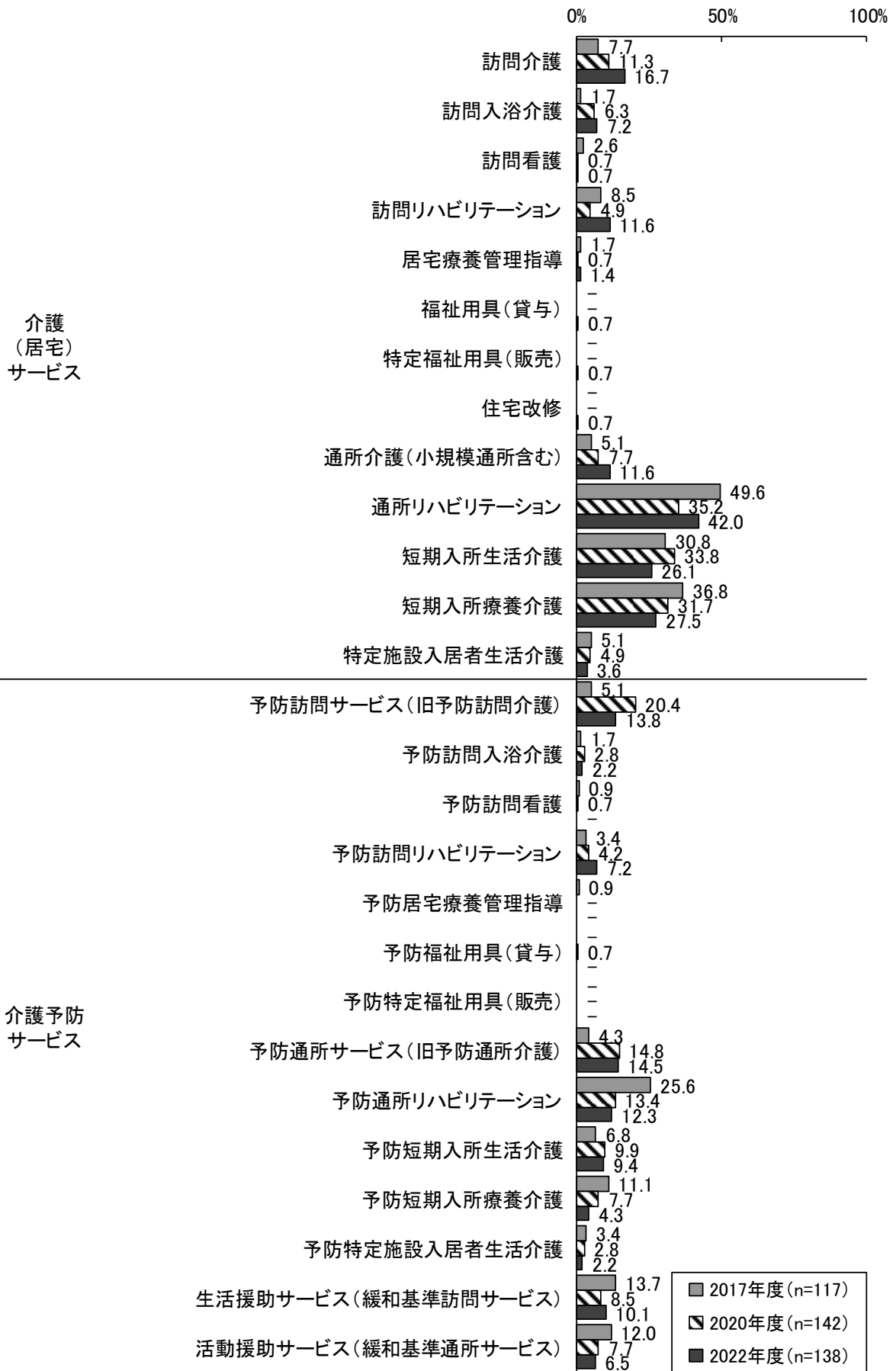
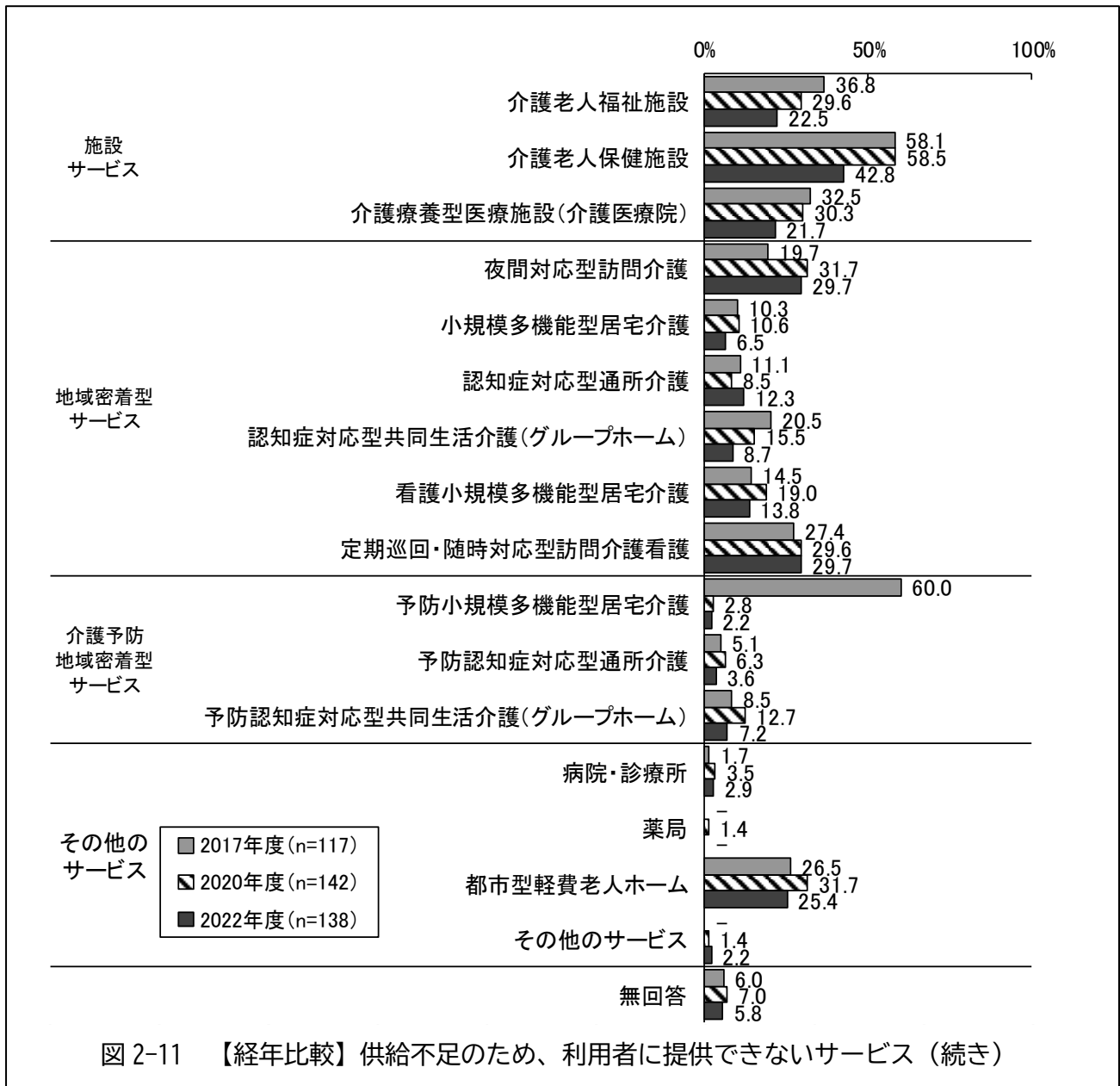


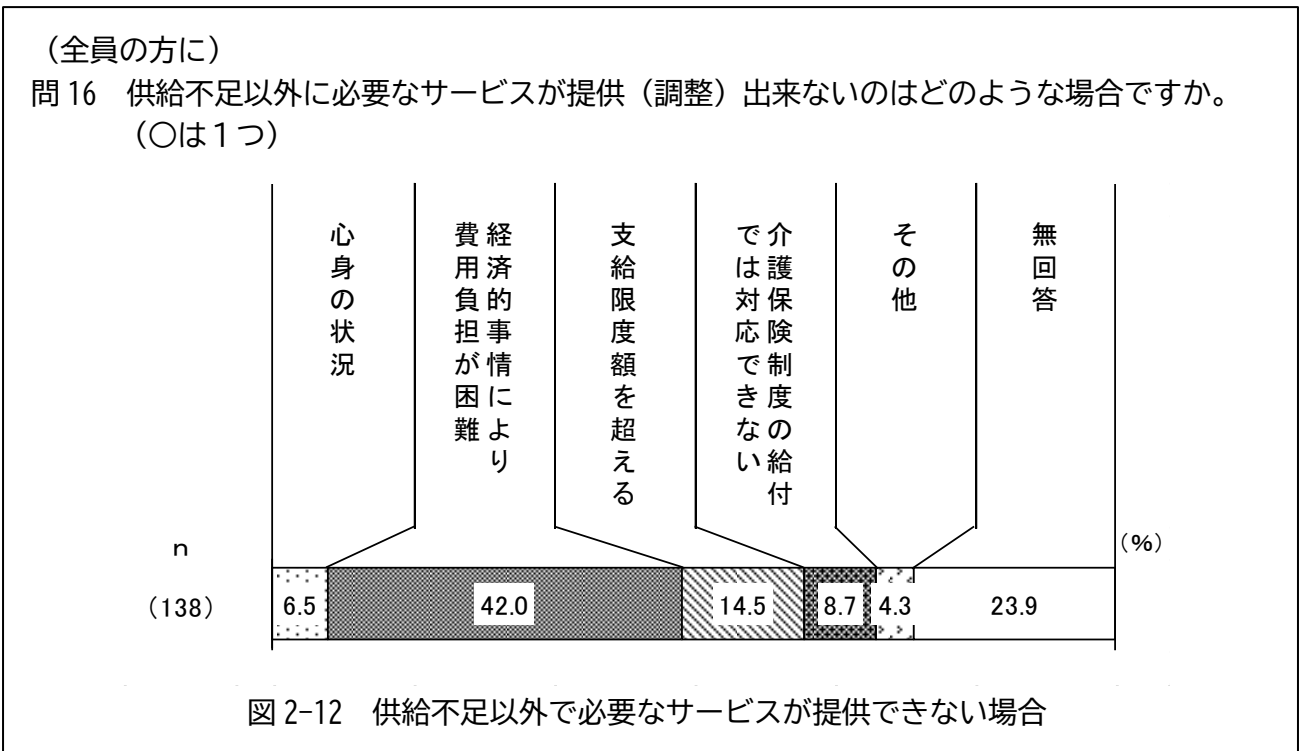
図 2-11 【経年比較】供給不足のため、利用者に提供できないサービス



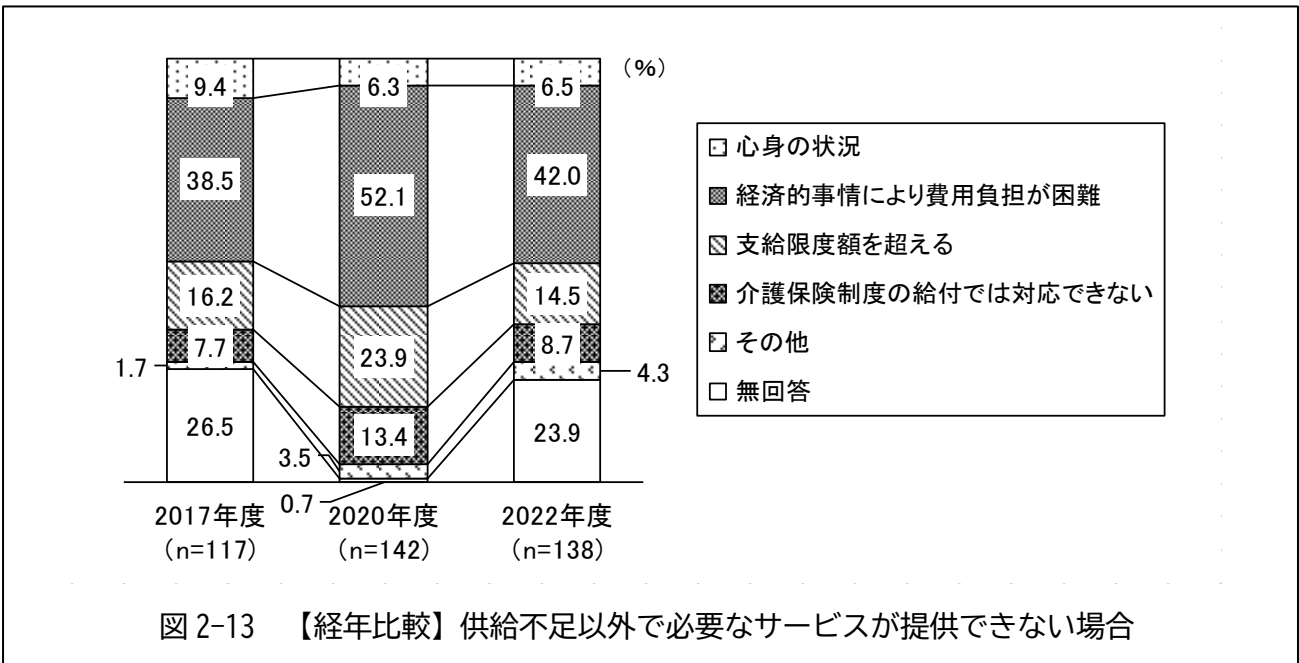
ケアプランを作成する際に、中野区内でサービス供給が不足しているため、利用者に提供できない(しにくい)サービスは、「介護老人保健施設」が42.8%で最も高く、以下「通所リハビリテーション」、「夜間対応型訪問介護」、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」、「短期入所療養介護」などとなっている。経年比較では、「訪問介護」「訪問リハビリテーション」「通所リハビリテーション」は2020年度から5ポイント以上の増加となっている。

2.8. 供給不足以外に必要なサービスが提供できない場合

◆ 「経済的事情により費用負担が困難」が4割前半



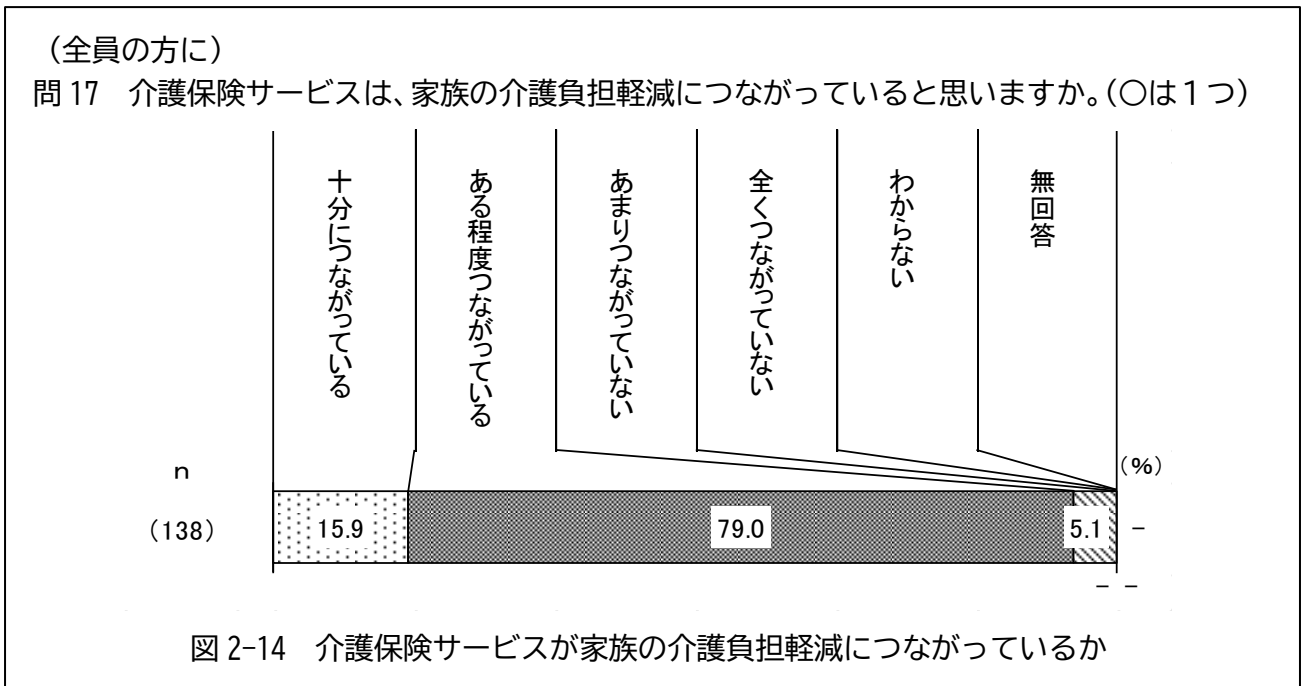
「経済的事情により費用負担が困難」が4割前半で最も高くなっている。



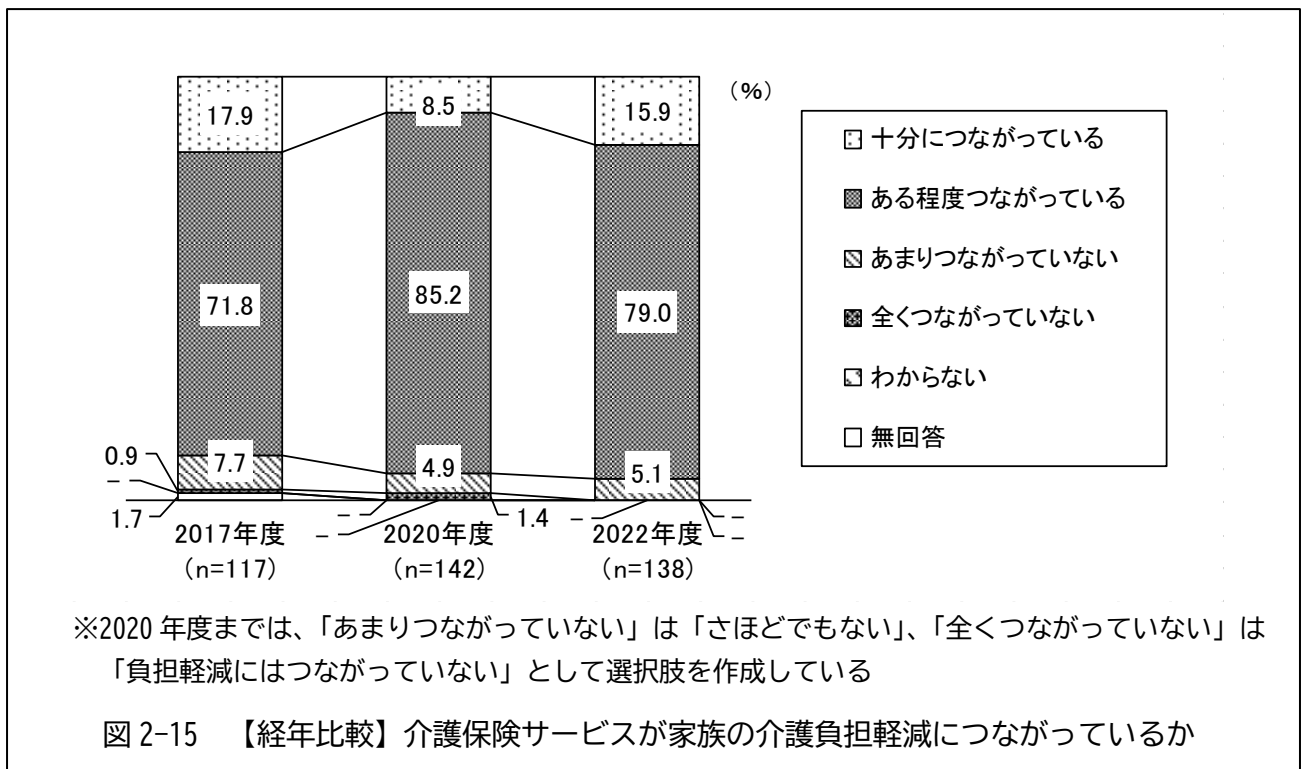
経年比較では、いずれの年度も「経済的事情により費用負担が困難」が最も高くなっている。

2.9. 介護保険サービスが家族の介護負担軽減につながっているか

◆ 「ある程度つながっている」が約8割



「ある程度つながっている」が約8割を占めている。

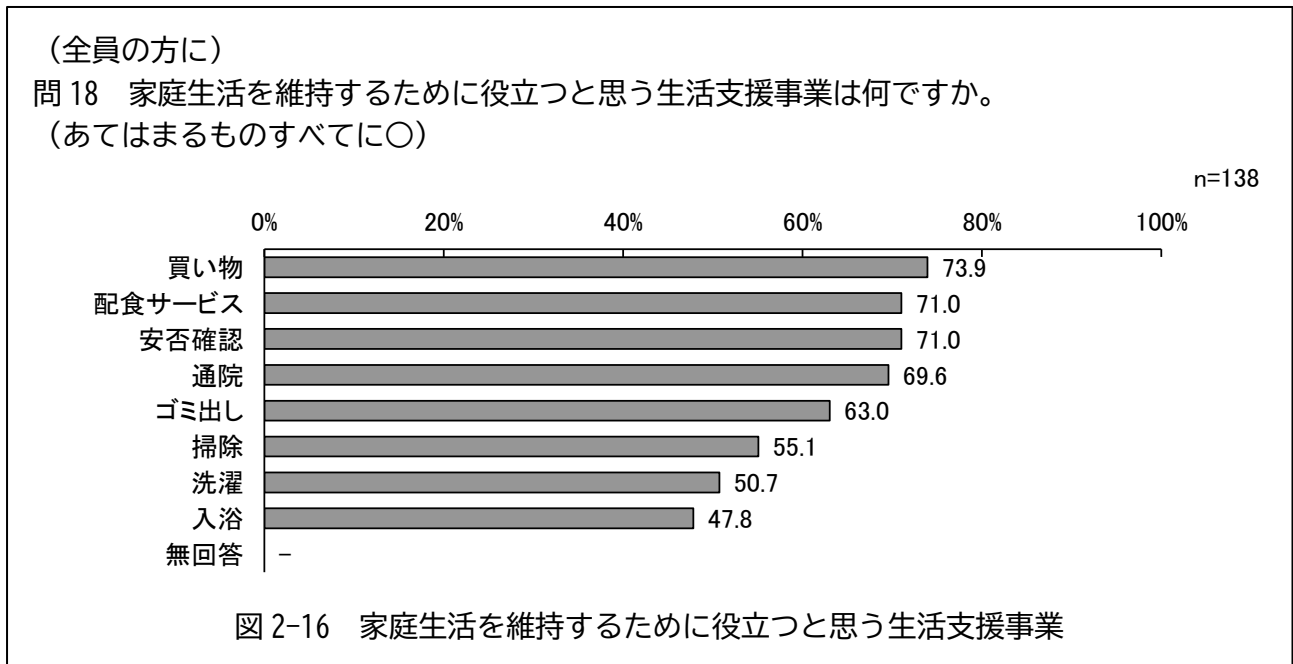


経年比較では、2020年度と比べて「十分につながっている」が7.4ポイント増加している。

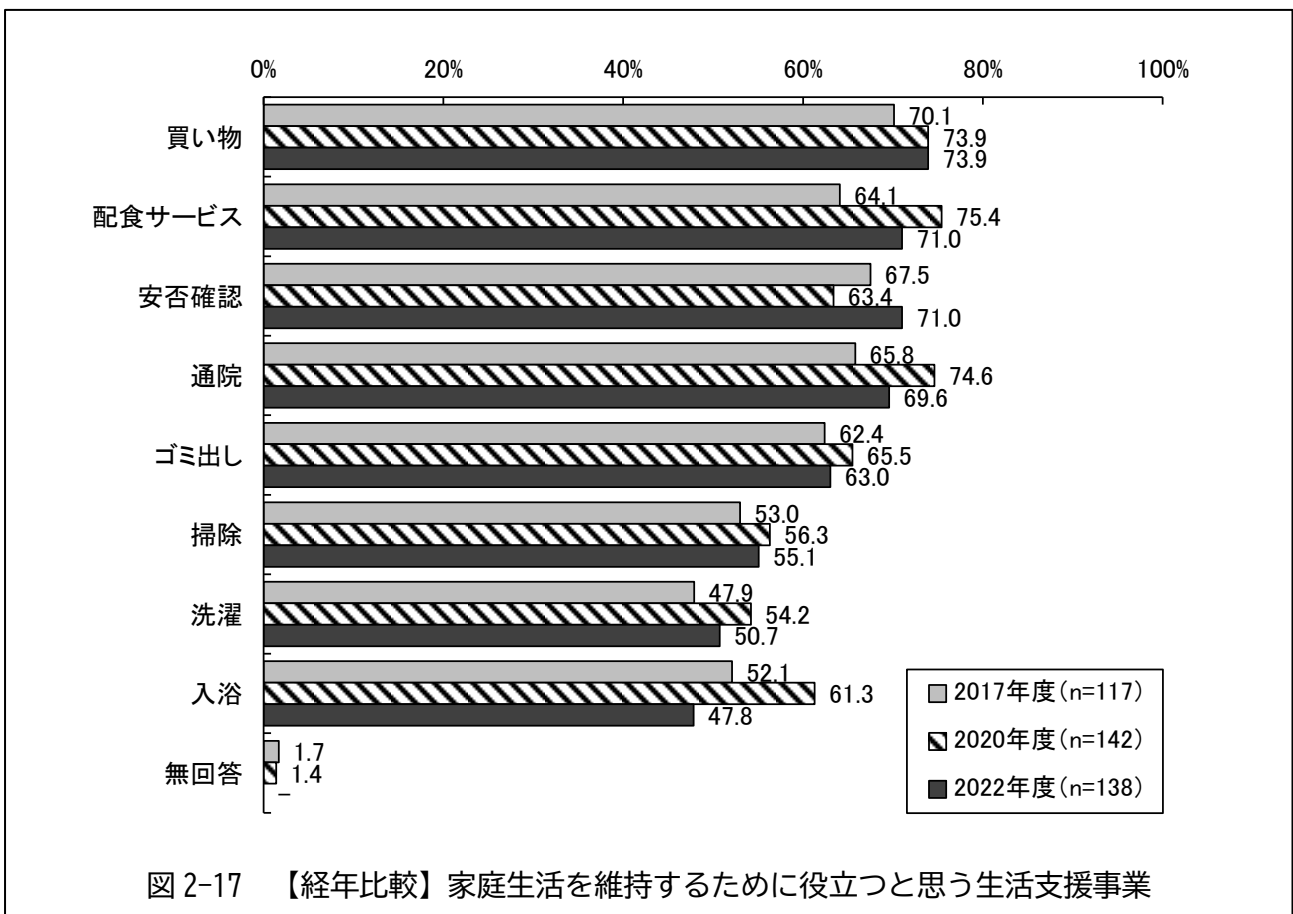


2.10. 家庭生活を維持するために役立つと思う生活支援事業

◆ 「買い物」が7割台前半



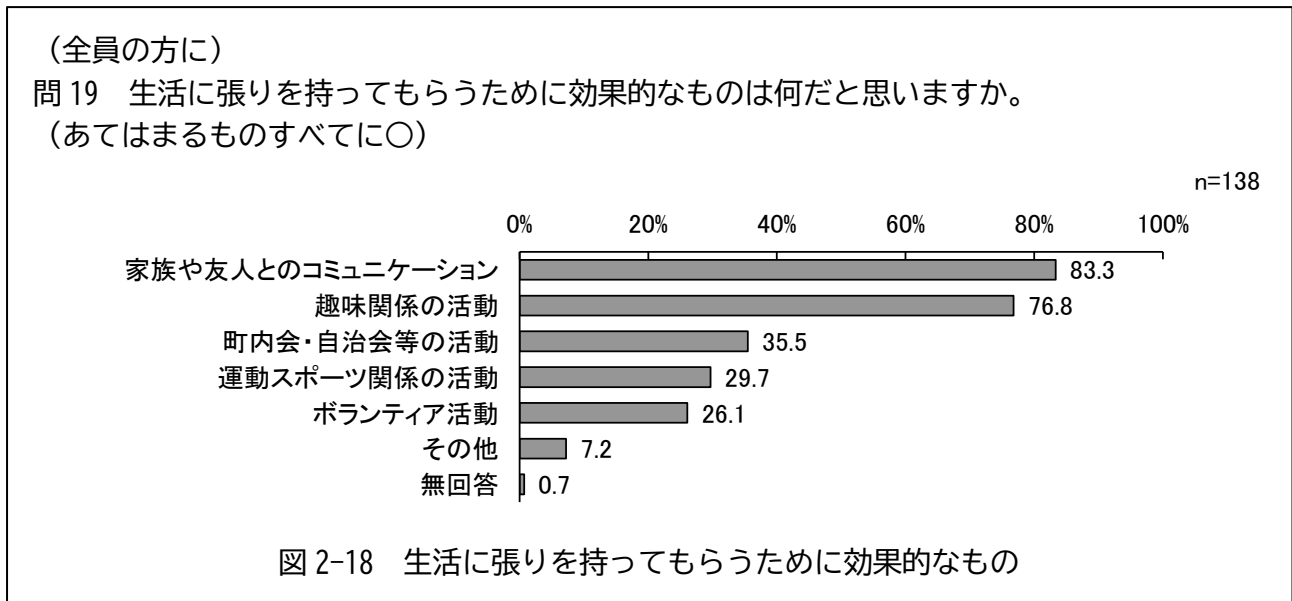
「買い物」が7割台前半で最も高く、次いで「配食サービス」、「安否確認」、「通院」が約7割を占めている。



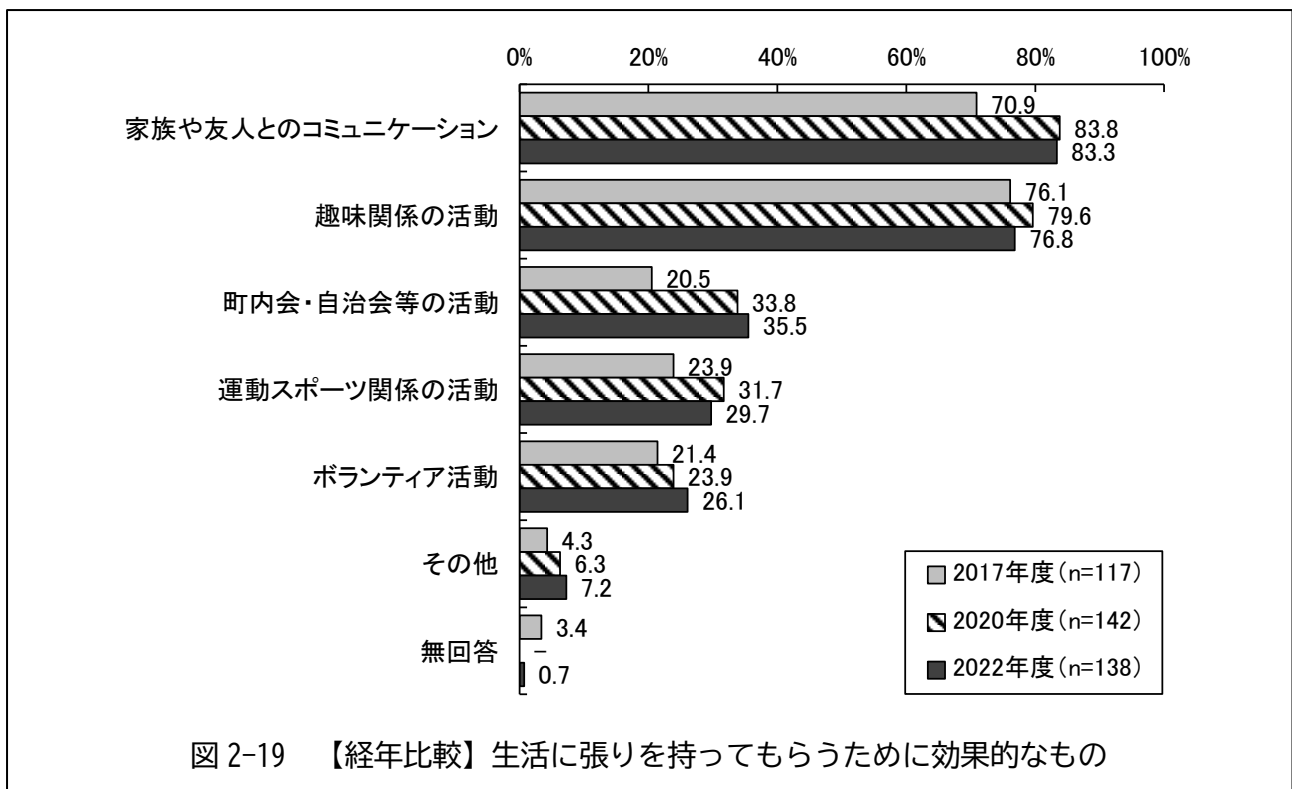
経年比較では、2020年度と比べて「安否確認」が7.6ポイント増加している。

2.11. 生活に張りを持ってもらうために効果的なもの

◆ 「家族や友人とのコミュニケーション」が8割台前半



「家族や友人とのコミュニケーション」が8割台前半を占めている。



経年比較では、「家族や友人とのコミュニケーション」と「趣味関係の活動」が継続して高い割合を占めている。

また、「町内会・自治会等の活動」と「ボランティア活動」は年々増加を続けている。

## 2.12. ケアマネジメントを行う際に工夫していること（自由回答）

（全員の方に）

問20 ケアマネジメントを行う際に工夫していることがありましたら、ご自由にお書きください。

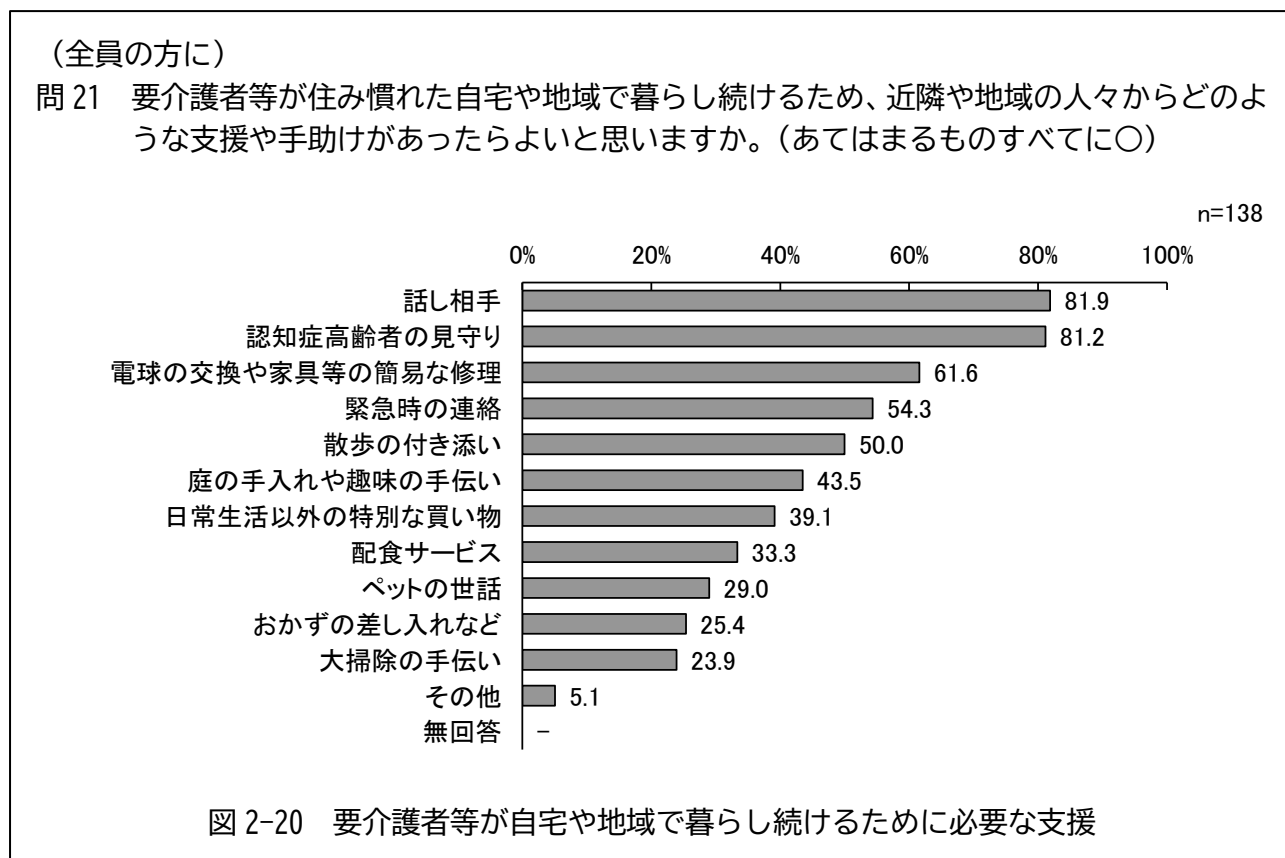
ケアマネジメントを行う際に工夫していることについて、83件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

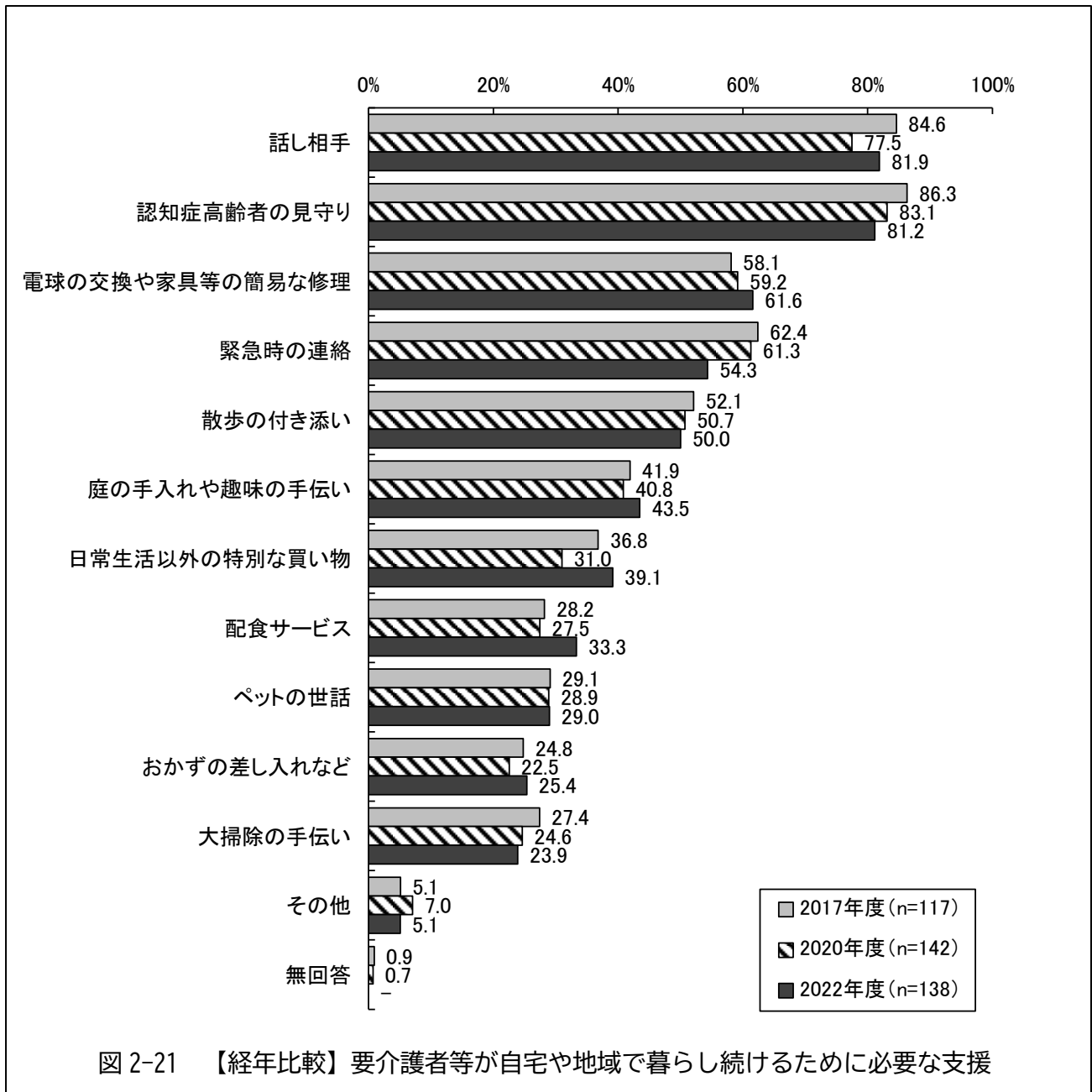
- 本人や家族の意向を尊重するだけでは、有効なケアプラン作成にならないので、経験上传えることの出来る予後予測を可能な限り伝えそれを踏まえてサービスを選択していただけるよう工夫している。
- 家族に自分事として介護に興味を持ってもらうこと。いずれ自分も通る道なので今から知っておくと役に立つことがたくさんあることを伝えたい
- 介護保険の支援以外のサービスを探すようにします。状態、ニーズにもよりますが、アセスメントした上で必要な支援を絞って出来るだけ自立して生活していくことを前提としてもらうよう最初にきちんと伝えていきます
- 本人、家族が気持ちよく話ができる姿勢を心掛けています
- 専門職につなげられるように（医療を主として）している。これがけっこう難しい
- 利用者が安心安定した療養生活が送れるよう夫婦、親子、兄弟等、家族の絆が深まるよう工夫すること。それぞれの立場や環境を尊重しいい部分を（やさしさやおもいやり）引き出して伝えまとめる
- 利用者の意思を尊重し、家族の意向、各サービス提供事業所からの情報の確認を行い支援出来るよう…基本の基を忘れずにしている
- とにかく話を聞く、初回のアセスメントだけでは無理。訪問を重ねながら様々な角度からの質問をして聞き取っている
- 本人様らしく、出来る限り生き活きと楽しみを持って暮らしていただけるようなケアマネジメントになるよう努力している。
- 本人の希望を一番に考えます。場合によっては家族の負担軽減を一番に考えることもあります。また、サービスが多く本人の出来ることを取り上げないようにしています
- タブレットを活用し、視覚から情報提供してサービス事業所や福祉用具などイメージしやすいようにしている。
- 本人の困りごとを傾聴するだけでなく、その背景もしっかり把握して対応すること。
- サービスごとに事業所情報を取りまとめ（ファイルにして）利用者、家族が自己選択できるように情報提供している。
- 身体的にも精神的にも、今以上悪くならないようにサービスを調整する。本人、家族の自立に向かうようなプランを考えていく。
- 利用者のストレングスを生かせるようなケアプラン作成を心がけています。
- アセスメント、本人や家族が望む生活スタイルを見出すよう努めている。
- あくまでも公正中立の立場であることを忘れずケアマネジメントする（サービス事業者からの話は傾聴するが鵜呑みにせず必ず検証する。ケアマネの立場でも利用者の意向をきちんと把握する。サービス事業者の労を労いつつ利用者の代弁者の立ち位置でもサービス事業者と関わる。ケアプランを立てる時変更する時は丁寧にケアマネジメントを行う（利用者にとっては最小限のサービスで最大の効果が得られるように、サービス事業者にとっては十分に専門性を発揮できるように、関わる皆が納得できるよう調整し環境設定する）
- インフォーマルサポートなど全て盛り込み周知
- いつでも相談しやすい対応をする

2.13. 要介護者等が自宅や地域で暮らし続けるために必要な支援

◆ 「話し相手」と「認知症高齢者の見守り」が約8割



「話し相手」と「認知症高齢者の見守り」が約8割を占めている。



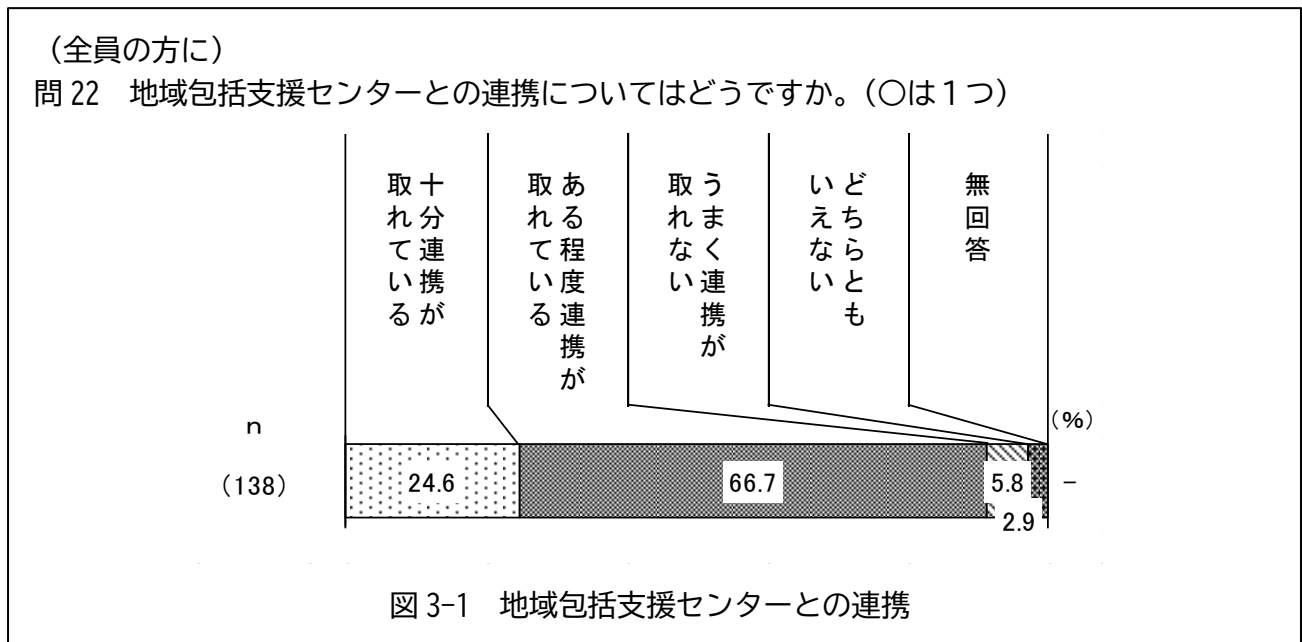
経年比較では、「話し相手」と「認知症高齢者の見守り」が継続して高い割合を占めている。

また、2020年度と比べて「日常生活以外の特別な買い物」が 8.1 ポイント、「配食サービス」が 5.8 ポイント増加している。

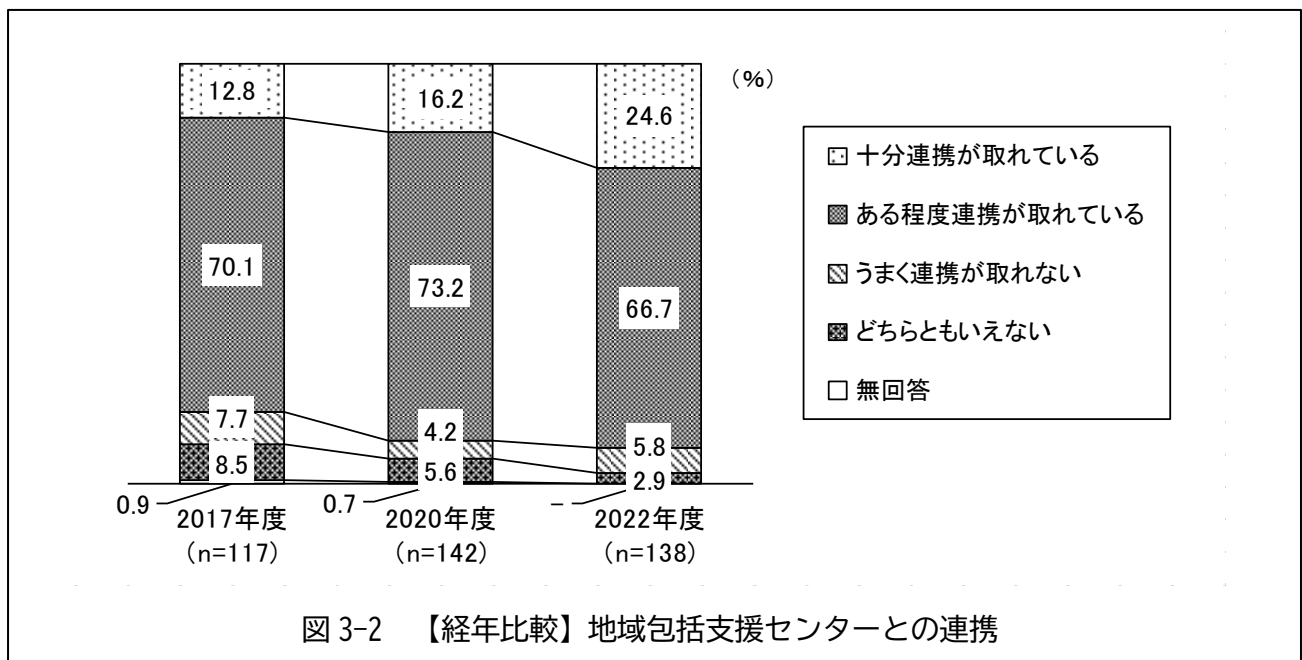
### 3. 連携について

#### 3.1. 地域包括支援センターとの連携

##### ◆ 「ある程度取れている」が6割台半ば



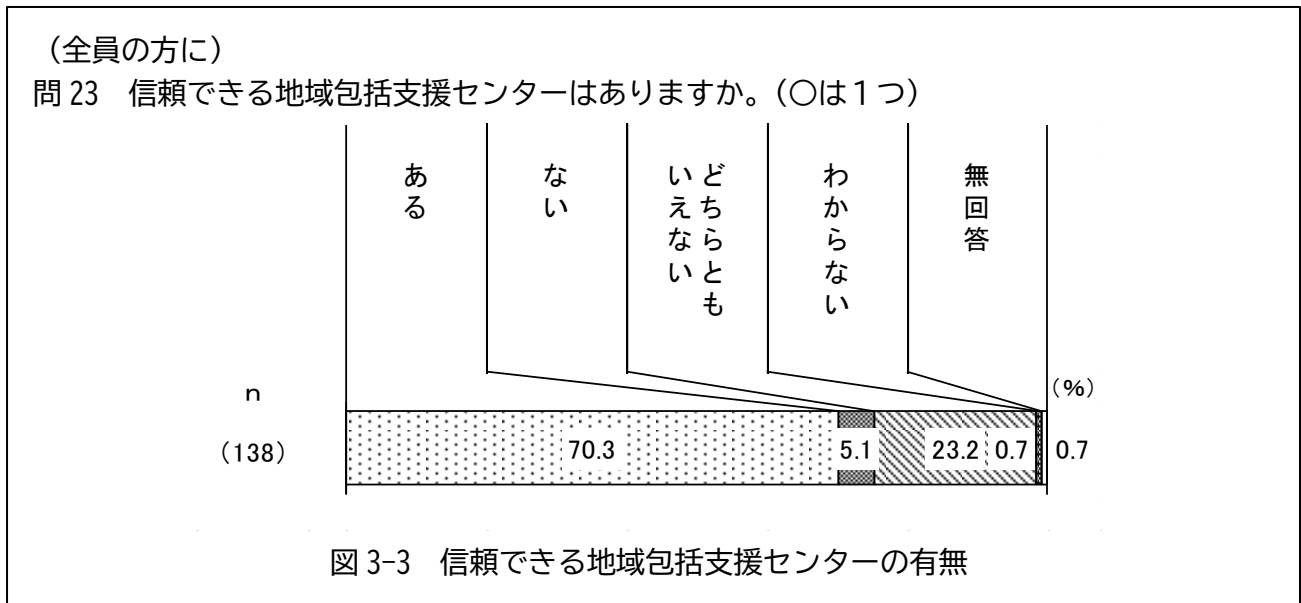
「ある程度連携が取れている」が6割台半ば、「十分連携が取れている」が2割台半ばで、合わせると約9割となっている。



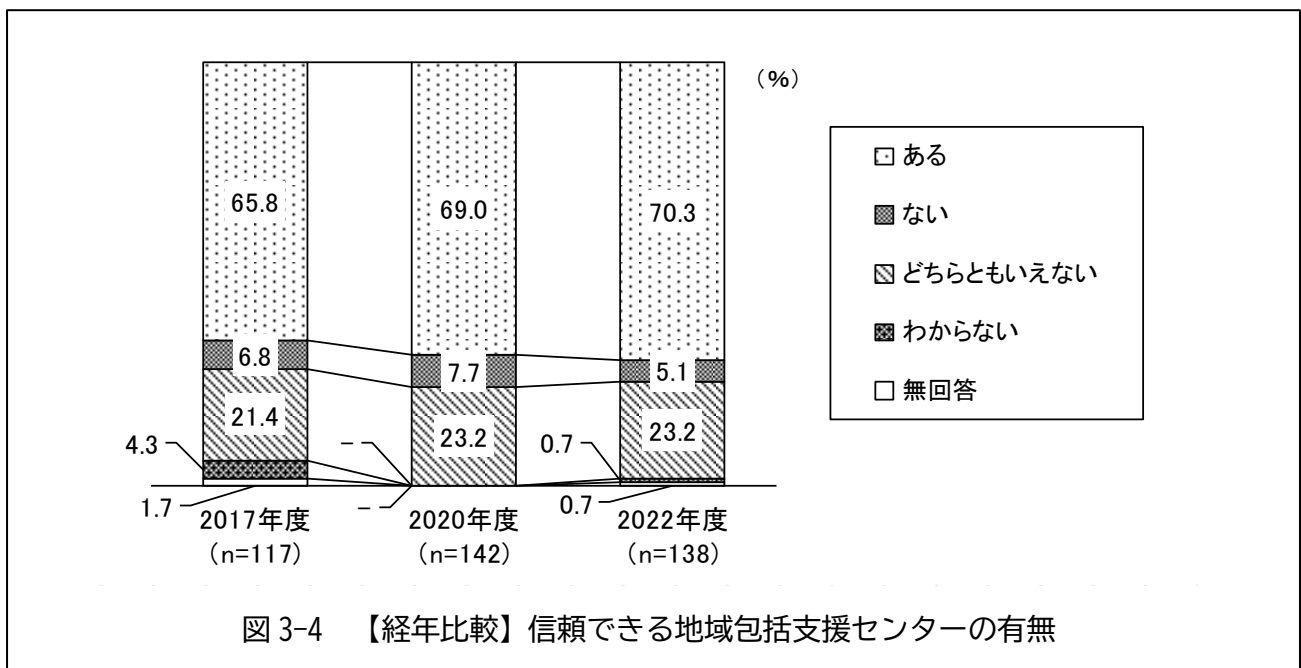
経年比較では、2020年度と比べて「ある程度連携が取れている」が6.5ポイント減少しているものの、「十分連携が取れている」が8.4ポイント増加している。

3.2. 信頼できる地域包括支援センターの有無

◆ 「ある」が約7割



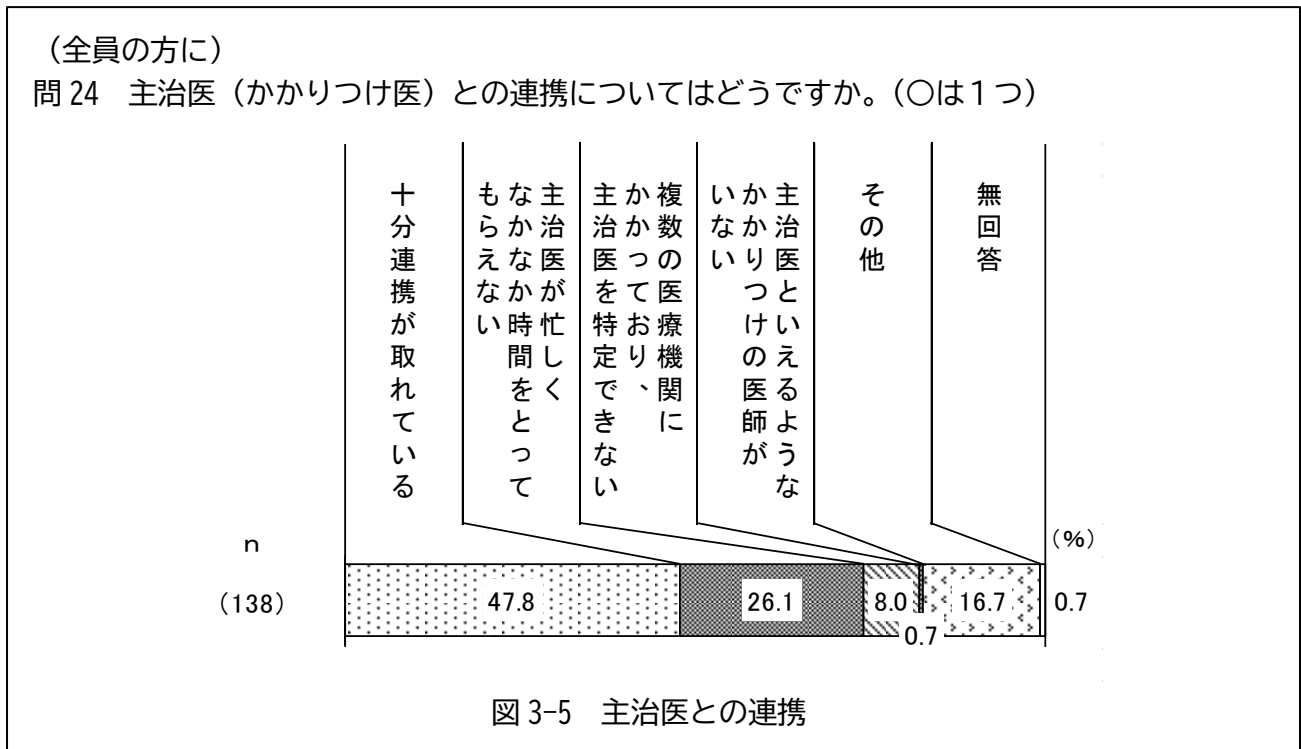
「ある」が約7割を占めている。



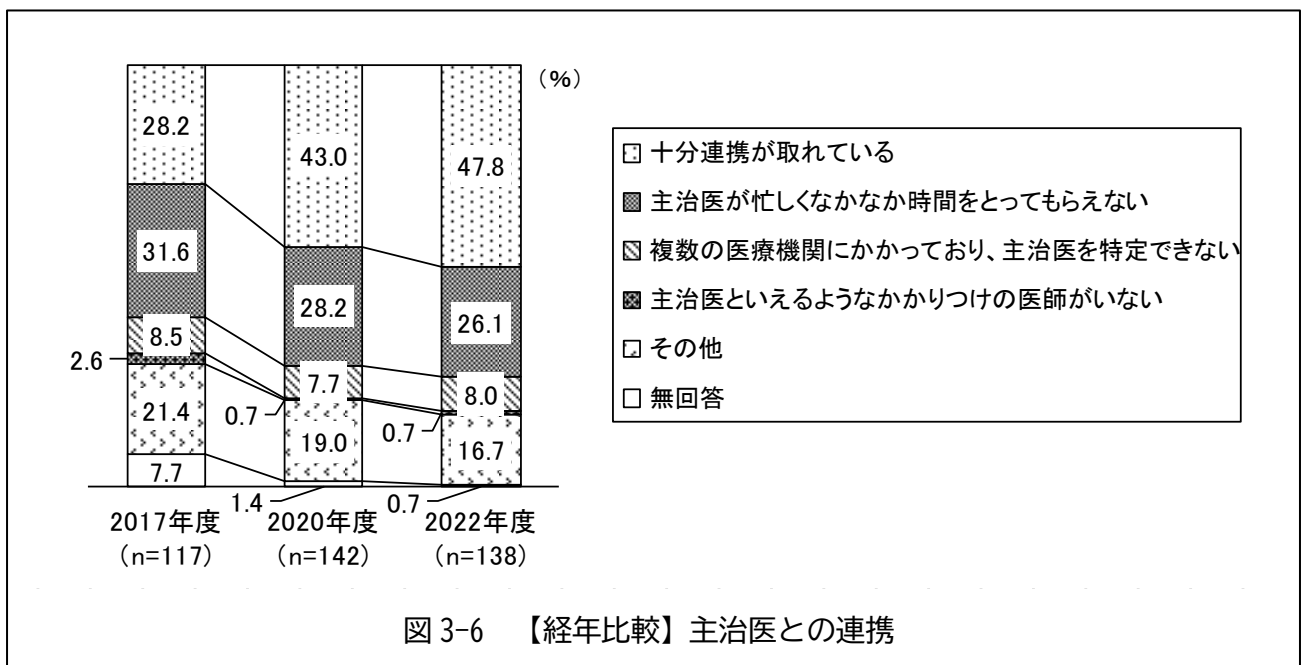
経年比較では、大きな差異はみられない。

3.3. 主治医との連携

◆ 「十分連携が取れている」が4割台前半



「十分連携が取れている」が4割台後半で最も高く、次いで「主治医が忙しゅうかなか時間をとってもらえない」が2割台半ばとなっている。

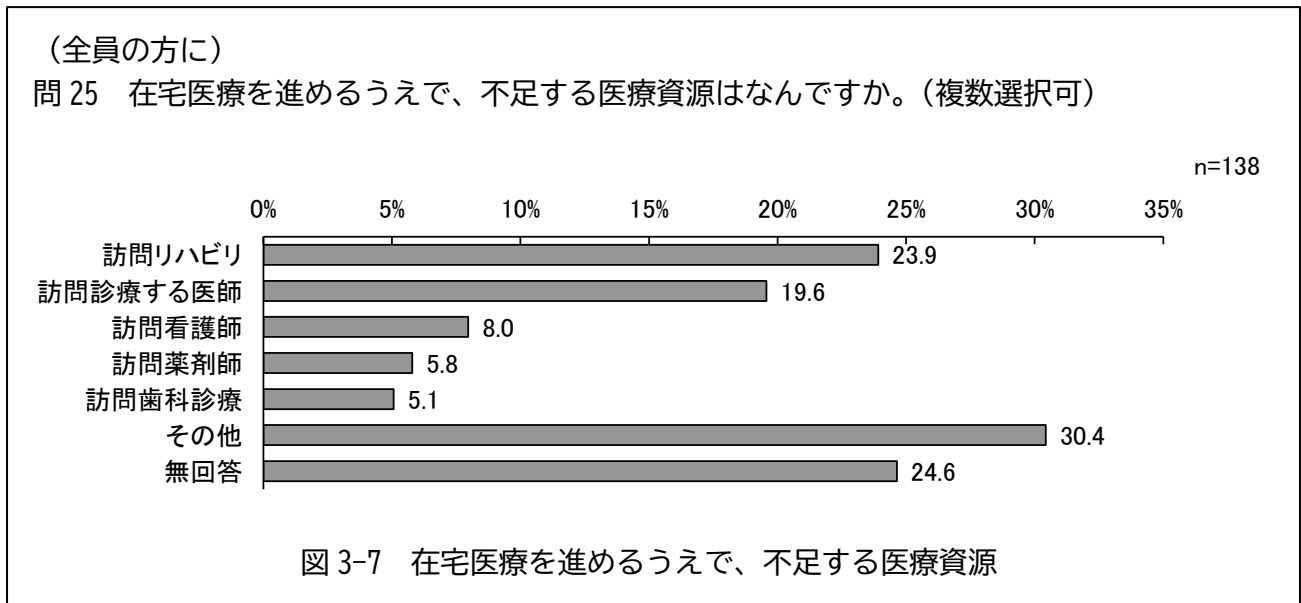


経年比較では、「十分連携が取れている」は年々増加しており、2020年度と比べて4.8ポイント増加している。

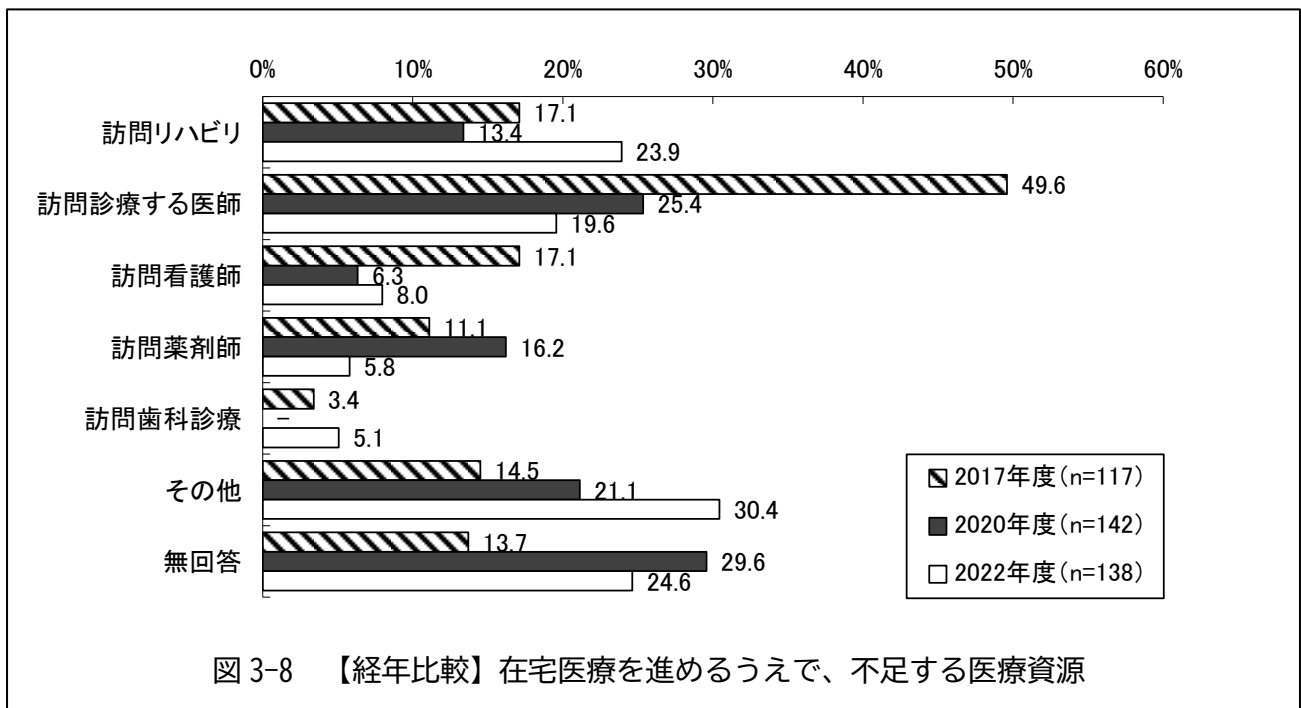


3.4. 在宅医療を進めるうえで、不足する医療資源

◆ 「訪問リハビリ」が2割台前半



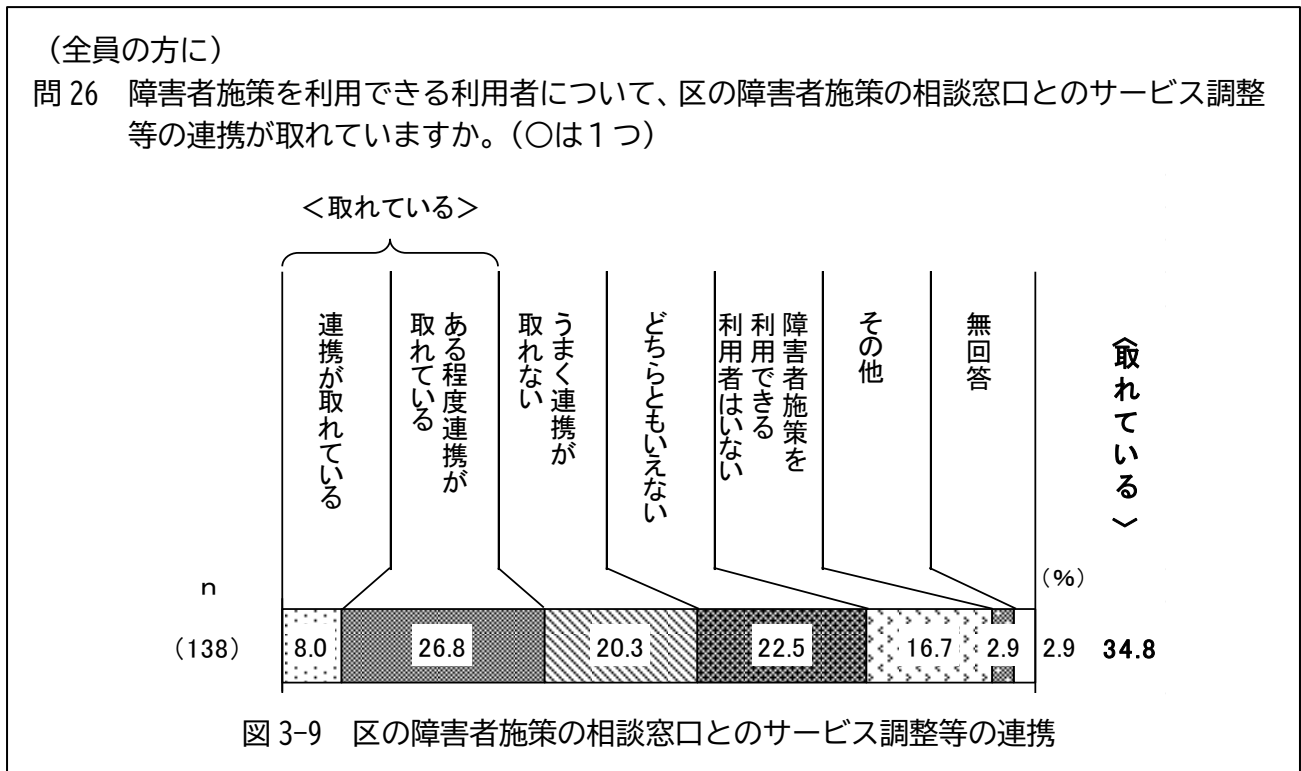
「訪問リハビリ」が2割台前半で最も高く、次いで「訪問診療する医師」が約2割となっている。



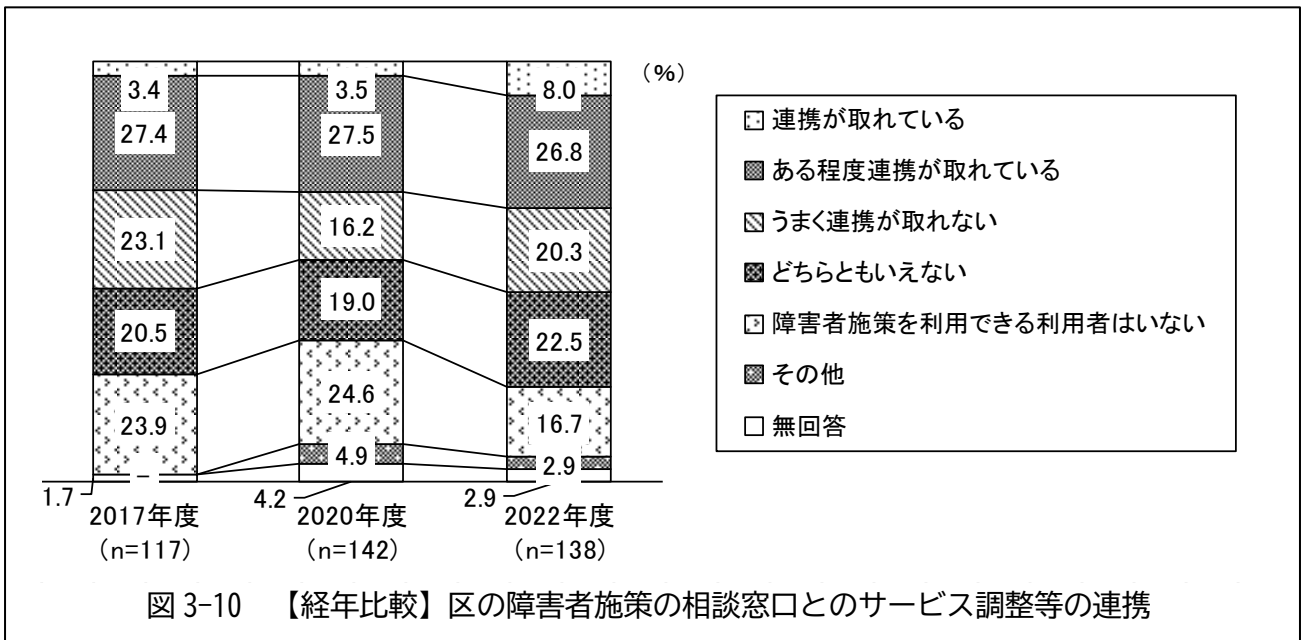
経年比較では、2020年度と比べて「訪問リハビリ」が10.5ポイント増加している。一方、「訪問診療する医師」は大きく減少している。

3.5. 区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携

◆ 「ある程度連携が取れている」が最も高い



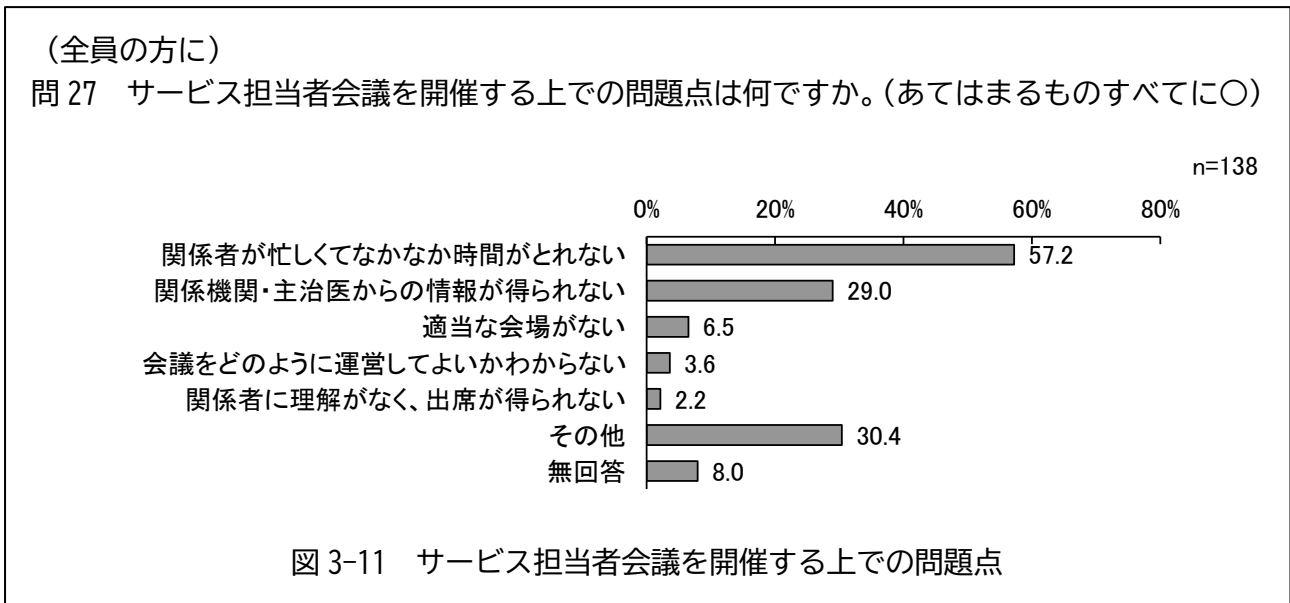
「連携が取れている」と「ある程度連携が取れている」を合わせた<取得している>は3割台半ばとなっている。



経年比較では、2020年度と比べて<取得している>が3.8ポイント増加しているが、「うまく連携が取れない」も4.1ポイント増加している。

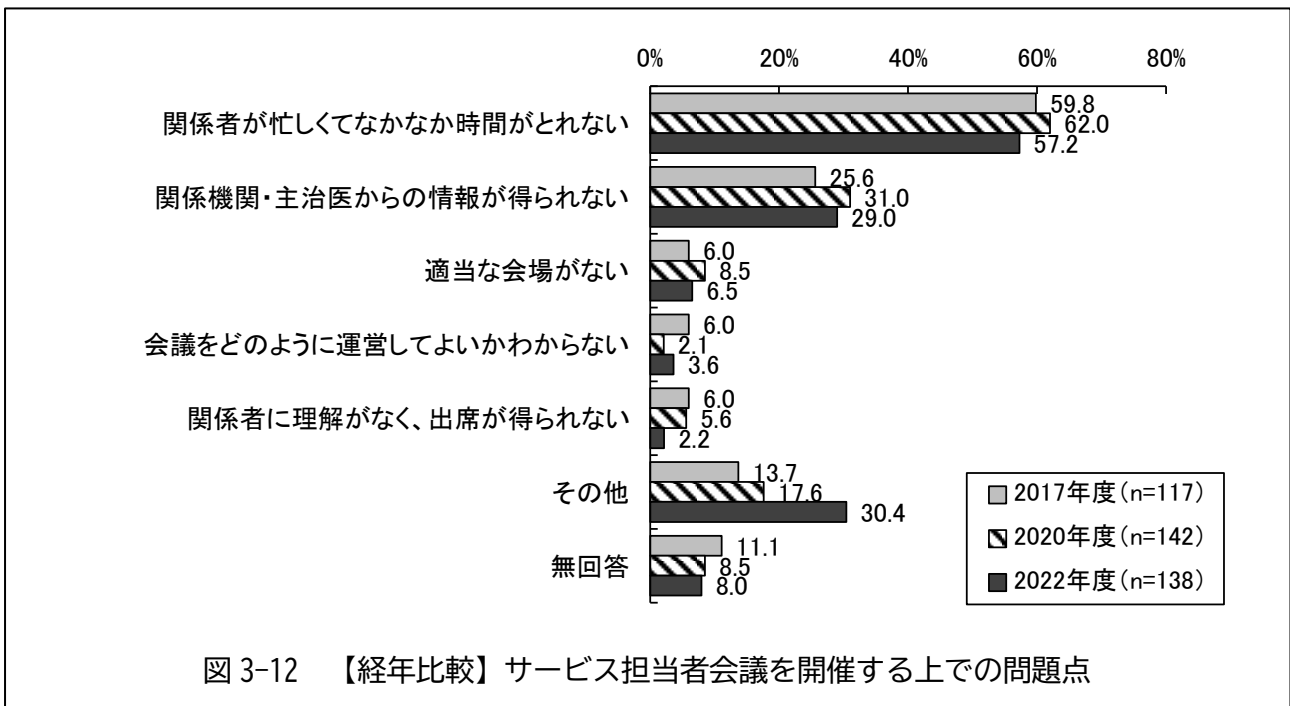
3.6. サービス担当者会議を開催する上での問題点

◆ 「関係者が忙しくてなかなか時間がとれない」が6割台前半



「関係者が忙しくてなかなか時間がとれない」が5割台後半を占めている。

「その他」の内容としては、新型コロナウイルスの影響で、サービス担当者会議を開催できないことが多く挙げられている。

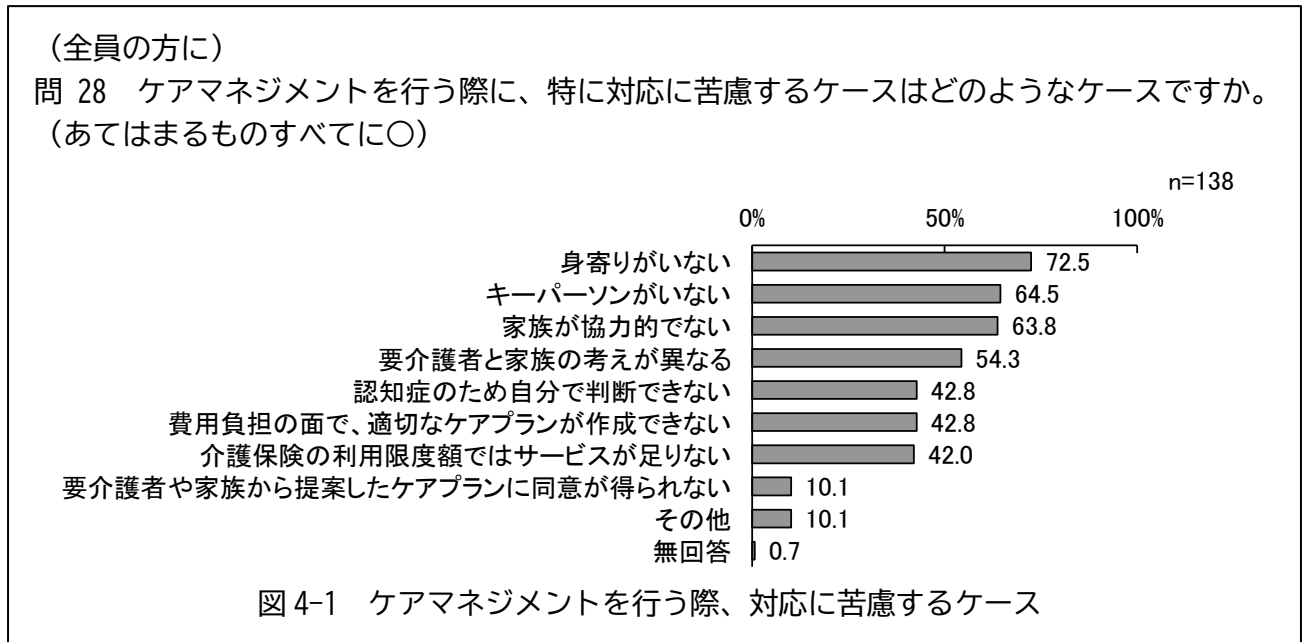


経年比較では、継続して「関係者が忙しくてなかなか時間がとれない」が過半数を占めている。

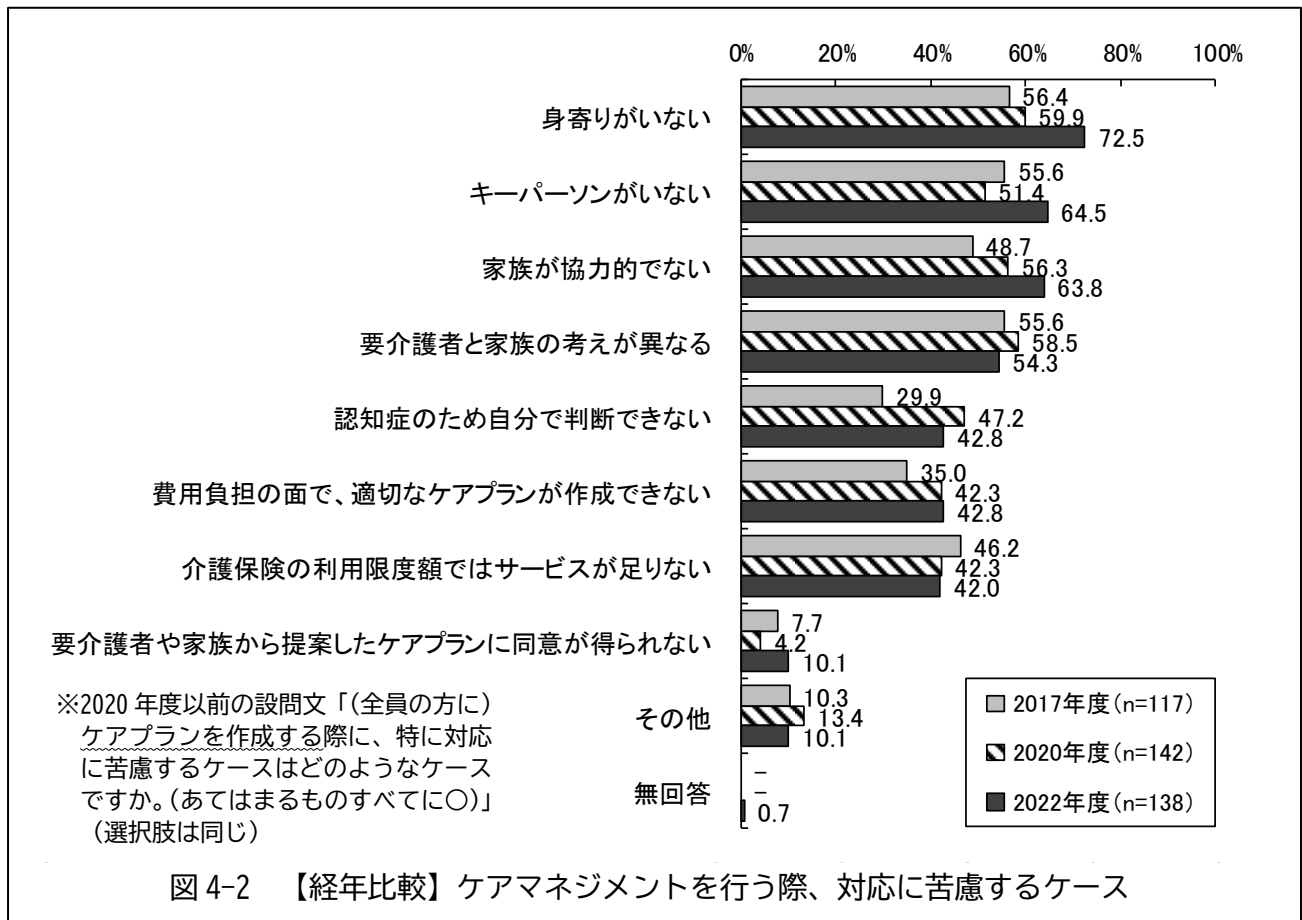
## 4. 困難な事例への対応について

### 4.1. ケアマネジメントを行う際、対応に苦慮するケース

#### ◆ 「身寄りがいない」が約7割



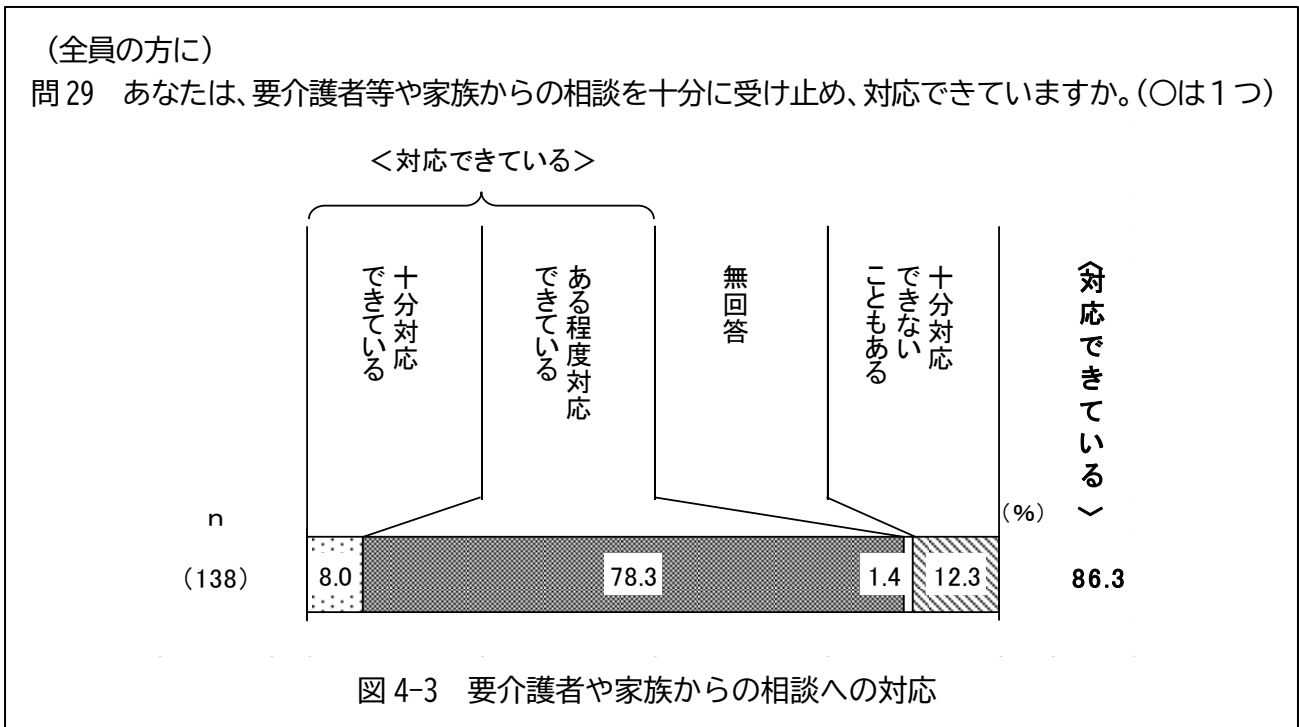
「身寄りがいない」が約7割で最も高く、次いで「キーパーソンがいない」、「家族が協力的でない」が6割台半ばとなっている。



経年比較では、2020年度と比べて「身寄りがいない」が12.6ポイント、「キーパーソンがいない」が13.1ポイント増加している。

4.2. 要介護者や家族からの相談への対応

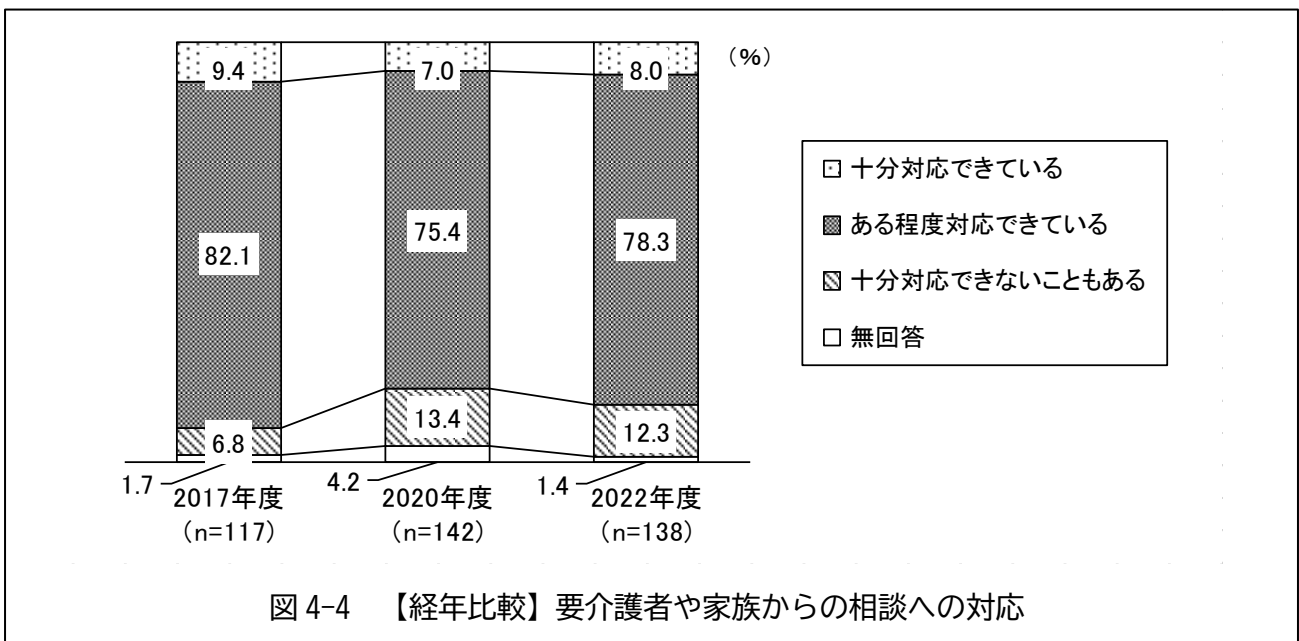
◆ 「ある程度対応できている」が7割後半



「十分対応できている」「ある程度対応できている」を合わせた<対応できている>は、8割台半ばとなっている。

【対応できない具体的な理由（「十分対応できないこともある」と回答した方）】

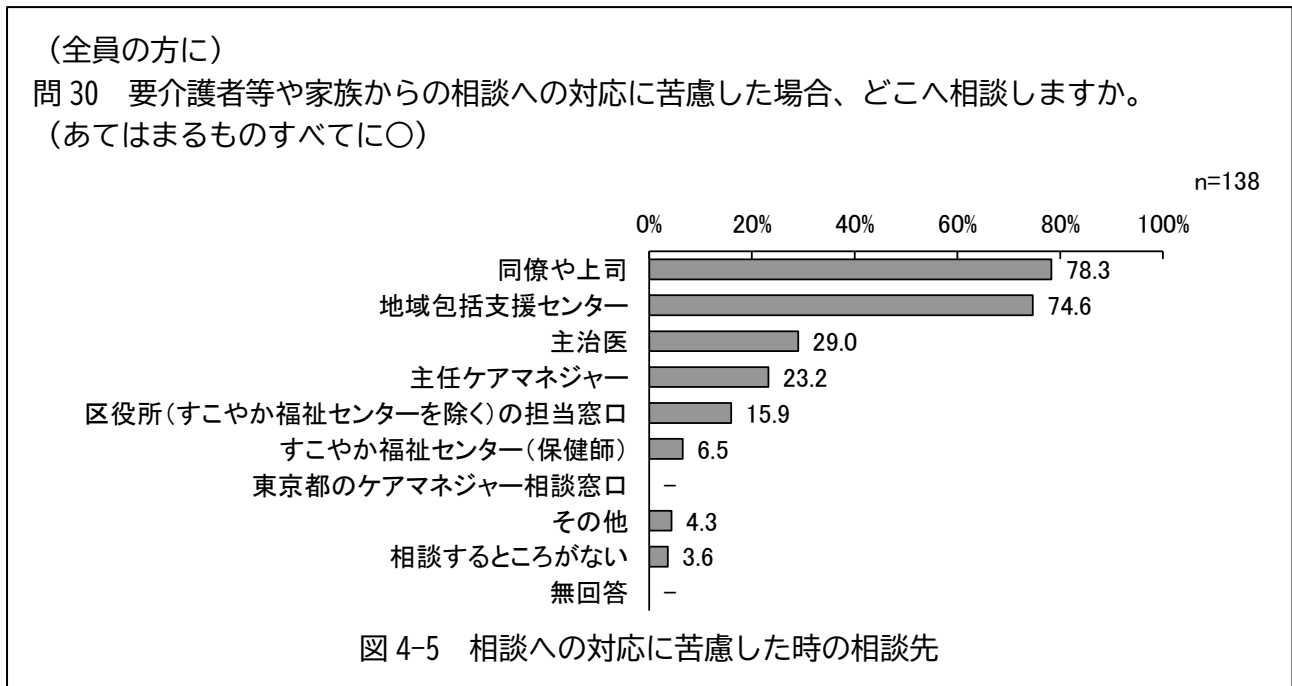
- ・ 本人と家族の意向が異なることがある
- ・ 介護保険では対応できないことを相談されることがある
- ・ ケアマネジャーとしての役割以上を求められることがある
- ・ 自分では対応するように心がけているが、受け止めてくれないなどと言われることがある など



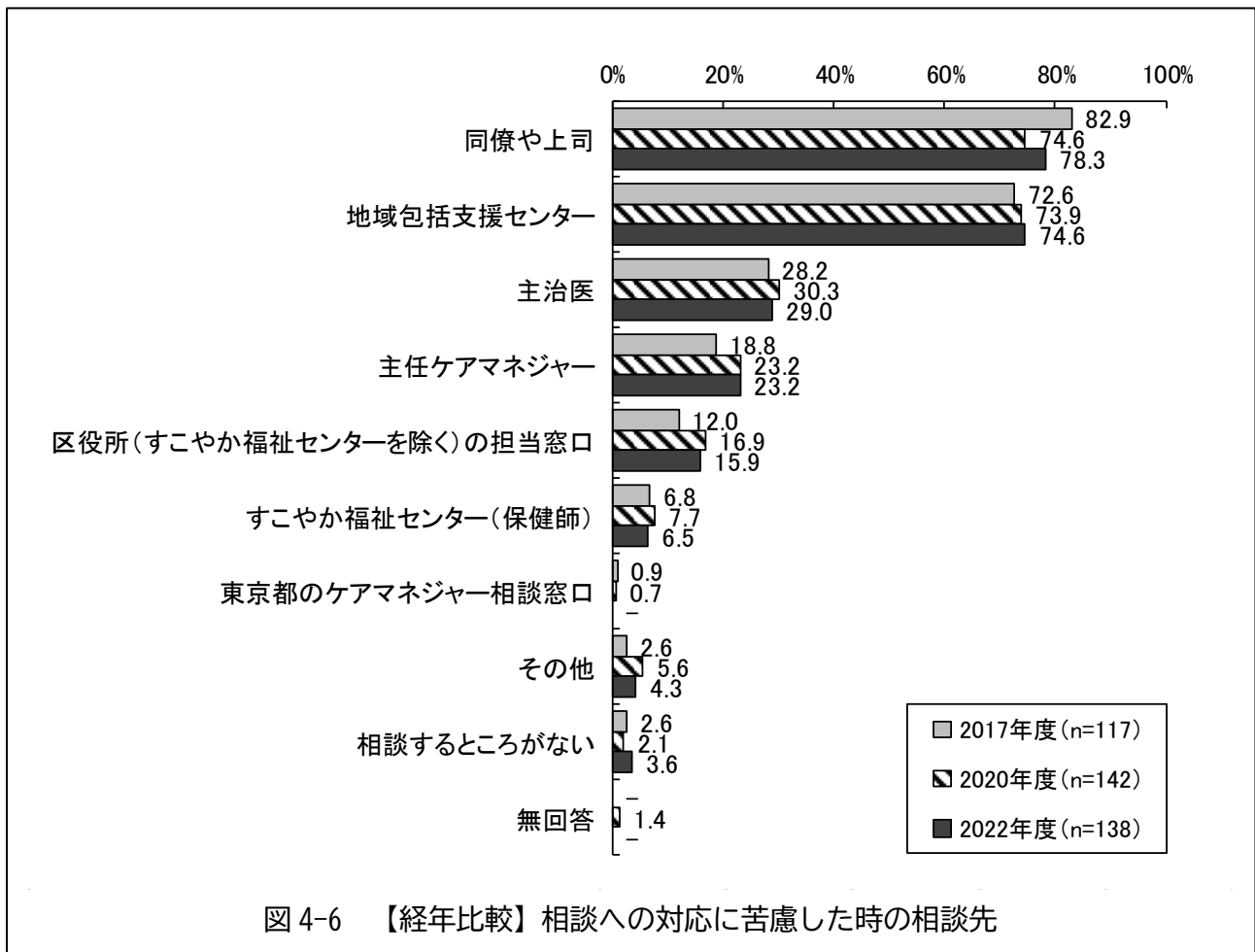
経年比較では、大きな差異はみられない。

4.3. 相談への対応に苦慮した時の相談先

◆ 「同僚や上司」が7割台後半



「同僚や上司」が7割台後半、「地域包括支援センター」が7割台半ばを占めている。



経年比較では、「同僚や上司」と「地域包括支援センター」が継続して高い割合を占めている。

4.4. 高齢者等への虐待が疑われるケースの発見や相談の件数

◆ 「1件～9件」が8割台前半

(全員の方に)

問 31 ケアマネジャーに従事して以来、高齢者等に対する虐待が疑われるようなケースを発見したり相談を受けたりしたことがどのくらいありますか。(○は1つ)

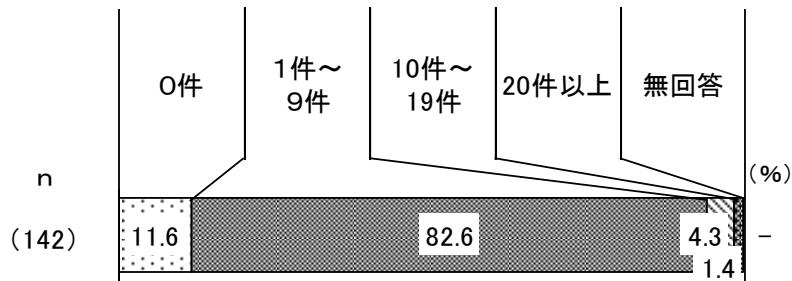


図 4-7 高齢者等への虐待が疑われるケースの発見や相談の件数

「1件～9件」が8割台前半を占めている。

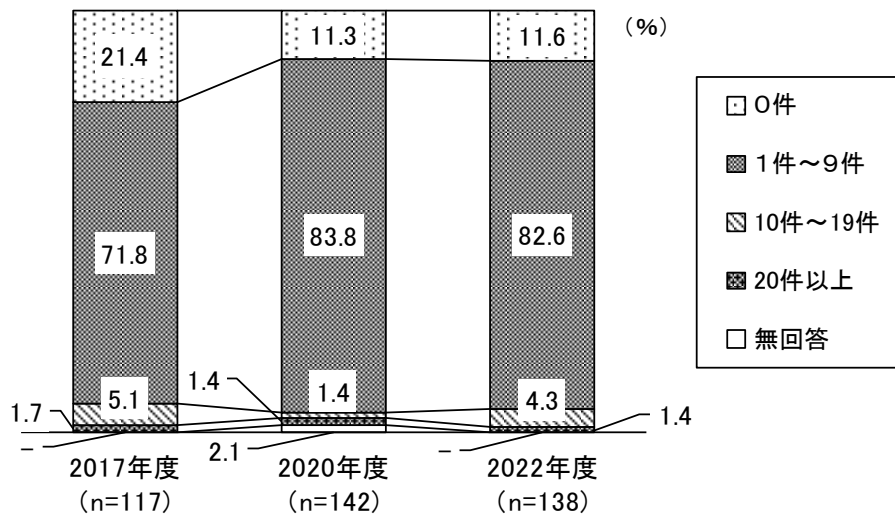
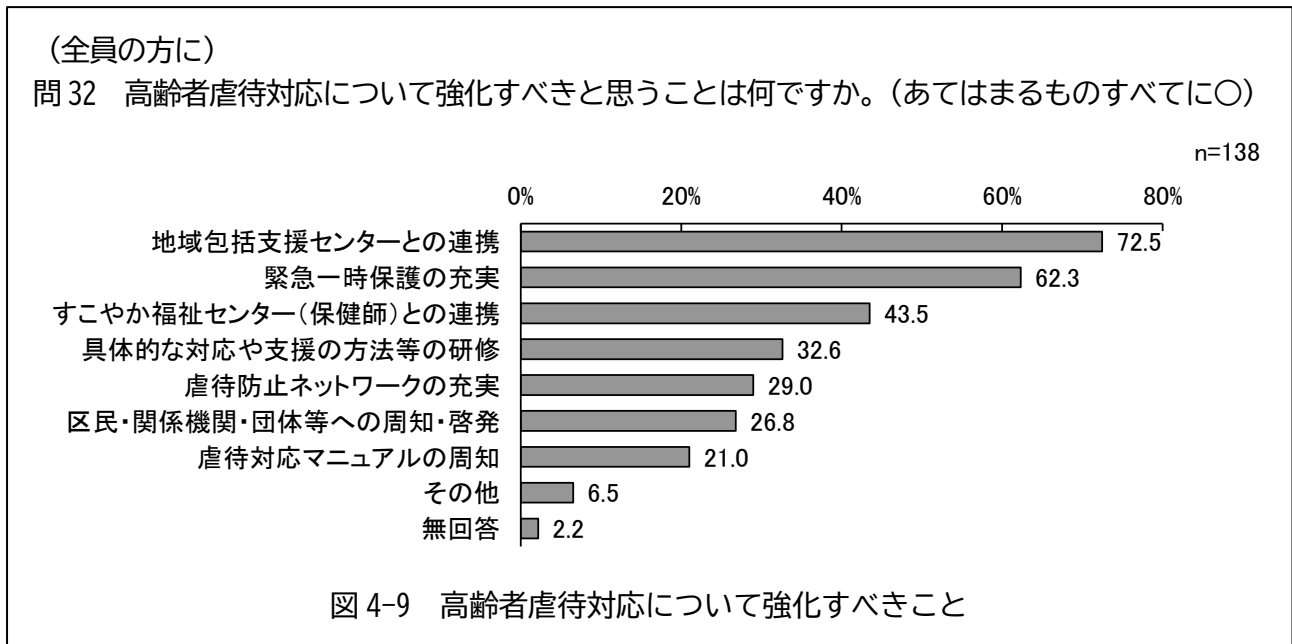


図 4-8 【経年比較】 高齢者等への虐待が疑われるケースの発見や相談の件数

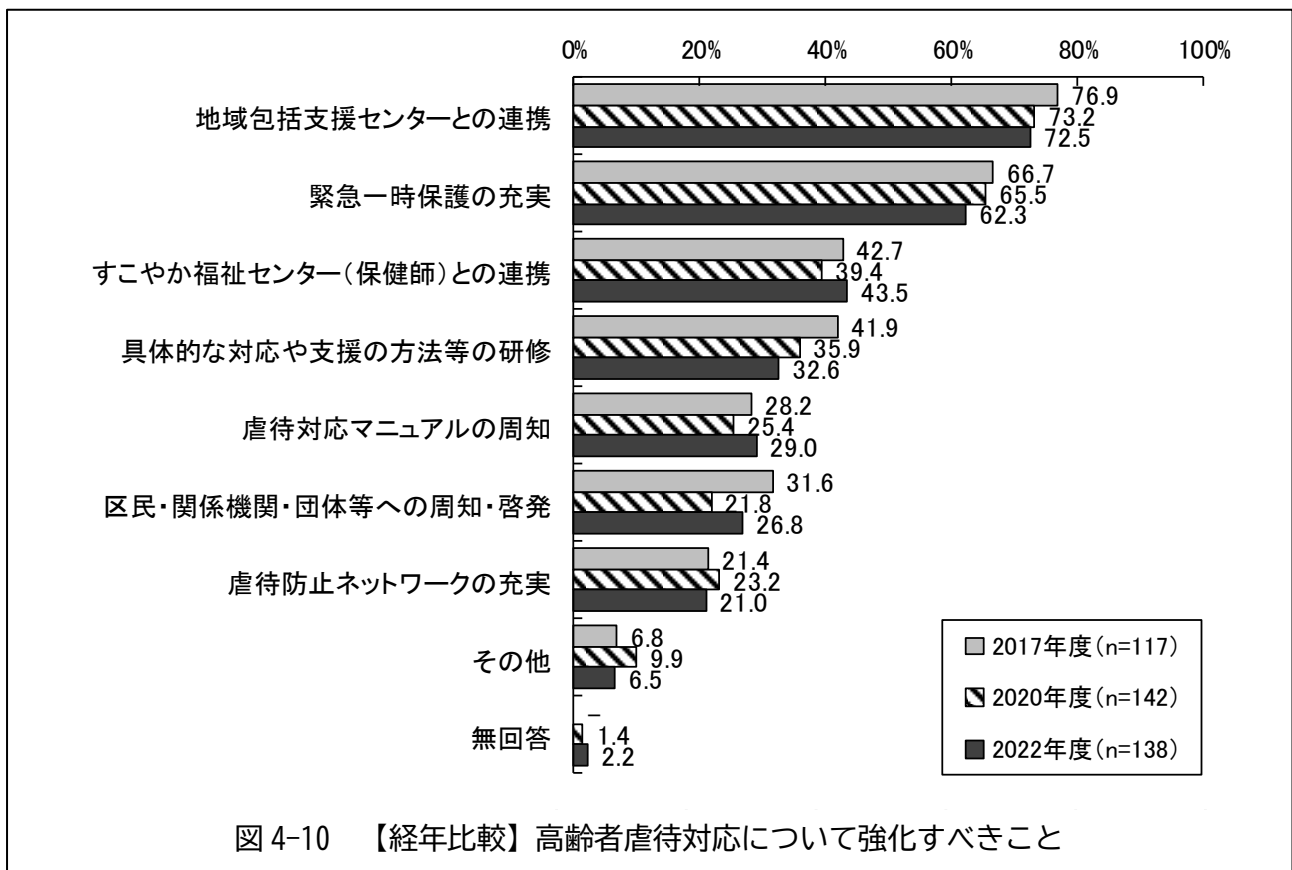
経年比較では、2020年度から大きな差異はみられない。

4.5. 高齢者虐待対応について強化すべきこと

◆ 「地域包括支援センターとの連携」が7割台前半



「地域包括支援センターとの連携」が7割台前半で最も高く、次いで「緊急一時保護の充実」が6割台前半を占めている。



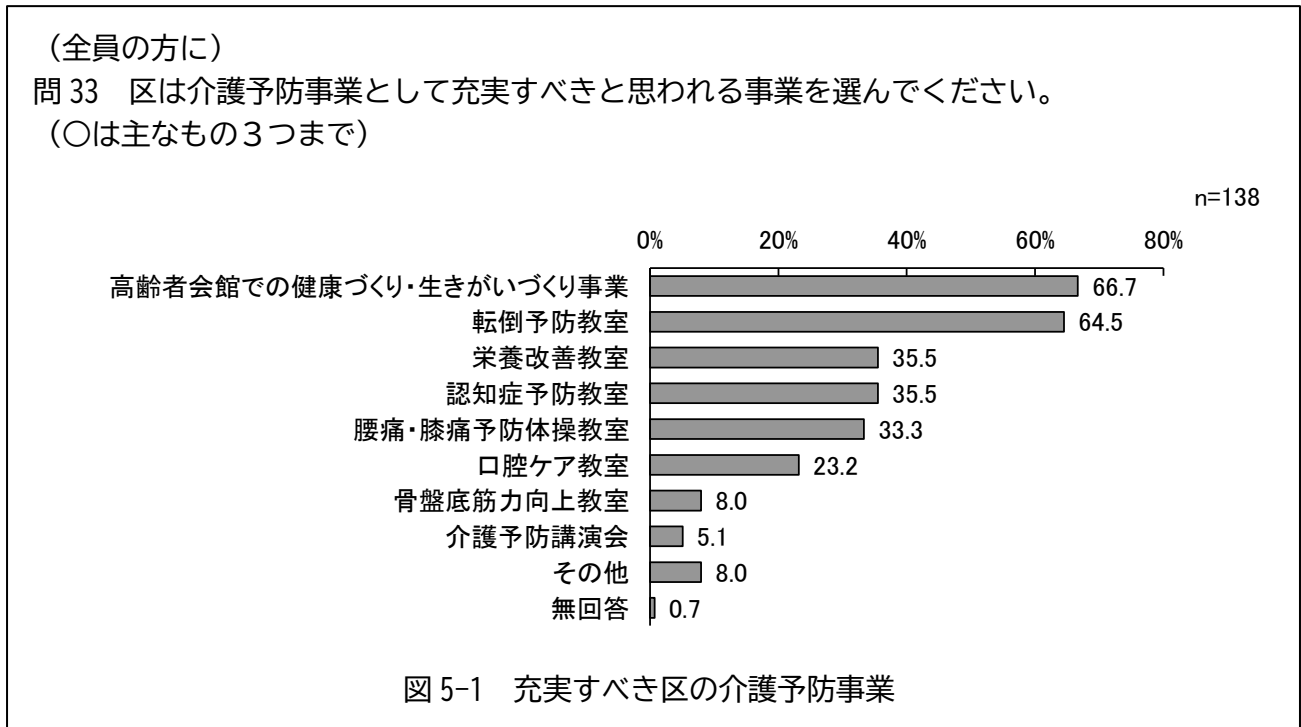
経年比較では、「地域包括支援センターとの連携」と「緊急一時保護の充実」は、年々減少しているものの、いずれも高い割合を占めている。



## 5. 介護予防について

### 5.1. 充実すべき区の介護予防事業

◆ 「高齢者会館での健康づくり・生きがいつくり事業」と「転倒予防教室」が6割台半ば

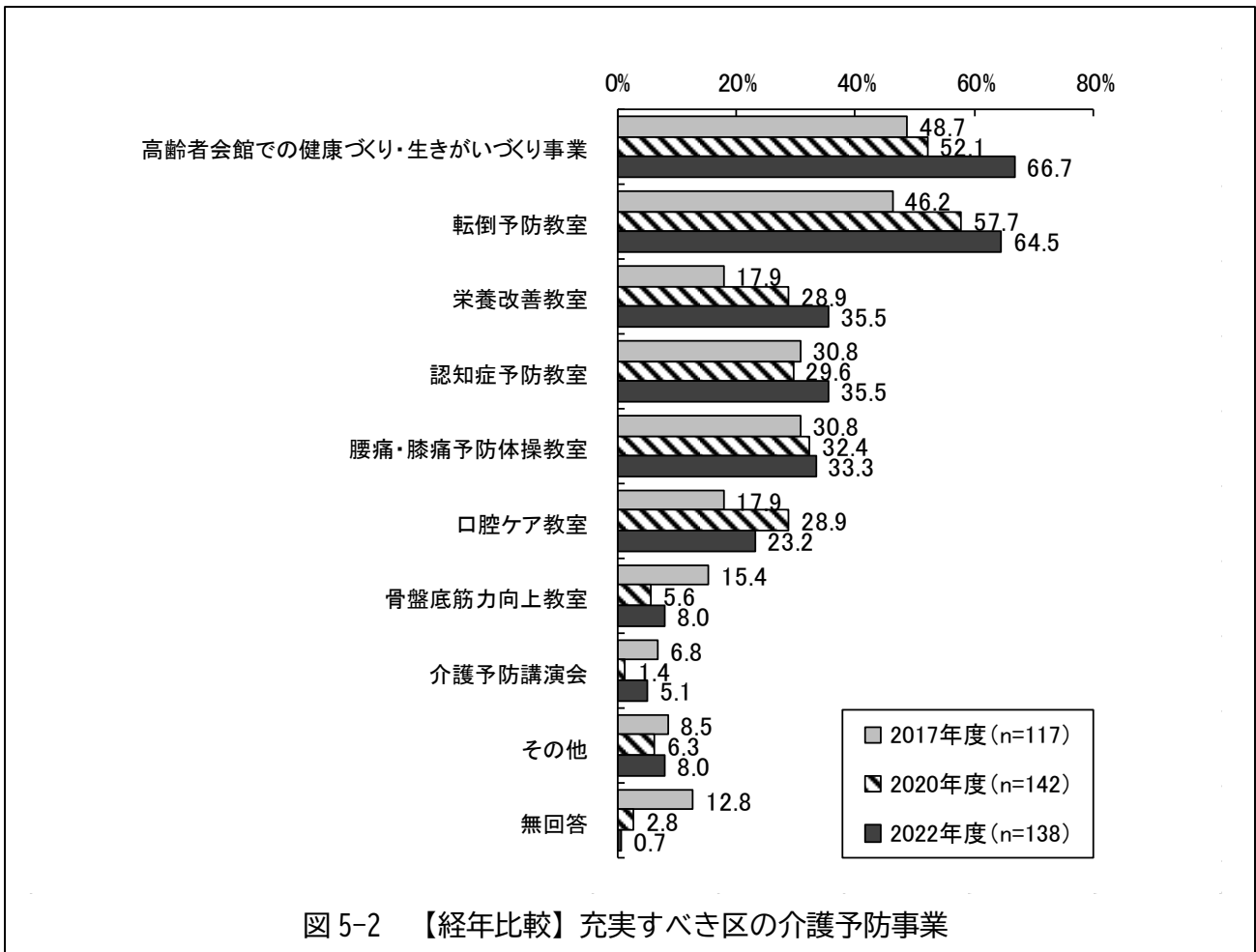


「高齢者会館での健康づくり・生きがいつくり事業」と「転倒予防教室」が6割台半ばを占めている。

### 【区内外の別】 充実すべき区の介護予防事業

単位：%

	有効回答数 (件)	高齢者会館での健康づくり・生きがいつくり事業	転倒予防教室	認知症予防教室	栄養改善教室	腰痛・膝痛予防体操教室	口腔ケア教室	骨盤底筋力向上教室	介護予防講演会	その他	無回答
中野区	122	66.4	63.1	36.9	36.1	31.1	23.0	7.4	4.9	8.2	0.8
中野区以外	3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-



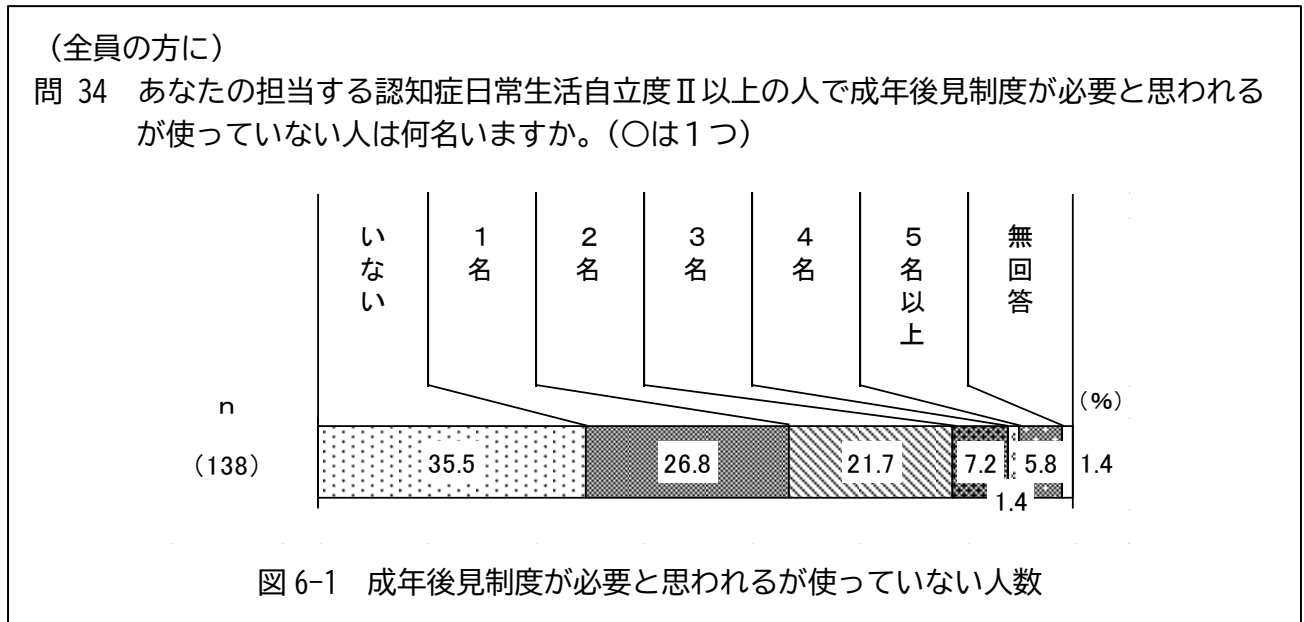
経年比較では、2020 年度と比べて「高齢者会館での健康づくり・生きがいをづくり事業」は 14.6 ポイント増加している。

また、「転倒予防教室」や「栄養改善教室」など、上位 5 項目はいずれも増加している。

## 6. 成年後見制度について

### 6.1. 成年後見制度が必要と思われるが使っていない人数

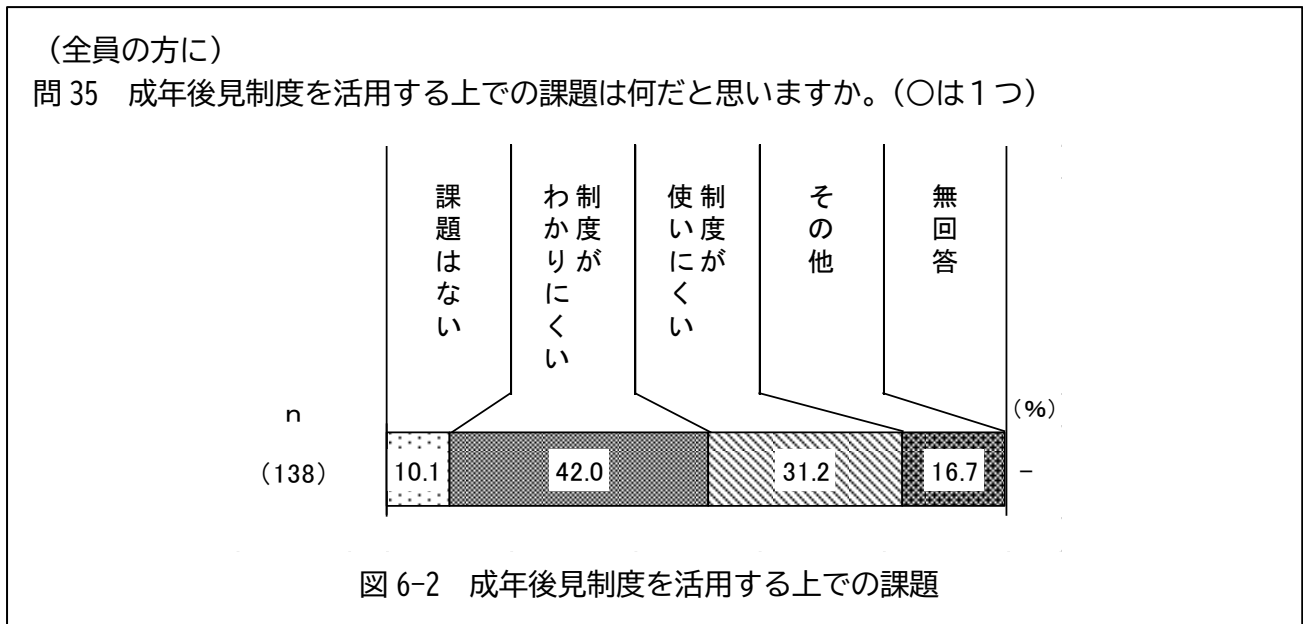
#### ◆ 「いない」が3割台半ば



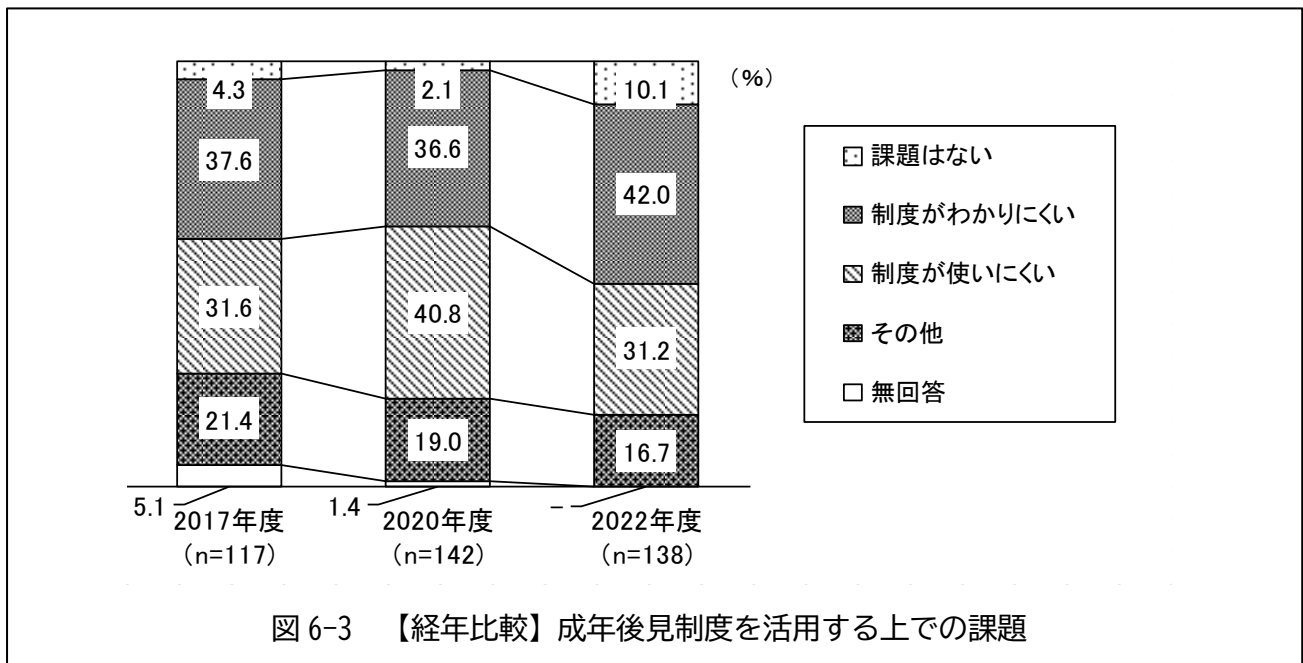
「いない」が3割台半ばで最も高くなっている。

6.2. 成年後見制度を活用する上での課題

◆ 「制度が使いにくい」が4割台前半



「制度がわかりにくい」が4割台前半で最も高く、次いで「制度が使いにくい」が約3割となっている。

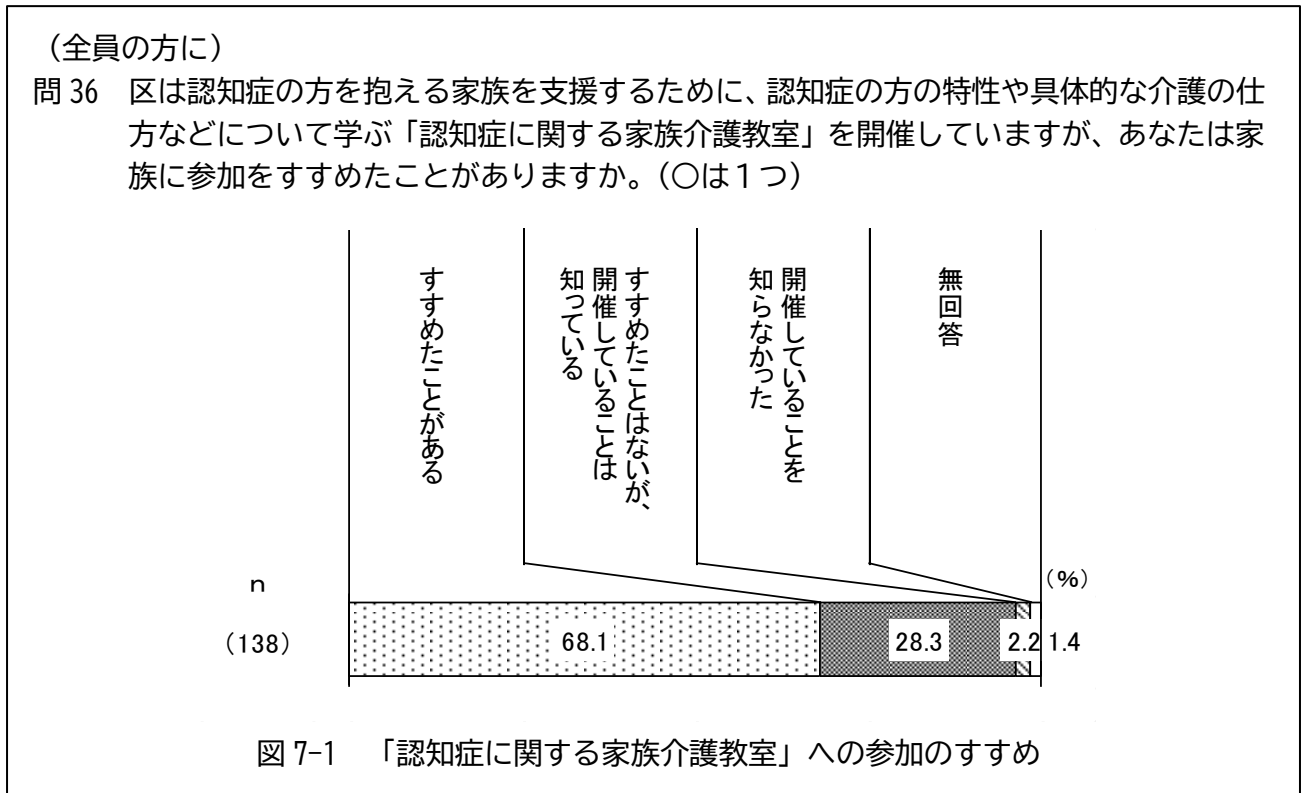


経年比較では、2020年度と比べて「制度が使いにくい」が減少し、「制度がわかりにくい」が増加している。

## 7. 認知症に関する課題について

### 7.1. 「認知症に関する家族介護教室」への参加のすすめ

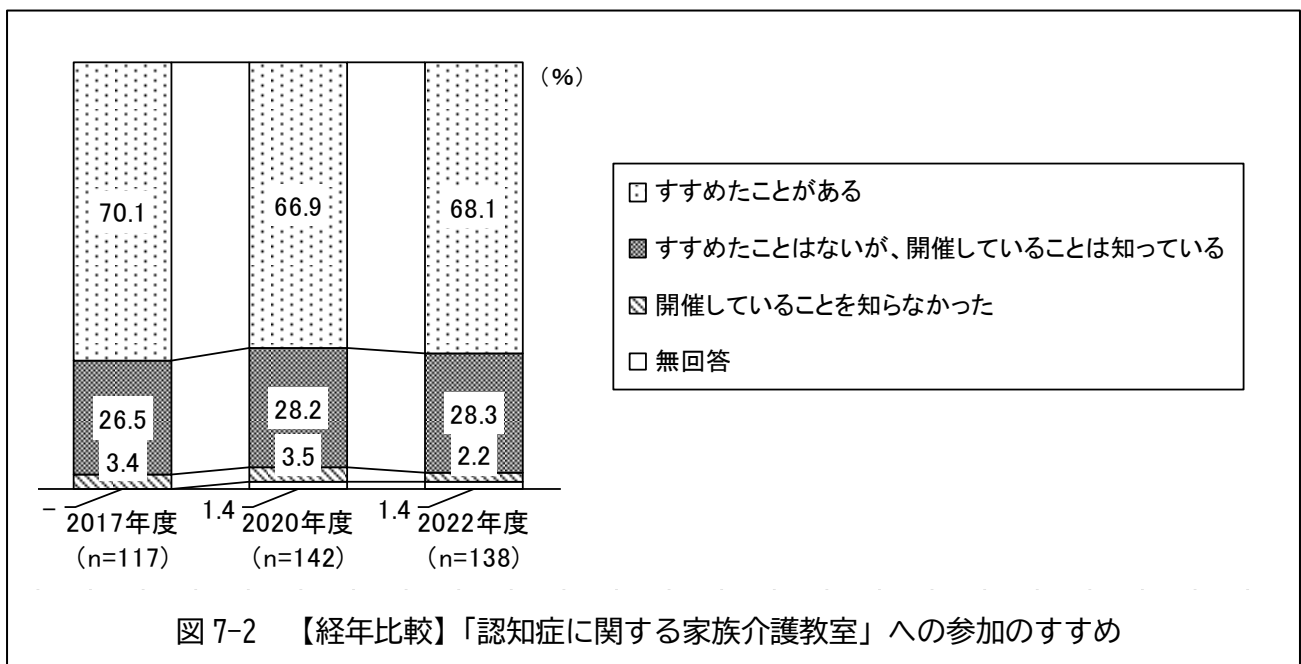
#### ◆ 「すすめたことがある」が6割台後半



「すすめたことがある」が6割台後半を占めている。

【広く周知するための具体的な方法（「開催していることを知らなかった」と回答した方に）】

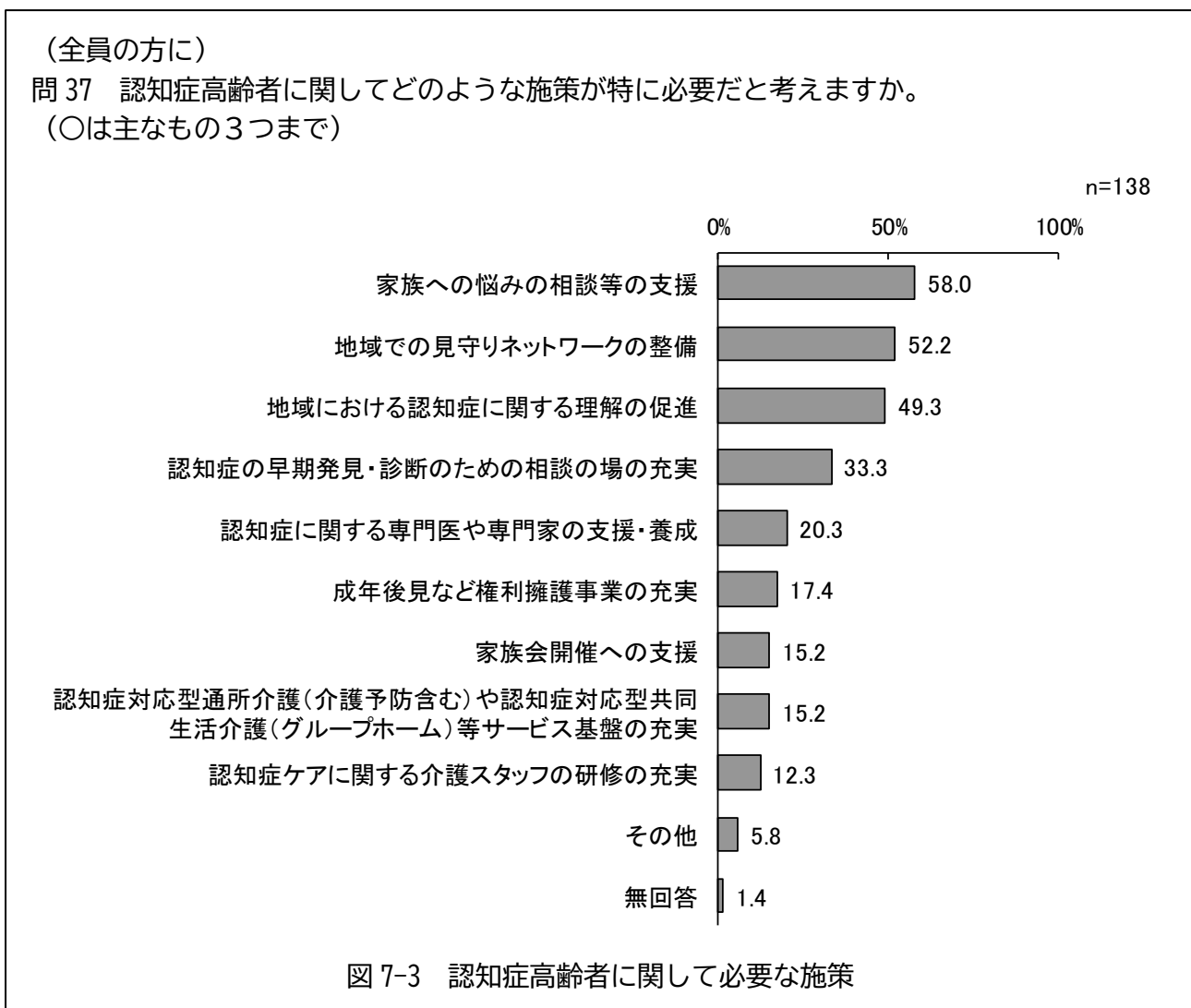
- ・ 広報の拡大やケア倶楽部での情報発信



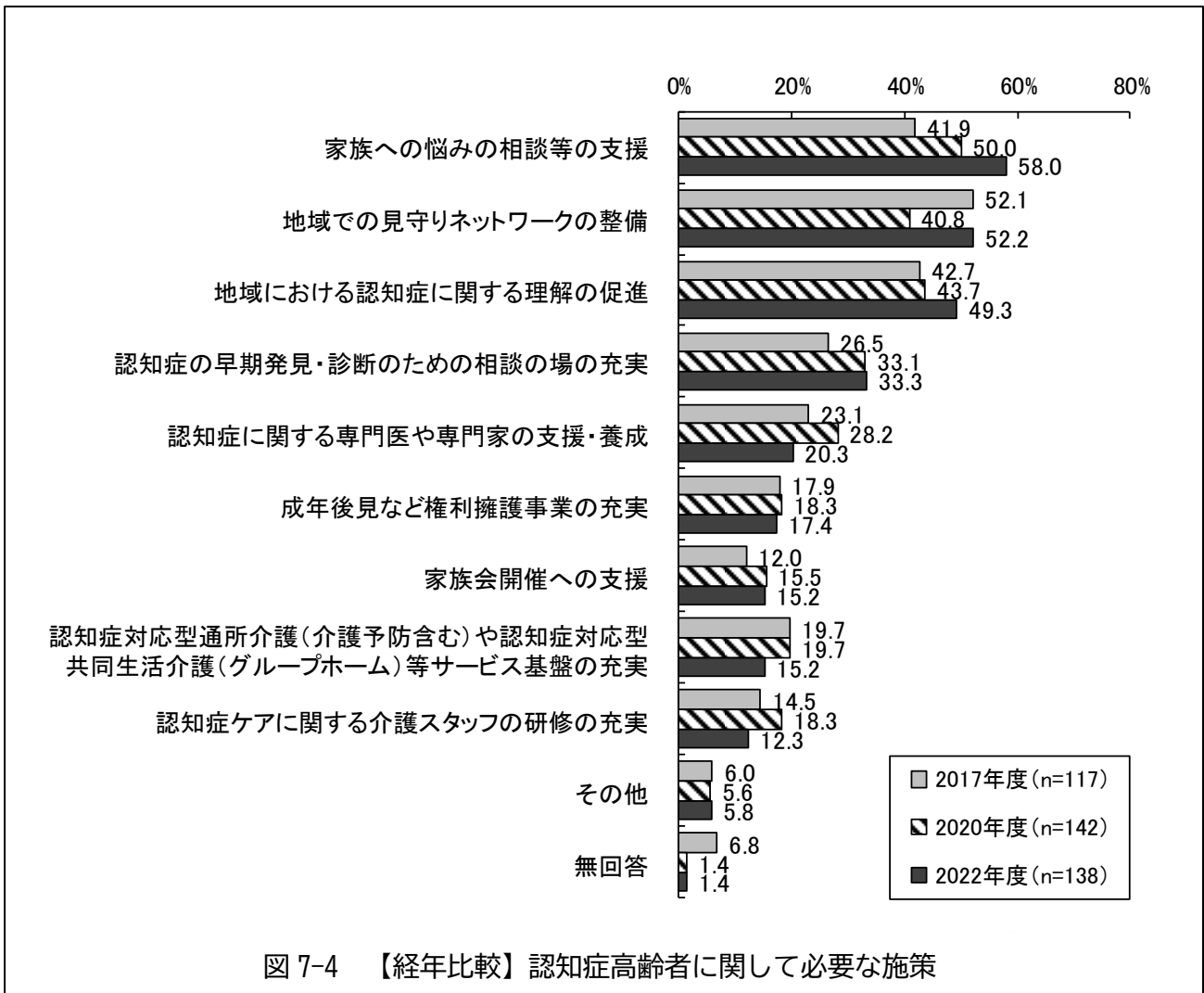
経年比較では、大きな差異はみられない。

7.2. 認知症高齢者に関して必要な施策

◆ 「家族への悩みの相談等の支援」が5割台後半



「家族への悩みの相談等の支援」が5割台後半で最も高く、次いで「地域での見守りネットワークの整備」が5割台前半、「地域における認知症に関する理解の促進」が約5割となっている。

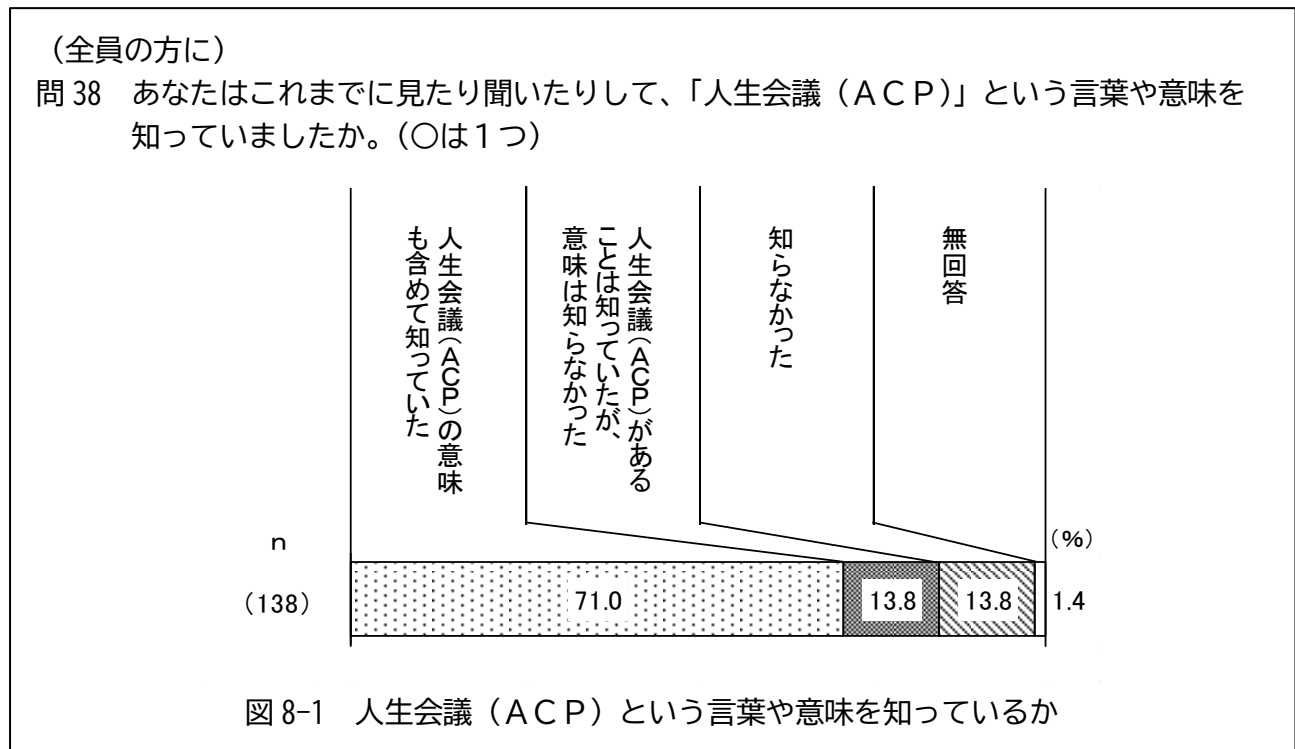


経年比較では、特に上位3項目が大きく増加しており、2020年度と比べて「地域での見守りネットワークの整備」が11.4ポイント、「家族への悩みの相談等の支援」が8.0ポイント、「地域における認知症に関する理解の促進」が5.6ポイントの増加となっている。

## 8. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について

### 8.1. 人生会議（ACP）という言葉や意味を知っているか

#### ◆ 「人生会議（ACP）の意味も含めて知っていた」が約7割



「人生会議（ACP）の意味も含めて知っていた」が約7割を占めている。



8.2. 人生会議（ACP）を活用した支援を行った経験の有無

◆ 「支援したことがある」が3割台半ば

(問 38 において「人生会議（ACP）の意味も含めて知っていた」「人生会議（ACP）があることは知っていたが、意味は知らなかった」に○をつけた方に)  
 問 39 人生会議（ACP）を活用した支援を行った経験がありますか。(○は1つ)

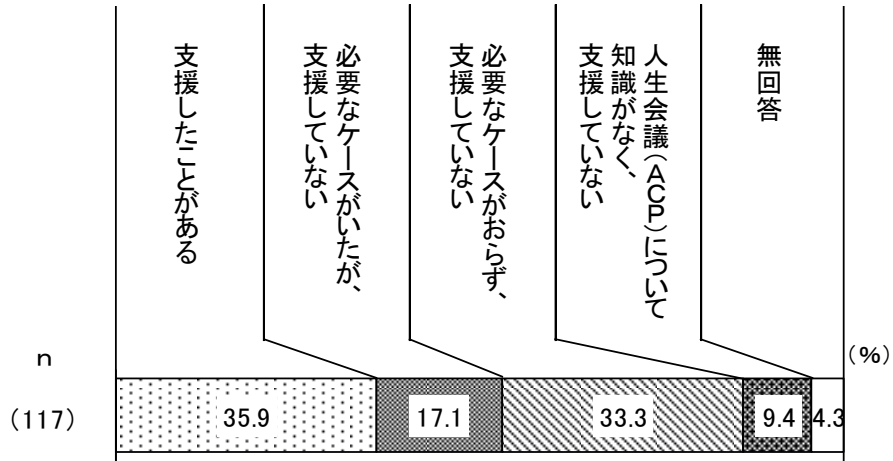


図 8-2 人生会議(ACP)を活用した支援を行った経験の有無

「支援したことがある」が3割台半ばで最も高く、次いで「必要なケースがおらず、支援していない」が3割台前半となっている。

### 8.3. 人生会議（ACP）を実践する上で難しいと思う点

#### ◆ 「本人や家族の人生会議（ACP）についての理解が不足している」が約6割

（問 38 において「人生会議（ACP）の意味も含めて知っていた」「人生会議（ACP）があることは知っていたが、意味は知らなかった」に○をつけた方に）  
 問 40 人生会議（ACP）を実践する上で難しいと思う点は何ですか。  
 （あてはまるものすべてに○）

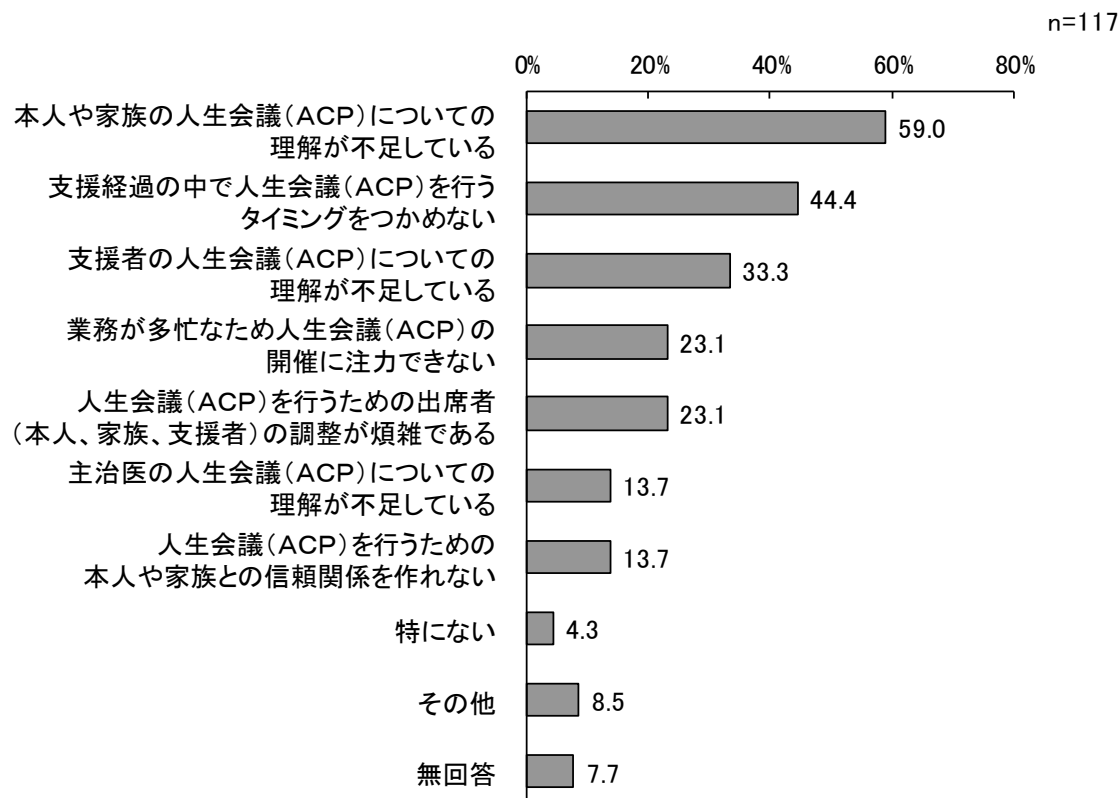


図 8-3 人生会議（ACP）を実践する上で難しいと思う点

「本人や家族の人生会議（ACP）についての理解が不足している」が約6割を占めている。

## 9. 在宅介護の可能性の拡大について

### 9.1. 要介護者等が居宅や地域での生活をするために充実すべき点

#### ◆ 「24時間の緊急時に即応できる体制の整備」が7割台前半

(全員の方に)

問 41 要介護者等について、どのような点が充実すれば居宅や地域での生活をすることができますか。(あてはまるものすべてに○)

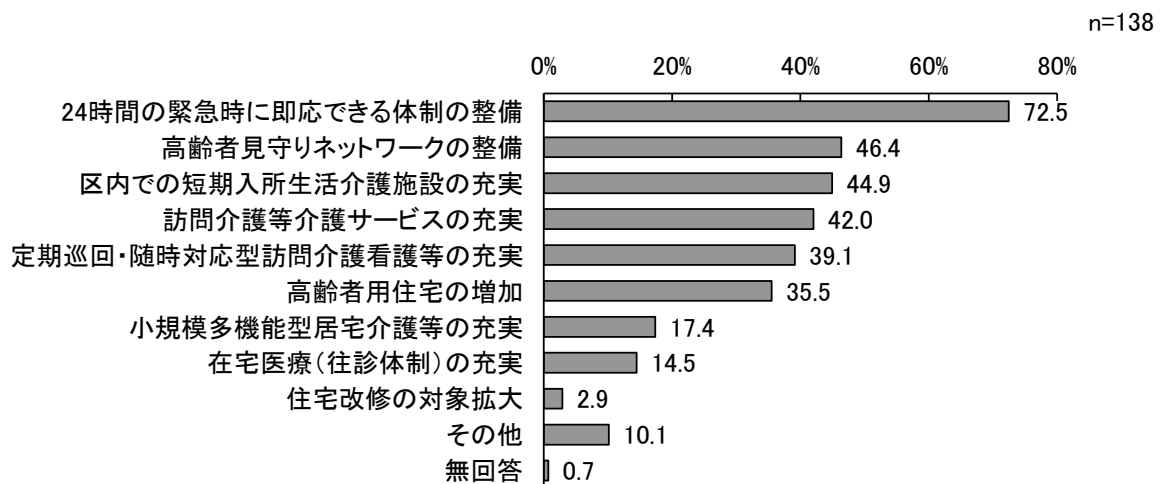
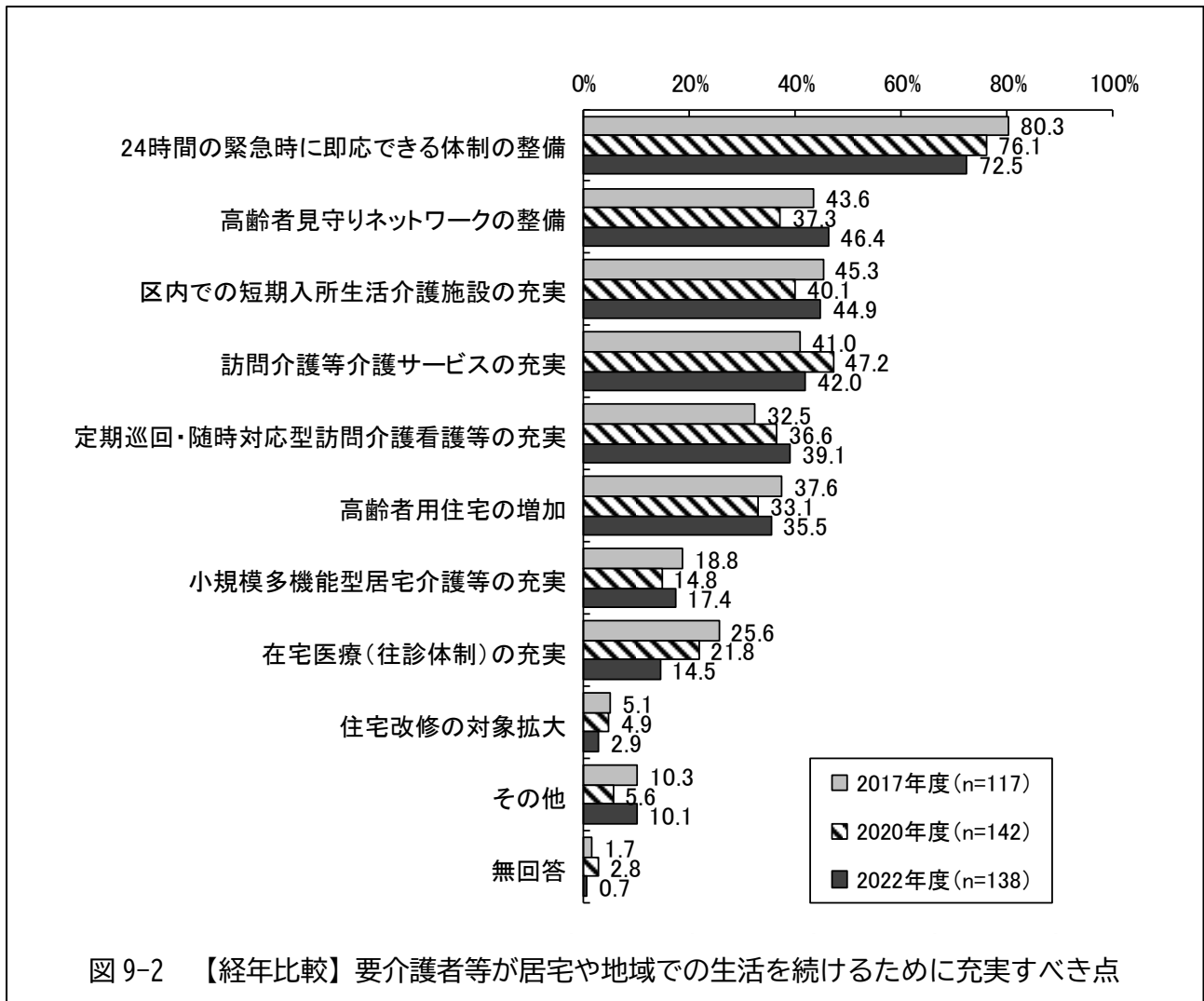


図 9-1 要介護者等が居宅や地域での生活をするために充実すべき点

「24時間の緊急時に即応できる体制の整備」が7割台前半を占めている。



経年比較では、「24時間の緊急時に即応できる体制の整備」が継続して最も高くなっているが、割合は年々減少している。

一方、「高齢者見守りネットワークの整備」は2020年度と比べて9.1ポイントの増加となっている。また、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護等の充実」も年々増加している。

## 10. 業務遂行上の問題について

### 10.1. 業務遂行上の問題について

#### ◆ 「文書の作成等事務処理に追われる」が7割台前半

(全員の方に)

問 42 業務遂行上、最も困っていることはどのようなことですか。(○は主なもの3つまで)

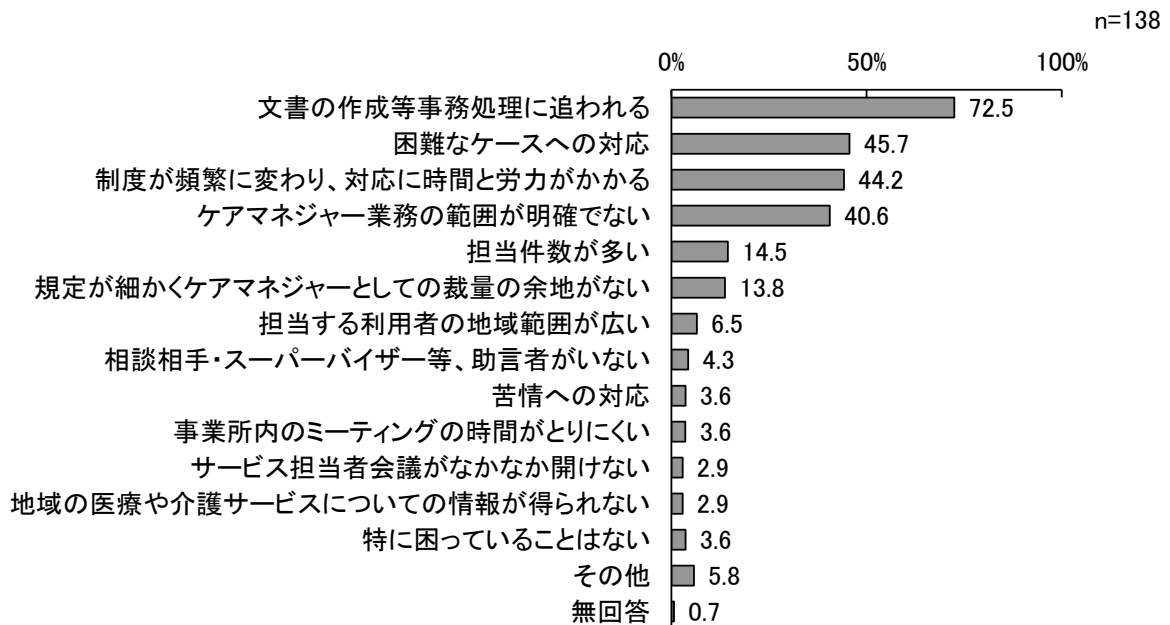
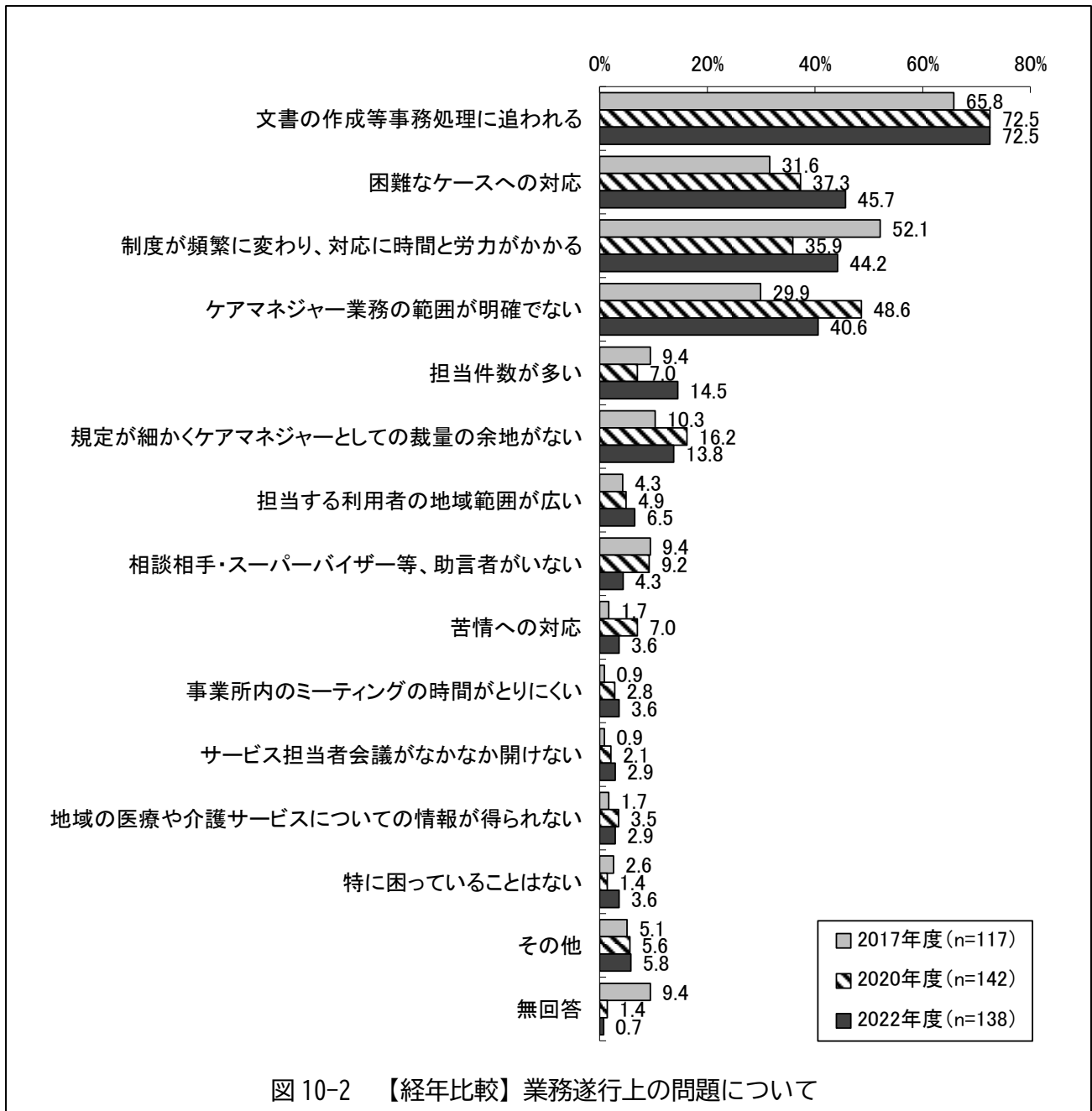


図 10-1 業務遂行上の問題について

「文書の作成等事務処理に追われる」が7割台前半を占めている。

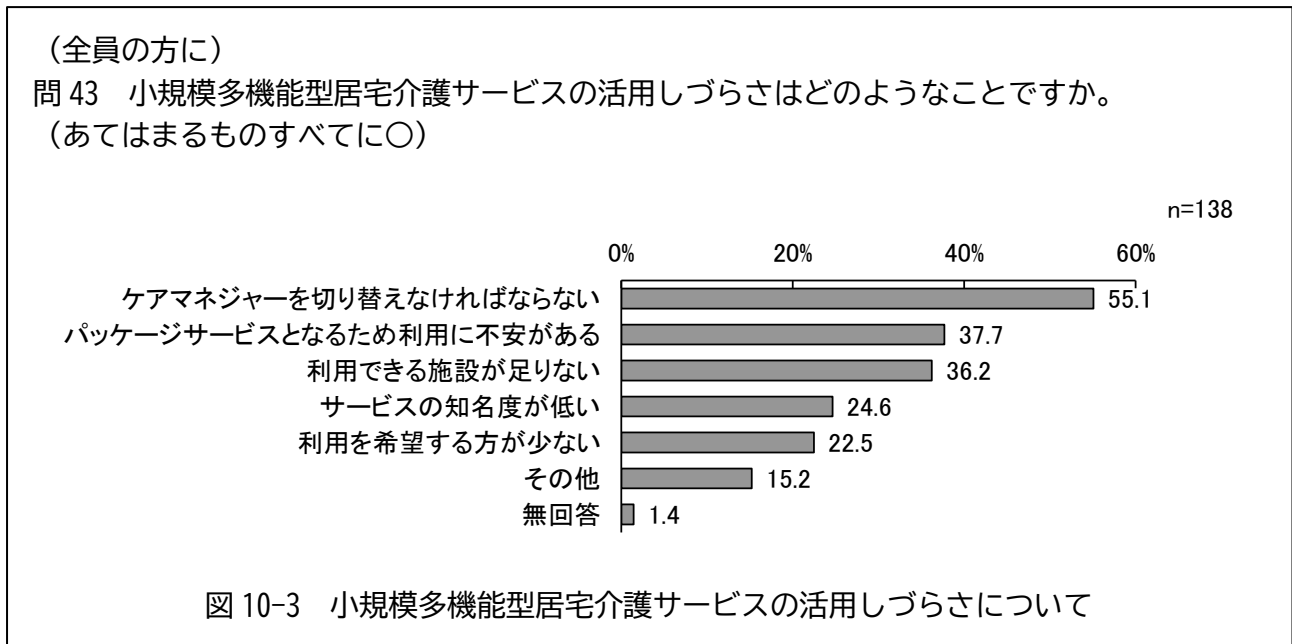


経年比較では、「文書の作成等事務処理に追われる」が継続して最も高くなっている。

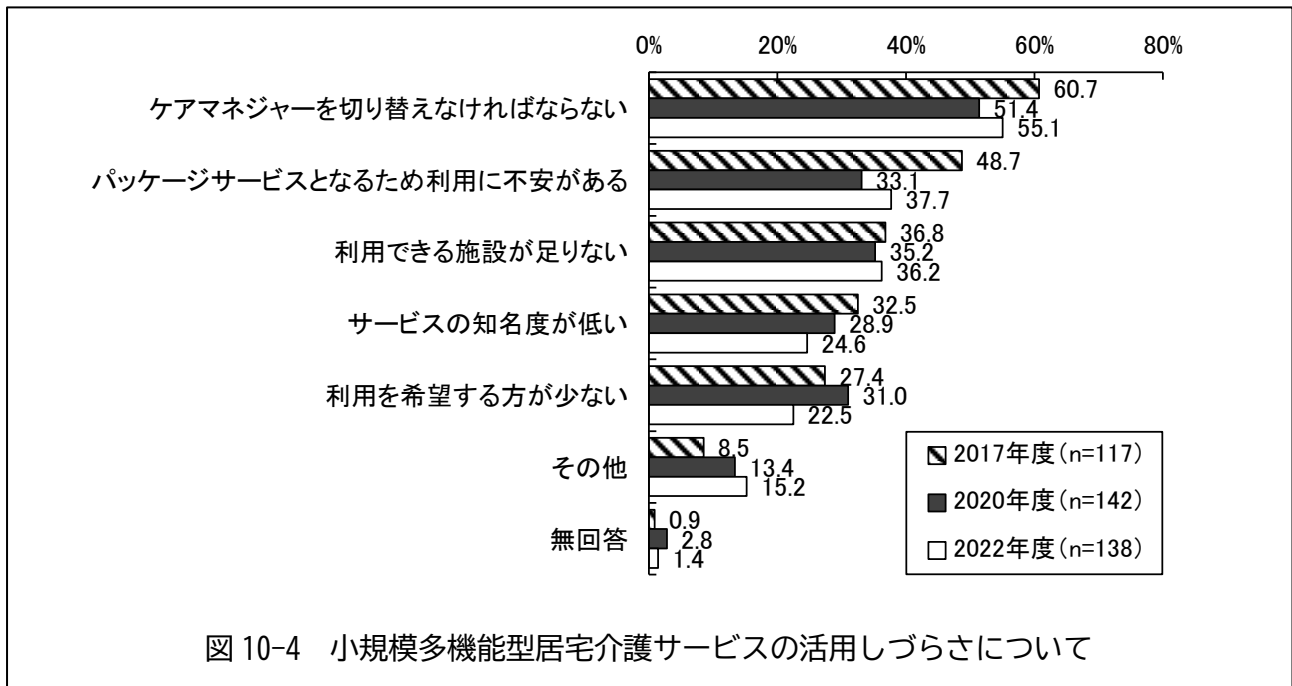
また、2020年度と比べて「困難なケースへの対応」が8.4ポイントの増加、「制度が頻繁に変わり、対応に時間と労力がかかる」が8.3ポイントの増加、「担当件数が多い」が7.5ポイントの増加となっている。

10.2. 小規模多機能型居宅介護サービスの活用しづらさについて

◆ 「ケアマネジャーを切り替えなければならない」が5割台半ば



「ケアマネジャーを切り替えなければならない」が5割台半ばを占めている。



経年比較では、2020年度と比べて「パッケージサービスとなるため利用に不安がある」が4.6ポイント、「ケアマネジャーを切り替えなければならない」が3.7ポイント増加している。

## 11. その他

### 11.1. 介護保険制度に関する意見（自由回答）

（全員の方に）

問 44 介護保険制度に関してご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

介護保険制度に関する意見について、58 件の回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

#### 制度上の課題・サービス範囲の不足について 26 件

- 介護保険では利用できない生活課題が多く相談支援をどこまで関われば良いか仕事の範囲がよくわからない時がある
- 強く感じていることはやはり費用負担面です。年金含め収入が少ないと同じくらい必要な支援が区分支給限度基準額内でおさまらず自己負担発生や自己負担できないので十分な支援が受けられないという状況が多いと感じます。介護度の認定上（調査、審査会）は例えば介護1が妥当であっても実際の生活で必要としている支援（介護保険サービス）は介護1の限度基準額を超えてしまうという悩みがあり、解決できないかと頭を悩ませたり心を傷めたりしております
- 独自サービスを使いやすく、種類を増やしてほしい
- 制度が変わるたび請求に時間がかかる
- 自立支援が適切におこなわれるように使いやすい介護保険制度にして欲しい
- 自立度の高い方でももっと保険制度を活用できるよう範囲を広げて欲しい
- 介護保険制度の改正についていけない。作らなければいけない書類が多すぎて利用者と話あう時間が取れない
- 定期巡回の使い勝手の悪さ。訪問看護との併用が回数的にできない（月3回程度）では使える人が限られる
- 介護で保険利用と自立との狭間の住環境の選択肢がほしい。例えば空き家を利用した自立者のシェアハウスなど
- 3年毎の制度改正に追いつかないことがある。書類面等でも無駄なことを省いてほしい。
- まだ介護保険制度が分かりにくく、利用者や家族に理解が浸透されていなく、ケアマネジャーの仕事が多岐に渡っています。居宅介護支援費に利用者負担が加わらないことを切に願います。
- 適正なサービスの供給が為されればもっと在宅で生活できる方も増えるのではと思います。それと地域のケアマネは減る一方です。適正なサービスの前にケアマネがいなければサービスも利用できません。地方ではすでにケアマネ不足のため自己プランを作成せざるを得ないと聞きます。いずれ中野区でもそうなるのではと思います。ケアマネの確保も大きな課題ではないでしょうか。

#### ケアマネジャーの処遇改善・現場の負担について 14 件

- 支援する側の人たちがとても疲れています。締め付ける制度ではなく支える側も幸せになるような制度にしていてもらいたい
- ショートステイや施設入所（特に特養）を希望する方が増えてきているが受け皿が少ない。今度もっと増えてくると思う。ケアマネにも処遇改善加算をいただきたいです。
- ケアマネの研修が多すぎる。毎年同じような研修で意味があるのかと思う時もある。
- ケアマネの国家資格の認定。



- サービス事業者はもちろん、医療や区なども、何かあればケアマネに相談をと助言しているが、何でもかんでもケアマネを頼られると、仕事が増えてしまい対応できない。当然利用者対応を優先していると、膨大な書類仕事が増えてしまい、後から整理することがとても苦しい。効率的に仕事をこなすためには、利用者への対応を制限するしかないですが、それは間違いだと思います。また介護従事者の高齢化、特にケアマネの高齢化は進んでおり、若い人に魅力のない仕事になっているのではないかと危惧しています。
- 勉強会の回数を増やしてほしい
- 訪問介護事業所の職員さんが少ないように感じます。なかなか利用者様に合わせたサービス提供が難しいと思う時が多いです。

**手続きや事務作業の簡素化・改善について** 8件

- 文書作成、記録をする時間を少なくしてその分利用者様のお話を聞きたい。ICTが進んでも対話する時間（ACPを行うには信用、何度も訪問する必要がある）を大切にしたいので必要書類の量を減らしてほしい
- 書類の簡素化を希望します
- 予防の提出書類が多すぎる。手間がかかっている。介護も予防も一件の料金を上げてほしい。連携が少ない方もいるが、連携がすごく多い方もいる。人によってそれぞれのケアプランなのに、料金が介護度によって統一されているのは理解できない。紙や電話でのやり取りが多い。そろそろ電子化してほしい。もっと簡潔な連携ツールが必要。ケアマネになったときに紙媒体が多くてびっくりした。

**介護認定について** 4件

- 入浴に介助が必要な状態でも要支援の認定が出ることがあります。そうすると入浴の機会の確保が難しいことが多いです。介護が必要な方には必要な介護サービスが利用できる認定を出していただきたいです。介護支援専門員は、きちんとアセスメントしケアマネジメントしてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

**区への要望・苦情** 3件

- いつも大変お世話になっております。マンパワー（特に訪問介護）の充実を願います。量も質も向上していくと嬉しいです
- ケースバイケースでわからないことが多く出てくる。現場の多様性を理解してアドバイスいただくととても助かります

**その他** 3件

- 本人や家族から謂れのない中傷やハラスメントを受けることもあり、精神的に辛いと感じることが増えてきた。通信方法が電話以外に「ライン」も加わってきたそれをどう対応すべきか考えている
- 来年の改定で区民に不利なことにならないことを祈るのみです



### Ⅲ 調査票と単純集計



# 令和4年度（2022年度） 高齢福祉・介護保険サービス意向調査 《高齢者調査》

## 【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できるかぎりあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えにならない場合には、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他（ ）」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、

## 令和4年12月6日（火曜日）までに

三つ折りにした上で、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。

8. 調査報告書は、令和5年7月から図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれる予定です。
9. 調査の内容や記入の方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区地域支えあい推進部介護・高齢者支援課管理企画係

TEL. 03-3228-5629 FAX. 03-3228-8972

E-mail kaigokourei@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

（全員の方に）

問1 記入日

令和4年	<input type="text"/>	<input type="text"/>	月	<input type="text"/>	<input type="text"/>	日
------	----------------------	----------------------	---	----------------------	----------------------	---

（全員の方に）＜回答者数：1,652＞

問2 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。（○は1つ）

- |                      |           |
|----------------------|-----------|
| 1. あて名のご本人が記入(89.3%) |           |
| 2. ご家族が記入(4.0%)      |           |
| 3. その他(0.1%)         | 無回答(6.7%) |

### 【個人情報の取り扱いについて】

個人情報の保護及び活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

#### 【個人情報の保護及び活用目的について】

- ・この調査は、効果的な介護予防施策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、区による介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、区において適切に管理いたします。
- ・ただし、介護保険事業計画策定時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する区外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析するなど、個人が識別されない形で利用することがあります。

## 1 あなた自身のことについておたずねします

（令和4年10月1日現在の状況をお答えください。）

（全員の方に）＜回答者数：1,652＞

問3 あなたがお住まいの地域はどこですか。（○は1つ）

- |               |               |               |              |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 1. 上鷺宮(3.4%)  | 2. 鷺宮(4.7%)   | 3. 白鷺(4.8%)   | 4. 若宮(3.8%)  |
| 5. 大和町(3.6%)  | 6. 江原町(2.4%)  | 7. 江古田(4.8%)  | 8. 野方(5.5%)  |
| 9. 丸山(1.8%)   | 10. 沼袋(5.1%)  | 11. 松が丘(1.7%) | 12. 新井(4.8%) |
| 13. 上高田(8.0%) | 14. 中野(8.7%)  | 15. 東中野(5.9%) | 16. 中央(8.1%) |
| 17. 本町(8.2%)  | 18. 弥生町(6.5%) | 19. 南台(5.6%)  | 無回答(2.6%)    |



(全員の方に) <回答者数：1,652>

問8-1 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 介護・介助は必要ない(85.7%)                                      |           |
| 2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない(6.1%)                         |           |
| 3. 現在、何らかの介護を受けている(6.4%)<br>(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む) | 無回答(1.9%) |

(問8-1において「2」「3」に○をつけた方に) <回答者数：205>

問8-2 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)(8.8%) | 2. 心臓病(19.0%)            |
| 3. がん(悪性新生物)(5.9%)     | 4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)(5.9%) |
| 5. 関節の病気(リウマチ等)(7.8%)  | 6. 認知症(アルツハイマー病等)(6.8%)  |
| 7. パーキンソン病(2.0%)       | 8. 糖尿病(8.3%)             |
| 9. 腎疾患(透析)(1.5%)       | 10. 視覚・聴覚障害(5.4%)        |
| 11. 骨折・転倒(18.5%)       | 12. 脊椎損傷(6.3%)           |
| 13. 高齢による衰弱(27.8%)     | 14. その他(19.0%)           |
| 15. 不明(2.4%)           | 無回答(11.7%)               |

(問8-1において「3」に○をつけた方に) <回答者数：105>

問8-3 主にどなたの介護・介助を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |               |                |
|-----------------------|---------------|----------------|
| 1. 配偶者(夫・妻)(19.0%)    | 2. 息子(15.2%)  | 3. 娘(19.0%)    |
| 4. 子の配偶者(8.6%)        | 5. 孫(2.9%)    | 6. 兄弟・姉妹(4.8%) |
| 7. 介護サービスのヘルパー(38.1%) | 8. その他(12.4%) | 無回答(8.6%)      |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問9 あなたの世帯の昨年の合計収入はいくらですか。(○は1つ)

- |                        |                          |
|------------------------|--------------------------|
| 1. 収入なし(10.4%)         | 2. 200万円未満(27.8%)        |
| 3. 200～500万円未満(40.0%)  | 4. 500～700万円未満(7.7%)     |
| 5. 700～1,000万円未満(4.4%) | 6. 1,000～1,500万円未満(2.6%) |
| 7. 1,500万円以上(1.7%)     | 無回答(5.4%)                |



(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問9-1 あなたの現在の預貯金はいくらですか。(○は1つ)

- |                           |                               |
|---------------------------|-------------------------------|
| 1. 貯蓄なし(12.2%)            | 2. 50万円未満(7.7%)               |
| 3. 50~300万円未満(18.3%)      | 4. 300~1,000万円未満(22.2%)       |
| 5. 1,000~3,000万円未満(23.1%) | 6. 3,000万円以上(11.3%) 無回答(5.1%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問9-2 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

- |                   |                   |               |
|-------------------|-------------------|---------------|
| 1. 大変苦しい(11.7%)   | 2. やや苦しい(25.4%)   | 3. ふつう(49.9%) |
| 4. ややゆとりがある(9.3%) | 5. 大変ゆとりがある(1.7%) | 無回答(2.0%)     |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問10 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(○は1つ)

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 持家(一戸建て)(44.6%)     | 2. 持家(集合住宅)(23.2%)    |
| 3. 公営賃貸住宅(5.0%)        | 4. 民間賃貸住宅(一戸建て)(1.0%) |
| 5. 民間賃貸住宅(集合住宅)(19.9%) | 6. 借家(1.8%)           |
| 7. その他(2.7%)           | 無回答(1.8%)             |

### 3 からだを動かすことについて

(記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問11 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

- |                     |                      |                |           |
|---------------------|----------------------|----------------|-----------|
| 1. できるし、している(61.1%) | 2. できるけどしていない(18.8%) | 3. できない(18.6%) | 無回答(1.6%) |
|---------------------|----------------------|----------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問12 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

- |                     |                      |                |           |
|---------------------|----------------------|----------------|-----------|
| 1. できるし、している(74.6%) | 2. できるけどしていない(11.7%) | 3. できない(12.0%) | 無回答(1.6%) |
|---------------------|----------------------|----------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 13 15分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

- |                     |                      |               |           |
|---------------------|----------------------|---------------|-----------|
| 1. できるし、している(82.2%) | 2. できるけどしていない(10.4%) | 3. できない(6.2%) | 無回答(1.2%) |
|---------------------|----------------------|---------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 14 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

- |                |                |              |           |
|----------------|----------------|--------------|-----------|
| 1. 何度もある(8.8%) | 2. 1度ある(23.4%) | 3. ない(66.8%) | 無回答(1.1%) |
|----------------|----------------|--------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 15 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

- |                    |                   |           |
|--------------------|-------------------|-----------|
| 1. とても不安である(18.1%) | 2. やや不安である(40.9%) |           |
| 3. あまり不安でない(22.1%) | 4. 不安でない(18.0%)   | 無回答(0.9%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 16 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ)

- |                    |                 |           |
|--------------------|-----------------|-----------|
| 1. ほとんど外出しない(5.0%) | 2. 週1回(7.6%)    |           |
| 3. 週2~4回(43.6%)    | 4. 週5回以上(43.0%) | 無回答(0.8%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)

- |                     |                  |           |
|---------------------|------------------|-----------|
| 1. とても減っている(4.7%)   | 2. 減っている(28.9%)  |           |
| 3. あまり減っていない(32.3%) | 4. 減っていない(33.1%) | 無回答(1.0%) |

(問 17 で「1」「2」に○をつけた方に) <回答者数: 555>

問 17-1 外出が減っている理由は次のどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                         |                        |           |
|-------------------------|------------------------|-----------|
| 1. 病気(10.3%)            | 2. 障害(脳卒中の後遺症など)(2.9%) |           |
| 3. 足腰などの痛み(44.3%)       | 4. トイレの心配(失禁など)(11.2%) |           |
| 5. 耳の障害(聞こえの問題など)(4.1%) | 6. 目の障害(3.4%)          |           |
| 7. 外での楽しみがない(19.1%)     | 8. 経済的に出られない(8.6%)     |           |
| 9. 交通手段がない(2.0%)        | 10. 同行してくれる人がいない(8.8%) |           |
| 11. 家族等から止められている(1.6%)  | 12. その他(36.2%)         | 無回答(4.0%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 18 外出する際の移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 徒歩(83.8%)	2. 自転車(34.1%)
3. バイク(1.0%)	4. 自動車(自分で運転)(9.2%)
5. 自動車(人に乗せてもらう)(12.7%)	6. 電車(59.0%)
7. 路線バス(55.9%)	8. 病院や施設のバス(1.6%)
9. 車いす(0.7%)	10. 電動車いす(カート)(0.2%)
11. 歩行器・シルバーカー(2.3%)	12. タクシー(19.5%)
13. その他(0.7%)	無回答(0.8%)

## 4 食べることについて

(記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に)

問 19 身長・体重

①身長 ( ) c m	②体重 ( ) k g
-------------	-------------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 20 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(○は1つ)

1. はい(28.9%)	2. いいえ(70.5%)	無回答(0.6%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 21 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)

1. はい(30.1%)	2. いいえ(69.2%)	無回答(0.7%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 22 口の渇きが気になりますか。(○は1つ)

1. はい(30.7%)	2. いいえ(68.6%)	無回答(0.7%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 23 歯磨き(人にやってもらう場合を含む)を毎日していますか。(○は1つ)

1. はい(91.3%)	2. いいえ(6.8%)	無回答(1.8%)
--------------	--------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 24 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です)(○は1つ)

1. 自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用(14.1%)	
2. 自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし(40.2%)	
3. 自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用(30.3%)	
4. 自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし(11.1%)	無回答(4.2%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 24-1 噛み合わせは良いですか。(○は1つ)

1. はい(69.6%)	2. いいえ(17.9%)	無回答(12.5%)
--------------	---------------	------------

(問 24 で「1」「3」に○をつけた方に) <回答者数: 734>

問 24-2 毎日入れ歯の手入れをしていますか。(○は1つ)

1. はい(88.4%)	2. いいえ(8.0%)	無回答(3.5%)
--------------	--------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 25 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか。(○は1つ)

1. はい(13.4%)	2. いいえ(85.5%)	無回答(1.2%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 26 どなたかと食事をとる機会がありますか。(○は1つ)

1. 毎日ある(44.6%)	2. 週に何度かある(12.4%)
3. 月に何度かある(17.4%)	4. 年に何度かある(11.9%)
5. ほとんどない(13.0%)	無回答(0.8%)

## 5 毎日の生活について

(記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 27 物忘れが多いと感じますか。(○は1つ)

1. はい(41.8%)	2. いいえ(56.9%)	無回答(1.3%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 28 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか。(○は1つ)

1. はい(10.9%)	2. いいえ(87.8%)	無回答(1.3%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 29 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○は1つ)

1. はい(86.4%)	2. いいえ(12.8%)	無回答(0.8%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 30 今日が何月何日かわからない時がありますか。(○は1つ)

1. はい(25.2%)	2. いいえ(73.8%)	無回答(0.9%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 31 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可)(○は1つ)

1. できるし、している(85.9%)	2. できるけどしていない(8.7%)	3. できない(4.6%)	無回答(0.8%)
---------------------	---------------------	---------------	-----------

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 32 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している(91.5%)	2. できるけどしていない(5.4%)	3. できない(2.5%)	無回答(0.6%)
---------------------	---------------------	---------------	-----------

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 33 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している(86.9%)	2. できるけどしていない(9.4%)	3. できない(2.9%)	無回答(0.8%)
---------------------	---------------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 34 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している(89.0%) 2. できるけどしていない(7.3%) 3. できない(2.2%) 無回答(1.5%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 35 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

1. できるし、している(90.9%) 2. できるけどしていない(5.9%) 3. できない(1.9%) 無回答(1.3%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 36 年金などの書類(役所や病院などに出す書類)が書けますか。(○は1つ)

1. はい(92.9%) 2. いいえ(5.5%) 無回答(1.6%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 37 新聞を読んでいますか。(○は1つ)

1. はい(69.1%) 2. いいえ(29.4%) 無回答(1.6%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 38 本や雑誌を読んでいますか。(○は1つ)

1. はい(77.8%) 2. いいえ(20.6%) 無回答(1.6%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 39 健康についての記事や番組に関心がありますか。(○は1つ)

1. はい(88.7%) 2. いいえ(9.7%) 無回答(1.6%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 40 友人の家を訪ねていますか。(○は1つ)

1. はい(36.9%) 2. いいえ(61.5%) 無回答(1.6%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 41 家族や友人の相談にのっていますか。(○は1つ)

1. はい(71.9%) 2. いいえ(26.5%) 無回答(1.6%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 42 病人を見舞うことができますか。(○は1つ)

1. はい(78.5%)	2. いいえ(18.6%)	無回答(2.9%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 43 若い人に自分から話しかけることがありますか。(○は1つ)

1. はい(72.0%)	2. いいえ(25.9%)	無回答(2.1%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 44 趣味はありますか。(○は1つ)

1. 趣味あり(77.4%)	2. 思いつかない(20.8%)	無回答(1.9%)
----------------	------------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 45 生きがいがありますか。(○は1つ)

1. 生きがいあり(63.7%)	2. 思いつかない(33.2%)	無回答(3.1%)
------------------	------------------	-----------

## 6 地域での活動について（記入日現在の状況をお答えください。）

（全員の方に）＜回答者数：1,652＞

問46 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

※①～⑧それぞれに回答してください。（それぞれ○は1つ）

### ① ボランティアのグループ

1. 週4回以上(0.9%)	2. 週2～3回(2.9%)	3. 週1回(1.9%)
4. 月1～3回(4.1%)	5. 年に数回(2.9%)	6. 参加していない(81.0%) 無回答(6.4%)

### ② スポーツ関係のグループやクラブ

1. 週4回以上(3.6%)	2. 週2～3回(8.9%)	3. 週1回(7.7%)
4. 月1～3回(3.5%)	5. 年に数回(1.9%)	6. 参加していない(69.0%) 無回答(5.5%)

### ③ 趣味関係のグループ

1. 週4回以上(1.0%)	2. 週2～3回(5.6%)	3. 週1回(6.8%)
4. 月1～3回(11.0%)	5. 年に数回(5.5%)	6. 参加していない(64.7%) 無回答(5.3%)

### ④ 学習・教養サークル

1. 週4回以上(0.5%)	2. 週2～3回(1.3%)	3. 週1回(3.1%)
4. 月1～3回(4.8%)	5. 年に数回(4.1%)	6. 参加していない(79.7%) 無回答(6.5%)

### ⑤ 体操や軽運動など介護予防のための通いの場

1. 週4回以上(3.8%)	2. 週2～3回(7.0%)	3. 週1回(6.8%)
4. 月1～3回(2.2%)	5. 年に数回(1.0%)	6. 参加していない(73.7%) 無回答(5.5%)

### ⑥ 老人クラブ

1. 週4回以上(0.1%)	2. 週2～3回(1.3%)	3. 週1回(0.9%)
4. 月1～3回(2.7%)	5. 年に数回(0.5%)	6. 参加していない(89.0%) 無回答(5.4%)

### ⑦ 町内会・自治会

1. 週4回以上(0.2%)	2. 週2～3回(0.7%)	3. 週1回(0.7%)
4. 月1～3回(4.0%)	5. 年に数回(8.0%)	6. 参加していない(80.6%) 無回答(5.8%)

### ⑧ 収入のある仕事

1. 週4回以上(14.8%)	2. 週2～3回(7.4%)	3. 週1回(2.8%)
4. 月1～3回(3.0%)	5. 年に数回(2.3%)	6. 参加していない(64.8%) 無回答(4.9%)



(問 46①～⑧で「6」に○をつけた方に) <回答者数：1,559>

問 46-1 地域での活動に参加していない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                             |                     |            |
|-----------------------------|---------------------|------------|
| 1. 地域活動の情報がないので(23.6%)      | 2. 知り合いがないので(25.1%) |            |
| 3. やりたい活動がないので(12.3%)       | 4. 費用が掛かるので(4.4%)   |            |
| 5. 近所での活動には参加したくないので(16.7%) |                     |            |
| 6. その他(31.5%)               |                     | 無回答(11.7%) |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問 47 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

- |                   |                   |           |
|-------------------|-------------------|-----------|
| 1. 是非参加したい(7.3%)  | 2. 参加してもよい(45.5%) |           |
| 3. 参加したくない(38.3%) | 4. 既に参加している(4.3%) | 無回答(4.7%) |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問 48 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

- |                   |                   |           |
|-------------------|-------------------|-----------|
| 1. 是非参加したい(2.6%)  | 2. 参加してもよい(29.4%) |           |
| 3. 参加したくない(59.4%) | 4. 既に参加している(2.9%) | 無回答(5.7%) |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問 49 あなたは、お住まいの地域のひとから何らかの役割を期待されたり、頼りにされたりしていると思いますか。(自分なりにできること、会・グループでの役、隣近所のちょっとしたこと、お手伝いやお願いごとなど) (○は1つ)。

- |                     |                    |           |
|---------------------|--------------------|-----------|
| 1. そう思う(8.2%)       | 2. ややそう思う(16.0%)   |           |
| 3. あまりそう思わない(28.6%) | 4. 全くそう思わない(42.6%) | 無回答(4.7%) |

## 7 たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします  
(記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 50 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                               |
|------------------|-------------------------------|
| 1. 配偶者(32.2%)    | 2. 同居の子ども(17.9%)              |
| 3. 別居の子ども(30.2%) | 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫(29.5%)         |
| 5. 近隣(7.5%)      | 6. 友人(50.8%)                  |
| 7. その他(3.8%)     | 8. そのような人はいない(7.1%) 無回答(6.1%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 51 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                               |
|------------------|-------------------------------|
| 1. 配偶者(31.7%)    | 2. 同居の子ども(15.1%)              |
| 3. 別居の子ども(26.8%) | 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫(30.6%)         |
| 5. 近隣(9.3%)      | 6. 友人(51.1%)                  |
| 7. その他(2.7%)     | 8. そのような人はいない(9.8%) 無回答(6.7%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 52 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人  
(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                                |
|------------------|--------------------------------|
| 1. 配偶者(34.7%)    | 2. 同居の子ども(21.2%)               |
| 3. 別居の子ども(28.9%) | 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫(15.2%)          |
| 5. 近隣(2.4%)      | 6. 友人(9.7%)                    |
| 7. その他(2.7%)     | 8. そのような人はいない(14.5%) 無回答(6.0%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 53 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                                |
|------------------|--------------------------------|
| 1. 配偶者(38.3%)    | 2. 同居の子ども(19.1%)               |
| 3. 別居の子ども(23.8%) | 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫(21.7%)          |
| 5. 近隣(3.8%)      | 6. 友人(13.4%)                   |
| 7. その他(2.8%)     | 8. そのような人はいない(19.2%) 無回答(7.0%) |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問 54 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                          |                       |
|--------------------------|-----------------------|
| 1. 自治会・町内会・老人クラブ(4.4%)   | 2. 社会福祉協議会・民生委員(6.5%) |
| 3. ケアマネジャー(7.0%)         | 4. 医師・歯科医師・看護師(31.2%) |
| 5. 地域包括支援センター・区役所(17.7%) | 6. その他(6.2%)          |
| 7. そのような人はいない(38.7%)     | 無回答(9.1%)             |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問 55 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

- |                   |                   |                   |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1. 毎日ある(5.3%)     | 2. 週に何度かある(23.6%) | 3. 月に何度かある(25.8%) |
| 4. 年に何度かある(18.6%) | 5. ほとんどない(20.3%)  | 無回答(6.5%)         |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問 56 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(○は1つ)

- |                   |                 |                |
|-------------------|-----------------|----------------|
| 1. 0人(いない)(17.3%) | 2. 1～2人(21.9%)  | 3. 3～5人(23.4%) |
| 4. 6～9人(10.0%)    | 5. 10人以上(20.6%) | 無回答(6.8%)      |

(全員の方に) <回答者数：1,652>

問 57 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 近所・同じ地域の人(32.9%)  | 2. 幼なじみ(4.9%)           |
| 3. 学生時代の友人(20.2%)    | 4. 仕事での同僚・元同僚(28.1%)    |
| 5. 趣味や関心が同じ友人(36.7%) | 6. ボランティア等の活動での友人(5.4%) |
| 7. その他(8.4%)         | 8. いない(11.2%)           |
|                      | 無回答(7.4%)               |

## 8 健康について

(記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に) <回答者数 : 1,652>

問 58 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1. とてもよい(14.3%)	2. まあよい(64.2%)	
3. あまりよくない(15.4%)	4. よくない(3.0%)	無回答(3.1%)

(全員の方に) <回答者数 : 1,652>

問 59 あなたは、現在どの程度幸せですか。(○は1つ)

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

0点(0.5%)	1点(0.6%)	2点(1.3%)	3点(3.0%)	4点(3.5%)	5点(18.3%)	6点(7.9%)
7点(14.5%)	8点(22.6%)	9点(9.6%)	10点(14.0%)			無回答(4.2%)

(全員の方に) <回答者数 : 1,652>

問 60 ここ2週間、毎日の生活に充実感がない気がしましたか。(○は1つ)

1. はい(23.3%)	2. いいえ(72.8%)	無回答(3.9%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数 : 1,652>

問 61 ここ2週間、これまで楽しんでやれていたことが楽しめない気がしましたか。(○は1つ)

1. はい(17.3%)	2. いいえ(78.7%)	無回答(4.0%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数 : 1,652>

問 62 ここ2週間、以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられることがありましたか。(○は1つ)

1. はい(34.6%)	2. いいえ(61.9%)	無回答(3.5%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数 : 1,652>

問 63 ここ2週間、自分が役に立つ人間だとは思えない気がしましたか。(○は1つ)

1. はい(20.9%)	2. いいえ(74.9%)	無回答(4.2%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 64 ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがしましたか。(○は1つ)

1. はい(28.9%)	2. いいえ(67.6%)	無回答(3.5%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 65 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。  
(○は1つ)

1. はい(35.4%)	2. いいえ(61.0%)	無回答(3.6%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 66 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○は1つ)

1. はい(22.7%)	2. いいえ(72.9%)	無回答(4.4%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 67 お酒は飲みますか。(○は1つ)

1. ほぼ毎日飲む(20.7%)	2. 時々飲む(20.2%)	
3. ほとんど飲まない(24.6%)	4. もともと飲まない(31.5%)	無回答(3.0%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 68 タバコは吸っていますか。(○は1つ)

1. ほぼ毎日吸っている(10.6%)	2. 時々吸っている(1.6%)	
3. 吸っていたがやめた(22.8%)	4. もともと吸っていない(61.8%)	無回答(3.1%)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 69 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ない(17.1%)	2. 高血圧(35.2%)
3. 脳卒中(脳出血・脳梗塞等)(2.5%)	4. 心臓病(10.3%)
5. 糖尿病(8.2%)	6. 高脂血症(脂質異常)(12.7%)
7. 呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)(6.5%)	8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気(5.4%)
9. 腎臓・前立腺の病気(5.1%)	10. 筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)(12.5%)
11. 外傷(転倒・骨折等)(3.6%)	12. がん(悪性新生物)(3.3%)
13. 血液・免疫の病気(2.0%)	14. うつ病(1.5%)
15. 認知症(アルツハイマー病等)(0.4%)	16. パーキンソン病(0.5%)
17. 目の病気(16.3%)	18. 耳の病気(5.4%)
19. その他(11.3%)	無回答(9.4%)

## 9 認知症にかかる相談窓口の把握について

(記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 70 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか (○は1つ)。

1. はい(11.3%)	2. いいえ(83.4%)	無回答(5.3%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 1,652>

問 71 認知症に関する相談窓口を知っていますか (○は1つ)。

1. はい(23.3%)	2. いいえ(71.2%)	無回答(5.4%)
--------------	---------------	-----------

## 10 成年後見制度について

(記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に) &lt;回答者数: 1,652&gt;

問 72 あなたは成年後見制度についてどの程度知っていますか。(○は1つ)

- |                      |                     |           |
|----------------------|---------------------|-----------|
| 1. 知っている(12.8%)      | 2. だいたい知っている(28.1%) |           |
| 3. あまりよくわからない(32.1%) | 4. 全くわからない(20.6%)   |           |
| 5. その他(0.3%)         |                     | 無回答(6.1%) |

(問 72 で「1」「2」に○をつけた方に) &lt;回答者数: 676&gt;

問 72-1 今後、成年後見制度を利用したいと思いますか。(○は1つ)

- |               |                 |           |
|---------------|-----------------|-----------|
| 1. したい(11.8%) | 2. したくない(84.5%) | 無回答(3.7%) |
|---------------|-----------------|-----------|

(問 72-1 で「2」に○をつけた方に) &lt;回答者数: 571&gt;

問 72-2 利用したくない理由をおしえてください。(○は2つ)

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 後見人でなくても家族がいるから(81.6%)                 |           |
| 2. 他人(家族・親族を含む)に財産などを任せることに不安があるから(14.2%) |           |
| 3. 後見人になってほしい人が見あたらないから(11.4%)            |           |
| 4. 家族・親族の信頼関係が壊れる恐れがあるから(4.2%)            |           |
| 5. 手続きが大変そうだから(6.8%)                      |           |
| 6. 費用がどのくらいかかるか心配だから(4.7%)                |           |
| 7. 家庭裁判所に申立てることに抵抗があるから(2.8%)             |           |
| 8. どのようなときに利用していいかわからないから(4.0%)           |           |
| 9. その他(10.7%)                             | 無回答(0.9%) |

---

---

《その他》

---

---

(全員の方に)

問 73 健康福祉行政全体について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。


ご協力ありがとうございました



# 令和4年度（2022年度） 高齢福祉・介護保険サービス意向調査 《介護サービス利用調査》

## 【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できるかぎりあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えにならない場合には、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. このアンケートは名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他（ ）」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、

## 令和4年12月6日（火曜日）までに

三つ折りにした上で、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。

8. 調査報告書は、令和5年7月から図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれる予定です。
9. 調査の内容や記入の方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区地域支えあい推進部介護・高齢者支援課管理企画係

TEL. 03-3228-5629 FAX. 03-3228-8972

E-mail kaigokourei@city.tokyo-nakano.lg.jp

## 【個人情報の取り扱いについて】

個人情報の保護及び活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

### 【個人情報の保護及び活用目的について】

- ・この調査は、効果的な介護予防施策の立案と効果評価のために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、区による介護保険事業計画策定と効果評価の目的以外には利用いたしません。また当該情報については、区において適切に管理いたします。
- ・ただし、介護保険事業計画策定時及び効果評価時に本調査で得られたデータを活用するにあたり、厚生労働省の管理する区外のデータベース内に情報を登録し、必要に応じて集計・分析をすることがあります。

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

（問1から6は、令和4年10月1日時点の状況をお答えください。）

（全員の方に）＜回答者数：1,344＞

問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。（複数選択可）

- |                        |                            |
|------------------------|----------------------------|
| 1. 調査対象者本人(28.0%)      | 2. 主な介護者となっている家族・親族(61.8%) |
| 3. 主な介護者以外の家族・親族(5.1%) | 4. その他(1.6%)               |
|                        | 無回答(7.7%)                  |

## A票 ご本人について、お伺いします

（全員の方に）＜回答者数：1,344＞

問2 あなたがお住まいの地域はどこですか。（1つを選択）

- |               |               |               |              |
|---------------|---------------|---------------|--------------|
| 1. 上鷺宮(5.2%)  | 2. 鷺宮(4.8%)   | 3. 白鷺(4.8%)   | 4. 若宮(5.4%)  |
| 5. 大和町(4.1%)  | 6. 江原町(2.9%)  | 7. 江古田(3.6%)  | 8. 野方(6.8%)  |
| 9. 丸山(1.9%)   | 10. 沼袋(4.3%)  | 11. 松が丘(1.3%) | 12. 新井(4.4%) |
| 13. 上高田(6.5%) | 14. 中野(8.0%)  | 15. 東中野(5.5%) | 16. 中央(8.3%) |
| 17. 本町(7.0%)  | 18. 弥生町(7.1%) | 19. 南台(6.8%)  | 無回答(1.2%)    |

《丁目を記入してください》

（ ）丁目

（全員の方に）＜回答者数：1,344＞

問3 家族構成について、ご回答ください。（1つを選択）

- |                |                  |           |
|----------------|------------------|-----------|
| 1. 単身世帯(32.7%) | 2. 夫婦のみ世帯(21.1%) | 問3Cへ      |
| 3. その他(39.0%)  |                  | 無回答(7.2%) |

（問3で「3」と回答した方に）＜回答者数：524＞

問3A ご本人を含めて何人で暮らしていますか。（1つを選択）

- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. 2人(35.5%) | 2. 3人(35.9%)  | 3. 4人(14.7%) |
| 4. 5人(6.5%)  | 5. 6人以上(5.7%) | 無回答(1.7%)    |

問3B 同居されている方はどなたですか。（複数選択可）

- |                |                 |             |
|----------------|-----------------|-------------|
| 1. 子(82.3%)    | 2. 子の配偶者(27.9%) | 3. 孫(21.9%) |
| 4. 兄弟・姉妹(3.4%) | 5. その他(9.9%)    | 無回答(1.5%)   |

(問3で「2」「3」と回答した方に) <回答者数: 807>

問3C 日中ひとりになることがありますか。(1つを選択)

1. よくある(23.4%)    2. たまにある(44.1%)    3. ない(23.4%)    無回答(9.0%)

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問4 ご本人の性別について、ご回答ください。(1つを選択)

1. 男性(31.7%)    2. 女性(66.9%)    無回答(1.4%)

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問5 ご本人の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

1. 65歳未満(1.6%)    2. 65~69歳(2.5%)    3. 70~74歳(6.6%)  
 4. 75~79歳(9.6%)    5. 80~84歳(18.8%)    6. 85~89歳(24.2%)  
 7. 90~94歳(23.1%)    8. 95~99歳(9.4%)    9. 100歳以上(3.4%)    無回答(1.0%)

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問6 ご本人の要介護度について、ご回答ください。(1つを選択)

1. 要支援1(4.2%)    2. 要支援2(3.9%)    3. 要介護1(24.0%)  
 4. 要介護2(21.9%)    5. 要介護3(15.6%)    6. 要介護4(15.6%)  
 7. 要介護5(10.6%)    8. わからない(1.4%)    無回答(2.8%)

(問6で「5」「6」「7」と回答した方に) <回答者数: 562>

問6A 介護・介助が必要となった主な原因はなんですか。(複数選択可)

1. 脳卒中(脳出血、脳梗塞等)(21.4%)    2. 心臓病(11.7%)  
 3. がん(悪性新生物)(5.9%)    4. 呼吸器の病気(肺気腫・肺炎)(2.3%)  
 5. 糖尿病(7.5%)    6. パーキンソン病(5.5%)  
 7. 関節の病気(リウマチ等)(3.7%)    8. 骨折・転倒(28.6%)  
 9. 視覚・聴覚障害(4.8%)    10. 認知症(アルツハイマー病等)(36.7%)  
 11. 脊椎損傷(5.9%)    12. 高齢による衰弱(25.8%)  
 13. その他(14.1%)    14. わからない(0.7%)    無回答(1.4%)

(問7以降は、記入日現在の状況をお答えください。)

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問7 お住まいは次のどれにあたりますか。(1つを選択)

- |                                |  |           |
|--------------------------------|--|-----------|
| 1. 持ち家(一戸建て)(58.8%)            |  |           |
| 2. 持ち家(分譲マンションなどの集合住宅)(14.8%)  |  |           |
| 3. 公営の賃貸住宅(区営・都営住宅、公社など)(6.1%) |  |           |
| 4. 民営の賃貸住宅(10.9%)              |  |           |
| 5. 社宅・社員寮・公務員住宅(0.2%)          |  |           |
| 6. その他(6.9%)                   |  | 無回答(2.2%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問7A お住まい(主に生活する部屋)は2階以上にありますか。(1つを選択)

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1. はい(47.8%) | 2. いいえ(49.3%) | 無回答(2.9%) |
|--------------|---------------|-----------|

(問7Aで「1」と回答した方に) <回答者数: 643>

問7B お住まいの建物にエレベーターは設置されていますか。(1つを選択)

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1. はい(42.0%) | 2. いいえ(56.3%) | 無回答(1.7%) |
|--------------|---------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問8 ご本人はどこで介護を受けたいと思っていますか。(1つを選択)

- |                                    |  |           |
|------------------------------------|--|-----------|
| 1. 自宅(63.2%)                       |  |           |
| 2. 自宅近くのサービス付き高齢者住宅(3.5%)          |  |           |
| 3. 自宅近くの入所施設(13.0%)                |  |           |
| 4. 自宅から遠くても、出身地等、好きな土地の住宅や施設(1.7%) |  |           |
| 5. その他(3.3%)                       |  |           |
| 6. わからない(11.4%)                    |  | 無回答(3.9%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問8A 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。(1つを選択)

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

- |                             |                        |           |
|-----------------------------|------------------------|-----------|
| 1. 入所・入居は検討していない(58.6%)     | 2. 入所・入居を検討している(16.1%) |           |
| 3. すでに入所・入居申し込みをしている(20.7%) |                        | 無回答(4.7%) |

問8Bへ

(問8Aで「2」「3」と回答した方に) <回答者数：494>

問8B 施設等への入所・入居を検討した理由はなんですか。(複数選択可)

- |                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. 介護する家族の心身の負担が大きい(66.8%)          |           |
| 2. 介護をする家族・親族がいない(13.8%)            |           |
| 3. 在宅に戻るための専門的なりハビリ等が必要となっている(7.5%) |           |
| 4. 現在入院している病院を退院しなければならない(4.7%)     |           |
| 5. 認知症の症状があり、在宅での介護が難しい(46.6%)      |           |
| 6. 在宅サービスの利用による経済的な負担が大きい(7.1%)     |           |
| 7. 現在の住まいの機能上、在宅での介護が難しい(27.3%)     |           |
| 8. その他(10.7%)                       | 無回答(1.4%) |

(全員の方に) <回答者数：1,344>

問9 ご本人(調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。(複数選択可)

- |                                   |                                  |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1. 脳血管疾患(脳卒中)(12.7%)              | 2. 心疾患(心臓病)(16.5%)               |
| 3. 悪性新生物(がん)(6.2%)                | 4. 呼吸器疾患(6.1%)                   |
| 5. 腎疾患(透析)(3.6%)                  | 6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)(13.9%) |
| 7. 膠原病(関節リウマチ含む)(3.2%)            | 8. 変形性関節疾患(7.9%)                 |
| 9. 認知症(43.0%)                     | 10. パーキンソン病(4.5%)                |
| 11. 難病(パーキンソン病を除く)(2.4%)          | 12. 糖尿病(14.1%)                   |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの)(13.3%) |                                  |
| 14. その他(18.2%)                    | 15. なし(5.1%)                     |
| 16. わからない(2.2%)                   | 無回答(3.8%)                        |

(全員の方に) <回答者数：1,344>

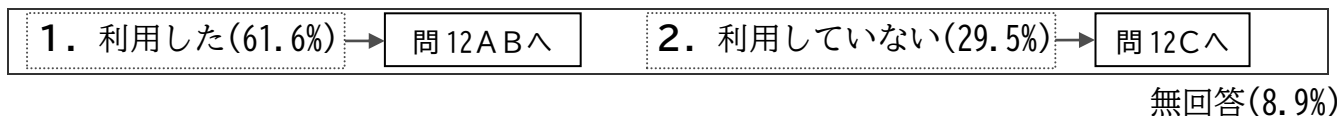
問10 以下の介護保険サービスでサービス内容を知らない又はわからないサービスはどれですか。(複数選択可)

- |                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| 1. 訪問介護(ホームヘルプサービス)(6.3%) | 2. 訪問入浴介護(5.1%)                 |
| 3. 訪問看護(5.7%)             | 4. 訪問リハビリテーション(6.3%)            |
| 5. 通所介護(デイサービス)(4.3%)     | 6. 通所リハビリテーション(デイケア)(5.3%)      |
| 7. 夜間対応型訪問介護※(20.4%)      | 8. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護※(23.3%)     |
| 9. 小規模多機能型居宅介護※(30.0%)    | 10. 看護小規模多機能型居宅介護※(35.3%)       |
| 11. ショートステイ(6.7%)         | 12. 居宅療養管理指導※(29.2%) 無回答(46.8%) |

- ※7 夜間対応型訪問介護：夜間にホームヘルパーが定期的に利用者の居宅を訪問して介護を行うサービス  
 ※8 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：ホームヘルパーによる訪問介護と看護師による訪問看護を、定期的又は随時に24時間365日の体制で必要なサービスを提供するサービス  
 ※9 小規模多機能型居宅介護：小規模な施設ですが、利用者のニーズに応じて訪問介護、通所介護、短期入所など多種類の居宅介護サービスを提供するサービス  
 ※10 看護小規模多機能型居宅介護：小規模多機能型居宅介護に、看護師による訪問看護を加えたサービス  
 ※12 居宅療養管理指導：医師・歯科医師・薬剤師などが居宅を訪問し、薬の飲み方、食事などの管理・指導を行うサービス

(全員の方に) <回答者数：1,344>

問 11 令和4年10月の1か月の間に、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の)介護保険サービスを利用しましたか。(1つを選択)



(問 11 で「1」と回答した方に) <回答者数：828>

問 12A 以下の介護保険サービスについて、令和4年10月の1か月間の利用状況をご回答ください。対象の介護保険サービスをご利用になっていない場合は、「利用していない(0回、1. 利用していない、0日)」を選択してください。(それぞれ1つを選択)

	1週間あたりの利用回数 (それぞれ1つに○)						無回答
	利用して いない	週1回 程度	週2回 程度	週3回 程度	週4回 程度	週5回 以上	
(※回答例) ●●●サービス	0回	1回	<b>2回</b>	3回	4回	5回 以上	
A 訪問介護 (ホームヘルプサービス)	(20.9%)	(8.2%)	(6.6%)	(3.6%)	(2.3%)	(10.5%)	(47.8%)
B 訪問入浴介護	(29.7%)	(7.4%)	(5.2%)	(1.0%)	(0.2%)	(0.2%)	(56.3%)
C 訪問看護	(21.0%)	(18.6%)	(6.4%)	(1.2%)	(1.3%)	(1.6%)	(49.9%)
D 訪問リハビリテーション	(23.4%)	(13.5%)	(8.5%)	(1.7%)	(2.1%)	(1.1%)	(49.8%)
E 通所介護 (デイサービス)	(16.3%)	(9.1%)	(15.0%)	(12.9%)	(6.6%)	(8.6%)	(31.5%)
F 通所リハビリテーション (デイケア)	(30.4%)	(6.4%)	(5.0%)	(1.6%)	(0.5%)	(0.4%)	(55.8%)
G 夜間対応型訪問介護 ※ (訪問のあった回数を回答)	(33.8%)	(1.4%)	(0.2%)	(0.2%)	(0.0%)	(0.6%)	(63.6%)

※G 夜間対応型訪問介護：夜間にホームヘルパーが定期的に利用者の居宅を訪問して介護を行うサービス

	利用の有無 (それぞれ1つに○)		無回答
H 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ※	1. 利用していない(69.6%)	2. 利用した(9.3%)	(21.1%)
I 小規模多機能型居宅介護 ※	1. 利用していない(71.1%)	2. 利用した(5.8%)	(23.1%)
J 看護小規模多機能型居宅介護 ※	1. 利用していない(72.8%)	2. 利用した(3.0%)	(24.2%)

※H 定期巡回・随時対応型訪問介護看護：ホームヘルパーによる訪問介護と看護師による訪問看護を、定期的又は随時に24時間365日の体制で必要なサービスを提供するサービス

※I 小規模多機能型居宅介護：小規模な施設ですが、利用者のニーズに応じて訪問介護、通所介護、短期入所など多種類の居宅介護サービスを提供するサービス

※J 看護小規模多機能型居宅介護：上記I. 小規模多機能型居宅介護に、看護師による訪問看護を加えたサービス

	1か月あたりの利用日数（1つに○）					無回答
	利用していない	月1～7日程度	月8～14日程度	月15～21日程度	月22日以上	
K ショートステイ	(64.1%)	(9.9%)	(4.1%)	(1.0%)	(0.8%)	(20.0%)

	1か月あたりの利用回数（1つに○）					無回答
	利用していない	月1回程度	月2回程度	月3回程度	月4回程度	
L 居宅療養管理指導※	(60.6%)	(6.6%)	(7.5%)	(0.8%)	(2.1%)	(22.3%)

※L 居宅療養管理指導：医師・歯科医師・薬剤師などが居宅を訪問し、薬の飲み方、食事などの管理・指導を行うサービス

(問11で「1」と回答した方に) <回答者数：828>

問12B あなたが、ケアプランについて不満と思うことを次の中から選んでください。(複数選択可)

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 希望するサービスが利用できない(5.8%)                   |            |
| 2. 希望しないサービスがケアプランに含まれている(1.4%)            |            |
| 3. 希望する事業者が利用できない(2.5%)                    |            |
| 4. サービスの利用回数や時間が少ない(7.6%)                  |            |
| 5. サービスの利用料金が低い(13.4%)                     |            |
| 6. 要介護認定による給付の枠内では使いたいサービスが十分に受けられない(8.5%) |            |
| 7. 介護保険制度の導入以前は使えていたサービスが使えなくなった(1.0%)     |            |
| 8. レンタル用品に利用したい物品がない(0.7%)                 |            |
| 9. ケアマネジャーから説明がない、もしくは説明がよくわからない(3.6%)     |            |
| 10. その他(8.5%)                              |            |
| 11. 不満な点はない(55.7%)                         | 無回答(10.7%) |

(問11で「2」と回答した方に)

問12C 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。(複数選択可)

- |                                   |                          |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1. まだ必要でない(21.2%)                 | 2. 家族の介護で間に合っている(13.4%)  |
| 3. 医療サービスを受けているため(11.6%)          | 4. 他人を家に入れたくない(5.3%)     |
| 5. 利用したいサービスがない(2.3%)             | 6. サービスの利用方法がわからない(5.3%) |
| 7. 他人に介護してもらいたくない(3.0%)           | 8. 利用料の負担が大きい(4.0%)      |
| 9. ケアマネジャーへの依頼方法がわからない(1.8%)      |                          |
| 10. 利用したいサービスの日・時間帯などが合わない(1.3%)  |                          |
| 11. 住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため(3.0%) |                          |
| 12. その他(28.2%)                    |                          |
| 13. 特別な理由はない(10.8%)               | 無回答(19.6%)               |

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問 13 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。(複数選択可)

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

- |                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 1. 配食(8.6%)                 | 2. 調理(3.9%)                   |
| 3. 掃除・洗濯(8.7%)              | 4. 買い物(宅配は含まない)(6.4%)         |
| 5. ゴミ出し(6.0%)               | 6. 外出同行(通院、買い物など)(5.7%)       |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)(5.6%) | 8. 見守り、声かけ(4.5%)              |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場(1.0%)     | 10. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き(2.2%)    |
| 11. その他(4.9%)               | 12. 利用していない(57.4%) 無回答(16.6%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問 14 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください。(複数選択可)

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

- |                              |                            |
|------------------------------|----------------------------|
| 1. 配食(12.8%)                 | 2. 調理(7.8%)                |
| 3. 掃除・洗濯(12.4%)              | 4. 買い物(宅配は含まない)(9.9%)      |
| 5. ゴミ出し(9.8%)                | 6. 外出同行(通院、買い物など)(17.7%)   |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等)(19.0%) | 8. 見守り、声かけ(14.7%)          |
| 9. サロンなどの定期的な通いの場(5.7%)      | 10. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き(6.3%) |
| 11. その他(4.2%)                | 12. 特になし(37.4%) 無回答(16.1%) |

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問 15 ご本人(調査対象者)は、現在、訪問診療を利用していますか。(1つを選択)

※訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

- |                  |                   |           |
|------------------|-------------------|-----------|
| 1. 利用している(30.2%) | 2. 利用していない(65.1%) | 無回答(4.7%) |
|------------------|-------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数: 1,344>

問 16 ご本人(調査対象者)は、現在、その他の訪問診療を利用していますか。(1つを選択)

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 訪問歯科診療を利用している(11.1%)    | 2. 訪問薬剤師を利用している(3.8%)       |
| 3. 「1」と「2」の両方を利用している(4.2%) | 4. 利用していない(72.8%) 無回答(8.1%) |



(全員の方に) <回答者数：1,344>

問 17 地域包括支援センターに相談したことはありますか。(1つを選択)

- |                                       |           |
|---------------------------------------|-----------|
| 1. 相談したことがある(59.2%)                   |           |
| 2. 地域包括支援センターを知っているが、相談したことはない(26.5%) |           |
| 3. 地域包括支援センターを知らなかった(7.0%)            | 無回答(7.4%) |

(全員の方に) <回答者数：1,344>

問 18 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか。(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

- |                                  |               |                                 |
|----------------------------------|---------------|---------------------------------|
| 1. ない(30.8%)                     | → アンケートは終了です。 |                                 |
| 2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない(6.0%) |               | B票(次のページ)にお進みください。<br>無回答(7.8%) |
| 3. 週に1～2日ある(7.6%)                |               |                                 |
| 4. 週に3～4日ある(3.9%)                |               |                                 |
| 5. ほぼ毎日ある(43.9%)                 |               |                                 |

(A票問18で「2～5」を回答した方に) <回答者数：825>

## B票 主な介護者の方について、お伺いします

(問1から3は、令和4年10月1日時点の状況をお答えください。)

問1 主な介護者の方は、どなたですか。(1つを選択)

- |               |                |                        |
|---------------|----------------|------------------------|
| 1. 配偶者(28.5%) | 2. 子(53.6%)    | 3. 子の配偶者(6.9%)         |
| 4. 孫(0.7%)    | 5. 兄弟・姉妹(3.2%) | 6. その他(3.8%) 無回答(3.4%) |

問2 主な介護者の方の性別について、ご回答ください。(1つを選択)

- |              |              |           |
|--------------|--------------|-----------|
| 1. 男性(27.5%) | 2. 女性(67.6%) | 無回答(4.8%) |
|--------------|--------------|-----------|

問3 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。(1つを選択)

- |                |                 |                          |
|----------------|-----------------|--------------------------|
| 1. 20歳未満(0.1%) | 2. 20代(0.2%)    | 3. 30代(1.0%)             |
| 4. 40代(5.1%)   | 5. 50代(23.2%)   | 6. 60代(29.5%)            |
| 7. 70代(18.5%)  | 8. 80歳以上(17.0%) | 9. わからない(0.1%) 無回答(5.3%) |

(問4以降は、記入日時点の状況をお答えください。)

問4 ご家族やご親族の中で、ご本人(調査対象者)の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか。(現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません)  
(複数選択可)

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)(8.5%)         |
| 2. 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)(0.7%) |
| 3. 主な介護者が転職した(1.9%)                 |
| 4. 主な介護者以外の家族・親族が転職した(0.5%)         |
| 5. 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない(70.1%)     |
| 6. わからない(3.6%) 無回答(14.9%)           |

問5 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。(複数選択可)

<b>《身体介護》</b>	
1. 日中の排泄(27.4%)	2. 夜間の排泄(21.9%)
3. 食事の介助(食べる時)(25.1%)	4. 入浴・洗身(26.7%)
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)(33.0%)	6. 衣服の着脱(40.8%)
7. 屋内の移乗・移動(27.5%)	8. 外出の付き添い、送迎等(68.2%)
9. 服薬(59.0%)	10. 認知症状への対応(41.0%)
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)(11.3%)	
<b>《生活援助》</b>	
12. 食事の準備(調理等)(71.4%)	13. その他の家事(77.0%) (掃除、洗濯、買い物等)
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き(75.6%)	
<b>《その他》</b>	
15. その他(5.5%)	16. わからない(1.0%) 無回答(4.8%)

問6 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください。(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

<b>《身体介護》</b>	
1. 日中の排泄(28.0%)	2. 夜間の排泄(32.6%)
3. 食事の介助(食べる時)(11.5%)	4. 入浴・洗身(18.4%)
5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)(8.8%)	6. 衣服の着脱(10.4%)
7. 屋内の移乗・移動(15.6%)	8. 外出の付き添い、送迎等(25.2%)
9. 服薬(15.4%)	10. 認知症状への対応(41.6%)
11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)(8.7%)	
<b>《生活援助》</b>	
12. 食事の準備(調理等)(22.5%)	13. その他の家事(19.6%) (掃除、洗濯、買い物等)
14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き(21.2%)	
<b>《その他》</b>	
15. その他(10.4%)	16. 不安を感じていることは、特にない(11.6%)
17. 主な介護者に確認しないと、わからない(2.1%)	無回答(8.8%)

問7 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。(1つを選択)

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。

1. フルタイムで働いている(25.1%)	2. パートタイムで働いている(16.7%)
3. 働いていない(49.3%)	4. 主な介護者に確認しないと、わからない(1.0%) 無回答(7.9%)

問8～問10へ

(B票問7で「1」「2」と回答した方に) <回答者数：345>

問8 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしてはいますか  
(複数選択可)

1. 特に行っていない(27.8%)
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている(40.3%)
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている(21.7%)
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている(12.2%)
5. 介護のために、「2」～「4」以外の調整をしながら、働いている(18.6%)
6. 主な介護者に確認しないと、わからない(0.9%) 無回答(2.9%)

(B票問7で「1」「2」と回答した方に) <回答者数：345>

問9 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果がある  
と思いますか。(3つまで選択可)

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない(19.1%)
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実(28.7%)
3. 制度を利用しやすい職場づくり(24.6%)
4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)(26.7%)
5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)(19.4%)
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供(8.4%)
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置(7.5%)
8. 介護をしている従業員への経済的な支援(24.6%)
9. その他(2.9%)
10. 特にない(14.5%)
11. 主な介護者に確認しないと、わからない(2.9%) 無回答(6.7%)

(B票問7で「1」「2」と回答した方に) <回答者数：345>

問10 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。(1つを選択)

1. 問題なく、続けていける(12.5%)
2. 問題はあるが、何とか続けていける(59.4%)
3. 続けていくのは、やや難しい(11.6%)
4. 続けていくのは、かなり難しい(7.8%)
5. 主な介護者に確認しないと、わからない(1.7%) 無回答(7.0%)

ご協力ありがとうございました

# 令和4年度（2022年度） 高齢福祉・介護保険サービス意向調査 《ケアマネジャー調査》

## 【調査のご記入にあたってのお願い】

1. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
2. 令和4年10月1日現在の状況でお答えください。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他（ ）」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入してください。
7. 郵送で回答する場合、本調査票を三つ折りにした上で、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送して下さい。
8. インターネットで回答する場合、右のQRコードを読み取るか、URLを入力してください。回答フォームには、右のQRコードの下にある4桁の整理番号を入力して下さい。



回答用URL：<https://forms.gle/UjQsaRaximzLehgE8>

## 【回答期限（郵送・インターネット共通）】

**令和4年12月6日（火曜日）**

10. 調査報告書は、令和5年7月から図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれる予定です。
11. 調査の内容や記入の方法などについてご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区地域支えあい推進部介護・高齢者支援課管理企画係

TEL. 03-3228-5629 FAX. 03-3228-8972

E-mail [kaigokourei@city.tokyo-nakano.lg.jp](mailto:kaigokourei@city.tokyo-nakano.lg.jp)

《基本的事項について》

(全員の方に) <回答者数: 138>

問1 あなたの所属する事業所の所在地は次のどれですか。(○は1つ)

- |               |                |           |
|---------------|----------------|-----------|
| 1. 中野区(88.4%) | 2. 中野区以外(2.2%) | 無回答(9.4%) |
|---------------|----------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数: 138>

問2 あなたの所属する事業所はどのような介護サービス等を行っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

《居宅サービス》

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1. 訪問介護(52.9%)          | 2. 訪問入浴介護(1.4%)       |
| 3. 訪問看護(17.4%)          | 4. 訪問リハビリテーション(5.1%)  |
| 5. 居宅療養管理指導(2.9%)       | 6. 福祉用具(貸与)(9.4%)     |
| 7. 特定福祉用具(販売)(5.1%)     | 8. 住宅改修(2.9%)         |
| 9. 通所介護(小規模通所含む)(21.0%) | 10. 通所リハビリテーション(5.1%) |
| 11. 短期入所生活介護(12.3%)     | 12. 短期入所療養介護(2.9%)    |
| 13. 特定施設入居者生活介護(2.2%)   |                       |

《介護予防サービス》

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 14. 予防訪問サービス(旧予防訪問介護)(24.6%)   | 15. 予防訪問入浴介護(0.7%)          |
| 16. 予防訪問看護(11.6%)              | 17. 予防訪問リハビリテーション(5.1%)     |
| 18. 予防居宅療養管理指導(1.4%)           | 19. 予防福祉用具(貸与)(5.8%)        |
| 20. 予防特定福祉用具(販売)(3.6%)         | 21. 予防通所サービス(旧予防通所介護)(7.2%) |
| 22. 予防通所リハビリテーション(5.8%)        | 23. 予防短期入所生活介護(5.8%)        |
| 24. 予防短期入所療養介護(2.2%)           | 25. 予防特定施設入居者生活介護(0.0%)     |
| 26. 生活援助サービス(緩和基準訪問サービス)(2.9%) |                             |
| 27. 活動援助サービス(緩和基準通所サービス)(0.7%) |                             |

《施設サービス》

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| 28. 介護老人福祉施設(13.0%)        | 29. 介護老人保健施設(2.9%) |
| 30. 介護医療院(介護療養型医療施設)(0.0%) |                    |

《地域密着型サービス(小規模通所除く)》

- |                         |                                 |
|-------------------------|---------------------------------|
| 31. 夜間対応型訪問介護(0.0%)     | 32. 小規模多機能型居宅介護(3.6%)           |
| 33. 認知症対応型通所介護(6.5%)    | 34. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)(0.0%) |
| 35. 看護小規模多機能型居宅介護(0.0%) | 36. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(1.4%)      |

《介護予防地域密着型サービス》

- |                                   |                        |
|-----------------------------------|------------------------|
| 37. 予防小規模多機能型居宅介護(0.0%)           | 38. 予防認知症対応型通所介護(0.0%) |
| 39. 予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)(0.7%) |                        |

《その他のサービス》

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 40. 病院・診療所(5.1%)     | 41. 薬局(0.0%)       |
| 42. 都市型軽費老人ホーム(0.7%) | 43. その他のサービス(8.0%) |
| 44. 併設事業なし(4.3%)     | 無回答(16.7%)         |

(全員の方に) <回答者数：138>

問3 あなたの現在の勤務体系を次の中から選んでください。(○は1つ)

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 1. 常勤で専従(79.7%) |           |
| 2. 常勤で兼務(14.5%) |           |
| 3. 非常勤(5.1%)    | 無回答(0.7%) |

(全員の方に) <回答者数：138>

問4 あなたはケアマネジャーとして、何年間従事していますか。(○は1つ)

- |                    |                   |           |
|--------------------|-------------------|-----------|
| 1. 1年未満(2.2%)      | 2. 1年以上3年未満(5.8%) |           |
| 3. 3年以上5年未満(15.2%) | 4. 5年以上(76.8%)    | 無回答(0.0%) |

(全員の方に) <回答者数：138>

問5 あなたのケアマネジャー受験資格と当該職種の従事年数を教えてください。

(1) 受験資格(○は1つ)

- |                  |                      |           |
|------------------|----------------------|-----------|
| 1. 社会福祉士(5.1%)   | 2. 薬剤師(0.0%)         |           |
| 3. 介護福祉士(77.5%)  | 4. 理学療法士・作業療法士(0.0%) |           |
| 5. 看護師・保健師(4.3%) | 6. ホームヘルパー(2.2%)     |           |
| 7. 医師・歯科医師(0.0%) | 8. その他(2.2%)         | 無回答(8.7%) |

(2) 従事年数(ケアマネジャーになる前の従事年数で複数の受験資格を持つ場合は通算してください)(○は1つ)

- |                      |                      |           |
|----------------------|----------------------|-----------|
| 1. 5年未満(6.5%)        | 2. 5年以上10年未満(42.0%)  |           |
| 3. 10年以上15年未満(15.9%) | 4. 15年以上20年未満(20.3%) |           |
| 5. 20年以上(15.2%)      |                      | 無回答(0.0%) |

(全員の方に) <回答者数：138>

問6 過去3年間で、所属事業所が変わった回数は何回ですか。(○は1つ)

- |              |              |               |           |
|--------------|--------------|---------------|-----------|
| 1. 0回(73.9%) | 2. 1回(18.8%) | 3. 2回(5.8%)   |           |
| 4. 3回(1.4%)  | 5. 4回(0.0%)  | 6. 5回以上(0.0%) | 無回答(0.0%) |

## 《ケアプラン・介護予防について》

(全員の方に) <回答者数：138>

問7 あなたの給付管理件数は何件ですか。(○は1つ)

- |                   |                   |                          |
|-------------------|-------------------|--------------------------|
| 1. 10件以下(1.4%)    | 2. 11件～20件(5.8%)  | 3. 21件～30件(21.0%)        |
| 4. 31件～40件(50.7%) | 5. 41件～50件(15.2%) | 6. 51件以上(5.8%) 無回答(0.0%) |

(全員の方に) <回答者数：138>

問8 作成する居宅サービス計画の件数について、次の中から選んでください。(○は1つ)

- |                   |                    |                    |           |
|-------------------|--------------------|--------------------|-----------|
| 1. もっと増やしたい(7.2%) | 2. もっと減らしたい(27.5%) | 3. 現在の件数で十分(65.2%) | 無回答(0.0%) |
|-------------------|--------------------|--------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：138>

問9 あなたは現在、何件の介護予防サービス計画の受託または作成をしていますか。  
(○は1つ)

- |             |                 |                |           |
|-------------|-----------------|----------------|-----------|
| 1. 0件(3.6%) | 2. 1件～8件(55.8%) | 3. 9件以上(40.6%) | 無回答(0.0%) |
|-------------|-----------------|----------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：138>

問10 受託または作成する介護予防サービス計画の件数について、次の中から選んでください。  
(○は1つ)

- |                   |                    |                    |           |
|-------------------|--------------------|--------------------|-----------|
| 1. もっと増やしたい(2.2%) | 2. もっと減らしたい(57.2%) | 3. 現在の件数で十分(39.9%) | 無回答(0.7%) |
|-------------------|--------------------|--------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：138>

問11 介護保険制度は要介護者等の自立支援を目的の一つとしていますが、現行の介護サービスはその役割を十分果たしていると思いますか。(○は1つ)

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1. 十分果たしている(2.2%)       | 2. ある程度果たしている(78.3%) |
| 3. 果たしているとは言いがたい(13.0%) |                      |
| 4. わからない(4.3%)          |                      |
| 5. 1～4以外の意見(1.4%)       | 無回答(0.7%)            |

(全員の方に) <回答者数：138>

問12 地域の自主グループをどのくらい知っていますか。(○は1つ)

- |            |               |                |               |           |
|------------|---------------|----------------|---------------|-----------|
| 1. 0(7.2%) | 2. 1～5(71.7%) | 3. 6～10(15.2%) | 4. 11以上(4.3%) | 無回答(1.4%) |
|------------|---------------|----------------|---------------|-----------|



(全員の方に) <回答者数：138>

問13 ケアプランに介護保険外のボランティアや地域活動等の地域資源を盛り込んでいますか。  
(○は1つ)

1. はい(94.9%)

2. いいえ(4.3%)

無回答(0.7%)

(問13で「1. はい」と回答した方に)

問13A 具体的にケアプランに盛り込んでいる地域資源はなんですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. ほほえみサービス(71.8%)

2. 地域福祉権利擁護事業(51.1%)

3. シルバー人材センターのサービス(29.0%)

4. 民間の配食サービス(88.5%)

5. 民間の家事援助サービス(35.9%)

6. 高齢者会館等の事業(24.4%)

7. まちなかサロン・その他通いの場(27.5%)

8. その他(7.6%)

無回答(0.0%)

(全員の方に)

問14 ケアプランに地域資源を盛り込む上での課題は何だと思えますか。ご自由にお書きください。


(全員の方に) <回答者数: 138>

問 15 ケアプランを作成する際に、中野区内でサービス供給が不足しているため、利用者に提供できない(しにくい)サービスは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

《居宅サービス》

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 訪問介護(16.7%)          | 2. 訪問入浴介護(7.2%)        |
| 3. 訪問看護(0.7%)           | 4. 訪問リハビリテーション(11.6%)  |
| 5. 居宅療養管理指導(1.4%)       | 6. 福祉用具(貸与)(0.7%)      |
| 7. 特定福祉用具(販売)(0.7%)     | 8. 住宅改修(0.7%)          |
| 9. 通所介護(小規模通所含む)(11.6%) | 10. 通所リハビリテーション(42.0%) |
| 11. 短期入所生活介護(26.1%)     | 12. 短期入所療養介護(27.5%)    |
| 13. 特定施設入居者生活介護(3.6%)   |                        |

《介護予防サービス》

- |                                 |                              |
|---------------------------------|------------------------------|
| 14. 予防訪問サービス(旧予防訪問介護)(13.8%)    | 15. 予防訪問入浴介護(2.2%)           |
| 16. 予防訪問看護(0.0%)                | 17. 予防訪問リハビリテーション(7.2%)      |
| 18. 予防居宅療養管理指導(0.0%)            | 19. 予防福祉用具(貸与)(0.0%)         |
| 20. 予防特定福祉用具(販売)(0.0%)          | 21. 予防通所サービス(旧予防通所介護)(14.5%) |
| 22. 予防通所リハビリテーション(12.3%)        | 23. 予防短期入所生活介護(9.4%)         |
| 24. 予防短期入所療養介護(4.3%)            | 25. 予防特定施設入居者生活介護(2.2%)      |
| 26. 生活援助サービス(緩和基準訪問サービス)(10.1%) |                              |
| 27. 活動援助サービス(緩和基準通所サービス)(6.5%)  |                              |

《施設サービス》

- |                             |                     |
|-----------------------------|---------------------|
| 28. 介護老人福祉施設(22.5%)         | 29. 介護老人保健施設(42.8%) |
| 30. 介護医療院(介護療養型医療施設)(21.7%) |                     |

《地域密着型サービス(小規模通所除く)》

- |                          |                                 |
|--------------------------|---------------------------------|
| 31. 夜間対応型訪問介護(29.7%)     | 32. 小規模多機能型居宅介護(6.5%)           |
| 33. 認知症対応型通所介護(12.3%)    | 34. 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)(8.7%) |
| 35. 看護小規模多機能型居宅介護(13.8%) | 36. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護(29.7%)     |

《介護予防地域密着型サービス》

- |                                   |                        |
|-----------------------------------|------------------------|
| 37. 予防小規模多機能型居宅介護(2.2%)           | 38. 予防認知症対応型通所介護(3.6%) |
| 39. 予防認知症対応型共同生活介護(グループホーム)(7.2%) |                        |

《その他のサービス》

- |                       |                              |
|-----------------------|------------------------------|
| 40. 病院・診療所(2.9%)      | 41. 薬局(0.0%)                 |
| 42. 都市型軽費老人ホーム(25.4%) | 43. その他のサービス(2.2%) 無回答(5.8%) |

(全員の方に) <回答者数: 138>

問 16 供給不足以外に必要なサービスが提供(調整)出来ないのはどのような場合ですか。  
(○は1つ)

- |                     |                            |
|---------------------|----------------------------|
| 1. 心身の状況(6.5%)      | 2. 経済的事情により費用負担が困難(42.0%)  |
| 3. 支給限度額を超える(14.5%) | 4. 介護保険制度の給付では対応できない(8.7%) |
| 5. その他(4.3%)        | 無回答(23.9%)                 |

(全員の方に) <回答者数: 138>

問 17 介護保険サービスは、家族の介護負担軽減につながっていると思いますか。(○は1つ)

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 十分につながっている(15.9%) | 2. ある程度つながっている(79.0%) |
| 3. あまりつながっていない(5.1%) | 4. 全くつながっていない(0.0%)   |
| 5. わからない(0.0%)       | 無回答(0.0%)             |

(全員の方に) <回答者数: 138>

問 18 家庭生活を維持するために役立つと思う生活支援事業は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                |                |              |
|------------------|----------------|----------------|--------------|
| 1. 配食サービス(71.0%) | 2. 買い物(73.9%)  | 3. 通院(69.6%)   | 4. 掃除(55.1%) |
| 5. 洗濯(50.7%)     | 6. ゴミ出し(63.0%) | 7. 安否確認(71.0%) | 8. 入浴(47.8%) |
| 無回答(0.0%)        |                |                |              |

(全員の方に) <回答者数: 138>

問 19 生活に張りを持ってもらうために効果的なものは何だと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 町内会・自治会等の活動(35.5%)      | 2. ボランティア活動(26.1%) |
| 3. 運動スポーツ関係の活動(29.7%)      | 4. 趣味関係の活動(76.8%)  |
| 5. 家族や友人とのコミュニケーション(83.3%) | 6. その他(7.2%)       |
| 無回答(0.7%)                  |                    |

(全員の方に)

問 20 ケアマネジメントを行う際に工夫していることがありましたら、ご自由にお書きください。


(全員の方に) <回答者数：138>

問 21 要介護者等が住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるため、近隣や地域の人々からどのような支援や手助けがあったらよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 話し相手(81.9%)	2. 認知症高齢者の見守り(81.2%)
3. 散歩の付き添い(50.0%)	4. 電球の交換や家具等の簡易な修理(61.6%)
5. 日常生活以外の特別な買い物(39.1%)	6. 大掃除の手伝い(23.9%)
7. ペットの世話(29.0%)	8. 緊急時の連絡(54.3%)
9. 庭の手入れや趣味の手伝い(43.5%)	10. おかずの差し入れなど(25.4%)
11. 配食サービス(33.3%)	12. その他(5.1%)
	無回答(0.0%)

## 《連携について》

(全員の方に) <回答者数：138>

問 22 地域包括支援センターとの連携は取れていますか。(○は1つ)

1. 十分連携が取れている(24.6%)	2. ある程度連携が取れている(66.7%)
3. うまく連携が取れていない(5.8%)	4. どちらともいえない(2.9%)
	無回答(0.0%)

(全員の方に) <回答者数：138>

問 23 信頼できる地域包括支援センターはありますか。(○は1つ)

1. ある(70.3%)	2. ない(5.1%)	3. どちらともいえない(23.2%)	4. わからない(0.7%)	無回答(0.7%)
--------------	-------------	---------------------	----------------	-----------

(全員の方に) <回答者数：138>

問 24 主治医(かかりつけ医)との連携は取れていますか。(○は1つ)

1. 十分連携が取れている(47.8%)	
2. 主治医が忙しくなかなか時間をとってもらえない(26.1%)	
3. 複数の医療機関にかかっており、主治医を特定できない(8.0%)	
4. 主治医といえるようなかかりつけの医師がいない(0.7%)	
5. その他(16.7%)	無回答(0.7%)

(全員の方に) <回答者数：138>

問 25 在宅医療を進めるうえで、不足する医療資源は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 訪問診療する医師(19.6%)	2. 訪問看護師(8.0%)
3. 訪問歯科診療(5.1%)	4. 訪問薬剤師(5.8%)
5. 訪問リハビリ(23.9%)	6. その他(30.4%)
	無回答(24.6%)

(全員の方に) <回答者数：138>

問 26 障害者施策を利用できる利用者について、区の障害者施策の相談窓口とのサービス調整等の連携が取れていますか。(○は1つ)

- |                              |                        |
|------------------------------|------------------------|
| 1. 連携が取れている(8.0%)            | 2. ある程度連携が取れている(26.8%) |
| 3. うまく連携が取れていない(20.3%)       | 4. どちらともいえない(22.5%)    |
| 5. 障害者施策を利用できる利用者はいない(16.7%) | 6. その他(2.9%) 無回答(2.9%) |

(全員の方に) <回答者数：138>

問 27 サービス担当者会議を開催する上での問題点は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| 1. 関係者が忙しくてなかなか時間がとれない(57.2%) |           |
| 2. 関係機関・主治医からの情報が得られない(29.0%) |           |
| 3. 関係者に理解がなく、出席が得られない(2.2%)   |           |
| 4. 会議をどのように運営してよいかわからない(3.6%) |           |
| 5. 適当な会場がない(6.5%)             |           |
| 6. その他(30.4%)                 | 無回答(8.0%) |

## 《困難な事例への対応について》

(全員の方に) <回答者数：138>

問 28 ケアマネジメントを行う際に、特に対応に苦慮するケースはどのようなケースですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                       |                           |
|---------------------------------------|---------------------------|
| 1. 身寄りがいない(72.5%)                     | 2. キーパーソンがいない(64.5%)      |
| 3. 家族が協力的でない(63.8%)                   | 4. 認知症のため自分で判断できない(42.8%) |
| 5. 要介護者と家族の考えが異なる(54.3%)              |                           |
| 6. 要介護者や家族から提案したケアプランに同意が得られない(10.1%) |                           |
| 7. 費用負担の面で、適切なケアプランが作成できない(42.8%)     |                           |
| 8. 介護保険の利用限度額ではサービスが足りない(42.0%)       |                           |
| 9. その他(10.1%)                         | 無回答(0.7%)                 |

(全員の方に) <回答者数：138>

問 29 あなたは、要介護者等や家族からの相談を十分に受け止め、対応できていますか。  
(○は1つ)

1. 十分対応できている(8.0%)	2. ある程度対応できている(78.3%)
3. 十分対応できないこともある(12.3%)	無回答(1.4%)
↓	
【3に○をつけた方に】対応できない具体的な内容をあげてください。 ( )	

(全員の方に) <回答者数：138>

問 30 要介護者等や家族からの相談への対応に苦慮した場合、どこへ相談しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 同僚や上司(78.3%)	2. 主任ケアマネジャー(23.2%)
3. 地域包括支援センター(74.6%)	4. すこやか福祉センター(保健師)(6.5%)
5. 主治医(29.0%)	6. 東京都のケアマネジャー相談窓口(0.0%)
7. 区役所(すこやか福祉センターを除く)の担当窓口(15.9%)	
8. その他(4.3%)	
9. 相談するところがない(3.6%)	無回答(0.0%)

(全員の方に) <回答者数：138>

問 31 ケアマネジャーに従事して以来、高齢者等に対する虐待が疑われるようなケースを発見したり相談を受けたりしたことがどのくらいありますか。(○は1つ)

1. 0件(11.6%)	2. 1件~9件(82.6%)	3. 10件~19件(4.3%)	4. 20件以上(1.4%)	無回答(0.0%)
--------------	-----------------	------------------	----------------	-----------

(全員の方に) <回答者数：138>

問 32 高齢者虐待対応について強化すべきと思うことは何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 地域包括支援センターとの連携(72.5%)	2. すこやか福祉センター(保健師)との連携(43.5%)
3. 緊急一時保護の充実(62.3%)	4. 虐待防止ネットワークの充実(29.0%)
5. 虐待対応マニュアルの周知(21.0%)	6. 具体的な対応や支援の方法等の研修(32.6%)
7. 区民・関係機関・団体等への周知・啓発(26.8%)	
8. その他(6.5%)	無回答(2.2%)

---



---

《介護予防について》

---



---

(全員の方に) <回答者数: 138>

問 33 区が介護予防事業として充実すべきと思われる事業を選んでください。

(○は主なもの3つまで)

1. 転倒予防教室(64.5%)	2. 口腔ケア教室(23.2%)	
3. 腰痛・膝痛予防体操教室(33.3%)	4. 骨盤底筋力向上教室(8.0%)	
5. 栄養改善教室(35.5%)		
6. 高齢者会館での健康づくり・生きがいづくり事業(66.7%)		
7. 介護予防講演会(5.1%)		
8. 認知症予防教室(35.5%)		
9. その他(8.0%)		無回答(0.7%)

---



---

《成年後見制度について》

---



---

(全員の方に) <回答者数: 138>

問 34 あなたの担当する認知症日常生活自立度Ⅱ以上の人で成年後見制度が必要と思われるが使っていない人は何名いますか。(○は1つ)

1. 0名(35.5%)	2. 1名(26.8%)	3. 2名(21.7%)	
4. 3名(7.2%)	5. 4名(1.4%)	6. 5名以上(5.8%)	無回答(1.4%)

(全員の方に) <回答者数: 138>

問 35 成年後見制度を活用する上での課題は何だと思えますか。(○は1つ)

1. 課題はない(10.1%)	2. 制度がわかりにくい(42.0%)	
3. 制度が使いにくい(31.2%)	4. その他(16.7%)	無回答(0.0%)

## 《認知症に関する課題について》

(全員の方に) <回答者数：138>

問 36 区は認知症の方を抱える家族を支援するために、認知症の方の特性や具体的な介護の仕方などについて学ぶ「認知症に関する家族介護教室」を開催していますが、あなたは家族に参加をすすめたことがありますか。(○は1つ)

- |                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. すすめたことがある(68.1%)                 |           |
| 2. すすめたことはないが、開催していることは知っている(28.3%) |           |
| 3. 開催していることを知らなかった(2.2%)            | 無回答(1.4%) |

↓  
【3に○をつけた方に】 広く周知されるには、どのような方法が必要だと思いますか。  
( )

(全員の方に) <回答者数：138>

問 37 認知症高齢者に関してどのような施策が特に必要だと考えますか。  
(○は主なもの3つまで)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 地域における認知症に関する理解の促進(49.3%)                                 |           |
| 2. 地域での見守りネットワークの整備(52.2%)                                   |           |
| 3. 家族への悩みの相談等の支援(58.0%)                                      |           |
| 4. 家族会開催への支援(15.2%)  |           |
| 5. 認知症ケアに関する介護スタッフの研修の充実(12.3%)                              |           |
| 6. 認知症の早期発見・診断のための相談の場の充実(33.3%)                             |           |
| 7. 認知症に関する専門医や専門家の支援・養成(20.3%)                               |           |
| 8. 成年後見など権利擁護事業の充実(17.4%)                                    |           |
| 9. 認知症対応型通所介護(介護予防含む)や認知症対応型共同生活介護(グループホーム)等サービス基盤の充実(15.2%) |           |
| 10. その他(5.8%)  | 無回答(1.4%) |



## 《人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）について》

※人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）とは、要介護者等の将来の変化に備えて、これまで大切にしてきたことや、これから誰とどのように過ごしたいか、希望する医療や介護のことなどについて、要介護者等および家族や大切な人、医療・介護関係者とあらかじめ考え、繰り返し話し合い、要介護者等の決定をサポートするプロセスです。平成30年度、厚生労働省はACPの愛称を「人生会議」と決め普及・啓発を行っています。

（全員の方に）＜回答者数：138＞

問 38 あなたはこれまでに見たり聞いたりして、「人生会議（ACP）」という言葉や意味を知っていましたか。（○は1つ）

- |   |           |
|---|-----------|
| 1. 人生会議（ACP）の意味も含めて知っていた(71.0%)           |           |
| 2. 人生会議（ACP）があることは知っていたが、意味は知らなかった(13.8%) |           |
| 3. 知らなかった(13.8%)                          | 無回答(1.4%) |

（問 38 において「1」「2」に○をつけた方に）＜回答者数：117＞

問 39 人生会議（ACP）を活用した支援を行った経験がありますか。（○は1つ）

- |                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. 支援したことがある(35.9%)                 |           |
| 2. 必要なケースがいたが、支援していない(17.1%)        |           |
| 3. 必要なケースがおらず、支援していない(33.3%)        |           |
| 4. 人生会議（ACP）について知識がなく、支援していない(9.4%) | 無回答(4.3%) |

（問 38 において「1」「2」に○をつけた方に）＜回答者数：117＞

問 40 人生会議（ACP）を実践する上で難しいと思う点は何ですか。  
（あてはまるものすべてに○）

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 本人や家族の人生会議（ACP）についての理解が不足している(59.0%)          |           |
| 2. 支援者の人生会議（ACP）についての理解が不足している(33.3%)            |           |
| 3. 主治医の人生会議（ACP）についての理解が不足している(13.7%)            |           |
| 4. 支援経過の中で人生会議（ACP）を行うタイミングをつかめない(44.4%)         |           |
| 5. 人生会議（ACP）を行うための本人や家族との信頼関係を作れない(13.7%)        |           |
| 6. 業務が多忙なため人生会議（ACP）の開催に注力できない(23.1%)            |           |
| 7. 人生会議（ACP）を行うための出席者（本人、家族、支援者）の調整が煩雑である(23.1%) |           |
| 8. 特にない(4.3%)                                    |           |
| 9. その他(8.5%)                                     | 無回答(7.7%) |

## 《その他》

(全員の方に) <回答者数：138>

問 41 要介護者等について、どのような点が充実すれば居宅や地域での生活を続けることができると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                |           |
|--------------------------------|-----------|
| 1. 訪問介護等介護サービスの充実(42.0%)       |           |
| 2. 24時間の緊急時に即応できる体制の整備(72.5%)  |           |
| 3. 区内での短期入所生活介護施設の充実(44.9%)    |           |
| 4. 高齢者見守りネットワークの整備(46.4%)      |           |
| 5. 住宅改修の対象拡大(2.9%)             |           |
| 6. 高齢者用住宅の増加(35.5%)            |           |
| 7. 在宅医療(往診体制)の充実(14.5%)        |           |
| 8. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護等の充実(39.1%) |           |
| 9. 小規模多機能型居宅介護等の充実(17.4%)      |           |
| 10. その他(10.1%)                 | 無回答(0.7%) |

(全員の方に) <回答者数：138>

問 42 業務遂行上、困っていることはどのようなことですか。(○は主なもの3つまで)

- |                                      |                          |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1. 担当件数が多い(14.5%)                    | 2. 担当する利用者の地域範囲が広い(6.5%) |
| 3. 困難なケースへの対応(45.7%)                 | 4. 苦情への対応(3.6%)          |
| 5. 相談相手・スーパーバイザー等、助言者がいない(4.3%)      |                          |
| 6. 事業所内のミーティングの時間がとりにくい(3.6%)        |                          |
| 7. サービス担当者会議がなかなか開けない(2.9%)          |                          |
| 8. 制度が頻繁に変わり、対応に時間と労力がかかる(44.2%)     |                          |
| 9. 地域の医療や介護サービスについての情報が得られない(2.9%)   |                          |
| 10. ケアマネジャー業務の範囲が明確でない(40.6%)        |                          |
| 11. 文書の作成等事務処理に追われる(72.5%)           |                          |
| 12. 規定が細かくケアマネジャーとしての裁量の余地がない(13.8%) |                          |
| 13. 特に困っていることはない(3.6%)               |                          |
| 14. その他(5.8%)                        | 無回答(0.7%)                |

(全員の方に) <回答者数：138>

問 43 小規模多機能型居宅介護サービスの活用しづらさはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| 1. ケアマネジャーを切り替えなければならない(55.1%)   |           |
| 2. サービスの知名度が低い(24.6%)            |           |
| 3. 利用できる施設が足りない(36.2%)           |           |
| 4. パッケージサービスとなるため利用に不安がある(37.7%) |           |
| 5. 利用を希望する方が少ない(22.5%)           |           |
| 6. その他(15.2%)                    | 無回答(1.4%) |

(全員の方に)

問 44 介護保険制度に関してご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。


ご協力ありがとうございました



令和4年度（2022年度）  
高齢福祉・介護保険サービス意向調査  
報告書

発行日／令和5年（2023年）3月

印刷登録番号／4中健福第3248号

発行／中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係

中野区地域支えあい推進部 介護・高齢者支援課 管理企画係

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電話 03-3228-5629（直通）

編集分析／株式会社アイアールエス

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-1-3 第1富澤ビル7F

電話 03-3357-7181（代表）

令和4年度（2022年度）  
障害福祉サービス意向調査  
報告書

令和5年（2023年）3月  
中野区



## はじめに

平成 24 年 6 月、障害者総合支援法（障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律）が制定され、制度の谷間を埋めるため難病患者等を障害福祉サービスの対象に加えるとともに、障害支援区分が創設されました。

本調査は、令和 3 年 3 月に策定した中野区障害者計画、第 6 期中野区障害福祉計画及び第 2 期障害児福祉計画が改定時期を迎え、次期計画を策定するにあたり、障害者の健康福祉サービスの利用実態や今後の利用意向を把握するために実施したものです。

この調査結果は計画改定の基礎資料として、また、区の障害福祉施策を改善・充実させるための検討材料として活用させていただきます。

ここに、本調査にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

令和 5 年（2023 年）3 月  
中野区健康福祉部





# 目次

## I 調査の概要

1. 調査の目的 .....	3
2. 調査の項目 .....	3
3. 調査の設計 .....	4
4. 報告書を読む際の留意点.....	4

## II 調査結果の分析

### 障害者調査

1. 回答者の属性 .....	9
1.1. アンケートの回答者.....	9
1.2. 性別 .....	9
1.3. 年齢 .....	10
1.4. 身体障害者手帳の等級.....	11
1.5. 愛の手帳の度数.....	11
1.6. 精神障害者保健福祉手帳の等級.....	11
1.7. 身体障害者手帳に記載された障害名.....	12
1.8. 精神障害の診断名.....	12
1.9. 障害支援区分認定.....	13
1.10. 要支援・要介護認定.....	14
1.11. 家族構成 .....	14
1.12. 所持手帳別アンケート回答者.....	15
1.13. 所持手帳別年齢.....	16
2. 住まいについて .....	17
2.1. 住居形態 .....	17
2.2. 住宅で困っていることの有無.....	19
2.2.1. 住宅で困っていること.....	20
2.3. 将来、生活したいところ.....	22
2.4. 災害への不安の有無.....	24
2.4.1. 災害に関して不安を感じていること.....	25
3. 日常生活の介護や支援について.....	27
3.1. 日常生活での介助の必要性の有無.....	27
3.1.1. 日常生活で介助を必要とすること.....	28
3.1.2. 主な介助者.....	30

3.1.3. 主な介助者を除く日常的な介助者.....	32
3.2. 主な介助者が介助困難になった場合の対処.....	33
3.3. 平日の日中の過ごし方.....	35
4. 外出状況について.....	37
4.1. 外出の頻度 .....	37
4.2. 外出の主な目的.....	39
4.3. 外出する上での妨げの有無.....	41
4.3.1. 外出する上で妨げになっていること.....	42
4.4. 外出の際の主な交通手段.....	44
5. 働くことについて.....	46
5.1. 就労による定期的な収入の有無.....	46
5.1.1. 現在の就労形態.....	48
5.1.2. 仕事を見つけた方法.....	50
5.1.3. 仕事や職場への不安や不満の有無.....	52
5.1.3.1. 仕事や職場への不安や不満.....	55
5.2. 希望する働き方.....	59
5.3. 障害者が働くための環境整備.....	62
6. 健康福祉サービスについて.....	65
6.1. 相談サービスの利用有無.....	65
6.1.1. 利用した相談サービス.....	66
6.2. 障害福祉サービス.....	68
6.2.1. 障害福祉サービスの利用状況.....	68
6.2.2. 障害福祉サービスの利用意向.....	70
6.2.3. サービス等利用計画について不満に思うこと.....	72
6.2.4. 障害福祉サービスを利用していない理由.....	74
6.3. 障害者に対する理解.....	76
6.4. ヘルプマークの認知度.....	78
6.5. 充実して欲しい施策.....	80
6.6. 障害者差別解消法の認知度.....	82
6.7. 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと.....	83
6.8. 障害への配慮で特に嬉しいと感じたこと.....	85
7. 自由回答 .....	88
7.1. 日常生活で困っていること.....	88
7.2. 健康福祉行政全体への意見・要望.....	91
<b>施設入所者調査</b>	
1. 回答者の属性 .....	97

1.1. アンケートの回答者.....	97
1.2. 性別 .....	97
1.3. 年齢 .....	97
1.4. 身体障害者手帳の等級.....	98
1.5. 愛の手帳の度数.....	98
1.6. 身体障害者手帳に記載された障害名.....	98
1.7. 障害支援区分.....	99
1.8. 入所施設の種類.....	99
2. 入所について .....	100
2.1. 入所年数 .....	100
2.2. 入所理由 .....	101
2.3. 施設の種類 .....	102
3. 今後の生活について.....	103
3.1. 生活したい場所.....	103
3.2. 施設退所後の生活.....	105
3.2.1. 施設退所後に住みたい場所.....	107
4. 自由回答 .....	109
4.1. 健康福祉行政全体への意見・要望.....	109
<b>発達支援等調査</b>	
1. 回答者の属性 .....	113
1.1. アンケートの回答者.....	113
1.2. 性別 .....	113
1.3. 年齢 .....	113
1.4. 身体障害者手帳の等級.....	114
1.5. 愛の手帳の度数.....	114
1.6. 精神障害者保健福祉手帳の等級.....	114
1.7. 身体障害者手帳に記載された障害名.....	115
1.8. 診断に関する事で気がついた年齢.....	115
1.9. 家族構成 .....	116
1.9.1. 兄弟姉妹の人数.....	116
1.10. 所持手帳別年齢.....	116
2. 医療的ケア等について.....	117
2.1. 医療的ケアの必要性.....	117
2.1.1. 医療的ケアの内容.....	119
2.1.2. 身体能力について.....	121
2.2. サービス等の利用状況.....	122

2.2.1. これまで利用できなかったサービス等の有無.....	126
2.2.2. 利用できなかったサービス等.....	127
3. 児童福祉法のサービスについて.....	129
3.1. 児童発達支援の認知度.....	129
3.2. 児童発達支援の利用状況.....	131
3.2.1. 利用している児童発達支援事業所数.....	133
3.2.2. 児童発達支援事業所に通う日数.....	135
3.2.3. 児童発達支援を希望する利用日数.....	136
3.3. 児童発達支援の利用意向.....	137
3.3.1. 児童発達支援を利用したくない理由.....	139
3.4. 居宅訪問型児童発達支援の利用意向.....	140
3.4.1. 利用したい日数.....	141
3.5. 放課後等デイサービスの認知度.....	142
3.6. 放課後等デイサービスの利用状況.....	144
3.6.1. 利用している放課後等デイサービス事業所数.....	146
3.6.2. 放課後等デイサービス事業所に通う日数.....	148
3.6.3. 放課後等デイサービス事業所を希望する利用日数.....	149
3.7. 放課後等デイサービスの利用意向.....	150
3.7.1. 放課後等デイサービスを利用したくない理由.....	152
3.8. 区外の事業所を利用している理由.....	153
3.9. 保育所等訪問支援の認知度.....	154
3.10. 保育所等訪問支援の利用意向.....	156
3.10.1. 保育所等訪問支援の希望利用日数.....	158
3.11. 障害児相談支援の認知度.....	159
3.12. 障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用状況.....	161
3.13. 障害児相談支援事業所の利用希望.....	163
3.14. 障害児相談支援の利用意向.....	165
3.15. 障害児に対する地域の理解.....	167
3.16. 充実してほしい施策・サービス.....	169
4. 自由回答.....	170
4.1. 日常生活で困っていること.....	170
4.2. 健康福祉行政全体への意見・要望.....	176

### Ⅲ 調査票と単純集計

# I 調査の概要



## 1. 調査の目的

障害者の健康福祉サービスの利用実態や今後の利用意向を把握することを目的とする。

## 2. 調査の項目

### ① 障害者調査

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 住まいについて
- (3) 日常生活の介護や支援について
- (4) 外出状況について
- (5) 働くことについて
- (6) 健康福祉サービスについて
- (7) 自由回答

### ② 施設入所者調査

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 入所について
- (3) 今後の生活について
- (4) 自由回答

### ③ 発達支援等調査

- (1) 調査回答者の属性
- (2) 医療的ケア等について
- (3) 児童福祉法のサービスについて
- (4) 自由回答



### 3. 調査の設計

調査は、以下の①～③について、郵送による配布・回収の方法で行った。

#### ① 障害者調査

- ・調査対象：基準日（令和4年8月1日）時点で、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している区民、及び難病等により障害福祉サービスを利用する区民。ただし、施設入所支援の利用者を除く。
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：1,500人
- ・有効回収数：673人（回収率44.9%）
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査期間：令和4年9月20日～10月11日

#### ② 施設入所者調査

- ・調査対象：身体障害者手帳、愛の手帳を所持している障害者のうち、基準日（令和4年8月1日）時点で、施設入所支援を利用している中野区の給付対象者。
- ・調査地域：日本全域
- ・調査標本数：175人
- ・有効回収数：134人（回収率76.6%）
- ・調査期間：令和4年9月20日～10月11日

#### ③ 発達支援等調査

- ・調査対象：基準日（令和4年8月1日）時点で、0歳から18歳までの発達支援の対象児童、および身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を所持している児童。
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：650人
- ・有効回収数：341人（回収率52.5%）
- ・調査期間：令和4年9月20日～10月11日

### 4. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。
- クロス集計の表の中で、上段の数字は回答者数（単位：人）を、下段の数字は割合（単位：%）を表す。
- 所持手帳別の集計には、複数の手帳所持者も含まれている。

## Ⅱ 調査結果の分析



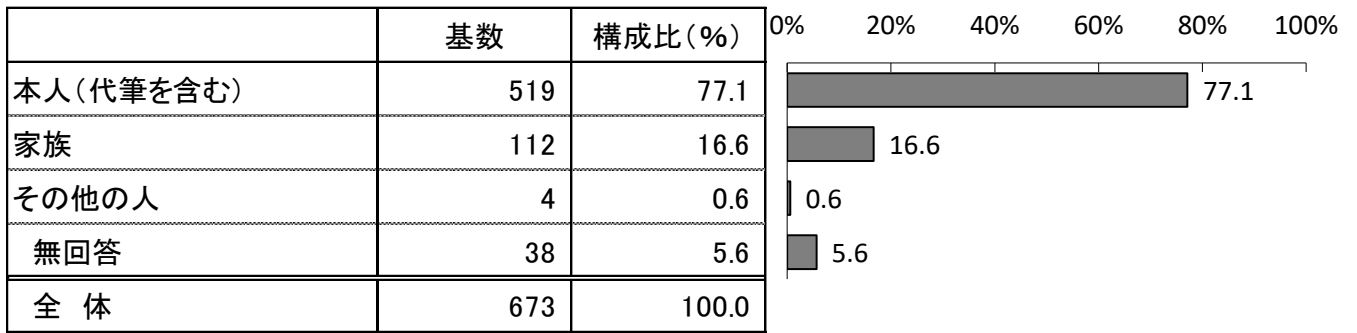
# 障害者調査

---

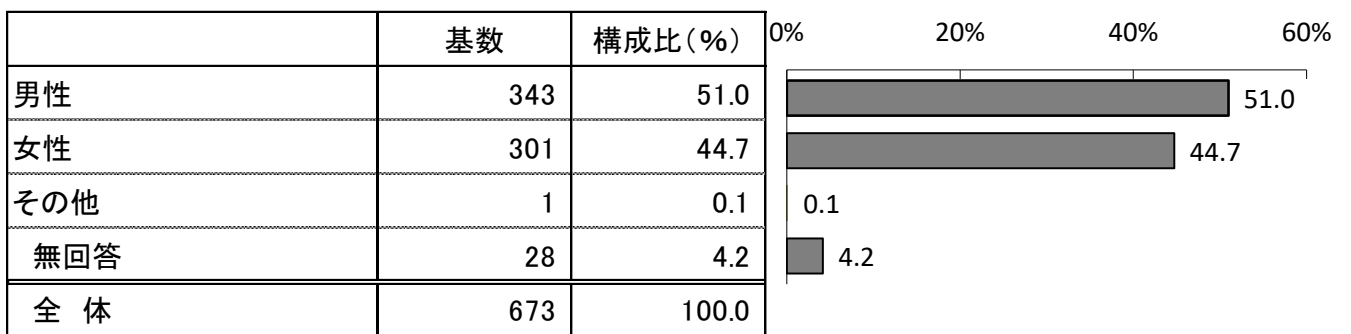


## 1. 回答者の属性

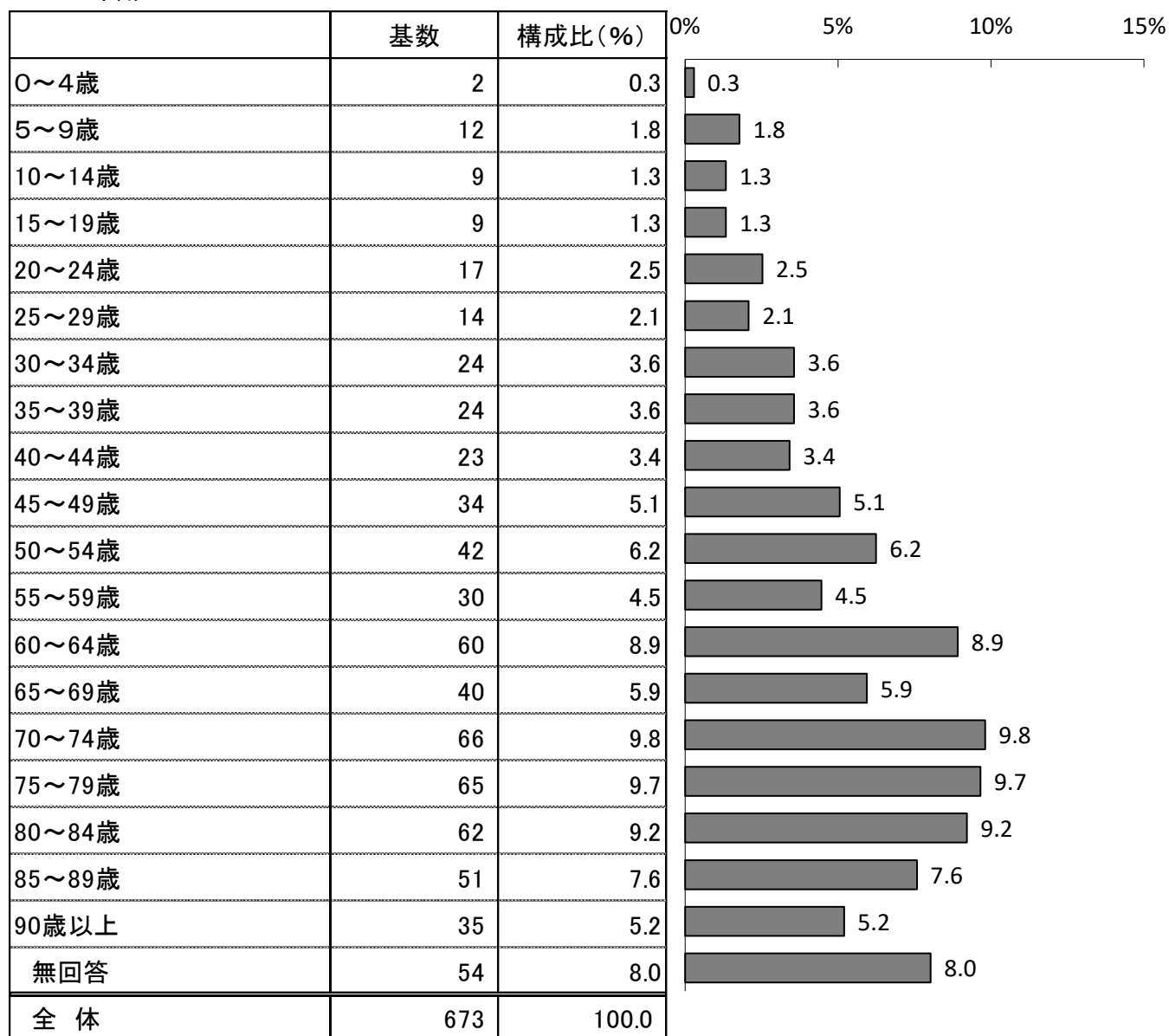
### 1.1. アンケートの回答者



### 1.2. 性別

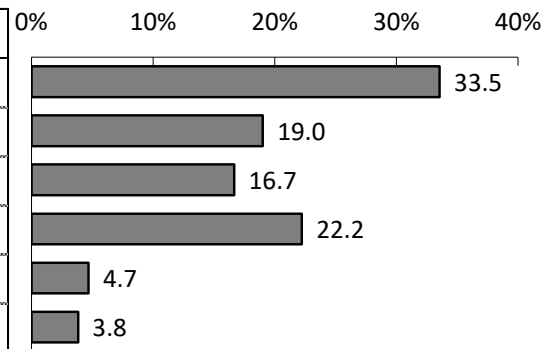


1.3. 年齢



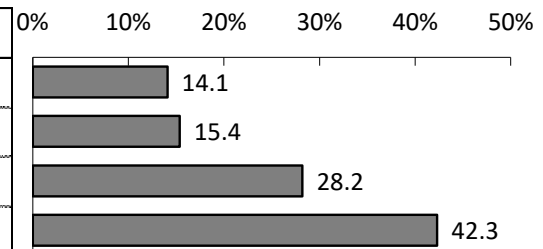
1.4. 身体障害者手帳の等級

	基数	構成比(%)
1級	157	33.5
2級	89	19.0
3級	78	16.7
4級	104	22.2
5級	22	4.7
6級	18	3.8
全 体	468	100.0



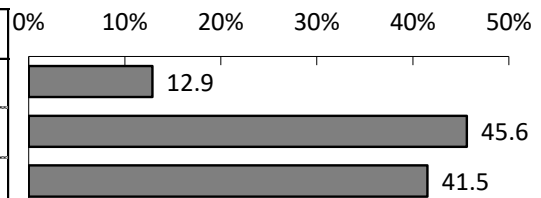
1.5. 愛の手帳の度数

	基数	構成比(%)
1度	11	14.1
2度	12	15.4
3度	22	28.2
4度	33	42.3
全 体	78	100.0



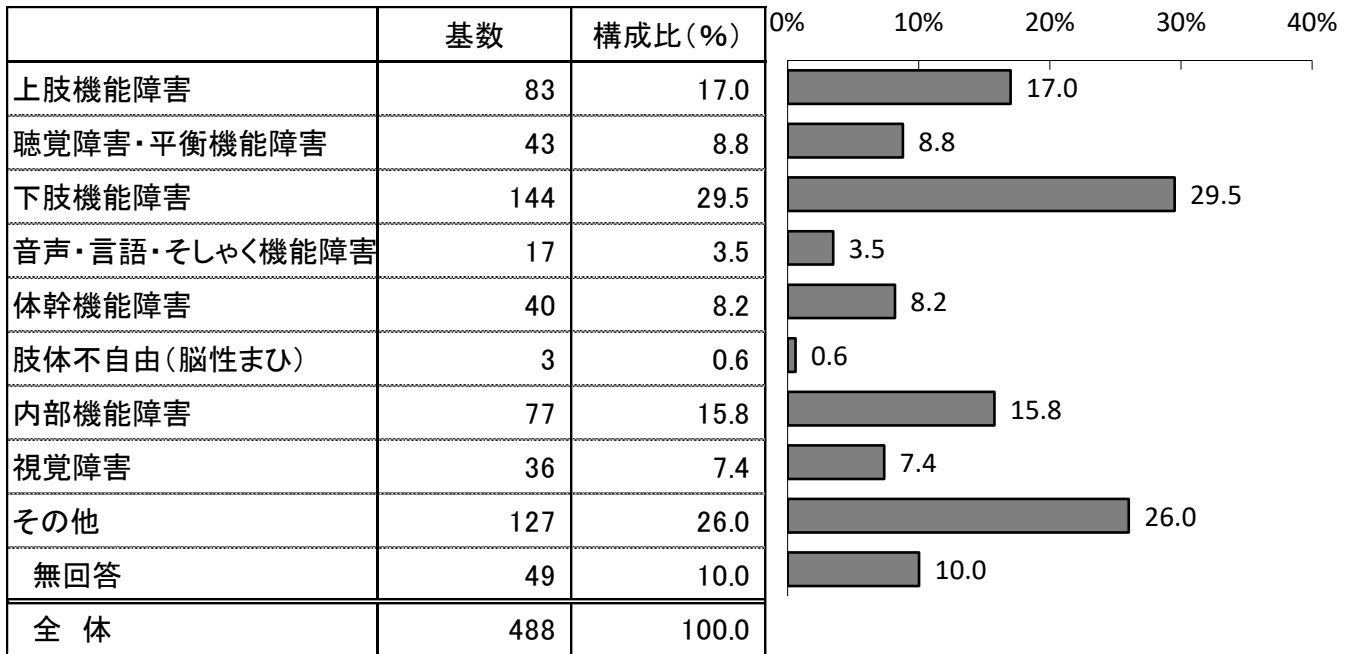
1.6. 精神障害者保健福祉手帳の等級

	基数	構成比(%)
1級	22	12.9
2級	78	45.6
3級	71	41.5
全 体	171	100.0

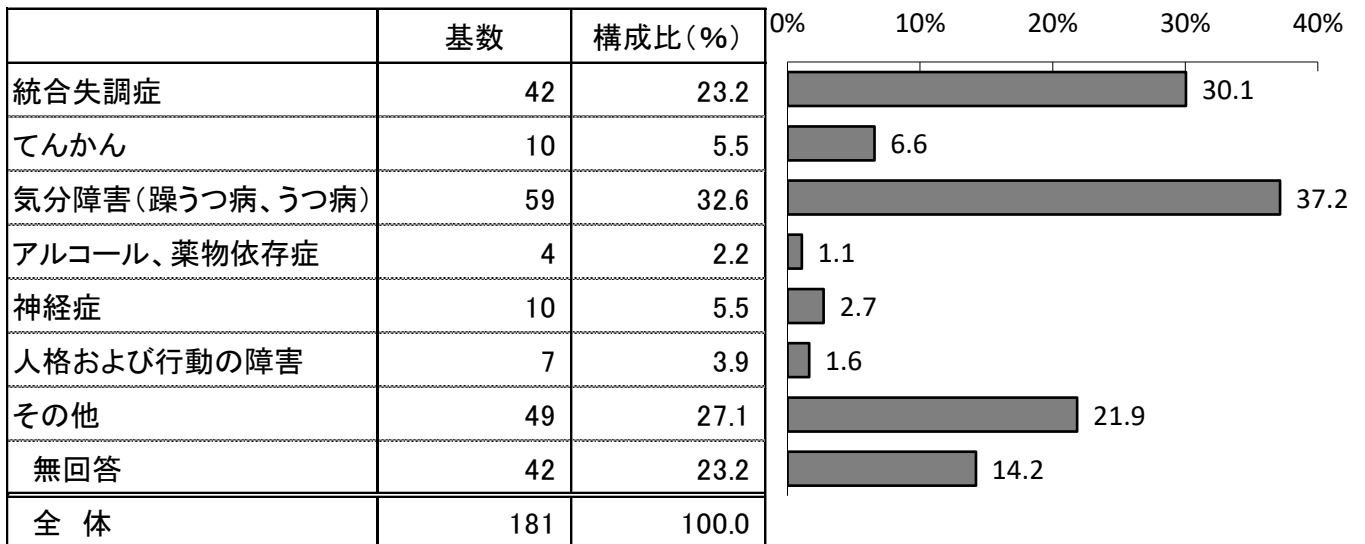




1.7. 身体障害者手帳に記載された障害名（複数回答）



1.8. 精神障害の診断名（複数回答）



1.9. 障害支援区分認定

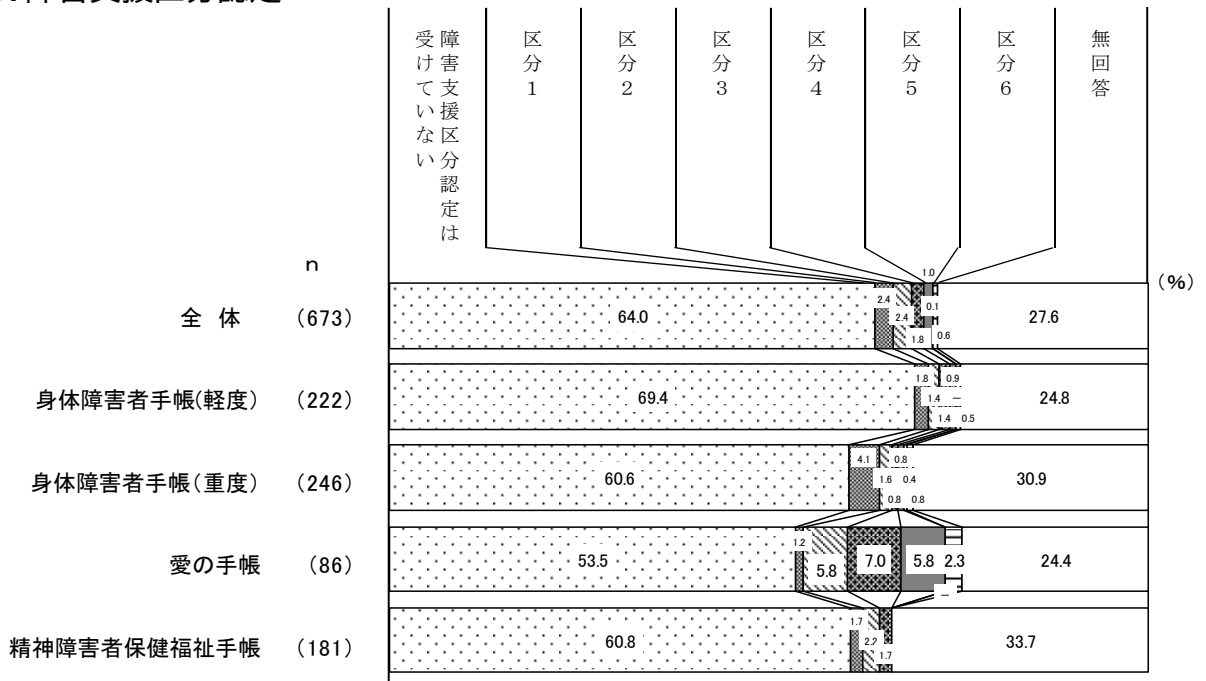
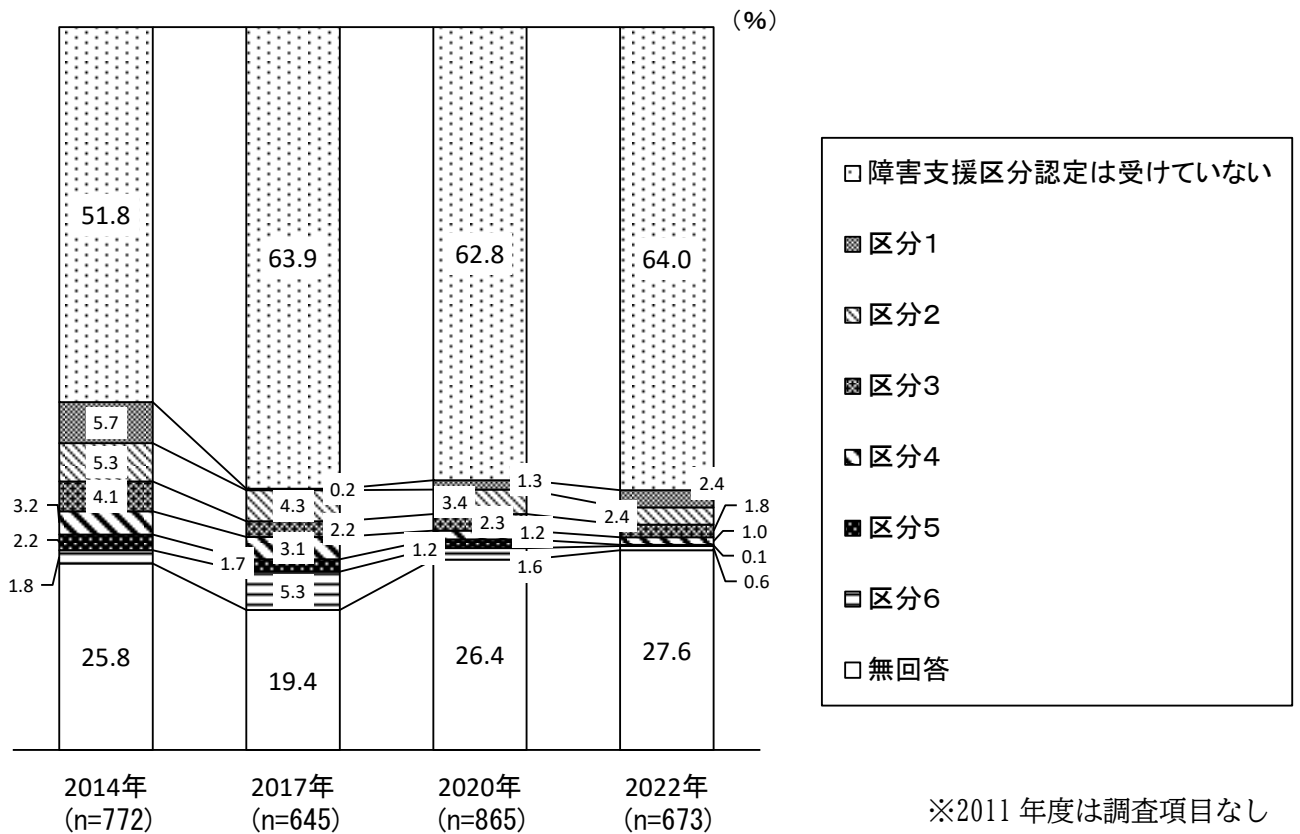
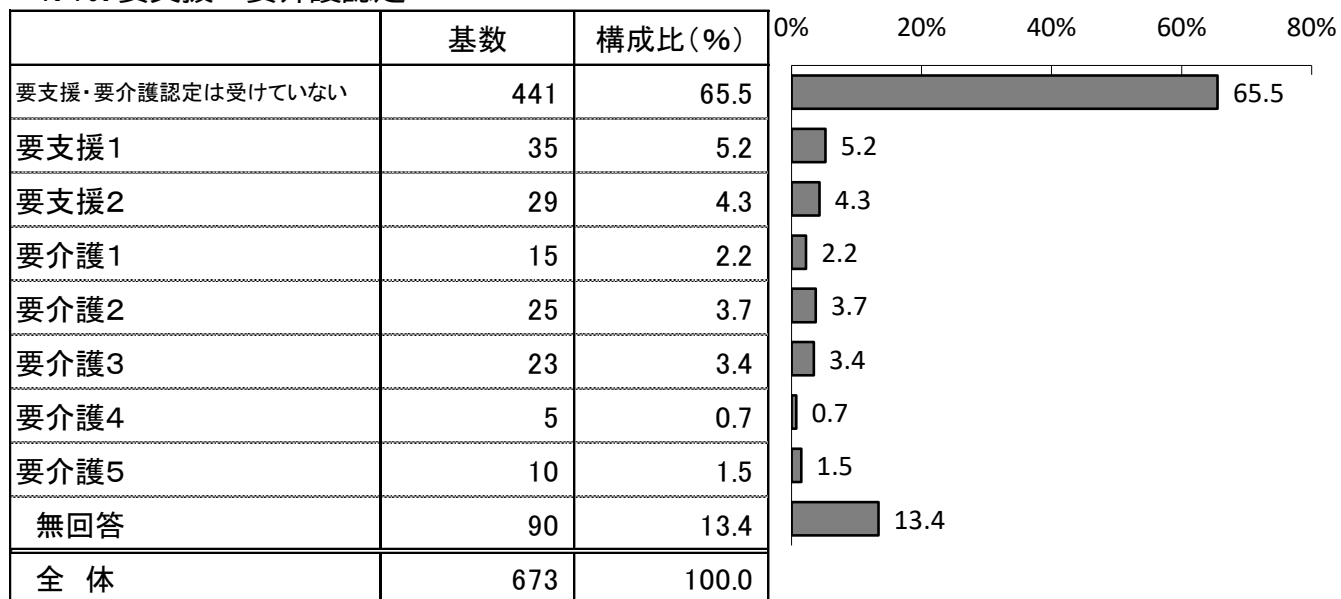


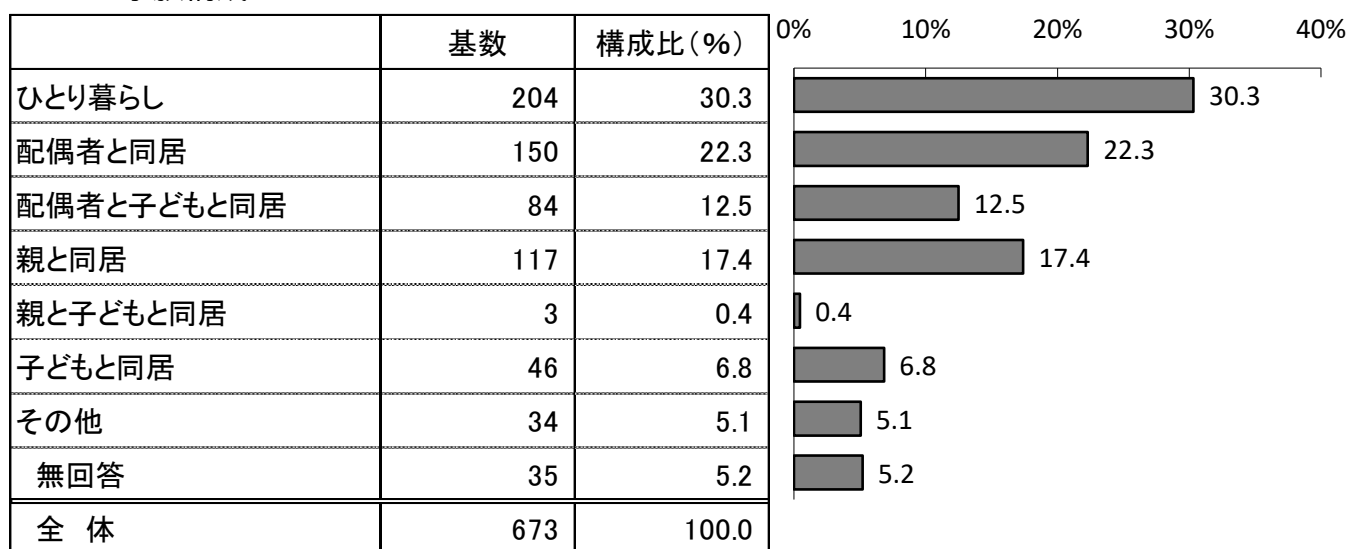
図1 【経年比較】障害支援区分認定



1.10. 要支援・要介護認定



1.11. 家族構成



1.12.所持手帳別アンケート回答者

①身体障害者手帳の等級別

	全体	1級	2級	3級	4級	5級	6級
全体	488	157	89	78	104	22	18
本人(代筆を含む)	388	120	63	69	93	19	16
家族	71	33	20	6	8	2	2
その他の人	3	0	3	0	0	0	0

※アンケート回答者は無回答があるため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

②愛の手帳の度数別

	全体	1度	2度	3度	4度
全体	86	11	12	22	33
本人(代筆を含む)	39	7	1	4	22
家族	41	3	11	16	11
その他の人	1	0	0	1	0

※アンケート回答者は無回答があるため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

③精神障害者保健福祉手帳の等級別

	全体	1級	2級	3級
全体	181	22	78	71
本人(代筆を含む)	143	14	61	62
家族	20	3	11	5
その他の人	1	0	1	0

※アンケート回答者は無回答があるため、内訳の合計数が全体の回答者数と一致しない。

1.13.所持手帳別年齢

上段：(人) 下段：(%)

	全体	0 ～ 4 歳	5 ～ 9 歳	10 ～ 14 歳	15 ～ 19 歳	20 ～ 24 歳	25 ～ 29 歳	30 ～ 34 歳	35 ～ 39 歳	40 ～ 44 歳	45 ～ 49 歳	50 ～ 54 歳
全体	673	2	12	9	9	17	14	24	24	23	34	42
	100.0	0.3	1.8	1.3	1.3	2.5	2.1	3.6	3.6	3.4	5.1	6.2
身体(軽度)	222	1	3	2	2	0	0	3	4	4	6	10
	100.0	0.5	1.4	0.9	0.9	0.0	0.0	1.4	1.8	1.8	2.7	4.5
身体(重度)	246	1	4	2	1	3	4	6	4	7	12	14
	100.0	0.4	1.6	0.8	0.4	1.2	1.6	2.4	1.6	2.8	4.9	5.7
愛の手帳	86	0	9	5	5	10	6	7	2	5	3	5
	100.0	0.0	10.5	5.8	5.8	11.6	7.0	8.1	2.3	5.8	3.5	5.8
精神障害者保健福祉手帳	181	0	0	0	2	6	7	11	15	13	15	18
	100.0	0.0	0.0	0.0	1.1	3.3	3.9	6.1	8.3	7.2	8.3	9.9

	全体	55 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 ～ 74 歳	75 ～ 79 歳	80 ～ 84 歳	85 ～ 89 歳	90 歳 以上	無 回 答	(生 産 年 齢 未 満 15 歳 以上 人口 )
全体	673	30	60	40	66	65	62	51	35	54	300
	100.0	4.5	8.9	5.9	9.8	9.7	9.2	7.6	5.2	8.0	44.6%
身体(軽度)	222	7	26	12	30	32	29	28	15	8	68
	100.0	3.2	11.7	5.4	13.5	14.4	13.1	12.6	6.8	3.6	30.6%
身体(重度)	246	11	17	24	32	31	26	20	17	10	86
	100.0	4.5	6.9	9.8	13.0	12.6	10.6	8.1	6.9	4.1	35.0%
愛の手帳	86	3	3	3	3	2	1	0	5	9	63
	100.0	3.5	3.5	3.5	3.5	2.3	1.2	0.0	5.8	10.5	73.3%
精神障害者保健福祉手帳	181	15	22	10	8	8	6	4	1	20	124
	100.0	8.3	12.2	5.5	4.4	4.4	3.3	2.2	0.6	11.0	68.5%

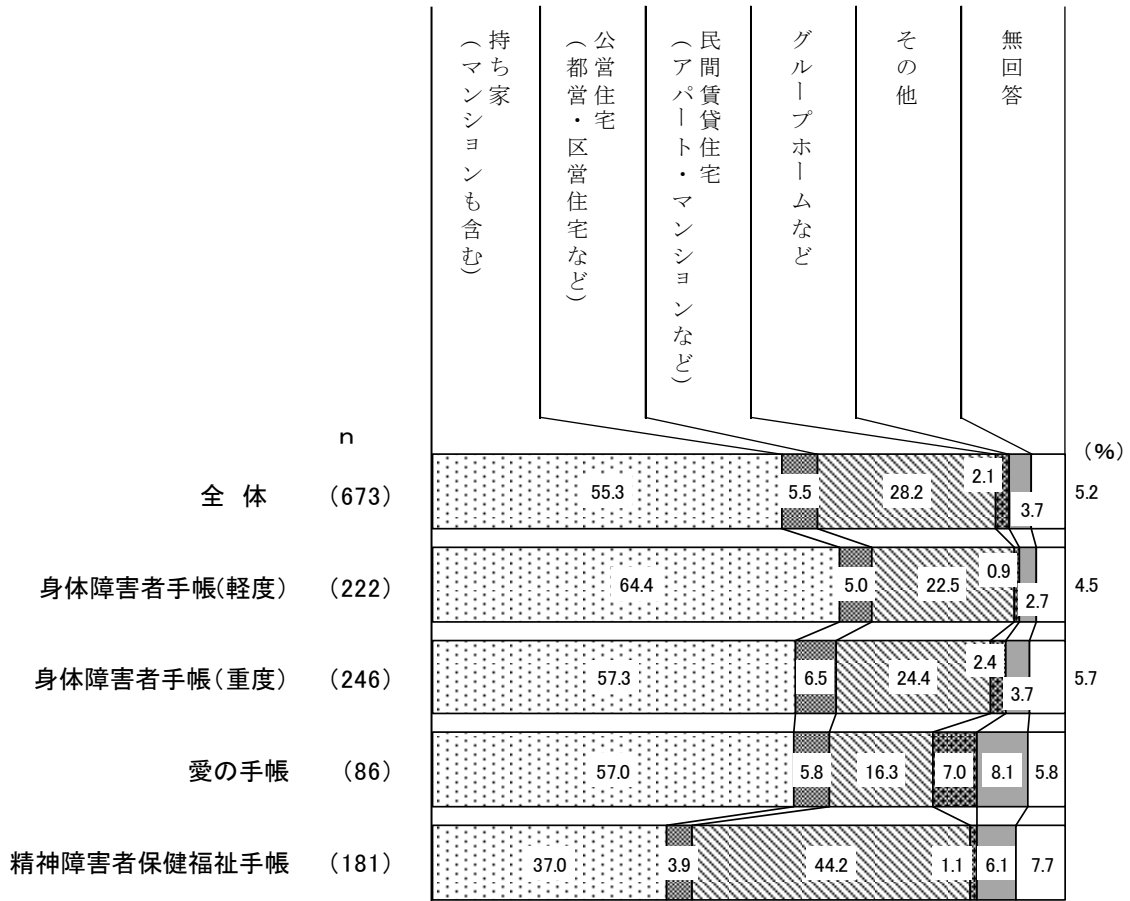
## 2. 住まいについて

### 2.1. 住居形態

#### ◆住居形態は「持ち家」が5割台半ば

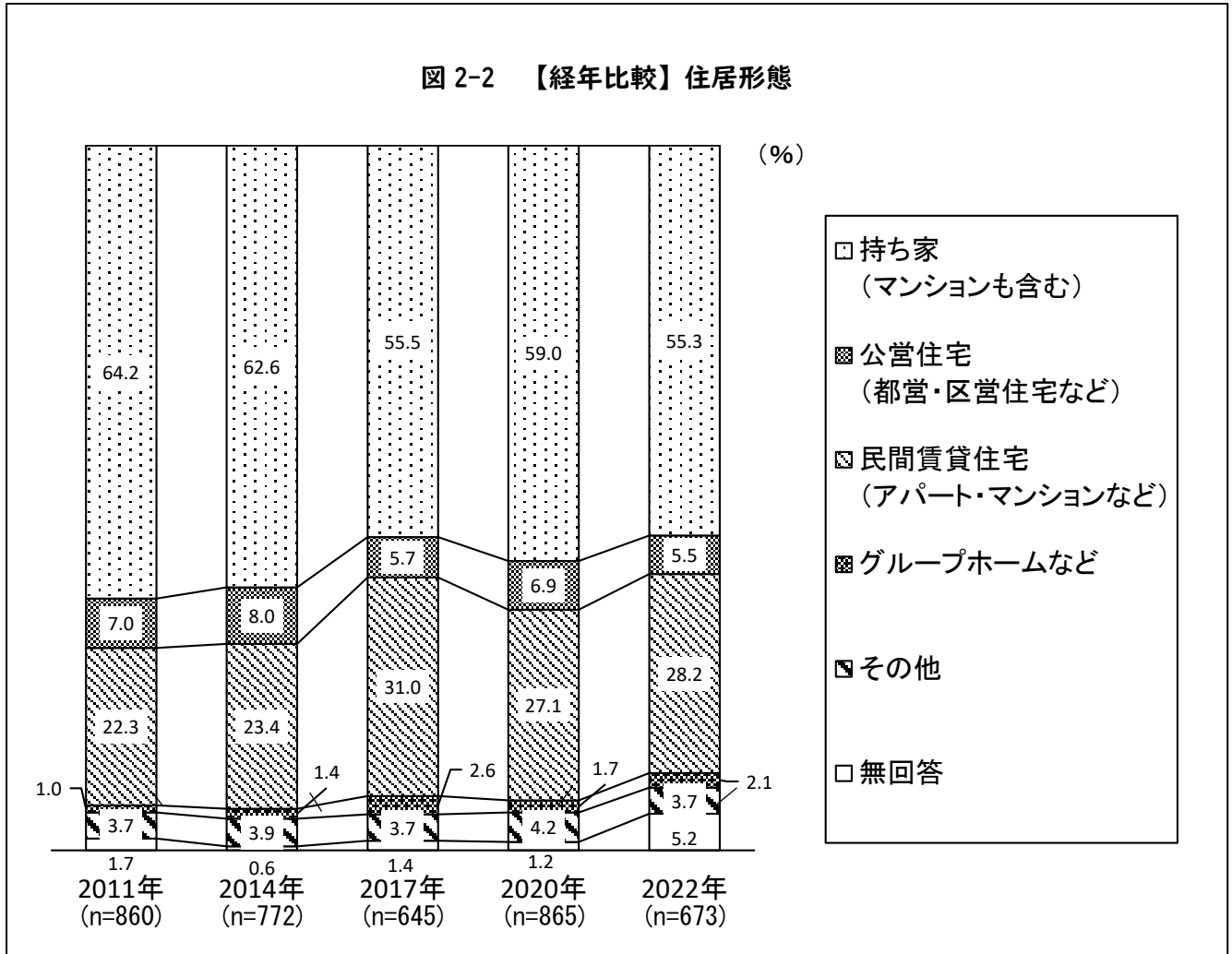
問7. あなた（あて名の方ご本人）のお住まいは次のどれにあたりますか。（○は1つ）

図2-1 【所持手帳別】住居形態



住居形態は、全体では「持ち家（マンションも含む）」が5割台半ばとなっている。所持手帳別で見ると、他に比べ、精神障害者保健福祉手帳所持者で「民間賃貸住宅（アパート・マンションなど）」が高くなっている。また、「グループホームなど」を住居としている人は愛の手帳所持者が7.0%と、他の手帳所持者と比べ比較的多くなっている。

図 2-2 【経年比較】住居形態



住居形態を経年比較で見ると、「持ち家」が減少している。

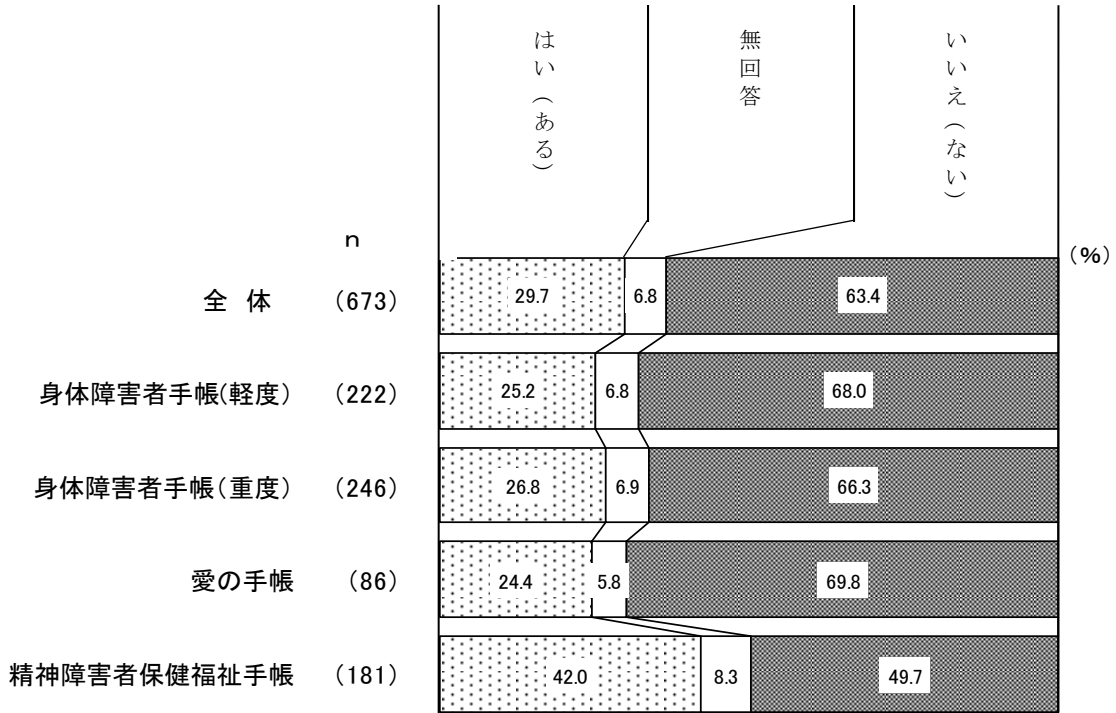
2.2. 住宅で困っていることの有無

◆住宅で困っていることが「ある」方は全体の約3割

(全員の方に)

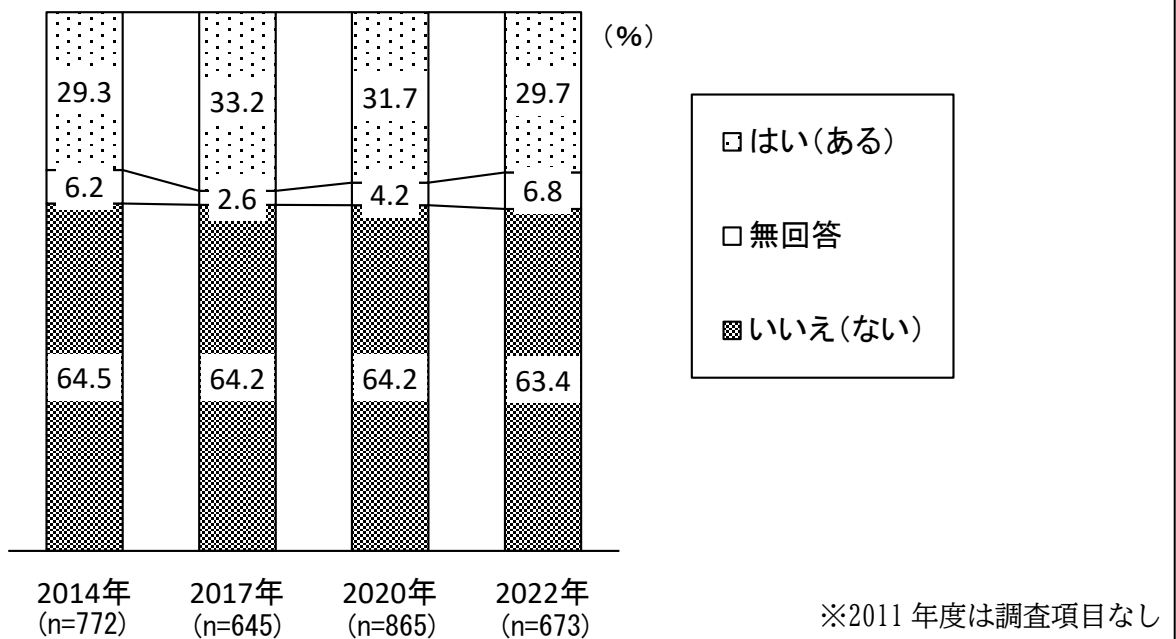
問8. あなた(あて名のご本人)の住宅で困っていることはありますか。(○は1つ)

図2-3 【所持手帳別】住宅で困っていることの有無



住宅について困っていることの有無で、「はい(ある)」が、全体で約3割となっている。

図2-4 【経年比較】住宅で困っていることの有無

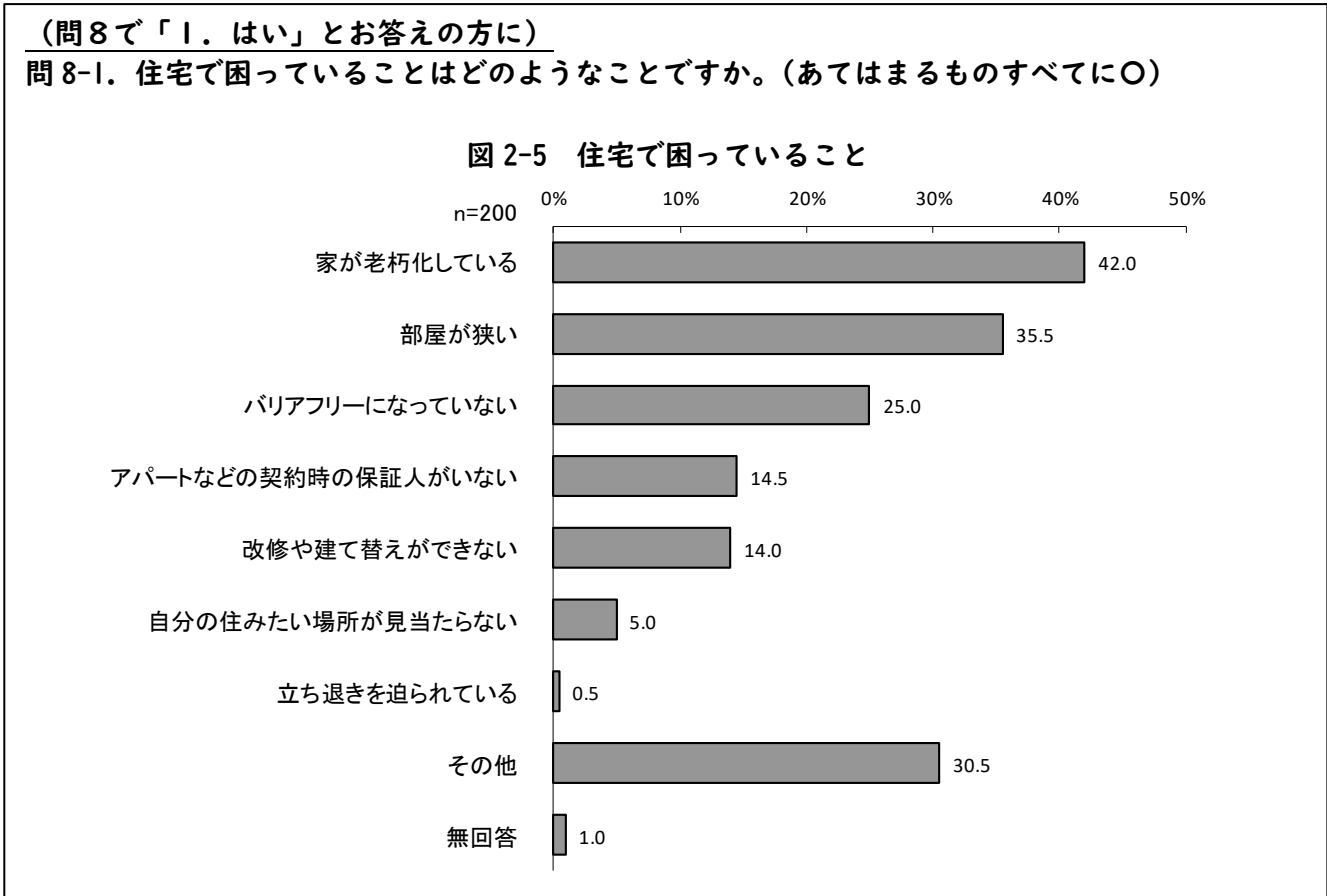


住宅で困っていることの有無を経年比較で見ると、大きな変化はみられない。



2.2.1. 住宅で困っていること

◆住宅で困っていることは「家が老朽化している」が4割台前半



住宅で困っていることがあると回答した方に、困っている内容をきいたところ、「家が老朽化している」が最も高くなっており、次いで「部屋が狭い」「バリアフリーになっていない」となっている。

図2-6 【所持手帳別】上位5項目 住宅で困っていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=56	家が老朽化している 53.6	部屋が狭い 37.5	バリアフリーになっていない 28.6	改修や建て替えができない 17.9	アパートなどの契約時の保証人がいない 7.1
身体障害者手帳(重度) n=66	バリアフリーになっていない 40.9	家が老朽化している 33.3	部屋が狭い 31.8	改修や建て替えができない／ アパートなどの契約時の保証人がいない	13.6
愛の手帳 n=21	家が老朽化している 42.9	部屋が狭い 38.1	バリアフリーになっていない／ 改修や建て替えができない	14.3	アパートなどの契約時の保証人がいない 4.8
精神障害者保健福祉手帳 n=76	部屋が狭い 42.1	家が老朽化している 38.2	アパートなどの契約時の保証人がいない 22.4	バリアフリーになっていない 13.2	改修や建て替えができない 10.5

住宅で困っていることを所持手帳別で見ると、身体障害者手帳(重度)所持者では「バリアフリーになっていない」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「部屋が狭い」が第1位となっている。

図 2-7 【経年比較】上位 5 項目 住宅で困っていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=200	家が老朽化している 42.0	部屋が狭い 35.5	バリアフリーになっていない 25.0	アパートなどの契約時の保証人がいない 14.5	改修や建て替えができない 14.0
2020年度 n=274	バリアフリーになっていない 41.6	部屋が狭い 39.4	家が老朽化している 31.0	改修や建て替えができない 22.3	アパートなどの契約時の保証人がいない 5.8
2017年度 n=214	部屋が狭い 41.1	家が老朽化している 34.6	バリアフリーになっていない 29.9	改修や建て替えができない 13.1	アパートなどの契約時の保証人がいない 11.7
2014年度 n=226	家が老朽化している 40.3	部屋が狭い 31.9	バリアフリーになっていない 31.0	改修や建て替えができない 15.5	アパートなどの契約時の保証人がいない 11.5
2011年度 n=860	老朽化しているが、改修や建て替えが 14.9	バリアフリーになっていない 14.2	部屋が狭い 12.7	アパートなどの契約時の保証人がいない 2.6	立ち退きを迫られている 0.8

住宅で困っていることを経年比較でみると、2022年度は「家が老朽化している」が「部屋が狭い」「バリアフリーになっていない」を上回り第1位となっている。

2.3. 将来、生活したいところ

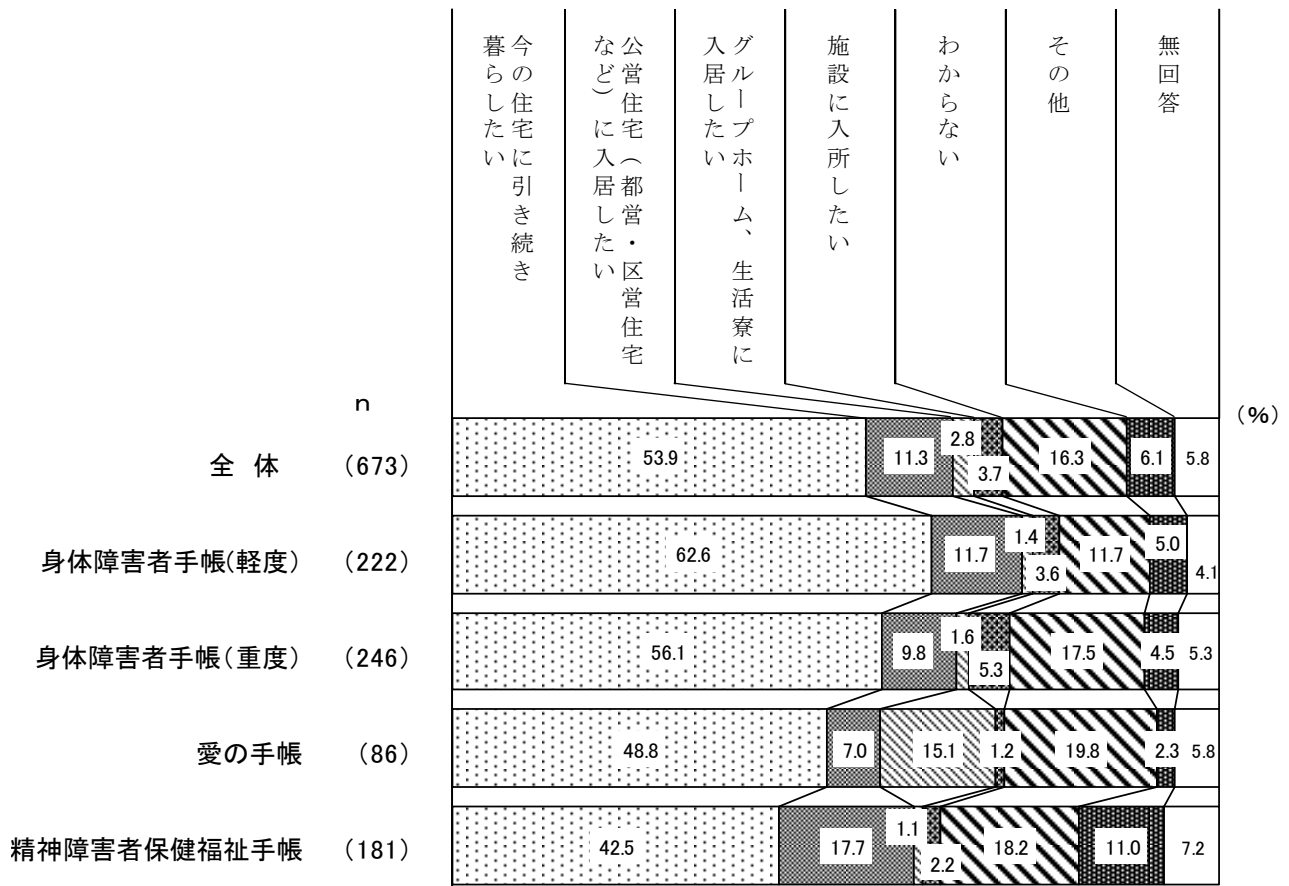
◆将来も「今の住宅に引き続き暮らしたい」はいずれの手帳所持者においても最も高い

(全員の方に)

問9. あなた(あて名のご本人)は、将来はどのようなところで生活したいと思いますか。

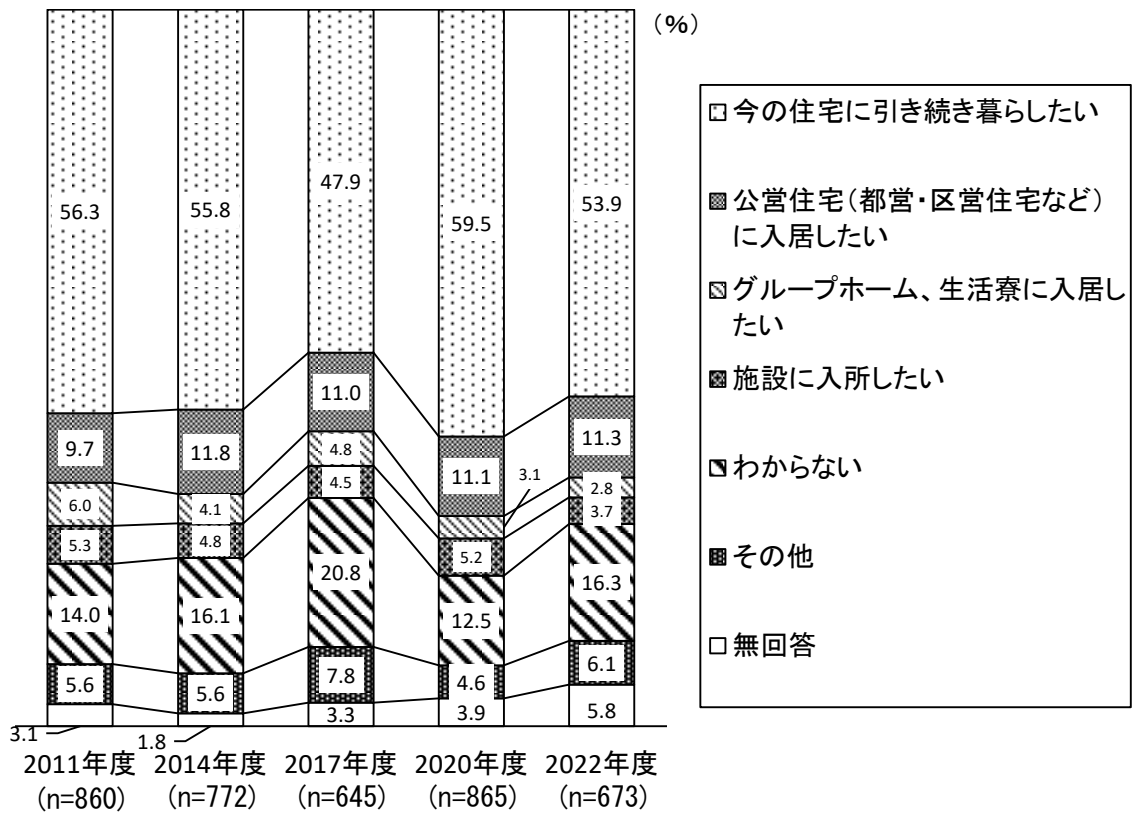
(〇は1つ)

図2-8 【所持手帳別】将来、生活したいところ



将来、生活したいところは、いずれの手帳所持者においても「今の住宅に引き続き暮らしたい」が最も高いが、愛の手帳所持者では他に比べ「グループホーム、生活寮に入居したい」も高くなっている。

図 2-9 【経年比較】 将来、生活したいところ



※2014・2017・2020・2022年度の「グループホーム、生活寮に入居したい」の選択肢は、2011年度では「グループホーム、ケアホーム、生活寮に入居したい」である。

将来、生活したいところを経年変化で見ると、2022年度は2020年度と比べ「今の住宅に引き続き暮らしたい」が5.6ポイント減少している。

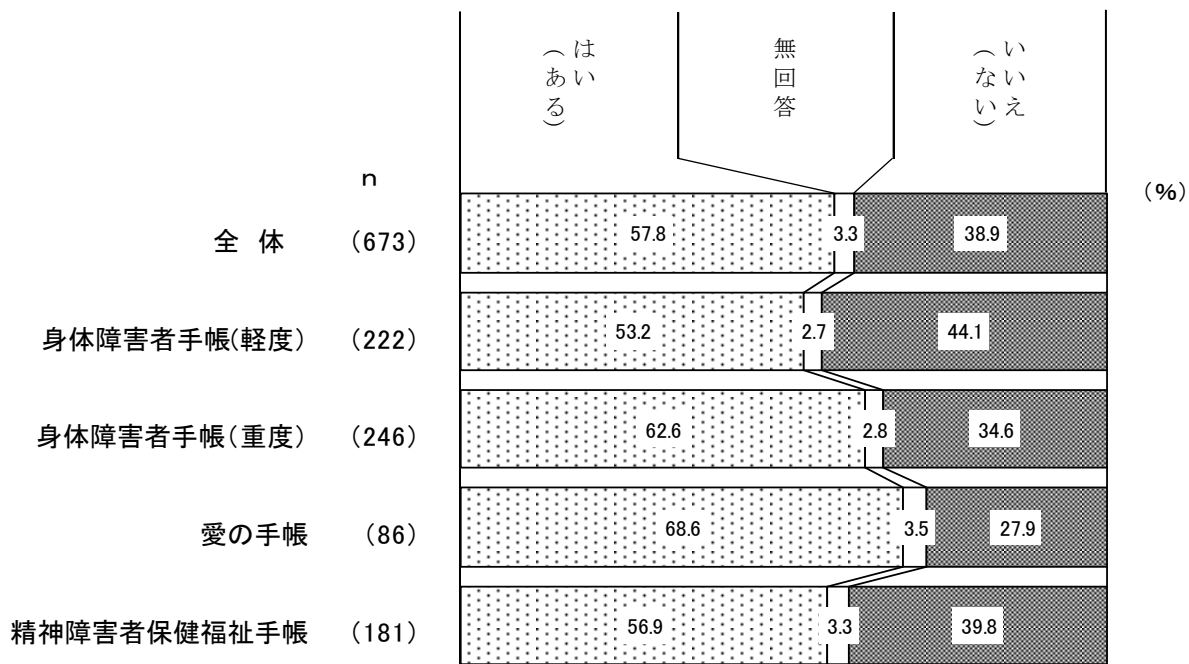
2.4. 災害への不安の有無

◆災害への不安が「ある」方は身体障害者手帳所持者（重度）と愛の手帳所持者において6割を超えている

（全員の方に）

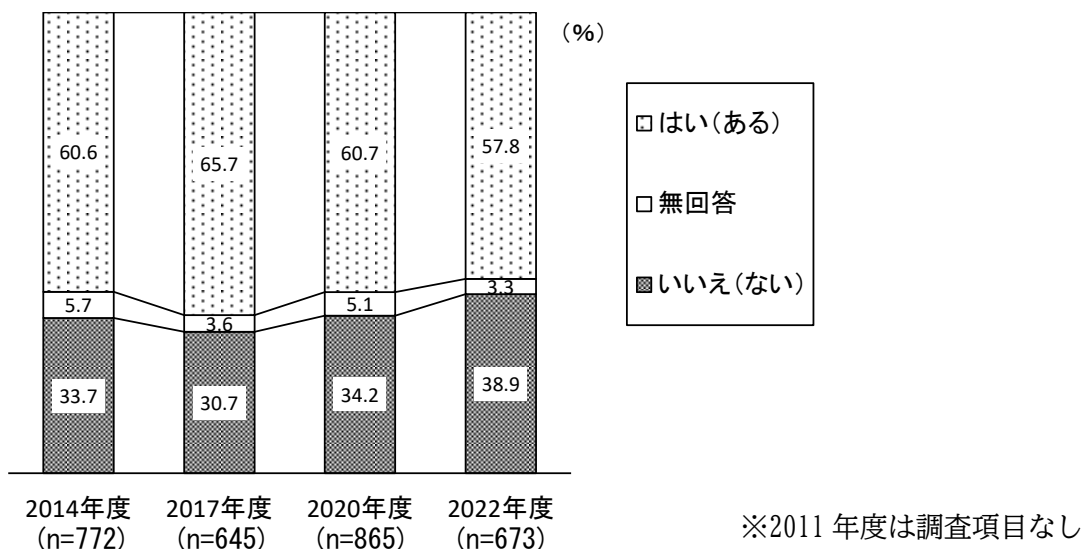
問 10. 火事や地震などの災害に関して、障害があるためにあなた（あて名のご本人）が不安を感じていることはありますか。（○は1つ）

図 2-10 【所持手帳別】災害への不安の有無



火事や地震などの災害への不安の有無は、「はい（ある）」が身体障害者手帳所持者（重度）で6割台前半、愛の手帳所持者で6割台後半と他に比べ高くなっている。

図 2-11 【経年比較】災害への不安の有無



災害への不安の有無を経年変化で見ると、2020年度と比べると「はい（ある）」は2.9ポイント減少しているが、依然5割台後半と高くなっている。

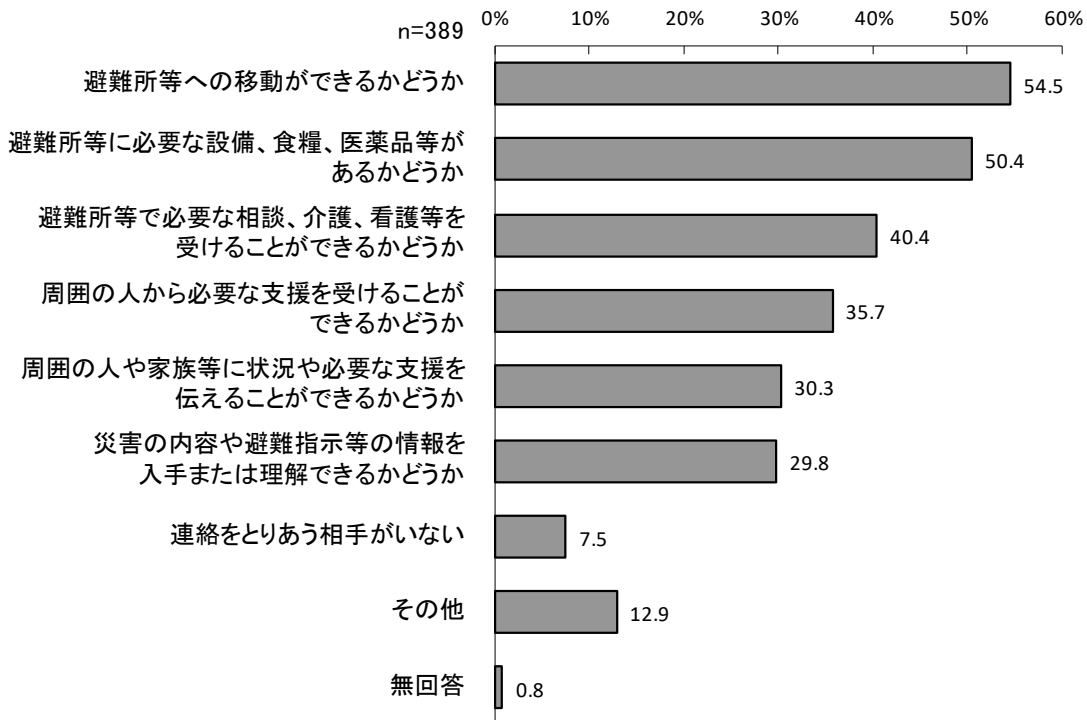
2.4.1. 災害に関して不安を感じていること

◆災害時の不安は「避難所等への移動ができるかどうか」が5割台半ば

(問10で「1. はい」とお答えの方に)

問10-1. 不安を感じていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図2-12 災害に関して不安を感じていること



災害への不安があると回答した方に、不安を感じている内容をきいたところ、「避難所等への移動ができるかどうか」が最も高くなっており、次いで「避難所等に必要な設備、食料、医薬品等があるかどうか」「避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けられるかどうか」となっている。

図 2-13 【所持手帳別】上位5項目 災害に関して不安を感じていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=118	避難所等への移動ができるかどうか 63.6	避難所等に必要設備、食糧、医薬品等があるかどうか 47.5	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか／避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 33.9		周囲の人や家族等に状況や必要な支援を伝えることができるかどうか 28.0
身体障害者手帳(重度) n=154	避難所等への移動ができるかどうか 60.4	避難所等に必要設備、食糧、医薬品等があるかどうか 54.5	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 48.7	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 34.4	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 27.3
愛の手帳 n=59	避難所等への移動ができるかどうか／避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 50.8		周囲の人や家族等に状況や必要な支援を伝えることができるかどうか／周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか／避難所等に必要設備、食糧、医薬品等があるかどうか 49.2		
精神障害者保健福祉手帳 n=103	避難所等に必要設備、食糧、医薬品等があるかどうか 53.4	避難所等への移動ができるかどうか 36.9	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 34.0	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 31.1	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 30.1

災害に関して不安を感じていることを所持手帳別でみると、精神障害者保健福祉手帳所持者では「避難所等に必要設備、食料、医薬品等があるかどうか」、愛の手帳所持者では「避難所等への移動ができるかどうか／避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか」の割合が最も高くなっている。

図 2-14 【経年比較】上位5項目 災害に関して不安を感じていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=389	避難所等への移動ができるかどうか 54.5	避難所等に必要設備、食糧、医薬品等があるかどうか 50.4	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 40.4	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 35.7	周囲の人や家族等に状況や必要な支援を伝えることができるかどうか 30.3
2020年度 n=525	避難所等への移動ができるかどうか 56.8	避難所等に必要設備、食糧、医薬品等があるかどうか 50.3	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 46.9	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 34.9	災害の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 33.7
2017年度 n=424	避難所等への移動ができるかどうか 56.6	避難所等に必要設備、食料、医薬品等があるかどうか 55.4	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 46.9	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 45.3	震災の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 35.8
2014年度 n=468	避難所等への移動ができるかどうか 62.4	避難所等に必要設備、食料、医薬品等があるかどうか 51.7	避難所等で必要な相談、介護、看護等を受けることができるかどうか 44.2	周囲の人から必要な支援を受けることができるかどうか 43.6	震災の内容や避難指示等の情報を入手または理解できるかどうか 39.3
2011年度 n=860	一時的であっても避難場所ですぐ過ぎることが難しい 30.6	病院等に行けないため、薬の手配が難しい 27.0	初期消火ができない 26.7	自力で避難できない 26.6	どこに避難してよいかわからない 26.2

災害に関して不安を感じていることを経年比較でみると、2014年度以降は大きな変化はみられない。

### 3. 日常生活の介護や支援について

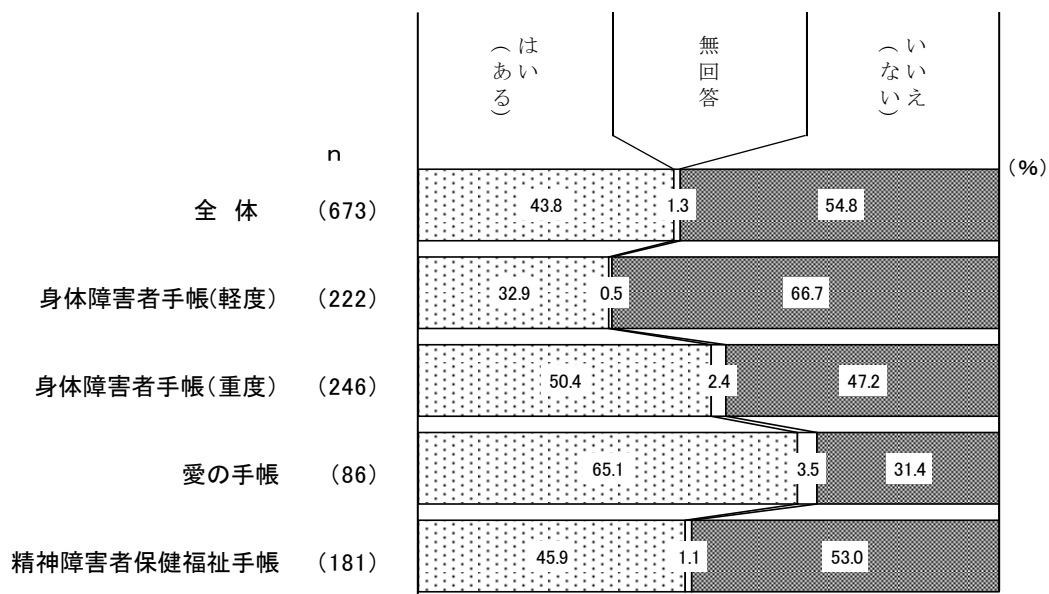
#### 3.1. 日常生活での介助の必要性の有無

##### ◆介助が必要な方は愛の手帳所持者で6割台半ば

(全員の方に)

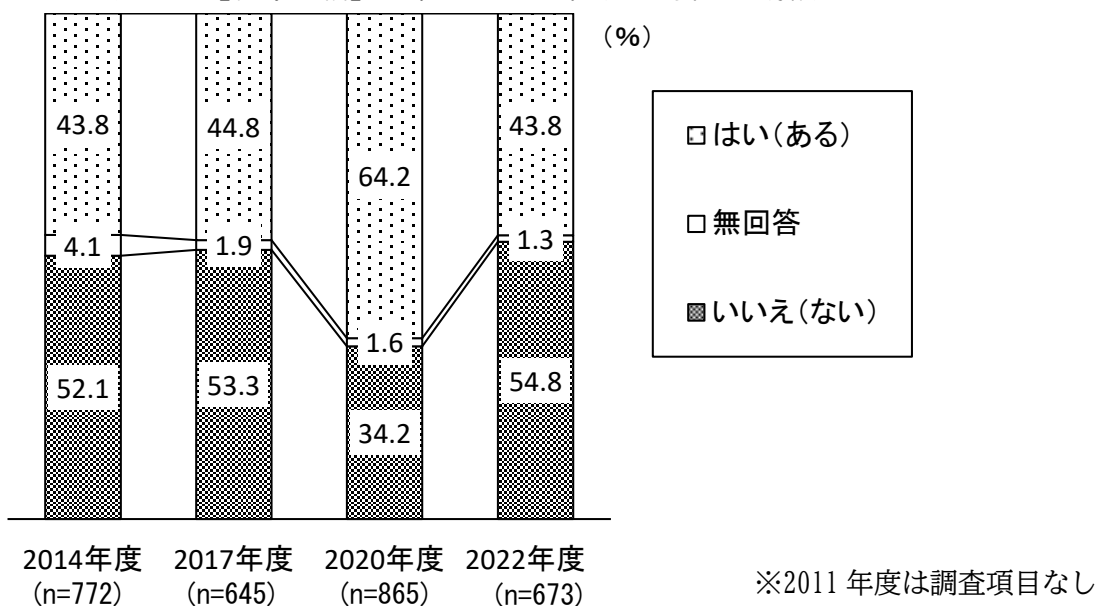
問 11. あなた(あて名の方ご本人)の日常生活で介助を必要とすることはありますか。(○は1つ)

図 3-1 【所持手帳別】日常生活での介助の必要性の有無



日常生活での介助の必要性の有無は、「はい(ある)」が愛の手帳所持者で6割台半ばとなっており最も高くなっている。

図 3-2 【経年比較】日常生活での介助の必要性の有無



日常生活での介助の必要性の有無を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ、「はい(ある)」は20.4ポイント減少している。



### 3.1.1. 日常生活で介助を必要とすること

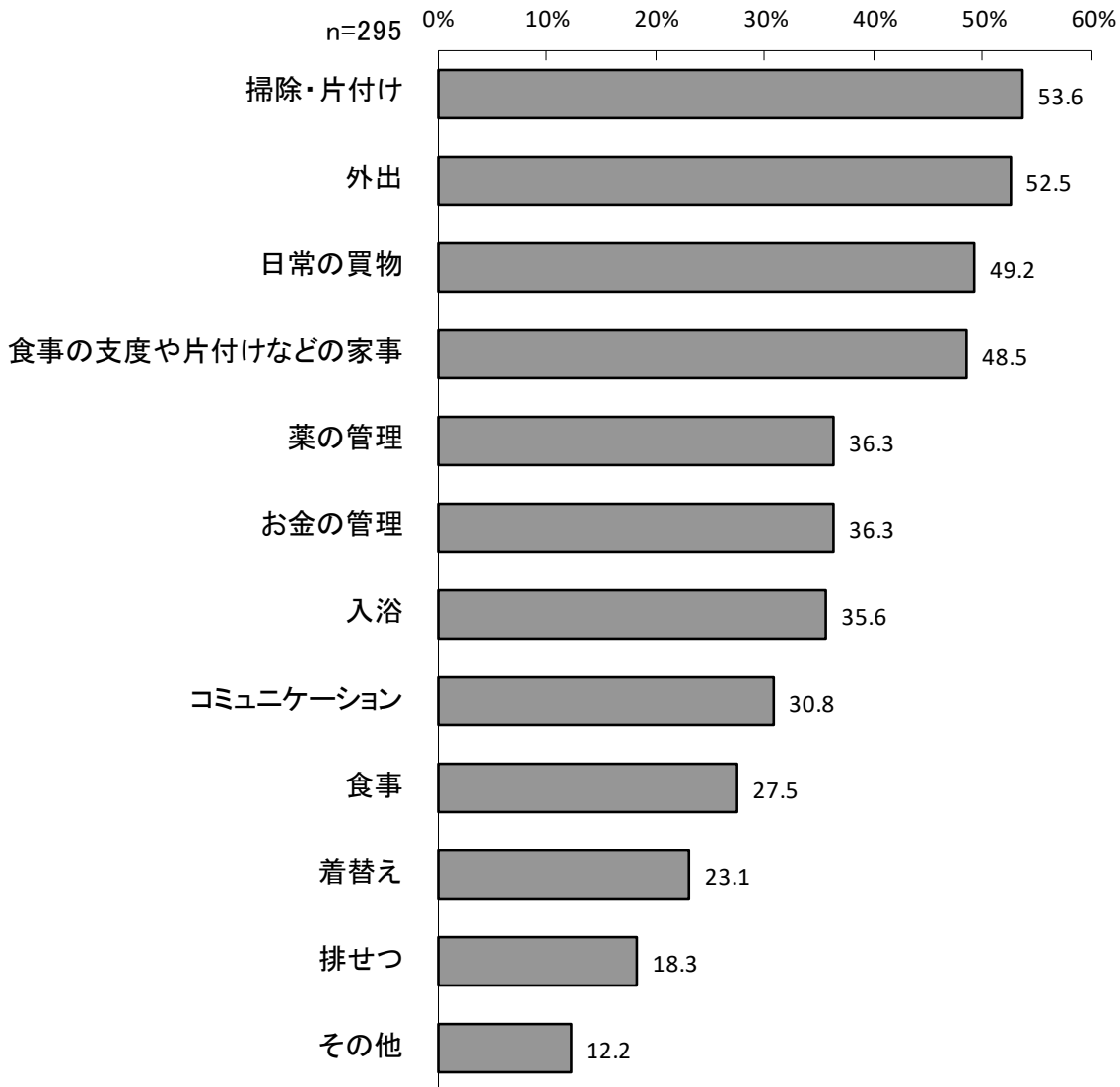
#### ◆日常生活で介助が必要なことは「掃除・片付け」「外出」が5割を超えている

(問11で「1. はい」とお答えの方に)

問11-1. 日常生活で介助を必要とすることは具体的にどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

図 3-3 日常生活で介助を必要とすること



日常生活において介助の必要性があると回答した方に、必要な介助の内容をきいたところ、「掃除・片付け」が最も高くなっており、次いで「外出」「日常の買物」「食事の支度や片付けなどの家事」となっている。

図 3-4 【所持手帳別】上位5項目 日常生活で介助を必要とすること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=73	掃除・片付け 54.8	日常の買物 52.1	外出 46.6	食事の支度や片付けなどの家事 37.0	入浴 31.5
身体障害者手帳(重度) n=124	外出 66.1	掃除・片付け 57.3	食事の支度や片付けなどの家事 54.8	日常の買物 54.0	入浴 49.2
愛の手帳 n=56	お金の管理 75.0	外出 67.9	食事の支度や片付けなどの家事／コミュニケーション／日常の買物		60.7
精神障害者保健福祉手帳 n=83	掃除・片付け 50.6	食事の支度や片付けなどの家事 43.4	薬の管理／コミュニケーション／日常の買物外／お金の管理		33.7

日常生活で介助を必要とすることを所持手帳別で見ると、身体障害者手帳所持者（軽度）、精神障害者保健福祉手帳では「掃除・片付け」が、身体障害者手帳（重度）では「外出」が、愛の手帳所持者では「お金の管理」が最も高くなっている。

図 3-5 【経年比較】上位5項目 日常生活で介助を必要とすること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=295	掃除・片付け 53.6	外出 52.5	日常の買物 49.2	食事の支度や片付けなどの家事 48.5	薬の管理／お金の管理 36.3
2020年度 n=555	掃除・片付け 43.8	食事の支度や片付け 40.7	日常の買物 40.2	外出 38.0	入浴 30.1
2017年度 n=289	日常の買物 61.9	掃除・片付け/外出 60.9		食事の支度や片付け/お金の管理 59.2	
2014年度 n=338	掃除・片付け 63.6	食事の支度や片付け 56.5	日常の買物 54.7	外出 52.1	お金の管理 48.2
2011年度 n=860	日常の買物 30.0	掃除・片付け 29.9	食事の支度や片付け 29.1	外出 24.4	洗濯 24.0

日常生活で介助を必要とすることを経年比較で見ると、2022年度は2020年度に比べ「外出」の順位が高くなっている。

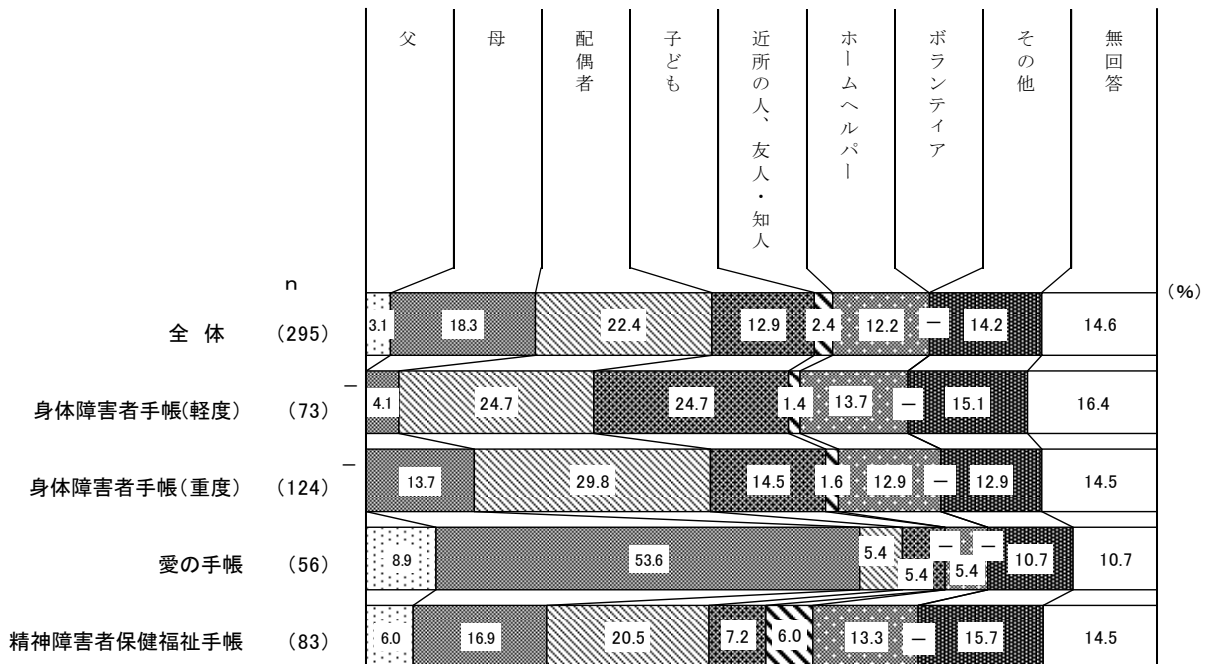
3.1.2. 主な介助者

◆主な介助者は家族（「母」「配偶者」「子ども」）が5割台前半

(問11で「1. はい」とお答えの方に)

問11-2. あなた（あて名の方のご本人）の主な介助者はどなたですか。(〇は1つ)

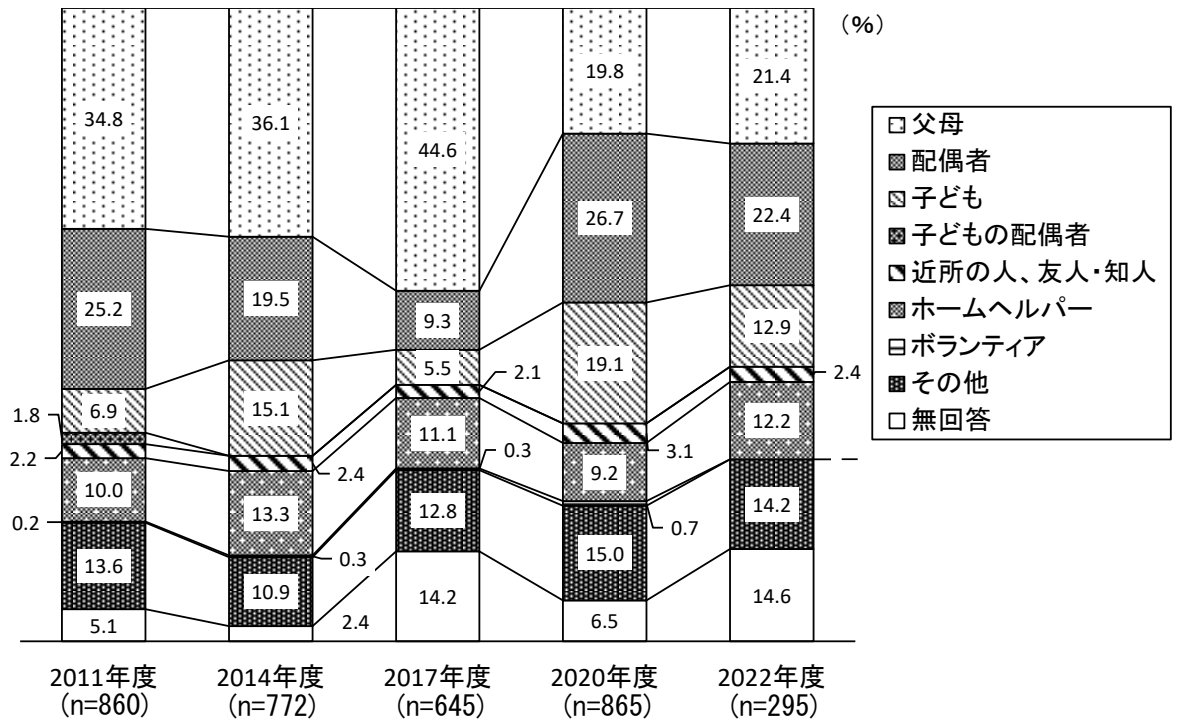
図3-6 【所持手帳別】主な介助者



日常生活において介助の必要性があると回答した方に、主な介助者をきいたところ、全体で「母」「配偶者」「子ども」といった家族が5割台前半となっている。

所持手帳別では、身体障害者手帳所持者（軽度）、身体障害者手帳所持者（重度）、精神障害者保健福祉手帳所持者では「配偶者」が、愛の手帳所持者では「母」が最も高くなっている。また、身体障害者手帳所持者（軽度）では他に比べ「子ども」が高くなっている。

図 3-7 【経年比較】主な介助者



※2011・2014年度は「父母」としてまとめて調査。

また、2014・2017・2020・2022年度は「子どもの配偶者」の選択肢はなし。

主な介助者を経年比較で見ると、2022年度は2020年度と比べ「子ども」が6.2ポイント、「配偶者」が4.3ポイントの減少となっている。

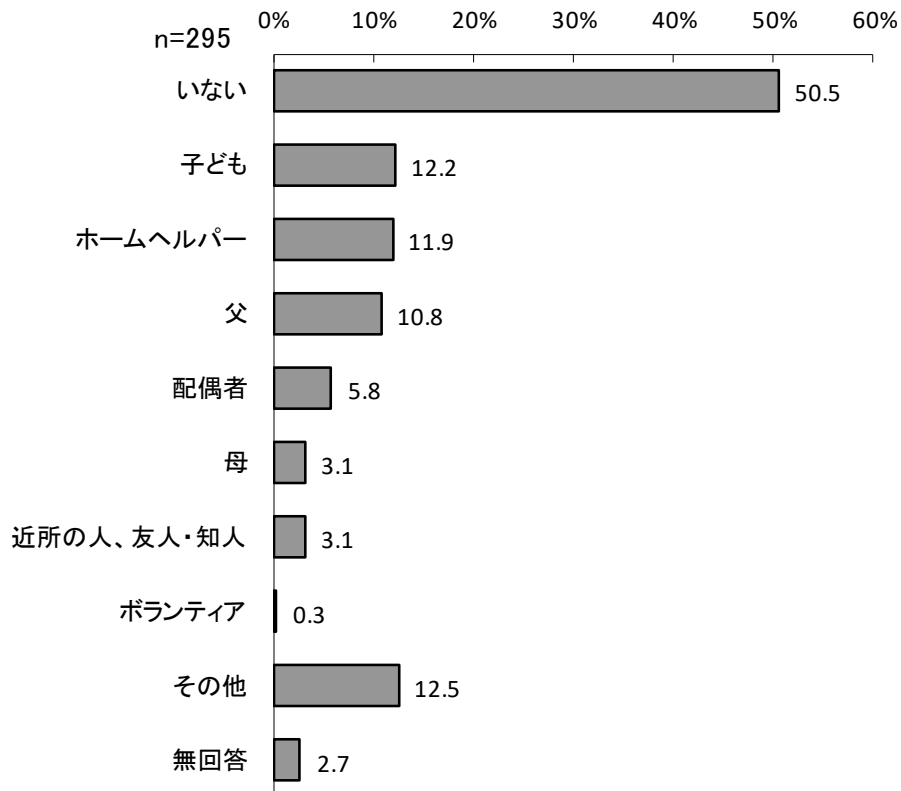
3.1.3. 主な介助者を除く日常的な介助者

◆主な介助者のほかに、日常的に介助できる方は「いない」が約5割

(問11で「1. はい」とお答えの方に)

問11-3. 主な介助者のほかに、あなた(あて名の方ご本人)を日常的に介助できる方はいますか。  
(あてはまるものすべてに○)

図3-8 主な介助者のほかに日常的に介助できる方



主な介助者のほかに日常的に介助できる方は、「いない」が約5割と最も高くなっており、次いで「子ども」「ホームヘルパー」「父」となっている。

図3-9 【所持手帳別】上位5項目 主な介助者のほかに日常的に介助できる方

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=73	いない 49.3	子ども 23.3	ホームヘルパー 15.1	近所の人、友人・知人 5.5	父 4.1
身体障害者手帳(重度) n=124	いない 47.6	ホームヘルパー 17.7	子ども 12.9	配偶者 9.7	父 7.3
愛の手帳 n=56	いない 41.1	父 32.1	ホームヘルパー 10.7	配偶者／子ども 3.6	
精神障害者保健福祉手帳 n=83	いない 61.4	父／配偶者／ホームヘルパー 7.2			母／子ども 6.0

主な介助者のほかに日常的に介助できる方は、それぞれの手帳所持者において「いない」が最も高い。

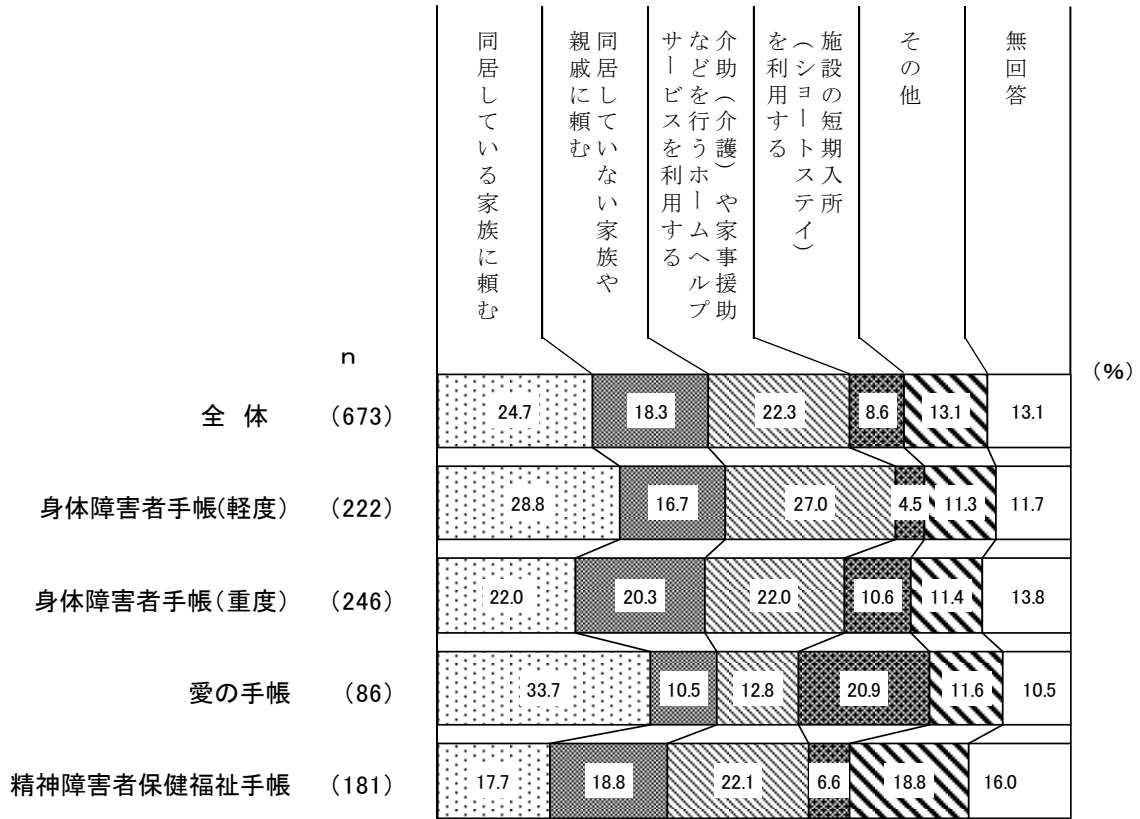
3.2. 主な介助者が介助困難になった場合の対処

◆主な介助者が介助困難になった場合の対処は「同居している家族に頼む」が最も高い

(全員の方に)

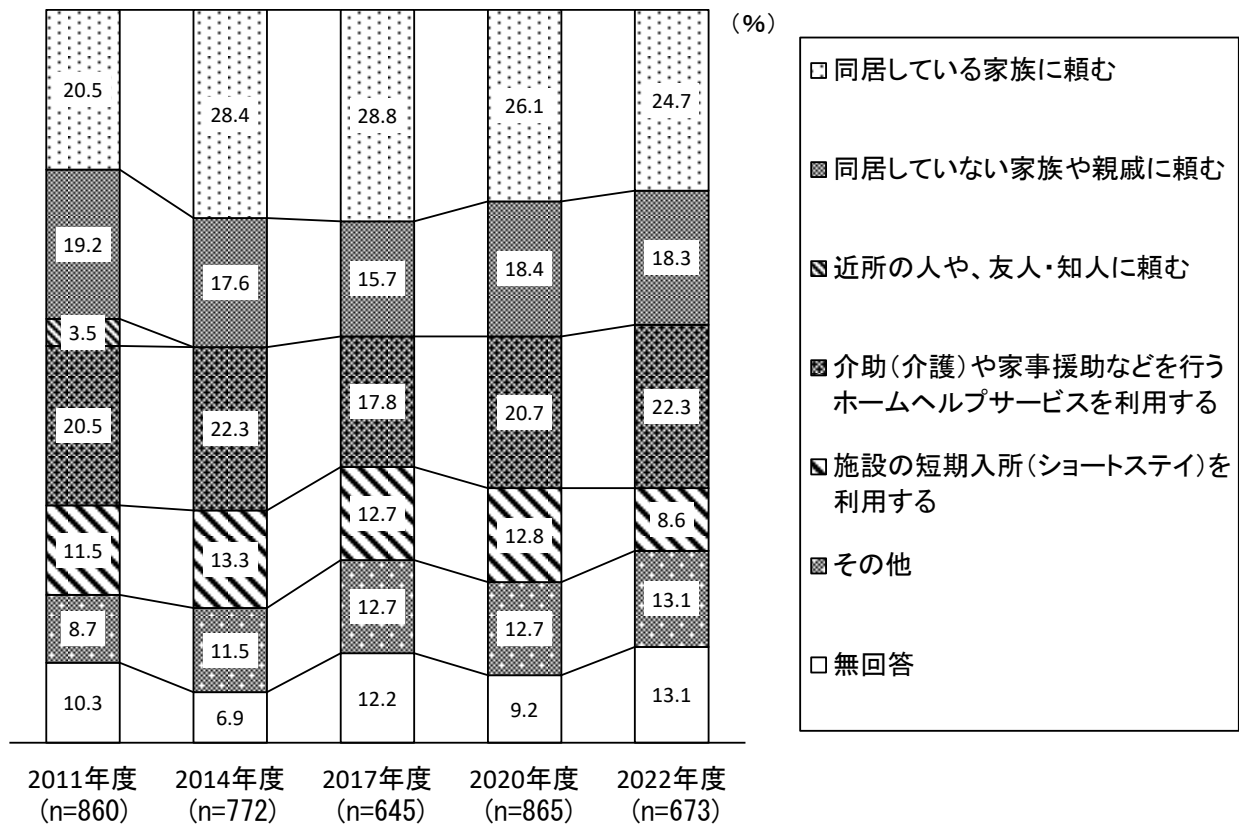
問 12. あなた(あて名の方ご本人)の主な介助者が急病・事故などで介助が困難になった場合、どのようにしたいですか。(〇は1つ)

図 3-10 【所持手帳別】主な介助者が介助困難になった場合の対処



主な介助者が介助の継続が困難になった場合の対処としては、愛の手帳所持者では他に比べ「同居している家族に頼む」が特に高くなっており、身体障害者手帳所持者(軽度・重度)、精神障害者保健福祉手帳所持者では他に比べ、「介護(介護)や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する」も高くなっている。

図 3-11 【経年比較】主な介助者が介助困難になった場合の対処



※「近所の人や、友人・知人に頼む」は2011年度のみ

主な介助者が介助困難になった場合の対処を経年比較で見ると、「同居している家族に頼む」「施設の短期入所（ショートステイ）を利用する」が微減、「介助（介護）や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する」が微増となっている。

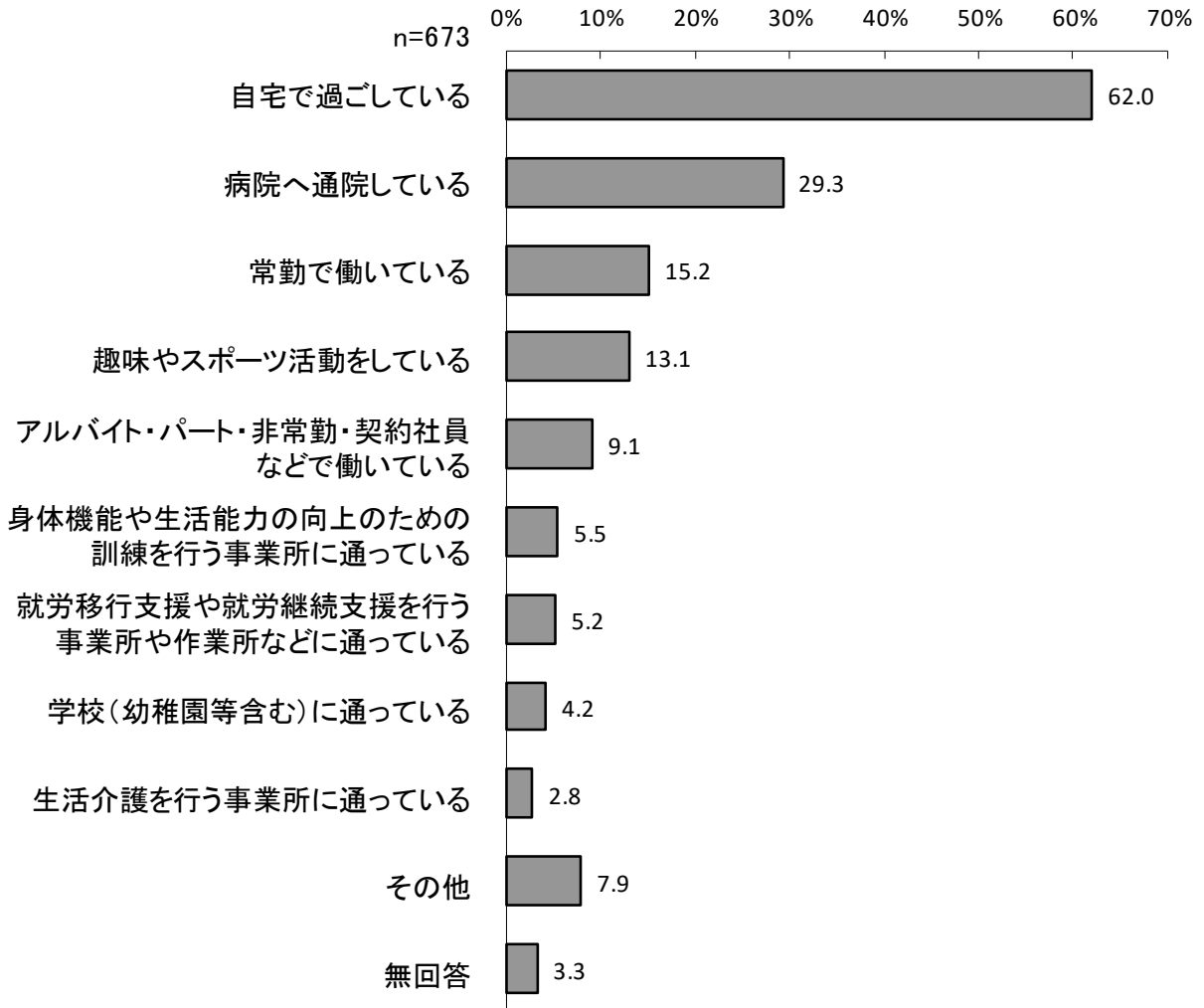
3.3. 平日の日中の過ごし方

◆平日の日中の主な過ごし方は「自宅で過ごしている」が最も高い

(全員の方に)

問13. あなた(あて名の方ご本人)は、平日の日中は主にどのように過ごしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

図3-12 平日の日中の過ごし方



平日の日中の主な過ごし方は、「自宅で過ごしている」が6割台前半と最も高くなっており、次いで「病院へ通院している」「常勤で働いている」「趣味やスポーツ活動をしている」となっている。



図 3-13 【所持手帳別】上位 5 項目 平日の日中の過ごし方

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=222	自宅で過ごしている 62.0	病院へ通院している 29.3	常勤で働いている 15.2	趣味やスポーツ活動をしている 13.1	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 9.1
身体障害者手帳(重度) n=246	自宅で過ごしている 68.3	病院へ通院している 33.3	常勤で働いている 15.9	趣味やスポーツ活動をしている 11.8	身体機能や生活能力の向上のための訓練を行う事業所に通っている 6.5
愛の手帳 n=86	自宅で過ごしている 32.6	就労移行支援や就労継続支援を行う事業所や作業所などに通っている 19.8	学校(幼稚園等含む)に通っている 18.6	病院へ通院している 16.3	常勤で働いている 15.1
精神障害者保健福祉手帳 n=181	自宅で過ごしている 66.9	病院へ通院している 32.0	趣味やスポーツ活動をしている 13.8	常勤で働いている 13.3	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 11.6

平日の日中の過ごし方を所持手帳別で見ると、いずれの手帳所持者も「自宅で過ごしている」が最も高くなっている。

図 3-14 【経年比較】上位 5 項目 平日の日中の過ごし方

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=673	自宅で過ごしている 62.0	病院へ通院している 29.3	常勤で働いている 15.2	趣味やスポーツ活動をしている 13.1	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 9.1
2020年度 n=865	自宅で過ごしている 63.1	病院へ通院している 32.8	常勤で働いている 13.2	趣味やスポーツ活動をしている 12.3	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 9.1
2017年度 n=645	自宅で過ごしている 42.5	病院へ通院している 25.0	常勤で働いている 19.4	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 13.3	趣味やスポーツ活動をしている 11.6
2014年度 n=772	自宅で過ごしている 57.9	病院へ通院している 36.0	趣味やスポーツ活動をしている 15.2	アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている 11.9	常勤で働いている 9.8
2011年度 n=860	自宅で過ごしている 57.9	病院へ通院している 33.3	趣味やスポーツ活動をしている 14.1	常勤の会社員、公務員、団体職員として働いている 10.5	就労移行支援などを行う事業所や作業所などに通っている 9.9

平日の日中の過ごし方を経年比較で見ると、いずれの年度においても「自宅で過ごしている」が最も高くなっている。

## 4. 外出状況について

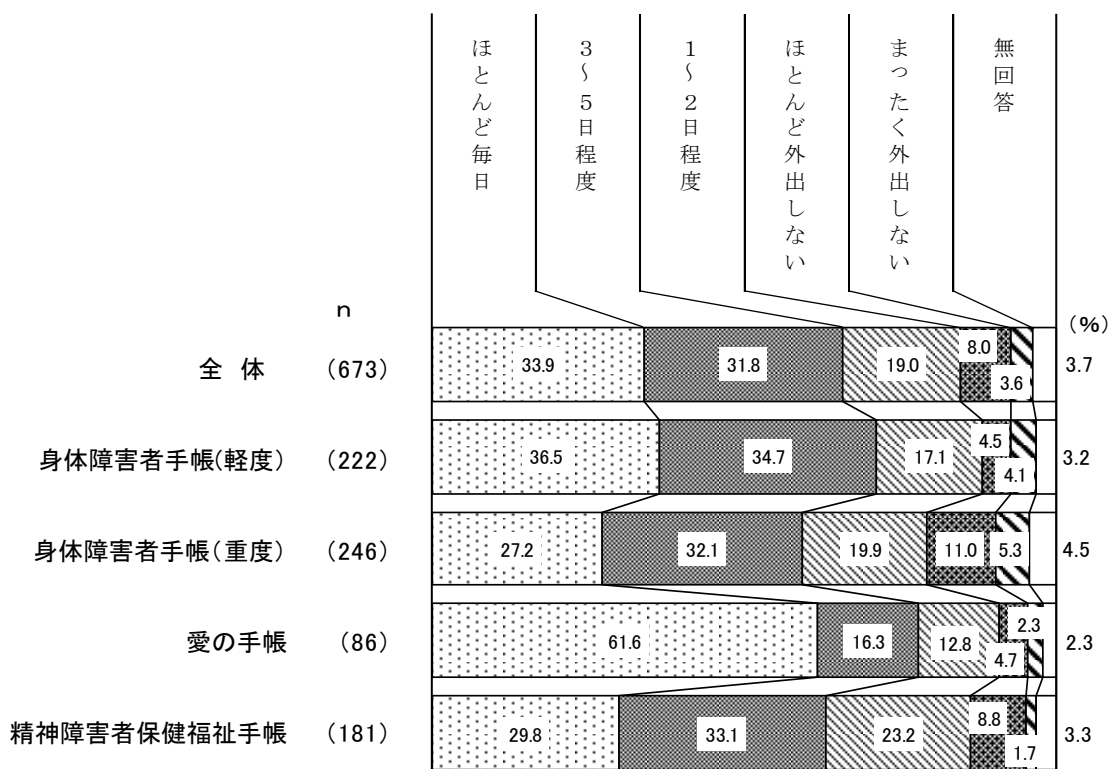
### 4.1. 外出の頻度

◆外出の頻度は「ほとんど毎日」が愛の手帳所持者で特に高い

(全員の方に)

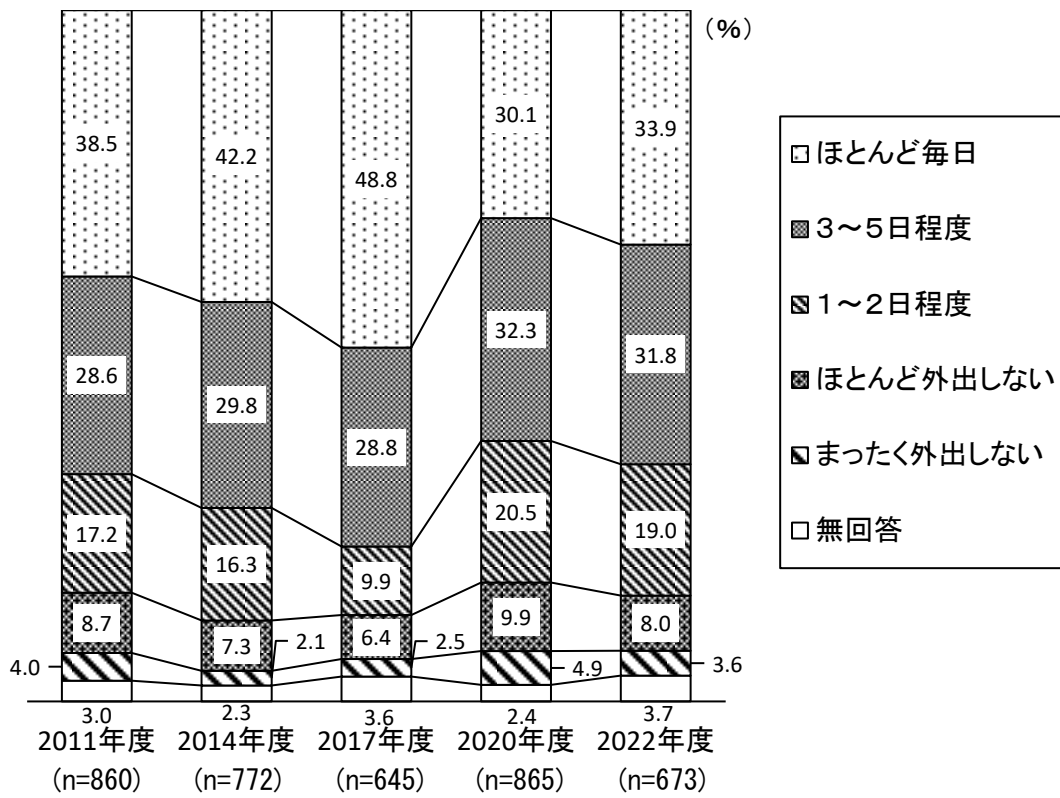
問14. あなた(あて名の方ご本人)は、一週間に、どのくらい外出していますか。(〇は1つ)

図4-1 【所持手帳別】外出の頻度



一週間の外出の頻度は、「ほとんど毎日」が愛の手帳所持者では6割を超えており、他と比べて特に高くなっている。

図 4-2 【経年比較】外出の頻度



一週間の外出の頻度を経年比較で見ると、2020年度と比べ「ほとんど毎日」が微増となっている。

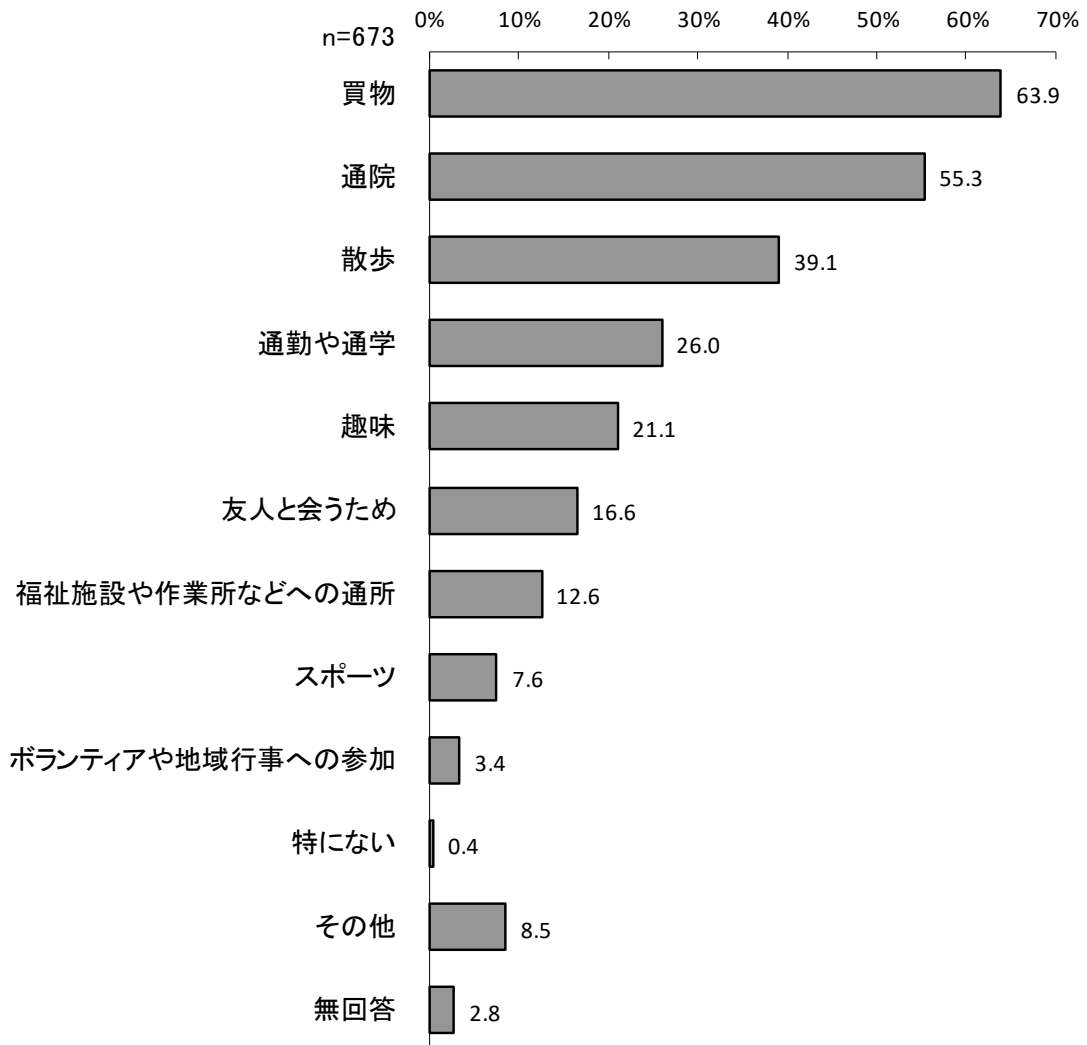
4.2. 外出の主な目的

◆外出の主な目的は「買物」が6割台前半

(全員の方に)

問 15. あなた(あて名の方ご本人)の外出の主な目的は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図 4-3 外出の主な目的



外出の主な目的は、「買物」が最も高く、次いで「通院」「散歩」「通勤や通学」となっている。

図 4-4 【所持手帳別】上位 5 項目 外出の主な目的

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=222	買物 69.8	通院 52.7	散歩 41.4	通勤や通学 26.6	趣味／友人と 会うため 22.1
身体障害者手帳(重度) n=246	通院 61.4	買物 57.3	散歩 39.8	趣味 22.4	通勤や通学 19.5
愛の手帳 n=86	買物 48.8	通勤や通学 41.9	通院 40.7	福祉施設や作 業所などへの 通所 36.0	散歩 32.6
精神障害者保健福祉手帳 n=181	買物 65.7	通院 58.0	散歩 40.3	通勤や通学 25.4	福祉施設や作 業所などへの 通所 16.0

外出の主な目的を所持手帳別で見ると、身体障害者手帳所持者（重度）では「通院」が、その他では「買物」が最も高くなっている。

図 4-5 【経年比較】上位 5 項目 外出の主な目的

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=673	買物 63.9	通院 55.3	散歩 39.1	通勤や通学 26.0	趣味 21.1
2020年度 n=865	買物 56.8	通院 54.2	散歩 39.0	通勤や通学 22.4	趣味・スポーツ など 19.7
2017年度 n=645	買物 51.5	通院 46.2	通勤や通学 37.7	散歩 30.9	趣味・スポーツ など 27.1
2014年度 n=772	買物 58.2	通院 56.3	散歩 41.1	趣味・スポーツ など 24.1	通勤や通学 23.1
2011年度 n=860	通院 53.6	買物 52.0	散歩 36.4	通勤や通学 21.6	趣味・スポーツ など 21.5

※2022年度は「趣味」と「スポーツ」の選択肢を分けて調査。  
(2011～2020年度の選択肢は「趣味・スポーツなど」)

外出の主な目的を経年比較で見ると、2014年度以降は「買物」が第1位となっている。

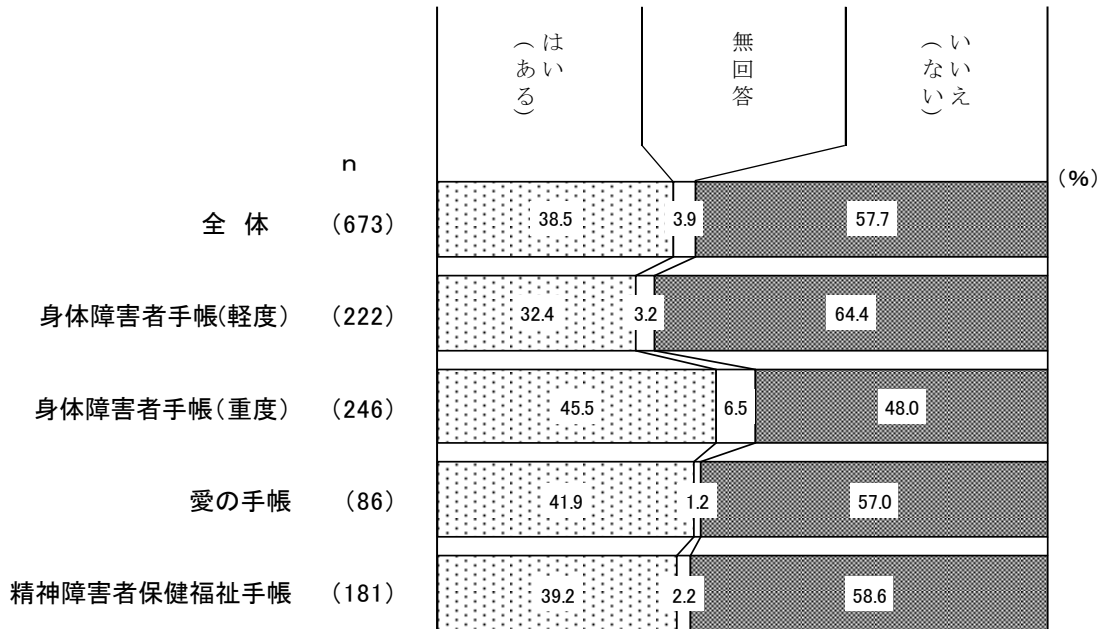
4.3. 外出する上での妨げの有無

◆外出する上での妨げは「ある」が3割台後半

(全員の方に)

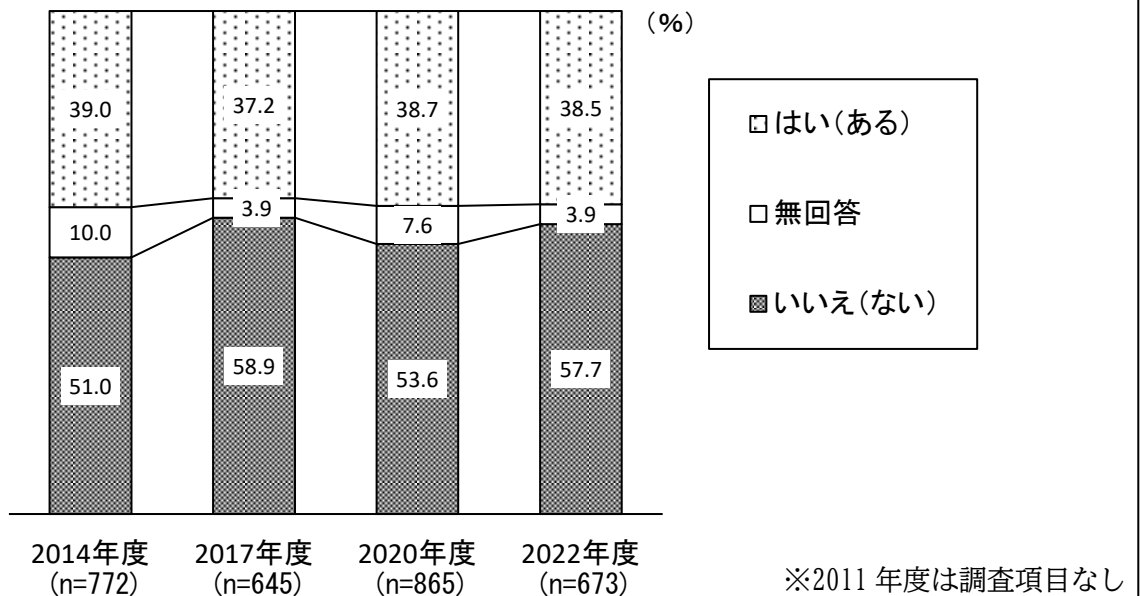
問 16. あなた(あて名の方ご本人)が外出する上で妨げになっていることはありますか。(〇は1つ)

図 4-6 【所持手帳別】外出する上で妨げの有無



外出する上での妨げの有無は、全体では「いいえ(ない)」が「はい(ある)」を上回っている。所持手帳別で見ると、身体障害者手帳(重度)所持者で「はい(ある)」が他に比べて高くなっている。

図 4-7 【経年比較】外出する上で妨げの有無



外出する上での妨げの有無を経年比較で見ると、大きな変化はみられない。

4.3.1. 外出する上で妨げになっていること

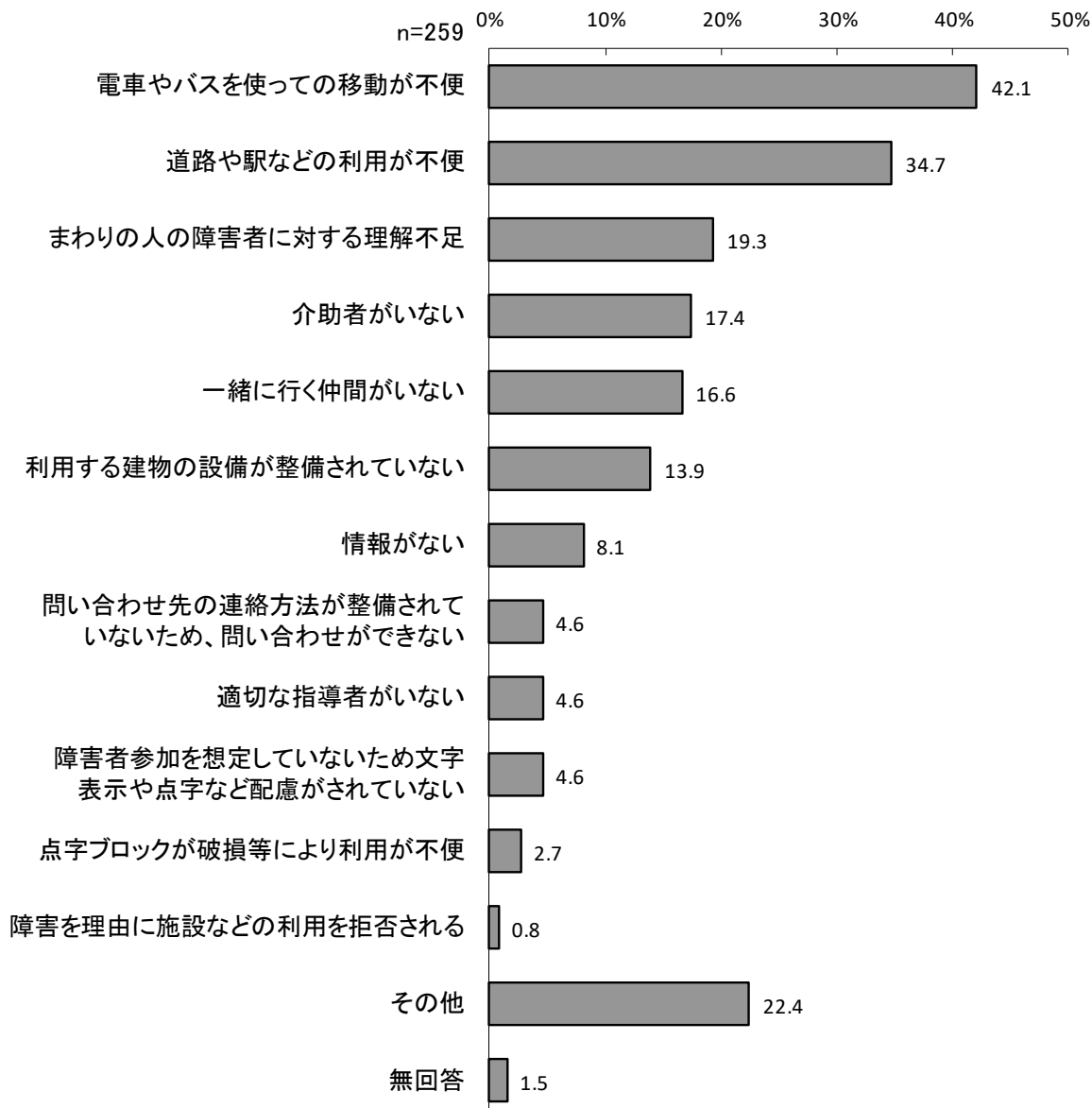
◆外出する上で妨げになっていることは「電車やバスを使っただ移動が不便」が4割台前半、「道路や駅などの利用が不便」が3割台半ば

(問16で「1. はい」とお答えの方に)

問16-1. 外出する上で妨げになっていることは具体的にどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

図4-8 外出する上で妨げになっていること



外出する上での妨げになっていることの内容をきいたところ、「電車やバスを使っただ移動が不便」が最も高くなっており、次いで「道路や駅などの利用が不便」「まわりの人の障害者に対する理解不足」「介助者がいない」となっている。

図 4-9 【所持手帳別】上位 5 項目 外出する上で妨げになっていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=72	電車やバスを 使った移動が不便 48.6	道路や駅など の利用が不便 45.8	まわりの人の 障害者に対する 理解不足 13.9	介助者がいない／一緒に行く 仲間がいない	12.5
身体障害者手帳(重度) n=112	電車やバスを 使った移動が不便 46.4	道路や駅など の利用が不便 37.5	利用する建物 の設備が整備 されていない 20.5	介助者がいない／まわりの人 の障害者に対する理解不足	15.2
愛の手帳 n=36	電車やバスを 使った移動が不便／まわりの人の障害者 に対する理解不足 36.1	道路や駅など の利用が不便 30.6	介助者がいな い 27.8	一緒に行く仲 間がない 25.0	
精神障害者保健福祉手帳 n=71	電車やバスを 使った移動が不便 35.2	一緒に行く仲 間がない 28.2	まわりの人の 障害者に対する 理解不足 25.4	道路や駅など の利用が不便 21.1	介助者がいな い 18.3

外出する上で妨げになっていることを所持手帳別でみると、いずれの手帳所持者も「電車やバスを使った移動が不便」が最も高く、愛の手帳所持者では「まわりの人の障害者に対する理解不足」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「一緒に行く仲間がいない」なども他と比べ高くなっている。

図 4-10 【経年比較】上位 5 項目 外出する上で妨げになっていること

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=259	電車やバスを 使った移動が不便 42.1	道路や駅など の利用が不便 34.7	まわりの人の 障害者に対する 理解不足 19.3	介助者がいな い 17.4	一緒に行く仲 間がない 16.6
2020年度 n=335	電車やバスを 使った移動が不便 46.3	道路や駅など の利用が不便 40.0	まわりの人の 障害者に対する 理解不足 21.2	介助者がいな い 17.3	一緒に行く仲 間がない 15.5
2017年度 n=240	電車やバスを 使った移動が不便 46.3	道路や駅など の利用が不便 43.3	まわりの人の 障害者に対する 理解不足 27.5	利用する建物 の設備が整備 されていない 20.8	一緒に行く仲 間がない 15.4
2014年度 n=301	電車やバスを 使った移動が不便 35.9	道路や駅など の利用が不便 32.6	まわりの人の 障害者に対する 理解不足 28.2	一緒に行く仲 間がない 22.3	情報がない 17.9
2011年度 n=860	自動車や自転 車が多くて危 険を感じる 19.8	発作など突然 の体調の変化 が心配 17.0	電車やバスの 乗り降りがしに くい 15.1	困ったとき周囲 の人に手助け をお願いしにく い 14.7	道路や利用す る建物に段差 が多い 14.3

外出する上で妨げになっていることを経年比較でみると、上位にあげられたものに大きな変化はみられない。



#### 4.4. 外出の際の主な交通手段

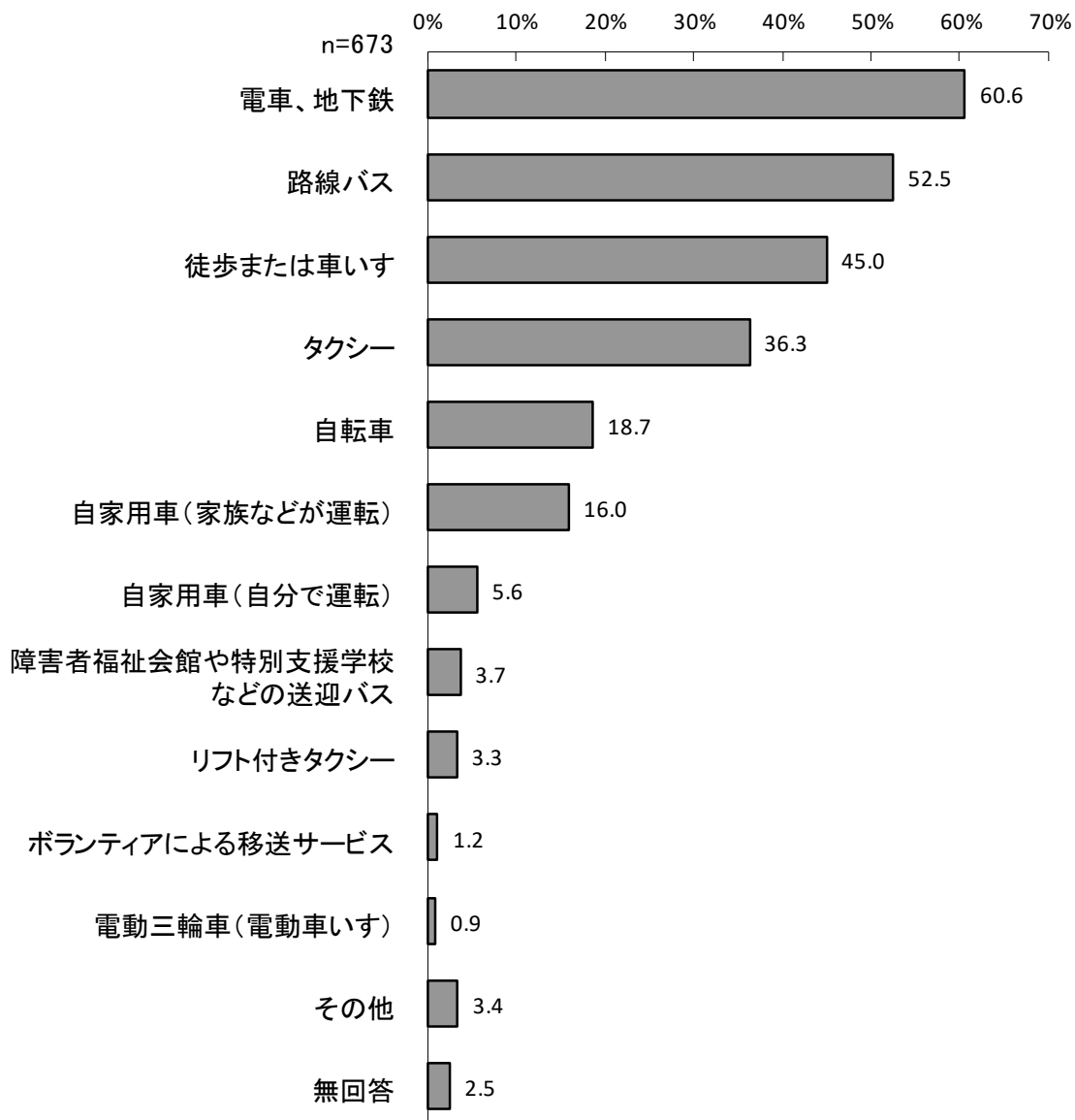
##### ◆外出の際の主な交通手段は「電車・地下鉄」が最も高い

(全員の方に)

問17. あなた(あて名の方ご本人)が、外出に利用する主な交通手段は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

図4-11 外出の際の主な交通手段



外出する際の主な交通手段をきいたところ、「電車、地下鉄」が最も高く、次いで「路線バス」「徒歩または車いす」「タクシー」となっている。

図 4-12 【所持手帳別】上位 5 項目 外出の際の主な交通手段

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=222	電車、地下鉄 60.4	路線バス 56.3	タクシー 38.3	徒歩または車 いす 37.4	自転車 23.9
身体障害者手帳(重度) n=246	電車、地下鉄 50.8	タクシー 48.0	路線バス 45.5	徒歩または車 いす 41.5	自家用車(家 族などが運転) 14.6
愛の手帳 n=86	電車、地下鉄 72.1	路線バス 54.7	徒歩または車 いす 47.7	自転車 24.4	タクシー 22.1
精神障害者保健福祉手帳 n=181	電車、地下鉄 65.2	路線バス 55.2	徒歩または車 いす 52.5	自転車 23.2	タクシー 19.9

外出の際の主な交通手段を所持手帳別で見ると、いずれの手帳所持者も「電車、地下鉄」が最も高く、身体障害者手帳所持者（重度）では「タクシー」が第2位にあげられている。

図 4-13 【経年比較】上位 5 項目 外出の際の主な交通手段

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=673	電車、地下鉄 60.6	路線バス 52.5	徒歩または車 いす 45.0	タクシー 36.3	自転車 18.7
2020年度 n=865	電車、地下鉄 57.0	路線バス 50.4	徒歩または車 いす 40.9	タクシー 35.3	自転車 19.2
2017年度 n=645	電車、地下鉄 73.0	路線バス 51.8	徒歩または車 いす 46.0	タクシー 28.2	自転車 22.0
2014年度 n=772	電車、地下鉄 68.1	路線バス 58.5	徒歩または車 いす 37.8	タクシー 37.2	自転車 20.5
2011年度 n=860	電車、地下鉄 64.0	路線バス 54.1	タクシー 37.7	徒歩または車 いす 33.5	自転車 18.7

外出の際の主な交通手段を経年比較で見ると、2020年度と比べて大きな変化はみられない。

## 5. 働くことについて

### 5.1. 就労による定期的な収入の有無

#### ◆就業による定期的な収入がある方は、生産年齢人口でみると5割台後半

(全員の方に)

問 18. あなた(あて名の方ご本人)は、給料など就労による定期的な収入はありますか。(〇は1つ)

図 5-1 【所持手帳別】収入の有無

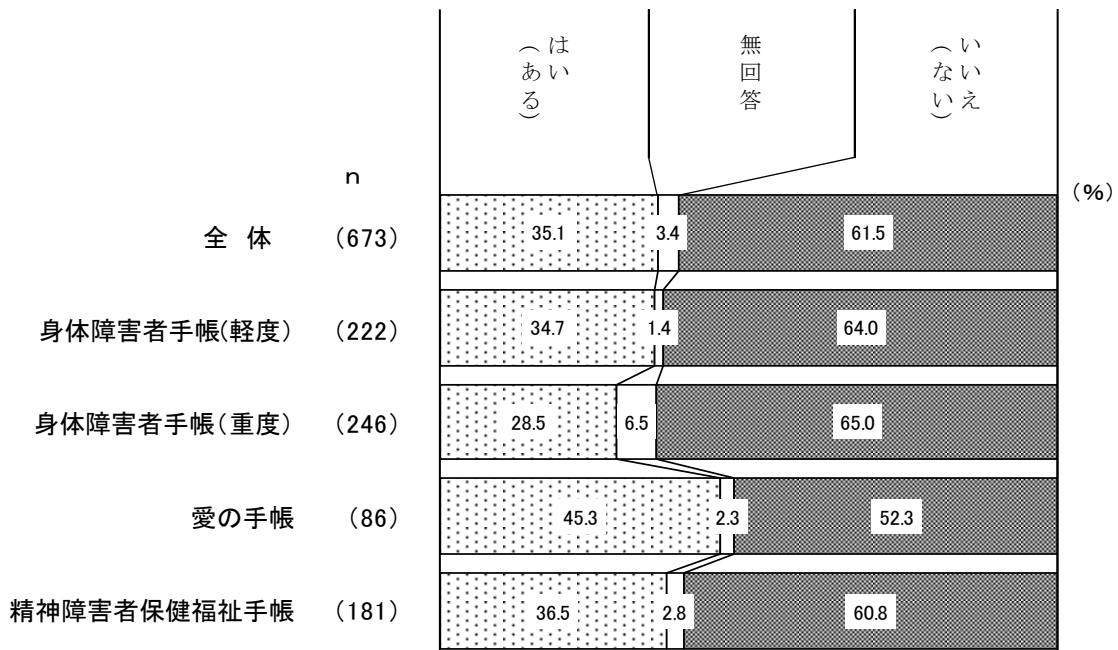
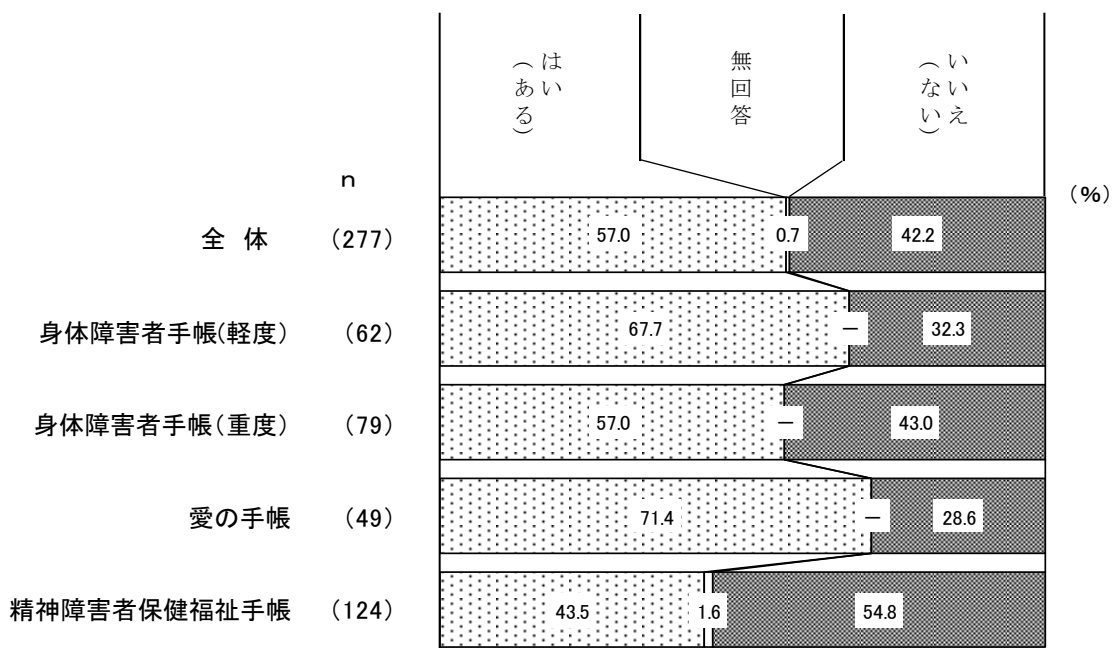
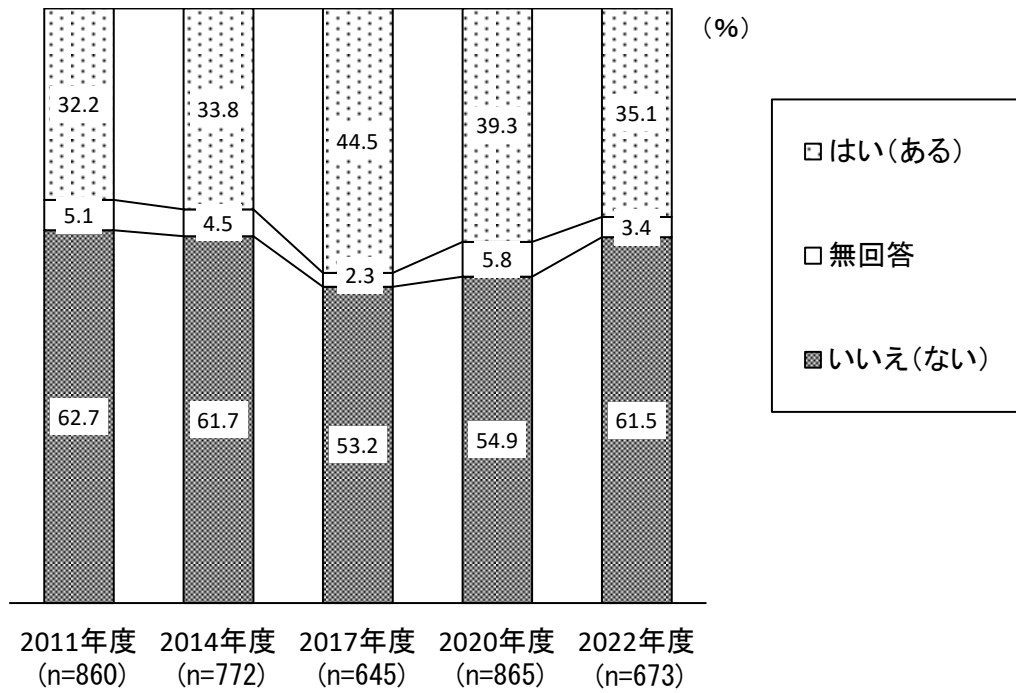


図 5-2 【所持手帳別】生産年齢人口(15歳以上65歳未満)における収入の有無



生産年齢人口(15歳以上65歳未満)における収入の有無は、愛の手帳所持者で「はい(ある)」で約7割となっている。精神障害者保健福祉手帳所持者は、「いいえ(ない)」が他に比べて高くなっている。

図 5-3 【経年変化】就労による定期的な収入の有無



就労による定期的な収入の有無を経年比較でみると、2017 年度以降「はい（ある）」が減少傾向となっている。

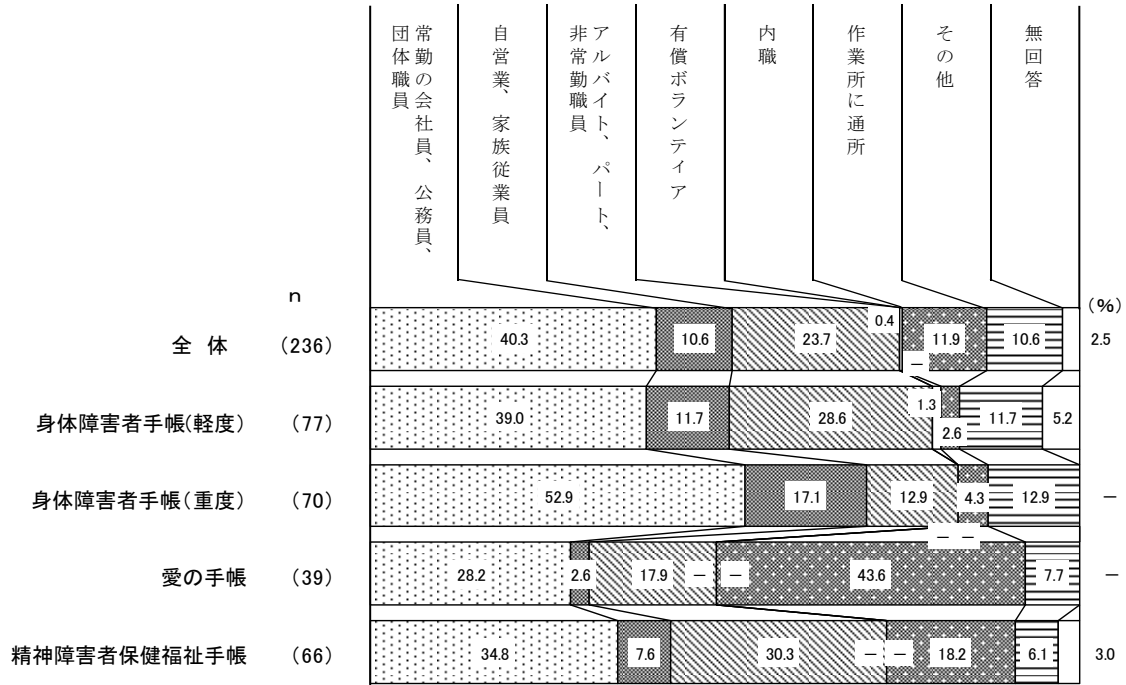
5.1.1. 現在の就労形態

◆就労形態は所持手帳により違いがみられる

(問18で「1. はい」とお答えの方に)

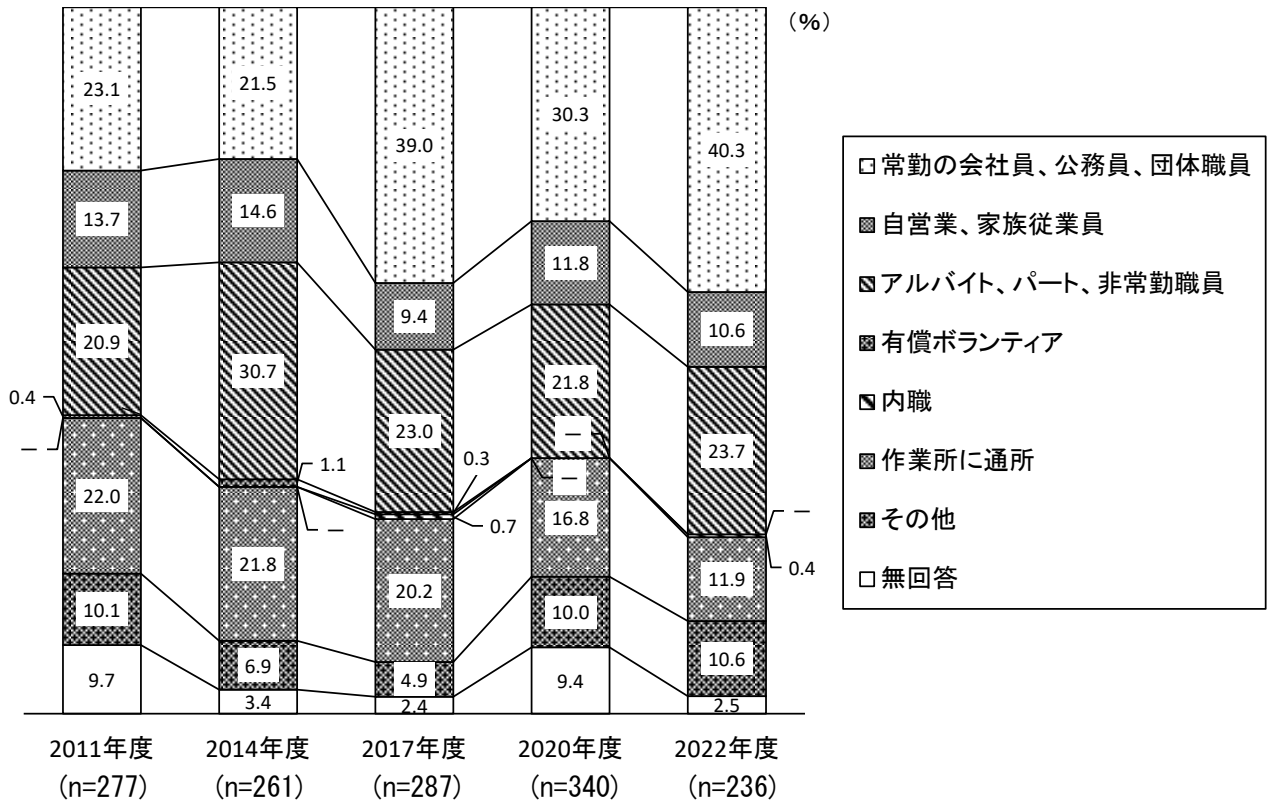
問18-1. あなた(あて名の方ご本人)の現在の就労形態をお答えください。(〇は1つ)

図5-4 【所持手帳別】現在の就労形態



定期的な収入があると回答された方に、就労形態をきいたところ、身体障害者手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「常勤の会社員、公務員、団体職員」が、愛の手帳所持者では「作業所に通所」が最も高くなっている。

図 5-5 【経年比較】現在の就労形態



現在の就労形態を経年変化で見ると、2022年度は2020年度と比べ「常勤の会社員、公務員、団体職員」が10ポイント増加している。

5.1.2. 仕事を見つけた方法

◆仕事を見つけた方法は愛の手帳では「学校の紹介」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「障害者就労支援機関の利用」が高い

(問18で「1. はい」とお答えの方に)

問18-2. あなた(あて名の方ご本人)は、現在の仕事をどのような方法で見つけましたか。(〇は1つ)

図5-6 【所持手帳別】仕事を見つけた方法

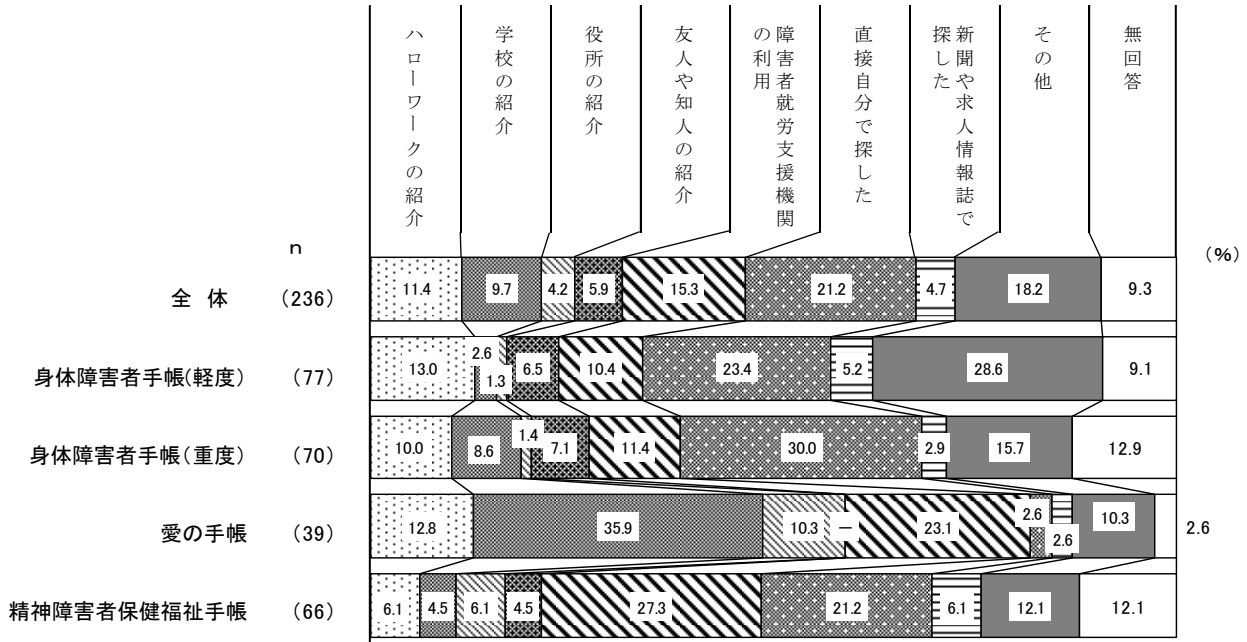


図5-7 【所持手帳別】上位5項目 仕事を見つけた方法

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=77	直接自分で探した 23.4	ハローワークの紹介 13.0	障害者就労支援機関の利用 10.4	友人や知人の紹介 6.5	新聞や求人情報誌で探した 5.2
身体障害者手帳(重度) n=70	直接自分で探した 30.0	障害者就労支援機関の利用 11.4	ハローワークの紹介 10.0	学校の紹介 8.6	友人や知人の紹介 7.1
愛の手帳 n=39	学校の紹介 35.9	障害者就労支援機関の利用 23.1	ハローワークの紹介 12.8	役所の紹介 10.3	直接自分で探した／新聞や求人情報誌で探した 2.6
精神障害者保健福祉手帳 n=66	障害者就労支援機関の利用 27.3	直接自分で探した 21.2	ハローワークの紹介／役所の紹介／新聞や求人情報誌で探した 6.1		

現在、就労されている方に仕事を見つけた方法をきいたところ、身体障害者手帳所持者では「直接自分で探した」、愛の手帳では「学校の紹介」、精神保健福祉手帳所持者では「障害者就労支援機関の利用」が最も高くなっている。

図 5-8 【経年比較】上位 5 項目 仕事を見つけた方法

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=236	直接自分で探した 21.2	障害者就労支援機関の利用 15.3	ハローワークの紹介 11.4	学校の紹介 9.7	友人や知人の紹介 5.9
2020年度 n=340	直接自分で探した 18.5	障害者就労支援機関の利用 16.5	学校の紹介 8.8	友人や知人の紹介 7.9	ハローワークの紹介 6.8
2017年度 n=287	直接自分で探した 20.9	障害者就労支援機関の利用 15.7	学校の紹介 13.6	ハローワークの紹介 10.1	友人や知人の紹介 8.7
2014年度 n=261	直接自分で探した 14.2	学校の紹介 13.8	障害者就労支援機関の利用 13.4	ハローワークの紹介 11.5	友人や知人の紹介 7.3
2011年度 n=277	直接自分で探した/障害者就労支援機関 14.1		学校の紹介 11.6	友人や知人の紹介 6.9	ハローワークの紹介 5.4

仕事を見つけた方法を経年変化でみると、いずれの年度においても「直接自分で探した」が高くなっている。



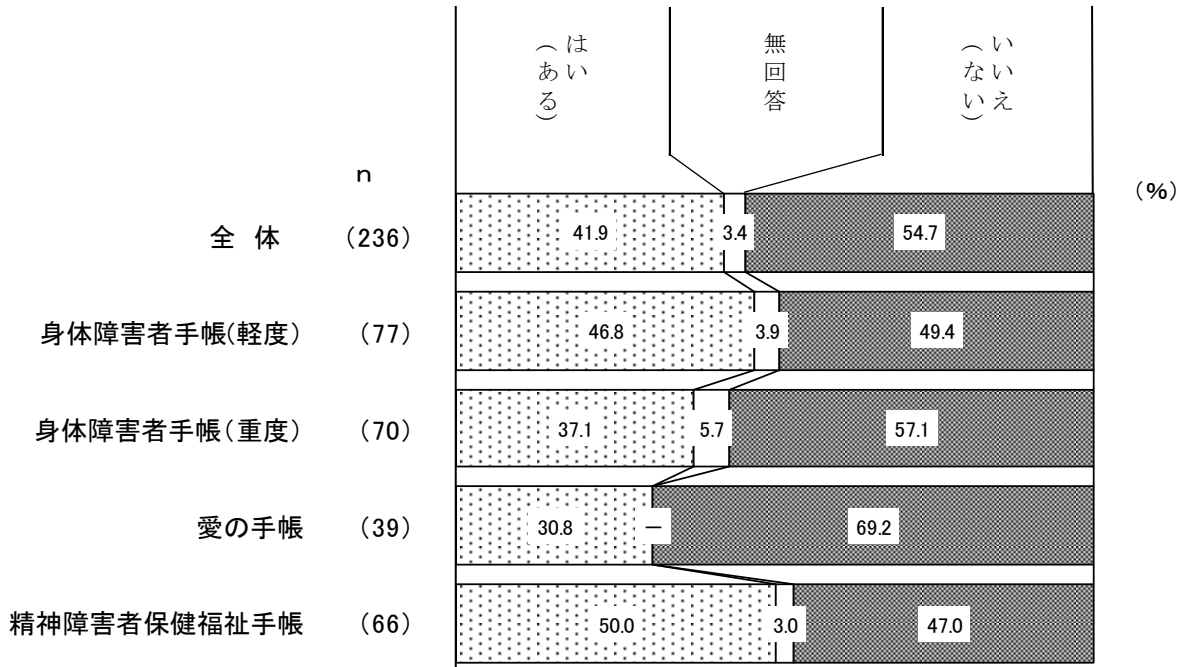
5.1.3. 仕事や職場への不安や不満の有無

◆仕事や職場への不安や不満は「いいえ（ない）」が5割台半ば

(問18で「1. はい」とお答えの方に)

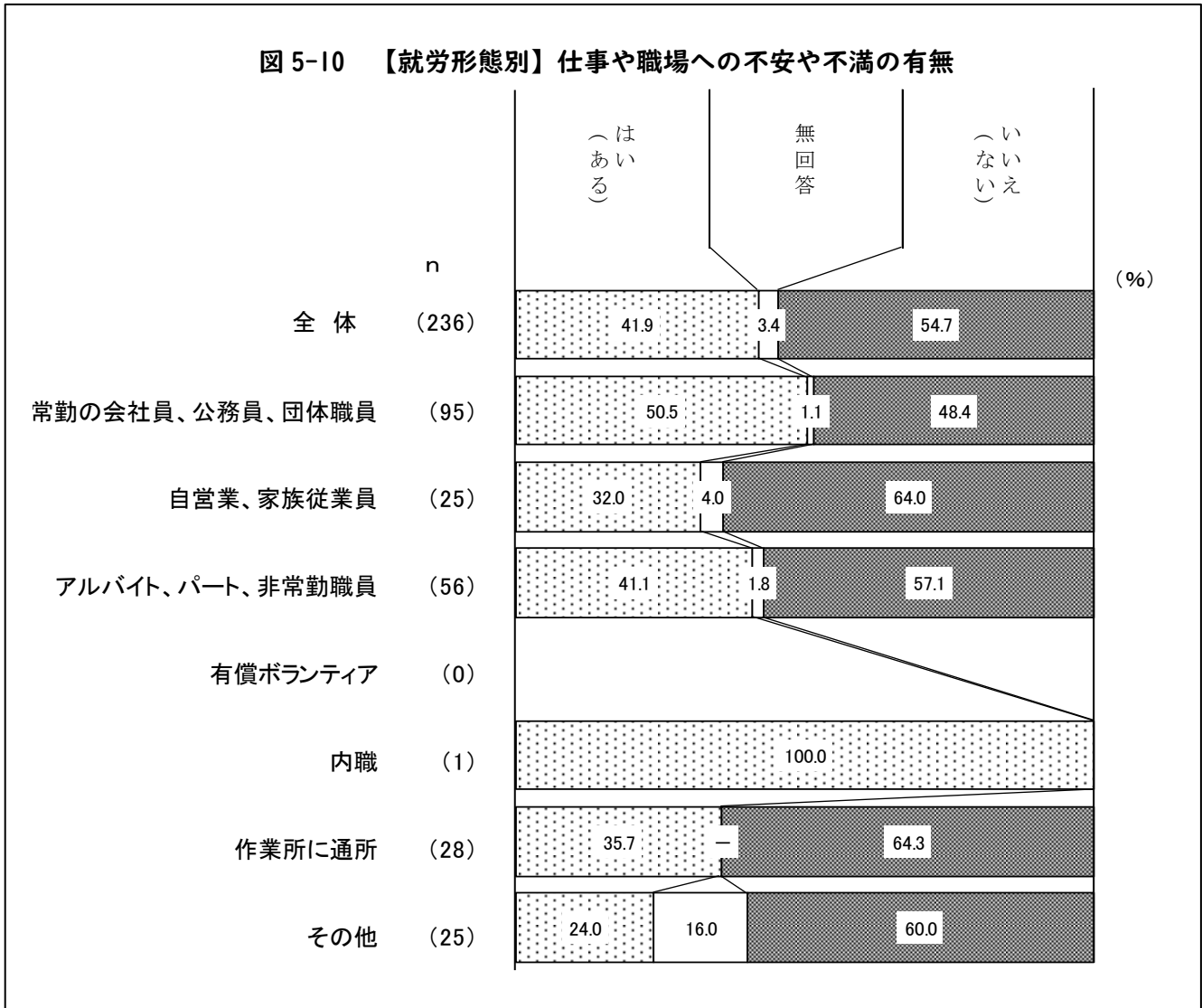
問18-3. あなた(あて名の方ご本人)は、現在の仕事に関して不安や不満はありますか。(〇は1つ)

図5-9 【所持手帳別】仕事や職場への不安や不満の有無



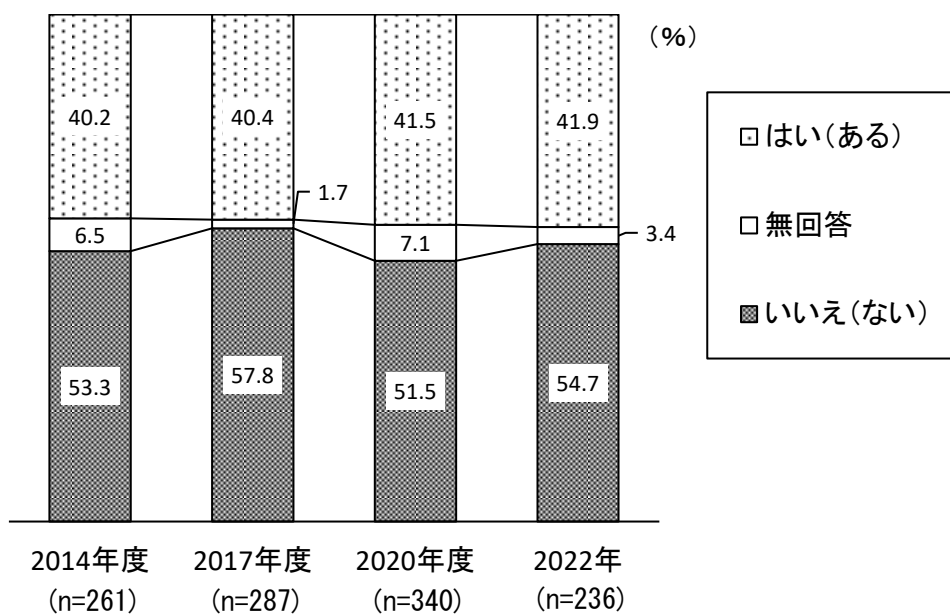
現在、就労されている方に仕事の不安や不満の有無をきいたところ、全体としては「いいえ（ない）」が5割台半ばとなっているが、精神障害者保健福祉手帳所持者や身体障害者手帳所持者（軽度）で「はい（ある）」が他と比べてやや高くなっており、特に精神障害者保健福祉手帳所持者で「はい（ある）」が「いいえ（ない）」を上回っている。

図 5-10 【就労形態別】仕事や職場への不安や不満の有無



現在、就労されている方に仕事の不安や不満の有無をきいたところ、就労形態別でみると、「常勤の会社員、公務員、団体職員」で「はい (ある)」が半数を超えている。

図 5-11 【経年比較】仕事や職場への不安や不満の有無



※2011年度は調査項目なし。

仕事や職場への不安や不満の有無を経年変化で見ると、大きな変化はみられない。

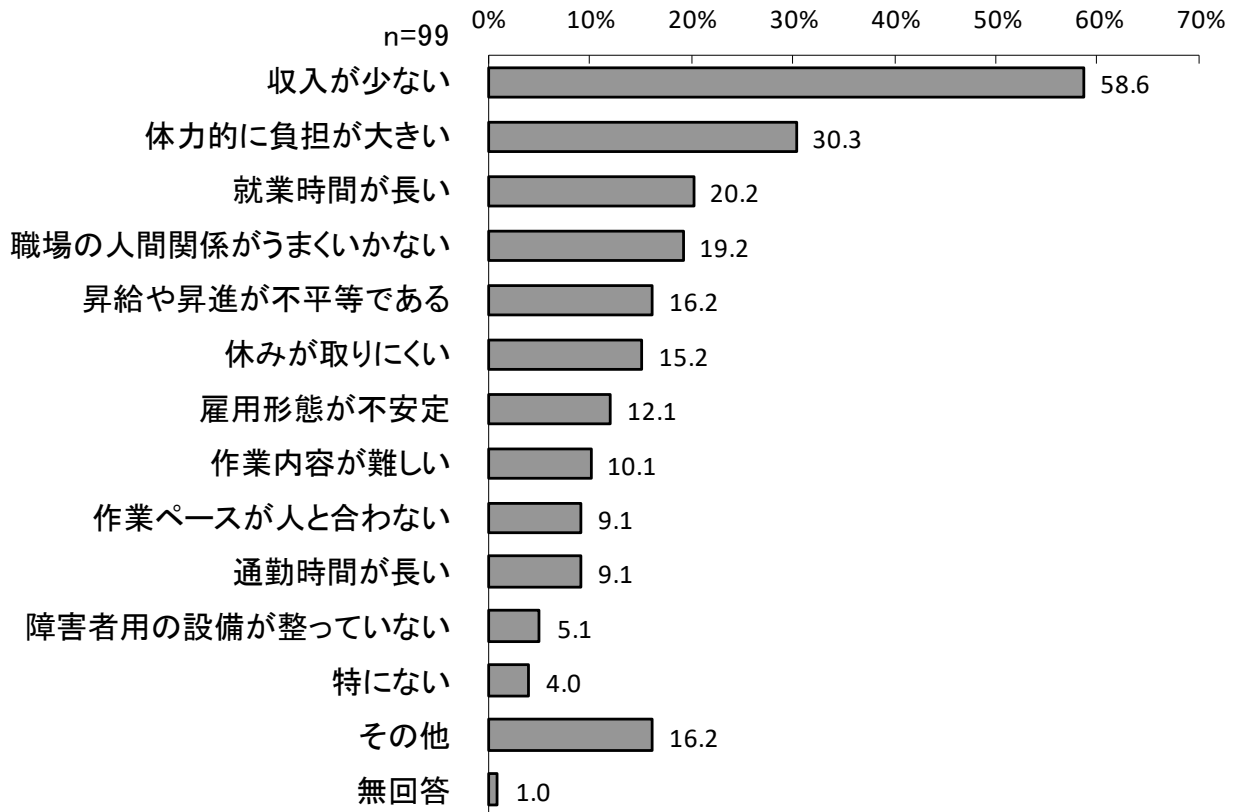
5.1.3.1. 仕事や職場への不安や不満

◆仕事や職場への不安や不満は「収入が少ない」が最も高い

(問 18-3 で「1. はい」とお答えの方に)

問 18-3-1. あなた(あて名の方ご本人)は、現在の仕事に関してどのような不安や不満がありますか。(あてはまるものすべてに○)

図 5-12 仕事や職場への不安や不満



仕事や職場への不安や不満があると回答した方に、その内容をきいたところ、「収入が少ない」が最も高くなっており、次いで「体力的に負担が大きい」「就業時間が長い」「職場の人間関係がうまくいかない」となっている。

図 5-13 【所持手帳別】上位 5 項目 仕事や職場への不安や不満

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=36	収入が少ない 63.9	体力的に負担 が大きい 30.6	就業時間が長 い 25.0	昇給や昇進が 不平等である 19.4	雇用形態が不 安定 16.7
身体障害者手帳(重度) n=26	収入が少ない 42.3	職場の人間関係がうまくい かない／体力的に負担が大きい 23.1	就業時間が長 い 19.2	作業内容が難 しい／休みが 取りにくい／作 業ペースが人 と合わない／ 昇給や昇進が 不平等である 11.5	
愛の手帳 n=12	収入が少ない 66.7	作業内容が難しい／就業時間 が長い 16.7	休みが取りにくい／体力的に負 担が大きい／障害者用の設備 が整っていない／昇給や昇進 が不平等である 8.3		
精神障害者保健福祉手帳 n=33	収入が少ない 54.5	体力的に負担 が大きい 39.4	職場の人間関 係がうまくい かない 33.3	就業時間が長 い 27.3	休みが取りにく い 24.2

仕事や職場への不安や不満の内容を所持手帳別で見ると、いずれの手帳所持者も「収入が少ない」の割合が最も高くなっている。

図 5-14 【経年比較】上位 5 項目 仕事や職場への不安や不満  
 <身体障害者手帳>

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度(軽度) n=36	収入が少ない 63.9	体力的に負担 が大きい 30.6	就業時間が長 い 25.0	昇給や昇進が 不平等である 19.4	雇用形態が不 安定 16.7
2022年度(重度) n=26	収入が少ない 42.3	職場の人間関係がうまくい かない/体力的に負担が大きい 23.1	就業時間が長 い 19.2	作業内容が難 しい/休みが 取りにくい/作 業ペースが人 と合わない/ 昇給や昇進が 不平等である 11.5	
2020年度(軽度) n=42	収入が少ない 47.6	体力的に負担 が大きい 16.7	休みが取りにく い 14.3	昇給や昇進が 不平等である 11.9	雇用形態が不 安定 9.5
2020年度(重度) n=41	収入が少ない 43.9	体力的に負担 が大きい 26.8	職場の人間関 係がうまくい かない 14.6	昇給や昇進が 不平等である 12.2	雇用形態が不 安定 9.8
2017年度(軽度) n=48	収入が少ない 43.8	体力的に負担 が大きい 33.3	休みが取りにく い/昇給や昇進 が不平等である 22.9	就業時間が長 い 20.8	
2017年度(重度) n=37	収入が少ない 56.8	昇給や昇進が 不平等である 32.4	休みが取りにく い 29.7	雇用形態が不 安定 24.3	体力的に負担 が大きい 21.6
2014年度(軽度) n=29	収入が少ない 69.0	体力的に負担 が大きい 31.0	昇給や昇進が 不平等である 27.6	休みが取りにく い 24.1	就業時間が長 い/雇用形態 が不安定 20.7
2014年度(重度) n=21	収入が少ない 57.1	体力的に負担が大きい/雇用 形態が不安定 14.3	休みが取りにくい/就業時間が 長い/職場の人間関係がうまく いかない/通勤時間が長い 9.5		
2011年度 n=152	収入が少ない 27.6	休みが取りにく い 12.5	体力的に負担 が大きい 11.8	雇用形態が不 安定 5.9	就業時間が長 い/障害者用 の設備が整っ ていない/昇給 や昇進が不平 等である/通勤 時間が長い 3.9

※2011年度の調査では重度と軽度をわけていない。

<愛の手帳>

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=12	収入が少ない 66.7	作業内容が難しい／就業時間が長い 16.7	休みが取りにくい／体力的に負担が大きい／障害者用の設備が整っていない／昇給や昇進が不平等である 8.3		
2020年度 n=26	収入が少ない 46.2	体力的に負担が大きい 11.5	作業内容が難しい／作業ペースが人と合わない／雇用形態が不安定／昇給や昇進が不平等である／通勤時間が長い 7.7		
2017年度 n=18	収入が少ない 55.6	体力的に負担が大きい 22.2	休みが取りにくい／職場の人間関係がうまくいかない 16.7	通勤時間が長い 11.1	
2014年度 n=28	収入が少ない 46.4	職場の人間関係がうまくいかない 32.1	作業ペースが人と合わない／障害者用の設備が整っていない／通勤時間が長い 17.9		
2011年度 n=79	収入が少ない 43.0	職場の人間関係がうまくいかない 7.6	休みが取りにくい／作業ペースが人と合わない／通勤時間が長い 6.3		

<精神障害者保健福祉手帳>

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=33	収入が少ない 54.5	体力的に負担が大きい 39.4	職場の人間関係がうまくいかない 33.3	就業時間が長い 27.3	休みが取りにくい 24.2
2020年度 n=38	収入が少ない 60.5	職場の人間関係がうまくいかない 31.6	体力的に負担が大きい 21.1	雇用形態が不安定／昇給や昇進が不平等である 18.4	
2017年度 n=21	収入が少ない 76.2	体力的に負担が大きい 42.9	休みが取りにくい／職場の人間関係がうまくいかない 38.1	雇用形態が不安定 23.8	
2014年度 n=34	収入が少ない 76.5	雇用形態が不安定 47.1	体力的に負担が大きい 29.4	職場の人間関係がうまくいかない 23.5	休みが取りにくい／就業時間が長い 20.6
2011年度 n=29	収入が少ない 51.7	職場の人間関係がうまくいかない 24.1	体力的に負担が大きい 17.2	作業ペースが人と合わない 13.8	雇用形態が不安定／障害者用の設備が整っていない／昇給や昇進が不平等である 10.3

仕事や職場への不安や不満の内容を経年比較でみると、すべての手帳所持者においていずれの年度も「収入が少ない」が最も高くなっている。

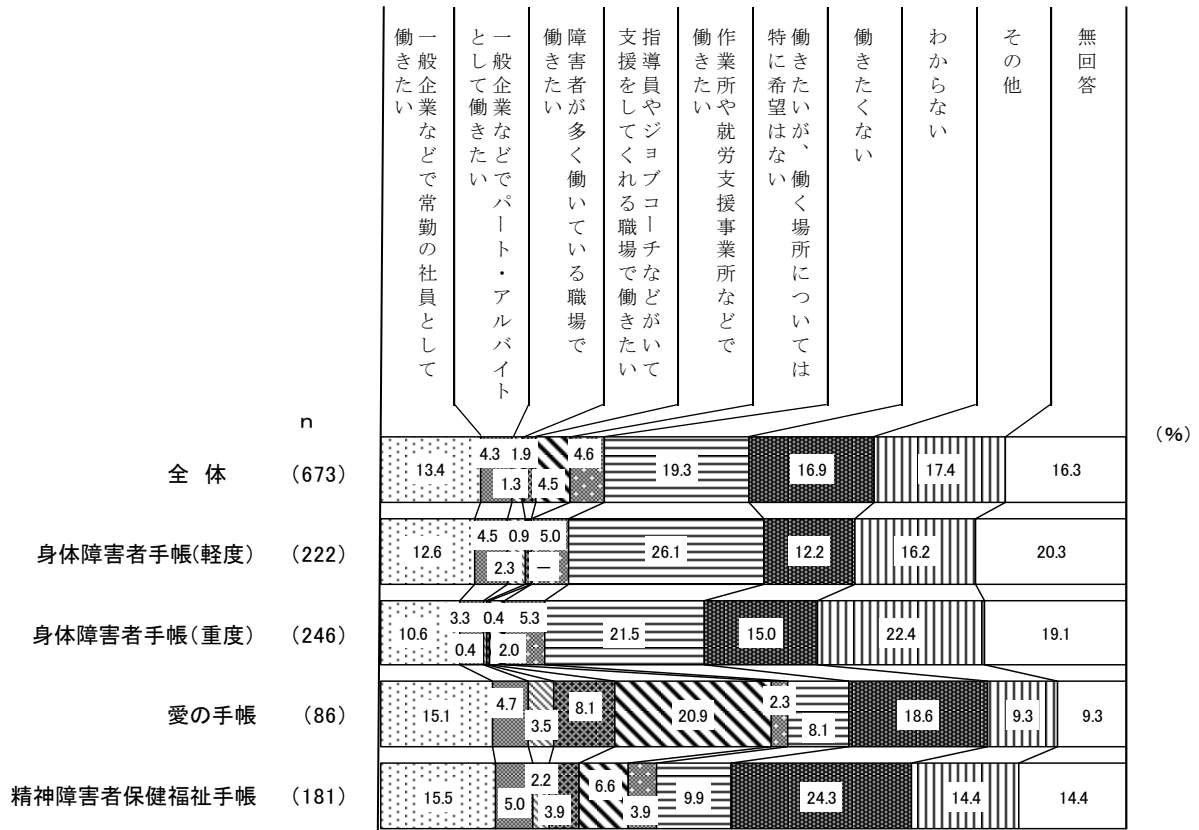
5.2. 希望する働き方

◆希望する働き方は、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」が1割台前半

(全員の方に)

問19. あなた(あて名の方のご本人)は、今後、どのように働きたいと思いますか。(〇は1つ)

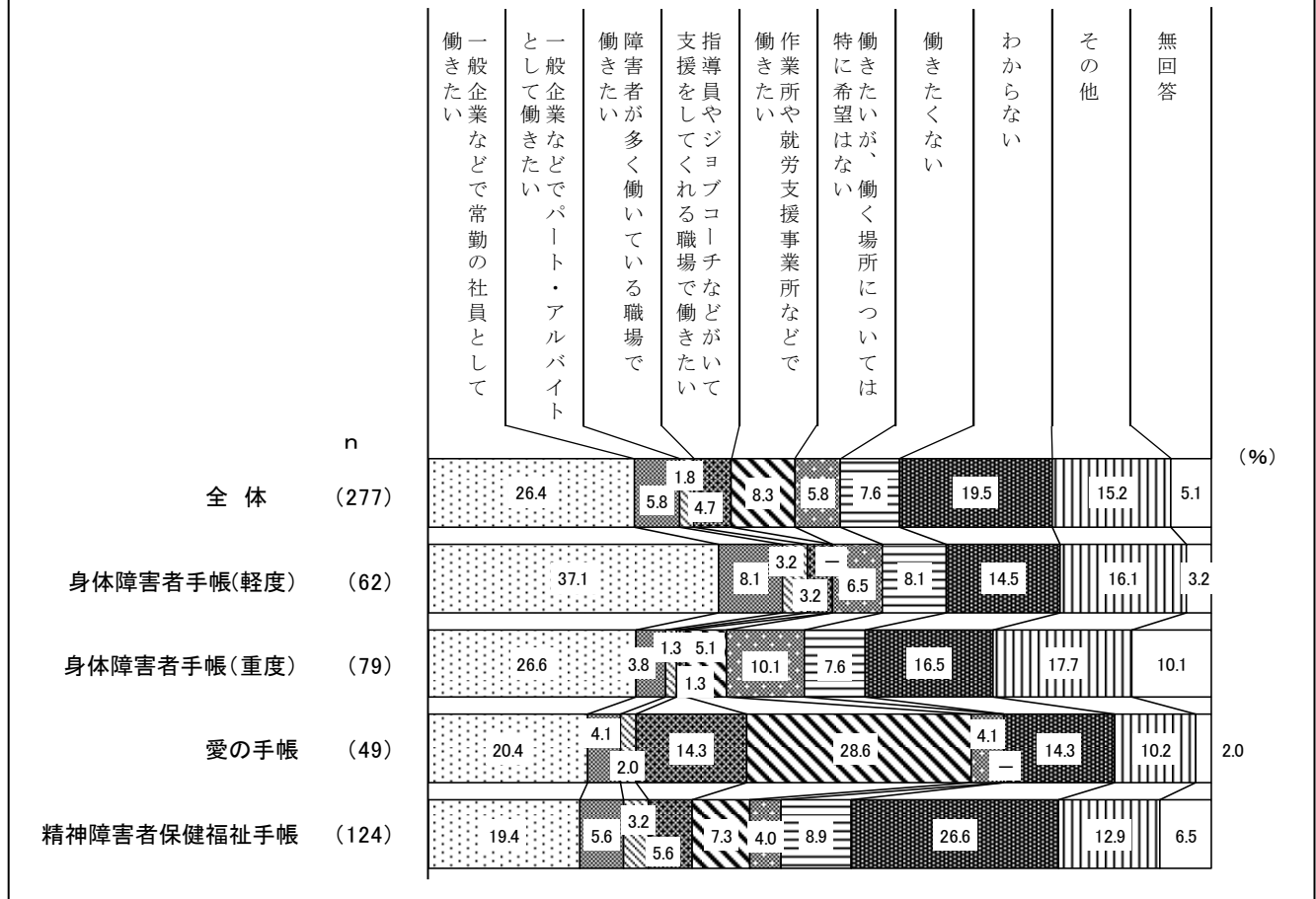
図5-15 【所持手帳別】希望する働き方



現在、就労されていない方に希望する働き方をきいたところ、全体では「働きたくない」が約2割で最も高く、「働きたい」の中では、「一般企業などで常勤の社員として働きたい」が1割台前半と最も高くなっている。所持手帳別では、愛の手帳所持者で「作業所や就労支援事業所などで働きたい」が最も高くなっている。

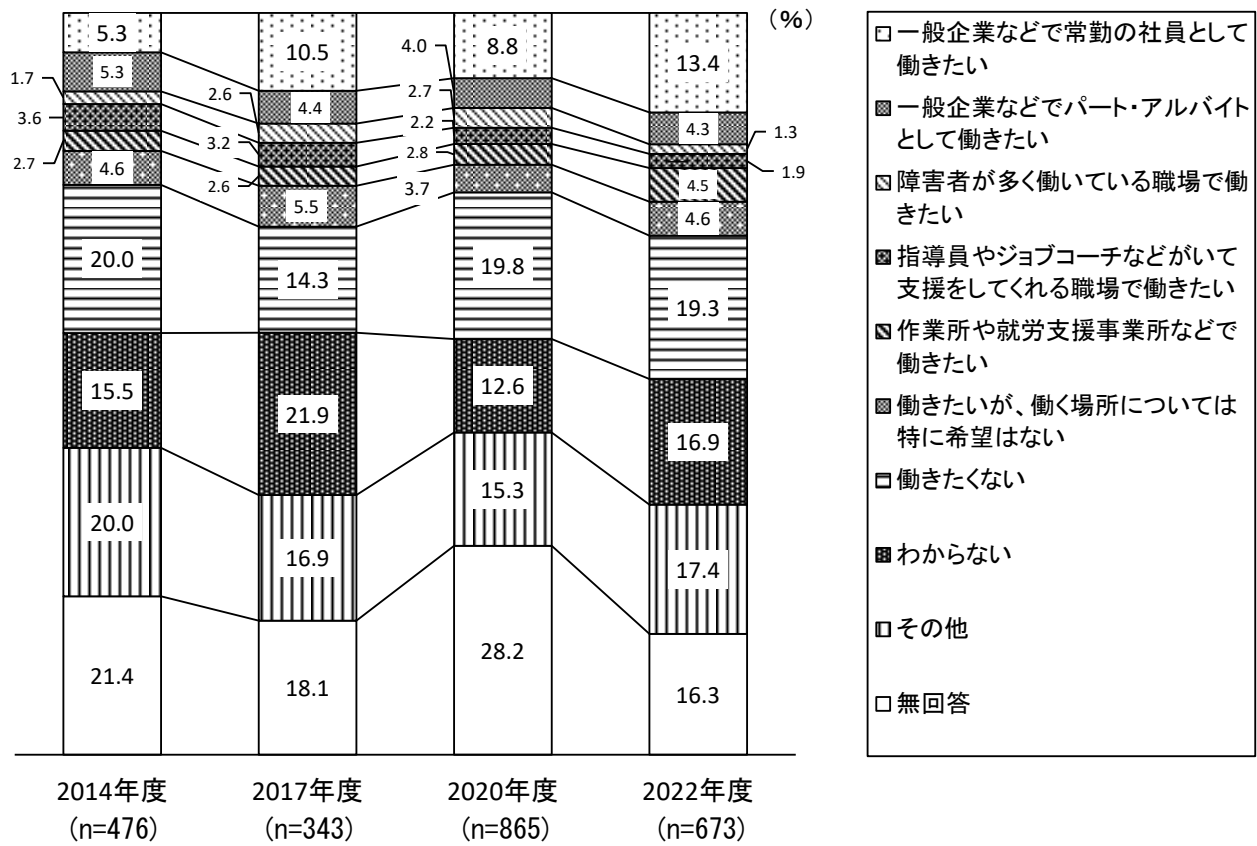


図 5-16 【所持手帳別】生産年齢人口（15歳以上 65歳未満）の希望する働き方



生産年齢人口の希望する働き方をきいたところ、身体障害者手帳所持者では「一般企業などで常勤の社員として働きたい」、愛の手帳所持者では「作業所や就労支援事業所などで働きたい」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「わからない」が最も高くなっている。

図 5-17 【経年比較】希望する働き方



※2011年度は複数回答形式であったため、比較対象外とする。

希望する働き方を経年比較で見ると、2020年度に比べ「一般企業などで常勤の社員として働きたい」が4.6ポイント増加している。

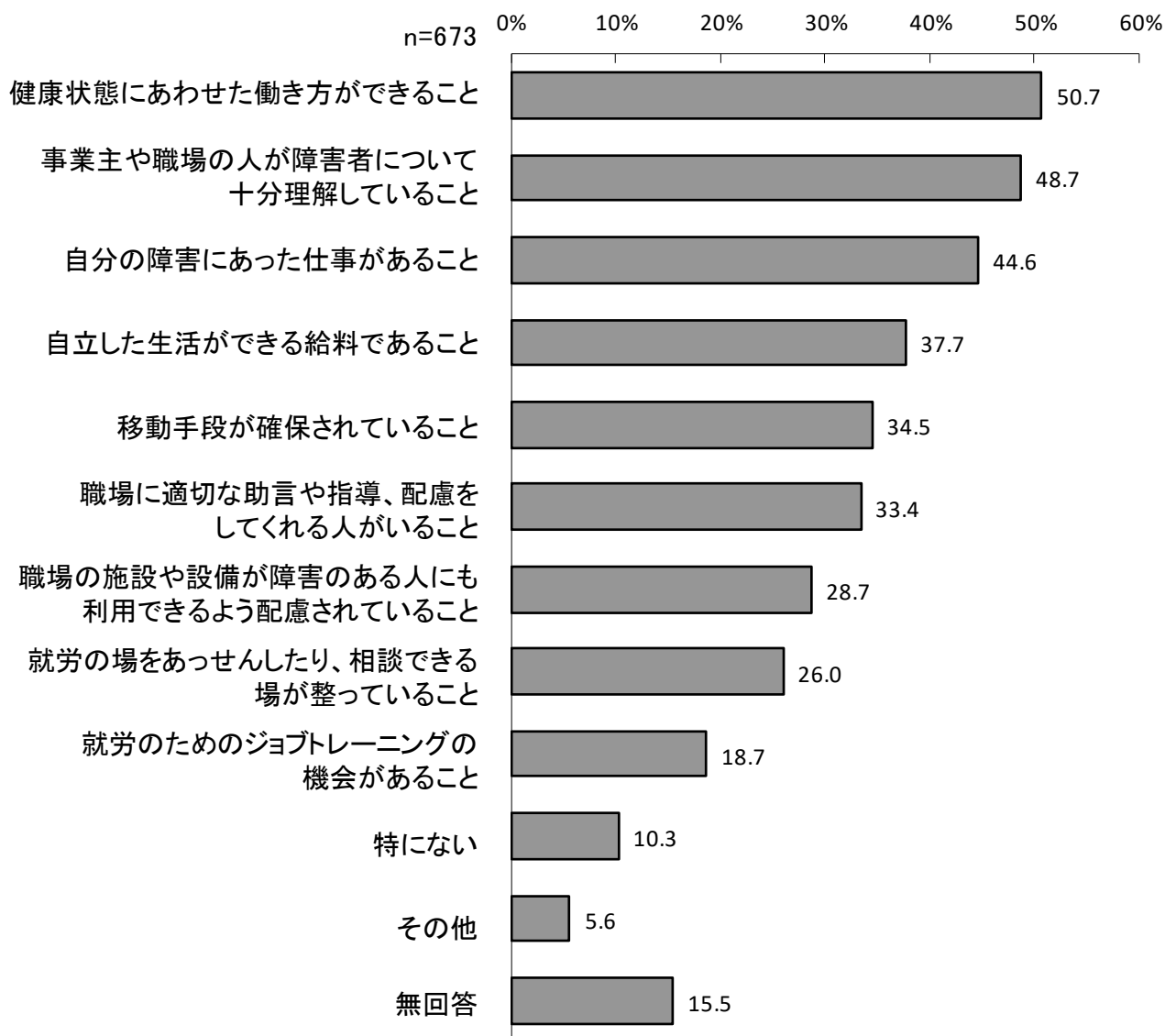
5.3. 障害者が働くための環境整備

◆働く環境として大切なことは「健康状態にあわせた働き方ができること」が約5割

(全員の方に)

問 20. あなた(あて名の方ご本人)は、障害者が働くためには、どのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図 5-18 障害者が働くための環境整備



障害者が働くために大切な環境整備は、「健康状態にあわせた働き方ができること」が最も高くなっており、次いで「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」「自分の障害にあった仕事があること」「自立した生活ができる給料であること」となっている。

図 5-19 【所持手帳別】上位 5 項目 障害者が働くための環境整備

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=222	健康状態にあ わせた働き方 ができること 46.8	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 45.9	自分の障害に あった仕事 があること 43.2	移動手段が確 保されているこ と 37.8	職場の施設や 設備が障害の ある人にも利 用できるよう配 慮されているこ と 34.7
身体障害者手帳(重度) n=246	健康状態にあ わせた働き方 ができること 48.0	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 41.5	自分の障害に あった仕事 があること 37.0	移動手段が確 保されているこ と 32.5	自立した生活 ができる給料 であること 31.3
愛の手帳 n=86	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 64.0	自分の障害に あった仕事 があること 59.3	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてくれ る人がいること 58.1	健康状態にあ わせた働き方 ができること 47.7	自立した生活 ができる給料 であること 45.3
精神障害者保健福祉手帳 n=181	健康状態にあ わせた働き方 ができること 59.7	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 51.9	自分の障害に あった仕事 があること 50.8	自立した生活 ができる給料 であること 44.2	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてくれ る人がいること 39.8

障害者が働くための環境整備を所持手帳別に見ると、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳では「健康状態にあわせた働き方ができること」が、愛の手帳では「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」が最も高くなっている。

図 5-20 【経年比較】上位 5 項目 障害者が働くための環境整備

(%)

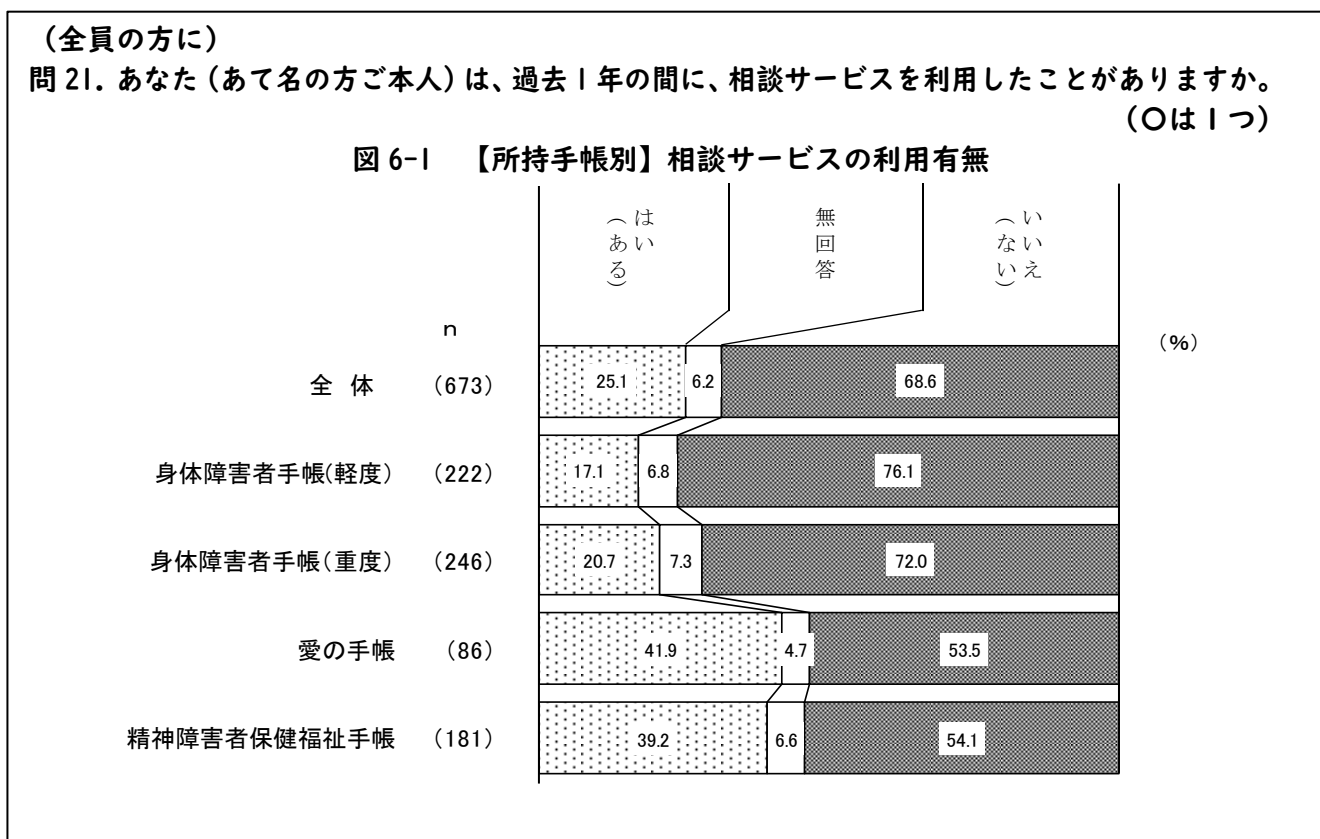
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=673	健康状態にあ わせた働き方 ができること 50.7	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 48.7	自分の障害に あった仕事 があること 44.6	自立した生活 ができる給料 であること 37.7	移動手段が確 保されているこ と 34.5
2020年度 n=865	健康状態にあ わせた働き方 ができること 50.2	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 48.2	自分の障害に あった仕事 があること 44.6	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてくれ る人がいること 36.1	自立した生活 ができる給料 であること 34.7
2017年度 n=645	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 58.0	健康状態にあ わせた働き方 ができること 55.3	自分の障害に あった仕事 があること 50.7	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてくれ る人がいること 43.4	自立した生活 ができる給料 であること 41.6
2014年度 n=772	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 51.0	健康状態にあ わせた働き方 ができること 48.3	自分の障害に あった仕事 があること 47.8	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてくれ る人がいること 40.2	自立した生活 ができる給料 であること 37.7
2011年度 n=860	事業主や職場 の人が障害者 について十分 理解しているこ と 50.0	健康状態にあ わせた働き方 ができること 44.8	自分の障害に あった仕事 があること 44.4	職場に適切な 助言や指導、 配慮をしてくれ る人がいること 37.9	自立した生活 ができる給料 であること 32.7

障害者が働くための環境整備を経年比較で見ると、いずれの年度においても、「事業主や職場の人が障害者について十分理解していること」「健康状態にあわせた働き方ができること」が上位にあげられている。

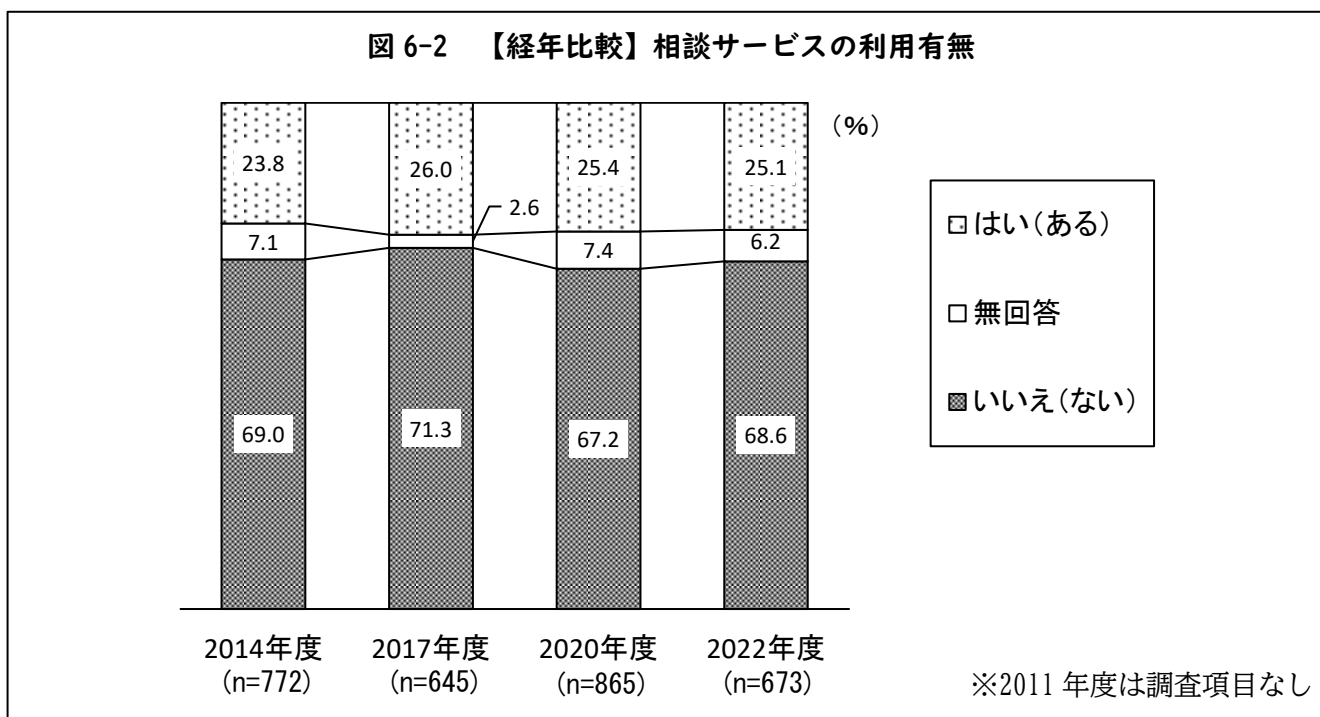
## 6. 健康福祉サービスについて

### 6.1. 相談サービスの利用有無

◆相談サービスの利用は愛の手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者では「ある」が約4割



過去1年間の相談サービスの利用の有無は、「はい(ある)」が愛の手帳及び精神障害者保健福祉手帳所持者で約4割となっている。



過去1年間の相談サービスの利用の有無を経年比較でみると、大きな変化はみられない。

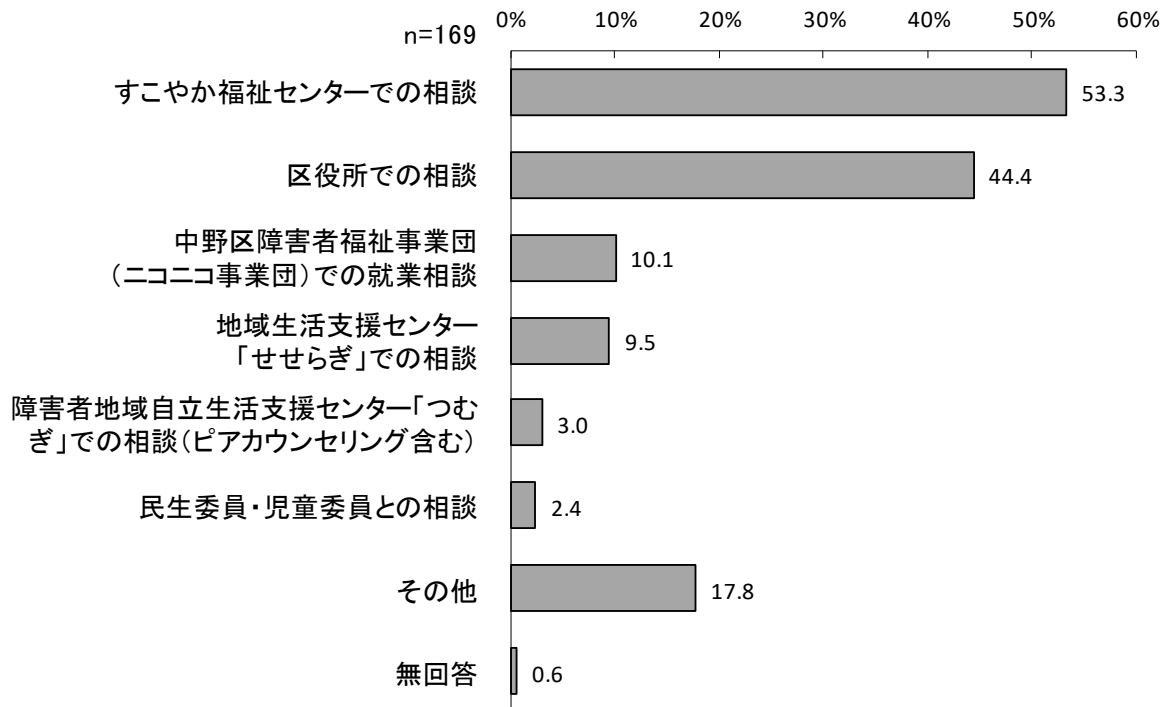
6.1.1. 利用した相談サービス

◆利用した相談サービスは「すこやか福祉センターでの相談」が5割台前半

(問21で「1. はい」とお答えの方に)

問21-1. 利用した相談サービスをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

図6-3 利用した相談サービス



相談サービスを利用したと回答した方に、利用したサービスをきいたところ、「すこやか福祉センターでの相談」が5割台前半と最も高くなっており、次いで「区役所での相談」「中野区障害者福祉事業団（ニコニコ事業団）での就業相談」「地域生活支援センター『せせらぎ』での相談」となっている。

図 6-4 【所持手帳別】上位 5 項目 利用した相談サービス

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=38	区役所での相談 47.4	すこやか福祉センターでの相談 44.7	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 5.3	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 2.6	—
身体障害者手帳(重度) n=51	区役所での相談 52.9	すこやか福祉センターでの相談 45.1	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 7.8	民生委員・児童委員との相談 5.9	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 3.9
愛の手帳 n=36	すこやか福祉センターでの相談 61.1	区役所での相談 50.0	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 22.2	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 5.6	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 2.8
精神障害者保健福祉手帳 n=71	すこやか福祉センターでの相談 56.3	区役所での相談 40.8	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 18.3	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 15.5	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 5.6

利用した相談サービスを所持手帳別で見ると、身体障害者手帳所持者では「区役所での相談」が、その他手帳所持者では「すこやか福祉センターでの相談」が最も高くなっている。

図 6-5 【経年比較】上位 5 項目 利用した相談サービス

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=169	すこやか福祉センターでの相談 53.3	区役所での相談 44.4	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 10.1	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 9.5	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 3.0
2020年度 n=220	すこやか福祉センターでの相談 52.7	区役所での相談 38.2	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 11.4	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 8.6	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 2.7
2017年度 n=168	区役所での相談 51.8	すこやか福祉センターでの相談 48.8	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 13.7	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 7.7	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 4.8
2014年度 n=184	区役所での相談 49.5	すこやか福祉センターでの相談 39.7	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 17.9	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 11.4	障害者地域自立生活支援センター「つむぎ」での相談(ピアカウンセリング含む) 3.8
2011年度 n=860	区役所での相談 21.2	保健福祉センターでの相談 13.1	中部すこやか福祉センターでの相談 4.7	中野区障害者福祉事業団(ニコニコ事業団)での就業相談 3.8	地域生活支援センター「せせらぎ」での相談 3.4

利用した相談サービスを経年比較で見ると、2020年度以降は「すこやか福祉センターでの相談」が第1位となっている。



6.2. 障害福祉サービス

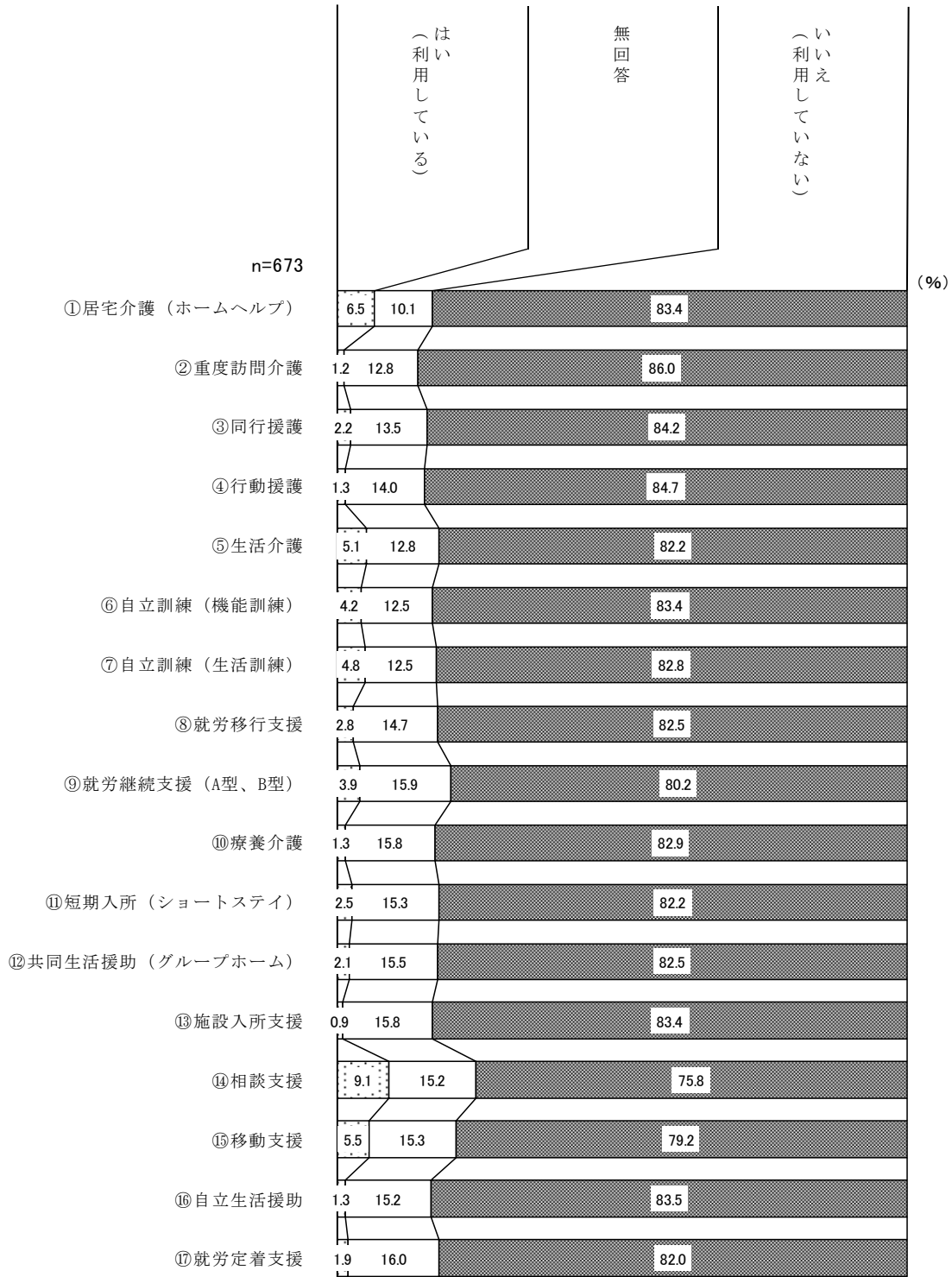
6.2.1. 障害福祉サービスの利用状況

◆障害福祉サービスの利用は「相談支援」「居宅介護（ホームヘルプ）」が多い

（全員の方に）

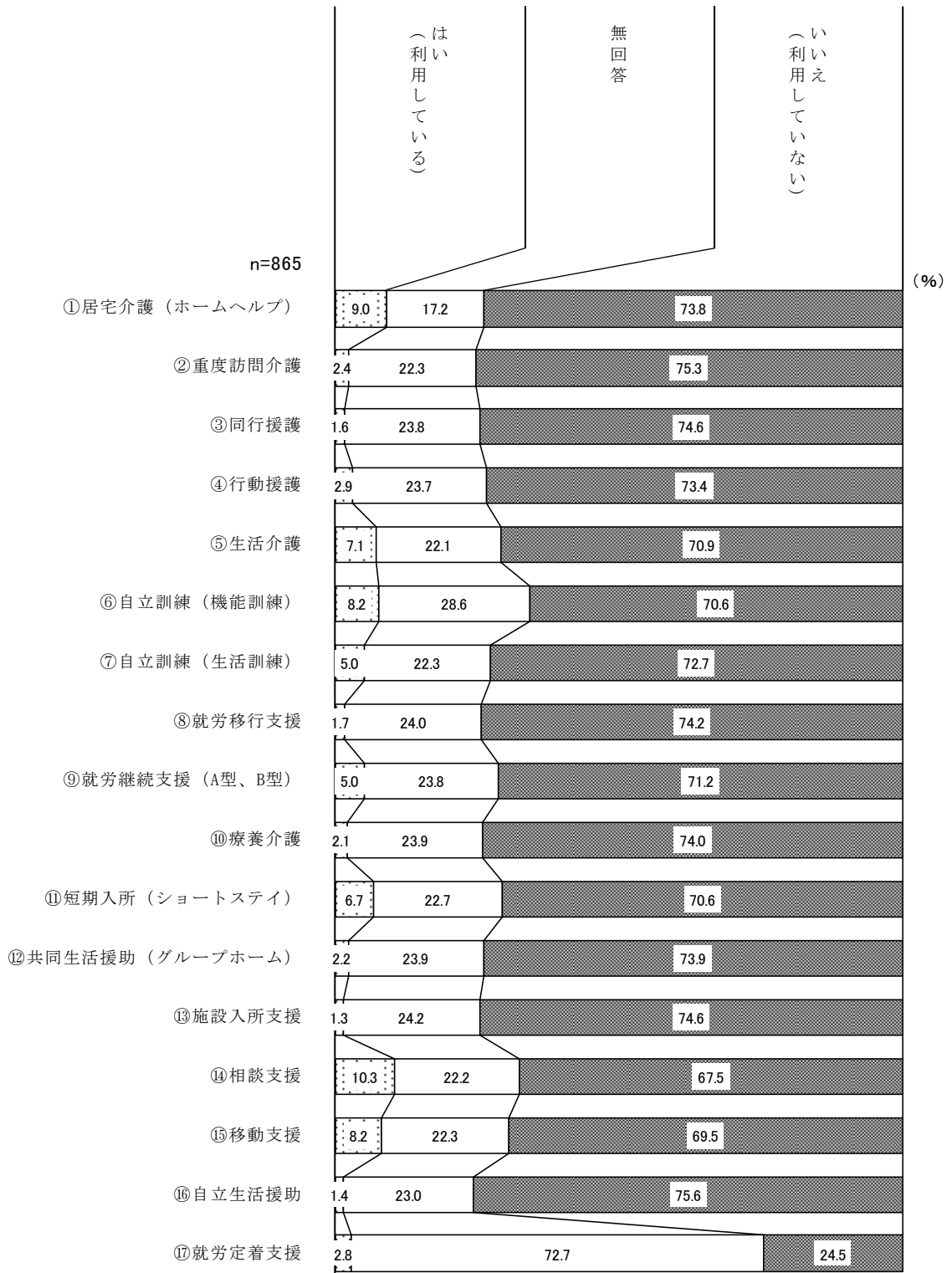
問 22. あなた（あて名の方ご本人）は、次のサービスを利用していますか。（それぞれ〇は1つ）

図 6-6 障害福祉サービスの利用状況（2022 年度）



障害福祉サービスの利用状況は、全体として利用は少ないが、多いものから「相談支援」「居宅介護（ホームヘルプ）」「移動支援」「生活介護」の順となっている。

図 6-7 障害福祉サービスの利用状況（2020 年度）



障害福祉サービスの利用状況は、2022 年は 2020 年に比べ、「短期入所（ショートステイ）」が 4.2 ポイント、「自立訓練（機能訓練）」が 4.0 ポイントの減少となっている。

6.2.2. 障害福祉サービスの利用意向

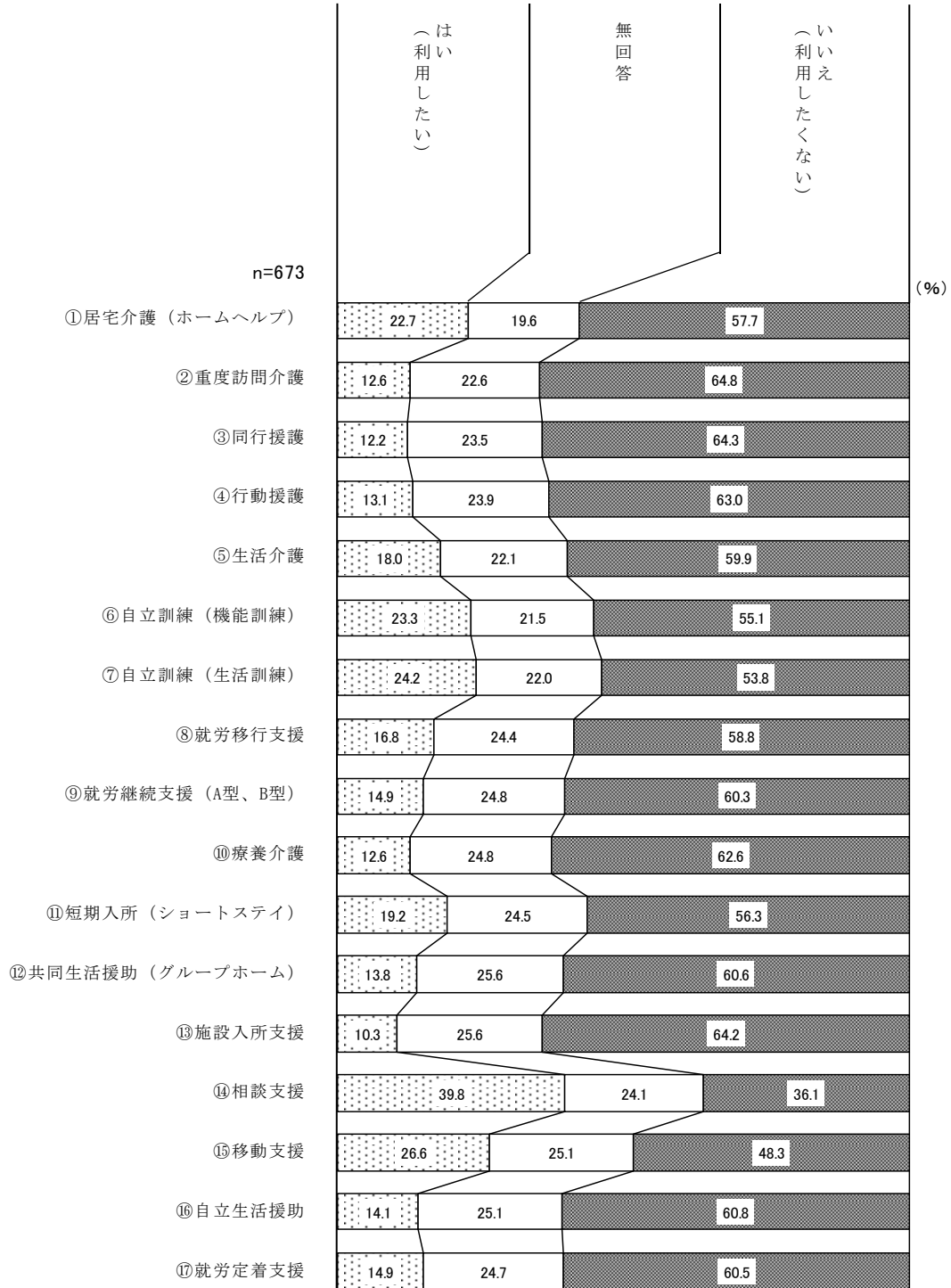
◆今後利用したい障害福祉サービスは「相談支援」が約4割

(全員の方に)

問 22. あなた(あて名の方ご本人)は、次のサービスを今後利用したいと考えますか。

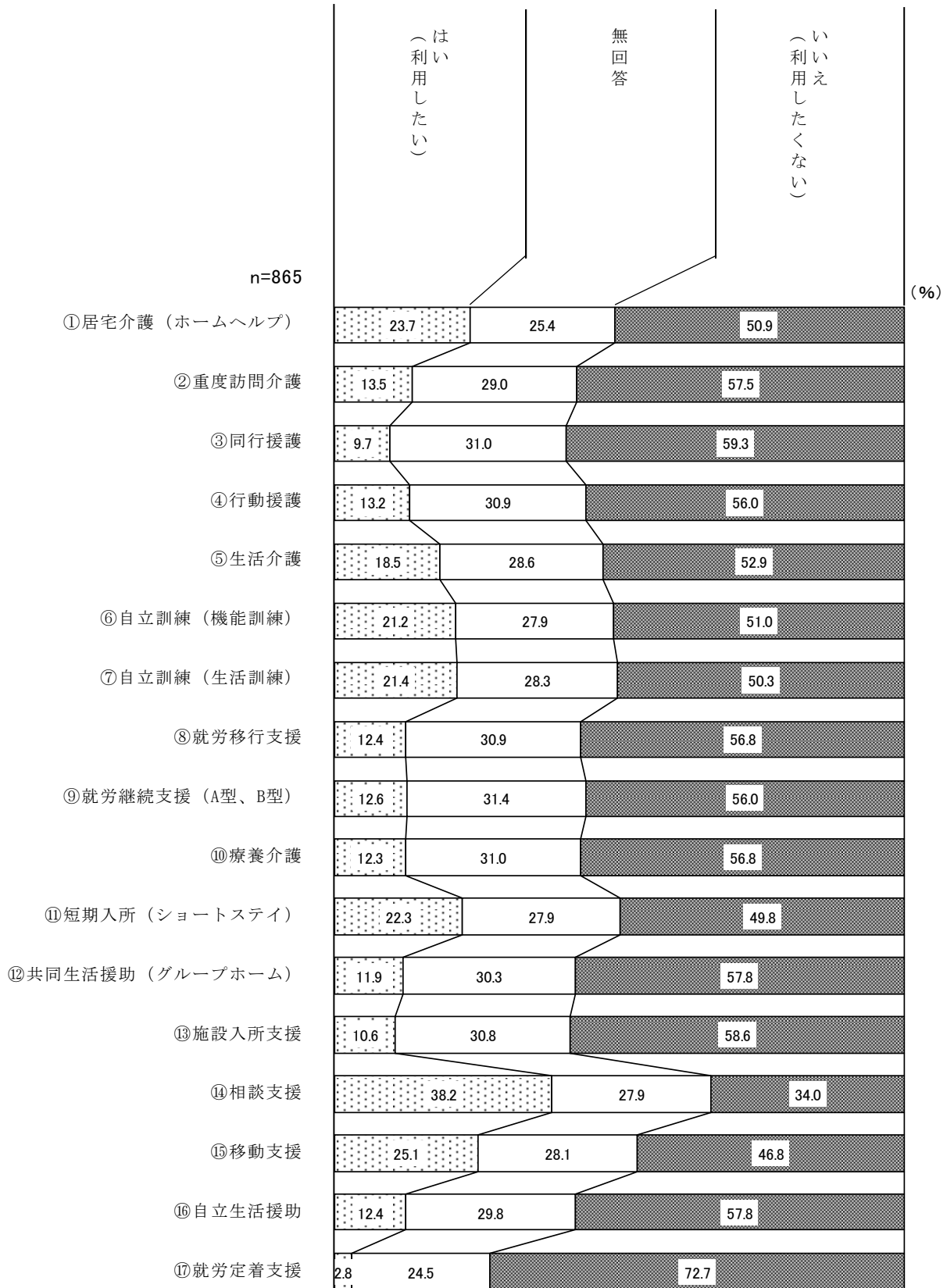
(それぞれ〇は1つ)

図 6-8 障害福祉サービスの利用意向 (2022 年度)



今後利用したいサービスとしては、「相談支援」が約4割と最も高くなっている。

図 6-9 障害福祉サービスの利用意向（2020 年度）



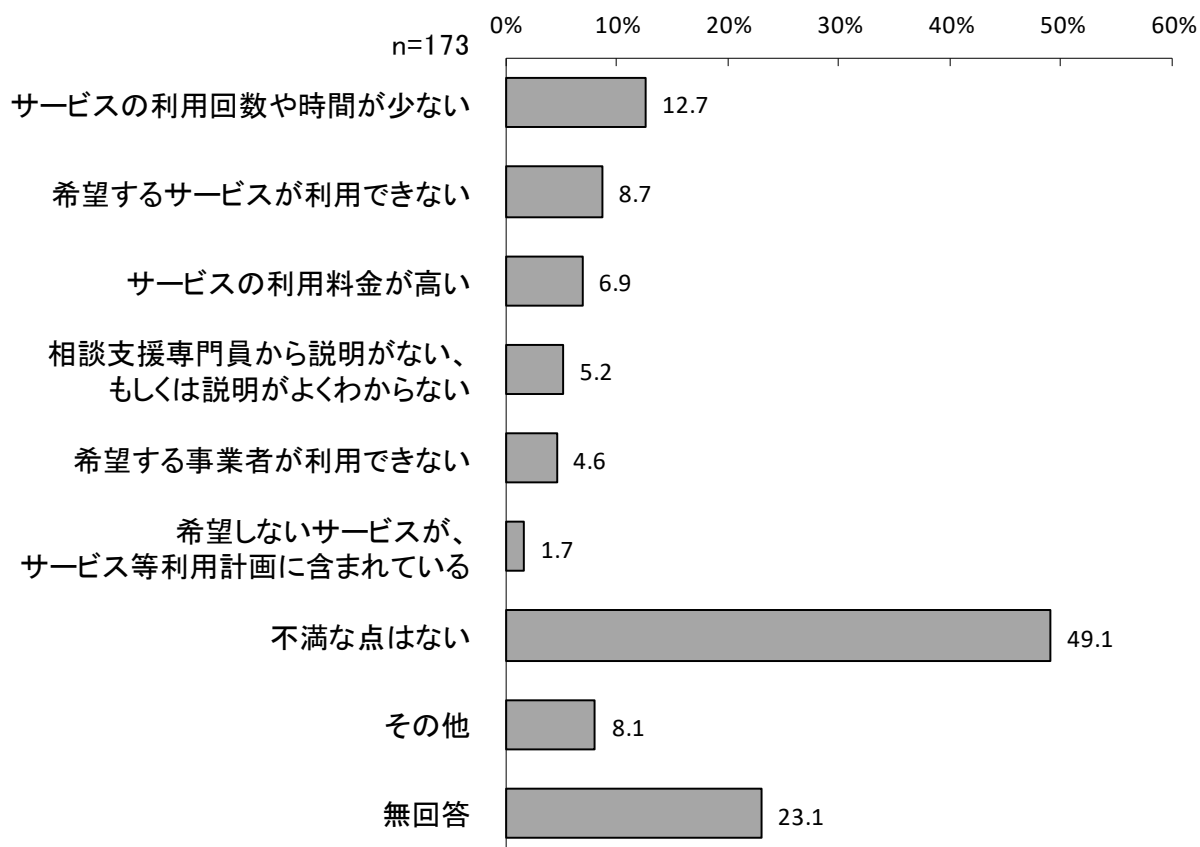
今後利用したいサービスは、2022 年度は 2020 年度に比べ、「就労定着支援」が 12.1 ポイント、「就労移行支援」が 4.4 ポイントの増加となっている。

6.2.3. サービス等利用計画について不満に思うこと

◆サービス等利用計画について、不満に思うことは「サービスの利用回数や時間が少ない」が1割台前半

(問22の「現在利用していますか」の設問で、1つ以上「1. はい」とお答えの方に)  
 問22-1. あなた(あて名の方ご本人)がサービス等利用計画について、不満に思うことを次の中から選んでください。(あてはまるものすべてに○)

図6-10 サービス等利用計画について不満に思うこと



サービス等利用計画については「不満な点はない」が最も高いが、不満に思う点の中では、「サービスの利用回数や時間が少ない」が1割台前半となっており、次いで「希望するサービスが利用できない」「サービスの利用料金が低い」となっている。

図 6-11 【所持手帳別】上位5項目 サービス等利用計画について不満に思うこと

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=31	不満な点はない 29.0	サービスの利用回数や時間が少ない 9.7	希望するサービスが利用できない／相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない 6.5		希望しないサービスが、サービス等利用計画に含まれている／サービスの利用料金が低い 3.2
身体障害者手帳(重度) n=69	不満な点はない 46.4	サービスの利用回数や時間が少ない 13.0	希望するサービスが利用できない／サービスの利用料金が低い 8.7		希望する事業者が利用できない／相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない 4.3
愛の手帳 n=47	不満な点はない 55.3	サービスの利用回数や時間が少ない 12.8	希望するサービスが利用できない 8.5	希望する事業者が利用できない／相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない 4.3	
精神障害者保健福祉手帳 n=60	不満な点はない 55.0	希望するサービスが利用できない 10.0	希望する事業者が利用できない／サービスの利用回数や時間が少ない 8.3		サービスの利用料金が低い／相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない 6.7

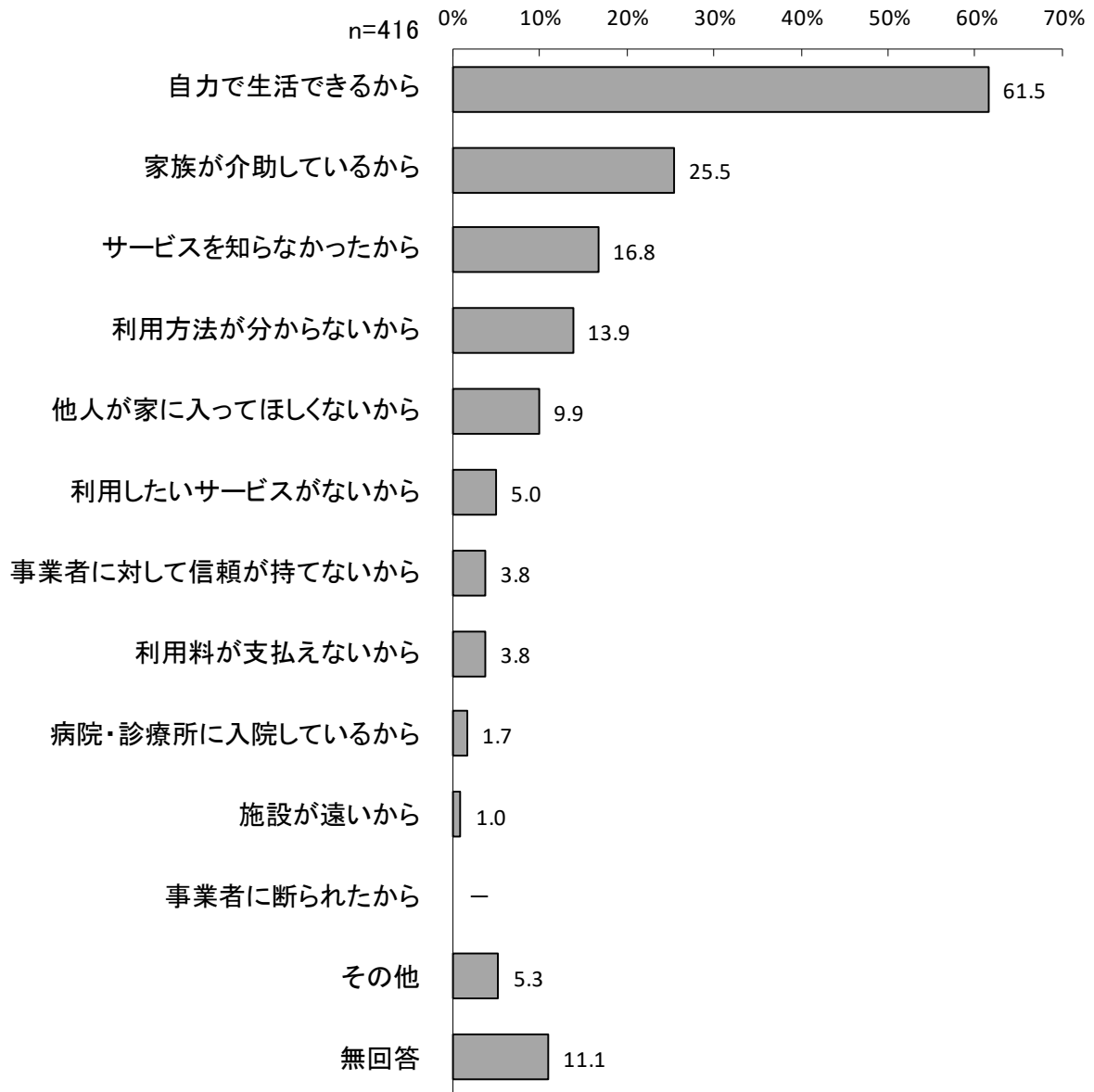
サービス等利用計画について不満に思うことを所持手帳別で見ると、いずれの手帳所持者も「不満な点はない」が最も高いが、不満に思う点の中では、身体障害者手帳所持者及び愛の手帳所持者において「サービスの利用回数や時間が少ない」、精神障害者保健福祉手帳所持者において「希望するサービスが利用できない」が最も高くなっている。

6.2.4. 障害福祉サービスを利用していない理由

◆障害福祉サービスを利用していない理由は、「自力で生活できるから」が最も高い

(問 22 の「現在利用していますか」の設問で、全てに「2. いいえ」とお答えの方に)  
 問 22-2. 障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図 6-12 障害福祉サービスを利用していない理由



障害福祉サービスを利用していない理由は、「自力で生活できるから」が約6割と最も高くなっている。

図 6-13 【所持手帳別】上位5項目 障害福祉サービスを利用していない理由

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=154	自力で生活できるから 70.8	家族が介助しているから 24.7	サービスを知らなかったから 13.6	他人が家に入ってほしくないから 8.4	利用方法が分からないから 7.8
身体障害者手帳(重度) n=145	自力で生活できるから 64.1	家族が介助しているから 28.3	サービスを知らなかったから 13.1	利用方法が分からないから 10.3	他人が家に入ってほしくないから 4.1
愛の手帳 n=33	自力で生活できるから 42.4	家族が介助しているから 36.4	利用方法が分からないから 30.3	サービスを知らなかったから 18.2	他人が家に入ってほしくないから/事業者に対して信頼が持てないから 15.2
精神障害者保健福祉手帳 n=107	自力で生活できるから 48.6	サービスを知らなかったから 25.2	利用方法が分からないから 22.4	家族が介助しているから 20.6	他人が家に入ってほしくないから 18.7

障害福祉サービスを利用していない理由を所持手帳別で見ると、すべての手帳所持者で「自力で生活できるから」が最も高くなっている。

図 6-14 【経年比較】上位5項目 障害福祉サービスを利用していない理由

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=416	自力で生活できるから 61.5	家族が介助しているから 25.5	サービスを知らなかったから 16.8	利用方法が分からないから 13.9	他人が家に入ってほしくないから 9.9
2020年度 n=408	自力で生活できるから 65.7	家族が介助しているから 26.7	利用方法が分からないから 11.3	利用したいサービスがないから 10.3	サービスを知らなかったから 9.8
2017年度 n=354	自力で生活できるから 58.8	家族が介助しているから 25.7	サービスを知らなかったから 14.7	利用したいサービスがないから 11.9	利用方法が分からないから 11.3
2014年度 n=627	自力で生活できるから 37.5	家族が介助しているから 27.6	利用方法が分からないから 9.7	他人が家に入ってほしくないから 9.3	サービスを知らなかったから 8.8
2011年度 n=656	自力で生活できるから 54.4	家族が介助しているから 30.8	利用方法が分からないから/サービスを知らなかったから 11.6	他人に家へ入ってほしくないから 7.3	

障害福祉サービスを利用していない理由を経年比較で見ると、いずれの年度においても「自力で生活できるから」が最も高くなっている。



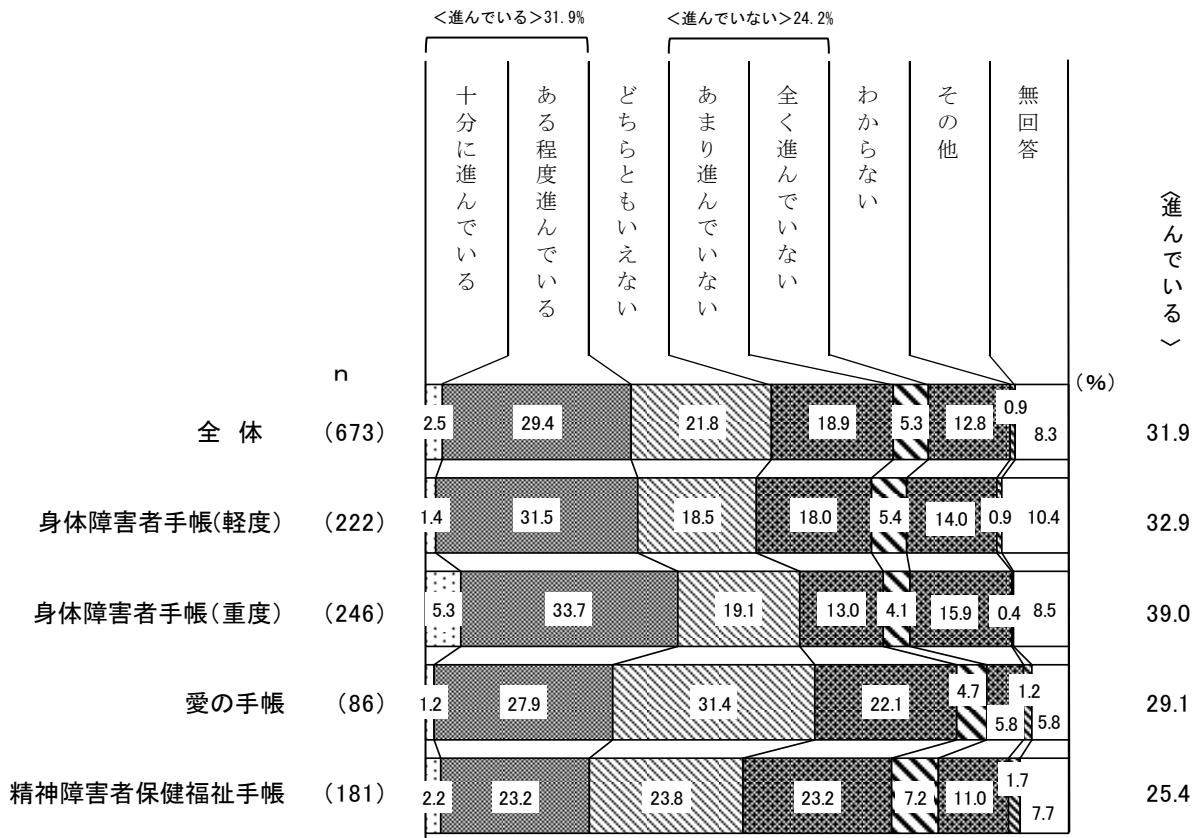
6.3. 障害者に対する理解

◆障害者に対する理解は<進んでいる>が約3割

(全員の方に)

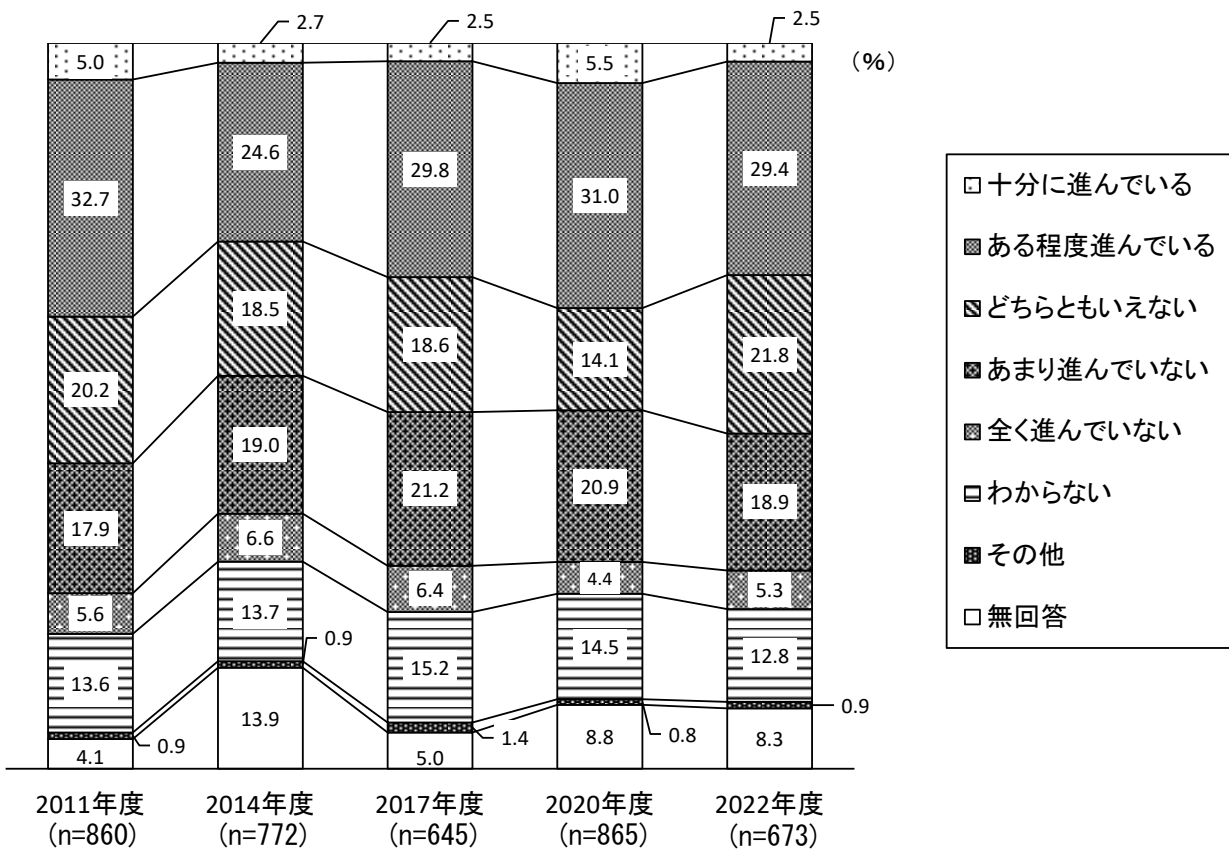
問 23. 障害に対する理解はどの程度進んでいると思いますか。(〇は1つ)

図 6-15 【所持手帳別】障害者に対する理解



障害者に対する理解は、「十分に進んでいる」と「ある程度進んでいる」を合わせた<進んでいる>が約3割となっている。

図 6-16 【経年比較】 障害者に対する理解



障害者に対する理解を経年比較で見ると、2022年度は2020年度に比べ<進んでいる>が4.6ポイント減少している。

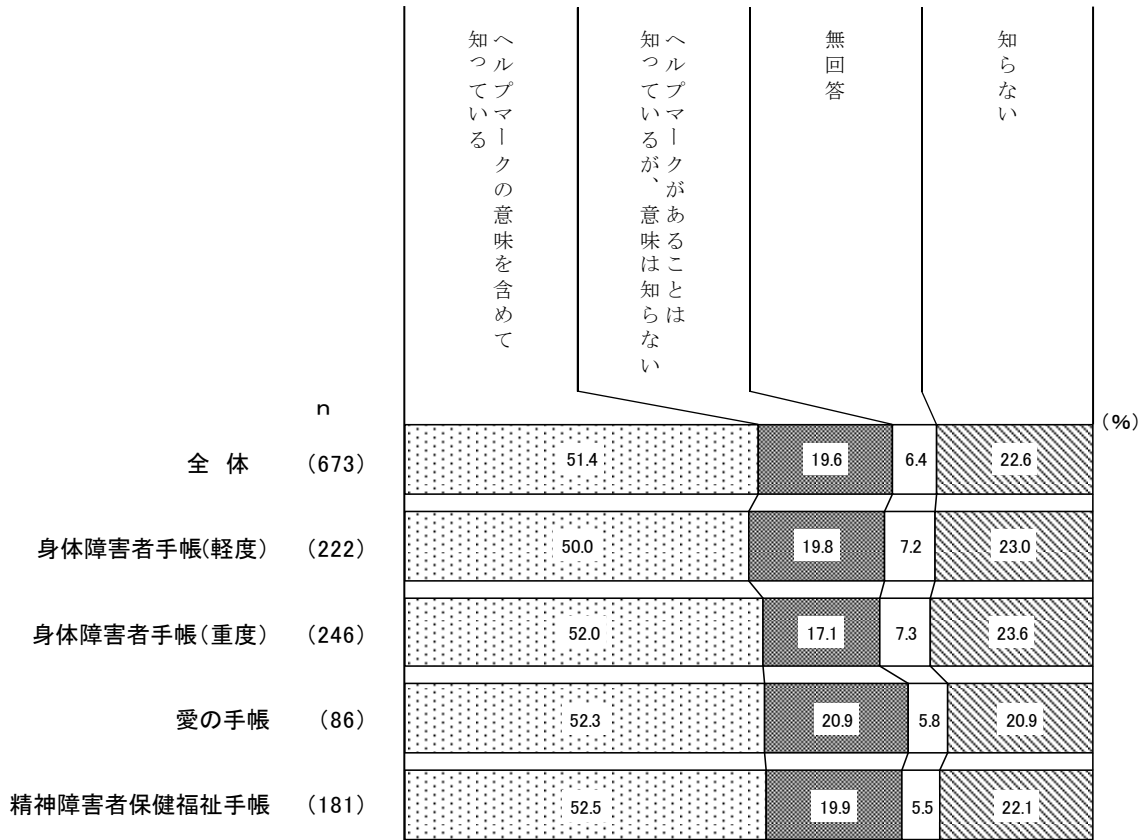
6.4. ヘルプマークの認知度

◆ヘルプマークの意味を含めて知っているのは全体の約5割

(全員の方に)

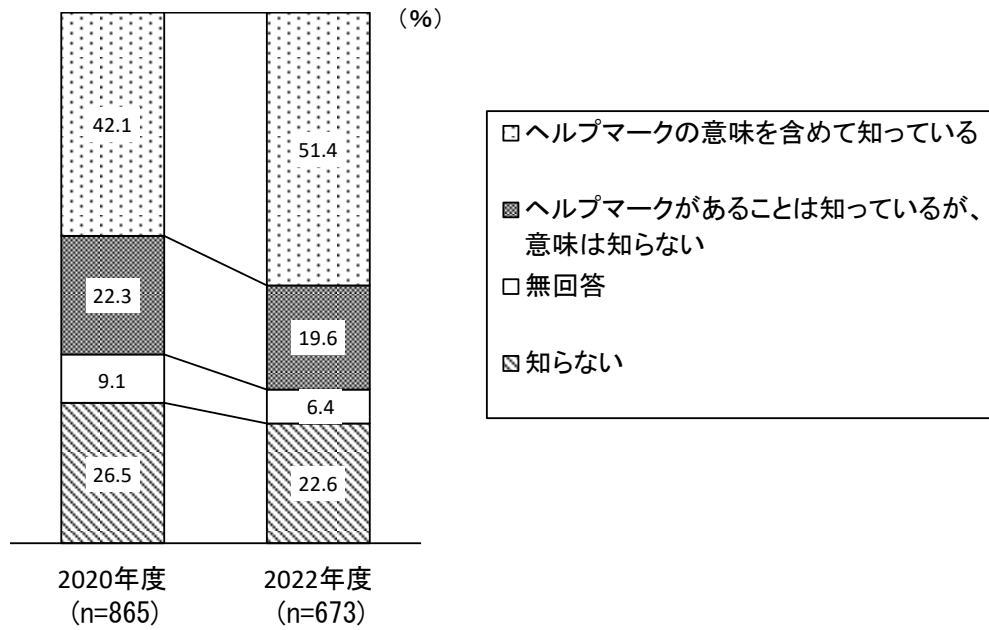
問 24. あなた (あて名の方ご本人) はヘルプマークを知っていますか。(〇は1つ)

図 6-17 【所持手帳別】 ヘルプマークの認知度



ヘルプマークの認知度は、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が各手帳所持者で5割から5割台前半となっている。

図 6-18 【経年比較】 ヘルプマークの認知度



ヘルプマークの認知度を経年比較でみると、2022年度は2020年度に比べ「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が9.3ポイント増加している。

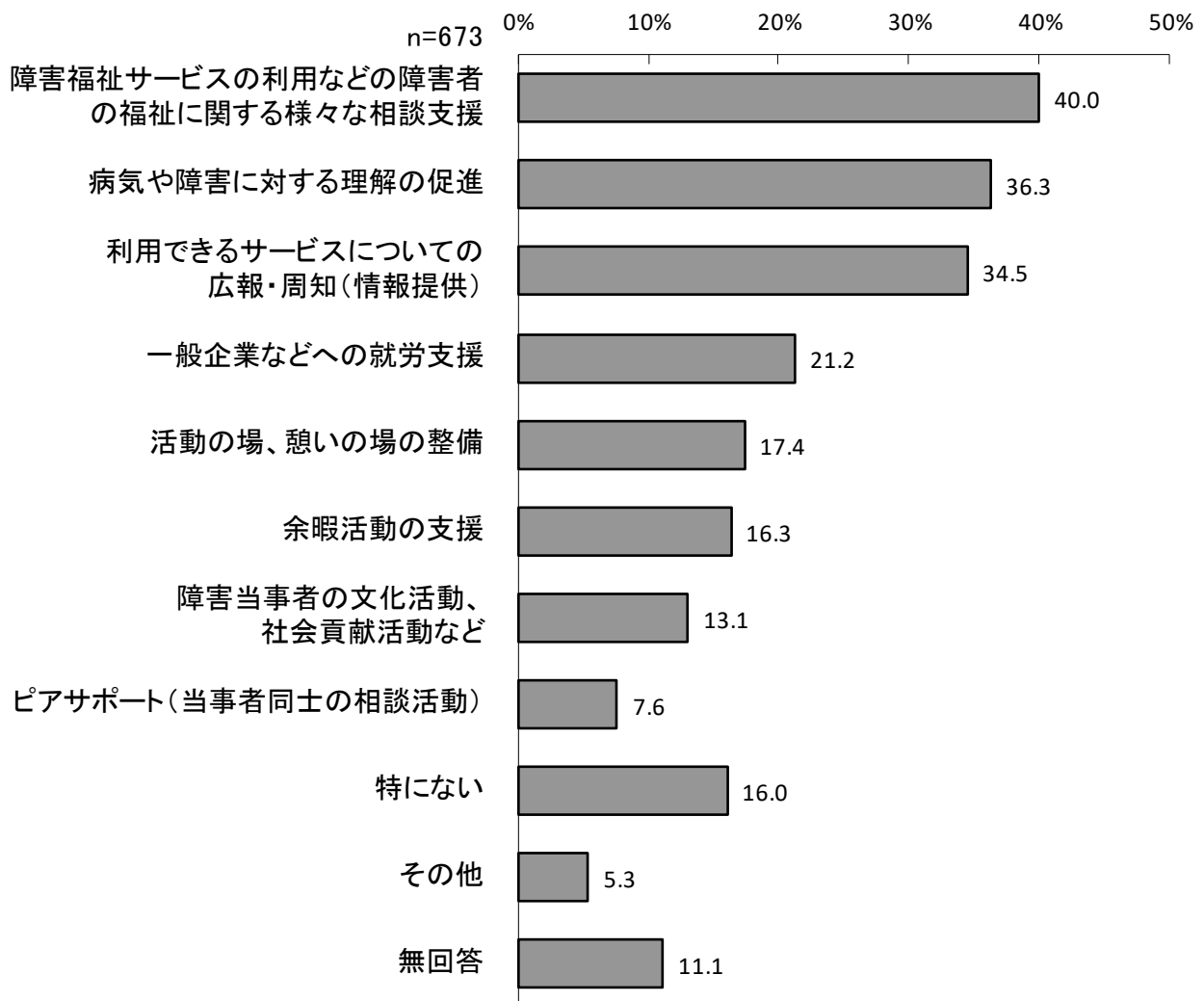
6.5. 充実して欲しい施策

◆充実してほしい施策は「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」が4割

(全員の方に)

問 25. あなた(あて名の方ご本人)は次の施策のうち、特に充実してほしいと思うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

図 6-19 充実してほしい施策



充実してほしい施策は、「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」が4割と最も高く、次いで「病気や障害に対する理解の促進」、「利用できるサービスについての広報・周知(情報提供)」「一般企業などへの就労支援」となっている。

図 6-20 【所持手帳別】上位5項目 充実してほしい施策

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=222	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 38.7	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 34.7	病気や障害に対する理解の促進 26.1	一般企業などへの就労支援 18.0	活動の場、憩いの場の整備 15.8
身体障害者手帳(重度) n=246	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 35.4	病気や障害に対する理解の促進 33.7	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 32.9	余暇活動の支援 15.0	活動の場、憩いの場の整備 14.6
愛の手帳 n=86	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 54.7	病気や障害に対する理解の促進 48.8	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 43.0	余暇活動の支援 38.4	一般企業などへの就労支援 34.9
精神障害者保健福祉手帳 n=181	病気や障害に対する理解の促進 44.8	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 40.9	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 33.1	一般企業などへの就労支援 32.0	活動の場、憩いの場の整備 17.7

充実してほしい施策を所持手帳別でみると、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者では、「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」が、精神障害者保健福祉手帳所持者では「病気や障害に対する理解の促進」が最も高くなっている。

図 6-21 【経年比較】上位5項目 充実してほしい施策

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=673	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 40.0	病気や障害に対する理解の促進 36.3	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 34.5	一般企業などへの就労支援 21.2	活動の場、憩いの場の整備 17.4
2020年度 n=865	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 37.5	病気や障害に対する理解の促進 35.3	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 31.1	一般企業などへの就労支援 17.7	活動の場、憩いの場の整備 14.9
2017年度 n=645	病気や障害に対する理解の促進 42.6	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 39.5	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 34.6	一般企業などへの就労支援 24.3	余暇活動の支援 20.6
2014年度 n=772	障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援 40.3	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 37.3	病気や障害に対する理解の促進 36.1	一般企業などへの就労支援 20.3	活動の場、憩いの場の整備 18.5
2011年度 n=860	病気や障害に対する理解の促進 36.7	利用できるサービスについての広報・周知(情報提供) 32.9	ホームヘルプサービス(居宅介護、重度訪問介護、移動支援など) 24.5	就労移行支援や就労継続支援を行う事業所や作業所などの働く場の整備 18.7	一般企業などへの就労支援 18.4

充実して欲しい施策を経年比較でみると、2022年度と2020年度では大きな変化がみられないが、2014年度以降は「障害福祉サービスの利用などの障害者の福祉に関する様々な相談支援」の順位が高くなっている。

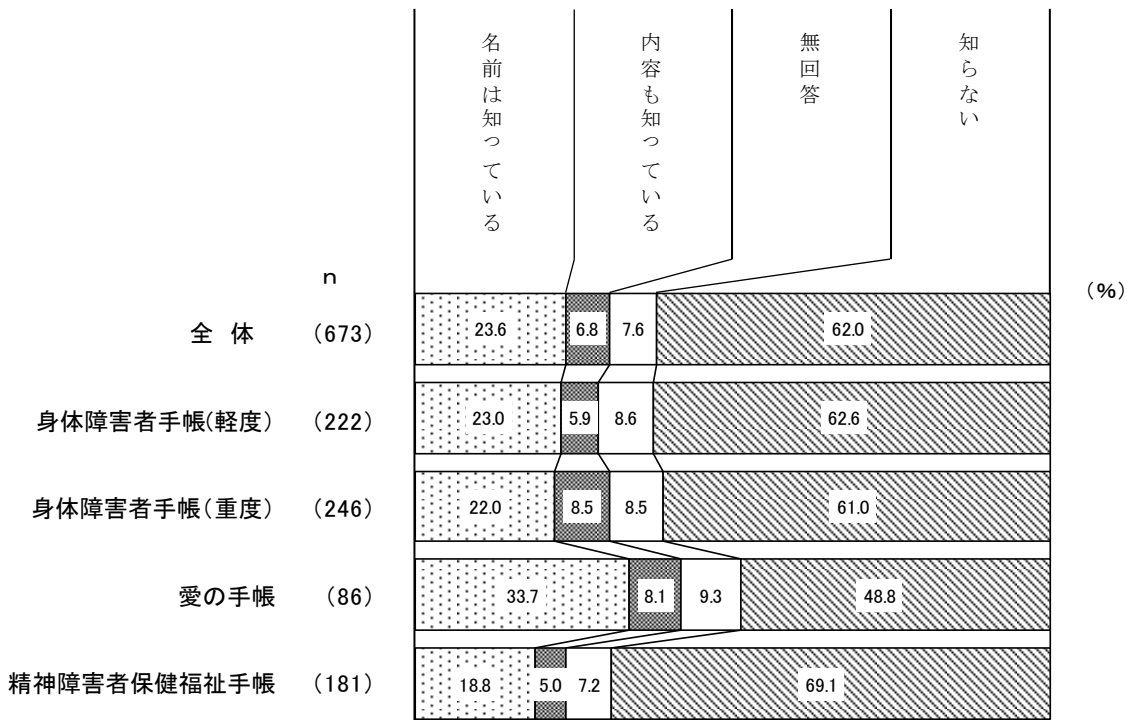
6.6. 障害者差別解消法の認知度

◆障害者差別解消法の認知度は、「知らない」が6割台前半

(全員の方に)

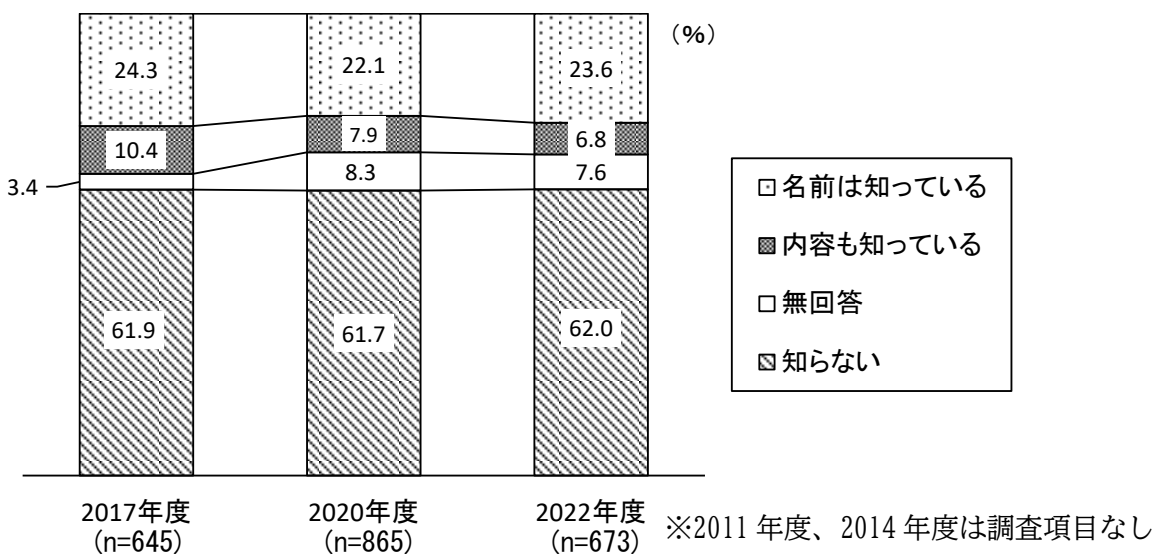
問 26. 障害のある人への差別をなくすことを目的として、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(〇は1つ)

図 6-22 障害者差別解消法の認知度



障害者差別解消法の認知度は、全体では「知らない」が6割台前半となっており、特に精神障害者保健福祉手帳所持者では約7割となっている。

図 6-23 【経年比較】障害者差別解消法の認知度



障害者差別解消法の認知度を経年比較でみると、大きな変化はみられない。

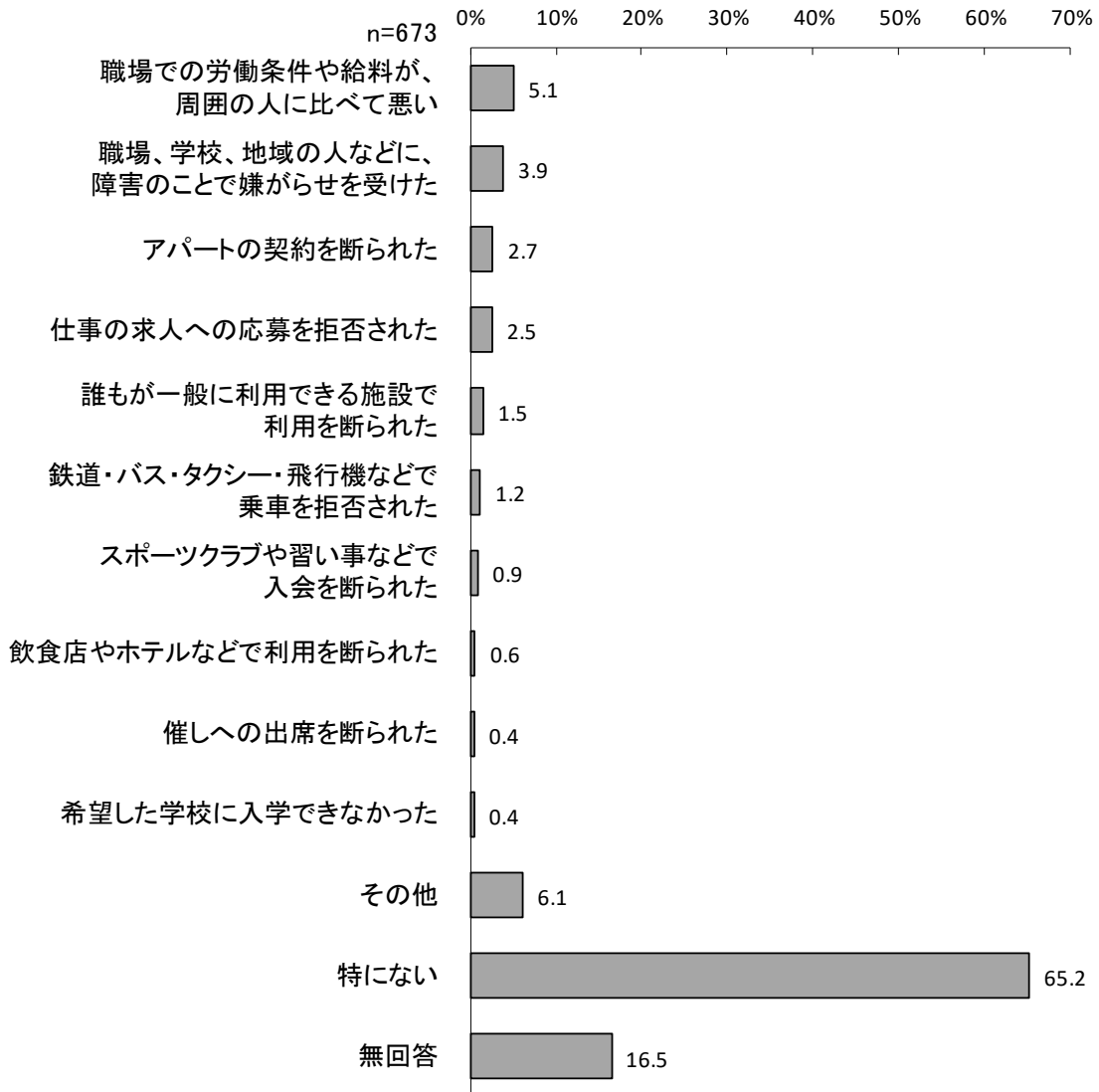
6.7. 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと

◆障害を理由に、差別的な対応を受けたことについて「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い」が最も高い

(全員の方に)

問 27. あなた（あて名の方ご本人）は過去3年間の間に、日常生活の中で、障害を理由に、差別的な対応を受けたことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

図 6-24 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと



障害を理由に、差別的な対応を受けたことは「特にない」が最も多いが、差別的な対応を受けた点の中では、「職場の労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い」が最も高く、次いで「職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた」「アパートの契約を断られた」「仕事の求人への応募を拒否された」となっている。



図 6-25 【所持手帳別】上位5項目 障害を理由に、差別的な対応を受けたこと

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
身体障害者手帳(軽度) n=222	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い 5.0	職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた 3.2	仕事の求人への応募を拒否された 2.7	誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた 1.4	アパートの契約を断られた 0.9
身体障害者手帳(重度) n=246	鉄道・バス・タクシー・飛行機などで乗車を拒否された／職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い 3.3	職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた 2.8	職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた 2.8	アパートの契約を断られた 2.4	仕事の求人への応募を拒否された 1.6
愛の手帳 n=86	職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた 8.1	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い 4.7	誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた／飲食店やホテルなどで利用を断られた 2.3	アパートの契約を断られた／スポーツクラブや習い事などで入会を断られた／仕事の求人への応募を拒否された／希望した学校に入学できなかった 1.2	1.2
精神障害者保健福祉手帳 n=181	職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い 8.8	アパートの契約を断られた／職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた 6.1	仕事の求人への応募を拒否された 5.0	誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた 2.2	2.2

障害を理由に、差別的な対応を受けたことを所持手帳別で見ると、身体障害者手帳所持者（軽度）では「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い」、身体障害者手帳所持者（重度）では「鉄道・バス・タクシー・飛行機などで乗車を拒否された／職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い」、愛の手帳所持者では「職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた」、精神障害者保健福祉手帳所持者では「職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い」が最も高くなっている。

## 6.8. 障害への配慮で特に嬉しいと感じたこと

(全員の方に)

問 28. あなた（あて名の方ご本人）もしくはご家族が日常生活の中で、周りの方から受けた障害への配慮で特に嬉しいと感じたことがありましたら、ご自由にお書きください。

障害への配慮で特に嬉しいと感じたことを自由に記入していただいたところ、165 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

## 公共交通について 28 件

- 駅などで、行動だけでなく、ひと言お手伝いしますか、とのお声がけを頂くと、とても嬉しいものです。今後も、気をつけて、他をたよらずに生活していこうと、気持ちが温かくなります。すごい字で申し訳ありません。(90 歳以上)
- 電車を利用する際に、優先席を利用している普通の乗客が、数年前と比べて、サッと席をゆずっていただけるようになったと感謝しています。(65~69 歳)
- タクシーのりばで順番をゆずってもらった。(50~54 歳)
- ヘルプマークを身につけていることに気づき、電車やバスの中で席を譲って下さったこと。視覚障害者なので「お気持ちだけいただきます。」と断っていますが、気にかけて声をかけて下さったのが嬉しかったです。視覚障害者用のヘルプマークがあったら良いかとも思いましたが、逆につきとばされたり等の嫌がらせを受けやすいという話も聞くので、難しいところです。(45~49 歳)
- 飛行機に乗った際、荷物を頭上の荷物入れに入れる必要があったが、私の身長では届かないため、周りが助けてくれて、荷物を入れてくれた。(30~34 歳)

## 仕事・職場について 14 件

- ウツをカミングアウトしたときに職場でなにがきっかけでパニックになってしまうのかの聞き取りをしてくれた。私は PC のせいでウツになってしまったので、PC を使わないで出来る作業にまわしてもらえた。きんちょうすると多弁になってしまうのでウツだときづかれづらいのですが、わかってくれる人とはたらけると気が楽になる (40~44 歳)
- 職場において、体調に応じて休むことが出来る。ゆとりを持たせるための社員という扱いで、休むことへの罪悪感を軽減してくれている。また、就業時間・テレワークなど自由がきく。障害の理解に務めていると共に、人権が尊重され区別なく職務につける。(55~59 歳)
- 気圧の変化や季節の変わり目で体調を崩し易く、休みが取りたい事へ理解を示してもらえる点。また、周りの音が気になり易いので、耳栓やイヤーマフなど、音に対する対策などを許してもらえる点。(30~34 歳)
- 聴覚障害は”みえない障害”と呼ばれたりもしていますが、自分から積極的に「聞きとれませんでした！何と言ったんですか？」と声をあげることや、座席決めで「ここが一番聞きとりやすいのでここでいいですか？」とアピールをしてきました。職場内での理解も進み、「ここでいい？」と率先して私の席を確保してくれたりなど配慮して下さるようになったことが嬉しかったです。自分ができることは最大限やって、それでも障害の特性上できない、という点は他の人の業務に回すなどまずはやってみる精神で過ごす、自分の経験値も上がってきていると最近感じております。(20~24 歳)
- 障がい者とみず、その人個人として個性として見ていただいたこと。聴覚障がいあるけど、出来ないことではないから頑張れと上司に言われたこと。(30~34 歳)

## — II 調査結果の分析 障害者調査 —

- 中野区障害福祉事業団の就業に関する手あつい支援で息子は通常の就労を継続して、先日優秀勤続表彰いただきました。本当に感謝しています。これからも支援よろしくお願い致します。ありがとうございました。(30~34歳)

### 友人・知人について 7件

- 友人が疲れやすいのを理解してくれたこと。すぐに「帰りたい休みたい」と言っても、「いいよ」と言ってくれる。社会の理解は得られないが、身近な人が分かってくれるのは生きていける気持ちになる。(－)
- 俳句を続けています。句会でも代筆を俳句仲間に依頼することが増え、退会を相談したことがありますが、仲間から「障害のある人はいっぱいいるの、ひとりじゃないのよ」と言われ、今も続けています。(80~84歳)
- ほとんどの方がいつも全く変らぬ態度で受けとめているように感じられ嬉しく思っています。(－)
- 塾の先生から、医師の話と一緒に聞きたいと病気に理解を示してくれたこと。(－)

### 医療機関について 7件

- 障害があると伝えた時の話。A病院では精神障害があると伝えると、医師から、「気のせい、もちょう」と心ないことを言われた。(他院でもけっこう言われる。)しかし、B院では、「ふーん。そっか、OK」と鼻がつまった一！位のノリで言われて、ずっと心が軽くなった。普通扱いがいかにうれしいことなのか、すごく感じたし、わかった。気がついた。普通が必要。とても。(45~49歳)
- 最近定期的に通院していた歯医者が休診になり、新しい歯医者に健診に行きました。新しい事に順応するのが苦手で、体が固まっているのを時間をかけて優しく進めて下さる皆さんに感謝しました。(45~49歳)

### 経済的支援について 7件

- 傷病手当金を頂きながら療養に集中できることがとてもありがたいです。色々な事を見つめなおしたり自分と向き合う時間もとれています。公園などを無料で利用できるのもありがたいです。新宿御苑の方々の受付の対応はいつも好きです。(35~39歳)

### 店舗について 4件

- お店などに行くと「指ししボード」があることは嬉しい。目に見える情報を増やして欲しい。(25~29歳)
- コーヒーショップなど席まではこんでくれた。(50~54歳)
- 主人と2人で買物に出かけた時に買った品物をカゴから袋に入れている時に私の格好が大変に見えたのか「おてつだいしましょうか？」と声をかけられた。幸い主人がいたので丁寧におことわりしたが、その時はとても嬉しく感じた。(65~69歳)
- 健聴者と差別なく接してくれる店員さんがいらっしやっした。まわりが騒々しく、補聴器をつけていても店員さんが言っていることが聞きとれなかった中、店員さんみずから筆談して下さった。とても嬉しかったです。(45~49歳)

### 家族について 4件

- 娘とのメールのやりとり。(55~59歳)
- ペースメーカーが入って居て、そして腎ぞう病で人工透析一歩手前です。家族がクスリなどをもらいに行ってくれて居ます。そしてクスリも沢山飲んで居ます。助かってます。病院の付そい等です。(85~89歳)

### 学校について 3件

- 車イスで段差などで危なかった時周りの人が手を差し伸べて助けてくれたことはありがたかったです。何度もあります。学校に通い、学内での介助を親がやるものと思っていましたが介助員の方を付けていただき、とてもありがたいです。中野区住んでいてありがたく感謝しています(母)(10～14歳)

### その他 91件

- 母を車イスで連れて行くとき、スーパーなどで道を開けてくださる方がいらっしゃるとうれいいです。ドアやエレベーターをゆずってくれることなど小さな親切がうれしいです。(90歳以上)
- 多くの方が小生の電気式発声機での会話を理解しようと真剣に聴いてくれる。(85～89歳)
- 町の中で、困っていると、若い方なども声をかけていただき、嬉しかったです。(65～69歳)
- 障害がわかった時に大きく、ゆっくり話してくれるのはありがたいと思った。(50～54歳)
- パニック時にサポートしてもらえた。ヘルプマークのおかげかもしれない。(35～39歳)
- 外出時すれちがった若者が一緒に歩いてくれて、これからどうするのと聞かれタクシーで帰宅を告げるとアプリでタクシーを呼んで乗せてくれました。とてもうれしく有難かった。横断歩道も私の歩幅に合わせて歩いてくれて一緒に渡って来れた。同居している家族より親切でうれしかった。若者も親切な人が多く感謝しています。(80～84歳)
- 障害者意識を持たずに普通に接してくれる時(85～89歳)
- 町中で声をかけられて、誘導や、周りの情報入手の手助けをしてもらった。(45～49歳)
- 区役所での相談の際、理解しやすいように、ゆっくり分かりやすく説明して頂けたこと。(35～39歳)
- そっとしといてくれる。(50～54歳)
- 歩行練習中に頑張ると応援してもらえた。(10～14歳)

## 7. 自由回答

### 7.1. 日常生活で困っていること

(全員の方に)

問 29. 日常生活で困っていることがありましたら、ご自由にお書きください。

日常生活で困っていることを自由に記入していただいたところ、188 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

#### 福祉サービスについて 20 件

- 私は精神障害 3 級です。手帳取得による恩恵として、公共交通機関の割引などありますが、そもそも、自身の症状の兼ね合いからバスや電車（主に地下鉄など）を利用する事が出来ません。その為、あまり恩恵を感じる事はありません。(45～49 歳)
- おむつの助成はありますが、現在トイレトレーニング中のため、日中のトレーニングパットについては自費で購入しています（数年にわたり）。選べる品物のバリエーションをふやしてほしいです。(5～9 歳)
- 目的地まで電車やバスでは向かえない時は、タクシーの利用することが多くなった。10 代、20 代の頃とは、体への負担が変わりキツク感じるようになった。福祉タクシー券の助成があることは知っているが、自分の階級では対象外なので 4 級の階級でも対象となると費用の負担からとても助かります。(30～34 歳)

#### 相談について 4 件

#### 経済的問題について 6 件

#### 公共交通について 4 件

- バス等を利用したくても、段差があったり、ノンステップでも停車場所によっては乗車不可能なものもありました。(80～84 歳)

#### 住まいについて 14 件

- 介護認定はついているので、介護用品はレンタルして生活に支障はないのですが、外出はほぼ車いすなので、アパートから出かける時に階段があり、そこにスロープをかけて車いすを降ろさないと行かないので、それが、一人では不可能。家族にそれをしてもらわなければならない、思った時、自由に外出できる所にうつりたいのですが、なかなか、無いのが、今後の課題です。(65～69 歳)

#### 施設について 4 件

- 療育センターへの入所を考えているが、満員となっている為入所する事ができない。(0～4 歳)

#### 医療機関について 2 件

## 障害への理解・配慮について 6件

- 予約時は電話でしかできないのが困っている。FAXで予約は過去にはあったが、取り止めにしている不満。メールは×。コンビニのレジに「耳マーク」シールが、商品の下にあって見えなくて困った。(区外のコンビニ) (45~49歳)
- 見た目が健康そうなので、ヘルプマークを付けていてもほとんど無視されてしまったり、理解を得ることができない。(25~29歳)
- ①自治体・行政機関からの情報が墨字のみで送られてくる。また封とうに点字や拡大文字等の記載が無い。②テレビのニュース速報や外国人のインタビュー等字まくテロップのみの情報が入手できない。③手続きの自動化による各種端末が視覚障害者も利用できるようになっていない。④飲食店の注文端末がタッチパネル対応になっている為、視覚障害者が利用できない。⑤店舗の無人化、駅等、公共交通機関の無人化により、人的なサポートを受けたくても容易に受けられない。(45~49歳)
- 視覚障害がありますが、スマホを持って歩いている人(見ながら歩いている人)はぶつかってくる(45~49歳)

## 一人の時や緊急・災害時の対応について 5件

- 災害があった時の避難場所が分からない。避難場所での生活になった時の不安。生活できるか。(5~9歳)
- 同居家族(2世帯)が就労時の災害 在宅酸素を使用している為、停電や地震などの災害時に不安がある。(85~89歳)
- 日中1人である時に来客があると出られない。日中1人である時に転倒した場合の不安がある。(85~89歳)

## 障害・病気・年齢・体調について 50件

- 内部機能障害のため「まわりから100%障害をもっているか」というように伝わるか心配です。(55~59歳)
- 精神障害とメニエール病を持っている。メニエールは難病なのに支援がない。枠に入れてほしい。めまいや聴覚過敏が出てしまうと、会話にならない。でも見た目はヘッドホン(イヤホン)してる普通の人に見えるので、苦しさが、全く伝わらない。精神障害においても調子が悪い時は外に出ないので、外出していることを知られると、何?元気じゃん!と言われ、仮病扱いになる。手帳でバスや庭園などの割引をしてもらう時も同じ。普通の見ただからうたがわれてしまい、時間がかかる。(45~49歳)
- けい光灯のとりかえがむずかしい。(55~59歳)
- 家族がいない時、来客のベルがきこえない(50~54歳)
- 家事に時間がかかってしまう。(思うように身体が動かない)忘れることや次に何をやるか分からなくなってしまうことがある(身体の動きが止まってしまう)(50~54歳)
- ハンデが無ければ色々出来るのではと、思う事があり、それでツラくなる。(35~39歳)
- 両足、関節が不自由なので、どうしても、外出がむずかしい場合が多くて、困りますので、余り、外出しなくなっています。(85~89歳)
- 医院迄のタクシーに乗る程ではないが(距離)、一人で歩いて行くのがつらくなった。受診に行けなくなり、困っている。薬はヘルパーさんに頼んでいる。孫や子供に車を頼みたいが、各々みんな忙しくて頼めない。(90歳以上)

## 交流の機会について 2件

- 障害がある事を表に出して話したり会ったり出来る人がいない。(50~54歳)

**就労について** 9件

- 障害者雇用でムリせず働きたいのに、パート・アルバイトばかりで手取り18万もいかないので配偶者に万が一があった際に支えられない。ムリに一般就労しているせいで、片づけ、食事がおろそかになる。(25～29歳)
- 体調が安定しない為、就業が難しいこと。(50～54歳)
- 正規の職業につきにくい。また、日常的な家事などが負担になりやすい。(30～34歳)

**情報提供について** 5件

- 事故や遅延があった時にホームのボードだけではなく、電車の中の電子機器にも情報が欲しい。(25～29歳)

**区内の環境整備について** 14件

- 伝い歩きしかできないので何か補助していただける支柱等があると有難い(60～64歳)
- 階段しかない場所は心臓に負担がかかるので困る。休みたくてもベンチなどがあまり見あたらない。(35～39歳)
- 自転車の危険性をもっと把握して欲しい。(高齢者、障害のある人は特に恐ろしい)歩道での走行、信号を止まらず進んで来る等、避けきれず、又察知できず危険な場面が日常的にある。(80～84歳)
- 電動車椅子での外出時、歩きスマホや自転車が怖い。歩道と車道との段差が角度が移動しにくい場所がある。(75～79歳)

**将来・親(家族)亡き後への不安** 9件

- 現在は妻(83才)に依存した生活をしているので大きな不便はないが、妻が健康を害した場合には生活は殆んど不成立となる。(85～89歳)
- 現在は生活できているので問題はないが、これから年をとっていった時に介助してくれる家族も年を取るのでは不安を感じる。(60～64歳)
- 身よりがいなくて先々が不安を感じる(60～64歳)
- 徐々に歩けなくなってきているので今後は不安(60～64歳)

**家族への支援について** 2件

**その他** 32件

- 今は殆どない 配偶者で互いに補っている(90歳以上)
- 自分は声が出ないので、それなりに納得しているが、家族の方が気をつかい苦労しているのかもしれない。故に困っている事は自分よりも家族の方に有るのかなとも思うが、わからない…(75～79歳)
- できると思われてフォローしてもらえないことがある。手続きが1人でできないことがある。携帯電話の契約で余計なオプションをたくさん申し込まされてしまった。断われなかった。(40～44歳)
- 乗物について、電車、バスに歩行キを車内に搬入しても座席に置けない、施設にエレベーターがない。道路について、雨水の為とは思いますが(道路両側)傾斜が怖い。(80～84歳)

## 7.2. 健康福祉行政全体への意見・要望

(全員の方に)

問 30. 健康福祉行政に関することや今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政に関することや今回の調査について、要望や意見を自由に記入していただいたところ、131 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

## 福祉サービスについて 13 件

- 福祉行政サービスにもっと予算を組んでもらいたい。(65～69 歳)
- 移動支援をしてくれるヘルパーさんがなかなかみつきりません。以前お願いした所は子の問題行動によりことわれました。子はその方を好いていたのに急に来なくなり心のくずれがあり一時不安定になりました。ヘルパーさんでも理解がないのは大変残念に思いました。(5～9 歳)
- 毎年配布していただくタクシー券にはほんとうに助かっております。(雨の日や坂の上にある施設に行く時など) 美術展に無料で入場できることや割引があることも有難く利用させていただいております。障がい、高齢、独居、で将来の不安はありますが、地域包括支援センターにご相談すればよいとの事で心強いです。(85～89 歳)
- 現在受けているサービス(身体障害者手帳、難病支援)に自分が該当することを知らなかったので、実際に享受するのに数年を費やしました。今は区の対応に満足しています。(75～79 歳)
- ガイドヘルパーだけでは足りない。(－)

## 相談について 3 件

- 本人の親です。相談できるところがあるのがありがたいです。適正に「相談できること」が自立なのではないか、と思っています。だれも、一人で生きられません。子どもの場合は10才で、障害(内部障害で日常生活で困ることは少ないと思いますが)不登校、家族の悩みなど困ることが多岐にわたります。私も調べて相談することが大変な時があります。本人が大変な時 大変だ、困っていると聞いてもらえる所があるんだとわかるように育てたい、と思っています。わかりにくくてごめんなさい。まずは、「困っていることを話せる所」行政に求めることと考えています。(10～14 歳)
- 見た目でわからない発達障害者は、普通に健常者扱い。しかし実際は、生きていくのも生活するのも働くのも大変です。親が色々なところに(区内)相談の電話をしていたが、なかなか理解が難しいようだ。学校も国から支援の指示があっても実際対応できる先生はいない。母がいつも「発達障害の子供を育てた人、発達障害の本を沢山読んで理解しないと対応は難しい、一人一人違う」といっているが、行政が一丸となって発達障害者の支援にとりくんでほしい。親は相談窓口、支援する窓口、障害者の親の輪が必要とのことでした。(－)

## 障害への理解・配慮について 4 件

- 調査が、福祉行政の改善や進歩になれば良いと思います。障害は、それを持っている人にしか分からない部分は多々ですから、全ての人が、サポートしてくれる、世界が希ましいですが・・・障害あっても、出来る事はなるべく自分でする、努力も必要かと。それでも出来ない時は、誰でも手を貸してくれる世の中になればと。(65～69 歳)
- この調査自体が視覚障害者自ら内容を読み記入するものとなっていない。(45～49 歳)



情報提供について 14 件

- 障害者への理解が進んでいないと思うので、広報活動等力を入れていただけると良いと思います。(50～54 歳)
- 様々な施設で割引サービスがあるのだが、表示されていなくてサービスを知らずにお金を払った事があります。もっと表示をしてほしい。(40～44 歳)
- 障害者に限らず、誰でも病気やけがで身体が不自由になる可能性があります。どんな人にとっても、暮しやすい街にする為に、子供の時からの教育や、健康福祉に関する情報を充実していただけると、ありがたいです。(60～64 歳)
- 最近、障害者の就労支援サービスがあることを知りました。もっと広く認知されるようにして欲しいと思います。(50～54 歳)
- 障害者でも、自立できるくらいの収入がある仕事の種類を知りたい。(30～34 歳)
- 障害者に対するいろいろなサービス、いろいろあるようですが生きていく上で必要な事ですので困った時には利用できる人がスムーズにできるよう、知らなかったという事がないように。そんな世の中になってくれたらうれしいなあつくづく感じました。いろいろお世話をして下さる方々、親切で本当にありがたいです。ありがとうございます。(25～29 歳)

施設について 4 件

今後の不安について 3 件

本調査について 31 件

- 入院中なので本人はすべて病院での看護、介助、健康管理等すべて頼っていますので、回答が殆んど出来ず調査参考にならず昨年も対象者で返答しにくいので困ったこと思い出しました。(85～89 歳)
- 施行内容を知る事ができる様な広報資料をこのような調査票の送付時に同封するなどして欲しい。(55～59 歳)
- 調査の結果が行政に反映され、多くの方が生き易くなって欲しいです。(50～54 歳)
- 調査の回答をネットでできるようになったらいい。手帳申請等も、わざわざ窓口に行ったりするのが大変なので、極力ネットで済ますことが出来たら良いと思う(25～29 歳)
- この調査の結果については区ホームページに丁寧に報告をしていただいているが、この調査が中野区の福祉サービス向上にどのように生かされているのか、そのあたりを見える化していただけるとありがたいです。よろしくお願いします。(45～49 歳)
- 障害者は、その障害の種類も多く、十把一絡げにまとめることはできないと思うが、それに対して、抽出が 1,500 人というのは少なく感じた。特に、身体、発達、精神、難病をまとめて同じ質問というのは無理があると思う。(30～34 歳)
- ネットでも答えられるようにすれば、回答者も集計者もコスト(負担)を減らすことができるので、行政機関は、他の様々な手続き等も含めてもっと IT 化を進めて欲しい。(50～54 歳)

その他 59 件

- 障害の有無や程度に関わらず、希望する人全員が、仕事を通して社会に関われるようにしてほしい。特に官公庁で率先してそうした仕事の場を作り、雇用してほしい。障害者があたり前にふつうの人に混じって働いている社会になってほしい。(70～74 歳)
- 今回の調査で健康福祉サービスを知りました。今は必要ないですが、知って良かったと思います。障害者手帳をもらう際に障害福祉課へ行きましたが、とても親切に必要なことが受けられる支援を

教えて頂きました。手続きに必要な書類もまとめて頂いて大変助かりました。ICDを入れていて、満員電車をさげたいので（圧迫がよくないそうなので）タクシー券が助かっています。3級になるともらえないそうなので等級がさがるのが少し不安です。（35～39歳）

- 尽力して頂いてありがとうございます。精神疾患は見た目では分からないところがあるために、一般の人には理解しにくい病気だと思っています。社会に出ても煙たがられます。また障害者側も「頑張って当たり前だ」という高圧的な人もおり、双方ともに課題があります。先天性の特性や性格の部分と後天性の統合失調に症状は分けて、考えていただきたいです。難しいと思いますが、よろしくをお願いします。（-）
- 誰でも障害者になる場合があると思います。老人になっても自由に外出できて人として豊かな生活を送られるような人が増えたらいいなと思います。時々（車イスでも）外食出来たり買い物に自由に行けたり、贅沢は言いません。誰でも日常の生活が楽しみが送れることが望みです。映画館に行きたい、デパートにも行きたいなど。大変なお仕事だと思います。施設や窓口で助けてくれてありがとうございます。（45～49歳）
- 今後、医療の進歩から障害者が増加すると考えられる。ケガや病気回復される障害者として日常生活をおくって行くケースが多様化していく為、ますます早期対応をもとめられる。（60～64歳）



# 施設入所者調査

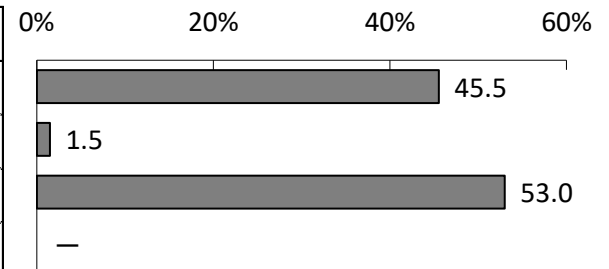
---



## 1. 回答者の属性

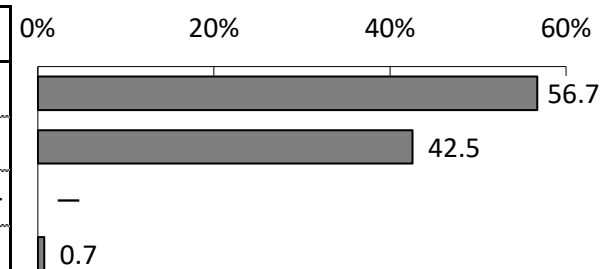
### 1.1. アンケートの回答者

	基数	構成比(%)
本人(代筆を含む)	61	45.5
家族	2	1.5
その他の人	71	53.0
無回答	—	—
全 体	134	100.0



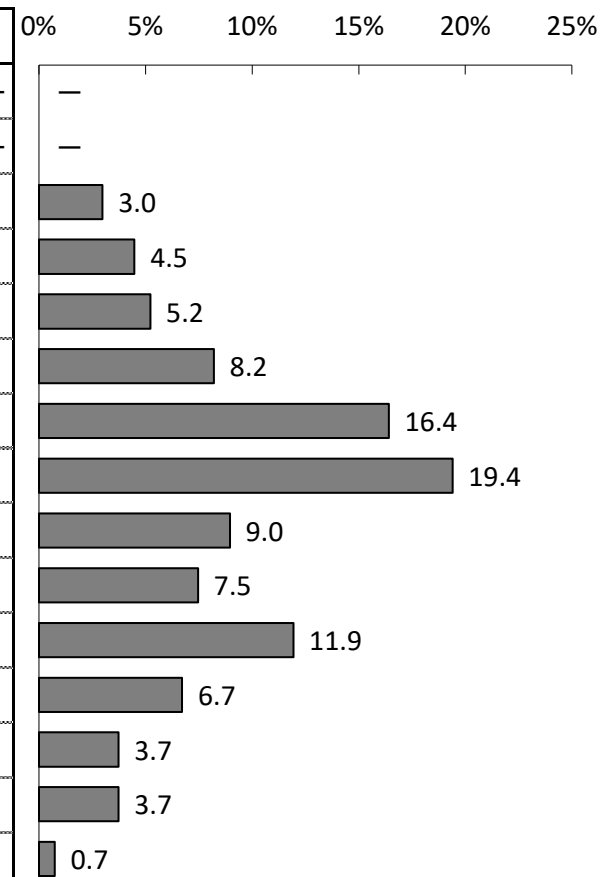
### 1.2. 性別

	基数	構成比(%)
男性	76	56.7
女性	57	42.5
その他	—	—
無回答	1	0.7
全 体	134	100.0



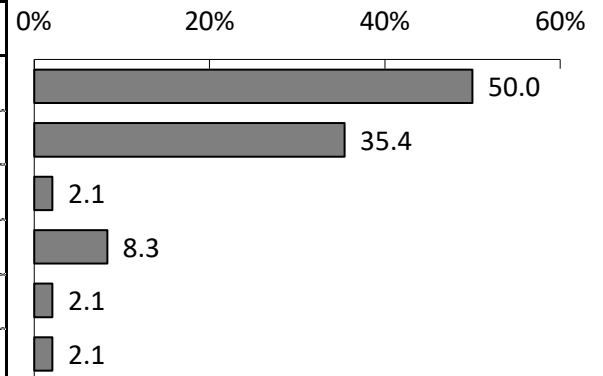
### 1.3. 年齢

	基数	構成比(%)
20歳未満	—	—
20～24歳	—	—
25～29歳	4	3.0
30～34歳	6	4.5
35～39歳	7	5.2
40～44歳	11	8.2
45～49歳	22	16.4
50～54歳	26	19.4
55～59歳	12	9.0
60～64歳	10	7.5
65～69歳	16	11.9
70～74歳	9	6.7
75～79歳	5	3.7
80歳以上	5	3.7
無回答	1	0.7
全 体	134	100.0



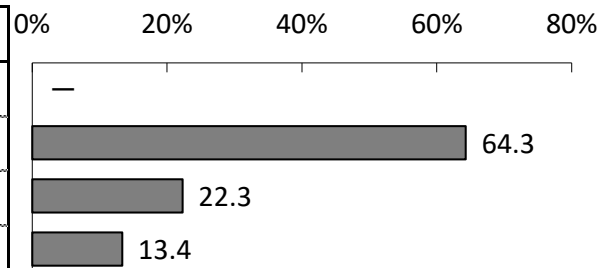
1.4. 身体障害者手帳の等級

	基数	構成比(%)
1級	24	50.0
2級	17	35.4
3級	1	2.1
4級	4	8.3
5級	1	2.1
6級	1	2.1
全 体	48	100.0



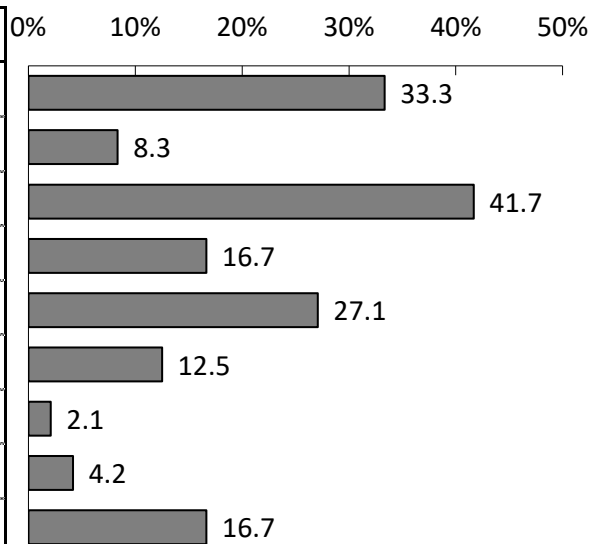
1.5. 愛の手帳の度数

	基数	構成比(%)
1度	—	—
2度	72	64.3
3度	25	22.3
4度	15	13.4
全 体	112	100.0

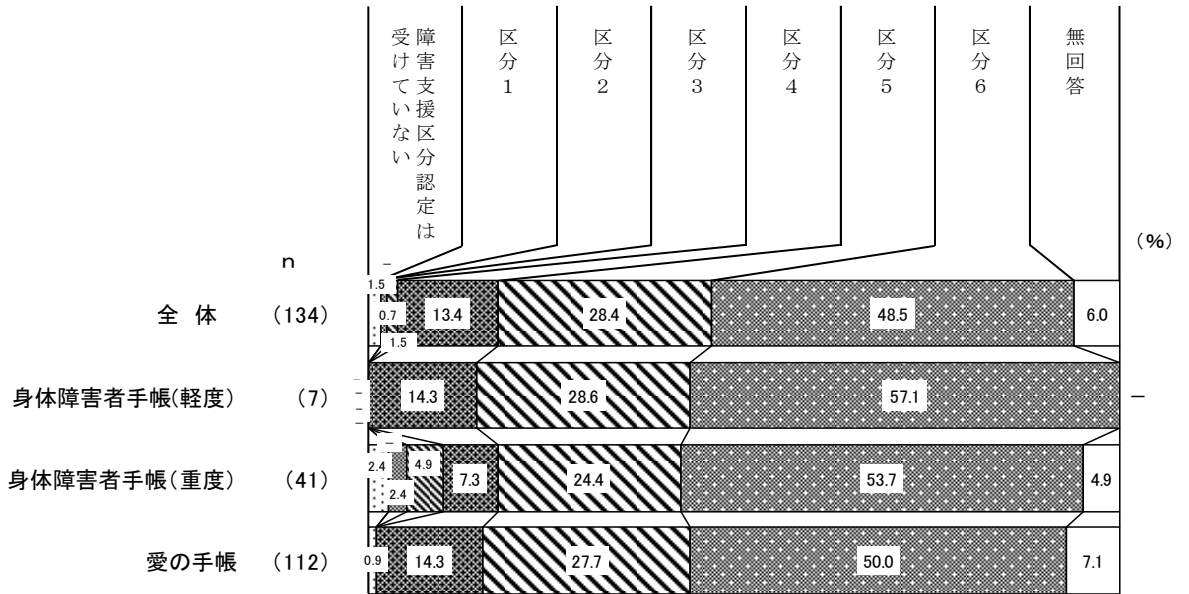


1.6. 身体障害者手帳に記載された障害名（複数回答）

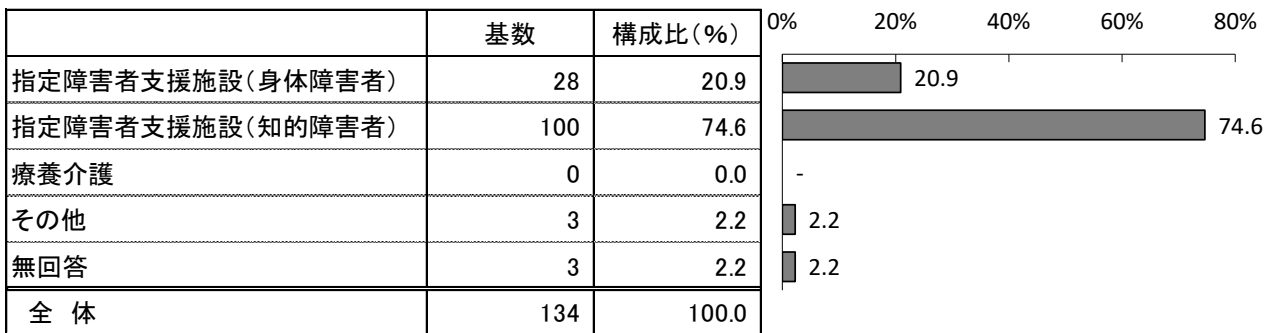
	基数	構成比(%)
上肢機能障害	16	33.3
聴覚障害・平衡機能障害	4	8.3
下肢機能障害	20	41.7
音声・言語・そしゃく機能障害	8	16.7
体幹機能障害	13	27.1
肢体不自由(脳性まひ)	6	12.5
内部機能障害	1	2.1
視覚障害	2	4.2
その他	8	16.7
全 体	78	100.0



1.7. 障害支援区分



1.8. 入所施設の種類

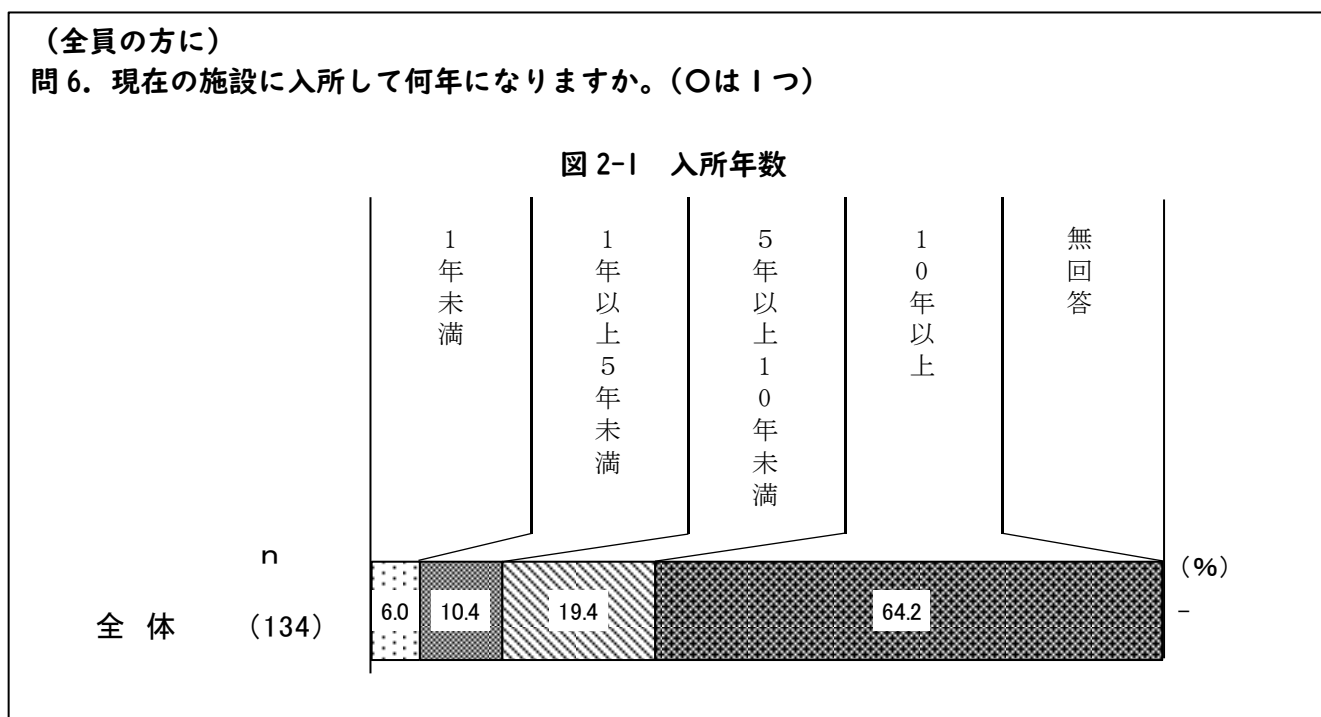




## 2. 入所について

### 2.1. 入所年数

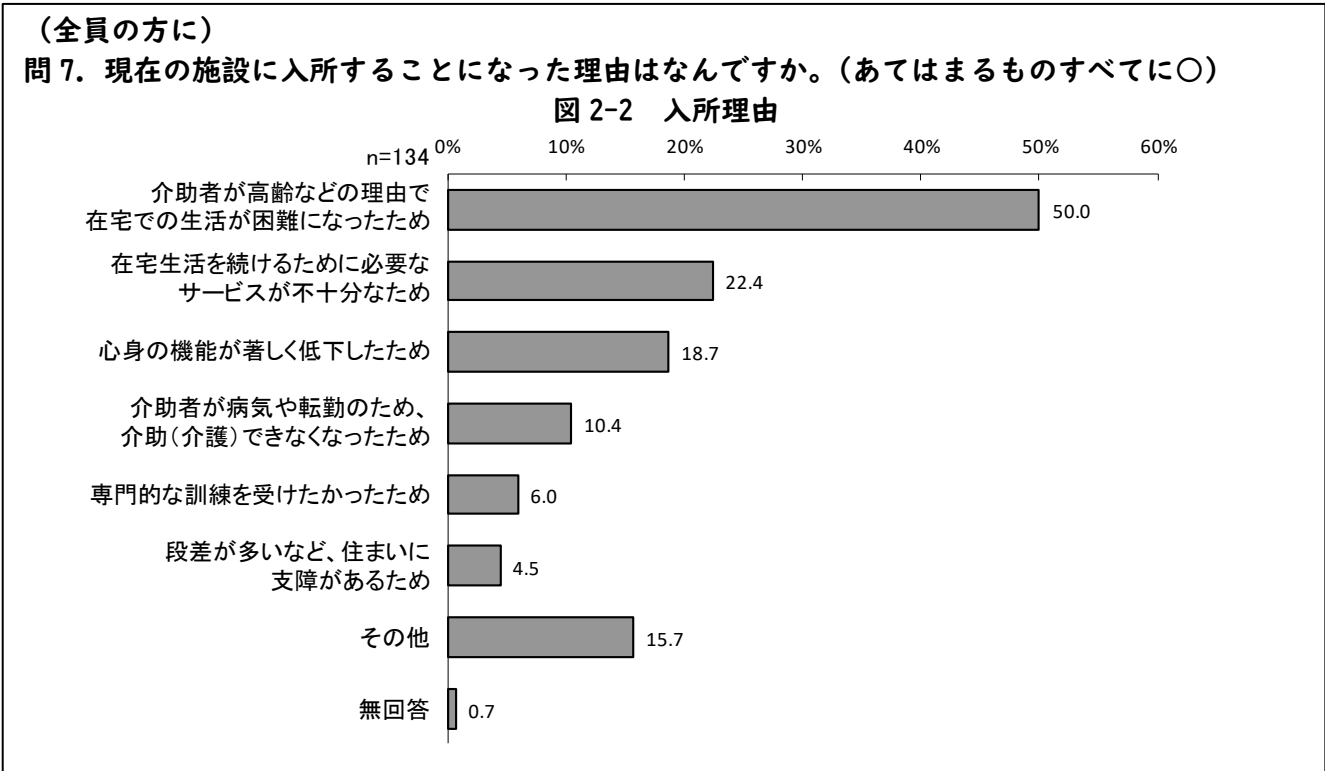
◆入所年数は「10年以上」が6割台半ば



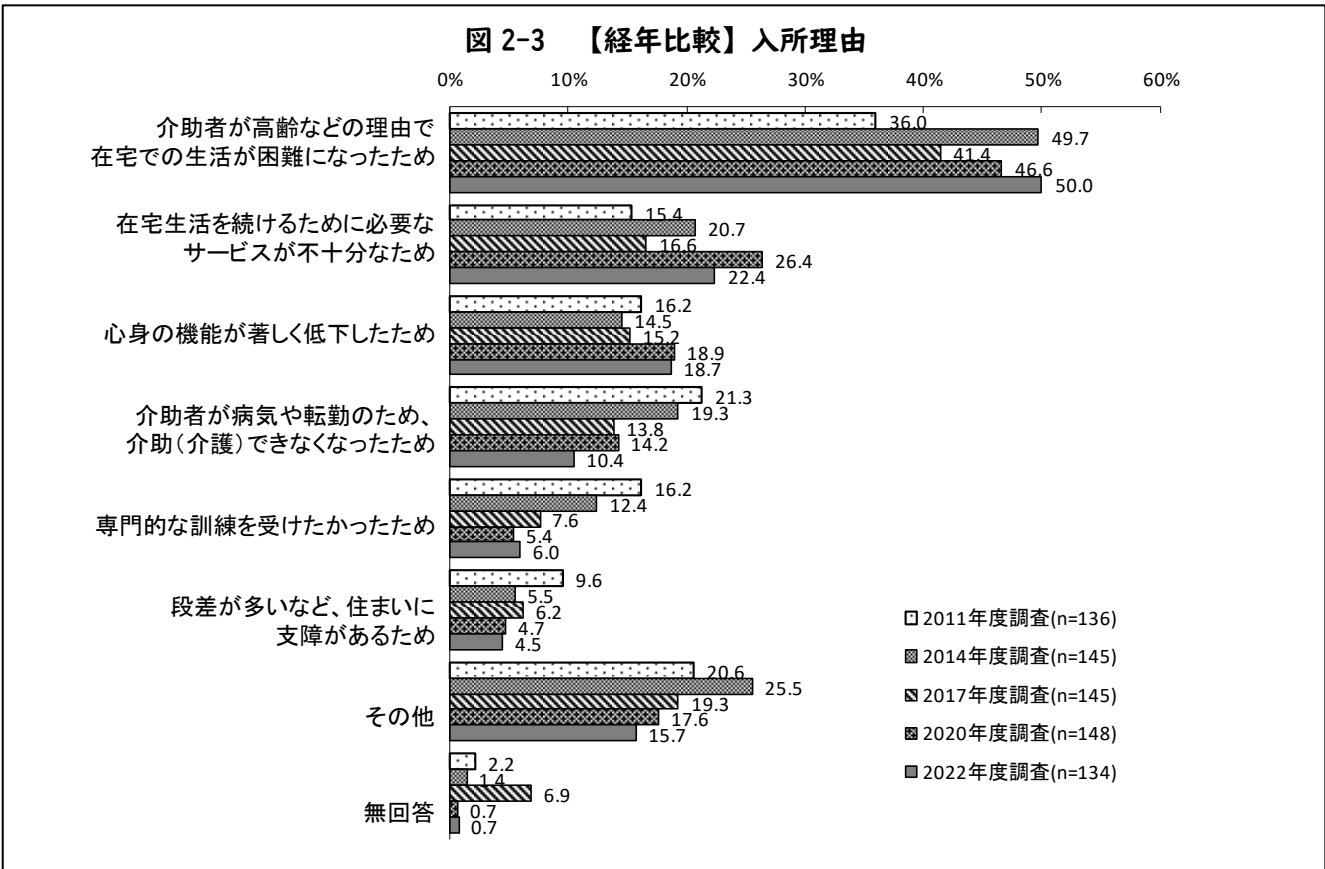
入所年数は「10年以上」が6割台半ばと最も高くなっている。

2.2. 入所理由

◆施設への入所理由は「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」が最も高い

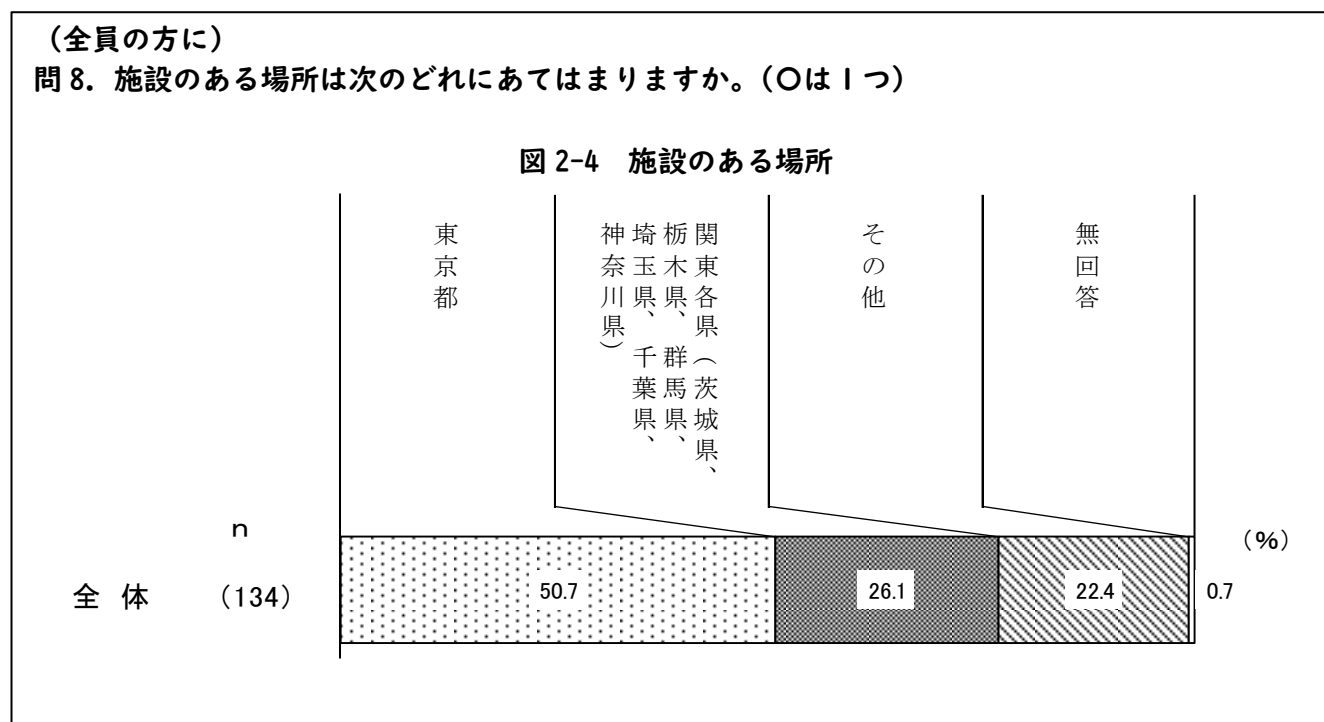


現在の施設に入所することになった理由は「介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため」が最も高く、次いで「在宅生活を続けるために必要なサービスが不十分なため」「心身の機能が著しく低下したため」「介助者が病気や転勤のため、介助(介護)できなくなったため」となっている。



### 2.3. 施設の場所

#### ◆施設の場所は、「東京都」が最も多い



現在の施設の場所は「東京都」が最も高くなっている。

### 3. 今後の生活について

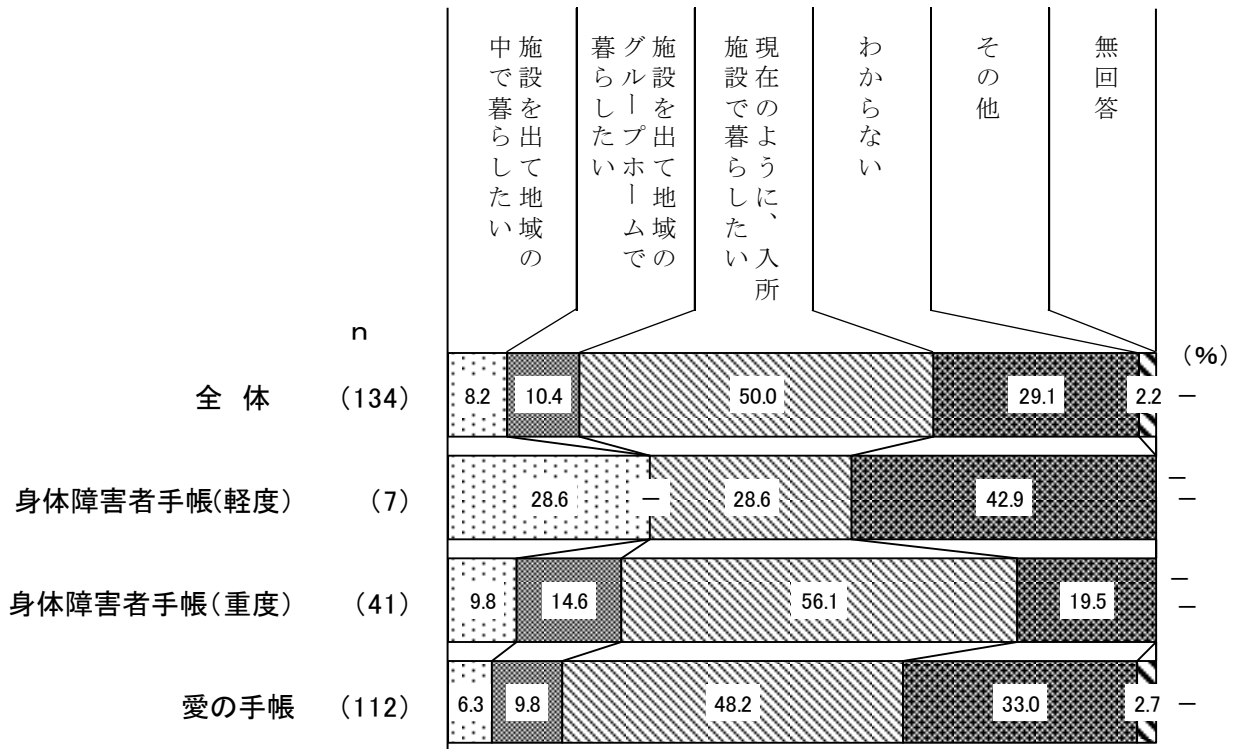
#### 3.1. 生活したい場所

◆今後、生活したい場所は「現在のように、入所施設で暮らしたい」が5割

(全員の方に)

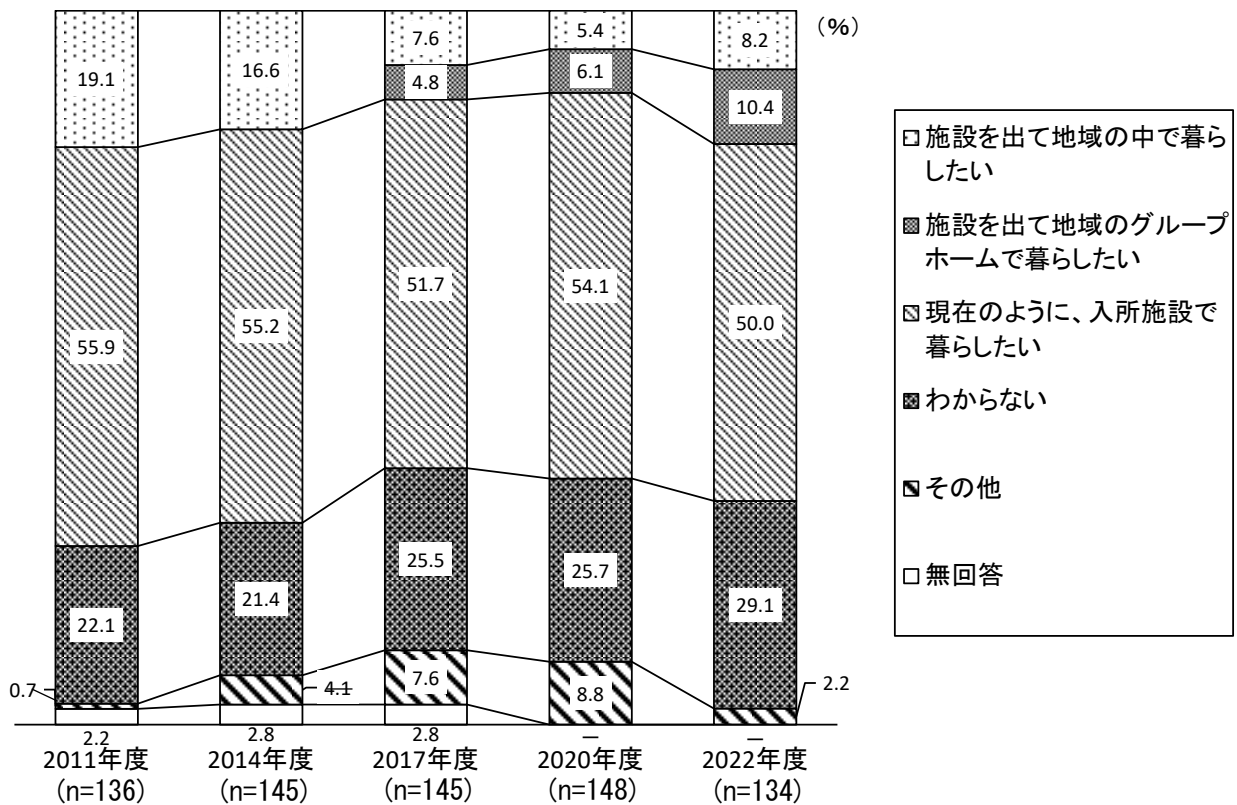
問9. 今後、どこで生活したいですか。(〇は1つ)

図 3-1 【所持手帳別】生活したい場所



今後、生活したい場所は、「現在のように、入所施設で暮らしたい」が最も高くなっている。

図 3-2 【経年比較】生活したい場所



※2011年度・2014年度は「施設を出て地域のグループホームで暮らしたい」の選択肢はなし。

今後生活したい場所を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ「施設を出て地域の中で暮らしたい」が2.8ポイント、「施設を出て地域のグループホームで暮らしたい」が4.3ポイント増加している。

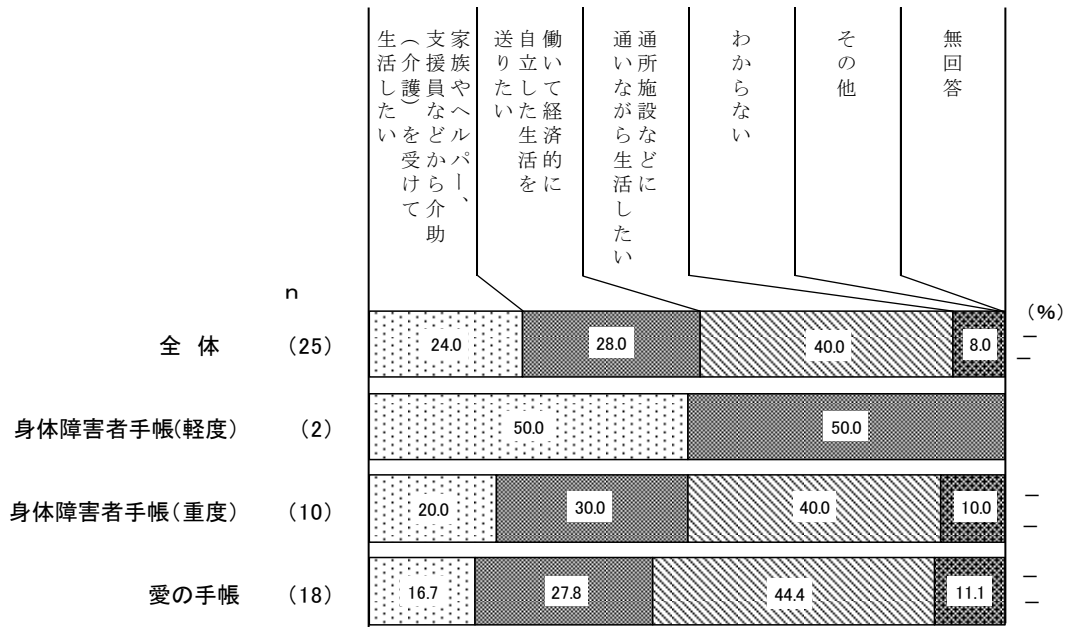
3.2. 施設退所後の生活

◆施設退所後の生活は「通所施設などに通いながら生活したい」が4割

(問9で「1」または「2」に○をつけた方に)

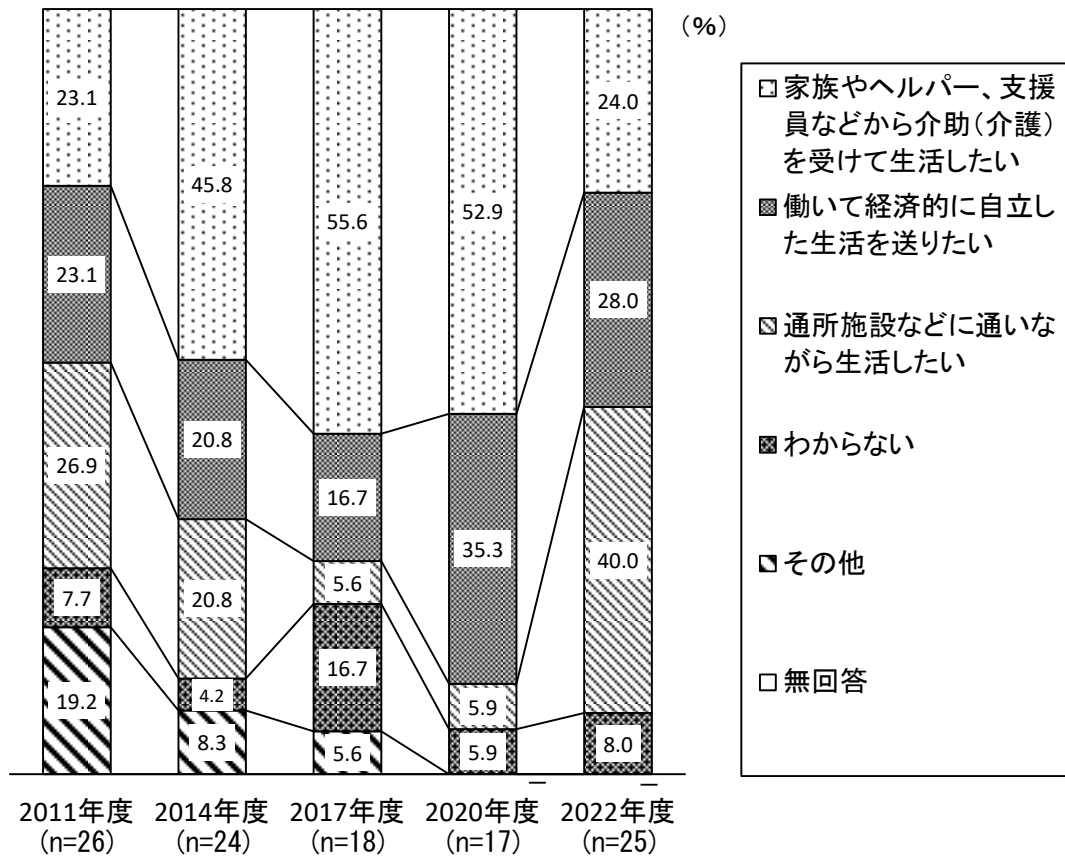
問9-1. 仮に施設を退所するとしたら、どのような生活を送りたいですか。(○は1つ)

図3-3 【所持手帳別】施設退所後の生活



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

図 3-4 【経年比較】施設退所後の生活



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

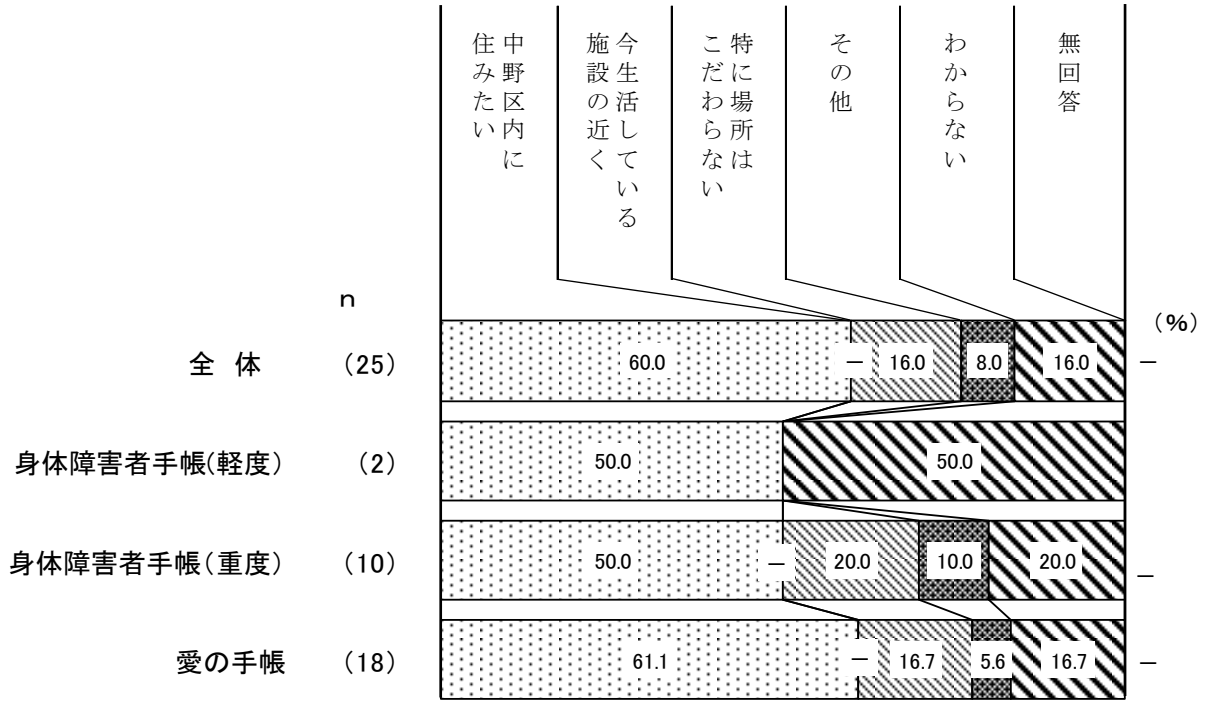
3.2.1. 施設退所後に住みたい場所

◆施設退所後は「中野区内に住みたい」が6割

(問9で「1」または「2」に○をつけた方に)

問9-2. 施設を退所したら、どこに住みたいですか。(○は1つ)

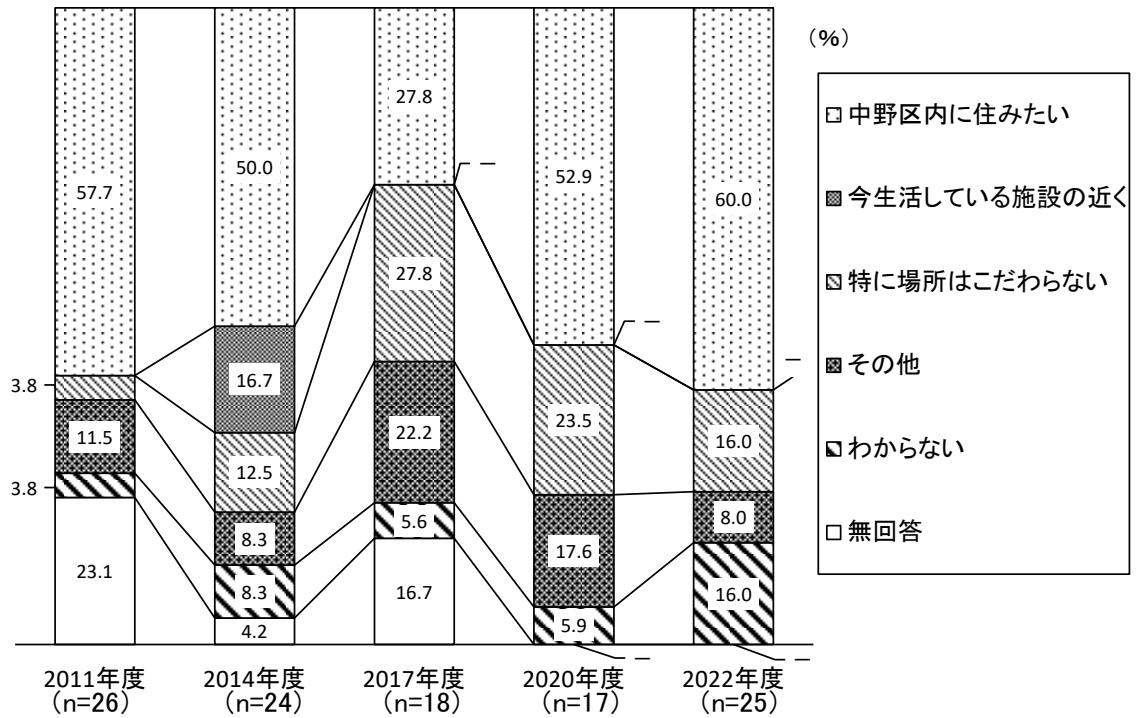
図3-5 【所持手帳別】施設退所後にどこに住みたいか



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。



図 3-6 【経年比較】施設退所後に住みたい場所



※2011年度は「今生活している施設の近く」の選択肢はなし

基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

## 4. 自由回答

### 4.1. 健康福祉行政全体への意見・要望

(全員の方に)

問 10. 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政全体や今回の調査について、要望や意見を自由に記入していただいたところ、14人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

- 中野区の作業所に通いたい。(35～39歳)
- 自宅近くでコロナワクチンを接種できるクリニックが増えてほしい。(25～29歳)
- 障害者が安心して生活できるホームを作って頂きたいです。(50～54歳)
- 家で生活できるのが一番ベストだと思います。なかなか思うようにはいかないです。施設に入所していることが常に不便でたまりません。この娘の人生でしょうね。少しでも施設で楽しく過ごしてくれることが一番だと思います。皆様にあたたかく見守ってくださることをお願いしたいです。(母)(50～54歳)
- 早く区立のGHを作って欲しい。(30～34歳)
- 身体(車イス)や高次脳に対応したGHを区内に増やして欲しい。早く施設を出て、中野に戻りたい。(50～54歳)
- 行動障害があっても、地域で住めるような社会的資源の充実。相談窓口の設置等、望みます。(50～54歳)



# 発達支援等調査

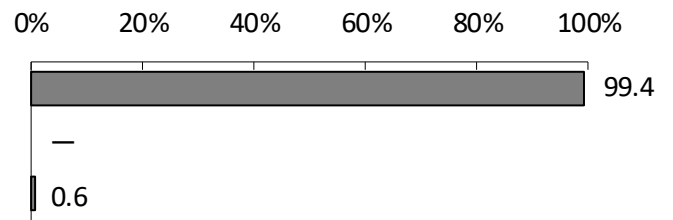
---



## 1. 回答者の属性

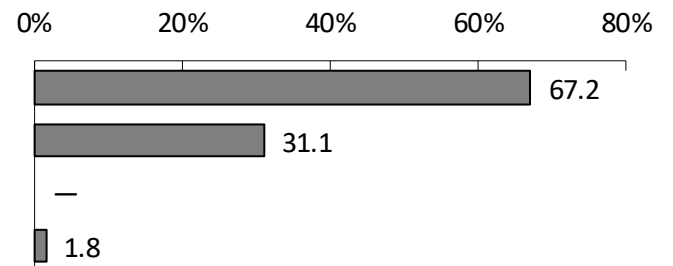
### 1.1. アンケートの回答者

	基数	構成比(%)
家族	339	99.4
その他の人	—	—
無回答	2	0.6
全体	341	100.0



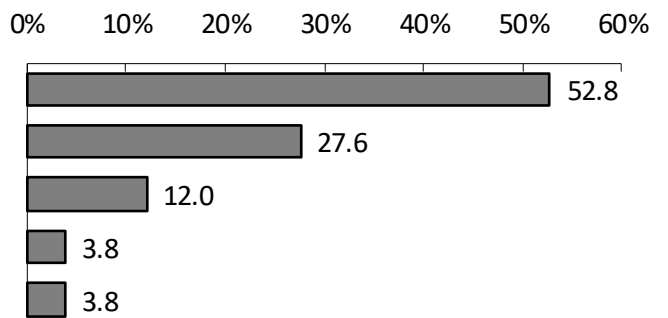
### 1.2. 性別

	基数	構成比(%)
男性	229	67.2
女性	106	31.1
その他	—	—
無回答	6	1.8
全体	341	100.0

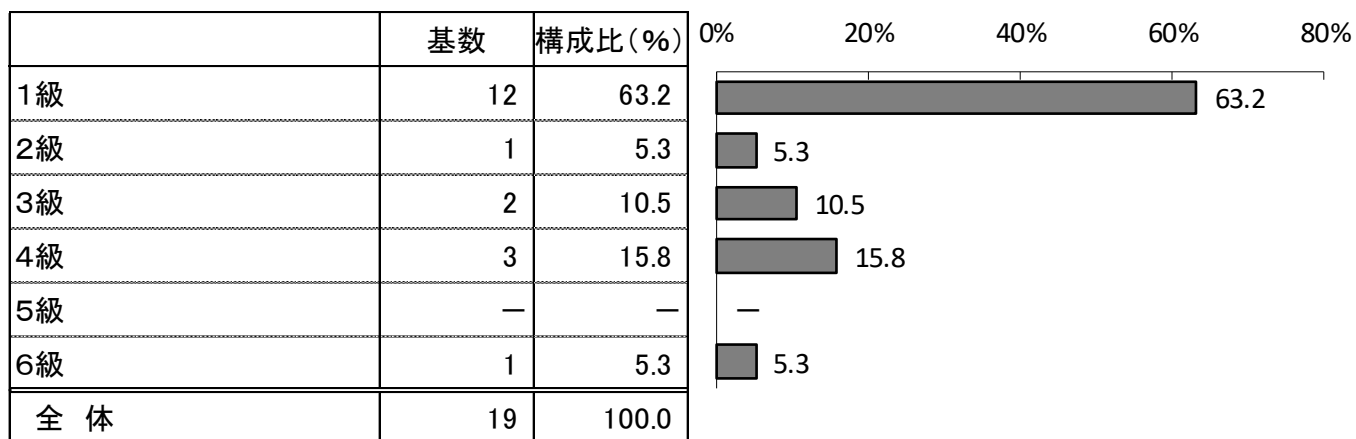


### 1.3. 年齢

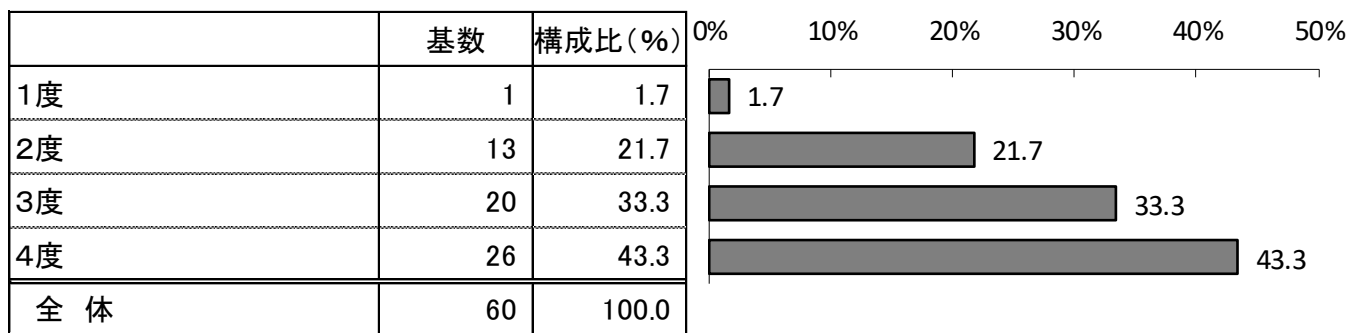
	基数	構成比(%)
0～5歳	180	52.8
6～9歳	94	27.6
10～14歳	41	12.0
15～18歳	13	3.8
無回答	13	3.8
全体	341	100.0



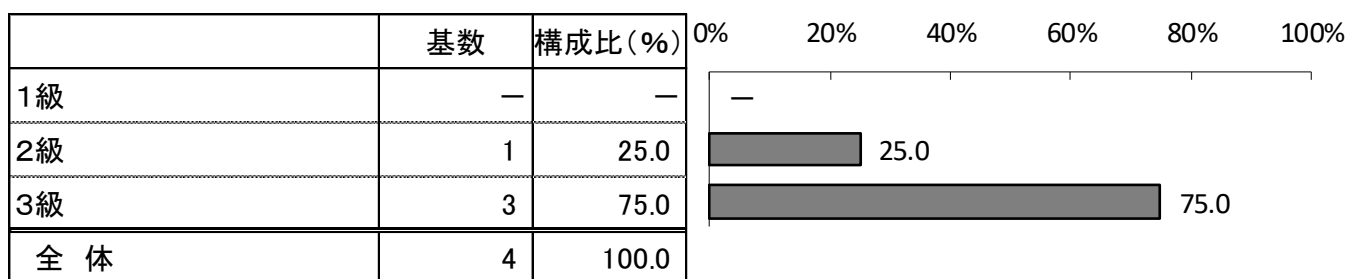
1.4. 身体障害者手帳の等級



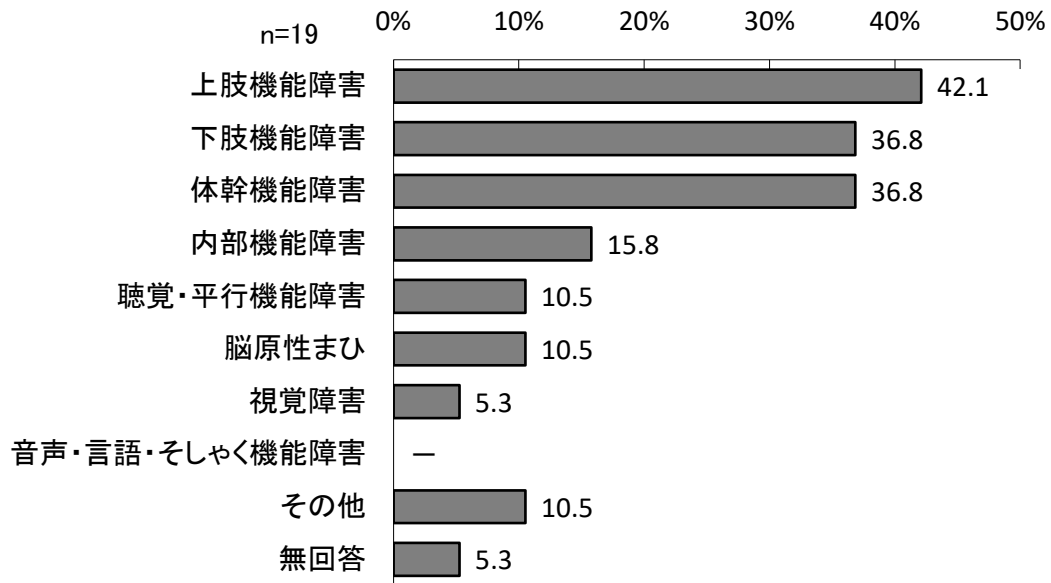
1.5. 愛の手帳の度数



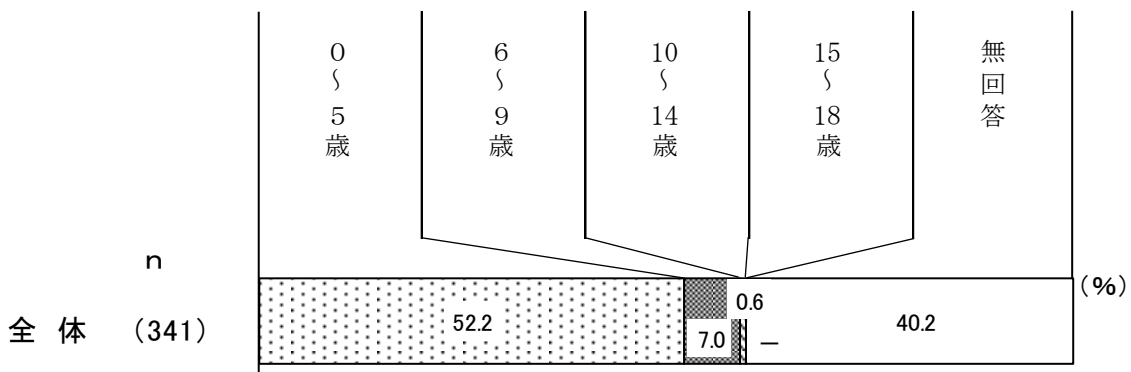
1.6. 精神障害者保健福祉手帳の等級



1.7. 身体障害者手帳に記載された障害名（複数回答）



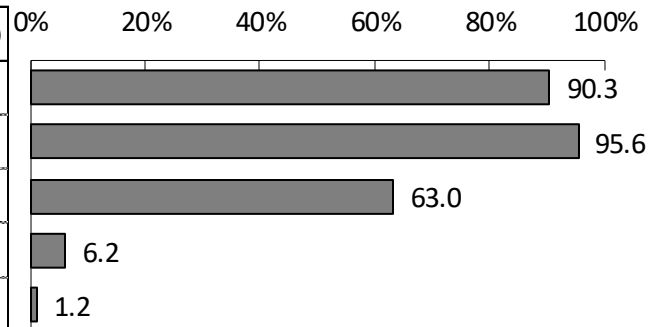
1.8. 診断に関することで気がついた年齢（把握時点が複数ある場合は直近のもの）





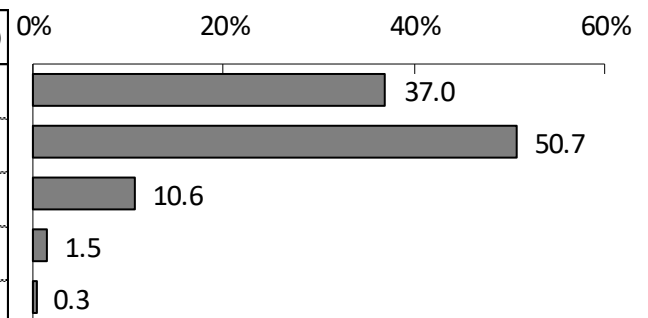
1.9. 家族構成（複数回答）

	基数	構成比(%)
父	308	90.3
母	326	95.6
兄弟姉妹	215	63.0
その他	21	6.2
無回答	4	1.2
全体	341	100.0



1.9.1. 兄弟姉妹の人数

	基数	構成比(%)
0人	126	37.0
1人	173	50.7
2人	36	10.6
3人	5	1.5
無回答	1	0.3
全体	341	100.0



1.10. 所持手帳別年齢

上段：(人) 下段：(%)

	全体	0 ～ 5 歳	6 ～ 9 歳	10 ～ 14 歳	15 ～ 18 歳	無 回 答
全体	341	180	94	41	13	13
	100.0	52.8	27.6	12.0	3.8	3.8
手帳非所持者	263	108	19	2	—	134
	100.0	41.1	7.2	0.8	—	51.0
身体障害者手帳(軽度)	6	4	2	—	—	—
	100.0	66.7	33.3	—	—	—
身体障害者手帳(重度)	13	6	2	3	1	1
	100.0	46.2	15.4	23.1	7.7	7.7
愛の手帳	60	19	23	10	6	2
	100.0	31.7	38.3	16.7	10.0	3.3
精神障害者保健福祉手帳	4	—	2	1	1	—
	100.0	—	50.0	25.0	25.0	—

## 2. 医療的ケア等について

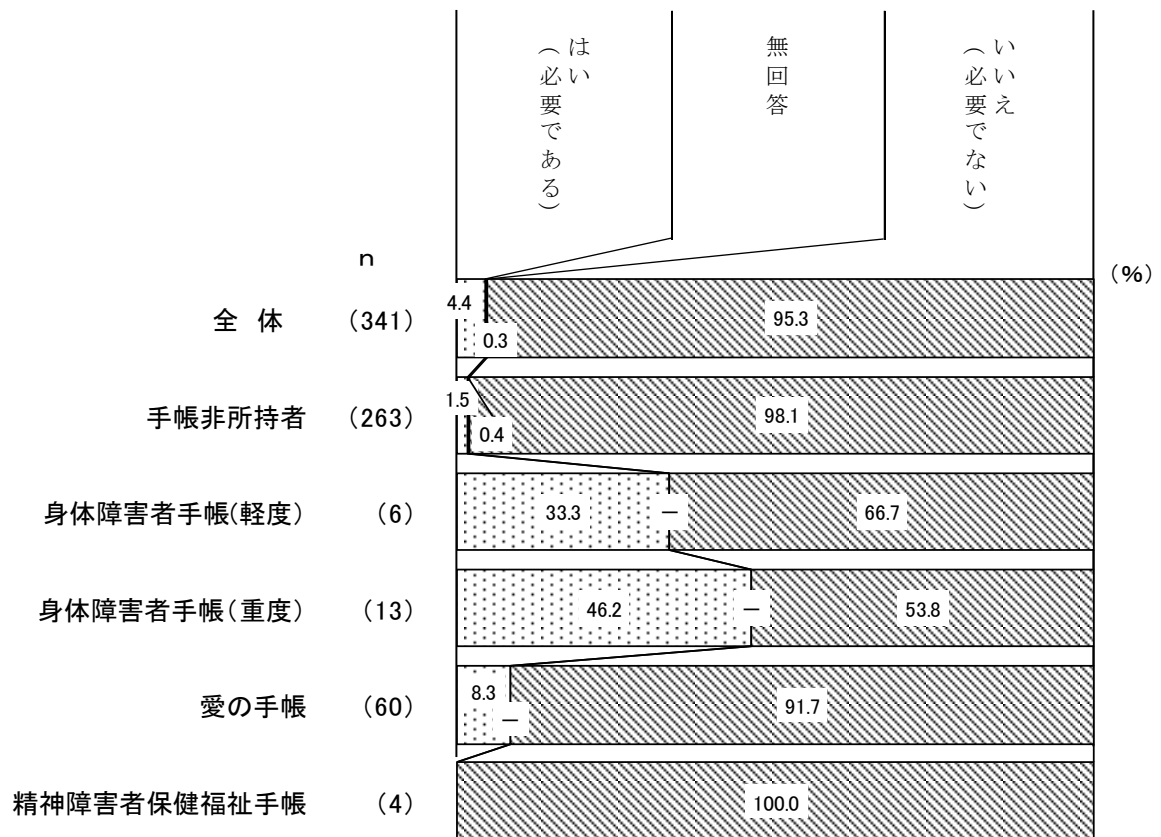
### 2.1. 医療的ケアの必要性

#### ◆医療的ケアが「必要である」方は身体障害者手帳（重度）所持者で高い

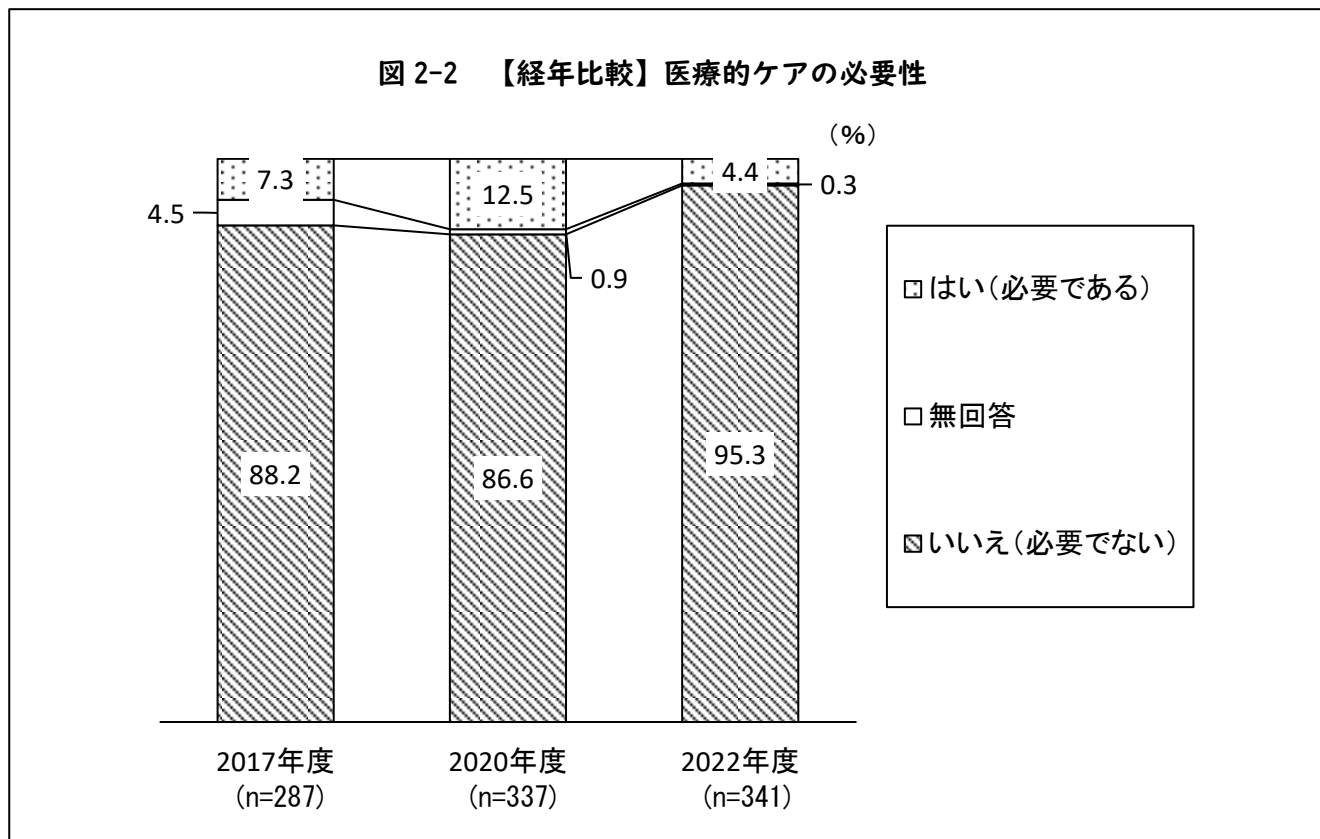
（全員の方に）

問 5. お子さん（あて名の方ご本人）は日常的に医療的ケアが必要ですか。（○は1つ）

図 2-1 【所持手帳別】医療的ケアの必要性



医療的ケアの必要性は他と比べて身体障害者手帳所持者で「はい（必要である）」が高くなっている。



医療的ケアの必要性を経年比較で見ると、2022年度は2020年度と比べ「はい(必要である)」が8.1ポイント減少し、「いいえ(必要でない)」が8.7ポイント増加している。

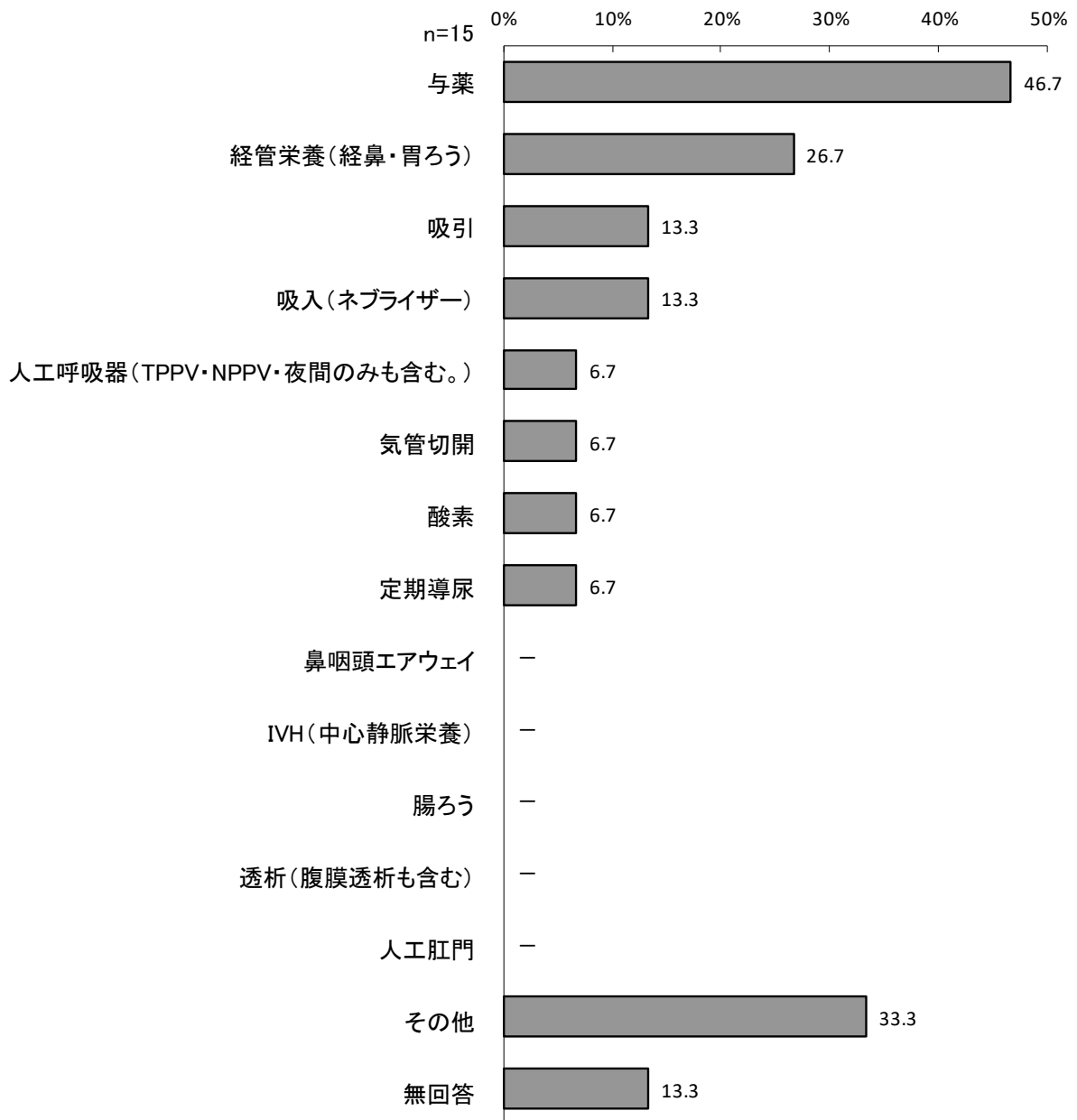
2.1.1. 医療的ケアの内容

◆日常的に必要な医療的ケアは「与薬」が最も高い

(問5で「1. はい」とお答えの方に)

問5-1. 日常的にどのような医療的ケアが必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

図2-3 医療的ケアの内容



日常的に必要な医療的ケアは「与薬」が最も高く、次いで「経管栄養(経鼻・胃ろう)」「吸引」「吸入(ネブライザー)」となっている。

図 2-4 【経年比較】 上位 5 項目 医療的ケアの内容

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=15	与薬 46.7	経管栄養(経鼻・胃ろう) 26.7	吸引／吸入(ネブライザー) 13.3		人工呼吸器(TPPV・NPPV・夜間のみも含む)／気管切開／酸素／定期導尿 6.7
2020年度 n=42	与薬 31.0	吸引 28.6	経管栄養(経鼻・胃ろう) 26.2	吸入(ネブライザー) 23.8	気管切開 16.7
2017年度 n=21	与薬 57.1	吸入(ネブライザー) 23.8	酸素 19.0	人工呼吸(TPPV・NPPV・夜間のみも含む)／吸引／経管栄養(経鼻・胃ろう) 14.3	

基数が少ないため、経年比較は参考までの掲載とする。

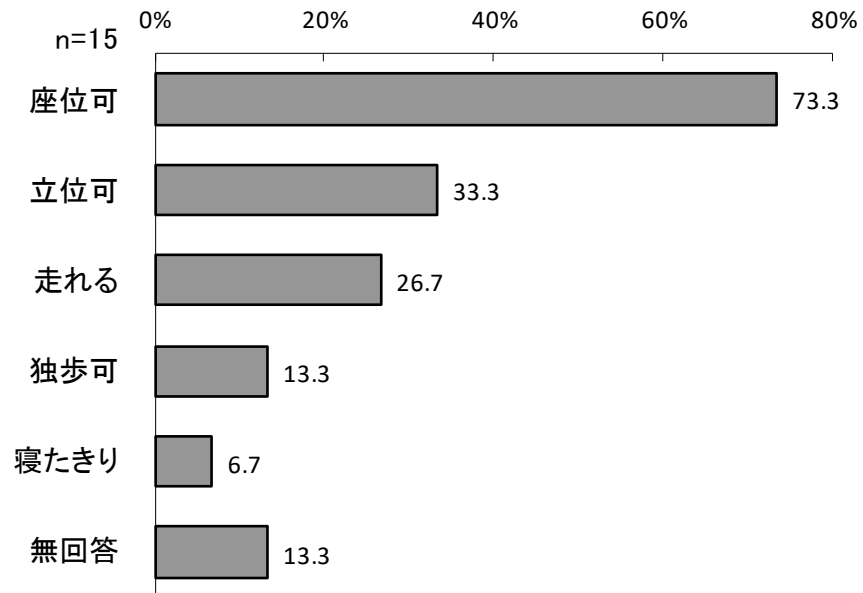
2.1.2. 身体能力について

◆医療的ケアが「必要である」方の身体能力については「座位可」が最も高い

(問5で「1. はい」とお答えの方に)

問5-2. 身体能力についてお答えください。(あてはるものすべてに○)

図 2-5 身体能力について



身体能力は「座位可」が最も高く、次いで「立位可」「走れる」「独歩可」となっている。

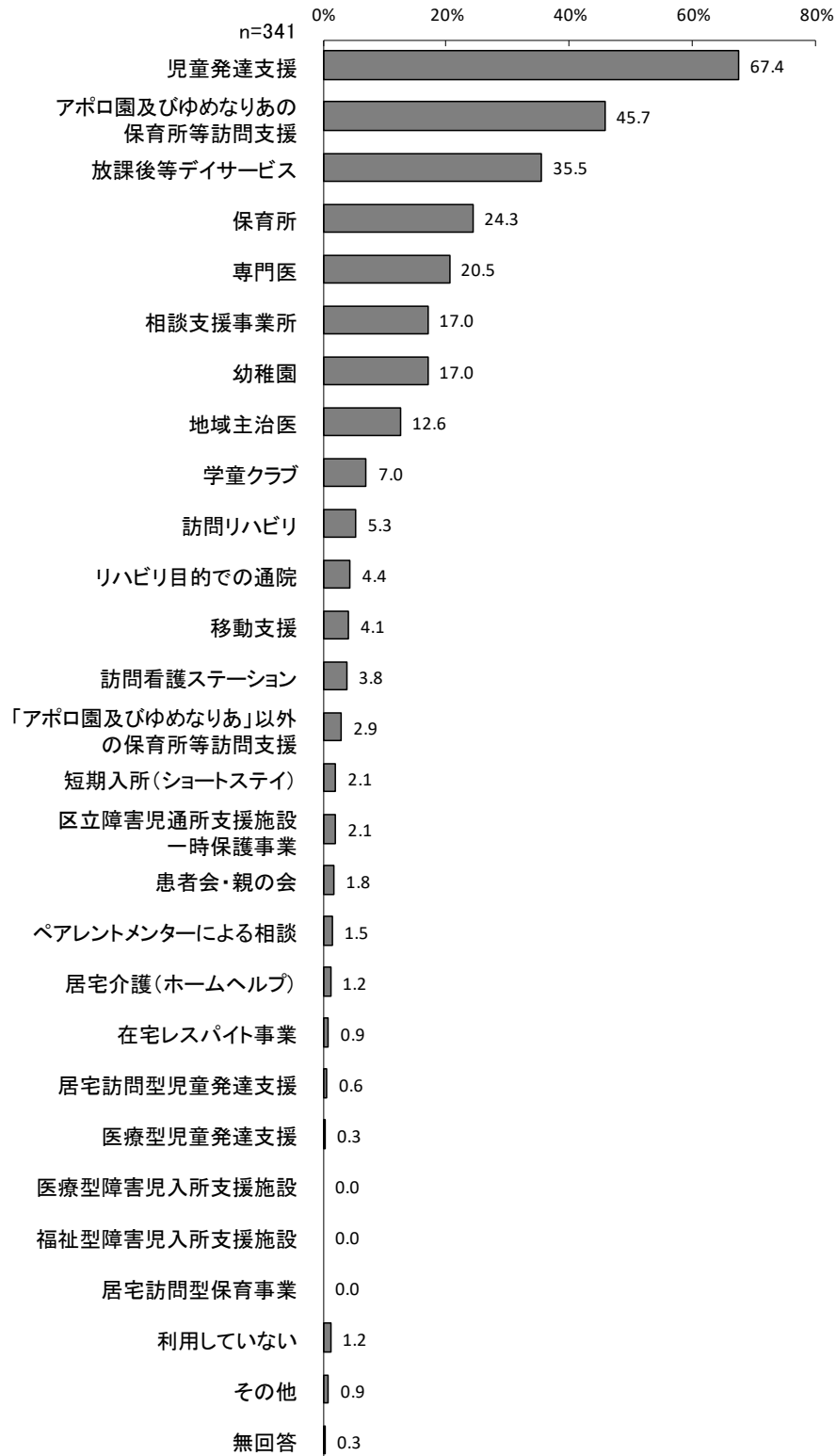
2.2. サービス等の利用状況

◆サービス等の利用状況は「児童発達支援」が6割台後半

(全員の方に)

問4. 次のサービス等を現在、利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

図 2-6 サービス等の利用状況



サービス等の利用状況は、「児童発達支援」が最も高く、次いで「アポロ園及びゆめなりあの保育所等訪問支援」「放課後等デイサービス」「保育所」となっている。

図 2-7 【経年比較】上位 5 項目 サービス等の利用状況

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=341	児童発達支援 67.4	アポロ園及びゆめなりあの保育所等訪問支援 45.7	放課後等デイサービス 35.5	保育所 24.3	専門医 20.5
2020年度 n=337	放課後等デイサービス 44.2	専門医 28.8	児童発達支援 16.3	相談支援事業所 11.6	アポロ園及びゆめなりあの保育園等巡回訪問支援 11.3
2017年度 n=287	児童発達支援 34.1	専門医 31.4	放課後等デイサービス 30.3	幼稚園 12.9	移動支援 11.1

サービス等の利用状況を経年比較で見ると、2022年度は2020年度に比べ「児童発達支援」の割合が高くなっている。また、2021年度から開始した「アポロ園及びゆめなりあの保育所等訪問支援」も高い割合となっている。



図 2-8 【年齢別】サービス等の利用状況

(%)

区分	有効回答数(件)	児童発達支援	アポロ園及びゆめなりの保育所等訪問支援	放課後等デイサービス	保育所	専門医	相談支援事業所	幼稚園	地域主治医	学童クラブ	訪問リハビリ
全体	341	67.4	45.7	35.5	24.3	20.5	17.0	17.0	12.6	7.0	5.3
0～5歳	180	96.1	76.7	—	37.2	11.7	10.0	27.8	9.4	0.6	6.1
6～9歳	94	39.4	14.9	74.5	12.8	37.2	26.6	6.4	23.4	21.3	5.3
10～14歳	41	24.4	—	87.8	—	24.4	24.4	—	4.9	4.9	2.4
15～18歳	13	23.1	—	76.9	—	15.4	23.1	—	7.7	—	—

区分	通院リハビリ目的での	移動支援	訪問看護ステーション	アポロ園及びゆめなりの保育所等訪問支援以外の	短期入所(ショートステイ)	区立障害児通所支援施設一時保護事業	患者会・親の会	ペアレントメンターによる相談	居宅介護(ホームヘルプ)	在宅レスパイト事業	居宅訪問型児童発達支援
全体	4.4	4.1	3.8	2.9	2.1	2.1	1.8	1.5	1.2	0.9	0.6
0～5歳	2.8	—	5.0	5.0	1.1	1.1	1.1	0.6	0.6	0.6	0.6
6～9歳	6.4	8.5	—	1.1	—	3.2	3.2	3.2	1.1	1.1	—
10～14歳	7.3	4.9	4.9	—	4.9	—	2.4	—	2.4	—	—
15～18歳	—	23.1	—	—	15.4	7.7	—	7.7	—	—	—

区分	医療型児童発達支援	医療型障害児入所支援施設	福祉型障害児入所施設	居宅訪問型保育事業	利用していない	その他	無回答
全体	0.3	—	—	—	1.2	0.9	0.3
0～5歳	—	—	—	—	0.6	0.6	—
6～9歳	1.1	—	—	—	—	—	—
10～14歳	—	—	—	—	4.9	2.4	—
15～18歳	—	—	—	—	7.7	—	7.7

図 2-9 【所持手帳別】サービス等の利用状況

(%)

区分	有効回答数(件)	児童発達支援	アポロ園及びゆめなりの保育所等訪問支援	放課後等デイサービス	保育所	専門医	相談支援事業所	幼稚園	地域主治医	学童クラブ	訪問リハビリ
全体	341	67.4	45.7	35.5	24.3	20.5	17.0	17.0	12.6	7.0	5.3
手帳非所持者	263	73.0	52.9	29.3	26.2	14.4	12.5	19.8	9.5	6.5	2.3
身体障害者手帳(軽度)	6	83.3	50.0	16.7	33.3	83.3	33.3	—	33.3	—	16.7
身体障害者手帳(重度)	13	61.5	15.4	30.8	23.1	61.5	53.8	7.7	30.8	—	38.5
愛の手帳	60	45.0	23.3	63.3	15.0	30.0	23.3	8.3	18.3	11.7	11.7
精神障害者保健福祉手帳	4	25.0	—	75.0	25.0	75.0	75.0	—	50.0	—	—

区分	通院リハビリ目的での	移動支援	訪問看護ステーション	アポロ園及びゆめなりの保育所等訪問支援	短期入所(ショートステイ)	区立障害児通所支援施設一時保護事業	患者会・親の会	ペアレントメンターによる相談	居宅介護(ホームヘルプ)	在宅レスパイト事業	居宅訪問型児童発達支援
全体	4.4	4.1	3.8	2.9	2.1	2.1	1.8	1.5	1.2	0.9	0.6
手帳非所持者	1.1	1.5	0.8	3.4	0.4	1.9	0.8	1.9	—	0.4	0.4
身体障害者手帳(軽度)	16.7	—	16.7	—	—	—	16.7	—	—	—	—
身体障害者手帳(重度)	46.2	30.8	46.2	—	15.4	7.7	7.7	—	23.1	7.7	—
愛の手帳	8.3	11.7	8.3	1.7	8.3	—	3.3	—	1.7	1.7	1.7
精神障害者保健福祉手帳	—	25.0	—	—	25.0	25.0	—	—	—	—	—

区分	医療型児童発達支援	医療施設障害児入所	福祉施設障害児入所	居宅訪問型保育事業	利用していない	その他	無回答
全体	0.3	—	—	—	1.2	0.9	0.3
手帳非所持者	—	—	—	—	1.5	1.1	0.4
身体障害者手帳(軽度)	16.7	—	—	—	—	—	—
身体障害者手帳(重度)	—	—	—	—	—	—	—
愛の手帳	—	—	—	—	—	—	—
精神障害者保健福祉手帳	—	—	—	—	—	—	—

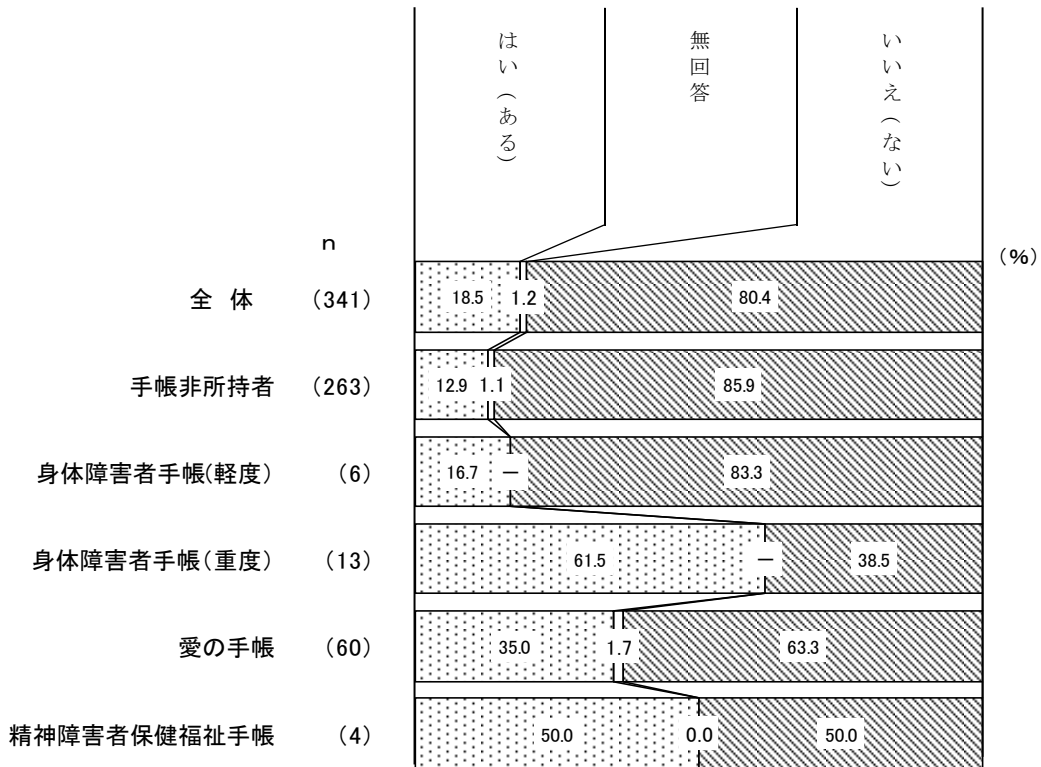
2.2.1. これまで利用できなかったサービス等の有無

◆これまで利用できなかったサービス等は「ない」が約8割

(全員の方に)

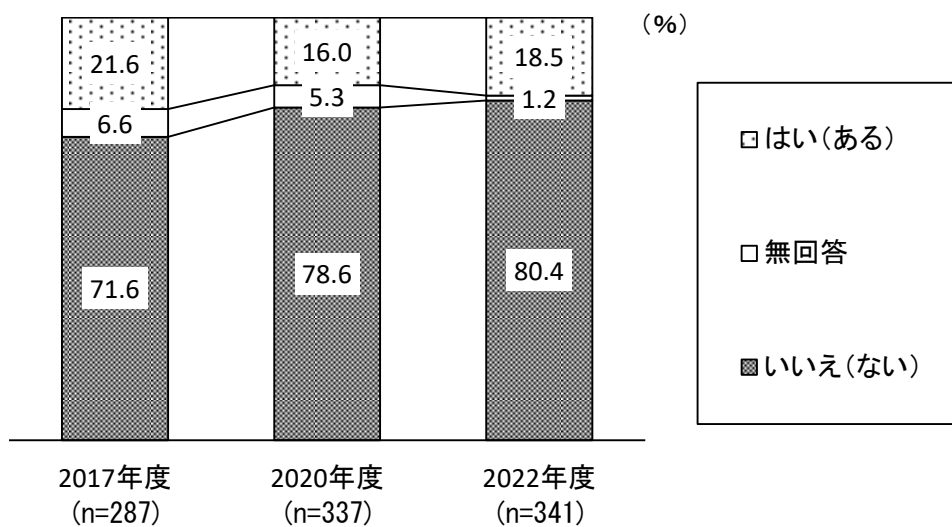
問4-1. これまで利用できなかったサービス等がありますか。(○は1つ)

図2-10 【所持手帳別】これまで利用できなかったサービス等の有無



これまで利用できなかったサービス等の有無は、他と比べて身体障害者手帳所持者（重度）で「はい(ある)」の割合が高くなっている。

図2-11 【経年比較】これまで利用できなかったサービス等の有無



これまで利用できなかったサービス等の有無について、2022年度と2020年度では大きな変化はみられない。

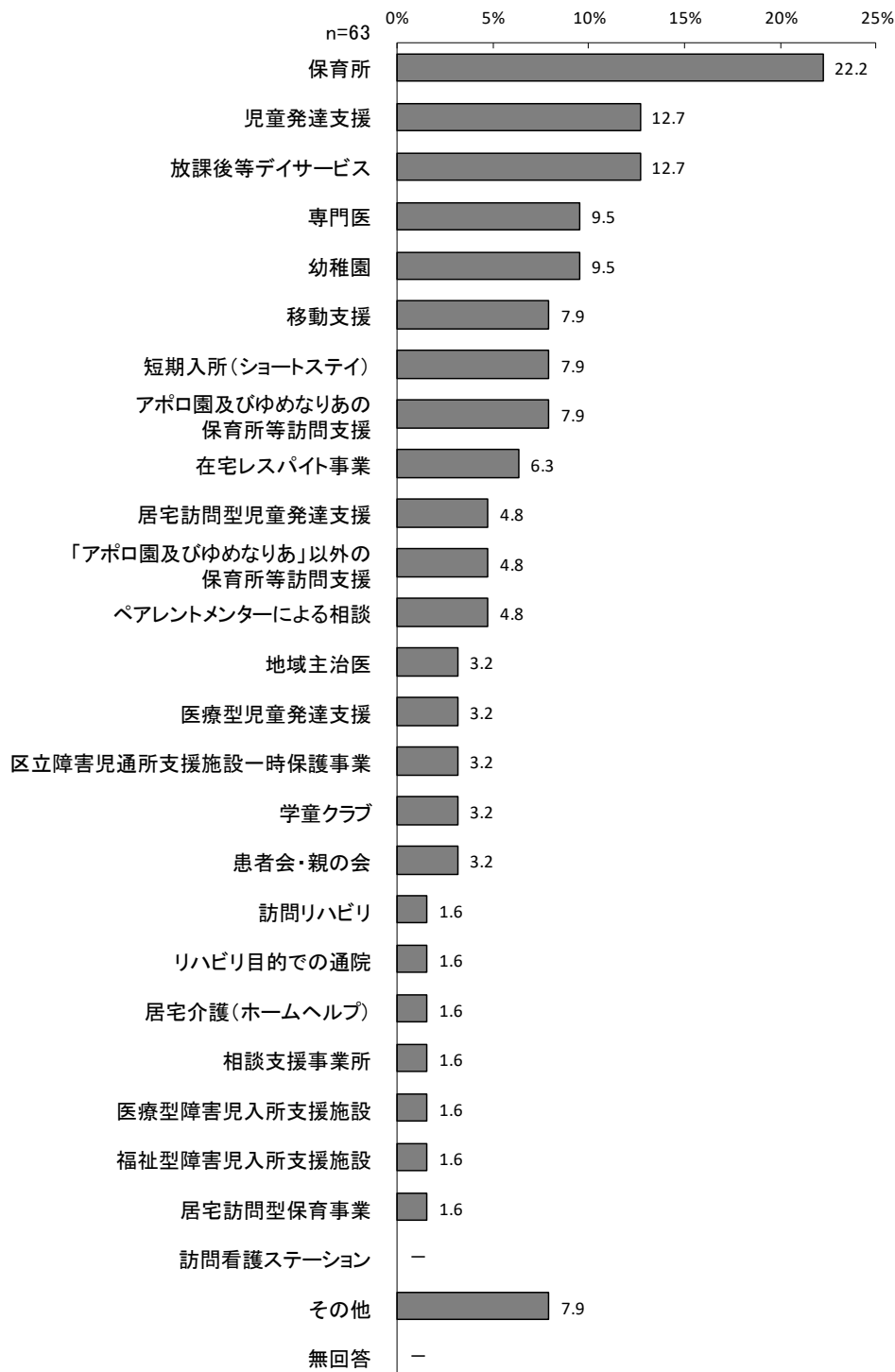
2.2.2. 利用できなかったサービス等

◆利用できなかったサービス等は「保育所」が2割台前半

(問4-1で「1. はい」とお答えの方に)

問4-2. 利用できなかったサービス等は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

図2-12 利用できなかったサービス等



利用できなかったサービス等は「保育所」が最も高く、次いで「児童発達支援」「放課後等デイサービス」「専門医」「幼稚園」となっている。

図 2-13 【経年比較】上位5項目 利用できなかったサービス等

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=63	保育所 22.2	児童発達支援／放課後等デイサービス 12.7	専門医／幼稚園 9.5		
2020年度 n=54	短期入所(ショートステイ)／幼稚園 18.5	保育所 16.7	放課後等デイサービス／学童クラブ 14.8		
2017年度 n=62	幼稚園 25.8	保育所 24.2	児童発達支援 19.4	短期入所 11.3	移動支援 9.7

利用できなかったサービス等を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ「保育所」「児童発達支援」が増加している。

### 3. 児童福祉法のサービスについて

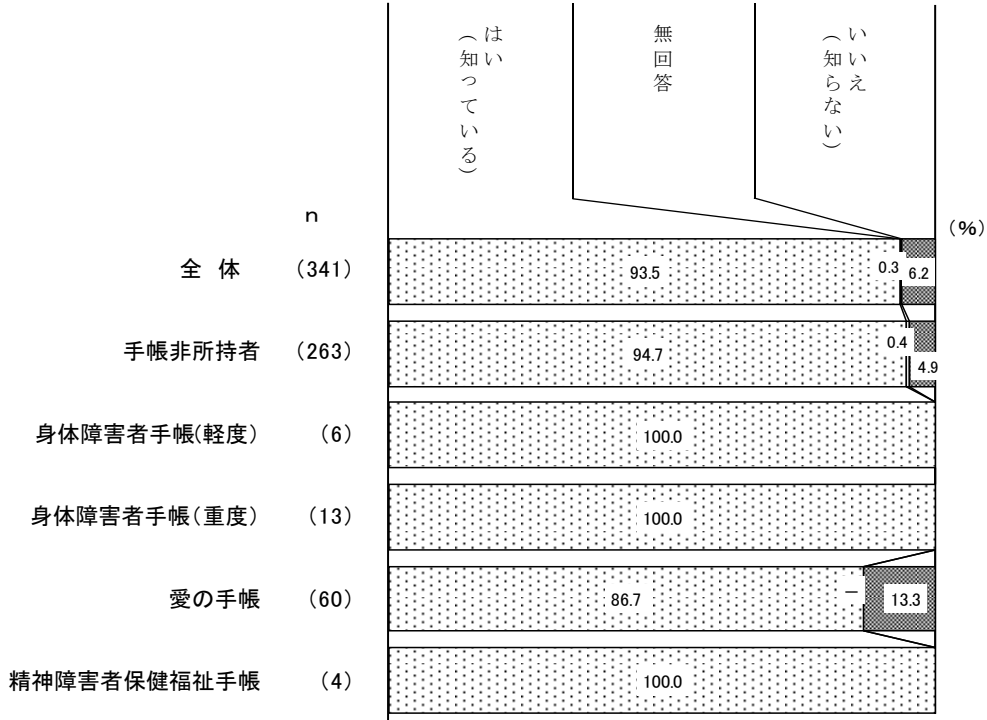
#### 3.1. 児童発達支援の認知度

##### ◆児童発達支援を「知っている」方は9割台前半

(全員の方に)

問7. 児童発達支援について、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。(〇は1つ)

図 3-1 【所持手帳別】 児童発達支援の認知度



児童発達支援の認知度は、「はい」の割合が9割台前半となっている。

図 3-2 【年齢別】 児童発達支援の認知度

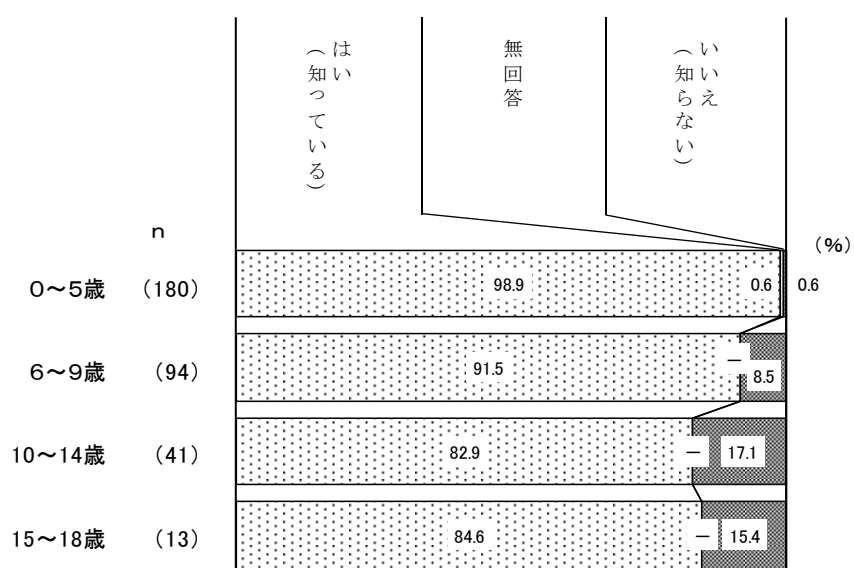
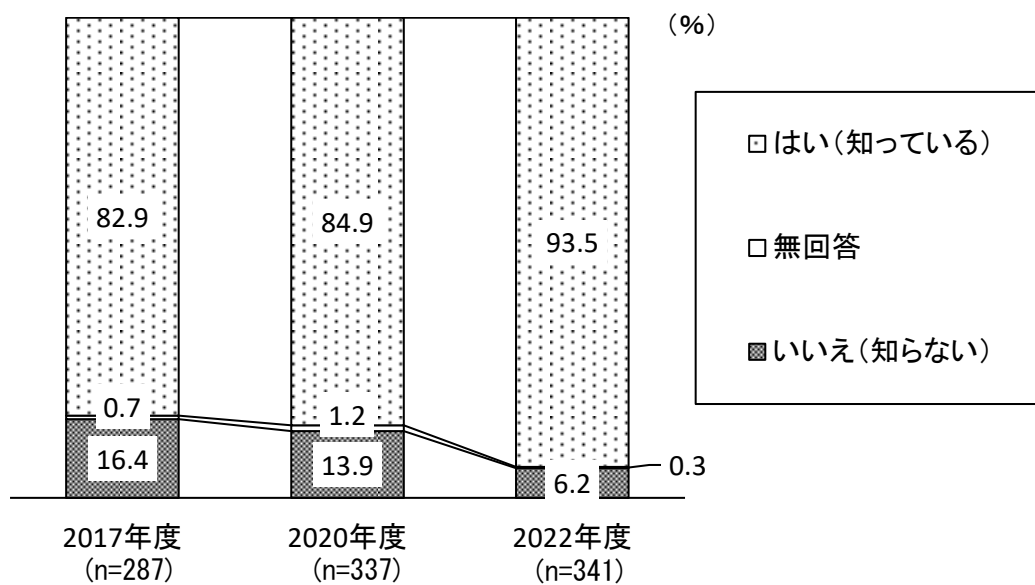


図 3-3 【経年比較】 児童発達支援の認知度



児童発達支援の認知度を経年比較で見ると、2022年度は2020年度と比べ「はい(知っている)」が8.6ポイント増加し、「いいえ(知らない)」が7.7ポイント減少している。

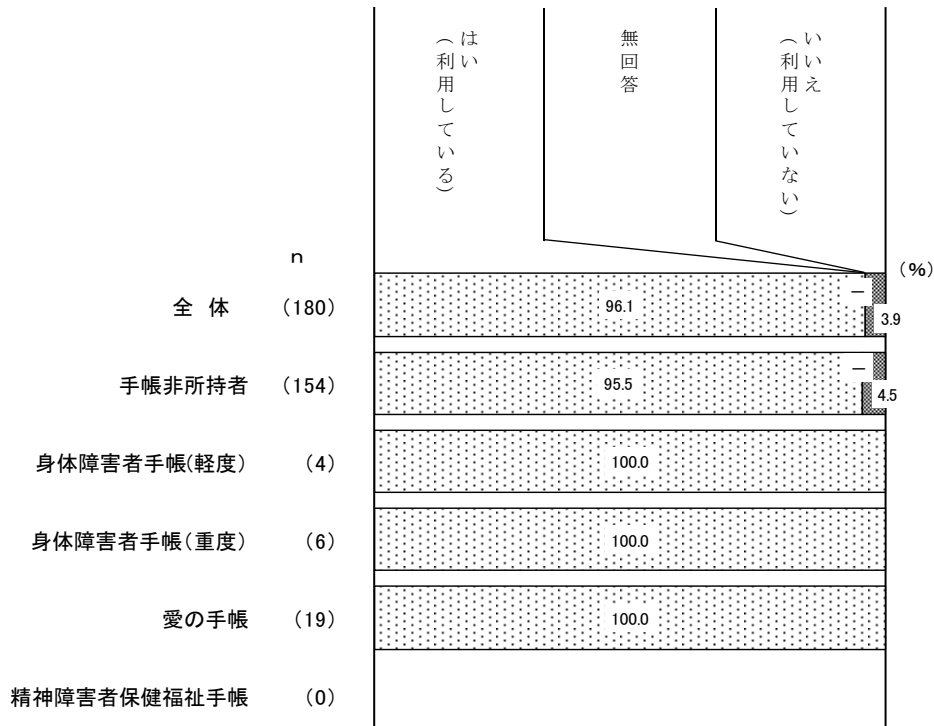
3.2. 児童発達支援の利用状況

◆児童発達支援を「利用している」方は9割台半ば

(全員の方に)

問8. 児童発達支援を現在、利用していますか。(○は1つ)

図3-4 【所持手帳別】児童発達支援の利用状況(5歳以下)



児童発達支援の利用の有無は、5歳以下で「はい(利用している)」の割合が9割台半ばとなっている。

図3-5 【年齢別】児童発達支援の利用状況(5歳以下)

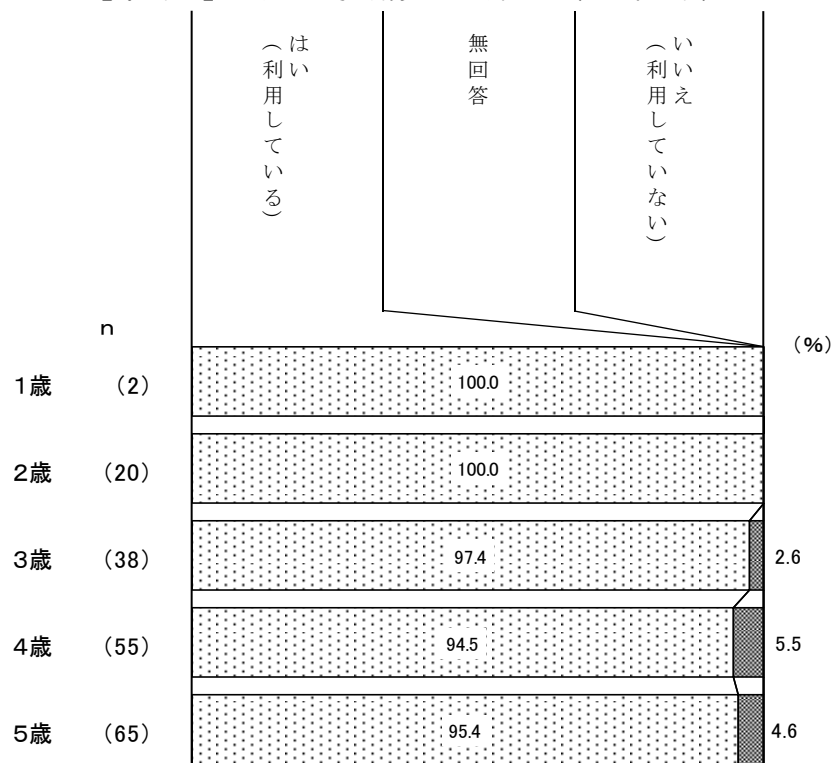
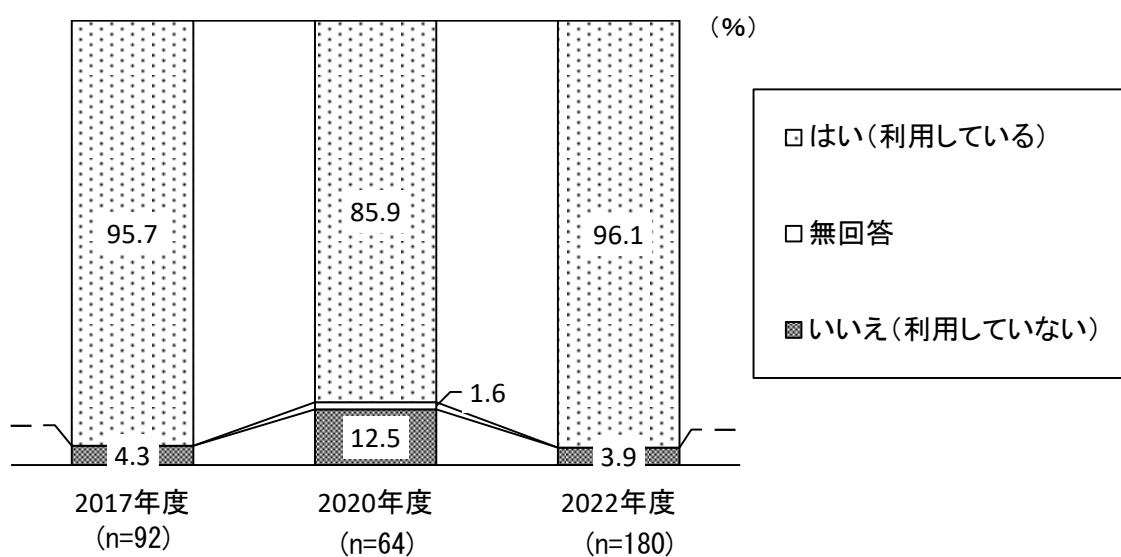




図 3-6 【経年変化】 児童発達支援の利用状況（5歳以下）



児童発達支援の利用の有無を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ「はい(利用している)」が10.2ポイント増加し、「いいえ(利用していない)」が8.6ポイント減少している。

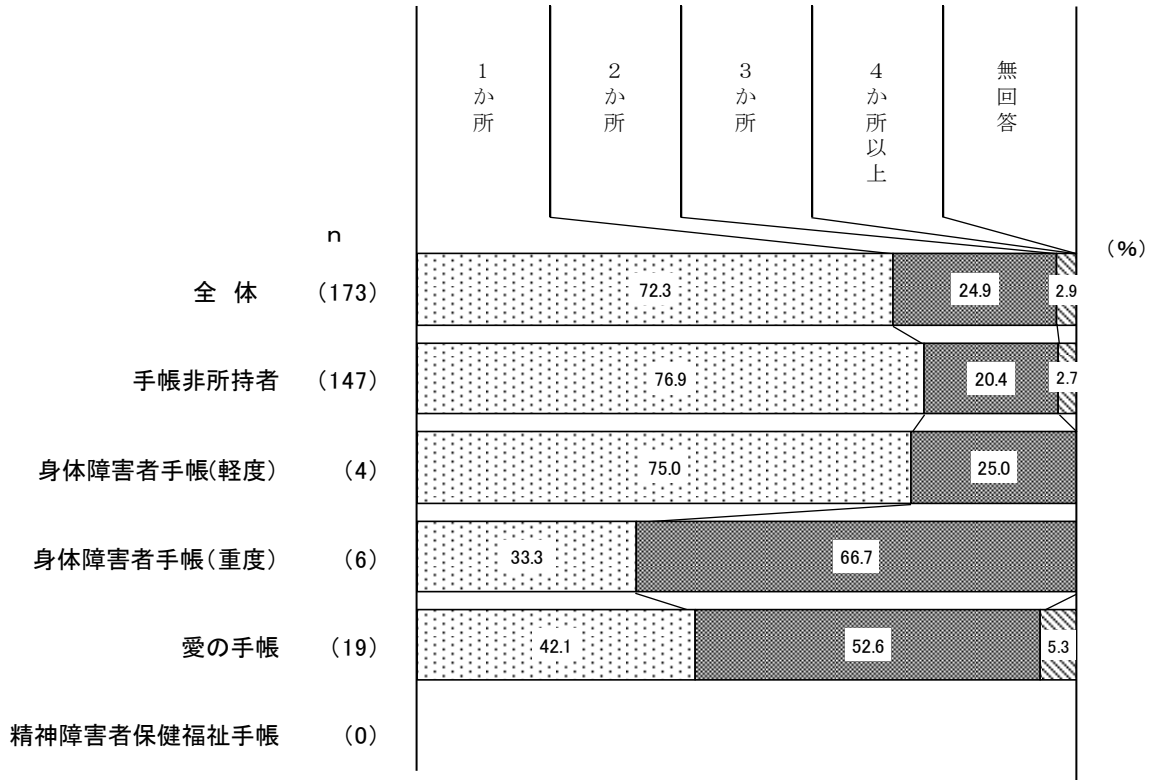
3.2.1. 利用している児童発達支援事業所数

◆利用している児童発達支援事業所は「1か所」の利用が7割台前半

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

問8-1. 現在、利用している児童発達支援事業所は何か所ですか。(〇は1つ)

図3-7 【所持手帳別】利用している児童発達支援事業所(5歳以下)



現在、利用している児童発達支援事業所は、5歳以下の全体で「1か所」が7割台前半、「2か所」が2割台半ばとなっている。

図3-8 【年齢別】利用している児童発達支援事業所数(5歳以下)

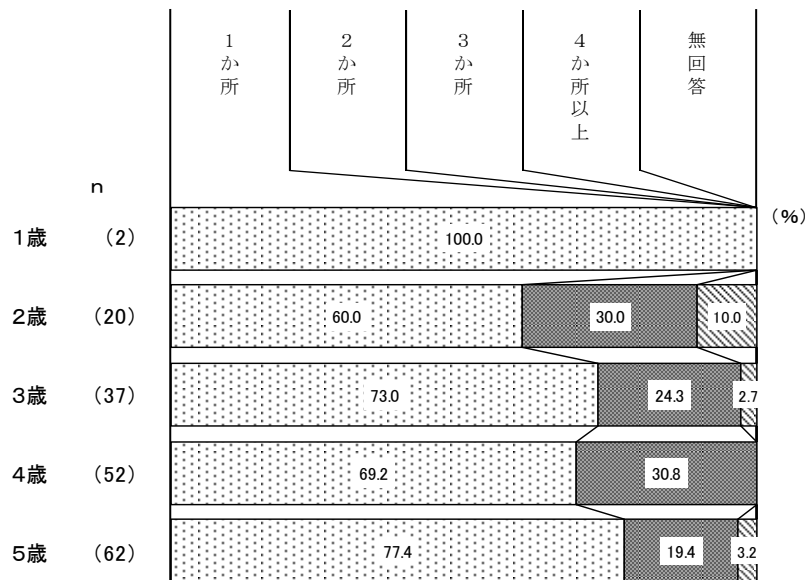
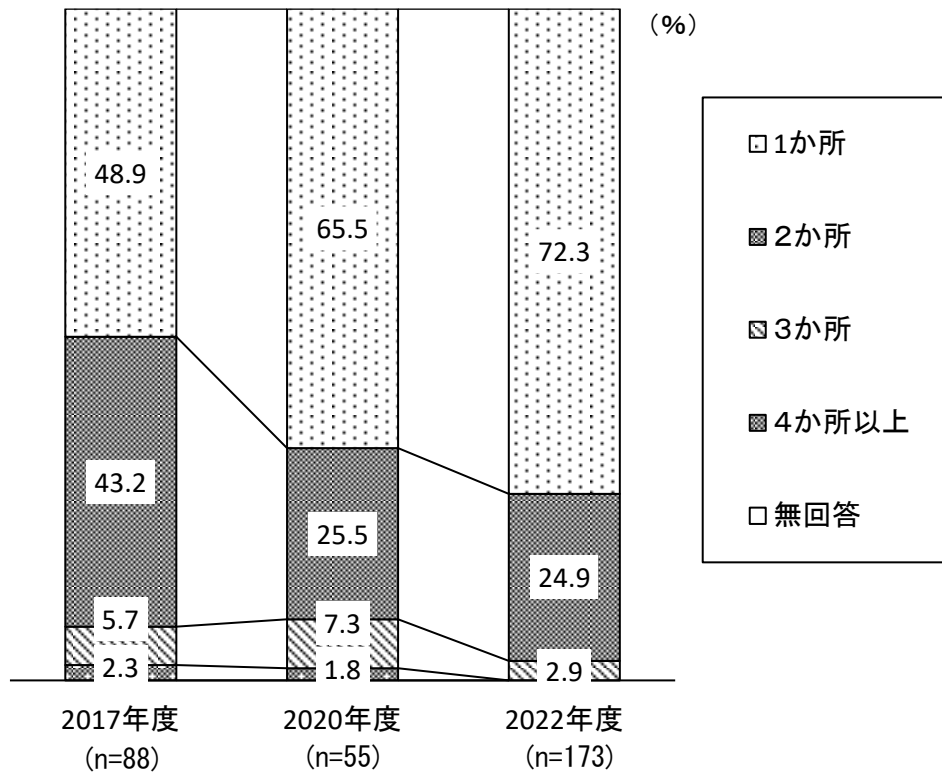


図 3-9 【経年比較】利用している児童発達支援事業所数（5歳以下）



利用している児童発達支援事業所を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ「1か所」が6.8ポイント増加しているのに対し、「2か所」が微減、「3か所」は4.4ポイント減少している。

3.2.2. 児童発達支援事業所に通う日数

◆児童発達支援事業所に通う日数は「月に2、3日」が約4割

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

問8-2. 現在、利用している児童発達支援事業所には、週にどの程度通われていますか。複数か所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。(〇は1つ)

図3-10 【所持手帳別】児童発達支援事業所に通う日数(5歳以下)

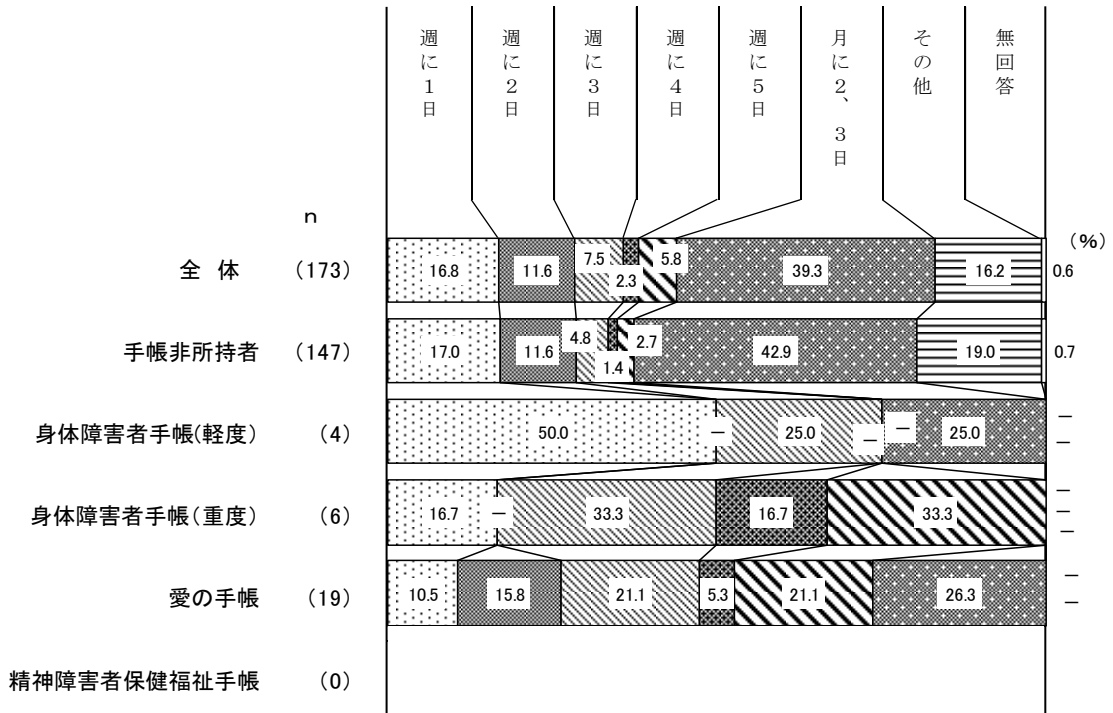
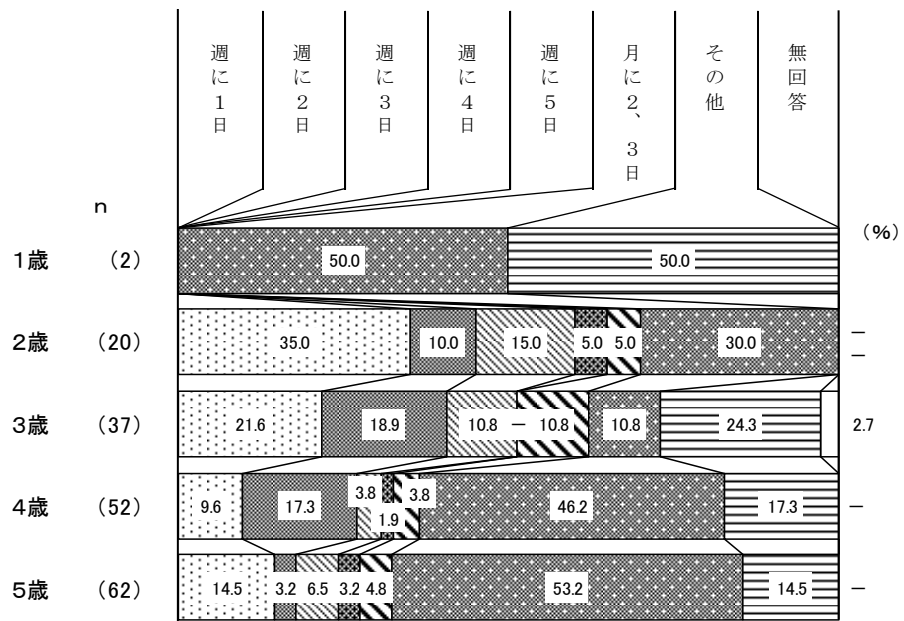


図3-11 【年齢別】児童発達支援事業所に通う日数(5歳以下)



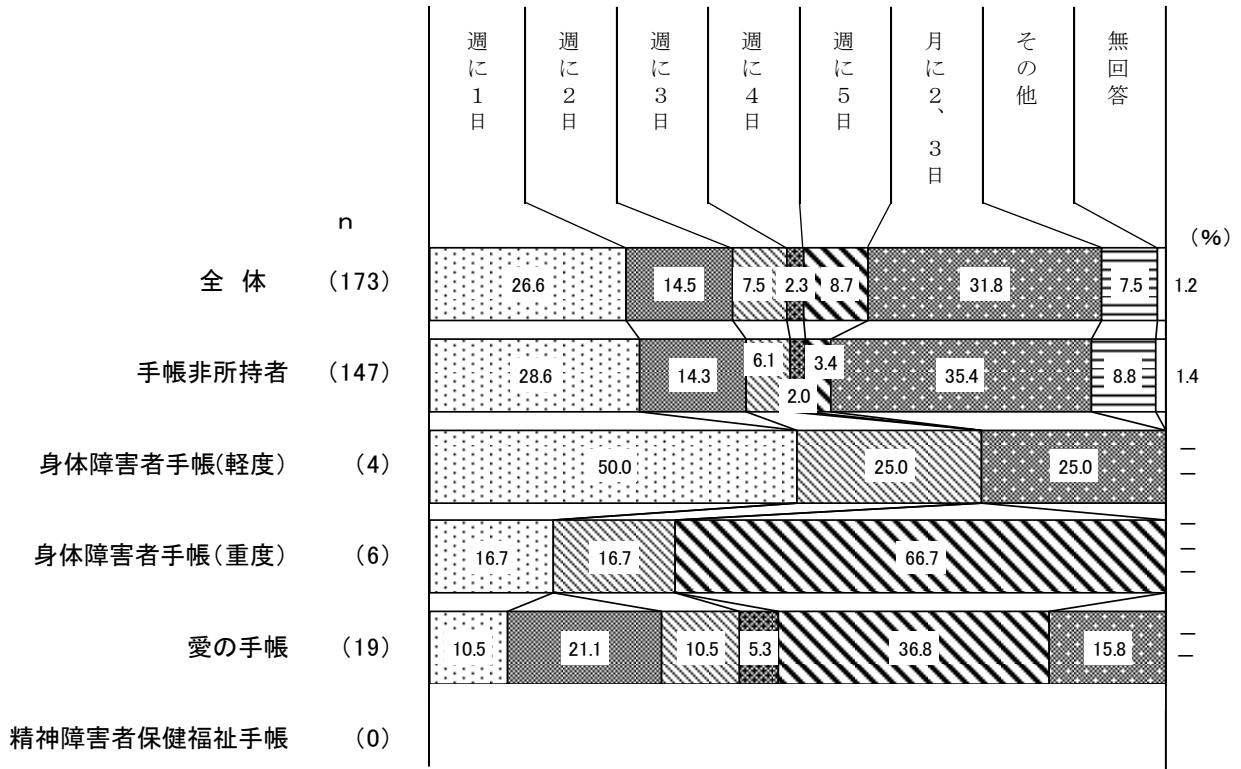
3.2.3. 児童発達支援を希望する利用日数

◆児童発達支援を希望する利用日数は「月に2、3日」が約3割

(問8で「1. はい」とお答えの方に)

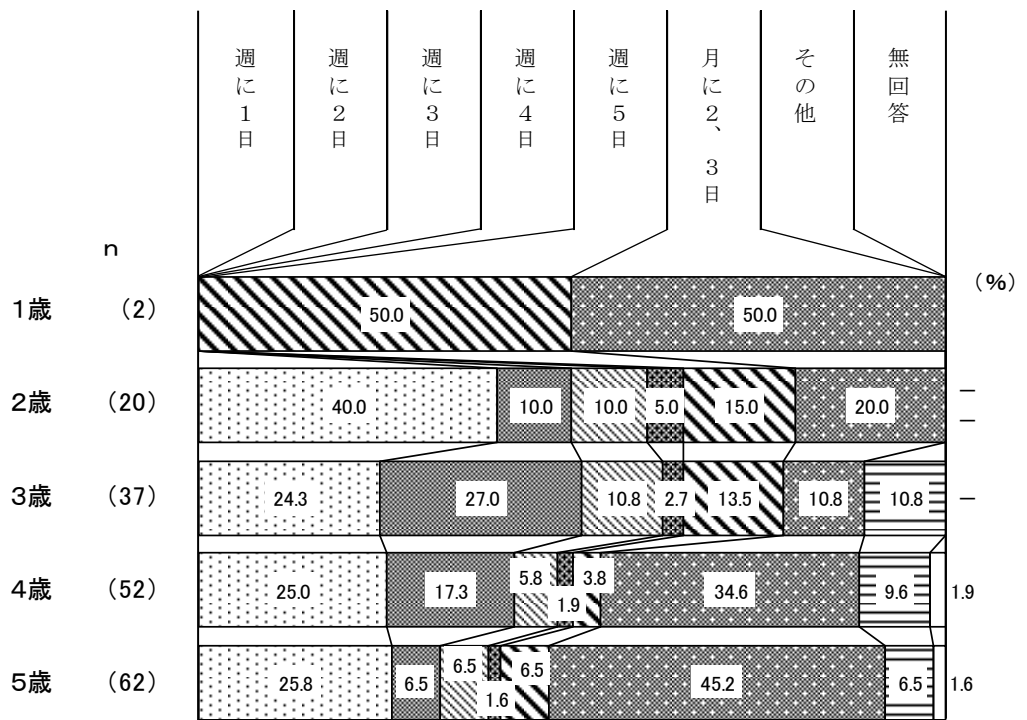
問8-3. 児童発達支援について、希望する利用日数はどの程度ですか。(〇は1つ)

図3-12 【所持手帳別】児童発達支援を希望する利用日数(5歳以下)



児童発達支援を希望する利用日数は、5歳以下で「月に2、3日」が約3割と高くなっている。

図3-13 【年齢別】児童発達支援を希望する利用日数(5歳以下)



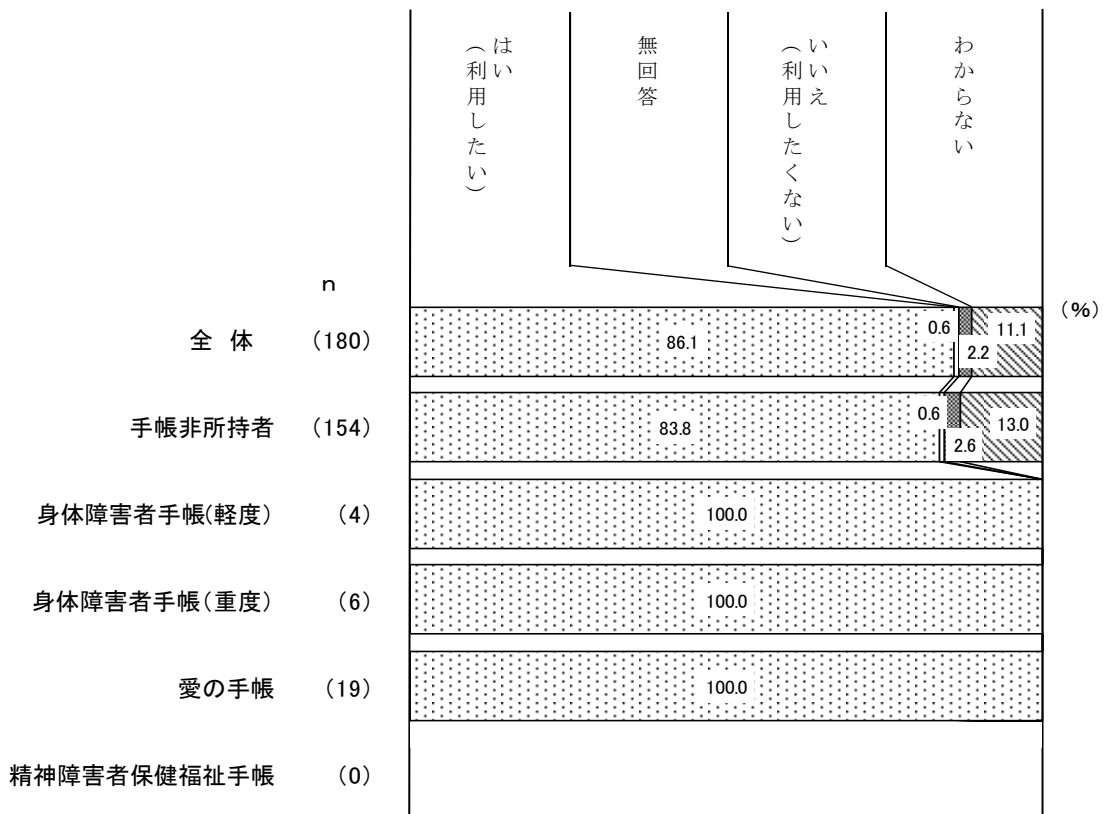
### 3.3. 児童発達支援の利用意向

#### ◆児童発達支援を今後「利用したい」方は8割台半ば

(全員の方に)

問9. 児童発達支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

図3-14 【所持手帳別】児童発達支援の利用意向(5歳以下)



児童発達支援の利用意向は、5歳以下で「はい(利用したい)」が8割台半ばとなっている。

図3-15 【年齢別】児童発達支援の利用意向(5歳以下)

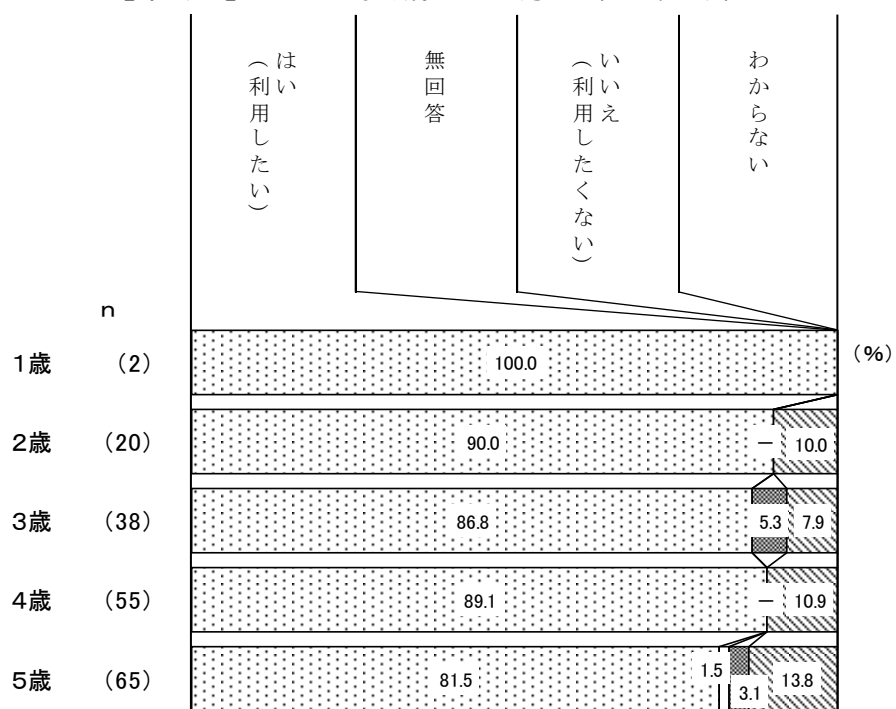
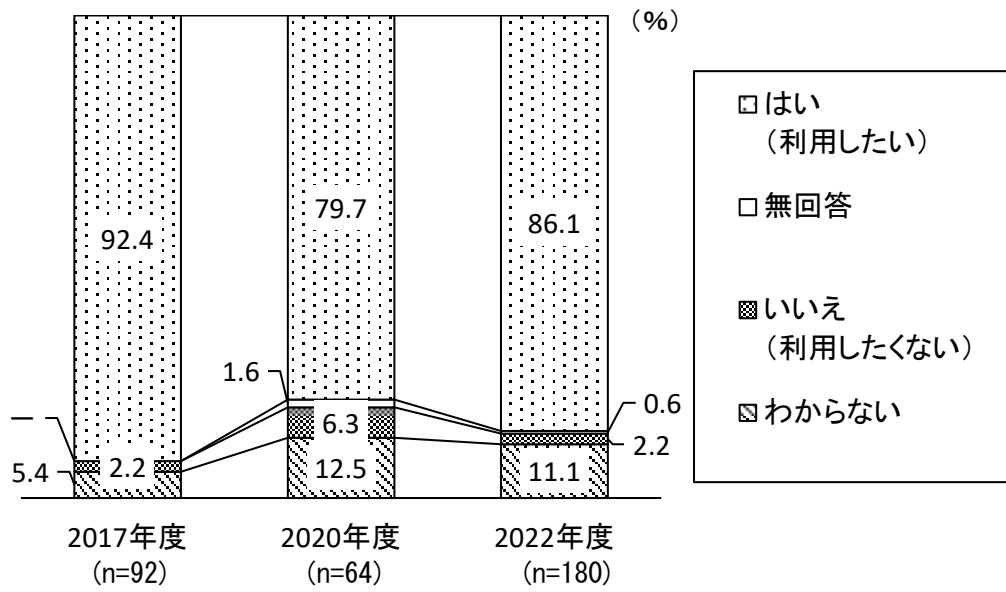


図 3-16 【経年比較】 児童発達支援の利用意向（5歳以下）



児童発達支援の利用意向を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ、「はい（利用したい）」が6.4ポイント増加している。

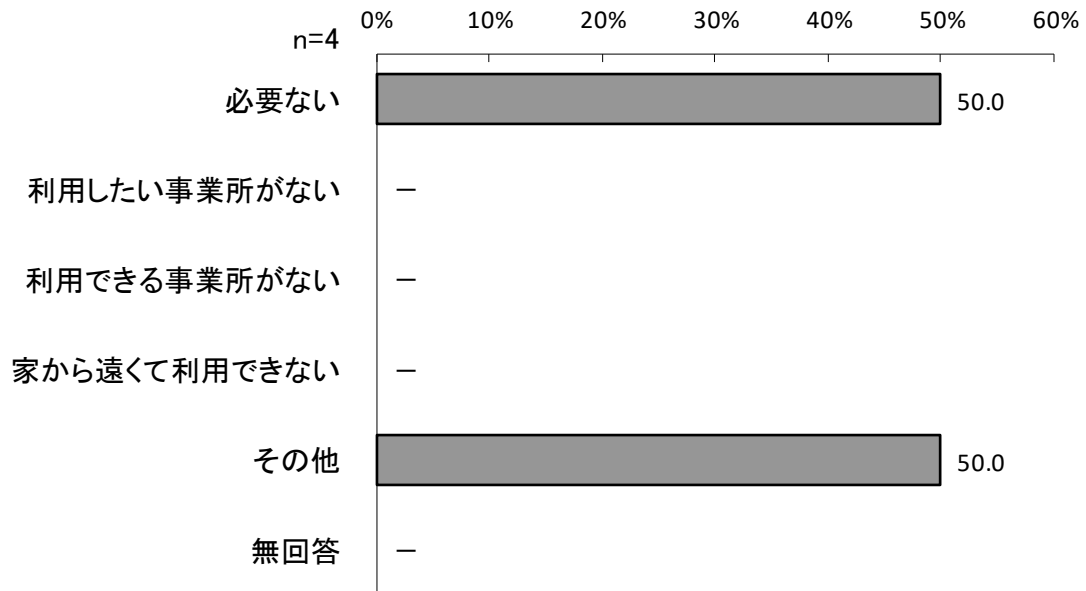
3.3.1. 児童発達支援を利用したくない理由

◆児童発達支援を利用したくない理由は「必要ない」が最も高い

(問9で「2. いいえ」とお答えの方に)

問9-1. 児童発達支援を利用したくない理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

図3-17 児童発達支援を利用したくない理由(5歳以下)



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。



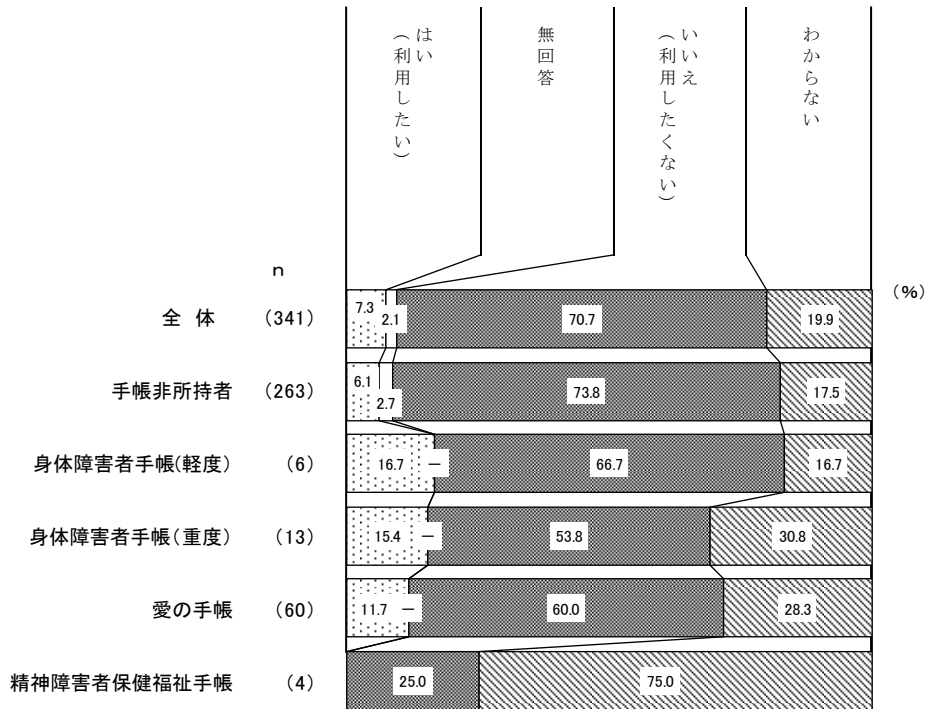
3.4. 居宅訪問型児童発達支援の利用意向

◆居宅訪問型児童発達支援の利用意向は身体障害者手帳所持者で1割台半ば

(全員の方に)

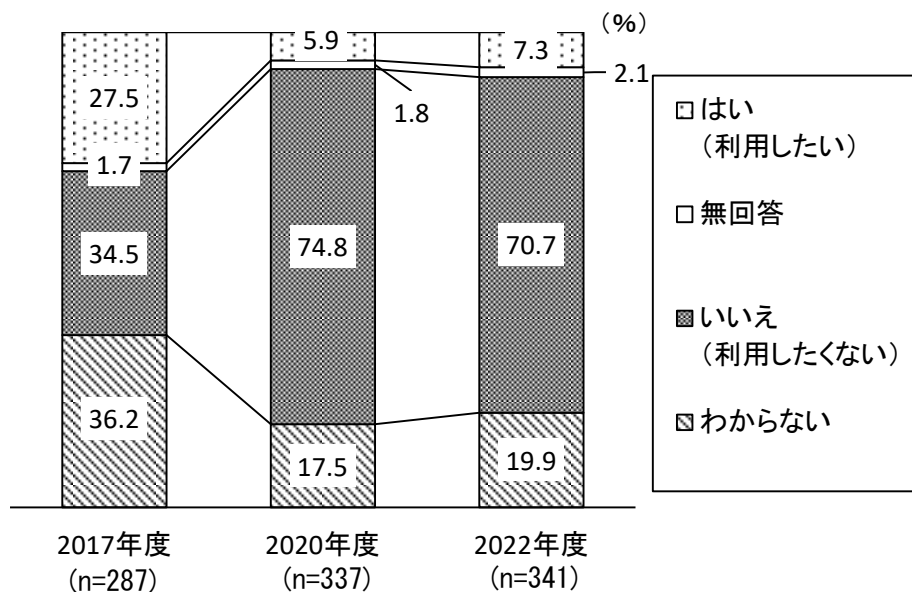
問 10. 居宅訪問型児童発達支援を、今後利用したいですか。(○は1つ)

図 3-18 【所持手帳別】居宅訪問型児童発達支援の利用意向



居宅訪問型児童発達支援の利用意向は、身体障害者手帳所持者(軽度・重度)で「はい(利用したい)」が1割台半ば、愛の手帳所持者で約1割となっている。

図 3-19 【経年比較】居宅訪問型児童発達支援の利用意向



居宅訪問型児童発達支援の利用意向を経年比較でみると、2020年度以降は「いいえ(利用したくない)」が7割を超えている。

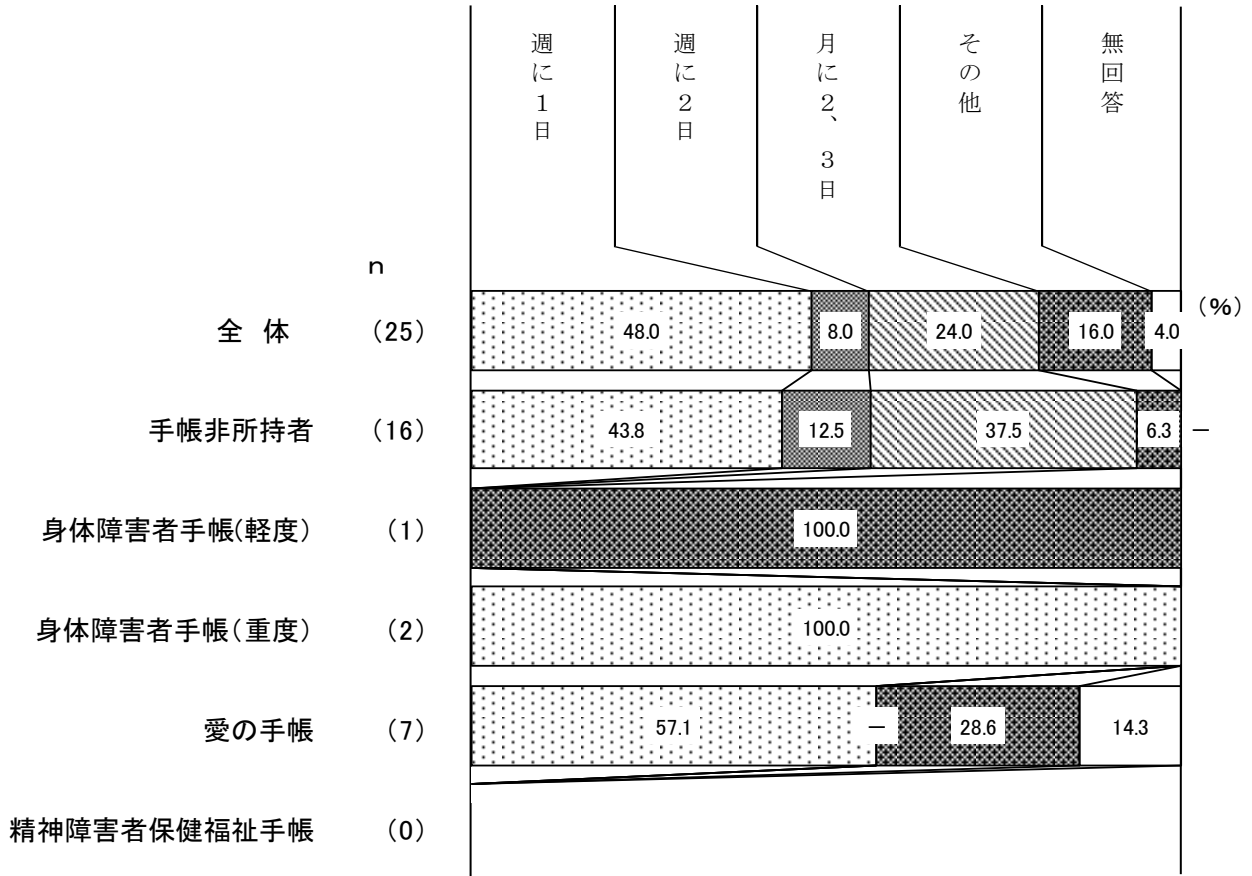
3.4.1. 利用したい日数

◆利用したい日数は「週に1日」が4割台後半

(問10で「1. はい」とお答えの方に)

問10-1. どの程度の日数を利用したいですか。(〇は1つ)

図3-20 【所持手帳別】利用したい日数



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。

3.5. 放課後等デイサービスの認知度

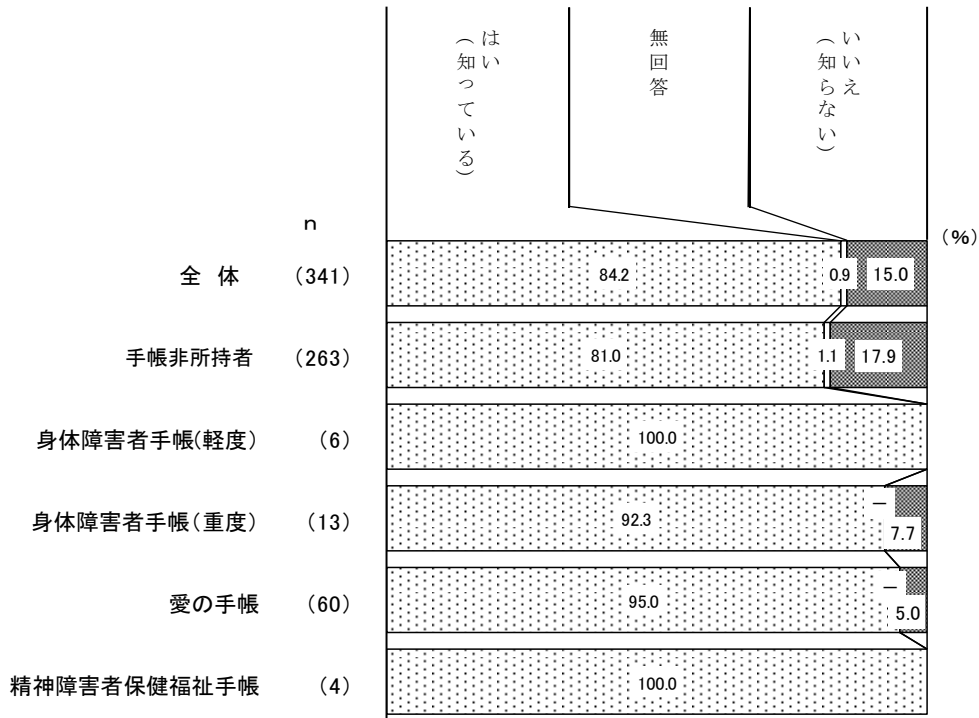
◆放課後等デイサービスを「知っている」方は8割台半ば

(全員の方に)

問 11. 放課後等デイサービスについて、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。

(〇は1つ)

図 3-21 【所持手帳別】放課後等デイサービスの認知度



放課後等デイサービスの認知度は、「はい (知っている)」が8割台半ばとなっている。

図 3-22 【所持手帳別】放課後等デイサービスの認知度 (6歳以上)

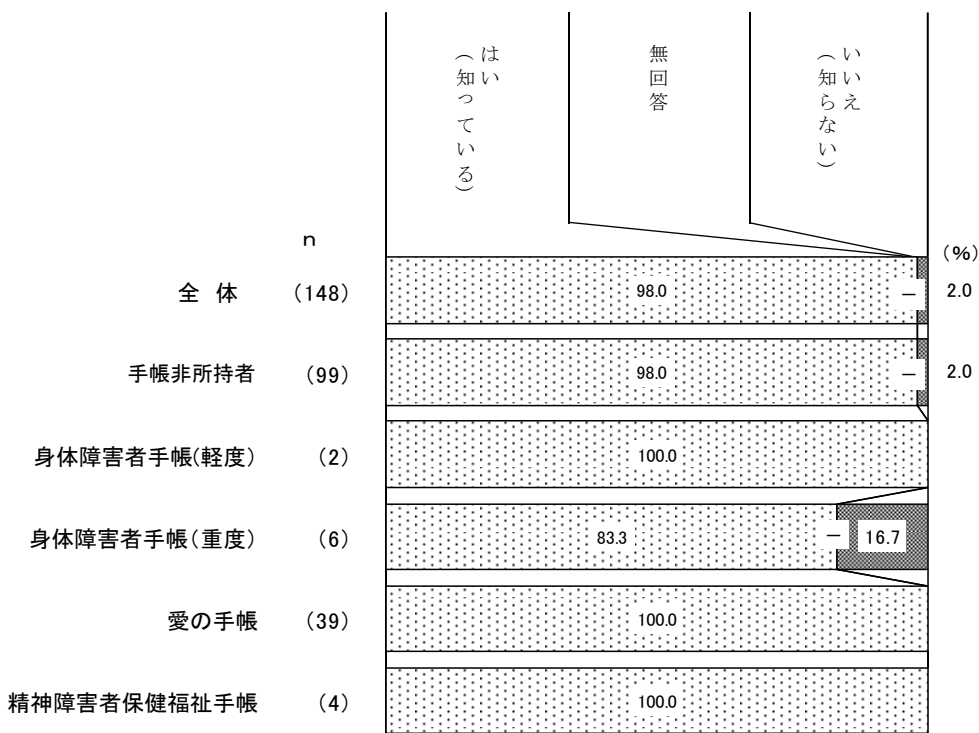


図 3-23 【年齢別】放課後等デイサービスの認知度

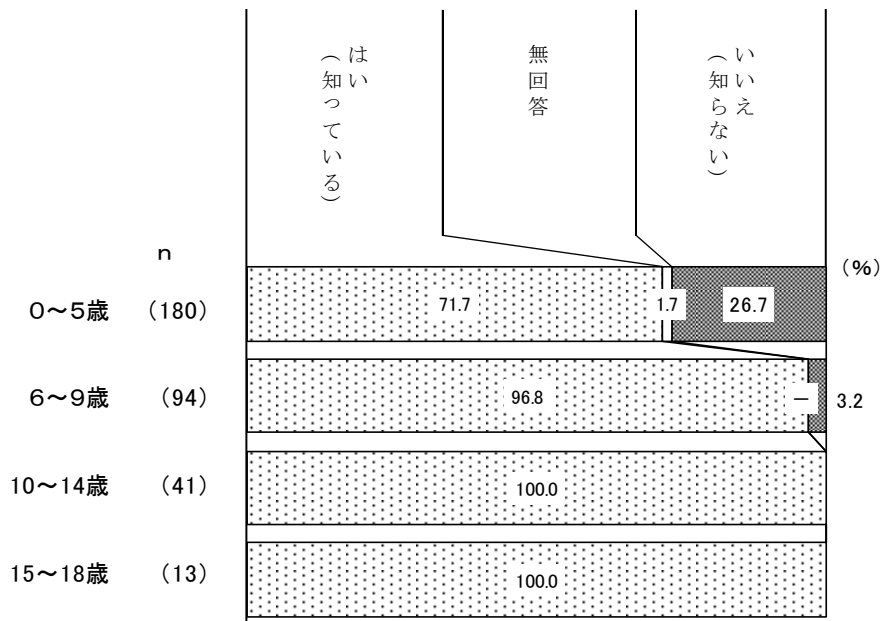
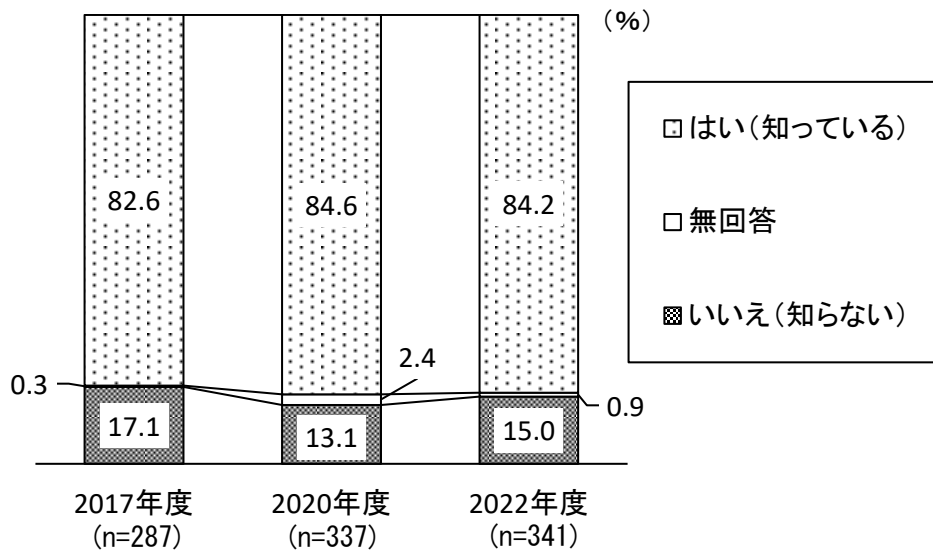


図 3-24 【経年比較】放課後等デイサービスの認知度



放課後等デイサービスの認知度を経年比較でみると、大きな変化はみられない。

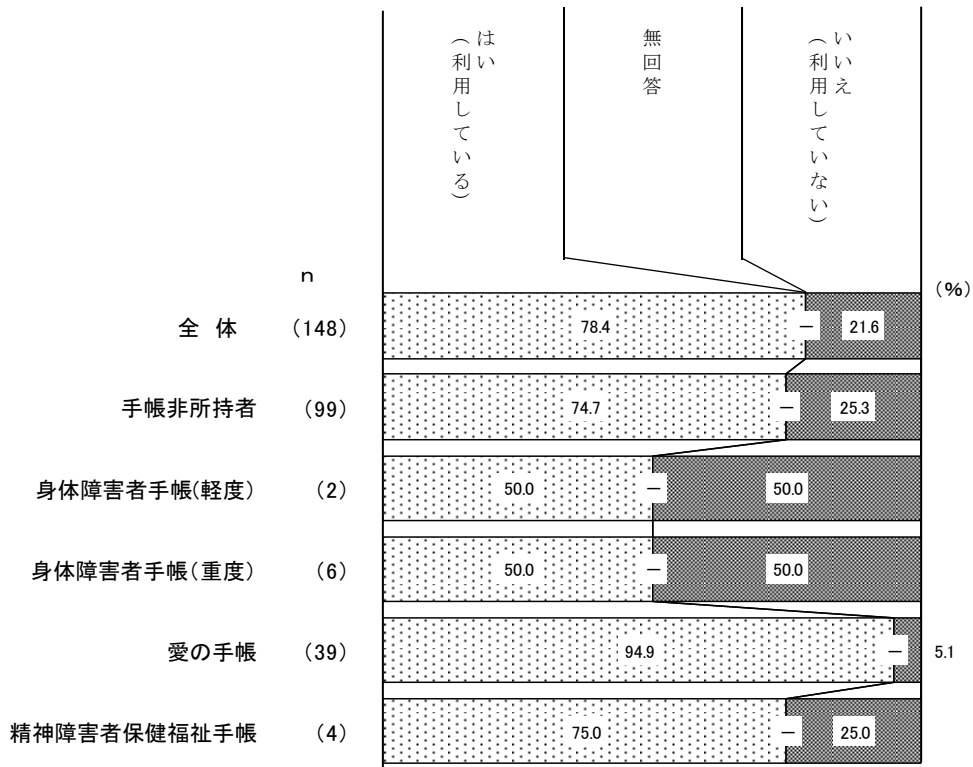
3.6. 放課後等デイサービスの利用状況

◆放課後等デイサービスを「利用している」方は7割台後半

(全員の方に)

問 12. 放課後等デイサービスを現在、利用していますか。(○は1つ)

図 3-25 【所持手帳別】放課後等デイサービスの利用状況 (6歳以上)



放課後等デイサービスの利用状況は、6歳以上では「はい (利用している)」が7割台後半となっている。

図 3-26 【年齢別】放課後等デイサービスの利用状況 (6歳以上)

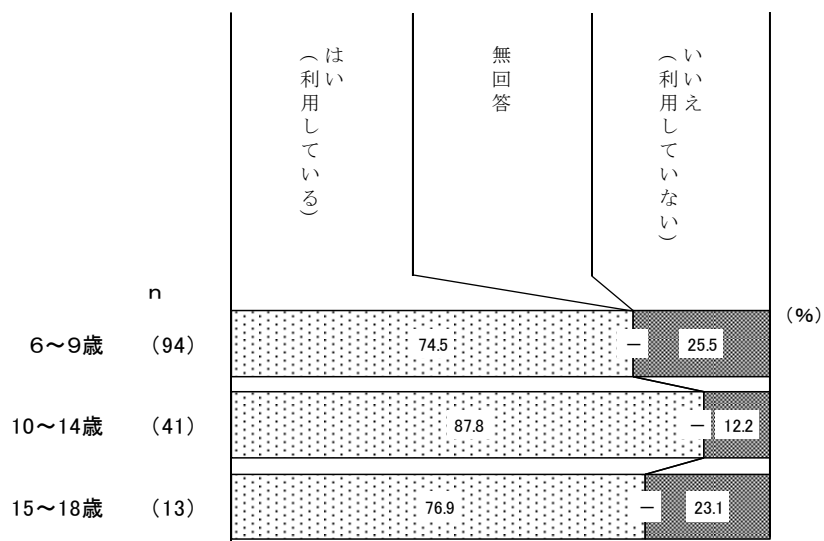
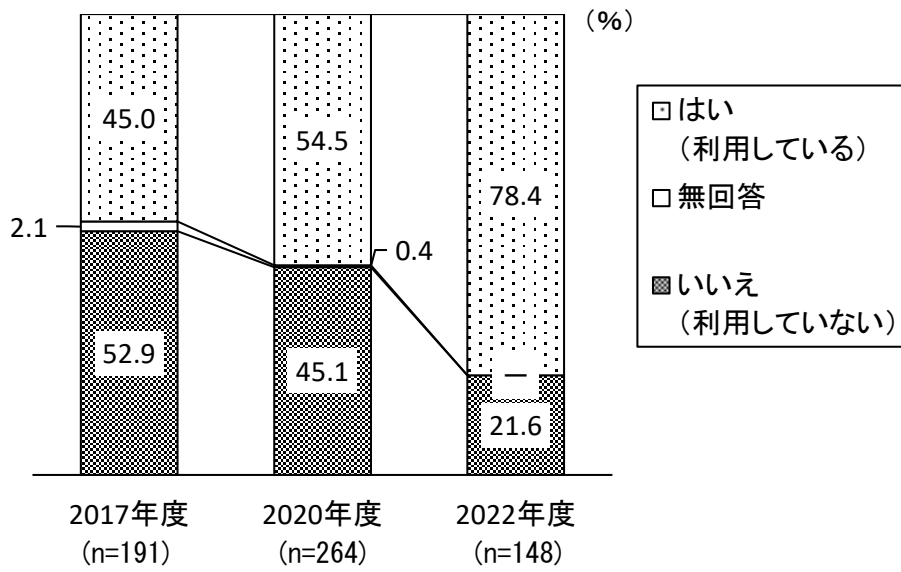


図 3-27 【経年比較】放課後等デイサービスの利用状況（6歳以上）



放課後等デイサービスの利用状況を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ、「はい（利用している）」が23.9ポイント増加し、「いいえ（利用していない）」が23.5ポイント減少している。

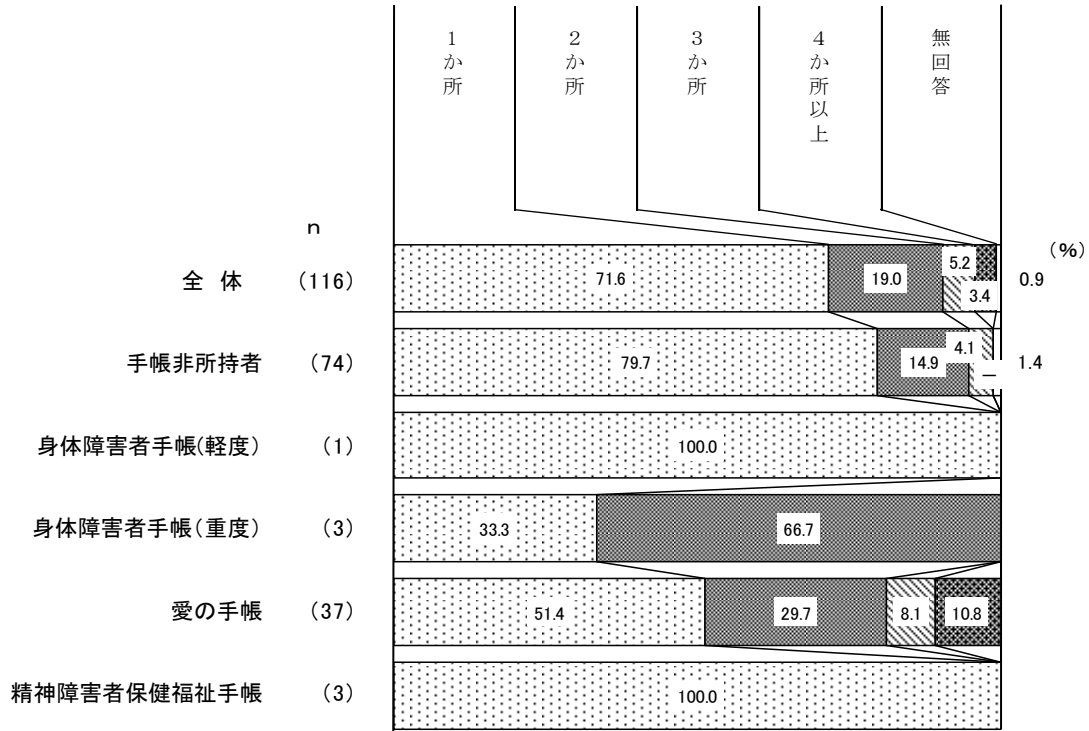
3.6.1. 利用している放課後等デイサービス事業所数

◆現在、利用している放課後等デイサービス事業所は「1か所」が約7割

(問12で「1. はい」とお答えの方に)

問12-1. 現在、利用している放課後等デイサービス事業所は何か所ですか。(〇は1つ)

図3-28 【所持手帳別】利用している放課後等デイサービス事業所(6歳以上)



現在、利用している放課後等デイサービス事業所は、6歳以上では「1か所」が約7割となっている。

図3-29 【年齢別】利用している放課後等デイサービス事業所数(6歳以上)

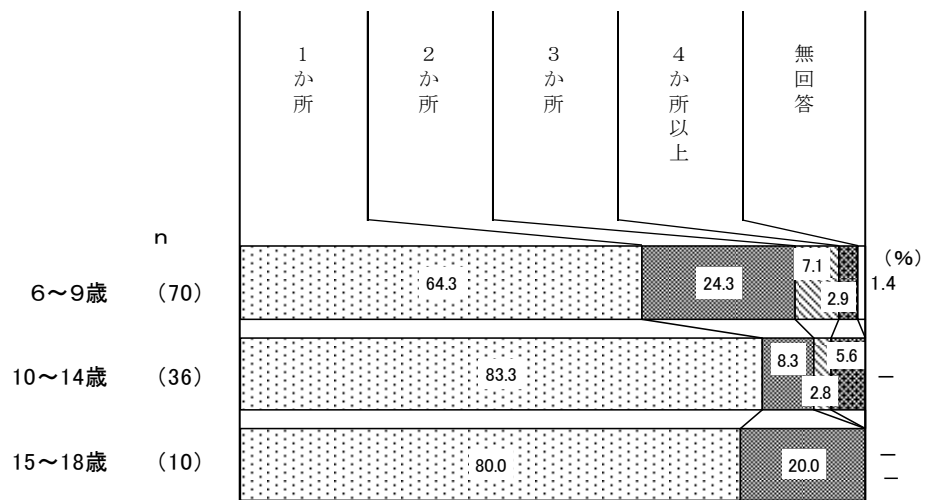
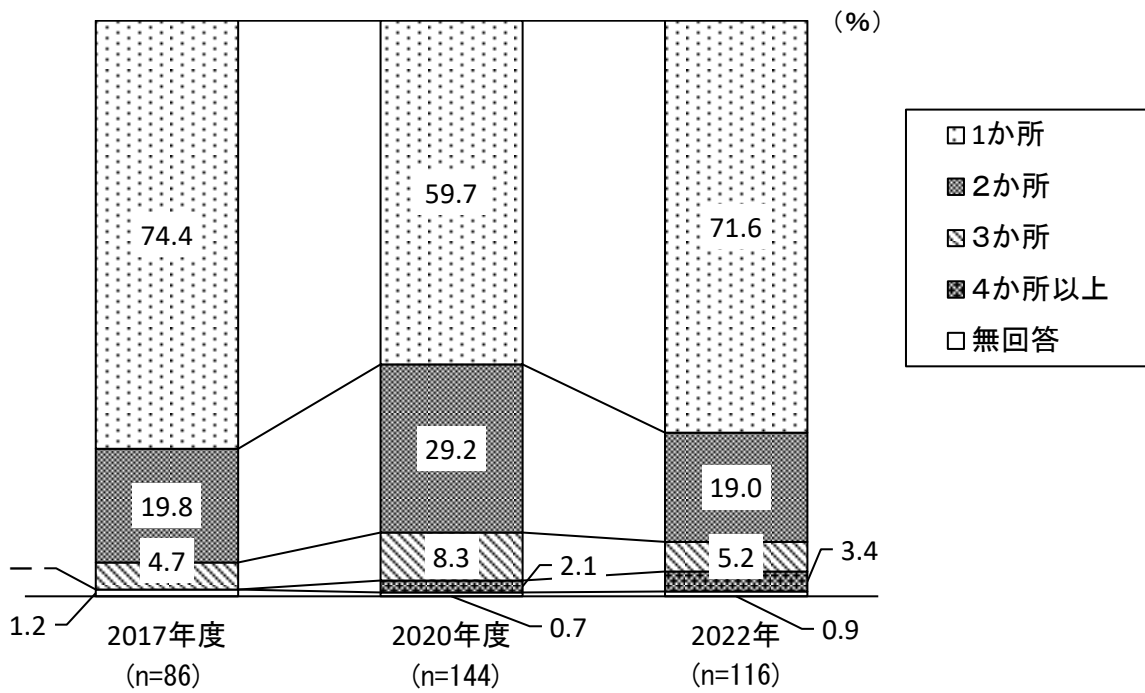


図 3-30 【経年比較】利用している放課後等デイサービス事業所数（6歳以上）



利用している放課後等デイサービス事業所を経年比較でみると、2022年度は2020年度に比べ、「1か所」が11.9ポイント増加し、「2か所」が10.2ポイント減少している。



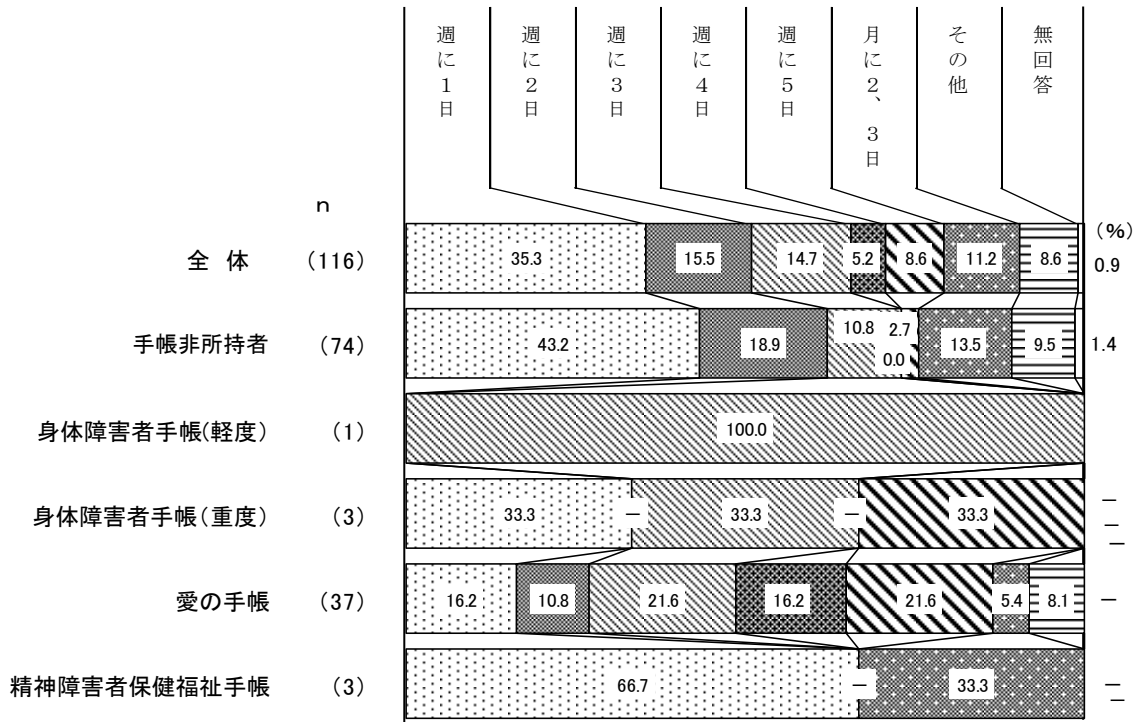
3.6.2. 放課後等デイサービス事業所に通う日数

◆放課後等デイサービス事業所に通う日数は「週1日」「週2日」を合わせて約5割

(問12で「1. はい」とお答えの方に)

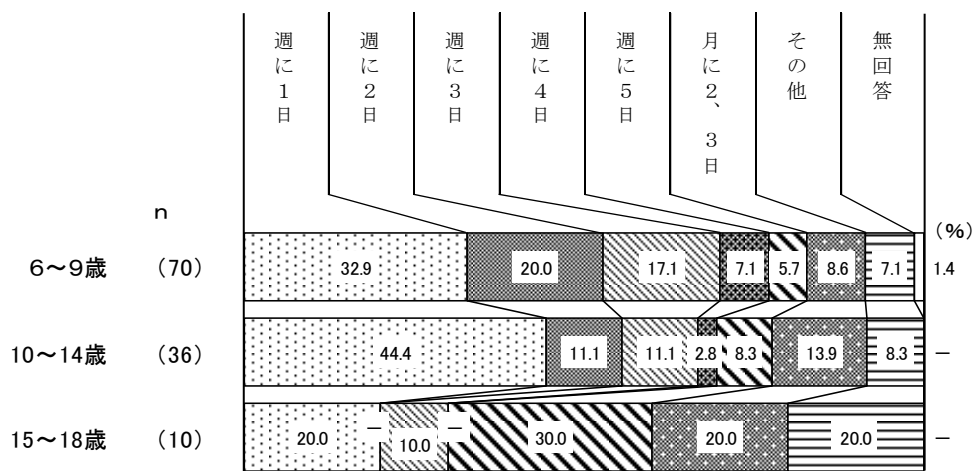
問12-2. 現在、利用している放課後等デイサービス事業所には、週にどの程度通われていますか。複数か所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。(〇は1つ)

図3-31 【所持手帳別】放課後等デイサービスを希望する利用日数(6歳以上)



放課後等デイサービス事業所に通う利用日数は、6歳以上では「週1日」「週2日」を合わせて約5割となっている。

図3-32 【年齢別】放課後等デイサービス事業所に通う日数(6歳以上)



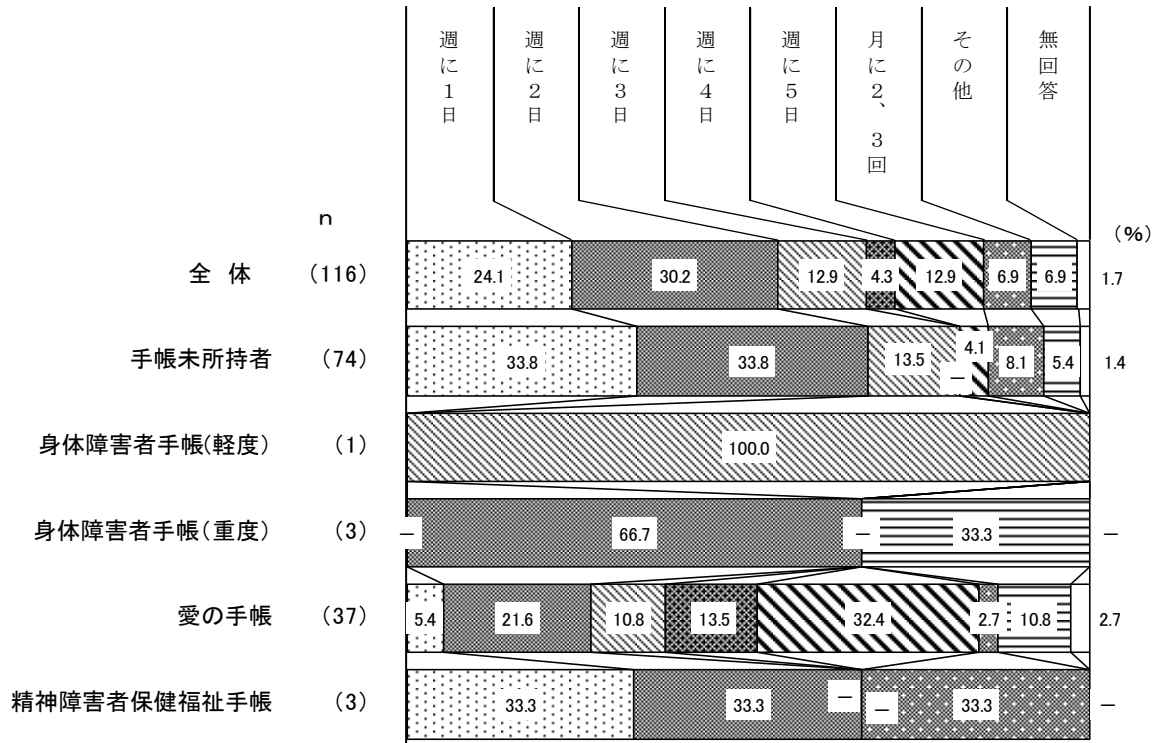
3.6.3. 放課後等デイサービス事業所を希望する利用日数

◆放課後等デイサービスを希望する利用日数は「週に2日」が約3割

(問12で「1. はい」とお答えの方に)

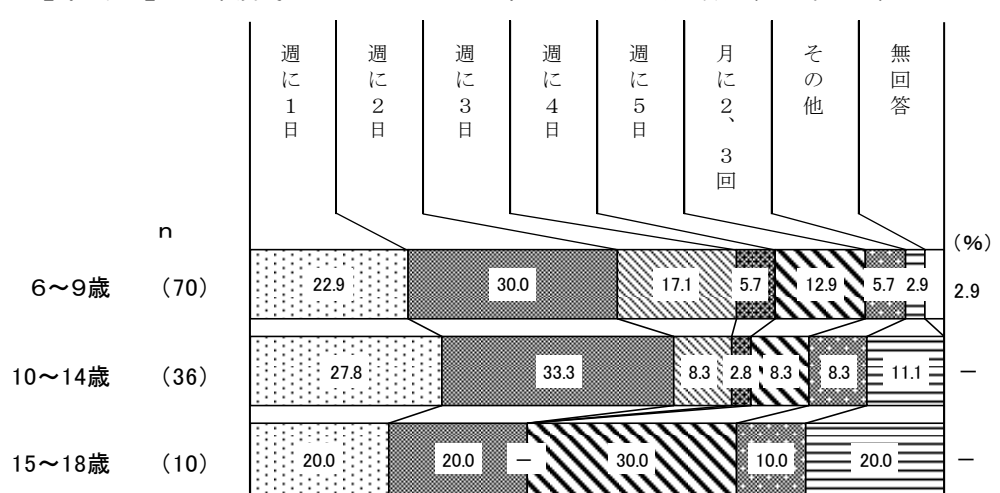
問12-3. 放課後等デイサービスについて、希望する利用日数はどの程度ですか。(〇は1つ)

図3-33 【所持手帳別】放課後等デイサービスを希望する利用日数(6歳以上)



放課後等デイサービスを希望する利用日数は、「週に2日」が約3割と最も高くなっている。

図3-34 【年齢別】放課後等デイサービスを希望する利用日数(6歳以上)



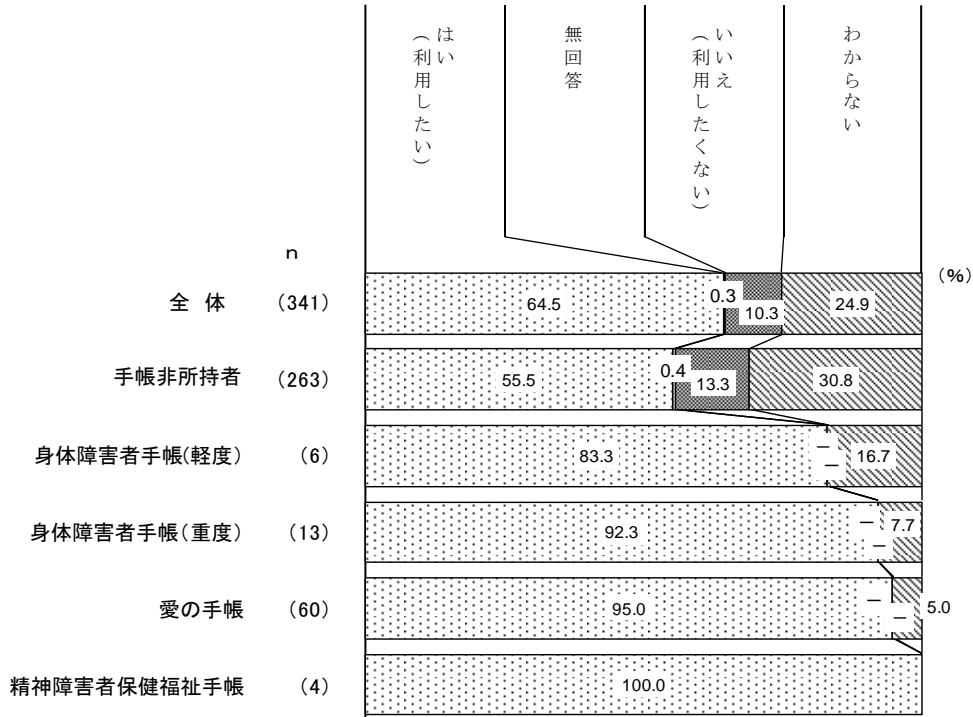
3.7. 放課後等デイサービスの利用意向

◆放課後等デイサービスを今後利用「利用したい」方は6割台半ば

(全員の方に)

問 13. 放課後等デイサービスを今後、利用したいですか。(○は1つ)

図 3-35 【所持手帳別】放課後等デイサービスの利用意向



放課後等デイサービスの利用意向は、「はい (利用したい)」が6割台半ばとなっている。

図 3-36 【年齢別】放課後等デイサービスの利用意向 (6歳以上)

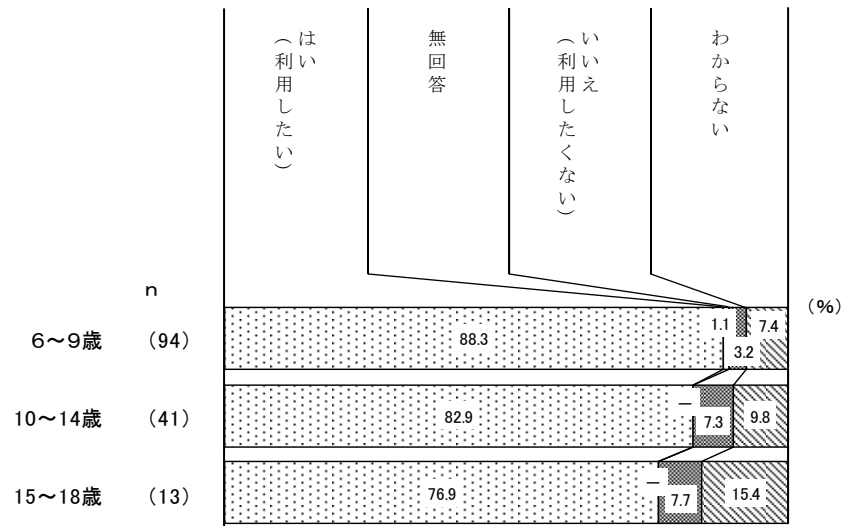
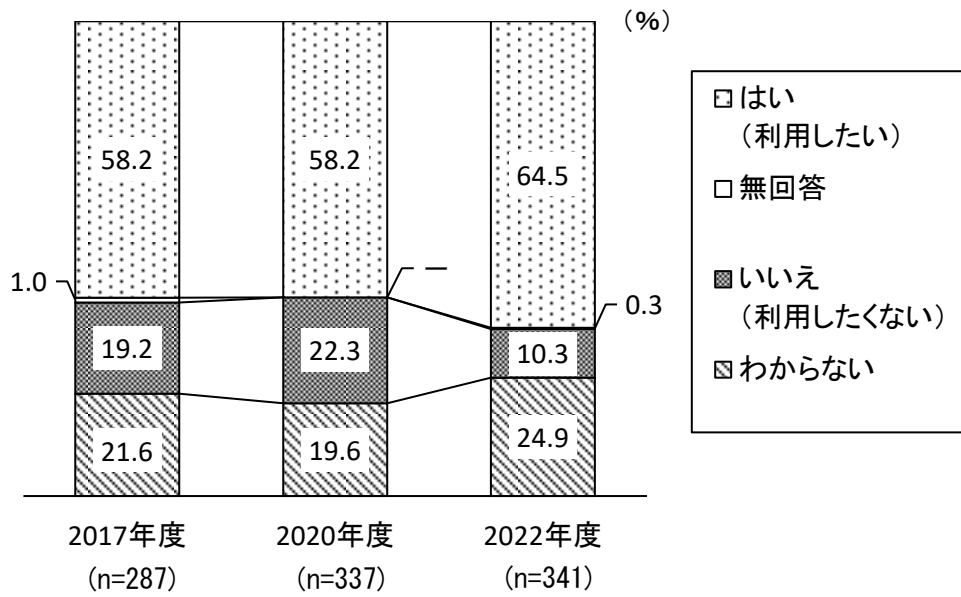


図 3-37 【経年比較】放課後等デイサービスの利用意向



放課後等デイサービスの利用意向を経年比較で見ると、2022年度は2020年度に比べ、「はい (利用したい)」が6.3ポイント増加し、「いいえ (利用したくない)」が12ポイント減少している。

### 3.7.1. 放課後等デイサービスを利用したくない理由

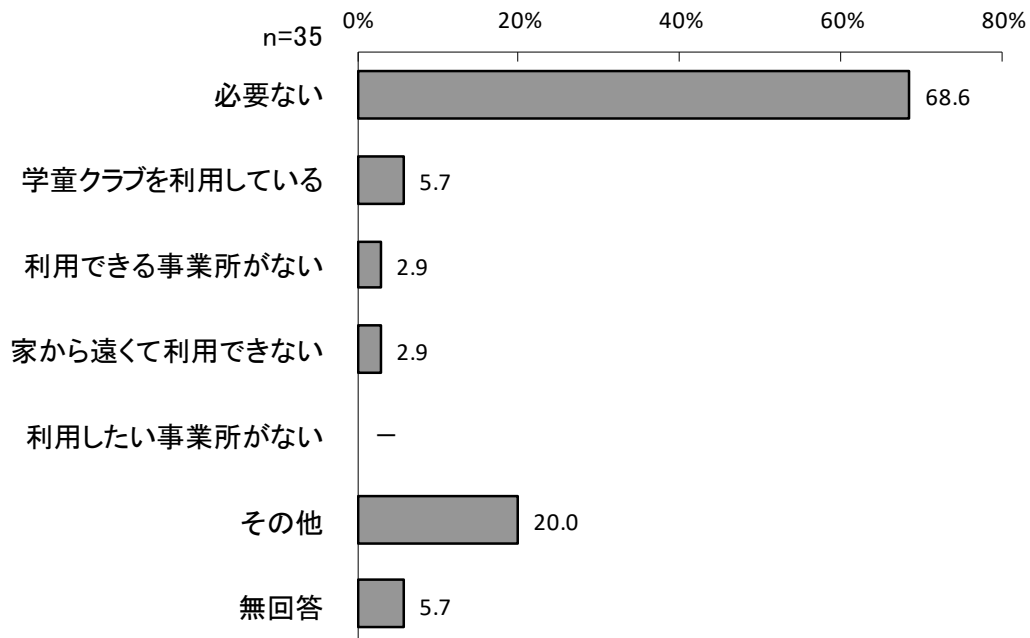
#### ◆放課後等デイサービスを利用したくない理由は「必要ない」が6割台後半

(問13で「2.いいえ」とお答えの方に)

問13-1. 放課後等デイサービスを利用したくない理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

図3-38 放課後等デイサービスを利用したくない理由



放課後等デイサービスを利用したくない理由は、「必要ない」が最も高く、次いで「学童クラブを利用している」「利用できる事業所がない」「家から遠くて利用できない」となっている。

3.8. 区外の事業所を利用している理由

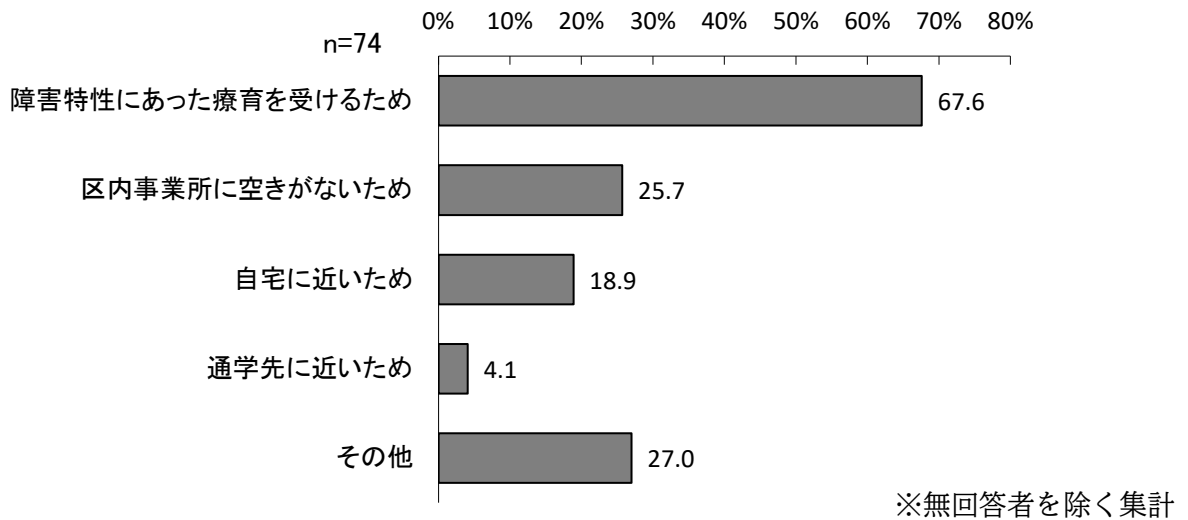
◆区外の事業所を利用している理由は「障害特性にあった療育を受けるため」が5割

(区外の児童発達支援や放課後等デイサービス事業所を利用している方に)

問 14 区外の児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所を利用している方にお尋ねします。区外の事業所を利用している理由はどのようなことですか。

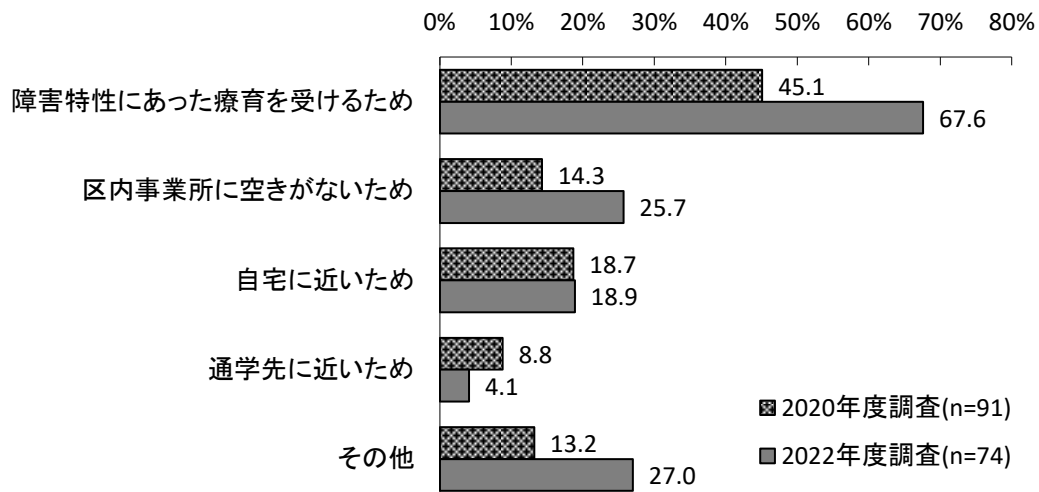
(あてはまるものすべてに○)

図 3-39 区外の事業所を利用している理由



区外の事業所を利用している理由は、「障害特性にあった療育を受けるため」が最も高く、次いで「区内事業所に空きがないため」「自宅に近いため」となっている。

図 3-40 【経年比較】区外の事業所を利用している理由



区外の事業所を利用している理由を経年比較でみると、「障害特性にあった療育を受けるため」が22.5ポイント、「区内事業所に空きがないため」が11.4ポイントの増加となっている。

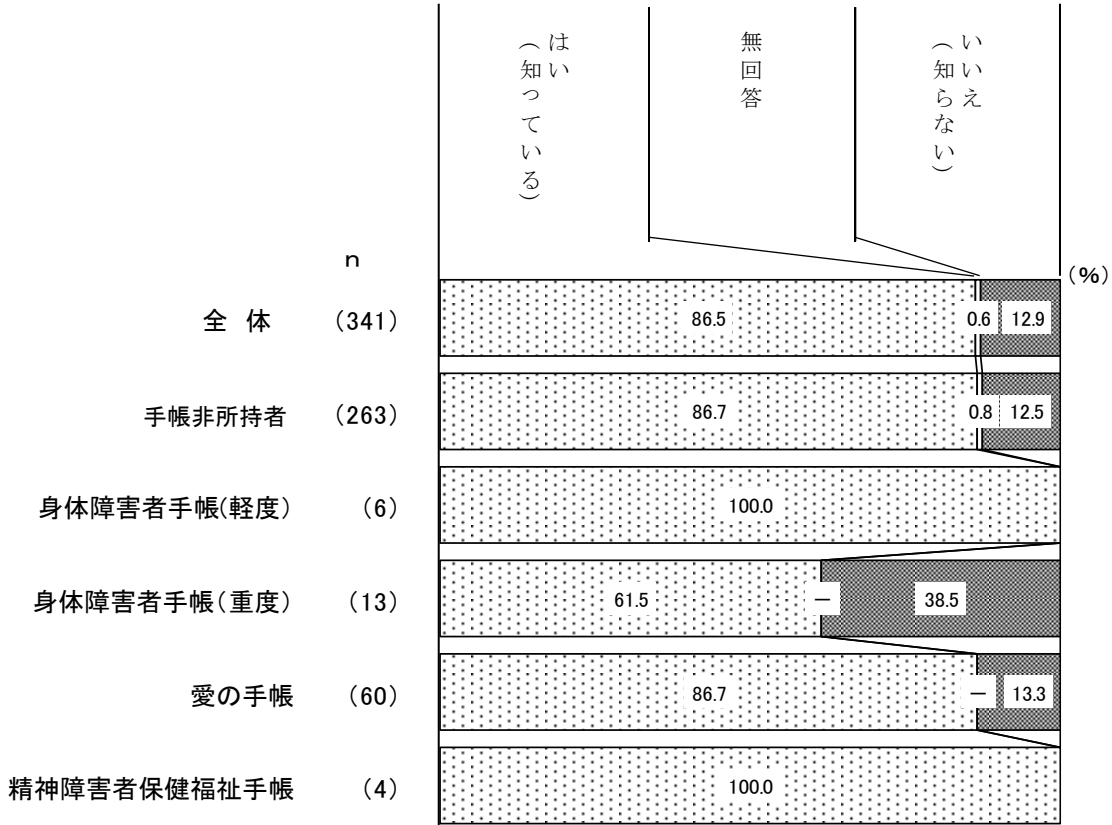
3.9. 保育所等訪問支援の認知度

◆保育所等訪問支援を「知っている」方は8割台半ば

(全員の方に)

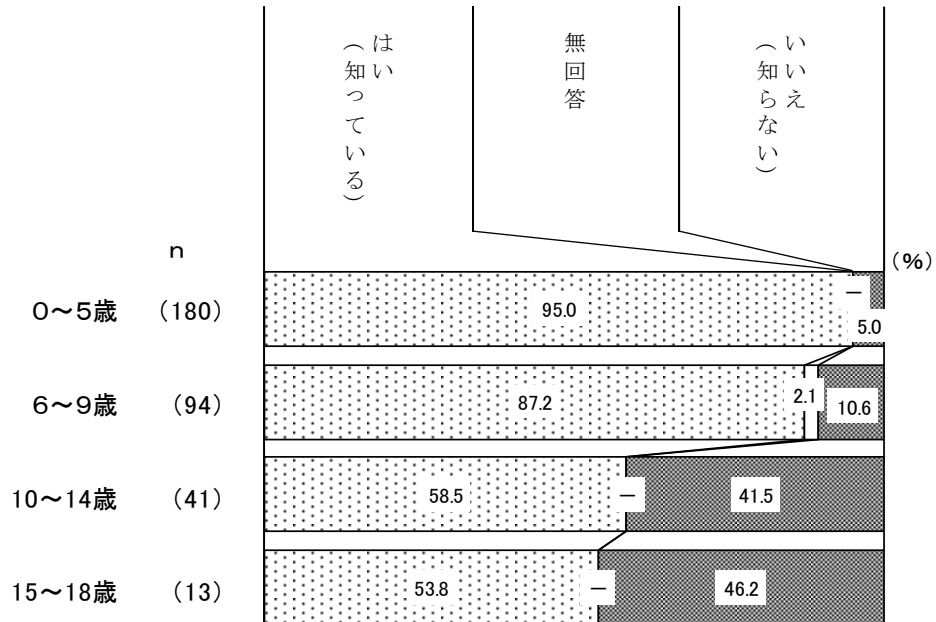
問 15. 保育所等訪問支援について、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。(○は1つ)

図 3-41 【所持手帳別】 保育所等訪問支援の認知度

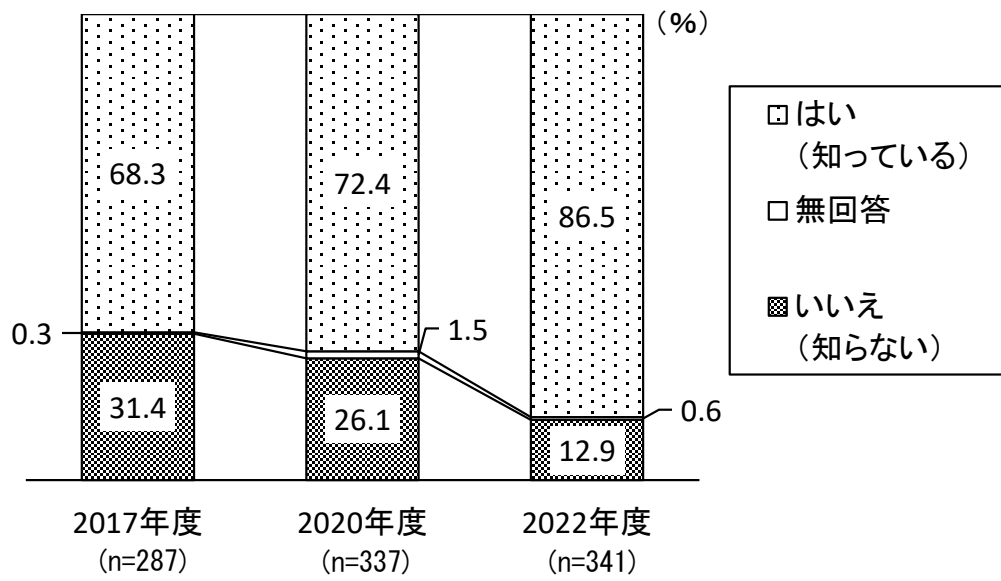


保育所等訪問支援の認知度は、「はい (知っている)」が8割台半ばと高くなっている。

問 3-42 【年齢別】 保育所等訪問支援の認知度



問 3-43 【経年比較】 保育所等訪問支援の認知度



保育所等訪問支援の認知度を経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ、「はい(知っている)」が14.1ポイント増加し、「いいえ(知らない)」が13.2ポイント減少している。



3.10. 保育所等訪問支援の利用意向

◆保育所等訪問支援を今後「利用したい」方は5歳以下において7割台半ば

(全員の方に)

問 16. 保育所等訪問支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

図 3-44 【所持手帳別】保育所等訪問支援の利用意向

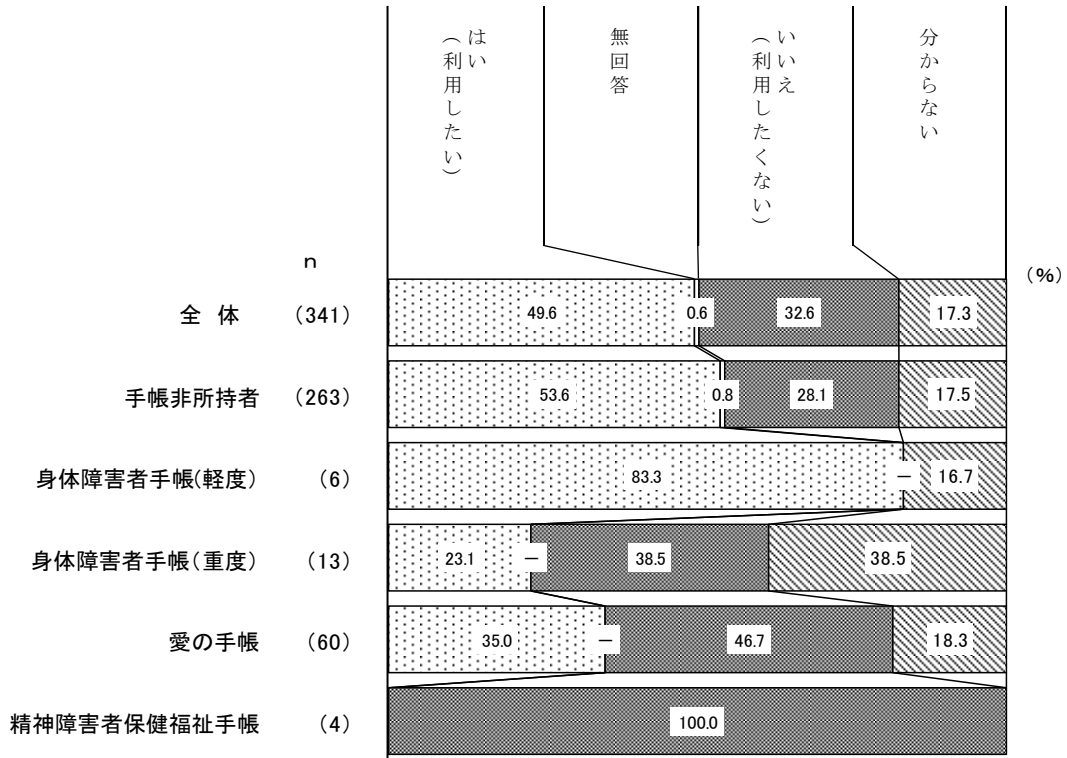
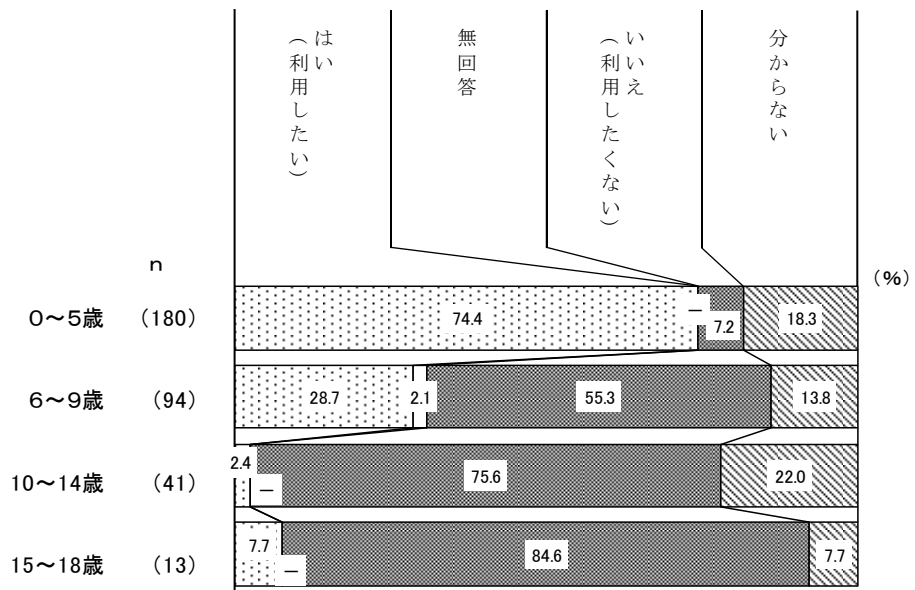
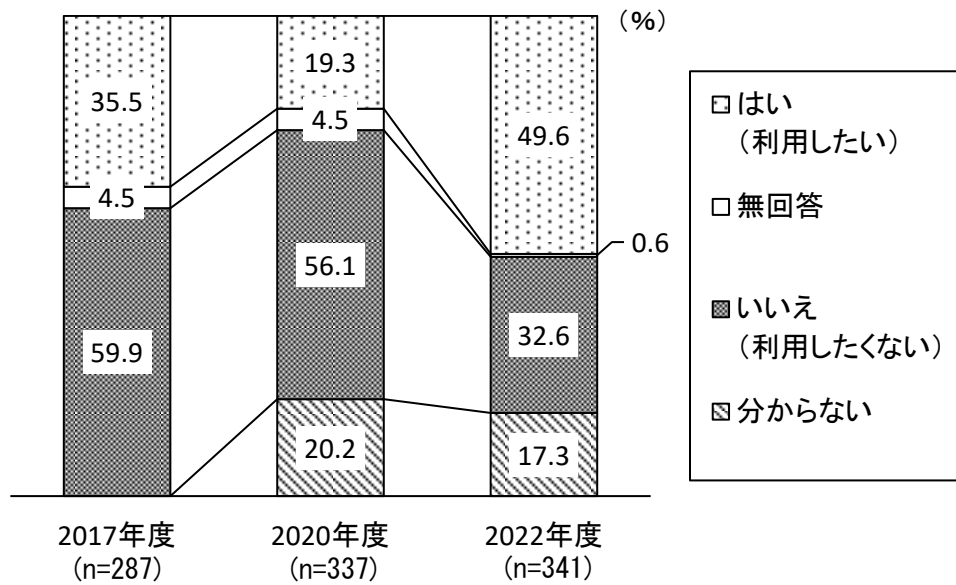


図 3-45 【年齢別】保育所等訪問支援の利用意向



保育所等訪問支援の利用意向は、5歳以下では「はい (利用したい)」が7割台半ばと高くなっている。

図 3-46 【経年比較】 保育所等訪問支援の利用意向



※2017年度は「分からない」の選択肢はなし

保育所等訪問支援の利用意向を経年比較で見ると、2022年度は2020年度と比べ、「はい(利用したい)」が30.3ポイント増加し、「いいえ (利用したくない)」が23.5ポイント減少している。

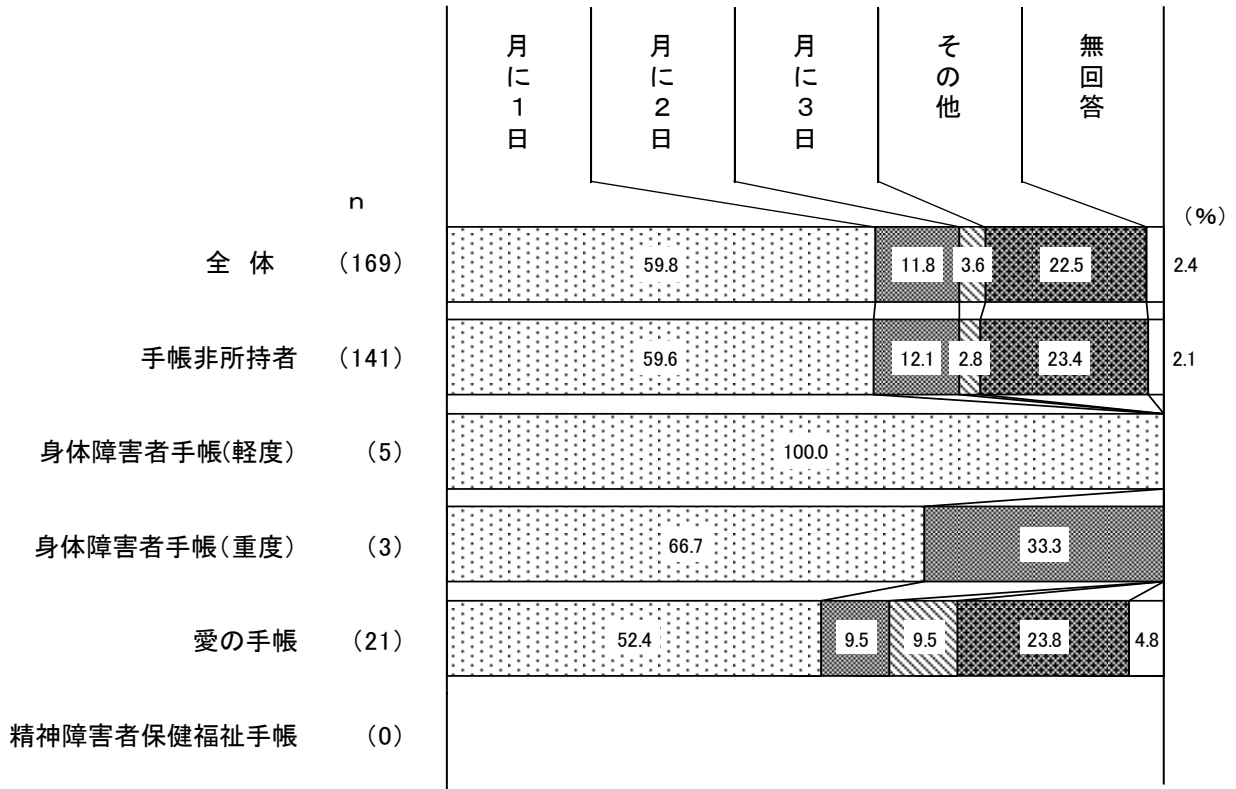
3.10.1. 保育所等訪問支援の希望利用日数

◆保育所等訪問支援の希望利用日数は「月に1日」が約6割

(問16で「1. はい」とお答えの方に)

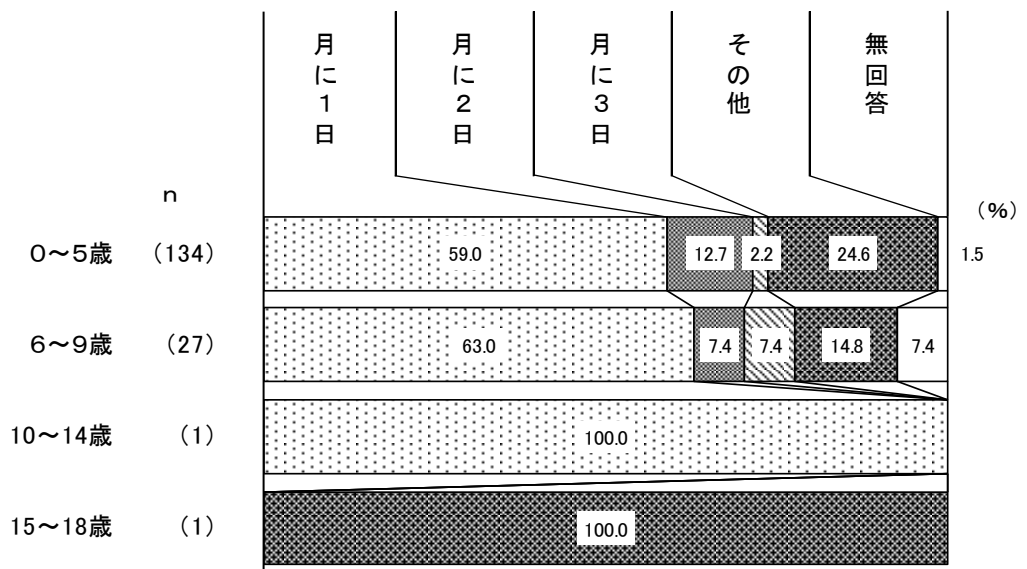
問16-1. 保育所等訪問支援を、どの程度利用したいですか。(〇は1つ)

図3-47 【所持手帳別】保育所等訪問支援の希望利用日数



保育所等訪問支援の希望利用日数は、「月に1日」が約6割と最も高くなっている。

図3-48 【年齢別】保育所等訪問支援の希望利用日数



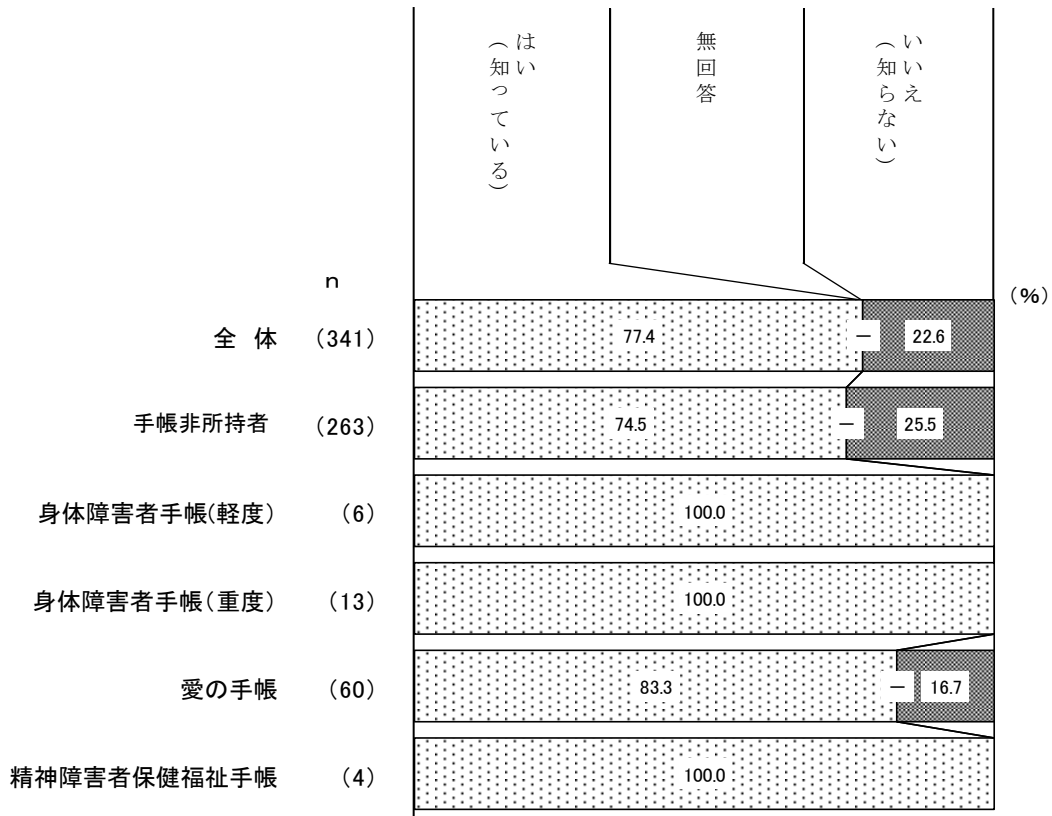
3.11. 障害児相談支援の認知度

◆障害児相談支援を「知っている」方は7割台後半

(全員の方に)

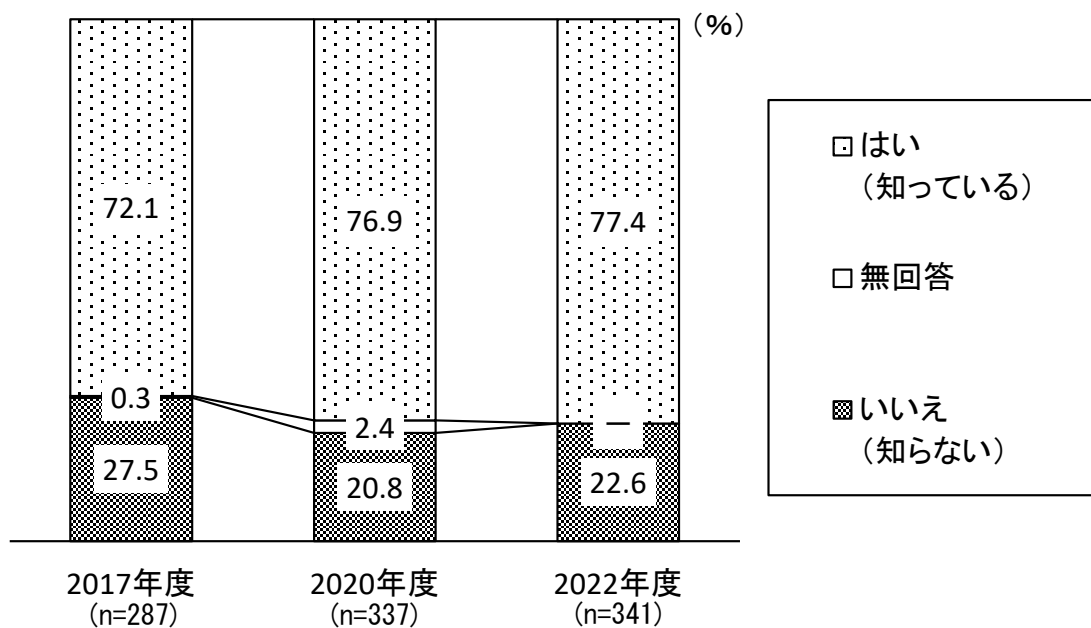
問 17. 障害児相談支援について、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。(〇は1つ)

図 3-49 【所持手帳別】 障害児相談支援の認知度



障害児相談支援の認知度は、「はい (知っている)」が7割台後半となっている。

図 3-50 【経年比較】障害児相談支援の認知度



障害児相談支援の認知度を経年比較で見ると、2020年度以降大きな変化はみられない。

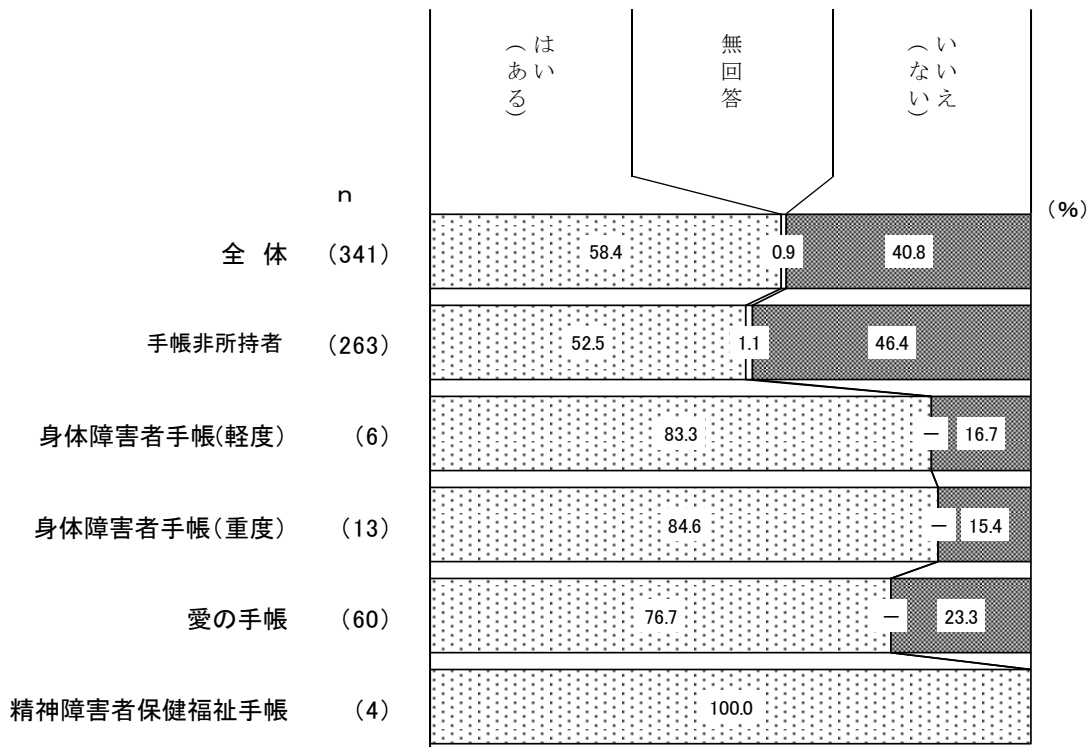
3.12. 障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用状況

◆障害児相談支援（障害児相談支援事業所）を利用したことが「ある」方は5割台後半

（全員の方に）

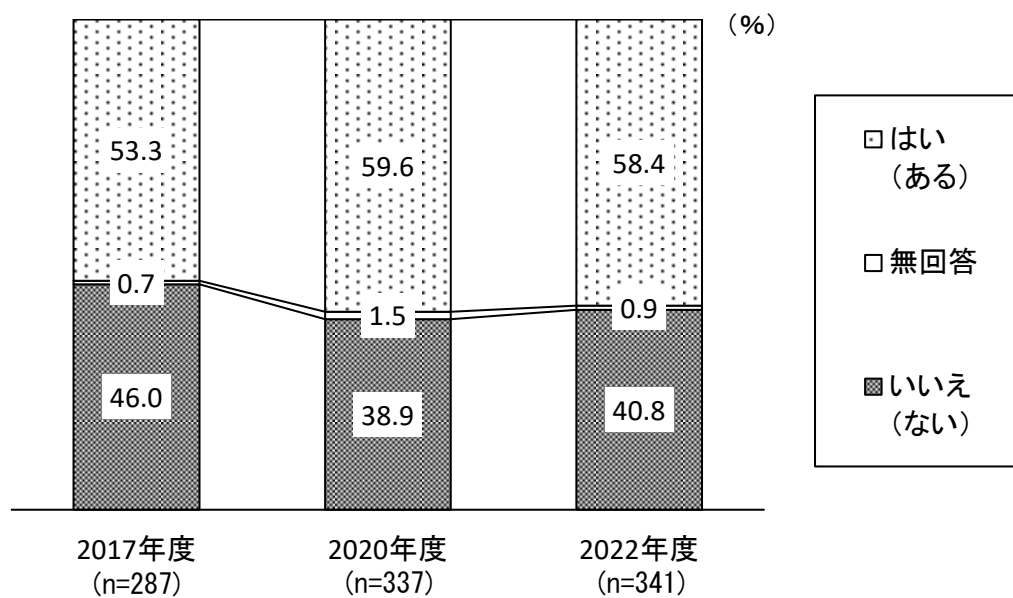
問 18. 障害児相談支援（障害児相談支援事業所）を利用したことがありますか。（○は1つ）

図 3-51 【所持手帳別】障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用状況



障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用状況は、「はい（ある）」が5割台後半となっている。

図 3-52 【経年比較】障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用状況



障害児相談支援（障害児相談支援事業所）の利用状況を経年比較で見ると、2020年度以降大きな変化はみられない。

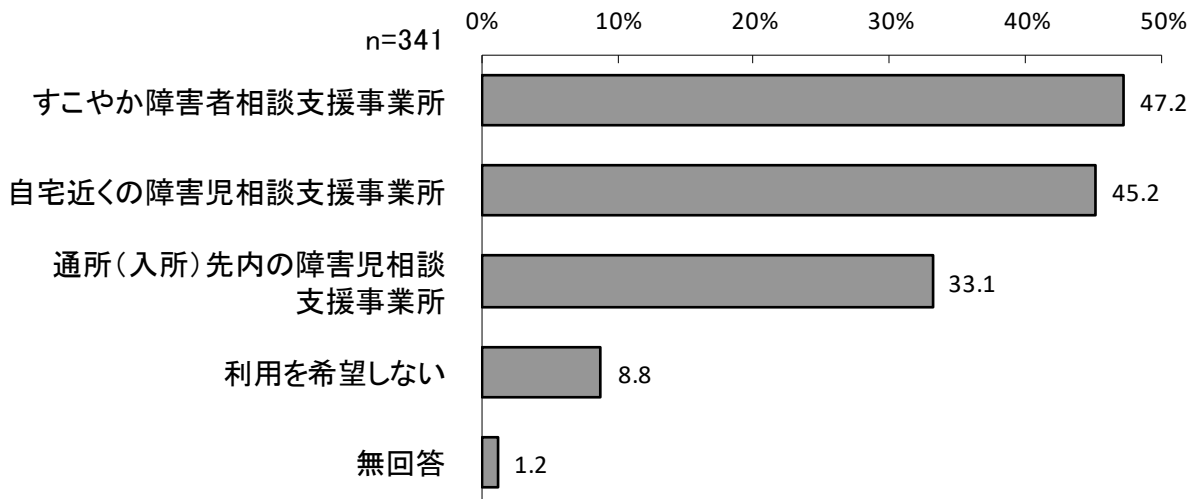
3.13. 障害児相談支援事業所の利用希望

◆利用を希望する障害児相談支援事業所は「すこやか障害者相談支援事業所」が4割台後半

(全員の方に)

問 19. 障害児支援利用計画を作成する際には、どこの障害児相談支援事業所の利用を希望しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

図 3-53 障害児相談支援事業所の利用希望



障害児支援利用計画を作成する際、利用を希望する障害児相談支援事業所は、「すこやか障害者相談支援事業所」が最も高くなっており、次いで「自宅近くの障害児相談支援事業所」「通所(入所)先内の障害児相談支援事業所」となっている。

図 3-54 【所持手帳別】上位5項目 障害児相談支援事業所の利用希望

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
手帳非所持者 n=263	すこやか障害者相談支援事業所 44.1	自宅近くの障害児相談支援事業所 43.7	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 31.6	利用を希望しない 11.0	—
身体障害者手帳(軽度) n=6	すこやか障害者相談支援事業所 66.7	自宅近くの障害児相談支援事業所／通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 50.0	—	—	—
身体障害者手帳(重度) n=13	自宅近くの障害児相談支援事業所 69.2	すこやか障害者相談支援事業所 46.2	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 38.5	—	—
愛の手帳 n=60	すこやか障害者相談支援事業所 58.3	自宅近くの障害児相談支援事業所 46.7	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 40.0	利用を希望しない 1.7	—
精神障害者保健福祉手帳 n=4	すこやか障害者相談支援事業所 75.0	自宅近くの障害児相談支援事業所／通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 25.0	—	—	—



図 3-55 【経年比較】上位 5 項目 障害児相談支援事業所の利用希望

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=341	すこやか障害者相談支援事業所 47.2	自宅近くの障害児相談支援事業所 45.2	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 33.1	利用を希望しない 8.8	-
2020年度 n=337	すこやか障害者相談支援事業所 45.7	自宅近くの障害児相談支援事業所 30.9	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 22.6	利用を希望しない 19.6	-
2017年度 n=287	すこやか障害者相談支援事業所 38.7	自宅近くの障害児相談支援事業所 35.5	通所(入所)先内の障害児相談支援事業所 24.4	利用を希望しない 18.1	-

障害児相談支援事業所の利用希望を経年比較でみると、いずれの年度も「すこやか障害者相談支援事業所」が第1位にあげられているが、2022年度は2020年度と比べ、「自宅近くの障害児相談支援事業所」が14.3ポイント、「通所(入所)先内の障害児相談支援事業所」が10.5ポイント増加している。

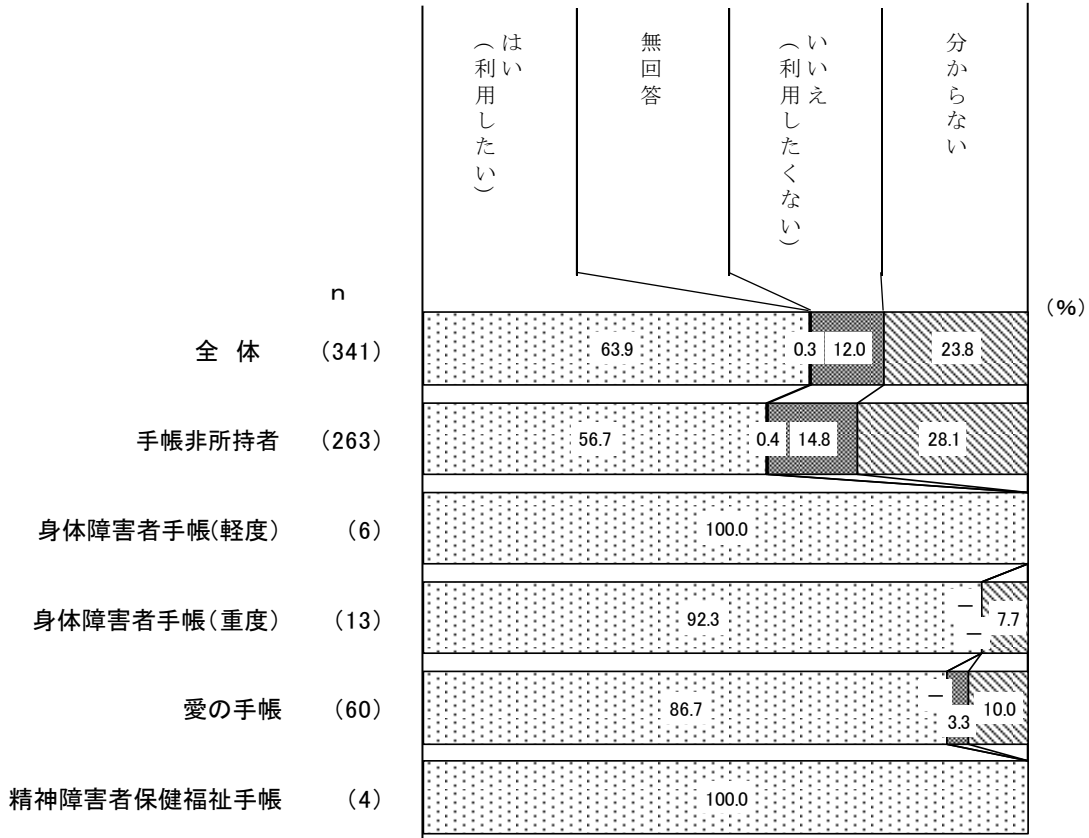
3.14. 障害児相談支援の利用意向

◆障害児相談支援を今後「利用したい」方は6割台前半

(全員の方に)

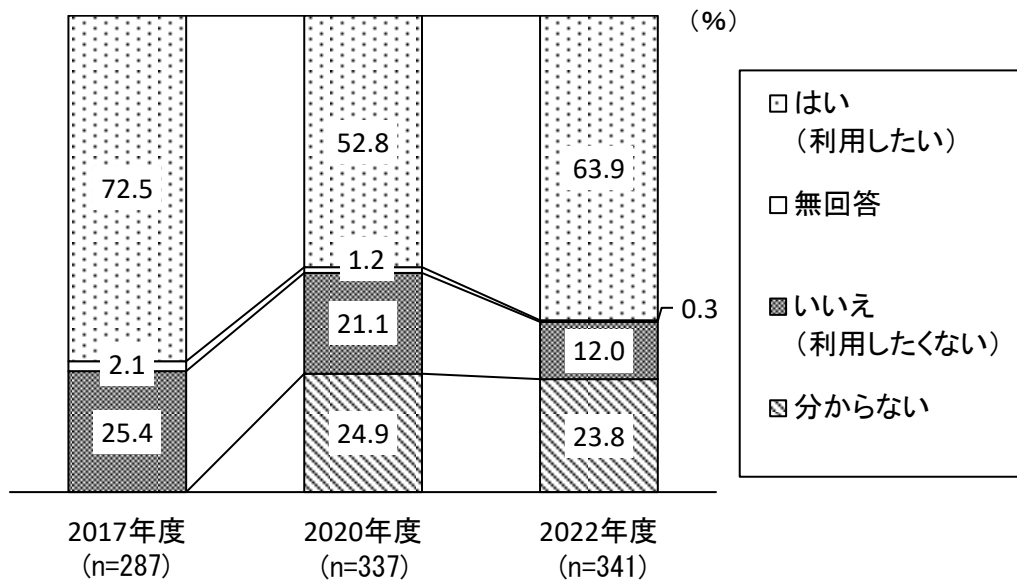
問 20. 障害児相談支援を今後、利用したいですか。(〇は1つ)

図 3-56 【所持手帳別】障害児相談支援の利用意向



障害児相談支援の利用意向は、「はい (利用したい)」が6割台前半となっている。

図 3-57 【経年比較】障害児相談支援の利用意向



※2017年度は「分からない」の選択肢はなし

障害児相談支援の利用意向を経年比較でみると、2020年度に「はい (利用したい)」が大きく減少したものの、2022年度は2020年度と比べ、「はい (利用したい)」が11.1ポイント増加し、「いいえ (利用したくない)」が9.1ポイント減少している。

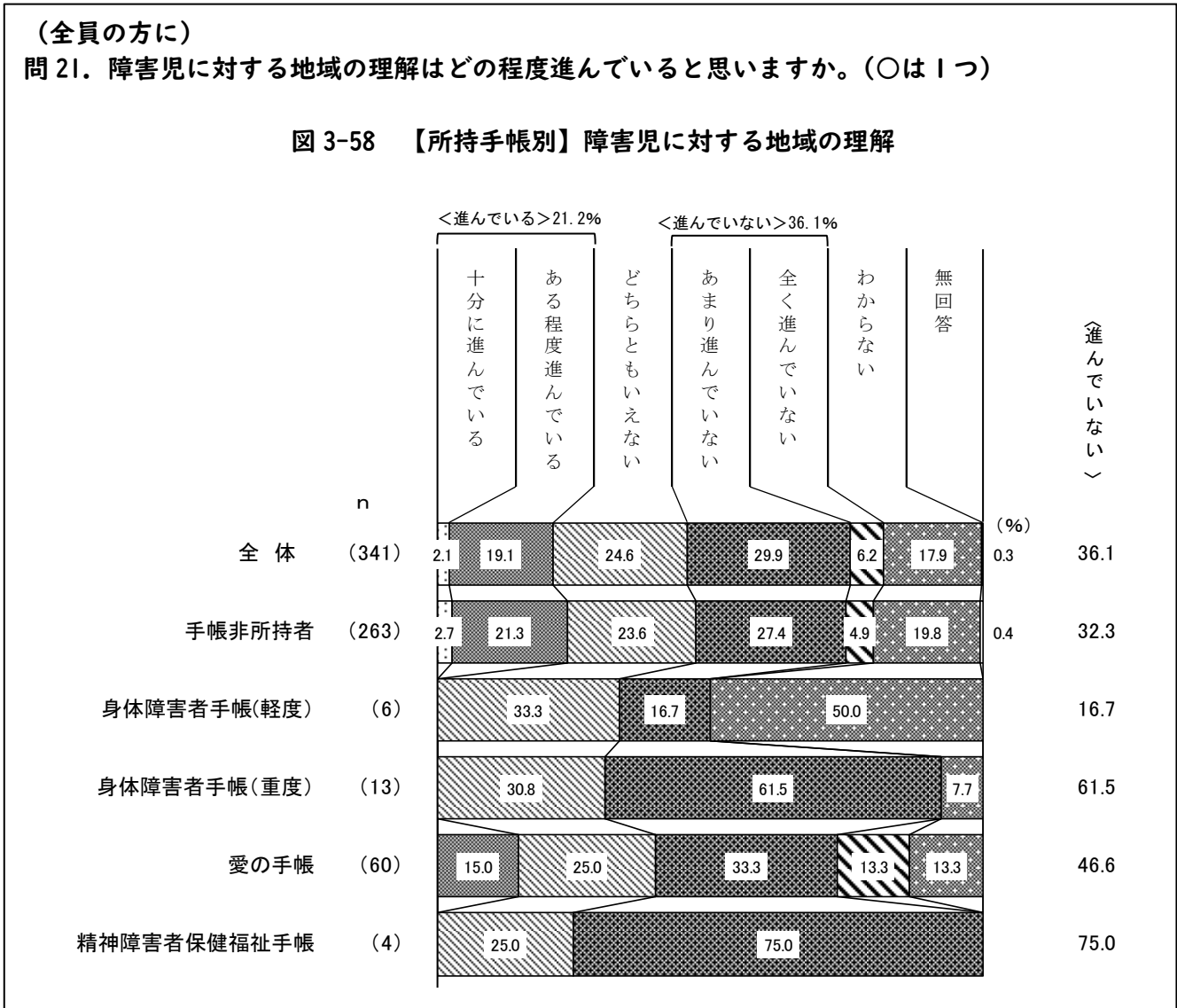
3.15. 障害児に対する地域の理解

◆障害児に対する地域の理解は、＜進んでいない＞が3割台半ば

(全員の方に)

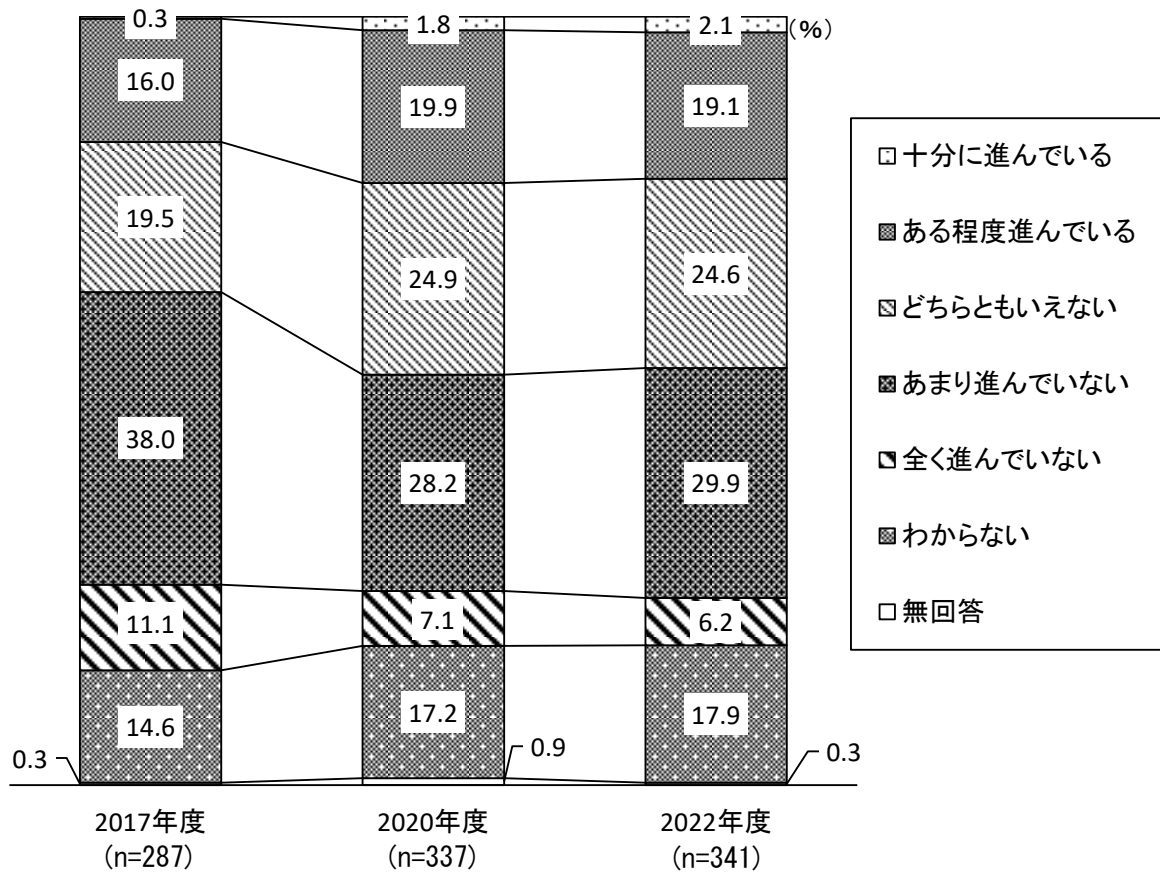
問 21. 障害児に対する地域の理解はどの程度進んでいると思いますか。(○は1つ)

図 3-58 【所持手帳別】障害児に対する地域の理解



障害児に対する地域の理解は、「あまり進んでいない」と「全く進んでいない」を合わせた＜進んでいない＞が3割台半ばとなっている。

図 3-59 【経年比較】障害児に対する地域の理解



障害児に対する地域の理解を経年比較でみると、2022年度は2020年度に比べて大きな変化はみられない。

3.16. 充実してほしい施策・サービス

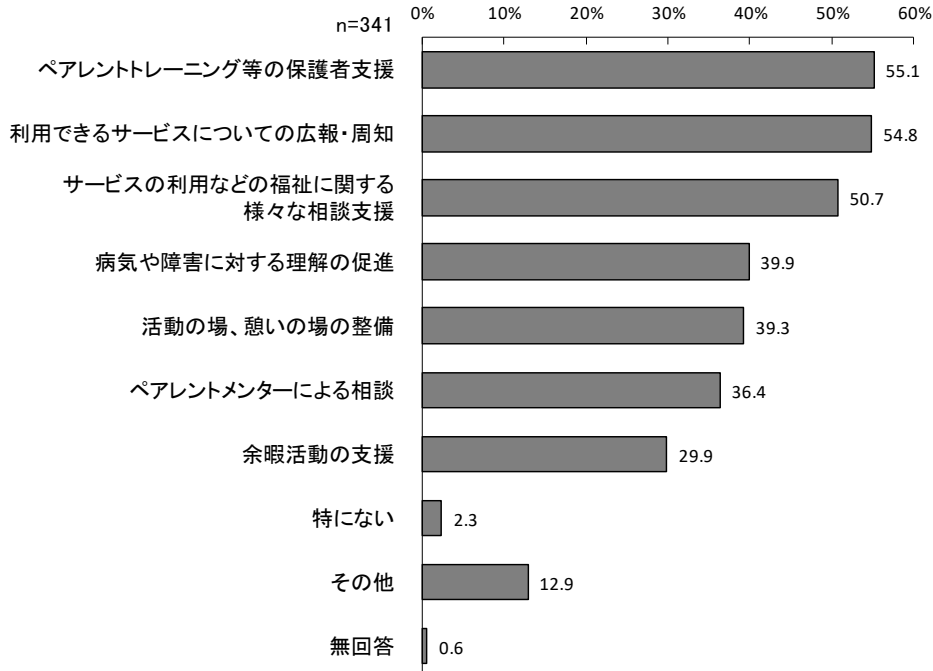
◆充実してほしい施策は「ペアレントトレーニング等の保護者支援」「利用できるサービスについての広報・周知」が5割台半ば

(全員の方に)

問 22. 次の施策・サービス等、特に充実してほしいと思うものはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

図 3-60 充実してほしい施策・サービス



充実してほしい施策は、「ペアレントトレーニング等の保護者支援」が最も高くなっており、次いで「利用できるサービスについての広報・周知」「サービスの利用などの福祉に関する様々な相談支援」「病気や障害に対する理解の促進」となっている。

図 3-61 【経年比較】上位5項目 充実してほしい施策・サービス

(%)

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
2022年度 n=341	ペアレントトレーニング等の保護者支援 55.1	利用できるサービスについての広報・周知 54.8	サービスの利用などの福祉に関する様々な相談支援 50.7	病気や障害に対する理解の促進 39.9	活動の場、憩いの場の整備 39.3
2020年度 n=337	利用できるサービスについての広報・周知 51.3	サービスの利用などの福祉に関する様々な相談支援 46.3	ペアレントトレーニング等の保護者支援/病気や障害に対する理解の促進 42.7		活動の場、憩いの場の整備 35.0
2017年度 n=287	利用できるサービスについての広報・周知 55.7	ペアレントトレーニング等の保護者支援 54.0	サービスの利用などの福祉に関する様々な相談支援 52.6	病気や障害に対する理解の促進 50.9	活動の場、憩いの場の整備 38.3

充実して欲しい施策・サービスを経年比較でみると、2022年度は2020年度と比べ、「ペアレントトレーニング等の保護者支援」が12.4ポイント増加し、第1位にあげられている。

## 4. 自由回答

### 4.1. 日常生活で困っていること

(全員の方に)

問 23. 日常生活や就園・就学・進路・就職等で困っていることがありましたら、ご自由にお書きください。

日常生活や就園・就学・進路・就職等で困っていることについて、要望や意見を自由に記入していただいたところ、158 人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

#### 子どもの発達・障害の状態について 17 件

- こだわりが強く、気持ち、行動の切替に時間がかかるため、日常生活に支障があり、夫婦で疲弊していましたが、今は、療育施設・小児科医・すこやか福祉センター・保育所など、複数の相談先があり、支援を受けられるようになって本人が大きく変わり、両親も安心して過ごせるようになりました。(0～5歳)
- 一見分からない特性の為、就園・就学で不安があったり、実際に困った事もあった。児童の発達に関わる人に障害とは言わないけれど困っている事があるのを知って欲しい。神経科の先生や心理士の力(診断に関わった方々)は支援が必要なレベルだと言われます。IQに関して低い場合は支援の対象となるが、それ以外は支援が受けられないです。(6～9歳)
- 2歳から療育に通い始め、2年半経ちますが、人とのやりとりに関してはなかなか身につかず「かして」「みせて」など、の言葉が出てこないため、お友達との関係はあまり上手くいっていないように思います。今のところ、小学校の支援学級に通う予定ですが、障害の特性が年々強く出てきているため、勉強について行けるのか心配です。(0～5歳)

#### 子どもの進路・学校生活について 43 件

- 来年度就学になり支援級を希望しておりますが、学区内に支援級がないため、少々遠くの学校になります。送迎の保護者負担がかかるため、やりくり等含めて少し心配があります。中央区では支援級通学のためのバスがあるとのことなので、今後中野区でも検討して頂けると幸いです。(0～5歳)
- 小学校：知的障害のない自閉症児のために特別支援級(情緒級)を作って欲しい。今は通常級しか選択肢がなく、集団生活は困難なので就学自体をあきらめようか迷っている。少人数なら学べるのでホームスクーリング(家庭学習)を単位として認めて欲しい。学童：区立学童は利用枠が少なく、ポイント制になっていて入学・進級の直前まで結果がわからず怖くて利用出来ない。進級直前に学童に落選すると、親2名のうち1名が離職することになる。(6～9歳)
- 子どもに対して将来などの希望をあまり考えられずにいます。とにかく今を何とかしなければ将来はないと考える様になりました。「何になりたい」から「出来ることになる、なれるものになる」に変わりました。(6～9歳)
- 中学校生活の勉強。小学2年生レベルのワークを5年生でしているので、中学へ進んだ時の周りの理解が心配です。アンガーマネジメント等の成長が、体の成長と共に良くなって欲しい。知能は支援級ではなく、通常級ですが、読み書きが全くなので DG 教科書を上手く使って行って、少しでも成長して行って欲しいです!!(10～14歳)
- 言語障害の子どもを対象とした特別支援学級が都内に見当たらないので、一校でもあると良いと思います。同じ障害の子どものサークルなどを作って誘ってくれるような機会を設けて欲しい。(0～5歳)

- 我が子は小学生まで通常級に通っていました。中学進級にあたり、多感な時期を過ごす上でイジメにあったり、本人のメンタルが心配に感じたのでかなり悩みましたが、固定級へ移りました。わかっていたことですが、固定級は閉鎖的でそれが親にとっては安心に思える事もあります。本人は他の子供とも関わりたい気持ちがある事、勉強も中学生の勉強がしたいと訴えて来ます。東京都内の一部地域や埼玉のように、情緒級をなぜ作ってもらえないのかなと思います。障害の度合いによっては多少のサポートがあれば通常の生活を送れる子供にとっては、勉強や学校生活を他の子供達と過ごせる場を提供してあげたいと心から思います。どうか情緒級の設立を検討願います。(10～14歳)
- 聴覚障害があっても手帳を取れるレベルではないので、今後本人が困り感を持ったまま健常者の中で生きていかないといけない。それに対してのフォローは大人になってしまうと何も無い。今年小学卒業なのですが、中学に入ると難聴学級も他区に行かねばならず、諦める事になるかと思っています。中学・高校・大学と全く情報保障などの情報も頂けないのですか。(—/—)
- 息子は現在2歳半のため、今後障害の程度によって進路が大きく変わってくるかと思っています。親として出来る限りの情報を集めてはおりますが、障害の種類や程度によって就園～就職までどんな選択肢が今現在はあるのか、知ることが出来たら良いなと思っております。中野にこのまま居住した場合、具体的にどんなところにお世話になれるのか見通しが少しでも欲しいです。(0～5歳)
- 来年小学校に就学するが、発達についてグレーなので、どういったサポートをしてもらえるのかが良く分からない。特に家庭で困っているという事がないが、どれ程、他のお子さんとは違うのかも良く分からない為、通所はしているものの、どれ程、困った事になるのかも分からない。本当に小学校に通ってから困った事になるのであれば、サポートは受けたいと考えている。(0～5歳)
- 発達障害があると診断され療育を3才から3年間行い、通常児と同じ学級に進学したが、不登校となった。発達検査で通常より高い知能指数があり、本人の特性と授業進度の速度で学校が辛いとの理由。学校生活に馴染めない場合の障害児の日常生活について困っている。(6～9歳)
- 就学で、重い障害があると通常の学校の中に居場所がなく、支援学校という隔離された環境しか与えられない事。本人が、人と過ごすのが好きでそこに苦しさがない性格でも、一般的な学校で多くの人と共に学ぶ事が出来ないのは、とても残念です。地域の小中学校の中に、今よりもっと様々な子供が共に学べる環境、制度を整えていくことにより、共生社会が作られていくと思う。(6～9歳)
- 現在、就学相談にて普通級か支援級のどちらへの就学がベストなのか相談中ですが、就学先が決まるとその後の相談は就学先の先生になるとのこと。先生方の転勤、クラス替えによる変更など相談先が変わる事や、利用しているサービス、施設との連携がないこと、都度どこへ相談したらよいのか親が考え選択していかないといけないのかと思うと不安です。継続した、一貫性のある相談窓口があると安心できるのですが…。(6～9歳)

### サービスの利用について 21件

- 放課後等デイサービスの利用についても、もう少し利用開始の手続きが簡素化されると良い。ある程度、区で利用可能施設を把握して頂き、情報を共有してもらえたら助かる。(6～9歳)
- 娘は1日2回～3回浣腸が必要ですが、障害者としては認定されません。子どもショートステイを利用しようと問合せしたところ「浣腸は医療行為にあたるのでお預かりできません。」との返答でした。また「障害者手帳があれば、別の施設でお預かりできます。」とのこと。私が万が一入院などした際には長女を病院へ入院させる他、行き場が無いと児童相談所からも言われました。娘のように障害グレーゾーンの子供は行き場がなく、守ってくれるサービスがありません。(0～5歳)
- 医療的ケアは必要ないが、保育所で看護師が出勤している時のみの利用とされている。常勤看護師以外にパートの看護師がいた時もあったが、今はいないため、常勤看護師の急な休みに合わせて休む必要がある。また、週4回のみ利用と制限を受けたり、土曜日の保育は不可とされているので、仕事の融通が利かない。退院後も、午前中のみのお預かりが続き、「日常生活に支障なし」と診断さ



れているにも関わらず「疲れてしまうため」とやんわりと預かりを拒否されている様にも捉えられる。放課後デイサービスの情報がわかりにくく、見学等にも行けておらず、就学後の放課後が心配。また、学童では預かってもらえるのかなど、わかりにくく感じる。就学についても、なかなか進路が決まらず、それらにまつわる事（学童や通学等々）が押し寄せになり不安がある。（6～9歳）

- 区内、放課後デイサービスがとて最少なく、支援学校高等部が練馬区所在になり事業所を探すのが大変でした。発達障害やグレーの子対応のところと先天的に知的の子対応をハッキリ区別してあるといいと思うのですが。進路・就職に関しても、家族にとっても初めての経験になるので、見通し（情報や相談、在学中は学校が対応窓口になるんですよねー。）があると選択にも余裕がでるのではないのでしょうか？（15～18歳）
- 障がいのある子が入園出来る保育園の枠（人数）が少なくて近くの保育園に入園出来ないこと。（0～5歳）
- 重心の子の利用出来る放課後デイサービスが中野区内には2ヶ所しかなく、定員が一杯になってしまふ（長期休みの時など特に）。もっと利用しやすくなってくるとありがたいのもうひとつくらい放課後デイの事業所を増やしていただきたいです。ぜひ誘致して下さい。（-）
- 我が家には障害の異なる未就学児が二人いるが、親一人で子ども二人と外出することが非常に困難。唯一、ゆめなりあだけは兄弟児の預かりがあったり、玄関が二重扉で子どもが飛び出さない仕様なので出かけられるが、他の民間の療育でさえ、子ども二人を連れて行くことが難しい。なので、障害児の一時保護の更なる充実や、移動支援の適応の拡大を希望する。（6～9歳）
- 動ける医療的ケア児を受け入れてくれるデイサービスが近くになく、家で親と子2人きりで過ごす事が多いです。親の心身の健康を保つためにも、子の社会性や自立を養うためにもそのような所を作って頂きたいです。今の状態で最適な療育サービスは何か、また近くにあるのかを知りたい。特にコミュニケーション発達。（0～5歳）

#### 子どもの居場所・活動の場について 6件

- 障害児の活動の場、憩の場があれば、家にばかりこもらずに過ごせるのではないかと考えています。小学校高学年以降の遊び場があればいいと思います。（10～14歳）
- 近くに安心して遊べる公園などが少なく、通園日以外はなかなか外に遊びに行くのが難しいです。（0～5歳）
- 就職後、休日に過ごせる（集まり的なことを区のイベントでやって欲しい）デイサービスのところがあると良い。（15～18歳）

#### 障害への理解・配慮について 9件

- 友人の話ですが、送迎ありの放デイの車が小学校に来てくれるのは便利だが、周囲の目（子どもたちの反応）が気になると話していました。たしかに、普通級しかない小学校だと、目立ちます。分け隔てのない理解…は大人よりも子どもたちの方が進んでいるように思えます。（6～9歳）
- よく落ち着きがないや、しつけがなってないと言われてしまい、なかなか障害のせいとは理解してもらえない。療育に通っているというだけで幼稚園の受入を断られた。（0～5歳）
- 現在小学校の普通級に通っています。どうにかこなせる事も増えてきましたが、苦手な事など上手く出来ない事もあります。先生方も、性格をわかって対応して下さいっていると思う点もありますが、もう少し療育への理解が深まると嬉しいです。（6～9歳）

#### 相談体制・情報提供について 29件

- 自分で調べないと必要な情報が出てこないため、区報や保育園等でも情報がわかるようにして欲しい。使える支援や、自分の子が該当するか等わからないため。（0～5歳）
- 就学に向けて、子供に合う放課後デイサービスを探すためすこやかに相談しました。知能検査結果

を提示し、困りごとや経過も詳しく説明したにもかかわらず、どの放デイが子供に合っているかというアドバイスがありませんでした。施設ごとに手法や特徴が違うので、代表的なところをいくつか回ってみて下さいと。その結果、7ヵ所見学してようやく合う所を見つけました。見学先で毎回同じ説明をしなければならず体力と気力の限界で疲れ果てました。主治医の先生によると、杉並区では区からそのようなアドバイスがあるそうです。(主治医は杉並の病院のため、中野区のすこやかに任せた方が良く思っていたとのこと。)個別か集団か、運動か机上か対象とする障害の程度(普通級か支援級か)など、大きな分類についてはある程度、専門家なら何がいいか見当がつくはずですが。素人の親がやみくもに片っ端から電話、訪問を繰り返す必要があるとは思えません。悩みと疲労が深まるばかりでした。仕事もずいぶん休み、収入も減りました。もっと踏み込んだ、専門的なアドバイスを期待します。最終的な判断は親がするにしても、2~3ヵ所候補を教えて頂ければずいぶん違ったと思います。(0~5歳)

- 就学に向けて、どの様な課題があるのか、どのような準備をする必要があるのか親だけではわかりません。小学校の見学をしたり、アドバイスを頂けると有難いです。(0~5歳)
- 就学相談の流れがわかりづらい。特にグレーゾーンの子については毎年、就学先の受け入れ態度が異なる(学校によっても違う)ため、準備を行いつらい。もっとオープンに情報公開して欲しい。また、区全体で方針は統一して欲しい。(6~9歳)
- 軽めのASDとの診断が下がったが、大人になった時どの程度一般の人達と一緒に働く事が出来るのか、相談出来る機会があると良い。同時にどの様な行政サービスを受けられるのか、知ることが出来る相談窓口があると日頃の不安が解消されると思う。(6~9歳)

#### 保護者の負担軽減・支援について 4件

- 来年度、就学を控えています。フルタイムで共働きの為不安を感じる。まだまだ母親がフルタイムで働いている人が少ないように思い、ワークライフバランスと言われているが、共働きで障がいのある子の子育てをしている家庭のことまでは、支援が足りていないように思えます。学校までの移動支援は今後、利用していかなければ働きづらく利用予定です。また、支援学校にも学童が併設される(送迎含め)ことを近い将来、実現されればよいと思います。(0~5歳)
- 自営業のため土日祝は仕事です。なのでもっと土日祝、子どもを預けられる場所を作って頂けたら嬉しいです。(6~9歳)

#### 療育・教育環境について 17件

- 吃音について、未就学児の支援は土曜にも実施されています。保育園等訪問支援も行っていますが、就学後は支援がなく、困っている家庭が多いと聞いています。学校の先生方にも理解がないばかりか「言葉の教室」も平日の日中帯で、通常の生活を犠牲にするのか、吃音の療育を諦めるのか、といった選択に迫られ、困り果て孤立しているようです。療育を優先した場合、学業や学校生活に遅れが生じることになれば、本末転倒ではないでしょうか。(0~5歳)
- 保護者や所属で主に関わる先生は、子どもの課題(出来ていないところ、足りないところ)に目がいきがちで、それがストレスにつながる人が多いのではと感じます。なので、児童発達に関わる専門家が子どもの良い所や保護者・所属の先生達の良い関わり(と思われるところ)に着目して指摘し共有出来る事で、ストレスがなくなったり、もっとのびのびとできたりする面もあるのではないかと思います。そういう視点を常に持つて頂くことは大切なのではと思います。(0~5歳)
- 保育園の民営化が進み、発達障害など少しの違いや変化に気づけるスキルのある経験のある先生が減り、業務内容にも余裕が無い事から見逃される支援が必要な子が多いと思う。その子自身やその子の周りの子のためにも、支援を受ける機会や早期支援に繋がる活動や保育士育成(私立保育士向け研修)や労働環境改善をお願いします。(0~5歳)
- 小学校での学習障害学級を作って頂きたいです。息子はADHD(不注意)とASD、境界知能です。小1で通級に通っておりますが週1、1コマでは普通級には追いつけていません。支援級では

物足りず、かつ普通級ではついて行けず本人の精神的疲労は強くなっています。境界知能の子供は長時間過ごす学校で適切な支援を受けていないのが現状です。本人も親も精神的に満たされるよう、学習障害への支援をお願い致します。(6～9歳)

- 現在年長で、来年度小学校に入学します。3歳0ヵ月から吃音があり、流暢にお話しすることができません。今は月2回、ゆめなりあで言語聴覚士さんのトレーニングを受けたり、相談にのって頂いたりしていますが、小学生になると個別療育は受けられないとのこと。来年度からは吃音の相談やトレーニングを受けられないことに子供本人も保護者の私自身も大きな不安を抱えています。(0～5歳)
- 保育園での様子を毎月知りたいので保育所訪問支援の回数を増やして頂きたいです。自立出来ていないことが多く、加配の先生を付けて欲しいがどこに相談すべきか出来るものなのかよく分かりません。(0～5歳)
- IQが特に高く、発達障害を併せ持つ子供に対しての学習や支援について、情報も取組もかなり少なく、不登校のままほぼ自宅にいることに不安を感じます。渋谷区のギフテッド教育に関する事業の様に中野区でも何らかの取組を始めてもらいたいです。(6～9歳)

### その他 12件

- 現在、療育センターに通っていますが、この先の進路について迷っています。又、小学校に入るタイミングでの進路についても、具体的なイメージがわからず、心配があります。療育センターに通う際の、他の兄弟の預け先を毎回考えなければならず、綱渡りをしているようです。保育園の一時保育も直ぐに埋まってしまったり、ファミリーサポートも予約できないこともあると、毎回必ず預けられる先があったら良いのに…と思います。(0～5歳)
- 感覚統合を整理しやすくするため、スイミングなど運動を積極的にやらせたいと思って近所(中野区)で探しました。スイミングは障害児(小中学校)の夏休み5日間/年しかなく、民間は1ヶ所ありましたがずっと“満”の状況で順番は来ません。毎週1回知的障害者(児)対象のスイミング教室を開催して下さい。(10～14歳)
- ユニバーサルベッドがなくてオムツ交換出来ずに困る場合が多くなりました。ギリギリ赤ちゃん用が使える時は赤ちゃん用を使いますが、危ないし大変なのでユニバーサルベッドと赤ちゃん用オムツ交換ベッドを兼用して普及させて欲しい。街中でのバリアフリー度合いはとても進んできていると思いますが、トイレ問題はまだまだ課題が多いと感じています。(0～5歳)
- 今は解消したが、子供が1才の時、在宅酸素を利用。保育園に入れず母の就労を維持して貰うことに非常に苦心した。医療ケア児の支援が充実すると良いと強く思った。就学相談を利用、入学にあたっては様子を見ることになった。7月頃学校から通級の提案があり、2学期～利用。もっと早くから通級で指導出来れば本人にもメリットが大きかったとの話があり、難しい判断だったと思うのでしようがないが、複雑な思いがあった。(6～9歳)
- 障害に対する理解が、色々な世代で広まって欲しいです。小学校内や、小学校の近くに放課後デイサービスがあって欲しい。障害者が就職しやすい世の中になって欲しいです。保育園で療育の存在を周知する案内があれば助かります。(6～9歳)
- とにかく情報が少ない。知らなかったことばかり。当事者にならなければ知るよしもないというのが現状。全てが不安。区報で療育センターの特集をしたのは良かった。家の子の障害とは違う子の障害についてもっと知りたいので、障害について、どんなことに困っているかなど特集して欲しい。日常生活では周囲の人の目が気になる、道を歩くのも騒ぐので困難。でも身体は健康なのでヘルパーさんと呼ぶ程ではないのかもと思う。そもそも雇うお金がない。障害のある子がいると通院その他で時間を取られるのでフルタイムで働けないのはとても悲しくなる。(6～9歳)
- 障害のある兄弟がいるため、きょうだい児です。本人は児童発達支援は終了となりますが、今後は兄弟の関係など困る事もありそうです。障害児本人の相談はありますが、きょうだい児のサポートもあると助かります。(0～5歳)

- ①子供が朝起きられず遅刻を繰り返すが、早く寝る様に言っても眠れないと言い親に隠れてスマホをいじっていたりしている。スマホを 9:30 以降取り上げる約束をしても友達からの連絡があるからと親に反抗する。その反抗の状況が激しく恐ろしい。②学校から配られる教科毎のプリント類を全く分類する、ファイルする、まとめる等が出来ない（バラバラくしゃくしゃで放置）。親が小学生時は手伝ったが中学出てしないのは困るので自分でやらう様促しても出来ない。このタイプの発達障害の子供へのトレーニング支援はどこかで受けられないだろうか。（放課後デイサービスにはない、専門家に相談するととても金額が高くて支払えないし継続できない）③行動の一つ一つが「先を見てない」幼稚なので、注意することになるが親は振り回され疲れ果てている。ex. 外出した汚れた手で冷蔵庫を開けるなど。（10～14 歳）

## 4.2. 健康福祉行政全体への意見・要望

(全員の方に)

問 24. 健康福祉行政に関することや今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政に関することや今回の調査について、要望や意見を自由に記入していただいたところ、102人の方から回答があった。ここでは、その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

### 支援体制の整備・充実について 28件

- 保育園時代と比べて支援が薄い。支援側からすると、支援の優先順位が低いと言われ、通常学級だと個別の声かけが必要と言われるゾーンの人達はどのような支援を受けたら良いのか。受けられる支援が少ない。常設プレーパークのようなサードプレイスをたくさん作って欲しい。(6～9歳)
- 発達障害のある子の学校や施設が少ないと感じています。世田谷区はわりと充実しているのに対し、中野区はあまりなので改善があると嬉しいです。(0～5歳)
- 仕事をしながら通所できるサービスが少ない。ゆめなりあの通園サービスは頻繁に通わせるには勤務時間にかぶっており、その他のサービス提供している所へ連絡してみているものの、人数がいっぱいで通えなかったり、登園の時間が確保できなかったりで、十分な量のサービスが受け入れられないでいる。(現状、個別クラスで50分を月2回のみ)。共働きで通える所を増やして欲しい。(0～5歳)
- 両親が「働く」ことを、制限されることなく、子どもの発達を支援することができる環境にはまだ程遠いように思います。経済的理由から、働かざるを得ない、ただ、子どものために出来ることは100%したい、日々そのようなジレンマを抱えております。表出していないだけで、同じ悩みを抱えるご家庭は、少なくないのでは?と思います。(0～5歳)
- 学校に支援員さんがいらっしゃることで、子供が学校に行く安心に繋がっています。特性のある子はたくさんいるのですが、支援員さんは2人だけなので親の付き添いなどで補っている状態です。支援員さんを増やして頂けたら本当にありがたいです。主婦のパートとしても、平日働ける良いお仕事に思うのですが、認知度が低いので、たくさん募集をかけて頂けると嬉しいです!支援員さんにはいつも感謝しています。(6～9歳)
- 内科的に問題はないが病後児保育は利用出来ないと言われました。同じ子供なのに障害児は受け付けてもらえません。障害児の病後児保育などがあると一人親として助かります。(15～18歳)
- 誰でも待機児童等にならずに入所できる学童や放課後デイサービスを増やして欲しい。(6～9歳)
- 「ことばの教室」など言語発達に特化した支援があると助かる。現状、月1回の療養のみしか行っていないが、一般的な発達を促すようなプログラムにどうしてもなってしまうため、自分の子どもに適切かと聞かれると疑問がある。(0～5歳)
- 通級の利用についてもっと幅を拡げて欲しい。不登校の子供でも利用出来る様に考慮してもらいたい。(6～9歳)
- 1歳半健診で療育の紹介などあるが、窓口として「障害児」と名の付くところにいきなり案内されるのが親としてインパクトがある。ペアレントトレーニング、メンターは手厚くすべきだと思う。気持ちの整理やフォローなく療育が始まり、とても辛い時期があった。(0～5歳)

### 施設整備について 4件

- 区内の支援施設をもっと増やして欲しい。(0～5歳)
- 区立の療育センターを増やして欲しい。希望しても入れず、一日1時間不足しか通えない民間の事業所を利用しているが、もう少し長時間トレーニングを受けたい。(0～5歳)

## 障害への理解・配慮について 5件

- 子どもを対象とする福祉では、ことさらインクルーシブという視点も大切だと思います。今日安心して過ごせるという事が何より大事ですが、その安心が将来まで続くのかと考えると障害のある子どもを支えるだけでなく、子供達全体がお互いを隣人と感じ、共にいて当たり前と感じながら過ごせる様に、分けすぎない環境を期待しています。(6～9歳)
- 障害等の不自由さや本人が抱える問題についてそれらを抱えていない方やその家族の皆様にも理解頂けるよう教育現場でそのような議題を取り上げて欲しい。子どものうちから共存の意味を理解し、助け合う世の中になって欲しいです。(10～14歳)
- 小学校で、各種障害についてもっと学ぶ機会があれば…と思っています。日本は隔離政策が多いですが、子供達のため、手もお金もかけて、もっと本来のダイバーシティを目指してもらいたいです。様々な体・心を持った人が世界にはたくさんいること、皆それぞれが自己実現をそれぞれの希望に沿ってかなえられる世の中であって欲しいです。どうかよろしくお願いします。(6～9歳)
- 区報で健康福祉、障害福祉に関して度々触れて下さることが、地域の理解に続いていると思います。ありがとうございます。(0～5歳)

## 相談体制・情報提供について 17件

- 現在、ゆめなりあに週2回と訪問リハビリ週2回通っているのですが、それは親が選択したもので、それらが今子どもにできるベストな事なのかが不安です。区の方には乳幼児健診で「何かあれば連絡ください。」と言ってもらえるが、定期的なフォローがなく適切な支援なのか、成長と共に見直しが必要なのでは？と幼稚園入園前に不安も感じています。特別なフォローが必要な子には1年に1回は保健師さんや社会福祉士さんとの面談があれば安心だと思います。お忙しいかと思いますが、よろしくお願い致します。(0～5歳)
- 我が子に支援が必要だと知る前は、このようなサービスや施設制度は何1つ存じ上げませんでした。しかし、わが子に必要と判断頂いてから、沢山の方に色々な事を教えて頂き、本当に良くして頂きました。感謝の気持ちばかりです。「様々な子がいる」という寛容な心は誰にでも持ち合わせて欲しいですが、私の様に必要な人に必要な情報が届く中野区のやり方がとてもいいと思いました!!(0～5歳)
- 当該はダウン症児ですが、すこやかセンターの職員へ親の会がないかたずねたところ、全く情報を持っておらず、アポロ園へ通うようになって情報をいただきました。すでに1才を過ぎていたので、0才児育児、しかも一人目で不安いっぱいでしたがすこやかセンターの方がダウン症の親の会の存在を認識し、早急に情報提供をしていただければ、私の様にさまよう期間がなくなると思います。行政自体がもっと情報を持ち、提供すべきであると考えます。(0～5歳)
- 情報がちらばっていて、欲しい情報が直ぐには入らない。ワンストップで案内してもらえたら嬉しい。誰にも教えて貰えないので、自分で調べて、ピンポイントで受給者証はすこやかセンター、移動支援は各自の事業所 etc…に問合せないといけない。中野区役所の1Fの障害福祉課に聞いても情報をちゃんと教えて貰えなかった。(0～5歳)
- 施設に入所待ちの方がたくさんいると聞いている。コロナの影響なのか、コロナ関係なく時代の影響の方が大きいかわからないが、手遅れになってから「発達が遅いから支援を受けた方が良い」と言われるよりも、一歳までの健診や予防接種などの小児科通院の際に子供との関わり方、接し方のアドバイスや簡易的な冊子などがあれば親側が気づけることもあるのではと感じる。基本的に区の福祉行政には感謝しています。ありがとうございます。(0～5歳)

## 本調査について 13件

- このようなアンケートは、どんどん行って欲しいです。子供が小さいうちは、困った事や気になる

事を気軽に相談する場所が多いが、成長していくにつれて少なくなっているためこのように伝える場があると少し助かります。(10～14歳)

- 色々変化を感じられる区政になっていると思います。これからは、アンケート、その結果の公表、トライ&エラーの公表など PDCA をきちんとまわした透明性の高い区制を望みます。福祉に関してもそう考えます。いつもありがとうございます。(0～5歳)

**その他** 35件

- 発達障害の疑い、傾向があるため個別療育を受けられることとなり、大きな変化が見られるようになって、本当にありがたく救われました。ただ、ここにいたるまで、一年ほど“3歳前後の男の子は手がかかるもの”“やんちゃの範疇”と思っており、毎日しんどいのに耐え続け“いつまで続くのか…”という先の見えない闇の中にいるような心地でした。保育園の同級生と比較して「ん??」ということが積み重なってきて初めて、もしかしてと思い、3歳児健診で相談してからはあらゆる支援の手が差し伸べられ、どんどん気持ちが楽になりました。発達障害は見極めが難しいので、「育てにくい子」が問われるより、「日常生活に支障が出る困った状態が続いているか」問われた方が、もう少し早い段階で「うちの子のこと、相談してもよいのかな」と気付いたように思います。我が子を「育てにくい」と申告するのは、私にはなかなかハードルが高く認めづらかったです。中野区は、相談の一步が踏み出せば、順番待ちの期間はあっても、暖かく手厚い支援が受けられるので、本当に安心です。いつもありがとうございます。(0～5歳)
- 障害者向けのイベントをやって欲しい。(15～18歳)
- デイサービスや通級は息抜きになる様で、積極的に利用しています。他児や大人との関わりを通してコミュニケーションを学ぶ事が出来ている様に思います。ゲームが好きで、運動や他の事への興味が薄いので、好きになるきっかけ作りの場があると良いです。腰が重く連れ出すのがなかなか難しいのですが…。(10～14歳)
- ①引きこもり者増加を防ぐためにも健康福祉行政が充実することは大切だと思う。②また、サービス提供を NPO などの活用で充実させ、利用者の利用費の支出の負担が軽くなるとありがたい。(放課後デイサービスを希望しても待機する状態もある。充実した内容を提供する事が出来る組織・企業の場合のみなのかもしれないが。)放課後デイサービスの対象内容の種類自体も拡げてもらえるとありがたい。③働く母のために行政対応日に土曜も増やして欲しい。(10～14歳)
- 今回の様なアンケートはありがたいのですが、オンライン回答の導入を進めて欲しい。様々な書類を作成、提出するにあたり、書式が分かりにくい時がある。障害者家族(本人も含め)に対しての支援が増えるといい(経済的な)。情報をわかりやすく得られる様にして欲しい。ベビーカーで行けない場所がまだまだ沢山あるので改善して欲しい。未就学児でも気軽に預けられる場所があるといい。障害児向けのイベントや習い事を知りたい。子供を連れてたまま産婦人科で健診を受けたい(預けられないので)。(0～5歳)

### Ⅲ 調査票と単純集計





れいわ ねんど ねんど

# 令和4年度(2022年度)

しょうがいふくし いこうちょうさ

## 障害福祉サービス意向調査

しょうがいしゃちょうさ

### 《障害者調査》

ちょう さ ひょう

## 調査票

### 【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人が答えることが  
難しい場合は、ご本人が答える支援をお願いします。ご本人が答えられない場合  
には、ご家族や介護されている方がご本人の意向を尊重してご記入ください。

2. 令和4年8月1日現在の状況でお答えください。

3. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。

4. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。

5. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。

6. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。

7. 「その他(具体的に )」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入  
ください。

8. ご記入いただきました調査票は、

れいわ ねん がつ にち かようび  
**令和4年10月11日(火曜日)までに**

三つ折りにした上で、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してくださ  
い。

9. 調査報告書は、令和5年7月から、図書館、すこやか福祉センター、区ホームページ  
などでご覧になれる予定です。

10. 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお  
問合せください。

なかのくけんこうふくしぶしょうがいふくしかしょうがいしゃしきくすいしんがかり  
中野区健康福祉部障害福祉課障害者施策推進係

でんわ  
電話 03-3228-8832 FAX 03-3228-5660

E-mail shogaihukusi@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に(全員のの方に)と記載のあるものは全員のの方が、(～の方に)とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

《あなた(あて名の方ご本人)の状況について、おうかがいします》

(全員のの方に) <回答者数：673>

問1 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ)

- |                                       |            |
|---------------------------------------|------------|
| 1. あなた(あて名の方ご本人)が自分で回答(代筆を含む) (77.1%) |            |
| 2. ご家族 (16.6%)                        |            |
| 3. その他の人 (0.6%)                       | 無回答 (5.6%) |

(全員のの方に) <回答者数：673>

問2 あなた(あて名の方ご本人)の性別と年齢をお答えください。

(○は1つ、右づめで数字を記入)

- |      |                      |                      |                      |            |
|------|----------------------|----------------------|----------------------|------------|
| <性別> | 1. 男性 (51.0%)        | 2. 女性 (44.7%)        | 3. その他 (0.1%)        | 無回答 (4.2%) |
| <年齢> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | 歳          |

(全員のの方に)

問3 あなた(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳・愛の手帳(療育手帳)・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は、等級または度数をお答えください。複数の手帳をお持ちの方は、それぞれの等級または度数についてお答えください。

(1) 身体障害者手帳(○は1つ) <回答者数：488>

- |               |               |               |            |
|---------------|---------------|---------------|------------|
| 1. 1級 (32.2%) | 2. 2級 (18.2%) | 3. 3級 (16.0%) |            |
| 4. 4級 (21.3%) | 5. 5級 (4.5%)  | 6. 6級 (3.7%)  | 無回答 (4.1%) |

(2) 愛の手帳(○は1つ) <回答者数：86>

- |               |               |               |            |
|---------------|---------------|---------------|------------|
| 1. 1度 (12.8%) | 2. 2度 (14.0%) | 3. 3度 (25.6%) |            |
| 4. 4度 (38.4%) |               |               | 無回答 (9.3%) |

(3) <sup>せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう</sup>精神障害者保健福祉手帳(○は1つ) <回答者数：181>

1. 1級 (12.2%)	2. 2級 (43.1%)	3. 3級 (39.2%)	無回答(5.5%)
---------------	---------------	---------------	-----------

(<sup>しんたいしょうがいしゃてちょう</sup>身体障害者手帳<sup>も</sup>をお持ちの方に) <回答者数：488>

問3-1 あなた(あて名の方ご本人)の<sup>しんたいしょうがいしゃてちょう</sup>身体障害者手帳に記載された<sup>しょうがいめい</sup>障害名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. <sup>じょうしきのうしょうがい</sup> 上肢機能障害 (17.0%)	2. <sup>ちょうかくしょうがい</sup> 聴覚障害・ <sup>へいこうきのうしょうがい</sup> 平衡機能障害 (8.8%)
3. <sup>か しきのうしょうがい</sup> 下肢機能障害 (29.5%)	4. <sup>おんせい げんご</sup> 音声・言語・ <sup>きのうしょうがい</sup> そしゃく機能障害 (3.5%)
5. <sup>たいかんきのうしょうがい</sup> 体幹機能障害 (8.2%)	6. <sup>のうげんせい</sup> 脳原性まひ(0.6%)
7. <sup>ないぶきのうしょうがい</sup> 内部機能障害 (15.8%)	8. <sup>しかくしょうがい</sup> 視覚障害 (7.4%)
9. その他(26.0%)	無回答(10.0%)

(<sup>せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう</sup>精神障害者保健福祉手帳<sup>も</sup>をお持ちの方に) <回答者数：181>

問3-2 <sup>さしつか</sup>差し支えがなければ、あなた(あて名の方ご本人)の<sup>しんだんめい</sup>診断名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. <sup>とうごうしつちようしょう</sup> 統合失調症 (23.2%)	
2. てんかん(5.5%)	
3. <sup>きぶんしょうがい</sup> 気分障害( <sup>そう</sup> 躁うつ病、 <sup>びょう</sup> うつ病 ) (32.6%)	
4. アルコール、 <sup>やくぶついぞんしょう</sup> 薬物依存症(2.2%)	
5. <sup>しんけいしょう</sup> 神経症(5.5%)	
6. <sup>じんかく</sup> 人格および <sup>こうどう</sup> 行動の <sup>しょうがい</sup> 障害(3.9%)	
7. その他(27.1%)	無回答(23.2%)

(<sup>あい てちょう</sup>愛の手帳<sup>も</sup>をお持ちの方に)

問3-3 <sup>さしつか</sup>差し支えがなければ、あなた(あて名の方ご本人)の<sup>しんだんめい</sup>診断名をお答えください。  
(<sup>ちよくせつきにゆう</sup>直接記入)

( )

(全員のの方に) <回答者数：673>

問4 あなた(あて名の方ご本人)は、障害支援区分認定を受けていますか。(○は1つ)

1. 障害支援区分認定は受けていない(64.0%)	2. 区分1(2.4%)
3. 区分2(2.4%)	4. 区分3(1.8%)
6. 区分5(0.1%)	7. 区分6(0.6%)
	無回答(27.6%)

(全員のの方に) <回答者数：673>

問5 あなた(あて名の方ご本人)は介護保険の要支援・要介護認定を受けていますか。(○は1つ)

1. 要支援・要介護認定は受けていない(65.5%)	2. 要支援1(5.2%)
3. 要支援2(4.3%)	4. 要介護1(2.2%)
6. 要介護3(3.4%)	7. 要介護4(0.7%)
	8. 要介護5(1.5%)
	無回答(13.4%)

(全員のの方に) <回答者数：673>

問6 あなた(あて名の方ご本人)の家族構成をお答えください。(○は1つ)

1. ひとり暮らし(30.3%)	2. 配偶者と同居(22.3%)
3. 配偶者と子どもと同居(12.5%)	4. 親と同居(17.4%)
5. 親と子どもと同居(0.4%)	6. 子どもと同居(6.8%)
7. その他(5.1%)	無回答(5.2%)

《あなた(あて名の方ご本人)のお住まいについておたずねします》

(全員のの方に) <回答者数: 673>

問7 あなた(あて名の方ご本人)のお住まいは次のどれにあたりますか。(○は1つ)

- |                                 |           |
|---------------------------------|-----------|
| 1. 持ち家(マンションも含む) (55.3%)        |           |
| 2. 公営住宅(都営・区営住宅など) (5.5%)       |           |
| 3. 民間賃貸住宅(アパート・マンションなど) (28.2%) |           |
| 4. グループホームなど(2.1%)              |           |
| 5. その他(3.7%)                    | 無回答(5.2%) |

(全員のの方に) <回答者数: 673>

問8 あなた(あて名の方ご本人)の住宅で困っていることはありますか。(○は1つ)

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1. はい(29.7%) | 2. いいえ(63.4%) | 無回答(6.8%) |
|--------------|---------------|-----------|

(問8で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数: 200>

問8-1 住宅で困っていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                              |           |
|------------------------------|-----------|
| 1. 部屋が狭い(35.5%)              |           |
| 2. バリアフリーになっていない(25.0%)      |           |
| 3. 家が老朽化している(42.0%)          |           |
| 4. 改修や建て替えができない(14.0%)       |           |
| 5. アパートなどの契約時の保証人がいない(14.5%) |           |
| 6. 立ち退きを迫られている(0.5%)         |           |
| 7. 自分の住みたい場所が見当たらない(5.0%)    |           |
| 8. その他(30.5%)                | 無回答(1.0%) |

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問9 あなた(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)は、将来<sup>しょうらい</sup>はどのようなところで生活<sup>せいかつ</sup>したいと思<sup>おも</sup>いますか。  
(○は1つ)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 今の <sup>いま</sup> 住宅 <sup>じゅうたく</sup> に引き <sup>ひ</sup> 続き <sup>つづ</sup> 暮 <sup>く</sup> らしたい(53.9%)   |           |
| 2. 公 <sup>こう</sup> 営 <sup>えい</sup> 住宅 <sup>じゅうたく</sup> (都 <sup>と</sup> 営 <sup>えい</sup> ・区 <sup>く</sup> 営 <sup>えい</sup> 住宅 <sup>じゅうたく</sup> など)に入 <sup>に</sup> 居 <sup>ゆう</sup> したい(11.3%) |           |
| 3. グループ <sup>せい</sup> ホーム <sup>かつりよう</sup> 、生活 <sup>にゅう</sup> 寮 <sup>きよ</sup> に入 <sup>に</sup> 居 <sup>ゆう</sup> したい(2.8%)  |           |
| 4. 施 <sup>し</sup> 設 <sup>せつ</sup> に入 <sup>に</sup> 所 <sup>じょ</sup> したい(3.7%)  |           |
| 5. わからない(16.3%)  |           |
| 6. その他 <sup>た</sup> (6.1%)   | 無回答(5.8%) |

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問10 火事<sup>か</sup>や地震<sup>じしん</sup>などの災<sup>さい</sup>害<sup>がい</sup>に関<sup>かん</sup>して、障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>があるため<sup>ため</sup>にあな<sup>な</sup>た(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)が不安<sup>ふあん</sup>を感じ<sup>かん</sup>ていることはあり<sup>あ</sup>りますか。(○は1つ)

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1. はい(57.8%) | 2. いいえ(38.9%) | 無回答(3.3%) |
|--------------|---------------|-----------|

(問10で「1. はい」とお答<sup>こた</sup>えの<sup>かた</sup>方に) <回答者数：389>

問10-1 不安<sup>ふあん</sup>を感じ<sup>かん</sup>ていることはどのようなこと<sup>こと</sup>ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 災 <sup>さい</sup> 害 <sup>がい</sup> の内容 <sup>ないよう</sup> や避 <sup>ひ</sup> 難 <sup>なん</sup> 指 <sup>し</sup> 示 <sup>じ</sup> 等 <sup>など</sup> の情 <sup>じょう</sup> 報 <sup>ほう</sup> を入 <sup>にゅう</sup> 手 <sup>しゆ</sup> または理 <sup>り</sup> 解 <sup>かい</sup> でき <sup>き</sup> るかどう <sup>どうか</sup> か(29.8%)  |           |
| 2. 避 <sup>ひ</sup> 難 <sup>なん</sup> 所 <sup>じょ</sup> 等 <sup>など</sup> へ <sup>へ</sup> の移 <sup>い</sup> 動 <sup>どう</sup> が <sup>が</sup> でき <sup>き</sup> るかどう <sup>どうか</sup> か(54.5%)   |           |
| 3. 周 <sup>しゅう</sup> 囲 <sup>い</sup> の <sup>ひと</sup> 人 <sup>ひと</sup> や家 <sup>か</sup> 族 <sup>ぞく</sup> 等 <sup>など</sup> に <sup>に</sup> 状 <sup>じょう</sup> 況 <sup>きやう</sup> や必 <sup>ひつ</sup> 要 <sup>よう</sup> な支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> を <sup>つた</sup> え <sup>え</sup> る <sup>る</sup> こと <sup>こと</sup> が <sup>が</sup> でき <sup>き</sup> るかどう <sup>どうか</sup> か(30.3%)            |           |
| 4. 周 <sup>しゅう</sup> 囲 <sup>い</sup> の <sup>ひと</sup> 人 <sup>ひと</sup> か <sup>か</sup> ら <sup>ら</sup> 必 <sup>ひつ</sup> 要 <sup>よう</sup> な支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> を <sup>う</sup> 受 <sup>う</sup> け <sup>け</sup> る <sup>る</sup> こと <sup>こと</sup> が <sup>が</sup> でき <sup>き</sup> るかどう <sup>どうか</sup> か(35.7%)  |           |
| 5. 避 <sup>ひ</sup> 難 <sup>なん</sup> 所 <sup>じょ</sup> 等 <sup>など</sup> で <sup>で</sup> 必 <sup>ひつ</sup> 要 <sup>よう</sup> な相 <sup>そう</sup> 談 <sup>だん</sup> 、介 <sup>かい</sup> 護 <sup>ご</sup> 、看 <sup>かん</sup> 護 <sup>ご</sup> 等 <sup>など</sup> を <sup>う</sup> 受 <sup>う</sup> け <sup>け</sup> る <sup>る</sup> こと <sup>こと</sup> が <sup>が</sup> でき <sup>き</sup> るかどう <sup>どうか</sup> か(40.4%) |           |
| 6. 避 <sup>ひ</sup> 難 <sup>なん</sup> 所 <sup>じょ</sup> 等 <sup>など</sup> に <sup>に</sup> 必 <sup>ひつ</sup> 要 <sup>よう</sup> な設 <sup>せつ</sup> 備 <sup>び</sup> 、食 <sup>しょく</sup> 糧 <sup>りやう</sup> 、医 <sup>い</sup> 薬 <sup>やく</sup> 品 <sup>ひん</sup> 等 <sup>など</sup> が <sup>が</sup> あ <sup>あ</sup> るかどう <sup>どうか</sup> か(50.4%)   |           |
| 7. 連 <sup>れん</sup> 絡 <sup>らく</sup> を <sup>あ</sup> い <sup>い</sup> て <sup>て</sup> と <sup>と</sup> り <sup>り</sup> あ <sup>あ</sup> う <sup>う</sup> 相 <sup>あ</sup> 手 <sup>て</sup> が <sup>が</sup> い <sup>い</sup> な <sup>な</sup> い(7.5%)   |           |
| 8. その他 <sup>た</sup> (12.9%)  | 無回答(0.8%) |

《あなた(あて名の方ご本人)の日常生活の介助や支援についておたずねします》

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数: 673>

問11 あなた(あて名の方ご本人)の日常生活で介助を必要とすることはありますか。  
(○は1つ)

- |              |               |           |
|--------------|---------------|-----------|
| 1. はい(43.8%) | 2. いいえ(54.8%) | 無回答(1.3%) |
|--------------|---------------|-----------|

(問11で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数: 295>

問11-1 日常生活で介助を必要とすることは具体的にどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                  |                          |           |
|------------------|--------------------------|-----------|
| 1. 食事(27.5%)     | 2. 食事の支度や片付けなどの家事(48.5%) |           |
| 3. 排せつ(18.3%)    | 4. 入浴(35.6%)             |           |
| 5. 着替え(23.1%)    | 6. 薬の管理(36.3%)           |           |
| 7. 掃除・片付け(53.6%) | 8. コミュニケーション(30.8%)      |           |
| 9. 外出(52.5%)     | 10. 日常の買物(49.2%)         |           |
| 11. お金の管理(36.3%) | 12. その他(12.2%)           | 無回答(0.0%) |

問11-2 あなた(あて名の方ご本人)の主な介助者はどなたですか。(○は1つ)

- |                     |                   |            |
|---------------------|-------------------|------------|
| 1. 父(3.1%)          | 2. 母(18.3%)       |            |
| 3. 配偶者(22.4%)       | 4. 子ども(12.9%)     |            |
| 5. 近所の人、友人・知人(2.4%) | 6. ホームヘルパー(12.2%) |            |
| 7. ボランティア(0.0%)     | 8. その他(14.2%)     | 無回答(14.6%) |

問11-3 主な介助者のほかに、あなた(あて名の方ご本人)を日常的に介助できる方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                   |                     |
|-------------------|---------------------|
| 1. いない(50.5%)     | 2. 父(10.8%)         |
| 3. 母(3.1%)        | 4. 配偶者(5.8%)        |
| 5. 子ども(12.2%)     | 6. 近所の人、友人・知人(3.1%) |
| 7. ホームヘルパー(11.9%) | 8. ボランティア(0.3%)     |
| 9. その他(12.5%)     | 無回答(2.7%)           |



(全員のの方に) <回答者数：673>

問12 あなた(あて名の方ご本人)の主な介助者が急病・事故などで介助が困難になった場合、どのようにしたいですか。(○は1つ)

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 同居している家族に頼む(24.7%)                     |            |
| 2. 同居していない家族や親戚に頼む(18.3%)                 |            |
| 3. 介助(介護)や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用する(22.3%) |            |
| 4. 施設の短期入所(ショートステイ)を利用する(8.6%)            |            |
| 5. その他(13.1%)                             | 無回答(13.1%) |

(全員のの方に) <回答者数：673>

問13 あなた(あて名の方ご本人)は、平日の日中は主にどのように過ごしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. 自宅で過ごしている(62.0%)                      |           |
| 2. 常勤で働いている(15.2%)                       |           |
| 3. アルバイト・パート・非常勤・契約社員などで働いている(9.1%)      |           |
| 4. 就労移行支援や就労継続支援を行う事業所や作業所などに通っている(5.2%) |           |
| 5. 身体機能や生活能力の向上のための訓練を行う事業所に通っている(5.5%)  |           |
| 6. 生活介護を行う事業所に通っている(2.8%)                |           |
| 7. 病院へ通院している(29.3%)                      |           |
| 8. 学校(幼稚園等含む)に通っている(4.2%)                |           |
| 9. 趣味やスポーツ活動をしている(13.1%)                 |           |
| 10. その他(7.9%)                            | 無回答(3.3%) |

あなた(あて名の方ご本人)の外出状況についておたずねします

(全員の方に) <回答者数: 673>

問14 あなた(あて名の方ご本人)は、一週間に、どのくらい外出しますか。(○は1つ)

- |                    |                    |                  |
|--------------------|--------------------|------------------|
| 1. ほとんど毎日(33.9%)   | 2. 3~5日程度(31.8%)   | 3. 1~2日程度(19.0%) |
| 4. ほとんど外出しない(8.0%) | 5. まったく外出しない(3.6%) | 無回答(3.7%)        |

(全員の方に) <回答者数: 673>

問15 あなた(あて名の方ご本人)の外出の主な目的は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1. 通勤や通学(26.0%)          | 2. 福祉施設や作業所などへの通所(12.6%) |
| 3. 買物(63.9%)             | 4. 通院(55.3%)             |
| 5. 趣味(21.1%)             | 6. スポーツ(7.6%)            |
| 7. ボランティアや地域行事への参加(3.4%) | 8. 友人と会うため(16.6%)        |
| 9. 散歩(39.1%)             | 10. 特にない(0.4%)           |
| 11. その他(8.5%)            | 無回答(2.8%)                |

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問16 あなた(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)が外出<sup>がいしゅつ</sup>する上<sup>うへ</sup>で妨<sup>さまた</sup>げになっていることはありますか。  
(○は1つ)

1. はい(38.5%)

2. いいえ(57.7%)

無回答(3.9%)

(問16で「1. はい」とお答え<sup>こた</sup>の方<sup>かた</sup>に) <回答者数：259>

問16-1 外出<sup>がいしゅつ</sup>する上<sup>うへ</sup>で妨<sup>さまた</sup>げになっていることは具体的<sup>ぐたいてき</sup>にどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 道路<sup>どうろ</sup>や駅<sup>えき</sup>などの利用<sup>りよう</sup>が不便<sup>ふべん</sup>(34.7%)
2. 電車<sup>でんしゃ</sup>やバス<sup>つか</sup>を使<sup>い</sup>っての移動<sup>いどう</sup>が不便<sup>ふべん</sup>(42.1%)
3. 利用<sup>りよう</sup>する建物<sup>たてもの</sup>の設備<sup>せつび</sup>が整備<sup>せいび</sup>されていない(13.9%)
4. 点字<sup>てんじ</sup>ブロック<sup>はそんなど</sup>が破損<sup>りよう</sup>等<sup>ふべん</sup>により利用<sup>りよう</sup>が不便<sup>ふべん</sup>(2.7%)
5. 介助<sup>かいじょしゃ</sup>者がいない(17.4%)
6. 情報<sup>じょうほう</sup>がない(8.1%)
7. 問<sup>と</sup>い合<sup>あ</sup>わせ先<sup>さき</sup>の連絡<sup>れんらく</sup>方法<sup>ほうほう</sup>が整備<sup>せいび</sup>されていないため、問<sup>と</sup>い合<sup>あ</sup>わせができない(4.6%)
8. まわり<sup>まわり</sup>の人の障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しや</sup>に対する理解<sup>りかい</sup>不足<sup>ふそく</sup>(19.3%)
9. 障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>を理由<sup>りゆう</sup>に施設<sup>しせつ</sup>などの利用<sup>りよう</sup>を拒否<sup>きよひ</sup>される(0.8%)
10. 適切<sup>てきせつ</sup>な指<sup>し</sup>導<sup>どう</sup>者<sup>しや</sup>がいない(4.6%)
11. 一緒<sup>いっしょ</sup>に行く仲<sup>い</sup>間<sup>なかま</sup>がいない(16.6%)
12. 障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>者<sup>しや</sup>参加<sup>さんか</sup>を想<sup>そう</sup>定<sup>てい</sup>していないため文字<sup>もじ</sup>表示<sup>ひょうじ</sup>や点字<sup>てんじ</sup>など配<sup>はい</sup>慮<sup>りよ</sup>がされていない(4.6%)
13. その他<sup>た</sup>(22.4%) 無回答(1.5%)

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問17 あなた(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)が、外出<sup>がいしゅつ</sup>に利用<sup>りよう</sup>する主<sup>おも</sup>な交通<sup>こうつう</sup>手段<sup>しゅだん</sup>は何<sup>なん</sup>ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |  |   |
|--|---|
| 1. 電車 <sup>でんしゃ</sup> 、地下鉄 <sup>ちかてつ</sup> (60.6%)   | 2. 路線 <sup>ろせん</sup> バス(52.5%)  |
| 3. 徒歩 <sup>とほ</sup> または車 <sup>くるま</sup> いす(45.0%)  | 4. 自転 <sup>じてんしゃ</sup> 車(18.7%)   |
| 5. タクシー(36.3%)   | 6. リフト <sup>りふと</sup> 付きタクシー(3.3%)  |
| 7. 自家用 <sup>じかようしや</sup> 車(家族 <sup>かぞく</sup> などが運 <sup>うん</sup> 転 <sup>てん</sup> )(16.0%)   | 8. 自家用 <sup>じかようしや</sup> 車(自分 <sup>じぶん</sup> で運 <sup>うん</sup> 転 <sup>てん</sup> )(5.6%) |
| 9. ボランティアによる移 <sup>い</sup> 送 <sup>そう</sup> サービス(1.2%)  | 10. 電動 <sup>でんどう</sup> 三輪 <sup>さんりん</sup> 車(電動 <sup>でんどう</sup> 車いす)(0.9%)             |
| 11. 障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup> 者 <sup>しや</sup> 福社 <sup>ふくしかい</sup> 会館 <sup>かんとく</sup> や特別 <sup>とくべつ</sup> 支 <sup>し</sup> 援 <sup>えん</sup> 学 <sup>がっこう</sup> 校 <sup>がう</sup> などの送 <sup>そう</sup> 迎 <sup>げい</sup> バス(3.7%) |   |
| 12. その他 <sup>た</sup> (3.4%)  | 無回答(2.5%)   |

はたら  
《働くことについておたずねします》

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数: 673>

問18 あなた(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)は、給料<sup>きゅうりょう</sup>など就労<sup>しゅうろう</sup>による定期的な<sup>ていきてき</sup>収入<sup>しゅうにゅう</sup>はありますか。  
(○は1つ)

1. はい(35.1%)    2. いいえ(61.5%) → 問19へ(次の<sup>つぎ</sup>ページ)    無回答(3.4%)

(問18で「1. はい」とお答えの<sup>こた</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数: 236>

問18-1 あなた(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)の現在の<sup>げんざい</sup>就労<sup>しゅうろう</sup>形態<sup>けいたい</sup>をお答えください。(○は1つ)

- |  |  |
|--|--|
| 1. 常勤 <sup>じょうきん</sup> の会社員 <sup>かいしゃいん</sup> 、公務員 <sup>こうむいん</sup> 、団体職員 <sup>だんたいしよくいん</sup> (40.3%) | 2. 自営業 <sup>じえいぎょう</sup> 、家族従業員 <sup>かそくじゅうぎょういん</sup> (10.6%) |
| 3. アルバイト、パート、非常勤職員 <sup>ひじょうきんしよくいん</sup> (23.7%)  | 4. 有償ボランティア <sup>ゆうしょう</sup> (0.0%)                            |
| 5. 内職 <sup>ないしよく</sup> (0.4%)  | 6. 作業所 <sup>さきょうじょ</sup> に通所 <sup>つうしょ</sup> (11.9%)           |
| 7. その他 <sup>た</sup> (10.6%)  | 無回答(2.5%)  |

問18-2 あなた(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)は、現在の<sup>げんざい</sup>仕事<sup>しごと</sup>をどのような<sup>ほうほう</sup>方法<sup>み</sup>で見つけましたか。(○は1つ)

- |   |   |
|---|---|
| 1. ハローワークの紹介 <sup>しょうかい</sup> (11.4%)                                 | 2. 学校の紹介 <sup>がっこう しょうかい</sup> (9.7%)               |
| 3. 役所の紹介 <sup>やくしょ しょうかい</sup> (4.2%)                                 | 4. 友人や知人の紹介 <sup>ゆうじん ちじん しょうかい</sup> (5.9%)        |
| 5. 障害者就労支援機関 <sup>しょうがいしゃしゅうろうしえんきかん</sup> の利用 <sup>りよう</sup> (15.3%) | 6. 直接 <sup>ちよくせつ</sup> 自分で探した <sup>さが</sup> (21.2%) |
| 7. 新聞や求人情報誌 <sup>しんぶん きゅうじんじょうほうし</sup> で探した <sup>さが</sup> (4.7%)     | 8. その他 <sup>た</sup> (18.2%)    無回答(9.3%)            |

問18-3 あなた(あて名の<sup>な</sup>方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)は、現在の<sup>げんざい</sup>仕事<sup>しごと</sup>に関して不安<sup>ふあん</sup>や不満<sup>ふまん</sup>はありますか。  
(○は1つ)

1. はい(41.9%)    2. いいえ(54.7%)    無回答(3.4%)

↓  
問18-3-1へ(次の<sup>つぎ</sup>ページ)

(問18-3で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数：99>

問18-3-1 あなた(あて名の方ご本人)は、現在の仕事に関してどのような不安や不満がありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1. 収入が少ない(58.6%)        | 2. 作業内容が難しい(10.1%)        |
| 3. 休みが取りにくい(15.2%)      | 4. 就業時間が長い(20.2%)         |
| 5. 作業ペースが人と合わない(9.1%)   | 6. 職場の人間関係がうまくいかない(19.2%) |
| 7. 体力的に負担が大きい(30.3%)    | 8. 雇用形態が不安定(12.1%)        |
| 9. 障害者用の設備が整っていない(5.1%) | 10. 昇給や昇進が不平等である(16.2%)   |
| 11. 通勤時間が長い(9.1%)       | 12. 特にない(4.0%)            |
| 13. その他(16.2%)          | 無回答(1.0%)                 |

(全員の方に) <回答者数：673>

問19 あなた(あて名の方ご本人)は、今後、どのように働きたいと思いますか。(○は1つ)

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 一般企業などで常勤の社員として働きたい(13.4%)           |            |
| 2. 一般企業などでパート・アルバイトとして働きたい(4.3%)        |            |
| 3. 障害者が多く働いている職場で働きたい(1.3%)             |            |
| 4. 指導員やジョブコーチなどがいて支援をしてくれる職場で働きたい(1.9%) |            |
| 5. 作業所や就労支援事業所などで働きたい(4.5%)             |            |
| 6. 働きたいが、働く場所については特に希望はない(4.6%)         |            |
| 7. 働きたくない(19.3%)                        |            |
| 8. わからない(16.9%)                         |            |
| 9. その他(17.4%)                           | 無回答(16.3%) |

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問20 あなた(あて名<sup>な</sup>の方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)は、障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>が働く<sup>はたら</sup>ためには、どのような環境<sup>かんきょう</sup>が整<sup>ととの</sup>っていることが大切<sup>たいせつ</sup>だと思<sup>おも</sup>いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |            |
|--|------------|
| 1. 移動手段 <sup>いどうしゅだん</sup> が確保 <sup>かくほ</sup> されていること(34.5%)   |            |
| 2. 健康状態 <sup>けんこうじょうたい</sup> にあわせた働き方 <sup>はたらかた</sup> ができること(50.7%)   |            |
| 3. 事業主 <sup>じぎょうぬし</sup> や職場 <sup>しょくば</sup> の人が障害者 <sup>しょうがいしゃ</sup> について十分 <sup>じゅうぶん</sup> 理解 <sup>りかい</sup> していること(48.7%)                                 |            |
| 4. 自立 <sup>じりつ</sup> した生活 <sup>せいかつ</sup> ができる給料 <sup>きゅうりょう</sup> であること(37.7%)  |            |
| 5. 職場 <sup>しょくば</sup> の施設 <sup>しせつ</sup> や設備 <sup>せつび</sup> が障害 <sup>しょうがい</sup> のある人 <sup>ひと</sup> にも利用 <sup>りよう</sup> できるよう配慮 <sup>はいりょ</sup> されていること(28.7%) |            |
| 6. 職場 <sup>しょくば</sup> に適切な助言 <sup>てきせつじょげん</sup> や指導 <sup>しどう</sup> 、配慮 <sup>はいりょ</sup> をしてくれる人 <sup>ひと</sup> がいること(33.4%)                                     |            |
| 7. 自分 <sup>じぶん</sup> の障害 <sup>しょうがい</sup> にあった仕事 <sup>しごと</sup> があること(44.6%)   |            |
| 8. 就労 <sup>しゅうろう</sup> の場 <sup>ば</sup> をあっせんしたり、相談 <sup>そうだん</sup> できる場 <sup>ば</sup> が整 <sup>ととの</sup> っていること(26.0%)   |            |
| 9. 就労 <sup>しゅうろう</sup> のためのジョブトレーニング <sup>きかい</sup> の機会 <sup>きかい</sup> があること(18.7%)  |            |
| 10. 特 <sup>とく</sup> にない(10.3%)   |            |
| 11. その他 <sup>た</sup> (5.6%)  | 無回答(15.5%) |

《健康福祉サービスについておたずねします》

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数: 673>

問21 あなた(あて名<sup>な</sup>の方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)は、過去<sup>かこ</sup>1年<sup>ねん</sup>の間に、相談<sup>さうだん</sup>サービスを利用<sup>りよう</sup>したことがありますか。(○は1つ)

1. はい(25.1%)

2. いいえ(68.6%)

無回答(6.2%)

(問21で「1. はい」とお答え<sup>こた</sup>の方に<sup>かた</sup>) <回答者数: 169>

問21-1. 利用<sup>りよう</sup>した相談<sup>さうだん</sup>サービスをお答え<sup>こた</sup>ください。(あてはまるものすべてに○)

1. 区役所<sup>くやくしょ</sup>での相談<sup>さうだん</sup>(44.4%)

2. すこやか福祉<sup>ふくし</sup>センターでの相談<sup>さうだん</sup>(53.3%)

3. 障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>地域<sup>ちいき</sup>自立<sup>じりつ</sup>生活<sup>せいかつ</sup>支援<sup>しえん</sup>センター「つむぎ」での相談<sup>さうだん</sup>  
(ピアカウンセリング<sup>ふく</sup>含む)(3.0%)

4. 地域<sup>ちいき</sup>生活<sup>せいかつ</sup>支援<sup>しえん</sup>センター「せせらぎ」での相談<sup>さうだん</sup>(9.5%)

5. 民生<sup>みんせい</sup>委員<sup>いん</sup>・児童<sup>じどう</sup>委員<sup>いん</sup>との相談<sup>さうだん</sup>(2.4%)

6. 中野区<sup>なかのく</sup>障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>福祉<sup>ふくし</sup>事業<sup>じぎょう</sup>団(ニコニコ事業<sup>じぎょう</sup>団)での就<sup>しゅう</sup>業<sup>ぎょう</sup>相談<sup>さうだん</sup>(10.1%)

7. その他<sup>た</sup>(17.8%)

無回答(0.6%)

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問22 あなた(あて名の方<sup>な</sup>ご本人<sup>かた</sup>)は、次のサービス<sup>つぎ</sup>を利用<sup>りよう</sup>していますか。また今後<sup>こんご</sup>利用<sup>りよう</sup>したいと考<sup>かんが</sup>えますか。(①から⑦のそれぞれについて、「現在<sup>げんざい</sup>利用<sup>りよう</sup>しているか」と「今後<sup>こんご</sup>利用<sup>りよう</sup>したいか」の両方<sup>りょうほう</sup>を回答<sup>かいとう</sup>(番号<sup>ばんごう</sup>に○)してください)

	現在、利用 していますか			今後、利用 したいですか		
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
①居宅介護(ホームヘルプ) 自宅で食事や入浴、排せつなどの介助を行うサービス	6.5%	83.4%	10.1%	22.7%	57.7%	19.6%
②重度訪問介護 重度の障害があり常に介護が必要な方に、自宅で食事や入浴、排せつなどの介助や外出時の移動の補助を行うサービス	1.2%	86.0%	12.8%	12.6%	64.8%	22.6%
③同行援護 視覚障害により移動が著しく困難な方に、外出に必要な情報の提供や移動の援助などを行うサービス	2.2%	84.2%	13.5%	12.2%	64.3%	23.5%
④行動援護 知的障害や精神障害により行動が困難で常に介護が必要な方に、行動するとき必要な介助や外出時の移動の補助などを行うサービス	1.3%	84.7%	14.0%	13.1%	63.0%	23.9%
⑤生活介護 常に介護が必要な方に、施設で入浴や排せつ、食事の介護や創作的活動などの機会を提供するサービス	5.1%	82.2%	12.8%	18.0%	59.9%	22.1%
⑥自立訓練(機能訓練) 自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定の期間における身体機能のために必要な訓練を行うサービス	4.2%	83.4%	12.5%	23.3%	55.1%	21.5%
⑦自立訓練(生活訓練) 自立した日常生活や社会生活ができるよう、一定の期間における生活能力向上のために必要な訓練を行うサービス	4.8%	82.8%	12.5%	24.2%	53.8%	22.0%



	現在利用 していますか			今後利用 したいですか		
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
<b>⑧ 就労移行支援</b> <small>しゅうろういこうしえん</small> 通常の事業所で働きたい方に、一定の期間、就労に必要な知識及び能力の向上のための訓練を行うサービス	2.8%	82.5%	14.7%	16.8%	58.8%	24.4%
<b>⑨ 就労継続支援(A型、B型)</b> <small>しゅうろうけいぞくしえん</small> 通常の事業所で働くことが困難な方に、就労の機会の提供や生産活動その他の活動の機会の提供、知識や能力の向上のための訓練を行うサービス	3.9%	80.2%	15.9%	14.9%	60.3%	24.8%
<b>⑩ 療養介護</b> <small>りょうようかいご</small> 医療が必要な方で、常に介護を必要とする方に、主に昼間に病院等において機能訓練、療養上の管理、看護などを提供するサービス	1.3%	82.9%	15.8%	12.6%	62.6%	24.8%
<b>⑪ 短期入所(ショートステイ)</b> <small>たんきにゅうしょ</small> 在宅の障害者(児)を介護する方が病気の場合などに、障害者が施設に短期間入所し、入浴、排せつ、食事の介護などを行うサービス	2.5%	82.2%	15.3%	19.2%	56.3%	24.5%
<b>⑫ 共同生活援助(グループホーム)</b> <small>きょうどうせいかつえんじょ</small> 夜間や休日、共同生活を行う住居で、相談や日常生活上の援助を行うサービス	2.1%	82.5%	15.5%	13.8%	60.6%	25.6%
<b>⑬ 施設入所支援</b> <small>しせつにゅうしょしえん</small> 主として夜間、施設に入所する障害者(児)に対し、入浴、排せつ、食事の介護などの支援を行うサービス	0.9%	83.4%	15.8%	10.3%	64.2%	25.6%
<b>⑭ 相談支援</b> <small>そうだんしえん</small> 福祉に関する問題や介護者からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言などを行うサービス	9.1%	75.8%	15.2%	39.8%	36.1%	24.1%
<b>⑮ 移動支援</b> <small>いどうしえん</small> 屋外での移動が困難な障害者に対して、外出のための支援を行うサービス	5.5%	79.2%	15.3%	26.6%	48.3%	25.1%

	現在利用 していますか			今後利用 したいですか		
	はい	いいえ	無回答	はい	いいえ	無回答
<b>⑯ 自立生活援助</b> <small>しょうがいしゃしえんしせつ</small> 障害者支援施設やグループホームから一人暮らしに移行した方を訪問し、生活について助言を行うサービス	1.3%	83.5%	15.2%	14.1%	60.8%	25.1%
<b>⑰ 就労定着支援</b> <small>しゅうろう ともな せいかつ かだい たいおう</small> 就労に伴う生活の課題に対応できるように、 <small>じぎょうしょ ほうもん しえん おこな</small> 事業所などを訪問し支援を行うサービス	1.9%	82.0%	16.0%	14.9%	60.5%	24.7%

(問22の「現在利用していますか」の設定で、1つ以上「1. はい」とお答えの方に) <回答者数：173>

問22-1 あなた(あて名の方ご本人)がサービス等利用計画について、不満に思うことを次の中から選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. 希望するサービスが利用できない(8.7%)
2. 希望しないサービスが、サービス等利用計画に含まれている(1.7%)
3. 希望する事業者が利用できない(4.6%)
4. サービスの利用回数や時間が少ない(12.7%)
5. サービスの利用料金が低い(6.9%)
6. 相談支援専門員から説明がない、もしくは説明がよくわからない(5.2%)
7. 不満な点はない(49.1%)
8. その他(8.1%) 無回答(23.1%)

(問22の「現在利用していますか」の設定で、全てに「2. いいえ」とお答えの方に) <回答者数：416>

問22-2 障害福祉サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                           |   |
|---------------------------|---|
| 1. 自力で生活できるから(61.5%)      | 2. 家族が介助しているから(25.5%)                                       |
| 3. 他人が家に入ってほしくないから(9.9%)  | 4. 利用したいサービスがないから(5.0%)                                     |
| 5. 事業者に対して信頼が持てないから(3.8%) | 6. 事業者に断られたから(0.0%)   |
| 7. 施設が遠いから(1.0%)          | 8. 利用料が支払えないから(3.8%)  |
| 9. 利用方法が分からないから(13.9%)    | 10. サービスを知らなかったから(16.8%)                                    |
| 11. 病院・診療所に入院しているから(1.7%) | 12. その他(5.3%) <span style="float: right;">無回答(11.1%)</span> |


(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問23 障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>に対する理解<sup>りかい</sup>はどの程度<sup>ていど</sup>進<sup>すす</sup>んでいると思<sup>おも</sup>いますか。(○は1つ)

- |  |  |
|--|--|
| 1. 十分 <sup>じゅうぶん</sup> に進 <sup>すす</sup> んでいる(2.5%) | 2. ある程度 <sup>ていど</sup> 進 <sup>すす</sup> んでいる(29.4%) |
| 3. どちらともいえない(21.8%)                                | 4. あまり進 <sup>すす</sup> んでいない(18.9%)                 |
| 5. 全く <sup>まった</sup> 進 <sup>すす</sup> んでいない(5.3%)   | 6. わからない(12.8%)                                    |
| 7. その他 <sup>た</sup> (0.9%)                         | 無回答(8.3%)  |

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問24 あなた(あて名<sup>な</sup>の方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)はヘルプマーク<sup>し</sup>を知<sup>し</sup>っていますか。(○は1つ)

- |   |  |
|---|--|
| 1. ヘルプマーク <sup>い</sup> の意味 <sup>み</sup> を含 <sup>ふく</sup> めて知 <sup>し</sup> っている(51.4%) |  |
| 2. ヘルプマークがあることは知 <sup>し</sup> っているが、意味 <sup>い</sup> は知 <sup>し</sup> らない(19.6%)        |  |
| 3. 知 <sup>し</sup> らない(22.6%)  |  |
| 無回答(6.4%)   |  |

(全員の<sup>ぜんいん</sup>方に<sup>かた</sup>) <回答者数：673>

問25 あなた(あて名<sup>な</sup>の方<sup>かた</sup>ご本人<sup>ほんにん</sup>)は次の施策<sup>つぎ</sup>のうち、特に充<sup>とく</sup>実<sup>じゅうじつ</sup>してほしいと思<sup>おも</sup>うものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |   |            |
|---|------------|
| 1. 障害福祉 <sup>しょうがいふくし</sup> サービスの利用 <sup>りよう</sup> などの障害者 <sup>しょうがいしゃ</sup> の福祉 <sup>ふくし</sup> に関する様々 <sup>かん</sup> な相談 <sup>さまざま</sup> 支援 <sup>そうだん</sup> (40.0%)           |            |
| 2. ピアサポート <sup>とうじしゃどうし</sup> (当事者 <sup>とうじ</sup> 同士の相談 <sup>そうだん</sup> 活動 <sup>かつどう</sup> )(7.6%)  |            |
| 3. 障害 <sup>しょうがい</sup> 当事者 <sup>とうじ</sup> の文化 <sup>ぶんか</sup> 活動 <sup>かつどう</sup> 、社会 <sup>しゃかい</sup> 貢献 <sup>こうけん</sup> 活動 <sup>かつどう</sup> など(13.1%)                           |            |
| 4. 余暇 <sup>よか</sup> 活動 <sup>かつどう</sup> の支援 <sup>しえん</sup> (16.3%)   |            |
| 5. 活動 <sup>かつどう</sup> の場 <sup>ば</sup> 、憩 <sup>い</sup> いの場 <sup>ば</sup> の整備 <sup>せいび</sup> (17.4%)   |            |
| 6. 一般 <sup>いっぱん</sup> 企業 <sup>きぎょう</sup> などへの就 <sup>しゅう</sup> 労 <sup>ろう</sup> 支援 <sup>しえん</sup> (21.2%)   |            |
| 7. 利用 <sup>りよう</sup> できるサービスについての広 <sup>こう</sup> 報 <sup>ほう</sup> ・周 <sup>しゅう</sup> 知 <sup>ち</sup> (情 <sup>じょう</sup> 報 <sup>ほう</sup> 提 <sup>てい</sup> 供 <sup>きょう</sup> )(34.5%) |            |
| 8. 病 <sup>びょう</sup> 気 <sup>き</sup> や障 <sup>しょう</sup> 害 <sup>がい</sup> に対する理 <sup>り</sup> 解 <sup>かい</sup> の促 <sup>そく</sup> 進 <sup>しん</sup> (36.3%)                              |            |
| 9. 特 <sup>とく</sup> にない(16.0%)   |            |
| 10. その他 <sup>た</sup> (5.3%)   | 無回答(11.1%) |

(全員のの方に) <回答者数：673>

問26 障害のある人への差別をなくすことを目的として、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つ)

- |                   |                   |                |
|-------------------|-------------------|----------------|
| 1. 名前知っている(23.6%) | 2. 内容も知っている(6.8%) | 3. 知らない(62.0%) |
| 無回答(7.6%)         |                   |                |

(全員のの方に) <回答者数：673>

問27 あなた(あて名の方ご本人)は過去3年の間に、日常生活の中で、障害を理由に、差別的な対応を受けたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |
|--|
| 1. 誰もが一般に利用できる施設で利用を断られた(1.5%)         |
| 2. 飲食店やホテルなどで利用を断られた(0.6%)             |
| 3. 鉄道・バス・タクシー・飛行機などで乗車を拒否された(1.2%)     |
| 4. アパートの契約を断られた(2.7%)                  |
| 5. スポーツクラブや習い事などで入会を断られた(0.9%)         |
| 6. 催しへの出席を断られた(0.4%)                   |
| 7. 仕事の求人への応募を拒否された(2.5%)               |
| 8. 職場での労働条件や給料が、周囲の人に比べて悪い(5.1%)       |
| 9. 希望した学校に入学できなかった(0.4%)               |
| 10. 職場、学校、地域の人などに、障害のことで嫌がらせを受けた(3.9%) |
| 11. その他(6.1%)                          |
| 12. 特にない(65.2%)                        |
| 無回答(16.5%)                             |

(全員のの方に)

問28 あなた(あて名の方ご本人)もしくはご家族が日常生活の中で、周りの方から受けた障害への配慮で特に嬉しいと感じたことがありましたら、ご自由にお書きください。


(ぜんいん かた  
全員のの方に)

問29 と日常生活で困っていることがありましたら、じゆう かご自由にお書きください。


(ぜんいん かた  
全員のの方に)

問30 と健康福祉行政に関することや今回の調査について、ようぼう いけんご要望やご意見などありましたら、じゆう かご自由にお書きください。


きょうりよく  
ご協力ありがとうございました

ちようさひよう かんきよう はいりよ さいせいし ししよう  
この調査票は環境に配慮して再生紙を使用しています。



れいわ ねんど ねんど  
**令和4年度(2022年度)**  
 しょうがいふくし いこうちようさ  
**障害福祉サービス意向調査**  
 しせつにゆうしょしゃちようさ  
**《施設入所者調査》**  
 ちよう さ ひよう  
**調査票**

ちようさ きにゆう ねが  
**【調査のご記入にあたってのお願い】**

- この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人が答えることが難しい場合は、ご本人が答える支援をお願いします。ご本人が答えられない場合には、ご家族や介護されている方がご本人の意向を尊重してご記入ください。
- 令和4年8月1日現在の状況でお答えください。
- このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
- ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
- 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
- お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
- 「その他(具体的に )」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的に記入ください。
- ご記入いただきました調査票は、

れいわ ねん がつ にち かようび  
**令和4年10月11日(火曜日)までに**

みつおりにした上で、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。

- 調査報告書は、令和5年7月から、図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれる予定です。
- 調査の内容や記入方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

なかのくけんこうふくし ぶしょうがいふくし かしょうがいしゃしさくすいしんがかり  
 中野区健康福祉部障害福祉課障害者施策推進係

でんわ  
 電話 03-3228-8832 FAX 03-3228-5660

E-mail shogaihukusi@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に(全員の方に)と記載のあるものは全員の方が、(～の方に)とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

(全員の方に) <回答者数：134>

問1 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ)

- |  |           |
|--|-----------|
| 1. あなた(あて名の方ご本人)が自分で回答(聞き取りなどによる代筆を含む) (45.5%) |           |
| 2. ご家族 (1.5%)                                  |           |
| 3. その他の人 (53.0%)                               | 無回答(0.0%) |

(全員の方に) <回答者数：134>

問2 あなた(あて名の方ご本人)の性別と年齢をお答えください。

(○は1つ、右づめで数字を記入)

<性別>	1. 男性 (56.7%)	2. 女性 (42.5%)	3. その他 (0.0%)	無回答(0.7%)
<年齢>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	歳

(全員の方に)

問3 あなた(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳・愛の手帳(療育手帳)の等級をお答えください。両方の手帳をお持ちの方は、それぞれについてお答えください。

(1) 身体障害者手帳(○は1つ) <回答者数：48>

- |               |               |              |           |
|---------------|---------------|--------------|-----------|
| 1. 1級 (50.0%) | 2. 2級 (35.4%) | 3. 3級 (2.1%) |           |
| 4. 4級 (8.3%)  | 5. 5級 (2.1%)  | 6. 6級 (2.1%) | 無回答(0.0%) |

(2) 愛の手帳(○は1つ) <回答者数：112>

- |              |               |               |               |           |
|--------------|---------------|---------------|---------------|-----------|
| 1. 1度 (0.0%) | 2. 2度 (64.3%) | 3. 3度 (22.3%) | 4. 4度 (13.4%) | 無回答(0.0%) |
|--------------|---------------|---------------|---------------|-----------|

(身体障害者手帳をお持ちの方に) <回答者数：48>

問3-1 あなた(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳に記載された障害名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- |                   |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 1. 上肢機能障害 (33.3%) | 2. 聴覚障害・平衡機能障害 (8.3%)     |
| 3. 下肢機能障害 (41.7%) | 4. 音声・言語・そしゃく機能障害 (16.7%) |
| 5. 体幹機能障害 (27.1%) | 6. 脳原性まひ (12.5%)          |
| 7. 内部機能障害 (2.1%)  | 8. 視覚障害 (4.2%)            |
| 9. その他 (16.7%)    | 無回答(2.1%)                 |

(愛の手帳をお持ちの方に)

問3-2 差し支えがなければ、あなた(あて名の方ご本人)の診断名をお答えください。(直接記入)

( )

(全員の方に) <回答者数：134>

問4 あなた(あて名の方ご本人)の、障害支援区分をお答えください。(○は1つ)

- |                           |               |
|---------------------------|---------------|
| 1. 障害支援区分の認定を受けていない(1.5%) | 2. 区分1(0.0%)  |
| 3. 区分2(0.7%)              | 4. 区分3(1.5%)  |
| 5. 区分4(13.4%)             |               |
| 6. 区分5(28.4%)             | 7. 区分6(48.5%) |
|                           | 無回答(6.0%)     |

(全員の方に) <回答者数：134>

問5 あなた(あて名の方ご本人)が現在入所している施設は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|
| 1. 指定障害者支援施設(身体障害者)(20.9%) | 2. 指定障害者支援施設(知的障害者)(74.6%) |
| 3. 療養介護(0.0%)              |                            |
| 4. その他(2.2%)               | 無回答(2.2%)                  |

(全員の方に) <回答者数：134>

問6 現在の施設に入所して何年になりますか。(○は1つ)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1. 1年未満(6.0%)       | 2. 1年以上5年未満(10.4%) |
| 3. 5年以上10年未満(19.4%) | 4. 10年以上(64.2%)    |
|                     | 無回答(0.0%)          |

(全員の方に) <回答者数：134>

問7 現在の施設に入所することになった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |
|--|
| 1. 心身の機能が著しく低下したため(18.7%)              |
| 2. 介助者が高齢などの理由で在宅での生活が困難になったため(50.0%)  |
| 3. 介助者が病気や転勤のため、介助(介護)できなくなったため(10.4%) |
| 4. 段差が多いなど、住まいに支障があるため(4.5%)           |
| 5. 在宅生活を続けるために必要なサービスが不十分なため(22.4%)    |
| 6. 専門的な訓練を受けたかったため(6.0%)               |
| 7. その他(15.7%)                          |
| 無回答(0.7%)                              |

(全員の方に) <回答者数：134>

問8 施設のある場所は次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

- |               |  |
|---------------|--|
| 1. 東京都(50.7%) | 2. 関東各県(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県)(26.1%) |
| 3. その他(22.4%) | 無回答(0.7%)                                |



(全員のの方に) <回答者数：134>

問9 今後、どこで生活したいですか。(○は1つ)

- |  |         |
|--|---------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 施設を出て地域の中で暮らしたい(8.2%)</li> <li>2. 施設を出て地域のグループホームで暮らしたい(10.4%)</li> <li>3. 現在のように、入所施設で暮らしたい(50.0%)</li> <li>4. わからない(29.1%)</li> <li>5. その他(2.2%)無回答(0.0%)</li> </ol> | → 問9-1へ |
|--|---------|

(問9で「1」または「2」に○をつけた方に) <回答者数：25>

問9-1 仮に施設を退所するとしたら、どのような生活を送りたいですか。(○は1つ)

- |   |           |
|---|-----------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族やヘルパー、支援員などから介助(介護)を受けて生活したい(24.0%)</li> <li>2. 働いて経済的に自立した生活を送りたい(28.0%)</li> <li>3. 通所施設などに通いながら生活したい(40.0%)</li> <li>4. わからない(8.0%)</li> <li>5. その他(0.0%)</li> </ol> | 無回答(0.0%) |
|---|-----------|

問9-2 施設を退所したら、どこに住みたいです。(○は1つ)

- |  |           |
|--|-----------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中野区内に住みたい(60.0%)</li> <li>2. 今生活している施設の近く(0.0%)</li> <li>3. 特に場所はこだわらない(16.0%)</li> <li>4. その他(8.0%)</li> <li>5. わからない(16.0%)</li> </ol> | 無回答(0.0%) |
|--|-----------|

(全員のの方に)

問10 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。


きょうりよく  
ご協力ありがとうございました

この調査票は環境に配慮して再生紙を使用しています。



# 令和4年度(2022年度)

## 《発達支援等調査》

### 調査票

#### 【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、ご家族や介護されている方がお答えください。
2. 令和4年8月1日現在の状況でお答えください。
3. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
4. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン、又は鉛筆でお願いします。
5. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
6. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
7. 「その他( )」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
8. ご記入いただきました調査票は、

#### **令和4年10月11日(火曜日)までに**

三つ折りにした上で、同封した返信用封筒(切手不要)に入れて郵送してください。

9. 調査報告書は、令和5年7月から図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれる予定です。
10. 調査の内容や記入の方法などについて、ご不明な点がございましたら、下記までお問合せください。

中野区健康福祉部障害福祉課子ども発達支援係  
TEL. 03-3228-5613 FAX. 03-3228-5505  
E-mail shogaihukusi@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に(全員の方に)と記載のあるものは全員の方が、(～の方に)とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

---

### 《お子さん(あて名の方ご本人)の状況について、お伺いします》

---

(全員の方に) <回答者数：341>

問1 このアンケートにお答えいただく方はどなたですか。(○は1つ)

1. ご家族(99.4%)	2. その他の人(0.0%)	無回答(0.6%)
---------------	----------------	-----------

(全員の方に) <回答者数：341>

問2 お子さん(あて名の方ご本人)の性別と年齢をお答えください。

(○は1つ、右づめで数字を直接記入)

〈性別〉	1. 男性(67.2%)	2. 女性(31.1%)	3. その他(0.0%)	無回答(1.8%)
------	--------------	--------------	--------------	-----------

〈年齢〉	<input type="text"/>	<input type="text"/>	歳
------	----------------------	----------------------	---

(全員の方に) <回答者数：341>

問3 お子さん(あて名の方ご本人)と同居するご家族をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 父(90.3%)	2. 母(95.6%)	3. 兄弟姉妹(63.0%)
4. その他(6.2%)		無回答(1.2%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問4 次のサービス等を現在、利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 専門医(20.5%)	2. 地域主治医(12.6%)	3. 訪問看護ステーション(3.8%)
4. 訪問リハビリ(5.3%)	5. リハビリ目的での通院(4.4%)	6. 居宅介護(ホームヘルプ)(1.2%)
7. 移動支援(4.1%)	8. 短期入所(ショートステイ)(2.1%)	9. 相談支援事業所(17.0%)
10. 在宅レスパイト事業(0.9%)	11. 児童発達支援(67.4%)	12. 医療型児童発達支援(0.3%)
13. 居宅訪問型児童発達支援(0.6%)	14. 放課後等デイサービス(35.5%)	
15. アポロ園及びゆめなりあの保育所等訪問支援(45.7%)		
16. 「15.」以外の保育所等訪問支援(2.9%)		
17. 区立障害児通所支援施設一時保護事業(2.1%)		
18. 医療型障害児入所支援施設(0.0%)		
19. 福祉型障害児入所支援施設(0.0%)	20. 居宅訪問型保育事業(0.0%)	
21. 保育所(24.3%)	22. 幼稚園(17.0%)	23. 学童クラブ(7.0%)
24. ペアレントメンターによる相談(1.5%)	25. 患者会・親の会(1.8%)	
26. 利用していない(1.2%)	27. その他(0.9%)	無回答(0.3%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問4-1 これまで利用できなかったサービス等がありますか。(○は1つ)

1. はい(18.5%)	2. いいえ(80.4%)	無回答(1.2%)
--------------	---------------	-----------

(問4-1で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数：63>

問4-2 利用できなかったサービス等は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 専門医(9.5%)	2. 地域主治医(3.2%)	3. 訪問看護ステーション(0.0%)
4. 訪問リハビリ(1.6%)	5. リハビリ目的での通院(1.6%)	6. 居宅介護(ホームヘルプ)(1.6%)
7. 移動支援(7.9%)	8. 短期入所(ショートステイ)(7.9%)	9. 相談支援事業所(1.6%)
10. 在宅レスパイト事業(6.3%)	11. 児童発達支援(12.7%)	12. 医療型児童発達支援(3.2%)
13. 居宅訪問型児童発達支援(4.8%)	14. 放課後等デイサービス(12.7%)	
15. アポロ園及びゆめなりあの保育所等訪問支援(7.9%)		
16. 「15.」以外の保育所等訪問支援(4.8%)		
17. 区立障害児通所支援施設一時保護事業(3.2%)		
18. 医療型障害児入所支援施設(1.6%)		
19. 福祉型障害児入所支援施設(1.6%)	20. 居宅訪問型保育事業(1.6%)	
21. 保育所(22.2%)	22. 幼稚園(9.5%)	23. 学童クラブ(3.2%)
24. ペアレントメンターによる相談(4.8%)	25. 患者会・親の会(3.2%)	
26. その他(7.9%)		無回答(0.0%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問5 お子さん(あて名の方ご本人)は日常的に医療的ケア(※)が必要ですか。(○は1つ)

1. はい(4.4%)

2. いいえ(95.3%)

無回答(0.3%)

※医療的ケアとは、医師の指導の下に、保護者や看護師が日常的に行っている経管栄養・痰の吸引等の医療行為を言います。

(問5で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数：15>

問5-1 日常的にどのような医療的ケアが必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 人工呼吸器(TPPV・NPPV・夜間のみも含む。)(6.7%)

2. 気管切開(6.7%)

3. 鼻咽頭エアウェイ(0.0%)

4. 酸素(6.7%)

5. 吸引(13.3%)

6. 吸入(ネブライザー)(13.3%)

7. IVH(中心静脈栄養)(0.0%)

8. 経管栄養(経鼻・胃ろう)(26.7%)

9. 腸ろう(0.0%)

10. 透析(腹膜透析も含む)(0.0%)

11. 定期導尿(6.7%)

12. 人工肛門(0.0%)

13. 与薬(46.7%)

14. その他(33.3%)

無回答(13.3%)

問5-2 身体能力についてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 寝たきり(6.7%)

2. 座位可(73.3%)

3. 立位可(33.3%)

4. 独歩可(13.3%)

5. 走れる(26.7%)

無回答(13.3%)

(お子さん(あて名の方ご本人)が手帳をお持ちの方に)

問6 お子さん(あて名の方ご本人)が身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は、等級または度数をお答えください。複数の手帳をお持ちの方は、それぞれの等級または度数についてお答えください。

(1) 身体障害者手帳(○は1つ) <回答者数：19>

1. 1級(63.2%)	2. 2級(5.3%)	3. 3級(10.5%)	
4. 4級(15.8%)	5. 5級(0.0%)	6. 6級(5.3%)	無回答(0.0%)

(2) 愛の手帳(○は1つ) <回答者数：60>

1. 1度(1.7%)	2. 2度(21.7%)	3. 3度(33.3%)	4. 4度(43.3%)	無回答(0.0%)
-------------	--------------	--------------	--------------	-----------

(3) 精神障害者保健福祉手帳(○は1つ) <回答者数：4>

1. 1級(0.0%)	2. 2級(25.0%)	3. 3級(75.0%)	無回答(0.0%)
-------------	--------------	--------------	-----------

(身体障害者手帳をお持ちの方に) <回答者数：19>

問6-1 お子さん(あて名の方ご本人)の身体障害者手帳に記載された障害名をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 上肢機能障害(42.1%)	2. 聴覚・平行機能障害(10.5%)
3. 下肢機能障害(36.8%)	4. 音声・言語・そしゃく機能障害(0.0%)
5. 体幹機能障害(36.8%)	6. 脳原性まひ(10.5%)
7. 内部機能障害(15.8%)	8. 視覚障害(5.3%)
9. その他(10.5%)	無回答(5.3%)

(全員の方に)

問6-2 差し支えなければ、お子さん(あて名の方ご本人)の診断名(疑いなども含む)をお答えください。(直接記入)

( )

(全員の方に)

問6-3 上記の診断に関する事で気がついた年齢をお答えください。

(把握時点が複数ある場合は直近のものを記入)(右づめで直接記入)

		歳
--	--	---

《児童福祉法のサービスについておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：341>

問7 児童発達支援について、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。(○は1つ)

※児童発達支援とは、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練、その他必要な支援を行うサービスです。

1. はい(93.5%)	2. いいえ(6.2%)	無回答(0.3%)
--------------	--------------	-----------

(全員の方に) <回答者数：341>

問8 児童発達支援を現在、利用していますか。(○は1つ)

1. はい(67.4%)	2. いいえ(32.6%)	無回答(0.0%)
--------------	---------------	-----------

(問8で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数：230>

問8-1 現在、利用している児童発達支援事業所は何か所ですか。(○は1つ)

1. 1か所(73.5%)	2. 2か所(22.2%)	3. 3か所(3.9%)	4. 4か所以上(0.0%)	無回答(0.4%)
---------------	---------------	--------------	----------------	-----------

問8-2 現在、利用している児童発達支援事業所には、週にどの程度通われていますか。  
複数か所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。(○は1つ)

1. 週に1日(19.1%)	2. 週に2日(11.7%)	3. 週に3日(7.8%)
4. 週に4日(1.7%)	5. 週に5日(5.7%)	6. 月に2、3日(38.3%)
7. その他(14.8%)	無回答(0.9%)	

問8-3 児童発達支援について、希望する利用日数はどの程度ですか。(○は1つ)

1. 週に1日(28.3%)	2. 週に2日(17.4%)	3. 週に3日(7.8%)
4. 週に4日(1.7%)	5. 週に5日(8.3%)	6. 月に2、3日(29.1%)
7. その他(6.1%)	無回答(1.3%)	

(全員の方に) <回答者数：341>

問9 児童発達支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

1. はい(68.9%)      2. いいえ(15.5%)      3. 分からない(13.5%)      無回答(2.1%)

(問9で「2. いいえ」とお答えの方に) <回答者数：53>

問9-1 児童発達支援を利用したくない理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 必要ない(43.4%)      2. 利用したい事業所がない(3.8%)  
 3. 利用できる事業所がない(9.4%)      4. 家から遠くて利用できない(1.9%)  
 5. その他(41.5%)      無回答(5.7%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問10 居宅訪問型児童発達支援を、今後利用したいですか。(○は1つ)

※居宅訪問型児童発達支援とは、通所が著しく困難な場合に、障害のあるお子さんの居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与等の支援を行うサービスです。

1. はい(7.3%)      2. いいえ(70.7%)      3. 分からない(19.9%)      無回答(2.1%)

(問10で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数：25>

問10-1 どの程度の日数を利用したいですか。(○は1つ)

1. 週に1日(48.0%)      2. 週に2日(8.0%)      3. 月に2、3日(24.0%)  
 4. その他(16.0%)      無回答(4.0%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問11 放課後等デイサービスについて、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。(○は1つ)

※放課後等デイサービスとは、授業の終了後又は学校の休業日に、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他必要な支援を行うサービスです。

1. はい(84.2%)      2. いいえ(15.0%)      無回答(0.9%)



(全員の方に) <回答者数 : 341>

問 12 放課後等デイサービスを現在、利用していますか。(○は1つ)

1. はい(35.8%)

2. いいえ(64.2%)

無回答(0.0%)

(問 12 で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数 : 122>

問 12-1 現在、利用している放課後等デイサービス事業所は何か所ですか。(○は1つ)

1. 1か所(72.1%) 2. 2か所(18.9%) 3. 3か所(4.9%) 4. 4か所以上(3.3%) 無回答(0.8%)

問 12-2 現在、利用している放課後等デイサービス事業所には、週にどの程度通われていますか。複数か所利用している場合は、全部合わせた日数をお答えください。(○は1つ)

1. 週に1日(34.4%)

2. 週に2日(15.6%)

3. 週に3日(14.8%)

4. 週に4日(5.7%)

5. 週に5日(8.2%)

6. 月に2、3日(11.5%)

7. その他(9.0%)

無回答(0.8%)

問 12-3 放課後等デイサービスについて、希望する利用日数はどの程度ですか。(○は1つ)

1. 週に1日(25.4%)

2. 週に2日(29.5%)

3. 週に3日(12.3%)

4. 週に4日(4.9%)

5. 週に5日(13.1%)

6. 月に2、3日(6.6%)

7. その他(6.6%)

無回答(1.6%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問 13 放課後等デイサービスを今後、利用したいですか(○は1つ)

1. はい(64.5%)	2. いいえ(10.3%)	3. 分からない(24.9%)	無回答(0.3%)
--------------	---------------	-----------------	-----------

(問 13 で「2. いいえ」とお答えの方に) <回答者数：35>

問 13-1 放課後等デイサービスを利用したくない理由はどのようなことですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 必要ない(68.6%)	2. 利用したい事業所がない(0.0%)	
3. 利用できる事業所がない(2.9%)	4. 家から遠くて利用できない(2.9%)	
5. 学童クラブを利用している(5.7%)	6. その他(20.0%)	無回答(5.7%)

(区外の児童発達支援や放課後等デイサービス事業所を利用している方に) <回答者数：341>

問 14 区外の児童発達支援や放課後等デイサービスの事業所を利用している方にお尋ねします。

区外の事業所を利用している理由はどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害特性にあった療育を受けるため(14.7%)	2. 区内事業所に空きがないため(5.6%)
3. 自宅に近い(4.1%)	4. 通学先に近い(0.9%)
5. その他(5.9%)	無回答(78.3%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問 15 保育所等訪問支援について、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。(○は1つ)

※保育所等訪問支援とは、障害や発達に課題のあるお子さんが在籍する保育所や幼稚園等へ訪問し、専門的な助言・支援を行うものです。

1. はい(86.5%)	2. いいえ(12.9%)	無回答(0.6%)
--------------	---------------	-----------

— Ⅲ 調査票と単純集計 —

(全員の方に) <回答者数：341>

問 16 保育所等訪問支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

1. はい(49.6%)      2. いいえ(32.6%)      3. 分からない(17.3%)      無回答(0.6%)

(問 16で「1. はい」とお答えの方に) <回答者数：169>

問 16-1 保育所等訪問支援を、どの程度利用したいですか。(○は1つ)

1. 月に1日(59.8%)      2. 月に2日(11.8%)      3. 月に3日(3.6%)  
4. その他(22.5%)      無回答(2.4%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問 17 障害児相談支援について、これまでに見たり聞いたりして知っていましたか。(○は1つ)

※障害児相談支援とは、保護者等からの相談に応じて、必要な情報の提供や助言などを行ったり、児童発達支援や放課後等デイサービス等の通所給付決定の申請に係る、お子さんの心身の状況や環境、利用意向等を勘案し、障害児支援利用計画を作成したりするサービスです。

1. はい(77.4%)      2. いいえ(22.6%)      無回答(0.0%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問 18 障害児相談支援(障害児相談支援事業所)を利用したことがありますか。(○は1つ)

1. はい(58.4%)      2. いいえ(40.8%)      無回答(0.9%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問 19 障害児支援利用計画を作成する際には、どこの障害児相談支援事業所の利用を希望しますか。  
(あてはまるものすべてに○)

※児童発達支援や放課後等デイサービス等の通所給付決定には、指定障害児相談支援事業者が作成するお子さんの心身の状況や環境、利用意向等を勘案し作成した、障害児支援利用計画が必要です。

1. 自宅近くの障害児相談支援事業所(45.2%)      2. すこやか障害者相談支援事業所(47.2%)  
3. 通所(入所)先内の障害児相談支援事業所(33.1%)      4. 利用を希望しない(8.8%)  
無回答(1.2%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問 20 障害児相談支援を今後、利用したいですか。(○は1つ)

1. はい(63.9%)	2. いいえ(12.0%)	3. 分からない(23.8%)	無回答(0.3%)
--------------	---------------	-----------------	-----------

(全員の方に) <回答者数：341>

問 21 障害児に対する地域の理解はどの程度進んでいると思いますか。(○は1つ)

1. 十分に進んでいる(2.1%)	2. ある程度進んでいる(19.1%)	
3. どちらともいえない(24.6%)	4. あまり進んでいない(29.9%)	
5. 全く進んでいない(6.2%)	6. 分からない(17.9%)	無回答(0.3%)

(全員の方に) <回答者数：341>

問 22 次の施策・サービス等、特に充実してほしいと思うものはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. サービスの利用などの福祉に関する様々な相談支援(50.7%)	
2. ペアレントメンター(※1)による相談(36.4%)	
3. ペアレントトレーニング(※2)等の保護者支援(55.1%)	
4. 余暇活動の支援(29.9%)	
5. 活動の場、憩いの場の整備(39.3%)	
6. 利用できるサービスについての広報・周知(54.8%)	
7. 病気や障害に対する理解の促進(39.9%)	
8. 特にない(2.3%)	
9. その他(12.9%)	無回答(0.6%)

※1 ペアレントメンターとは、同じ障害のある子どもを育てる保護者が相談相手になること。悩みを共有し、実際の子育ての経験を通して助言することができる。

※2 ペアレントトレーニングとは、保護者が自分の子どもの行動を理解したり、特性をふまえた褒め方や叱り方を学ぶための支援。

(全員の方に)

問23 日常生活や就園・就学・進路・就職等で困っていることがありましたら、ご自由にお書きください。


(全員の方に)

問 24 健康福祉行政に関することや今回の調査について、ご要望やご意見などありましたら、ご自由にお書きください。


ご協力ありがとうございました

この調査票は環境に配慮して  
再生紙を使用しています。



令和4年度（2022年度）  
障害福祉サービス意向調査  
報告書

発行日／令和5年（2023年）3月

印刷登録番号／4中健福第3248号

発行／中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係  
中野区健康福祉部 障害福祉課 障害者施策推進係  
子ども発達支援係

〒164-8501

東京都中野区中野 4-8-1

電話 03-3228-8832 / 03-3228-5613

編集分析／株式会社アイアールエス

〒160-0004

東京都新宿区四谷 3-1-3 第1富澤ビル7F

電話 03-3357-7181（代表）

この冊子は環境に配慮して再生紙を使用しています。

